

2026年度 SDGs科目 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0010】 国際社会と憲法Ⅱ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	1
【A0030】 環境法 [吉岡 郁美] 春学期授業/Spring	2
【A0048】 消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	3
【A0067】 国際人権法Ⅰ [松田 浩道] 秋学期授業/Fall	5
【A0068】 国際人権法Ⅱ [松田 浩道] 秋学期授業/Fall	7
【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	9
【A0091】 労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	11
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	13
【A0093】 労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	15
【A0094】 労働組合法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	17
【A0095】 労働法特論 [細川 良] 秋学期授業/Fall	19
【A0520】 都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	21
【A0521】 まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	23
【A0645】 国際協力講座 [木内 真理子] 秋学期授業/Fall	25
【A0749】 国際機構論Ⅰ [本多 美樹] 春学期授業/Spring	26
【A0900】 協同組合論 [杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治] 秋学期授業/Fall	27
【A2251】 宗教学Ⅰ (伝統宗教) 1 [松本 力] 春学期授業/Spring	29
【A2252】 宗教学Ⅰ (伝統宗教) 2 [松本 力] 秋学期授業/Fall	30
【A3165】 東洋史特講Ⅳ [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	31
【A3209】 東洋考古・美術史 [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	32
【A3417】 自然環境論 [福與 直人] 春学期授業/Spring	33
【A3907】 社会経済地理学B (1) [甲斐 智大] 春学期授業/Spring	34
【A3908】 社会経済地理学B (2) [甲斐 智大] 秋学期授業/Fall	35
経営学科専門科目200番台【A4355】 経営社会学Ⅰ [藤本 真] 春学期授業/Spring	36
経営学科専門科目200番台【A4356】 経営社会学Ⅱ [藤本 真] 秋学期授業/Fall	38
経営学科専門科目300番台【A4363】 経営組織論Ⅰ [長岡 健] 春学期授業/Spring	40
経営学科専門科目300番台【A4364】 経営組織論Ⅱ [長岡 健] 秋学期授業/Fall	42
経営学科専門科目300番台【A4369】 人的資源管理Ⅰ [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring	44
経営学科専門科目300番台【A4370】 人的資源管理Ⅱ [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall	46
【A6226】 Race, Class and Gender I: Concepts &Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	48
【A6325】 Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	49
【A6326】 Social Theory: Perspectives on Inequality [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	50
【A6409】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	51
【A6410】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Hazuki Kaneko] 春学期授業/Spring	52
【A6411】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	53
【A6412】 Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Hazuki Kaneko] 秋学期授業/Fall	54
【A6600】 (GO用) Race, Class and Gender I: Concepts &Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	55
【A6601】 (GO用) Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	56
【A6650】 Law (Constitution of Japan) [金子 匡良] 春学期授業/Spring	57
【A6651】 Law (Constitution of Japan) [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	58
【A6652】 Law (Constitution of Japan) [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	59
【A6653】 Law (Constitution of Japan) [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	60
【A7560】 日本語コミュニケーションA [副島 健作] 春学期授業/Spring	61
【A7561】 日本語コミュニケーションB [副島 健作] 秋学期授業/Fall	63

システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【A7728】 日本語 1 春学期授業/Spring	65
建築学科_基盤科目_留学生科目【A7728】 日本語 1 春学期授業/Spring	67
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【A7728】 日本語 1 春学期授業/Spring	69
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【A7729】 日本語 2 春学期授業/Spring	71
建築学科_基盤科目_留学生科目【A7729】 日本語 2 春学期授業/Spring	73
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【A7729】 日本語 2 春学期授業/Spring	75
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【A7730】 日本語 3 秋学期授業/Fall	77
建築学科_基盤科目_留学生科目【A7730】 日本語 3 秋学期授業/Fall	79
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【A7730】 日本語 3 秋学期授業/Fall	81
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【A7731】 日本語 4 秋学期授業/Fall	83
建築学科_基盤科目_留学生科目【A7731】 日本語 4 秋学期授業/Fall	85
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【A7731】 日本語 4 秋学期授業/Fall	87
【A7752】 日本を巡る：多文化協働フィールドワークA [村田 晶子] 春学期授業/Spring	89
【A7753】 日本を巡る：多文化協働フィールドワークB [村田 晶子] 秋学期授業/Fall	91
【A7754】 留学生と学ぶ社会文化比較A [村田 晶子] 春学期授業/Spring	93
【A7755】 留学生と学ぶ社会文化比較B [村田 晶子] 秋学期授業/Fall	95
【A7756】 多文化共生サポーター育成講座A [村田 晶子] 春学期授業/Spring	97
【A7757】 多文化共生サポーター育成講座B [村田 晶子] 秋学期授業/Fall	99
【A9890】 社会連携フィールドワーク [高見 京太、深野 聡] サマーセッション/Summer Session	101
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0040】 英語 1 (補講) [デ工学部英語担当教員] 春学期前半/Spring(1st half)	103
建築学科_外国語科目_英語【B0040】 英語 1 (補講) [デ工学部英語担当教員] 春学期前半/Spring(1st half)	104
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0040】 英語 1 (補講) [デ工学部英語担当教員] 春学期前半/Spring(1st half)	105
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0041】 英語 2 (補講) [デ工学部英語担当教員] 春学期後半/Spring(2nd half)	106
建築学科_外国語科目_英語【B0041】 英語 2 (補講) [デ工学部英語担当教員] 春学期後半/Spring(2nd half)	107
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0041】 英語 2 (補講) [デ工学部英語担当教員] 春学期後半/Spring(2nd half)	108
建築学科_外国語科目_英語【B0042】 英語 3 (補講) [デ工学部英語担当教員] 秋学期前半/Fall(1st half)	109
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0042】 英語 3 (補講) [デ工学部英語担当教員] 秋学期前半/Fall(1st half)	110
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0042】 英語 3 (補講) [デ工学部英語担当教員] 秋学期前半/Fall(1st half)	111
建築学科_外国語科目_英語【B0043】 英語 4 (補講) [デ工学部英語担当教員] 秋学期後半/Fall(2nd half)	112
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0043】 英語 4 (補講) [デ工学部英語担当教員] 秋学期後半/Fall(2nd half)	113
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0043】 英語 4 (補講) [デ工学部英語担当教員] 秋学期後半/Fall(2nd half)	114
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0050】 英語 1 [デ工学部英語担当教員] 春学期前半/Spring(1st half)	115
建築学科_外国語科目_英語【B0050】 英語 1 [デ工学部英語担当教員] 春学期前半/Spring(1st half)	116
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0050】 英語 1 [デ工学部英語担当教員] 春学期前半/Spring(1st half)	117
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0061】 英語 2 [デ工学部英語担当教員] 春学期後半/Spring(2nd half)	118
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0061】 英語 2 [デ工学部英語担当教員] 春学期後半/Spring(2nd half)	119
建築学科_外国語科目_英語【B0061】 英語 2 [デ工学部英語担当教員] 春学期後半/Spring(2nd half)	120
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0072】 英語 3 [デ工学部英語担当教員] 秋学期前半/Fall(1st half)	121
建築学科_外国語科目_英語【B0072】 英語 3 [デ工学部英語担当教員] 秋学期前半/Fall(1st half)	122
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0072】 英語 3 [デ工学部英語担当教員] 秋学期前半/Fall(1st half)	123
建築学科_外国語科目_英語【B0083】 英語 4 [デ工学部英語担当教員] 秋学期後半/Fall(2nd half)	124
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B0083】 英語 4 [デ工学部英語担当教員] 秋学期後半/Fall(2nd half)	125
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B0083】 英語 4 [デ工学部英語担当教員] 秋学期後半/Fall(2nd half)	126
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall	127
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall	128
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall	129
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	130
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	132

システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	134
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall	135
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明 [小林 信也] 秋学期授業/Fall ..	136
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1013】認知科学 建築・他学部公開 [SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	137
建築学科_外国語科目_英語以外【B1014】イタリア語・イタリア文化 [押場 靖志] 春学期授業/Spring	138
建築学科_外国語科目_英語以外【B1015】中国語・中国文化 [田村 広子] 秋学期授業/Fall	139
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語以外【B1017】中国語・中国文化 [田村 広子] 秋学期授業/Fall	140
システムデザイン学科_外国語科目_英語以外【B1017】中国語・中国文化 [田村 広子] 秋学期授業/Fall	141
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	142
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	143
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	144
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1034】認知科学 SD [SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	145
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野【B1034】認知科学 都市 [SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	146
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語以外【B1035】イタリア語・イタリア文化 [京藤 好男] 春学期授業/Spring	147
システムデザイン学科_外国語科目_英語以外【B1036】イタリア語・イタリア文化 [ヴェルゴラーニ ミケーレ] 春学期授業/Spring	148
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	149
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	151
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	153
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall	155
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall	157
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1053】エコノミクス [李 江南] 秋学期授業/Fall	159
建築学科_基盤科目_総合系_健康・スポーツ分野【B1054】スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 春学期授業/Spring ..	161
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_健康・スポーツ分野【B1055】スポーツ総合演習 [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	163
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_健康・スポーツ分野【B1056】スポーツ総合演習 [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	164
建築学科_基盤科目_総合系_健康・スポーツ分野【B1057】スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 秋学期授業/Fall	165
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_健康・スポーツ分野【B1058】スポーツ総合演習 [西村 一帆] 春学期授業/Spring	167
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_健康・スポーツ分野【B1059】スポーツ総合演習 [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	168
建築学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	169
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	171
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	173
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【B1067】日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	175
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【B1067】日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	176
建築学科_基盤科目_留学生科目【B1067】日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	177
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【B1068】一般数学 [細川 聖理] 春学期授業/Spring	178
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【B1068】一般数学 [細川 聖理] 春学期授業/Spring	179
建築学科_基盤科目_留学生科目【B1068】一般数学 [細川 聖理] 春学期授業/Spring	180
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1100】技術者倫理 [南後 由和] 秋学期授業/Fall	181
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1150】数学1 [浜田 英明] 春学期授業/Spring	183
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1151】数学2 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	184
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1152】物理1 [宮田 雄二郎] 春学期授業/Spring	185
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1153】物理2 [加用 現空] 秋学期授業/Fall	186
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1154】数理演習1 [藤本 貴子] 秋学期授業/Fall	187
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1155】数理演習2 [宮田 雄二郎] 秋学期授業/Fall	188
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1200】技術者倫理 [伊東 賢] 秋学期授業/Fall	189
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1266】図学及演習 [福井 恒明、今井 裕久、矢原 奈欧、八杉 遙] 秋学期授業/Fall	191
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】ジオロジカルエンジニアリング [中谷 匡志] 秋学期授業/Fall	192

システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1300】技術者倫理〔池田 尚司〕春学期授業/Spring	194
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	196
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	197
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	198
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論〔境 新一〕春学期授業/Spring	199
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論〔境 新一〕春学期授業/Spring	201
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2008】現代企業論〔境 新一〕春学期授業/Spring	203
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2010】文化人類学〔思 沁夫〕秋学期授業/Fall	205
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2010】文化人類学〔思 沁夫〕秋学期授業/Fall	206
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2010】文化人類学〔思 沁夫〕秋学期授業/Fall	207
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2011】法学概論〔蓼沼 佳孝〕秋学期授業/Fall	208
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2011】法学概論〔蓼沼 佳孝〕秋学期授業/Fall	209
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B2011】法学概論〔蓼沼 佳孝〕秋学期授業/Fall	211
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン〔上山 肇〕春学期前半/Spring(1st half)	212
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン〔上山 肇〕春学期前半/Spring(1st half)	213
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2051】都市デザイン〔上山 肇〕春学期前半/Spring(1st half)	214
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half)	215
建築学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half)	216
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half)	217
建築学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛白〕春学期前半/Spring(1st half)	218
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛白〕春学期前半/Spring(1st half)	219
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛白〕春学期前半/Spring(1st half)	220
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴〕秋学期授業/Fall	221
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴〕秋学期授業/Fall	222
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴〕秋学期授業/Fall	223
建築学科_専門科目_導入科目【B2123】図形の技術Z〔安藤 直見〕春学期授業/Spring	224
建築学科_専門科目_導入科目【B2124】図形の技術X〔浅古 陽介〕春学期授業/Spring	226
建築学科_専門科目_導入科目【B2125】図形の技術Y〔富田 和弘〕春学期授業/Spring	228
建築学科_専門科目_導入科目【B2149】デザインスタジオ1（建築）W〔安藤 直見〕春学期授業/Spring	230
建築学科_専門科目_導入科目【B2150】デザインスタジオ2（建築）W〔小堀 哲夫〕秋学期授業/Fall	232
建築学科_専門科目_導入科目【B2151】建築のしくみ〔安藤 直見〕秋学期授業/Fall	234
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	236
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	237
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	238
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	239
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	240
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	241
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	242
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	243
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）〔溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔〕春学期前半/Spring(1st half)	244
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2232】国土・地域概論〔福井 恒明、堀川 洋子〕秋学期授業/Fall	245
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2233】測量学〔今井 龍一〕春学期前半/Spring(1st half)	246

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2234】都市計画法と政策 [福井 恒明] 秋学期前半/Fall(1st half)	247
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2237】地盤力学及演習X [酒井 久和] 春学期授業/Spring	248
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2238】地盤力学及演習Y [澤田 俊一 (Shunichi SAWADA)] 春学期授業/Spring	249
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2240】工業英語X [大友 敬三] 秋学期授業/Fall	250
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2241】工業英語Y [浅川 英理子] 秋学期授業/Fall	252
建築学科_専門科目_導入科目【B2249】デザインスタジオ1 (建築) X [西牟田 奈々] 春学期授業/Spring	254
建築学科_専門科目_導入科目【B2250】デザインスタジオ2 (建築) X [板坂 留五] 秋学期授業/Fall	256
システムデザイン学科_専門科目_導入科目【B2343】デザインスタジオ1 (SD) [大西 景太、飯村 武志、姜 理恵、坂間 清子] 春学期授業/Spring	258
システムデザイン学科_専門科目_導入科目【B2344】デザインスタジオ2 (SD) [安積 伸、片山 典子、田中 聡一郎、山田 泰之、小宮 昌人] 秋学期授業/Fall	260
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野【B2346】図形科学基礎演習X [石橋 忠人] 秋学期授業/Fall	262
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野【B2347】図形科学基礎演習Y [石橋 忠人] 秋学期授業/Fall	263
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_情報分野【B2348】データ処理基礎演習 [高田 美樹] 秋学期授業/Fall	264
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2354】テクノロジー基礎論 [山田 泰之、SEONG YOUNG AH、坂間 清子] 春学期授業/Spring	265
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2356】クリエイション基礎論 [土屋 雅人、大西 景太] 秋学期授業/Fall	266
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2359】メカトロニクス演習 [岩月 正見] 秋学期後半/Fall(2nd half)	267
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2360】マーケティング演習 [遊橋 裕泰、野々部 宏司、丹澤 弘樹] 春学期授業/Spring	268
建築学科_専門科目_基礎科目【B2401】建築生理心理1 [加用 現空] 春学期授業/Spring	269
建築学科_専門科目_基礎科目【B2402】材料の力学 [浜田 英明] 春学期授業/Spring	270
建築学科_専門科目_基礎科目【B2403】部材の力学X [宮田 雄二郎] 春学期授業/Spring	271
建築学科_専門科目_基礎科目【B2404】部材の力学Y [西園 博美] 春学期授業/Spring	272
建築学科_専門科目_基礎科目【B2405】骨組の力学 [浜田 英明] 秋学期授業/Fall	273
建築学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	274
システムデザイン学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	276
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English [ディン ポリバン] 秋学期授業/Fall	278
建築学科_基礎科目_留学生科目【B2430】建築法規 (建築) [河野 泰治] 秋学期授業/Fall	280
建築学科_専門科目_展開科目【B2433】フィールドワーク (建築) [高道 昌志、高村 雅彦] 春学期授業/Spring	281
建築学科_専門科目_展開科目【B2434】設備デザイン基礎 [中野 淳太] 秋学期授業/Fall	282
建築学科_専門科目_展開科目【B2435】デジタルスタジオ [安藤 直見、富田 和弘] 秋学期授業/Fall	283
建築学科_専門科目_導入科目【B2449】デザインスタジオ1 (建築) Y [阿部 智樹] 春学期授業/Spring	285
建築学科_専門科目_導入科目【B2450】デザインスタジオ2 (建築) Y [山道 拓人] 秋学期授業/Fall	287
都市環境デザイン工学科_基礎科目_理工系_自然科学分野【B2505】数値計算法 [酒井 久和] 春学期前半/Spring(1st half)	289
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2531】交通計画 [今井 龍一] 春学期前半/Spring(1st half)	290
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2537】工学実験1 [内田 大介、溝渕 利明、山本 佳士、細見 直史、橋本 親典、山崎 信宏、青山 直裕] 春学期後半/Spring(2nd half)	291
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2542】検査技術 [溝渕 利明、菅沼 久忠、小野 秀一、野嶋 潤一郎] 秋学期後半/Fall(2nd half)	293
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2549】メンテナンス工学 [溝渕 利明、白井 則生、長谷 俊彦、松山 公年、清 良平] 秋学期前半/Fall(1st half)	295
建築学科_専門科目_導入科目【B2550】デザインスタジオ2 (建築) Z [岡本 祥史] 秋学期授業/Fall	297
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2638】材料と構造のデザイン (2022年度以前入学生) [武居 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half)	299
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2640】オペレーションズリサーチ [野々部 宏司] 秋学期後半/Fall(2nd half)	300
建築学科_専門科目_導入科目【B2649】デザインスタジオ1 (建築) Z [柴峯 一廣] 春学期授業/Spring	301
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2663】プロジェクト実習・制作1 [土屋 雅人、安積 伸、山田 泰之、SEONG YOUNG AH、岩月 正見、大西 景太、姜 理恵、坂間 清子、野々部 宏司、小宮 昌人] 春学期授業/Spring	303

システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2664】プロジェクト実習・制作2 [土屋 雅人、安積 伸、山田 泰之、SEONG YOUNG AH、岩月 正見、大西 景太、姜 理恵、西岡 靖之、坂間 清子、野々部 宏司、小宮 昌人] 秋学期授業/Fall	305
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2668】デザインケーススタディ [土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH] 春学期授業/Spring	307
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2708】プロダクトデザイン理論 [安積 伸] 春学期授業/Spring ...	309
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2710】ビジネスモデルデザイン [西岡 靖之、姜 理恵] 春学期前半 /Spring(1st half)	310
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2712】応用プロジェクト1 [駒井 悠亮、土屋 雅人、大西 景太、岩月 正見、山田 泰之、姜 理恵、SEONG YOUNG AH、小宮 昌人] 春学期授業/Spring	311
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2713】応用プロジェクト2 [土屋 雅人、安積 伸、山田 泰之、SEONG YOUNG AH、岩月 正見、田中 豊、大西 景太、姜 理恵、駒井 悠亮、野々部 宏司、小宮 昌人] 秋学期前半/Fall(1st half)	312
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2715】プロダクトデザイン1 (2019~2022年度入学生用) [安積 伸、秋山 かおり、林 登志也] 春学期授業/Spring	313
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2716】プロダクトデザイン2 (2019~2022年度入学生用) [安積 伸、秋山 かおり、林 登志也] 春学期授業/Spring	314
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2721】デザインシンキング [吉見 奈々、金田 遼平] 秋学期授業 /Fall	315
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2726】メカニカルデザイン [山田 泰之] 春学期後半/Spring(2nd half)	316
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2728】インクルーシブデザイン [安積 伸、三浦 秀彦] 秋学期前半 /Fall(1st half)	317
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2729】デザイン・バックキャスト [松山 祥樹] 秋学期後半 /Fall(2nd half)	318
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2730】サービスUXデザイン [平田 昌大] 春学期後半/Spring(2nd half)	320
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2735】ゲームプログラミング [岩月 正見] 春学期前半/Spring(1st half)	322
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2736】AIプログラミング [我妻 幸長] 秋学期後半/Fall(2nd half)	323
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2737】ARプログラミング [馬場 祐人] 秋学期後半/Fall(2nd half)	324
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2738】デジタルエンジニアリング [水野 操] 春学期後半/Spring(2nd half)	325
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2740】IoTプログラミング [岩月 正見] 秋学期前半/Fall(1st half)	327
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2742】データサイエンス [野々部 宏司] 春学期授業/Spring	328
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2743】メカニカルデザイン演習 [山田 泰之] 秋学期後半/Fall(2nd half)	330
システムデザイン学科_基礎科目_理工系_自然科学分野【B2750】電気と振動 [岩月 正見] 秋学期後半/Fall(2nd half)	331
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	332
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	333
建築学科_専門科目_基礎科目【B3001】サステナブルデザイン [中野 淳太] 秋学期後半/Fall(2nd half)	334
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3007】福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	335
建築学科_専門科目_展開科目【B3007】福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	336
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3007】福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	337
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3010】ランドスケープデザイン [大木 一、保 清人] 春学期授業 /Spring	338
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3010】ランドスケープデザイン [大木 一、保 清人] 春学期授業 /Spring	340
建築学科_専門科目_基礎科目【B3010】ランドスケープデザイン [大木 一、保 清人] 春学期授業/Spring	342
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	344
建築学科_専門科目_基礎科目【B3013】環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	346
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3013】環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	347
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3013】環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	348

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3014】	テクニカルライティング X [大友 敬三]	秋学期授業/Fall	349
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3014】	テクニカルライティング X [大友 敬三]	秋学期授業/Fall	351
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3014】	テクニカルライティング X [大友 敬三]	秋学期授業/Fall	353
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3015】	テクニカルライティング Y [浅川 英理子]	秋学期授業/Fall	355
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3015】	テクニカルライティング Y [浅川 英理子]	秋学期授業/Fall	357
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3015】	テクニカルライティング Y [浅川 英理子]	秋学期授業/Fall	359
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_情報分野【B3016】	数理統計学 [牧野 倫子]	春学期授業/Spring	361
建築学科_基礎科目_総合系_情報分野【B3016】	数理統計学 [牧野 倫子]	春学期授業/Spring	362
建築学科_専門科目_展開科目【B3017】	タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自]	秋学期前半/Fall(1st half)	363
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3017】	タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自]	秋学期前半/Fall(1st half)	364
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3017】	タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自]	秋学期前半/Fall(1st half)	365
建築学科_専門科目_基礎科目【B3401】	デザインスタジオ 3 [森 元気、赤松 佳珠子、坂野 由典、津野 恵美子、相坂 研介、野藤 優、宮本 裕也、神田 篤宏]	春学期授業/Spring	366
建築学科_専門科目_基礎科目【B3402】	デザインスタジオ 4 [下吹越 武人、福留 愛、池田 賢、青木 弘司、野藤 優、宮本 裕也、神田 篤宏、玉田 誠]	秋学期授業/Fall	368
建築学科_専門科目_展開科目【B3403】	デザインスタジオ 5 [下吹越 武人、山道 拓人、御手洗 龍、アリソン 理恵]	春学期授業/Spring	369
建築学科_専門科目_展開科目【B3404】	デザインスタジオ 6 [赤松 佳珠子、渡邊 健介、藤井 由理、平井 政俊]	秋学期授業/Fall	371
建築学科_専門科目_基礎科目【B3406】	西洋建築史 [稲益 祐太]	春学期授業/Spring	373
建築学科_専門科目_基礎科目【B3409】	日本建築史 [高村 雅彦]	秋学期授業/Fall	374
建築学科_専門科目_基礎科目【B3410】	建築計画 1 [岩佐 明彦]	春学期授業/Spring	375
建築学科_専門科目_基礎科目【B3411】	建築計画 2 [岩佐 明彦]	秋学期授業/Fall	376
建築学科_専門科目_基礎科目【B3413】	建築材料 [網野 禎昭、永野 尚吾]	春学期前半/Spring(1st half)	377
建築学科_専門科目_展開科目【B3416】	施工管理 [三上 孝明]	春学期授業/Spring	378
建築学科_専門科目_展開科目【B3417】	木造建築の構法 [網野 禎昭]	秋学期前半/Fall(1st half)	381
建築学科_専門科目_展開科目【B3427】	空間の構造デザイン [浜田 英明]	春学期授業/Spring	382
建築学科_専門科目_展開科目【B3428】	鉄筋コンクリートのデザイン [浜田 英明]	春学期授業/Spring	383
建築学科_専門科目_展開科目【B3429】	鋼のデザイン [永井 佑季]	秋学期授業/Fall	384
建築学科_専門科目_展開科目【B3432】	建物の振動と耐震化 [宮田 雄二郎]	秋学期授業/Fall	385
建築学科_専門科目_展開科目【B3433】	建物の耐力 [宮田 雄二郎]	秋学期授業/Fall	386
建築学科_専門科目_基礎科目【B3436】	建築生理心理 2 [加用 現空]	秋学期授業/Fall	387
建築学科_専門科目_基礎科目【B3437】	建築気候 [中野 淳太]	秋学期授業/Fall	388
建築学科_専門科目_展開科目【B3438】	光・視環境 [中野 淳太]	春学期授業/Spring	389
建築学科_専門科目_展開科目【B3439】	音・振動環境 [星 和磨]	秋学期授業/Fall	390
建築学科_専門科目_展開科目【B3444】	デザインスタジオ 7 [柘澤 麻利、海法 圭、南後 由和]	春学期授業/Spring	391
建築学科_専門科目_展開科目【B3446】	構造計算プログラミング [浜田 英明]	秋学期前半/Fall(1st half)	392
建築学科_専門科目_基礎科目【B3447】	建築の空間と形態 [安藤 直見]	秋学期後半/Fall(2nd half)	393
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3447】	建築の空間と形態 [安藤 直見]	秋学期後半/Fall(2nd half)	395
建築学科_専門科目_展開科目【B3448】	材料のデザイン [宮田 雄二郎]	春学期授業/Spring	397
建築学科_専門科目_展開科目【B3450】	建築の地盤力学 [吉丸 哲司]	春学期授業/Spring	399
建築学科_専門科目_特別科目【B3451】	特別講義 (A : 建築のデジタルライゼーション) [Peji ☒ Petar]	春学期前半/Spring(1st half)	400
建築学科_専門科目_特別科目【B3452】	特別講義 (B : 建築のビジュアルライゼーション) [Peji ☒ Petar]	春学期前半/Spring(1st half)	402
建築学科_専門科目_展開科目【B3461】	卒業研究 1 (建築) [宮田 雄二郎]	春学期授業/Spring	404
建築学科_専門科目_展開科目【B3462】	卒業研究 1 (建築) [山道 拓人]	春学期授業/Spring	406
建築学科_専門科目_展開科目【B3463】	卒業研究 1 (建築) [安藤 直見]	春学期授業/Spring	408
建築学科_専門科目_展開科目【B3464】	卒業研究 1 (建築) [下吹越 武人]	春学期授業/Spring	410
建築学科_専門科目_展開科目【B3465】	卒業研究 1 (建築) [網野 禎昭]	春学期授業/Spring	412
建築学科_専門科目_展開科目【B3466】	卒業研究 1 (建築) [赤松 佳珠子]	春学期授業/Spring	414
建築学科_専門科目_展開科目【B3467】	卒業研究 1 (建築) [浜田 英明]	春学期授業/Spring	416
建築学科_専門科目_展開科目【B3468】	卒業研究 1 (建築) [南後 由和]	春学期授業/Spring	418
建築学科_専門科目_展開科目【B3469】	卒業研究 1 (建築) [高村 雅彦]	春学期授業/Spring	420
建築学科_専門科目_展開科目【B3470】	卒業研究 1 (建築) [中野 淳太]	春学期授業/Spring	422

建築学科_専門科目_展開科目	【B3471】卒業研究1 (建築) [加用 現空]	春学期授業/Spring	424
建築学科_専門科目_展開科目	【B3472】卒業研究1 (建築) [須沢 栄]	春学期授業/Spring	426
建築学科_専門科目_展開科目	【B3473】卒業研究1 (建築) [小堀 哲夫]	春学期授業/Spring	428
建築学科_専門科目_展開科目	【B3474】卒業研究1 (建築) [藤本 貴子]	春学期授業/Spring	430
建築学科_専門科目_展開科目	【B3475】卒業研究2 (建築) [宮田 雄二郎]	秋学期授業/Fall	432
建築学科_専門科目_展開科目	【B3476】卒業研究2 (建築) [山道 拓人]	秋学期授業/Fall	434
建築学科_専門科目_展開科目	【B3477】卒業研究2 (建築) [安藤 直見]	秋学期授業/Fall	436
建築学科_専門科目_展開科目	【B3478】卒業研究2 (建築) [下吹越 武人]	秋学期授業/Fall	438
建築学科_専門科目_展開科目	【B3479】卒業研究2 (建築) [網野 禎昭]	秋学期授業/Fall	440
建築学科_専門科目_展開科目	【B3480】卒業研究2 (建築) [赤松 佳珠子]	秋学期授業/Fall	442
建築学科_専門科目_展開科目	【B3481】卒業研究2 (建築) [浜田 英明]	秋学期授業/Fall	444
建築学科_専門科目_展開科目	【B3482】卒業研究2 (建築) [南後 由和]	秋学期授業/Fall	446
建築学科_専門科目_展開科目	【B3483】卒業研究2 (建築) [高村 雅彦]	秋学期授業/Fall	448
建築学科_専門科目_展開科目	【B3484】卒業研究2 (建築) [中野 淳太]	秋学期授業/Fall	450
建築学科_専門科目_展開科目	【B3485】卒業研究2 (建築) [加用 現空]	秋学期授業/Fall	452
建築学科_専門科目_展開科目	【B3486】卒業研究2 (建築) [須沢 栄]	秋学期授業/Fall	454
建築学科_専門科目_展開科目	【B3487】卒業研究2 (建築) [小堀 哲夫]	秋学期授業/Fall	456
建築学科_専門科目_展開科目	【B3488】卒業研究2 (建築) [藤本 貴子]	秋学期授業/Fall	458
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3515】スプリングセミナー [加用 現空]	春学期授業/Spring	460
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3516】スプリングセミナー [藤本 貴子]	春学期授業/Spring	462
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3517】スプリングセミナー [宮田 雄二郎]	春学期授業/Spring	464
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3519】スプリングセミナー [山道 拓人]	春学期授業/Spring	466
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3520】スプリングセミナー [中野 淳太]	春学期授業/Spring	468
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3521】スプリングセミナー [安藤 直見]	春学期授業/Spring	470
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3522】スプリングセミナー [高村 雅彦]	春学期授業/Spring	472
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3523】スプリングセミナー [下吹越 武人]	春学期授業/Spring	474
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3524】スプリングセミナー [網野 禎昭]	春学期授業/Spring	476
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3525】スプリングセミナー [赤松 佳珠子]	春学期授業/Spring	478
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3526】スプリングセミナー [浜田 英明]	春学期授業/Spring	480
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3527】スプリングセミナー [南後 由和]	春学期授業/Spring	482
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3528】スプリングセミナー [岩佐 明彦]	春学期授業/Spring	484
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3529】基礎表現1 [阿部 雅世]	年間授業/Yearly	486
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野	【B3530】基礎表現2 [栗原 良彰]	年間授業/Yearly	487
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野	【B3531】コンピュータリテラシーX [福嶋 勝浩]	春学期授業/Spring	488
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野	【B3532】コンピュータリテラシーY [福嶋 勝浩]	春学期授業/Spring	490
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3535】設備入門 [石川 裕司]	秋学期授業/Fall	492
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3536】都市建築史スタジオ [藤本 貴子、小堀 哲夫]	秋学期授業/Fall	494
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野	【B3537】文明と資源 [網野 禎昭]	秋学期後半/Fall(2nd half)	496
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野	【B3537】文明と資源 [網野 禎昭]	秋学期後半/Fall(2nd half)	497
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野	【B3537】文明と資源 [網野 禎昭]	秋学期後半/Fall(2nd half)	498
建築学科_専門科目_展開科目	【B3538】建築デザイン論1 [下吹越 武人、今村 創平]	春学期授業/Spring	499
建築学科_専門科目_展開科目	【B3539】建築デザイン論2 [赤松 佳珠子、山道 拓人]	秋学期授業/Fall	500
建築学科_専門科目_展開科目	【B3540】都市建築史 [高村 雅彦]	春学期授業/Spring	501
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3541】構法スタジオ1 [永野 尚吾、溝部 公寛、鈴木 理考、河野 泰治、網野 禎昭、五十嵐 理人、北村 武留、藤田 雄介]	春学期前半/Spring(1st half)	502
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3542】構法スタジオ2 [永野 尚吾、溝部 公寛、鈴木 理考、河野 泰治、五十嵐 理人、北村 武留、藤田 雄介]	秋学期前半/Fall(1st half)	503
建築学科_専門科目_展開科目	【B3543】環境デザインスタジオ [中野 淳太、加用 現空]	春学期授業/Spring	504
建築学科_専門科目_展開科目	【B3544】ビルディングワークショップ [浜田 英明]	年間授業/Yearly	505
建築学科_専門科目_展開科目	【B3545】ビルディングワークショップ [宮田 雄二郎]	年間授業/Yearly	506
建築学科_専門科目_展開科目	【B3546】ビルディングワークショップ [中山 翔太]	年間授業/Yearly	507
建築学科_専門科目_展開科目	【B3547】日本建築史実習 [高村 雅彦]	春学期前半/Spring(1st half)	508
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3580】サステナブルデザイン [中野 淳太]	秋学期後半/Fall(2nd half)	509
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目	【B3580】サステナブルデザイン [中野 淳太]	秋学期後半/Fall(2nd half)	510
	【B3580】サステナブルデザイン [中野 淳太]	秋学期後半/Fall(2nd half)	511
	【B3581】デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和]	秋学期授業/Fall	512

【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和] 秋学期授業/Fall	514
【B3581】 デザインフォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和] 秋学期授業/Fall	516
【B3582】 エンジニアリングデザインの基礎 (2023年度以降入学生) 都市 [藤本 貴子] 秋学期授業/Fall ...	518
【B3582】 エンジニアリングデザインの基礎 (2023年度以降入学生) 建築 [藤本 貴子] 秋学期授業/Fall ...	519
【B3582】 エンジニアリングデザインの基礎 (2023年度以降入学生) SD [藤本 貴子] 秋学期授業/Fall ...	520
【B3583】 エンジニアリングデザインの応用 (2023年度以降入学生) SD [宮田 雄二郎] 秋学期授業/Fall .	521
【B3583】 エンジニアリングデザインの応用 (2023年度以降入学生) 建築 [宮田 雄二郎] 秋学期授業/Fall .	522
【B3583】 エンジニアリングデザインの応用 (2023年度以降入学生) 都市 [宮田 雄二郎] 秋学期授業/Fall .	523
【B3584】 デザイン工学概論 [南後 由和] 春学期授業/Spring	524
【B3584】 デザイン工学概論 [南後 由和] 春学期授業/Spring	526
【B3584】 デザイン工学概論 [南後 由和] 春学期授業/Spring	528
【B3585】 マテリアルデザイン [宮田 雄二郎] 春学期授業/Spring	530
【B3585】 マテリアルデザイン [宮田 雄二郎] 春学期授業/Spring	532
【B3585】 マテリアルデザイン [宮田 雄二郎] 春学期授業/Spring	534
【B3587】 エレクトロニクス基礎 [岩月 正見] 秋学期後半/Fall(2nd half)	536
【B3591】 図学設計基礎演習X [石橋 忠人、新井 宏之] 秋学期授業/Fall	537
【B3592】 図学設計基礎演習Y [石橋 忠人、新井 宏之] 秋学期授業/Fall	538
【B3595】 プロダクトデザイン演習 [安積 伸、秋山 かおり、林 登志也] 春学期授業/Spring	539
建築学科_基盤科目_理工系_工学分野【B3599】 地理空間分析基礎 [藤本 貴子、安藤 直見] 春学期後半/Spring(2nd half)	540
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3601】 測量実習X [今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half) .	542
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3602】 測量実習Y [大山 容一、渡辺 一博] 春学期後半/Spring(2nd half)	543
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3603】 測量学演習X [今井 龍一] 秋学期授業/Fall	544
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3604】 測量学演習Y [望月 貫一郎] 秋学期授業/Fall	546
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3606】 水理学1及演習X [鈴木 善晴] 春学期授業/Spring	548
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3607】 水理学1及演習Y [原田 大輔] 春学期授業/Spring	550
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3608】 河川環境工学X [原田 大輔] 春学期前半/Spring(1st half)	552
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3609】 河川環境工学Y [秋田 麗子] 春学期前半/Spring(1st half)	554
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3611】 都市調査解析 [今井 龍一] 春学期後半/Spring(2nd half)	556
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	557
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	558
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	559
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	560
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	561
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	562
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	563
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	564
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】 ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子] 秋学期授業/Fall	565
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3639】 コンクリート技術 [溝渕 利明] 秋学期授業/Fall	566
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3645】 上下水道システム [鈴木 善晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	567
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3646】 水理学2 [原田 大輔] 秋学期前半/Fall(1st half)	569
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3660】 建築法規 (都市) [田中 美都] 春学期前半/Spring(1st half)	571
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3661】 水文気象学 [鈴木 善晴] 春学期後半/Spring(2nd half) .	572
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3662】 海洋環境工学 [東 博紀、越川 海] 秋学期後半/Fall(2nd half)	574

都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3663】	流域水文学 [鈴木 善晴]	秋学期後半/Fall(2nd half)	575
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3670】	卒業研究 1 (都市) [溝渕 利明、橋本 親典]	春学期授業 /Spring	577
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3671】	卒業研究 1 (都市) [今井 龍一]	春学期授業/Spring	578
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3672】	卒業研究 1 (都市) [内田 大介]	春学期授業/Spring	579
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3673】	卒業研究 1 (都市) [尾関 智子]	春学期授業/Spring	580
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3675】	卒業研究 1 (都市) [鈴木 善晴]	春学期授業/Spring	581
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3676】	卒業研究 1 (都市) [福井 恒明、荻原 知子]	春学期授業 /Spring	583
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3677】	卒業研究 1 (都市) [山本 佳士]	春学期授業/Spring	584
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3678】	卒業研究 1 (都市) [酒井 久和]	春学期授業/Spring	585
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3679】	卒業研究 1 (都市) [原田 大輔、知花 武佳]	春学期授業 /Spring	586
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3680】	卒業研究 2 (都市) [溝渕 利明、橋本 親典]	秋学期授業 /Fall	587
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3681】	卒業研究 2 (都市) [今井 龍一]	秋学期授業/Fall	589
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3682】	卒業研究 2 (都市) [内田 大介]	秋学期授業/Fall	590
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3683】	卒業研究 2 (都市) [090175]	秋学期授業/Fall	591
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3685】	卒業研究 2 (都市) [鈴木 善晴]	秋学期授業/Fall	592
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3686】	卒業研究 2 (都市) [福井 恒明、荻原 知子]	秋学期授業 /Fall	594
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3687】	卒業研究 2 (都市) [山本 佳士]	秋学期授業/Fall	596
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3688】	卒業研究 2 (都市) [酒井 久和]	秋学期授業/Fall	598
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3689】	卒業研究 2 (都市) [原田 大輔、知花 武佳]	秋学期授業 /Fall	599
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	601
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	603
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	605
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	607
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	609
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	611
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	613
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	615
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】	基礎ゼミナール [溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔]	秋学期授業/Fall	617
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3701】	社会基盤概論 [今井 龍一、福井 恒明]	春学期前半/Spring(1st half)	619
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3702】	コンクリート工学及演習 X [溝渕 利明]	春学期授業/Spring	620
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3703】	コンクリート工学及演習 Y [伊藤 誠]	春学期授業/Spring	622
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3704】	鋼構造学及演習 X [内田 大介]	秋学期授業/Fall	624
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3705】	鋼構造学及演習 Y [平山 繁幸]	秋学期授業/Fall	625
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3708】	地盤環境工学 [酒井 久和]	秋学期授業/Fall	626
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3709】	デザインスタジオ [佐多 祐一、福井 恒明、袴田 喜夫]	春学期授業/Spring	627
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3711】	プロジェクトスタジオ (都市) [袴田 喜夫、椿 真吾、福井 恒明、上山 肇]	秋学期授業/Fall	628
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3713】	景観とデザイン [福井 恒明]	春学期後半/Spring(2nd half)	629
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3714】	ジオテクニカルデザイン [酒井 久和]	春学期授業/Spring	630
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3715】	環境マネジメント [弘末 文紀]	秋学期前半/Fall(1st half)	631

都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3716】水圏環境システム [原田 大輔] 秋学期後半/Fall(2nd half)	633
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3717】減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	635
【B3717】減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	637
【B3717】減災工学 [丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜] 年間授業/Yearly	639
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3725】橋のデザイン実習 [末松 慎介、福井 恒明] 春学期授業/Spring	641
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	642
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	643
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	644
【B3838】医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	645
【B3838】医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	646
【B3838】医療福祉工学 [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	647
【B3842】Webアプリプログラミング演習 [馬場 祐人] 秋学期後半/Fall(2nd half)	648
【B3844】インクルーシブデザイン [安積 伸、三浦 秀彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	649
【B3845】材料と構造のデザイン [武居 秀樹] 秋学期前半/Fall(1st half)	650
【B3851】オペレーションズリサーチ [高須賀 将秀] 春学期授業/Spring	651
【B3852】橋のデザイン [末松 慎介、平野 貴之] 春学期授業/Spring	653
【C0211】システム論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	654
【C0222】社会と美術 [平野 真弓] 春学期授業/Spring	655
【C0223】メディアと社会 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	658
【C0233】ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	660
【C0235】国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	662
【C0236】国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	664
【C0241】国家と民族 [宮本 佳和] 秋学期授業/Fall	666
【C0242】国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	667
【C0243】平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	668
【C0244】宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	669
【C0245】Religion and Society [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	671
【C0433】プログラミング言語基礎 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	672
【C0437】社会とデータサイエンス [和泉 順子] 秋学期授業/Fall	673
【C0438】道具による感覚・体験のデザイン [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	674
【C0770】文化情報のデザインワークショップ [松田 美奈子] 春学期授業/Spring	675
【C0810】道具のデザイン学 [松田 美奈子] 春学期授業/Spring	676
【C0814】文化と生物 [島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光] 秋学期授業/Fall	677
【C0815】文化と環境情報 [島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂、吉川 翠、長谷川 真紀子] 秋学期授業/Fall	678
【C0833】ソーシャル・プラクティス [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	680
【C0854】現代美術論 [平野 真弓] 秋学期授業/Fall	682
【C0884】Gender and Japanese Culture [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	685
【C0902】世界とつながる地域の歴史と文化 [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	687
【C0932】ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	689
【C0947】北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	691
【C0963】英語圏の文化Ⅳ (文学と社会A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	692
【C0999】フランス語圏の文化Ⅳ (複言語・複文化社会) [廣松 勲] 春学期授業/Spring	693
【C1031】宗教社会論Ⅱ [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	694
【C1040】国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	696
【C1041】国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	697
【C1044】人の移動と国際関係Ⅱ [高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	698
【C1046】地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	699
【C1048】実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	701
【C1053】The Global South: History and Politics [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	702
【C1119】言語文化演習 [佐々木 直美] 春学期・秋学期/Spring・Fall	704
【C1169】言語文化演習 [佐々木 直美] 春学期・秋学期/Spring・Fall	706

【C1219】言語文化演習〔佐々木 直美〕春学期・秋学期/Spring・Fall	708
【C1269】言語文化演習〔佐々木 直美〕春学期・秋学期/Spring・Fall	710
【C2004】国際法Ⅰ〔岡松 暁子〕春学期授業/Spring	712
【C2005】国際法Ⅱ〔岡松 暁子〕秋学期授業/Fall	713
【C2017】国際環境法〔岡松 暁子〕秋学期授業/Fall	714
【C2025】地球環境政治論〔横田 匡紀〕春学期授業/Spring	715
【C2110】環境経済論Ⅰ〔杉野 誠〕春学期授業/Spring	717
【C2111】環境経済論Ⅱ〔杉野 誠〕秋学期授業/Fall	718
【C2116】CSR論Ⅰ〔長谷川 直哉〕春学期授業/Spring	719
【C2117】CSR論Ⅱ〔長谷川 直哉〕秋学期授業/Fall	721
【C2120】途上国経済論Ⅰ〔武貞 稔彦〕春学期授業/Spring	723
【C2121】途上国経済論Ⅱ〔武貞 稔彦〕秋学期授業/Fall	725
【C2217】環境社会論Ⅰ〔藤田 研二郎〕春学期授業/Spring	727
【C2218】環境社会論Ⅱ〔藤田 研二郎〕秋学期授業/Fall	729
【C2227】災害政策論〔川副 早央里〕秋学期授業/Fall	731
【C2311】環境倫理学Ⅱ〔吉永 明弘〕秋学期授業/Fall	732
【C2416】環境科学Ⅰ〔佐々木 大輔〕春学期授業/Spring	733
【C2417】環境科学Ⅱ〔佐々木 大輔〕秋学期授業/Fall	734
【C2500】環境管理論Ⅰ〔大野 香代〕春学期授業/Spring	735
【C2501】環境管理論Ⅱ〔大野 香代〕春学期授業/Spring	737
【C2503】環境教育論〔野田 恵〕春学期授業/Spring	739
【C2559】現代思想と人間Ⅰ〔竹本 研史〕春学期授業/Spring	741
【C2560】現代思想と人間Ⅱ〔竹本 研史〕秋学期授業/Fall	743
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5018】発達・教育キャリア入門A〔遠藤 野ゆり〕秋学期授業/Fall	744
基幹科目_選択【C5034】ライフコース論〔百瀬 由璃絵〕秋学期授業/Fall	746
【C5047】臨床教育学〔遠藤 野ゆり〕春学期授業/Spring	747
【C5050】市民社会における学びと実践〔池田 佳代〕秋学期授業/Fall	749
【C5051】格差社会の家族と教育〔寺崎 里水〕秋学期授業/Fall	751
【C5055】成人学習のデザイン(生涯学習支援論Ⅱ)〔久井 英輔〕秋学期授業/Fall	752
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5066】産業・組織心理学Ⅰ〔坂爪 洋美〕春学期授業/Spring	754
【C5078】仕事の経済学〔梅崎 修〕春学期授業/Spring	755
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5110】産業・組織心理学Ⅱ〔今城 志保〕秋学期授業/Fall	756
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C5111】キャリア開発論〔高崎 美佐〕秋学期授業/Fall	757
【C5114】職業キャリア政策論〔岩月 真也〕春学期授業/Spring	759
関連科目【C5298】就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-〔上西 充子、梅崎 修〕秋学期授業/Fall	761
関連科目【C5343】生涯学習支援論Ⅰ〔松橋 義樹〕春学期授業/Spring	763
展開科目_選択必修(体験型)【C7114】キャリア体験事前指導(インターン)〔石山 恒貴〕春学期授業/Spring	765
展開科目_選択必修(体験型)【C7116】キャリア体験事前指導(インターン)〔田中 研之輔〕春学期授業/Spring	767
展開科目_選択必修(体験型)【C7117】キャリア体験事前指導(インターン)〔野中 利明〕春学期授業/Spring	769
展開科目_選択必修(体験型)【C7118】キャリア体験事前指導(プロジェクト)〔山岡 義卓〕春学期授業/Spring	771
展開科目_選択必修(体験型)【C7119】キャリア体験学習(インターン)〔石山 恒貴〕秋学期授業/Fall	773
展開科目_選択必修(体験型)【C7121】キャリア体験学習(インターン)〔田中 研之輔〕秋学期授業/Fall	775
展開科目_選択必修(体験型)【C7122】キャリア体験学習(インターン)〔野中 利明〕秋学期授業/Fall	777
展開科目_選択必修(体験型)【C7123】キャリア体験学習(プロジェクト)〔山岡 義卓〕秋学期授業/Fall	779
展開科目_選択必修(体験型)【C7128】メディアリテラシー実習Ⅰ〔坂本 旬〕春学期授業/Spring	781
展開科目_選択必修(体験型)【C7129】メディアリテラシー実習Ⅱ〔坂本 旬〕秋学期授業/Fall	783
展開科目_選択必修(体験型)【C7130】地域学習支援Ⅰ〔遠藤 野ゆり〕春学期授業/Spring	785
展開科目_選択必修(体験型)【C7131】地域学習支援Ⅱ〔遠藤 野ゆり〕秋学期授業/Fall	787
基礎科目/Liberal Arts Courses_自然科学分野/Natural Sciences_リベラルアーツ科目/Upper Division Liberal Arts Courses【F9102】Natural Science A〔宇野 真介〕秋学期授業/Fall	789
人文・社会・自然科学系【H3092】アジア文化論〔呉 暁林〕秋学期授業/Fall	791
人文・社会・自然科学系【H3093】ヨーロッパ・アメリカ文化論〔川口 悠子〕春学期授業/Spring	793
人文・社会・自然科学系【H3094】アフリカ文化論〔大形 いずみ〕春学期授業/Spring	794
人文・社会・自然科学系【H3095】比較文化論〔横山 泰子〕秋学期授業/Fall	796
人文・社会・自然科学系【H3096】比較文化論〔横山 泰子〕秋学期授業/Fall	797
人文・社会・自然科学系【H3106】国際関係論〔福島 亮〕秋学期授業/Fall	798
人文・社会・自然科学系【H3107】基礎経済学〔呉 暁林〕春学期授業/Spring	800

人文・社会・自然科学系【H3108】応用経済学〔王 娜〕春学期授業/Spring	802
人文・社会・自然科学系【H3109】企業マネージメント〔坂 裕和〕春学期授業/Spring	804
人文・社会・自然科学系【H3110】現代政治学〔川口 悠子〕秋学期授業/Fall	806
人文・社会・自然科学系【H3111】キャリアデザイン〔斎藤 真一郎〕秋学期授業/Fall	808
人文・社会・自然科学系【H3112】法学（日本国憲法）〔押久保 倫夫〕春学期授業/Spring	811
人文・社会・自然科学系【H3113】法学（日本国憲法）〔押久保 倫夫〕春学期授業/Spring	814
人文・社会・自然科学系【H3114】法と社会〔押久保 倫夫〕秋学期授業/Fall	817
人文・社会・自然科学系【H3115】法と社会〔押久保 倫夫〕秋学期授業/Fall	819
人文・社会・自然科学系【H3119】先端技術・社会論〔原 昌己〕秋学期授業/Fall	821
人文・社会・自然科学系【H3120】先端技術・社会論〔原 昌己〕春学期授業/Spring	822
人文・社会・自然科学系【H3123】環境と資源〔中嶋 吉弘〕春学期授業/Spring	823
人文・社会・自然科学系【H3124】環境と資源〔中嶋 吉弘〕秋学期授業/Fall	825
人文・社会・自然科学系【H3563】比較文化論〔横山 泰子〕秋学期授業/Fall	827
人文・社会・自然科学系【H3857】宗教と社会〔立田 由紀恵〕春学期授業/Spring	828
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5008】環境・エネルギー入門〔山脇 栄道〕春学期授業/Spring	830
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5040】医療福祉工学〔井上 淳〕秋学期集中/Intensive(Fall)	832
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5044】人間工学（機械）〔鈴木 郁〕春学期授業/Spring	834
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5075】製品開発工学〔吉田 一郎〕春学期授業/Spring	835
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5087】エネルギー変換工学〔飯島 晃良〕春学期授業/Spring	838
電気電子工学科_学科専門科目【H5512】基礎アナログ電子回路〔安田 彰〕春学期授業/Spring	839
電気電子工学科_学科専門科目【H5514】応用アナログ電子回路〔安田 彰〕秋学期授業/Fall	840
電気電子工学科_学科専門科目【H5545】アナログ回路デザイン〔安田 彰〕春学期授業/Spring	841
電気電子工学科_学科専門科目【H5552】パワーエレクトロニクス〔早乙女 英夫〕春学期授業/Spring	842
電気電子工学科_学科専門科目【H5563】ディジタル回路デザイン〔安田 彰〕秋学期授業/Fall	843
経営システム工学科_学科専門科目【H6789】ゲーム理論〔白川 慧一〕秋学期授業/Fall	844
経営システム工学科_学科専門科目【H6812】保全性工学〔田村 信幸〕秋学期授業/Fall	846
経営システム工学科_学科専門科目【H6851】法学総論〔小川 清一郎〕秋学期授業/Fall	847
経営システム工学科_学科専門科目【H6865】ミクロ経済学〔劉 慶豊〕春学期授業/Spring	849
経営システム工学科_学科専門科目【H6877】離散システム工学〔高橋 宏治〕春学期授業/Spring	850
学部共通科目【H7001】グリーンケミストリ〔渡邊 雄二郎〕春学期授業/Spring	852
学部共通科目【H7006】環境と人間〔植田 央〕春学期授業/Spring	853
学部共通科目【H7042】食品科学〔三浦 豊〕春学期授業/Spring	854
学部共通科目【H7073】応用環境化学〔渡邊 雄二郎〕秋学期授業/Fall	855
学部共通科目【H7304】植物病理学概論〔濱本 宏〕秋学期授業/Fall	856
学部共通科目【H7305】植物分子細胞生物学〔鍵和田 聡〕秋学期授業/Fall	857
応用植物科学科_学科専門科目【H8003】栽培植物学〔佐野 俊夫〕春学期授業/Spring	858
応用植物科学科_学科専門科目【H8009】診断技術論〔大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕史、酒井 啓充〕春学期授業/Spring	859
応用植物科学科_学科専門科目【H8014】雑草学〔佐野 俊夫、村岡 哲郎〕秋学期授業/Fall	860
応用植物科学科_学科専門科目【H8015】植物医科ビジネス論〔宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子〕秋学期授業/Fall	861
応用植物科学科_学科専門科目【H8018】植物医科学応用実験 I〔津田 新哉、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、鶴岡 康夫、廣岡 裕史、鈴木 聡、武井 円、小林 慶範〕春学期授業/Spring	862
応用植物科学科_学科専門科目【H8019】植物医科学応用実験 II〔津田 新哉、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、齋藤 範彦、廣岡 裕史、武井 円、小林 慶範〕秋学期授業/Fall	863
学部共通科目【H8023】植物細菌学〔大島 研郎〕春学期授業/Spring	864
応用植物科学科_学科専門科目【H8026】環境昆虫学〔望月 文昭〕春学期授業/Spring	865
応用植物科学科_学科専門科目【H8030】植物感染生理学〔鍵和田 聡〕春学期授業/Spring	866
応用植物科学科_学科専門科目【H8035】植物病理学〔佐野 俊夫、亀和田 國彦〕春学期授業/Spring	867
応用植物科学科_学科専門科目【H8036】植物医科学専門実験 I〔津田 新哉、中山 喜一、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、齋藤 範彦、廣岡 裕史、武井 円、小林 慶範〕春学期授業/Spring	868
応用植物科学科_学科専門科目【H8037】植物医科学専門実験 II〔津田 新哉、中山 喜一、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、齋藤 範彦、廣岡 裕史、武井 円、小林 慶範〕秋学期授業/Fall	869
応用植物科学科_学科専門科目【H8104】植物管理技術論〔安達 俊輔、桂 圭佑、若林 侑〕春学期授業/Spring	870

応用植物科学科_学科専門科目【H8108】植物栄養学〔亀和田 國彦〕春学期授業/Spring	871
応用植物科学科_学科専門科目【H8109】生物学実験統計分析演習〔松下 秀介〕春学期授業/Spring	873
応用植物科学科_学科専門科目【H8117】ホーティカルチャー論〔津田 新哉、鈴木 栄、彦坂 晶子、堀内 尚美〕 春学期授業/Spring	874
応用植物科学科_学科専門科目【H8119】植物医科インフォマティクス演習〔大島 研郎〕秋学期授業/Fall	875
応用植物科学科_学科専門科目【H8120】実践植物遺伝学〔坂井 真、黒羽 剛〕春学期授業/Spring	876
創生科学科_学科専門科目【H9017】解析力学〔岩沢 美佐子〕春学期授業/Spring	878
創生科学科_学科専門科目【H9031】計測単位と標準〔小宮山 裕〕春学期授業/Spring	879
創生科学科_学科専門科目【H9050】創生科学基礎演習Ⅲ〔金沢 誠〕秋学期授業/Fall	880
創生科学科_学科専門科目【H9092】コーパス言語分析〔小屋 多恵子〕春学期授業/Spring	881
創生科学科_学科専門科目【H9101】PBL〔金沢 誠、呉 暁林、小林 一行、小屋 多恵子、佐藤 修一、鮎川 矩義、鈴木 郁、田中 幹人、松尾 由賀利、柳川 浩三、横山 泰子、柴田 千尋、小宮山 裕、山本 晃輔、 堤 瑛美子〕春学期授業/Spring	883
創生科学科_学科専門科目【H9269】科学実験リテラシー〔小上 樹〕春学期授業/Spring	884
創生科学科_学科専門科目【H9276】量子エレクトロニクス〔本宮 佳典〕秋学期授業/Fall	885
創生科学科_学科専門科目【H9353】物理学基礎Ⅴ（熱統計力学Ⅰ）〔梶田 雅稔〕秋学期授業/Fall	886
創生科学科_学科専門科目【H9357】フィールドワーク〔田中 幹人〕秋学期授業/Fall	887
創生科学科_学科専門科目【H9360】機械学習〔柴田 千尋〕秋学期授業/Fall	890
創生科学科_学科専門科目【H9365】深層学習の基礎〔柴田 千尋〕春学期授業/Spring	891
創生科学科_学科専門科目【H9367】確率統計・演習Ⅳ（統計モデリング入門）〔田中 幹人〕春学期授業/Spring	892
創生科学科_学科専門科目【H9374】天文学Ⅱ〔田中 幹人〕春学期授業/Spring	894
創生科学科_学科専門科目【H9375】天文学Ⅲ〔田中 幹人〕秋学期授業/Fall	896
創生科学科_学科専門科目【H9376】地球科学基礎Ⅱ（リモートセンシング）〔佐藤 修一〕春学期授業/Spring ..	898
創生科学科_学科専門科目【H9379】イノベーションと企業経営〔呉 暁林〕春学期授業/Spring	899
【J0009】統計学Ⅰ〔川畑 史郎〕秋学期授業/Fall	901
【J0010】統計学Ⅰ〔京地 清介〕秋学期授業/Fall	903
【J0011】統計学Ⅰ〔小西 克巳〕春学期授業/Spring	905
【J0401】情報科学入門〔日高 宗一郎〕春学期授業/Spring	906
【J0402】情報科学入門〔坂本 寛〕春学期授業/Spring	908
【J0403】コンピュータシステム入門Ⅰ〔高村 誠之〕春学期授業/Spring	910
【J0404】コンピュータシステム入門Ⅰ〔坂本 寛〕春学期授業/Spring	912
【J0406】コンピュータシステム入門Ⅱ〔小池 崇文〕秋学期授業/Fall	914
【J0420】プログラミング入門Ⅰ〔赤石 美奈〕春学期前半/Spring(1st half)	915
【J0421】プログラミング入門Ⅰ〔黒木 帝聡〕春学期前半/Spring(1st half)	916
【J0422】プログラミング入門Ⅰ〔西田 圭吾〕春学期前半/Spring(1st half)	917
【J0423】プログラミング入門Ⅰ〔佐藤 周平〕春学期前半/Spring(1st half)	918
【J0424】プログラミング入門Ⅱ〔赤石 美奈〕春学期後半/Spring(2nd half)	919
【J0425】プログラミング入門Ⅱ〔黒木 帝聡〕春学期後半/Spring(2nd half)	920
【J0426】プログラミング入門Ⅱ〔西田 圭吾〕春学期後半/Spring(2nd half)	921
【J0427】プログラミング入門Ⅱ〔佐藤 周平〕春学期後半/Spring(2nd half)	922
【J0428】プログラミング入門Ⅱ（再履）〔佐藤 周平〕春学期集中/Intensive(Spring)	923
【J0433】データ構造とアルゴリズムⅠ〔首藤 裕一〕春学期授業/Spring	924
【J0434】データ構造とアルゴリズムⅠ〔坂本 寛〕春学期授業/Spring	925
【J0519】統計学Ⅱ〔高村 誠之〕秋学期授業/Fall	926
【J0520】統計学Ⅱ〔川畑 史郎〕秋学期授業/Fall	927
【J0537】データベース〔日高 宗一郎〕秋学期授業/Fall	928
【J0538】データベース〔坂本 寛〕秋学期授業/Fall	929
【J0539】人工知能〔赤石 美奈〕秋学期授業/Fall	930
【J0540】人工知能〔松下 智〕秋学期授業/Fall	932
【K6054】日本経済論A〔小黒 一正〕春学期授業/Spring	934
【K6055】日本経済論A〔青野 幸平〕春学期授業/Spring	935
【K6056】日本経済論B〔小黒 一正〕秋学期授業/Fall	936
【K6057】日本経済論B〔青野 幸平〕秋学期授業/Fall	937
【K6062】財政学A〔小林 克也〕春学期授業/Spring	938
【K6063】財政学A〔廣川 みどり〕春学期授業/Spring	939
【K6064】財政学B〔小林 克也〕秋学期授業/Fall	940
【K6065】財政学B〔廣川 みどり〕秋学期授業/Fall	941

【K6128】	コーポレートガバナンス論A [胥 鵬]	春学期授業/Spring	942
【K6129】	コーポレートガバナンス論B [胥 鵬]	秋学期授業/Fall	944
【K6150】	国際関係論A [富永 靖敬]	春学期授業/Spring	946
【K6151】	国際関係論B [富永 靖敬]	秋学期授業/Fall	948
【K6152】	経済人類学A [友松 夕香]	春学期授業/Spring	950
【K6153】	経済人類学B [友松 夕香]	秋学期授業/Fall	951
【K6154】	環境経済論A [松波 淳也]	春学期授業/Spring	952
【K6155】	環境経済論A [松波 淳也]	春学期授業/Spring	953
【K6156】	環境経済論B [松波 淳也]	秋学期授業/Fall	954
【K6157】	環境経済論B [松波 淳也]	秋学期授業/Fall	955
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫]	春学期授業/Spring	956
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫]	秋学期授業/Fall	957
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史]	春学期授業/Spring	958
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史]	秋学期授業/Fall	959
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎]	春学期授業/Spring	960
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎]	秋学期授業/Fall	961
【K6229】	経済政策論A [小原 拓也]	春学期授業/Spring	962
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉]	秋学期授業/Fall	963
【K6235】	労働経済論A [酒井 正]	春学期授業/Spring	964
【K6236】	労働経済論B [酒井 正]	春学期授業/Spring	965
【K6337】	マクロ経済学A [宮崎 憲治]	春学期授業/Spring	966
【K6338】	マクロ経済学B [宮崎 憲治]	秋学期授業/Fall	967
【K6343】	マクロ経済学A [八木橋 毅司]	春学期授業/Spring	968
【K6344】	マクロ経済学B [八木橋 毅司]	秋学期授業/Fall	969
【K6347】	財政学A(市ヶ谷開講) [島澤 諭]	春学期授業/Spring	970
【K6348】	財政学B(市ヶ谷開講) [島澤 諭]	秋学期授業/Fall	971
【K6349】	経済政策論A(市ヶ谷開講) [森脇 大輔]	春学期授業/Spring	972
【K6350】	経済政策論B(市ヶ谷開講) [濱秋 純哉]	秋学期授業/Fall	973
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy 【K6721】 Principles of			
	Economics A [J E S S D I A M O N D]	春学期授業/Spring	974
【K6721】	Principles of Economics A [J E S S D I A M O N D]	春学期授業/Spring	975
【K6722】	Principles of Economics B [J E S S D I A M O N D]	秋学期授業/Fall	976
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_II. Global Economy 【K6722】 Principles of			
	Economics B [J E S S D I A M O N D]	秋学期授業/Fall	977
【L0058】	歴史学I [愼 蒼宇]	春学期授業/Spring	978
【L0114】	環境生態学 [鞠子 茂]	秋学期授業/Fall	979
【L0120】	社会を変えるための実践論 [荒井 容子]	秋学期授業/Fall	980
【LA000】	社会政策科学入門A [中筋 直哉]	秋学期授業/Fall	982
【LA001】	社会政策科学入門B [北浦 康嗣]	春学期授業/Spring	983
【LA003】	社会政策科学入門D [天本 哲史]	秋学期授業/Fall	984
【LA010】	ミクロ経済学 [北浦 康嗣]	春学期授業/Spring	985
【LA011】	マクロ経済学 [北浦 康嗣]	秋学期授業/Fall	986
【LA101】	企業と社会論B [多田 和美]	春学期授業/Spring	987
【LA102】	社会・イノベーション論I [糸久 正人]	春学期授業/Spring	988
【LA103】	社会・イノベーション論II [糸久 正人]	秋学期授業/Fall	990
【LA104】	中小企業論 [糸久 正人]	春学期授業/Spring	992
【LA105】	地域産業論I [加藤 寛之]	春学期授業/Spring	994
【LA106】	地域産業論II [加藤 寛之]	秋学期授業/Fall	995
【LA107】	産業社会学I [恵羅 さとみ]	春学期授業/Spring	996
【LA108】	産業社会学II [恵羅 さとみ]	秋学期授業/Fall	997
【LA200】	サステイナビリティ論A [高橋 洋]	秋学期授業/Fall	998
【LA201】	サステイナビリティ論B [長沼 建一郎]	春学期授業/Spring	999
【LA208】	福祉社会学I [堅田 香緒里]	春学期授業/Spring	1000
【LA209】	福祉社会学II [堅田 香緒里]	秋学期授業/Fall	1001
【LA210】	社会保障法I [長沼 建一郎]	春学期授業/Spring	1002
【LA211】	社会保障法II [長沼 建一郎]	秋学期授業/Fall	1003
【LA212】	環境政策論I [高橋 洋]	春学期授業/Spring	1004

【LA213】 環境政策論Ⅱ [高橋 洋] 秋学期授業/Fall	1005
【LA300】 グローバル市民社会論A [岡野内 正] 春学期授業/Spring	1006
【LA301】 グローバル市民社会論B [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	1007
【LA302】 グローバル社会のローカリティ [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	1008
【LA303】 市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	1009
【LA308】 国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1010
【LA310】 国際経済論Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	1011
【LA311】 国際経済論Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1013
【LB000】 社会学への招待 [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	1015
【LB002-a】 社会学入門B [斎藤 友里子、鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1016
【LB002-b】 社会学入門B [斎藤 友里子、鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1017
【LB005】 社会学理論AⅡ [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1018
【LB013】 歴史社会学Ⅰ [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1019
【LB027-a】 社会調査実習 [堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	1020
【LB027-b】 社会調査実習 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	1022
【LB027-c】 社会調査実習 [三井 さよ] 年間授業/Yearly	1023
【LB027-d】 社会調査実習 [池田 裕] 年間授業/Yearly	1024
【LB029-a】 調査研究法B [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	1025
【LB029-b】 調査研究法B [堅田 香緒里] 春学期授業/Spring	1026
【LB029-c】 調査研究法B [三井 さよ] 春学期授業/Spring	1027
【LB100】 人間・社会論 [三井 さよ] 春学期授業/Spring	1028
【LB107】 臨床社会学Ⅱ [三井 さよ] 秋学期授業/Fall	1029
【LB111】 社会教育概論Ⅰ [荒井 容子] 春学期授業/Spring	1030
【LB112】 社会教育概論Ⅱ [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	1031
【LB202】 環境社会学Ⅰ [茅野 恒秀] 春学期授業/Spring	1032
【LB203】 環境社会学Ⅱ [茅野 恒秀] 秋学期授業/Fall	1033
【LB206】 都市と地域の社会学Ⅰ [茅野 恒秀] 春学期授業/Spring	1034
【LB207】 都市と地域の社会学Ⅱ [茅野 恒秀] 秋学期授業/Fall	1035
【LB400】 国際社会と日本 [慎 蒼宇] 秋学期授業/Fall	1037
【LB404】 国際関係論Ⅰ [二村 まどか] 春学期授業/Spring	1038
【LB405】 国際関係論Ⅱ [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	1039
【LD002】 メディア社会入門Ⅰ [大森 翔子] 春学期授業/Spring	1040
【LD011】 社会問題とメディア [大森 翔子] 秋学期授業/Fall	1041
【LD200】 消費者行動論 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	1042
【LD201】 消費者行動モデリング [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	1043
【LD202】 マーケティング実践 [諸上 茂光] 秋学期授業/Fall	1044
【LD206】 メディアの歴史 [李 舜志] 秋学期授業/Fall	1045
【LD300】 メディアテクノロジーと社会 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring	1046
【LD301】 メディアテクノロジーと社会分析 [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall	1047
【LD309】 ソーシャルメディア論 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	1048
【LD310】 ソーシャルメディア分析 [藤代 裕之] 秋学期授業/Fall	1049
【LE221】 Content-Based English BⅠ (Global Issues) [二村 まどか] 春学期授業/Spring	1050
【LE222】 Content-Based English BⅡ (Global Issues) [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	1051
総合教育科目_視野形成科目 (必修) 【M0320】 スポーツとキャリア形成 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	1052
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択) 【M0570】 女性とスポーツ [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	1053
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択) 【M0760】 スポーツとダイバーシティ [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	1054
専門教育科目_専門基幹科目 【M1030】 衛生学 [笹澤 吉明] 春学期授業/Spring	1055
専門教育科目_専門基幹科目 【M1620】 スポーツトレーニング論Ⅰ [木村 新] 春学期授業/Spring	1056
専門教育科目_専門基幹科目 【M1700】 公衆衛生学 [笹澤 吉明] 秋学期授業/Fall	1057
専門教育科目_専門基幹科目 【M1740】 学校保健 [笹澤 吉明] 春学期授業/Spring	1058
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2040】 アスレティックトレーナー概論 [泉 重樹] 秋学期授業/Fall	1059
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目 【M3210】 スポーツ組織論 [得田 進介] 秋学期授業/Fall	1060
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目 【M4020】 スポーツトレーニング論Ⅱ [木村 新] 秋学期授業/Fall	1061
【N0056】 生命倫理 [渡部 麻衣子] 秋学期授業/Fall	1062
【N0058】 教育学 [藤本 典裕] 秋学期授業/Fall	1063

【N0102】 日本国憲法 [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	1065
【N0114】 社会思想史 [楠 秀樹] 春学期授業/Spring	1066
【N0117】 老年学 [新名 正弥] 秋学期授業/Fall	1068
【N0119】 企業と労働 [澤木 朋子] 春学期授業/Spring	1069
【N0120】 ジェンダー論 [藤田 和美] 秋学期授業/Fall	1070
【N0152】 リハビリテーション概論 [後藤 圭介、酒井 克也、細井 雄一郎] 秋学期授業/Fall	1072
【N1001】 地域問題入門 [野田 岳仁] 春学期授業/Spring	1073
【N1002】 コミュニティマネジメント入門 [水野 雅男、関司 直也、佐野 竜平、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ] 春学期授業/Spring	1074
【N1003】 社会問題論 [大澤 優真] 春学期授業/Spring	1075
【N1050】 福祉国家論 [渡辺 寛人] 秋学期授業/Fall	1076
【N1052】 社会的包摂論 [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	1077
【N1053】 地域計画論 [杉浦 ちなみ] 秋学期授業/Fall	1078
【N1054】 コミュニティビジネス論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	1079
【N1055】 ローカルイノベーション論 [野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall	1080
【N1059】 アジア地域開発論 (2021年度以降入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1081
【N1059】 アジア地域開発論 (2020年度以前入学者) [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1082
【N1101】 社会福祉原理 [岩崎 晋也] 秋学期授業/Fall	1083
【N1102】 医療政策論 [小磯 明] 春学期授業/Spring	1084
【N1107】 都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring	1085
【N1108】 地域文化政策論 [杉浦 ちなみ] 春学期授業/Spring	1086
【N1109】 環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	1087
【N1111】 政策評価論 [倉根 明德] オータムセッション/Autumn Session	1089
【N1113】 地域経済論 [関司 直也] 秋学期授業/Fall	1090
【N1116】 国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1091
【N1117】 Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	1092
【N1151】 地域経営論 [遠藤 聖子] 春学期授業/Spring	1093
【N1152】 ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring	1095
【N1153】 ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring	1096
【N1154】 ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring	1097
【N1155】 NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	1098
【N1156】 協同組合論 [西井 賢悟] 秋学期授業/Fall	1100
【N1158】 居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	1102
【N1159】 災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美] 春学期授業/Spring	1103
【N1160】 人権活動論 [寺中 誠] 春学期授業/Spring	1105
【N1161】 農山村とコミュニティ [関司 直也] 春学期授業/Spring	1106
【N1162】 コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	1107
【N1163】 コミュニティスポーツ [深野 聡] オータムセッション/Autumn Session	1108
【N1164】 地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	1110
【N1165】 地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1111
【N1166】 住民参加の手法 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	1112
【N1170】 地域交通マネジメント論 [吉田 樹] オータムセッション/Autumn Session	1113
【N1171】 ボランティアアクション (2021年度以降入学者) [高井 大輔] 秋学期授業/Fall	1115
【N1171】 ボランティアアクション (2020年度以前入学者) [高井 大輔] 秋学期授業/Fall	1116
【N1172】 Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	1117
【N1202】 ケアワーク論 [奈良 環] 秋学期授業/Fall	1118
【N1208】 セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring	1119
【N1209】 スクールソーシャルワーク [宮地 さつき] 春学期授業/Spring	1120
【N1211】 多文化ソーシャルワーク [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	1121
【N1212】 死生観とソーシャルワーク [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	1122
【N1222】 コミュニティ心理学 [丹羽 郁夫] 春学期授業/Spring	1123
【N1223】 異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring	1124
【N1225】 教育心理学特講 [金山 裕介] 春学期授業/Spring	1126
【N1453】 心理療法 [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	1127
【N1506】 精神分析学 [森 一也] 春学期授業/Spring	1128
【N1507】 児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	1129
【N1508】 認知行動療法 [金築 優] 秋学期授業/Fall	1130

【N1512】 グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	1131
【N5058】 教育学 (SSI) [藤本 典裕] 秋学期授業/Fall	1132
【N5117】 老年学 (SSI) [新名 正弥] 秋学期授業/Fall	1134
【N5120】 女性学 [藤田 和美] 秋学期授業/Fall	1135
【N6002】 まちづくりの思想 [水野 雅男、関司 直也、佐野 竜平、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ] 春 学期授業/Spring	1137
【N6151】 地域経営論 (SSI) [遠藤 聖子] 春学期授業/Spring	1138
【N6155】 NPO論 (SSI) [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	1140
【N6162】 コミュニティアート (SSI) [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall	1142
【N6165】 地域ツーリズム (SSI) [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	1143
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2031】 法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 春 学期授業/Spring	1144
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2032】 法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 秋 学期授業/Fall	1145
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2033】 法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 春 学期授業/Spring	1146
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2034】 法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 秋 学期授業/Fall	1147
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6109】 身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業 /Spring	1148
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6110】 身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業 /Fall	1149
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	1150
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	1153
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業 /Spring	1155
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業 /Fall	1156
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業 /Spring	1157
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業 /Fall	1159
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	1161
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授 業/Fall	1162
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	1163
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	1165
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミ I [神谷 丹路] 春学期授業 /Spring	1166
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミ II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	1167
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クィア・スタディーズA [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	1168
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6132】 クィア・スタディーズB [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	1170
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史A [鶴澤 和彦] 春学期 授業/Spring	1171
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史B [鶴澤 和彦] 秋学期 授業/Fall	1173
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論A [鈴木 麻 由] 春学期授業/Spring	1175
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論B [鈴木 麻 由] 秋学期授業/Fall	1177
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6149】 人間存在論A [森村 修] 春学期授業/Spring	1179
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6150】 人間存在論B [森村 修] 秋学期授業/Fall	1181

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6207】福祉社会論A [小峯 敦] 春学期授業/Spring	1183
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6208】福祉社会論B [服部 あさこ] 春学期授業/Spring	1185
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	1186
【Q6209】人文地理学セミナーA [増淵 敏之] 春学期授業/Spring	1188
【Q6210】人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	1190
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】人文地理学セミナーB [増淵 敏之] 秋学期授業/Fall	1192
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】文化人類学方法論A [菊池 真理] 春学期授業/Spring	1194
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】文化人類学方法論B [菊池 真理] 秋学期授業/Fall	1196
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】教養ゼミⅠ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	1198
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】教養ゼミⅡ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	1199
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】人間行動学A [田中 慎太郎] 春学期授業/Spring	1200
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】人間行動学B [田中 慎太郎] 秋学期授業/Fall	1201
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6219】沖縄を考えるA [中野 勝郎、大里 知子] 春学期授業/Spring	1202
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6220】沖縄を考えるB [中野 勝郎、大里 知子] 秋学期授業/Fall	1203
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	1204
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミⅡ [島野 智之] オータムセッション/Autumn Session	1206
【Q6335】人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	1208
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	1210
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	1212
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想A [大久保 歩] 春学期授業/Spring	1214
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想B [大久保 歩] 秋学期授業/Fall	1215
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A [丸山 達也] 春学期授業/Spring	1216
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	1217
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	1218
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	1219
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術A [林 志津江] 春学期授業/Spring	1221
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	1223
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	1225
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	1227
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	1229
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	1231

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】 スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業 /Spring	1233
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】 スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業 /Fall	1235
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】 スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授業 /Spring	1237
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】 スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業 /Fall	1239
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授業 /Spring	1241
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授業 /Fall	1243
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】 スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業 /Spring	1245
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】 スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授業 /Fall	1246
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】 スポーツ科学A [中澤 史] 春学期授業 /Spring	1247
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】 スポーツ科学B [中澤 史] 秋学期授業 /Fall	1249
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】 スポーツ科学A [魚住 智広] 春学期授業 /Spring	1251
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】 スポーツ科学B [魚住 智広] 秋学期授業 /Fall	1253
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6525】 スポーツ科学A [伊藤 マモル] 春学期授 業/Spring	1255
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6526】 スポーツ科学B [伊藤 マモル] 秋学期授 業/Fall	1257
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業 /Spring	1259
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業 /Fall	1261
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】 教養ゼミⅠ [大中 一彌] サマーセッシ ョン/Summer Session	1263
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】 教養ゼミⅡ [大中 一彌] オータムセッ ション/Autumn Session	1265
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】 時事ロシア語A [小澤 裕之] 春学期授業 /Spring	1267
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】 時事ロシア語B [小澤 裕之] 秋学期授業 /Fall	1268
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R4287】 SDGsで学 ぶドイツ語Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring	1269
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R5279】 時事フラン ス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	1270
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語 (英語・諸外国語)【R5280】 時事フラン ス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	1273
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R5295】 フランス生活文化論 LA [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring	1276
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R5296】 フランス生活文化論 LB [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall	1278

LAW300AB（法学 / law 300）

国際社会と憲法Ⅱ

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を発展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】

日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。

受講者数によりですが、時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の発展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。

第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。
第14回	東アジアにおける日本・日本法	戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中国や韓国の憲法条文を参照するために：

初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集』第5版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください（図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのも結構です）。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】

尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』（日本評論社、2020年）、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009年）、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010年）、等。

【成績評価の方法と基準】

時々出してもらうアクションペーパーをもって平常点とし、平常点30％と学期末の筆記試験70％によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】

〈Course Outline〉

This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.

〈Learning Objectives〉

By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are expected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.

〈Learning activities outside of classroom〉

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

〈Grading Criteria〉

Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW300AB（法学 / law 300）

環境法

吉岡 郁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法に関する2単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の法体系や基本原理の理解に講義の重点を置くことにしたい。

本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】

Ⅰ 知識面

①受講者が、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことを通じ、憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとするができる、あるいは、これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる講義を目指す。

②さらに進んで、受講者が、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が取得できる講義を目指す。

Ⅱ 能力面

①受講者が、法律文献を正確に読解できる力を身に付けることを目指す。併せて、受講者が、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる能力を身に付けることを目指す。

②受講者が、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことのできる能力を身に付けることを目指す。

③受講者が、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも取り組む積極的な姿勢を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

通常の講義形式(全面対面方式)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要・成績評価の方法、調査研究の方法
第2回	環境法の歴史、法体系の展開	公害法の生成、公害対策基本法、公害・環境訴訟の展開
第3回	現行の環境法体系	地球環境問題、環境基本法、原子力法制の環境法への組み込み等 環境法の特徴 環境法の諸原則
第4回	環境組織法 1	主要な環境法令における組織体制 地方分権と環境法
第5回	環境組織法 2	公私協働 グローバル化の影響
第6回	環境作用法 1	手続・計画的手法 規制的手法

第7回	環境作用法 2	誘導的手法 合意的手法 事後的な措置
第8回	事例研究	環境法が運用されている事例を知る
第9回	環境救済法	行政訴訟を中心に、環境問題と訴訟の関係について紹介する
第10回	環境法と食品法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第11回	環境法とエネルギー法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第12回	環境法と文化法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第13回	環境法と都市法	環境法と関連個別法分野の関係を中心に、組織・作用・救済を考える
第14回	まとめ・確認レポート	授業内容を総括し、確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。

○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べることが望まれる。

○本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。学習支援システムに事前に資料をアップする。教室においては配布しない。

【参考書】

（図書館等において、参照し活用すること）

大塚直『環境法BASIC（第4版）』（有斐閣、2023年） 5,060円

大塚直『環境法〔第4版〕』（有斐閣、2020年） 5,280円

北村喜宣『環境法〔第6版〕』（弘文堂、2023年） 4,620円

【成績評価の方法と基準】

14回目に授業内容の確認を行う。特に授業内容で関心を持ったテーマについて、好きな文献を参照しながら論じてもらう（70％）。各回の最後あるいは途中で課題を出すことがある（40％）。問題の理解度、文章技術を問う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器(無線LANの接続が可能なPC、スマートフォン等)を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture is a two-credit course and deals with an overview of environmental law.

【Learning Objectives】 The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.

【Learning activities outside of classroom】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】 I. End-of-term classroom exam (70%) . II. Submission of reaction papers (40%).

LAW300AB（法学 / law 300）

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪質商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者法とは何か①	消費者法とは何か。消費者基本法。教科書 Unit1
第2回	消費者法とは何か②	消費者・事業者概念。教科書 Unit2
第3回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失。教科書 Unit3
第4回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺。教科書 Unit4

第5回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法4条など。教科書 Unit5
第6回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法4条など。教科書 Unit6
第7回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引。教科書 Unit7
第8回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その1	民法による不当条項規制、約款論。教科書 Unit8
第9回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その2	消費者契約法8条～10条。教科書 Unit9
第10回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要。教科書 Unit11
第11回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、通信販売規制、過量販売規制など。教科書 Unit12
第12回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続。教科書 Unit13
第13回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	クレジットカードの不正利用、預金トラブル。教科書 Unit14
第14回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法役割。教科書 Unit15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法（第2版）』（商事法務、2025年）
 このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第6版）』（日本評論社、2026年）
 河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第2版）』（有斐閣、2020年）
 松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017年）
 大村敦志『消費者法（第4版）』（有斐閣、2011年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を100%とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの記述が詳細なので、レジュメの内容や授業ではもう少しかみ砕いた説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。
 ・学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

- ・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。
- ・2026年度は「消費者法Ⅰ」を開講する。「消費者法Ⅱ」は2027年度に開講する予定である。
- ・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDGsの観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法 I

松田 浩道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。

それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は大別して、以下の3つの要素からなります。

- 1) 教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
 - 2) 教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
 - 3) 学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する
- 毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する。
2	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
3	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
4	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする

5	子どもの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第1章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
6	高齢者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第2章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
7	障害者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第3章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
8	ジェンダーに基づく暴力とハラスメント	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第4章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
9	「慰安婦」問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第5章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
10	性的マイノリティ / LGBTQの権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第6章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
11	部落差別問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第7章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
12	先住民族の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第8章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
13	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5

小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】

教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 20%
グループ・プレゼンテーション 40%
期末試験（教科書持ち込み可）40%
リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。
グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に回答しているか、という点を評価対象とする。
期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目

【Outline (in English)】

This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.

Participants are expected, at the end of this module, to be able to;

- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.

Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW300AB（法学 / law 300）

国際人権法Ⅱ

松田 浩道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権法Iに引き続き、国際人権法の歴史や各人権条約の仕組み、それらの国内適用にあたっての憲法上の課題を考えることを通して、基本的人権とは何か、基本的人権を守るためにいかなる制度が用意され、どのように機能し、国内法の下でどのように適用されているのかを理解する。

それを基礎として、受講者が関心を持つ様々な人権問題が、国際人権法上どのように扱われているのかを調査し、どのような権利の主張・擁護の方法があり得るのかを考え、自分の考えをアウトプットできるようになることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際法規範と憲法に関する理論的枠組みを理解する。
2. 国際人権法に関する多様な各論的トピックについて一次文献を調べ、自らの意見を論理立てて発表する。
3. 以上を踏まえ、多様な国際人権規範を用いた法的主張を組み立てられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は大別して、以下の3つの要素からなります。

- 1) 教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張について、理論的な理解を深める
- 2) 教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いて、さまざまな各論的トピックについてグループ・プレゼンテーション・ディスカッションを行う
- 3) 学期末に期末試験（教科書持ち込み可）を行い、総合的な理解を確認する

毎回の授業では、リアクションペーパーの提出を必須とします。プレゼンテーションに対するフィードバックは、授業中に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入（授業の内容と進め方・評価方法に関する説明を含む）	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や方法を概観する
第2回	国際法規範を用いた法的主張 / 国際人権法の基礎知識の確認	教科書『国際法と憲法秩序』を用いて、国際法規範を用いた法的主張の概要を理解する / 教科書『アクティブラーニング国際人権法』序章を用いて、国際人権法の基礎知識を確認する
第3回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（1）	教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする
第4回	教科書『アクティブラーニング国際人権法』・グループ分け、発表準備（2）	前回に引き続き、教科書『アクティブラーニング国際人権法』を用いたグループプレゼンテーション、ディスカッションの準備をする

第5回	外国人の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第9章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第6回	難民と庇護希望者の権利	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第10章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第7回	ヘイトスピーチ・ヘイトクライム問題	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第11章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第8回	刑事手続の人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第12章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第9回	ビジネスと人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第13章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第10回	感染症と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第14章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第11回	環境と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第15章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第12回	平和と人権	教科書『アクティブラーニング国際人権法』第16章に基づき、グループプレゼンテーション、ディスカッションを行う
第13回	判例研究	国際人権法に関する最新の国内判例を用いてディスカッションを行う
第14回	期末試験・まとめと解説	期末試験（教科書持ち込み可能）を通じて、総合的な理解を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み、疑問点を整理しておく。プレゼンテーションの際は、教科書で紹介されている文献を中心に、一次資料を調べてしっかりと読み込んでおく。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松田浩道『国際法と憲法秩序』（東京大学出版会、2020）ISBN978-4-13-036154-5

小坂田裕子ほか編集『アクティブラーニング国際人権法』（法律文化社、2025）ISBN978-4-589-04434-1

【参考書】

教科書に引用されているもののほか、授業のなかで詳しく紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 20%

グループ・プレゼンテーション 40%

期末試験（教科書持ち込み可）40%

リアクション・ペーパーは、「critical thinkingを働かせ、自分の意見を論理的に表現しているか」という観点から、質および枚数の双方を総合考慮する。

グループ・プレゼンテーションは、教科書で紹介された文献を中心に、一次資料を調べ、読み込んでいるか、問いに対して明確に回答しているか、という点を評価対象とする。

期末試験は、授業で学んだことを踏まえ、国際法規範を用いた法的主張をみずから組み立てることができるか、確認する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目

【Outline (in English)】

This module aims to provide participants with basic understanding on international human rights law, including a concept of human rights, international mechanisms for human rights protection. It is expected that participants discuss on contemporary global and international affairs based on a comprehensive understanding on human rights.

Participants are expected, at the end of this module, to be able to;

- understand what human rights are, including their historical and philosophical backgrounds, legal basis and contemporary debate on them;
- understand how and by what international mechanisms in both world and regional levels, human rights are protected and promoted; and
- be involved in a debate on contemporary global and international affairs from a viewpoint of human rights.

Learning outcome of participants will be assessed on the basis of the end-of-term essay, in which a survey on international legal materials provided by the database of the UN human rights institutions, and discuss a human rights issue from a legal point of view.

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱い
ため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面すること
になります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく
生きられようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱いま
す。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継
続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
 - ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
 - ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる
- 〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目で
す。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得でき
ていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修でき
ません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職
場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習す
る習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に
関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、都合により一部オンラ
インに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示
することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画
の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。
確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを
予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／ 労働法と紛争解決
第2回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舍 規定
第3回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労 働組合・過半数代表者／労働法 の法源

第4回	労働契約規制（1）	本体的権利義務／使用者の付随 義務
第5回	労働契約規制（2）	労働者の付随義務
第6回	労働契約規制（3）	労働基準法上の規制／国際的労 働契約
第7回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定） ／試用期間
第8回	労働契約の終了（1）	合意解約と辞職／定年／解雇制 限
第9回	労働契約の終了（2）	解雇権濫用法理
第10回	懲戒	懲戒処分の種類／根拠と限界
第11回	労働条件の決定（1）	労働契約・労使慣行／就業規則
第12回	労働条件の決定（2）	就業規則と労働契約法
第13回	労働条件の決定（3）	就業規則の不利益変更
第14回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [予習]（1時間程度）
 - ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
 - ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
 - ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み
直しましょう。
- [復習]（3時間程度）
 - ・LMS上の小テストを解きましょう。
 - ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
 - ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii)
裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールを
どう使ったのか、説明してみましょう。
 - ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労
働法』（エイデル研究所 2020年）
大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のた
めに中間レポート、期末テストを、それぞれ実施します。
[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定
着度を測る）
[中間レポート] 2割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組み
を説明できるかを測る）
[期末テスト] 5割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを
説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料については比較的评价が高かったので継続して利用します。
中間レポートに対するフィードバックはより素早く行えるように準
備します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

- [関連科目]
 - ・労働基準法との連続履修を強く勧めます。
 - ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権
総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法などの基礎的知識があるこ
とが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講
義を履修して構いません）
- [授業を受ける姿勢]
 - ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけ
てください。
 - ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ
持ち込みを認めます。
 - ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な
条文を探せるようにしておくこと。
 - ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求め
れます。
 - ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、連続して受講することを強く推奨します。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の3点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

〈注意〉この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面での講義を予定しています。ただし、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働契約法の復習／労働基準法の全体像
第2回	賃金（1）	賃金総論／最低法賃金／賃金支払いの4原則
第3回	賃金（2）	賞与／退職金／休業手当

第4回	賃金（3）	賃金債権の確保／休業手当／解雇と賃金
第5回	労働時間（1）	労働時間の定義／休憩・休日
第6回	労働時間（2）	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第7回	労働時間（3）	弾力的労働時間制度／裁量労働制／労働時間法制の適用除外
第8回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第9回	人事制度（1）	配転／出向、転籍
第10回	人事制度（2）	昇進・降職／昇格・降格／人事考課
第11回	企業組織再編	合併／事業譲渡／企業分割
第12回	労災（1）	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険
第13回	労災（2）	過労死・過労自殺／労災民訴
第14回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の該当箇所にさかのぼって教科書を読み直しましょう。

〔復習〕（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

授業資料についてはおおむね良好な評価を得ているので、引きつづき利用を継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働法総論・労働契約法との連続履修を強く勧めます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

〔授業を受ける姿勢〕

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書・六法のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB（法学 / law 200）

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H-N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008年3月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または秋学期の「労働基準法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（4月7日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、労働法とは？	講義内容や評価方法について 労働法の全体像について
第2回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第3回	労働関係のプレイヤ（1）	労働者について
第4回	労働関係のプレイヤ（2）	使用者について

第5回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第6回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第7回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について
第8回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第9回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第10回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第11回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第12回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第13回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第14回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

- ＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
- ＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
- ＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）
- （分担執筆）「労働者派遣と法」（日本評論社）

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、) 2026年)

「労働契約申込みなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB（法学 / law 200）

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位
備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律3～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

◆注意◆この科目は労働法科目（社会法科目）の「選択必修」科目です。この授業か、または春学期の「労働法総論・労働契約法」の単位を取得できていない場合、3年生以降、火曜4限に開講されるゼミが履修できません。ご注意ください。◆注意◆

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
- ・本講義は、対面授業とします。
- ・授業の進め方の説明については、第1回目のガイダンス（9月22日（火））で行います。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進めます。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後・オフィスアワー・電子メールにて対応し、その場でフィードバックします。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守らせるための手段について 均等待遇原則、強制労働の禁止について
第2回	労働者の人権	

第3回	労働者のプライバシー	個人情報保護法の労働関係への適用と労働者のプライバシーの尊重について
第4回	賃金（1）	賃金の定義、最低賃金規制について
第5回	賃金（2）	賃金支払規制について
第6回	賃金（3）	休業手当、賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第7回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第8回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第9回	労働時間規制（3）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制の残りの論点について
第10回	フレキシブルな労働時間制度	労働時間制・フレックスタイム制について
第11回	みなし労働時間制について	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第12回	労働時間規制の適用場外について	労働基準法41条及び同法41条の2の例外について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）
・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
Web小テスト（20点）
・講義ごとに実施するWeb小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・レジュメ等のPDFデータを利用する場合は、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

シラバスの内容を変更し、実務家の方による講演を実施することがあります。

【専門領域と研究業績】

＜専門領域＞ 社会法（社会保障法・労働法）
＜研究テーマ＞ 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
＜主要研究業績＞

【主な著書】

- （編著）「社会法をとりまく環境の変化と課題」（旬報社）
- （編著）「労働法における最高裁判例の再検討」（旬報社）
- （分担執筆）（共著）「日本女性差別事件資料集成19 第7巻」（すいれん舎）
- （分担執筆）「クラウドワークの進展と社会法の近未来」（労働開発研究会）
- （分担執筆）「ニューレクチャー労働法〔第3版〕」（成文堂）
- （編著）「ファーストステップ労働法」（エイデル研究所）
- （分担執筆）「講座労働法の再生第3巻 労働条件論の課題」（日本評論社）

(分担執筆)「労働者派遣と法」(日本評論社)

【主な論文】

「派遣労働者の均等・均衡処遇—労使委員会方式における過半数代表・派遣労働者個人への情報提供を中心にして」(労働法律旬報2095+2096号、2026年)

「労働契約申込みみなしにより成立した派遣先の労働契約と雇止め法理の適用」(労働法律旬報2078号、2025年)

「労働委員会の裁量と損害賠償的救済命令の可能性」労働法律旬報(2071+2072号、2025年)

「フリーランス新法はフリーランスの需要を満たすものか」(労働法律旬報2035号、2023年)

「デジタルプラットフォームを介して就労している『配達パートナー』の労働組合法上の労働者該当性」(労働法律旬報2026号、2023年)

「就労形態の多様化と労働者・被用者概念の変容」(年金と経済41巻4号、2023年)

「デジタルプラットフォームとワーカーの社会法上の保護」(季刊労働者の権利349号、2023年)

「プラットフォームワーカーの自由と保障—『新しい働き方』のため、社会が準備すべきこと」(世界960号、2022年)

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB（法学 / law 300）

労働組合法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱い。ため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働組合法では、労働法のうち、集団的労働法に関する基礎的部分を扱います。労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。

この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる

【到達目標】

- ①集団的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②集団的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働組合法総論	・労働組合法の意義/目的 ・憲法28条の規範的意義と法的効果 ・労働組合法上の労働者・使用者
第2回	公務労働と団結権保障	・憲法28条の効果 ・公務員法制
第3回	不当労働行為（1）	・行政救済の特徴 ・救済の名宛人
第4回	不当労働行為（2）	・不利益取扱い ・支配介入
第5回	団結権（1）	・労働組合の組織的類型 ・法内組合
第6回	団結権（2）	・ユニオン・ショップ協定 ・統制処分
第7回	団体行動権（1）	・団体行動の類型 ・団体行動の正当性（主体、目的）
第8回	団体行動権（2）	・団体行動の正当性（態様）

第9回	団体行動権（3）	・団体行動と賃金 ・使用者側の対抗手段 ・損害賠償責任
第10回	映像で学ぶ労働法	・期末テストに向けて ・映像で学ぶ労働法
第11回	団体交渉権（1）	・交渉類型 ・団体交渉の相手方、当事者 ・団交応諾義務
第12回	団体交渉権（2）	・誠実交渉義務 ・中立保持義務
第13回	労働協約（1）	・労働協約の規範的効力・債務的効力
第14回	労働協約（2）	・労働協約の不利益変更

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

〔予習〕（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおしましょう（オンライン授業時）。
- 〔復習〕（3時間程度）
- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどういうルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

三井正信『基本労働法III』（成文堂、2014年）

大木正俊ほか『労働法判例50！（Start Up）』（有斐閣、2025年）

【参考書】

- ①藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）
- ②西谷敏『労働組合法（第3版）』有斐閣（2012年）
- ③日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2026年版）』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・〔小テスト〕3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・〔期末テスト〕7割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

教材については好評でしたので継続します

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

- ・労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。また、労働法特論、社会政策論との並行履修を強くすすめます。
- ・本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識が必要です（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）。
- 〔授業を受ける姿勢〕
- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・六法／法令集は授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
- ・授業中の感染症予防のため、マスク着用を推奨します（義務ではありません）。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers are less powerful than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a field of law that prevents these difficulties and imposes various regulations so that people can live like human beings.

Labor Union Law deals with the basic part of labor law that relates to collective labor law. It is desirable for students to have taken General Labor Law, Labor Contract Law, and Labor Standards Law.

Learning Objectives

(1) Acquire basic knowledge of collective labor laws.

(2) To be able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with collective labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

[Quiz] 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

[Final exam] 70% (to determine whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions and case study questions).

LAW300AB（法学 / law 300）

労働法特論

細川 良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域における基本的な制度の概要、およびそこで生じている法的な議論や紛争の論点がどのようなものであるかについて理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域における制度の詳細や、関連する政策についての歴史的な変遷、およびそこで生じている法的な議論における一般的・通説的な理解を把握し、基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域における制度、関連する政策をめぐって生じている法的な議論状況を整理し、関連する裁判例を理解し、事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認してください※

・本講義は、対面授業とします。

※状況によって、オンライン授業またはハイフレックス授業を併用する場合があります。オンライン授業またはハイフレックス授業となった場合は、ZoomまたはWebexを使用します。

・授業の進め方の説明に関しては、第1回の講義の中でガイダンスを実施します。シラバス執筆時点（2026年2月）では、第1回授業も対面でガイダンス&通常講義を実施することを考えていますが、状況により初回はオンデマンドでガイダンスの動画を配信する形に変更する可能性があります。学習支援システム「HOPPII」等を通じたお知らせで確認するようにしてください。

・授業計画に記されている予定は、あくまでも「予定」です。変更が生じることがあり得ることに留意してください。

・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める予定です。

・授業に関する質問等については、原則として、授業終了後に対応し、その場でフィードバックします。学習支援システムを通じた質問については、全てに対応できない場合や、複数の同趣旨の質問に対して、まとめて解答する場合があります。個別に確実に対応がほしい場合は、授業終了後の時間を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカatalogについて学習する。
第3回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人労働	外国人労働者の就労と関連する法制度、法政策について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に教科書等で予習のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ・授業時間中における進行速度などによっては、講義内容を補完するための動画を配信し、視聴してもらう場合があります。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）
- ※その他、労働法を学習するための基本的な文献については、初回の講義で解説します。また、各回の授業内容に関連する文献や論文等を適宜紹介したいと思います。

【成績評価の方法と基準】

試験（100点）

- ・期末試験として1回実施。択一式問題、説明問題、論述形式の問題（事例問題）を組み合わせで出題する予定です。変更がある場合には、授業時間中に説明します。
- ・単位認定の基準は、本講義において求められる最低限の到達目標がクリアできているか否かで判断します。そのうえで、成績評価の基準としては、講義内容の全体にわたっての理解度、およびより深い内容の理解ができているか（より高い到達目標に達しているか）によって振り分けられることになります。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。ただし、授業実施期間中でも指摘があれば（できる限りとはなりますが）対応していきたいとは考えていますので、遠慮なく要望等をお寄せください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomないしWebexを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供することを想定しているため、データを保存・表示可能な端末があることが望ましいです（履修者が常識的な範囲であれば、紙媒体でのレジュメ配布も想定しています）。

【その他の重要事項】

- ・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。
- ・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

【実務経験のある教員による授業】

講義担当者は、厚生労働省所管のシンクタンク（独立行政法人 労働政策研究・研修機構）で研究員として勤務しており、労働政策立案に関する調査・研究および厚労省における委員会・検討会での報告、政策立案担当者に対するレクチャーなどに従事していました。本講義においても、こうした経験を生かして、法制度の立法および運用に関する背景や経緯についても解説したいと思います。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明をしたあと、授業が対象とする都市とは何か、そして都市の成り立ちについて概観する。
第2回	工業化の進展と都市	工業化の進展とともに都市空間の在り方が変化し、また発生する課題への対応により近代都市計画の発生する経緯を概観する。
第3回	商業と都市空間	都市における経済活動が都市空間に与えた影響について概観する。
第4回	都市の住まい	都市住民の生活の器としての住宅が都市形成に与える影響、またセーフティネットとしての住宅を担保する住宅政策について概観する。
第5回	都市の防災	異常な自然現象などによって都市における活動や人名に被害を与える災害への対応などについて概観する。
第6回	都市の環境	私を取り巻く都市の環境問題、それらに対応するについて概観する。
第7回	都市計画概論	国土計画における都市計画、都市計画法の枠組みを概観する。

第8回	都市の基本計画	都市の将来の姿を共有し、実現のための都市計画の手段を表現した都市計画マスタープランを概観する。
第9回	土地利用規制	都市計画の実現手法の一つである土地利用規制（ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法））について概観する。
第10回	開発許可制度	現在の都市計画法制定の背景となった経済成長期の開発の問題とそれを踏まえた開発許可制度の導入について概観する。
第11回	市街地開発事業	都市空間における面的整備を行う手法である市街地開発事業の種類、また代表的な手法である土地地区画整理事業、市街地再開発事業について概観する。
第12回	都市施設	都市生活を支える機能を持つ都市施設、その代表的な施設である道路のあり方について概観する。
第13回	人口減少化の都市計画	人口減少社会における都市再生施策とコンパクトシティについて概観する。
第14回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスとそれに対する市民参加について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（70%）、「②レポート課題（2回）」の合計点（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに出席する課題」の評価（5段階）は下記になる。
 5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
 4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
 3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
 0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- 「②レポート課題」（2回）について
 ・出題は、説明用動画を用いて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
 ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
 ・評価（5段階）は下記とする。
 5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
 4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
 3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
 2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
 ※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること（動画のリンク先は、学習支援システムで連絡するので、必ず仮登録をすること）。

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、地域の課題解決や資源を活用した価値創造を目的とした地域住民、企業、行政等による取り組み（まちづくり）を対象とする。特に近講義では、地域住民等が主体的に関わる取り組みを中心として、各テーマごとに背景、関連する制度、具体的な取り組みなどを概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市において表出している課題の存在とその背景となる構造を認識できること
- 2) まちづくりが多様な主体の協働によって行われることを理解し、各主体の役割について理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・原則、対面方式で実施する（ただし、授業計画に示した授業回はオンライン方式で行う）。
- ・授業資料は、授業前日（月曜日中）までに学習支援システムにアップロードする（印刷配布をしない）。
- ・受講者は、授業終了当日（火曜日）中（締切：23時59分）までに講義課題を提出する（ただし、第1回のみは翌週締切とする）。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業が対象とする「まちづくり」とは何かについて問題提起する。
第2回	地域防災	想定されている災害に備えた地域社会の取り組み等について理解する。
第3回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第4回	地域福祉	人口減少、少子・高齢化が進行する中で安心して生活できる社会をつくるために地域社会で取り組み取り組みについて理解する。
第5回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する。
第6回	公共施設マネジメント	人口減少、超高齢社会を進行し、かつ成長期に作られた公共施設が老朽化した中での公共施設のあり方、それへの対応について理解する。
第7回	ミクロの都市計画	地域環境の課題解決や価値の創造のために行う土地利用規制や施設整備などの都市計画（地区計画等）の仕組みを理解する。

第8回	都市における建物ストックの活用	人口減少等に伴う発生している空き家や空き店舗などの建物ストックの増加を予防したり、地域のために活用したりする取り組みを理解する。
第9回	郊外住宅地の再生	人口増加期に都市周辺に拡大した郊外住宅地の課題やそれに対する取り組みについて理解する。
第10回	歴史的町並みの保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第11回	景観形成とまちづくり	都市の魅力を高める街並みづくり、景観形成について理解する。
第12回	観光施策と都市	都市における経済効果が期待される観光の取組とそれによる都市への影響について理解する。
第13回	公共空間の利活用	まちなかの賑わい創出等を目的とした公共空間利活用に関する取り組みについて理解する。
第14回	地域を運営する仕組み	社会状況の変化、施設の老朽化等に伴う、公共施設の在り方の変化について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、スライド資料を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- 「②レポート課題（2回）」の合計点（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②（2回のレポートのいずれか）の未提出がある場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- 「①授業ごとに課題する課題」の評価（5段階）は下記になる。
5：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
4：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
3：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
0：未提出、締切期限以降の提出（※提出締切時間は厳守すること、締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- 「②レポート課題」（2回）について
・出題は、説明用動画をういて行う、出題時には学習支援システムを通じて連絡をする。
- ・提出は、学習支援システムを通じて行う。
- ・評価（5段階）は下記とする。
5：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
4：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
3：レポートの課題主旨が理解できていない内容である。
2：指定されたファイル形式以外で提出などの不備がある。または評価不能な内容である。
※締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、基本的には対面方式で実施するが、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。また、一部回では、オンデマンド教材で実施する。上記に対応するためのインターネット環境が必要になる。

【その他の重要事項】

- ・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
- ・受講に関する注意事項については、学習支援システムの冒頭に記載し、第1回授業動画の中で説明するので必ず視聴すること。
- ・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the existence of challenges in cities and the structures that contribute to them.

B.Understand that machizukuri is carried out through the collaboration of a variety of actors, and be able to understand the role of each actor.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

国際協力講座

木内 真理子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

- ・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
- ・国際協力分野の実態と課題について知る。
- ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。
ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構(JICA)の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答

第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田満ほか編著『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）明石書店、2023年
- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
- ・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして わたしのSDGsへの取り組み』国際書院、2018年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書、2016年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

質疑応答への積極的な参加などの平常点（30%）、課題の提出状況と内容（70%）から総合的に判断する。
＊遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
＊4回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は、政府開発援助(ODA)とNGOの双方で開発支援事業を、NGOでは組織経営を経験した実務者です。これらの現場経験を踏まえて講義を進めます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞開発経済学、開発社会学、国際協力、NPO/NGOマネジメント

【Outline (in English)】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL300AD（政治学 / Politics 300）

国際機構論 I

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、国際政治学や国際関係論、あるいは国際法についての基本的な知識を活用しながら、国際社会が組織化したプロセスを検討することによって、現代の国際社会の姿をより正確に理解することを目的とする。国連およびその他の国際組織が、国際社会の秩序を維持・回復するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのかについて、また、どのような課題に直面しているのかについて、理論と実践例から検討する。

【到達目標】

- ①時代とともに変容してきた国際機構の役割・機能について理解できるようにする。
- ②国際連合による国際の平和と安全維持への活動と課題について、理論と実践例から理解できるようにする。
- ③地球規模の問題を解決するために協働して取り組む多様なアクター（国家、地域・国際機関、市民社会など）について理解できるようにする。
- ④国際社会が直面する問題についての問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めるが、議論の場ももつ。毎回授業後に課題の提出を求める。課題に対するコメントは個別にフィードバックするとともに、質問については、次の授業の冒頭に全体に向けて質問内容を共有しながら回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際機構論をどのように学ぶのか？
2	国際機構とは？	国際機構小史
3	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽①	国際機構の創設と国家の関係
4	近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽②	「共通利益」認識の出現
5	国際連盟と国際連合①	国際連盟設立の経緯・役割・機能
6	国際連盟と国際連合②	国際連合設立の経緯・役割・機能
7	現代の国際社会における国際機構	グローバル・ガバナンスと国際機構
8	国際機構の活動①	同盟と集団安全保障
9	国際機構の活動②	平和への活動
10	国際機構の活動③	植民地独立と開発援助
11	国際機構の活動④	福祉と人権
12	国際機構の活動⑤	国際機構と法
13	変容する国際秩序と国際機構	国際機構の限界と問題点、課題
14	国際機構と国際機構論の課題	まとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出席する前にテキストの関連箇所を熟読し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。授業の予習・復習時間は各2時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

山田哲也『国際機構論入門』第2版（東京大学出版会、2023年）

【参考書】

石田淳ほか編著『国際平和論：脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）

山田満ほか編著『新しい国際協力論：グローバル・イシューに立ち向かう』第3版（明石書店、2023年）

その他、授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回授業後に提出する課題40%、期末試験60%のウェイトで成績評価を行う。「聴いて、書いて、考える」姿勢で授業に臨むこと。なお、毎回、出席と課題の提出をセットとして評価する。授業開始20分以降の入室は欠席とみなす。また、欠席した学生による課題の提出は認めない。4回以上欠席した学生（つまり4回以上課題の未提出者）は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上で配布する資料にアクセスしておくこと。

【その他の重要事項】

「国際機構論II」は2027年度秋学期に開講予定。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

最近の主な著書として、『『ルールに基づく国際秩序』の妥当性：修正か強化か？』『グローバル・ガバナンス』第11号（2025年3月）、『国際平和論』（有斐閣、2024年）、「主権国家体制と国連：グローバル化の潮流の中で』『国連研究』第25号（2024年6月）、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（明石書店、2023年）、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁』『国連の金融制裁』（東信堂、2018年）、Peacebuiding in Southeast Asia (Springer, 2024), COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2023)," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020) などがある。執筆した主な教科書として、『入門国際政治経済学』（法律文化社、2026年）、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）などがある。

【Outline (in English)】

This course aims to foster a deeper understanding of the contemporary international community. It examines the historical and institutional processes through which the international community has been formed and organized, drawing on fundamental knowledge of international politics, international relations, and international law.

And this course examines how the United Nations and other international organizations have functioned in maintaining and restoring order in the international community, using both theoretical perspectives and practical examples. It also analyzes the contemporary challenges faced by these organizations.

POL200AC (政治学 / Politics 200)

協同組合論

杉崎 和久、上山 紀子、小林 幸治

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合やNPO等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困・格差の是正や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は2012年を「国際協同組合年」として2013年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げ、さらに2025年を2回目の「国際協同組合年」とし、2025年12月15日の国連総会で10年ごとに国際協同組合年（IYC）を設けることが決議されました。

一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、少子化と労働者人口が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化しています。こうした問題に市場や政府・行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で2020年12月「労働者協同組合法」が成立し、協同組合運動は新しい段階を迎えています。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待が寄せられているのか、もう一つの世界は可能か―協同組合と社会的連帯経済、つながりの再構築・拡大・強化の実践、といった点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的・社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の研究者および実践者による講義を行います。

講座のポイントとして、「協同組合・生協」と「生活クラブ（運動）」の理解と共感を育み、生活クラブがすすめてきた各種事業活動の紹介を通じて伝えます。特に、協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向や制度、組織・仕組みをはじめ、生活クラブ生協・東京を中心にした生活クラブ運動グループの取り組みを、「協同」、「共同」、「協働」の視点から多くの組合員や市民、生産者、関連団体、地域、自治体などと連携・協力のもとにすすめている点などをふまえた内容とします。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心にした日本の協同組合やNPO等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合やNPO等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問等について、学習支援システムを通じて、適宜回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び協同組合の動向	協同組合の歴史的経緯、国連・諸外国等の動向、国内の協同組合や生活クラブ及び運動グループによる運動・取り組み（FEC-W、ローカルSDGs、など）、社会的連帯経済や国際協同組合年の国内での動向などの概要を紹介し、次回以降の講座の道しるべとします。
第2回	非営利活動と協同組合	協同組合法制の概要、NPO法（組織）をはじめとする非営利組織や労働者協同組合の制度や組織、諸外国との違いなどを中心にして「協同」の理念や政策・制度の動向などを紹介します。
第3回	生活クラブの消費材（づくり）と共同購入	生活クラブの運動と事業の根幹をなす「F（フード）自給への挑戦」の取り組みの背景（食を取り巻く課題）と現在を、組合員参加のもとにすすめる「消費材づくり」と「共同購入」の仕組みなどを中心に紹介します。
第4回	地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～	日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きく、日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりの取り組み、協同組合の役割などを紹介します。
第5回	協同（共同）でつなぐ都市農業・福祉・教育	生活クラブは、都市農業の保全、育成、強化を柱の一つとしてきました。2016年度から開始しました、「生活クラブ農園・あきるの野」の実践の意義や成果、都市農業が抱える課題などを紹介します。
第6回	協同でつくるエネルギー～エネルギー共同購入の試み	気候危機が地球規模での課題となっていますが、日本の施策は大幅に遅れています。「再生可能エネルギー」の開発と供給の実践、発電施設地域との交流と社会貢献など、生活クラブのエネルギー自給の取り組みや課題、今後の展望などを紹介します。
第7回	協同（共同）ですすめる地域福祉	協同組合型の市民事業として、地域福祉の推進と地域社会づくりをめざす、アビリティクラブたすけあい（ACT）の活動を中心に、誰もが尊厳をもって、住み慣れた地域で暮らしつつけるための、課題を共有します。また、市民版地域福祉計画を作る中で、地域の仕組みの確立をめざす取り組みなどを紹介します。

第8回	協同組合と子育て支援	平岡晴子 生活クラブ社会的連帯経済ネットワーク機構 ・・・ ・・・ワーカーズまちの縁がわ・・・ 「個人化」時代の中、生活クラブ及び生活クラブ運動グループが取組む地域活動として、子どもを中心にした多世代の「居場所づくり」と福祉事業・活動とのつながり、その促進のための助成のしくみ、実践事例などを紹介します。
第9回	協同（共同）でつくる地域のかたちづくり	次の時代を担う人を育む子育て支援事業は、サステナブルな社会を目指す取組みの一つです。「子育て・子育て」の取組などとおして次世代・将来世代の子どもたちやその家族を社会がどのように支えるのかなど、生活クラブ保育園ばむと子育て広場ぶらんこの実践などを紹介します。
第10回	ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合「協同労働」の実践	地域の社会的なニーズに対応して、市民相互の助け合い・支えあいを基本にした様々な事業活動を展開するワーカーズ・コレクティブとは何か、その働き方や実践事例などを紹介します。
第11回	「協同労働」とコミュニティワーク	人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）とデポワワーカーズなどによるコミュニティワークの実践の社会的な意義を紹介し、地域で働く地域（まち）づくりの担い手の取組みや働き方、共同・協同の仕組みなどを紹介します。
第12回	市民・組合員のお金の使い道・使い方	「草の根市民基金・ぐらん」など、資金助成による市民活動への支援や資金循環の流れや協同組合の役割などや「中間支援」の取組みによる地域社会づくり・市民セクターの強化の必要性などを紹介します。
第13回	協同の力で自治体政策をつくり・変える	地域づくりのためには自治体政策への関与、自治体との関係づくりが必要です。生活クラブ運動グループ政策担当、政策委員会、東京政策推進会議などの取組みから、地域づくりに必要な自治体政策づくりとその実現に向けた活動（政策提案運動）、「市民政治」活動の必要性、自治体議会への参加の取組みなどを紹介します。
第14回	協同組合で働く	講座全体の振り返りを通じて、非営利・協同組合（セクター）の今日的なミッションと意義について理解を深めます。また、そのミッションへの取組みとして、生活クラブが多様な働き方を推し進める可能性を紹介しまとめとします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

・評価は、「①授業ごとに出席する課題（14回）」の合計（84%）、「②レポート課題」（16%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・なお、①の提出回数が9回未満（全14回のうち）、または②が未提出である場合には成績評価をしない（E評価とする）。

・①は各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。

・なお、小レポートの評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量（リアクションペーパーの7割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。

C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on reports at each class.

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学 1（伝統宗教） 1

松本 カ

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木3/Thu.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学の準備として、三大宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）を学ぶ。

【到達目標】

学生は、この授業を通して、宗教についての基本的な知識を獲得し、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	宗教学を学ぶために、予備作業としての宗教の知識を獲得する。
第2回	仏教①	仏陀について
第3回	仏教②	仏陀の教えについて
第4回	仏教③	仏教が目指したもの
第5回	キリスト教①	旧約聖書について
第6回	キリスト教②	キリスト教の受容と変化
第7回	キリスト教③	キリスト教の神について
第8回	キリスト教④	イエス・キリストについて
第9回	キリスト教⑤	キリスト教的人間像
第10回	キリスト教⑥	キリスト教の終末観
第11回	イスラーム①	ムハンマドについて
第12回	イスラーム②	クルアーンについて
第13回	イスラーム③	イスラーム共同体について
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各4時間を標準とします、

【テキスト（教科書）】

資料を配布して授業を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島蘭進『宗教学の名著30』、ちくま新書。

渡辺照宏『仏教 第二版』、岩波新書。

エルンスト・ベント『キリスト教 その本質とあらわれ』、平凡社。

小杉泰『イスラームとは何か』、講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容についての学生の意見を求める課題（30％）と、授業内容全体についての理解度を確かめる試験（70％）によって、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には資料の内容について十分に理解できていることが求められます。課題に取り組みながら、資料の内容を読み込んでください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%

PHL200BB（哲学 / Philosophy 200）

宗教学1（伝統宗教）2

松本 力

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教学で取り上げられるさまざまな著作について学ぶ。

【到達目標】

学生は、宗教に関するさまざまな著作を読むことで、宗教とは何かを説明できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を受け、学習支援システム上で「課題」に答えることが、この授業の進め方になります。

皆さんの解答に対して個別にコメントすることはありませんが、質問を書き込んでおいてもらえば、次の授業開始時までに学習支援システムで返答します。また、質問がなかったとしても、授業内容の補足などを学習支援システム内で行うこともあるので、授業日には学習支援システムをチェックしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	宗教学とはどのような学問か	この授業で紹介する著作についての概容。
第2回	デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』	ヒュームの信仰について。
第3回	フリードリヒ・ニーチェ『反キリスト者』	ニーチェにとってのキリスト教について。
第4回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』①	キリスト教における経済的・社会的要因の考察。
第5回	H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』②	教会と福音との乖離について。
第6回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』①	スミノーゼについて。
第7回	ルドルフ・オットー『聖なるもの』②	スミノーゼの諸要因。
第8回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』①	宗教的経験の特徴。
第9回	ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相』②	トルストイの信仰の考察。
第10回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』①	道徳的責務について。
第11回	アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』②	動的宗教。
第12回	ヴィクトール・フランク『人生の意味と神』①	宗教の次元。
第13回	ヴィクトール・フランク『人生の意味と神』②	神について。
第14回	試験	まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では配布資料を使うため、教科書は使用しません。

【参考書】

島園進『宗教学の名著30』、ちくま新書。
 デイビッド・ヒューム『自然宗教をめぐる対話』、岩波文庫。
 フリードリヒ・ニーチェ『ニーチェ全集 偶像の黄昏 反キリスト者』、ちくま学芸文庫。
 H・リチャード・ニーバー『アメリカ型キリスト教の社会的起源』、ヨルダン社。
 ルドルフ・オットー『聖なるもの』、岩波文庫。
 ウィリアム・ジェームズ『宗教的経験の諸相 下巻』、岩波文庫。
 アンリ・ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』、ちくま学芸文庫。
 ヴィクトール・フランク、ピンハス・ラビーデ『人生の意味と神 信仰をめぐる対話』、新教出版社。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容について学生に意見を求める課題（30％）と、授業全体の内容の理解度を確認する試験（70％）によって、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の内容から、それぞれの著者の考え方について、自分なりに言葉でまとめられるようになることが求められます。課題を通して資料を読み込んでみてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire the religious thoughts. Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to explain the religious thoughts.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 30%, Term-end examination: 70%.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋史特講IV

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景德鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

授業内で重点的な課題を提示します。試験では、それらを踏まえて自らの考えを示せるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、博物館のほか百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS200BE（史学 / History 200）

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
 近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚・陶寺・石峁遺跡
第5回	中国王朝の曙	二里头遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

授業内で重点的な課題を提示します。試験では、それらを踏まえて自らの考えを示せるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、博物館のほか百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

GEO200BF（地理学 / Geography 200）

自然環境論

福與 直人

授業コード：A3417 | 曜日・時限：木4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模および地域的な環境変動に焦点を当て、自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことを目的とします。過去の環境変動から現代の環境問題までを縛らずに抽出し、持続可能な未来に向けた課題を考察します。これにより、現代社会における環境問題を多角的に理解する能力を養います。

【到達目標】

過去の地球環境変動についての基礎知識を理解できる。
現代の環境問題とその背景を説明できる。
持続可能な社会に向けた課題について論述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、毎回スライドを投影します。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらいます。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法を説明する。
2	地球環境の基礎1	現在の地球環境がどのように成り立っているのかを概説する。
3	地球環境の基礎2	現在の地球環境がどのように維持されているのかを概説する。
4	地球環境の基礎3	現在の地球環境がどのように維持されているのか、主に炭素に着目して概説する
5	過去の環境をどう確かめるか	過去の地球環境をどのように復元するのか学ぶ。
6	繰り返す寒冷期と温暖期: "長時間"スケールの地球環境変動	比較的安定的な地球環境も「長時間」スケールでは変動してきたことを学ぶ。
7	気候が急に変わるとき: "短時間"スケールの地球環境変動	「短時間」スケールでも地球環境は変動してきたことを学ぶ。
8	環境の変化が社会に関わる時	主に近代以前の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
9	社会が環境を変えるとき	主に近代以降の環境変動と人類社会との関わりについて学ぶ。
10	地球温暖化(1)	地球温暖化の実態やメカニズムについて学ぶ。
11	地球温暖化(2)	地球温暖化に対する影響と将来予測について学ぶ。
12	地球温暖化と環境問題	地球温暖化に対する緩和策と適応策、その他の環境問題について学ぶ。
13	人新世とはなにか	「人新世」と呼ばれる時代区分について概観する。
14	最終試験とまとめ	最終試験を行い、授業の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習し、授業で習った内容に関連することを自ら図書館やインターネットで自分なりに調べて、理解を深める努力が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に従い、評価を行います。

平常点：10%

毎回のリフレクションペーパーによる評価：40%

期末試験：50%

なお、出席率が2/3に達しない者は評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

リフレクションおよび期末テストに関してはアンケートを踏まえ、実施方法を改善する。
前年度よりも内容を絞り、より基本的な事項から立ち返って説明する。

【学生が準備すべき機器他】

文系系系問わず、また高校時代に地理や地学を履修していない学生も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course focuses on global and regional environmental changes, providing students with foundational knowledge about the natural environment. By examining past environmental changes and modern environmental issues, students will develop a multifaceted understanding of current environmental challenges and explore pathways toward a sustainable future.

Learning Objectives

By the end of this course, students should be able to:

Understand the fundamental knowledge of past global environmental changes.

Explain the background and causes of current environmental problems. Critically analyze and discuss challenges for achieving a sustainable society.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class, students are expected to review the course materials and independently research topics related to the lecture content using library resources or the internet. Students should dedicate at least 2 hours of preparation and review for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be calculated as follows:

Class participation: 10%

Reflection papers: 40%

Final examination: 50%

HUG200BF (人文地理学 / Human geography 200)

社会経済地理学B (1)

甲斐 智大

授業コード：A3907 | 曜日・時限：火4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は「社会経済地理学（2）（A3427）」として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「所得機会—消費機会—共同生活機会」の関係性の変化を手がかりに、地域社会がどのように形成・変容してきたのかを解説する。その際、地域の変化と、人々の労働（生産）や子育て・食料消費（再生産）/といった実践が相互に影響しあうプロセスに注目する。さらに、統計や景観に表れる現象の背後で作用する社会的調整や排除・包摂のメカニズムを検討することで、資本主義社会における地域課題の発生メカニズムへの理解を深める。

【到達目標】

1 空間や地域をつくる過程において、非市場的な原理がいかに影響を与えるのかを理解する。
 2 名目的な「公正さ」を担保する過程で、いかなる「不公正」が生じているのかを理解する。
 3 多様な立場の人々の実践を分析することで、現代社会における社会的排除と包摂のメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行う。ただし、講義は学生の意見を確認しながら進める。また、講義中に学生同士での意見交換を行うことがある。一部ゲスト講師を招聘する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地理学における本講義の位置づけを解説する。
第2回	ローカルな共同体の中で成立した経済システムと保育	度経済成長期以前の地域社会における労働力調整と社会再生産の仕組みについて解説する。
第3回	郊外空間の成立と女性の働き方	日本の住宅政策と働き方の変化について整理し、郊外での子育ての特徴を整理する。
第4回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ 1	都心回帰の背景と、それが保育サービス需給に与えた影響について解説する。
第5回	都心回帰時代の保育サービス需給のミスマッチ 2	世界都市の労働市場の特徴とそこでの保育サービス需給をめぐる課題について解説する。
第6回	外国人集住地区と子育て	多様な経済モデルを用いて、統計などに現れない外国人家族の子育ての困難さと、それを支える見えない社会的調整メカニズムの存在とその限界点を解説する。
第7回	日雇い労働が創り出した空間	家族形成から排除された労働者の空間の特徴とジェントリフィケーションについて解説する。
第8回	派遣労働と地域	派遣労働の地方への拡大の背景とリーマンショックが地方農村部に与えた影響について解説する。
第9回	農と食べ物と食文化	農と食べ物と食文化の関係性を解説する。
第10回	農，食，食文化を切り離したもの	農，食，食文化を切り離しが生じたメカニズムを解説する。
第11回	経済成長と食の変化	経済成長による食の変化について解説する。
第12回	農業の競争力を決めるもの	農業政策の変化を踏まえつつ、農業の競争力がいかに規定されているかを解説する。
第13回	情報を消費する食	情報化と食の関係について
第14回	まとめ	現代社会における地域課題を理解する枠組みについて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義中に適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

・各回の内容に関するコメントカード内容（毎回ではありません） 30%
 ・講義の全体に関する試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義では複数回の休講—補講を予定している。
 詳細については初回の講義で説明する。

【Outline (in English)】

This course explores how regional societies are formed and transformed through changes in the relationships among income opportunities, consumption opportunities, and opportunities for collective life. It focuses on the ways in which regional change and people's everyday practices — such as work (production) and childcare and food consumption (reproduction)— interact with one another. The course also examines the underlying mechanisms of social coordination, exclusion, and inclusion that shape regions beyond what is visible in statistics or landscapes, in order to better understand the emergence of regional issues in contemporary capitalist societies.

HUG200BF（人文地理学 / Human geography 200）

社会経済地理学B（2）

甲斐 智大

授業コード：A3908 | 曜日・時限：火4/Tue.4
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年
備考（履修条件等）：地理学科の2022年度以前入学生は受講不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、2014年以降の地方創生政策を中心に、現代日本の地域政策と地域労働市場の実態を社会経済地理学の視点から批判的に検討する。具体的にはグローバル・国家・地域・個人の各スケール間での複雑な権力関係と相互作用を分析することで、東京一極集中の是正を謳う地方創生政策が、実際には地域間格差・地域内格差を拡大させる逆説的側面を内包していることを理解させる。同時に、政策の隙間を縫って展開される地域独自の生存戦略―過疎ビジネス、ヤンキー文化、介護労働市場、特定地域づくり協同組合など―に着目し、中央の政策論理では捉えきれない地域社会の複雑な適応メカニズムについて解説する。

【到達目標】

- 1 多様な経済モデルとマルチスケール分析による分析視角を身につける。
- 2 地方創生政策の持つ「逆説的側面」や「利用される地方」という批判的分析の内容を理解できる。
- 3 画一的な政策論理では捉えきれない地域独自の適応戦略の意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では学生の意見を確認しながら講義を進める。場合によってはペアワークなどを実施することも想定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	氷山モデルとマルチスケール概念について解説する。
第2回	地方への人口流出のメカニズム	高度経済成長期以降、地方から都市部への人口移動が本格化した要因を解説する。
第3回	国土政策と地方1	国土政策によって発展した地方都市について解説する。
第4回	国土政策と地方2	地方における公共事業に意義と問題点について解説する。
第5回	国土政策と地方3	国土政策によって発展した地方都市が抱える現代的課題を解説する。
第6回	地方消滅論と地方間格差	特定地域づくり事業協同組合制度を事例に社会連帯経済と地方間格差の発生要因について解説する。
第7回	地方創生と不良文化	地域の担い手として元不良をどの様に位置づけるかについて解説する。
第8回	地方創生と不良文化	不良文化と独自の教育システムが支える地方の労働市場について解説する。
第9回	地方創生政策と人的資源の外部調達	地方創生に関わる政策とこれに関わる多様な主体の役割について解説する。
第10回	特産品を起点とする地域活性化	産業集積と地域活性化について解説する。
第11回	国際情勢の変化が地方にもたらすもの	トランプ関税を含む国際情勢による地域産業への影響について解説する。
第12回	産業・地域・行政 DX の推進と地方の課題	DXが推進される社会的背景を踏まえつつ、地方におけるこうした取り組みの必要性を解説する。
第13回	地方創生施策の問題点	ふるさと納税やデジタル田園都市国家構想がもたらす逆説的側面について解説する。
第14回	まとめ	本講義で登壇したゲスト講師を含めたディスカッションを行い、各回の内容を理論的に位置付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「新産業都市大分の60年」 2026年8月末発売予定

【参考書】

講義中適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の内容に関するコメントへの記入 30%
期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇を予定している。

【Outline (in English)】

This course examines regional policy and labor markets in contemporary Japan through the lens of socio-economic geography, focusing on local revitalization policies introduced since 2014. By analyzing interactions and power relations across global, national, regional, and individual scales, the course highlights the paradox that policies intended to reduce Tokyo-centered concentration may actually deepen regional and local inequalities. In addition, the course explores region-specific survival strategies — such as depopulation-related businesses, Yankii youth culture, care labor markets, and special regional cooperative schemes — that develop outside formal policy frameworks, shedding light on the complex ways in which regional societies adapt to changing conditions.

SOC200FB（社会学 / Sociology 200）

経営社会学Ⅰ

藤本 真

経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「大多数の人々がモノやサービスの生産・販売に携わり、そこから得た収入により生活を営む社会」＝「産業社会」の中で、企業経営がいかに行われ、企業経営をめぐる社会関係がいかに形作られているのかについて理解することを目的とする。「産業社会」の動向とそれに伴う社会全体へのインパクトを、この授業ではいくつかの「〇〇化」として捉え、それぞれの「〇〇化」に関連した、企業経営に関連する現象を取り上げる。「経営社会学Ⅰ」では、「産業化」と「都市化」に焦点を当てる。

【到達目標】

①企業経営のあり方が、「産業社会」の形成過程である「産業化」の下、どのように形成され、変化してきているか、②「企業経営をめぐる社会関係」がどのように形成され、変化しているか、③「産業化」に伴う社会全体の変化とみることができる「都市化」の進行と、「都市化」が、企業経営や企業経営に携わる個人、企業経営をめぐる社会関係にとどのような影響を及ぼすか、いった点を論理的・体系的に理解することを授業の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行います（初回を除いて基本的にはオンライン授業は行いません）。レジュメ・資料を講義の前に配布し、それに沿って講義をすすめます。各回で予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。

学期中に提出を求めるレポートならびに期末に提出を求める最終レポートは、最終評価に反映するとともに、各回の授業内容や授業の進め方の検討に用います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「産業社会」と企業経営	この講義の対象について～「産業社会」の変化と「企業経営をめぐる社会関係」
第2回	「産業化」と「市場」	「産業化」のプロセス、「産業化」の前提条件、社会関係の「場」としての市場
第3回	産業化の進展と経営組織	産業化の進展と大規模組織の発生、所有と経営の分離、官僚制の普及・発達と課題、企業経営をめぐる社会関係のレベル、様々な立場の個人と企業経営
第4回	「雇用者」の出現と「労働時間」の発生	「雇用者」の出現、「働く時間」の組織による管理、労働時間に対する規制、人事労務管理の発生
第5回	「職場」の機能	職場の持つ様々な機能、ホーソン実験、インフォーマルな人間関係の重要性
第6回	経営組織とキャリア形成	大規模経営組織におけるキャリア形成、企業横断的なキャリア形成、「正社員」の出現
第7回	企業をめぐる社会関係におけるリスクへの対応	事業経営のリスクと倒産法制、労働市場のセーフティネット形成、社会保障制度の確立
第8回	サービス経済化と経営組織・仕事	工業化・脱工業化・大衆消費社会、サービス経済化の過程（ベティ・クラークの法則）、サービス経済化が組織や仕事に与える影響
第9回	ブルーカラーからホワイトカラー、感情労働へ	大規模組織の出現とサービス経済化による求められる「スキル」の変化、「スキル」の変化に伴う人々の働き方の変化、「感情労働」の特徴と発生過程、「感情労働」の管理、「感情労働」の増加に伴う課題
第10回	多様な雇用・就業形態の出現と拡大	正社員以外の雇用・就業形態の拡大、拡大に伴う「格差問題」の発生と問題への対応

第11回	「都市化」の進行と企業経営	都市への人口集中と多様な産業の発生との循環、地方の過疎化、産業化がもたらす労働市場の地域間格差、U/I/J ターンの課題
第12回	高学歴化～「都市化」のもう一つの要因	産業化に伴う「高学歴化」の要請、急速な高学歴化の進展、「高学歴化」が招く若年者の地域間移動
第13回	国家の諸政策と企業	企業経営と政府・政策、「市場の失敗」、ケインズ理論、福祉国家、「政府の失敗」、新自由主義、格差問題とカジノ資本主義
第14回	大衆消費社会の形成・限界・克服	大量生産・大量消費社会、「成長の限界」、「沈黙の春」、「スモール・イズ・ビューティフル」、公害、企業活動に対する規制と対応、SDGs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイトなど、企業経営や産業社会と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、企業経営をめぐる社会関係についての実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深める。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料等をもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充(2015)『『働くこと』を社会学する 産業・労働社会学』(有斐閣アルマ)、②西村純子・池田心豪編著(2023)『社会学で考えるライフ&キャリア』(中央経済社)、③上林千恵子編著(2026)『よくわかる産業社会学 第2版』(ミネルヴァ書房)を挙げておきます。このうち①は現代産業社会の仕事や組織にまつわる主要トピックの理解に、②は経営組織で働くことや産業社会で生活を送ることについての理解に、③は経営社会学で取り上げられる様々な事項が1事項あたり見開き2ページでまとめられており知識の整理に、それぞれ役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①期末試験(40点満点)、②期末レポート(30点満点)、③学期中に提出を求めるレポート(10点満点×3回)の結果を基に実施します。
・期末試験では授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点します。
・期末レポートは、授業で取り上げたトピックに関連する課題図書を読んだうえでの読書レポートとします。内容の理解力や、読書を踏まえたうえでの主張の論理性・独創性、文章表現力などを評価項目として、評価をします。
・学期中に提出を求めるレポートでは、講義の内容などを題材としたレポート課題を設定し、授業の理解や授業への参加の姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営社会学は、①「社会のなかにおける企業経営」と、②「企業経営における社会関係（人間関係）」について理解することを目的とした講義です。各回のトピックを取り上げる際には、この2点について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

春学期の「経営社会学Ⅰ」と秋学期の「経営社会学Ⅱ」をすべて受講することで、経営社会学の全体像が体系的に明らかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマは異なるため、関心にしたがって春学期のみ、秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。

【Outline (in English)】

【Outline】

The purpose of this course are (1) to understand how corporate management is conducted under "industrialization" and "urbanization" and (2) to understand how social relations are formed around corporate management and how they affect corporate organizations and the individuals who work in them

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to understand the followings:

(1) How the state of corporate management has been formed and changed under the process of "industrialization," which is the formation process of "industrial society.

(2) How "social relations surrounding corporate management" are being formed and changed.

(3) The progress of "urbanization," which can be viewed as a change in society as a whole accompanying "industrialization," and how "urbanization" affects business management, individuals involved in business management, and social relations surrounding business management.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to do the followings. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(1) To deepen understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a regular basis.

(2) Through internships, part-time jobs, and other opportunities to interact with corporate management and industrial society, think about the realities and issues concerning social relations related to corporate management based on the discussions and theories learned in the lectures, and deepen understanding of what is learned in class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(30%) , short reports in mid-term(30%), and term-end essay(40%).

SOC200FB（社会学 / Sociology 200）

経営社会学Ⅱ

藤本 真

経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 200 番台 経営学科専門科目 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「大多数の人々がモノやサービスの生産・販売に携わり、そこから得た収入により生活を営む社会」＝「産業社会」の変化の中で、企業経営がいかに行われ、企業経営をめぐる社会関係がいかに形作られているのかについて理解することを目的とする。「経営社会学Ⅱ」では、日本の産業社会と企業経営の今後について考えていく上で、とりわけ重要な、「高齢化」、「グローバル化」、「デジタル化」、「多様化」に焦点を当てていく。

【到達目標】

①「産業化」に伴う社会全体の変化とみることができる「高齢化」・「グローバル化」・「デジタル化」・「多様化」の進行と、それぞれの変化が企業経営、社会関係、働く個人にもたらす影響を論理的・体系的に理解すること、②「産業社会・日本」の全体像とそこでの企業経営、社会関係について考察し、自らの生活・キャリアを描いていくきっかけをつかむこと、を授業の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で行います（初回を除いて基本的にはオンライン授業は行いません）。レジュメ・資料を講義の前に配布し、それに沿って講義をすすめます。各回で予定しているテーマは、授業計画を参照して下さい。ただし、講義するテーマの順序等は下記と変わる場合があります。学期中に提出を求めるレポートならびに期末に提出を求める最終レポートは、最終評価に反映するとともに、各回の授業内容や授業の進め方の検討に用います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「産業社会」の形成・変化と企業経営	「経営社会学Ⅰ」の振り返りと「経営社会学Ⅱ」の概要
第2回	産業化と高齢化の関係と高齢化の企業経営への影響	「産業化が進展すると少子化・高齢化が進展する」というプロセス（産業化と家族、労働力確保と「福祉国家」維持の課題
第3回	経営組織における「年齢」と「定年」	仕事上のキャリア形成における年齢の意味、定年制度、高齢までの就業を促進する政策と組織・職場・個人
第4回	高齢化の中での企業組織の取組み	「ワーク・ライフ・バランス」施策、仕事と育児の両立に向けた取組み、仕事と介護の両立に向けた取組み
第5回	産業化・グローバル化・企業経営	「グローバル化」とは、「産業化」の進展と「グローバル化」、「グローバル化」と企業経営
第6回	グローバル化の下での企業経営と人的資源管理	多国籍企業の活動と経営管理、グローバル人事労務管理、「タレント・マネジメント」の実施と影響
第7回	技術革新と企業・仕事への影響	産業化と技術革新、ME化/OA・FA化/IT化とその影響、「第4次産業革命」、AIの急速な進化と普及
第8回	デジタル化の進展と仕事・組織の変化	デジタル化と「仕事の变化」、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、デジタル化と企業・労働者
第9回	「しばられない働き方」の拡大か？ ～マルチプル・ジョブ、テレワーク、フリーランス、ギグワーク～	マルチプル・ジョブ（副業・兼業・複業）、テレワークという働き方、フリーランスとギグ・ワーカー
第10回	企業・職場・仕事の領域における女性	産業化の進展と女性の仕事、「M字カーブ」をめぐる社会関係、性別職域分離の現状と課題
第11回	企業・職場・仕事の領域における外国人	産業化と外国人労働、外国人労働者受入政策の歴史・現状と課題、日本企業における外国人の受入れ・活用と課題

第12回	「多様化」の進展とダイバーシティ・マネジメント	「多様化」の要因、様々な「ダイバーシティ」、ダイバーシティ・マネジメントの進展、日本企業のダイバーシティ・マネジメントにおける課題
第13回	職業キャリア形成のこれまでとこれから	キャリアの面から見た「日本的雇用」、「ジョブ型」と「メンバーシップ型」、「キャリア自律」、キャリアの「停滞」、「ライフ・シフト」とリカレント／リスキリング
第14回	産業社会・日本の可能性と企業・社会のこれから	人口減少社会、労働供給制約社会、市場の縮小と稼ぎ方の変化、産業社会としての「持続可能性」、「再興」の兆しと可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイトなど、企業経営や産業社会と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、企業経営をめぐる社会関係についての実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深める。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。授業内で配布する資料等をもとに講義をすすめます。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、①小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充(2015)『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』(有斐閣アルマ)、②西村純子・池田心豪編著(2023)『社会学で考えるライフ&キャリア』(中央経済社)、③上林千恵子編著(2026)『よくわかる産業社会学 第2版』(ミネルヴァ書房)を挙げておきます。このうち①は現代産業社会の仕事や組織にまつわる主要トピックの理解に、②は経営組織で働くことや産業社会で生活を送ることについての理解に、③は経営社会学で取り上げられる様々な事項が1事項あたり見開き2ページでまとめられており知識の整理に、それぞれ役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①期末試験(40点満点)、②期末レポート(30点満点)、③学期中に提出を求めるレポート(10点満点×3回)の結果を基に実施します。
・期末試験では授業内で学習した論点や理論について、十分に理解できているかを重視して採点します。
・期末レポートは、授業で取り上げたトピックに関連する課題図書を読んだうえでの読書レポートとします。内容の理解力や、読書を踏まえたうえでの主張の論理性・独創性、文章表現力などを評価項目として、評価をします。
・学期中に提出を求めるレポートでは、講義の内容などを題材としたレポート課題を設定し、授業の理解や授業への参加の姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営社会学は、①「社会のなかにおける企業経営」と、②「企業経営における社会関係（人間関係）」について理解することを目的とした講義です。各回のトピックを取り上げる際には、この2点について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。板書を基本としますが、図表の説明等では、投影設備の利用も適宜行います。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

春学期の「経営社会学Ⅰ」と秋学期の「経営社会学Ⅱ」をすべて受講することで、経営社会学の全体像が体系的に明らかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマは異なるため、関心にしたがって春学期のみ、秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。

【Outline (in English)】

【Outline】

The objectives of this class are: (1) to understand how corporate management is conducted under the progress of "aging," "globalization," "digitalization," and "diversification"; (2) to understand how social relations are formed around corporate management and how they affect corporate organizations and the individuals who work in them; and (3) to consider corporate management and social relations under "industrial society of Japan" and to get an opportunity to envision one's own life and career.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To understand logically and systematically the progression of "aging," "globalization," "digitalization," and "diversification," which can be viewed as changes in society as a whole that accompany "industrialization," and the impact of each change on corporate management, social relations, and workers.

(2) To consider the overall picture of "industrial society of Japan" and the corporate management and social relations therein, and to grasp the opportunity to draw one's own life and career.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to do the followings. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(1) To deepen understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a regular basis.

(2) Through internships, part-time jobs, and other opportunities to interact with corporate management and industrial society, think about the realities and issues concerning social relations related to corporate management based on the discussions and theories learned in the lectures, and deepen understanding of what is learned in class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(30%) , short reports in mid-term(30%), and term-end essay(40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

(1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。

(2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。

(3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行い、振り返りレポートを作成します。受講者が主体的に考え、発言する機会（X：旧twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。ゲスト講義終了後にリアクションペーパーを提出します。

提出された振り返りレポートについては、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中の「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。

(2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。

(3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。

(4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

(1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
(2) ロビンス、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
(3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

(1) 最終レポート（1回）：40％
(2) 振り返りレポート（4回）：40％
(3) ゲスト講義のリアクションペーパー（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

(1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。

(2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧twitter（X）のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。

(3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

(1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。

(2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

(1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
(2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
(3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
(4) X (旧twitter)
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

経営組織論 II

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- (1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
- (2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
- (3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業（経営組織論 II）では、「変わる社会、変わる組織」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2 週を 1 モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行い、振り返りレポートを作成します。受講者が主体的に考え、発言する機会（X：旧 twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。ゲスト講義終了後にリアクションペーパーを提出します。

提出された振り返りレポートについては、評価できる点・修正すべき点の指摘や次回に向けたアドバイスを中心に、クラス全体へのフィードバックを授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本の経営の特質と問題点
第6回	組織文化②	国際化・情報化の進展による日本の経営の変容
第7回	事例研究②	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第8回	社会と組織①	技術的進化和制度的変化（第四次産業革命とSDGsの影響）
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義
第11回	変化と適応①	組織変革を阻む要因（問題解決症候群；有能さの罠）
第12回	変化と適応②	学習忘却（アンラーニング）と越境活動の意味と方法

第13回 事例研究④

「変わる社会、変わる組織」の事例に関するゲスト講義

第14回 ラップアップ

秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書（1）『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンス、S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義のリアクションペーパー（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、旧 twitter（X）を活用する予定です。受講者は旧 twitter（X）のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) FACEBOOK
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) X（旧 twitter）
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this class are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB（経営学 / Management 300）

人的資源管理 I

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

- 1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2) 人的資源管理の個別の領域のうち、①社員格付け制度、②雇用区分、③採用管理、④要員管理、⑤労働時間管理について学ぶ。
- 3) これら 1) と 2) の学習をうけて、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料を音声解説した映像資料、および穴埋め式スライド資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

小テストについては、WebClass 上で提出後に正しい答えを確認できる仕組みとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第1回	人的資源管理の考え方①：人的資源管理の目的と役割	「人的資源管理 I」の概要、人的資源管理の目的、人的資源管理の基本的な役割、など
第2回	人的資源管理の考え方②：人的資源管理の範囲	人事管理から人的資源管理へ、人的資源管理の意味の広がり、など
第3回	人的資源管理のコンテキスト①：経営戦略と人的資源管理の関係	経営戦略との「ベストフィット」、人的資源管理の「ベストプラクティス」、など
第4回	人的資源管理のコンテキスト②：労使コミュニケーション	労使コミュニケーションの効果、日本企業での労使コミュニケーション、など
第5回	社員格付け制度①：社員格付け制度の機能と条件	社員格付け制度の機能、社員格付け制度の条件、など

第6回	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化と多様性	「成果主義」と社員格付け制度の変化、仕事にもとづく格付けと能力にもとづく格付け、など
第7回	雇用区分①：雇用区分の機能と組み合わせ	雇用区分による社員の位置づけ、2つの「柔軟性」と「柔軟な企業」モデル、など
第8回	雇用区分②：日本企業における「雇用区分型」管理の特徴	日本企業における「雇用区分型」管理の特徴、多様なキャリア志向と雇用区分、「雇用区分型」管理と「個別型」管理、など
第9回	採用管理①：採用計画と採用対象	採用計画、採用対象（新卒採用と中途採用）、など
第10回	採用管理②：人材の募集と選考	人材を募集する、選考プロセスと選考基準、など
第11回	要員管理①：要員計画と要員管理	要員計画の立て方、日本企業の要員計画と要員管理、など
第12回	要員管理②：雇用保障と雇用調整	「終身雇用」と雇用保障、雇用保障と雇用調整、など
第13回	労働時間管理①：労働時間の長さの管理	労働時間の長さの管理、労働時間の長さのワークライフバランス、など
第14回	労働時間管理②：労働時間のタイミングの管理	労働時間のタイミングの管理、労働時間の柔軟性、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理一事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができるので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30 %

期末試験：70 %

小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】**【Course Description】**

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management, (11) employee benefits and (12) diversity management.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (12) in (II).

(III) Students will understand systematically and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 300 番台 経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。

人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個々人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。そのためには様々な工夫と配慮が必要となります。

この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

- 1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- 2) 人的資源管理の個別の領域のうち、①教育訓練、②配置転換、③昇進管理、④人事評価、⑤賃金管理、⑥福利厚生について学ぶ。
- 3) これら 1) と 2) の学習をつうじて、人的資源管理の広い領域に関して基本的な考え方を体系的に理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。①教科書による学習と、②教科書に準拠した学習支援システム上の教材（スライド資料を音声解説した映像資料、および穴埋め式スライド資料）による学習を各自、進めてください。学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

小テストについては、WebClass 上で提出後に正しい答えを確認できる仕組みとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第1回	教育訓練①：人材育成の役割	「人的資源管理Ⅱ」の概要、能力の可変性と人材育成、人材育成の多様な役割、など
第2回	教育訓練②：OJTの進め方と促進条件	OJTの進め方、知的熟練と幅広いOJT、OJTを促す条件、など
第3回	教育訓練③：教育訓練の多様な方法と教育訓練投資	Off-JTと自己啓発支援、教育訓練への投資、など
第4回	配置転換①：配置転換の機能と範囲	配置転換の機能、配置転換の範囲、配置転換の範囲、など
第5回	配置転換②：配置転換の決定方法と出向・転籍	配置転換の決定と人事部門の関わり、社員の意向の配置転換への反映、出向と転籍、など
第6回	昇進管理①：昇進・昇格の仕組みと機能	2重のランキング・システム、昇進における選抜の機能、など
第7回	昇進管理②：昇進選抜のタイミングの管理	昇進選抜のタイミング、「遅い」選抜の合理性、日本企業における昇進選抜の変化、など

第8回	人事評価①：人事評価の機能と評価方法	個別管理の手段としての人事評価、絶対評価法と相対評価法、など
第9回	人事評価②：人事評価制度の設計	評価要素の選択と組み合わせ、「成果主義」と目標管理制度、人事評価制度の設計と運用、など
第10回	賃金管理①：賃金水準の設定と人件費	人材確保と賃金相場、賃金と人件費、賃金の構成要素、など
第11回	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	総額賃金管理と総額人件費管理、個別賃金管理と賃金制度、など
第12回	賃金管理③：雇用関係と賃金制度	雇用関係の性格、雇用関係と賃金制度、賃金の「決め方」と「上がり方」、など
第13回	福利厚生①：法定福利と法定外福利	法定福利と法定外福利、法定外福利の多様な施策、など
第14回	福利厚生②：法定外福利・退職金・企業年金の機能	法定外福利の効果と課題、退職金と企業年金、など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。①各回の授業（映像資料にて実施）に対応する教科書の章・節を各自読むことで理解を確実なものとする。②本授業で学習したテーマや論点に関して、日頃から新聞記事等を読んで理解を深める。③インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。

【テキスト（教科書）】

佐野嘉秀・池田心豪・松永伸太郎（2025）『人的資源管理―事例とデータで学ぶ人事制度』ミネルヴァ書房

【参考書】

発展的な学習に向けては、人事管理に関わる学術雑誌である『日本労働研究雑誌』や『日本労務学会誌』に掲載の論文を読むことが、人的資源管理についての関心を広げ、理解を深めるうえで有益です。いずれもバックナンバーはフリーで読むことができるので、雑誌名で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する「人的資源管理Ⅰ」と秋学期に開講の「人的資源管理Ⅱ」の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】**【Course Description】**

The aim of the course is to learn and understand basic human resource management theory and practice. HRM practices in Japanese companies will be discussed from a comparative perspective; HRM practices can be understood as a system. The course will focus on each of the areas of HRM that make up a system.

【Learning objectives】

(I) Understand and be able to explain the basic concepts of human resource management.

(II) Learn about the areas of HRM: (1) ranking system, (2) employee classification, (3) recruitment, (4) workforce management, (5) working time management, (6) training, (7) reassignment, (8) internal promotion, (9) personnel evaluation, (10) wage management and (11) employee benefits.

Human Resource Management I focuses on (I) and (1) to (5) in (II), while Human Resource Management II focuses on (6) to (11) in (II).

(III) Students will understand systematically and be able to explain the basic concepts of each field.

【Learning outside the classroom】

(1) Read the textbook to ensure understanding of what is studied in the video materials.

(2) Deepen the understanding of the themes and issues studied in the lectures by reading newspaper articles on a daily basis.

(2) Deepen understanding of the learning content by reflecting on the realities and issues of human resource management based on the theories learned in the lectures while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs and circle activities.

The standard preparation and review time for lectures is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3

その他属性 : <優> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: "Disability"	What is the social model of disability?
13	Foundation: "Intersectionality"	What is intersectionality?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further references may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Others】

Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木1/Thu.1

その他属性 : <優> <S> <ダ> <未>

【Outline and objectives】

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ/Seminar

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり/Yes

【Fieldwork in class】

なし/No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

【Prerequisite】

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

Social Theory: Perspectives on Inequality

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水2/Wed.2

その他属性 : <優> <S>

【Outline and objectives】

Social inequality has always been a part of human society, and social scientists have invested much effort into “figuring out” why there is social inequality and how social inequality is sustained and reproduced. Earlier efforts focused mostly on socioeconomic inequality, while later endeavors explored racial, gender, sexual inequalities and their interconnections. These efforts resulted in classical and contemporary social theories on inequality. In this course, students will learn these theories, which are interesting in and of themselves, but more importantly, they will learn to think about inequality deeply and sophisticatedly.

Many theories covered in this course come from Western scholars. Therefore, it is important to explore their limitations in non-Western contexts and to consider the possibility of alternative perspectives.

【Goal】

In mastering the social theories covered in this course, students will hone their critical thinking skills, develop their own theories of various aspects of society and the world and consider solutions to lessen inequality. Students will acquire the skills to engage with complex ideas and think systematically and logically, and remaining aware of social injustices and problems. By the end of the course, students should be able to form and support their opinions with ease.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This course is taught through a combination of lectures interwoven with short discussions, student presentations based on readings, and post-presentation discussions.

After the active learning section, the instructor will give feedback to each student personally in verbal or written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	What is social theory?
2	The Trio in Classical Theories (1)	Karl Marx on social class and capitalism
3	The Trio in Classical Theories (2)	Karl Marx on ideology and Louis Althusser on state apparatuses
4	The Trio in Classical Theories (3)	Max Weber on class, status, and party, and on power, state and bureaucracy.
5	The Trio in Classical Theories (4)	Emile Durkheim on the division of labor in society
6	Student Presentation and Discussion (1)	Student presentation and discussion on Davis and Moore's structural-functionalist theory and Tumin's critique
7	Modern social theories on inequality (1)	Ralph Dahrendorf's theory of the origin of inequality or continue with the trio
8	Modern social theories on inequality (1)	Pierre Bourdieu's <i>Distinctions</i> and the significance of taste and lifestyle
9	Race and inequality (1)	Theories related to racial inequality: The work of W.E.B. Du Bois, Michael Omi & Howard Winant
10	Race and inequality (2)	Theories related to racial inequality: Joe Feagin Theories related to racial inequality: Critical Race Theories (CRT)
11	Student presentation (2)	Student presentation and discussion on CRT, focusing on storytelling and counter-storytelling approaches

12	The "F" word: "Classic" Feminist Theories on Gender Inequality	What is feminism? Liberal Feminism: <i>the</i> feminist theory? Mary Wollstonecraft, John Stuart & Harriet Taylor Mill, and Betty Friedan Black Feminist Standpoint Theory: Patricia Hill Collins Intersectional Theories: understanding multiple inequalities
13	Student presentation (3)	Student presentation and discussion on intersectionality and privilege
14	Theories on Inequality: One More Time	What have we learned? Where to go from here? Short presentation and discussions of "favorite concepts"

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Since the class is centered on reading and discussion, students are expected to do the readings before class and also review materials after each class. Every effort will be made to keep the amount of readings reasonable and enjoyable. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

The instructor will prepare materials to be distributed in class or downloaded from the university portal.

【References】

Grabb, Edward G. 2007. *Theories of Social Inequality*. 5th edition. Toronto, Canada: Thomson Nelson.

【Grading criteria】

Presentations (20%), reading assignments (40%), take-home examination (30%), class participation (10%).

Inappropriate use of AI tools in assignments and exams will result in a failing grade. The final exam will include an oral component to measure students' understanding.

【Changes following student comments】

No feedback has been made (a new instructor).

【Others】

If you enjoy reading, thinking, and discussion, this course may be a good fit for you. Students who have taken and enjoyed courses in political theory, philosophy, cultural anthropology, or sociology are also likely to find this course engaging. However, students without any sociological background are encouraged to take a relevant introductory or intermediate course first, as this is an advanced sociology course.

Also, students who have passed *Introduction to Sociology* and *Race, Class, Gender I* will be given admission priority.

【Prerequisite】

See "others"

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <S>

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In this process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussion presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research topic presentation and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

[Others]

Students are expected to have passed Introduction to Sociology and Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who will study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <S>

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In this process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research	Overview of social research
	Critiquing Academic Works	Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research

9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussion presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research topic presentation and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

[Others]

Students are expected to have passed Introduction to Sociology and Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who will study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 月3/Mon.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優><S>

【Outline and objectives】

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality

9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

【Others】

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

SOC400ZA (社会学 / Sociology 400)

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Hazuki Kaneko

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4

Day/Period : 月4/Mon.4

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <優> <S>

【Outline and objectives】

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

Seminar members will conduct original research over the course of two years as their graduation project. The final research paper may be used as a writing sample for graduate school applications, a foundation for future research, and a way to showcase their research skills and academic interests during job hunting. In the first year, seminar members will develop research questions, identify gaps in the existing literature, and create a feasible research proposal. In the second year, they will collect and analyze data, discuss their findings, and write up the research paper.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Main Teaching Method】

S 演習/ゼミ /Seminar

【Method(s)】

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality

9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and Power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (24%)

Critiques on readings (18%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (10%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

The instructor will constantly check in with students to ensure a manageable workload.

【Others】

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I. Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

SOC200ZA (社会学 / Sociology 200)

(GO用) Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火3/Tue.3Notes : Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80 以上、
IELTS (Academic Module) band 6.0 以上、TOEIC860 以上、英検
：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によっ
て前述以上のスコアが必要場合があります。

その他属性 : <グ> <S> <ダ> <未>

[Outline and objectives]

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social inequality (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social inequality to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various dimensions of social inequality (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on social inequality (evaluating/creating).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: "Academic Reading"	What reading strategies can help us understand academic texts in the social sciences accurately and systematically?
3	Foundation: "Inequality"	What do we mean by inequality?
4	Foundation: "Class"	How do major social scientists conceptualize social class?
5	Social Stratification in Japan	What does social stratification in Japan look like?
6	Foundation: "Race"	What are the main theoretical approaches to race?
7	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
8	Foundation: "Gender"	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: "Sexuality"	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexual Orientation and Gender Identity in Japan	How to measure sexual orientation and gender identity on surveys in Japan?
12	Foundation: "Disability"	What is the social model of disability?
13	Foundation: "Intersectionality"	What is intersectionality?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further references may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

[Others]

Students are strongly encouraged to take "Race, Class and Gender II" after completing "Race, Class and Gender I." Students who have passed "Race, Class and Gender I" will be given admission priority to the seminar "Intersectionality: Multiple Inequalities."

[Prerequisite]

To take this class, students are expected to have passed "Introduction to Sociology" and "Introduction to Social Research Methods."

SOC300ZA (社会学 / Sociology 300)

(GO 用) Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木1/Thu.1

Notes : Not Available for ESOP Students. / TOEFL iBT 80 以上、IELTS (Academic Module) band 6.0 以上、TOEIC860 以上、英検：準1級以上合格かつCSEスコアが2500点以上 ※配当年次によって前述以上のスコアが必要な場合があります。

その他属性：〈グ〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

[Outline and objectives]

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class and gender are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes in the field of social demography (remembering/understanding), (2) apply key concepts from the field of social demography to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various population processes and population structures (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on population issues (evaluating/creating).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Main Teaching Method]

S 演習/ゼミ /Seminar

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Intersectionality as an Integrative Framework for Race, Class and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	Population Processes	What is demography? How do demographers study population processes?
4	Population Structures	What is demography? How do demographers study population structures?
5	Theories of Population	How do populations grow and shrink?
6	Fertility	What determines how many children people have?
7	Mortality	Why do people die, and how does mortality vary across populations?
8	Migration	What drives people to move from one place to another?
9	Demography of Race and Ethnicity	How do race and ethnicity shape population patterns and inequalities?
10	Demography of Gender	How do gender shape population patterns and inequalities?
11	Demography of Sexuality	How do sexuality shape population patterns and inequalities?
12	Population Issues in Japan I	Why is Japan experiencing declining fertility?
13	Population Issues in Japan II	Why is Japan experiencing rising anti-immigrant sentiment?

14

Review & Final Exam What have we learned in this course? Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading quizzes: 30%

Final exam: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

Many of our in-class activities will require access to the Internet, so please bring a laptop/tablet to every class meeting. Laptops and other devices should be used for purposes directly related to class activities; use of computers for other activities (e.g., checking emails) is non-conducive to a productive learning environment for you as well as the students sitting around you and therefore not allowed.

[Prerequisite]

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

LAW100LA (法学 / law 100)

Law (Constitution of Japan)

金子 匡良

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 集中・その他/intensive・other courses

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <S>

【Outline and objectives】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【Goal】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特徴を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : オンライン/online

No.	Theme	Contents
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ

第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	憲法改正	憲法改正の手続とその限界について学ぶ

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【Textbooks】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【References】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
 安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
 その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【Grading criteria】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【Changes following student comments】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【Others】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA (法学 / law 100)

Law (Constitution of Japan)

金子 匡良

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1～4
 Day/Period : 集中・その他/intensive・other courses
 Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <S>

【Outline and objectives】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【Goal】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特徴を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史的経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : オンライン/online

No.	Theme	Contents
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	憲法改正	憲法改正の手続とその限界について学ぶ

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【Textbooks】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【References】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
 安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
 その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【Grading criteria】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【Changes following student comments】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【Others】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA (法学 / law 100)

Law (Constitution of Japan)

茂木 洋平

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1～4

Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <S>

【Outline and objectives】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【Goal】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解できるようになることを目標としている。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」を身につける。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に与えた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ

11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下での平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下での平等（各論） 日本国憲法と家族

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【Textbooks】

特に使用しない。

【References】

講義中に適宜指示する。

【Grading criteria】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【Changes following student comments】

特になし。

【Equipment student needs to prepare】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【Others】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はHoppiiで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding.

Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

LAW100LA (法学 / law 100)

Law (Constitution of Japan)

茂木 洋平

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火3/Tue.3

Notes : Not Available for ESOP Students.

その他属性 : <S>

【Outline and objectives】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【Goal】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することを目標とする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」を身につける。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理である国民主権の意義について学ぶ

11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下での平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下での平等（各論） 日本国憲法と家族

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【Textbooks】

特に使用しない。

【References】

講義中に適宜指示する。

【Grading criteria】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【Changes following student comments】

特になし。

【Equipment student needs to prepare】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【Others】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はHoppiiで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding. Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

LAN300LH

日本語コミュニケーションA

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどのようなものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I, III, VI」に関連。
 大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を上げます

8	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を上げます
9	「方言」について	分析の材料として「方言」を上げます
10	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を上げます
11	「非母語話者の日本語」について	分析の材料として「非母語話者の日本語」について上げます
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。受講生の半分が発表します。
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。前回発表しなかった受講生が発表します。
14	授業内試験	以上13回分の内容についての理解度を確認するとともに、到達目標がどのくらい達成されたかを測ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田尚史・野田晴美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

課題：20%
 平常点：20%
 発表：20%
 試験の得点：40%
 合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします（希望者が多い場合は選考します）。

ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%, Assignments : 20%, in class contribution: 20%

LAN300LH

日本語コミュニケーションB

副島 健作

開講時期: 秋学期授業/Fall | 単位数: 2単位
曜日・時限: 水2/Wed.2 | キャンパス: 市ヶ谷 / Ichigaya
備考 (履修条件等):
その他属性: <S>

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者(日本人)は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I,III,VI」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ことば」について	一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i: 付属語だけの発話と従属節の発話	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・付属語だけの発話 ・従属節の発話

6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii: 文節の発話と語の発話	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・文節の発話 ・語の発話
7	「非流ちょう性」について i: ことばの量の不具合とことばの質の不具合	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの量の不具合 ・ことばの質の不具合
8	「非流ちょう性」について ii: ことばの処理サイズの縮小とことばが出てこず発話が停滞	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの処理サイズの縮小 ・ことばが出てこず発話が停滞
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のコま切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のコま切れ発話」について i: 語順, イントネーション, 判定詞の表れ	「文節単位のコま切れ発話」の特徴について解説します ・語順 ・イントネーション ・判定詞の表れ
11	「文節単位のコま切れ発話」について ii: 終助詞の表れと【跳躍の上昇】の現れ	「文節単位のコま切れ発話」の特徴について解説します ・終助詞の表れ ・【跳躍の上昇】の現れ
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。受講生の半分が発表します。
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します。前回発表しなかった受講生が発表します。
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

「コミュニケーション」における日本語という言葉について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店

『コミュニケーション事典』平凡社

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題: 20%

平常点: 20%

発表: 20%

試験の得点: 40%,
合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体験者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

ESOP生(交換留学生)は、日本語能力試験(JLPT) N1レベル以上の学生を対象とします(希望者が多い場合は選考します)。

ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Presentation performance: 20%,
Assignments : 20%, in class contribution: 20%

日本語 1

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の政治・経済について理解を深めることを目的とします。授業では、日本の政治・経済という大きなテーマを、様々な角度から小テーマに切り分ける形で少しずつ学んでいきます。毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。なお、授業は、留学生を対象とするため、平易な日本語で行われますが、受講者は日本語能力試験（JLPT）のN1レベルであることがぞましいです。

【到達目標】

政治・経済の基本を適切に理解した上で、さらに現代的・国際的な視点から、政治・経済の現状や課題について論じられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。
毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。そのため、受講生の積極的な授業参加を期待します。中間・期末テストについては、筆記テスト（レポート）以外に、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とする場合もあります。
なお、指導にあたっては、パワーポイントや映像資料なども使用して、理解の促進に役立てるようにします。
以下のファイルやシステムを用いて、授業をすすめますので、それに対応した端末とインターネット環境が必要です。
授業は「Power Point」「Word」「YouTube の動画」を用いて、多様な活動を行います。
授業で用いるハンドアウトの配布、授業、小テスト、中間・期末テストについての告知は、「Google Classroom」上で行います。
また、小テストの実施や、宿題の提出、フィードバックも、「Google Classroom」上で行います。
さらに、授業後の自律的な学習（復習）のために、授業で用いた「Power Point」（PDF）を、「Google Classroom」にアップする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業で用いる日本語レベルの確認など。また、少し授業を開始し、内容を具体的に理解してもらう。
2	経済とは	市場、受容と供給の法則、価格メカニズム
3	経済はどのように循環しているのか	政府・家計・企業の関係、株式会社の特徴
4	国の豊かさの測り方	GDP、経済成長、景気・不景気、インフレ・デフレ
5	金融・財政政策のしくみ	通貨制度、日本銀行と金融政策、財政のしくみ
6	経済学の流れ	主な経済思想、経済体制
7	中間テスト	中間テスト、まとめと授業のふりかえり
8	国際経済はどのようなしくみで動いているのか	貿易と国際収支、外国為替相場、国際通貨体制、アジアの経済
9	政治とは	民主主義の基本原則、政治と国家、世界の政治制度
10	日本国憲法の特徴とは	国民主権、基本的人権と法の支配、平和主義
11	日本の統治機構はどうなっているのか	三権分立、国会、裁判所、政党と政党政治

12	国際社会のルールはどうなっているのか	国家と国際社会、国際連合と国際機構、日本の国際貢献
13	いま国際社会にある問題とは	南北問題、人権民族問題、難民問題、地球環境問題
14	期末テスト	期末テスト、まとめと授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。
毎回、授業後に必ず2時間程度の復習をしましょう。
また、ふだんから新聞、テレビ、インターネットなどで日本のニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、ハンドアウト（または、映像資料など）を配布します。

【参考書】

山崎広明『新版もういちど読む山川政治経済』山川出版社、2018年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（1）しくみがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（2）ニュースがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
南英世『学びなおすと政治・経済はおもしろい』ベレ出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20％）・宿題（20％）：40％
中間（25％）・期末テスト（25％）：50％
授業参加度：10％
※欠席が4回以上の場合、単位は出ません。
※欠席4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスでディスカッションする場合に、ペアやグループの組み合わせは毎回くじびきで決めています。このやり方は、学部異なる学生間で意見交換ができ、学期が終わる頃にはクラス全体に一体感が生まれていて、学生にも好評なので、継続させたいと考えています。
また、学生の日本語レベルにやや大きめの差があることに気づかされたことから、その救済策として、（2025年度は）未提出の宿題を提出する機会を最終月に設け、宿題をもれなく仕上げることを重視して再挑戦するチャンスとしました。その場合は、しめきり厳守で提出した場合と同等の評価であっても不公平なので、（学生にも周知した上で）点数は半分としました。

【学生が準備すべき機器他】

発表などの活動によっては、パソコンなどのデジタル・デバイスを持参してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※クラスの人数が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本の政治経済（A8762）」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。

【Outline (in English)】

This class aims to deepen understanding of Japanese politics and economy. In the lessons, students will gradually learn the major themes of Japan's politics and economy, cutting them into small themes from various angles. The first half of the each lesson focuses on basic learning (to acquire basic knowledge of politics and economics; take a quiz to confirm). In the second half of the lesson, we will perform activities (pair talk, group discussion, oral presentation on contemporary topics and issues related to the theme). While the lessons will be conducted in an easy-to-understand Japanese language for International students, However, students are expected to be at the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, and to be prepared for the review quiz in the next class. Your study time is at least four hours for each class meeting. (Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination 25 %
Therm-end examination 25 %
Assignments 20 %
Quizzes 20 %
in class contribution 10 %
※ Students who have missed more than 4 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

*Students taking this class must attend the first and second weeks of class. If a student attends the class for the first time in the third week, he/she will not be allowed to take the class.

* If there is a large number of applicants for a class, a selection will be made.

(Others)

※This class was called "Japanese Politics and Economics (A8762)" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

日本語 1

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の政治・経済について理解を深めることを目的とします。授業では、日本の政治・経済という大きなテーマを、様々な角度から小テーマに切り分ける形で少しずつ学んでいきます。毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。なお、授業は、留学生を対象とするため、平易な日本語で行われますが、受講者は日本語能力試験（JLPT）のN1レベルであることがぞましいです。

【到達目標】

政治・経済の基本を適切に理解した上で、さらに現代的・国際的な視点から、政治・経済の現状や課題について論じられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。
毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。そのため、受講生の積極的な授業参加を期待します。中間・期末テストについては、筆記テスト（レポート）以外に、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とする場合もあります。なお、指導にあたっては、パワーポイントや映像資料なども使用して、理解の促進に役立てるようにします。以下のファイルやシステムを用いて、授業をすすめますので、それに対応した端末とインターネット環境が必要です。授業は「Power Point」「Word」「YouTube の動画」を用いて、多様な活動を行います。授業で用いるハンドアウトの配布、授業、小テスト、中間・期末テストについての告知は、「Google Classroom」上で行います。また、小テストの実施や、宿題の提出、フィードバックも、「Google Classroom」上で行います。さらに、授業後の自律的な学習（復習）のために、授業で用いた「Power Point」（PDF）を、「Google Classroom」にアップする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業で用いる日本語レベルの確認など。また、少し授業を開始し、内容を具体的に理解してもらう。
2	経済とは	市場、受容と供給の法則、価格メカニズム
3	経済はどのように循環しているのか	政府・家計・企業の関係、株式会社の特徴
4	国の豊かさの測り方	GDP、経済成長、景気・不景気、インフレ・デフレ
5	金融・財政政策のしくみ	通貨制度、日本銀行と金融政策、財政のしくみ
6	経済学の流れ	主な経済思想、経済体制
7	中間テスト	中間テスト、まとめと授業のふりかえり
8	国際経済はどのようなしくみで動いているのか	貿易と国際収支、外国為替相場、国際通貨体制、アジアの経済
9	政治とは	民主主義の基本原則、政治と国家、世界の政治制度
10	日本国憲法の特徴とは	国民主権、基本的人権と法の支配、平和主義
11	日本の統治機構はどうなっているのか	三権分立、国会、裁判所、政党と政治

12	国際社会のルールはどうなっているのか	国家と国際社会、国際連合と国際機構、日本の国際貢献
13	いま国際社会にある問題とは	南北問題、人権民族問題、難民問題、地球環境問題
14	期末テスト	期末テスト、まとめと授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。
毎回、授業後に必ず2時間程度の復習をしましょう。
また、ふだんから新聞、テレビ、インターネットなどで日本のニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、ハンドアウト（または、映像資料など）を配布します。

【参考書】

山崎広明『新版もういちど読む山川政治経済』山川出版社、2018年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（1）しくみがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（2）ニュースがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
南英世『学びなおすと政治・経済はおもしろい』ベレ出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20％）・宿題（20％）：40％
中間（25％）・期末テスト（25％）：50％
授業参加度：10％
※欠席が4回以上の場合、単位は出ません。
※欠席4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスでディスカッションする場合に、ペアやグループの組み合わせは毎回くじびきで決めています。このやり方は、学部の異なる学生間で意見交換ができ、学期が終わる頃にはクラス全体に一体感が生まれていて、学生にも好評なので、継続させたいと考えています。
また、学生の日本語レベルにやや大きめの差があることに気づかされたことから、その救済策として、（2025年度は）未提出の宿題を提出する機会を最終月に設け、宿題をもれなく仕上げることを重視して再挑戦するチャンスとしました。その場合は、しめきり厳守で提出した場合と同等の評価であっても不公平なので、（学生にも周知した上で）点数は半分としました。

【学生が準備すべき機器他】

発表などの活動によっては、パソコンなどのデジタル・デバイスを持参してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※クラスの人数が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本の政治経済（A8762）」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。

【Outline (in English)】

This class aims to deepen understanding of Japanese politics and economy. In the lessons, students will gradually learn the major themes of Japan's politics and economy, cutting them into small themes from various angles. The first half of the each lesson focuses on basic learning (to acquire basic knowledge of politics and economics; take a quiz to confirm). In the second half of the lesson, we will perform activities (pair talk, group discussion, oral presentation on contemporary topics and issues related to the theme). While the lessons will be conducted in an easy-to-understand Japanese language for International students, However, students are expected to be at the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, and to be prepared for the review quiz in the next class. Your study time is at least four hours for each class meeting. (Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination 25 %
Therm-end examination 25 %
Assignments 20 %
Quizzes 20 %
in class contribution 10 %
※ Students who have missed more than 4 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

*Students taking this class must attend the first and second weeks of class. If a student attends the class for the first time in the third week, he/she will not be allowed to take the class.

* If there is a large number of applicants for a class, a selection will be made.

(Others)

※This class was called "Japanese Politics and Economics (A8762)" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

日本語 1

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の政治・経済について理解を深めることを目的とします。授業では、日本の政治・経済という大きなテーマを、様々な角度から小テーマに切り分ける形で少しずつ学んでいきます。毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。なお、授業は、留学生を対象とするため、平易な日本語で行われますが、受講者は日本語能力試験（JLPT）のN1レベルであることがぞましいです。

【到達目標】

政治・経済の基本を適切に理解した上で、さらに現代的・国際的な視点から、政治・経済の現状や課題について論じられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。
毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。そのため、受講生の積極的な授業参加を期待します。中間・期末テストについては、筆記テスト（レポート）以外に、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とする場合もあります。
なお、指導にあたっては、パワーポイントや映像資料なども使用して、理解の促進に役立てるようにします。
以下のファイルやシステムを用いて、授業をすすめますので、それに対応した端末とインターネット環境が必要です。
授業は「Power Point」「Word」「YouTube の動画」を用いて、多様な活動を行います。
授業で用いるハンドアウトの配布、授業、小テスト、中間・期末テストについての告知は、「Google Classroom」上で行います。
また、小テストの実施や、宿題の提出、フィードバックも、「Google Classroom」上で行います。
さらに、授業後の自律的な学習（復習）のために、授業で用いた「Power Point」（PDF）を、「Google Classroom」にアップする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業で用いる日本語レベルの確認など。また、少し授業を開始し、内容を具体的に理解してもらう。
2	経済とは	市場、受容と供給の法則、価格メカニズム
3	経済はどのように循環しているのか	政府・家計・企業の関係、株式会社の特徴
4	国の豊かさの測り方	GDP、経済成長、景気・不景気、インフレ・デフレ
5	金融・財政政策のしくみ	通貨制度、日本銀行と金融政策、財政のしくみ
6	経済学の流れ	主な経済思想、経済体制
7	中間テスト	中間テスト、まとめと授業のふりかえり
8	国際経済はどのようなしくみで動いているのか	貿易と国際収支、外国為替相場、国際通貨体制、アジアの経済
9	政治とは	民主主義の基本原則、政治と国家、世界の政治制度
10	日本国憲法の特徴とは	国民主権、基本的人権と法の支配、平和主義
11	日本の統治機構はどうなっているのか	三権分立、国会、裁判所、政党と政治

12	国際社会のルールはどうなっているのか	国家と国際社会、国際連合と国際機構、日本の国際貢献
13	いま国際社会にある問題とは	南北問題、人権民族問題、難民問題、地球環境問題
14	期末テスト	期末テスト、まとめと授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。
毎回、授業後に必ず2時間程度の復習をしましょう。
また、ふだんから新聞、テレビ、インターネットなどで日本のニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、ハンドアウト（または、映像資料など）を配布します。

【参考書】

山崎広明『新版もういちど読む山川政治経済』山川出版社、2018年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（1）しくみがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（2）ニュースがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
南英世『学びなおすと政治・経済はおもしろい』ベレ出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20％）・宿題（20％）：40％
中間（25％）・期末テスト（25％）：50％
授業参加度：10％
※欠席が4回以上の場合、単位は出ません。
※欠席4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスでディスカッションする場合に、ペアやグループの組み合わせは毎回くじびきで決めています。このやり方は、学部の異なる学生間で意見交換ができ、学期が終わる頃にはクラス全体に一体感が生まれていて、学生にも好評なので、継続させたいと考えています。
また、学生の日本語レベルにやや大きめの差があることに気づかされたことから、その救済策として、（2025年度は）未提出の宿題を提出する機会を最終月に設け、宿題をもれなく仕上げることを重視して再挑戦するチャンスとしました。その場合は、しめきり厳守で提出した場合と同等の評価であっても不公平なので、（学生にも周知した上で）点数は半分としました。

【学生が準備すべき機器他】

発表などの活動によっては、パソコンなどのデジタル・デバイスを持参してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※クラスの人数が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本の政治経済（A8762）」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。

【Outline (in English)】

This class aims to deepen understanding of Japanese politics and economy. In the lessons, students will gradually learn the major themes of Japan's politics and economy, cutting them into small themes from various angles. The first half of the each lesson focuses on basic learning (to acquire basic knowledge of politics and economics; take a quiz to confirm). In the second half of the lesson, we will perform activities (pair talk, group discussion, oral presentation on contemporary topics and issues related to the theme). While the lessons will be conducted in an easy-to-understand Japanese language for International students, However, students are expected to be at the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, and to be prepared for the review quiz in the next class. Your study time is at least four hours for each class meeting. (Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination 25 %
Therm-end examination 25 %
Assignments 20 %
Quizzes 20 %
in class contribution 10 %
※ Students who have missed more than 4 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

*Students taking this class must attend the first and second weeks of class. If a student attends the class for the first time in the third week, he/she will not be allowed to take the class.

* If there is a large number of applicants for a class, a selection will be made.

(Others)

※This class was called "Japanese Politics and Economics (A8762)" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

日本語 2

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の政治・経済について理解を深めることを目的とします。授業では、日本の政治・経済という大きなテーマを、様々な角度から小テーマに切り分ける形で少しずつ学んでいきます。毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。なお、授業は、留学生を対象とするため、平易な日本語で行われますが、受講者は日本語能力試験（JLPT）のN1レベルであることがぞましいです。

【到達目標】

政治・経済の基本を適切に理解した上で、さらに現代的・国際的な視点から、政治・経済の現状や課題について論じられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。
毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。そのため、受講生の積極的な授業参加を期待します。中間・期末テストについては、筆記テスト（レポート）以外に、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とする場合もあります。
なお、指導にあたっては、パワーポイントや映像資料なども使用して、理解の促進に役立てるようにします。
以下のファイルやシステムを用いて、授業をすすめますので、それに対応した端末とインターネット環境が必要です。
授業は「Power Point」「Word」「YouTube の動画」を用いて、多様な活動を行います。
授業で用いるハンドアウトの配布、授業、小テスト、中間・期末テストについての告知は、「Google Classroom」上で行います。
また、小テストの実施や、宿題の提出、フィードバックも、「Google Classroom」上で行います。
さらに、授業後の自律的な学習（復習）のために、授業で用いた「Power Point」（PDF）を、「Google Classroom」にアップする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業で用いる日本語レベルの確認など。また、少し授業を開始し、内容を具体的に理解してもらう。
2	経済とは	市場、受容と供給の法則、価格メカニズム
3	経済はどのように循環しているのか	政府・家計・企業の関係、株式会社の特徴
4	国の豊かさの測り方	GDP、経済成長、景気・不景気、インフレ・デフレ
5	金融・財政政策のしくみ	通貨制度、日本銀行と金融政策、財政のしくみ
6	経済学の流れ	主な経済思想、経済体制
7	中間テスト	中間テスト、まとめと授業のふりかえり
8	国際経済はどのようなしくみで動いているのか	貿易と国際収支、外国為替相場、国際通貨体制、アジアの経済
9	政治とは	民主主義の基本原則、政治と国家、世界の政治制度
10	日本国憲法の特徴とは	国民主権、基本的人権と法の支配、平和主義
11	日本の統治機構はどうなっているのか	三権分立、国会、裁判所、政党と政党政治

12	国際社会のルールはどうなっているのか	国家と国際社会、国際連合と国際機構、日本の国際貢献
13	いま国際社会にある問題とは	南北問題、人権民族問題、難民問題、地球環境問題
14	期末テスト	期末テスト、まとめと授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。
毎回、授業後に必ず2時間程度の復習をしましょう。
また、ふだんから新聞、テレビ、インターネットなどで日本のニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、ハンドアウト（または、映像資料など）を配布します。

【参考書】

山崎広明『新版もういちど読む山川政治経済』山川出版社、2018年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（1）しくみがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（2）ニュースがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
南英世『学びなおすと政治・経済はおもしろい』ベレ出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20％）・宿題（20％）：40％
中間（25％）・期末テスト（25％）：50％
授業参加度：10％
※欠席が4回以上の場合、単位は出ません。
※欠席4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスでディスカッションする場合に、ペアやグループの組み合わせは毎回くじびきで決めています。このやり方は、学部異なる学生間で意見交換ができ、学期が終わる頃にはクラス全体に一体感が生まれていて、学生にも好評なので、継続させたいと考えています。
また、学生の日本語レベルにやや大きめの差があることに気づかされたことから、その救済策として、（2025年度は）未提出の宿題を提出する機会を最終月に設け、宿題をもれなく仕上げることを重視して再挑戦するチャンスとしました。その場合は、しめきり厳守で提出した場合と同等の評価であっては不公平なので、（学生にも周知した上で）点数は半分としました。

【学生が準備すべき機器他】

発表などの活動によっては、パソコンなどのデジタル・デバイスを持参してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※クラスの人数が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本の政治経済（A8762）」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。

【Outline (in English)】

This class aims to deepen understanding of Japanese politics and economy. In the lessons, students will gradually learn the major themes of Japan's politics and economy, cutting them into small themes from various angles. The first half of the each lesson focuses on basic learning (to acquire basic knowledge of politics and economics; take a quiz to confirm). In the second half of the lesson, we will perform activities (pair talk, group discussion, oral presentation on contemporary topics and issues related to the theme). While the lessons will be conducted in an easy-to-understand Japanese language for International students, However, students are expected to be at the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, and to be prepared for the review quiz in the next class. Your study time is at least four hours for each class meeting. (Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination 25 %
Therm-end examination 25 %
Assignments 20 %
Quizzes 20 %
in class contribution 10 %
※ Students who have missed more than 4 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

*Students taking this class must attend the first and second weeks of class. If a student attends the class for the first time in the third week, he/she will not be allowed to take the class.

* If there is a large number of applicants for a class, a selection will be made.

(Others)

※This class was called "Japanese Politics and Economics (A8762)" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

日本語 2

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の政治・経済について理解を深めることを目的とします。授業では、日本の政治・経済という大きなテーマを、様々な角度から小テーマに切り分ける形で少しずつ学んでいきます。毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。なお、授業は、留学生を対象とするため、平易な日本語で行われますが、受講者は日本語能力試験（JLPT）のN1レベルであることがぞましいです。

【到達目標】

政治・経済の基本を適切に理解した上で、さらに現代的・国際的な視点から、政治・経済の現状や課題について論じられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。
毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。そのため、受講生の積極的な授業参加を期待します。中間・期末テストについては、筆記テスト（レポート）以外に、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とする場合もあります。
なお、指導にあたっては、パワーポイントや映像資料なども使用して、理解の促進に役立てるようにします。
以下のファイルやシステムを用いて、授業をすすめますので、それに対応した端末とインターネット環境が必要です。
授業は「Power Point」「Word」「YouTube の動画」を用いて、多様な活動を行います。
授業で用いるハンドアウトの配布、授業、小テスト、中間・期末テストについての告知は、「Google Classroom」上で行います。
また、小テストの実施や、宿題の提出、フィードバックも、「Google Classroom」上で行います。
さらに、授業後の自律的な学習（復習）のために、授業で用いた「Power Point」（PDF）を、「Google Classroom」にアップする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業で用いる日本語レベルの確認など。また、少し授業を開始し、内容を具体的に理解してもらう。
2	経済とは	市場、受容と供給の法則、価格メカニズム
3	経済はどのように循環しているのか	政府・家計・企業の関係、株式会社の特徴
4	国の豊かさの測り方	GDP、経済成長、景気・不景気、インフレ・デフレ
5	金融・財政政策のしくみ	通貨制度、日本銀行と金融政策、財政のしくみ
6	経済学の流れ	主な経済思想、経済体制
7	中間テスト	中間テスト、まとめと授業のふりかえり
8	国際経済はどのようなしくみで動いているのか	貿易と国際収支、外国為替相場、国際通貨体制、アジアの経済
9	政治とは	民主主義の基本原則、政治と国家、世界の政治制度
10	日本国憲法の特徴とは	国民主権、基本的人権と法の支配、平和主義
11	日本の統治機構はどうなっているのか	三権分立、国会、裁判所、政党と政治

12	国際社会のルールはどうなっているのか	国家と国際社会、国際連合と国際機構、日本の国際貢献
13	いま国際社会にある問題とは	南北問題、人権民族問題、難民問題、地球環境問題
14	期末テスト	期末テスト、まとめと授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。
毎回、授業後に必ず2時間程度の復習をしましょう。
また、ふだんから新聞、テレビ、インターネットなどで日本のニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、ハンドアウト（または、映像資料など）を配布します。

【参考書】

山崎広明『新版もういちど読む山川政治経済』山川出版社、2018年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（1）しくみがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（2）ニュースがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
南英世『学びなおすと政治・経済はおもしろい』ベレ出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20％）・宿題（20％）：40％
中間（25％）・期末テスト（25％）：50％
授業参加度：10％
※欠席が4回以上の場合、単位は出ません。
※欠席4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスでディスカッションする場合に、ペアやグループの組み合わせは毎回くじびきで決めています。このやり方は、学部の異なる学生間で意見交換ができ、学期が終わる頃にはクラス全体に一体感が生まれていて、学生にも好評なので、継続させたいと考えています。
また、学生の日本語レベルにやや大きめの差があることに気づかされたことから、その救済策として、（2025年度は）未提出の宿題を提出する機会を最終月に設け、宿題をもれなく仕上げることを重視して再挑戦するチャンスとしました。その場合は、しめきり厳守で提出した場合と同等の評価であっては不公平なので、（学生にも周知した上で）点数は半分としました。

【学生が準備すべき機器他】

発表などの活動によっては、パソコンなどのデジタル・デバイスを持参してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※クラスの人数が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本の政治経済（A8762）」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。

【Outline (in English)】

This class aims to deepen understanding of Japanese politics and economy. In the lessons, students will gradually learn the major themes of Japan's politics and economy, cutting them into small themes from various angles. The first half of the each lesson focuses on basic learning (to acquire basic knowledge of politics and economics; take a quiz to confirm). In the second half of the lesson, we will perform activities (pair talk, group discussion, oral presentation on contemporary topics and issues related to the theme). While the lessons will be conducted in an easy-to-understand Japanese language for International students, However, students are expected to be at the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, and to be prepared for the review quiz in the next class. Your study time is at least four hours for each class meeting. (Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination 25 %
Therm-end examination 25 %
Assignments 20 %
Quizzes 20 %
in class contribution 10 %
※ Students who have missed more than 4 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

*Students taking this class must attend the first and second weeks of class. If a student attends the class for the first time in the third week, he/she will not be allowed to take the class.

* If there is a large number of applicants for a class, a selection will be made.

(Others)

※This class was called "Japanese Politics and Economics (A8762)" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

日本語 2

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、日本の政治・経済について理解を深めることを目的とします。授業では、日本の政治・経済という大きなテーマを、様々な角度から小テーマに切り分ける形で少しずつ学んでいきます。毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。なお、授業は、留学生を対象とするため、平易な日本語で行われますが、受講者は日本語能力試験（JLPT）のN1レベルであることがぞましいです。

【到達目標】

政治・経済の基本を適切に理解した上で、さらに現代的・国際的な視点から、政治・経済の現状や課題について論じられるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

進め方と方法は以下の通りです。
毎回、授業の前半では、①基本学習（政治・経済の基礎的知識の習得、確認のための小テスト）を行います。授業の後半では、②活動（テーマに関連する現代の話題や問題について、ペアトーク、グループディスカッション、口頭発表）を行います。そのため、受講生の積極的な授業参加を期待します。中間・期末テストについては、筆記テスト（レポート）以外に、口頭発表（プレゼンテーション）を評価対象とする場合もあります。
なお、指導にあたっては、パワーポイントや映像資料なども使用して、理解の促進に役立てるようにします。
以下のファイルやシステムを用いて、授業をすすめますので、それに対応した端末とインターネット環境が必要です。
授業は「Power Point」「Word」「YouTube の動画」を用いて、多様な活動を行います。
授業で用いるハンドアウトの配布、授業、小テスト、中間・期末テストについての告知は、「Google Classroom」上で行います。
また、小テストの実施や、宿題の提出、フィードバックも、「Google Classroom」上で行います。
さらに、授業後の自律的な学習（復習）のために、授業で用いた「Power Point」（PDF）を、「Google Classroom」にアップする場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業で用いる日本語レベルの確認など。また、少し授業を開始し、内容を具体的に理解してもらう。
2	経済とは	市場、受容と供給の法則、価格メカニズム
3	経済はどのように循環しているのか	政府・家計・企業との関係、株式会社の特徴
4	国の豊かさの測り方	GDP、経済成長、景気・不景気、インフレ・デフレ
5	金融・財政政策のしくみ	通貨制度、日本銀行と金融政策、財政のしくみ
6	経済学の流れ	主な経済思想、経済体制
7	中間テスト	中間テスト、まとめと授業のふりかえり
8	国際経済はどのようなしくみで動いているのか	貿易と国際収支、外国為替相場、国際通貨体制、アジアの経済
9	政治とは	民主主義の基本原則、政治と国家、世界の政治制度
10	日本国憲法の特徴とは	国民主権、基本的人権と法の支配、平和主義
11	日本の統治機構はどうなっているのか	三権分立、国会、裁判所、政党と政治

12	国際社会のルールはどうなっているのか	国家と国際社会、国際連合と国際機構、日本の国際貢献
13	いま国際社会にある問題とは	南北問題、人権民族問題、難民問題、地球環境問題
14	期末テスト	期末テスト、まとめと授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。
毎回、授業後に必ず2時間程度の復習をしましょう。
また、ふだんから新聞、テレビ、インターネットなどで日本のニュースに接するようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回、ハンドアウト（または、映像資料など）を配布します。

【参考書】

山崎広明『新版もういちど読む山川政治経済』山川出版社、2018年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（1）しくみがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
池上彰『池上彰のやさしい経済学（2）ニュースがわかる』日経ビジネス人文庫、2013年。
南英世『学びなおすと政治・経済はおもしろい』ベレ出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20％）・宿題（20％）：40％
中間（25％）・期末テスト（25％）：50％
授業参加度：10％
※欠席が4回以上の場合、単位は出ません。
※欠席4回以上の学生は期末テストを受験することができません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスでディスカッションする場合に、ペアやグループの組み合わせは毎回くじびきで決めています。このやり方は、学部の異なる学生間で意見交換ができ、学期が終わる頃にはクラス全体に一体感が生まれていて、学生にも好評なので、継続させたいと考えています。
また、学生の日本語レベルにやや大きめの差があることに気づかされたことから、その救済策として、（2025年度は）未提出の宿題を提出する機会を最終月に設け、宿題をもれなく仕上げることを重視して再挑戦するチャンスとしました。その場合は、しめきり厳守で提出した場合と同等の評価であっても不公平なので、（学生にも周知した上で）点数は半分としました。

【学生が準備すべき機器他】

発表などの活動によっては、パソコンなどのデジタル・デバイスを持参してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目、2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※クラスの人数が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本の政治経済（A8762）」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。

【Outline (in English)】

This class aims to deepen understanding of Japanese politics and economy. In the lessons, students will gradually learn the major themes of Japan's politics and economy, cutting them into small themes from various angles. The first half of the each lesson focuses on basic learning (to acquire basic knowledge of politics and economics; take a quiz to confirm). In the second half of the lesson, we will perform activities (pair talk, group discussion, oral presentation on contemporary topics and issues related to the theme). While the lessons will be conducted in an easy-to-understand Japanese language for International students, However, students are expected to be at the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT). (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, and to be prepared for the review quiz in the next class. Your study time is at least four hours for each class meeting. (Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Mid-term examination 25 %
Therm-end examination 25 %
Assignments 20 %
Quizzes 20 %
in class contribution 10 %
※ Students who have missed more than 4 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

*Students taking this class must attend the first and second weeks of class. If a student attends the class for the first time in the third week, he/she will not be allowed to take the class.

* If there is a large number of applicants for a class, a selection will be made.

(Others)

※This class was called "Japanese Politics and Economics (A8762)" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

日本語 3

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはJLPTのN2以上の日本語力を持つ留学生を対象としたクラスです（クラス単位数は2単位）。このクラスでは様々なメディア作品（ドラマ、映画等）の内容理解、要約練習を行います。そして、作品に表象される社会問題についてのディスカッションを行います。加えてクラスではメディア作品をベースにしたミニドラマの動画作成を行い、登場人物の感情分析、ストーリーの創作、日本語での演技の練習も行います。

【到達目標】

このコースを履修（りしゅう）することで、学生は以下の能力を高めることができます。

- ①聴解力、要約力、ディスカッションの力を高めることができる。
- ②メディア作品の分析力を高め、批評を書くことができるようになる。
- ③メディア作品を紹介する発表を行うことができるようになる。
- ④動画作成により日本語の表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前に Google Classroom に登録して、そこに書いてある説明を読んでください（Google Classroom のコードは Hoppi に書いてあります）。授業の流れは以下の通り。

1. メディア作品のテーマについてディスカッション
2. メディア作品の内容理解、要約の練習
3. 内容に関するディスカッション
4. 課題提出

*課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	コースの概要について説明する。
2回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション①：作品の背景について考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション①。作品の背景を考える。作品を通じて日本社会を分析する。
3回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション②：作品がどのように社会とつながっているか考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション②。作品を通じて社会問題について考える。
4回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション③：登場人物の心理分析	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション③。登場人物の心の動きを分析し、日本語で表現する。
5回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション④：ストーリーの要約練習	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション④。作品のストーリーをまとめたり、今後のストーリーを創作する。
6回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑤：作品の批評文作成	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑤。作品の批評文作成を通じて洗練された日本語表現を学ぶ。
7回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑥：作品の批評文の読み合い	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑥。批評文を読み合い、学び合う。
8回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑦：最後にドラマ全体のテーマを深掘りする。	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑦。ドラマ全体のまとめを行い、作品の中心的なテーマの分析を深める。
9回目	これまでの復習と最終発表の説明とテーマ選び	学んだことを復習し、中間試験の準備をする。
10回目	中間試験	中間試験で学習状況を把握する。
11回目	グループ発表の準備	グループ発表のテーマを決め、レジュメを作成する。

12回目	学生によるグループ発表(1)第一グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション①受講生を3つに分け、第一グループが報告する。
13回目	学生によるグループ発表(2)第二グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション②受講生を3つに分け、第二グループが報告する。
14回目	学生によるグループ発表(3)第三グループ、講評、まとめ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション③受講生を3つに分け、第三グループが報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。授業で示される課題に対応して予習、復習、宿題をしてください。

【テキスト（教科書）】

教員作成プリント

【参考書】

『日本の映画史-10のテーマ-』(2014)平野共余子 くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

以下の点を総合的に評価します。

- ・平常点 25%
- ・課題 25%
- ・中間試験 25%
- ・期末発表 25%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

今年度クラスで扱った作品はおおむね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

- ・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com> を開く
 - ② 法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する（授業コードは JLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）
- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目と2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※履修希望者が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本社会とメディアS」、2024～2025年度まで「日本社会とメディアB」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。
※時事的なテーマを扱った作品について分析しますので、テーマや内容については最新の世界情勢に応じて適宜変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This class is for students who have JLPT N2 or equivalent proficiency in the Japanese language (a two-credit course). The course introduces various media (dramas, movies, etc.) and discusses the content and social and cultural issues surrounding these works. Students are expected to use the dramas and films introduced in class to create mini dramas and practice acting in Japanese.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to have developed the following: 1) language skills (listening comprehension, summarizing skills, essay writing skills, discussion skills, the ability to express opinions, the ability to create presentations, etc.); 2) analytical skills with media works; and 3) the ability to express their feelings and emotions in Japanese through acting presentations.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

・Grading will be decided on the basis of the following:

- In-class Contribution: 25%
- Assignments: 25%
- Mid-term Exam: 25%
- Final Presentation: 25%

- ・ No credit will be given to students who are absent more than three times.
- ・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.
- ・ Students who are absent more than three times can not take the mid-term exam.

【Others】

※ This class was called "Japanese Society and Media S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

日本語 3

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはJLPTのN2以上の日本語力を持つ留学生を対象としたクラスです（クラス単位数は2単位）。このクラスでは様々なメディア作品（ドラマ、映画等）の内容理解、要約練習を行います。そして、作品に表象される社会問題についてのディスカッションを行います。加えてクラスではメディア作品をベースにしたミニドラマの動画作成を行い、登場人物の感情分析、ストーリーの創作、日本語での演技の練習も行います。

【到達目標】

このコースを履修（りしゅう）することで、学生は以下の能力を高めることができます。

- ①聴解力、要約力、ディスカッションの力を高めることができる。
- ②メディア作品の分析力を高め、批評を書くことができるようになる。
- ③メディア作品を紹介する発表を行うことができるようになる。
- ④動画作成により日本語の表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前に Google Classroom に登録して、そこに書いてある説明を読んでください（Google Classroom のコードは Hoppi に書いてあります）。授業の流れは以下の通り。

1. メディア作品のテーマについてディスカッション
2. メディア作品の内容理解、要約の練習
3. 内容に関するディスカッション
4. 課題提出

*課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	コースの概要について説明する。
2回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション①：作品の背景について考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション①。作品の背景を考える。作品を通じて日本社会を分析する。
3回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション②：作品がどのように社会とつながっているか考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション②。作品を通じて社会問題について考える。
4回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション③：登場人物の心理分析	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション③。登場人物の心の動きを分析し、日本語で表現する。
5回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション④：ストーリーの要約練習	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション④。作品のストーリーをまとめたり、今後のストーリーを創作する。
6回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑤：作品の批評文作成	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑤。作品の批評文作成を通じて洗練された日本語表現を学ぶ。
7回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑥：作品の批評文の読み合い	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑥。批評文を読み合い、学び合う。
8回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑦：最後にドラマ全体のテーマを深掘りする。	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑦。ドラマ全体のまとめを行い、作品の中心的なテーマの分析を深める。
9回目	これまでの復習と最終発表の説明とテーマ選び	学んだことを復習し、中間試験の準備をする。
10回目	中間試験	中間試験で学習状況を把握する。
11回目	グループ発表の準備	グループ発表のテーマを決め、レジュメを作成する。

12回目	学生によるグループ発表(1)第一グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション①受講生を3つに分け、第一グループが報告する。
13回目	学生によるグループ発表(2)第二グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション②受講生を3つに分け、第二グループが報告する。
14回目	学生によるグループ発表(3)第三グループ、講評、まとめ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション③受講生を3つに分け、第三グループが報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。授業で示される課題に対応して予習、復習、宿題をしてください。

【テキスト（教科書）】

教員作成プリント

【参考書】

『日本の映画史-10のテーマ-』(2014)平野共余子 くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

以下の点を総合的に評価します。

- ・平常点 25%
- ・課題 25%
- ・中間試験 25%
- ・期末発表 25%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

今年度クラスで扱った作品はおおむね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

- ・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com> を開く
 - ② 法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する（授業コードは JLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）
- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目と2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※履修希望者が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本社会とメディアS」、2024～2025年度まで「日本社会とメディアB」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。
※時事的なテーマを扱った作品について分析しますので、テーマや内容については最新の世界情勢に応じて適宜変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This class is for students who have JLPT N2 or equivalent proficiency in the Japanese language (a two-credit course). The course introduces various media (dramas, movies, etc.) and discusses the content and social and cultural issues surrounding these works. Students are expected to use the dramas and films introduced in class to create mini dramas and practice acting in Japanese.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to have developed the following: 1) language skills (listening comprehension, summarizing skills, essay writing skills, discussion skills, the ability to express opinions, the ability to create presentations, etc.); 2) analytical skills with media works; and 3) the ability to express their feelings and emotions in Japanese through acting presentations.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

・Grading will be decided on the basis of the following:

- In-class Contribution: 25%
- Assignments: 25%
- Mid-term Exam: 25%
- Final Presentation: 25%

- ・ No credit will be given to students who are absent more than three times.
- ・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.
- ・ Students who are absent more than three times can not take the mid-term exam.

【Others】

※ This class was called "Japanese Society and Media S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

日本語 3

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはJLPTのN2以上の日本語力を持つ留学生を対象としたクラスです（クラス単位数は2単位）。このクラスでは様々なメディア作品（ドラマ、映画等）の内容理解、要約練習を行います。そして、作品に表象される社会問題についてのディスカッションを行います。加えてクラスではメディア作品をベースにしたミニドラマの動画作成を行い、登場人物の感情分析、ストーリーの創作、日本語での演技の練習も行います。

【到達目標】

このコースを履修（りしゅう）することで、学生は以下の能力を高めることができます。

- ①聴解力、要約力、ディスカッションの力を高めることができる。
- ②メディア作品の分析力を高め、批評を書くことができるようになる。
- ③メディア作品を紹介する発表を行うことができるようになる。
- ④動画作成により日本語の表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前に Google Classroom に登録して、そこに書いてある説明を読んでください（Google Classroom のコードは Hoppi に書いてあります）。

授業の流れは以下の通り。

1. メディア作品のテーマについてディスカッション
2. メディア作品の内容理解、要約の練習
3. 内容に関するディスカッション
4. 課題提出

*課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	コースの概要について説明する。
2回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション①：作品の背景について考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション①。作品の背景を考える。作品を通じて日本社会を分析する。
3回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション②：作品がどのように社会とつながっているか考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション②。作品を通じて社会問題について考える。
4回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション③：登場人物の心理分析	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション③。登場人物の心の動きを分析し、日本語で表現する。
5回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション④：ストーリーの要約練習	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション④。作品のストーリーをまとめたり、今後のストーリーを創作する。
6回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑤：作品の批評文作成	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑤。作品の批評文作成を通じて洗練された日本語表現を学ぶ。
7回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑥：作品の批評文の読み合い	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑥。批評文を読み合い、学び合う。
8回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑦：最後にドラマ全体のテーマを深掘りする。	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑦。ドラマ全体のまとめを行い、作品の中心的なテーマの分析を深める。
9回目	これまでの復習と最終発表の説明とテーマ選び	学んだことを復習し、中間試験の準備をする。
10回目	中間試験	中間試験で学習状況を把握する。
11回目	グループ発表の準備	グループ発表のテーマを決め、レジュメを作成する。

12回目	学生によるグループ発表(1)第一グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション①受講生を3つに分け、第一グループが報告する。
13回目	学生によるグループ発表(2)第二グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション②受講生を3つに分け、第二グループが報告する。
14回目	学生によるグループ発表(3)第三グループ、講評、まとめ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション③受講生を3つに分け、第三グループが報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。授業で示される課題に対応して予習、復習、宿題をしてください。

【テキスト（教科書）】

教員作成プリント

【参考書】

『日本の映画史-10のテーマ-』(2014)平野共余子 くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

以下の点を総合的に評価します。

- ・平常点 25%
- ・課題 25%
- ・中間試験 25%
- ・期末発表 25%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

今年度クラスで扱った作品はおおむね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。

- ① <https://classroom.google.com> を開く
- ② 法政大学のメールアドレスを入れる
- ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する
(授業コードは JLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります)

- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスを登録していない人は、必ず大学のメールから自分がいづつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目と2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※履修希望者が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本社会とメディアS」、2024～2025年度まで「日本社会とメディアB」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。
※時事的なテーマを扱った作品について分析しますので、テーマや内容については最新の世界情勢に応じて適宜変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This class is for students who have JLPT N2 or equivalent proficiency in the Japanese language (a two-credit course). The course introduces various media (dramas, movies, etc.) and discusses the content and social and cultural issues surrounding these works. Students are expected to use the dramas and films introduced in class to create mini dramas and practice acting in Japanese.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to have developed the following: 1) language skills (listening comprehension, summarizing skills, essay writing skills, discussion skills, the ability to express opinions, the ability to create presentations, etc.); 2) analytical skills with media works; and 3) the ability to express their feelings and emotions in Japanese through acting presentations.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

・ Grading will be decided on the basis of the following:

- In-class Contribution: 25%
- Assignments: 25%
- Mid-term Exam: 25%
- Final Presentation: 25%

- ・ No credit will be given to students who are absent more than three times.
- ・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.
- ・ Students who are absent more than three times can not take the mid-term exam.

【Others】

※ This class was called "Japanese Society and Media S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

日本語 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはJLPTのN2以上の日本語力を持つ留学生を対象としたクラスです（クラス単位数は2単位）。このクラスでは様々なメディア作品（ドラマ、映画等）の内容理解、要約練習を行います。そして、作品に表象される社会問題についてのディスカッションを行います。加えてクラスではメディア作品をベースにしたミニドラマの動画作成を行い、登場人物の感情分析、ストーリーの創作、日本語での演技の練習も行います。

【到達目標】

このコースを履修（りしゅう）することで、学生は以下の能力を高めることができます。

- ①聴解力、要約力、ディスカッションの力を高めることができる。
- ②メディア作品の分析力を高め、批評を書くことができるようになる。
- ③メディア作品を紹介する発表を行うことができるようになる。
- ④動画作成により日本語の表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前に Google Classroom に登録して、そこに書いてある説明を読んでください（Google Classroom のコードは Hoppi に書いてあります）。授業の流れは以下の通り。

1. メディア作品のテーマについてディスカッション
2. メディア作品の内容理解、要約の練習
3. 内容に関するディスカッション
4. 課題提出

*課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	コースの概要について説明する。
2回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション①：作品の背景について考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション①。作品の背景を考える。作品を通じて日本社会を分析する。
3回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション②：作品がどのように社会とつながっているか考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション②。作品を通じて社会問題について考える。
4回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション③：登場人物の心理分析	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション③。登場人物の心の動きを分析し、日本語で表現する。
5回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション④：ストーリーの要約練習	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション④。作品のストーリーをまとめたり、今後のストーリーを創作する。
6回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑤：作品の批評文作成	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑤。作品の批評文作成を通じて洗練された日本語表現を学ぶ。
7回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑥：作品の批評文の読み合い	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑥。批評文を読み合い、学び合う。
8回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑦：最後にドラマ全体のテーマを深掘りする。	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑦。ドラマ全体のまとめを行い、作品の中心的なテーマの分析を深める。
9回目	これまでの復習と最終発表の説明とテーマ選び	学んだことを復習し、中間試験の準備をする。
10回目	中間試験	中間試験で学習状況を把握する。
11回目	グループ発表の準備	グループ発表のテーマを決め、レジュメを作成する。

12回目	学生によるグループ発表(1)第一グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション①受講生を3つに分け、第一グループが報告する。
13回目	学生によるグループ発表(2)第二グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション②受講生を3つに分け、第二グループが報告する。
14回目	学生によるグループ発表(3)第三グループ、講評、まとめ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション③受講生を3つに分け、第三グループが報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。授業で示される課題に対応して予習、復習、宿題をしてください。

【テキスト（教科書）】

教員作成プリント

【参考書】

『日本の映画史-10のテーマ-』(2014)平野共余子 くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

以下の点を総合的に評価します。

- ・平常点 25%
- ・課題 25%
- ・中間試験 25%
- ・期末発表 25%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

今年度クラスで扱った作品はおおむね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

- ・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com> を開く
 - ② 法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する（授業コードは JLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）
- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目と2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※履修希望者が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本社会とメディアS」、2024～2025年度まで「日本社会とメディアB」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。
※時事的なテーマを扱った作品について分析しますので、テーマや内容については最新の世界情勢に応じて適宜変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This class is for students who have JLPT N2 or equivalent proficiency in the Japanese language (a two-credit course). The course introduces various media (dramas, movies, etc.) and discusses the content and social and cultural issues surrounding these works. Students are expected to use the dramas and films introduced in class to create mini dramas and practice acting in Japanese.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to have developed the following: 1) language skills (listening comprehension, summarizing skills, essay writing skills, discussion skills, the ability to express opinions, the ability to create presentations, etc.); 2) analytical skills with media works; and 3) the ability to express their feelings and emotions in Japanese through acting presentations.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

・Grading will be decided on the basis of the following:

- In-class Contribution: 25%
- Assignments: 25%
- Mid-term Exam: 25%
- Final Presentation: 25%

- ・ No credit will be given to students who are absent more than three times.
- ・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.
- ・ Students who are absent more than three times can not take the mid-term exam.

【Others】

※ This class was called "Japanese Society and Media S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

日本語 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはJLPTのN2以上の日本語力を持つ留学生を対象としたクラスです（クラス単位数は2単位）。このクラスでは様々なメディア作品（ドラマ、映画等）の内容理解、要約練習を行います。そして、作品に表象される社会問題についてのディスカッションを行います。加えてクラスではメディア作品をベースにしたミニドラマの動画作成を行い、登場人物の感情分析、ストーリーの創作、日本語での演技の練習も行います。

【到達目標】

このコースを履修（りしゅう）することで、学生は以下の能力を高めることができます。

- ①聴解力、要約力、ディスカッションの力を高めることができる。
- ②メディア作品の分析力を高め、批評を書くことができるようになる。
- ③メディア作品を紹介する発表を行うことができるようになる。
- ④動画作成により日本語の表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前に Google Classroom に登録して、そこに書いてある説明を読んでください（Google Classroom のコードは Hoppi に書いてあります）。授業の流れは以下の通り。

1. メディア作品のテーマについてディスカッション
2. メディア作品の内容理解、要約の練習
3. 内容に関するディスカッション
4. 課題提出

*課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	コースの概要について説明する。
2回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション①：作品の背景について考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション①。作品の背景を考える。作品を通じて日本社会を分析する。
3回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション②：作品がどのように社会とつながっているか考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション②。作品を通じて社会問題について考える。
4回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション③：登場人物の心理分析	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション③。登場人物の心の動きを分析し、日本語で表現する。
5回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション④：ストーリーの要約練習	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション④。作品のストーリーをまとめたり、今後のストーリーを創作する。
6回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑤：作品の批評文作成	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑤。作品の批評文作成を通じて洗練された日本語表現を学ぶ。
7回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑥：作品の批評文の読み合い	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑥。批評文を読み合い、学び合う。
8回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑦：最後にドラマ全体のテーマを深掘りする。	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑦。ドラマ全体のまとめを行い、作品の中心的なテーマの分析を深める。
9回目	これまでの復習と最終発表の説明とテーマ選び	学んだことを復習し、中間試験の準備をする。
10回目	中間試験	中間試験で学習状況を把握する。
11回目	グループ発表の準備	グループ発表のテーマを決め、レジュメを作成する。

12回目	学生によるグループ発表(1)第一グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション①受講生を3つに分け、第一グループが報告する。
13回目	学生によるグループ発表(2)第二グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション②受講生を3つに分け、第二グループが報告する。
14回目	学生によるグループ発表(3)第三グループ、講評、まとめ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション③受講生を3つに分け、第三グループが報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。授業で示される課題に対応して予習、復習、宿題をしてください。

【テキスト（教科書）】

教員作成プリント

【参考書】

『日本の映画史-10のテーマ-』(2014)平野共余子 くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

以下の点を総合的に評価します。

- ・平常点 25%
- ・課題 25%
- ・中間試験 25%
- ・期末発表 25%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

今年度クラスで扱った作品はおおむね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

- ・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com> を開く
 - ② 法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する（授業コードは JLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）
- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目と2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※履修希望者が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本社会とメディアS」、2024～2025年度まで「日本社会とメディアB」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。
※時事的なテーマを扱った作品について分析しますので、テーマや内容については最新の世界情勢に応じて適宜変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This class is for students who have JLPT N2 or equivalent proficiency in the Japanese language (a two-credit course). The course introduces various media (dramas, movies, etc.) and discusses the content and social and cultural issues surrounding these works. Students are expected to use the dramas and films introduced in class to create mini dramas and practice acting in Japanese.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to have developed the following: 1) language skills (listening comprehension, summarizing skills, essay writing skills, discussion skills, the ability to express opinions, the ability to create presentations, etc.); 2) analytical skills with media works; and 3) the ability to express their feelings and emotions in Japanese through acting presentations.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

・Grading will be decided on the basis of the following:

- In-class Contribution: 25%
- Assignments: 25%
- Mid-term Exam: 25%
- Final Presentation: 25%

- ・ No credit will be given to students who are absent more than three times.
- ・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.
- ・ Students who are absent more than three times can not take the mid-term exam.

【Others】

※ This class was called "Japanese Society and Media S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

日本語 4

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはJLPTのN2以上の日本語力を持つ留学生を対象としたクラスです（クラス単位数は2単位）。このクラスでは様々なメディア作品（ドラマ、映画等）の内容理解、要約練習を行います。そして、作品に表象される社会問題についてのディスカッションを行います。加えてクラスではメディア作品をベースにしたミニドラマの動画作成を行い、登場人物の感情分析、ストーリーの創作、日本語での演技の練習も行います。

【到達目標】

このコースを履修（りしゅう）することで、学生は以下の能力を高めることができます。

- ①聴解力、要約力、ディスカッションの力を高めることができる。
- ②メディア作品の分析力を高め、批評を書くことができるようになる。
- ③メディア作品を紹介する発表を行うことができるようになる。
- ④動画作成により日本語の表現力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業前に Google Classroom に登録して、そこに書いてある説明を読んでください（Google Classroom のコードは Hoppi に書いてあります）。

授業の流れは以下の通り。

1. メディア作品のテーマについてディスカッション
2. メディア作品の内容理解、要約の練習
3. 内容に関するディスカッション
4. 課題提出

*課題等の提出・フィードバックは Google Classroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	コースの概要について説明する。
2回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション①：作品の背景について考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション①。作品の背景を考える。作品を通じて日本社会を分析する。
3回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション②：作品がどのように社会とつながっているか考える	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション②。作品を通じて社会問題について考える。
4回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション③：登場人物の心理分析	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション③。登場人物の心の動きを分析し、日本語で表現する。
5回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション④：ストーリーの要約練習	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション④。作品のストーリーをまとめたり、今後のストーリーを創作する。
6回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑤：作品の批評文作成	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑤。作品の批評文作成を通じて洗練された日本語表現を学ぶ。
7回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑥：作品の批評文の読み合い	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑥。批評文を読み合い、学び合う。
8回目	ドラマ・映画の視聴とディスカッション⑦：最後にドラマ全体のテーマを深掘りする。	作品の内容理解と社会文化分析、ディスカッション⑦。ドラマ全体のまとめを行い、作品の中心的なテーマの分析を深める。
9回目	これまでの復習と最終発表の説明とテーマ選び	学んだことを復習し、中間試験の準備をする。
10回目	中間試験	中間試験で学習状況を把握する。
11回目	グループ発表の準備	グループ発表のテーマを決め、レジュメを作成する。

12回目	学生によるグループ発表(1)第一グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション①受講生を3つに分け、第一グループが報告する。
13回目	学生によるグループ発表(2)第二グループ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション②受講生を3つに分け、第二グループが報告する。
14回目	学生によるグループ発表(3)第三グループ、講評、まとめ	学生の選んだメディア作品の発表とクラスでのディスカッション③受講生を3つに分け、第三グループが報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。授業で示される課題に対応して予習、復習、宿題をしてください。

【テキスト（教科書）】

教員作成プリント

【参考書】

『日本の映画史-10のテーマ-』(2014)平野共余子 くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

以下の点を総合的に評価します。

- ・平常点 25%
 - ・課題 25%
 - ・中間試験 25%
 - ・期末発表 25%
- ※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

今年度クラスで扱った作品はおおむね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

- ・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com> を開く
 - ② 法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する（授業コードは JLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）
- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスを登録しない人は、必ず大学のメールから自分がいづつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※このクラスはJ6、J7レベルの学生を対象とします。
※履修希望者は1週目と2週目の授業に出ること。3週目からの履修者は原則として受け入れません。
※履修希望者が多い場合は選考します。
※このクラスは2023年度まで「日本社会とメディアS」、2024～2025年度まで「日本社会とメディアB」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることはできません。
※時事的なテーマを扱った作品について分析しますので、テーマや内容については最新の世界情勢に応じて適宜変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This class is for students who have JLPT N2 or equivalent proficiency in the Japanese language (a two-credit course). The course introduces various media (dramas, movies, etc.) and discusses the content and social and cultural issues surrounding these works. Students are expected to use the dramas and films introduced in class to create mini dramas and practice acting in Japanese.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be expected to have developed the following: 1) language skills (listening comprehension, summarizing skills, essay writing skills, discussion skills, the ability to express opinions, the ability to create presentations, etc.); 2) analytical skills with media works; and 3) the ability to express their feelings and emotions in Japanese through acting presentations.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

・Grading will be decided on the basis of the following:

- In-class Contribution: 25%
- Assignments: 25%
- Mid-term Exam: 25%
- Final Presentation: 25%

- ・ No credit will be given to students who are absent more than three times.
- ・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.
- ・ Students who are absent more than three times can not take the mid-term exam.

【Others】

※ This class was called "Japanese Society and Media S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

CMF200LH（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200）

日本を探る：多文化協働フィールドワークA

村田 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
備考（履修条件等）：
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、さまざまな言語や文化の背景をもつ学生が、日本の社会や文化について自分たちで問いを立て、現地調査（フィールドワーク）を行います（2単位科目）。受講者は現地の人々の声を聴き取り、調査結果をまとめて発表し、レポートを作成することを通じて、社会文化の分析力、総合的なコミュニケーション力（聴解、対話、発表、文章作成のスキル）、協働力の向上を目指します。自分で問いを立て、情報を収集し、フィールドワークを実施する力、そして、調査結果をまとめ、分析する経験は、将来のゼミ、卒論作成、大学院進学、そして社会人としてのレポートの作成に役立ちます。

【到達目標】

この授業を通して、次の力を身につけます。

1. 日本の社会や文化を多角的に考え、分析する力
 2. 質的調査を計画し、実施する力（インタビュー、観察等）
 3. グループで協力しながら話し合い、調整し、発表する力
 4. 自分や他者のステレオタイプに気づき、見直す力
 5. 他者の視点を得ることで、自分自身の文化背景を再発見する力
 6. 課題を自分たちで考え、解決策を探る力
 7. 集めた情報を整理し、わかりやすく伝える力
- これらの力は、ゼミや卒業論文、大学院での研究、そして社会でのレポート作成にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP- I , III, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

コースの流れは以下の通り。

コース前半：調査計画を立て、準備する。質的調査法を学ぶ。

コース中盤：フィールドワークの実施

コース後半：フィールドワークの調査結果をまとめ、発信する。

※課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション Orientation	コースの概要について説明する。 Explanation of the course overview and objectives.
2回目	調査のテーマ選び Selecting Research Themes	調査のテーマを決める。 Deciding on specific research themes for the project.
3回目	調査計画の発表 Presentation of Research Plans	調査計画の発表とクラスでのディスカッション Presentation of research plans followed by class discussions.
4回目	インタビューの質問を作る Creating Interview Questions	インタビューの質問リストを作成し、表現を吟味する。インタビューを行うときのマナーや倫理について学ぶ。 Developing interview question lists and refining language expressions. Learning about etiquette and ethics for conducting interviews.
5回目	インタビューの練習 Interview Practice	インタビューの練習をする。 Hands-on practice for conducting effective interviews.
6回目	観察練習 Observation Practice	データ収集のための観察練習をする。 Practice of observation techniques for data collection.
7回目	中間テスト Mid-term Assignment	観察記録の作成と提出 Submission of Observation Records

8回目	文献分析とディスカッション Literature Analysis & Discussion	フィールドワークの文献を読み、ディスカッションする。 Reading and discussing literature related to fieldwork.
9回目	スクリプト分析① (前半担当者報告) Script Analysis ① (Group A)	インタビューのスクリプトを分析する。受講生を半分に分け、Aグループが報告する。Analyzing interview scripts. The class is split: Group A reports.
10回目	スクリプト分析② (後半担当者報告) Script Analysis ② (Group B)	インタビューのスクリプトを分析する。Bグループが報告する。Analyzing interview scripts. Group B reports.
11回目	結果のまとめ Summarizing Results	結果をまとめて、重要な知見が何かを話し合う。 Organizing findings and discussing key insights discovered.
12回目	最終発表① (前半担当者発表) Final Presentation (1)(Group A)	調査結果を発表する。受講生を半分に分け、Aグループが行う。 Presenting research results. Group A presents.
13回目	最終発表② (後半担当者発表) レポート提出 Final Presentation (2) (Group B)	調査結果を発表する。受講生を半分に分け、Bグループが行う。 Presenting research results. Group B presents. Deadline for Final Report.
14回目	Final Report Deadline レポートの講評 Report Feedback	振り返りと講評 General feedback from the instructor and a final reflection on the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。

【テキスト（教科書）】

村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司（2022）『フィールドワークの学び方：国際学生との協働からオンライン調査まで』ナカニシヤ出版（2200円＋税）

【参考書】

受講者の背景に応じて決めます。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を総合的に評価します

- ・平常点 20%
- ・課題 40%（中間テスト含む）
- ・最終発表 20%
- ・レポート 20%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

新規の科目につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

・まず Google Classroomに登録してください。入り方は以下の通り。

- ① <https://classroom.google.com>を開く
- ② 法政大学のメールアドレスを入れる
- ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する

（授業コードはJLE全体のGoogle Classroomに書いてあります。

またHoppiiにも書いてあります）

- ・Google Classroomとメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

＊授業の1週目と2週目はかならず出席してください。3週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

＊履修希望者の人数が多い場合は選考します。

＊授業は主に日本語で行いますが、参加者の言語背景や学習目的に応じて、英語なども柔軟に使います。

＊受講者は学外でのフィールドワーク（現地訪問等）を行う際、移動の時間も含めて、スケジュールを調整すること。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

In this course, students from diverse linguistic and cultural backgrounds will develop their own research questions regarding Japanese society and culture and conduct on-site fieldwork (2-credit course). By listening to the voices of people in the community, presenting findings, and writing reports, students will improve their socio-cultural analytical skills, comprehensive communication skills (listening, dialogue, presentation, and writing), and collaborative abilities. The experience of formulating questions, collecting information, and conducting fieldwork, as well as analyzing results, will be essential for future seminars, graduation theses, graduate studies, and professional report writing in their future careers.

【Learning Objectives】

Through this course, students will acquire the following skills:

The ability to consider and analyze Japanese society and culture from multiple perspectives.

The ability to plan and implement qualitative research, such as interviews.

The ability to collaborate, negotiate, and present ideas effectively within a group.

The ability to recognize and re-evaluate stereotypes in oneself and others.

The ability to rediscover one's own cultural background by gaining the perspectives of others.

The ability to identify issues independently and explore potential solutions.

The ability to organize collected information and communicate it clearly.

These skills are directly applicable to seminars, graduation theses, graduate research, and professional reporting in the workplace.

【Method(s)】

The course follows this structure:

First Phase: Research planning, preparation, and learning qualitative research methods.

Middle Phase: Implementation of fieldwork.

Final Phase: Summarizing and sharing fieldwork results.

Assignments and feedback will be managed through Google Classroom.

【Learning Activities outside of Classroom】

As this is a 2-credit course, students are expected to spend 4 hours on preparation and review for each class session.

【Grading Policy】

Students will be evaluated comprehensively based on the following:

Class Participation: 20%

Assignments (including mid-term tasks): 40%

Final Presentation: 20%

Final Report: 20%

Note: Students with 4 or more absences will not receive credit.

【Equipment student needs to prepare】

Google Classroom Registration:

Open <https://classroom.google.com>

Log in with your University email address.

Enter the class code to join. (The code is listed on the JLE General Google Classroom and Hoppii).

Check Google Classroom and your university email at least one day before every class.

If you do not check your university email regularly, you must set up an auto-forward to your primary email account.

Assignments submitted via email after the deadline will not be accepted.

【Others】

Attendance in Week 1 and Week 2 is mandatory. As a rule, students who attend for the first time in Week 3 will not be permitted to enroll.

If the number of applicants exceeds the capacity, a selection process will be held.

The primary language of instruction is Japanese, but English will be used flexibly depending on the students' backgrounds and goals.

Students must manage their own schedules for off-campus fieldwork, including travel time.

CMF200LH (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

日本を巡る：多文化協働フィールドワークB

村田 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考（履修条件等）：

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、さまざまな言語や文化の背景をもつ学生が、日本の社会や文化について自分たちで問いを立て、現地調査（フィールドワーク）を行います（2単位科目）。受講者は現地の人々の声を聴き取り、調査結果をまとめて発表し、レポートを作成することを通じて、社会文化の分析力、総合的なコミュニケーション力（聴解、対話、発表、文章作成のスキル）、協働力の向上を目指します。自分で問いを立て、情報を収集し、フィールドワークを実施する力、そして、調査結果をまとめ、分析する経験は、将来のゼミ、卒論作成、大学院進学、そして社会人としてのレポートの作成に役立ちます。

【到達目標】

この授業を通して、次の力を身につけます。

1. 日本の社会や文化を多角的に考え、分析する力
 2. 質的調査を計画し、実施する力（インタビュー、観察等）
 3. グループで協力しながら話し合い、調整し、発表する力
 4. 自分や他者のステレオタイプに気づき、見直す力
 5. 他者の視点を得ることで、自分自身の文化背景を再発見する力
 6. 課題を自分たちで考え、解決策を探る力
 7. 集めた情報を整理し、わかりやすく伝える力
- これらの力は、ゼミや卒業論文、大学院での研究、そして社会でのレポート作成にも役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP- I, III, VI」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

コースの流れは以下の通り。

コース前半：調査計画を立て、準備する。質的調査法を学ぶ。

コース中盤：フィールドワークの実施

コース後半：フィールドワークの調査結果をまとめ、発信する。

＊課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション Orientation	コースの概要について説明する。 Explanation of the course overview and objectives.
2回目	調査のテーマ選び Selecting Research Themes	調査のテーマを決める。 Deciding on specific research themes for the project.
3回目	調査計画の発表 Presentation of Research Plans	調査計画の発表とクラスでのディスカッション Presentation of research plans followed by class discussions.

4回目	インタビューの質問を作る Creating Interview Questions	インタビューの質問リストを作成し、表現を吟味する。インタビューを行うときのマナーや倫理について学ぶ。 Developing interview question lists and refining language expressions. Learning about etiquette and ethics for conducting interviews.
5回目	インタビューの練習 Interview Practice	インタビューの練習をする。 Hands-on practice for conducting effective interviews.
6回目	観察練習 Observation Practice	データ収集のための観察練習をする。 Practice of observation techniques for data collection.
7回目	中間テスト Mid-term Assignment	観察記録の作成と提出 Submission of Observation Records
8回目	文献分析とディスカッション Literature Analysis & Discussion	フィールドワークの文献を読み、ディスカッションする。 Reading and discussing literature related to fieldwork.
9回目	スクリプト分析① (前半担当者報告) Script Analysis ① (Group A)	インタビューのスクリプトを分析する。受講生を半分に分け、Aグループが報告する。 Analyzing interview scripts. The class is split: Group A reports.
10回目	スクリプト分析② (後半担当者報告) Script Analysis ② (Group B)	インタビューのスクリプトを分析する。Bグループが報告する。 Analyzing interview scripts. Group B reports.
11回目	結果のまとめ Summarizing Results	結果をまとめて、重要な知見が何かを話し合う。 Organizing findings and discussing key insights discovered.
12回目	最終発表① (前半担当者発表) Final Presentation (1)(Group A)	調査結果を発表する。受講生を半分に分け、Aグループが行う。 Presenting research results. Group A presents.
13回目	最終発表② (後半担当者発表) レポート提出 Final Presentation (2) (Group B) Final Report Deadline	調査結果を発表する。受講生を半分に分け、Bグループが行う。 Presenting research results. Group B presents. Deadline for Final Report.
14回目	レポートの講評 Report Feedback	振り返りと講評 General feedback from the instructor and a final reflection on the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。

【テキスト（教科書）】

村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司（2022）『フィールドワークの学び方：国際学生との協働からオンライン調査まで』ナカニシヤ出版（2200円＋税）

【参考書】

受講者の背景に応じて決めます。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を総合的に評価します

・平常点 20%

- ・課題 40%（中間テスト含む）
- ・最終発表 20%
- ・レポート 20%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

新規の科目につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

- ・まずGoogle Classroomに登録してください。入り方は以下の通り。

①<https://classroom.google.com>を開く

②法政大学のメールアドレスを入れる

③このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する

（授業コードはJLE全体のGoogle Classroomに書いてあります。

またHoppiiにも書いてあります）

- ・Google Classroomとメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。

- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。

- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※授業の1週目と2週目はかならず出席してください。3週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

※履修希望者の人数が多い場合は選考します。

※授業は主に日本語で行いますが、参加者の言語背景や学習目的に応じて、英語なども柔軟に使います。

※受講者は学外でのフィールドワーク（現地訪問等）を行う際、移動の時間も含めて、スケジュールを調整すること。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

In this course, students from diverse linguistic and cultural backgrounds will develop their own research questions regarding Japanese society and culture and conduct on-site fieldwork (2-credit course). By listening to the voices of people in the community, presenting findings, and writing reports, students will improve their socio-cultural analytical skills, comprehensive communication skills (listening, dialogue, presentation, and writing), and collaborative abilities. The experience of formulating questions, collecting information, and conducting fieldwork, as well as analyzing results, will be essential for future seminars, graduation theses, graduate studies, and professional report writing in their future careers.

【Learning Objectives】

Through this course, students will acquire the following skills:
The ability to consider and analyze Japanese society and culture from multiple perspectives.

The ability to plan and implement qualitative research, such as interviews.

The ability to collaborate, negotiate, and present ideas effectively within a group.

The ability to recognize and re-evaluate stereotypes in oneself and others.

The ability to rediscover one's own cultural background by gaining the perspectives of others.

The ability to identify issues independently and explore potential solutions.

The ability to organize collected information and communicate it clearly.

These skills are directly applicable to seminars, graduation theses, graduate research, and professional reporting in the workplace.

【Method(s)】

The course follows this structure:

First Phase: Research planning, preparation, and learning qualitative research methods.

Middle Phase: Implementation of fieldwork.

Final Phase: Summarizing and sharing fieldwork results.

Assignments and feedback will be managed through Google Classroom.

【Learning Activities outside of Classroom】

As this is a 2-credit course, students are expected to spend 4 hours on preparation and review for each class session.

【Grading Policy】

Students will be evaluated comprehensively based on the following:

Class Participation: 20%

Assignments (including mid-term tasks): 40%

Final Presentation: 20%

Final Report: 20%

Note: Students with 4 or more absences will not receive credit.

【Equipment student needs to prepare】

Google Classroom Registration:

Open <https://classroom.google.com>

Log in with your University email address.

Enter the class code to join. (The code is listed on the JLE General Google Classroom and Hoppii).

Check Google Classroom and your university email at least one day before every class.

If you do not check your university email regularly, you must set up an auto-forward to your primary email account.

Assignments submitted via email after the deadline will not be accepted.

【Others】

Attendance in Week 1 and Week 2 is mandatory. As a rule, students who attend for the first time in Week 3 will not be permitted to enroll.

If the number of applicants exceeds the capacity, a selection process will be held.

The primary language of instruction is Japanese, but English will be used flexibly depending on the students' backgrounds and goals.

Students must manage their own schedules for off-campus fieldwork, including travel time.

CMF200LH (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

留学生と学ぶ社会文化比較A

村田 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：火4/Tue.4 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックについて、留学生と国内学生がディスカッションを行います。このクラスの主役は「あなたたちの視点」です。多様な背景を持つ仲間との対話を通して自分の考えを深め、社会に向けて発信する力を育てます。
 具体的には、学期の前半でグループに分かれて社会文化の比較を行い、事例発表を通じて多文化協働力と発信力を高めます。そして最後のプロジェクトでは、自分たちで選んだテーマに基づき、キャンパス内で聞き取り調査を行い、短いドキュメンタリー動画（5分から10分程度）を作成します。若者たちの声を紡ぎ、社会へのメッセージを込めた作品を創り上げます。
 こうした取り組みは、みなさんの表現力を高め、今後の学びや進路にもつながる力となるでしょう。教室の中だけで終わらない、多文化の学びを仲間と共に作りましょう。

【到達目標】

受講生は、グループ活動を中心に以下の力を養うことができます：
 ① 現代社会の課題を分析し、国際的な視点で比較する力
 ② 多様な背景を持つ他者との協働を通じたコミュニケーション能力（傾聴・対話・調整・発信）
 ③ 自他のステレオタイプに気づき、その認識を見直し、調整する力
 ④ 社会課題に対して主体的に問いを立て、解決に向けて行動する力
 ⑤ 社会課題を独自の視点で切り取り、説得力のあるメッセージとして映像で表現する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I,III,VI」に関連。
 大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は以下の流れで行います。
 コース前半：テーマに関連する時事テキストを読み、グループでディスカッションし、事例を発表します。
 コース後半：グループで前半に学んだテーマを深掘りするために、キャンパス内で調査を行い、結果を動画にまとめます。
 ＊課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	目的・進め方の共有／アイスブレイク 社会比較のテーマの紹介
第2回	社会比較①自分の街の誇りと痛み：ディスカッション	テーマ①に基づいたテキストの理解の確認、ディスカッションをします。
第3回	社会比較①自分の街の誇りと痛み：事例発表	テーマ①に基づいて、各グループが事例発表を行い、最後にまとめます。

第4回	社会比較②教育の現実と痛み：ディスカッション	テーマ②に基づいたテキストの理解の確認し、エリート教育、格差、詰め込み、何のための学びか、といった点についてディスカッションをします。
第5回	社会比較②教育の現実と痛み：事例発表	テーマ②に基づいて、各グループが事例発表を行い、最後にまとめます。
第6回	社会比較③働くことのリアルと痛み：ディスカッション	テーマ③についてのテキストの理解の確認、ディスカッションをします。
第7回	社会比較③働くことのリアルと痛み：事例発表	テーマ③に基づいて、各グループの事例発表を行い、最後にまとめます。
第8回	社会比較④自由テーマ：学生が選ぶ「今、議論すべきこと」（SDGsのテーマから選ぶ）	各グループでテーマを選び、ディスカッションをします。
第9回	社会比較④グループ発表	各グループが選んだテーマで発表を行い、最後にまとめます。
第10回	中間試験：社会課題を整理し、自身の視点を言語化する	これまでの授業で学んだことを確認し、後半のドキュメンタリー制作に向けた、個人の考えを書きます。
第11回	ドキュメンタリー動画作成①計画を立てる	授業前半の社会課題の中から、調査したいテーマを選び、計画を立てます（撮影場所、対象、質問、伝えたいメッセージ案等）。
第12回	ドキュメンタリー動画作成②インタビュー実施と録画	キャンパスでインタビューを実施します。
第13回	ドキュメンタリー動画作成③編集とナラティブ（物語）の構築	インタビューの進捗状況をクラスで共有し、どのようなメッセージが伝えられるか考えます。また、ドキュメンタリーの編集をする時間を取ります。
第14回	プレミア上映会&クリティカル・レビュー	ドキュメンタリーを上映し、クラスでディスカッションをします。最後に振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。予習・グループ準備・復習などを含みます。

【テキスト（教科書）】

自作作成テキストを配布します。

【参考書】

ディスカッションのテーマに応じて、関連図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を総合的に評価します

- ・平常点 20%
- ・課題（グループ発表、リアクションペーパー等） 40%
- ・中間テスト 20%
- ・最終発表 20%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【評価に関する補足事項】 本クラスは、多様な背景を持つ受講者が集う「協働の場」です。そのため、個人の能力だけでなく、多文化環境における協働のプロセスを重視します。

具体的には、「他者の視点を尊重し、共に学び合う姿勢」「チームの誰もが力を発揮できる環境を作るための調整力」などを、平常点や課題を通じて総合的に評価に反映します。「わかりやすく人に伝える力」は重視しますが、言語能力（日本語の正確さ、流暢さ等）だけが成績を左右することはありません。

【学生の意見等からの気づき】

新規の科目につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

- ・まずGoogle Classroomに登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com>を開く
 - ②法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する

(授業コードはJLE全体のGoogle Classroomに書いてあります。
またHoppiiにも書いてあります)

- ・Google Classroomとメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

※授業の1週目と2週目はかならず出席してください。3週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

※履修希望者の人数が多い場合は選考します。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

In this class, international and domestic students discuss a variety of topics related to contemporary society. This class is built around students' own perspectives. Through dialogue with peers from diverse backgrounds, students deepen their own thinking and develop the ability to communicate their ideas to society.

In the first half of the semester, students work in groups to compare social and cultural issues and enhance their multicultural collaboration skills and ability to express their ideas through case presentations. In the final project, each group selects a theme, conducts interviews on campus, and produces a short documentary video (approximately 5 to 10 minutes). Through this process, students weave together the voices of young people and create a work that conveys a meaningful message to society.

These activities strengthen students' expressive abilities and help develop skills that will support their future academic work and career paths. Together, we will create a multicultural learning experience that goes beyond the classroom.

【Goal】

Through group-centered activities, students will develop the following abilities:

1. Analytical Skills: The ability to analyze contemporary social issues and compare them from an international perspective.
2. Communication Skills: The ability to collaborate with others from diverse backgrounds (active listening, dialogue, negotiation, and expression).
3. Critical Awareness: The ability to recognize, re-evaluate, and adjust stereotypes in oneself and others.
4. Proactive Inquiry: The ability to independently formulate questions regarding social issues and take action toward solutions.
5. Creative Expression: The ability to analyze social issues from a unique perspective and express a persuasive message through video.

【Method(s)】

The course follows this structure:

First Half: Reading current affairs texts related to the theme, engaging in group discussions, and presenting case studies.

Second Half: Conducting on-campus research to deepen the themes explored in the first half and producing a video of the results.

Note: Assignments and feedback will be managed through Google Classroom.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As this is a two-credit course, students are expected to spend approximately four hours of preparation and review per class session. This includes preparation, group work, and review.

【Textbooks】

Original course materials prepared by the instructor will be distributed.

【References】

Relevant books and materials will be introduced according to each discussion theme.

【Grading Criteria】

Grades will be based on the following:

Class participation: 20%

Assignments (case presentations, reaction papers, etc.): 40%

Midterm test: 20%

Final presentation: 20%

Students who are absent four or more times will not receive course credit.

【Additional Notes on Evaluation】

This class is a collaborative learning environment that brings together students from diverse backgrounds. Therefore, evaluation will consider not only individual ability but also the collaborative process in a multicultural setting.

For example, the following aspects will be reflected in participation and assignment grades:

-Respect for others' perspectives and a willingness to learn together

-The ability to create an environment in which all team members can contribute

-While the ability to communicate ideas clearly is valued, language proficiency alone (such as grammatical accuracy or fluency in Japanese) will not determine the final grade.

【Changes Following Student Comments】

Not applicable, as this is a new course.

【Equipment Students Need to Prepare】

Please register for Google Classroom as follows:

Go to <https://classroom.google.com>

Log in with your Hosei University email address

Enter the class code and join the course

(The class code is posted on the JLE Google Classroom and on Hoppii.)

Students must check Google Classroom and their university email at least one day before each class.

Students who do not regularly check their university email must set up forwarding to an email account they use frequently. Assignments submitted by email after the deadline will not be accepted.

【Others】

Attendance in the first and second weeks is mandatory. Students who attend for the first time in Week 3 will generally not be allowed to enroll.

If the number of applicants exceeds the limit, students may be selected.

Classes will be conducted primarily in Japanese, but English and other languages may be used flexibly depending on participants' language backgrounds and learning goals.

CMF200LH（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200）

留学生と学ぶ社会文化比較B

村田 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：火4/Tue.4 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
備考（履修条件等）：
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックについて、留学生と国内学生がディスカッションを行います。このクラスの主役は「あなたたちの視点」です。多様な背景を持つ仲間との対話を通して自分の考えを深め、社会に向けて発信する力を育てます。
具体的には、学期の前半でグループに分かれて社会文化の比較を行い、事例発表を通じて多文化協働力と発信力を高めます。そして最後のプロジェクトでは、自分たちで選んだテーマに基づき、キャンパス内で聞き取り調査を行い、短いドキュメンタリー動画（5分から10分程度）を作成します。若者たちの声を紡ぎ、社会へのメッセージを込めた作品を創り上げます。こうした取り組みは、みなさんの表現力を高め、今後の学びや進路にもつながる力となるでしょう。教室の中だけで終わらない、多文化の学びを仲間と共に作りましょう。

【到達目標】

受講生は、グループ活動を中心に以下の力を養うことができます：
① 現代社会の課題を分析し、国際的な視点で比較する力
② 多様な背景を持つ他者との協働を通じたコミュニケーション能力（傾聴・対話・調整、発信）
③ 自他のステレオタイプに気づき、その認識を見直し、調整する力
④ 社会課題に対して主体的に問いを立て、解決に向けて行動する力
⑤ 社会課題を独自の視点で切り取り、説得力のあるメッセージとして映像で表現する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I、III、VI」に関連。
大学のディプロマポリシー詳細はこちら。
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は以下の流れで行います。
コース前半：テーマに関連する時事テキストを読み、グループでディスカッションし、事例を発表します。
コース後半：グループで前半に学んだテーマを深掘りするために、キャンパス内で調査を行い、結果を動画にまとめます。
＊課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	目的・進め方の共有／アイスブレイク 社会比較のテーマの紹介
第2回	社会比較①食卓の物語 ～思い出の味とアイデンティティ～：ディスカッション	テーマ①に基づいたテキストの理解の確認、ディスカッションをします。
第3回	社会比較①グループ事例発表	テーマ①に基づいて、各グループが事例発表を行い、最後にまとめます。
第4回	社会比較②「ふつう」の境界線（ジェンダー、家族の役割）：ディスカッション	テーマ②に基づいたテキストの理解の確認し、ディスカッションをします。
第5回	社会比較②グループ事例発表	テーマ②に基づいて、各グループが事例発表を行い、最後にまとめます。
第6回	社会比較③伝統の行方：ディスカッション	テーマ③についてのテキストの理解の確認、ディスカッションをします。
第7回	社会比較③：グループ事例発表	テーマ③に基づいて、各グループの事例発表を行い、最後にまとめます。
第8回	社会比較④：学生が選ぶ「今、議論すべきこと（SDGsのテーマから選択）」	各グループでテーマを選び、ディスカッションをします。
第9回	社会比較④グループ発表	各グループが選んだテーマで発表を行い、最後にまとめます。
第10回	中間試験：社会課題を整理し、自身の視点を言語化する	これまでの授業で学んだことを確認し、後半のドキュメンタリー制作に向けた、個人の考えを書きます。

第11回	ドキュメンタリー動画作成①計画を立てる	授業前半の社会課題の中から、調査したいテーマを選び、計画を立てます（撮影場所、対象、質問、伝えたいメッセージ案等）。 キャンパスでインタビューを実施します。
第12回	ドキュメンタリー動画作成②インタビュー実施と録画	
第13回	ドキュメンタリー動画作成③編集とナラティブ（物語）の構築	インタビューの進捗状況をクラスで共有し、どのようなメッセージが伝えられるか考えます。また、ドキュメンタリーの編集をする時間を取ります。
第14回	プレミア上映会&クリティカル・レビュー	ドキュメンタリーを上映し、クラスでディスカッションをします。最後に振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。予習・グループ準備・復習などを含みます。

【テキスト（教科書）】

自主作成テキストを配布します。

【参考書】

ディスカッションのテーマに応じて、関連図書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を総合的に評価します

- ・平常点 20%
- ・課題（グループ発表、リアクションペーパー等） 40%
- ・中間テスト 20%
- ・最終発表 20%

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【評価に関する補足事項】 本クラスは、多様な背景を持つ受講者が集う「協働の場」です。そのため、個人の能力だけでなく、多文化環境における協働のプロセスを重視します。
具体的には、「他者の視点を尊重し、共に学び合う姿勢」「チームの誰もが力を発揮できる環境を作るための調整力」などを、平常点や課題を通じて総合的に評価に反映します。「わかりやすく人に伝える力」は重視しますが、言語能力（日本語の正確さ、流暢さ等）だけが成績を左右することはありません。

【学生の意見等からの気づき】

新規の科目につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】

- ・まず Google Classroomに登録してください。入り方は以下の通り。
 - ① <https://classroom.google.com> を開く
 - ② 法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する（授業コードはJLE全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）
- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・ 大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・ 締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

＊授業の1週目と2週目はかならず出席してください。3週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。
＊履修希望者の人数が多い場合は選考します。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

In this class, international and domestic students discuss a variety of topics related to contemporary society. This class is built around students' own perspectives. Through dialogue with peers from diverse backgrounds, students deepen their own thinking and develop the ability to communicate their ideas to society.

In the first half of the semester, students work in groups to compare social and cultural issues and enhance their multicultural collaboration skills and ability to express their ideas through case presentations. In the final project, each group selects a theme, conducts interviews on campus, and produces a short documentary video (approximately 5 to 10 minutes). Through this process, students weave together the voices of young people and create a work that conveys a meaningful message to society.

These activities strengthen students' expressive abilities and help develop skills that will support their future academic work and career paths. Together, we will create a multicultural learning experience that goes beyond the classroom.

【Goal】

Through group-centered activities, students will develop the following abilities:

1. Analytical Skills: The ability to analyze contemporary social issues and compare them from an international perspective.
2. Communication Skills: The ability to collaborate with others from diverse backgrounds (active listening, dialogue, negotiation, and expression).
3. Critical Awareness: The ability to recognize, re-evaluate, and adjust stereotypes in oneself and others.
4. Proactive Inquiry: The ability to independently formulate questions regarding social issues and take action toward solutions.

5. Creative Expression: The ability to analyze social issues from a unique perspective and express a persuasive message through video.

【Method(s)】

The course follows this structure:

First Half: Reading current affairs texts related to the theme, engaging in group discussions, and presenting case studies.

Second Half: Conducting on-campus research to deepen the themes explored in the first half and producing a video of the results.

Note: Assignments and feedback will be managed through Google Classroom.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As this is a two-credit course, students are expected to spend approximately four hours of preparation and review per class session. This includes preparation, group work, and review.

【Textbooks】

Original course materials prepared by the instructor will be distributed.

【References】

Relevant books and materials will be introduced according to each discussion theme.

【Grading Criteria】

Grades will be based on the following:

Class participation: 20%

Assignments (case presentations, reaction papers, etc.): 40%

Midterm test: 20%

Final presentation: 20%

Students who are absent four or more times will not receive course credit.

【Additional Notes on Evaluation】

This class is a collaborative learning environment that brings together students from diverse backgrounds. Therefore, evaluation will consider not only individual ability but also the collaborative process in a multicultural setting.

For example, the following aspects will be reflected in participation and assignment grades:

-Respect for others' perspectives and a willingness to learn together

-The ability to create an environment in which all team members can contribute

-While the ability to communicate ideas clearly is valued, language proficiency alone (such as grammatical accuracy or fluency in Japanese) will not determine the final grade.

【Changes Following Student Comments】

Not applicable, as this is a new course.

【Equipment Students Need to Prepare】

Please register for Google Classroom as follows:

Go to <https://classroom.google.com>

Log in with your Hosei University email address

Enter the class code and join the course

(The class code is posted on the JLE Google Classroom and on Hoppii.)

Students must check Google Classroom and their university email at least one day before each class.

Students who do not regularly check their university email must set up forwarding to an email account they use frequently.

Assignments submitted by email after the deadline will not be accepted.

【Others】

Attendance in the first and second weeks is mandatory. Students who attend for the first time in Week 3 will generally not be allowed to enroll. If the number of applicants exceeds the limit, students may be selected. Classes will be conducted primarily in Japanese, but English and other languages may be used flexibly depending on participants' language backgrounds and learning goals.

CMF200LH（その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200）

多文化共生サポーター育成講座A

村田 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：木5/Thu.5 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
備考（履修条件等）：
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスの目標は、多様な背景を持つ人々が共に生きる社会を支える「多文化共生サポーター」を育成することです。単なる「助ける人」ではなく、学び合い、支え合う「パートナー」としての姿勢とスキルを磨きます。本科目は「体験型」の学習です。受講者は市ヶ谷キャンパスの日本語ボランティアや、地域、サークル等での定期的な交流活動（全8回程度）を行い、その経験をクラスに持ち帰ります。授業では、活動を通じた「気づき（省察）」を共有し、相手に応じた柔軟な言語・非言語コミュニケーション力を高めていきます。そして現場での対話から、より良い社会を作るための行動力を養います。留学生の受講も大歓迎です！「大学の先輩」として新入留学生を支えたり、自身の経験を活かしたピア・サポートを行うことで、国籍を超えた新しい協働の形を表現しましょう。

【到達目標】

受講生は以下の力を高めることが期待される：

- ① 相手に応じた柔軟なコミュニケーション力（言語、非言語）
- ② ピア・サポーターとしての支援スキル
- ③ 文化・社会について調べ、自分のことばで発信する力
- ④ 現場で生じる摩擦や問題を恐れず、その背景を分析し、対話を通じて解決策を模索する力
- ⑤ 自他のステレオタイプに気づき、認識を調整しながら、よりよい関係を構築する力
- ⑥ 活動を「良い経験だった」で終わらず、社会の課題を自分事として捉え、継続的に関わり続ける行動力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I, III, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本クラスは受講生による「実践と省察（リフレクション）」を中心に、以下の3つのフェーズで進めます。
フェーズ1（前半）：アクションプランの策定 自分に合った国際交流の場を選び、どのようなサポーターを目指すかの計画を立て、必要なスキル（やさしい日本語、複言語、非言語使用等）を準備します。
フェーズ2（中盤）：実践と改善のサイクル 課外での交流活動（全8回）をスタートします。授業では受講者が活動内容を共有し、課題を分析して改善計画を立て、次の活動に活かすという「学びのサイクル」を回します。
フェーズ3（学期末）：学びの集大成と未来への展望 交流を通じた自己の変化を可視化し、一過性で終わらない「今後も社会に関わり続けるための目標」を言語化します。
＊交流活動は、市ヶ谷の日本語クラスボランティア、留学生との交流、各自で見つけた活動から選択可能です。いずれも計8回の交流と、Google Classroomを通じた「振り返り報告」を必須とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	科目の目的、支援活動の意義、交流活動の種類の共有
第2回	やさしい日本語とピアサポートの基本を学ぶ。	やさしい日本語とピアサポートの基本を学び、各受講者が交流活動を決
第3回	交流活動の決定 交流計画を作り、学習支援の準備をする。 やさしい日本語の実践練習	定。 交流と学習支援の準備を行う。やさしい日本語の実践練習と日本文化紹介について考える。
第4回	交流活動の実施報告① 体験の言語化をする	受講者は授業時間外で国際交流と支援活動を行い、自分の活動について授業で報告する。
第5回	交流活動の実施報告② 現場でのジレンマ、課題の可視化、改善目標を立てる	交流内容を報告するだけでなく、ジレンマ、課題を分析し、具体的な行動目標を立てる（ジレンマの例：良かれと思ってした支援が招いた誤解）。

第6回	交流活動の実施報告③ 各自が交流活動の録画を分析し、良い点と改善点を意識化する。	各自が交流活動の録画を分析し、良い点と改善点を意識化する。
第7回	中間テスト（受講生の交流活動動画の分析）	交流活動の録画分析を提出する。
第8回	中間テストのフィードバック	交流録画の分析とクラスでのディスカッションを行う。
第9回	応用活動①交流相手のライフストーリーインタビューの準備	交流相手を深く理解するためにライフストーリーインタビューの練習をする。
第10回	応用活動②交流相手とSDGsや社会課題について話し合う準備をする。	交流相手と話し合いしたいSDGsのテーマや社会課題を選び、ディスカッションの練習をする。
第11回	応用活動①ライフストーリーインタビューの実施報告	ライフストーリーインタビューを通じて何を学んだか、クラスで報告する。
第12回	応用活動②社会課題の話し合いの実施報告	社会課題の話し合いを行い、何を学んだのか、難しかった点は何かを報告する。
第13回	最終発表：サポーターとしてのマニフェスト（宣言）（前半グループ）	活動を通じて学んだ、今後にどのように生かすのかを発表する（前半グループ）。
第14回	最終発表：サポーターとしてのマニフェスト（宣言）（後半グループ） まとめと最終レポートの提出	自分の交流実践とクラスメートの報告を踏まえて、多文化共生サポーターに必要な資質と、自分がどのように貢献できるのか発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。交流活動の準備と実施、振り返りレポートの作成などが含まれます。

【テキスト（教科書）】

村田晶子・長谷川由香・河内彩香・プレフューメ裕子・竹山直子『やさしいことばで国際交流：交流パートナーのための活動集』（リンクからダウンロードできます https://www.jstage.jst.go.jp/article/jlp/3/0/3_1_article-char/ja/）

【参考書】

村田晶子（編）『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版

村田晶子（監）長谷川由香・池田幸弘・竹山直子『日本語で文化体験』アルク
村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）『チャレンジ！ 多文化体験ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

課題20%、中間振り返りテスト10%、最終発表30%、個人レポート20%、授業参加度20%

【学生の意見等からの気づき】

新規科目につき特になし

【学生が準備すべき機器他】

・まず Google Classroom に登録してください。入り方は以下の通り。

- ① <https://classroom.google.com> を開く
- ② 法政大学のメールアドレスを入れる
- ③ このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する

（授業コードはJLE 全体の Google Classroom に書いてあります。また Hoppii にも書いてあります）

- ・ Google Classroom とメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・ 大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・ 締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

＊授業の1週目と2週目はかならず出席してください。3週目に初めて来る学生はクラスを取ることができません。
＊履修希望者の人数が多い場合は選考します。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

The goal of this course is to cultivate "Multicultural Supporters" who can sustain a society where people from diverse backgrounds live together. Rather than simply being a helper, students will polish the mindset and skills to become a partner who learns and grows alongside others. This is an experiential learning course. Students are expected to engage in regular international exchange activities (approximately 8 sessions total) outside of class — such as volunteering for Japanese language classes at the Ichigaya campus, community programs, or student circles — and bring those experiences back to the classroom.

In class, we will share reflections from these activities to enhance flexible verbal and non-verbal communication skills tailored to the individual. Through dialogue in the field, students will develop the capacity to take proactive action toward building a better society. International students are more than welcome! By supporting new international students as campus seniors or providing peer support based on your own experiences, you can help embody a new form of transnational collaboration.

【Learning Objectives / Goals】

Students are expected to enhance the following abilities:

-Adaptive Communication: Developing flexibility in both verbal and non-verbal communication tailored to the partner's needs.

- Peer-Support Skills: Acquiring practical mindsets and skills necessary for effective peer-to-peer support.
- Cross-cultural analysis: Investigating cultural and social issues and expressing findings in one's own words.
- Problem-Solving and Negotiation: Analyzing the root causes of friction, and seeking solutions through dialogue.
- Critical Awareness of Stereotypes: Recognizing personal and societal stereotypes and adjusting one's perspective to build better relationships.
- Sustainable Action: Moving beyond seeing activities as a "one-time experience" to viewing social issues as personal concerns and continuing to engage with them proactively.

【Method(s)】

This course is centered on Action and Reflection by the students and is divided into three phases:

Phase 1 (Initial): Action Planning Students will select an appropriate international exchange platform, create a plan for the type of supporter they aim to be, and prepare necessary skills (e.g., "Yasashii Nihongo" (Simple Japanese), plurilingualism, and non-verbal communication).

Phase 2 (Middle): Practice and Improvement Cycle Students begin their extracurricular exchange activities (8 sessions total). In class, students share their activities, analyze challenges, and create improvement plans to implement in their next sessions, maintaining a continuous learning cycle.

Phase 3 (Final): Synthesis and Future Outlook Students visualize personal growth through their exchanges and verbalize long-term goals for continued social engagement that extend beyond the end of the term.

*Exchange options: Ichigaya campus Japanese class volunteer, exchange with international students, or independently found activities. All options require a total of 8 sessions and Reflection Reports submitted via Google Classroom.

【Work to be done outside of class】

As this is a 2-credit course, students are expected to spend 4 hours per session on preparation and review. This includes preparation for exchange activities, the activities themselves, and writing reflection reports.

【Equipment student needs to prepare】

Google Classroom Registration:

Go to <https://classroom.google.com>

Log in with your University email address.

Enter the class code (found on the JLE General Google Classroom or Hoppii).

Check Google Classroom and your email at least one day before every class.

If you do not check your university email, you must set up an auto-forward to your primary email address.

Assignments submitted via email after the deadline will not be accepted.

【Others】

Attendance in Week 1 and Week 2 is mandatory. Students attending for the first time in Week 3 will not be permitted to enroll.

A selection process will be conducted if the number of applicants exceeds the capacity.

CMF200LH (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 200)

多文化共生サポーター育成講座B

村田 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木5/Thu.5 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考（履修条件等）：

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスの目標は、多様な背景を持つ人々が共に生きる社会を支える「多文化共生サポーター」を育成することです。単なる「助ける人」ではなく、学び合い、支え合う「パートナー」としての姿勢とスキルを磨きます。

本科目は「体験型」の学習です。受講者は市ヶ谷キャンパスの日本語ボランティアや、地域、サークル等での定期的な交流活動（全8回程度）を行い、その経験をクラスに持ち帰ります。

授業では、活動を通じた「気づき（省察）」を共有し、相手に応じた柔軟な言語・非言語コミュニケーション力を高めています。そして現場での対話から、より良い社会を作るための行動力を養います。留学生の受講も大歓迎です！「大学の先輩」として新入留学生を支えたり、自身の経験を活かしたピア・サポートを行うことで、国籍を超えた新しい協働の形を体現しましょう。

【到達目標】

受講生は以下の力を高めることが期待される：

- ① 相手に応じた柔軟なコミュニケーション力（言語、非言語）
- ② ピア・サポーターとしての支援スキル
- ③ 文化・社会について調べ、自分のことばで発信する力
- ④ 現場で生じる摩擦や問題を恐れず、その背景を分析し、対話を通じて解決策を模索する力
- ⑤ 自他のステレオタイプに気づき、認識を調整しながら、よりよい関係を構築する力
- ⑥ 活動を「良い経験だった」で終わらせず、社会の課題を自分事として捉え、継続的に関わり続ける行動力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-I, III, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本クラスは受講生による「実践と省察（リフレクション）」を中心に、以下の3つのフェーズで進めます。

フェーズ1（前半）：アクションプランの策定 自分に合った国際交流の場を選び、どのようなサポーターを目指すかの計画を立て、必要なスキル（やさしい日本語、複言語、非言語使用等）を準備します。フェーズ2（中盤）：実践と改善のサイクル 課外での交流活動（全8回）をスタートします。授業では受講者が活動内容を共有し、課題を分析して改善計画を立て、次の活動に活かすという「学びのサイクル」を回します。

フェーズ3（学期末）：学びの集大成と未来への展望 交流を通じた自己の変化を可視化し、一過性で終わらない「今後も社会に関わり続けるための目標」を言語化します。

*交流活動は、市ヶ谷の日本語クラスボランティア、留学生との交流、各自で見つけた活動から選択可能です。いずれも計8回の交流と、Google Classroomを通じた「振り返り報告」を必須とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	科目の目的、支援活動の意義、交流活動の種類の共有
第2回	やさしい日本語とピアサポートの基本を学ぶ。交流活動の決定	やさしい日本語とピアサポートの基本を学び、各受講者が交流活動を決定。
第3回	交流計画を作り、学習支援の準備をする。やさしい日本語の実践練習	交流と学習支援の準備を行う。やさしい日本語の実践練習と日本文化紹介について考える。
第4回	交流活動の実施報告①体験の言語化をする	受講者は授業時間外で国際交流と支援活動を行い、自分の活動について授業で報告する。
第5回	交流活動の実施報告②現場でのジレンマ、課題の可視化、改善目標を立てる	交流内容を報告するだけでなく、ジレンマ、課題を分析し、具体的な行動目標を立てる（ジレンマの例：良かれと思ってした支援が招いた誤解）。
第6回	交流活動の実施報告③活動録画を見て、ジレンマを可視化し、行動目標を立てる。	各自が交流活動の録画を分析し、良い点と改善点を意識化する。
第7回	中間テスト（受講生の交流活動動画の分析）	交流活動の録画分析を提出する。
第8回	中間テストのフィードバック	交流録画の分析とクラスでのディスカッションを行う。
第9回	応用活動①交流相手のライフストーリーインタビューの準備	交流相手を深く理解するためにライフストーリーインタビューの練習をする。
第10回	応用活動②交流相手とSDGsや社会課題について話し合う準備をする。	交流相手と話し合いしたいSDGsのテーマや社会課題を選び、ディスカッションの練習をする。
第11回	応用活動①ライフストーリーインタビューの実施報告	ライフストーリーインタビューを通じて何を学んだか、クラスで報告する。
第12回	応用活動②社会課題の話し合いの実施報告	社会課題の話し合いを行い、何を学んだのか、難しかった点は何かを報告する。
第13回	最終発表：サポーターとしてのマニフェスト（宣言）（前半グループ）	活動を通じて学んだ、今後にどのように生かすのかを発表する（前半グループ）。
第14回	最終発表：サポーターとしてのマニフェスト（宣言）（後半グループ）	自分の交流実践とクラスメートの報告を踏まえて、多文化共生サポーターに必要な資質と、自分がどのように貢献できるのかまとめと最終レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は2単位科目なので授業外の準備時間は、授業1回につき基本4時間です。交流活動の準備と実施、振り返りレポートの作成などが含まれます。

【テキスト（教科書）】

村田晶子・長谷川由香・河内彩香・プレフューメ裕子・竹山直子『やさしいことばで国際交流：交流パートナーのための活動集』（リンクからダウンロードできます https://www.jstage.jst.go.jp/article/jlp/3/0/3_1/_article-char/ja/）

【参考書】

村田晶子（編）『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版

村田晶子（監）長谷川由香・池田幸弘・竹山直子『日本語で文化体験』アルク

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）『チャレンジ！多文化体験ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

課題20%、中間振り返りテスト10%、最終発表30%、個人レポート20%、授業参加度20%

【学生の意見等からの気づき】

新規科目につき特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・まずGoogle Classroomに登録してください。入り方は以下の通り。
 - ①<https://classroom.google.com>を開く
 - ②法政大学のメールアドレスを入れる
 - ③このクラスの授業コードを入力し、クラスに登録する
(授業コードはJLE全体のGoogle Classroomに書いてあります。またHoppiiにも書いてあります)
- ・Google Classroomとメールを毎週授業の1日前に必ずチェックすること。
- ・大学のメールアドレスをチェックしない人は、必ず大学のメールから自分がいつも使っているメールアドレスに転送設定をしておくこと。
- ・締め切り日の後でメールで宿題を教員に提出しても受け取りません。

【その他の重要事項】

- *授業の1週目と2週目はかならず出席してください。3週目に初めて来る学生はクラスを取ることができません。
- *履修希望者の人数が多い場合は選考します。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

The goal of this course is to cultivate "Multicultural Supporters" who can sustain a society where people from diverse backgrounds live together. Rather than simply being a helper, students will polish the mindset and skills to become a partner who learns and grows alongside others.

This is an experiential learning course. Students are expected to engage in regular international exchange activities (approximately 8 sessions total) outside of class — such as volunteering for Japanese language classes at the Ichigaya campus, community programs, or student circles — and bring those experiences back to the classroom.

In class, we will share reflections from these activities to enhance flexible verbal and non-verbal communication skills tailored to the individual. Through dialogue in the field, students will develop the capacity to take proactive action toward building a better society. International students are more than welcome! By supporting new international students as campus seniors or providing peer support based on your own experiences, you can help embody a new form of transnational collaboration.

【Learning Objectives / Goals】

Students are expected to enhance the following abilities:

- Adaptive Communication: Developing flexibility in both verbal and non-verbal communication tailored to the partner's needs.
- Peer-Support Skills: Acquiring practical mindsets and skills necessary for effective peer-to-peer support.
- Cross-cultural analysis: Investigating cultural and social issues and expressing findings in one's own words.
- Problem-Solving and Negotiation: Analyzing the root causes of friction, and seeking solutions through dialogue.
- Critical Awareness of Stereotypes: Recognizing personal and societal stereotypes and adjusting one's perspective to build better relationships.
- Sustainable Action: Moving beyond seeing activities as a "one-time experience" to viewing social issues as personal concerns and continuing to engage with them proactively.

【Method(s)】

This course is centered on Action and Reflection by the students and is divided into three phases:

Phase 1 (Initial): Action Planning Students will select an appropriate international exchange platform, create a plan for the type of supporter they aim to be, and prepare necessary skills (e.g., "Yasashii Nihongo" (Simple Japanese), plurilingualism, and non-verbal communication).

Phase 2 (Middle): Practice and Improvement Cycle Students begin their extracurricular exchange activities (8 sessions total). In class, students share their activities, analyze challenges, and create improvement plans to implement in their next sessions, maintaining a continuous learning cycle.

Phase 3 (Final): Synthesis and Future Outlook Students visualize personal growth through their exchanges and verbalize long-term goals for continued social engagement that extend beyond the end of the term.

*Exchange options: Ichigaya campus Japanese class volunteer, exchange with international students, or independently found activities. All options require a total of 8 sessions and Reflection Reports submitted via Google Classroom.

【Work to be done outside of class】

As this is a 2-credit course, students are expected to spend 4 hours per session on preparation and review. This includes preparation for exchange activities, the activities themselves, and writing reflection reports.

【Equipment student needs to prepare】

Google Classroom Registration:

Go to <https://classroom.google.com>

Log in with your University email address.

Enter the class code (found on the JLE General Google Classroom or Hoppii).

Check Google Classroom and your email at least one day before every class.

If you do not check your university email, you must set up an auto-forward to your primary email address.

Assignments submitted via email after the deadline will not be accepted.

【Others】

Attendance in Week 1 and Week 2 is mandatory. Students attending for the first time in Week 3 will not be permitted to enroll.

A selection process will be conducted if the number of applicants exceeds the capacity.

CMF100LE (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 100)

社会連携フィールドワーク

高見 京太、深野 聡

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 単位数：1単位

曜日・時限：集中・その他 | キャンパス：多摩

備考（履修条件等）：

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、動物福祉への関心が世界的に高まる中、引退競走馬のアフターケアが重要な課題として注目されています。本授業では、馬の生態や馬産業の基礎知識、競走馬の競技における役割、そして引退後のセカンドキャリアの構築に至るまで、幅広い内容を学びます。これらの学びを基に、フィールドワークを通じて実践的な取り組みを体験し、さらに「人馬のウェルビーイング」という理念について深く理解を深めます。引退競走馬のセカンドキャリア構築がもたらす可能性を多角的に考察し、最終的には、人と馬の双方に健康と幸福をもたらす方法を議論し、その実現に向けた具体的な方策を探ります。

【到達目標】

- ・競馬の背景にある文化や学び、さらに人々の交流について理解する。
- ・引退競走馬のセカンドキャリア構築における具体的な手法を習得する。
- ・人馬のウェルビーイングを推進するための効果的なアプローチを発見し、実践に活かす力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

大学のディプロマポリシーのうち、「法政DP-IV, VI」に関連。

大学のディプロマポリシー詳細はこちら。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

1日目：8月3日（月）

【集合：法政大学市ヶ谷キャンパス / 解散：船橋競馬場】
市ヶ谷キャンパス教室

・ガイダンス

・競馬、競走馬、人馬のウェルビーイングに関する講義を受講（バス移動）

船橋競馬場

・競走馬のレース前、レース中を観察

2日目：8月4日（火）

【集合：法政大学多摩キャンパス城山校地馬場 / 那須塩原へバス移動】

多摩キャンパス馬場

・引退競走馬のリトレーニングおよびグランドワークの見学

・馬房作業や馬とのふれあい活動を体験

（バス移動）

・地方競馬および騎手育成の仕組みに関する講義を受講

（地方競馬教養センター 那須寮に宿泊）

3日目：8月5日（水）

【地方競馬教養センター】

・騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬を観察

・引退競走馬に支えられながら研鑽を積む騎手候補生の訓練現場を見学

・教養センターの生徒との意見交換

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1(8月3日)	ガイダンス	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワークを実施する際の受講ポイントを理解する
2(8月3日)	「人馬のウェルビーイング」の基礎知識	人馬のウェルビーイングについての基礎的な事項を理解する
3(8月3日)	競馬の概要	競馬とは何か、地方競馬の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する地方競馬全国協会（NAR）について理解する。
4(8月3日)	競馬場でのレース前の競走馬観察	レース前の馬の様子を観察し、馬の挙動や馬を引率する人の役割を理解する
5(8月3日)	競馬場でのレース中の競走馬観察	馬が見せるレース中の全力疾走とその直後の様子を観察し、馬の能力を理解する
6(8月4日)	引退競走馬のリトレーニングの基礎	リトレーニング手法の一つである「グラウンドワーク」のデモンストレーションを見学し、実務現場を理解する
7(8月4日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬体観察）	実馬を展示して引退競走馬に触れながら、生態を理解する
8(8月4日)	人馬のウェルビーイングの実践（触れ合い）	馬の性質を理解するために、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬との触れ合いを体験する
9(8月4日)	人馬のウェルビーイングの実践（馬体手入れ）	引退競走馬への理解を深めるため、人馬のウェルビーイングによる引退競走馬の手入れを体験する
10(8月4日)	地方競馬教養センターの基礎知識	地方競馬教養センターの仕組みと役割を理解する
11(8月5日)	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬の観察	騎手候補生の訓練馬として活躍する引退競走馬のセカンドキャリア構築現場を観察する
12(8月5日)	地方競馬教養センターの施設見学	教養センター生徒と受講生が交流の場を持ち、共通の話題として引退競走馬の役割について議論する
13(8月5日)	地方競馬教養センター生徒と受講生の懇談	騎手候補生が日々訓練を積み夢に向かって研鑽を積む教養センター施設を見学する（トレーニングルーム、訓練トラック走路、厩舎など）
14(8月5日)	まとめ	本授業の振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、引退競走馬のセカンドキャリアについて議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する

【参考書】

人馬のウェルビーイング. 高見京太、佐野竜平編著, クリエイツかもがわ, 2025.

<https://www.creates-k.co.jp/genre/shakai/10196/>

【成績評価の方法と基準】

講義におけるショートレポート：30%

フィールドワークの取り組み：60%

最終レポート：10%

【学生の意見等からの気づき】

学生のレポートから、事前学習の充実が現場での理解を深める鍵となることが分かった。特に、騎手の訓練や引退競走馬のセカンドキャリアについての予備知識が不足していたとの意見があったため、事前講義や資料提供を強化する。

【その他の重要事項】

- ・本授業は、フィールドワーク先の受け入れ可能人数（20名）が受講人数の上限となります。
- ・受講を希望する学生は、4月8日（水）までに学習支援システムで仮登録を行ってください。
- ・仮登録を行った学生は、学習の目標や意気込みを記入して提出し、科目担当者が評価のうえ、受講者を確定します。
- ・結果通知後、受講が認められた学生の履修登録は大学が行います（学生自身による登録は不要です）。
- ・原則として、受講許可後の履修登録の削除はできません。開講日程（8月3日～5日）を十分に確認したうえで申し込んでください。

【2日目・3日目の詳細】

① 8月4日（火）

午前中に多摩キャンパス馬術部馬場にてフィールドワークを実施。講義終了後、キャンパスで昼食をとり、その後、教員と受講学生はバスで那須塩原市の地方競馬教養センターへ向かう。

（13:00 多摩キャンパス出発、15:30 教養センター到着予定）

② 地方競馬教養センター到着後

講義およびグループワークを実施し、併設の那須寮に宿泊。

③ 8月5日（水）

早朝よりフィールドワークを実施。その後、昼食を挟み、教養センターの生徒との交流会を行う。

④ すべてのプログラム終了後、帰路へ

14:30 教養センター発、以下のいずれかでバスを下車可能。

JR 久喜駅（15:30頃）

JR・京王 高尾駅（16:45頃）

多摩キャンパス（17:00頃）

⑤ 参加費

受講者が負担する宿泊費および食費（夕・朝・昼）は、一人あたり6,000円。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, Based on the philosophy of "Horses and Humans Well-being", the aims of this lecture are to understand the method of building a second career for retired racehorses promoted and learn the original philosophy of welfare and new prospects for diversity.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the ecology and evolution of horses and experience the dynamism of racehorses.
- B. Understand the method of building a second career for retired racehorses.
- C. Understand Horses and Humans Well-being.
- D. Discuss ways to link horses' and horses' health and welfare, bring about synergistic effects, and find a specific direction.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report in a lecture: 30%

Fieldwork efforts: 60%

Final report: 10%

英語 1 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコア を上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Pre-Test Chapter1
2	TOEIC All in One	Unit 1/Listening Chapter2
3	TOEIC All in One	Unit 2/Listening Chapter2
4	TOEIC All in One	Unit 1/Reading Chapter2
5	TOEIC All in One	Unit 2/Reading Chapter3
6	TOEIC All in One	Unit 3/Listening Chapter3
7	TOEIC All in One	Unit 4/Listening Chapter4
8	TOEIC All in One	Unit 3/Reading Chapter5
9	TOEIC All in One	Unit 4/Reading Chapter5
10	TOEIC All in One	Unit 5/Listening Chapter6
11	TOEIC All in One	Unit 6/Listening Chapter6
12	TOEIC All in One	Unit 5/Reading Chapter7
13	TOEIC All in One	Unit 6/Reading Chapter7
14	TOEIC All in One	Pre-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくこと。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2 回目までご購入ください

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
< mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp >

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA (英語 / English language education 100)

英語 1 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」[DP5]に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	1
2	TOEIC All in One	Unit1/Listening Chapter2
3	TOEIC All in One	Unit2/Listening Chapter2
4	TOEIC All in One	Unit1/Reading Chapter2
5	TOEIC All in One	Unit2/Reading Chapter3
6	TOEIC All in One	Unit3/Listening Chapter3
7	TOEIC All in One	Unit4/Listening Chapter4
8	TOEIC All in One	Unit3/Reading Chapter5
9	TOEIC All in One	Unit4/Reading Chapter5
10	TOEIC All in One	Unit5/Listening Chapter6
11	TOEIC All in One	Unit6/Listening Chapter6
12	TOEIC All in One	Unit15/Reading Chapter7
13	TOEIC All in One	Unit6/Reading Chapter7

14	TOEIC All in One	Pre-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までご購入ください

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70%、口頭試験 30%の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。

< mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp >

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 1 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」
【DP5】に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC	Pre-Test
	All in One	Chapter 1
2	TOEIC	Unit1/Listening
	All in One	Chapter 2
3	TOEIC	Unit2/Listening
	All in One	Chapter 2
4	TOEIC	Unit1/Reading
	All in One	Chapter 2
5	TOEIC	Unit2/Reading
	All in One	Chapter 3
6	TOEIC	Unit3/Listening
	All in One	Chapter 3
7	TOEIC	Unit4/Listening
	All in One	Chapter 4
8	TOEIC	Unit3/Reading
	All in One	Chapter 5
9	TOEIC	Unit4/Reading
	All in One	Chapter 5
10	TOEIC	Unit5/Listening
	All in One	Chapter 6
11	TOEIC	Unit6/Listening
	All in One	Chapter 6
12	TOEIC	Unit5/Reading
	All in One	Chapter 7
13	TOEIC	Unit6/Reading
	All in One	Chapter 7
14	TOEIC	Pre-Test
	All in One	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて「1 時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業で通知します。

その後、2 回目までご購入ください。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 %の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。

< mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp >

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA（英語 / English language education 100）

英語 2（補講）

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Post-Test Chapter8
2	TOEIC All in One	Unit7/Listening Chapter9
3	TOEIC All in One	Unit8/Listening Chapter9
4	TOEIC All in One	Unit7/Reading Chapter10
5	TOEIC All in One	Unit8/Reading Chapter11
6	TOEIC All in One	Unit9/Listening Chapter12
7	TOEIC All in One	Unit10/Listening Chapter12
8	TOEIC All in One	Unit9/Reading Chapter13
9	TOEIC All in One	Unit10/Reading Chapter13
10	TOEIC All in One	Unit11/Listening Chapter14
11	TOEIC All in One	Unit12/Listening Chapter15
12	TOEIC All in One	Unit11/Reading Chapter16
13	TOEIC All in One	Unit12/Reading Chapter17
14	TOEIC All in One	Post-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2 回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 30%、授業内小 test 30%) 60%、考查点(実力試験) 40% の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 2（補講）

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Post-Test Chapter8
2	TOEIC All in One	Unit7/Listening Chapter9
3	TOEIC All in One	Unit8/Listening Chapter9
4	TOEIC All in One	Unit7/Reading Chapter10
5	TOEIC All in One	Unit8/Reading Chapter11
6	TOEIC All in One	Unit9/Listening Chapter12
7	TOEIC All in One	Unit10/Listening Chapter12
8	TOEIC All in One	Unit9/Reading Chapter13
9	TOEIC All in One	Unit10/Reading Chapter13
10	TOEIC All in One	Unit11/Listening Chapter14
11	TOEIC All in One	Unit12/Listening Chapter15
12	TOEIC All in One	Unit11/Reading Chapter16
13	TOEIC All in One	Unit12/Reading Chapter17
14	TOEIC All in One	Post-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて [1 時間] を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。

その後、2 回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA (英語 / English language education 100)

英語 2 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Post-Test Chapter8
2	TOEIC All in One	Unit7/Listening Chapter9
3	TOEIC All in One	Unit8/Listening Chapter9
4	TOEIC All in One	Unit7/Reading Chapter10
5	TOEIC All in One	Unit8/Reading Chapter11
6	TOEIC All in One	Unit9/Listening Chapter12
7	TOEIC All in One	Unit10/Listening Chapter12
8	TOEIC All in One	Unit9/Reading Chapter13
9	TOEIC All in One	Unit10/Reading Chapter13
10	TOEIC All in One	Unit11/Listening Chapter14
11	TOEIC All in One	Unit12/Listening Chapter15
12	TOEIC All in One	Unit11/Reading Chapter16
13	TOEIC All in One	Unit12/Reading Chapter17
14	TOEIC All in One	Post-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくこと。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて [1 時間] を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2 回目までご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 3 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Pre-Test Chapter1
2	TOEIC All in One	Unit1/Listening Chapter2
3	TOEIC All in One	Unit2/Listening Chapter2
4	TOEIC All in One	Unit1/Reading Chapter2
5	TOEIC All in One	Unit2/Reading Chapter3
6	TOEIC All in One	Unit3/Listening Chapter3
7	TOEIC All in One	Unit4/Listening Chapter4
8	TOEIC All in One	Unit3/Reading Chapter5
9	TOEIC All in One	Unit4/Reading Chapter5
10	TOEIC All in One	Unit5/Listening Chapter6
11	TOEIC All in One	Unit6/Listening Chapter6
12	TOEIC All in One	Unit5/Reading Chapter7
13	TOEIC All in One	Unit6/Reading Chapter7
14	TOEIC All in One	Pre-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。

その後、2 回目にご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。

mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA（英語 / English language education 100）

英語 3（補講）

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコア を上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Pre-Test Chapter 1
2	TOEIC All in One	Unit1/Listening Chapter2
3	TOEIC All in One	Unit2/Listening Chapter2
4	TOEIC All in One	Unit1/Reading Chapter2
5	TOEIC All in One	Unit2/Reading Chapter3
6	TOEIC All in One	Unit3/Listening Chapter3
7	TOEIC All in One	Unit4/Listening Chapter4
8	TOEIC All in One	Unit3/Reading Chapter5
9	TOEIC All in One	Unit4/Reading Chapter5
10	TOEIC All in One	Unit5/Listening Chapter6
11	TOEIC All in One	Unit6/Listening Chapter6
12	TOEIC All in One	Unit5/Reading Chapter7
13	TOEIC All in One	Unit6/Reading Chapter7
14	TOEIC All in One	Pre-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2 回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 3 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」
[DP5] に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Pre-Test Chapter1
2	TOEIC All in One	Unit1/Listening Chapter2
3	TOEIC All in One	Unit2/Listening Chapter2
4	TOEIC All in One	Unit1/Reading Chapter2
5	TOEIC All in One	Unit2/Reading Chapter3
6	TOEIC All in One	Unit3/Listening Chapter3
7	TOEIC All in One	Unit4/Listening Chapter4
8	TOEIC All in One	Unit3/Reading Chapter5
9	TOEIC All in One	Unit4/Reading Chapter5
10	TOEIC All in One	Unit5/Listening Chapter6
11	TOEIC All in One	Unit6/Listening Chapter6
12	TOEIC All in One	Unit5/Reading Chapter7
13	TOEIC All in One	Unit6/Reading Chapter7
14	TOEIC All in One	Pre-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。

その後、2 回目までご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 %の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA (英語 / English language education 100)

英語 4 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Post-Tset Chapter8
2	TOEIC All in One	Unit7/Listening Chapter9
3	TOEIC All in One	Unit8/Listening Chapter9
4	TOEIC All in One	Unit7/Reading Chapter10
5	TOEIC All in One	Unit8/Reading Chapter11
6	TOEIC All in One	Unit9/Listening Chapter12
7	TOEIC All in One	Unit10/Listening Chapter12
8	TOEIC All in One	Unit9/Reading Chapter13
9	TOEIC All in One	Unit10/Reading Chapter13
10	TOEIC All in One	Unit11/Listening Chapter14
11	TOEIC All in One	Unit12/Listening Chapter15
12	TOEIC All in One	Unit11/Reading Chapter16
13	TOEIC All in One	Unit12/Reading Chapter17
14	TOEIC All in One	Post-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【補講クラス】 () 内：出版社と ISBN

1)Level-up Trainer for the TOEIC Test (Cengage ISBN 978-4-86312-294-9)

2)All in One Basic Ver.2 (Linkage 978-4-947747-25-9)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
makio.uchisaka@ecc.co.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 4（補講）

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコア を上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Post-Test Chapter8
2	TOEIC All in One	Unit7/Listening Chapter9
3	TOEIC All in One	Unit8/Listening Chapter9
4	TOEIC All in One	Unit7/Reading Chapter10
5	TOEIC All in One	Unit8/Reading Chapter11
6	TOEIC All in One	Unit9/Listening Chapter12
7	TOEIC All in One	Unit10/Listening Chapter12
8	TOEIC All in One	Unit9/Reading Chapter13
9	TOEIC All in One	Unit10/Reading Chapter13
10	TOEIC All in One	Unit11/Listening Chapter14
11	TOEIC All in One	Unit12/Listening Chapter15
12	TOEIC All in One	Unit11/Reading Chapter16
13	TOEIC All in One	Unit12/Reading Chapter17
14	TOEIC All in One	Post-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくこと。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【補講クラス】 () 内：出版社と ISBN

- 1)Level-up Trainer for the TOEIC Test (Cengage ISBN 978-4-86312-294-9)
- 2)All in One Basic Ver.2 (Linkage 978-4-947747-25-9)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 % の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
makio.uchisaka@ecc.co.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA (英語 / English language education 100)

英語 4 (補講)

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文 300 文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時に TOEIC 形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけ TOEIC スコアを上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスでは TOEIC スコア 500 点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師 2 人が文法基礎と TOEIC を担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	TOEIC All in One	Post-Test Chapter8
2	TOEIC All in One	Unit7/Listening Chapter9
3	TOEIC All in One	Unit8/Listening Chapter9
4	TOEIC All in One	Unit7/Reading Chapter10
5	TOEIC All in One	Unit8/Reading Chapter11
6	TOEIC All in One	Unit9/Listening Chapter12
7	TOEIC All in One	Unit10/Listening Chapter12
8	TOEIC All in One	Unit9/Reading Chapter13
9	TOEIC All in One	Unit10/Reading Chapter13
10	TOEIC All in One	Unit11/Listening Chapter14
11	TOEIC All in One	Unit12/Listening Chapter15
12	TOEIC All in One	Unit11/Reading Chapter16
13	TOEIC All in One	Unit12/Reading Chapter17
14	TOEIC All in One	Post-Test Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【補講クラス】○ 内：出版社と ISBN

1)Level-up Trainer for the TOEIC Test (Cengage ISBN 978-4-86312-294-9)

2)All in One Basic Ver.2 (Linkage 978-4-947747-25-9)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 40%、授業内 小 test 30%) 70 %、口頭試験 30 %の合計で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
makio.uchisaka@ecc.co.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 1

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC/概要 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Pre-Test (模試形式) WE/Conversation/ Listening “Geography, Climate &Food”
2	TOEIC/Unit 2 : 数量 を尋ねる WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Listening WE/Conversation/ Listening “Personal Experiences &Small Talk”
3	TOEIC/Unit 1 : 予 定・動詞 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Listening WE/Grammar : 動詞・時制 Reading
4	TOEIC/Unit 2 : 名詞 WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Reading WE/Grammar : 動詞・完了形 Reading
5	TOEIC/Unit 1 : 5文型 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Reading WE/Video Journal Writing : E-mail
6	TOEIC/Unit 4 : 広告・ 宣伝 WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Listening WE/Video Journal Writing : Opinions
7	TOEIC/Unit 3 : 命令・ 依頼 WE/Unit 1 : 巻末 Review	TOEIC/Listening

8	TOEIC/Unit 4 : Phrase Reading WE/Unit 2 : 巻末 Review	TOEIC/Reading
9	TOEIC/Unit 3 : 形容 詞・副詞 WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Reading WE/Conversation/Listening “Your City or Town & Neighborhood”
10	TOEIC/Unit 6 : 場所 を尋ねる WE/Unit 4 : The Body	TOEIC/Listening WE/Conversation/Listening “Health &Lifestyles”
11	TOEIC/Unit 5 : 時間 を尋ねる WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Listening WE/Grammar : Will Reading
12	TOEIC/Unit 6 : To 不 定詞 WE/Unit 4 : The Body	TOEIC/Reading WE/Grammar : 比較 Reading
13	TOEIC/Unit 5 : 動名詞 WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Reading WE/Video Journal Writing : Predictions
14	TOEIC/Pre-Test WE/解説	TOEIC/Unit 4 : The Body WE/Video Journal Writing : Excuse

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて「1時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内 小 tests 20%、 presentation 20%) 60 %、
考查点 (TOEIC IP) 40 %の合計で評価。
B期に行われる TOEIC IP 未受験の場合、A期B期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA（英語 / English language education 100）

英語 1

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC/概要 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Pre-Test (模試形式) WE/Conversation/ Listening “Geography, Climate &Food”
2	TOEIC/Unit 2 : 数量を尋ねる WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Listening WE/Conversation/ Listening “Personal Experiences &Small Talk”
3	TOEIC/Unit 1 : 予定・動詞 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Listening WE/Grammar : 動詞・時制 Reading
4	TOEIC/Unit 2 : 名詞 WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Reading WE/Grammar : 動詞・完了形 Reading
5	TOEIC/Unit 1 : 5文型 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Reading WE/Video Journal Writing : E-mail
6	TOEIC/Unit 4 : 広告・宣伝 WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Listening WE/Video Journal Writing : Opinions
7	TOEIC/Unit 3 : 命令・依頼 WE/Unit 1 : 巻末 Review	TOEIC/Listening
8	TOEIC/Unit 4 : Phrase Reading WE/Unit 2 : 巻末 Review	TOEIC/Reading

9	TOEIC/Unit 3 : 形容詞・副詞 WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Reading WE/Conversation/Listening “Your City or Town & Neighborhood”
10	TOEIC/Unit 6 : 場所を尋ねる WE/Unit 4 : The Body	TOEIC/Listening WE/Conversation/Listening “Health &Lifestyles”
11	TOEIC/Unit 5 : 時間を尋ねる WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Listening WE/Grammar : Will Reading
12	TOEIC/Unit 6 : To不定詞 WE/Unit 4 : The Body	TOEIC/Reading WE/Grammar : 比較 Reading
13	TOEIC/Unit 5 : 動名詞 WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Reading WE/Video Journal Writing : Predictions
14	TOEIC/Pre-Test WE/解説	TOEIC/Unit 4 : The Body WE/Video Journal Writing : Excuse

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて「1時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までに購入ください

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%) 60%、
査点(実力試験) 40%の合計で評価。
B期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、A期B期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 1

理工学部英語担当教員

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC/概要 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Pre-Test (模試形式) WE/Conversation/ Listening “Geography, Climate &Food”
2	TOEIC/Unit 2 : 数量を尋ねる WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Listening WE/Conversation/ Listening “Personal Experiences &Small Talk”
3	TOEIC/Unit 1 : 予定・動詞 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Listening WE/Grammar : 動詞・時制 Reading
4	TOEIC/Unit 2 : 名詞 WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Reading WE/Grammar : 動詞・完了形 Reading
5	TOEIC/Unit 1 : 5文型 WE/Unit 1 : Food from the Earth	TOEIC/Reading WE/Video Journal Writing : E-mail
6	TOEIC/Unit 4 : 広告・宣伝 WE/Unit 2 : Express Yourself	TOEIC/Listening WE/Video Journal Writing : Opinions
7	TOEIC/Unit 3 : 命令・依頼 WE/Unit 1 : 巻末 Review	TOEIC/Listening
8	TOEIC/Unit 4 : Phrase Reading WE/Unit 2 : 巻末 Review	TOEIC/Reading
9	TOEIC/Unit 3 : 形容詞・副詞 WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Reading WE/Conversation/Listening “Your City or Town & Neighborhood”

10	TOEIC/Unit 6 : 場所を尋ねる WE/Unit 4 : The Body	TOEIC/Listening WE/Conversation/Listening “Health &Lifestyles”
11	TOEIC/Unit 5 : 時間を尋ねる WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Listening WE/Grammar : Will Reading
12	TOEIC/Unit 6 : To不定詞 WE/Unit 4 : The Body	TOEIC/Reading WE/Grammar : 比較 Reading
13	TOEIC/Unit 5 : 動名詞 WE/Unit 3 : Cities	TOEIC/Reading WE/Video Journal Writing : Predictions
14	TOEIC/Pre-Test WE/解説	TOEIC/Unit 4 : The Body WE/Video Journal Writing : Excuse

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくることが。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。その後、2回目までご購入ください

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%）60 %、
考查点（実力試験）40 %の合計で評価。
B期に行われる TOEIC IP 未受験の場合、A期B期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA (英語 / English language education 100)

英語 2

理工学部英語担当教員

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。
上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC/A期の復習 WE/Unit 3：巻末 Review	TOEIC/Post-Test (模試形式)
2	TOEIC/Unit 8：留守電 WE/Unit 4：巻末 Review	TOEIC/Listening
3	TOEIC/Unit 7：確認 WE/TED Talks：After You Watch	TOEIC/Listening WE/Presentation 準備
4	TOEIC/Unit 8：Scanning WE/Unit 6：Transitions	TOEIC/Reading WE/Conversation/ Listening “Milestones in Your Life”
5	TOEIC/Unit 7：分詞 WE/Presentation	TOEIC/Reading
6	TOEIC/Unit 10：誘い WE/Unit 6：Transitions	TOEIC/Listening WE/Grammar：完了形・How Reading
7	TOEIC/Unit 9：Advice WE/Unit 5：Challenges	TOEIC/Listening WE/Conversation/ Listening “Challenges &Past Accomplishments”
8	TOEIC/Unit 10：比較 WE/Unit 6：巻末 Review	TOEIC/Reading
9	TOEIC/Unit 9：受動態 WE/Unit 5：Challenges	TOEIC/Reading WE/Grammar：過去形 Reading
10	TOEIC/Unit 12：講演者紹介 WE/Unit 6：巻末 Review	TOEIC/Listening

11	TOEIC/Unit 11：申し出 WE/Unit 5：Challenges	TOEIC/Listening WE/Video Journal Writing：Challenging Experience
12	TOEIC/Unit 12：Skimming WE/TED Talks：After You Watch	TOEIC/Reading WE/Presentation 準備
13	TOEIC/Unit 11：関係詞 WE/Unit 5：巻末 Review	TOEIC/Reading
14	TOEIC/Post-Test WE/Presentation	TOEIC/解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%) 60 %、
査点 (TOEIC IP) 40 %の合計で評価。
B期に行われる TOEIC IP 未受験の場合、A期B期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 2

工学部英語担当教員

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC/A期の復習 WE/Unit 3：巻末 Review	TOEIC/Post-Test（模試形式）
2	TOEIC/Unit 8：留守電 WE/Unit 4：巻末 Review	TOEIC/Listening
3	TOEIC/Unit 7：確認 WE/TED Talks： After You Watch	TOEIC/Listening WE/Presentation 準備
4	TOEIC/Unit 8： Scanning WE/Unit 6： Transitions	TOEIC/Reading WE/Conversation/ Listening “Milestones in Your Life”
5	TOEIC/Unit 7：分詞 WE/Presentation	TOEIC/Reading
6	TOEIC/Unit 10：誘い WE/Unit 6： Transitions	TOEIC/Listening WE/Grammar：完了形・How Reading
7	TOEIC/Unit 9： Advice WE/Unit 5： Challenges	TOEIC/Listening WE/Conversation/ Listening “Challenges & Past Accomplishments”
8	TOEIC/Unit 10：比較 WE/Unit 6：巻末 Review	TOEIC/Reading

9	TOEIC/Unit 9：受動態 WE/Unit 5： Challenges	TOEIC/Reading WE/Grammar：過去形 Reading
10	TOEIC/Unit 12：講演 者紹介 WE/Unit 6：巻末 Review	TOEIC/Listening
11	TOEIC/Unit 11：申 し出 WE/Unit 5： Challenges	TOEIC/Listening WE/Video Journal Writing：Challenging Experience
12	TOEIC/Unit 12： Skimming WE/TED Talks： After You Watch	TOEIC/Reading WE/Presentation 準備
13	TOEIC/Unit 11：関 係詞 WE/Unit 5：巻末 Review	TOEIC/Reading
14	TOEIC/Post-Test WE/Presentation	TOEIC/解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内 小 tests 20%、presentation 20%) 60%、
査点(実力試験) 40%の合計で評価。
B期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、A期B期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA（英語 / English language education 100）

英語 2

デ工学部英語担当教員

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC/A期の復習 WE/Unit 3：巻末 Review	TOEIC/Post-Test（模試形式）
2	TOEIC/Unit 8：留守電 WE/Unit 4：巻末 Review	TOEIC/Listening
3	TOEIC/Unit 7：確認 WE/TED Talks：After You Watch	TOEIC/Listening WE/Presentation 準備
4	TOEIC/Unit 8：Scanning WE/Unit 6：Transitions	TOEIC/Reading WE/Conversation/ Listening “Milestones in Your Life”
5	TOEIC/Unit 7：分詞 WE/Presentation	TOEIC/Reading
6	TOEIC/Unit 10：誘い WE/Unit 6：Transitions	TOEIC/Listening WE/Grammar：完了形・How Reading
7	TOEIC/Unit 9：Advice WE/Unit 5：Challenges	TOEIC/Listening WE/Conversation/ Listening “Challenges &Past Accomplishments”
8	TOEIC/Unit 10：比較 WE/Unit 6：巻末 Review	TOEIC/Reading
9	TOEIC/Unit 9：受動態 WE/Unit 5：Challenges	TOEIC/Reading WE/Grammar：過去形 Reading

10	TOEIC/Unit 12：講演者紹介 WE/Unit 6：巻末 Review	TOEIC/Listening
11	TOEIC/Unit 11：申し出 WE/Unit 5：Challenges	TOEIC/Listening WE/Video Journal Writing：Challenging Experience
12	TOEIC/Unit 12：Skimming WE/TED Talks：After You Watch	TOEIC/Reading WE/Presentation 準備
13	TOEIC/Unit 11：関係詞 WE/Unit 5：巻末 Review	TOEIC/Reading
14	TOEIC/Post-Test WE/Presentation	TOEIC/解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%）60 %、
考查点（TOEIC IP）40 %の合計で評価。
B期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、A期B期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 3

理工学部英語担当教員

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力、TOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」

【DP5】に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例	Pre-Test
	TOEIC：模試形式	Luxuries: Conversation & Listening
2	World English Unit 7	TOEIC Unit 1
	World English Unit 8	Nature / Conversation & Listening
3	TOEIC Unit 2	基本戦略1 Listening
	World English Unit 7	Luxuries: Grammar / Reading
4	TOEIC Unit 1	テスト形式を知る Reading
	World English Unit 8	Nature / Grammar & Reading
5	TOEIC Unit 2	基本戦略1 Reading
	World English Unit 7	Luxuries / Writing
6	TOEIC Unit 3	基本戦略2 Listening
	World English Unit 8	Nature / Writing
7	TOEIC Unit 4	英文の基本構造を見抜く Listening
	World English Unit 7	Luxuries / Video Journal
8	TOEIC Unit 3	基本戦略2 Reading
	World English Unit 8	Nature / Video Journal
9	TOEIC Unit 4	英文の基本構造を見抜く Reading
	World English Unit 9	Life in the Past / Conversation & Listening
10	TOEIC Unit 5	解答根拠の登場順 Listening
	World English Unit 10	Travel / Conversation & Listening
11	TOEIC Unit 6	正解の言い換えパターンを知る
	World English Unit 9	Listening
		Life in the Past / Grammar & Reading

12	TOEIC Unit 5	解答根拠の登場順 Reading
	World English Unit 10	Travel / Grammar & Reading
13	TOEIC Unit 6	正解の言い換えパターンを知る
	World English Unit 9	Reading
		Life in the Past / Writing
14	TOEIC Unit 7	機能疑問文を聞き取る Listening
	World English Unit 10	Travel / Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内小tests 20%、presentation 20%) 60%、
考查点(実力試験) 40%の合計で評価。

D期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、C期D期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA（英語 / English language education 100）

英語 3

工学部英語担当教員

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC：模試形式 World English Unit 7	Pre-Test Luxuries: Conversation & Listening
2	TOEIC Unit 1 World English Unit 8	テスト形式を知る / Listening Nature / Conversation & Listening
3	TOEIC Unit 2 World English Unit 7	基本戦略1 Listening Luxuries: Grammar / Reading
4	TOEIC Unit 1 World English Unit 8	テスト形式を知る Reading Nature / Grammar & Reading
5	TOEIC Unit 2 World English Unit 7	基本戦略1 Reading Luxuries / Writing
6	TOEIC Unit 3 World English Unit 8	基本戦略2 Listening Nature / Writing
7	TOEIC Unit 4 World English Unit 7	英文の基本構造を見抜く Listening Luxuries / Video Journal
8	TOEIC Unit 3 World English Unit 8	基本戦略2 Reading Nature / Video Journal
9	TOEIC Unit 4 World English Unit 9	英文の基本構造を見抜く Reading Life in the Past / Conversation & Listening
10	TOEIC Unit 5 World English Unit 10	解答根拠の登場順 Listening Travel / Conversation & Listening
11	TOEIC Unit 6 World English Unit 9	正解の言い換えパターンを知る Listening Life in the Past / Writing
12	TOEIC Unit 5 World English Unit 10	解答根拠の登場順 Reading Travel / Grammar & Reading
13	TOEIC Unit 6 World English Unit 9	正解の言い換えパターンを知る Reading Life in the Past / Writing

14 TOEIC Unit 7 機能疑問文を聞き取る Listening World English Unit 10 Travel / Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%) 60%、
査点(実力試験) 40%の合計で評価。
D期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、C期D期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 3

理工学部英語担当教員

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC：模試形式 World English Unit 7 TOEIC Unit 1	Pre-Test Luxuries: Conversation & Listening テスト形式を知る / Listening
2	World English Unit 8 TOEIC Unit 2	Nature / Conversation & Listening 基本戦略1 Listening
3	World English Unit 7 TOEIC Unit 1	Luxuries: Grammar / Reading テスト形式を知る Reading
4	World English Unit 8 TOEIC Unit 2	Nature / Grammar & Reading 基本戦略1 Reading
5	World English Unit 7 TOEIC Unit 3	Luxuries / Writing 基本戦略2 Listening
6	World English Unit 8 TOEIC Unit 4	Nature / Writing 英文の基本構造を見抜く Listening
7	World English Unit 7 TOEIC Unit 3	Luxuries / Video Journal 基本戦略2 Reading
8	World English Unit 8 TOEIC Unit 4	Nature / Video Journal 英文の基本構造を見抜く Reading
9	World English Unit 9 TOEIC Unit 5	Life in the Past / Conversation & Listening 解答根拠の登場順 Listening
10	World English Unit 10 TOEIC Unit 6	Travel / Conversation & Listening 正解の言い換えパターンを知る
11	World English Unit 9 TOEIC Unit 6	Listening Life in the Past / Grammar & Reading
12	World English Unit 10 TOEIC Unit 7	Travel / Grammar & Reading 解答根拠の登場順 Reading
13	World English Unit 9 TOEIC Unit 7	Reading 正解の言い換えパターンを知る
14	World English Unit 10 TOEIC Unit 7	Life in the Past / Writing 機能疑問文を聞き取る Listening
		Travel / Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしてくれることが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて「1時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%) 60%、
査点(実力試験) 40%の合計で評価。

D期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、C期D期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】
At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】
Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 4

デ工学部英語担当教員

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC Unit 8 World English Unit 9	Post-Test 動詞の時制を見極める Listening Life in the Past / Video Journal .
2	TOEIC Unit 7 World English Unit 10	機能疑問文を聞き取る Reading Travel / Video Journal
3	TOEIC Unit 8 World English Unit 11	動詞の時制を見極める Reading Careers / Conversation & Listening
4	TOEIC Unit 9 World English Unit 12:	接続詞 VS. 前置詞 Listening Celebrations / Conversation & Listening
5	TOEIC Unit 10 World English Unit 11	複数のパッセージの攻略 Listening Careers / Grammar &Reading
6	TOEIC Unit 9 World English Unit 12	接続詞 VS. 前置詞 Reading Celebrations / Grammar & Reading
7	TOEIC Unit 10 World English Unit 11	複数のパッセージの攻略 Reading Careers / Writing
8	TOEIC Unit 11 World English Unit 12	接続副詞に強くなる Listening Celebrations / Writing
9	TOEIC Unit 12 World English Unit 11	NOT型設問のコツ Listening Careers / Video Journal
10	TOEIC Unit 11 World English Unit 12	接続副詞に強くなる Reading Celebrations / Video Journal
11	TOEIC Unit 12 World English	NOT型設問のコツ Reading Review
12	TOEIC World English	Post Test Review
13	TOEIC World English	Review Presentation

14

TOEIC
World English

Post Test 解説
Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内 小 tests 20%、presentation 20%) 60%、
考查点 (TOEIC IP) 40%の合計で評価。
D期に行われる TOEIC IP 未受験の場合、C期D期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building.

The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

英語 4

理工学部英語担当教員

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。
上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級の一例 TOEIC Unit 8	Post-Test 動詞の時制を見極める Listening
2	World English Unit 9 TOEIC Unit 7	Life in the Past / Video Journal 機能疑問文を聞き取る Reading
3	World English Unit 10 TOEIC Unit 8	Travel / Video Journal 動詞の時制を見極める Reading
4	World English Unit 11 TOEIC Unit 9	Careers / Conversation & Listening 接続詞 VS. 前置詞 Listening
5	World English Unit 12 TOEIC Unit 10	Celebrations / Conversation & Listening 複数のパッセージの攻略 Listening
6	World English Unit 11 TOEIC Unit 11	Careers / Grammar & Reading 接続詞 VS. 前置詞 Reading
7	World English Unit 12 TOEIC Unit 12	Celebrations / Grammar & Reading 複数のパッセージの攻略 Reading
8	World English Unit 11 TOEIC Unit 11	Careers / Writing 接続副詞に強くなる Listening
9	World English Unit 12 TOEIC Unit 12	Celebrations / Writing 型設問のコツ Listening
10	World English Unit 11 TOEIC Unit 11	Careers / Video Journal 接続副詞に強くなる Reading
11	World English Unit 12 TOEIC Unit 12	Celebrations / Video Journal NOT型設問のコツ Reading
12	World English Unit 11 TOEIC Unit 11	Review Post Test
13	World English Unit 12 TOEIC Unit 12	Review Presentation
14	World English Unit 11 TOEIC Unit 11	Post Test 解説 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えてくること。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしておくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内小 tests 20%、presentation 20%) 60%、
査点 (TOEIC IP) 40% の合計で評価。
D 期に行われる TOEIC IP 未受験の場合、C 期D 期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
makio.uchisaka@ecc.co.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

LANe100NA（英語 / English language education 100）

英語 4

工学部英語担当教員

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級レベルクラスでは、これまで理解が曖昧だった可能性のある英文法を学習・確認し直すことで英語運用の将来への確実な基礎を作る。基本例文300文程度を暗記暗唱し、更に例文に基づいた筆記・口頭応用英作文や会話練習を行うことで英語を立体的に理解する。同時にTOEIC形式の演習を通じて語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを上げる。準中級～上級レベルクラスではグローバルなテーマについて、Listening、Speaking、Reading、Writingの力をつけ、TOEIC形式の演習を徹底して行い、より高い語彙、聴解力、読解力をつけTOEICスコアを更に上げる。

【到達目標】

初級レベルクラスではTOEICスコア500点以上取得を目標にする。上級レベルクラスではTOEICスコア800点以上取得を目標にする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力 10%
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業とする。初級レベルクラスでは邦人講師2人が文法基礎とTOEICを担当する。準中級～中級レベルクラスでは邦人講師2人がListening、Speaking、Reading、WritingとTOEICを担当する。英語に慣れ、英語を日本語を介せず理解できる「英語脳」をつくるため、授業は基本的に解説箇所を除きわかりやすい英語で行う。

上級レベルクラスではネイティブ講師がListening、Speaking、邦人講師がReading、WritingとTOEIC対策を担当する。授業は英語で行われ、Discussion、Presentationも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	※準中級クラスの一例 TOEIC Unit 8 World English Unit 9	Post-Test 動詞の時制を見極める Listening Life in the Past / Video Journal
2	TOEIC Unit 7 World English Unit 10	機能疑問文を聞き取る Reading Travel / Video Journal
3	TOEIC Unit 8 World English Unit 11	動詞の時制を見極める Reading Careers / Conversation & Listening
4	TOEIC Unit 9 World English Unit 12	接続詞 VS. 前置詞 Listening Celebrations / Conversation & Listening
5	TOEIC Unit 10 World English Unit 11	複数のパッセージの攻略 Listening Careers / Grammar & Reading
6	TOEIC Unit 9 World English Unit 12	複数のパッセージの攻略 Listening Careers / Grammar & Reading
7	TOEIC Unit 10 World English Unit 11	複数のパッセージの攻略 Reading Careers / Writing
8	TOEIC Unit 11 World English Unit 12	接続副詞に強くなる Listening Celebrations / Writing
9	TOEIC Unit 12 World English Unit 11	NOT型設問のコツ Listening Careers / Video Journal
10	TOEIC Unit 11 World English Unit 12	接続副詞に強くなる Reading Celebrations / Video Journal
11	TOEIC Unit 12 World English	NOT型設問のコツ Reading Review

12	TOEIC World English	Post Test Review
13	TOEIC World English	Review Presentation
14	TOEIC World English	Post Test 解説 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておくことは当然として、毎回、新出語彙が出題され次回授業で小テストを行うので、必ず覚えておくこと。またそれ以外の課題が出題された場合はそれをしていただくことが次回授業を進める上での前提となるので必ず行うこと。これらは成績に反映されます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト 初回授業で通知します。
その後、2回目までにご購入ください

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加度 20%、授業内 小 tests 20%、presentation 20%) 60 %、
考查点 (TOEIC IP) 40 %の合計で評価。
D期に行われるTOEIC IP 未受験の場合、C期D期の成績が判定不能となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業に関するお問い合わせは以下のメールアドレス宛にご連絡ください。
mari.kamozawa.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

For Pre-Intermediate, Intermediate, and Advanced level students, the course is designed to enhance the ability to read critically, discuss ideas effectively, present ideas in writing and to develop students' skill in making oral presentations. For Elementary level students, review the basics of Grammar being used in real life situations. Students are asked to memorize 300 or more sentences to develop communication skills that would help them cope with the demands of college work and everyday life, shifting from language learning to communication building. The course incorporates TOEIC exercises and vocabulary building to aim for higher scores on the TOEIC test.

【Learning Objectives】

At the end of this course, elementary and intermediate level students are expected to obtain a TOEIC score of over 500, and advanced level students over 800.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments and submit them in time without fail, study for vocabulary quizzes and review lessons. You are required to study at least four hours for each class meeting.

【Grading Policies】

Grading will be decided based on class performance (in-class contribution, mini-quiz, and presentation) 60% and TOEIC IP/term-end examination (40%).

知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、特許（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

- ・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
- ・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	大学図書館利用規程を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（特許）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）

13 不正競争防止法 行為規制型の法制度を理解する

14 まとめ 授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと）。

著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和7年度）（文化庁著作権課、2025年）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/94283401_01.pdf

はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2025年）

<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf>

2025年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2025年）

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2025_nyumon/all.pdf

特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40％）、および期末に提出するレポート（60％）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回授業時に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・授業では著作権法・特許法・意匠法・商標法を中心に検討するほか、近年技術開発と実用化が急速に進展している生成AIについても概観します。
- ・授業内容に関する質問・コメントは随時、電子メールにて受け付けます（メールアドレスは毎回配布するレジメの表紙に記載しています）。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.

Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

LAW100NA（法学 / law 100）

知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、特許（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

- ・この授業はzoomを用いたオンライン形式で開講します。
- ・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoomの双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	大学図書館利用規程を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等と与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（特許）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDFファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと）。

著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和7年度）（文化庁著作権課、2025年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/94283401_01.pdf

はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2025年）
<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf>

2025年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2025年）

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2025_nyumon/all.pdf

特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40％）、および期末に提出するレポート（60％）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回授業時に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・授業では著作権法・特許法・意匠法・商標法を中心に検討するほか、近年技術開発と実用化が急速に進展している生成AIについても概観します。
- ・授業内容に関する質問・コメントは随時、電子メールにて受け付けます（メールアドレスは毎回配布するレジメの表紙に記載しています）。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.

Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、特許（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は zoom を用いたオンライン形式で開講します。
- ・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoom の双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	大学図書館利用規程を事例に法律文を読解する
3	著作権法(1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法(2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法(3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法(4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法(5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法(6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（特許）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018年）、990円（税込）

【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDF ファイルは各自PCにダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと）。

著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和7年度）（文化庁著作権課、2025年）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/94283401_01.pdf

はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2025年）

<https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1.pdf>

2025年度知的財産権制度入門テキスト（特許庁、2025年）

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2025_nyumon/all.pdf

特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40％）、および期末に提出するレポート（60％）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回授業時に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・授業では著作権法・特許法・意匠法・商標法を中心に検討するほか、近年技術開発と実用化が急速に進展している生成AIについても概観します。
- ・授業内容に関する質問・コメントは随時、電子メールにて受け付けます（メールアドレスは毎回配布するレジメの表紙に記載しています）。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with the basic principles of intellectual property rights, including copyright, patents, industrial designs and trademarks as well as the protection of information. It is recommended for those with a keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and film.

Students are required to spend two hours for a class and are expected to complete assignments (short reports) after each class. The final mark will be based on the term-end report (60%) and the short reports/class contribution (40%).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 最大6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半に行うグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめる。そのため、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。

第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.
4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.
Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%. Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 最大6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半に行うグループワークを通じJICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめる。そのため、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグル分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。

第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講師から資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining and accommodating cultural differences. The main focus of the lectures is given to the official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.
1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆の市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆の市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10％と期末の論述試験90％。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史の変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10％と期末の論述試験90％。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA（芸術学 / Art studies 100）

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	15%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	都市を視る目	都市図を読解する。
第02回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第03回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第04回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第05回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第06回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第07回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第08回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第09回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第10回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第11回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第12回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第13回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第14回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002年）

【成績評価の方法と基準】

平常点10%と期末の論述試験90%。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学 建築・他学部公開

SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】

人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えると考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。

課題等の提出・お知らせは「学習支援システム」を通じて行う予定である。全ての回を「オンライン」で実施する。具体的には学習支援システムのお知らせを確認することと、前の週に次の講義について毎回告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知：	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べ整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない

【参考書】

講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。

イラストで学ぶ認知科学

認知科学講座1 心と身体

認知科学講座2 心と脳

認知科学講座3 心と社会

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ1 はじめての認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ5 表現する認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ6 感じる認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ10 選択と誘導の認知科学

認知心理学 知のアーキテクチャを探る

認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。

小テスト及びレポート課題：60%、最終テスト：40%の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、接続記録を元に出席を取るため、安定したネットワークを確保し、授業に参加すること。

【その他の重要事項】

講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short tests : 60%、Final test : 40%

イタリア語・イタリア文化

押場 靖志

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

耳慣れない言葉の響きは両義的だ。不快感を持つこともあるだろう。魅力的に聞こえたりもする。快と不快の感覚は、自分の言語世界の限界をマークしている。いわば外と内との境界に立っていることなのだが、そこにこそ可能性が開かれるはずだ。ある文学者は、そんな言葉の両義性を、ウナギをつかむことに例えていた。うなぎという「わけのわからないもの」は、格好をつけていると手元からすりりと逃れてしまう。ぶざまな姿をさらしながらも、うなぎと滑槽に戯れ始めるところで、なにかが始まる。そう言うのだ。

いわゆる「母語」、最近では第一言語というけれど、すでに安住の地になっている場所から外にでて、不思議な響きの背後にあるものに接近するためには、ウナギつかみの滑槽さを引き受けなければならないのだろう。「わけのわからない」言葉や「わけのわからない」習俗は、閉塞を開いてくれる可能性でもある。

そこでは謎が次から次へとあらわれてくる。想像力を働かせ、誤解の迷路を彷徨おうではないか。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を磨くとは、身体を迷路に置くことにほかならない。もちろん想像力は発揮され、さらなる深い迷路と追い込むかもしれないけれど、それでもかまわない。ジタバタと「未知なるもの」に立ち向かってゆくことの、**「イタリア語」とか「イタリア文化」**のようなものに近づくことなのだから。外から見れば滑槽に歌い踊っているように見えるかもしれないけれど、ただ見ているよりも踊って歌うほうがよい。踊って歌いながら、少しずつ未知への扉を開けてゆくのではないか。

【到達目標】

イタリア的なものの肌触りをつかみ、異文化理解の足がかりとする。その背後に息づく人々の気配を感じながら、さらに想像力を働かせ、社会、文化、あるいは歴史と呼ばれるものへと関心を広げ、基本的なイタリア語によるコミュニケーションの足がかりをつくる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○	◎	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Zoom によるオンライン授業。映像素材を用いて、イタリアの風景のなかでの日常会話や音楽、映画やドキュメンタリーなどに触れる。基本的なイタリア語の表現に耳を傾け、自分からも発信できるようにする。ブレイクアウトルームでのグループワーク、オンラインでの発音練習、「Hoppii」上での小テストあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1-1 イタリア語に出会う	あいさつと自己紹介
2	1-2 イタリアを知る	“Buongiorno”と「こんにちは」の間にあるもの
3	2-1 イタリア語に出会う	BARへ行き、注文する
4	2-2 イタリアを知る	BAR的な出会いを考える
5	3-1 イタリア語に出会う	人称と距離について考える
6	3-2 イタリアを知る	言葉と時代、そして歴史
7	4-1 イタリア語に出会う	相手のことを知る 自分を伝える
8	4-2 イタリアを知る	カンパニリズムとイタリアの多様性
9	5-1 イタリア語に出会う	家族について話す
10	5-2 イタリアを知る	家族から見るイタリア的なもの
11	6-1 イタリア語に出会う	道をたずねる
12	6-2 イタリアを知る	「すべての道はローマに通ず」
13	7-1 イタリア語に出会う	好きなものを伝える
14	7-2 イタリアを知る	イタリアの今

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

イタリアに関することに関心を向けておくこと。身近なところでは料理があるし、イタリアを題材にした小説や評論も数多くある。言葉の響きに触れておくなら映画や音楽を鑑賞してもよいだろう。各自工夫のこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

イタリア語辞書。紙媒体だと

1)『伊和中辞典』小学館：語彙数も多く、定番のイタリア語辞書。

2)『ブリーモ伊和辞典』白水社：これは初学者用だが丁寧。

3)『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』小学館：小さくて便利、初学者用。

それ以外にもあるが書店で確認のこと。

電子媒体では iPhone/iPad/Mac 用のアプリが物書堂から出ている。https://www.monokakido.jp/ja/old_product/foreign/italiano/

【成績評価の方法と基準】

小テストの提出率を30%、小テストの成績（平常点）を40%、最終日の小テストを期末試験とみなし30%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「語学と文化論を平行して進めてきた授業だが、今回の学生アンケートのコメントにおいて、イタリア語そのもののへの関心の高さが示されたことを受け、今後さらに発音や文法の解説の比重を高めてゆく」というのは、数年前に書いたが、その後授業改善アンケートの結果がこちらにフィードバックされていない。学生からの直接のフィードバックを期待する。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom 授業用のパソコン。会話ができるマイク&イヤホン（あるいはヘッドセットなど）。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

The sound of foreign languages can be ambiguous, at times feeling awkward and other times charming. The awkwardness might keep us closed off in the world of own language, but the charm might lead us beyond such borders where we witness new possibilities about ourselves. So let us be charmed by the strange sounds. Like struggling to catch a slippery eel, it can something you aren't familiar with handling; to catch it you have to dance with it, which might seem ridiculous but comes with all unknowns, in this case someone else's language and culture.

I only hope the students may find something strange, unknown and charming in the Italian language and culture offered in this course, so as to start learning, through the elementary four abilities "listening, speaking, reading, and writing".

Learning Objectives: getting to be familiar with the feel of Italian things with listening / speaking, reading / writing activities, that would be a stepping stone for cross-cultural understanding. While feeling the presence of the people living behind it, use your imagination further, and grasp the foothold of basic Italian communication while expanding your interest to what is called society, culture, or history.

Learning activities outside of classroom: Keep an interest in things related to Italy. You can find the Italian cuisine, novels and essays about Italy. If you want to get familiar with how the language sounds like, you can watch movies and hear Italian pops, maybe via internet. Just try as you like. The preparation and restudy time would be 2 hours
Grade evaluation: 30% on normal score (attendance rate) , 30% on the mini-exam/quiz, and 40% on the final exam.

中国語・中国文化

田村 広子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語のピンイン、基本的文法、語彙などを学び、日常会話ができる語学力を習得する。中国の文化についても学ぶ。

【到達目標】

初級中国語のピンイン、基本的文法、語彙などを学び、日常会話ができる語学力を習得する。中国の風土、文化、歴史、社会についても解説する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、発音の表記であるピンインを習得する。初めにピンインをマスターしておけば、新しい単語でも自分で発音できるようになる。そして、自己紹介、基本的な文法から始め、最後には簡単な会話ができるようになる。中国文化については、衣・食・住といった生活に関わる諸文化についてその歴史も交えながら紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本と中国の漢字の違いについて、授業の進め方、学習方法、毎回の授業の講義方法と学習方法を解説する。
2	発音の基礎1（母音）	母音の発音や表記方法を覚える。
3	発音の基礎2（子音）	子音の発音や表記方法を覚え、母音との組み合わせについても学ぶ。この時点でひとまず中国語に必要なすべての発音が登場したことになる。
4	挨拶をする	自己紹介や時候の挨拶ができるようになる。 挨拶をとおして日中の文化の違いを見つけ出そう。
5	買い物をする	数の数え方を覚えた上で、時間や値段を聞けるようになる。
6	日本の外来語・中国の外来語	外来語から日中双方の言葉の文化の違いを知る。
7	中国の地名	国・省・市・村といった行政単位の呼び方を知る。広大な中国の地域ごとの特徴も紹介する。
8	中国の方位	前後左右、東西南北といった方向を指示する単語を覚える。 同時に中国の方位観についても紹介する。
9	中国の家族	家族の呼び方を知る。 呼称から中国の家族構成や家族観について考える。
10	中国の住宅 1	窓、扉、屋根といった住宅各部の呼称を覚える。
11	中国の住宅 2	中国の伝統的な住宅と現代の住宅事情を紹介する。
12	中国の食卓	食にまつわる語彙やセンテンスを覚える。地域で異なる中華料理についても紹介する。
13	レストランで注文する	レストランに入り中国語で注文できるようになる。
14	予備日	以上の内容が順調に終わっている場合は、学生の希望を聞いて何をするか決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義の内容はシステムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：2割

中間・期末テスト：8割

【学生の意見等からの気づき】

旅行ができる程度中国語を習得したという希望が多いので、それを実現できるようにします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

While learning Chinese pinyin, basic grammar, vocabulary etc., students will develop language skills for everyday conversation. In addition, China's culture will be studied.

LANc100NA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語・中国文化

田村 広子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語のピンイン、基本的文法、語彙などを学び、日常会話ができる語学力を習得する。中国の文化についても学ぶ。

【到達目標】

初級中国語のピンイン、基本的文法、語彙などを学び、日常会話ができる語学力を習得する。中国の風土、文化、歴史、社会についても解説する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用力	10%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、発音の表記であるピンインを習得する。初めにピンインをマスターしておけば、新しい単語でも自分で発音できるようになる。そして、自己紹介、基本的な文法から始め、最後には簡単な会話ができるようになる。中国文化については、衣・食・住といった生活に関わる諸文化についてその歴史も交えながら紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本と中国の漢字の違いについて、授業の進め方、学習方法、毎回の授業の講義方法と学習方法を解説する。
2	発音の基礎1（母音）	母音の発音や表記方法を覚える。
3	発音の基礎2（子音）	子音の発音や表記方法を覚え、母音との組み合わせについても学ぶ。この時点でひとまず中国語に必要なすべての発音が登場したことになる。
4	挨拶をする	自己紹介や時候の挨拶ができるようになる。 挨拶をとおして日中の文化の違いを見つけ出そう。
5	買い物をする	数の数え方を覚えた上で、時間や値段を聞けるようになる。
6	日本の外来語・中国の外来語	外来語から日中双方の言葉の文化の違いを知る。
7	中国の地名	国・省・市・村といった行政単位の呼び方を知る。広大な中国の地域ごとの特徴も紹介する。
8	中国の方位	前後左右、東西南北といった方向を指示する単語を覚える。 同時に中国の方位観についても紹介する。
9	中国の家族	家族の呼び方を知る。 呼称から中国の家族構成や家族観について考える。
10	中国の住宅 1	窓、扉、屋根といった住宅各部の呼称を覚える。
11	中国の住宅 2	中国の伝統的な住宅と現代の住宅事情を紹介する。
12	中国の食卓	食にまつわる語彙やセンテンスを覚える。地域で異なる中華料理についても紹介する。
13	レストランで注文する	レストランに入り中国語で注文できるようになる。
14	予備日	以上の内容が順調に終わっている場合は、学生の希望を聞いて何をするか決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

とくになし。必要な資料は講義中に配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：約2割

中間・期末テスト：約8割

【学生の意見等からの気づき】

旅行ができる程度中国語を習得したという希望が多いので、それを実現できるようにします。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

While learning Chinese pinyin, basic grammar, vocabulary etc., students will develop language skills for everyday conversation. In addition, China's culture will be studied.

LANc100NA（中国語 / Chinese language education 100）

中国語・中国文化

田村 広子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語のピンイン、基本的文法、語彙などを学び、日常会話ができる語学力を習得する。中国の文化についても学ぶ。

【到達目標】

初級中国語のピンイン、基本的文法、語彙などを学び、日常会話ができる語学力を習得する。中国の風土、文化、歴史、社会についても解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、発音の表記であるピンインを習得する。初めにピンインをマスターしておけば、新しい単語でも自分で発音できるようになる。そして、自己紹介、基本的な文法から始め、最後には簡単な会話ができるようになる。中国文化については、衣・食・住といった生活に関わる諸文化についてその歴史も交えながら紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本と中国の漢字の違いについて、授業の進め方、学習方法、毎回の授業の講義方法と学習方法を解説する。
2	発音の基礎1（母音）	母音の発音や表記方法を覚える。
3	発音の基礎2（子音）	子音の発音や表記方法を覚え、母音との組み合わせについても学ぶ。この時点でひとまず中国語に必要なすべての発音が登場したことになる。
4	挨拶をする	自己紹介や時候の挨拶ができるようになる。 挨拶をとおして日中の文化の違いを見つけ出そう。
5	買い物をする	数の数え方を覚えた上で、時間や値段を聞けるようになる。
6	日本の外来語・中国の外来語	外来語から日中双方の言葉の文化の違いを知る。
7	中国の地名	国・省・市・村といった行政単位の呼び方を知る。広大な中国の地域ごとの特徴も紹介する。
8	中国の方位	前後左右、東西南北といった方向を指示する単語を覚える。 同時に中国の方位観についても紹介する。
9	中国の家族	家族の呼び方を知る。 呼称から中国の家族構成や家族観について考える。
10	中国の住宅 1	窓、扉、屋根といった住宅各部の呼称を覚える。
11	中国の住宅 2	中国の伝統的な住宅と現代の住宅事情を紹介する。
12	中国の食卓	食にまつわる語彙やセンテンスを覚える。地域で異なる中華料理についても紹介する。
13	レストランで注文する	レストランに入り中国語で注文できるようになる。
14	予備日	以上の内容が順調に終わっている場合は、学生の希望を聞いて何をするか決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義の内容はシステムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：約2割

中間・期末テスト：約8割

【学生の意見等からの気づき】

旅行ができる程度の中国語を習得したという希望が多いので、それを実現できるようにします。

【Outline (in English)】

While learning Chinese pinyin, basic grammar, vocabulary etc., students will develop language skills for everyday conversation. In addition, China's culture will be studied.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は講義終了後に学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。

○資料の提供は、当該授業終了後に学習支援システムにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは利用しません。毎回の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は講義終了後に学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。
環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will explore global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will examine the scientific background, mitigation technologies, policies, and other factors related to global environmental challenges.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of issues related to human activities, energy, and the environment, to understand the background behind these issues, and to learn frameworks for thinking about possible solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Class participation and engagement will account for 80% of the grade, and attendance will account for 20%. More than four absences will not be accepted.

認知科学 SD

SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】

人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えと考えられる脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。
課題等の提出・お知らせは「学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的には学習支援システムのお知らせを確認することと、前の週に次の講義について毎回告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環境世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げること。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない

【参考書】

講義資料を作成する際に参考にしている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。

イラストで学ぶ認知科学

認知科学講座 1 心と身体

認知科学講座 2 心と脳

認知科学講座 3 心と社会

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ 1 はじめての認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ 5 表現する認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ 6 感じる認知科学

日本認知科学「認知科学のススメ」シリーズ 10 選択と誘導の認知科学

認知心理学 知のアーキテクチャを探る

認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。

小テスト及びレポート課題：60%、最終テスト：40%の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、接続記録を元に出席を取るため、安定したネットワークを確保し、授業に参加すること。

【その他の重要事項】

講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short tests : 60%, Final test : 40%

HUI100NA（人間情報学 / Human informatics 100）

認知科学 都市

SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の‘こころ’と脳の仕組みや働き、関係性を科学的に理解すること。認知科学的視点から人を観察することを学ぶ。

【到達目標】

人の認知のメカニズムや現象を科学的にとらえるようになることを目標とする。感覚、知覚、認知とは何か、人を生体と心理、社会との関係からとらえる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用力	20%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知科学は‘こころ’を主たる学問領域とし、知覚、記憶、思考、創造性といった、‘こころ’に影響を与えられ思考される脳の働きおよび両者の関係を解明する学問である。本講義では、様々な認知科学に関する実験結果とその考察を紹介しながら授業を行う。これらの知見について理解を深め、日常生活に活用していく方法について学ぶ。
課題等の提出・お知らせは「学習支援システム」を通じて行う予定である。全ての回を「オンライン」で実施する。具体的には学習支援システムのお知らせを確認することと、前の週に次の講義について毎週告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：	授業内容の説明、認知科学の歴史と応用
2	感覚：	味覚、嗅覚、聴覚、視覚、触覚
3	知覚・認知：	トップダウン、ゲシュタルト、形状知覚、空間知覚、認知地図
4	錯覚：	錯視、錯覚、クロスモーダル
5	脳と認知	脳の構造と特性、BCI
6	記憶：	記憶の種類と特徴
7	注意：	注意資源、注意のモデル、選択的注意
8	思考：	知識、概念とカテゴリー、問題解決
9	情動：	二重課程理論、感情の分類、感情センシング方法
10	社会的認知：	表情、対人認知、顔、態度、集団
11	コミュニケーション：	言語、説得的コミュニケーション、ネットコミュニケーション
12	選択と誘導：	物理的環境、デフォルト効果、選択と誘導
13	身体と自己：	身体所有感、自己
14	認知と表現：	環境世界、認知世界、表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回毎の授業の復習。レポートがある場合は、期限内に自分で資料等を調べて整理して、ポイントを押さえて、分かりやすい構成と文章で仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はない

【参考書】

講義資料を作成する際に参考になっている本をご紹介します。下記の本に限らず、webやyoutubeの情報を合わせて紹介します。

イラストで学ぶ認知科学

認知科学講座1 心と身体

認知科学講座2 心と脳

認知科学講座3 心と社会

日本認知科学「認知科学のススめ」シリーズ1 はじめての認知科学

日本認知科学「認知科学のススめ」シリーズ5 表現する認知科学

日本認知科学「認知科学のススめ」シリーズ6 感じる認知科学

日本認知科学「認知科学のススめ」シリーズ10 選択と誘導の認知科学

認知心理学 知のアーキテクチャを探る

認知心理学への招待

【成績評価の方法と基準】

授業の最後に小テストまたはレポート課題が与えられる。

小テスト及びレポート課題：60%、最終テスト：40%の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うテーマについて、補足説明等でシラバスから飛躍した話しの内容になる可能性もあるが、シラバスに書かれた内容を重点的に説明するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、接続記録を元に出席を取るため、安定したネットワークを確保し、授業に参加すること。

【その他の重要事項】

講義内態度が特に優れている・問題がある場合は平常点として成績に加点・減点する場合がある。

【Outline (in English)】

In this course students will learn how to scientifically comprehend the organization, processes and relations of human feelings and the brain, and observe humans from the perspective of cognitive science. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short tests : 60%, Final test : 40%

イタリア語・イタリア文化

京藤 好男

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、初めてイタリア語に触れる学生を対象に授業を行います。まず学生は基本のイタリア語表現を習い、発音や語彙に慣れることで簡単な日常会話を身につけていきます。さらには文法にも踏み込んでイタリア語の全体的な仕組みを理解してもらいます。このように様々な角度から言葉への理解を深めつつ、加えて、その文化背景や歴史にも意識を向けていくことで、総合的な異文化理解へと繋がります。まずは日常会話レベルのイタリア語を身につけること、その上で異なる世界観へのアプローチに必要な手がかりを見出すことを目的とします。

【到達目標】

イタリア的なものの肌触りをつかみ、異文化理解の足がかりとします。日常会話の表現を身につけ、文法を理解することで、その背後に息づく人々の気配を感じること。さらに想像力を働かせ、社会、文化、あるいは歴史と呼ばれるものごと、関心を広げながら、基本的なイタリア語によるコミュニケーション力を身につけることが目標です。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	90%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に対面式です。まずは講義を聞き、それを踏まえて課題に取り組む形です。グループワークを行うこともあるので、積極的に参加してください。テキストについては、ネット上でPDFファイルを公開し、連動する教材に従って学んでもらいます。授業の終盤には、小テストを課すなどして習熟度のチェックをします。授業ごとに具体的な取り組みを指示しますので、各自主体性を持って進めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1-1 イタリア語での挨拶	親しい挨拶 Ciao など
2	1-2 イタリア語での挨拶	丁寧な挨拶 Buongiorno など
3	2-1 感謝の表現	お礼を言う Grazie など
4	2-2 自己紹介 (1)	名乗るときの表現
5	3-1 日常の挨拶	相手の調子を聞く
6	3-2 人に声をかける	他人を呼び止める、丁寧に断る
7	4-1 注文をする	レストランや喫茶店などで頼んでみる
8	4-2 知らない言葉をたずねる	これは何といえますか？ など
9	5-1 自己紹介 (2)	出身について話す
10	5-2 相手の情報を得る	相手の出身を聞く
11	6-1 文法を知ろう (1)	名詞の性と不定冠詞 (1)
12	6-2 文法を知ろう (2)	名詞の性と不定冠詞 (2)
13	7-1 文法を知ろう (3)	名詞の性と数
14	7-2 イタリア語の数字	0 100 とその応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

イタリアに関することに関心を向けておくこと。例えば、身近なところでは料理があります。またイタリアを題材にした小説や評論も数多くあり、イタリア人のメンタリティーを知るのに役立ちます。さらにはネット上の動画や、映画、音楽などを鑑賞するのも有効です。語学学習としては、まず本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。加えて、中間と期末の確認テストの前に範囲を伝えますので、それを機会に体系立てた復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特に購入する必要なし。

【参考書】

『Quaderno d'italiano』（2011年、DTP出版）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの課題(またはレポート)40%、中間と期末に行う総合確認問題、各30%により評価します。(いずれのテストもオンライン上で実施する予定)欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

語学と文化論を平行して進めてきた授業ですが、学生アンケートのコメントにおいて、イタリア語そのものへの関心の高さが示されたことを受け、今後さらに発音や文法の解説の比重を高めてゆく方針です。ただし、文化論に関わる部分を全くなくすわけではなく、効果的に取り入れて課題などに活用する方向です。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってオンライン授業を受けるための環境を整えておくこと。当面、PDF ファイルを開くことと、音声ファイルを開けることが必要です。

【その他の重要事項】

授業終了後に対面で随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class students will learn Italian language and culture, the sound of which can be at times awkward and other times charming. The awkwardness might keep us closed off in the world of own language, but the charm might lead us beyond such borders where we witness new possibilities about ourselves.

So let us be charmed by the strange sounds. Like struggling to catch a slippery eel, it can something you aren't familiar with handling; to catch it you have to dance with it, which might seem ridiculous but comes with all unknowns, in this case someone else's language and culture.

I only hope the students may find something strange, unknown and charming in the Italian language and culture offered in this course, so as to start learning, through the elementary four abilities "listening, speaking, reading, and writing".

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire expressions for daily conversation, to understand elementary grammar, to expand your interest in Italian society, culture and history, and finally acquire comprehensive communication skills

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on 40% of assignments for each class, and 30% of comprehensive confirmation questions given at the end and midterm.

LANi100NA（イタリア語 / Italian language education 100）

イタリア語・イタリア文化

ヴェルゴラーニ ミケーレ

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なイタリア語の文法と表現を学びます。
挨拶や食事など、イタリア人の日常生活に関するあれこれを知ること、日ごろ自分たちが接しているものとはことなる文化に触れる機会を得ることができます。
言語と文化、ふたつの側面から、異文化へと近づくひとつの方法を体験するのが目標です。

【到達目標】

このコースでは、イタリア語に初めて触れる人のために、基本的なコミュニケーション表現を学びます。例えば、自己紹介をすること、飲み物や食べ物注文すること、自分の興味について話すことなどです。授業では、クラスメートと一緒に簡単な表現や基礎文法を使って練習を行い、それによってイタリア語とイタリア文化の両方に親しみを持てるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各授業では、言語面と文化面が統合され、学習者ができるだけ本物に近いイタリアの体験ができるように構成されています。
文法を中心とした授業では、音声・画像・動画などのインプットから出発し、言語構造の理解へと導かれます。その後、ペアやグループで実践的な練習やコミュニケーション活動に取り組みます。学習成果は、小テストによって確認されます。
文化に関する授業では、イタリア社会や文化の発見を目的とし、自分自身の文化や経験との比較を行います。また、扱った内容について、学生には簡単なレポートを発表することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1-1 イタリア語に出会う	あいさつと自己紹介
2	1-2 イタリア語に出会う	国籍を言って自己紹介
3	1-3 イタリア語に出会う	カジュアルとフォーマルな紹介
4	1-4 イタリア文化を知る	イタリアのマナーを学ぶ
5	2-1 イタリア語に出会う	BARへ行き、注文する
6	2-2 イタリア文化を知る	イタリア人の朝食習慣
7	2-3 イタリア文化を知る	歴史あるイタリアンカフェ
8	3-1 イタリア語に出会う	職業について学ぶ
9	4-1 イタリア語に出会う	暇な時間について話す
10	4-2 イタリア文化を知る	イタリア人の暇な時間の習慣
11	4-3 イタリア語に出会う	友達を何かに誘う

12	5-1 イタリア語に出会う	好きなものを伝える
13	6-1 イタリアを知る	イタリアの都市を学ぶ
14	6-2 イタリア語に出会う	都市を説明する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業で学んだ文法やトピックを復習するために、毎週の宿題を提出する必要があります。授業で学んだ内容をしっかりと定着させ、試験対策に追われないよう、毎週30～60分かけて復習することをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

講師が独自に作成した教材を使用する。音声教材や文法練習問題、プリントなど。また、イタリア語専用のノートを用意すること。

【参考書】

参考書を指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常授業の出席と小テスト60%、課題40%で評価する予定

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

質問等は授業前後の教室で受け付けます。

【Outline (in English)】

In this class you will learn the basics of the Italian language while also providing an overview of some aspects of Italian culture such as common social behaviors and contrasts between Italian and Japanese cultural contexts in order to promote intercultural awareness.

Through this integrated linguistic and cultural approach, my intention is to foster your curiosity, motivation and interest in Italy.

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでもどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力

(E) 専門知識の活用・応用能力

(F) 総合デザイン能力 25%

(G) コミュニケーション能力 25%

(H) 継続的学習能力 25%

(I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。

※次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。

- ・zoomのURL・ID・パスワード
- ・授業で使用する教材
- ・授業計画の回、日程、内容の変更
- ・休講や自習の連絡 など

※授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。

※授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

※なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システム ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

※本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。

※個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。

※本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究① 新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	個人研究② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

- 14 まとめとレポートの 各人が本授業の内容を総括する
提出とともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション

P.F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社

そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10%とします。

＜レポート提出＞

1. レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2. 言語：日本語
3. 提出する際のファイルの種類：PDF
4. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
5. 提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6. 提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7. 留意事項

（1）レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。

（2）学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。

（3）レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。

（4）講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。

（5）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。

（6）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

（7）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。

（8）レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

（9）大学では、①成績に関する嘆願の連絡 ②提出期日を過ぎた課題の受理依頼－を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。

＜平常点＞

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

＜講師について＞

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

＜授業に関する質問について＞

授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。

※次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。

- ・zoomのURL・ID・パスコード
- ・授業で使用する教材
- ・授業計画の回、日程、内容の変更
- ・休講や自習の連絡 など

※授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。
※授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

※なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システム ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

※本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。

※個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。

※本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究① 新製品・サービスの発表	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。
6	個人研究② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。

7	個人研究③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。
14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F. ドラッグー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10%とします。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2. 言語：日本語
3. 提出する際のファイルの種類：PDF
4. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
5. 提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6. 提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7. 留意事項

- (1) レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
- (2) 学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
- (3) レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
- (4) 講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
- (5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
- (6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
- (7) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
- (8) レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
- (9) 大学では、①成績に関する嘆願の連絡 ②提出期日を過ぎた課題の受理依頼-を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。

<平常点>

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

＜講師について＞

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

＜授業に関する質問について＞

授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。そのために、個人研究やケーススタディを実施し、自身の考えを ①まとめる力 ②表現する力 ③伝える力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、個人研究や意見発表により進めます。

※次のような授業運営にかかわる情報は学習支援システムにて告知します。

- ・zoomのURL・ID・パスワード
- ・授業で使用する教材
- ・授業計画の回、日程、内容の変更
- ・休講や自習の連絡 など

※授業での資料閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。※授業に関する質問は講義中・講義終了後の教室、または学習支援システムで行ってください。学習支援システムに受講生の質問などを掲示できるトピックを設けます。

※なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システム ③学校が発信する通知-などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

※本授業では出欠はとりません。遅刻・欠席の連絡は不要です。従って、各種証明書の提出の必要はありません。

※個人研究やプレゼンテーションで作成・使用した資料などの提出は求めません。

※本授業では講師のメールアドレスに直接メールすることを禁じます。従って、メールアドレスに送信のあった場合の返信はしません。質問などは学習支援システムを通して行ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	個人研究① 新製品・サービスの発案	個人研究の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイデアを出し概略を考える。

6	個人研究② 新製品・サービスのアイデアを深める	前回考えたアイデアを深め、わかりやすい形にする。
7	個人研究③ 新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイデアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイデアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をたらすべきなのかについて考える。
13	企業の社会責任とマーケティング	企業の社会責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。
14	まとめとレポートの提出	各人が本授業の内容を総括するとともに、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P.F. ドラッグラー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート課題提出：90%、平常点：10%とします。

<レポート提出>

1. レポートのテーマ：学習支援システムWebClassにて告知します。
2. 言語：日本語
3. 提出する際のファイルの種類：PDF
4. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内（参考文献の字数は除く）、フォント指定なし、ポイント10.5
5. 提出期限：第14回授業終了時（午前10時30分）。なお、変更がある場合は学習支援システムにて告知します。
6. 提出方法：学習支援システムWebClassに掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムWebClassを通して提出。
7. 留意事項

- (1) レポート提出は、学習支援システムWebClassを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
- (2) 学習支援システムの【感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
- (3) レポートを講師や講師室へ持参もしくは手渡しは受理しません。
- (4) 講師のメールアドレスや学習支援システムのメッセージを使用し提出されたレポートは受理しません。
- (5) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
- (6) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
- (7) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
- (8) レポート提出期限後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

(9) 大学では、①成績に関する嘆願の連絡 ②提出期日を過ぎた課題の受理依頼 - を禁止しています。成績評価について疑義がある場合は「成績調査制度」を利用してください。

<平常点>

意見発表やプレゼンテーションなどを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】

個人研究において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞いたことがよかった」などの感想が寄せられた。個人研究が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に個人研究を授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<授業に関する質問について>

授業中・終了後の教室および学習支援システムを通して質問を受けつけます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

90% for report submission, 10% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができます。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的处理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎			◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

¥講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。

3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します。
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用 1ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用 2ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎 1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎 2	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 1	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 2	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】

出席評価：40 %
課題 2 回：20 %
期末試験：40 %
合計：100 %

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。

対面授業で行う予定です。

授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.

[Learning Objectives]

Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.

[Grading Criteria / Policy]

The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.

Attendance evaluation: 40%

Two homework assignments: 20%.

Final exam: 40%.

Total: 100%.

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができると思います。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的处理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。
2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介します。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介します。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介します。
4	動学ゲームの研究手法と事例	数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介します。

5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介します。
6	銀行破綻とコミットメント	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介します
7	繰り返しゲーム	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介します。
8	ゲーム理論の応用 1ーオークション	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介します。
9	ゲーム理論の応用 2ー給料の決定方法	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
10	マクロ経済学の基礎 1	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
11	マクロ経済学の基礎 2	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 1	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 2	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
14	宿題の解説と期末試験の説明	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】

出席評価：40 %
課題2回：20 %
期末試験：40 %
合計：100 %

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。

【その他の重要事項】

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。
対面授業で行う予定です。
授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course, Economics, we will study the core principles of microeconomics and macroeconomics in order to understand how modern economies function. Students will learn how resources are allocated under different institutions and incentives, and will develop analytical tools to examine economic behavior. Topics include consumer choice, firm behavior and production decisions, market equilibrium and efficiency, game theory, and macroeconomic policy.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students will be able to explain key concepts in microeconomics and macroeconomics using standard economic reasoning;

analyze decision-making by consumers and firms and interpret market outcomes;

understand the basic framework of game theory and apply it to strategic interactions in economics and everyday situations.

This course places particular emphasis on game theory as a foundational method in modern economics. Lectures will be conducted primarily based on the materials distributed in class.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are expected to review the distributed materials regularly, as lectures will follow these materials closely. Careful review is also necessary to complete the assigned problem sets. The standard amount of preparation and review time is 1– 2 hours per class session.

[Grading Criteria / Policy]

Grades will be determined based on attendance, two homework assignments, and a final exam.

Attendance: 40%

Homework assignments (2): 20%

Final exam: 40%

Total: 100%

エコノミクス

李 江南

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、主にミクロ経済学とマクロ経済学に基づいて、現代経済学の基本原理と考え方を理解することを目指します。効率的な資源配分の方法を学び、経済学のレンズを通して人間の経済行動の考え方を理解することができます。具体的に消費者行動、企業の生産行動、市場のしくみ、ゲーム理論、マクロ経済政策などを取り上げます。実際にゲームを行い、ゲーム理論の研究手法を学ぶことで、今後の人生や仕事に役立つ考え方を身につけることができると思います。授業は配布する資料をもとに、講義を進めます。試験の評価は、出席評価、2つの課題、期末試験に分けて行います。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の2点になります。

①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。

そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。

②①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的处理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。授業の資料はプリント形式で行われ、特に参考資料はありません。2回の課題を課し、期末試験は選択、穴埋め、記述式の問題で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームを行いましょう。授業を通じて学んだ内容が問題解決に役立つかどうかを確認するために、ゲーム理論に関連するいくつかのゲームを一緒に行います。

2	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。現代経済学の枠組みを紹介しします。また、ゲーム理論の基礎と実例を紹介しします。
3	ゲーム理論基礎と静学ゲームの研究手法と事例	「囚人のジレンマ」とは何か。テレビ局間の放送内容決定ゲームなどゲームの事例を紹介しします。数取りゲームの必勝法と立地ゲームの考え方を紹介しします。
4	動学ゲームの研究手法と事例	混合戦略ナッシュ均衡とは何か。ゼロサムゲームの解け方と事例を紹介しします。
5	じゃんけんゲームの必勝法と混合戦略ナッシュ均衡	銀行破綻ゲームとコミットメントの意味と映画の応用例を紹介しします
6	銀行破綻とコミットメント	ゲームを複数回する場合の戦略の決め方を紹介しします。
7	繰り返しゲーム	ヤフオクの仕組みと一般的なオークション理論について紹介しします。
8	ゲーム理論の応用 1ーオークション	経営者はどのようにして従業員の給与を決定するのかを学びます。また、情報の非対称性の概念とその経済への影響についても取り上げます。
9	ゲーム理論の応用 2ー給料の決定方法	マクロ経済学の枠組み、GDP、インフレ、失業率などを学びます。
10	マクロ経済学の基礎 1	価格指数、バブル、信用乗数について学びます。
11	マクロ経済学の基礎 2	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
12	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 1	IS-LMモデルの導入、マクロ経済学での金融政策と財政政策について学びます。
13	マクロ経済学モデル、IS-LMモデル 2	宿題1と2の解説と期末試験の説明です。
14	宿題の解説と期末試験の説明	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配信される資料の復習が必要です。配布資料を中心に進めるため、講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習してください。課題に取り組む際は、配布資料を復習する必要があります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布するプリント教材を中心に講義を進めます。

【参考書】

特にありません。授業内で関連する資料や教科書を推薦します

【成績評価の方法と基準】

出席評価：40%

課題2回：20%

期末試験：40%

合計：100%

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、授業内で十分に説明できない部分もあります。そのため、各回のリアクションペーパーに理解が不十分な点があれば、記載してください。理解が不十分なままでは、後の内容の理解にも影響を及ぼす可能性があります。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし。対面授業の場合、パワーポイントと黒板を利用します。コロナなどの感染症の状況により、オンライン授業（zoom）となる場合は、各自でPCまたはスマホなどIT環境を整えてください。

【その他の重要事項】

シラバスの内容や講義の順番を変更する場合があります。ご了承ください。

対面授業で行う予定です。

授業終了後に教室で質問を受け付け、または随時、電子メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

In this course, Economics, we will primarily focus on microeconomics and macroeconomics to understand the fundamental principles and concepts of modern economics. Students will learn methods for efficient resource allocation and gain insights into human economic behavior through the lens of economics. Topics covered include consumer behavior, firms' production decisions, market mechanisms, game theory, and macroeconomic policies.

[Learning Objectives]

Specifically, the course will emphasize game theory, allowing students to learn its research methods and apply them to their future careers and daily lives. The lectures will be conducted based on the materials used in class.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to review the distributed materials. Since the lectures will be primarily based on these materials, they should attend the lectures attentively and focus on reviewing what they have learned. Additionally, students need to review the materials to solve the assigned problems. The standard review time for this class is one to two hours per session.

[Grading Criteria / Policy]

The evaluation will be based on attendance, two assignments, and a final exam.

Attendance evaluation: 40%

Two homework assignments: 20%.

Final exam: 40%.

Total: 100%.

スポーツ総合演習

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者をする。
授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス時に説明か、もしくは動画で説明する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策等を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、必要に応じて授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める

8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バレーボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1)授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2)授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解できた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツウェア・室内履き等
その他必要なものは、適宜お知らせする。

【その他の重要事項】

実技種目を実施するにあたって他の学生と協力し実施することが多いことから、個別の身体状況に対応して授業を実施することが難しい。そのため受講にあたっては、健康診断書の結果および、自己の評価から、運動に支障が無い身体状態であることが必要である。
授業において実技にあたっては、運動着の着用および室内運動靴が必須となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点がある際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。
授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100NA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深める。
生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	40%
(H) 継続的学習能力	20%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目授業	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2 回目授業	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3 回目授業	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4 回目授業	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5 回目授業	フィットネス	ニュースポーツ：インディアカ・ソフ
6 回目授業	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7 回目授業	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8 回目授業	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9 回目授業	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10 回目授	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11 回目授	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12 回目授	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。

13 回目授 体作り運動

業

14 回目授 スポーツ史

業

コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。

文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。
なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This class involves a variety of sports.

Develop an understanding of the significance and role of physical activity.

Develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical and social health and self-management throughout life.

【到達目標 (Learning Objectives)】

To experience the joy of physical exercise, and
To build smooth relationships with other people, and
the observance of rules and discipline; and
Helping each other.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】 Active participation in class and submission of reports are comprehensively evaluated.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Students must be in good physical condition before attending class to ensure that they are physically and mentally fit during physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of their respective class instructor regarding any assignments to be done after class and preparations for the next class.

HSS100NA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	体力測定	体力測定（50m走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
3	体力測定フィードバック	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
4	トレーニングと健康	レーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
5	アイスブレイク	他已紹介を用いたグループワークに取り組む。また、スポーツ経験を受講者間で共有する。（グループワークおよび実習）
6	集団スポーツを学ぶ1	ドッジビーを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ2	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ1	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ2	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	スポーツとコーピング	スポーツの観点からストレスへの対処（コーピング）について学ぶ（講義）
11	個人スポーツを学ぶ3	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	集団スポーツを学ぶ3	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ4	ネオテニスを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

スポーツ総合演習

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者をする。
授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス時に説明か、もしくは動画で説明する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策等を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、必要に応じて授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める

8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バレーボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1)授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2)授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツウェア・室内履き等
その他必要なものは、適宜お知らせする。

【その他の重要事項】

実技種目を実施するにあたって他の学生と協力し実施することが多いことから、個別の身体状況に対応して授業を実施することが難しい。そのため受講にあたっては、健康診断書の結果および、自己の評価から、運動に支障が無い身体状態であることが必要である。
授業において実技にあたっては、運動着の着用および室内運動靴が必須となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点がある際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。
授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

スポーツ総合演習

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深める。
生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理 20%
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 20%
- (H) 継続的学習能力 30%
- (I) 業務遂行能力 30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目授業	ガイダンス	授業概要についての説明。 運動・健康の概念についての講義を行う。
2 回目授業	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3 回目授業	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る（講義）。
4 回目授業	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う（講義と実習）。
5 回目授業	ニューススポーツとアダ ブテッドスポーツ	ニューススポーツ：インディアカ・ソフ フトバレーボール、パラスポーツ：ポ ッチャを行う（講義と実習）。
6 回目授業	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントン を行う（講義と実習）。
7 回目授業	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動 能力を知る、考える（講義）。
8 回目授業	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う（講 義と実習）。
9 回目授業	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケット ボールを行う（講義と実習）。
10 回目授 業	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサル を行う（講義と実習）。
11 回目授 業	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪 みチェックと対策（講義）

12 回目授 業	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボール を行う（講義と実習）。
13 回目授 業	体作り運動	コーディネーショントレーニングを 行う（講義と実習）。
14 回目授 業	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、 スポーツを知る（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。
なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 This class involves a variety of sports.

Develop an understanding of the significance and role of physical activity.

Develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

To experience the joy of physical exercise, and
To build smooth relationships with other people, and
the observance of rules and discipline; and
Helping each other.

【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】 Active participation in class and submission of reports are comprehensively evaluated.

【授業時間外の学習(Learning activities outside of classroom)】 Students must be in good physical condition before attending class to ensure that they are physically and mentally fit during physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of their respective class instructor regarding any assignments to be done after class and preparations for the next class.

HSS100NA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツ総合演習

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	体力測定	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
3	体力測定フィードバック	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
4	トレーニングと健康	レーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
5	アイスブレイク	他己紹介を用いたグループワークに取り組む。また、スポーツ経験を受講者間で共有する。（グループワークおよび実習）
6	集団スポーツを学ぶ1	ドッジビーを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ2	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ1	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ2	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	スポーツとコーピング	スポーツの観点からストレスへの対処（コーピング）について学ぶ（講義）
11	個人スポーツを学ぶ3	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	集団スポーツを学ぶ3	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ4	ネオテニスを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。

ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれませんが、そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれません。

しかし、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することです。

端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることです。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討します。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。

ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。

だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもいい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過している。

また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘します。

また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介します。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。

一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。

授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつです。

ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたいと思います。

いただいたコメントは次回の授業で紹介します。

【キーワード】

安楽死・尊厳死、オランダの安楽死制度、自己決定、社会的弱者、障害者、差別解消法、合理的配慮、思いやり批判、マジョリティの特権

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。

2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。

3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。

4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える

⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性（学生の文献紹介を含む）	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	まとめとディスカッション	今学期の内容について振り返るとともに、学生が提案したテーマについて議論する

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれませんが、そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれません。

しかし、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することです。

端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることです。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討します。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。

ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。

だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過している。

また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘します。

また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介します。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。

一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。

授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつです。

ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたいと思います。

いただいたコメントは次回の授業で紹介します。

【キーワード】

安楽死・尊厳死、オランダの安楽死制度、自己決定、社会的弱者、障害者、差別解消法、合理的配慮、思いやり批判、マジョリティの特権

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。

2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。

3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。

4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える

⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性（学生の文献紹介を含む）	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	まとめとディスカッション	今学期の内容について振り返るとともに、学生が提案したテーマについて議論する

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれませんが、そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれません。

しかし、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することです。

端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることです。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討します。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。

ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないが、安楽死肯定論は、なぜ安楽死に限り「死なせる」ことが許容されると考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。

だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもいい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見過している。

また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘します。

また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介します。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。

一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつもの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。

授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつです。

ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたいと思います。

いただいたコメントは次回の授業で紹介します。

【キーワード】

安楽死・尊厳死、オランダの安楽死制度、自己決定、社会的弱者、障害者、差別解消法、合理的配慮、思いやり批判、マジョリティの特権

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。

2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。

3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。

4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？ 「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える

⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？ 「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
⑪	みえない特権とは何か（学生の文献紹介を含む）	「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える
⑫	マジョリティ/マイノリティの非対称性（学生の文献紹介を含む）	マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える
⑬	「心のバリアフリー」概念の批判的検討（学生の文献紹介を含む）	「思いやり」による「差別解消」アプローチを批判的に検討する
⑭	まとめとディスカッション	今学期の内容について振り返るとともに、学生が提案したテーマについて議論する

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ ESOP Students are required JLPT N1 for registration. (Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。

日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査（ネットなど利用）・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2) のまとめレポート提出 1) 2)	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	3) 日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。

12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%
講義中の質疑応答 20%
Report 80%
Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし
Nothing in particular

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。

日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査（ネットなど利用）・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	3) 日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。
日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査（ネットなど利用）・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	1) 2) 3) 日本伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。

14 レポート提出

13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

MAT100NA (数学 / Mathematics 100)

一般数学

細川 聖理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これから工学を学ぶうえで必須の微積分学と線形代数の基礎事項を学び、徹底的に身に着けます。演習を重視した学習を行うことにより、計算力の強化を図ります。

【到達目標】

専門科目の修得に必要な数学的な基礎学力の養成を目標にします。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 50%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本の考え方の理解と、それに基づく問題が出来るように演習に重点をおきます。準備学習、復習を欠かさず行ってください。準備学習がされていることを前提に授業を行います。復習では、授業内容の整理と補足そして問題演習を行ってください。授業の前半は、講義を主とし、後半は、その日の内容を確認する演習問題をします。理解できないところは、積極的に質問してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初等関数	三角関数、指数関数、対数関数
2	初等関数の微分	三角関数、逆三角関数、1変数関数の微分、初等関数の導関数
3	微分の応用	平均値の定理、増減、極大極小、グラフ
4	初等関数の積分	不定積分、定積分
5	2変数関数と偏微分	2変数関数、偏導関数
6	重積分(累次積分)	2変数関数の積分、累次積分
7	重積分の応用	重積分と応用例（全微分と近似式）
8	微分方程式	微分方程式の定義、一般解、特殊解、初期条件、応用例
9	行列	行列の演算、階数、逆行列
10	連立1次方程式	解の個数、基本変形による解法、応用例
11	行列式	行列式の定義と性質（ベクトルの外積、三重積の話）
12	ベクトル空間	空間ベクトル、ベクトル空間の基底と次元
13	線形写像	線形写像の行列表現、射影
14	固有値	固有値・固有ベクトルの計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではあらかじめ教科書の該当部分を読み授業の予習を行います。毎回演習を行うので、次回までに必ず復習をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) やさしく学べる微積分 石村園子著 共立出版

ISBN 978-4-320-01633-0

(2) やさしく学べる線形代数 石村園子著 共立出版

ISBN 978-4-320-01660-6

【参考書】

特になし。各学科の数学の教科書を適宜参考にします。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使い、プリントなど配布します。

準備学習および授業、復習における練習課題（75%）と期末試験レポートの成績（25%）を総合して評価します。練習課題は毎回出題され、必ず提出することが要求されます。

成績評価：90点以上をS、89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をDとする。

【学生の意見等からの気づき】

少人数につき、アンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Through the study differential and integral calculus with an emphasis on practice exercises, students will reinforce their understanding of fundamental concepts and abilities. This course will focus on furthering understanding through examples of engineering applications rather than abstract arguments.

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

一般数学

細川 聖理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これから工学を学ぶうえで必須の微積分学と線形代数の基礎事項を学び、徹底的に身に着けます。演習を重視した学習を行うことにより、計算力の強化を図ります。

【到達目標】

専門科目の修得に必要な数学的な基礎学力の養成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本の考え方の理解と、それに基づく問題が出来るように演習に重点をおきます。準備学習、復習を欠かさず行ってください。準備学習がされていることを前提に授業を行います。復習では、授業内容の整理と補足そして問題演習を行ってください。授業の前半は、講義を主とし、後半は、その日の内容を確認する演習問題をします。理解できないところは、積極的に質問してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初等関数	三角関数、指数関数、対数関数
2	初等関数の微分	三角関数、逆三角関数、1変数関数の微分、初等関数の導関数
3	微分の応用	平均値の定理、増減、極大極小、グラフ
4	初等関数の積分	不定積分、定積分
5	2変数関数と偏微分	2変数関数、偏導関数
6	重積分(累次積分)	2変数関数の積分、累次積分
7	重積分の応用	重積分と応用例（全微分と近似式）
8	微分方程式	微分方程式の定義、一般解、特殊解、初期条件、応用例
9	行列	行列の演算、階数、逆行列
10	連立1次方程式	解の個数、基本変形による解法、応用例
11	行列式	行列式の定義と性質（ベクトルの外積、三重積の話）
12	ベクトル空間	空間ベクトル、ベクトル空間の基底と次元
13	線形写像	線形写像の行列表現、射影
14	固有値	固有値・固有ベクトルの計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではあらかじめ教科書の該当部分を読み授業の予習を行います。毎回演習を行うので、次回までに必ず復習をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) やさしく学べる微積分 石村園子著 共立出版
ISBN 978-4-320-01633-0
- (2) やさしく学べる線形代数 石村園子著 共立出版
ISBN 978-4-320-01660-6

【参考書】

特になし。各学科の数学の教科書を適宜参考にします。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使い、プリントなど配布します。準備学習および授業、復習における練習課題（75%）と期末試験レポートの成績（25%）を総合して評価します。練習課題は毎回出題され、必ず提出することが要求されます。

成績評価：90点以上をS、89～87点をA＋、86～83点をA、82～80点をA－、79～77点をB＋、76～73点をB、72～70点をB－、69～67点をC＋、66～63点をC、62～60点をC－、60点未満をDとする。

【学生の意見等からの気づき】

少人数につき、アンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Through the study differential and integral calculus with an emphasis on practice exercises, students will reinforce their understanding of fundamental concepts and abilities. This course will focus on furthering understanding through examples of engineering applications rather than abstract arguments.

MAT100NA (数学 / Mathematics 100)

一般数学

細川 聖理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これから工学を学ぶうえで必須の微積分学と線形代数の基礎事項を学び、徹底的に身に着けます。演習を重視した学習を行うことにより、計算力の強化を図ります。

【到達目標】

専門科目の修得に必要な数学的な基礎学力の養成を目標にします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本の考え方の理解と、それに基づく問題が出来るように演習に重点をおきます。準備学習、復習を欠かさず行ってください。準備学習がされていることを前提に授業を行います。復習では、授業内容の整理と補足そして問題演習を行ってください。授業の前半は、講義を主とし、後半は、その日の内容を確認する演習問題をします。理解できないところは、積極的に質問してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初等関数	三角関数、指数関数、対数関数
2	初等関数の微分	三角関数、逆三角関数、1変数関数の微分、初等関数の導関数
3	微分の応用	平均値の定理、増減、極大極小、グラフ
4	初等関数の積分	不定積分、定積分
5	2変数関数と偏微分	2変数関数、偏導関数
6	重積分(累次積分)	2変数関数の積分、累次積分
7	重積分の応用	重積分と応用例（全微分と近似式）
8	微分方程式	微分方程式の定義、一般解、特殊解、初期条件、応用例
9	行列	行列の演算、階数、逆行列
10	連立1次方程式	解の個数、基本変形による解法、応用例
11	行列式	行列式の定義と性質（ベクトルの外積、三重積の話）
12	ベクトル空間	空間ベクトル、ベクトル空間の基底と次元
13	線形写像	線形写像の行列表現、射影
14	固有値	固有値・固有ベクトルの計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習ではあらかじめ教科書の該当部分を読み授業の予習を行います。毎回演習を行うので、次回までに必ず復習をします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) やさしく学べる微分積分 石村園子著 共立出版

ISBN 978-4-320-01633-0

(2) やさしく学べる線形代数 石村園子著 共立出版

ISBN 978-4-320-01660-6

【参考書】

特になし。各学科の数学の教科書を適宜参考にします。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを使い、プリントなど配布します。準備学習および授業、復習における練習課題（75%）と期末試験レポートの成績（25%）を総合して評価します。練習課題は毎回出題され、必ず提出することが要求されます。成績評価：90点以上をS、89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をDとする。

【学生の意見等からの気づき】

少人数につき、アンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Through the study differential and integral calculus with an emphasis on practice exercises, students will reinforce their understanding of fundamental concepts and abilities. This course will focus on furthering understanding through examples of engineering applications rather than abstract arguments.

技術者倫理

南後 由和

開講時期: 秋学期授業/Fall | 選択・必修の別: 必修
備考 (履修条件等): 都市: 建築士

その他属性: <S> <カ>

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、主に建築界を対象として、高度に複雑化した現代社会および情報社会において技術がもたらす可能性と限界、ポジティブな側面とネガティブな側面について学ぶ。技術が社会や人間の行為のなかで、どのような位置を占めているかについての知見を深める。

【到達目標】

- ・技術が社会や環境に与える正と負の影響についてのリテラシーを体得する。
- ・利害関係者の意思が相反する都市および公共空間のあり方を多角的に理解する。
- ・建築士/建築家の社会的位置の変遷とその現在地を把握する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎	○				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、社会学する実践感覚、道徳・倫理・法の比較、建築と技術者倫理、技術者リテラシー
2	落書き/グラフィティ (1)	落書き/グラフィティの両義性をめぐる問い、グラフィティ小史、落書き/グラフィティの分布と競い合い、落書き/グラフィティの監視・AI解析
3	落書き/グラフィティ (2)	匿名性をめぐるアプローチの比較、都市空間の読み取りと書き替え、グラフィティの拡張、公共空間における表現の自由と規制
4	公共空間	渋谷のジェントリフィケーション、渋谷の公共空間、排除アート
5	職能	建築家の養成、建築をめぐる制度化、建築家と建築士、建築界とハビトゥス
6	有名性	建築界における有名性、有名性の機能、界とマスメディア
7	事件・炎上	耐震偽装問題、新国立競技場コンペ、明治神宮外苑

8	失敗学	安全管理、リスク管理と危機管理、その他の職業倫理、失敗学と客観性・データの罠
9	技術と政治	地理学と地理学的想像力、地図と技術の変遷・地図の政治性、行動地理学・時間地理学・メンタルマップ、主題図とデザイナーなどによる地図表現
10	建築情報学	建築情報学、VR・メタバース、スマートシティ、建築物・AIと知的財産権
11	参加	住民説明会、ワークショップ、社会実験、インクルーシブデザイン
12	省察の実践	技術的合理性の限界、省察の実践、予防倫理学習
13	社会性	技術と社会、建築と社会、デジタルエシックス
14	総括	授業の振り返りとまとめ: リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

- ・日本建築学会編『日本建築学会の技術者倫理教材』丸善、2009.
- ・大山エンリコイサム『アゲインスト・リテラシー グラフィティ文化論』LIXIL出版、2015.
- ・ドナルド・A・ショーン『省察的実践者の教育 プロフェッショナル・スクールの実践と理論』柳沢昌一・村田晶子監訳、鳳書房、2017.
- ・ヘンリ・ペトロスキ『人はだれでもエンジニア 失敗はいかに成功のもとになるか』北村美都穂訳、パンローリング、2019.
- ・後藤伸一『建築と規範 利己から利他の建築へ』建築資料研究社、2022.

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー35%、期末試験65%
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students explore the potentials and constraints, as well as the favorable and unfavorable facets of technology within the context of contemporary intricate societal and informational realms, primarily focusing on the architectural world. Students are expected to augment their understanding of the role of technology in society and human conduct.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Acquire literacy regarding both the positive and negative impacts of technology on society and the environment.

-Develop a multifaceted understanding of urban and public spaces in which the intentions and interests of diverse stakeholders are in conflict.

-Understand the historical transformation and the contemporary positioning of architects and licensed architects within society.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reaction papers: 35%、 Term-end examination : 65%

MAT100NB（数学 / Mathematics 100）

数学 1

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の様々な問題を考える上で登場する微分法および積分法について学び、技術者としてそれらを活用できるだけの教養を身につけることを目的とする。

【到達目標】

初等関数の導関数や不定積分を理解した上で、関数の展開法、微分方程式の意味と解法、2変数関数についての微分と積分の概念について把握することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業では微積分に関する非常に幅広い内容を扱っており、高校数学の微積分の知識は必須である。そのため、まずは高校数学の内容を簡単に復習しながら、次第に大学で扱うより高度な微積分につなげていく。積み上げ式の授業であり、常に授業内容を復習してもらうため、毎回演習課題が課される。基本的な1回の授業は、前回演習課題の解説→講義→小テスト→演習課題発表→自宅での演習→次回授業での演習課題提出という流れである。小テストの解答では、数名をその場で指名し解答を板書してもらう。授業進度はかなり速いが、予習復習をして、しっかりついてきてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関数 高等学校の関数の復習	基本的な関数 三角関数、指数関数、対数関数、逆関数
2	微分法 高等学校の微分の復習	基本的な微分
3	微分法 微分係数と導関数 導関数の性質 関数の導関数	微分係数と導関数、積と商の導関数、三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の導関数、高次導関数
4	微分法 平均値の定理 微分法の実用	平均値の定理、ロピタルの定理、極大・極小
5	積分法 高等学校の積分の復習	不定積分、不定積分の公式、定積分と不定積分の関係
6	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
7	積分法 いろいろな不定積分 分法の実用	有利関数、無理関数、三角関数の不定積分、面積・体積・曲線の長さ・面積分
8	関数の展開	1次近似式、高次の近似式、テイラー展開、マクローリン展開、テイラーの定理
9	微分方程式-1階微分方程式	微分方程式と解、変数分離形、同次形、1階線形
10	微分方程式-2階微分方程式	2階線形、斉次2階線形、非斉次2階線形
11	偏微分	2変数関数と偏導関数、全微分と合成関数の微分、高次導関数
12	偏微分 偏微分の実用	極大・極小、条件付き極値問題
13	重積分	2重積分の定義、2重積分の計算、2重積分と累次積分
14	重積分 2重積分の実用	極座標と2重積分、積分変数の変換、2重積分の広義積分と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容に応じて作成された演習問題に解答し提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理科系の基礎 微分積分（高遠節夫・石村隆一他共著、培風館）

【参考書】

やさしく学べる微分積分（石村園子著、共立出版）

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：50%（各100点満点）

定期試験：50%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

ただし、定期試験で85点以上の者は、演習30%試験70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

また、連続3回欠席、通算で5回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で扱えない定理やその証明等はあとで確認できるように、プリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要としない

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計実務経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

Learn about differential and integral calculus, which appear in the consideration of various engineering problems, and acquire the education necessary to apply them as engineers.

Learning Objectives:

The goal of this course is to grasp the derivatives and indefinite integrals of elementary functions, the expansion method of functions, the meaning and solution method of differential equations, and the concepts of differentiation and integration for two-variable functions.

Learning activities outside of classroom:

Students will answer and submit the exercises prepared for each class content. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

MAT100NB（数学 / Mathematics 100）

数学 2

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線形代数は微積分と並んで工学において必須の基礎学問である。そこで本講義では、線形代数の学習を通して専門科目の修得に必要な数学的な基礎力を養う。まず、講義の前半では、ベクトル、行列、および行列式等の基礎的概念の理解を図る。講義の後半では、ベクトル空間、線形写像、固有値、固有ベクトル、行列の対角化など、線形代数の重要な概念と具体的な計算方法を習得する。

【到達目標】

- ・活用事例等の紹介を通して線形代数を学ぶ意義を理解する
- ・線形代数の基礎を習得する
- ・演習を通して数学的な基礎力を養う

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本科目の講義は、オンデマンド形式のオンライン授業として実施する。各自で講義内容をノートにとり、演習問題に取り組む。期末試験は、試験期間中に対面形式で行う。受講方法などの詳細は、学習支援システムを通じて発信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	ベクトル（1）	n 次元ベクトル、幾何ベクトル、内積、正規化
3	ベクトル（2）	ベクトルと空間座標における直線と平面
4	行列（1）	行列、行列の演算
5	行列（2）	転置行列、正則行列、逆行列
6	基本変形と階数（1）	行列の基本変形、連立1次方程式の解法
7	基本変換と階数（2）	1次独立と階数、階数の意味
8	行列式（1）	順列と置換、行列式とその基本的性質
9	行列式（2）	行列式の展開と逆行列、クラメルの公式
10	ベクトル空間（1）	ベクトル空間、基底と次元
11	ベクトル空間（2）	正規直交基底、直交変換
12	ベクトル空間（3）	線形写像、線形写像の行列表現、線形写像と階数
13	固有値と行列の対角化（1）	固有値と固有ベクトル
14	固有値と行列の対角化（2）	行列の対角化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に授業終了時点で理解が十分でない部分については次回授業までに理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- 1) 『1冊でマスター 大学の線形代数』石井俊全（技術評論社）
 - 2) 『理工系のための線形代数』長坂建二、駒木悠二（裳華房）
- 講義中に解説する例題を参考に、各自で演習問題に取り組める参考書であればよい。

【成績評価の方法と基準】

14回の講義終了後に対面で実施する期末試験（100%）によって判断する。なお、試験未受験の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

前半の単元は、高校数学の延長上にある内容のため、油断する学生も多い。各講義のノートを取り、例題を解いていかないと、後半にさしかかるにつれてわからなくなる。特に、各単元で出てくる用語や概念を正しく理解していくことが重要である。

【Outline (in English)】

Linear algebra is an essential fundamental subject in engineering as well as calculus. This course teaches students the basic mathematical skills necessary to master specialized topics through linear algebra. In the first half of the lecture, students try to understand fundamental concepts such as vectors, matrices, and determinants. In the latter half of the course, students learn essential concepts of linear algebra and concrete calculation methods such as vector space, linear mapping, eigenvalues, eigenvectors, and matrix diagonalization.

Through this course, students will be able to:

- 1) Understand the significance of learning linear algebra by introducing application examples, etc.
- 2) Acquire the basics of linear algebra
- 3) Develop basic mathematical skills through exercises

The standard preparation and review time for this course is 2 hours each. Students are expected to deepen their understanding before the next lecture if they need a sufficient understanding at the end of the course. The final exam will be given at the end of the lecture (100%). Grades will not be given to students who have not taken the exam.

物理 1

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学を实践するための基礎となるニュートン力学を学ぶ。物体の運動の記述方法、力学の基本法則を理解し、運動方程式を解く。建築の力学を理解するためために重要な、力の図示方法、力のつり合い、質点、剛体といった概念についても説明する。

【到達目標】

専門科目の中の構造系科目を履修するための基礎学力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義では数式等を板書して解説を行います。
- ・演習問題を出題するので、その解答を作成して期限内に提出すること。
- ・理解度を確認するため、中間テストを2回行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論	古典力学、仮説と検証質点、座標系と位置、運動の記述、微分と積分
2	運動のベクトル表示および相対性	ベクトルとスカラー、運動のベクトル表示、運動の相対性、Galilei変換、慣性系
3	力学の基礎法則	I:慣性の法則、II:運動方程式、III:作用・反作用の法則
4	運動方程式を解く	放物運動、空気抵抗と落下運動
5	いろいろな力	垂直抗力と摩擦力、張力
6	中間テスト①	物体の運動に関するテスト、及びその解説
7	万有引力の法則	Keplerの法則＋Newtonの法則
8	エネルギー	運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー保存則
9	角運動量とトルク	てこの原理、トルク（力のモーメント）、ベクトルの外積、角運動量、角運動量保存則、単振り子
10	加速度運動する座標系における運動方程式	慣性力、遠心力、Coriolisの力、Foucaultの振り子
11	中間テスト②	力のつり合い、エネルギー、運動量保存則に関するテスト、及びその解説
12	質点系の保存量	質点系の運動方程式 運動量、角運動量
13	剛体の力学(1)	剛体の運動方程式、慣性モーメント
14	剛体の力学(2)	剛体の力学的エネルギー保存則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義板書内容を復習し、演習問題に取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・市村宗武、狩野 覚：物理学入門Ⅰ 力学（東京化学同人）
- ・授業支援システムからのダウンロード資料

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

演習問題25%、中間テスト1回目25%、中間テスト2回目25%、期末テスト25%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

【Course outline】

To study Newtonian mechanics, which is the basis for practicing engineering. Students will understand how to describe the motion of objects, the basic laws of mechanics, and solve the equations of motion. Concepts such as force diagramming, equilibrium of forces, masses, and rigid bodies, which are important for understanding the mechanics of construction, will also be explained.

【Learning Objectives】

Develop basic academic skills to take structural courses in specialized subjects.

【Learning activities outside of classroom】

Students will review the content of the previous lectures on the board and work on exercises.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the following distribution: 25% for exercises, 25% for the first mid-term exam, 25% for the second mid-term exam, and 25% for the third mid-term exam.

PHY100NB（物理学 / Physics 100）

物理 2

加用 現空

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築空間を創造することは、建築内外の境界面を介して生じる熱、空気、水、光などの物質・エネルギーの流れをデザインすることでもある。建築はこれらの要素が相互に関係し合う複数のサブシステムから成り立っており、環境デザインは、時間とともに変化する動的な現象を扱う点に特徴がある。本講義では、建築設計によって建築環境が形成され、物質・エネルギーの流れが構成されることを理解するための基礎として、物理、特に熱力学の基礎を学び、建築デザインとの関係を考察することを目的とする。

【到達目標】

- ・建築分野における「環境」を、建築空間における物質・エネルギーの流れで説明できる。
- ・建築環境に関わる基本的な現象について、熱力学の基礎的な考え方を用いて説明できる。
- ・建築環境と建築形態の関係を踏まえ、建築デザインが建築環境を形成することを説明できる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築環境で扱う物理
2	数と量	外延量と内包量、単位について
3	環境とシステム	「環境」の定義
4	移動量と状態量	「入る」＝「たまる」＋「出る」
5	エネルギー収支	地球システム
6	物質収支	教室の換気量
7	運動量保存則	重力加速度、万有引力の法則
8	熱量保存則	Blackの実験、熱量、熱容量、比熱
9	エネルギー保存則	Jouleの実験、仕事と熱、拡散
10	建築環境（1）	エネルギー・エントロピー・エクセルギー
11	建築環境（2）	ヒートポンプのエクセルギー収支
12	建築環境（3）	建築境界面の収支：壁面（伝導・対流・放射）
13	建築環境（4）	建築境界面の収支：窓面（反射・吸収・透過）
14	まとめ	建築環境モデリングに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に授業終了時点で理解が十分でない部分については次回授業までに理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギー環境物理学入門』 宿谷昌則著 (2024) 建築資料研究社

『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著 (2010) 井上書院

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course outline: Architect designs the boundary which is the surface between the indoor space and the outdoor. The boundary can be defined as a system and the architecture can be defined as a series of various sub-systems. While structural design focuses on the static energy within the inside of structure, the environmental design focuses on the dynamic energy flows through the systems. The aim of the course is to acquire the knowledge to understand the behaviours of mass and energy in architectural design.

Learning Objectives: 1) To understand the definition of “the environment”, 2) To understand the basics of building physics and thermodynamics, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

数理演習 1

藤本 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資料や記録は、設計活動や研究の基盤となる情報源であるのみならず、都市や建築の記憶を担保し、将来へ継承するためのツールでもある。本授業では、都市、建築、デザインに関わる情報・資料・記録のあり方とその活用方法を学び、自らの活動における活かし方を考える。また、情報を扱う文化機関の機能と建築や都市との関係を知る。

【到達目標】

建築生産や社会における情報・資料・記録の役割を理解し、日常生活から研究活動に至るまで、これらの情報を活用することのできるリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについてレジュメを配布し、スライドを用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と進め方、アーカイブズについての導入
第2回	記録とは何か	建築に関わる資料を事例に、「記録」の要件や種類、一次資料と二次資料の違いを学ぶ
第3回	記録が担保する「証拠」と「記憶」	記録が持つ重要な役割である証拠性と記憶について考える
第4回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(1)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第5回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(2)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第6回	博物館・美術館／図書館／アーカイブズ	情報を扱う文化機関である博物館・美術館、図書館、アーカイブズの機能と役割について学ぶ
第7回	現代のアーカイブズ機関の使命と役割	現代のアーカイブズ機関の使命と役割について、海外の実践事例を含めて紹介する
第8回	中間レポート講評	中間レポートの講評
第9回	情報機関としての文化施設—国立西洋美術館	近代の情報に対する建築家の試みを、ル・コルビュジエの活動から読み解く
第10回	ムンダネウム—ポール・オトレと情報分類	ル・コルビュジエと協働して都市としての情報文化機関を構想したポール・オトレの思想を読み解く
第11回	情報と建築—建築家・山越邦彦	建築業界に国際十進分類法を導入した建築家・山越邦彦の思想を読み解く
第12回	情報を扱う文化機関を支える職能	情報を扱う文化機関を支える職能について、建築やデザインに関わる事例から学ぶ
第13回	建築アーカイブズと教育—アメリカ議会図書館の事例	建築アーカイブズの教育的役割について、アメリカ議会図書館の事例から学ぶ
第14回	最終課題発表・講評とまとめ	最終課題の発表と講評、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するレジュメ及び紹介する参考文献を読み、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、授業ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

国文学研究資料館 編『アーカイブズ学入門』 勉誠社, 2024
下重直樹、湯上良 編『アーキビストとしてはたらく 記録と人が社会をつなぐ』 山川出版社, 2022
高野文子「奥村さんのお茄子」『棒がいっぱい』 マガジンハウス, 1995
エヤル・ヴァイツマン著、中井悠訳『フォレンジック・アーキテクチャー 検知可能性の敷居における暴力』 水声社, 2025
ロバート・マクシミリアン・ヴォイチュツケ著、江本弘監訳『未完の美術館 調和にむかって—ル・コルビュジエの思想と国立西洋美術館』 Echelle-1, 2023

アレックス・ライト著、鈴木和博訳『世界目録をつくろうとした男 奇才ポール・オトレと情報化時代の誕生』 みすず書房, 2024

【成績評価の方法と基準】

中間レポート25%、最終課題50%、授業における貢献25%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

具体事例を多く紹介し、図版を多用する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Documents and records are fundamental resource not only for design practice and historical research but also for support memory of city and architecture and inheriting it. This class teaches about theory and practice of information, documents, records and archives concerning cities, architecture, and design to understand how to utilize them. Additionally, understand the functions of cultural institutions that handle information, and the relationship between these facilities and architecture and cities.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the role of information, documents and records in architectural practice and society, and to acquire literacy to utilize them in contexts ranging from daily life to research.

【Learning activities outside of classroom】

Before or after each class, students will be expected to spend two hours for reading resume and reference books to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on mid-term report(25%), term-end presentation(50%) and in class contribution(25%).

MAT100NB（数学 / Mathematics 100）

数理演習 2

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は数学、物理が工学の問題を解く際に、どのように役立つか概要を理解することを目的にする。たとえば、構造物を設計する際、外力に対して構造物にどのような力が生じて、どのように破壊するかを知る必要がある。そのためには実験を行って現象を観察し、それを物理法則を用いて数式化する。その数式を解いた結果と実験結果を比較することで性能を実証する。そこで講義は以下の内容を扱って数学、物理を用いた工学的な手法の基礎を学ぶ。

①微分方程式演習 ②微分方程式の実例とその解 ③力の可視化 ④トラスと梁の模型実験 ⑤モデル化、線材置換 ⑥応力計算

【到達目標】

- ・常微分方程式の解法を習得する
- ・物理現象を数式化した実例を学びその有効性を理解する
- ・力を可視化して理解を深める。
- ・トラスと梁の力学原理を模型実験を通して理解する。
- ・トラスと梁の応力を計算するためのモデル化を理解する。
- ・応力計算に必要な基礎知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回の講義で演習例題を配布し、内容を解説する。
- ・各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次回の講義前に提出すること。
- ・中間テストと期末テストを実施して、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 常微分方程式の解法	講義の目的、到達目標、定数係数同 次方程式の演習
2	演算法 1	特殊解の計算演習
3	演算法 2	特殊解の計算演習
4	微分方程式の実例 1	梁のたわみ曲線
5	微分方程式の実例 2	柱の座屈
6	微分方程式の実例 3	構造物の振動
7	中間テスト	微分方程式に関するテスト
8	力の釣り合い 1	図式解法 示力図
9	力の釣り合い 2	図式解法 連力図
10	トラスの力学	トラスの模型実験
11	トラスに生じる応力 1	図式解法解説
12	トラスに生じる応力 2	図式解法演習
13	梁の力学	梁の模型実験
14	梁に生じる応力	曲げモーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重点的に演習の必要なテーマについて、演習課題を提示する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

演習課題 20% 中間試験 40% 期末試験 40% 配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to provide an overview of how mathematics and physics can be useful in solving engineering problems. For example, when designing a structure, it is necessary to know what kind of force is generated in the structure in response to external forces and how the structure will fail. To do this, we conduct experiments to observe the phenomena, which are then converted into mathematical formulas using the laws of physics. Performance is demonstrated by comparing the results of solving the equations with the experimental results. Therefore, the lecture covers the following topics to learn the basics of engineering methods using mathematics and physics.

(1) Exercise of differential equations (2) Examples of differential equations and their solutions (3) Visualization of forces (4) Model experiments of trusses and beams (5) Modeling and wire replacement (6) Stress calculations

【Learning Objectives】

Learn how to solve ordinary differential equations

Understand the effectiveness of mathematical expressions for physical phenomena.

Visualize forces to deepen understanding.

To understand the mechanical principles of trusses and beams through model experiments.

To understand the modeling for calculating stresses of trusses and beams.

To acquire basic knowledge necessary for stress calculation.

【Learning activities outside of classroom】

Exercise assignments will be presented on topics requiring intensive practice.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Exercises 20% Mid-term exam 40% Final exam 40% Grading

技術者倫理

伊東 賢

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術者として仕事を行う上で必須である倫理課題に適切に対処できる素養を養う。目的は以下の3項目。

- ①技術に関する意思決定が社会や環境に大きな影響を与えることを学ぶ
- ②技術者としての倫理的対処に際し、直面する問題と対処方法を学ぶ
- ③倫理的対処に欠かせない当事者意識と実践力を養う

【到達目標】

- ①技術者が担う責任の範囲が理解できる
- ②科学技術の不確実性とリスクの違いが理解できる
- ③技術者倫理の必要性が理解できる
- ④技術者倫理規定が理解できる
- ⑤倫理課題「持続可能性」の背景と取組概要が理解できる
- ⑥技術者倫理問題に対処するための考え方と阻害要因が理解できる
- ⑦当事者として技術者倫理問題が意識できる
- ⑧技術者倫理問題に対処する実践力が発揮できる

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 25%
- (B) 技術者倫理 75%
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

全14回（各100分）は原則対面授業とする。必要な連絡は学習支援システムで行う。前半（第1～12回）は、技術者の責任範囲、科学技術の本質、技術者倫理が求められる社会的状況、倫理問題の考え方や阻害要因、事例による取組み方などの講義を聞く。第13回は、これらをもとに技術者倫理が問われる事案について、技術者倫理上の問題点とその対処方法を検討し、技術者倫理の実践力を養う。また、第14回では、検討結果を発表する。第1回を除き第2回から13回まで、次回の内容に沿った事前課題を各回の授業の最後に提示するので、次回の準備としてその都度、各自ネット上などで調べ回答案を作成し、その回の授業の冒頭に提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバス ・職業と仕事
第2回	技術者と倫理	・技術者の資格制度 ・安全確保の潮流 ・技術者倫理の特徴
第3回	組織と個人の役割	・倫理規定 ・事例研究 ・個人と法人 ・組織の倫理問題 ・個人尊重も倫理
第4回	モラル上の人間関係	・倫理の作用する限界 ・コミュニティ ・私的な人間関係 ・業務上の人間関係 ・利益相反と公衆
第5回	科学技術と技術者の位置づけ	・科学技術とは何か ・科学技術を担う人 ・技術者の位置づけ ・科学技術のガバナンス
第6回	倫理実行の方法	・事実関係の争点 ・概念上の争点 ・適用上の争点 ・モラルに基づく判断の方法 ・決疑論の利用

第7回	事故責任の法の仕組み	・注意・過失・欠陥 ・職務と注意義務 ・品質管理 ・事故責任の法
第8回	法的責任とモラル責任	・カネミ油症事件 ・法的責任 ・法とモラルの境界域の責任 ・合成化学物質の脅威
第9回	コンプライアンスと法規制	・正直性・真実性・信頼性 ・三菱自動車リコール欠陥隠し ・規制法令 ・コンプライアンス
第10回	説明責任	・遺伝子組換え作物 ・説明責任と信頼関係 ・立証責任 ・情報開示
第11回	警笛鳴らし（内部告発）	・実例（富里病院医師解雇） ・コミュニティ内部の人間関係 ・法による救済の方法 ・技術者の通報対策
第12回	環境と技術者	・SDGsは何を目指す。 ・環境問題 ・地球規模の環境問題 ・環境と倫理
第13回	事例研究(グループワーク)	実課題：グループごとに設定 ・倫理問題と対処案の検討
第14回	総合研究(グループワーク)	・第13回検討結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題：次回の内容に沿った事前課題について、ネットなどで調べ答案を作成し、当日の授業開始時に提出する。第1回から第12回まで12回提出する。日頃の思考訓練：自らが遭遇した事案や、新聞等で報じられている事案などについて、技術者倫理上、どのように対処すべきかを考える習慣を身に着ける。本授業の準備学習・復習に各4時間あてる。

【テキスト（教科書）】

・各回のテキスト（パワーポイント資料）はその回の直前に学習支援システム上の教材にアップする。

【参考書】

- ・「土木技術者倫理問題」（土木学会 技術推進機構 1,500円税別）
- ・「技術者倫理とリスクマネジメント」（中村 オーム社 2,000円税別）
- ・「技術者の倫理 入門」（杉本ほか 丸善 1,700円税別）
- ・「卒業生としての知識・能力と専門職としての知識・能力」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu7/siryo/_icsFiles/afieldfile/2012/12/08/1328590_7.pdf

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 40%
事前課題 40%（全12回）
平常点 20%
・意見発表
・授業への協力など。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

・技術者倫理という技術者に必須の素養を養うこの科目の特性を踏まえ、授業に取り組む心構えの説明が肝要。そこで、第1回の講義の冒頭と第13回のグループワークについて技術者倫理の基本として科目に取り組む心構えについて解説する。

【学生が準備すべき機器他】

・第13回のグループワークは、進行役・書記・発表者・タイムキーパーを決め検討を進める。第14回ではグループの検討結果発表を全員で聞いて議論を行う。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問は、随時電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To cultivate the ability to appropriately deal with the ethical issues that are essential for working as an engineer. The purpose is the following three items. ① Learn that technology decision-making has a great impact on society and the environment (2) Learn the problems faced and how to deal with them when dealing with ethics as an engineer. ③ Develop a sense of ownership and practical skills that are indispensable for ethical coping

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the scope of responsibility of engineers
- ② Understand the difference between scientific and technological uncertainty and risk
- ③ Understand the need for engineer ethics
- ④ Understand the Code of Ethics for Engineers
- ⑤ Understand the background of ethical issues “sustainability” and the outline of efforts
- ⑥ Understand the way of thinking and obstacles to dealing with engineer ethics issues
- ⑦ Be aware of engineer ethics issues as a party
- ⑧ Can demonstrate practical ability to deal with ethical issues of engineers

【Learning activities outside of classroom】

Pre-assignment: For the pre-assignment according to the next content, check on the internet etc., create an answer, and submit it at the beginning of the class on the day. Submit all 13 times from the 2nd time except the 1st time.

Daily thinking training: Get into the habit of thinking about how to deal with the cases that you have encountered and the cases reported in newspapers, etc. in terms of engineer ethics.

Allocate 4 hours each for preparatory study and review of this class.

【Grading Criteria /Policies】

例 1：Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports：40%、in class contribution: 10%

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

図学及演習

福井 恒明、今井 裕久、矢原 奈欧、八杉 遥

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、物体や空間を表現する手段としての図学の基礎的知識を都市環境デザインにおける具体的な活用法を踏まえて学習する。また、図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。後半は、コンピュータを用いたCADやドローイングソフトによるさまざまな図面の作成について学ぶ。

【到達目標】

【前半】図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。
【後半】CADソフトの習得。ドローイングソフトの習得。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	60%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半は手書きによる作図を基本として、図法の説明とその作図課題により授業を進める。後半は、パソコンを活用した作図システムについて操作の基本を習得するとともに、情報の共有化、送受信など、電子化された図面の新たな機能・効果についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	技術者の言語としての図面 都市環境デザイン分野の図面 作図用具とその使用法
2	作図法の基礎	図面表現の基本
3	正投影法	平面図・立面図の表現と作図
3	読図の基礎	図面情報の読み取り
4	透視図法(1)	投影図・透視図の体系
4	透視図法(2)	透視図作図の原理
5	透視図法(3)	1点透視図の表現と作図 2点透視図の表現と作図 点景の表現
6	前半まとめ(1)	1点透視図による空間イメージの表現
7	前半まとめ(2)	1点透視図作品の相互講評と評価
8	描画ソフト利用ガイダンス	システムの起動・操作・入力・出力・データ保管・終了
9	CADソフト(1)	基本機能/支援機能の活用
10	CADソフト(2)	作図/出力の基礎
11	CADソフト(3)	作図/出力の習得
12	ドローイングソフト(1)	基本機能/支援機能の活用
13	ドローイングソフト(2)	土地利用現況図のトレース
14	ドローイングソフト(3)	地区開発イメージ図の制作 地域の略図の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示する
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回の作図課題により評価する（100％）。なお、4回以上の欠席、または1つ以上の未提出課題ある者は単位取得を認めない(D判定)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

【前半】作図のための製図用具が必要となる。最小限必要な用具セットは年度始めに案内する。

【後半】ドローイングソフトの演習には貸与パソコンを使用する。CADソフトの演習には情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして、設計における作図技術につながる内容を指導する。
オフィスアワーについて、専任教員（福井）については『履修の手引き』を参照すること。その他の担当教員（兼任講師）は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to learn the fundamental knowledge and skills of drawing for expressing objects and spaces in the field of civil and environmental engineering design. Students will learn basic methods of graphical representation and plotting skills through several exercises in handwriting and CAD.

【Learning Objectives】

[First half] Learn the basic techniques of graphic expression. Learn drawing techniques with drawing challenges.

[Second half] Learn how to use CAD software and drafting software.

【Learning activities outside the classroom】

Instruct if necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

The final grade will be each submission and task as a grade (100%). If you are absent 4 or more times or do not submit your assignments, you will not be granted credit (D grade).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

ジオロジカルエンジニアリング

中谷 匡志

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかわり考える。

地質の基礎知識（1.5回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。

のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形的特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。

授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2)	岩盤の風化・変質、地質構造。
	地質の基礎知識を習得する。	

3	特別講義(1) 「地球の動き／地震」の解釈の歴史の変遷、現状を理解する。	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
4	地質調査・試験 代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
5	地盤の分類（岩盤分類） 岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
6	ダムと地質情報(1) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
7	ダムと地質情報(2) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
8	特別講義(2) 「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
9	トンネルと地質情報(1) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
10	トンネルと地質情報(2) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
11	構造物基礎と地質情報 橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
12	のり面と地質情報(1) 掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
13	のり面と地質情報(2) のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
14	地すべりと地質情報 地すべり地形的特徴と見方と安定計算方法を習得する。	地すべり地形的特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題（記述・作図・計算など）の提出により習得度を評価し、その合計から評価点(100点満点)を算出する。
合否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59.0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。なお、質問がある場合は、随時電子メール等で受け付ける。

【Outline (in English)】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the basic of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

技術者倫理

池田 尚司

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザイン工学技術者は、個人としての倫理こそ身につけているはずであるが、専門家としての倫理も身につけることが求められる。本講義は、科学技術に関わる倫理問題にはどんなものがあるか、また、技術者がもつべき倫理についてケーススタディを交えながら体系的に学ぶことを目的とする。特に、自分のデザインや技術が将来、社会や環境に及ぼす影響を推察することの重要性を認識する。

【到達目標】

- （１）デザイン工学の技術者がもつべき倫理の概念と重要事項を体系的に理解する
- （２）過去に起こった実事例から、内在する倫理問題を抽出する能力を身につける
- （３）技術者倫理に基づき情報デザイン、システムデザイン、環境デザイン、安全建築設計等各分野の研究開発を推進できる技術を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザイン工学系技術者がもつべき倫理事項を、文化や歴史、政治や経済、科学技術、自然環境など多角的な観点から、様々なケーススタディを織り込みながら、学習していく。倫理に関する意識づけのみならず、安全に関する具体的なスキルも併せて習得する。教科書を軸に、質問を投げかけながら答えてもらう問答法的なアプローチで講義を進める。また、各回事前課題を課し、授業の初めに、課題に対する解答例を示しフィードバックを行う。また、良い回答やコメントは授業内で紹介する。本年度については、対面講義とオンライン講義のハイブリッド形式とする。オンライン講義の場合はZoomにより行う。詳細は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	研究者・技術者の社会的責任と倫理	研究者・技術者にとっての倫理とは何かについて、歴史的経緯とともに学ぶ。さらに、倫理と法の関係についても考える。
2	研究者・技術者の行動規範とリスクマネジメント	研究者・技術者の行動規範などについて学ぶ。研究者・技術者が考慮すべきリスクとは何か、その大きさはどうやって測るのか、スクマネジメントはどう進めたらいいのかなどについて学ぶ。
3	技術情報と知的財産の保護	技術情報とは何かを知る。創出したアイデアや技術、デザインを守る知財権保護制度について学ぶ。さらに、特許の対象についても学習する。
4	説明責任	社会の知る権利とこれに対する技術者の果たすべき説明責任について考える。

5	製造物責任	製品を開発する側に生じる製造物責任の特徴や使う側との関係などについて考える。
6	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーを知覚、認知、社会行動等、ユーザ側要因の観点から学び、精神論ではなく、工学的・科学的観点に基づくヒューマンエラーの予防的・対処的対策について考える。
7	化学倫理	化学物質、化学技術、ナノテクノロジーへの期待とリスク、およびその倫理について考える。さらに、放射性物質のリスクと取り扱いについても学ぶ。
8	生命倫理	ゲノム解析・遺伝子操作、クローン技術等における倫理を通して、生命や生死に対してどう関わるべきかについて考える。
9	情報ネットワーク社会と倫理	個人情報漏えい、ネットワーク犯罪、ソーシャルメディアでのトラブル等、情報化社会における様々な倫理問題について学ぶ。急速に進化する人工知能(AI)の急速な進化によって起きていることを知る。さらに、AIを開発・利用する際に考慮すべきリスクと倫理について学ぶ。
10	AIと倫理	
11	環境保全と倫理	環境・資源問題、エネルギー問題、さらに、環境保全に対する技術者取り組みについて考える。
12	企業と倫理・内部告発	組織の構造や文化と倫理について学ぶ。さらに、企業における具体的な取り組みについて知る。
13	多様性社会と技術者倫理	科学技術の進展によりクローズアップされてきた人権問題、社会のグローバル化、科学的と見せかけて実は科学論理的根拠がないいわゆる疑似科学等について、倫理の側面から考える。
14	技術者倫理の諸課題	バリアフリーからユニバーサルデザインへの流れについて知る。ユニバーサルデザインにおいて生じるコンフリクトなど倫理に関して残されている諸課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容を事前に確認し、教科書掲載ケーススタディを読んでおくこと。毎回の講義についての予習・復習時間は4時間ずつを標準とする。

Review the syllabus contents and read the case studies published by the subject in advance. The standard preparation and review time for each lecture is 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

北原義典「はじめての技術者倫理 改訂第2版」講談社（ISBN 978-4-06-541671-6）を使用。その章立てにしたがって進めるので、毎回持参のこと。その他、学習支援システムにアップされた資料を書き込み用に持参してもらう、もしくは、pdf参照してもらう場合もある。

【参考書】

中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」 オーム社

林真理、宮澤健二、小野幸子「技術者の倫理」 コロナ社 など

【成績評価の方法と基準】

技術者倫理の習得度に関する期末試験点数（80点）と平常の講義取り組み姿勢（20点）の合計をもって評価点とする。授業の取り組み姿勢とは、主に授業中の発言の活発さを指す。合計評価点60点以上を合格とする。ただし、出席率が70%以上であることを評価前提条件とする。

The final grade is based on the sum of the final exam score (80 points), which assesses the mastery of engineering ethics, and class participation (20 points). Class participation is primarily evaluated by the activeness of contributions during class. A total score of 60 points or higher is required to pass. However, an attendance rate of at least 70% is a mandatory prerequisite for evaluation.

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

本年度、対面講義とオンライン講義のハイブリッド形式で行います。オンライン講義の際には、Zoomを利用するため、PCもしくはタブレット等を準備し、開講時間にアクセス、入室してください。また、連絡事項や資料は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【その他の重要事項】

討論を重視するため、必ず出席し、積極的発言をすることが大切。なお、本講義の担当教員は、30年あまりにわたる企業での実務経験を持ち、その経験からの倫理問題も紹介する。学生からの質問については、授業終了後に教室にて、もしくは、随時、電子メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

While design engineers are expected to possess personal ethics, they are also required to acquire professional ethics as specialists. This course aims to provide a systematic understanding of various ethical issues in science and technology, as well as the ethical standards expected of engineers, through the use of case studies. In particular, students will recognize the importance of anticipating the long-term impacts that their designs and technologies may have on society and the environment.

DES100NA（デザイン学 / Design science 100）

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出したのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて、誰によってか判明しているかしていないかにかかわらず、人間によって「デザインされたもの」と言ってもいいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「書く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月8日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、デザイン文化論とはどのような授業か、その他注意事項など。
4月15日	イントロダクション	教員の自己紹介
4月22日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	第4週からの課題の説明 現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ 今尚現代の建築家やデザイナーに影響を与えているダ・ヴィンチの功績をみる。
5月13日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月20日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月27日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月3日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月10日	課題のプレゼンテーションと自己紹介5	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月17日	西洋文化の源流 ギリシア神話と神々の住むところ	人の作品を鑑賞する。 ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明について考える。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。

6月24日	都市施設の観察 1 鉄道遺産 日本	我が国の鉄道遺産を考える。 高輪築堤とその後。江戸から明治維新、そして東京へと変わる風景。
7月1日	都市施設の観察 2 鉄道遺産 日本以外の国	鉄道遺産の活かし方を台湾に、また公共交通機関のデザインを、フィンランドに見る。
7月8日	千田 勝 フランスからのリモート授業 「パリから東京の未来を考える」	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。環境への影響や社会的な課題にも考慮したパリの都市政策について。
7月15日	フィンランドのデザイン	モダニズム建築の雄アルヴァー・アアルトからJKMMの活動まで。
7月22日	都市施設の観察 3 図書館	デジタルな情報社会が進む現代、書の宝庫図書館はどのような道を進んでいるのか？ 世界各国の例を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
授業時間内はスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything that comes into our eyes can be said to be 'designed' by humans, whether it is known who designed it or not.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出したのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて、誰によってか判明しているかしていないかにかかわらず、人間によって「デザインされたもの」と言ってもいいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月8日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、デザイン文化論とはどのような授業か、その他注意事項など。
4月15日	イントロダクション	教員の自己紹介
4月22日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	第4週からの課題の説明 現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ 今尚現代の建築家やデザイナーに影響を与えているダ・ヴィンチの功績をみる。
5月13日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月20日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月27日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月3日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月10日	課題のプレゼンテーションと自己紹介5	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月17日	西洋文化の源流 ギリシア神話と神々の住むところ	人の作品を鑑賞する。 ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明について考える。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月24日	都市施設の観察 1 鉄道遺産 日本	我が国の鉄道遺産を考える。 高輪築堤とその後。江戸から明治維新、そして東京へと変わる風景。
7月1日	都市施設の観察 2 鉄道遺産 日本以外の国	鉄道遺産の活かし方を台湾に、また公共交通機関のデザインを、フィンランドに見る。
7月8日	千田 勝 フランスからのリモート授業 「パリから東京の未来を考える」	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。環境への影響や社会的な課題にも考慮したパリの都市政策について。

7月15日	フィンランドのデザイン	モダニズム建築の雄アルヴァー・アアルトからJKMMの活動まで。
7月22日	都市施設の観察 3 図書館	デジタルな情報社会が進む現代、書の宝庫図書館はどのような道を進んでいるのか？ 世界各国の例を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。

授業時間内はスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything that comes into our eyes can be said to be 'designed' by humans, whether it is known who designed it or not.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA（デザイン学 / Design science 100）

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出したのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて、誰によってか判明しているかしていないかにかかわらず、人間によって「デザインされたもの」と言ってもいいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また3学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4月8日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120名を超える場合は抽選方式）、デザイン文化論とはどのような授業か、その他注意事項など。
4月15日	イントロダクション	教員の自己紹介 第4週からの課題の説明
4月22日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か?	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ 今尚現代の建築家やデザイナーに影響を与えているダ・ヴィンチの功績をみる。
5月13日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月20日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
5月27日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月3日	課題のプレゼンテーションと自己紹介4	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月10日	課題のプレゼンテーションと自己紹介5	人の作品を鑑賞する。 自分の作品をプレゼンテーションする。
6月17日	西洋文化の源流 ギリシア神話と神々の住むところ	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明について考える。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月24日	都市施設の観察 1 鉄道遺産 日本	我が国の鉄道遺産を考える。高輪築堤とその後。江戸から明治維新、そして東京へと変わる風景。

7月1日	都市施設の観察 2 鉄道遺産 日本以外の国	鉄道遺産の活かし方を台湾に、また公共交通機関のデザインを、フィンランドに見る。
7月8日	千田 勝 フランスからのリモート授業 「パリから東京の未来を考える」	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田 勝氏。環境への影響や社会的な課題にも考慮したパリの都市政策について。
7月15日	フィンランドのデザイン	モダニズム建築の雄アルヴァー・アアルトから JKMM の活動まで。
7月22日	都市施設の観察 3 図書館	デジタルな情報社会が進む現代、書の宝庫図書館はどのような道を進んでいるのか？ 世界各国の例を見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成5時間、レポート作成8時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート40%、一部授業後の提出物30%、平常点30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスから教室内のモニターにリモートで、千田勝氏にレクチャーをしてもらう予定だが、スケジュールについては変更する可能性もある。
授業時間内はスマートフォンの使用を禁止する。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We human beings have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything that comes into our eyes can be said to be 'designed' by humans, whether it is known who designed it or not.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

現代企業論

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介しします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	50%
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	30%
(I) 業務遂行能力	50%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで、新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン 発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・玄人実行、発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 演習2、ブレインマップを活用した玄人実行	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社，2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文真堂，2022年。

境新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。

『日経 業界地図2025年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度（演習を含む）20％ 期中レポート40％ 期末試験または期末レポート40％ の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題2回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

現代企業論

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで、のなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介します。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍ならびに想定を遥かに超える気候変動のなかで新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法
第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン 発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・玄人実行、発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造 演習1、 ブレインマップを活用した素人発想	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 演習2、 ブレインマップを活用した玄人実行	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- (1) パンデミック／コロナ禍の影響，現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- (2) 農商工連携，総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- (3) 企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- (4) PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- (5) 経営と戦略，人材育成，マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- (6) 経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- (7) 経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。
- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習（90分）。
- (9) 経営と法律，知財について教科書・資料での予習（90分）。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習（90分）。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習（90分）。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習（90分）。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習（90分）。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習（90分）。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社，2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂，2018年。
境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文真堂，2022年。

境新一（編著）、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美（著）

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社，2020年。

『日経 業界地図2025年版』日本経済新聞社，2024年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度（演習を含む）20％ 期中レポート40％ 期末試験または期末レポート40％ の総合評価とします。なお，期末試験／期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として，各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが，期中レポート（小課題2回），期末レポート，演習も交えて行います。毎回，学習支援システムに講義資料を掲載しますので，受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

現代企業論

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界は2020年以来、未曾有のパンデミック／コロナ禍ならびに想定を遙かに超えるなかで、大転換、新たな社会観と事業、価値創造の手法が模索されています。本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、新たな事業創造、その基盤となる新たな価値創造の技法、発想法を利用し演習に活かします。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パンデミック／コロナ禍ならびに気候変動のなかで、新たな価値創造が模索されるなかで、本講義では企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。アイデア発想法の練習やゲスト講話（インタビュー取材、録画）なども交えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、パンデミック／コロナ禍、気候変動の影響、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、新事業創造と価値創造の技法

第2回	農商工連携、総合産業	農商工連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン発想と実行／実装	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	新事業創造と事業計画、物語構築と価値創造のための発想法の意義	事業創造のための物語構築、新事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル、素人発想・玄人実行、発想法／ブレインマップの特徴
第12回	価値創造 演習1、ブレインマップを活用した素人発想	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 演習2、ブレインマップを活用した玄人実行	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	物語構築と新事業創造の要諦、企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、発想法を活かした価値創造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。各回については、以下のとおりです。

- （1）パンデミック／コロナ禍の影響、現代企業の要件について教科書・資料での予習（90分）。
- （2）農商工連携、総合産業について教科書・資料での予習（90分）。
- （3）企業・事業・経営について教科書・資料での予習（90分）。
- （4）PDCAとBSCについて教科書・資料での予習（90分）。
- （5）経営と戦略、人材育成、マーケティングについて教科書・資料での予習（90分）。
- （6）経営と財務1について教科書・資料での予習（90分）。
- （7）経営と財務2について教科書・資料での予習（90分）。

- (8) 経営と情報技術について教科書・資料での予習 (90分)。
- (9) 経営と法律, 知財について教科書・資料での予習 (90分)。
- (10) アートとデザインについて教科書・資料での予習 (90分)。
- (11) 新事業創造と事業計画について教科書・資料での予習 (90分)。
- (12) 価値創造 事例1について教科書・資料での予習 (90分)。
- (13) 価値創造 事例2について教科書・資料での予習 (90分)。
- (14) まとめ 教科書・資料での総括・復習 (90分)。

【テキスト (教科書)】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合 第2刷』中央経済社, 2021年。

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点 (第5版)』文真堂, 2018年。

境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造のための発想法』文真堂, 2022年。

境新一 (編著)、齋藤 保男、加藤 寛昭、丸 幸弘、塚田 周平、白井 真美 (著)

『アグリ・アート 感動を与える農業ビジネス』中央経済社, 2020年。

『日経 業界地図2025年版』日本経済新聞社, 2024年。

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度 (演習を含む) 20% 期中レポート40% 期末試験または期末レポート40% の総合評価とします。なお, 期末試験/期末レポートの決定は講義折り返しの7、8回時点で公表します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『アート・プロデュース概論』を基本として, 各テーマに関連する資料を適宜別途掲載します。

講義を中心として進めますが, 期中レポート (小課題2回), 期末レポート, 演習も交えて行います。毎回, 学習支援システムに講義資料を掲載しますので, 受講生諸君は各自で資料ファイル (PDF) をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

CUA100NA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

思 沁夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2026年度の授業はオンライン開催（13回）および対面形式での開催（1回）を予定している。

各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生態	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにおける儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ 1	学生から反響が大きかったテーマを深く掘り下げる
14	まとめ 2	授業内容の総括及び期末レポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の身の回りの出来事、社会現象、若者たちの生活感やライフスタイルを観察し、文化人類学にまつわる理論や概念を応用し、自分なりに分析、考察すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

随時授業に関連する基礎文献や資料を紹介、配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率および積極性を表す平常点（30パーセント）、学期末レポート（70パーセント）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないよう配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。また、オンライン化に伴って例年になく課題に迫られるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業配信ではGoogle Classroom、リアルタイム相談窓口ではZoom ミーティングの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の関心や理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100NA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

思 沁夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2026年度の授業はオンライン開催（13回）および対面形式での開催（1回）を予定している。

各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生態	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにおける儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ 1	学生から反響が大きかったテーマを深く掘り下げる
14	まとめ 2	授業内容の総括及び期末レポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の身の回りの出来事、社会現象、若者たちの生活感やライフスタイルを観察し、文化人類学にまつわる理論や概念を応用し、自分なりに分析、考察すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

随時授業に関連する基礎文献や資料を紹介、配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率および積極性を表す平常点（30パーセント）、学期末レポート（70パーセント）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮き上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないよう配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。また、オンライン化に伴って例年になく課題に迫られるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業配信ではGoogle Classroom、リアルタイム相談窓口ではZoom ミーティングの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の関心や理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

CUA100NA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）

文化人類学

思 沁夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じて、ものの考え方や暮らし方が多様であることを知る。自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。それはこれからの時代を生きるために役立つ訓練になるだけでなく、それ自体がこのうえなく楽しいことでもある。この授業では、世界各地の具体的な事例と、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら、そのための糸口をできるだけ多くつくることを目指す。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

2026年度の授業はオンライン開催（13回）および対面形式での開催（1回）を予定している。

各回授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生態	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにおける儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ 1	学生から反響が大きかったテーマを深く掘り下げる
14	まとめ 2	授業内容の総括及び期末レポートの説明を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の身の回りの出来事、社会現象、若者たちの生活感やライフスタイルを観察し、文化人類学にまつわる理論や概念を応用し、自分なりに分析、考察すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

随時授業に関連する基礎文献や資料を紹介、配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率および積極性を表す平常点（30パーセント）、学期末レポート（70パーセント）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド方式の動画配信について、公開時期や要望への対応の遅れが生じたほか、音声の強弱のむらや動画が冗長になるなどの課題が多々浮かび上がった。このほかにも、対面できないため伝えられない要望もあったかと思う。これらを踏まえ、今学期は機器の取り扱いに習熟する、授業時間外に寄せられる連絡にも柔軟に対応する、各回授業には過剰な内容を詰め込みすぎないよう配慮するなど、オンライン環境に適した授業づくりに努めたい。また、オンライン化に伴って例年になく課題に迫られるなど困難な状況に置かれた受講生も少なくないようだった。課題要求についても過大にならないよう配慮したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業配信ではGoogle Classroom、リアルタイム相談窓口ではZoom ミーティングの利用を予定している。このため、インターネット環境を整えたうえで受講の望んでほしい。

【その他の重要事項】

学生の関心や理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Armed with the knowledge that people's way of thinking and way of life diversifies through deepened understanding of different cultures, we explore opportunities to relativize common ideas and values and look back on them. In this course, we will learn useful points and concrete examples in this area by referring to methodologies developed in the field of cultural anthropology.

LAW100NA（法学 / law 100）

法学概論

蓼沼 佳孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、わが国の最高法規である憲法を中心に、日本における基本的な法律である六法（憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法及び刑事訴訟法）等を横断的に学習します。

憲法については、歴史的な成立過程を踏まえた上で、事例を通じて、日本国憲法が定める基本的人権と統治機構の概要について理解を深めます。

また、憲法以外の六法については、実社会生活を送る上で有用となる基本的かつ重要な法律の知識や考え方を身に付けます。

【到達目標】

日本国憲法については、わが国の法の基本原理・原則を学習しますが、裁判例や時事問題などを多く取り上げることで、様々な問題に対する法的な考え方の指針を身に付けることができます。

また、憲法以外の六法については、社会生活上、直面し得る法的問題のケーススタディを通じて、社会人として必要となる基礎的な法律知識を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義で形式で行いますが、受講生には全講義期間を通じて、3回程度、授業に関連する質問、意見及び感想等を担当講師へ送っていただくことをお願いしています。これにより、受講生の疑問点等を授業に取り入れて、双方向の授業を実現することを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	憲法（1）	立憲主義、明治憲法、日本国憲法の制定、日本国憲法の原理、平和主義
2	憲法（2）	基本的人権の原理・内容
3	憲法（3）	基本的人権の限界
4	憲法（4）	包括的基本権、法の下での平等
5	憲法（5）	思想・良心の自由
6	憲法（6）	信教の自由、学問の自由
7	憲法（7）	表現の自由
8	憲法（8）	集会・結社の自由、通信の秘密
9	憲法（9）	経済的自由権、人身の自由
10	憲法（10）	受益権と参政権、社会権
11	憲法（11）	権力分立、国会、内閣、裁判所
12	憲法（12）	地方自治、憲法の保障
13	身近な法律問題（1）	裁判員制度、公法と私法の区別
14	身近な法律問題（2）	インターネット上の表現の自由の問題等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業については、基本的に、予習よりも復習に重点を置くことをお勧めします。授業で使ったレジュメは、授業後にその都度公開する予定ですので、受講生は、レジュメを読み返して、六法を使用して条文を確認することや、参考書の関連箇所を読むことが期待されます。併せて、授業の内容に関連して、質問や意見等がある場合には、担当講師までお送りください。

本授業の準備学習・復習時間は、復習時間を中心にして、毎回2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義において条文を確認する機会が多いので、小型の携帯用の六法があると便利です。

例えば、ポケット六法(有斐閣)や、デイリー六法(三省堂)があります。

なお、講義は、芦部信喜「憲法」(岩波書店)に沿う形式及び内容で、基本的に進行します。

【成績評価の方法と基準】

レポート又は期末試験（記述式）を80パーセント、授業についての質問及び意見等の提出を20パーセントとして評価します。レポートと試験のいずれを実施するかについては、適宜、判断いたします。

また、授業についての質問及び意見等の提出は、平常点として、普段の学習状況や授業への参加度を評価するものです。その詳細については、初回の授業で説明します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

法律の用語や概念は、受講生にとって馴染みのないものが少なくないため、分かりやすさを重視して、授業を進めたいと思っています。また、その時々々の時事問題を憲法の視点から解説して、できるだけ具体的なイメージを持てるように工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しません。

【その他の重要事項】

授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

Course outline

This lecture will focus on Constitution of Japan, and will study the six basic laws in Japan(Constitution, Civil Law, Commercial Law, Criminal Law, Civil Procedure Law and Criminal Procedure Act).

Learning Objectives

With regard to the Constitution, based on the historical process of enactment, we will deepen our understanding of the outline of the basic human rights and governance mechanisms established by the Constitution of Japan through examples.

In addition, with regard to the six laws other than the Constitution, students acquire basic and important legal knowledge

and ideas that are useful for living a real life.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 80%, in class contribution: 20%

法学概論

蓼沼 佳孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、わが国の最高法規である憲法を中心に、日本における基本的な法律である六法（憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法及び刑事訴訟法）等を横断的に学習します。

憲法については、歴史的な成立過程を踏まえた上で、事例を通じて、日本国憲法が定める基本的人権と統治機構の概要について理解を深めます。

また、憲法以外の六法については、実社会生活を送る上で有用となる基本的かつ重要な法律の知識や考え方を身に付けます。

【到達目標】

日本国憲法については、わが国の法の基本原理・原則を学習しますが、裁判例や時事問題などを多く取り上げることで、様々な問題に対する法的な考え方の指針を身に付けることができます。

また、憲法以外の六法については、社会生活上、直面し得る法的問題のケーススタディを通じて、社会人として必要となる基礎的な法律知識を習得することができます。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義で形式で行いますが、受講生には全講義期間を通じて、3回程度、授業に関連する質問、意見及び感想等を担当講師へ送っていただくことをお願いしています。これにより、受講生の疑問点等を授業に取り入れて、双方向の授業を実現することを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	憲法（1）	立憲主義、明治憲法、日本国憲法の制定、日本国憲法の原理、平和主義
2	憲法（2）	基本的人権の原理・内容
3	憲法（3）	基本的人権の限界
4	憲法（4）	包括的基本権、法の下での平等
5	憲法（5）	思想・良心の自由
6	憲法（6）	信教の自由、学問の自由
7	憲法（7）	表現の自由
8	憲法（8）	集会・結社の自由、通信の秘密
9	憲法（9）	経済的自由権、人身の自由
10	憲法（10）	受益権と参政権、社会権

11	憲法（11）	権力分立、国会、内閣、裁判所
12	憲法（12）	地方自治、憲法の保障
13	身近な法律問題（1）	裁判員制度、公法と私法の区別
14	身近な法律問題（2）	インターネット上の表現の自由の問題等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業については、基本的に、予習よりも復習に重点を置くことをお勧めします。授業で使ったレジュメは、授業後にその都度公開する予定ですので、受講生は、レジュメを読み返して、六法を使用して条文を確認することや、参考書の関連箇所を読むことが期待されます。併せて、授業の内容に関連して、質問や意見等がある場合には、担当講師までお送りください。

本授業の準備学習・復習時間は、復習時間を中心にして、各回2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義において条文を確認する機会が多いので、小型の携帯用の六法があると便利です。

例えば、ポケット六法(有斐閣)や、デイリー六法(三省堂)があります。

なお、講義は、芦部信喜「憲法」(岩波書店)に沿う形式及び内容で、基本的に進行します。

【成績評価の方法と基準】

レポート又は期末試験（記述式）を80パーセント、授業についての質問及び意見等の提出を20パーセントとして評価します。

レポートと試験のいずれを実施するかについては、適宜、判断いたします。

また、授業についての質問及び意見等の提出は、平常点として、普段の学習状況や授業への参加度を評価するものです。その詳細については、初回の授業で説明します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

法律の用語や概念は、受講生にとって馴染みのないものが少なくないため、分かりやすさを重視して、授業を進めたいと思っています。また、その時々々の時事問題を憲法の視点から解説して、できるだけ具体的なイメージを持てるように工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しません。

【その他の重要事項】

授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

Course outline

This lecture will focus on Constitution of Japan, and will study the six basic laws in Japan(Constitution, Civil Law, Commercial Law, Criminal Law, Civil Procedure Law and Criminal Procedure Act).

Learning Objectives

With regard to the Constitution, based on the historical process of enactment, we will deepen our understanding of the outline of the basic human rights and governance mechanisms established by the Constitution of Japan through examples.

In addition, with regard to the six laws other than the Constitution, students acquire basic and important legal knowledge

and ideas that are useful for living a real life.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

SDGs 発行日：2026/5/1

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 80%、in class contribution: 20%

法学概論

蓼沼 佳孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、わが国の最高法規である憲法を中心に、日本における基本的な法律である六法（憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法及び刑事訴訟法）等を横断的に学習します。

憲法については、歴史的な成立過程を踏まえた上で、事例を通じて、日本国憲法が定める基本的人権と統治機構の概要について理解を深めます。

また、憲法以外の六法については、実社会生活を送る上で有用となる基本的かつ重要な法律の知識や考え方を身に付けます。

【到達目標】

日本国憲法については、わが国の法の基本原理・原則を学習しますが、裁判例や時事問題などを多く取り上げることで、様々な問題に対する法的な考え方の指針を身に付けることができます。

また、憲法以外の六法については、社会生活上、直面し得る法的問題のケーススタディを通じて、社会人として必要となる基礎的な法律知識を習得することができます。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義で形式で行いますが、受講生には全講義期間を通じて、3回程度、授業に関連する質問、意見及び感想等を担当講師へ送っていただくことをお願いしています。これにより、受講生の疑問点等を授業に取り入れて、双方向の授業を実現することを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	憲法（1）	立憲主義、明治憲法、日本国憲法の制定、日本国憲法の原理、平和主義
2	憲法（2）	基本的人権の原理・内容
3	憲法（3）	基本的人権の限界
4	憲法（4）	包括的基本権、法の下での平等
5	憲法（5）	思想・良心の自由
6	憲法（6）	信教の自由、学問の自由
7	憲法（7）	表現の自由
8	憲法（8）	集会・結社の自由、通信の秘密
9	憲法（9）	経済的自由権、人身の自由
10	憲法（10）	受益権と参政権、社会権
11	憲法（11）	権力分立、国会、内閣、裁判所
12	憲法（12）	地方自治、憲法の保障
13	身近な法律問題（1）	裁判員制度、公法と私法の区別
14	身近な法律問題（2）	インターネット上の表現の自由の問題等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業については、基本的に、予習よりも復習に重点を置くことをお勧めします。授業で使ったレジュメは、授業後にその都度公開する予定ですので、受講生は、レジュメを読み返して、六法を使用して条文を確認することや、参考書の関連箇所を読むことが期待されます。併せて、授業の内容に関連して、質問や意見等がある場合には、担当講師までお送りください。

本授業の準備学習・復習時間は、復習時間を中心にして、毎回2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義において条文を確認する機会が多いので、小型の携帯用の六法があると便利です。

例えば、ポケット六法(有斐閣)や、デイリー六法(三省堂)があります。

なお、講義は、芦部信喜「憲法」(岩波書店)に沿う形式及び内容で、基本的に進行します。

【成績評価の方法と基準】

レポート又は期末試験(記述式)を80パーセント、授業についての質問及び意見等の提出を20パーセントとして評価します。レポートと試験のいずれを実施するかについては、適宜、判断いたします。

また、授業についての質問及び意見等の提出は、平常点として、普段の学習状況や授業への参加度を評価するものです。その詳細については、初回の授業で説明します。

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

法律の用語や概念は、受講生にとって馴染みのないものが少なくないため、分かりやすさを重視して、授業を進めたいと思っています。また、その時々々の時事問題を憲法の視点から解説して、できるだけ具体的なイメージを持てるように工夫したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しません。

【その他の重要事項】

授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

Course outline

This lecture will focus on Constitution of Japan, and will study the six basic laws in Japan(Constitution, Civil Law, Commercial Law, Criminal Law, Civil Procedure Law and Criminal Procedure Act).

Learning Objectives

With regard to the Constitution, based on the historical process of enactment, we will deepen our understanding of the outline of the basic human rights and governance mechanisms established by the Constitution of Japan through examples.

In addition, with regard to the six laws other than the Constitution, students acquire basic and important legal knowledge

and ideas that are useful for living a real life.

Learning activities outside of classroom

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 80%, in class contribution: 20%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と諸問題②	多様化するまちづくりの課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
- ・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化するようになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎					

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会の中における都市デザインのあり方を考える。
13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらいたい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市デザイン

上山 肇

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。また、都心居住への回帰や中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割が多様化することになった。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。本授業では、都市デザインを「都市や地域といった空間を対象に、人間の行動・活動や社会、環境、景観といったことを総合的に調整しながら、より良い都市環境・都市空間を創造・形成していく学際的かつ実践的な過程（プロセス）」と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解するとともに、都市デザインとまちづくりの関連性について知る。また、テーマに応じた都市デザインの視点から整理し、形として表現する能力を養う。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、都市デザインと都市デザインを取り巻く状況や考え方を講義し、途中行うミニテストにより理解度を確認する。授業期間中に1回程度の現地見学を折り込むことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/社会における都市デザインを取り巻く状況と課題①	まちづくりの課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	社会における都市デザインを取り巻く状況と課題②	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での現状と諸問題について考える。
3	まちづくりとは（まちづくりの定義）	都市デザインの背景にある「まちづくり」について考える。
4	都市の構成要素とデザインの概念	都市を構成する要素について整理しながら、「デザインすること」の意味について理解する。
5	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿①	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
6	デザイン手法（事業・制度）を活用したまちの姿②	都市をデザインするために押さえておきたい手法（計画、ルール・規制、プロセス、事業・制度）と仕組みについて理解する。
7	身近に存在する様々な都市デザイン①	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
8	身近に存在する様々な都市デザイン②	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
9	身近に存在する様々な都市デザイン③	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
10	身近に存在する様々な都市デザイン④	身近に存在する様々な都市デザインについて紹介する。
11	都市デザインと地域社会①	地域社会における都市デザインのあり方を考える。
12	都市デザインと地域社会②	地域社会における都市デザインのあり方を考える。

13	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティ	都市デザインの背景に存在するリージョンとコミュニティの概念について学ぶ。
14	都市デザインとコミュニティデザイン	都市を取り巻くデザインの姿（都市と人との関係性）について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ④ まちづくり研究の基礎－政策デザインのすすめ－」

【参考書】

公人の友社「自治体まちづくり学シリーズ①②③⑤⑥」、特に③の「東京の自治体まちづくりⅡ－まちづくり計画（都市マスタープラン）の策定 他－」を参考にしてもらい。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行うミニテスト(50%)並びに最終課題提出(50%)。欠席2日(4回)以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・学生からの質問等については授業前後教室で受ける。
- ・担当講師は長年、行政（自治体）に勤務した経験があり、そうした経験を活かして自治体まちづくり全般を踏まえながら様々な角度から講義する。

【Outline (in English)】

In this class, we will comprehensively learn the basic concepts of urban design, which is understood as "an interdisciplinary and practical process of creating and shaping better urban environments and spaces by comprehensively adjusting human behavior and activities, society, the environment, and landscape, focusing on spaces such as cities and regions."

[learning goal]

This course will help students understand what urban design is, its subject matter and how to make decisions, as well as the relationship between urban design and town development. Students will also develop the ability to independently organize their own perspectives on urban design according to a theme and express them in a tangible form. [Learning activities outside the classroom]

The standard time for preparation and review for this class is one hour each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Each class will cover urban design and the circumstances and ideas surrounding it, with a mini-test conducted midway through to assess understanding. Mini-tests will be given during class (approximately 2 times). Absences of 2 days (4 times) or more will result in the student not receiving credit (grading D).

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、ミニレポート30%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、ミニレポート30%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70 %, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

GEO200NA（地理学 / Geography 200）

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、ミニレポート30%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination: 70%, Short reports: 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

To understand the methods and basic techniques of communication through visual representation of spatial information.

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク・ボストン）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
- ④授業内演習 10%

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
- report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
- report03 ; Policy proposal for model area. 40%

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：30%
- ④授業内演習 10%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing. 30%

report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%

report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA（土木工学 / Civil engineering 200）

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組む中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかわる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表

13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説Q&A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：	30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：	30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：	30%
④授業内演習	10%
- 欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

report01 ; Setting model area and analyzing.	30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area.	30%
report03 ; Policy proposal for model area.	40%

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 学科共通の学部科目であり、3 学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。

課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。

提案内容の素案（エスキス）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

日本建築学会，コンパクト建築設計資料集成 [都市再生]，丸善出版，2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape-tk_000022.html

土木学会デザイン賞ウェブサイト

<https://design-prize.sakura.ne.jp>

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 学科共通の学部科目であり、3 学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。

課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。

提案内容の素案（エスキス）を作成する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

日本建築学会，コンパクト建築設計資料集 [都市再生]，丸善出版，2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape-tk_000022.html

土木学会デザイン賞ウェブサイト

<https://design-prize.sakura.ne.jp>

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

公共空間デザイン及演習

下吹越 武人、大西 景太、福井 恒明、山田 裕貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 学科共通の学部科目であり、3 学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性や機能を分析し、社会的背景と合理的判断に基づき街づくりの方向性提案ができるようになる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大きな小まをを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題対象地を訪問し、対象となる公共空間やその場での利用者のふるまいを観察する。
課題対象地の歴史的背景や都市計画等の行政計画について調査する。
提案内容の素案（エスキス）を作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

日本建築学会、コンパクト建築設計資料集「都市再生」、丸善出版、2014
都市景観対象ウェブサイト（国土交通省「景観まちづくり」ウェブ）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
土木学会デザイン賞ウェブサイト
<https://design-prize.sakura.ne.jp>

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員や、建築・ランドスケープ等のデザイン実務経験のある教員が指導を行う。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

図形の技術Z

安藤 直見

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを使いながら、図形や画像を用いて建築を構想し表現する方法を学びます。この授業は「対面とオンデマンドの併用型」です。学習内容の説明と課題の提示をオンデマンドで、課題の講評と補足説明を対面授業で行います。

【到達目標】

【目的】私たちは3次元の形態（建築）を2次元の図形（図面）として見えています。この授業では、コンピュータを用いて3次元の形態を構成し、2次元の図形として表現します。コンピュータ上に3次元形態を構成し、それを画像・アニメーション・図面などとして表現する図形処理と画像処理の技術の習得が目標です。

授業では、CG (Computer Graphics), BIM (Building Information Modeling), CAD (Computer Aided Design)などを学びます。近年では、手描きによる製図に代わってコンピュータを用いた図の製作が一般的になっています。しかし、手描きであるかCG/BIM/CADであるかは手法の違いに過ぎません。自分のスタイルに合った手法を見つけられればいいのですが、学習としては両者を習得する必要があります。そのため、この授業は「デザインスタジオ1（建築）」と連動しています。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で演習に取り組んでもらうことが基本です。オンデマンドで解説を行い、その後に演習に取り組んでもらいます。教員の他に、TA（Teaching Assistant＝教育補助員）も指導を担当します。TAはみなさんの先輩にあたる大学院生です。TAにも積極的に指導を受けてください。

解説をよく理解するように努め、疑問点があれば hoppii（学習支援システム）で質問してください。質問への回答は、教員の他、TAも対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになります。

毎回の演習の評価は学習支援システムに記録します。随時、学習支援システムを参照し、学習の進捗状況を確認してください。

授業では、SketchUp、Gimp、Revitなどのソフトウェアを使用します。SketchUp（Trimble社）は手軽に立体を操作できるCGアプリケーションです。Gimpは高度な画像処理ができるオープンソフト（フリーウェア）です。Revit（Autodesk社）は実務でもよく使われているBIMアプリケーションです。その他のCAD、画像処理、動画編集などのソフトウェアについても解説します。

授業においては、コンピュータによる立体表現の概念と基本的な操作を学びますが、コンピュータの操作を修得するためには自分で工夫をしながら使っていくことが必須です。しかし、コンピュータの修得を学習の目標としてはいけません。CG、BIM、CADは手段（方法）であって目的ではありませんからです。「コンピュータに使われる」のではなく、「コンピュータを使う」ことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	●課題1（スケッチアップ／建築のカタチ）	【オンデマンド教材(1)】、教科書 [1～4章]
2	●課題2（住空間のモデリング）、課題1の講評	【オンデマンド教材(2)】、教科書 [5～6章]
3	[オンデマンド] 課題2への取り組み	同上
4	●課題3（BIMでつくる箱形建築）、課題2の講評	【オンデマンド教材(3)】、教科書 [8章前半]
5	[オンデマンド] 課題3への取り組み	同上
6	●課題4（BIMとCADによる図面の作成）、課題3の講評	【オンデマンド教材(4)】、教科書 [8章後半]
7	[オンデマンド] 課題4への取り組み	同上
8	●課題5（画像処理による透視図と図面の表現）、課題4の講評	【オンデマンド教材(5)】、教科書 [6章8節～13節]
9	●中間課題、課題5の講評	同上
10	[オンデマンド] 中間課題への取り組み	同上
11	●課題6（動画によるプレゼンテーション）、期末課題の提示	【オンデマンド教材(6)】
12	[オンデマンド] 中間課題の講評と解説／期末課題の補足説明	同上
13	●期末課題講評会(1)	クラス内講評会
14	●期末課題講評会(2)	総合講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題への取り組み、指定教材の予習と復習。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現」（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著、丸善、2024年）

【参考書】

- (1) 法政大学オンデマンドシステム：<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>
- (2) スケッチアップ（Trimble社）オフィシャルサイト：<http://sketchup.com/ja/>
- (3) Autodesk社オフィシャルサイト：<http://www.autodesk.co.jp/>
- (4) GIMP / GNU Image Manipulation Program：<https://www.gimp.org/>
- (5) DaVinci Resolve：<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

【成績評価の方法と基準】

課題1～5（50%）、中間課題（20%）、期末課題（30%）
総合点60点以上を合格とします

【学生の意見等からの気づき】

積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

●大学が提供する貸与ノートパソコンまたは同等のスペックのパソコンが必要です。

・特に高性能のパソコンである必要はありませんが、「CPU：Core i3 または Ryzen 3 以上、メモリ：8GB 以上」のスペックを推奨します。

・iPadでの受講は不可です。

●受講には以下のソフトウェアが必要です。

・【3Dモデリング】SketchUp Free※1（Trimble社）

・【BIMー建築設計】Revit※2（Autodesk社）

・【画像処理】GIMP※3（オープンソース）

・【動画編集】DaVinci Resolve※3（BlackmagicDesign社）

※1：WEBで使用できるフリーウェア

※2：AutoDesk社の学生ライセンス（無料）の取得が必要

※3：フリーウェア

●教科書が必要です。

【その他の重要事項】

3年次以降開講科目である「デジタルスタジオ」（秋学期、選択授業）を履修するためには、この授業の十分な履修が必要です。

「デジタルスタジオ」の受講はこの「図形の技術」の履修を前提としています。「図形の技術」を履修しないで「デジタルスタジオ」を履修する場合、補習を課することがあります。

学習支援システムおよび授業終了後に質問を受け付けます。

【演習の評価基準】

10点：特に優れた表現を伴う作品

9点：優れた表現を伴う作品

8点：学習水準を十分に満足するもの

7点：軽微な間違いや修正するべき点を含むもの

6点：重大な間違いや修正するべき点を含むもの

5点以下：未完成など

0点：未提出（遅刻提出は認めないので未提出として扱います）

8点が学習目標の達成の基準であり、9～10点は特別な創意工夫に対する評価です。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

While using a personal computer, In this course, we will learn how to conceptualize and express architecture using graphics and images. This is an "combination on-demand class". On-demand explanations and assignments will be presented, and critiques and supplementary explanations will be given in-person classes.

[Learning objectives]

We observe three-dimensional forms (architecture) as two-dimensional figures (drawings). In this class, we will construct three-dimensional forms on the computer and represent them as two-dimensional figures. This course aims to master graphic processing and image processing techniques for creating three-dimensional forms on the computer and expressing them as images, animations, and drawings.

In the course, students learn computer graphics (CG), building information modeling (BIM), computer-aided design (CAD), and other technologies. Computer-aided drawing has recently become a popular alternative to hand-drawn figures. However, hand-drawing or CG/BIM/CAD is only a difference in technique. You may find the method that suits your style, but it is necessary to learn both. Therefore, this course links to "Design Studio 1."

[Learning activities outside of classroom]

Review of On-Demand explanation and Handout Materials

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

1. Mid-Term Assignment: 20%

2. Final Assignment: 30 %

3. Exercise 1-5: 50 %

図形の技術X

浅古 陽介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを使いながら、図形や画像を用いて建築を構想し表現する方法を学びます。この授業は「対面とオンデマンドの併用型」です。学習内容の説明と課題の提示をオンデマンドで、課題の講評と補足説明を対面授業で行います。

【到達目標】

【目的】私たちは3次元の形態（建築）を2次元の図形（図面）として見えています。この授業では、コンピュータを用いて3次元の形態を構成し、2次元の図形として表現します。コンピュータ上に3次元形態を構成し、それを画像・アニメーション・図面などとして表現する図形処理と画像処理の技術の習得が目標です。

授業では、CG (Computer Graphics), BIM (Building Information Modeling), CAD (Computer Aided Design)などを学びます。近年では、手描きによる製図に代わってコンピュータを用いた図の製作が一般的になっています。しかし、手描きであるかCG/BIM/CADであるかは手法の違いに過ぎません。自分のスタイルに合った手法を見つけなければならないのですが、学習としては両者を習得する必要があります。そのため、この授業は「デザインスタジオ1（建築）」と連動しています。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で演習に取り組んでもらうことが基本です。オンデマンドで解説を行い、その後に演習に取り組んでもらいます。教員の他に、TA（Teaching Assistant＝教育補助員）も指導を担当します。TAはみなさんの先輩にあたる大学院生です。TAにも積極的に指導を受けてください。

解説をよく理解するように努め、疑問点があれば hoppii（学習支援システム）で質問してください。質問への回答は、教員の他、TAも対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになります。

毎回の演習の評価は学習支援システムに記録します。随時、学習支援システムを参照し、学習の進捗状況を確認してください。

授業では、SketchUp、Gimp、Revitなどのソフトウェアを使用します。SketchUp（Trimble社）は手軽に立体を操作できるCGアプリケーションです。Gimpは高度な画像処理ができるオープンソフト（フリーウェア）です。Revit（AutoDesk社）は実務でもよく使われているBIMアプリケーションです。その他のCAD、画像処理、動画編集などのソフトウェアについても解説します。

授業においては、コンピュータによる立体表現の概念と基本的な操作を学びますが、コンピュータの操作を修得するためには自分で工夫をしながら使っていくことが必須です。しかし、コンピュータの修得を学習の目標としてはいけません。CG、BIM、CADは手段（方法）であって目的ではありませんからです。「コンピュータに使われる」のではなく、「コンピュータを使う」ことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	●課題1（スケッチアップ／建築のカタチ）	【オンデマンド教材(1)】、教科書 [1～4章]
2	●課題2（住空間のモデリング）、課題1の講評	【オンデマンド教材(2)】、教科書 [5～6章]
3	[オンデマンド] 課題2への取り組み	同上
4	●課題3（BIMでつくる箱形建築）、課題2の講評	【オンデマンド教材(3)】、教科書 [8章前半]
5	[オンデマンド] 課題3への取り組み	同上
6	●課題4（BIMとCADによる図面の作成）、課題3の講評	【オンデマンド教材(4)】、教科書 [8章後半]
7	[オンデマンド] 課題4への取り組み	同上
8	●課題5（画像処理による透視図と図面の表現）、課題4の講評	【オンデマンド教材(5)】、教科書 [6章8節～13節]
9	●中間課題、課題5の講評	同上
10	[オンデマンド] 中間課題への取り組み	同上
11	●課題6（動画によるプレゼンテーション）、期末課題の提示	【オンデマンド教材(6)】
12	[オンデマンド] 中間課題の講評と解説／期末課題の補足説明	同上
13	●期末課題講評会(1)	クラス内講評会
14	●期末課題講評会(2)	総合講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題への取り組み、指定教材の予習と復習。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現」（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著、丸善、2024年）

【参考書】

- (1) 法政大学オンデマンドシステム：<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>
- (2) スケッチアップ（Trimble社）オフィシャルサイト：<http://sketchup.com/ja/>
- (3) Autodesk社 オフィシャルサイト：<http://www.autodesk.co.jp/>
- (4) GIMP / GNU Image Manipulation Program：<https://www.gimp.org/>
- (5) DaVinci Resolve：<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

【成績評価の方法と基準】

課題1～5（50%）、中間課題（20%）、期末課題（30%）
総合点60点以上を合格とします

【学生の意見等からの気づき】

積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

●大学が提供する貸与ノートパソコンまたは同等のスペックのパソコンが必要です。

・特に高性能のパソコンである必要はありませんが、「CPU：Core i3 または Ryzen 3 以上、メモリ：8GB 以上」のスペックを推奨します。

・iPadでの受講は不可です。

●受講には以下のソフトウェアが必要です。

・【3Dモデリング】SketchUp Free※1（Trimble社）

・【BIMー建築設計】Revit※2（Autodesk社）

・【画像処理】GIMP※3（オープンソース）

・【動画編集】DaVinci Resolve※3（BlackmagicDesign社）

※1：WEBで使用できるフリーウェア

※2：AutoDesk社の学生ライセンス（無料）の取得が必要

※3：フリーウェア

●教科書が必要です。

【その他の重要事項】

3年次以降開講科目である「デジタルスタジオ」（秋学期、選択授業）を履修するためには、この授業の十分な履修が必要です。

「デジタルスタジオ」の受講はこの「図形の技術」の履修を前提としています。「図形の技術」を履修しないで「デジタルスタジオ」を履修する場合、補習を課することがあります。

学習支援システムおよび授業終了後に質問を受け付けます。

【演習の評価基準】

10点：特に優れた表現を伴う作品

9点：優れた表現を伴う作品

8点：学習水準を十分に満足するもの

7点：軽微な間違いや修正すべき点を含むもの

6点：重大な間違いや修正すべき点を含むもの

5点以下：未完成など

0点：未提出（遅刻提出は認めないので未提出として扱います）

8点が学習目標の達成の基準であり、9～10点は特別な創意工夫に対する評価です。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

While using a personal computer, In this course, we will learn how to conceptualize and express architecture using graphics and images. This is an "combination on-demand class". On-demand explanations and assignments will be presented, and critiques and supplementary explanations will be given in-person classes.

[Learning objectives]

We observe three-dimensional forms (architecture) as two-dimensional figures (drawings). In this class, we will construct three-dimensional forms on the computer and represent them as two-dimensional figures. This course aims to master graphic processing and image processing techniques for creating three-dimensional forms on the computer and expressing them as images, animations, and drawings.

In the course, students learn computer graphics (CG), building information modeling (BIM), computer-aided design (CAD), and other technologies. Computer-aided drawing has recently become a popular alternative to hand-drawn figures. However, hand-drawing or CG/BIM/CAD is only a difference in technique. You may find the method that suits your style, but it is necessary to learn both. Therefore, this course links to "Design Studio 1."

[Learning activities outside of classroom]

Review of On-Demand explanation and Handout Materials

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

1. Mid-Term Assignment: 20%

2. Final Assignment: 30 %

3. Exercise 1-5: 50 %

図形の技術Y

富田 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを使いながら、図形や画像を用いて建築を構想し表現する方法を学びます。この授業は「対面とオンデマンドの併用型」です。学習内容の説明と課題の提示をオンデマンドで、課題の講評と補足説明を対面授業で行います。

【到達目標】

【目的】私たちは3次元の形態（建築）を2次元の図形（図面）として見えています。この授業では、コンピュータを用いて3次元の形態を構成し、2次元の図形として表現します。コンピュータ上に3次元形態を構成し、それを画像・アニメーション・図面などとして表現する図形処理と画像処理の技術の習得が目標です。

授業では、CG (Computer Graphics), BIM (Building Information Modeling), CAD (Computer Aided Design)などを学びます。近年では、手描きによる製図に代わってコンピュータを用いた図の製作が一般的になっています。しかし、手描きであるかCG/BIM/CADであるかは手法の違いに過ぎません。自分のスタイルに合った手法を見つけなければならないのですが、学習としては両者を習得する必要があります。そのため、この授業は「デザインスタジオ1（建築）」と連動しています。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で演習に取り組んでもらうことが基本です。オンデマンドで解説を行い、その後に演習に取り組んでもらいます。教員の他に、TA（Teaching Assistant＝教育補助員）も指導を担当します。TAはみなさんの先輩にあたる大学院生です。TAにも積極的に指導を受けてください。

解説をよく理解するように努め、疑問点があれば hoppii（学習支援システム）で質問してください。質問への回答は、教員の他、TAも対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになります。

毎回の演習の評価は学習支援システムに記録します。随時、学習支援システムを参照し、学習の進捗状況を確認してください。

授業では、SketchUp、Gimp、Revitなどのソフトウェアを使用します。SketchUp（Trimble社）は手軽に立体を操作できるCGアプリケーションです。Gimpは高度な画像処理ができるオープンソフト（フリーウェア）です。Revit（Autodesk社）は実務でもよく使われているBIMアプリケーションです。その他のCAD、画像処理、動画編集などのソフトウェアについても解説します。

授業においては、コンピュータによる立体表現の概念と基本的な操作を学びますが、コンピュータの操作を修得するためには自分で工夫をしながら使っていくことが必須です。しかし、コンピュータの修得を学習の目標としてはいけません。CG、BIM、CADは手段（方法）であって目的ではありませんからです。「コンピュータに使われる」のではなく、「コンピュータを使う」ことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	●課題1（スケッチアップ／建築のカタチ）	【オンデマンド教材(1)】、教科書 [1～4章]
2	●課題2（住空間のモデリング）、課題1の講評	【オンデマンド教材(2)】、教科書 [5～6章]
3	[オンデマンド] 課題2への取り組み	同上
4	●課題3（BIMでつくる箱形建築）、課題2の講評	【オンデマンド教材(3)】、教科書 [8章前半]
5	[オンデマンド] 課題3への取り組み	同上
6	●課題4（BIMとCADによる図面の作成）、課題3の講評	【オンデマンド教材(4)】、教科書 [8章後半]
7	[オンデマンド] 課題4への取り組み	同上
8	●課題5（画像処理による透視図と図面の表現）、課題4の講評	【オンデマンド教材(5)】、教科書 [6章8節～13節]
9	●中間課題、課題5の講評	同上
10	[オンデマンド] 中間課題への取り組み	同上
11	●課題6（動画によるプレゼンテーション）、期末課題の提示	【オンデマンド教材(6)】
12	[オンデマンド] 中間課題の講評と解説／期末課題の補足説明	同上
13	●期末課題講評会(1)	クラス内講評会
14	●期末課題講評会(2)	総合講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題への取り組み、指定教材の予習と復習。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現」（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著、丸善、2024年）

【参考書】

- (1) 法政大学オンデマンドシステム：<https://hosei-kyoiku.jp/ondemand/>
- (2) スケッチアップ（Trimble社）オフィシャルサイト：<http://sketchup.com/ja/>
- (3) Autodesk社オフィシャルサイト：<http://www.autodesk.co.jp/>
- (4) GIMP / GNU Image Manipulation Program：<https://www.gimp.org/>
- (5) DaVinci Resolve：<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

【成績評価の方法と基準】

課題1～5（50%）、中間課題（20%）、期末課題（30%）
総合点60点以上を合格とします

【学生の意見等からの気づき】

積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

●大学が提供する貸与ノートパソコンまたは同等のスペックのパソコンが必要です。

・特に高性能のパソコンである必要はありませんが、「CPU：Core i3 または Ryzen 3 以上、メモリ：8GB 以上」のスペックを推奨します。

・iPadでの受講は不可です。

●受講には以下のソフトウェアが必要です。

・【3Dモデリング】SketchUp Free※1（Trimble社）

・【BIMー建築設計】Revit※2（Autodesk社）

・【画像処理】GIMP※3（オープンソース）

・【動画編集】DaVinci Resolve※3（BlackmagicDesign社）

※1：WEBで使用できるフリーウェア

※2：AutoDesk社の学生ライセンス（無料）の取得が必要

※3：フリーウェア

●教科書が必要です。

【その他の重要事項】

3年次以降開講科目である「デジタルスタジオ」（秋学期、選択授業）を履修するためには、この授業の十分な履修が必要です。

「デジタルスタジオ」の受講はこの「図形の技術」の履修を前提としています。「図形の技術」を履修しないで「デジタルスタジオ」を履修する場合、補習を課することがあります。

学習支援システムおよび授業終了後に質問を受け付けます。

【演習の評価基準】

10点：特に優れた表現を伴う作品

9点：優れた表現を伴う作品

8点：学習水準を十分に満足するもの

7点：軽微な間違いや修正すべき点を含むもの

6点：重大な間違いや修正すべき点を含むもの

5点以下：未完成など

0点：未提出（遅刻提出は認めないので未提出として扱います）

8点が学習目標の達成の基準であり、9～10点は特別な創意工夫に対する評価です。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

While using a personal computer, In this course, we will learn how to conceptualize and express architecture using graphics and images. This is an "combination on-demand class". On-demand explanations and assignments will be presented, and critiques and supplementary explanations will be given in-person classes.

[Learning objectives]

We observe three-dimensional forms (architecture) as two-dimensional figures (drawings). In this class, we will construct three-dimensional forms on the computer and represent them as two-dimensional figures. This course aims to master graphic processing and image processing techniques for creating three-dimensional forms on the computer and expressing them as images, animations, and drawings.

In the course, students learn computer graphics (CG), building information modeling (BIM), computer-aided design (CAD), and other technologies. Computer-aided drawing has recently become a popular alternative to hand-drawn figures. However, hand-drawing or CG/BIM/CAD is only a difference in technique. You may find the method that suits your style, but it is necessary to learn both. Therefore, this course links to "Design Studio 1."

[Learning activities outside of classroom]

Review of On-Demand explanation and Handout Materials

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

1. Mid-Term Assignment: 20%

2. Final Assignment: 30 %

3. Exercise 1-5: 50 %

デザインスタジオ1（建築）W

安藤 直見

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築はデザイン（設計）して建設されるものです。建築のデザインを学ぶことの最終的な目的は、建築を実現させるための技術の習得だけではなく、建築のあり方、建築と社会・環境・歴史との関わりなどを思考し、建築に関わる総合的な判断力・思考力を養うことにあります。この授業では、そのための第一歩として、建築の構成の基礎、および、図面と模型による建築の表現について学びます。

【到達目標】

本授業では、以下の4点を到達目標とします。

1. 建築の基本的な構成を理解する
2. 身体の寸法に係る空間のスケールを理解する
3. 立体と図面との関係を理解し、建築を表現するための図面と模型の基本を習得する
4. 設計に必要な道具の使い方を習得する

（以下、教科書『建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家』の「はじめに」より）

建築は、物理的に3次元の〈形態〉をもつと同時に、その内部あるいは外部に何らかの〈空間〉を現象させる。空間という言葉は多様な意味をもつが、建築の空間は、建築形態が生み出す場所の総称だと考えることができる。たとえば、建築形態で囲まれた建築の内部には、生活・仕事などを行うための部屋や、設備の設置、物品の収納などのための空間が配置される。建築形態の外部には、入口へのアプローチや庭などの空間が配置される。その他、場所や部屋を「開放的な空間、美しい空間、詩的な空間」などという場合のように、空間は、心理的な事象であることもある。形態と空間は一体となって建築の特質を規定する概念に他ならない。

したがって、建築は必ず何らかの空間・形態をもつ。建築デザインの最終的な目的は、美しく調和した建築の空間・形態を実現することだといえるだろう。もちろん、過去の建築の歴史を眺めればわかるように、一見、美しくないと思えたものが認識の変化により美しいものにも変わることもあるし、調和していなかったことが次の時代の調和であったりするから、美しさを固定的なものととらえることはできない。概念的に過ぎる美しさという言葉を使ひやすさ・住みやすさというやや身近な言葉に置き換えたとしても、やはり、建築の使いやすさ・住みやすさを固定的に考えることは困難である。建築のデザインは、このように一意には捉えられない問題に立ち向かわなければならない難しさをもっている。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業では建築設計製図の基本を学びます。

授業は10の課題より成ります。

【課題1：自室の実測】では、自室の実測から始まり、建築の部位や家具のスケールを知り、その図面化を行うことによって、空間を表現方法を学びます。

【課題2：線の練習】は、図面表現の基本である線の表現について学ぶとともに、美しい図面を仕上げるための、図面構成（レイアウト）について学びます。また、製図に必要な道具の使い方も学びます。

【課題3～6：箱形建築の模型／平面図／立面図／断面図／立体図】では、建築の単純モデルを題材として、その空間を図面によって記述し表現することを学びます。最初に、壁、床、開口部からなる模型を製作し、その水平切断図としての平面図、垂直切断図としての断面図の表現の原理を学びます。同時に、課題1「自室の実測」に基づき、平面に階段、家具等を配置し、建築の平面構成、断面構成のあり方と表現について学びます。

【演習7～8：住吉の長屋の模型と図面】では、実在の鉄筋コンクリート構造の住宅を題材として、実際の建築の平面構成、断面構成、立面構成について学ぶとともに、その平面図、断面図による記述・表現の方法について学びます。ここでも、最初に模型を製作し、建築の立体構成を理解した後に、その図面表現について学んでいきます。【課題9～10：ギャラリーのある家】は、上記の学習の成果を踏まえて、建築を構想し、物理的に架構し、図面と模型写真により表現する演習に取り組みます。

毎回の課題は、正確であるだけではなく、美しい作品として製作されなければなりません。

冒頭の解説をよく理解するように努め、疑問点があれば質問してください。演習への回答時には、教員の他、TAも質問等に対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになるはずです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ●課題1：自室の実測	教科書・参考書、製図道具の説明。建築を測る
2	●課題2：線の練習	【要製図道具】点と線の表現。課題1の講評と次回課題3の説明【型紙の準備】
3	●課題3：箱形建築／模型	【要模型製作道具】模型の製作
4	●課題4：箱形建築／平面図と立面図	【要製図道具】立体の水平切断図としての平面図と投影図としての立面図。階段の配置。自室の実測に基づく家具の配置
5	●課題5：箱形建築／断面図	【要製図道具】立体の垂直切断図としての断面図。切断面の向こうに見える投影図としての姿図（階段、家具など）の表現
6	●課題6：箱形建築／立体図	【要製図道具】アイソメトリック、アクソノメトリック、透視図。次回課題7の説明【型紙の準備】
7	●課題7：住吉の長屋／模型	【要模型製作道具】実際の鉄筋コンクリート住宅の構成
8	●課題8：住吉の長屋／平面図・断面図	【要製図道具】鉄筋コンクリート住宅の平面図と断面図
9	●課題9：ギャラリーのある家(1)	【課題説明】これまでの課題の講評と期末課題の提示。住空間の設計に関する解説
10	課題9：ギャラリーのある家(2)	スケッチ（エスキス）とスタディ模型

- 11 課題9：ギャラリー スタディ模型，平面図，立面図のある家(3)
- 12 課題9：ギャラリー 断面図，立体図のある家(2)
- 13 【クラス内講評会】 図面と模型の提出，クラス内講評会
ギャラリーのある家
- 14 【合同講評会】●課題 総合講評会，課題10と夏休み課題10：模型写真，アフターレビュー
題（デザインスタジオ2）の提示，課題9のフォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で図面の理解に時間を要し，作業の時間がとれない傾向が見受けられます。前もっての図面の理解（予習）と，次の課題に向けてのこれまでに学んだことの自己チェック（復習）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『建築のしくみ／住吉の長屋，サヴォワ邸，ファンズワース邸，白の家』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）
- 『住まいの空間 独立住居』日本建築学会編（彰国社）
- 『建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現』（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著，丸善）

【参考書】

- 『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
- 『建築設計演習応用編』独立住居から集合住居の設計まで、武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
- （教科書「建築のしくみ〜」の中国語訳）建筑构造—从模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校），中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

課題の評価により成績評価をします（100％）。

総合点60点以上を合格とします。

以下が各課題の評価基準です。

- 課題1（自室の実測）：見落としなく実測図が作成できているか。実測をもとに正確な平面図，室内立面図，天井見上図，家具図等が描かれているか。家具の寸法が把握できているかどうか。
- 課題2（線の練習）：線が正確に描かれ，図面が美しく構成されているかどうか。
- 課題3と7（模型）：正確で美しい模型が完成しているかどうか。端部の処理などの細部に配慮されているかどうか。
- 課題4～6と8（図面）：建築の空間（立体構成）が正しく表現されているかどうか（切断面と切断面の向こうに見えるものが正しく表現されているかどうか）。図面が美しく仕上がっているかどうか。
- 課題9（設計課題）：総合的評価。
- 課題10（模型写真）：模型が正しく，美しく製作されているかどうか。建築が正しく表現されているかどうか。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの課題制作のスピードにかなりの個人差があります。解説は冒頭に集約し，その後に演習に取り組んでもらいます。遅刻をすると冒頭の解説の理解が遅れることになるので，遅刻をしないようにしてください。また，演習時間には積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

平行定規は各スタジオに用意されていますが，その他の製図道具は各自が用意する必要があります。また，模型材料も各自で用意してください。

製図および模型製作に必要な各種道具（各自が用意する）：

●製図道具

- 三角スケール（30cm，ポケット型） ※15cmのものもあるとよい。
 - 勾配三角定規（20cm）
 - 円定規
 - 字消板（メッシュステンレス）
 - 製図用ブラシ
 - ドラフティングテープ
 - 製図用シャープペン（0.3mm，0.7mm） ※0.5mmのものもあるといい
 - シャープペンの芯 ※HBの他，HまたはBを使用してもいい
 - アジャストケース（図面収納筒） ※図面の持ち運びに使用
 - プロジェクトペーパー（A3版，5mm方眼） ※課題1で使用
- その他，ロールトレペもあるとよい。

●模型製作道具

11. カッター
 12. カッター替刃（30°） ※替刃にはさまざまな種類がある
 13. ステンレス直定規（30cm） ※カッターと併用するための定規
 14. カッティングマット（620×450mm） ※カッターを使用する際の作業用マット
 15. スチのり
- その他，金尺，木工用ボンドもあるとよい。

●パソコン

情報教室のパソコン，大学が貸与するノートパソコンも使用するとよい。

●模型材料

スチレンボードなどの模型材料は各自で用意。

【その他の重要事項】

授業内容の解説にプレゼンテーション機器（液晶プロジェクターによる映像表現）を用います。授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn the basics of architectural design by working on assignments.

Architecture is constructed by design. The purpose of studying architectural design is not only to learn skills but also to consider the relationship between society/environment/history and architecture and to develop comprehensive judgment. In this course, as the first step, students will learn how to draw plans and express design through models while understanding the basic structure of architecture and learning how to conceive architecture.

[Learning objectives]

At the end of the course, students are expected to understand the followings:

1. The basic structure of architecture
2. The scale of space with the dimensions of the body
3. The relationship between three-dimensional structures and drawings by mastering the basics of drawings and models to express architectural design.
4. How to use the tools necessary for designing.

[Learning activities outside of classroom]

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of assignments (100%)

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザインスタジオ 2（建築）W

小堀 哲夫

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・空間に対する分析力・考察力を養う
- ・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・各種構造の特性を理解する
- ・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）

[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。 ○建築研究レポート発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	

4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。 ○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。 ○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。 ○敷地や家具類を含めた模型を製作する。 ○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。 ○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	
7	『5m立法の空間』	
8	『5m立法の空間』	
9	『5m立法の空間』	
10	『5m立法の空間』	
11	『5m立法の空間』	
12	『5m立法の空間』	
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田見宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。
(評価配分：建築研究15%、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】

[Outline]

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

[Learning Objectives]

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

[Learning activities outside of classroom]

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher> Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment. (Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)

(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

ADE100NB（建築学 / Architecture and building engineering 100）

建築のしくみ

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は建築を学び始める学生が建築のしくみ（物的構成）の基本を知ることとを目的としています。「巨匠たちの住宅」（国内および海外の著名な建築）を題材として、その形態構成・空間構成と架構法・ディテールとの関係を理解しながら、建築の主要な架構形式である鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、木造軸組構造、鉄骨構造の基本的なしくみについて学びます。

（以下、教科書の「はじめに」より）

本書の2章以降では、「住吉の長屋」、「サヴォワ邸」、「ファンズワース邸」、「白の家」といった20世紀を代表する住宅を実例として取り上げ、その形態・空間がどのような建築のしくみによって成立しているかを解説している。取り上げた住宅は、それぞれ、鉄筋コンクリート壁構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、鉄骨構造、木造軸組構造という異なった構造形式でつくられている。それらは現代においても（変更：現在の）建築の主要な構造形式であるから、これらの住宅を学ぶことで、建築の主要なしくみがどのように形態・空間を構成しえるかを理解することができると思う。

さて、しかし、取り上げた住宅が、主要な建築のしくみを学ぶために適した実例であるかどうかという点には疑問の余地があるかもしれない。これらの住宅が、後に続く建築に、決定的な影響を与えた建築であることに間違いはないのだが、これらの住宅は、研ぎ澄まされた形態と空間をもつがゆえに、建築の特殊解（変更：例）だといえなくもないからだ。街にあふれる多くの建築では、建築を物的に構成する柱や壁が見えない部分に隠されていることが多いのだが、これらの住宅は、そういった建築とはいささか異なっている。しかし、建築のしくみという視点（変更：観点）でいえば、4つの住宅が、街にあふれる多くの建築とまったく異なっているわけではない。現代の建築技術は、産業革命以降に発展した工業技術に根ざしているから、4つの住宅と街にあふれる多くの建築は同一の技術に基づいて成立している。両者が異なっているのは、4つの住宅では、建築のしくみが至高の形態と空間に昇華しているという点だけだ。本書で取り上げる4つの住宅は、建築を架構する壁や柱の構成が建築の形態・空間を決定づけているという意味において「裸の建築」と呼ぶこともできると思う。これらの住宅は、「裸」であるからこそ美しい。建築のしくみを形態・空間と関連づけ、すなわち、建築のしくみを建築の美しさと関連づけて学んで欲しいことも本書のねらいである。

【到達目標】

建築にしくみに関する以下の知識の習得が目標です。

1. 鉄筋とコンクリート
2. 壁構造とラーメン構造
3. 基礎・壁・床・屋根・開口部・その他の各部の構成
4. 鉄骨の形状と接合方法
5. ガラスの構成
6. 木造の基礎・床組・軸組・小屋組

（以下、教科書の「はじめに」より）

建築のしくみは建築の技術の一端である。一つの考え方として、建築のしくみは先行したデザインの後からついていくものであり、しくみの積み重ねによってデザインが生まれることはないという考え方があると思う。その考え方に従えば、しくみを表す図面・模型よりも、細部の構成にはこだわらない1枚のスケッチこそが建築デザインにとってもっとも重要だということになる。そのことに間違いはないと思うのだが、だからといって、建築のしくみを学ばなくてもいいということにはならない。この先に描かれるであろう1枚のスケッチがどのようなしくみによって成立するかは未知のことであっていいが、現在の建築が（現代に多大な影響を与えた建築が）どのようなしくみによって成立しているかを理解することは、建築を学び始める学生にとって重要であるはずだ。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎		○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、各回のテーマに関する解説に続いて、学習支援システムを利用して、授業内オンラインテストを実施します。解説は教科書に沿って進めるので、重要なポイントにマークをするなどして、教科書に書かれていることをよく理解してください。その上で、教科書を参照しながら、テストに解答し、重要なポイントを再確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築の主要な架構形式	ガイダンス
2	住吉の長屋(1)：鉄筋コンクリート壁構造による建築架構の概要	教科書2章1節～2節（住吉の長屋と壁構造の概要）
3	住吉の長屋(2)：コンクリート打放しと壁仕上げ、断熱材、建具の納まりなど	教科書2章3節（平面の構成）
4	住吉の長屋(3)：基礎、壁、床、天井、屋根の架構法など	教科書2章4節～5節（断面と立面の構成）
5	サヴォワ邸(1)：鉄筋コンクリートラーメン構造による建築架構の概要	教科書3章1節～3節（サヴォワ邸とラーメン構造の概要）
6	サヴォワ邸(2)：構造壁と間仕切り壁などについて学ぶ	教科書3章4節～6節（1階・2階・屋上の構成）
7	サヴォワ邸(3)：鉄筋コンクリートによる造作（開口部など）	教科書3章7節～9節（立面・断面・窓の構成）
8	これまでのまとめ：鉄筋コンクリート構造による建築の工事現場の事例	スライドレクチャー（予定）
9	ファンズワース邸(1)：鉄骨構造による建築架構の概要など	教科書4章1節～2節（ファンズワース邸と鉄骨構造の概要）
10	ファンズワース邸(2)：鉄骨フレームのしくみなどについて学ぶ	教科書4章3節～4節（鉄のフレームと床・屋根）

- 11 ファンズワース邸(3) 教科書4章5節～7節（ガラスの壁・階段・設備コア）
ガラスのディテール。
カーテンウォールのディテールなど
- 12 白の家(1)： 教科書5章1節～3節（白の家と木造軸組構造による建築架構の概要。ツーバイフォー構法、パネル構法などの概要）
- 13 白の家(2)： 教科書5章4節～5節（基礎と床軸組、床組、軸組部材の名称と役割）
- 14 白の家(3)： 教科書5章6節～8節（軸組・小小屋組、軸組構造の枠廻り、壁、床、天井の仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書該当部分の予習と復習が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家」（安藤直見・柴田晃宏・比護結子著、丸善、2008年）※
※この教科書は1年次配当科目（必修科目）である「デザインスタジオ1（建築）」でも使用します

【参考書】

- 安藤忠雄、安藤忠雄のディテール／原図集／六甲の集合住宅・住吉の長屋、彰国社、1984年
- GAディテール No.1／ミース・ファン・デル・ローエ／ファンズワース邸／1945－50, A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd., 1976年
- 篠原一男、白の家・上原通りの住宅、世界建築設計図集、同朋舎、1984年
- 篠原一男、住宅論、SD選書 No.49、鹿島出版会、1970年
- (5) エドワード・R・フォード、巨匠たちのディテール、八木幸二監訳、丸善、1999年
- 安藤直見・石井翔太・浅古陽介・種田元晴、建築のカタチ：3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現、丸善、2020年
- 内田祥哉他、建築構法（第五版）、市ヶ谷出版社、2007年
- 建築構造ポケットブック（第4版）、共立出版、2006年
- 加藤道夫、建築における三次元空間の二次元表現／ショワジー『建築史』における軸測図の使用について、図学研究、第32巻3号、日本図学会、1998年9月
- 佐々木睦朗、私のベストディテール／接合部の痕跡を消す、日経アーキテクチュア No.709（2002年1月7日号）
- サヴォワ邸／1931／フランス／ル・コルビュジエ、パナナブックス、2007年
- Jacques Sbriglio, Le Corbusier: La Villa Savoye, Foundation Le Corbusier, Birkhäuser, 1999
- Werner Blaser, Mies van der Rohe, Farnsworth House: weekend house, Birkhäuser, 1999

▼参考ホームページ

○ファンズワース・ハウス（アメリカ・イリノイ州）

： <http://www.farnsworthhouse.org/>

○フランス国立モニュメントセンター：

<http://www.monuments-nationaux.fr/>

○ル・コルビュジエ財団（パリ）：

<http://www.fondationlecorbusier.asso.fr/>

○ル・コルビュジエ アーカイブ（大成建設）：

<http://www.taisei.co.jp/galerie/archive.html>

▼教科書「建築のしくみ～」の中国語版

建筑构造-从图例模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校）、中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業にて実施する授業内テストにより評価します（100％）。
総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートに「眠くなる」という回答がありました。授業の前日には十分な睡眠をとってください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で、学習支援システム（hoppii）を用いた「テスト」（演習）を実施します。「テスト」を受けるには、ノートパソコンまたはスマートフォンが必要となります。

また、授業時に、学習支援システムを通して、3DモデルのCGデータ（スケッチアップのファイル）などの資料を配布します。CGデータを参照すると、建築の構成がよくわかります。ノートパソコン等を用意して、CGデータを参照してください。

【その他の重要事項】

この授業の題材とする4つの住宅のうちの「サヴォワ邸」（フランス・パリ近郊）と「ファンズワース邸」（アメリカ・シカゴ近郊）は文化財として一般に公開されているので、ぜひ実物を見に行ってください。教科書では、4つの住宅の図面・模型・CG（Computer Graphics）の製作方法について解説しています。ぜひ図面を描き、模型を作ってみてください。また、教室の中で建築の実物を工事することは不可能ですが、コンピュータ上でなら組み立てることができます。CGの制作にもチャレンジしてください。3年次以上秋学期配当科目（選択科目）である「デジタルスタジオ」は、実在の建築のCGを制作する演習を含んでいるので、ぜひ受講をしてください。
授業後および授業支援システムにて質問に対応します。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course aims to provide students, who have started architectural studies, with knowledge of fundamental building constructions.

[Learning objectives]

Through understanding the relationship between forms and spacial compositions as well as framework and details in construction, students will learn the basic structures, such as reinforced concrete wall structure, reinforced concrete frame structure, steel frame structure, and wooden frame structure.

[Learning activities outside of classroom]

Prepare and Review online tests

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of online tests (100%)

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

BSP100NC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する
2	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意、学習支援システム（当シラバス作成時は名称未定）の適正な使用方法
3	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
4	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
5	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	レポート作成、プレゼンテーションの基本
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論
8	各系の概説とグループ討議・発表	都市プランニング系概論を受けた討議と発表
9	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論
10	各系の概説とグループ討議・発表	環境システム系概論を受けた討議と発表
11	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論
12	各系の概説とグループ討議・発表	施設デザイン系概論を受けた討議と発表
13	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する
14	見学会（3～4時限連続）	都内で現在進められている都市基盤施設整備の現場を見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3時限と4時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノートPCを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員であることから、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

(Learning Objectives)

Objective of the class is to develop a course plan for students' studies and design their career path as an engineer. Additionally, students should aim to deepen their understanding of urban environmental design engineering by exchanging opinions with students and faculty using class content as material.

(Learning activities outside of classroom)

Students should check the syllabus in advance, prepare for study, and read and understand the distributed teaching materials. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on reports (100%).

CST100NC（土木工学 / Civil engineering 100）

国土・地域概論

福井 恒明、堀川 洋子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学科の学生が学ぶべき国土・地域・都市に係わる事項は多い。当科目は1年生の必修科目として、国土から都市に係わる基本的な事柄、技術の入口を学ぶ。

【到達目標】

わが国の国土が形成されてきた経緯とその概要を理解する。
国土・地域・都市に係わる常識、並びに関連する基礎知識を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力 20%
(D) 専門基礎学力 50%
(E) 専門知識の活用・応用能力 30%
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国土・地域・都市に係わる基礎を学ぶ前半部（1～7回）と、国土形成の歴史を学ぶ後半部（8～14回）から構成される。
前半部は講義とグループディスカッション、後半部は講義を中心に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、国土と都市・地域の概々論	国土・地域・都市にまつわる多様な視点と話題の提示。ディスカッション。
2	国土計画・地域計画総論	わが国の現行の国土計画から都市計画、身近な環境づくりに関わる諸制度のアウトライン。
3	計画立案のための統計情報と演習	様々な計画作業の基本となる指定統計を中心とした統計データの所在、背景と、代表的指標を使った演習。
4	現下の課題	震災復興など現在問題となっている国土形成、都市整備に関わる諸課題整理とこれに対する所見。
5	道路構造基準と演習	市街地の根幹をなす都市施設である道路の構造基準解説と構造基準に準拠した道路の設計演習。
6	地域計画の視点、地域資源	国土から地域レベルの計画を行う上で知っておくべき関連する基礎知識の学習。
7	国土・地域概論の確認	前半に学んだことの確認。
8	ガイダンス	社会的共有財（公共性）としての社会基盤工学と開発・整備の意義。国土整備・都市建設の特徴。国土・地域・都市の地理・気候・風土的特性に対する理解。
9	古代～中世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて古代～中世～戦国時代までの国土整備の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
10	近世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて近世の国土、藩領と城下町の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
11	近代西欧の社会基盤	明治期の社会基盤工学
12	大正・昭和期～第二次世界大戦後の社会基盤形成と国土形成	日本の近代化の中で自立する社会基盤の構築技術と国土整備事業を学ぶ。戦後復興期の国土整備事業、エネルギーと水資源の確保。

13 高度経済成長期の国土開発から持続可能な発展／開発と保全の並立

高度経済成長期以降の全国総合開発計画と交通網・都市基盤の整備を学ぶ。リオの環境宣言（1992）～京都議定書（1997）～IPCC（2021）気候変動に関する政府間パネル）に至る経緯と持続的な発展。リポートの提出、発表と質疑応答

14 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認
配布資料の復習
レポートの作成
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

斎田登編著、「都市および地方計画」、山海堂
高橋裕、「現代日本土木史」、彰国社
松浦茂樹、明治の国土開発史、鹿島出版会

【成績評価の方法と基準】

1～7回は毎回の演習課題（36%）、期末レポート（14%）で評価。
8～14回は各回のレポート課題で評価（50%）。
また4回以上の欠席、演習課題の未提出者はD判定とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

統計の演習時にはノートパソコンが必須となる。道路構造令の演習では製図器具が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、国土・地域に関する実務の現場状況を含めて講義し、指導を行う。学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

This course consists of three sections. The first includes lectures about engineering practices in Japan's modern history. The second is an introduction of land planning policy. The last includes lectures about fundamental issues which are essential for students of the Department of Civil and Environmental Engineering.

Term end examination: 50 %, Short reports: 50%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量学

今井 龍一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市とその要素を空間的に記述する（位置およびその属性を明らかにする）基盤技術は地図である。地図・測量分野は、近年の急速な技術革新にともない空間情報工学として、空間情報の取得からその利用までを一貫した流れの中で扱う分野へと発展している。本講義では、地図作成と測量の基本原理、およびハイテク化した空間情報の計測・表現技術の可能性について学ぶ。

【到達目標】

測量分野の広がりおよび測量の基本原則を理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地図・測量に関する基本的枠組みを概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	測量の基本事項	歴史、法規、測量器械、地図・図面の基礎
2	地球の形の表現方法	座標系、衛星測位（GNSS）
3	角測量	定義、器械、方法（単測、倍角、方位角）
4	トラバース測量（1）	定義・種類、器械、方法（外業・内業）
5	トラバース測量（2）	内業の詳細
6	平板測量	定義、器械、方法（放射、道線、交会）
7	水準測量	定義、器械、方法（昇降、器高）
8	写真・レーザ測量	定義、器械、方法（地上、航空）
9	応用測量（1）	河川・道路、自動運転
10	応用測量（2）	i-Construction、ICT施工、レポート出題
11	移動体計測車両（MMS）	定義、器械、測量・データ処理・図化方法
12	無人航空機（UAV）	定義、器械、測量・データ処理・図化方法
13	測量成果の総合利用	地理情報システム、社会資本管理
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】

大杉・福島ら「First Stage シリーズ 測量入門」実教出版

【成績評価の方法と基準】

試験60%、レポート40%、欠席4回以上はD評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎的な統計解析は習得しておくこと。
- ・Microsoft Excelの基礎は学んでおくこと。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：水曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

Surveying is a technology for creating various kinds of maps and drawings by obtaining location, height etc. of particular points on the surface of the earth. This course allows students to learn the fundamental principles of surveying, creation of maps, measurement of spatial data, and representation techniques.

The goal is to understand the basic principles of surveying.

Assessments will be based on each report and the final report.

Students who are absent four or more times will not be allowed to receive credit (grade D).

Term end examination :60%, Short reports : 40%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

都市計画法と政策

福井 恒明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市のありようや都市計画・設計の系譜を踏まえ、現代都市の諸課題とその要因を理解し、対処の考え方や手段としての都市計画政策について学習する。

【到達目標】

都市計画における主要課題とその構造について理解する。都市計画制度の系譜や考え方、具体的な手法について理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	60%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アクティブラーニング手法により授業を進める。授業時間（100 分）ごとにテーマを定め、内容について実務上の実践内容を含めながら概論を解説する（プロジェクト使用）。基本的に写したものは全て配布する。従って原則としてノートは不要。解説後、ワークを出題する。ワークは教科書を参照しながら、学生間の協力（数名のグループ）で解く。授業の最後には、リアクションペーパーを記入して提出する。リアクションペーパーに記載の質問については次の週の冒頭に補足説明・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・都市の歴史と都市計画	近代都市計画への影響が大きい西欧都市の歴史について確認した上で、その系譜上にある現在の都市計画の位置づけを学ぶ。
2	日本の都市計画制度の概要（１）	日本の都市計画制度について、明治維新以降の沿革を確認するとともに、都市計画制度を取り巻く法体系について学ぶ。
3	日本の都市計画制度の概要（２）	現代の都市計画の具体的な内容や都市計画の手続きについて学ぶ。
4	土地利用の計画（１）	土地利用の計画の目的と方法、都市計画区域や区域区分について学ぶ。
5	土地利用の計画（２）	市街化区域の土地利用の計画や、立地適正化計画について学ぶ。
6	都市施設の計画（１）	都市計画法における都市施設の概要を確認し、都市交通施設や道路の計画について学ぶ。
7	都市施設の計画（２）	都市施設のうち、都市結節点・公園緑地・供給処理施設等の計画について学ぶ。
8	市街地整備の計画（１）	市街地整備事業の系譜を確認した上で、土地区画整理事業の概要について学ぶ。
9	市街地整備の計画（２）	市街地再開発事業の概要や、近年の市街地整備の状況について学ぶ。
10	地方・住民・民間による都市計画	都市計画の地方分権や住民参加の仕組みや手法について学ぶ。
11	持続可能なまちづくりの計画（１）	超高齢社会のまちづくりや低炭素・環境共生のまちづくりについて学ぶ。
12	持続可能なまちづくりの計画（２）	景観・地域資源を活かしたまちづくりや災害に強いまちづくりについて学ぶ。
13	都市計画プロジェクト紹介	実務者を招いた講演により、具体的な都市計画プロジェクトの実際を学ぶ。

14 まとめ 授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1-12 回：授業後、配布資料にもとづく復習

13 回：レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

都市計画総論，磯部・松山・服部・岡本，鹿島出版会，2014，2800 円＋税
教科書は授業中の課題提出および試験（持込可）に必須であるため，初回から持参すること。

【参考書】

東京大学 cSUR-SSD 研究会「世界の SSD100 ー都市持続再生のツボ」(世界の都市の持続再生の試みを 100 事例紹介)

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物（36%），レポートの内容（10%），授業内試験（54%）によって評価する。

レポートを提出していない者，授業内試験を受けなかったもの，及び欠席 4 回以上の者は単位取得を認めない(評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（アクティブラーニング）については，あらかじめ時間配分を明示することで作業時間を計画的に使えるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の演習問題（手書き）提出の際，各自のスマートフォンまたはタブレットのカメラ機能を用いる。

【その他の重要事項】

第 13 回に記載している都市計画プロジェクトの紹介については，講師との日程調整により授業期間内のいずれかの回で実施する。具体的な日程については授業初回に説明する。

公共事業の現場管理や設計、景観政策立案の経験ならびに学識者として実務プロジェクトのアドバイザー経験のある教員が、その経験を活かして都市プロジェクトや法制度の考え方について講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

【Outline (in English)】

Course Outline:

The aim of this course is to understand the problems and factors of modern cities and to learn how urban planning policies deal with them.

Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to learn concepts and approaches to grasp the actual conditions of cities, understand the history of urban planning and design, and learn about various urban planning policies.

Learning activities outside the classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments.
Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports for every class: 36%

Assignment for guest lecture: 10%

Final Examination: 54%

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

地盤力学及演習Ⅹ

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する。

【到達目標】

土の物理量、地下水流動、圧密、土の強度、土圧について講義と演習を通じて学び、実務に応用できる基礎力を身に着ける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 20%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている。授業では、まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く。ついで、地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ。以後は、地盤と地下水の力学的・流体力学的関係、地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する。さらに、講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを、多くの例題を用いて解説した後、学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性、構造物の安定、建設に関する諸問題
2	土の基本物理量と SI 単位 土の 3 相構成の理解と単位の重要性	土の相構成と基本物理量の定義、各物理量間の実用的関係式、SI 単位の基本事項と重要性、例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤、粗粒土と細粒土、土の構成成分と工学的性質の関係、コンシステンシー、例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義、Darcy 則と透水係数の定義、透水試験と透水係数の評価、例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数、フローネットによる流量と間隙水圧分布、例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係、土被り圧の理解	有効応力と全応力、間隙水圧の関係、土被り圧の計算法、例題解説と演習
7	中間試験 1～6 回までの理解度確認と総復習	1～6 回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験、模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下、圧密沈下による社会問題、一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル、先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密、圧縮指数と圧密沈下量、例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算、実際問題への適用、例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulomb の破壊規準、例題解説と演習

11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験と Mohr-Coulomb の破壊規準、一軸圧縮試験の応力状態、3 軸圧縮試験の種類と適応性、例題解説と演習
12	地盤内応力 地中部の応力状態と簡易的算定法	地盤内応力の簡易計算法、Boussinesq の式、長方形分割法、影響円法、Osterberg 法、圧力球根、例題解説と演習
13	土圧論 壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	土圧と土圧係数の定義、主動状態と受働状態、Coulomb と Rankine の土圧論、地下水面の存在と土圧、例題解説と演習
14	総復習	8 回～13 回の範囲の演習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習をかねた演習問題への取り組み

2. 同 上

3. 同 上

4. 同 上

5. 同 上

6. 同 上

7. 中間試験問題に沿って総復習

8. 復習をかねた演習問題への取り組み

9. 同 上

10. 同 上

11. 同 上

12. 同 上

13. 同 上

14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

【参考書】

地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 % + レポート 30 % = 100 %

欠席 4 回以上は単位取得を認めない(評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】

理解状況を確認しながら講義を進め、そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方、難しすぎるとの意見もあった。自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから、100 分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓または PC

【その他の重要事項】

元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% =100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

地盤力学及演習Ⅱ

澤田 俊一（Shunichi SAWADA）

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する。

【到達目標】

土の物理量、地下水流動、圧密、土の強度、土圧について講義と演習を通じて学び、実務に応用できる基礎力を身に着ける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 20%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている。授業では、まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く。ついで、地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ。以後は、地盤と地下水の力学的・流体力学的関係、地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する。さらに、講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを、多くの例題を用いて解説した後、学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤	地盤の理解の重要性、構造物の安定、建設的観点からの地盤
2	土の基本物理量と SI 単位	土の相構成と基本物理量の定義、各物理量間の実用的関係式、SI 単位の基本事項と重要性、例題解説と演習
3	土の 3 相構成の理解と単位の重要性	混合体としての地盤、粗粒土と細粒土、土の構成成分と工学的性質の関係、コンシステンシー、例題解説と演習
4	土の分類と工学的性質	土の分類と工学的性質の理解
5	土の透水性とその試験法	水頭・動水勾配の定義、Darcy 則と透水係数の定義、透水試験と透水係数の評価、例題解説と演習
6	地下水の流れ	等ポテンシャル関数と流れ関数、フロネットによる流量と間隙水圧分布、例題解説と演習
7	理論と簡易法の理解	有効応力と土被り圧、全応力と有効応力の関係、土被り圧の理解
8	中間試験	1～6 回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験、模範解答による解説と総合的復習
9	1～6 回までの理解度確認と総復習	圧密現象と力学モデル、先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密、圧縮指数と圧密沈下量、例題解説と演習
10	圧密現象	圧密沈下量と時間の計算、実際問題への適用、例題解説と演習
11	圧密沈下と即時沈下、圧密沈下による社会問題、一次元圧密理論の理解	土のせん断と破壊基準、土の破壊と構造物の安定の関係を理解
12	圧密沈下量と時間	
13	土のせん断と破壊基準	
14	土の破壊と構造物の安定の関係を理解	

11	土の力学試験と物性値	各種試験と Mohr-Coulomb の破壊規
12	土質試験結果の適用方法の理解	準、一軸圧縮試験の応力状態、3 軸圧縮試験の種類と適応性、例題解説と演習
13	地盤内応力	地盤内応力の簡易計算法、
14	地中部の応力状態と簡易的算定法	Boussinesq の式、長方形分割法、影響円法、Osterberg 法、圧力球根、例題解説と演習
15	土圧論	土圧と土圧係数の定義、主働状態と受働状態、Coulomb と Rankine の土
16	壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	圧論、地下水面の存在と土圧、例題解説と演習
17	総復習	8 回～13 回の範囲の演習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習をかねた演習問題への取り組み

2. 同 上

3. 同 上

4. 同 上

5. 同 上

6. 同 上

7. 中間試験問題に沿って総復習

8. 復習をかねた演習問題への取り組み

9. 同 上

10. 同 上

11. 同 上

12. 同 上

13. 同 上

14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

【参考書】

地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 % + レポート 30 % = 100 %

欠席 4 回以上は単位取得を認めない(評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】

理解状況を確認しながら講義を進め、そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方、難しすぎるとの意見もあった。自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから、100 分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓または PC

【その他の重要事項】

建設コンサルタントで実務を行っている教員が経験を活かした講義を行う。兼任教員のオフィスアワーとして、授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% =100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

工業英語Ⅹ

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語による取扱説明書、実験・生産工程の指示文・注意文等の、技術に関する基本的な英文を読むことができ、かつ、英語で簡単な説明文・操作指示文等が書ける能力を修得する。本科目の修得を基に、技術英検2級試験合格を目指す。

【到達目標】

- ①技術系の専門用語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②技術英語に適する英文構文を理解できる。
- ③技術に関する長文を読解できる。
- ④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 10%
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・技術英検2級検定試験用のテキスト「工業英検3級対策」に沿って解説する。
- ・テキスト解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・課題文および演習問題について学生を指名し、音読・翻訳および回答を求める。
- ・テキストに記載されていない事項については、随時補足する。
- ・毎回の授業では、技術英語に関する理解度の定着を図るための小テスト（技術用語、英文構文、和訳・英訳等）を課す。
- ・小テストについては、lms2025;WebClassのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 ・技術英検の過去問題における技術英文の専門用語や構文の実際を理解する。 ・実例演習（小テスト）
2	Chapter-1 技術英語の実践文法（その1）～動詞と文型、現在分詞	・技術英語構文としてよく用いられる動詞と文型、現在分詞を学習する。 ・実例演習（小テスト）
3	Chapter-1 技術英語の実践文法（その2）～現在分詞、過去分詞	・技術英語構文としてよく用いられる現在分詞と過去分詞を学習する。 ・実例演習（小テスト）
4	Chapter-2 技術英語の語法と文体（その1）～専門用語の理解と運用	・技術英語に特有の専門用語・品詞の転換形、接頭辞、接尾辞、類似語について学習する。 ・実例演習（小テスト）
5	Chapter-2 技術英語の語法と文体（その1）～無生物主語の英文	・技術英語に特有の無生物主語を用いた構文、その一般的表現方法の基本ルールを学習する。 ・実例演習（小テスト）
6	Chapter-3 試験問題の検討	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、英文和訳、和文英訳の基本ルールを学習する。 ・実例演習（小テスト）
7	中間試験	・技術英検過去問の出題形式に沿った中間試験により、第6回授業までに学習した内容の理解度を確認する。
8	中間試験の解答解説	・中間試験問題の解答解説を踏まえ、各自で間違った問題を中心に見直し理解度を確実にする。

9	Chapter-4 問題演習（その1）～英文和訳、選択肢問題	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、過去問における英文和訳、選択肢問題について学習する。 ・実例演習（小テスト）
10	Chapter-4 問題演習（その2）～完成問題、和文英訳	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、過去問における完成問題、和文英訳問題について学習する。 ・実例演習（小テスト）
11	Chapter-6 技術分野の語彙（その1）～数式、図形等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち、数式、図形等に関連する用語を学習する。 ・実例演習（小テスト）
12	Chapter-6 技術分野の語彙（その2）～建設、エネルギー、コンピュータ等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち、建設、エネルギー、コンピュータ等に関連する用語を学習する。 ・実例演習（小テスト）
13	技術英検過去問題による模擬試験と解答解説	・技術英検の過去問題について制限時間内で回答し、解答解説を踏まえ、各自で間違った問題を中心に見直し理解度を確実にする。 ・期末試験により、技術英語に関する理解度の定着を確認する。
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。

- （準備学習）
 - ・各回授業に対応する教科書の説明を読んで各回で学ぶ技術英語のポイントを把握しておきましょう。
 - ・教科書で取り上げている例文に使われている単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
 - ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
 - ・各回で使われている技術分野の単語についてテキストの巻末リスト等を参考に暗記しましょう。
 - ・教科書で取り上げている例文について、教科書を見ないで自分で和文英訳、英文和訳を試みましょう。
- （学習時間）
 - ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・公益社団法人日本工業英語協会（著）：「工業英検3級対策」、1994年1月1日初版、日本能率協会マネジメントセンター、定価1,760円＋税

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と試験（中間試験、期末試験）により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。
- （到達目標と評価の対応）
 - ①技術系の専門用語を理解できる。（和→英、英→和）できる。→平常点10点＋期末試験16点＝小計26点
 - ②技術英語に適する英文構文を理解できる。→平常点14点＋期末試験20点＝小計34点
 - ③技術に関する長文を読解できる。→平常点6点＋期末試験10点＝小計16点
 - ④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる。→平常点10点＋期末試験14点＝小計24点
- ・平常点には、小テスト、中間試験、技術英検の模擬試験、質疑応答・発表等が含まれる。
- ・中間試験ならびに期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・小テストや質疑応答など、学生の興味を引く内容を工夫し、授業時にできるだけ飽きさせず、学習効果を高める工夫をしていきたい。
- ・小テスト等の解答解説を提出直後に実施する等して履修学生の学習に役立てたい。そのためには、lms2025;WebClassによるテスト機能を使う予定なので協力してもらいたい。
- ・授業改善アンケート調査結果より、授業理解度や感想については、大半から肯定的な回答が得られた。また、その自由回答記述からは、1)他の人と交流できる授業がよい、2)技術的な専門用語に触れられた、3)教材の充実、などの意見が出された。これらを踏まえ、2025年度授業では、引き続き、学生がより一層技術英語について興味・関心を持てるような授業運営を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、lms2025;WebClass を使うので同システムの操作に充分慣れておくこと。
- ・授業中に WebClass を使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は WebClass を利用する。

【その他の重要事項】

- ・Xクラス（B2240）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。
- ・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
- ・オフィスアワーに関して、質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course aims to improve technical communication skills in English for basic technical documents: manuals, instructions and notices for experiments or industrial productions. Students will also be required to develop simple technical compositions. Students to achieve this class are encouraged to apply the Second Grade Technical English Proficiency, thereby making them to pass the examination.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should read specified area in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should examine unknown words used in example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should practice English composition and Japanese translation for example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in midterm and final examinations (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 10%+final examination 16%=total 26%
- 2) Analysis of sentence structure for technical English: class participation 14%+final examination 20%=total 34%
- 3) Evaluation of English sentences with technical expression: class participation 6%+final examination 10%=total 16%
- 4) Organization of a short English sentence with technical terms and / or sentence structure for technical English: class participation 10%+final examination 14%=total 24%

A mark in class participation includes small tests.

Midterm and final examination will be conducted without any references and/or notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

工業英語 Y

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語による取扱説明書、実験・生産工程の指示文・注意文等の、技術に関する基本的な英文を読むことができ、かつ、英語で簡単な説明文・操作指示文等が書ける能力を修得する。本科目の修得を基に、技術英検2級試験合格を目指す。

【到達目標】

- ①技術系の専門用語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②技術英語に適する英文構文を理解できる。
- ③技術に関する長文を読解できる。
- ④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 10%
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」、「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・技術英検2級検定試験用のテキスト「工業英検3級対策」に沿って解説する。
- ・テキスト解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・課題文および演習問題について学生を指名し、音読・翻訳および回答を求める。
- ・テキストに記載されていない事項については、随時補足する。
- ・毎回の授業では、技術英語に関する理解度の定着を図るための小テスト（技術用語、英文構文、和訳・英訳等）を課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 ・技術英検の過去問題における技術英文の専門用語や構文の実際を理解する。 ・実例演習（小テスト）
2	Chapter-1 技術英語の実践文法（その1）～動詞と文型、現在分詞	・技術英語構文としてよく用いられる動詞と文型、現在分詞を学習する。 ・実例演習（小テスト）
3	Chapter-1 技術英語の実践文法（その2）～現在分詞、過去分詞	・技術英語構文としてよく用いられる現在分詞と過去分詞を学習する。 ・実例演習（小テスト）
4	Chapter-2 技術英語の語法と文体（その1）～専門用語の理解と運用	・技術英語に特有の専門用語・品詞の転換形、接頭辞、接尾辞、類似語について学習する。 ・実例演習（小テスト）
5	Chapter-2 技術英語の語法と文体（その1）～無生物主語の英文	・技術英語に特有の無生物主語を用いた構文、その一般的表現方法の基本ルールを学習する。 ・実例演習（小テスト）
6	Chapter-3 試験問題の検討	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、英文和訳、和文英訳の基本ルールを学習する。 ・実例演習（小テスト）
7	中間試験	・技術英検過去問の出題形式に沿った中間試験により、第6回授業までに学習した内容の理解度を確認する。
8	中間試験の解答解説	・中間試験問題の解答解説を踏まえ、各自で間違った問題を中心に見直し理解度を確実にする。

9	Chapter-4 問題演習（その1）～英文和訳、選択肢問題	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、過去問における英文和訳、選択肢問題について学習する。 ・実例演習（小テスト）
10	Chapter-4 問題演習（その2）～完成問題、和文英訳	・技術英検問題の英文構文に慣れるため、過去問における完成問題、和文英訳問題について学習する。 ・実例演習（小テスト）
11	Chapter-6 技術分野の語彙（その1）～数式、図形等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち、数式、図形等に関連する用語を学習する。 ・実例演習（小テスト）
12	Chapter-6 技術分野の語彙（その2）～建設、エネルギー、コンピュータ等	・技術英検問題の英文によく使われる技術用語のうち、建設、エネルギー、コンピュータ等に関連する用語を学習する。 ・実例演習（小テスト）
13	技術英検過去問題による模擬試験と解答解説	・技術英検の過去問題について制限時間内で回答し、解答解説を踏まえ、各自で間違った問題を中心に見直し理解度を確実にする。 ・期末試験により、技術英語に関する理解度の定着を確認する。
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。

- （準備学習）
 - ・各回授業に対応する教科書の説明を読んで各回で学ぶ技術英語のポイントを把握しておきましょう。
 - ・教科書で取り上げている例文に使われている単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
 - ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
 - ・各回で使われている技術分野の単語についてテキストの巻末リスト等を参考に暗記しましょう。
 - ・教科書で取り上げている例文について、教科書を見ないで自分で和文英訳、英文和訳してみましょう。
- （学習時間）
 - ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・公益社団法人日本工業英語協会（著）：「工業英検3級対策」、1994年1月1日初版、日本能率協会マネジメントセンター、定価1,760円＋税

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と定期試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
- ①技術系の専門用語を理解できる。（和→英、英→和）できる。→平常点10点＋定期試験16点＝小計26点
- ②技術英語に適する英文構文を理解できる。→平常点14点＋定期試験20点＝小計34点
- ③技術に関する長文を読解できる。→平常点6点＋定期試験10点＝小計16点
- ④専門用語や技術英語構文を使って簡単な英文を作成できる。→平常点10点＋定期試験14点＝小計24点
- ・平常点には、小テスト、技術英検の模擬試験、質疑応答・発表等が含まれる。
- ・定期試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・小テストや質疑応答など、学生の興味を引く内容を工夫し、授業時にできるだけ飽きさせず、学習効果を高める工夫をしていきたい。
- ・小テスト等の解答解説を提出直後に実施する等して履修学生の学習に役立てたい。そのためには、学習支援システムによるテスト機能を使う予定なので協力してもらいたい。
- ・授業改善アンケート調査結果より、授業理解度や感想については、大半から肯定的な回答が得られた。また、その自由回答記述からは、理系専門用語を知ることができた、英語学習の機会が持てた、などの意見が出された。これらを踏まえ、2024年度授業では、引き続き、学生がより一層技術英語について興味・関心を持てるような授業運営を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に充分慣れておくこと。

- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携帯することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
- ・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to improve technical communication skills in English for basic technical documents: manuals, instructions and notices for experiments or industrial productions. Students will also be required to develop simple technical compositions. Students to achieve this class are encouraged to apply the Second Grade Technical English Proficiency, thereby making them to pass the examination.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should read specified area in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should examine unknown words used in example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should practice English composition and Japanese translation for example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 10%+final examination 16%=total 26%
- 2) Analysis of sentence structure for technical English: class participation 14%+final examination 20%=total 34%
- 3) Evaluation of English sentences with technical expression: class participation 6%+final examination 10%=total 16%
- 4) Organization of a short English sentence with technical terms and / or sentence structure for technical English: class participation 10%+final examination 14%=total 24%

A mark in class participation includes small tests, simulated full size tests and others.

Final examination will be conducted without any references and/or notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

デザインスタジオ 1（建築）X

西牟田 奈々

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築はデザイン（設計）して建設されるものです。建築のデザインを学ぶことの最終的な目的は、建築を実現させるための技術の習得だけではなく、建築のあり方、建築と社会・環境・歴史との関わりなどを思考し、建築に関わる総合的な判断力・思考力を養うことにあります。この授業では、そのための第一歩として、建築の構成の基礎、および、図面と模型による建築の表現について学びます。

【到達目標】

本授業では、以下の4点を到達目標とします。

1. 建築の基本的な構成を理解する
2. 身体の寸法に関係する空間のスケールを理解する
3. 立体と図面との関係を理解し、建築を表現するための図面と模型の基本を習得する
4. 設計に必要な道具の使い方を習得する

（以下、教科書『建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家』の「はじめに」より）

建築は、物理的に3次元の〈形態〉をもつと同時に、その内部あるいは外部に何らかの〈空間〉を現象させる。空間という言葉は多様な意味をもつが、建築の空間は、建築形態が生み出す場所の総称だと考えることができる。たとえば、建築形態で囲まれた建築の内部には、生活・仕事などを行うための部屋や、設備の設置、物品の収納などのための空間が配置される。建築形態の外部には、入口へのアプローチや庭などの空間が配置される。その他、場所や部屋を「開放的な空間、美しい空間、詩的な空間」などという場合のように、空間は、心理的な事象であることもある。形態と空間は一体となって建築の特質を規定する概念に他ならない。

したがって、建築は必ず何らかの空間・形態をもつ。建築デザインの最終的な目的は、美しく調和した建築の空間・形態を実現することだといえるだろう。もちろん、過去の建築の歴史を眺めればわかるように、一見、美しくないと思えたものが認識の変化により美しいものにも変わることもあるし、調和していなかったことが次の時代の調和であったりするから、美しさを固定的なものととらえることはできない。概念的に過ぎる美しさという言葉を使ひやすさ・住みやすさというやや身近な言葉に置き換えたとしても、やはり、建築の使いやすさ・住みやすさを固定的に考えることは困難である。建築のデザインは、このように一意には捉えられない問題に立ち向かわなければならない難しさをもっている。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業では建築設計製図の基本を学びます。

授業は10の課題より成ります。

【課題1：自室の実測】では、自室の実測から始まり、建築の部位や家具のスケールを知り、その図面化を行うことによって、空間を表現方法を学びます。

【課題2：線の練習】は、図面表現の基本である線の表現について学ぶとともに、美しい図面を仕上げるための、図面構成（レイアウト）について学びます。また、製図に必要な道具の使い方も学びます。

【課題3～6：箱形建築の模型／平面図／立面図／断面図／立体図】では、建築の単純モデルを題材として、その空間を図面によって記述し表現することを学びます。最初に、壁、床、開口部からなる模型を製作し、その水平切断図としての平面図、垂直切断図としての断面図の表現の原理を学びます。同時に、課題1「自室の実測」に基づき、平面に階段、家具等を配置し、建築の平面構成、断面構成のあり方と表現について学びます。

【演習7～8：住吉の長屋の模型と図面】では、実在の鉄筋コンクリート構造の住宅を題材として、実際の建築の平面構成、断面構成、立面構成について学ぶとともに、その平面図、断面図による記述・表現の方法について学びます。ここでも、最初に模型を製作し、建築の立体構成を理解した後に、その図面表現について学んでいきます。【課題9～10：ギャラリーのある家】は、上記の学習の成果を踏まえて、建築を構想し、物理的に架構し、図面と模型写真により表現する演習に取り組みます。

毎回の課題は、正確であるだけでなく、美しい作品として製作されなければなりません。

冒頭の解説をよく理解するように努め、疑問点があれば質問してください。演習への回答時には、教員の他、TAも質問等に対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになるはずです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ●課題1：自室の実測	教科書・参考書、製図道具の説明。建築を測る
2	●課題2：線の練習	【要製図道具】点と線の表現。課題1の講評と次回課題3の説明 【型紙の準備】
3	●課題3：箱形建築／模型	【要模型製作道具】模型の製作
4	●課題4：箱形建築／平面図と立面図	【要製図道具】立体の水平切断図としての平面図と投影図としての立面図。階段の配置。自室の実測に基づく家具の配置
5	●課題5：箱形建築／断面図	【要製図道具】立体の垂直切断図としての断面図。切断面の向こうに見える投影図としての姿図（階段、家具など）の表現
6	●課題6：箱形建築／立体図	【要製図道具】アイソメトリック、アクソノメトリック、透視図。次回課題7の説明 【型紙の準備】
7	●課題7：住吉の長屋／模型	【要模型製作道具】実際の鉄筋コンクリート住宅の構成
8	●課題8：住吉の長屋／平面図・断面図	【要製図道具】鉄筋コンクリート住宅の平面図と断面図
9	●課題9：ギャラリーのある家(1)	【課題説明】これまでの課題の講評と期末課題の提示。住空間の設計に関する解説
10	課題9：ギャラリーのある家(2)	スケッチ（エスキス）とスタディ模型

- 11 課題9：ギャラリー スタディ模型，平面図，立面図のある家(3)
- 12 課題9：ギャラリー 断面図，立体図のある家(2)
- 13 【クラス内講評会】 図面と模型の提出，クラス内講評会
ギャラリーのある家
- 14 【合同講評会】●課題 総合講評会，課題10と夏休み課題10：模型写真，アフターレビュー
題（デザインスタジオ2）の提示，課題9のフォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で図面の理解に時間を要し，作業の時間がとれない傾向が見受けられます。前もっての図面の理解（予習）と，次の課題に向けてのこれまでに学んだことの自己チェック（復習）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『建築のしくみ／住吉の長屋，サヴォワ邸，ファンズワース邸，白の家』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）
- 『住まいの空間 独立住居』日本建築学会編（彰国社）
- 『建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現』（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著，丸善）

【参考書】

- 『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
- 『建築設計演習応用編』独立住居から集合住居の設計まで、武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
- （教科書「建築のしくみ〜」の中国語訳）建筑构造—从模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校），中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

課題の評価により成績評価をします（100％）。

総合点60点以上を合格とします。

以下が各課題の評価基準です。

課題1（自室の実測）：見落としなく実測図が作成できているか。実測をもとに正確な平面図，室内立面図，天井見上図，家具図等が描かれているか。家具の寸法が把握できているかどうか。

課題2（線の練習）：線が正確に描かれ，図面が美しく構成されているかどうか。

課題3と7（模型）：正確で美しい模型が完成しているかどうか。端部の処理などの細部に配慮されているかどうか。

課題4～6と8（図面）：建築の空間（立体構成）が正しく表現されているかどうか（切断面と切断面の向こうに見えるものが正しく表現されているかどうか）。図面が美しく仕上がっているかどうか。

課題9（設計課題）：総合的評価。

課題10（模型写真）：模型が正しく，美しく製作されているかどうか。建築が正しく表現されているかどうか。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの課題制作のスピードにかなりの個人差があります。解説は冒頭に集約し，その後に演習に取り組んでももらいます。遅刻をすると冒頭の解説の理解が遅れることになるので，遅刻をしないようにしてください。また，演習時間には積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

平行定規は各スタジオに用意されていますが，その他の製図道具は各自が用意する必要があります。また，模型材料も各自で用意してください。

製図および模型製作に必要な各種道具（各自が用意する）：

●製図道具

- 三角スケール（30cm，ポケット型） ※15cmのものもあるとよい。
 - 勾配三角定規（20cm）
 - 円定規
 - 字消板（メッシュステンレス）
 - 製図用ブラシ
 - ドラフティングテープ
 - 製図用シャープペン（0.3mm，0.7mm） ※0.5mmのものもあるといい
 - シャープペンの芯 ※HBの他，HまたはBを使用してもいい
 - アジャストケース（図面収納筒） ※図面の持ち運びに使用
 - プロジェクトペーパー（A3版，5mm方眼） ※課題1で使用
- その他，ロールトレペもあるとよい。

●模型製作道具

11. カッター
 12. カッター替刃（30°） ※替刃にはさまざまな種類がある
 13. ステンレス直定規（30cm） ※カッターと併用するための定規
 14. カッティングマット（620×450mm） ※カッターを使用する際の作業用マット
 15. スチのり
- その他，金尺，木工用ボンドもあるとよい。

●パソコン

情報教室のパソコン，大学が貸与するノートパソコンも使用するとよい。

●模型材料

スチレンボードなどの模型材料は各自で用意。

【その他の重要事項】

授業内容の解説にプレゼンテーション機器（液晶プロジェクターによる映像表現）を用います。授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn the basics of architectural design by working on assignments.

Architecture is constructed by design. The purpose of studying architectural design is not only to learn skills but also to consider the relationship between society/environment/history and architecture and to develop comprehensive judgment. In this course, as the first step, students will learn how to draw plans and express design through models while understanding the basic structure of architecture and learning how to conceive architecture.

[Learning objectives]

At the end of the course, students are expected to understand the followings:

1. The basic structure of architecture
2. The scale of space with the dimensions of the body
3. The relationship between three-dimensional structures and drawings by mastering the basics of drawings and models to express architectural design.
4. How to use the tools necessary for designing.

[Learning activities outside of classroom]

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of assignments (100%)

デザインスタジオ 2（建築）X

板坂 留五

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・空間に対する分析力・考察力を養う
- ・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・各種構造の特性を理解する
- ・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）

[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。 ○建築研究レポート発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	

4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m 立法の空間の大きさを把握する。 ○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。 ○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。 ○敷地や家具類を含めた模型を製作する。 ○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。 ○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	
7	『5m 立法の空間』	
8	『5m 立法の空間』	
9	『5m 立法の空間』	
10	『5m 立法の空間』	
11	『5m 立法の空間』	
12	『5m 立法の空間』	
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）

『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。

〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。

○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。

○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。

〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。
(評価配分：建築研究15%、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】

[Outline]

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

[Learning Objectives]

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

[Learning activities outside of classroom]

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher> Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment. (Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)

(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

OTR100ND（その他 / Others 100）

デザインスタジオ 1（SD）

大西 景太、飯村 武志、姜 理恵、坂間 清子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

クリエイション系：

様々な分野のデザインに必要な、コミュニケーション手段としてのスケッチの方法を学ぶことがこの授業の目的である。パースペクティブや光源と陰影の概念を学び、様々なツールを用いて描く。アイデアスケッチやチームでのアイデア共有、プレゼンテーションなどに活かすための基礎的なスケッチ能力を養う。

テクノロジー系：

日々の現象は、自然界の法則に従っているということを体験することが、この授業の目的である。私たちは、自然の法則を無視しては何もデザインすることはできない。「デザイン」を考えるときは、常にそのデザイン対象の背景となる自然の法則を意識することが重要である。本講義では、自然界の人・物・事やその現象に関する課題とその解決へ至るヒントを提示し、学生各自が手と頭を動かしながら、具体的な体験やシミュレーションを通して対象や法則を理解する。

マネジメント系：

システムデザインを実際に社会の中で人々の手によって実践するために必要なマネジメントを学ぶにあたっての基礎知識を習得しながら、マネジメントに対する興味・関心を培うことが本授業の目的である。企業経営と社会の関わり、身近な企業と金融市場の関係、飲食業界の経営・競争戦略などを主題に、講義とワーク、課題を通じて理解と習得を進める。

【到達目標】

クリエイション系：

クリエイションに必要な観察力を養うこと。

「コミュニケーションをとるための絵」を描く方法を身につけること。

テクノロジー系：

学生各自が手と頭を動かしながら、具体的な体験やシミュレーションを通して対象や法則を理解するための手法を身につけること。

マネジメント系：

授業で取り扱うマネジメントの基本用語、理論を理解し、企業の基本的なマネジメント実例を自分の言葉で説明することができること。マネジメントへの関心と意欲を育み、システムデザインの中でそれを活かす基礎学力を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義は、総合ガイダンスの後、3つのクラスに分かれ、それぞれのクラスが、クリエイション系4回、テクノロジー系4回、マネジメント系4回、最後に全体のまとめ1回の合計14回の実習授業を行う。各系の概要は以下のとおりである。

クリエイション系：

スケッチパッド、鉛筆、ペン、マーカー、パステルなどを用い、パースペクティブや陰影の正しいスケッチ方法の基礎を学ぶ。

テクノロジー系：

身の周りの運動機構について、実例を通して解説するとともに、運動の変換機構の例として、スライダ・クランクメカニズムの機械要素の運動現象を対象として、観察や数学ソフトウェア（Mathematica）を用いて数値シミュレーションを行う。回転運動から直線運動への変換メカニズムや、その仕組み、変位や速度、加速度の変化などを観察・シミュレーションしながら理解する。また学科から全員に配布する電子教材の簡単な使用方法についても学ぶ。

マネジメント系：

マネジメントを、企業という存在とその法的根拠・役割、社会との関係性、金融市場とファイナンス、マーケティング、社内マネジメントの5つの視点から学ぶことにより、経営管理の全体像を大まかに把握する。さまざまな企業の実例を取り扱い、今後の学習に必要なマネジメントの基本理論と知識を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総合ガイダンス	クリエイション系（4回）、テクノロジー系（4回）、マネジメント系（4回）の内容の説明とグループ分け、事前に準備するもの、電子教材の配布や簡単な使い方を解説する。クリエイション系の第1回として、線描で立方体、円筒を描き、描くことに慣れる。デザインスケッチ/透視図法の概要について学ぶ。
2	パースペクティブスケッチ基礎演習	クリエイション系の第2回として、グレースケールで線描に陰影をつける。光源と影の関係について学ぶ。
3	マーカーを用いた描写演習、講評	クリエイション系の第3回として、描き方のバリエーションを学ぶ。コンテパステルで三次曲面を表現/黒い紙に白鉛筆で描く。
4	様々な画材・モチーフによる描写演習、講評	クリエイション系の第4回として、既存のデザイン製品を分析し、スケッチで説明する。講評を行う。
5	説明スケッチ演習、講評	テクノロジー系の第1回として、身の周りの機械要素の運動機構を観察する。次に、観察した機械要素の運動をモデル化する（課題1）。
6	運動の観察とモデル化	テクノロジー系の第2回として、観察した身の周りの運動機構の事例を発表する。またシミュレーションソフトウェアについて実例を交えながら解説し、その基本操作方法を実習により学ぶ（課題2）。
7	課題とレポートの作成、発表、ソフトウェアツールの準備と使用方法	テクノロジー系の第3回として、リンク機構の運動の数値シミュレーションプログラムを作成し、その運動の様子を解析する（課題3）。
8	リンク機構の運動シミュレーション	テクノロジー系の第4回として、自然界の対象を観察し、フローチャート化して理解するとともに、配布した電子教材（M5Stack）を用いて、プログラミングやセンサ・アクチュエータの原理と応用について調査・実習を行う（課題4）。
9	入出力モデルと電子工作	マネジメント系の第1回として、社会と企業、マネジメントがどのような関係性にあるのか、その関わりを整理する。マネジメントに関する最新情報を実際に入手する実習を行う（課題1）。
10	マネジメントと企業と社会の全体像	マネジメント系の第2回として、株式会社は金融市場から資金調達し、投資を行い、株主に還元している。その仕組みを理解し、実際に大企業の株主構成や株価の推移を調べてみる（課題2）。
11	企業と金融市場、ファイナンス	マネジメント系の第3回として、企業は顧客といかに繋がり、どんな関係性を築くのかを、基本的な経営戦略と競争戦略の観点から学ぶ。学びを元にコーヒーチェーン業界を分析する（課題3）。
12	企業と顧客、マーケット	マネジメント系の第4回として、どんなにいい商品を開発しても、社員がやる気を出して作って売ってくれないと業績は上がらない。社員が燃えてやる気になってくれるには、どんなマネジメントが必要か。基礎理論を学び、自分を燃えさせるマネジメント案を作成する（課題4）。
13	社員を燃えさせるマネジメント	本実習授業のまとめを行う。
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前の確認

クリエイション系：

必要となる画材、工具を準備する。課題のある場合は必ず行う事。

テクノロジー系：

課題で必要となる各種ソフトウェアや電子教材の事前の使用方法的理解と実行

課題の実行と発表の準備

マネジメント系：

シラバス内容の事前の確認と課題の実行

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

クリエイション系

教員が授業内で適宜指示する。

テクノロジー系

教員が授業内で適宜指示する。

マネジメント系

教員が授業内で適宜指示する。

【参考書】

クリエイション系

How to Draw (スコット・ロバートソン: ボーンデジタル)

プロダクトデザインのためのスケッチワーク (増成和敏: オーム社)

テクノロジー系

特に指定しない。適宜、授業中にプリントを配布する。

マネジメント系

特に指定しない。適宜、Hoppiに電子資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

クリエイション系：

授業内の作業態度と実習作品の提出による総合評価から、90点以上をS、87点以上をA+、83点以上をA、80点以上をA-、77点以上をB+、73点以上をB、70点以上をB-、67点以上をC+、63点以上をC、60点以上をC-とする。提出を求められた作品が1点でも未提出の場合はDとする。

テクノロジー系：

授業内の実習作業態度および教員からの課題に対する提出されたレポートにより総合的に評価する。90点以上をS、87点以上をA+、83点以上をA、80点以上をA-、77点以上をB+、73点以上をB、70点以上をB-、67点以上をC+、63点以上をC、60点以上をC-とする。レポートの未提出はDとする。

マネジメント系：

授業内の講義受講態度および教員からの課題に対する提出されたレポートにより総合的に評価する。90点以上をS、87点以上をA+、83点以上をA、80点以上をA-、77点以上をB+、73点以上をB、70点以上をB-、67点以上をC+、63点以上をC、60点以上をC-とする。レポートの未提出はDとする。

最後にクリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の評価結果を総合し、最終評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校での履修状況により学生によってスキルが異なるため、各自のスキルに応じたきめ細かい対応をできる限り行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

クリエイション系：

指定のドローイング用画材を購入・準備すること。

毎回使用する道具が異なるため、授業前に持参の必要なものが何かを確認する事。

テクノロジー系：

データ処理などに大学から配布されたノートパソコンとインストールされた専用ソフトウェア、配布した電子回路キット教材などを使用する。

マネジメント系：

大学から配布されたノートパソコンを使用する。

【Outline (in English)】

Term of creation course:

Students learn the concepts of perspective, light sources and shadows, and draw with a variety of tools. Students develop basic sketching skills that can be used for sketching ideas, sharing ideas in teams, and making presentations.

Term of technology course:

The aim of this course is to experience how everyday phenomenon follow the laws of nature. Without awareness of natural laws we would not be able to design anything. When thinking about design, it is essential to continuously consider underlying laws of nature. In this course, students will receive hints from the supervisor in the technology field for finding solutions to human, physical and phenomenal related problems, thinking and learning hands-on about such laws through their concrete experiences.

Term of management course:

The purpose of this course is to cultivate interest in management while acquiring the basic knowledge necessary for learning management. Management is necessary for actually putting system design into practice in society. Through lectures, exercises, and assignments, students advance their understanding and mastery of themes such as the relationship between corporate management and society, the relationship between familiar companies and the financial market, and management and competitive strategies in the food and beverage industry.

By the end of the courses, students should be able to get basic skill at the department of engineering and design.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

The final grade will be decided according to the evaluation of three courses.

OTR100ND（その他 / Others 100）

デザインスタジオ 2（SD）

安積 伸、片山 典子、田中 聡一郎、山田 泰之、小宮 昌人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザインスタジオ 2」は、【マネジメント系】【クリエーション系：対面】【テクノロジー系】の三つの系を各4回づつ、3クラスに分けて授業をうける事ができる。自分のクラスを間違わないように授業を受けること。クラス分けは、A,B,Cクラスに最初のガイダンスで行う。デザイン工学では、製品を製作するときのあらゆる場面で自分の制作しようとしている不可視な状態（想像されている状態）の人工物を第三者に的確かつスピーディーに可視化しその情報を視覚伝達技術の基礎が学べる。マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を学び理解する基礎が学べる。クリエーション系では、手書きによるスケッチ技術の習得を基本としながら、発案から実作まで活用可能な絵の描き方を学ぶ。またアイデアスケッチから実制作を行い、手書きスケッチと立体造形の関係を実践的に学ぶ。テクノロジー系講義では3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現方法、「かたち」や「しくみ」に取り入れられている力学的な関係と、工学的見地からデザインをとらえる基礎知識を身につけることができる。

【到達目標】

【マネジメント系】

身の回りにあるさまざまな“問題”の解決のための基本構造を学ぶ。意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できるようにします。問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法の基礎を習得する事を目標とする。

【クリエーション系】対面演習授業です。

手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学ぶ。また後半ではアイデアスケッチを基に実作を行い、絵と立体の差異を理解する。

【テクノロジー系】

3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現、物体の変形、流体の流れの関係、あるいは「ちから」と「かたち」や「しくみ」の基本的な関係を習得する事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【マネジメント系】

マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を理解できる。これまではおそらく意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できる。そして、さらに、問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法を学ぶ事が出来る。演習は、4～5名からなるグループワークで実施できる。

【クリエーション系】対面演習授業です。

この授業は、AB期でのデザインスタジオ 1 の継続に位置すると考えてください。

手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学びます。

前半ではアイデアスケッチの基礎的なトレーニングを行い、発案を素早く他者と共有するための絵の描き方を学びます。

後半ではテーマに沿い、実寸スケッチによる発案から、3面レンダリングを経て、実物の制作を行います。また実物と絵を比較しその差異を理解します。ここで得られる技術は各自の固有の技術となりますので予習、復習をしっかり行ってください。また専門技術の基礎となりますので真剣に取り組む必要があります。

【テクノロジー系】

2次元、3次元のモノの構造とそれらのつくり方を学ぶ。図学、構造力学、材料力学、材料工学等の基礎を実習課題を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デザインスタジオ 2 総合ガイダンス及びクリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系、各系の対面、またはオンライン授業、対面の場合のコロナ対策等の説明を含む。	「デザインスタジオ 2」授業概要の説明。この授業で得られる知識について。クラス別の説明、クラス別日程説明。対面、またはオンライン授業の説明。対面使用教室説明及びコロナ対策説明。
2	クラス別①マネジメント系ガイダンス 問題解決の基本形 発散的な思考法	授業概要、目標の説明 ブレーストーミングを行う KJ法により問題を深化させる
3	クラス別②問題解決の基本形	ブレーストーミングを行う 連関図法、系統図法による問題の整理
4	クラス別③ 問題分析と構造化 問題解決の手段と実施	連関図法、系統図法による問題の整理
5	クラス別④ マネジメント系まとめ	グループ別プレゼンテーション
6	クラス別①クリエーション系 ガイダンス アイデアスケッチの作成	授業概要、目標の説明 アイデアスケッチの基礎的手法を学ぶ。発案したアイデアを絵と文字で説明する。
7	クラス別②クリエーション系 アイデアスケッチから三面レンダリングへの展開	アイデアスケッチを経て、原寸で3面レンダリングを描く。製品制作のためのアイデアを実寸で検討する。
8	クラス別③クリエーション系 原寸で検討したアイデアスケッチを基に、実素材で製品を制作する。	原寸三面レンダリングをもとに木材を切削して、プロダクトを制作する。
9	クラス別④クリエーション系 具現化した形状と、事前に制作した原寸図を比較し、差異を理解する。	木切削によるプロダクトを完成させる。完成品をもとに3面レンダリングを修正する。
10	クラス別①テクノロジー系 ガイダンス 図学 ものづくり実習	授業概要、目標の説明。ものづくりに欠かせない図学の基礎を学ぶ。簡単な立体構造の立体図面と展開図面を作成する。これらの図面をもとに、1つだけ作る場合と、同じモノを複数個つくる場合を対比したものづくり実習を実施する。設計から大量生産を模擬的に体験することで理解を深める。
11	クラス別②テクノロジー系 材料力学入門	材料力学の基礎を学ぶ。応力ひずみ曲線、断面二次モーメント等、材料力学の基礎知識を学ぶ。切り欠き効果や、両端支持梁の比較実験を実施する。これらの実習を通して材料力学への理解を深める。
12	クラス別③テクノロジー系 構造力学入門	構造力学の基礎を学ぶ。部の拘束条件、自由体図、ラーメン構造、トラス構造等、構造力学の基礎知識を学ぶ。トラス構造を用いた大小の橋を制作する実習を実施する。これらの実習を通して構造力学への理解を深める。
13	クラス別④テクノロジー系 材料工学入門	金属材料について鉄系材料、非鉄系材料を学ぶ。非金属材料では例えば熱可塑性樹脂や熱硬化性樹脂などテクノロジーにかかわる様々な材料を実物を見ながら学ぶ。これらの体験を通して材料工学への理解を深める
14	デザインスタジオ 2 総合評価	各系からの総合評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

クリエーション系は毎回宿題を課します。最終課題は完成に向けてかなりの制作時間が必要となりますので、計画的に進めてください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

【マネジメント、クリエーション、テクノロジー系】

学習支援システム「教材」にアップロード。

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

■成績は、マネジメント系100点、クリエーション系100点、テクノロジー系100点とし、合計平均で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各系の基礎となる授業です。毎回必ず授業に出席する事。

うるさく制作に没頭できないという苦情が出ています。

クリエーション系制作実習中の私語は慎んでください。

教室が汚いという苦情が出ています。

授業終了時は必ず自席のテーブル、椅子、床周辺を掃除をしたのち退席してください。

この演習授業終了後、他の演習が始まります。お互いに整理整頓された教室で演習できるよう努めましょう。

【学生が準備すべき機器他】**【クリエーション系】**

デザインスタジオ1で使用したスケッチ道具セットを一式持参してください。

PMパッドを使い果たした人は各自で補充し準備してください。

（マーカーインクは授業内で補充が可能です。）

【テクノロジー系】

ノートPCを持参すること。

【その他の重要事項】**【クリエーション系】**

日本で第一線で活躍するプロダクトデザイナー、実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザインの基礎知識・デザイン手法の基礎を演習を通して指導が受けられる。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course comprises three different subjects in management, creation, and technology, each held 4 times and divided into three classes.

【Learning Objectives】

The goals of each subject are the following:

- Management

Learn the basic structures for solving various "problems" that exist in the world around us.

- Creation:

Learn the basics of hand-drawn idea sketching and the way to create actual works based on the sketches.

- Technology:

Master the basic relationship between power, form, and structure.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Homework will be assigned for each Creation Class.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be assessed based on a total average of 100 points in Management, 100 points in Creation, and 100 points in Technology.

Also, the attitudes of the participants in the classes are subject to evaluation.

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

図形科学基礎演習Ⅹ

石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握し、伝達する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。

その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。

また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。

また、図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】

立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。

CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習3
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	寸法記入法、断面図
7	寸法記入、断面図	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の基礎演習-5	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
14	CADによる三角法作図の応用演習-2	

13 CADによる三角法作図の応用演習-3

14 CADによる三角法作図の応用演習-4

テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ) 整合性の検証)
テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習は必須。

CADの基本操作を自主的に学習する事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。教科書は使用しません。

【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時、電子メールでも質問を受け付ける。

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand the relationship between solids and two-dimensional figures, which form the basis of manufacturing, and learn drafting techniques for product design and product simulation. Students will also learn the fundamentals of digitization in drafting.

Learning activities outside the classroom

・ Be sure to review the course content regularly.

・ Engage in self-directed learning of basic CAD operations.

・ The standard time required for preparation and review for this class is two hours per session.

Grading Criteria / Policy

・ Attendance (deduction-based evaluation)

・ Active participation in class and learning attitude

・ Assignment submission (100%)

図形科学基礎演習Ⅳ

石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握し、伝達する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。

その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。

また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。

また、図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】

立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。

CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習3
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	寸法記入、断面図
7	寸法記入、断面図	CADによる三角法作図の基礎演習-1
8	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
14	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。

13	CADによる三角法作図の応用演習-3	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ) 整合性の検証)
14	CADによる三角法作図の応用演習-4	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習は必須。

CADの基本操作を自主的に学習する事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。教科書は使用しません。

【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

【その他の重要事項】

活授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時、電子メールでも質問を受け付ける。

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand the relationship between solids and two-dimensional figures, which form the basis of manufacturing, and learn drafting techniques for product design and product simulation. Students will also learn the fundamentals of digitization in drafting.

Learning activities outside the classroom

・ Be sure to review the course content regularly.

・ Engage in self-directed learning of basic CAD operations.

・ The standard time required for preparation and review for this class is two hours per session.

Grading Criteria / Policy

・ Attendance (deduction-based evaluation)

・ Active participation in class and learning attitude

・ Assignment submission (100%)

COT100ND（計算基盤 / Computing technologies 100）

データ処理基礎演習

高田 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大量のデータを比較的容易に収集・蓄積できるようになった現代においては、膨大なデータの中から有益な情報をいかに抽出するかが重要になる。各種データを統計的に処理する際に必要となる概念や手法の基礎について演習を通して学ぶ。

【到達目標】

- ・表計算ソフト（Microsoft Excel）の基本的な操作ができる。
- ・データを整理し分布をグラフで表現することができる。
- ・平均・分散などの代表値を用いて分布の特徴を把握することができる。
- ・2次元データをまとめ、2変数間の関係を調べることができる。
- ・確率や統計的推測（集団の一部分から得られたデータに基づいて集団全体の特徴を推測する方法）の基礎知識を習得している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

1次元および2次元データのまとめ方、統計的推測について演習を行いながら学ぶ。

動画により予習を行い、講義の時間に演習もしくは小テストによって理解度を確認・定着するということを繰り返す形式で授業を進める。演習には Microsoft Excel を多用する。課題の提示やお知らせには授業支援システムを用い、課題の回収や小テストの実施はClassroomを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的・進め方についての説明と授業で扱う内容の概説を行う。
2	Excelの基礎	Excelの基礎（基本操作・相対参照/絶対参照・Excel関数）について学ぶ。
3	データの記述・グラフによる分布の把握（基本）	データの種類とデータのまとめ方の基本的な方針について理解した後、度数分布表・ヒストグラム・その他のグラフについて、Excelによる作成方法を含めて基本を学ぶ。
4	データの記述・グラフによる分布の把握（応用）	データの記述・グラフによる分布の把握を応用して演習を行う。
5	数値による分布の把握（基本）	分布の中心的位置を表す数値（平均値・中央値・最頻値）と広がりを表す数値（分散・標準偏差・四分位数）について、その意味と活用方法について学ぶ。また、標準化について基本を学ぶ。
6	数値による分布の把握（応用）	数値による分布の把握を応用して演習を行う。
7	前半の内容に関する演習	前半の内容に対し、自分で収集したデータを統計的に処理する演習を行う。
8	2次元データの記述（質的変数）	分割表・連関係数・カイ2乗値について理解し、2変数（質的変数）間の関係を把握する方法を学ぶ。また、カイ2乗検定（独立性の検定）について学ぶ。
9	2次元データの記述（量的変数）	散布図・相関係数について理解し、2変数（量的変数）間の関係を把握する方法を学ぶ。また、回帰直線について学ぶ。
10	2次元データの記述（演習）	2次元データの記述に関する演習を行う。
11	確率・確率変数	統計的推測を学習するための準備として、確率と確率変数の基本事項（確率分布・期待値・分散）や正規分布について学ぶ。

12	統計的推測（母平均・母比率の推定）	標本抽出・標本分布・中心極限定理を理解し、統計的推測（点推定・区間推定・仮説検定）の基礎について学ぶ。統計的推測では、おもに母平均の母推定と比率の推定を扱う。
13	統計的推測（母平均の差の推定）	母平均の差の推定について学ぶ。
14	後半の内容に関する演習	後半の授業内容の復習を行い、自分で収集したデータに関する分析を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンデマンド動画により事前の予習をしてから講義に参加する。講義では、予習の内容を定着させる演習を行う。その日の内容を復習して、演習を完成させる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。授業支援システム上にて講義資料を配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義中の小テスト 55% 2回の演習課題 45%、により評価する。
4回以上欠席した場合は評価の対象外（E判定）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業時間を有効活用するため、基礎的内容については授業前に理解・確認しておくよう事前にオンデマンド動画で予習をすることとする。
- ・演習のやるべきことがわかりにくいという意見があり、改善します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・edu2020貸与ノートパソコン：演習等に利用する。毎回持参すること。
- ・授業支援システム：お知らせの配信、資料・スライドの配布、課題の提示等に利用する。
- ・Classroom：課題の回収、授業内小テスト・課題の評価などに利用する。

【その他の重要事項】

法政大学のメールアドレスにメールを送ることがあるので、メールの確認を怠らないこと。

【オフィスアワー】

メールで対応する。
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, through exercises in Microsoft Excel students will learn fundamental concepts and techniques for describing and analyzing statistical data.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 25%、Short reports : 20%、in class contribution: 55%

OTR200ND（その他 / Others 200）

テクノロジー基礎論

山田 泰之、SEONG YOUNG AH、坂間 清子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品をデザインする際に、そこで利用可能な技術の基礎を学ぶ。内容は次のとおりである。

(1) 電気回路と制御（ソン） (2) 機械設計の基礎（山田） (3) 機械工学の基礎（岩月）

【到達目標】

現在の技術の基礎を学ぶ。
市場にある製品が、どのような技術を基盤として成立しているか認識できるようにする。また、製品企画の際に、その製品を開発するためには、どのような専門知識をもちいて、どのようなプロセスを経なければならないかを認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、複数教員（ソン、山田、坂間）によるオムニバス方式形式とする。
各教員によるそれぞれの分野の講義が終了した時点または毎時、授業内試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ソン	ガイダンス 電気回路基礎	本講義のガイダンスの後、電気回路の基礎、電流と電圧、抵抗について学ぶ。
ソン	交流回路、電子部品	複雑な回路、電力、交流回路、重要電子部品について学ぶ。
ソン	電子工作基礎	抵抗の測り方、電子工作方法について学び、電気回路シミュレーターを動かしてみる。
ソン	制御システム	センサーとアクチュエーターについて学び、配布教材を用いたプログラミング演習（PWM制御）を行う。
ソン	理解度確認試験	対面試験を予定
山田	デジタルファブリケーションの基礎	3Dプリンタ等のデジファブを活用するために、3DCAD、中間ファイル、スライサ等の基礎と利用方法を説明する。
山田	機械設計の基礎	目的に合わせた機械を設計するために必要な機械設計の基礎を学ぶ。
山田	機械要素の基礎	様々な効果・機能を有した代表的な機械要素とその仕組みや利用方法を学ぶ。
山田	人間工学の基礎	機械を設計する上で、機械を利用する人間についても理解が必要である。人間工学の基礎を学ぶことで、人間中心設計の導入を行う。
山田	理解度確認試験	対面試験を予定

坂間	材料の特性と加工方法	材料にはたらく力、材料の特性、応力とひずみ、材料の種類、加工法
坂間	機械系の三要素と運動方程式	ばね・質量・ダンパ、はたらく力と運動方程式、剛体の運動
坂間	1自由度の振動系	減衰のない自由振動、固有振動数、減衰のある自由振動、強制振動
坂間	理解度確認試験	対面試験を予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校の物理 I 程度の知識および、基本的なコンピュータリテラシーを仮定する。不足している学生は、復習しておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

各担当者毎に、参考となる資料等を指示する。

【成績評価の方法と基準】

3回の授業内小試験の総合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

気がついたことは、授業内に希望意見として述べる事が望ましい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC（開発環境を統一させるために、大学で配布したノートPCが望ましい）

【その他の重要事項】

学習支援システムのお知らせを確認すること。

【Outline (in English)】

In this course students will learn about the fundamentals of potential technologies for use in design through the following topics:

1) Electrical Circuit and Control (Prof. Seong) 2) Fundamental mechanical design (Associate Prof. Yamada) 3) Fundamental mechanical engineering (Prof. Tanaka)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 40%, in class contribution: 60%

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

クリエイション基礎論

土屋 雅人、大西 景太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

クリエイション基礎論は、講義形式の授業となります。

前半、後半各7回ずつで担当教員が変わります。

本授業では、海外の文化を柔軟に取り入れながら発展してきた日本の美の要素に関する知識と、現代のものやサービスのデザインに必要な普遍的な美の表現形式に関する知識を習得します。

【到達目標】

日本の美とものやサービスのデザインに必要な美的表現に関する基礎知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は二部構成となり、第一部は1回目より7回目までを大西教授、第二部は8回目から14回目までを土屋教授の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第1部は、日本美術史にみる古典表現と現代美術・デザインの関りについて

第2部は、視覚情報伝達と情報価値、認知工学について

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、および日本美術のクリエイション1	本講義の概要、注意点、および縄文・弥生・古墳／飛鳥・奈良時代の美について解説します。
2	日本美術のクリエイション2	平安時代の美について解説します。
3	日本美術のクリエイション3	鎌倉・南北朝／室町時代の美について解説します。
4	日本美術のクリエイション4	桃山・江戸時代①の美について解説します。
5	日本美術のクリエイション5	江戸②／明治時代の美について解説します。
6	日本美術のクリエイション6	大正・戦前戦後の美について解説します。
7	日本美術のクリエイション7、授業内試験	現代の美について解説します。 授業内試験を行います。
8	ビジュアルシンキング	思考のための視覚表現を学びます。
9	グラフィックデザイン	印刷媒体とグラフィックデザインの働きを学びます。
10	情報伝達と認知	情報の分類と理解の仕組みを学びます。
11	ピクトグラムデザイン	情報の記号化とピクトグラムの役割を学びます。
12	サイン計画	情報伝達とサイン計画を学びます。
13	ダイアグラムデザイン	メディアの変遷とダイアグラムの機能を学びます。

14 情報価値の創造 情報の構造化とメディア、情報価値の創造を学びます。
授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の美や美の表現形式に関する多くの知識を学ぶので、講義ノートをしっかり取ることが重要です。

予習復習を行い、授業内容の理解を促すための課題は指示通りに提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて・授業内で配布

学習支援システムの教材にテキストを掲示

【参考書】

「増補新装 カラー版日本美術史」、辻 惟雄(監修)、美術出版社

「日本美術史 JAPANESE ART HISTORY」、山下裕二(監修)、美術出版

「グラフィックデザイン基礎講座」、大里浩二(監修)、美術出版

「情報デザインのワークショップ」、山崎 和彦他(著)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

課題、試験の他、学習態度を平常点として評価します。

各課題合計（30％）、試験（40％）、平常点（30％）

2名の教員の成績の平均より評価判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートの結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

In this class, we will study about the elements of Japanese beauty which have been evolved while incorporating foreign cultures, and knowledge about the beauty of expression necessary for the design.

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Quality of objects:30%, Term-end examination:40%, In class contribution:30%.

メカトロニクス演習

岩月 正見

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械と電子、あるいはそれらを結びつける制御技術が一体化した総合デザイン技術である。本演習のテーマは、メカトロニクスの講義内容などを踏まえ、メカトロニクスのシステムを構成する基本的な要素であるセンサやアクチュエータをマイクロコンピュータを用いて、様々な機能を実装する手法を実習を通して学ぶ。

【到達目標】

- ・メカトロニクスシステムを構成する様々なセンサやアクチュエータの実際の動きと制御方法を理解すること。
- ・各種センサやアクチュエータを制御するためのマイクロコンピュータの特徴と機能を実装するための開発スキルを身につけること。
- ・コンセプトを決め、決められた条件（仕様）により、自由な発想で、具体的なメカトロニクスシステムの作品を構築できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

実習用のメカトロニクス教材を用いて、具体的なメカトロシステムのデザイン例を参考にしながら、実際のものづくり・メカトロシステムづくりの実習をととして、その考え方を学ぶ。

テクノロジー系の3名の教員（小林・岩月・田中）が、マイクロコンピュータのプログラミング開発環境および各種センサやアクチュエータの基本的な実装方法とそのプログラムについて解説し、各課題ごとに各自演習をこなす。

最終課題は各自で作品のコンセプトを立案し、そのコンセプトに沿った創造的なメカトロニクスシステムをデザインし、その作品を制作して発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと例題1	ガイダンス ・教材配布と確認 ・ESP32の特徴 ・M5Atom Lite解説 ・開発環境構築 ・ブレッドボードの使い方 例題 ・LEDを点滅させる ・スイッチでON/OFFする
第2回	演習1	演習 ・点滅の時間を変化させる ・複数のLEDを交互に点滅させる ・スイッチでLEDをON/OFFする
第3回	例題2 表示系 センサ系1	例題 ・LEDの明るさを変える ・圧電スピーカを鳴らす ・LCDに文字を表示する ・接触を検知する ・つまみの角度を検知する ・光を検知する ・音を検知する 例題 表示系 LEDの明るさを変える 圧電スピーカを鳴らす LCDに文字を表示する
第4回	演習2 表示系 センサ系1	演習 ・音を検知するとLEDのONとOFFが切り替わる ・つまみの角度でLEDの明るさを変える ・暗くなると圧電スピーカが鳴る ・触ると音階が鳴る楽器を作る ・可変抵抗の可変電圧をLCDに表示する

第5回	例題3 センサ系2	例題 ・白黒を判別する ・距離を計測する ・加速度と角加速度を計測する ・温度と湿度を計測する
第6回	演習3 センサ系2	演習 ・白い物をかざすとLEDが点滅する ・物が近づくと圧電スピーカが鳴る ・ブレッドボードを縦や横にすると赤や青のLEDが光る ・温度と湿度を液晶ディスプレイに表示する
第7回	例題4 アクチュエータ系1	例題 ・サーボモータで角度を制御する ・ステッピングモータで角度を制御する
第8回	演習4 アクチュエータ系1	演習 ・つまみの角度でモータの回転角を制御する ・物の距離に応じてモータの角度が変化する
第9回	例題5 アクチュエータ系2	例題 ・DCモータの正逆回転を制御する ・DCモータで回転速度を制御する
第10回	演習5 アクチュエータ系2	演習 ・白黒に応じてモータの正逆回転を制御する ・つまみの角度でモータの回転速度を制御する
第11回	応用演習1	進捗状況をみて課題設定
第12回	応用演習2	最終課題に向けての自由研究
第13回	最終作品発表 前半	最終課題に対するコンセプトと最終作品の動作の様子を発表する。
第14回	最終作品発表 後半	最終課題に対するコンセプトと最終作品の動作の様子を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・シラバス内容を事前に確認する。
 - ・実習用教材を用いて基本コンセプトと課題に対する作品を制作する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて各自がWEB等から資料を収集すること。

【参考書】

関連するプリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

課題（60％）および最終課題に対する作品制作とその発表会での動作や説明に対する評価（40％）を基に、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実習用教材の故障に対する苦情が多く寄せられたので、事前のメンテナンス等を慎重に行い対応する。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【Outline (in English)】

The aim of this practical course is to learn methods for implementing various functions of sensors and actuators, being the basic elements of mechatronics systems, through use of microcomputers, drawing on topics from mechatronics lectures.

Students are required to confirm the contents of the syllabus in advance and create works for basic concepts and assignments using the distributed practice materials.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Comprehensive evaluation will be made on the basis of the assignments (60%) and the evaluation of the student's work on the final project and the achievement and explanations at the presentation (40%).

MAN200ND（経営学 / Management 200）

マーケティング演習

遊橋 裕泰、野々部 宏司、丹澤 弘樹

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商品やサービスを生み出すには、その前提として市場を知ることが大切である。そのために必要なマーケティングの基本知識・技能を、今後の専門的、総合的な学習・実習を行うための基礎素養として身につける。

【到達目標】

- ・商品やサービスを企画する際のマーケティングの役割とプロセスを理解すること
- ・マーケティングにおける企画検討と市場調査の方法を理解し、実践できること
- ・市場調査結果を踏まえたマーケティングプランの作成を行えること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回2コマ連続で実施する。

第1回・第2回でマーケティングの基礎概念を学ぶ。

第3回以降は、マーケティングの一連のプロセスを講義とグループワーク演習によって実践的に学ぶ。

途中、ゲストスピーカー講演聴講によって、マーケティングの実際を学ぶ（変更の可能性あり）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、マーケティングの視点	授業の目的や進め方の説明の後、「作った商品・サービスを売るのではなく、売れる商品・サービスを作る」というマーケティングの基本的な考え方やマーケティングの視点について、事例を交えて学ぶ。
2	マーケティングの理論と基本概念	マーケティングの基礎概念としてのSTP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）、4P（Product：商品政策・Promotion：プロモーション政策・Place：流通政策・Price：価格政策）、マーケティングミックスについて学ぶ。
3	商品・サービスの企画検討（アイデア創出）	アイデア創出の方法を学び、新たな商品・サービスのアイデアの検討を行う。
4	商品・サービスの企画検討（バリュエーション）	バリュエーションの考え方を学び、前回検討した新たな商品・サービスのアイデアをもとに、グループワークでマーケティング戦略の検討を行う。
5	企画書の作成	前回に引き続き、マーケティング戦略の検討を行い、企画書を作成する。
6	市場調査の基礎、定性市場調査の基礎	前半で市場調査（定性調査・定量調査）の基礎について学ぶ。後半で定性的な市場調査の目的や方法について学習し、インタビューの質問内容をグループワークで検討する。
7	定性市場調査の実践（インタビュー）	学生相互にインタビューを実施する。
8	定量市場調査の理論と実践（アンケート設計）	定量的な市場調査の目的や方法について学習する。代表的な消費者行動の理論やアンケート設計の手法を学び、顧客ニーズを把握するためのアンケート設計をグループワークで行う。また、アンケート調査結果分析の方法や集団の特徴を捉えるための統計的手法について学ぶ。
9	中間発表	グループワークで検討してきた企画書の中間発表を行い、プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

10	定量市場調査の実践（アンケート結果分析）	アンケート調査結果の集計と仮説に対する分析をグループワークで行う。
11	マーケティングプランの再検討（ビジネスモデルキャンバス）	ビジネスモデルキャンバスの活用方法について学ぶ。また、定性および定量市場調査の結果を踏まえて、これまでに検討してきた新たな商品・サービスの企画案・マーケティングプランの見直しを行う。
12	ゲストスピーカー講演	マーケティングに携わる実務家を招き、取り組みの実際を紹介していただく。（都合により日程が変更になる場合がある。）
13	マーケティングプランの再検討、発表準備	マーケティングプランの再検討、プレゼンテーションの準備をグループワークで行う。
14	マーケティングプラン発表会、総括	グループワークで検討してきた企画とマーケティングプランについてのプレゼンテーションをグループごとに行う。プレゼンテーションに対するフィードバックを行い、授業全体を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容の復習と課題の実施。

第4回以降、グループ単位での演習が中心となる。授業時間外にも共同作業ができるよう適宜グループ内で調整すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・西川英彦・廣田章光（編著）：「1からの商品企画」、碩学舎、2012年
適宜、補足資料を配布する。

【参考書】

・石井淳蔵・廣田章光（編著）：「1からのマーケティング」、第3版、碩学舎、2009年（流通過程においてマーケティングを実践するための理論と事例が紹介されている）

【成績評価の方法と基準】

・個人課題（40%）：個人レポート（ゲストスピーカー講演に関するレポート、最終レポート）、授業内課題
・グループ課題（60%）：商品・サービスの企画書、アンケート調査票、インタビュー質問票、アンケートの結果と分析、インタビューの結果と分析、マーケティングプランのプレゼンテーション
4回以上欠席した場合は評価の対象外（E判定）とする。30分以上の遅刻は、特別な理由がない限り欠席とみなす。遅刻は減点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

・グループワーク演習において、演習の内容や目的、位置づけを全員が明確に意識するよう繰り返しそれらについて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

・edu2025貸与ノートパソコン：講義・小テスト・グループワーク等で使用する。とくに指示がない限り、毎回持参すること。
・授業支援システム：お知らせ・資料配布・課題回収等に利用する。受講者は必ず自己登録すること。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course deals with fundamental concepts and techniques in marketing. The goal of this course is to acquire basic knowledge and skills in marketing that will be useful for producing products and services required by consumers. Students will be expected to have completed the required assignments. after each class meeting. Your study time will be two hours for a class. Grading will be decided based on individual assignments (40%) and group assignments (60%).

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築生理心理 1

加用 現空

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体と建築空間の間では、熱や空気などの物質・エネルギーが常にやりとりされており、建築デザインは人間の生命活動や感覚に深く関わっている。また、建築空間は周辺環境との相互作用の中で成立し、その重なりの中で住環境や都市空間が形成される。本講義では、こうした身体—建築—環境の関係を環境とシステムの入れ子構造として捉え、履修者が建築環境と身体との関係を理解し、建築設計を考えるための基礎的な建築環境学の知識と視座を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・ 建築環境をシステムとして捉え、身体・建築・周辺環境の関係を説明できる。
- ・ 建築デザインと環境要素（熱・空気など）のふるまいとの関係を説明できる。
- ・ 建築環境と身体との関係を検討するための基礎的な手法を用いることができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
		◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要
2	環境（1）	温冷感とエネルギー収支
3	環境（2）	人体のエネルギー収支
4	環境（3）	水蒸気のふるまい（空気線図、水蒸気分圧）
5	環境（4）	太陽光（太陽光、散乱、放射と波長、空の温度）
6	環境（5）	植物と光・エネルギー収支
7	建築（1）	環境と建築形態（境界のデザイン）
8	建築（2）	アクティブシステム：太陽光パネルと電灯照明
9	建築（3）	パッシブシステム：昼光利用
10	建築（4）	アクティブシステム：換気の原理
11	建築（5）	パッシブシステム：自然換気のエネルギー収支
12	都市（1）	屋外の熱環境1（放射環境、形態係数、熱影響）
13	都市（2）	屋外の熱環境2（風圧係数、気流）
14	まとめ	建築設計に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に授業終了時点で理解が十分でない部分については次回授業までに理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギー—環境物理学入門』 宿谷昌則著(2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著(2010) 井上書院

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: The architectural design takes an important role to create a secured and sanitary environment for our body system. The course focuses on the behaviour of mass and energy between the human body and the architectural space. Also, the behaviour can be seen between the architecture and the environment. The aim of the course is to understand the nested structure of the systems and the environment and connections between architectural space and our body system.

Learning Objectives: 1) To understand the concept of "System and the Environment", 2) To understand the behaviour of physical elements in the architecture, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

材料の力学

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築材料の物理的性質と建築の基本部材である梁の力学的基礎

【到達目標】

材料の基礎的な力学理論からいかにして簡潔で美しい線材理論が導かれるかを学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

人類は、生活圏内で手に入れることのできる材料を用いて、雨風を凌ぐための建築空間を作ってきた。遺構を含め今日までの建築空間はそれぞれ用いた材料の性質に制約を受けながらも、その可能性を最大限に引き出したものと言える。そこには材料に対するあまたの経験と理解に基づく人類の創意工夫がある。これを物理学の視点から整理統合し、予測可能な技術として発展させた設計のための経験科学が材料の力学である。本講では建築空間を構成する基本的な構造部材である梁や柱などの1次元部材を対象に材料の力学を論じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	垂直応力度と垂直ひずみ度	力のつり合いと応力 応力度と強度 ひずみ度 構成方程式
2	せん断応力度とせん断ひずみ度	構成方程式 ポアソン比 せん断ひずみ度 せん断弾性係数
3	はりの曲げ応力度	曲げを受けるはり はりの曲げ応力 中立軸 断面係数
4	はりのせん断応力度	曲げモーメントとせん断力の関係 せん断応力度の分布 せん断流理論 せん断中心とねじり
5	軸力と曲げモーメントの組み合わせ	軸力と曲げの連成 重ね合わせの原理 偏心軸力 断面の核
6	総合演習（1）：応力度とひずみ度	授業内演習
7	はりの基本式	はりの基本式の導出 はりの基本式の応用
8	断面の性質	断面1次モーメントと図心 断面2次モーメントと断面係数 断面相乗モーメントと断面の主軸
9	はりの変形	はりの基本式の導出
10	はりの基本式	はりの変形の求め方
11	モールの定理	モールの定理の導出と応用
11	総合演習（2）：はり理論	授業内演習
12	座屈（1）	オイラー座屈 座屈応力度、許容圧縮応力度 初期たわみ
13	座屈（2）	有効座屈長さ ラーメンの座屈
14	総合演習（3）：座屈	授業内演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義板書内容を復習、実施された演習プリントの反復。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

Stephen P. Timoshenko: History of Strength of Materials, Dover, 1983, Paperback.

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：50%（各100点満点）

定期試験：50%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

ただし、定期試験で85点以上の者は、演習30%試験70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

また、連続3回欠席、通算で5回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

この授業と、春学期に同時開講される「部材の力学」で学んだ知識をもとに、秋学期必修科目として開講される「骨組の力学」は展開されるため、非常に重要である。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計実務経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

Learn about the physical properties of building materials and the basic mechanical theory of beams, which are the basic members of architecture.

Learning Objectives:

Learn how a concise and beautiful wire theory can be derived from the fundamental mechanical theory of materials.

Learning activities outside of classroom:

Review of previous lecture board content and repetition of exercises printed in the conducted exercises. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

部材の力学Ⅹ

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能的で安全な建築物を設計するには、地震などの外力に対して、骨組に生じる力を把握することが重要です。この授業では、構造力学の基礎である静定力学を学びます。力の概念と力の釣り合い、そして骨組に生じる力の流れを可視化するのに役立つ応力図の作成方法を説明します。力学の勉強は、絵でいえばデッサンに相当するもので、原理を理解すると共に、自ら手を動かして数多くの演習問題を解くことが重要です。

【到達目標】

静定力学は、力の釣り合い式を解くことで、トラス、ラーメンなど骨組に生じる力を求めます。構造力学を学ぶ上で、重要な基礎となるものです。演習問題に取り組むことで、具体的な計算方法、力の作図方法を習得します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・ 授業開始前に教材テキストを配布します。
- ・ 各回の授業で演習問題を出題します。各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次の講義前に提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力および合力	力、力の3要素、モーメント、偶力、合力、力の三角形
2	力の合成	数式解法、図式解法、示力図、連力図
3	力の釣合	数式解法、図式解法、
4	構造物に作用する力	荷重、支持点、反力、静定と不静定、静定構造物
5	静定構造物の反力 (1)	静定梁、静定梁の反力
6	静定構造物の反力 (2)	静定ラーメン、静定ラーメンの反力
7	中間試験	試験・解説
8	静定梁の断面力 (1)	荷重、断面力、せん断力、曲げモーメント
9	静定梁の断面力 (2)	各種荷重を受ける片持梁の断面力
10	静定梁の断面力 (3)	各種荷重を受ける単純梁の断面力
11	静定ラーメンの解法 (1)	片持型ラーメン、単純梁型ラーメン
12	静定ラーメンの解法 (2)	3ヒンジ型ラーメン、3ローラー型ラーメン

13	静定トラスの解法 (1)	トラスの基本原則、数式解法、節点法
14	静定トラスの解法 (2)	図式解法、クレモナ図、切断法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業開始前に出題された演習問題に取り組み、次の授業前までに解答を作成して提出すること。
本授業は、演習問題の解法の自習に100分、そして演習問題解答と復習の時間に各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（30%）、期末試験（40%）、演習提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to design functional and safe buildings, it is important to understand the forces that occur in the framework in response to external forces such as earthquakes. In this course, students learn about static determinacy mechanics, the foundation of structural mechanics. The course explains the concept of force, the balance of forces, and how to create stress diagrams to help visualize the flow of forces in a framework. Studying mechanics is the equivalent of drawing in painting, and it is important to understand the principles as well as to do numerous exercises on your own with your hands.

【Learning Objectives】

Static determinacy mechanics solves the force balancing equation to obtain the forces in a framework, such as a truss or ramen. It is an important foundation for learning structural mechanics. By working on exercises, students will learn specific calculation methods and force drawing methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to work on the exercises before the beginning of each class, and to prepare and submit their answers before the next class.

The standard class time is 100 minutes for self-study of how to solve the exercises, and 2 hours each for answering the exercises and reviewing.

【Grading Criteria /Policy】

Mid-term exam (20%), final exam (50%), and exercise submissions (30%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

部材の力学Y

西園 博美

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能的で安全な建築物を設計するには、地震などの外力に対して、骨組に生じる力を把握することが重要です。この授業では、構造力学の基礎である静定力学を学びます。力の概念と力の釣り合い、そして骨組に生じる力の流れを可視化するのに役立つ応力図の作成方法を説明します。力学の勉強は、絵でいえばデッサンに相当するもので、原理を理解すると共に、自ら手を動かして数多くの演習問題を解くことが重要です。

【到達目標】

静定力学は、力の釣り合い式を解くことで、トラス、ラーメンなど骨組に生じる力を求めます。構造力学を学ぶ上で、重要な基礎となるものです。演習問題に取り組むことで、具体的な計算方法、力の作図方法を習得します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業開始前に教材テキストを配布します。
- ・各回の授業で演習問題を出題します。各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次の講義前に提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力および合力	力、力の3要素、モーメント、偶力、合力、力の三角形
2	力の合成	数式解法、図式解法、示力図、連力図
3	力の釣合	数式解法、図式解法、
4	構造物に作用する力	荷重、支持点、反力、静定と不静定、静定構造物
5	静定構造物の反力 (1)	静定梁、静定梁の反力
6	静定構造物の反力 (2)	静定ラーメン、静定ラーメンの反力
7	中間試験	試験・解説
8	静定梁の断面力 (1)	荷重、断面力、せん断力、曲げモーメント
9	静定梁の断面力 (2)	各種荷重を受ける片持梁の断面力
10	静定梁の断面力 (3)	各種荷重を受ける単純梁の断面力
11	静定ラーメンの解法 (1)	片持型ラーメン、単純梁型ラーメン
12	静定ラーメンの解法 (2)	3ヒンジ型ラーメン、3ローラー型ラーメン

13	静定トラスの解法 (1)	トラスの基本原則、数式解法、節点法
14	静定トラスの解法 (2)	図式解法、クレモナ図、切断法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業開始前に出題された演習問題に取り組み、次の授業前までに解答を作成して提出すること。

本授業は、演習問題の解法の自習に100分、そして演習問題解答と復習の時間に各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（30%）、期末試験（40%）、演習提出物（30%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to design functional and safe buildings, it is important to understand the forces that occur in the framework in response to external forces such as earthquakes. In this course, students learn about static determinacy mechanics, the foundation of structural mechanics. The course explains the concept of force, the balance of forces, and how to create stress diagrams to help visualize the flow of forces in a framework. Studying mechanics is the equivalent of drawing in painting, and it is important to understand the principles as well as to do numerous exercises on your own with your hands.

【Learning Objectives】

Static determinacy mechanics solves the force balancing equation to obtain the forces in a framework, such as a truss or ramen. It is an important foundation for learning structural mechanics. By working on exercises, students will learn specific calculation methods and force drawing methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to work on the exercises before the beginning of each class, and to prepare and submit their answers before the next class.

The standard class time is 100 minutes for self-study of how to solve the exercises, and 2 hours each for answering the exercises and reviewing.

【Grading Criteria /Policy】

Mid-term exam (20%), final exam (50%), and exercise submissions (30%)

骨組の力学

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の基本原理解であるエネルギー原理を用いて、様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法について学ぶ。

【到達目標】

様々な静定構造物の変形および不静定構造物の応力を求める解法の修得と基本的な構造形式の力学性状の把握を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
			◎		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「部材の力学」では、力のつりあいについて学習し、静定構造物の応力を求めた。また、「材料の力学」では、構造部材に働く応力度とひずみ度の関係、断面の性質について学習した。
この授業では、物理学の基本原理解であるエネルギー原理を用いて、様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法を主に学習する。
理論や解析手法を修得するだけではなく、基本的な構造形式が持つ力学特性についても把握するため、数多くの演習問題に挑戦してもらう。
基本的な1回の授業は、前回演習課題の解説→講義→演習課題発表→自宅での演習→次回授業での演習課題提出という流れである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	授業概要 構造物の安定・不安定
2	静定構造物の応力（復習）	片持ち梁 単純梁 静定ラーメン 静定トラス
3	直線部材の変形（復習）	はりの基本式（弾性曲線方程式） モールの定理
4	総合演習（1）	授業内試験
5	エネルギー原理	仕事とエネルギー 熱力学の基本法則 ひずみエネルギー 仕事の原理
6	仮想仕事の原理	仮想仕事の原理 重ね合わせの原理 相反定理 単位仮想荷重法
7	静定トラスの変位 静定はりの変位	軸力部材の変位 静定トラスの変位 強制変形による変位 はり部材の変位 片持梁の変位 単純梁の変位 変断面梁の変位
8	静定ラーメンの変位	ラーメン構造の変位 片持梁型ラーメンの変位 単純梁型ラーメンの変位 3ヒンジラーメンの変位
9	Castiglianoの定理	Castiglianoの定理の導出 Castiglianoの第2定理の応用 最小仕事の定理の応用
10	総合演習（2）	授業内試験
11	不静定構造物の応力	不静定構造物の解法 不静定構造物の例題1 不静定構造物の例題2
12	たわみ角法（1）	たわみ角法とは たわみ角法の基本式 不静定ラーメンの解法

13	たわみ角法（2）	剛度と剛比 層方程式
14	総合演習（3）	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等による予習と授業後の復習、宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：50%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）
期末試験：50%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし、定期試験で85点以上の者は、演習30%試験70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。
なお、演習課題の提出率が80%未満のものは成績評価しない
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて、授業進度を調整することに心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

「材料の力学」および「部材の力学」で学んだ知識を用いるため、これらの授業の復習は必ず行っておくこと。
構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:
Learn how to determine the stress and deformation states of various structures using the energy principle, a fundamental principle of physics.
Learning Objectives:
The goal is to master solution methods for determining deformation of various static structures and stresses in non-stationary structures, and to understand the mechanical properties of basic structural forms.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NA (建築学 / Architecture and building engineering 200)

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

1. 学生の会話能力向上
2. 様々な建築領域の語彙提供
3. 学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
						○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.

Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.
Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.

Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.
Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice. 国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

1. 学生の会話能力向上
2. 様々な建築領域の語彙提供
3. 学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The class will cover several fields of architecture, such as the reading and description of spaces, architectural representation tools, and analysis and conception. Students can explore the field of architecture from multiple perspectives, case studies, and discussions. They can also learn vocabulary from different domains of architecture.

学生は建築の分野について、多角的に学ぶことができる。また英語を聞き、話す機会を増やすことで実践的な英語能力を身につけることができる。建築分野の語彙の習得ができる。

【到達目標】

The goals of the class are to:

- 1.Improve students conversational abilities.
- 2.Provide students with vocabulary in various domains of architecture.
- 3.Provide students with the skills needed to make clear and effective project presentations.

クラスの目標は以下の通りです：

- 1.学生の会話能力向上
- 2.様々な建築領域の語彙提供
- 3.学生に明確で効果的なプロジェクトプレゼンテーションを行うためのスキルを提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

For each of the 14 classes, the professor will introduce a subject related to architecture or design. Students will gather in groups of 3 or 4 and discuss/debate the current subject based on visual documents provided by the professor. The professor will join each group to facilitate discussion and monitor the progress of the students. During the semester, students will be required to prepare visual materials for 4 presentations and discussions with the class. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

14回のクラスごとに、講師は建築やデザインに関連するテーマを紹介します。学生は3～4人のグループで集まり、講師が提供したビジュアルドキュメントを基に、現在のテーマについて議論やディベートを行います。講師は各グループに加わり、議論を促進し、学生の進捗状況を確認します。学期中、学生はクラスとの4つのプレゼンテーションと議論のためにビジュアル資料を準備する必要があります。すべての会話は英語で行われ、すべてのプレゼンテーション資料はPPTまたはPDFバインダーの形式で提出する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin	Students will introduce themselves to their group, give a presentation of their hometown and neighborhood. They will give their impressions on a remarkable building or space they remember.
Class 2	Graphic Representations; Tools of the Architect	Learn about the different graphic representations used by architects. The professor will present the different drawings and graphics which are commonly used by architects. Students will review in the group the different visuals provided by the professor. These visuals include sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details.

Class 3	Architectural Movement through 20th and 21st centuries.	The professor will introduce the different main movements in architecture throughout the 20th and 21st centuries, and the students will discuss in groups based on visuals provided by the professor, analyzing the characteristics of each movement, and discussing their influence on contemporary architecture.
Class 4	Contemporary Architecture; Art facility	The professor will present some examples of remarkable architecture related to Art facility (Museums, Art pavilions, etc.). Students will discuss in groups the different projects, analyzing design features and exploring architectural elements.
Class 5	Contemporary Architecture; Art facility; Presentation	Following the previous class, students will give a presentation of one building of their choice. This presentation to be submitted by PDF to the professor, prior to the class.
Class 6	Contemporary Architecture; Transportation, sport facilities, large scale buildings	The professor will present some examples of remarkable architecture related to transportation, sport facilities, and large-scale buildings. Students will discuss in groups the different projects, analyzing design principles and identifying innovative features.
Class 7	Urban Design; City planning, city scape	The professor will present different examples of city planning related to urban design. Students will discuss in groups the different plans, analyzing the layout and examining how they influence the physical form of the city.
Class 8	Micro Architecture	The professor will present a series of very small buildings related to different cities. Students will review and discuss in groups the examples given by the professor.
Class 9	Micro Architecture; Presentation	The students will be asked to find a micro building that has been created in a leftover space within the city. They will give a presentation to the class, focusing on the design process and any challenges faced during its construction. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.
Class 10	Contemporary Architecture; Habitat (Human living spaces)	The professor will introduce several case studies related to habitat, and the students will explore in groups the different forms the habitat can take.
Class 11	Contemporary Architecture; Habitat; Presentation	Students will look for examples of housing that challenge traditional ideas about houses. They need to pick one housing project (either individual or collective) and explain how and why it rethinks the idea of a home. Focus on architectural features, sustainability, and social impact. Submit your presentation as a PDF to the professor before the class.

Class 12	Architecture in Literature and popular culture	The professor will give examples of architecture models present in art production such as novels, movies, and paintings. The students will discuss in groups these examples.
Class 13	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation	Students will review and discuss a series of projects related to remodeling and rehabilitation, analyzing design transformations, evaluating sustainability aspects, and discussing the preservation of cultural heritage.
Class 14	Contemporary Architecture; Remodeling, rehabilitation; Presentation	Students will present one example related to remodeling and rehabilitation, collecting the different graphic representations introduced in class 2, such as sketches, diagrams, and renderings. This presentation is to be submitted as a PDF to the professor prior to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There is no preparation needed for most classes except for classes 5, 9, 11, and 14. For these classes, students will have to prepare visuals and materials to present and discuss with the class. Therefore, it is necessary to submit a PPT/PDF prior to the class. The presentation should be within 5 to 10 minutes.

クラス5、9、11、14回を除いて、ほとんどのクラスでは準備は必要ありません。5、9、11、14回のクラスでは、学生はプレゼンテーションおよび議論をするための視覚資料等を準備する必要があります。そのため、クラス前にPPT/PDFを提出する必要があります。プレゼンテーションは約5～10分以内を目安に行います。

【テキスト（教科書）】

No specific textbook is necessary.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

50%: Participation in group discussion

50%: Preparation of presentation materials

50%：グループディスカッションへの参加

50%：プレゼンテーション資料の準備

【学生の意見等からの気づき】

During the last semester, students were divided into small discussion groups, which provided a more comfortable and less intimidating setting than formal presentations in front of the class. This group discussion format proved successful, fostering better collaborative learning and increasing student engagement. Nevertheless, a few presentations will be included to recap the skills learned.

前学期には、学生を小さなディスカッショングループに分けました。これにより、クラス全体の前で行う正式なプレゼンテーションよりも、リラックスできて話しやすい環境が生まれました。このグループディスカッション形式は成功し、協働学習を促進し、学生の参加意欲を高める効果がありました。それでも、習得したスキルを振り返るために、いくつかのプレゼンテーションを実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

The teacher is working in an international architectural practice.

国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築法規（建築）

河野 泰治

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築物の設計・監理、運用・維持管理には、様々な建築法規を遵守しなければならない。
この授業では、建築の計画に必要な法規に加え、実際の計画に活かせるような多くの事例や社会との関係を学ぶ。

【到達目標】

建築の計画に必要な法規を学び、その社会的な背景や問題を理解することができる。
建築物がクライアントのためだけでなく、文化や社会にとって重要な資産であることがわかる。
また、建築物の社会に与える影響が、意匠に限らず安全性の確保、環境保全、経済等に及ぶことを理解する。
レポート課題を通して法規の現状とその問題点を把握し、演習課題では計画案の作成を通して実務につながるスキルを獲得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

建築基準法を中心とした講義だが、社会問題を取り上げるレポート課題や実務につながる演習課題を行う。
建築法規はほぼ毎年改正されている。講義では最新の法規を説明するが、内容により過去の法規の事例、地方自治体の条例を紹介し、法規が抱える社会問題にも言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	建築法規概論	様々な建築物と建築関連法規の関係を事例を通して紹介
2回	建築物とは何か	建築基準法上の建築物の法的な扱いや社会との関係を考察
3回	建築法規 総則等	総則・用語の定義 建築確認申請等
4回	集団規定（1） 建築物の機能や形態	用途地域・敷地と道路 建ぺい率と容積率 斜線制限等
5回	集団規定（2） 防火地域等の地域・地区 による制限	防火地域・準防火地域 地区計画 仮設建築物等
6回	集団規定（3） 多様な設計制度	一団地建築物 連担建築物 総合設計制度等
7回	演習課題（1） 集団規定の演習	ボリュームスタディの演習
8回	単体規定（1）	採光・換気一般構造 屋根・外壁の制限 耐火建築物・準耐火建築物等
9回	単体規定（2）	防火区画・防火壁 内装制限等
10回	単体規定（3）	廊下・避難階段 排煙設備、消防法 設備、構造
11回	演習課題（2） 単体規定の演習	防火・避難規定を主とした 演習
12回	建築法規事例	建築物の事例を通して、建築法規を学ぶ
13回	演習課題（3）	総合的な建築法規の演習
14回	総括	課題やレポートの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の前後、他のデザインスタジオ等に際し、実際の建築物の見学や設計資料を調べる時、建築法規まで意識するよう心がける。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

建築基準法および建築基準法施行令を用意すること。

参考 Web ページ、<https://elaws.e-gov.go.jp>

【参考書】

井上書院 基本建築関係法令集「法令編」令和〇〇年版

（受講する年の版を使用すること）

法、令、告示等のリンクがわかりやすく、建築士の資格試験に持ち込める。
その他の建築関連法規の法令集でも可。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は課題等すべて提出が必須条件

レポート課題 30 %

設計課題 50 %

課題エスキス 10 %

平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合は紙媒体による資料配付を行うが、特に法令の条文等の配付は行わない。

各自、ネット掲載の法令を出力したもの、パソコンやスマートフォンに法令を表示したものを用意すること。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

建築士の受験資格要件

レポートは図面やスケッチが必須

設計課題は構造や設備の基本的な内容を踏まえて図面として提出する必要があります

さらに法チェック（各種計算や法令による作図）を求めますので、

配置図・平面図・断面図・立面図に加え、各種面積算定、使用する材料、構造設計や設備設計の基本的な考え方がまとめられように準備してください

【Outline (in English)】

Outline

The planning, supervision, management and maintenance of buildings require the compliance of various construction regulations. In this course, in addition to regulations necessary for architectural planning, students will learn about how they relate and contribute to real-world examples and society.

Learning Objectives

Students Learn about the laws and regulations necessary for architectural planning.

Students understand the current status of laws and regulations and their problems through report assignments, and acquire practical skills through the preparation of draft plans in exercises.

Learning activities outside of classroom

In other classes, students should be aware of building regulations when visiting actual buildings and examining design documents.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

All assignments must be submitted for grading.

Report Assignment 35%

Design Assignment 40%

Esquisse Assignment 15%

Normal Score 10%

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

フィールドワーク（建築）

高道 昌志、高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則、対面でおこないます。

以下に概要と目的を記述します。

まちや建築の見かた・調べ方を学ぶ。講義を通して、まちや建物の何が重要か、それを示すためには何を示したら、つくったらいいかを考える。テーマは、担当教員の指導を受けながら、各自が数人のグループを形成し、みずから設定する。

【到達目標】

実測の方法を身につけ、それを図面化・模型化する過程と技術を習得することが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎					◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本講では、実際のフィールドを通して、都市や建築の歴史を考えていきたい。具体的には、地図や様々な史料を使いながら歴史的なまちの分析、あるいは住宅などの建物の実測調査と作図を行う。こうした作業を通じて、たんに分析方法や実測の知識をえるだけでなく、都市や建築の歴史的価値を見出し、その保存がいかに創造的な行為であるかを理解してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶのかを理解する。	フィールドワークとは？
2	まちと建物の見かた調べかた まちと建物の見かたのポイントを知る。	講義
3	グループ分けおよびスケジュールの作成 何を対象とするか、グループで議論する。	調査対象と4、5人からなるグループの登録。各グループによるスケジュールの提出（まち；史料収集→現地調査→プレゼンテーション、建物；部材名など知識の習得→実測調査→作図）
4	現地調査 まずはまちを歩いて対象を見つける。	各グループによる対象選定のためのディスカッション
5	事前審査 実際に可能かどうか、プレゼンテーションして審査を受ける。	各グループによる事前研究の審査
6	事前研究 対象を実際に訪れ、その特徴をつかむための知識を文献などから身につける。	各グループによる資料の収集および知識の習得
7	フィールド調査 現地におもむき、調査を行う。	各グループは、それぞれが作成したスケジュールにしたがって、調査、分析、作図を行う。まちのフィールド調査、建築の実測は、各グループが自主的におこなう。
8	フィールド調査 そのまちや建築の特徴を重点的に調査する。	現地調査
9	中間審査 中間報告を行って指示を受ける。	合同中間審査

10	フィールド調査 現地調査を再び行って資料を作成する。	現地調査
11	フィールド調査 現地調査を再び行って資料の精度を高める。	現地調査
12	フィールド調査 現地調査を再び行って補足を行う。	現地調査
13	作図・プレゼンテーション 現地調査を行って資料を作成する。	最終審査に向けての作図、プレゼンテーション作業
14	各グループの審査会 自分たちの視点を的確に相手に伝える。	成果を各グループごとに報告し、審査する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布プリントの意味を再読する。
 2. 配布プリントの意味を再読する。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 現地対象のディスカッションをグループで行う。
 6. 文献を調べる。
 7. 実際に一度行って、その魅力を示すための作業を行う。
 8. 実測等の現地調査を行う。
 9. 実測等の現地調査を行う。
 10. 中間報告のための準備をする。
 11. 実測等の現地調査を行う。
 12. 実測等の現地調査を行う。
 13. 現地調査のデータをまとめる。
 14. 模型・図面等の展示準備をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『江戸東京のみかた調べかた』鹿島出版会、『中国の都市空間を読む』山川出版社、『民家のみかた調べ方』第一法規。また、各グループに応じて、随時、ふさわしい参考書を指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間と最終成果物からなる総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
適宜、各グループの問題点の解決に対しアドバイスをを行う。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

指定機器なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course students will learn how to identify and investigate cities and architecture. During lectures we will consider what is essential to cities and architecture, what should be done to express them and whether they should be built. Topics will be independently chosen in groups while receiving guidance from instructors.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn a method of the actual survey and a process and the technique that a drawing makes it the model.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria / Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following, for works and presentation, middle examination : 30%, last examination : 70%.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

設備デザイン基礎

中野 淳太

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築設備の計画は、居住者の快適性・健康性を確保する上でも、省エネルギーを考慮する上でも重要である。本授業では、戸建住宅を対象に必要な条件を整理し、住宅設備設計を行う。電気設備・給排水衛生設備・換気設備・空調設備の多岐にわたる設備が単に機能するだけでは不十分である。地域インフラの状況、利用者のライフスタイルに合った利便性や快適性、将来的なライフスタイルの変化などを想定しながら、適切な設備システム・機器を選定し、設計できるようになることを目標とする。

【到達目標】

- 1) 建築設備が居住者の快適性・健康性に果たす役割を理解する。
- 2) 電気、空調、給排水の各設備分野の果たす役割を理解する。
- 3) 建築設備が住宅のエネルギー消費量に大きく関係していることを理解する。
- 4) 住宅の設備図面を一通り読み書きできるようにする。
- 5) 与えられた条件に応じて適切な設備システム・設備機器の選定ができるようにする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎			○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

2階建ての住宅をサンプルとして設備を選定し、設備図を描く演習を行う。設備図面等の関連資料は授業開始時に配布するので遅刻しないこと。また、講義中の演習が非常に重要なので体調不良等のやむを得ない場合を除いて欠席や遅刻をしないよう注意すること。

毎回の終了時、教員あるいはT Aに演習の進行状況をチェックしてもらうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	設備設計に用いる意匠図の書き方と設備設計図の関係
2回	電気設備(1)	電気設備の基礎、電気設備の記号
3回	電気設備(2)	幹線計画、分電盤計画
4回	電気設備(3)	照明計画、コンセント計画
5回	電気設備(4)	電気設備図の作成
6回	給排水設備(1)	排水設備の記号、排水方式、排水計画、ビルの給排水設備
7回	給排水設備(2)	給水配管計画、給湯配管計画、ガス配管計画
8回	給排水設備(3)	排水配管計画、下水管、雨水管
9回	空調設備(1)	冷暖房設備、ビルの空調設備
10回	空調設備(2)	換気計画、全熱交換器の選定、ダクト計画
11回	空調設備(3)	暖冷房設備の記号、床暖房の方式、エアコン容量の選定
12回	設計図書作成	全ての設備仕様と設備図面を一式の設計図書にまとめる
13回	住宅のエネルギー使用特性	日本の住宅エネルギー事情、地域特性、トップランナー基準
14回	プレゼンテーションと講評	これまでの学習事項の総復習を行い、各自の設備設計についてプレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では身近な住宅設備を題材にしているため、予め自宅の設備やなじみのある建物の設備を調査するなど、積極的な予習を期待する。

テキスト以外に必要な使用機器類（例えば電気照明設備計画では使用する照明機器類）のカタログや仕様などの情報を主体的に入手するなどの準備が必要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布する。

【参考書】

「建築設備パーフェクトマニュアル」山田浩幸（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、機器選定、図面演習等を行い、毎回提出する。毎回の演習30%と最終プレゼンテーション70%により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

紙図面製作のみでなく、PCを用いた表現をも取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC、タブレットPC等を持参する。また、教員の指示に応じて製図用具等を持参する。

【Outline (in English)】

The planning of building systems is essential for ensuring occupant comfort, health, and energy conservation. This course addresses the requirements and design of residential systems in single-family homes. It is not adequate for systems such as electrical, plumbing and sanitation, ventilation, and air conditioning to simply operate; they must be integrated to meet user needs. The course aims to equip students with the skills to select and design appropriate equipment, systems, and devices, taking into account regional infrastructure, user convenience and comfort, and potential future lifestyle changes.

デジタルスタジオ

安藤 直見、富田 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを活用して今日的な形態をデザインし表現する課題に取り組みながら、高度な3Dモデリングとレンダリング、動画による訴求力のあるプレゼンテーション、地図データの活用、アルゴリズムによる形態の生成などについて学びます。

【重要】本授業は2クラス制です。初回授業にて、クラス分けを行います。

【到達目標】

デジタルデザインの目標は、コンピュータを活用して「今日的な美しく複雑で躍動感のあるおもしろいカタチ※」をデザインし、美しく表現することにあります。デジタルデザインには、(1)CG (ComputerGraphics) による正確で効率的な3Dモデリング、(2)訴求力・説明力のあるリアリスティックな表現、(3)数値・数式による形態の自動記述（アルゴリズムックデザイン）の可能性、というの3つの利点があると考えられます。

(1)および(2)に関しては、建築形態の3Dモデリング、レンダリングを通して、建築の架構（物的構成）とテクスチャー（素材感）、パース効果、ライティング（光環境と陰影）などの視覚効果の原理を習得することを目標とします。地図データの活用による都市形態の分析と記述も習得も目標とします。

(3)に関しては、アルゴリズム（コンピュータ言語）を用いて図形・画像を生成する方法を習得することを目的とします。

1980年代以降、コンピュータはアートやデザインにも大きな影響を与えました。フラクタルの概念の考案したマンデルブロ（1924-2010）が提示したマンデルブロ集合（1982）はコンピュータでなければ実現できないデジタル・オリエンテッドな表現の一例といえると思います。その一方、製作の手段としてはコンピュータを用いながらも、デジタルであることを創作のコンセプトとは位置づけられないアナログ・オリエンテッドな（実体志向の）アート／デザインも少なくありません。

今日の映画には、実写であるかCGであるかが判別できない表現が見られます。CGの技術が使われていることと、CGであることの表現は別次元の問題です。建築においても、デザインの過程でCGを用いることはあっても、最終的に建設される建築はデジタルではなくアナログな（実体的な）ものです。そういった意味で、実際のデザインは、デジタル・オリエンテッドとアナログ・オリエンテッドの両者の間、あるいは、両者の関係の中に存在すると考えられます。建築デザインにおいては、これまでの歴史性・場所性の中で展開してきた実体的な建築・都市空間とコンピュータが創作した情報空間（インターネットを中心とした実体を伴わないコミュニケーション空間）と関係を考慮しながら、情報空間を建築・都市の中にどのように投影するか、また、実体としての建築・都市を、どのようにデジタルな表現に関係づけるかを意識していく必要があります。

本授業では、デジタルな表現の創作（演習）を通して、第1に、デジタル・オリエンテッドなアート／デザインの作法について学びます。第2に、実体としての建築・都市をコンピュータを用いてデジタルに記述・操作する作法を学びます。そして、第3に、両者の関係の上に成立する新たなデザインの提示を目指します。

※「複雑で躍動感のあるおもしろいカタチ」が望ましいデザインであるかどうかには異論の余地があるでしょう。デジタルデザイン（コンピュータを活用したデザイン）は、むしろ、単に「おもしろい」レベルにとどまらず、「何らかの合理性」をもったデザインを指向するべきだろうと思います。しかし、デジタルデザインには、より多様な形態を生成することができる可能性があると思いますので、デザインの可能性を広げるという意味で、「複雑で躍動感のあるおもしろいカタチ」ことを出発点にしてはどうかと思っています。学生のみなさんに、「何がおもしろい」のか、「おもしろいことを何かの応用できないか」といったことを考えて欲しいと思っています。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
				○		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

2クラス制の授業です。

毎回の授業で演習に取り組んでもらうことが基本です。毎回の授業の冒頭で解説を行い、その後に演習に取り組んでもらいます。

デジタルデザインでは、3Dモデリング、レンダリング、BIM (Building Information Modeling)、CAD (Computer Aided Design)、GIS (Geographical Information System)、画像処理、動画編集、プログラム言語等のソフトウェア（アプリケーション）を用います。本授業では、実習室（情報教室）のパソコンにインストールされている以下のソフトウェアなどを使用します。

Rhinoceros (Robert McNeel & Associates) ←3D モデリング

V-Ray (Chaos Group) ←レンダリング

Revit (Autodesk) ←BIM

VectorWorks (A&A) またはAutoCAD (Autodesk 社) ←CAD

Lumion 3D (Lumion) ←動画レンダリング

TwinMotion←動画レンダリング

Photoshop (Adobe) ←画像処理

Premiere (Adobe) ←動画編集

Grasshopper←Rhinoceros プラグイン（プログラム言語）

Dynamo←Revit プラグイン（プログラム言語）

Python←プログラム言語

なお、本授業の履修は、「図形の技術」（1年次配当科目）の履修を前提としています。詳しくは末尾の「その他」の記載を参照してください。

教員の他に、TA (TeachingAssistant =教育補助員) も指導を担当します。

TA はみなさんの先輩にあたる大学院生です。TA にも積極的に指導を受けてください。冒頭の解説をよく理解するように努め、疑問点があれば質問してください。演習への回答時には、教員の他、TA も質問等に対応します。演習は、指定された時間内の完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	◎ガイダンスと中間分け	デジタルスタジオで学ぶことの課題の提示、クラス理解
2	●課題1：Rhinceros(1)	幾何学的形態（パンテオン）のモデリング
3	●課題2：Rhinceros(2)	各種コマンドによるヴォリュームの造形

4	●課題3： Lumion(1)／ TwinMotion	3Dアニメーションの制作
5	●課題4： Rhinoceros(3)	建築形態のモデリングとレンダリング
6	●課題5：QGIS＋ Rhinoceros(4)	地図（基盤地図情報等）とオープンストリートマップを用いた造形
7	●中間課題：発表講 評会	（中間課題）静止画と動画によるプレゼンテーション
8	●課題6： Grasshopper(1)／ Rhinoceros(5)＋ V-Ray(1)	(X)ビジュアルプログラミングによるモデリング／(Y)3Dモデルの表現
9	●課題7： Grasshopper(2)／ Lumion(2)	(X)分割による造形／(Y)高度なレンダリング
10	●課題8：Revit＋ Dynamo／ Lumion(3)	(X)BIMによるモデリングとその自動化／(Y)高度な3Dアニメーション制作
11	●課題9： Grasshopper(3)／ Rhinoceros(6)＋ V-Ray(2)	(X)配列による造形／(Y)ソフトウェアレンダリング
12	●課題10：Python ／Rhinoceros(7)＋ V-Ray(3)＋ Photoshop	(X)Pythonによるプログラミング／(Y)パースのレタッチ
13	●期末課題：発表講 評会	（期末課題）デジタルデザインを活用した造形と表現
14	◎アフターレビュー	できたこと、できるようになったことの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布教材の予習と復習

課題の制作

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにより、必要な教材を配布します

【参考書】

●「建築のカタチ／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現」（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著，丸善，2020年）

●「建築のしくみ／住吉の長屋，サヴォワ邸，ファンズワース邸，白の家」（安藤直見・柴田晃宏・比護結子著，丸善，2008年）

●「速習 建築CGパース マスターブック -エクステリア編-」（富田和弘・平谷早苗著，ポーンデジタル，2010年）

●日本図学会デジタルモデリングコンテスト，<http://www.graphicscience.jp/contest/list.html>●法政大学デジタルコンテンツ・コンテスト，<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/katsudo/digital/>

【成績評価の方法と基準】

(1)中間課題(20%)

(2)期末課題(30%)

(3)授業内課題(50%)

総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報教室のパソコンを使用するためにUSBメモリーが必要

【その他の重要事項】

この授業の受講は「図形の技術」（1年次，選択科目）の履修を前提としています。「図形の技術」を履修しないで「デジタルスタジオ」を履修する場合，補習を課すことがあります。

学習支援システムおよび授業終了後に質問を受け付けます。

【演習の評価基準】

10点：特に優れた造形を伴う作品

9点：優れた造形を伴う作品

8点：学習水準を十分に満足するもの

7点：一部に不十分な箇所を含むもの

6点：不十分な箇所を多く含むもの

5点以下：未完成，意味不明など

0点：未提出（遅刻提出は認めないので未提出として扱います）

8点が学習目標の達成の基準であり，9～10点は特別な創意工夫に対する評価です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Challenging exercises to design and express relevant architectural forms by utilizing computer 3D techniques, students will learn appealing video presentations, high-quality renderings, using map data, and generating forms with algorithms.

[IMPORTANT]

This coursework is open in two classes. In 2023, in the first and second part of the Autumn Semester, Class placement will be made at the first class.

[Learning objectives]

This studio aims to design and express relevant complex and dynamic architectural forms beautifully by utilizing computers by learning the following:

Accurate and efficient computer 3D modeling.

Realistic expression with high-quality rendering and appealing video presentation.

The possibility of automatic generation of forms using numerical and mathematical methods.

[Learning activities outside of classroom]

Preparation and Review of Handout Materials

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

1. Mid-Term Assignment: 20%

2. Final Assignment: 30%

3. Exercise 1-10: 50%

デザインスタジオ 1（建築）Y

阿部 智樹

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築はデザイン（設計）して建設されるものです。建築のデザインを学ぶことの最終的な目的は、建築を実現させるための技術の習得だけではなく、建築のあり方、建築と社会・環境・歴史との関わりなどを思考し、建築に関わる総合的な判断力・思考力を養うことにあります。この授業では、そのための第一歩として、建築の構成の基礎、および、図面と模型による建築の表現について学びます。

【到達目標】

本授業では、以下の4点を到達目標とします。

1. 建築の基本的な構成を理解する
2. 身体の寸法に係る空間のスケールを理解する
3. 立体と図面との関係を理解し、建築を表現するための図面と模型の基本を習得する
4. 設計に必要な道具の使い方を習得する

（以下、教科書『建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家』の「はじめに」より）

建築は、物理的に3次元の〈形態〉をもつと同時に、その内部あるいは外部に何らかの〈空間〉を現象させる。空間という言葉は多様な意味をもつが、建築の空間は、建築形態が生み出す場所の総称だと考えることができる。たとえば、建築形態で囲まれた建築の内部には、生活・仕事などを行うための部屋や、設備の設置、物品の収納などのための空間が配置される。建築形態の外部には、入口へのアプローチや庭などの空間が配置される。その他、場所や部屋を「開放的な空間、美しい空間、詩的な空間」などという場合のように、空間は、心理的な事象であることもある。形態と空間は一体となって建築の特質を規定する概念に他ならない。

したがって、建築は必ず何らかの空間・形態をもつ。建築デザインの最終的な目的は、美しく調和した建築の空間・形態を実現することだといえるだろう。もちろん、過去の建築の歴史を眺めればわかるように、一見、美しくないと思えたものが認識の変化により美しいものにも変わることもあるし、調和していなかったことが次の時代の調和であったりするから、美しさを固定的なものととらえることはできない。概念的に過ぎる美しさという言葉を使ひやすさ・住みやすさというやや身近な言葉に置き換えたとしても、やはり、建築の使いやすさ・住みやすさを固定的に考えることは困難である。建築のデザインは、このように一意には捉えられない問題に立ち向かわなければならない難しさをもっている。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業では建築設計製図の基本を学びます。

授業は10の課題より成ります。

【課題1：自室の実測】では、自室の実測から始まり、建築の部位や家具のスケールを知り、その図面化を行うことによって、空間を表現方法を学びます。

【課題2：線の練習】は、図面表現の基本である線の表現について学ぶとともに、美しい図面を仕上げるための、図面構成（レイアウト）について学びます。また、製図に必要な道具の使い方も学びます。

【課題3～6：箱形建築の模型／平面図／立面図／断面図／立体図】では、建築の単純モデルを題材として、その空間を図面によって記述し表現することを学びます。最初に、壁、床、開口部からなる模型を製作し、その水平切断図としての平面図、垂直切断図としての断面図の表現の原理を学びます。同時に、課題1「自室の実測」に基づき、平面に階段、家具等を配置し、建築の平面構成、断面構成のあり方と表現について学びます。

【演習7～8：住吉の長屋の模型と図面】では、実在の鉄筋コンクリート構造の住宅を題材として、実際の建築の平面構成、断面構成、立面構成について学ぶとともに、その平面図、断面図による記述・表現の方法について学びます。ここでも、最初に模型を製作し、建築の立体構成を理解した後に、その図面表現について学んでいきます。

【課題9～10：ギャラリーのある家】は、上記の学習の成果を踏まえて、建築を構想し、物理的に架構し、図面と模型写真により表現する演習に取り組みます。

毎回の課題は、正確であるだけではなく、美しい作品として製作されなければなりません。

冒頭の解説をよく理解するように努め、疑問点があれば質問してください。演習への回答時には、教員の他、TAも質問等に対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになるはずです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ●課題1：自室の実測	教科書・参考書、製図道具の説明。建築を測る
2	●課題2：線の練習	【要製図道具】点と線の表現。課題1の講評と次回課題3の説明 【型紙の準備】
3	●課題3：箱形建築／模型	【要模型製作道具】模型の製作
4	●課題4：箱形建築／平面図と立面図	【要製図道具】立体の水平切断図としての平面図と投影図としての立面図。階段の配置。自室の実測に基づく家具の配置
5	●課題5：箱形建築／断面図	【要製図道具】立体の垂直切断図としての断面図。切断面の向こうに見える投影図としての姿図（階段、家具など）の表現
6	●課題6：箱形建築／立体図	【要製図道具】アイソメトリック、アクソノメトリック、透視図。次回課題7の説明 【型紙の準備】
7	●課題7：住吉の長屋／模型	【要模型製作道具】実際の鉄筋コンクリート住宅の構成
8	●課題8：住吉の長屋／平面図・断面図	【要製図道具】鉄筋コンクリート住宅の平面図と断面図
9	●課題9：ギャラリーのある家(1)	【課題説明】これまでの課題の講評と期末課題の提示。住空間の設計に関する解説
10	課題9：ギャラリーのある家(2)	スケッチ（エスキス）とスタディ模型

- 11 課題9：ギャラリー スタディ模型、平面図、立面図のある家(3)
- 12 課題9：ギャラリー 断面図、立体図のある家(2)
- 13 【クラス内講評会】 図面と模型の提出、クラス内講評会
ギャラリーのある家
- 14 【合同講評会】●課題 総合講評会、課題10と夏休み課題10：模型写真、アフターレビュー
題（デザインスタジオ2）の提示、課題9のフォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で図面の理解に時間を要し、作業の時間がとれない傾向が見受けられます。前もっての図面の理解（予習）と、次の課題に向けてのこれまでに学んだことの自己チェック（復習）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）
- 『住まいの空間 独立住居』日本建築学会編（彰国社）
- 『建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現』（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著、丸善）

【参考書】

- 『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
- 『建築設計演習応用編』独立住居から集合住居の設計まで、武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
- （教科書「建築のしくみ〜」の中国語訳）建筑构造—从模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校），中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

課題の評価により成績評価をします（100％）。

総合点60点以上を合格とします。

以下が各課題の評価基準です。

- 課題1（自室の実測）：見落としなく実測図が作成できているか。実測をもとに正確な平面図、室内立面図、天井見上図、家具図等が描かれているか。家具の寸法が把握できているかどうか。
- 課題2（線の練習）：線が正確に描かれ、図面が美しく構成されているかどうか。
- 課題3と7（模型）：正確で美しい模型が完成しているかどうか。端部の処理などの細部に配慮されているかどうか。
- 課題4～6と8（図面）：建築の空間（立体構成）が正しく表現されているかどうか（切断面と切断面の向こうに見えるものが正しく表現されているかどうか）。図面が美しく仕上がっているかどうか。
- 課題9（設計課題）：総合的評価。
- 課題10（模型写真）：模型が正しく、美しく製作されているかどうか。建築が正しく表現されているかどうか。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの課題制作のスピードにかなりの個人差があります。解説は冒頭に集約し、その後に演習に取り組んでももらいます。遅刻をすると冒頭の解説の理解が遅れることになるので、遅刻をしないようにしてください。また、演習時間には積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

平行定規は各スタジオに用意されていますが、その他の製図道具は各自が用意する必要があります。また、模型材料も各自で用意してください。

製図および模型製作に必要な各種道具（各自が用意する）：

●製図道具

- 三角スケール（30cm、ポケット型） ※15cmのものもあるとよい。
 - 勾配三角定規（20cm）
 - 円定規
 - 字消板（メッシュステンレス）
 - 製図用ブラシ
 - ドラフティングテープ
 - 製図用シャープペン（0.3mm、0.7mm） ※0.5mmのものもあるといい
 - シャープペンの芯 ※HBの他、HまたはBを使用してもいい
 - アジャストケース（図面収納筒） ※図面の持ち運びに使用
 - プロジェクトペーパー（A3版、5mm方眼） ※課題1で使用
- その他、ロールトレペもあるとよい。

●模型製作道具

11. カッター
 12. カッター替刃（30°） ※替刃にはさまざまな種類がある
 13. ステンレス直定規（30cm） ※カッターと併用するための定規
 14. カッティングマット（620×450mm） ※カッターを使用する際の作業用マット
 15. スチのり
- その他、金尺、木工用ボンドもあるとよい。

●パソコン

情報教室のパソコン、大学が貸与するノートパソコンも使用するとよい。

●模型材料

スチレンボードなどの模型材料は各自で用意。

【その他の重要事項】

授業内容の解説にプレゼンテーション機器（液晶プロジェクターによる映像表現）を用います。授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn the basics of architectural design by working on assignments.

Architecture is constructed by design. The purpose of studying architectural design is not only to learn skills but also to consider the relationship between society/environment/history and architecture and to develop comprehensive judgment. In this course, as the first step, students will learn how to draw plans and express design through models while understanding the basic structure of architecture and learning how to conceive architecture.

[Learning objectives]

At the end of the course, students are expected to understand the followings:

1. The basic structure of architecture
2. The scale of space with the dimensions of the body
3. The relationship between three-dimensional structures and drawings by mastering the basics of drawings and models to express architectural design.
4. How to use the tools necessary for designing.

[Learning activities outside of classroom]

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of assignments (100%)

デザインスタジオ 2（建築）Y

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・空間に対する分析力・考察力を養う
- ・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・各種構造の特性を理解する
- ・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）

【ウォッチャー】普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評

4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
7	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
8	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
9	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
10	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
11	『5m立法の空間』	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。
12	『5m立法の空間』	◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）

『建築のしくみ』安藤直見・柴田見宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります) 総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】

【Outline】

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

【Learning Objectives】

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and

acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

【Learning activities outside of classroom】

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher> Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment. (Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)

(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

数値計算法

酒井 久和

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の分野において、数学を用いる場面は多岐にわたる。また、簡易な計算はプログラミングを習得することにより、計算ミス、作業時間の大幅な短縮が可能である。本講義では、基礎的な数値解析手法を学習するとともに、実務で必須となるExcelの高度利用として、マクロを利用したプログラミング技法を習得する。

【到達目標】

授業で紹介した数値解析手法を道具として活用し、Excelの効率的な使用方法とプログラミング技術を習得することで、様々な工学問題が解けるようになるとともに、研究や実務での効率向上可能な技術を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

工学分野の基礎的な数値解析手法として、ベクトルと行列、連立一次方程式の解法、非線形方程式の解法、補間、数値積分、数値微分を紹介する。講義の後、講義内容に関する演習を行うことにより、知識としての定着を図る。解析ツールとしてExcelを使用する。

授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Excelの基本的な使い方、マクロ	講義内容の紹介。講義で使用するExcelの基本的な使い方とマクロの使用方法についての解説する。
第2回	数値解析の基礎	数値解析の基礎として、アナログとデジタルの違い、有効数字について解説する。
第3回	関数の近似と補間	テーラー展開、補間について解説する。
第4回	演習	第3回講義内容に関する演習問題を解く。
第5回	微分	差分近似、3点差分公式、5点差分公式について説明する。
第6回	演習	第5回講義内容に関する演習問題を解く。
第7回	数値積分	長方形近似、台形近似、シンプソン公式について解説する。
第8回	演習	第7回講義内容に関する演習問題を解く。
第9回	非線形方程式	ニュートン・ラフソン法、2分法、はさみうち法
第10回	演習	第9回講義内容に関する演習問題を解く。
第11回	ベクトルと行列	ベクトルの演算、行列の演算
第12回	演習	第11回講義内容に関する演習問題を解く。
第13回	連立一次方程式	ガウスの消去法、非線形連立方程式の解説
第14回	演習	第13回講義内容に関する演習問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中または講義後に演習課題の実施、数回の課題の提出を求める。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊津野和行、酒井久和：Excelではじめる数値解析，森北出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出による評価40%，期末試験60%で総合的に評価する。4回以上欠席したものは単位の取得を認めない。

期末試験は、教科書、自分で行った演習課題を参照、PC持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら授業を進めているが、1週間ごとの授業では前回の内容を忘れる学生がいる。そのため1週間に2コマの授業で1コマ目は講義、2コマ目は演習を中心に授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを必ず持参すること。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Numerical Calculation Method Program are the following:

- 1) Understanding of fundamental numerical calculation methods.
 - 2) Utilization of Microsoft Excel.
 - 3) Acquisition of skills for creating macros in Excel.
- This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 60% + Report 40% =100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

交通計画

今井 龍一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

交通計画の役割とその領域、関連分野を認識しつつ、人・物の動きとその特性および各種交通手段の特性を把握する。また、それらの特性把握のためパーソントリップ調査等による交通需要予測を通じ、各種交通手段と交通施設の相互関係を把握（土地利用形態、密度と交通ネットワーク、交通結節施設）するとともに、交通施設の構造基準、交通流特性、交通容量等について解説し、交通網計画および交通管理計画の策定手法習得を目標とする。

【到達目標】

- ・交通の意義、交通の発展の歴史を理解する
- ・交通政策の変遷を理解する
- ・交通の性質、運用技術の基礎を理解する
- ・都市交通問題解決のための考え方を身につける
- ・交通量調査、交通実態調査および交通需要推計（段階推計法）を理解する

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的な交通計画の概念を把握するとともに、ネットワーク計画や解析、簡単な交通需要予測計算が算定できるような能力を身につける。また、モビリティマネジメントなどの新たな交通計画の概念を理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	交通計画の概論	交通の定義、日本の道路交通政策の推移
2	交通調査（車両）	全般、交通・輸送調査
3	交通調査（PT）	パーソントリップ調査
4	自動車交通流（QKV）	交通量、速度、密度
5	自動車交通流（容量等）	交通容量、サービス水準
6	自動車交通流（渋滞）	渋滞
7	理解度の確認	第1回～第6回の総括
8	都市交通計画（政策）	計画策定方法、都市経営方法
9	都市交通計画（需要）	交通需要予測の役割と手法の種類
10	都市交通計画（推計法）	四段階推計手法
11	都市交通計画の評価	ITSの役割、サービス内容
12	高度道路交通システム	分布交通量・機関分担交通量の算定
13	将来の都市交通計画	最新の都市交通分野の動向
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントをwebにより配付する。

【参考書】

- ・交通工学研究会：交通工学ハンドブック，丸善出版，2014年
- ・交通工学研究会：道路交通技術必携2013，丸善出版，2018年
- ・久保田尚，大口敬，高橋勝美：読んで学ぶ交通工学・交通計画，理工図書，2010年

【成績評価の方法と基準】

欠席4回以上の物には単位の取得を認めない（評価D）。

試験50％、レポート・授業時の課題発表50％。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な統計解析は習得しておくこと。

交通インフラは社会の要望および時機の政策に大きく影響される「社会工学」である。「工学」としての普遍的な基本を習得するとともに、発展する社会の発するサインに敏感になることにも意識すること。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

オフィスアワー：水曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

This course allows students to learn the aims, roles, and formulation methods of transportation plans. For this purpose, students will understand motion characteristics of persons and objects, characteristics of different means of transportation, transportation demand forecasting using person trip surveys, structure standards of transportation facilities, characteristics of traffic flow, and traffic capacity.

Understand the significance of transportation and the history of transportation development

To understand the transition of transportation policy.

Understand the nature of transportation and the basics of operational technology

To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology ・To learn how to solve urban transportation problems

To understand the traffic volume survey, actual traffic condition survey and traffic demand estimation (stepwise estimation method)

Understand the significance of transportation and the history of transportation development

To understand the transition of transportation policy.

Understand the nature of transportation and the basics of operational technology

To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology ・To learn how to solve urban transportation problems

Term end examination : 50 %, Short reports : 50%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

工学実験 1

内田 大介、溝渕 利明、山本 佳士、細見 直史、橋本 親典、山崎 信宏、青山 直裕

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鋼材及びコンクリートに関する実験に実際に参加し、実験データの整理と実験結果の考察を含むレポートを作成することにより、これまで学習したことについて実験を通して体験的に理解することを本授業のテーマとする。

【到達目標】

実験の流れ、結果をまとめる力、結果を考察する力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力

(E) 専門知識の活用・応用力

40%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

30%

(H) 継続的学習能力

10%

(I) 業務遂行能力

20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」、「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義は、構造実験及び建設材料実験からなる。実際に実験に参加し、実験データの整理と実験結果の考察を含むレポートを作成し、提出することが不可欠である。

構造実験においては、構造力学で学んだ各種解析方法や原理に対する理解を、模型実験をとおして深めること、鋼材の機械的性質を体験的に理解することを目的とする。建設材料実験においては、主としてコンクリート用材料の試験、コンクリートの配合設計、コンクリートの非破壊試験等を体験的に学習することを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（施設デザイン）	実験の方法の説明・レポートの作成方法の説明・班分け
2	ガイダンス（施設デザイン）	実験の方法の説明・レポートの作成方法の説明・班分け
3	実験・データ解析・レポートの作成（第1回）	グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う <構造実験> ・はりのひずみ測定と荷重推定 ・鋼材の引張試験 ・H断面梁の応力測定 ・座屈強度試験 <建設材料実験> ・骨材の特性実験：第2グループ ・鉄筋の引張試験：第3グループ ・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第1グループ ・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第5グループ ・コンクリートの非破壊試験：第4グループ

4

実験・データ解析・レポートの作成（第2回）

グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う
<構造実験>

・はりのひずみ測定と荷重推定
・鋼材の引張試験
・H断面梁の応力測定
・座屈強度試験
<建設材料実験>

・骨材の特性実験：第2グループ
・鉄筋の引張試験：第3グループ
・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第1グループ

・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第5グループ
・コンクリートの非破壊試験：第4グループ

5

実験・データ解析・レポートの作成（第3回）

グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う
<構造実験>

・はりのひずみ測定と荷重推定
・鋼材の引張試験
・H断面梁の応力測定
・座屈強度試験
<建設材料実験>

・骨材の特性実験：第3グループ
・鉄筋の引張試験：第4グループ
・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第2グループ

・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第1グループ
・コンクリートの非破壊試験：第5グループ

6

実験・データ解析・レポートの作成（第4回）

グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う
<構造実験>

・はりのひずみ測定と荷重推定
・鋼材の引張試験
・H断面梁の応力測定
・座屈強度試験
<建設材料実験>

・骨材の特性実験：第3グループ
・鉄筋の引張試験：第4グループ
・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第2グループ

・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第1グループ
・コンクリートの非破壊試験：第5グループ

7

実験・データ解析・レポートの作成（第5回）

グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う
<構造実験>

・はりのひずみ測定と荷重推定
・鋼材の引張試験
・H断面梁の応力測定
・座屈強度試験
<建設材料実験>

・骨材の特性実験：第4グループ
・鉄筋の引張試験：第5グループ
・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第3グループ

・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第2グループ
・コンクリートの非破壊試験：第1グループ

8	実験・データ解析・レポートの作成（第6回）	グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う ＜構造実験＞ ・はりのひずみ測定と荷重推定 ・鋼材の引張試験 ・H断面梁の応力測定 ・座屈強度試験 ＜建設材料実験＞ ・骨材の特性実験：第4グループ ・鉄筋の引張試験：第5グループ ・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第3グループ ・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第2グループ ・コンクリートの非破壊試験：第1グループ	14	レポートの作成	これまで実施した実験内容のとりまとめと総合報告書の作成 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 行った実験のデータ整理、レポートの作成 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 建設材料実験：土木学会編・土木材料実験指導書 構造工学実験：プリントを配布する。 【参考書】 コンクリート技術の要点 必要に応じて講義中に紹介する。 【成績評価の方法と基準】 構造実験及び建設材料実験において、各50点満点とし、実験ごとのレポートとそれに対するヒアリングの結果および総合報告書により評価する。なお、総得点が60点未満の場合には単位を与えない（D評価）。また、構造実験もしくは建設材料実験のいずれかで30点未満の場合にも単位を与えない（D評価レポート）。 レポート100% 欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。 【学生の意見等からの気づき】 特になし 【学生が準備すべき機器他】 なし 【その他の重要事項】 鋼構造を担当する専任教員は、造船メーカーに20年近く勤務し、鋼製橋梁の設計など多くの実務経験を有しています。 コンクリートを担当する教員は、総合建設会社に20年近く勤務し、コンクリート構造物の施工、維持管理など多くの実務経験を有しています。 鋼構造を担当する兼任教員は、鋼橋の研究開発、設計、製造業務に関わる実務を数多く経験されており、橋梁メーカー各社、JAXAなどからの調査・診断・開発業務の実務経験も豊富な人材です。 コンクリートを担当する兼任教員は、コンクリート関連のコンサルタントに勤務され、材料実験、材料開発などの業務に長年携われており、材料試験関連の実務経験豊富な人材といえます。 オフィスアワー：専任教員は、履修の手引きに記載されている時間とし、非常勤講師については、授業終了後に実施する。 【Outline (in English)】 The main theme of this course is to understand through experiments on acknowledge obtained so far by actually conducting experiments on steel and concrete materials and preparing the reports including the arrangement of experimental data and consideration of experimental results. ・ Learning Objectives Acquire the flow of experiments, the ability to summarize the results and the ability to consider the results. ・ Learning activities outside of classroom Organize the data of the conducted experiment and reporting. Preparation and review for this class is 1 hour in total. ・ Grading Criteria /Policy The maximum score is 50 points for each of the structural class and the construction material class. Grading is based on reports for each experiment, the results of interviews and comprehensive reports. If the total score is less than 60 points, no credit will be given (grade D).
9	実験・データ解析・レポートの作成（第7回）	グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う ＜構造実験＞ ・はりのひずみ測定と荷重推定 ・鋼材の引張試験 ・H断面梁の応力測定 ・座屈強度試験 ＜建設材料実験＞ ・骨材の特性実験：第5グループ ・鉄筋の引張試験：第1グループ ・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第4グループ ・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第3グループ ・コンクリートの非破壊試験：第2グループ			
10	実験・データ解析・レポートの作成（第8回）	グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う ＜構造実験＞ ・はりのひずみ測定と荷重推定 ・鋼材の引張試験 ・H断面梁の応力測定 ・座屈強度試験 ＜建設材料実験＞ ・骨材の特性実験：第5グループ ・鉄筋の引張試験：第1グループ ・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第4グループ ・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第3グループ ・コンクリートの非破壊試験：第2グループ			
11	実験・データ解析・レポートの作成（第9回）	グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う ＜構造実験＞ ・はりのひずみ測定と荷重推定 ・鋼材の引張試験 ・H断面梁の応力測定 ・座屈強度試験 ＜建設材料実験＞ ・骨材の特性実験：第1グループ ・鉄筋の引張試験：第2グループ ・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第5グループ ・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第4グループ ・コンクリートの非破壊試験：第3グループ			
12	実験・データ解析・レポートの作成（第10回）	グループは複数の班により構成され、班および回数により実施内容は異なるが以下の項目の実験を行う ＜構造実験＞ ・はりのひずみ測定と荷重推定 ・鋼材の引張試験 ・H断面梁の応力測定 ・座屈強度試験 ＜建設材料実験＞ ・骨材の特性実験：第1グループ ・鉄筋の引張試験：第2グループ ・コンクリートの配合設計及び練混ぜ：第5グループ ・強度試験（圧縮、曲げ、引張）：第4グループ ・コンクリートの非破壊試験：第3グループ			
13	レポートの作成	これまで実施した実験内容のとりまとめと総合報告書の作成			

検査技術

溝渕 利明、菅沼 久忠、小野 秀一、野嶋 潤一郎

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鋼構造物・コンクリート構造物の耐力・耐久性調査を中心に講義と演習を行う。鋼構造物に関しては、実際の検査機器や検査技術の紹介を行う。また、簡単な装置を用いた実習を行うことで、検査機器に慣れることを本授業のテーマとする。
コンクリート構造物については、構造物の診断に用いられる非破壊検査機器の適用場所、適用方法について概説するとともに、実際に機器を用いて測定を体感する。

【到達目標】

鋼構造物に関しては、構造物の検査に用いられる簡単な装置を用いた実習を行うことで、検査機器に慣れることを目標とする。
コンクリート構造物については、構造物の診断に用いられる非破壊検査機器の適用場所、適用方法について理解するとともに、実際に機器を用いて測定を体感することを授業の目的とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

鋼構造物・コンクリート構造物の耐力・耐久性調査を中心に、講義で調査を行う際の機器の測定原理、操作方法を学ぶとともに、実際にそれらの機器を使用して構造物の調査を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(コンクリート)	設備・機器デザインの講義内容 LCE, LCCの考え方、メンテナンスについて
2	ガイダンス(鋼構造)	設備・機器デザインの講義内容、鋼橋をはじめとした土木構造物で使われている測定機器・モニタリング機器の概要を説明する。 鋼橋の種類、鋼橋のとりまく現状について説明する。
3	電磁波を用いた内部検査の概要	電磁波を用いた内部の空洞や鉄筋位置の測定原理を説明するとともに、電磁波による塩分量の測定についても紹介する。
4	電磁波を用いたかぶり及び鉄筋探査の実習	電磁波測定装置を用いて実際に鉄筋位置の探査を行う。
5	赤外線によるコンクリート表面部検査の概要	赤外線をを用いたコンクリート表面部の劣化状況を判定するための測定原理を説明する。
6	赤外線によるコンクリート表面部検査の実習	実際に赤外線装置を用いてコンクリート表面部の温度分布の測定を行う。
7	高精度傾斜測定によるモニタリング評価	経年劣化が進行する土木設備においては、モニタリングによる状況把握による評価が肝要となる。本講義では、簡易に高精度傾斜測定が可能なIoT端末を用いて、機器の仕組みや傾斜角から変形図を求め、土木構造物の評価方法について学習する。

8	高精度傾斜測定によるモニタリング評価の実習	橋モデルに加速度センサを橋軸方向に5個設置した実験橋梁を用意し、センサの重力加速度の変化から発生した傾斜角を算出（asin関数）する。算出したそれぞれの傾斜角を最小二乗法で2次関数でおきかえ、できた2次関数を積分して変形図を出す実習を行う。
9	ひずみ・応力・変位測定についての概要	鋼橋におけるひずみ・応力・変位個々の測定目的 個々の測定方法（ひずみゲージ、変位計等）
10	実際にひずみゲージや変位計を用いての測定の実習	片持ち梁のひずみとたわみの測定の実習 理論値との比較および考察
11	有限要素解析を用いた測定結果の評価	構造物の応力・変形挙動をより正確に推定・把握する方法に有限要素解析がある。ここでは、簡単な有限要素モデルを用いて構造物の評価手法を学ぶ。
12	有限要素解析を用いた測定結果の評価（実習）	簡単な有限要素モデルを用いて構造物の評価手法を実習する。
13	鋼構造物の非破壊検査技術の現状についての概要	鋼橋溶接継手の特徴と検査の必要性を説明するとともに、非破壊検査技術の現状について説明する。
14	非破壊検査試験の実習	欠陥を有す溶接試験片の検査を用いた非破壊検査試験を実習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容の復習
データ整理及びレポート作成
返却されたレポートの評価結果内容の確認と復習
シラバス内容の事前確認
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

コンクリート：
レポートによる。指定した回数以上の欠席者については受験資格がないものとする。
レポート課題（100%）
鋼構造：
実習内容（50%）
－講義を聴講して実習を行う
レポート課題（50%）
－ガイダンスを除く各回の講義の理解度、および実施した実習に対して十分な考察ができていのかの評価基準

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

計測を担当する教員は、社団法人の研究所に30年以上勤務され、研究開発、非破壊試験など鋼構造に関して多岐にわたって多くの実務経験を有しています。鋼構造を担当する教員は、計測や維持管理などのコンサルタント会社の代表取締役で、計測技術などに関して数多くの実務経験を有しています。コンクリートを担当する教員は、コンサルタントに20年以上勤務され、電力施設関連の設計や維持管理で数多くの実務経験を有しています。コンクリートを担当する専任教員は、20年近く総合建設会社の技術研究所に勤務し、非破壊検査機器の開発や数多くの劣化調査、診断を行ってきた経験を有しています。オフィスアワー：専任教員は、履修の手引きに記載された時間に実施し、非常勤講師の方たちは、講義時間終了後に実施します。

【Outline (in English)】

Lectures and practices will be conducted on inspection methods for evaluating load bearing capacity and durability of steel and concrete structures. For steel structures, the main themes will be the introduction of actual inspection equipment and inspection technology and experience of inspection methods through practice using simple devices. For concrete structures, the main themes will be application methods of non-destructive testing equipment used for diagnosis of concrete structures and experience of measurements with actual equipment.

Learning Objectives

As for steel structures, the goal is to get used to inspection equipment through practical training using simple equipment used for inspection of structures.

For concrete structures, the purpose of the class is to understand where and how to apply non-destructive inspection equipment used to diagnose structures, and to experience the actual measurement using the equipment.

Learning activities outside of classroom

Review of lecture content

Data organization and reporting

Checking and reviewing the content of evaluation results in returned reports

Advance confirmation of syllabus content

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Concrete structure:

Report assignment (100%)

Steel structure:

Practical content (50%)

Report assignment (50%)

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

メンテナンス工学

溝渕 利明、臼井 則生、長谷 俊彦、松山 公年、清 良平

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

重要な社会資本である構造物（鋼構造、コンクリート構造）を適切に維持管理して長期間安全に使用するための方策・技術についての基礎知識を身につける。

【到達目標】

コンクリート構造物および鋼構造物の維持管理方法に関する基礎知識を身につけることを本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力 80%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

21世紀の建設業界は、新設の時代から維持管理の時代へと移行していくこととなる。特に高度成長期に整備された社会資本は建設後50年近く経過しており、その多くが老朽化してきており、早急に調査・点検を行っていく必要がある。本講義では、社会資本の一つであるコンクリート構造物及び鋼構造物を中心に発注者、コンサルタント、メーカーの各立場から維持管理の基本的な考え方、手法などについて概説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メンテナンスとは何か 維持管理の原則とメンテナンスの重要性について理解する	維持管理の原則とメンテナンスの重要性について概説
2	高速道路のコンクリート橋における維持管理（我が国の高速道路のコンクリート橋についての変遷を学びながら維持管理を理解する）	国内のインフラ維持管理の現状を踏まえた道路橋の施策やNEXCOの高速道路の老朽化の現状と課題について解説を行いながら、橋梁保全技術を紹介する。
3	高速道路橋のコンクリート床版の維持管理と長寿命化技術について（道路橋コンクリート床版としての技術変遷を学び、その重要性と長寿命化技術について理解する）	コンクリート床版の技術変遷や劣化の特徴を述べ、コンクリート床版の維持管理のPDCAサイクルの課題や、コンクリート床版に対する長寿命化技術を紹介する。
4	コンサルタントとしてのインフラメンテナンス	建設プロセスにおけるコンサルタントの役割とコンサルタントが関わる国内インフラメンテナンス業務について紹介
5	海外におけるインフラメンテナンスプロジェクト	途上国におけるインフラメンテナンスの課題と海外でのインフラメンテナンス技術支援プロジェクトについて紹介
6	電磁波レーダ法の概要について	NDISで規定されている電磁波レーダ法の概要と、この方法がどのような場合に使われるのか、何が分かるかについて解説を行う
7	電磁波とレーダー法の原理	電磁波の原理とレーダー法の原理を解説し、なぜ、このような事が分かるかを論理的に解説する。実際に測定したデータを用いての測定法を学ぶ。

8	鋼構造物の特徴とメンテナンス メンテナンスを行う上での鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本的な考え方を理解する。	鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本
9	鋼構造物の疲労損傷と対策技術 鋼道路橋に発生する疲労のメカニズムと対策技術を理解する。	疲労の要因とメカニズム 疲労損傷の事例と対策 疲労部材の評価
10	鋼構造物の腐食損傷と対策技術 鋼構造物に発生する腐食のメカニズムと対策技術を理解する。	腐食の要因とメカニズム 腐食損傷の事例と対策 腐食部材の評価
11	鋼構造物の点検と診断技術 鋼構造物の点検・調査方法と診断技術を理解する。	点検と診断の目的と実際 健全度評価、劣化予測手法
12	鋼構造物の補修・補強技術 鋼構造物の補修・補強の考え方および補修・補強技術を理解する。	補修・補強方法の基本的な考え方 補修・補強技術 補修・補強の実例
13	鋼構造物のメンテナンスマネジメント 鋼構造物メンテナンスマネジメント手法を理解する。	マネジメント導入の背景・効果・課題 マネジメントの事例、予防保全・事後保全とライフサイクルコストの関係
14	過去から学ぶメンテナンス技術 鋼構造物に関する過去の重大事故からメンテナンスの重要性とメンテナンスエンジニアのあり方について学ぶ。	過去の重大事故におけるメンテナンス上の問題 これからのメンテナンスエンジニア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】

社会基盤メンテナンス工学；東京大学出版会
コンクリート標準示方書（維持管理編）；土木学会
必要に応じて講義中に配付する。
コンクリート崩壊：PHP新書
よくわかるコンクリート構造物のメンテナンス：日刊工業新聞社
朽ちるインフラ：日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

レポートによる。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。
レポート課題 100 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

高速道路会社で長くメンテナンス部門に勤務した教員が、鋼構造物のメンテナンスについて指導する。
コンクリート構造物についても、発注者（40年以上高速道路会社に勤務）、コンサルタント（維持管理関係の部門に20年以上担当）、メーカー（非破壊検査機器を販売している会社）の教員が担当いたします。
オフィスアワー：講義の前後で実施します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire basic knowledge on measures and techniques for long-term safe use of structures (steel, concrete structures) and their appropriate maintenance and management vital for social capital.
Learning Objectives
The goal of this class is to acquire basic knowledge about bridge maintenance methods.

SDGs 発行日：2026/5/1

Learning activities outside of classroom

Review of lecture content

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Report assignment 100%

デザインスタジオ 2（建築）Z

岡本 祥史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・空間に対する分析力・考察力を養う
- ・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・各種構造の特性を理解する
- ・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

●AB期の「デザインスタジオ1」を発展させる。

[建築研究]自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの2部構成での提出とする）

[ウォッチャー]普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし1枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

[光の箱]建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺5m立方の空間の設計】一辺5mキューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ3、4へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。 ○建築研究レポート発表 ○光の箱 エスキース1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	

4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m立法の空間』 ガイダンス：一辺5m立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○5m立法の空間の大きさを把握する。
7	『5m立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
8	『5m立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
9	『5m立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
10	『5m立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
11	『5m立法の空間』	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。
12	『5m立法の空間』	◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。
13	『5m立法の空間』 ●スタジオ講評会	プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）

『建築のしくみ』安藤直見・柴田見宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの2部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った1枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。
(評価配分：建築研究15%、ウォッチャー5%、光の箱30%、5m立法の空間50%)

(ただし、1つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります)

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】

[Outline]

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.

[Learning Objectives]

Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

Cultivate the ability to analyze and think about space.

Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.

To understand the characteristics of various structures.

Acquire skills to design while imagining the scene of action.

To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site

To develop "Design Studio 1" in AB.

[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)

[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.

[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.

[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.

[Learning activities outside of classroom]

Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.

The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.

Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.

The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.

What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?

Watcher> Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.

(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.

How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment. (Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)

(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

MTL200ND（材料工学 / Material engineering 200）

材料と構造のデザイン（2022年度以前入学生）

武居 秀樹

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（および部品）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（および部品）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、講義資料を用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次回の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）（2）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分 講義内容についての演習
2	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
3	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
4	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
5	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
6	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
7	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
8	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
9	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
10	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
11	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
12	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
13	柱のデザイン（2）	講義内容についての演習
14	理解度確認試験	講義1～13に関する授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて講義資料を事前に配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目を通し、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストをpdfファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 5/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学，材料力学，構造力学，応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%） 授業中における学習状況や参加度を評価する。
演習状況（25%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。
なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。（原則、欠席理由の連絡は翌週の講義終了までとする。）

【評価基準】

履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、復習しておくこと。

授業内試験は資料持ち込み不可のため、講義資料の例題と演習問題の内容を復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

授業内で使用する資料は、全て学習支援システムより配布を行う。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments
- 2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements
- 3)Assessment of the safety of structures and machine elements

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end examination (50%), and in class contribution (20%).

オペレーションズリサーチ

野々部 宏司

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的な方法論や技法」を対象とする研究分野である。ORの幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

- 線形最適化問題、整数最適化問題、割当て問題、最短路問題などの代表的な最適化問題を理解している。
- Microsoft Excel のソルバー機能（Excel ソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。
- 安定マッチングを理解している。
- Excel を用いて簡単なシミュレーションを行うことができる。
- 待ち行列理論の基礎を理解している。
- 不確実性下での意思決定について、代表的な意思決定原理を理解している。
- リスクのもとでの多段階意思決定にディシジョンツリーを利用することができる。
- AHP を利用した意思決定を行うことができる。
- ゲーム理論の基礎を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週2コマ連続で実施する（2コマ×7週）。

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「階層化意思決定法（AHP）」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。

理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的・進め方について説明した後、例題を示しながら授業で扱う内容の概説を行う。
2	数理最適化（線形最適化問題）	数理最適化とその代表的な手法である線形最適化について学ぶ。意思決定問題を最適化問題として定式化し、Excel ソルバーを用いてその問題を解く練習を行う。
3	数理最適化（感度分析）	線形最適化問題における感度分析について、潜在価格の活用方法を中心に学ぶ。
4	数理最適化（整数最適化問題）	線形最適化よりも適用範囲が広い整数最適化について、バイナリ変数の活用方法を含めて学ぶ。Excel ソルバーを用いた演習を行う。
5	割当て問題	数理最適化の応用例として割当て問題を取り上げ、例題を用いた演習を行う。また、安定マッチングについて学ぶ。
6	グラフ・ネットワーク	代表的なグラフ・ネットワーク問題である最短路問題と最小費用流問題について、応用例とともに学ぶ。
7	シミュレーション（決定論的シミュレーション）	問題解決や意思決定のためのシミュレーションについて学ぶ。決定論的シミュレーションの演習を Excel を用いて行う。
8	シミュレーション（確率的シミュレーション）	確率的シミュレーションについて、モンテカルロシミュレーションを中心に学ぶ。Excel を用いた演習を行う。

9	待ち行列（シミュレーション）	数理モデルを通して混雑や待ちの現象を解析し問題解決に役立てる手法として、待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくにシミュレーションを用いた分析を行う。
10	待ち行列（理論的解析）	待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくに M/M/1 待ち行列システムを中心に理論的解析について学ぶ。
11	不確実性下での意思決定（意思決定原理）	不確実性やリスクのもとでの意思決定原理について、代表的なもの（マクシミン原理、マクシマックス原理、ミニマックス後悔原理、ラプラスの原理、期待値原理、期待値・分散原理、最尤未来原理、要求水準原理）とそれらの性質について学ぶ。
12	不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用）	リスクのもとでの意思決定（とくに多段階の意思決定）に用いられる代表的なツールであるディシジョンツリー（決定木）、および人が感じる満足度を数値によって表す概念である効用について学ぶ。
13	AHP（階層的意思想決定法）	評価基準が複数存在する中で、複数の代替案から1つ（もしくは幾つか）を選択したり代替案を順位づけたりするためのツールとして AHP（階層的意思想決定法）について学ぶ。
14	ゲーム理論（非協力ゲーム）	ゲーム理論（複数の意思決定者が合理的な行動をとる状況を論理的に取り扱うための方法論）の基礎知識として、非協力ゲームの初歩について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 事前学習（基礎知識の習得）
 - 授業内容の復習
 - 演習課題の実施と提出
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

- 藤澤克樹・後藤順哉・安井雄一郎：「Excel で学ぶ OR」, オーム社, 2011.
 - 今野浩・後藤順哉：「意思決定のための数理モデル入門」, シリーズ〈オペレーションズ・リサーチ〉5, 朝倉書店, 2011.
 - 森雅夫・松井知己：「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店, 2004.
 - 松井泰子・根本俊男・宇野毅明：「入門オペレーションズ・リサーチ」, 東海大学出版会, 2008.
 - 高橋幸雄・森村英典：「混雑と待ち」, 朝倉書店, 2001.
 - 藤田忠・熊田聖：「意思決定科学」, 第2版, 泉文堂, 2001.
 - 宮川公男：「意思決定論—基礎とアプローチ」, 中央経済社, 2005.
 - 渡辺隆裕：「図解雑学ゲーム理論」, ナツメ社, 2004.
 - 逢沢明：「ゲーム理論トレーニング」, かんき出版, 2003.
- など。その他、授業内に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出物により、以下の割合で評価する。

- 演習課題：60%
- 最終課題：40%

ただし、授業を4回以上欠席した場合は評価の対象外（E判定）とする。特別な理由がない限り30分以上の遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- edu2025 貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
- 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces several topics in Operations Research (OR). OR provides mathematical tools for problem-solving and decision-making in real-world situations. The goal of this course is to gain fundamental knowledge and skills in OR.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on assignments in each class (60%) and the final report (40%).

デザインスタジオ 1（建築）Z

柴 峯 一 廣

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築はデザイン（設計）して建設されるものです。建築のデザインを学ぶことの最終的な目的は、建築を実現させるための技術の習得だけではなく、建築のあり方、建築と社会・環境・歴史との関わりなどを思考し、建築に関わる総合的な判断力・思考力を養うことにあります。この授業では、そのための第一歩として、建築の構成の基礎、および、図面と模型による建築の表現について学びます。

【到達目標】

本授業では、以下の4点を到達目標とします。

1. 建築の基本的な構成を理解する
2. 身体の寸法に關係する空間のスケールを理解する
3. 立体と図面との關係を理解し、建築を表現するための図面と模型の基本を習得する
4. 設計に必要な道具の使い方を習得する

（以下、教科書『建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家』の「はじめに」より）

建築は、物理的に3次元の〈形態〉をもつと同時に、その内部あるいは外部に何らかの〈空間〉を現象させる。空間という言葉は多様な意味をもつが、建築の空間は、建築形態が生み出す場所の総称だと考えることができる。たとえば、建築形態で囲まれた建築の内部には、生活・仕事などを行うための部屋や、設備の設置、物品の収納などのための空間が配置される。建築形態の外部には、入口へのアプローチや庭などの空間が配置される。その他、場所や部屋を「開放的な空間、美しい空間、詩的な空間」などという場合のように、空間は、心理的な事象であることもある。形態と空間は一体となって建築の特質を規定する概念に他ならない。

したがって、建築は必ず何らかの空間・形態をもつ。建築デザインの最終的な目的は、美しく調和した建築の空間・形態を実現することだといえるだろう。もちろん、過去の建築の歴史を眺めればわかるように、一見、美しくないと思えたものが認識の変化により美しいものにも変わることもあるし、調和していなかったことが次の時代の調和であったりするから、美しさを固定的なものにとらえることはできない。概念的に過ぎる美しさという言葉を使ひやすさ・住みやすさというやや身近な言葉に置き換えたとしても、やはり、建築の使いやすさ・住みやすさを固定的に考えることは困難である。建築のデザインは、このように一意には捉えられない問題に立ち向かわなければならない難しさをもっている。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業では建築設計製図の基本を学びます。

授業は10の課題より成ります。

【課題1：自室の実測】では、自室の実測から始まり、建築の部位や家具のスケールを知り、その図面化を行うことによって、空間を表現方法を学びます。

【課題2：線の練習】は、図面表現の基本である線の表現について学ぶとともに、美しい図面を仕上げるための、図面構成（レイアウト）について学びます。また、製図に必要な道具の使い方も学びます。

【課題3～6：箱形建築の模型／平面図／立面図／断面図／立体図】では、建築の単純モデルを題材として、その空間を図面によって記述し表現することを学びます。最初に、壁、床、開口部からなる模型を製作し、その水平切断図としての平面図、垂直切断図としての断面図の表現の原理を学びます。同時に、課題1「自室の実測」に基づき、平面に階段、家具等を配置し、建築の平面構成、断面構成のあり方と表現について学びます。

【演習7～8：住吉の長屋の模型と図面】では、実在の鉄筋コンクリート構造の住宅を題材として、実際の建築の平面構成、断面構成、立面構成について学ぶとともに、その平面図、断面図による記述・表現の方法について学びます。ここでも、最初に模型を製作し、建築の立体構成を理解した後に、その図面表現について学んでいきます。

【課題9～10：ギャラリーのある家】は、上記の学習の成果を踏まえて、建築を構想し、物理的に架構し、図面と模型写真により表現する演習に取り組みます。

毎回の課題は、正確であるだけではなく、美しい作品として製作されなければなりません。

冒頭の解説をよく理解するように努め、疑問点があれば質問してください。演習への回答時には、教員の他、TAも質問等に対応します。演習はまずはTAにチェックを受け、間違いがあれば修正をしてください。そして、指定された時間内に完成するようにしてください。作品の製作においてはスピードも重要です。繰り返し練習をすれば、より早いスピードで製作が進められるようになるはずです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ●課題1：自室の実測	教科書・参考書、製図道具の説明。建築を測る
2	●課題2：線の練習	【要製図道具】点と線の表現。課題1の講評と次回課題3の説明【型紙の準備】
3	●課題3：箱形建築／模型	【要模型製作道具】模型の製作
4	●課題4：箱形建築／平面図と立面図	【要製図道具】立体の水平切断図としての平面図と投影図としての立面図。階段の配置。自室の実測に基づく家具の配置
5	●課題5：箱形建築／断面図	【要製図道具】立体の垂直切断図としての断面図。切断面の向こうに見える投影図としての姿図（階段、家具など）の表現
6	●課題6：箱形建築／立体図	【要製図道具】アイソメトリック、アクソノメトリック、透視図。次回課題7の説明【型紙の準備】
7	●課題7：住吉の長屋／模型	【要模型製作道具】実際の鉄筋コンクリート住宅の構成
8	●課題8：住吉の長屋／平面図・断面図	【要製図道具】鉄筋コンクリート住宅の平面図と断面図
9	●課題9：ギャラリーのある家(1)	【課題説明】これまでの課題の講評と期末課題の提示。住空間の設計に関する解説
10	課題9：ギャラリーのある家(2)	スケッチ（エスキス）とスタディ模型

- 11 課題9：ギャラリー スタディ模型、平面図、立面図のある家(3)
- 12 課題9：ギャラリー 断面図、立体図のある家(2)
- 13 【クラス内講評会】 図面と模型の提出、クラス内講評会
ギャラリーのある家
- 14 【合同講評会】●課題 総合講評会、課題10と夏休み課題10：模型写真、アフターレビュー
題（デザインスタジオ2）の提示、課題9のフォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で図面の理解に時間を要し、作業の時間がとれない傾向が見受けられます。前もっての図面の理解（予習）と、次の課題に向けてのこれまでに学んだことの自己チェック（復習）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）
- 『住まいの空間 独立住居』日本建築学会編（彰国社）
- 『建築のカタチ 第2版／3Dモデリングで学ぶ建築の構成と図面表現』（安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴著、丸善）

【参考書】

- 『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
- 『建築設計演習応用編』独立住居から集合住居の設計まで、武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
- （教科書「建築のしくみ〜」の中国語訳）建筑构造—从模型3D图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中（校）・董新生（校），中国建筑工业出版社（2016年1月）

【成績評価の方法と基準】

課題の評価により成績評価をします（100％）。

総合点60点以上を合格とします。

以下が各課題の評価基準です。

課題1（自室の実測）：見落としなく実測図が作成できているか。実測をもとに正確な平面図、室内立面図、天井見上図、家具図等が描かれているか。家具の寸法が把握できているかどうか。

課題2（線の練習）：線が正確に描かれ、図面が美しく構成されているかどうか。

課題3と7（模型）：正確で美しい模型が完成しているかどうか。端部の処理などの細部に配慮されているかどうか。

課題4～6と8（図面）：建築の空間（立体構成）が正しく表現されているかどうか（切断面と切断面の向こうに見えるものが正しく表現されているかどうか）。図面が美しく仕上がっているかどうか。

課題9（設計課題）：総合的評価。

課題10（模型写真）：模型が正しく、美しく製作されているかどうか。建築が正しく表現されているかどうか。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの課題制作のスピードにかなりの個人差があります。解説は冒頭に集約し、その後に演習に取り組んでもらいます。遅刻をすると冒頭の解説の理解が遅れることになるので、遅刻をしないようにしてください。また、演習時間には積極的に質問をしてください。学生のみなさん同士が教え合うことも重要です。

【学生が準備すべき機器他】

平行定規は各スタジオに用意されていますが、その他の製図道具は各自が用意する必要があります。また、模型材料も各自で用意してください。

製図および模型製作に必要な各種道具（各自が用意する）：

●製図道具

- 三角スケール（30cm、ポケット型） ※15cmのものもあるとよい。
 - 勾配三角定規（20cm）
 - 円定規
 - 字消板（メッシュステンレス）
 - 製図用ブラシ
 - ドラフティングテープ
 - 製図用シャープペン（0.3mm、0.7mm） ※0.5mmのものもあるといい
 - シャープペンの芯 ※HBの他、HまたはBを使用してもいい
 - アジャストケース（図面収納筒） ※図面の持ち運びに使用
 - プロジェクトペーパー（A3版、5mm方眼） ※課題1で使用
- その他、ロールトレペもあるとよい。

●模型製作道具

11. カッター
 12. カッター替刃（30°） ※替刃にはさまざまな種類がある
 13. ステンレス直定規（30cm） ※カッターと併用するための定規
 14. カッティングマット（620×450mm） ※カッターを使用する際の作業用マット
 15. スチのり
- その他、金尺、木工用ボンドもあるとよい。

●パソコン

情報教室のパソコン、大学が貸与するノートパソコンも使用するとよい。

●模型材料

スチレンボードなどの模型材料は各自で用意。

【その他の重要事項】

授業内容の解説にプレゼンテーション機器（液晶プロジェクターによる映像表現）を用います。授業終了後に教室で質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this course, students will learn the basics of architectural design by working on assignments.

Architecture is constructed by design. The purpose of studying architectural design is not only to learn skills but also to consider the relationship between society/environment/history and architecture and to develop comprehensive judgment. In this course, as the first step, students will learn how to draw plans and express design through models while understanding the basic structure of architecture and learning how to conceive architecture.

[Learning objectives]

At the end of the course, students are expected to understand the followings:

1. The basic structure of architecture
2. The scale of space with the dimensions of the body
3. The relationship between three-dimensional structures and drawings by mastering the basics of drawings and models to express architectural design.
4. How to use the tools necessary for designing.

[Learning activities outside of classroom]

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of assignments (100%)

OTR300ND（その他 / Others 300）

プロジェクト実習・制作1

土屋 雅人、安積 伸、山田 泰之、SEONG YOUNG AH、岩月 正見、大西 景太、姜 理恵、坂間 清子、野々部 宏司、小宮 昌人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次AB期の「プロジェクト実習・制作1」では、3年次CD期の「プロジェクト実習・制作2」で行う実践プロジェクトの基礎を身に付けるために、試行プロジェクトを行う。

まず、すでに存在している製品を対象としてその製品の詳細をクリエーション、マネジメント、テクノロジーの観点から学び、それに新しい工夫を加える。つまり、製品を生み出す際に必要となるクリエイティブな部分も含めて、デザイナーやエンジニアがその製品に対して行ったさまざまな知識や技術を現存する製品から学び、さらにそれに改良を加える。

【到達目標】

「プロジェクト実習・制作1」では、ものづくりのために必要となる個々の要素技術をひとつの流れとしてとらえ、それを統合的な製品開発の視点、あるいは新商品のプロデューサーの視点から理解できることを到達目標とする。また同時に、製品の企画から設計そして製造へ至るまでのプロセスの中で、ものづくりに必要な設計情報や解析情報などを得るための手順を体得する。本科目を通して、これまで個々の講義等で得られた知識を、実際にものをつくるという実践的な視点から、より統合的な知識とすることができ。さらに、工業デザイン、エンジニアリング、そしてマネジメントなどに関するさまざまなトピックスについて、具体的な事例を通して、より実践的な活用方法を学ぶことができる。十分に対象事例に関する知見を習得した後は、それぞれの発想に基づいて、対象製品をベースに新しい製品のプロトタイプを開発する。この課程を通してものづくりの基本を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

各学生には、具体的な製品が各一台支給される。その製品を対象にして、クリエーションの課題、テクノロジー的課題、そしてマネジメントの課題を行う。作業は基本的に個人で行うが、一部グループでも行う。それぞれの課題提出物の中で特徴的なものを抽出して教員が講評し、すべての最終成果物については発表と講評を行う。

この基礎トレーニング終了後に、製品の改良案を作成し、実際に製作を行う。この改良製品のプランニングおよび製作は各学生がそれぞれ行う。それぞれの課程では、それぞれの専門分野をもつ教員からアドバイスを受けることができる。これらの課程を通して発想法とものづくりの基礎を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方、ゼミ決定、プロジェクト実施方法等
2	コンセプトと形態の関係（安積） 課題1	具体的な製品コンセプトの組み立て方と形態の関係性を学ぶ
3	意匠図面の定義・外観実施意匠図面作図（大西） 課題2	製品の外観デザインの全てを正確に計測しなおし、その製品を開発するにあたって必要となる外観実施意匠図面を作図を学ぶ
4	機器のユーザビリティ評価（土屋） 課題3	ものづくりにおいて、人間中心設計のひとつの項目としてユーザビリティは重要課題になっており、製造企業では製品開発の中にユーザビリティの評価プロセスを学ぶ
5	システム解析（ソン） 課題4	システム解析：リバースエンジニアリングとしての本実習は、すでに既存の製品を分解検証して、どのような機能をもつ要素で構成されているのかを学ぶ
6	品質機能展開による製品機能の設計（西岡） 課題5	品質機能展開（Quality Function Deployment）を用いて、要求、機能、構造の関係を明らかにし、機能設計について学ぶ

7	素材の製造方法の決定、安全と力・形・仕組み（田中） 課題6	製造物が通常有すべき安全性を確保するための、「ちから」に抵抗するように「かたち」や「しくみ」について学ぶ。また製品の安全性について検討する。どこにどの程度の力が加わるか、それに対応できるかたちはどのようなものかについて考える。
8	センサとアクチュエータ技術（岩月） 課題7	センサ技術とアクチュエータ技術について学習し、どのような製品のどの部分で利用されているかを理解する。また、そこで使われているセンサ技術とアクチュエータ技術について調査する
9	システム（プロダクト）開発モデル（山田） 課題8	Verification（正しくプロダクトを作っているか？）とValidation（正しいプロダクトを作っているか？）の双方視点を理解して、Vモデルでのシステム（プロダクト）開発について学ぶ。
10	商品スペックの評価と探索（野々部） 課題9	新商品を開発するにあたり、消費者のニーズを探ること、消費者の商品選択行動を把握することは、適切な商品コンセプトやスペックを決定する上で非常に大切なことである。ここでは、コンジョイント分析の基本的な考え方と分析法を学ぶ
11	新規事業の創造とビジネスモデル（姜） 課題10	新たな製品デザインをどのように新規の事業やビジネスモデルに展開していくかをケーススタディする
12	調査研究1（全教員）	調査研究のテーマは、グループまたは対象とする製品によって、異なる場合があるので、グループに直接、指示する。個別指示がない場合の既定の調査は下記の類似製品調査である。
13	調査研究2（全教員） 課題11	調査研究のテーマは、グループまたは対象とする製品によって、異なる場合があるので、グループに直接、指示する。個別指示がない場合の既定の調査は下記の類似製品調査である。
14	総合ディスカッション	製品開発のための事例研究を発表し、討議する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年AB期の「プロジェクト実習・制作1」では、3年CB期の「プロジェクト実習・制作2」の基礎を身に付けるために、実践的な試行プロジェクトを行います。SD学科でのクリエイティブ、テクノロジー、マネジメント各系について復習しておく事。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「プロジェクト実習・制作1テキスト」ガイダンス時に配布

【参考書】

各課題に対応した参考書を必要に応じ伝える

【成績評価の方法と基準】

欠席は、一回減点2、遅刻一回減点1、グループ活動状況を評価対象とする。教員ごとの課題は各自提出し、全ての課題を提出する事。全て課題が提出されていない場合はD判定。課題判定基準：各課題は10%（10課題＝100%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の能力・嗜好と本授業の内容がマッチングしない場合は、当該学生に不満が生じます。なるべく多くの学生が含まれる平均的な母集団に対して適切のように、内容を微調整します。

【その他の重要事項】

1チーム4～5人のチームを編成する。授業日程はグループ毎にことなるので、詳細は「プロジェクト実習・制作1テキスト」を参照すること。
（1）実験・実習は、冷静に、神経を集中して行う。
（2）実験・実習は、正しい指定された服装で行う。
（3）実験・実習マニュアルをよく読み、教員の指示をよく聞いて守る。
（4）危険なことが起こったらどうするか予め考えておく。
（5）無理な実験は行わない。
（6）実験台および実験・実習場所の整理・整頓に心がける。
（7）実験・実習の後始末はきちんと行う。
（8）廃棄物は必ず指定された場所に廃棄する。
安全上の注意

(1) 実験や実習で電気の充電部分に間違って触れたり、電気機械器具の絶縁が不良のために漏電している部分に触れても感電します。感電で最も危険なのは人体内に流れる電流による感電事故死です。死に至る電流の大きさは性別、体重、体調などで異なるが、20(mA)を超えると一命を落とすこともあります。もしも、肌が水や汗で湿っていると100(V)の電圧でも感電死するケースがあるので、肌を露出せず、スイッチの閉会には右手で操作します。

(2) 機械をただ漫然と軽率に扱うのは一番危険です。また、起動させるからには停止の方法、必要な場合は緊急停止の方法についても知っておかなければなりません。説明を聞くだけではなく、取り扱い説明書などで調べてよく理解しておくようにしましょう。工作機械は材料試験機などに物をつけて動かす場合は、完全に取り付けられているか、機械や試験機の能力を超えていないか等をチェックして安全を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course in the third year AB semester is to prepare for the practice project undertaken in CD semester's "Project Training/Production 2" by conducting a trial project.

Students will first learn about existing products and their specifications through the views of creation, management and technology, and look at ways they could be extended. In other words, they will learn about the knowledge and skills of designers and engineers including creative aspects necessary for production through study of existing products and how to improve them. The goals of this course are to get basic skill for CD semester's "Project Training/Production 2".

Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to each exercise (10%).

OTR300ND（その他 / Others 300）

プロジェクト実習・制作2

土屋 雅人、安積 伸、山田 泰之、SEONG YOUNG AH、岩月 正見、大西 景太、姜 理恵、西岡 靖之、坂間 清子、野々部 宏司、小宮 昌人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ものづくりを行い、それを実際に不特定の相手に利用してもらうためには、単なるアイデアや製作者の思いだけではなく、さまざまなデザインやエンジニアリングやマネジメントの知識によって、それを実現するための具体的な裏づけを行う必要がある。プロジェクト実習・制作2では、それぞれのグループが製品開発プロジェクトを実施し、それぞれの企画にもとづき製品開発を行う。この演習では、製品開発のために解決すべきさまざまな課題に取り組みながら、最終的な成果物である「製品開発仕様書」と「製品のプロトタイプ」を完成させ、ものづくりを行う上で必要な知識と手法を学ぶことを目的とする。テーマはガイダンス時に発表する。

【到達目標】

プロジェクト形式の実習を通して、システムデザイン学科のめざすモノづくり、仕組みづくりを体験し、そこで必要となる知識や能力を身に付けることが出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

学科専任教員全員で行う。各グループに1名ずつ主担当教員がつく。主担当教員は、各グループのプロジェクト実施におけるアドバイザーとなり、進捗に沿って改良点等を示唆する。担当教員は、主にプロジェクトの目標管理、進捗管理、そして予算管理等のサポートをする。各グループは、定期的に進捗報告を担当教員に対して行う必要がある。プロジェクトで製作する内容についての個別の指示を期待してはいけない。製作する作品の内容は、すべてプロジェクトメンバーに任されている。主担当教員は、プロジェクトの実施にあたって解決すべきさまざまな問題について、適切な指導を行うことができると思われる教員や外部のエキスパートの紹介を行う。必要な場合には、専門家として指導をする場合もある。「プロジェクト実習・制作2履修の手引き」（配布資料）に記載されているスケジュール表にしたがい、該当日に教員別課題についてのガイダンスおよび指導を受けること。各教員は、そこで課題についての説明および解決のヒント（手法等）を説明した後に、共通課題または個別課題を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 制作テーマの発表。	この授業の主たる目的を説明する。また、「プロジェクト実習・制作I履修の手引き」を配布し、授業進捗での様々な学習内容を説明する。今年度の制作テーマを発表します。制作グループ分けをする。各グループ、プロジェクトリーダー、サブリーダーを決定する事。
2	製品企画1 製品コンセプト	製品開発の基本となるのは、製品の「あり方」の方針決定にあります。ここでは、各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした製品コンセプトの立て方や製品コンセプト立案の背景となる調査方法を様々な事例より学びます。課題1が提示されます。
3	製品企画2 製品市場調査	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした市場調査方法を学び、実際の市場にて調査を行います。市場調査から得られた結果より、制作物の製品の方向性を考察する方法を学び、実践に生かしていく。課題2が提示されます。
4	基本設計1 外観意匠設計、スタディーモックアップ。	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした製品デザインの外観意匠設計に至るまでの手法を学びます。スタディーモックアップの製品開発上の位置づけ活用方法を学びます。課題3が提示されます。

5	基本設計2 ユーザインタフェース	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした製品デザインのユーザーインターフェース設計手法を学びます。様々な設計手法と実験方法を学びます。課題4が提示されます。
6	基本設計3 基本機能と品質マトリクス	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした開発製品の基本機能設定手法、品質マトリクス作成手法を学びます。課題5が提示されます。
7	詳細設計1 個別性能目標	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした個別性能目標立案法を学びます。課題6が提示されます。
8	詳細設計2 部品構成と機構図	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした部品構成の仕方と検証方法、機構図作図法、構成、伝達手法を学びます。課題7が提示されます。
9	詳細設計3 電気回路図	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした電気回路図作図法を学びます。課題8が提示されます。
10	詳細設計4 画面の詳細仕様とデザイン	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提としたGUIの詳細使用、デザインの決定法を学びます。課題9が提示されます。
11	詳細設計5 プログラム仕様	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした制御等のプログラム仕様の決定、設定方法を学びます。課題10が提示されます。
12	製造および調達実施計画1 生産工程フロー	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした生産工程フローの設定方法を学びます。課題11が提示されます。
13	製造および調達実施計画2 部品表と製造コスト分析、購入先リスト	各グループの制作製品に対応させる実製品開発を前提とした部品表と製造コスト分析手法。購入先リスト作成方法を学びます。課題12が提示されます。
14	プレゼンテーション	各チームのプレゼンテーションを行います。各チームは、事前に指示したプレゼンテーションブースに、パネル、実機を展示し、教員の質問に答える事。また、各チームの制作成果物の制作プロセス、実験結果等をpptでプレゼンテーションを行います。様々な質問に対し答えられるよう準備しておく事。総合講評を行い、同時に今年度の最優秀賞、優秀賞、部門賞の発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プロジェクトグループは、リーダーおよびサブリーダーを決定してください。また、各メンバーの役割をあらかじめ決定し、カルテに記入してください。カルテは、プロジェクト活動を記録するもので、演習日およびその他の活動日に、事務室から受取り、終了後に必ず事務室まで返却してください。各グループの実習・制作進捗にあわせ、各グループでスケジュール調整を行い各グループで授業外での活動を決定すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「プロジェクト実習・制作2履修の手引き」：システムデザイン学科編
各課題に対して必要に応じ配布

【参考書】

各グループの実習・制作進捗にあわせ、必要と思われる参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・個人評価（主担当教員が行う）：10点
- ・自己・相互評価（学生各自で相互評価をもとに算出）：-10.0点 減点方式
- ・教員別課題評価（再提出の回数は評価には影響しない）：30点
- ・製品開発仕様書評価（必要科目の不足数に合わせて減点）：30点
- ・最終プレゼンテーション評価（展示、配布物の評価を含む）：30点

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In manufacturing, in order to create products which will be used by a variety of unknown customers, it is necessary have not only the producer's ideas and vision but a concrete guarantee process facilitated by the knowledge from fields such as engineering and management. In this course, each group will conduct product development projects according to well-considered plans. Throughout this training, by tackling various problems along the path of product development, students will aim to output a product development specification document and product prototype, whilst learning essential knowledge and techniques. Themes will be announced during the guidance period. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Evaluation of supervisor: 10%, Self & Peer Assessment (deduction): -10 - 0%, Instructor Assignment Assessment: 30%, Product Development Specification Document: 30%, Final Presentation (incl. exhibition & handouts): 30%

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

デザインケーススタディ

土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインケーススタディは、一部演習を交えた講義形式の授業となります。

授業は3部構成となり、3名の教員が交代で行います。

本授業では、複雑化するデザインの開発領域において、実際の製品やサービスの事例を挙げながら、今日のデザインの社会的意義(デザインファンクション)、技術と社会との関係(デザインインターセクション)、および市場ニーズの分析手法(デザインマーケティング)を学びます。

第一部:デザインファンクション

第二部:デザインインターセクション

第三部:デザインマーケティング

【到達目標】

デザインファンクションおよびデザインインターセクション、デザインマーケティングの開発手法、開発理念に関する知識と今後のデザインのあり方を考察する能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は三部構成となり、第一部は1回目より5回目、第二部は6回目から9回目、第三部は10回目から14回目の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第一部:デザインファンクションでは、今日のデザインが社会に与える役割、働き、価値などを、様々なデザイン領域の事例を通して解説し、その意義を学びます。

第二部:デザインインターセクションでは、技術変革と社会変動がデザインの創作/活用/評価にどのような影響を与え、議論を起こしながら相互発展してきたかについて解説し、その意義や使い方について学びます。

第三部:デザインマーケティングでは、デザイン開発に求められるユーザーニーズの分析手法として、多変量解析を用いた主観評価手法を事例を通して学習し、マーケット分析方法とコンセプトプランニングを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス グラフィックデザイン1 大西景太	この授業の要点、注意事項の説明をします。 広告、ブランディングなどのグラフィックデザインの実例を解説します。
2	グラフィックデザイン2 大西景太	新しいグラフィック表現の開発とその活用例を解説します。
3	タイムベースドデザイン1 大西景太	CM、MV、TV コンテンツなど映像デザインの事例を解説します。

4	タイムベースドデザイン2 大西景太	AR、VR、MR に関するデザイン事例を解説します。
5	タイムベースドデザイン3 大西景太	web やアプリ、展示空間などノンリニア映像の事例を解説します。
6	デザインとテクノロジー1 ソン ヨンア教授	AIが生成する創作物について最新事例を解説します。
7	デザインとテクノロジー2 ソン ヨンア教授	インタフェースや分析ツールの変革が影響を与えたデザイン史について解説します。
8	デザインと社会1 ソン ヨンア教授	Technocracy の概念を紹介し、Speculative Design など技術と未来社会との関係を問うデザイン分野について解説します。
9	デザインと社会2 ソン ヨンア教授	持続可能性、共生社会に向けたデザインの事例を解説します。
10	感性価値、ニーズ分析1 土屋雅人教授	価値の多様性とユーザーニーズを学習します。
11	ニーズ分析2 土屋雅人教授	身近な商品を題材としたニーズ分析、商品地図法を学びます。
12	ニーズ分析3 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析）を学びます。
13	ニーズ分析4 土屋雅人教授	多変量解析（主成分分析）を学びます。
14	ニーズ分析5 土屋雅人教授	多変量解析（クラスター分析、主成分分析）を組み合わせたニーズ分析を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「デザインファンクション」「デザインインターセクション」「デザインマーケティング」の講義の中核は、デザイン活動が社会に与える役割や創造活動への貢献であり、デザインシンキングの視点から多面的な学習を行ってください。

授業内容の理解を促す課題（レポート等）には、指示に従って提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5回以上欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）。

成績は平常点30%、課題40%、試験30%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をよく理解するためにも、参考図書、資料等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】

「第三部:デザインマーケティング」(担当土屋)ではノートPCを使いますので、必ず持参してください。

その他、ノートPC (Windows) を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【その他の重要事項】

A/B期で授業の曜日、時限がかわることに注意してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the social significance of design (Design Function), the relationship between technology and society (Design Intersection) and the analysis method of market needs (Design Marketing), while giving examples of actual products and services in the complicated design development.

Part 1: Design Function

Part 2: Design Intersection

Part 3: Design Marketing

After each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content and to write reports.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

In class contribution:30%, Short report:40%, Term-end examination:30%.

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

プロダクトデザイン理論

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、プロダクトデザイン（以下PD）の創造性にとって重点な基礎知識・理論を学ぶ。
人間の創造行為としてのPDの歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PDと人間工学、PDに多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解する。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD企画の理解。PDの形状・造形の理解。PDと素材、素材表面処理の理解。PDの量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

AB期14回（金曜日5限）

講義ノートを必ずとる事。

プロダクトデザインと基礎技術：

PD設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。

プロダクトデザインの基礎歴史的な文脈：

現代のプロダクトデザインが成立するまでの様々な取り組み事例や思想、近代デザインの歴史的な文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス プロダクトデザインの 原点 プロダクトデザインの 対象	デザインの黎明から現在までを俯瞰し、プロダクトデザインという概念について紹介する。
2	プロダクトデザインの 目的	事例を通してプロダクトデザイン目的、価値を考察する。
3	Thonet と 大量生産の デザイン	Thonet の開発した大量生産技術により開かれた、デザインの可能性について解説する。
4	W.Morris と アーツ・ アンド・クラフツ運動	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景・思想・作品をW.Morris の生涯と共に紹介する。
5	モダンデザインへの展開	モダニズムへの過渡期に興った様々な思想と取り組みを紹介する。
6	ドイツ工作連盟	ドイツ工作連盟の思想・取り組み・後年への影響などを取り上げる。
7	バウハウス	バウハウスによって確立され、世界に多大な影響を及ぼしたデザインと思想について紹介する。
8	アメリカデザインの黎明	米国から生まれたデザインの思想と事例を紹介する。
9	縄文時代のものづくり	縄文時代のものづくり、加工法などを紹介する
10	民芸運動	民芸運動を近代日本のプロダクトデザインの潮流のひとつと捉え、紹介する
11	現代におけるプロダク トデザイン事例 ①	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。
12	家具デザインと工法	家具デザインを通し、様々な工業生産技術を紹介する。
13	現代の展開と課題	プロダクトデザインにおける現在の取り組みと課題について紹介する。
14	現代におけるプロダク トデザイン事例 ②	現在進行形で現在進められているプロダクトデザインについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する

2週に1回、課題レポートの提出を求める

課題に要する時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリー・ジャパン

心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版

プロダクトデザイン 101 のアイデア、ス・ジャン マシュー・フレデリック著、フィルムアート社

世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社

他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で4回以上の欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。欠席一回につきー4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価； 出席（50%）レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくりと進める

【その他の重要事項】

英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the basic theory behind fundamental requirements in Product Design and creativity.

【Learning Objectives】

The aims of this course are the following:

- Understanding the cultural context of industrial design from modern times to today.

- Understanding the overview of the product design development process.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to submit an assignment report every two weeks. The standard time required for the homework is approximately two hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Evaluation: Attendance (40%), Report assignment (60%)

MAN300ND（経営学 / Management 300）

ビジネスモデルデザイン

西岡 靖之、姜 理恵

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マネジメントとして、あたらしいビジネスのしくみをデザインするために重要な知識を解説し、事業計画、あるいはビジネスモデルを新規に作り上げるための手順を学ぶ。新規に起業するための会社の作り方なども簡単に解説する。

【到達目標】

新規の事業計画、ビジネスモデルを策定するための基本的な知識を身に付けるとともに、実際にグループでアイデアを具体化し、事業計画を作成することを通してその実践の方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

3限は講義、4限は演習とする。演習は、2人から4人単位のグループで実施し、与えられた課題を行いながら最終的に提案するビジネスモデルの事業計画を作成する。課題の結果は、毎回指定期日までに授業支援システムにアップロードすること。毎回、授業開始時に前回までの理解度確認のための小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス（1）	【講義】 問題発見／問題解決 商品とサービス KJ法、ブレスト
1週	ガイダンス（2）	【グループワーク】 グループ分け ドメイン決定、 事業の定義、事業ビジョン 社名、社是（行動規範）
2週	マーケティング（1）	【講義】 マーケティング理論 市場調査／ニーズ調査 価格設定／売上規模 SWOT分析、エピソード
2週	マーケティング（2）	【グループワーク】 市場調査、定量／定性分析 技術動向、規制動向 価格／売上規模設定 対象顧客と販売チャネル
3週	経営戦略論／組織論（1）	【講義】 経営戦略論／組織論 ライセンス／ブランド戦略 特許、商標／意匠 MOT（技術経営）
3週	経営戦略論／組織論（2）	【グループワーク】 商品／サービスの設計 同業他社比較分析 参入シナリオ、差別化戦略 ライセンス／ブランド戦略
4週	モデルとシステム設計（1）	【講義】 モデルとシステム設計手法 UML、機能と構造 サービスの定義 情報フローモデル
4週	モデルとシステム設計（2）	【グループワーク】 ポジショニング、競合定義 ステークホルダー分析 業務フローの定義
5週	ビジネスプラン作成 1	【講義】 コストマネジメント 固定費、変動費 貸借対照表 損益分岐点、C／F

5週

ビジネスプラン作成 2

【グループワーク】
サービス提供のしかた
課金方式、キャッシュフロー
利益とコスト、価格、客単価、

6週

ビジネスプラン作成 3

【講義】
会社法と会社設立手順
株式会社／その他の法人
会社設立手順
定款、ガバナンス

6週

ビジネスプラン作成 4

【グループワーク】
投資計画、収益計画
組織体制、人員計画
アクションプラン

7週

最終発表会（1）

最終発表会
最終発表会（グループ単位）
ビジネスモデル
プレゼンテーション

7週

最終発表会（2）

ゲストあり
最終発表会
最終発表会（グループ単位）
ビジネスモデル
プレゼンテーション
ゲストあり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容にしたがって課題を個人またはグループ単位で行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

教科書：特に指定しない
参考書：①P. F. ドラッガー、マネジメント基本と原則（エッセンシャル版）ダイヤモンド社、②松本英博、事業計画書の読み方と書き方がよくわかる本、秀和システム、③広瀬幸泰、手を動かしながら考えるビジネスプラン、翔泳社、④辻・本郷税理士法人、一番よくわかる会社の設立と運営

【成績評価の方法と基準】

評価方法：出席、提出課題、最終発表および授業中の小テスト結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【Outline (in English)】

In this course students will understand management through knowledge essential for the design of new business schemes, learning about business planning and processes of setting up new business models. In addition they will learn the basics of starting up a new business.

OTR400ND（その他 / Others 400）

応用プロジェクト1

駒井 悠亮、土屋 雅人、大西 景太、岩月 正見、山田 泰之、姜 理恵、SEONG YOUNG AH、小宮 昌人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「プロダクト」「アプリケーション」「システム」あるいは「サービス」など、各自がアイデアを創出し、それらのアイデアについて、顧客対象者、背景、類似品などについて徹底的調査し、新規性、有用性、娯楽性、社会性のある企画として最終提案を行う。

【到達目標】

下記の要件を満たすようなアイデア企画を各自1つ以上提案することを目指す。

1) B期に開講される「応用プロジェクト2」で実現可能なコンセプトであること。

2) デザイン、テクノロジー、マネジメントの3分野にまたがる提案であること。

ただし、「プロジェクト実習制作2」をブラッシュアップしたものでもよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各自が自由にアイデアを提案し、実現のための調査を行い、最終的な企画を提案する。履修者を少数のグループに分けて、それらのグループに対して1名以上の専任教員が指導する。また、ガイダンス、中間報告、最終企画発表などは全教員の前でプレゼンテーションを行う。

優れたアイデア企画に対しては、B期に開講される「応用プロジェクト2」のテーマとして採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目標を示し、最終企画を提案するまでの授業の進め方を解説する。また、アイデア創出のヒントやきっかけになるようなキーワードをいくつか提示する。グループ分けを行い、担当教員を決める。
2	アイデア創出	各グループに分かれ、ブレインストーミングを行って、アイデアを練っていく。
3	アイデア創出	各グループに分かれ、ブレインストーミングを行って、アイデアを練っていく。
4	アイデア創出	各グループに分かれ、ブレインストーミングを行って、アイデアを練っていく。
5	アイデア企画候補の選定	各グループで練ってきたアイデアから最終企画提案候補として有望なものを選定する。
6	アイデア提案と企画候補の決定	最終企画候補として選定したアイデアをまとめ、1人1つ以上の企画案として発表する。
7	アイデア企画の調査	採用されたアイデア企画に対して、顧客となる対象者、背景や類似品などの調査を行う。
8	アイデア企画の調査	採用されたアイデア企画に対して、顧客となる対象者、背景や類似品などの調査を行う。
9	アイデア企画の調査	採用されたアイデア企画に対して、顧客となる対象者、背景や類似品などの調査を行う。
10	アイデア企画の調査	採用されたアイデア企画に対して、顧客となる対象者、背景や類似品などの調査を行う。
11	中間発表	アイデア企画の調査結果をまとめて、全教員の前で各自が中間発表を行う。ここで指摘された改善点や修正意見を整理しておく。

12	修正意見に基づく調査	中間発表で指摘された改善点や修正意見を参考にして、アイデア企画のさらなる調査を行う。
13	修正意見に基づく調査	中間発表で指摘された改善点や修正意見を参考にして、アイデア企画のさらなる調査を行う。
14	最終企画発表	これまでのそれらの企画案から優れたものを最終企画案として採用する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アイデア企画の調査は、実際に外に出てマーケティング調査を行ったり、関連機関にインタビューをしたりする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

出席、意欲、最終企画案などを総合的に評価するが、最終企画案の良し悪しに最も重点を置く。

【学生の意見等からの気づき】

アイデア創出に苦労しているのでブレインストーミングの方法をさらに工夫する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC必須。

【Outline (in English)】

In this course, students will create ideas related to "products", "applications", "systems" or "services," thoroughly investigating target customers, background, similar products etc. In the final class, students will make final presentations about their ideas, addressing their novelty, usefulness and entertainment value as social products.

After each class, students will be expected to spend two hours to make objects and presentation materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the contribution in class and the quality of the final proposal.

OTR400ND（その他 / Others 400）

応用プロジェクト2

土屋 雅人、安積 伸、山田 泰之、SEONG YOUNG AH、岩月 正見、田中 豊、大西 景太、姜 理恵、駒井 悠亮、野々部 宏司、小宮 昌人

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に開講される「応用プロジェクト1」の中で採用されたアイデア企画を具体的に実現する。ただし、「応用プロジェクト1」を履修していなくても、チームの一員として履修することができる。

【到達目標】

システムデザイン学科のめざすモノづくり、しくみづくりを、本格的な形で実現することを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

チームごとにメンターとなる専任教員が1名ついて指導を行う。チームは履修者の自由意思に基づいて編成する。ただし、チームは原則として、クリエイション系、エンジニアリング系、マネジメント系から1名以上の学生で構成されていること。

各チームは、下記のような成果物を提出すること。

- 1) 企画書
 - 2) 仕様書
 - 3) プロトタイプ（試作品）
 - 4) プロモーション媒体（広告、イメージ図、ビデオなど）
 - 5) 初期ロット数や受注先などを組み入れた現実的な必要投資額算定
- 優秀な作品に対しては、実際のクラウドファンディングに掲載することを目指して、学科が知識供与や予算などの面でバックアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「応用プロジェクト」で採択されたアイデアを紹介し、発案者をリーダーとするチーム編成を行う。また、メンターとなる教員候補を選定する。各チームごとに企画案を実現するための計画を発表する。また、メンターとなる教員を決定する。
2	計画発表	各企画のマーケティングを行う。また、各企画をを具体化するためのシステムの設計を行い、プロトタイプを制作する。
3	設計・制作	各企画のマーケティングを行う。また、各企画をを具体化するためのシステムの設計を行い、プロトタイプを制作する。
4	設計・制作	各企画のマーケティングを行う。また、各企画をを具体化するためのシステムの設計を行い、プロトタイプを制作する。
5	設計・制作	各企画のマーケティングを行う。また、各企画をを具体化するためのシステムの設計を行い、プロトタイプを制作する。
6	設計・制作	各企画のマーケティングを行う。また、各企画をを具体化するためのシステムの設計を行い、プロトタイプを制作する。
7	設計・制作	各企画のマーケティングを行う。また、各企画をを具体化するためのシステムの設計を行い、プロトタイプを制作する。
8	中間発表	これまでの各企画の進捗状況をまとめて、全教員の前で各チームが中間発表を行う。ここで指摘された改善点や修正意見を整理しておく。
9	修正意見による設計・企画・制作	中間発表で指摘された改善点や修正意見を参考にして、企画を完成度の高いものにする。
10	修正意見による設計・企画・制作	中間発表で指摘された改善点や修正意見を参考にして、企画を完成度の高いものにする。

11	修正意見による設計・企画・制作	中間発表で指摘された改善点や修正意見を参考にして、企画を完成度の高いものにする。
12	プロモーション媒体作成	企画公開に向けてプロモーション媒体を作成する。
13	プロモーション媒体作成	企画公開に向けてプロモーション媒体を作成する。
14	最終発表	各チームの最終発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、企画に対する討論や調査、プロトタイプ制作などに時間を割く必要がある。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

下記のような項目を考慮して総合的に評価する。

- ・出席状況（個人点）
- ・メンターの個人評価（個人点）
- ・成果物（グループ点）
- ・最終プレゼンテーション（グループ点）

【学生の意見等からの気づき】

「応用プロジェクト1」で採択されたアイデアをベースとして、実装する機能を早めにプロトタイプに組み込むことが重要である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students realize the ideas proposed in the previous course "Applied Project Based Learning 1" as actual prototypes.

【Learning Objectives】

The goal of the class is to realize in the completed way the manufacturing and mechanism development that our department aims to achieve.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is approximately 2 hours each

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the overall evaluation.

- Attendance (individual marks)
- Mentor's evaluation (individual points)
- The final presentation (group points).
- Final presentation (group points)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

プロダクトデザイン1 (2019～2022年度入学生用)

安積 伸、秋山 かおり、林 登志也

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業では、個人制作と、3～4人からなるグループワークの両方を行い、課題に取り組みます。それぞれ、課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表というステージで進めます。
また本授業では特に、独自性の高いアイデアを考案し、試作を行い、検証・発展させるプロセスを重視します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス アフォーダンスとシグニファイヤ ①	授業ガイダンス 課題説明
2週	アフォーダンスとシグニファイヤ ②	最終発表 課題説明
3週	木工 ① 木工 ②	最終発表
4週	色彩演習 ① 色彩演習 ②	課題説明 最終発表
5週	熱可塑性素材の活用 ① 熱可塑性素材の活用 ②	課題説明 最終発表
6週	食とデザインとブランディング ① 食とデザインとブランディング ②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング ③	最終発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業内で適宜指示。

【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン (著) 新曜社
「考えなしの行動？」ジェーン・フルトン・スーリ (著) 太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著) 実務教育出版
「プロダクトデザイン 101 のアイデア」スン・ジャン 他 (著) フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】

授業回数の 1/3 (5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果 (70%) 提出書類 (15%) 出席 (15%)
総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア (プレゼンテーション・CAD・グラフィック等) を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】

欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.

Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.

【Learning Objectives】

The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.

Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.

Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.

Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.

Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.

【Grading Criteria / Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

プロダクトデザイン2 (2019～2022年度入学生用)

安積 伸、秋山 かおり、林 登志也

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業では、個人制作と、3～4人からなるグループワークの両方を行い、課題に取り組みます。それぞれ、課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表というステージで進めます。
また本授業では特に、独自性の高いアイデアを考案し、試作を行い、検証・発展させるプロセスを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス アフォーダンスとシグニファイヤ ①	授業ガイダンス 課題説明
2週	アフォーダンスとシグニファイヤ ②	最終発表 課題説明
3週	木工 ① 木工 ②	最終発表
4週	色彩演習 ① 色彩演習 ②	課題説明 最終発表
5週	熱可塑性素材の活用 ① 熱可塑性素材の活用 ②	課題説明 最終発表
6週	食とデザインとブランディング ① 食とデザインとブランディング ②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング ③	最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン (著) 新曜社
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ (著) 太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著) 実務教育出版
「プロダクトデザイン 101 のアイデア」スー・ジャン 他 (著) フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】

授業回数の 1/3 (5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果 (70%) 提出書類 (15%) 出席 (15%)
総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア (プレゼンテーション・CAD・グラフィック等) を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】

欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.

Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.

【Learning Objectives】

The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.

Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.

Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.

Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.

Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.

【Grading Criteria / Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

デザインシンキング

吉見 奈々、金田 遼平

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブランディングデザインに必要な様々な要素をグループワーク演習によって実践的に学びます。

提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

【到達目標】

ブランドプロデュースのための一連のプロセスを通じ、ブランディングデザインの能力獲得を目指します。

また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、意匠を作る力だけでなく、アイデアの出し方・プロセス・思考法、コンセプト設計力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。

参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 講義	・全体概要の説明 ・講義(ブランディングとは、関連する事例)
2	導入課題 第1課題 Research	・導入課題発表 ・講義、課題説明 ・グループ分け ・事例リサーチ、分析
3	第1課題 プレゼンテーション	・発表、講評
4	第2課題 Planning + Doing	・講義、課題説明 ・テーマの設定 ・分析、要素の解体・抽出、アイデア展開
5	第2課題 Planning + Doing	・作業、チュートリアル
6	第2課題 プレゼンテーション	・発表、講評
7	第3課題 Research + Planning + Doing	・課題説明 ・ワークショップ
8	第3課題 作業	・仮説、リサーチ ・コンセプト設計 ・企画検討
9	第3課題 作業/チュートリアル	・進捗共有とディスカッション ・アイデア展開、プロトタイプ検討
10	第3課題 中間報告	・進捗共有、チュートリアル ・提案内容、試作やプロトタイプの確認
11	第3課題 中間報告	・進捗共有、チュートリアル ・提案内容、試作やプロトの確認
12	第3課題 作業/チュートリアル	・作業、チュートリアル

13 第3課題 最終プレゼンテーション(前半)

14 第3課題 最終プレゼンテーション(後半) ・まとめ
総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。

各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要に応じ適宜指示します。

【参考書】

授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

課題のプレゼンテーション内容90点、提出レポートを10点とする。

総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をDとする。

ただし、1点でも提出レポートが欠けている者はDとする。

1コマ欠席-10点、遅刻-5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】

ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.

The course cultivates the ability to “ability to create designs” and more importantly, “how to generate ideas, processes, and ways of thinking” and “the importance of concepts.”

・ Grading criteria

the content of presentation is 90 points, and the report is 10 points.

If the total score is 90 points or more, it will be graded S.

A+ for 89-87 points, A for 86-83 points, A- for 82-80 points.

B+ for 79-77 points, B for 76-73 points, B- for 72-70 points

C+ for 69-67 points, C for 66-63 points, C- for 62-60 points.

A score of less than 60 points is considered D.

10 points for being absent for 1 period, 5 points for being late.

However, those who are absent for 5 or more periods will be graded D.

Sick leave, bereavement, SSI tournaments, official practice, etc. are excluded from absence, but proof of the same must be submitted.

If the work cannot be completed during class hours, students will be asked to do it independently outside of class hours.

After completing each assignment, students will be asked to compile a project proposal and submit it as a report.

Your study time for preparation and review will be more than 2hours for a class.

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカニカルデザイン

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体と物体の動きの関係を定める機構（メカニズム）に焦点をあてる。様々な機械に用いられる機構を中心に、機構をつくる材料特性、加工、生産性などの多角的視点から学ぶ。また実際に具体化させるための基礎的、応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニカルデザインを具体化するために必要は材料，加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1)と2)の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

動きをともなうあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主なメカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学ぶ。講義は対面を主体に実施するが、状況をみてオンラインやコンテンツ配信なども併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	・機械設計とは何か，身近な機械機構，材料と加工法の事例紹介
第2回	設計基礎	図面とCADを用いた機械設計と設計プロセス
第3回	機械要素	機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格）
第4回	機械要素	構造と材料の選定について
第5回	伝達機構	機械要素：ギヤ 様々な伝達機構や，柔軟伝達機構について説明する。
第6回	カム機構	・カム機構
第7回	リンク機構 液体伝達機構	・リンク機構、緩衝装置 液体伝達要素を利用したメカニカルデザイン
第8回	アクチュエータ 中間課題	アクチュエータのメカニカルデザインについて紹介する。 中間課題
第9回	材料	様々な材料を利用したメカニカルデザイン
第10回	構造	機械の様々な構造
第11回	機械加工・工具	様々な部品の機械加工方法や道具の紹介
第12回	移動機構	移動機構のメカニカルデザインについて紹介する。
第13回	応用的なメカニカルデザイン	応用的なメカニカルデザインについて紹介する。
第14回	期末課題	期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材，資料は随時で紹介する。
参考図書の機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は，学内あるいはVPN接続により，電子書籍で閲覧可能です。
https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/
参考図書の基礎機械材料は図書館にあります。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911
- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・確認小テスト（20％）
課題提出と期末テストにより（80％）
により総合的に評価する。
出席回数の少ない学生は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が，「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのか」，イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし，学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

インクルーシブデザイン

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について、実践演習を通して学びます。

世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外の人々は「少数ユーザー」あるいは「極端なユーザー」として、量産品のターゲットから排除される傾向にあります。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれています。そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる、普遍的な問題といえるでしょう。

これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法によって生活の中で直面する不具合を観察し、考察、試作、改良といった全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】

本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人物をパートナーとして迎え、当事者との協働を通じてインクルーシブなデザインプロセスを実践する。学生は、対話・観察・試作・検証といった一連のプロセスを通して、その人に最適化された日常生活支援機器の開発に取り組む。またプロジェクトの始動から完成に至るまでの開発過程をビデオで記録し、ドキュメント映像作品としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、3～4人によるグループワーク形式で実施する。各班は、取材対象（協力者）となる具体的な人物を1名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招き、その人が日常生活の中で抱えている課題を観察および調査を通して分析する。学生は、課題の精査と問題定義を行ったうえで、解決に向けたデザイン提案を試作し、パートナーからのフィードバックを反映させながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。あわせて、こうした一連のプロセスを映像として記録し、調査－問題定義－解決案の考案－試作－フィードバック－改良－完成という流れをもつドキュメント形式のビデオ作品としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作 テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作 テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作 テスト・フィードバック ビデオレポート 発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストラーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。

授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「インクルーシブデザイン」という発想 ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品50点、制作プロセスの評価を25点、出席を25点とします。総合点が90点以上をSとし、89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をDとする。最終作品が未提出な者は評価外とします。

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。また、ビデオ映像を撮りためておく大容量のストレージを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】

この授業は主に対面形式で行う。プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn about the concepts and methods of inclusive design through practical exercises, and aim to make people's lives more comfortable through design.

【Learning Objectives】

In this class, we invite people who have some type of difficulty in their daily lives as partners, and through the inclusive design process, we develop devices that support daily life that are optimized for that person.

In addition, we will create a documentary video of the development process of the work.

【Learning activities outside of classroom】

We expect students to actively create work outside of working hours.

We will conduct research, prototype production, verification, etc. outside of class hours, and have you present your findings on video the following week.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the final work (60%), process of development (20%), and attendance (20%).

The students who have not submitted their final work will not be evaluated.

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

デザイン・バックカスティング

松山 祥樹

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

問題解決や価値創造といった社会に対するデザインの役割は近年さらなる拡大を見せ、取り扱われるテーマや求められるアプローチも、その複雑性を増しています。

本授業では、日常生活での課題や環境問題などに加え、ジェンダーや人種に関する人権問題や、貧困や教育における社会格差など様々な事例を取り扱いながら、より良い未来に向けた問題解決のためのデザインの在り方を学びます。

一律に何が正しいと定義できない複雑なテーマに対し、あらゆる人々や物事に与える影響を考慮・検討しながら価値創出を模索する過程を通し、多角的な視点から物事の本質を見極め、解決に導く力を養います。

【到達目標】

本授業では、グループワークを通し、リサーチ、問題定義、解決提案とその具体化までを行う。

それぞれの提案は、プロセスからアプトプットまでを1冊の本の形式に美しくまとめることで、自身の考えや提案を正しく魅力的に伝え、共感を導くツールにまで仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

第一課題では、共通のテーマに対しグループワークでの提案を行います。第二課題ではそれぞれのグループごとに課題選定を行い、その解決提案を行います。

各課題のプレゼンテーションの後、講義時間内にて講評によるフィードバックを行います。またディスカッションの時間を設けることで、設定したテーマや提案に対しての考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 講義(導入) 課題グループ分け	全体概要の説明 講義(本講義の目的と狙い) 課題に取り組むチーム分けの実施
2	導入ディスカッション 課題リサーチ	エクササイズとしてのディスカッションワーク 各チームごとに社会課題のリサーチを開始
3	リサーチの共有 講義(関連デザイン事例)	各自のリサーチ結果の共有 関連するデザイン事例の講義
4	フォーカステーマの選定	各チーム、フォーカスするテーマをディスカッションし選定する
5	中間プレゼンテーション テーマの共有	選定したテーマとその背景をポスター形式にまとめ、各チームごとに簡易なプレゼンテーションを行う

6	テーマの深掘り リサーチ計画の立案	各チーム選定したテーマに対し、課題を深ぼるためのリサーチワークを行う インタビューや実験の計画を検討する
7	リサーチ結果の共有	インタビューや実験、デスクリサーチの結果を共有し、アイデアの方向性を定める
8	ソリューションアイデア検討	着目した課題を解決するためのアイデア検討ワークを行う
9	ソリューションアイデアの共有	検討したアイデアを共有し、改善点を検討する 適宜、プロトタイプなどを制作して検証を行う
10	プロトタイプの確認 講義(ブックデザイン事例)	制作したプロトタイプや検証結果を確認する 最終的にまとめるブックのデザイン事例の講義
11	アウトプットの進捗確認	最終提案に向けたアウトプット全体の進捗状況を確認し、完成に向けた作業を実施する
12	講義(アウトプットの作り込み)	アウトプットの完成度を高めるためのデザイン事例に関する講義
13	最終プレゼンテーション前半	各チームごとに、最終提案の発表を行う
14	最終プレゼンテーション後半 全体講評・総括	各チームごとに、最終提案の発表を行う 全体の総括として、講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行っても構います。

日常生活を注意深く観察し、暮らしの不便や困りごとを見出すことに加え、自身とは違う環境や価値観の人々、世界で起きている出来事やニュースについても積極的に情報収集し、見識や考察を深めて下さい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「Design as an Attitude -姿勢としてのデザイン-」 アリス・ローソン (著), 石原薫 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】

授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度の平常点評価を30点、課題プレゼンテーション内容を40点、最終成果物を30点とした計100点満点で評価する。

総合点が90点以上をA+、90点未満80点以上をA、80点未満70点以上をB、70点未満60点以上をC、60点未満をDとする。

ただし、1点でも提出レポートが欠けている者はDとする。
1コマ欠席- 10点、遅刻- 5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

(なお、病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外、ただし当該証明書を提出する事。)

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける

【Outline (in English)】**【Course outline and Learning Objectives】**

The role of design in society has been expanding further in recent years, and the problems and approaches which designers deal with have become complex. This course teaches how design can be used to solve problems for a better future. Various themes are used in this course that cannot be defined as being right : daily-life problems, discrimination and human rights related to gender and race, and social disparities in poverty and education.

In Design Backcasting, you develop your ability of identifying complex problems by design considering the impact on people and societies from multiple perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be asked to work independently outside of class time on tasks that cannot be completed within the class time.

The standard preparation time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation is based on a total of 100 points, consisting of 30 points for the normal assessment of class participation, 40 points for the content of the assignment presentation and 30 points for the final product.

A+ for a total score of 90 or more points, A for 80 or more points below 90, B for 70 or more points below 80, C for 60 or more points below 70 and D for 60 or more points below 60.

Absence from one class - 10 points, tardiness - 5 points. However, a D is given to students who are absent for more than five sessions.

(Sickness, bereavement, SSI competitions, official practices, etc. are excluded from absences, but the relevant certificate must be submitted.)

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

サービスUXデザイン

平田 昌大

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人々の価値観の多様化、技術の発展などを背景に、製品・サービスに求められる価値はより複雑多様化している。「サービスデザイン」とは、そういった製品・サービス（または取り組み）を開発するために、テクノロジー・クリエイティブ・ビジネスを包含した総合的な視点でアプローチするデザイン領域である。本授業では、顧客体験(UX)を重点とした新規サービスの企画を行い、調査からアイデア発想、プロトタイプ、プレゼンテーションまでの一連の過程のなかで、サービスデザインの基本的な視座を獲得する。

今年度は「Intrinsic Motivation(内発的動機)」をテーマに、自身の興味関心のある領域を基軸としたサービスを企画し、投資家へのプレゼンテーションを想定した演習課題を行う。

【到達目標】

- テーマ課題を通して、基本的なサービスデザインプロセスを学び、考案したサービスを第三者へ魅力的に伝えることを目標とする。
- 成果物として、考案したサービスのプレゼンテーション及びプロトタイプの制作を行う。なお、UI(アプリケーションやウェブサイトなど)は必須ではないが、授業内でUIデザインの基礎について触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

原則としてチーム制作（受講人数により1チーム3～5名程度）とする。課題制作とその指導を行う演習を中心とし、必要に応じて関連する知識や方法を伝えるための講義を行う。課題制作の進捗に合わせて、プレゼンテーションや内容に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体説明	・全体概要の説明(本授業の目的・意義・スコープ) ・講義(「サービスデザイン・UXデザイン」とは) ・アイスブレイク(既存サービスのリバースエンジニアリング) ・好き語りによるチームビルディング
2	テーマ探索 リサーチ計画・実施	・講義(リサーチの目的・手法・プロセスについて) ・個人/グループワーク(テーマの探索・仮説立案) ・グループワーク(リサーチ計画・リサーチ)
3	リサーチ結果の共有・分析	・講義(リサーチ分析・インサイト発掘・アイディエーション) ・個人/グループワーク(リサーチ結果共有・分析・インサイト発掘)

4	アイディエーション	・個人/グループワーク(アイディエーション) 解説：ペルソナ、ジャーニーマップづくりの紹介と実践
5	アイデア中間発表	・アイデア全体発表(リサーチ結果にもとづくアイデアの発表) ・講義(UX検討・ビジネスモデリング・フィジビリティ検証)
6	UX検討 ビジネスモデリング フィジビリティ検証	・個人/グループワーク(アイデアブラッシュアップ・コンセプトアップ)
7	プロトタイピング ユーザーテスト(UX課題点の抽出)	・講義(プロトタイピング・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク(プロトタイピング・ユーザーテスト)
8	サービスアイデアのブラッシュアップ	・グループワーク(アイデアブラッシュアップ・ユーザーテスト)
9	UIデザイン ユーザーテスト(UI課題点の抽出)	・講義(UIデザイン・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク(UIデザイン・ユーザーテスト)
10	サービス詳細化	・グループワーク(UIデザイン・サービス詳細化)
11	プレゼンテーション作成	・講義(サービス提案のプレゼンテーション) ・個人/グループワーク(最終提案骨子制作)
12	提案のブラッシュアップ	・グループワーク(最終提案資料作成)
13	最終プレゼンテーション	・最終プレゼンテーション
14	最終プレゼンテーション 総評	・最終プレゼンテーション ・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき各2時間を標準とする。日常生活で感じる課題や不満を内省的に観察すると共に、身近の製品・サービスの意図や構造を考察すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜、授業内で参考資料、文献、サイト等を紹介する。

【参考書】

1. 「This is Service Design Thinking 日本語版」マーク・スティックドーンほか編著/ピー・エヌ・エヌ新社
2. 「This is Service Design Doing サービスデザインの実践」マーク・スティックドーンほか編、ピー・エヌ・エヌ新社
3. 「デザインリサーチの教科書」木浦幹雄 著、ピー・エヌ・エヌ新社
4. 「リーン・スタートアップ」伊藤穰一ほか著、日経BP
5. 「起業の科学 スタートアップサイエンス」田所雅之著、日経BP
6. 「ビジネスモデル図鑑2.0」近藤哲郎著、KADOKAWA

【成績評価の方法と基準】

出席・授業態度（40点）
提出物（20点）
プレゼンテーション内容（40点）
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。

5コマ欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外とする。なお15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなる。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

PC（プレゼン資料作成）、必要に応じてプロトタイピングツール（AdobeXD など）や、オンラインホワイトボードツール（Miro など）、授業内で紹介する無料のアプリなど。必要に応じてプロトタイプ制作用の素材（紙や画材など）や加工道具が必要となる。

【その他の重要事項】

サービスデザイナー/UIUXデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
授業終了後に教室で質問を受け付ける、または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Service design is a design field that approaches the development of complex products and services from a holistic perspective that encompasses technology, creativity, and business. In this class, we will plan a new service with an emphasis on user experience, and acquire a basic perspective on service design through a series of processes from research to idea generation, prototyping, and presentation.

This year's theme is "Intrinsic motivation," and the students will plan a service based on their own area of interest, and conduct an exercise in preparation for a presentation to investors.

【Learning Objectives】

The goal is to learn the basic service design process through thematic assignments and to communicate the devised service in an attractive manner.

Students will be required to make a presentation and a prototype of their service. In addition, UI (applications, websites, etc.) is not required, but the basics of UI design will be covered in class.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Students should observe the frustrations they feel in their daily lives and consider the intentions and structures of the products and services around them.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and class attitude (40 points)

Submission of work (20 points)

Presentation content (40 points)

A total score of 90 or higher is considered an S.

A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80

A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80, B+ for 79-77, B for 76-73, B- for 72-70, C+ for 69-67, and C- for 69-67.

A score of 69 to 67 is C+, 66 to 63 is C, 62 to 60 is C-.

A score of less than 60 is considered a D.

Students who are absent for 5 classes or 3 consecutive days will not be graded. Students who are tardy for more than 15 minutes will be counted as one absence. (However, if there is a valid reason, both absences and tardies will not be counted as one absence.)

FRI300ND（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 300）

ゲームプログラミング

岩月 正見

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の技術がどのような原理によって実現され、いかにしてゲーム開発に応用されているかについて、ゲーム開発統合環境Unityを用いて、実際に3Dシーンを構築し、プログラミングを行いながら具体的に理解していく。また、3Dオブジェクトに物理属性を与えたり、インタラクティブな操作を行ったりする手法についても学ぶ。

【到達目標】

本授業は、3DCG技術を用いて自分のアイディアに基づくゲームや3Dコンテンツを具体的に制作できるようになることを目標とする。特に、現在多くの開発者に利用されているゲーム開発統合環境Unityを利用することにより、3Dゲームやインタラクティブな3Dコンテンツが容易に開発できることを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

チュートリアルビデオを見ながら、ゲーム開発統合環境Unityの操作方法を学び、3DCGゲームを開発するための具体的に制作しながら学んでいく。また、各チュートリアルの詳細な解説と補足説明も行い、使われている素材の入手方法や作成方法についても詳しく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲームプログラミングとは	ゲーム制作の要素 1. グラフィクス 2. サウンド 3. UI 4. プログラミング
2	ゲーム開発統合環境Unityの基礎	ゲーム開発統合環境Unityのインストールを行い、各パネルの役割や操作方法の基本を学ぶ。
3	オブジェクトの物理属性と衝突判定	オブジェクトを剛体として、質量や反発係数などの物理特性を与える方法を学ぶ。また、オブジェクト間の衝突を判定する方法を学ぶ。
4	外部入力検出とブレハブ	キーボード入力によってオブジェクトを操作する手法を学ぶ。また、ブレハブと呼ばれる使いまわしのできるプロトタイプオブジェクトを利用する方法を学ぶ。
5	オブジェクトの生成と消滅およびタイマー	スクリプトによってオブジェクトを動的に生成・消滅させる方法を学ぶ。また、ゲームに欠かせないタイマーを利用する方法を学ぶ。
6	オブジェクトの基本的な移動と力の与え方	オブジェクトの3次元的な移動方法を学ぶ。また、オブジェクトに力を与える方法を学ぶ。
7	演習	これまでの知識を総合してボーリングゲームを作成する。
8	マテリアル属性とオーディオの基礎	オブジェクトにテクスチャを貼る方法を学ぶ。また、オーディオを生成する方法を学ぶ。
9	ジョイントと矢印キーによる入力	複数のオブジェクトを結合したり、関節でつなぎ合わせる方法を学ぶ。また、矢印キーによる入力方法について学ぶ。
10	トリガー衝突判定とGUIおよびカウンター	オブジェクトが衝突したことを通知するトリガーを使う方法を学ぶ。グラフィカルユーザインタフェース(GUI)を作成する方法とカウンターの使い方を学ぶ。
11	スクリプトによるコンポーネントの追加とシーンの切り替え	スクリプトによって、オブジェクトの属性を与えるコンポーネントを動的に追加する方法を学ぶ。また、ゲームの終了時などのためのシーンの切り替え方法を学ぶ。

12	スクリプトによるコンポーネント属性の調整およびローカル・グローバル座標	スクリプトによって、コンポーネント属性の内容を調整する方法を学ぶ。また、シーン中のローカル・グローバル座標について学ぶ。
13	オブジェクトへの視線追跡とIF条件節	主オブジェクトを追跡するLookAt()関数の使い方について学ぶ。また、IF条件節について学ぶ。
14	最終作品発表	これまで学んだ知識を駆使して、各自オリジナル作品を制作し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミング（C#, C++, Java等）の基礎を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。講義資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20%）＋講義内での演習（40%）＋最終作品（40%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の持ち込むPCによって動作に不具合や差が出るため、それらを配慮して演習を考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand how to create 3DCG game applications by using Unity, a cross platform game engine. Students will acquire game programming skills through exercises for creating various game scenes with a physics engine and interactive user interface. Students should have a basic understanding of programming (C#, C++, Java, etc.).

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation will be made on the basis of the assignments (60%) and the evaluation of the student's work on the final project and the achievement and explanations at the presentation (40%).

AIプログラミング

我妻 幸長

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能（AI）技術を使いこなすために必要な、プログラミングスキルの習得を目指す。
さまざまな人工知能のモデルを、自身で実装して使いこなせるようになることが目標。
また、人工知能全般や最新の技術についても紹介し、人工知能全般に関する知識を深める。

【到達目標】

プログラミング言語Pythonを使って、様々な人工知能のモデルを構築できるようになる。
人工知能を使って、現実世界の様々な問題を解決できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教材は主に Google Colaboratory のノートブックで配布する。
講義には、各自が課題に取り組む時間を設け、現実世界における問題の解決力を育む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	人工知能の概要	人工知能の分類、歴史、開発環境
第2回	Python プログラミング	プログラミング言語Pythonの基礎、およびNumPy、matplotlib、Pandasの使い方
第3回	AIのための数学	AIに必要な、線形代数、微積分、確率統計
第4回	シンプルなニューラルネットワーク	ニューラルネットワークおよびディープラーニングの概要、フレームワークを使わないニューラルネットワークの構築
第5回	ディープラーニングの理論	ディープラーニングの理論的基礎
第6回	フレームワークの扱い方	tensorflow、Keras、PyTorchなどの紹介
第7回	畳み込みニューラルネットワーク（CNN）	CNNの構築、CNNによる画像分類
第8回	再帰型ニューラルネットワーク（RNN）	RNNの構築、RNNによる時系列データの処理
第9回	自然言語処理	Word2Vec、RNNなどによる自然言語の処理
第10回	生成モデル（VAE）	VAEによる画像生成、潜在変数の可視化
第11回	生成モデル（GAN）	GANによる画像生成、ナッシュ均衡
第12回	強化学習	強化学習の原理、強化学習の実装
第13回	転移学習	転移学習、ファインチューニング、有名モデルの紹介、有名モデルの活用

第14回 人工知能の発展技術 最新の研究の紹介、最新の研究のコードによる実装

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料に目を通し、講義終了後に復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配布する。

【参考書】

我妻幸長：「はじめてのディープラーニング」 SBクリエイティブ
<https://www.sbcr.jp/product/4797396812/>
我妻幸長：「はじめてのディープラーニング2」 SBクリエイティブ
<https://www.sbcr.jp/product/4815605582/>
我妻幸長：「あたらしい数学の教科書」 翔泳社
<https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798161174>
我妻幸長：「あたらしい脳科学と人工知能の教科書」 翔泳社
<https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798164991>
我妻幸長：「Google Colaboratoryで学ぶ！ あたらしい人工知能技術の教科書」 翔泳社
<https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798167206>
我妻幸長：「BERT実践入門」 翔泳社
<https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798177816>
我妻幸長：「生成AI プロンプトエンジニアリング入門」 翔泳社
<https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798181981>

【成績評価の方法と基準】

レポート点数の合計値により、0-100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

プロンプトエンジニアリングについても扱うようにする。
プログラミングに関する難易度が高かったとの意見が多かったので、Pythonの基礎をより丁寧に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンが必要。
Google Colaboratoryを使用するため、Googleアカウントが必要。

【その他の重要事項】

基礎的な数学能力、プログラミング能力を有することが望ましい。
授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course aims to provide students with the programming skills necessary to master artificial intelligence (AI) technology. The goal is to be able to implement and use various models of artificial intelligence.
The course also introduces artificial intelligence in general and the latest technologies to deepen the knowledge of artificial intelligence.
It is advisable to study outside of class time by using reference books and other materials. Grades will be based on the performance of reports.

HUI300ND（人間情報学 / Human informatics 300）

ARプログラミング

馬場 祐人

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNSやニュースアプリ、スマホゲームなどWeb上で提供されるサービスやソフトウェアをWebアプリと呼ぶ。常時インターネットにつながった環境が当たり前となった今、PCやスマホといったクライアントと、サーバとでデータを通信して、様々な情報を随時やり取りすることが可能である。本授業では、Webアプリの開発に必要なフロントエンドとバックエンドの技術を習得してWebアプリを開発する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、Webアプリ開発環境「Next.js」を用いて、Webアプリケーションの応用的な開発手法を習得できる。Webアプリ開発に必要なフロントエンド、バックエンドの技術、具体的にはJavaScript、HTML、CSS、データベースエンジンに関する構成と概要を理解し、設計技術を習得し、実際にプログラミングしながら実装手法を理解する。そして各自のアイデアに基づいてオリジナルのWebアプリを制作できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Webプログラミングに関する幅広い領域の専門用語や技術構成を適宜解説する。講義時間内で、持参したノートPCを用いて、実際に様々な機能をプログラムとして実装しながら、Webアプリの開発手法を理解する。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webアプリとは	Webアプリとは何か。どのように構成されているかを学ぶ
第2回	開発環境(Next.js, Docker)の準備	Webアプリ開発環境(Next.js, Docker)をインストールする
第3回	フロントエンドとバックエンド	フロントエンドとバックエンドの違い、それぞれの役割について学ぶ
第4回	簡単なWebアプリの開発	単純なWebアプリを制作する
第5回	バックエンド開発	バックエンドのシステム開発について学ぶ
第6回	データベースの構成	バックエンドで用いるデータベースを構築する
第7回	フロントエンド開発	フロントエンドに必要なUIデザインについて学ぶ
第8回	クライアント側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのフロントエンドを設計する
第9回	WebアプリのUI制作	フロントエンドとなるUIをHTML、CSS、JavaScriptで制作する
第10回	サーバ側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのバックエンドを設計する
第11回	Webアプリのデータベース設計	Webアプリのバックエンドで情報を記録するデータベースを設計する
第12回	Webアプリのセキュリティ	Webアプリを作るにあたって考慮すべきセキュリティの基礎対策について学ぶ
第13回	Webアプリのテスト	制作したWebアプリをテストする
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講に当たりJavaScript、HTML、CSSそれぞれのプログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

自ら課題設定したWebアプリに必要な設計を組み立て、Webアプリとしてプログラムできることを達成目標とする。

成績評価は、平常点(講義内演習等での貢献・取り組み態度)(30%)、各授業ごとの演習課題提出(30%)、最終作品と発表(40%)を基準として、総合的に判断し評価する。
最終作品についてはプレゼンテーション形式の発表を実施する。発表は試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートを踏まえて、円滑な授業進行と授業の内容の改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC（貸与PCもしくはWindowsパソコン使用を推奨）。各自のPCに、ソフトウェアをインストールして演習を行なう。PCにソフトウェアをインストールするためにSSD/HDDの空き容量を3GBほど確保しておくこと。資料配布、課題の提出などに、授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・本講義は秋学期開講の「コンテンツプログラミング演習」の応用的な内容となる。受講に当たっては「コンテンツプログラミング演習」の受講を推奨する。
・プログラミング言語処理系やWeb技術に関する実務経験を有する教員の観点から、Webアプリ開発の基礎的な概念や技術要素を解説する。
・授業終了後時間が許す範囲で、教室で質問を受け付ける。またHoppiiに記載したメールアドレスにて質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Services and software provided on the Web, such as SNS, news apps, and smartphone games, are called web applications. Web applications communicate various information and constantly exchange data between clients such as PCs and smartphones and servers. In this class, you will learn how to develop web applications by acquiring the front-end and back-end technologies necessary for developing web applications.

Assessment will be made as follows: In-class contributions 30%, in-class-hours practices 30%, final presentation 40%.

Before/after each class-hours, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

デジタルエンジニアリング

水野 操

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CAD(Computer Aided Design)/CAM(Computer Aided Manu-facturing)/CAE(Computer Aided Engineering) の概要を理解し、製品のモデリングやエンジニアリングシミュレーションなどの基礎的手法を学ぶ。

【到達目標】

汎用のCAD/CAM/CAE 統合ソフトウェアを使用して、与えられた基礎的な課題に対するモデリングができる。また、そのモデルを用いたシミュレーション結果の評価ができる。さらに、総合課題をとおして、決められた時間内に、自ら問題を解決できるとともに、新しいデザインを提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業では、CAE ソフト「SOLIDWORKS Simulation」を利用した実習をとおして工学シミュレーションの技術を学ぶ。実習は、週2コマ（2時限）連続で実施し、各回とも、はじめに操作方法や結果の評価方法を学び、その後、各自で課題を解決し、指示に従って、授業支援システムに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力と変形のシミュレーション（1）	① SOLIDWORKS Simulation によるシミュレーションの手順 ② SOLIDWORKS Simulation の操作 ③ シミュレーション結果の評価
2	力と変形のシミュレーション（2）	課題実習 課題1：集中荷重が作用する片持ちばりのたわみのシミュレーション
3	力と変形のシミュレーション（3）	課題実習： 課題2：断面形状の違いによる、応力とたわみの評価
4	力と変形のシミュレーション（4）	課題実習1，課題実習2の講評
5	最適化シミュレーション（1）	①最適化の目的・設計変数・制約条件 ②SOLIDWORKS Simulation による寸法最適化シミュレーションの手順
6	最適化シミュレーション（2）	課題実習 課題3：分布集中荷重が作用するI型断面片持ちばりの最適形状のシミュレーション
7	振動のシミュレーション（1）	①SDOLIDWORKS Simulation による固有値解析の手順 ②シミュレーション結果（アニメーション）の評価
8	振動のシミュレーション（2）	課題実習 課題4：拘束条件の相違による振動特性の評価
9	熱伝導のシミュレーション（1）	① SolidWorks Simulation による熱伝導解析の手順 ②シミュレーション結果の評価（温度コンター図ほか）
10	熱伝導のシミュレーション（2）	課題実習 課題5：丸棒の熱伝導シミュレーション
11	流れのシミュレーション（1）	①SOLIDWORKS Flow Simulation の設定と操作 ②シミュレーション結果の評価（コンター、ベクトル図、流跡線）
12	流れのシミュレーション（2）	課題実習 課題6：空力特性を考慮した車のデザイン
13	総合課題（1）	工学シミュレーションの確認課題（車のデザイン）

14 総合課題（2）

工学シミュレーションの確認課題（車のデザイン）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料を、学習支援システムにアップするので、各自、事前にダウンロードし持参すること。事前に実習内容を確認し、配付資料に記載されている操作方法に目としておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

実習手順書、実習に必要なデータ、課題など、実習に必要なテキストなど、全てを学習支援システムにアップする。

【参考書】

竹内・樫山・寺田：計算力学，森北出版
門脇・高瀬：SolidWorksによる3次元CAD，実教出版
金田：SolidWorksアドオン解析ツール利用入門，技術評論社
浅川他：3次元CAD・CAE・CAMを活用した創造的な機械設計，日刊工業新聞社
アドライズ：SolidWorks練習帳，日刊工業新聞社
水野操：モノが壊れないしくみ、ジャムハウス
水野操：材料力学を理解してCAEを使いこなす，日刊工業新聞社
栗崎彰：設計技術者のための有限要素法はじめての一步、講談社

【成績評価の方法と基準】

配点は以下のとおり。
授業中の課題（50%） 与えられた課題に対するモデリングやシミュレーション能力を評価する
総合課題（30%） 自ら問題を解決し、新しいデザインを提案する能力を評価する
実習状況（20%） 決められた時間内に課題を処理する能力を評価する。ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。なお、1時限目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、当日は欠席扱いとする。また、15分以上遅れた場合は遅刻とし、2回の遅刻で1回の欠席とする。
< 評価基準>
履修の手引きに記載されているS〜Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

教室に設置されているPCは最新のSOLIDWORKSがインストールされており、貸与ノートPCのバージョンとは異なる場合がある。最新バージョンに更新したい学生は、担当教員に相談すること。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCにインストールされているソフトウェア（SOLIDWORKS）を使用する。なお、情報教室も確保するので、ネット環境や、PC環境が悪い学生は、情報教室での受講も可能である。
対面授業は情報処理教室のPCにインストールされているSOLIDWORKSを使用するが、自習やその教室のPCが使用できない場合は貸与PCを使用するので、授業には必ずSOLIDWORKSがインストールされている貸与PCを持参すること。（事前に自分の貸与PCを確認のこと）

【その他の重要事項】

2025年度は、対面授業を基本とする。
自習については貸与PCにインストールされているSOLIDWORKSおよびSOLIDWORKS Simulationを使用すること。
貸与PC上のSOLIDWORKSは最新バージョンにしておくことを推奨する。質問等については、授業終了後に受け付ける他、随時電子メールにて受け付ける。
教員は、30年以上にわたり製造業の製品開発現場で非線形解析や熱流体解析の実務経験があり、現在は自社にて受託解析業務を展開している。また、設計者向けCAE入門書を著述しており、これらの実績と基礎知識を融合したコンテンツを本授業で提供する。

【Outline (in English)】

(Course outline)
In this program, students acquire basic knowledge of CAD (Computer Aided Design)/CAM (Computer Aided Manufacturing)/CAE (Computer Aided Engineering) and skills such as product modeling and engineering simulations. The latest version of the general-purpose CAD/CAM/CAE integration software SolidWorks is used.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1)Modeling using CAD
2)Simulation using CAD model
3)Evaluation of simulation results
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)

SDGs 発行日：2026/5/1

Grading will be decided based on short reports (50%), term end report (30%), and in class contribution (20%).

MEC300ND（機械工学 / Mechanical engineering 300）

I o T プログラミング

岩月 正見

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在には多くの機器に小さなコンピュータが搭載され制御を行っている。このようなハードウェア制御のためのプログラミングを学ぶことをこの授業のテーマとする。
システムデザイン学科のプロジェクトや卒業研究の試作の際に、この演習で学んだことが生かされるはずである。とくに、このような小さなマイクロコンピュータもインターネットに接続することが可能となる。

【到達目標】

機械制御のためには情報を電気信号として扱う必要がある。授業の最初の目標は、情報と電気信号（物理量）の対応関係を把握できるようにすることである。第2の目標は制御はすべて実時間で行う必要があるために、このリアルタイム性の概念を身につけることである。第3は開発環境について理解を深めることである。第4は幾つかの演習を通して、仕様に沿ったプログラム開発が可能となる基礎を得ることである。第5は対象となる機器をこのマイクロコンピュータを通して外部と接続する方法である。ここではWiFiを利用してマイコン同士で送受信する方法、インターネットにデータを送る方法、およびPCやスマホとのBluetooth接続について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

配布用マイコン教材を利用して、各種データのマイコン相互の送受信の方法や、WiFiを利用してインターネットにデータを送る方法やPCやスマホとのBluetooth接続についての高度なIoTプログラミングの演習を行う。
実際に必要な周辺部品の配線を行い、各自が書いたプログラムをマイクロコンピュータにインストールして実行するというサイクルを通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-1	I o T プログラミングとは	I o T プログラミングとは何かについて説明し、最近の動向を開説する。
1-2	ガイダンス	全学生に配布しているマイコン教材について解説する。 ・ATOM Liteの開発環境構築 ・ATOM Liteの仕様解説
2-1	マイコン教材の動作確認 1	配布マイコン教材の動作確認を行う。 ・内蔵カラーLED、内蔵スイッチ、ENVセンサなどのセンサ系
2-2	マイコン教材の動作確認 2	配布マイコン教材の動作確認を行う。 ・サーボモータ、ステッピングモータなどのアクチュエータ系
3-1	Peer-to-Peer 通信 ESP-Now 1	各種データをATOM Lite同士で送受信する方法について解説する。
3-2	Peer-to-Peer 通信 ESP-Now 2	各種データをATOM Lite同士で送受信する方法について演習を行う。
4-1	BLE通信 Dabble 1	ATOM Liteとスマートフォン間のBluetooth通信について解説する。
4-2	BLE通信 Dabble	ATOM Liteとスマートフォン間のBluetooth通信について演習を行う。
5-1	WiFi接続 Blynk	Wi-Fiルータ経由によるATOM Liteとスマートフォン間の通信について解説する。
5-2	WiFi接続 Blynk	Wi-Fiルータ経由によるATOM Liteとスマートフォン間の通信について演習を行う。
6-1	LINE Notify	LINE Notifyを用いて、ATOM LiteからのLINE通知する方法を解説し、演習を行う。
6-2	I o T データ可視化サービス Ambient	I o T データ可視化サービス Ambientを用いて、ATOM Liteで取得したセンサ信号などWeb公開する方法を解説し、演習を行う。
6-3	自由課題演習	教員・TAのアドバイスに基づいて各自がそれぞれの課題の開発を行う。

7

最終発表

各自が開発したシステムのハードウェア+ソフトウェアについて発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内で終わらなかった演習を必ず完成させておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

資料を配布する予定

【成績評価の方法と基準】

各時間での演習 60%

最終課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味や嗜好は毎年変化し、その能力・資質も毎年変化する。一年遅れのアンケートはあまり参考にならない。説明の詳細度や講義速度については、学生の意見や小試験の結果を見て調整する。授業中に遠慮無く意見を述べていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC（授業には必ず持参すること）

テクノロジー系配布教材

【その他の重要事項】

2年生の時に、メカトロニクス演習を履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

Nowadays, microcomputers are installed for device control in many different products. This course teaches students how to program these microcomputers to achieve desired performance. Furthermore they will learn how to connect microcomputers to the internet. Through the use of so-called IoT technology, we will monitor and/or control products over the Internet.

Students must be completed any exercises that were not completed in class time.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Comprehensive evaluation will be made on the basis of the assignments (60%) and the evaluation of the student's work on the final project and the achievement and explanations at the presentation (40%).

データサイエンス

野々部 宏司

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大量のデータを迅速に収集・蓄積できるようになった現代において合理的な意思決定を行うためには、データの構造を理解し、分析結果を適切に解釈する能力が不可欠である。本授業では、統計解析ソフトウェアRを用いた演習を通して、データの前処理・可視化から多変量解析の代表的手法（回帰分析、分類分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析）までを体系的に学ぶ。各手法の基本的な考え方を理解するとともに、説明・予測・構造把握といった分析目的の違いを踏まえて手法を選択し、分析結果を適切に解釈して妥当性や限界を検討したうえで活用できる力を養う。

【到達目標】

- ・Rを用いてデータの読み込み、前処理、集計、可視化ができる。
- ・回帰分析、分類分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析の基本的な考え方を理解している。
- ・分析目的に応じて適切な多変量解析手法を選択できる。
- ・分析結果の妥当性や限界を検討し、根拠に基づいて解釈できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、説明の後、理解度確認のためにRおよびRStudioを用いた演習を授業時間内に行う。また、適宜、授業時間外に行うべき課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、RとRStudioの基礎	授業の目的や進め方について説明した後、データ分析における統計的手法の役割やAIとの関係について概観する。あわせて、RStudioの基本操作およびRの基礎（関数、オブジェクト等）について学ぶ。
2	変数の種類とデータ構造	変数の種類（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）について学ぶ。あわせて、それらに対応するRのデータ型（factor型、数値型、データフレームなど）を理解し、データの読み込み方法を習得する。
3	1変数の可視化と要約	質的変数および量的変数のそれぞれについて、基本的な要約方法を学ぶ。また、可視化を通じて、データの分布や偏りを把握する方法を理解する。
4	2変数の可視化と要約	質的変数と質的変数、量的変数と量的変数、量的変数と質的変数の組合せについて、2変数の要約・可視化方法を学ぶ。さらに、3変数の関係を可視化する基本的な方法について概観する。

5 回帰分析（基礎）

目的変数が量的である場合に、説明変数との関係进行分析する方法として線形回帰モデルを学ぶ。単回帰および重回帰の基本的な考え方、最小二乗法による推定、ダミー変数を用いたカテゴリ変数の扱いについて理解し、推定結果の解釈方法を習得する。

6 回帰分析（発展）

回帰分析における変数変換、多重共線性、変数選択などの問題について学ぶ。また、モデルの妥当性や限界を検討する方法を理解し、過学習や正則化手法の基本的な考え方について概観する。

7 ロジスティック回帰

二値データを扱う手法としてロジスティック回帰モデルを学ぶ。線形回帰との違いや、オッズ比の解釈、分類問題への応用について理解する。

8 決定木

予測や要因分析に用いられる手法のひとつである決定木について学ぶ。分類木および回帰木の基本的な考え方を理解し、線形モデルとの違いを把握する。また、過学習や汎化性能の概念についても学ぶ。

9 主成分分析（基礎）

多変量データの次元を削減する手法として主成分分析の基本的な考え方を学ぶ。分散共分散行列や固有値の意味を理解し、線形構造を把握する方法としての位置づけを理解する。

10 主成分分析（応用）

主成分得点の解釈や可視化方法について学ぶ。また、主成分回帰などの応用例を通じて、次元削減と予測の関係を理解する。

11 因子分析

潜在変数を想定した因子分析の基本的な考え方や推定方法を学ぶ。主成分分析との違いを理解するとともに、潜在構造を把握する手法としての特徴を理解する。

12 クラスター分析

データ間の類似性に基づくグループ化手法として階層クラスタリングやk-means法について学び、類似性構造を把握する方法を理解する。

13 演習課題（最終課題）

各自で設定した問題に対して分析目的を明確化し、データの整備を行い、分析目的に応じた適切な手法を選択する。

14 演習課題（最終課題）（続き）

分析結果を整理し、その妥当性や限界を検討する。得られた知見をデータに基づく意思決定へどのように活用できるかを考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・（初回授業前）RとRStudioの事前インストール
- ・授業内容の復習
- ・演習課題の実施と提出

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

- ・林賢一（著）、下平英寿（編）、「Rで学ぶ統計的データ解析（データサイエンス入門シリーズ）」、講談社、2020.
 - ・有賀友紀、大橋俊介、「RとPythonで学ぶ [実践的] データサイエンス&機械学習【増補改訂版】」、技術評論社、2021.
 - ・川端一光、岩間徳兼、鈴木雅之、「Rによる多変量解析入門 データ分析の実践と理論」、オーム社、2018.
 - ・嶋田正和、阿部真人、「Rで学ぶ統計学入門」、東京化学同人、2017.
 - ・兼子毅、「Rで学ぶ多変量解析」、日科技連出版社、2011.
 - ・青木繁伸、「Rによる統計解析」、オーム社、2009.
- など。その他、授業内に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出物により、以下の割合で評価する。

- ・演習課題：70%
- ・最終課題：30%

ただし、授業を3回以上欠席した場合は評価の対象外（E判定）とする。特別な理由がない限り30分以上の遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

演習のためのまとまった時間を確保するため、説明→演習の流れを基本とする。

【学生が準備すべき機器他】

- ・edu2025貸与ノートパソコン（個人所有のノートパソコンでも可）
：事前にRとRStudioをインストールし、問題なく起動することを確認しておくこと。
- ・学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of multivariate analysis through hands-on exercises using the statistical software R. Students will learn major multivariate techniques and how to select appropriate methods and interpret their results for explanation, prediction, and structural understanding in data-driven decision-making.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on assignments in each class (70%) and the final report (30%).

MEC200ND（機械工学 / Mechanical engineering 200）

メカニカルデザイン演習

山田 泰之

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動きをともなうあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構はメカニカルな製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、デザイナー、エンジニアが理解しておかなければならない重要な要素である。本演習では、自動車、家電、文房具、玩具など普段から身近にあるプロダクトのメカニカルデザインを題材として、リンク機構やカム機構、伝動装置、歯車など主な機械要素を用いた設計の基礎について学修する。実際に機構の分解組立てや、簡単な設計課題の演習を通じて、メカニズムデザインしながら理解を深める。

【到達目標】

- ・基本的な機械の機構（メカニズム）やその運動を理解できる。
- ・小規模な機構（メカニズム）を含むシステムを企画・設計（デザイン）できる。
- ・小規模な機械設計の問題解決のプロセスが実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

演習課授業のため、基本的に対面で実施する。ものづくり実践を行うため、安全のため参加する際の服装についても指示を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	メカニカルデザイン入門	メカニカルデザイン（B期）の要点を復習しつつ、本講義で特に重要な減速機やリンク機構について詳細を説明する。
第2回	機械の分解と図面	デザインから実物、実物からリバーシエンジニアリングする際に重要は計測技術として家電製品の分解と、ノギス等を利用した計測演習を行う。
第3回	機械設計と動力学	機械設計における動力学の関係の説明と、それを実践的に学ぶラビットプロトタイピング演習課題を実施する。
第4回	機械設計と動力学	機械設計における動力学の関係の説明と、それを実践的に学ぶラビットプロトタイピング演習課題を実施する。
第5回	機械設計と運動の生成	機械を動かすために必要な、動力、減速機、リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ。
第6回	機械設計と運動の生成	機械を動かすために必要な、動力、減速機、リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ。
第7回	デジタルファブリケーション演習	3Dプリンタをはじめとしたデジタルファブリケーションについて実践的に学ぶ
第8回	デジタルファブリケーション演習	3Dプリンタをはじめとしたデジタルファブリケーションについて実践的に学ぶ
第9回	機械設計と運動の生成2 機構の制作	機械を動かすために必要な、動力、減速機、リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ。機構を身近な材料で試作する演習を行う。
第10回	機械設計と運動の生成2 機構の制作	機械を動かすために必要な、動力、減速機、リンク機構等を簡易的な模型実験により実践的に学ぶ。機構を身近な材料で試作する演習を行う。
第11回	極限環境でのメカニカルデザイン	宇宙、南極、火山、深海、レースなど様々な極限環境では特殊なメカニカルデザインがなされている。それらの第一線で活躍する研究者、エンジニア、デザイナーによる講演
第12回	極限環境でのメカニカルデザイン	宇宙、南極、火山、深海、レースなど様々な極限環境では特殊なメカニカルデザインがなされている。それらの第一線で活躍する研究者、エンジニア、デザイナーによる講演

第13回 機構の創作

演習課題に対して各個人が制作した成果物のメカニズムについてスライドと動画を用いて発表審査を行う。

第14回 機構の創作

演習課題に対して各個人が制作した成果物のメカニズムについてスライドと動画を用いて発表審査を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する。
 - 2) メカニカルデザインの基礎知識として、テクノロジー基礎論やメカニカルデザインの内容を復習して活用する。
 - 3) ソリッドワークスで簡単なモデリングが可能なように復習しておく。
- 本授業はCADオペレーティングを習う授業ではないので、基本的にCADソフトの使い方を指導しない。
- 3) 要求仕様に沿った課題を設計する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材、資料は適宜紹介する。あるいは電子媒体で配信する。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911

【成績評価の方法と基準】

平常時の課題への取り組み（20％）
課題の提出（80％）
により総合的に評価する。
出席回数の少ない学生は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【学生が準備すべき機器他】

演習では適宜必要な道具や工具、材料の指示があるため持参する。

【Outline (in English)】

In this program, students acquire the fundamentals of designing high-performance mechanisms using three-dimensional CAD/CAM software with practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

電気と振動

岩月 正見

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いろいろなプロダクトをデザインする上でそのエレクトロニクス系の物理現象とその理論背景を理解することは極めて重要である。本授業では、基本的なエレクトロニクスを学ぶための数学的基礎とその応用について、さらにはその歴史的背景と現在の技術動向について解説する。

【到達目標】

到達目標は下記の5点である。

1. 電気回路を学ぶ上で重要となる数学的基礎について、その歴史的背景とともに理解する。
2. 電気回路を解析する上で重要なフェーザ表示の意義とその応用について理解する。
3. デジタル回路の仕組みを学ぶ上で重要となる数学的基礎と、その歴史的背景とについて理解する。
4. デジタル回路を構成する上で重要な論理回路や順序回路などの原理を理解し、PCやスマホの動作原理の大枠を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行い、エレクトロニクスの基本的な「物の見方・考え方」について理解を深め、様々な事例や実際のデバイスに触れることで、身近にあるシステムがいかなる原理で動作しているかを体感できるように授業を進める。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習することでより理解を深めていく態度が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	発電と送電	発電の歴史と交流電力の意義について解説する。
2	数の歴史	ネイピア数誕生の歴史とその数学的意味と意義について解説する。
3	指数関数	指数関数誕生の歴史とその数学的意味と意義について解説する。
4	テイラー級数展開	テイラー級数展開の導出とその意義について解説する。
5	オイラーの公式とオイラーの等式	オイラーの公式の導出とその意義について解説する。さらに、アイラーの等式が「人類の至宝」と呼ばれる所以を開示する。
6	直流回路	直流回路の解析において重要なオームの法則とキルヒホッフの法則について解説し、解析例を示す。
7	電力と電力量	デバイスを設計する上で重要となる電力と電力量について解説する。
8	交流回路	オイラーの公式に基づいた正弦波のフェーザ表示について解説し、これを用いた交流回路の解析例を示す。
9	2進数と論理回路	デジタル回路の仕組みを理解する上で重要な2進数と論理回路について解説する。
10	加算器と乗算器	2進数表記と論理回路を組み合わせることで加算器と乗算器を構成できることを示す。
11	半導体とトランジスタ	半導体の原理とその意義について歴史的背景とともに解説する。さらにトランジスタの動作原理についても解説する。
12	トランジスタによるスイッチング回路の実装	単体のトランジスタと抵抗などを配布して、デジタル回路の最小構成要素となるスイッチング回路を実装する。
13	コンピュータの動作原理	スイッチング回路の組み合わせによりコンピュータが構成できることを開示する。

14 まとめ

授業のまとめを行い、授業内で取り上げることができなかった話題について述べる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行うこと
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

数多くの電気系教科書や、機械系の教科書で各学生の好むもの学ぶことが望ましい。
この授業の内容は普遍的なものであるため、どのような教科書にも掲載されている。

【参考書】

戸田盛和著 「力学」 岩波書店
原島鮮著 「力学」 裳華房
今井功著 「流体力学」 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

学期末の定期試験は行わない。 各授業中に小テストを行いその結果で理解度を判定する。
成績は小テストの得点、演習等によって総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味や嗜好は毎年変化し、その能力・資質も毎年変化する。一年遅れのアンケートはあまり参考にならない。説明の詳細度や講義速度については、学生の意見や小試験の結果を見て調整する。授業中に遠慮無く意見を述べて頂きたい。

【学生が準備すべき機器他】

必ず、配布されたノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

In designing various products, it is extremely important to understand the physical phenomena of electronics and their theoretical background. This class will explain the mathematical basis for studying basic electronics and its applications, as well as its historical background and current technological trends.

Students are required to prepare and review for the course.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

No periodic examinations will be given at the end of the semester.

Quizzes will be given during each class, and the results will be used to determine the level of understanding.

Grades will be determined comprehensively based on quiz scores, exercises, etc.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

- 1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
- 2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
- 3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
- 4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイborg：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.
Learning activities outside of classroom:
For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.
Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.
Grading criteria/policy:
Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間工学 / Biomedical engineering 200）

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。

13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。

基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末のレポート課題（50%）で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:
In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to:
- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.
Learning activities outside of classroom:
For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.
Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.
Grading criteria/policy:
Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2 課題対象地の敷地分析

- 3・4 設計コンセプト案の検討
- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は，各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I，II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。
発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて，質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

- 2 Site analysis of the subject site
- 3 & 4 Examination of proposed design concept
- 5 Examination of zoning and layout plan
- 6 Preparation for interim presentation
- 7 & 8 Study of layout plan and spatial design
- 9 Examination of space design
- 10 Preparation for mid-term presentation
- 11 & 12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基礎知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義、見学会、設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ、ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べ必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う

(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ
(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 2 課題対象地の敷地分析
- 3・4 設計コンセプト案の検討
- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
 長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
 小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
 武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）
 JLAU：ランドスケープアーキテクトになる本I, II（マルモ出版）

【成績評価の方法と基準】

中間発表（2回）の内容（30%）、最終講評および成果品の内容（70%）による。
 発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
 中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
 欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
 検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
 オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.
 (Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

2 Site analysis of the subject site

3 &4 Examination of proposed design concept

5 Examination of zoning and layout plan

6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 &12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

DES200NA（デザイン学 / Design science 200）

ランドスケープデザイン

大木 一、保 清人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ランドスケープデザインの基本知識や事例の見学を通じて設計手法を理解する。さらに具体的な敷地における設計課題に取り組み、ランドスケープデザインの検討プロセスを体験する。

【到達目標】

ランドスケープデザインが取り扱う領域の内容や計画手法の概要を理解する。また、具体的な敷地におけるランドスケープデザインの検討プロセスを理解する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義，見学会，設計演習によって構成される。はじめにランドスケープデザインの概要についての講義を実施する。その後グループにより設計演習課題に取り組む。演習課題は毎回のエスキス（設計案を持参し講師の指導を受ける）によってブラッシュアップさせる。そのため授業時間外に設計案の検討を行う必要がある。また、演習課題の進捗に応じ，ゲストによるレクチャー等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス・ランドスケープ概論1	ランドスケープの領域性や計画概論を学ぶ
(2)	ランドスケープ概論2/敷地調査	事例を交えての設計手法等を学ぶ
(3)	設計演習/現地調査・結果のまとめ	現地を歩き、土地の文脈等を調べて必要な機能を検討する
(4)	ファーストインプレッション	調査した内容を踏まえ、各自で提案方針の発表を行う
(5)	設計演習/敷地分析・コンセプト	現地調査を基に敷地のポテンシャルを読み解く
(6)	設計演習/配置計画・ゾーニング	配置計画や動線を地形を操作しながら検討する
(7)	設計演習/中間発表1・ゲストレクチャー	ゲスト講師を招いてのミニレクチャーと中間発表を行う
(8)	設計演習/配置計画・空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインを検討する
(9)	設計演習/空間デザイン	具体的な仕上げや植栽も含めた空間デザインの内容を深化させる
(10)	ゲストレクチャー/講評	ランドスケープデザインのゲスト講師を招いてのレクチャーとミニ講評を行う
(11)	設計演習/中間発表2	プレゼンボードに提案内容をまとめて発表する
(12)	設計演習/ブラッシュアップランドスケープ概論3	課題の進捗に合わせてランドスケープデザインの具体的な技法について学ぶ

(13)	設計演習/ブラッシュアップ	提案内容・プレゼンのブラッシュアップを進める
(14)	設計演習/講評会	提案に関する最終講評を行い、講師のフィードバックを受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 2 課題対象地の敷地分析
- 3・4 設計コンセプト案の検討
- 5 ゾーニング・配置計画の検討
- 6 中間発表準備
- 7・8 配置計画・空間デザインの検討
- 9 空間デザインの検討
- 10 中間発表準備
- 11・12 提案内容のブラッシュアップ
- 13 講評会準備
- 14 最終提出物の作成

本授業の準備・復習時間は、各回2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

忽那裕樹他：図解パブリックスペースのつくりかた（学芸出版社）
長谷川浩己：風景にさわる（丸善出版）
小野寺康：広場のデザイン（彰国社）
武田史朗編著：テキスト ランドスケープデザインの歴史（学芸出版社）他

【成績評価の方法と基準】

中間発表の内容（30%），最終講評および成果品の内容（70%）による。発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。
中間発表・最終講評の欠席者には単位取得を認めない（評価D）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ分けのタイミングを個人の提案後に行う。

【学生が準備すべき機器他】

設計案検討のため、製図用具・模型製作用具が必要となる。模型材料はグループ内で費用負担して購入する。
検討や成果品作成のため、貸与パソコン等のノートPCを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際のランドスケープデザインに携わる実務者が、デザインの考え方や設計手法を踏まえて授業を行う。
オフィスアワーについて、質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course will provide students with basic knowledge of landscape design and actual examples of landscape design, as well as an understanding of design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site. Understand design techniques through observation of actual examples of landscape design. In addition, students will experience the process of landscape design by working on a design project on a specific site.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to provide an overview of the content and planning methods of the areas addressed by landscape design. It also helps to understand the process of landscape design study on a specific site.

(Learning activities outside of classroom)

- 2 Site analysis of the subject site
- 3 & 4 Examination of proposed design concept
- 5 Examination of zoning and layout plan
- 6 Preparation for interim presentation

7 &8 Study of layout plan and spatial design

9 Examination of space design

10 Preparation for mid-term presentation

11 &12 Brush up on proposals

13 Preparation for critique session

14 Preparation for final submission

The standard preparation and review time for this class is 2 hours for each session.

(Grading Criteria /Policy)

The content of the midterm presentations (twice) (30%) and the final critique and deliverables (70%) will be considered.

Individual points will be given for positive attitude and good design during presentations and essays.

Students absent from the mid-term presentation and final review will not receive credit (grade D).

No credit for more than four absences (grade D) will be given.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返し特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

各回の課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけでなくとどめず、理解した内容にノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにある環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂 4 版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築は、内部に快適な環境を創りだすとともに、周囲に対する悪影響（負荷）を最小限におさえなければならない。環境要素として熱、空気、光、音、太陽を取り上げ、これらが人間に与える影響を理解するとともに、環境をコントロールするための建築的手法（パッシブデザイン）と建築設備（アクティブデザイン）の役割を習得する。

【到達目標】

環境要素が人体に与える影響および建築の環境デザインへの応用を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の講義でテーマが設定されており、物理的側面からの解説と環境デザインへの応用事例から構成されている。身の回りにおける環境デザインを意識し、授業中に出される課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と伝統的民家	世界各地の気候特性、伝統的民家の気候適応
2回	人と環境01 温熱環境	体温調節機能、暑さ・寒さの感覚、温熱環境6要素、行動性体温調節
3回	人と環境02 光環境	目の構造、明るさ・まぶしさの感覚、昼光照明、人工照明
4回	人と環境03 空気環境	衛生と換気、汚染物質、自然換気、機械換気
5回	人と環境04 音環境	耳の構造、音の大きさ・高さ・音色、遮音と吸音
6回	人と環境05 健康と知的生産性	住環境と健康、執務環境と知的生産性、最新オフィスの設計
7回	建築デザインと環境01 太陽光	直射光と天空光、採光窓、室内での光の拡散
8回	建築デザインと環境02 熱	太陽熱・日射、日除け、断熱・気密、ソーラーハウス
9回	建築デザインと環境03 空気と風	室内空気の流れ、採風、煙突効果、ビル風
10回	建築デザインと環境04 環境デザインの事例紹介	建築環境デザインの事例とできあがるまでのプロセス
11回	建築設備と環境01 身の回りの建築設備	空調設備、給排水設備、電気設備、住宅の建築設備、ビルの建築設備
12回	建築設備と環境02 建築とエネルギー	住宅のエネルギー使用特性、建築物省エネ法、省エネルギー技術、LCCO2
13回	建築設備と環境03 建築設備デザインの事例紹介	建築設備設計デザインの事例、設計のプロセス
14回	講評会	課題のプレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる環境要素を意識し、身の回りの環境デザインを発見すると共にその意図を考察し、課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。適宜、資料を配付する。

【参考書】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学[改訂4版]』、井上書院
萩原廣高ほか、『建築環境デザインのディテール』、彰国社

【成績評価の方法と基準】

課題、最終プレゼンテーションの内容を総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を聞くだけにとどめず、理解した内容をノートに取ることが重要である。

【Outline (in English)】

Architecture must create a comfortable environment inside and minimize the negative impact on the surrounding environment. The course focuses on heat, air, light, sound, and the sun to understand their effects on humans and the role of passive and active methods in controlling the environment. Each lecture has a theme and consists of explanations from the physical aspect and environmental design applications. Students are expected to become aware of the environmental design around them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Evaluation will be made according to the working assignments and presentations.

テクニカルライティング X

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 10%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 10%
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、lms2025/WebClassのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・事例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。
第3回	SVとSVC	・事例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・事例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・事例演習（小テスト） ・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・事例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。

第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・事例演習（小テスト） ・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。
第8回	命令形と前置詞	・事例演習（小テスト） ・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。
第9回	分詞と関係代名詞	・事例演習（小テスト） ・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。
第10回	to不定詞と副詞	・事例演習（小テスト） ・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。
第11回	比較と略語・句読点	・事例演習（小テスト） ・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。
第12回	複文構造と文の接続	・事例演習（小テスト） ・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。
第13回	技術英文作成のポイント	・事例演習（小テスト） ・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。

（準備学習）

- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
- ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。

（復習）

- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
- ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
- ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
- ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
- （学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。

・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・英文作成技術については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

・2025年度授業評価アンケートについては、履修者数が10名以下のため実施しなかった。一方、2024年度授業評価アンケートの記述回答からは、英語をしっかりと学べた、学生の私語を注意してくれた、毎回の確認テストで授業内容を復習できてよかった、マイクを回して生徒に回答させることでより理解が深まった、など本授業の運営方法について肯定的な意見が出された。これらを踏まえ、マ2025年度授業においても、学生が技術英語について、より一層興味・関心を持てるような授業運営を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・教材配布や小テスト等については、lms2025;WebClassを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと。

・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携帯することが望ましい。

・その他、授業に関わる連絡はlms2025;WebClassを利用する。

【その他の重要事項】

・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。

・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

Final examination will be conducted without any references notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

テクニカルライティング X

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、lms2025/WebClass のテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な 3 C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・実例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合の SVO 文の組み立てを学ぶ。
第3回	SV と SVC	・実例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成される SV 文ならびに be 動詞を使う SVC 文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain 等の SVC と 万能動詞	・実例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使う SVC 文ならびに簡潔で便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・実例演習（小テスト） ・SVO 文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・実例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。
第7回	数・冠詞と助動詞	・実例演習（小テスト） ・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。

第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。
 ・2024年度授業評価アンケート結果の記述回答からは、英語をしっかりと学べた、学生の私語を注意してくれた、毎回の確認テストで授業内容を復習できてよかった、マイクを回して生徒に回答させることでより理解が深まった、など本授業の運営方法について肯定的な意見が出された。特に、マイクによる学生回答については、2025年度授業において充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・教材配布や小テスト等については、lms2025;WebClassを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと。
 ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携帯することが望ましい。
 ・その他、授業に関わる連絡はlms2025;WebClassを利用する。

【その他の重要事項】

・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭にいた講義にしたい。
 ・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
 ・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

Final examination will be conducted without any references notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

テクニカルライティング X

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、lms2025/WebClassのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な 3 C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・実例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合の SVO 文の組み立てを学ぶ。
第3回	SV と SVC	・実例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成される SV 文ならびに be 動詞を使う SVC 文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain 等の SVC と 万能動詞	・実例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使う SVC 文ならびに簡潔で便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・実例演習（小テスト） ・SVO 文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・実例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ。
第7回	数・冠詞と助動詞	・実例演習（小テスト） ・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。
第8回	命令形と前置詞	・実例演習（小テスト） ・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。

第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまで学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。

（準備学習）

- ・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
- ・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
- ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
- ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。

- ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
- ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。（学習時間）
- ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
- ・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・英文作成技術については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

・2025年度授業評価アンケートについては、履修者数が10名以下のため実施しなかった。一方、2024年度授業評価アンケートの記述回答からは、英語をしっかりと学べた、学生の私語を注意してくれた、毎回の確認テストで授業内容を復習できてよかった、マイクを回して生徒に回答させることでより理解が深まった、など本授業の運営方法について肯定的な意見が出された。これらを踏まえ、マ2025年度授業においても、学生が技術英語について、より一層興味・関心を持てるような授業運営を心がけていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、lms2025/WebClassを使うので同システムの操作に慣れておくこと。
- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡はlms2025/WebClassを利用する。

【その他の重要事項】

- ・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。
- ・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
- ・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

Final examination will be conducted without any references notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

テクニカルライティング Y

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な 3 C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・実例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合の SVO 文の組み立てを学ぶ。
第3回	SV と SVC	・実例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成される SV 文ならびに be 動詞を使う SVC 文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain 等の SVC と 万能動詞	・実例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使う SVC 文ならびに簡潔で便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・実例演習（小テスト） ・SVO 文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・実例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。
第7回	数・冠詞と助動詞	・実例演習（小テスト） ・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。
第8回	命令形と前置詞	・実例演習（小テスト） ・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。

第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに 2 つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまで学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。

（準備学習）

- ・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
- ・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
- ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。
- （復習）
- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
- ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。

- ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
- ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。（学習時間）
- ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」、2020 年 10 月 30 日初版、研究社、定価 1,800 円＋税

【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして、音声聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。（到達目標と評価の対応）

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
- ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に十分に慣れておくこと。
- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・Xクラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。
- ・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
- ・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。担当教員のメールアドレス：keizo.ohmoto.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

Final examination will be conducted without any references notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

テクニカルライティングⅣ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な 3 C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・実例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合の SVO 文の組み立てを学ぶ。
第3回	SV と SVC	・実例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成される SV 文ならびに be 動詞を使う SVC 文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain 等の SVC と 万能動詞	・実例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使う SVC 文ならびに簡潔で便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的他動詞、便利な他動詞	・実例演習（小テスト） ・SVO 文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使う SVO 文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・実例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。
第7回	数・冠詞と助動詞	・実例演習（小テスト） ・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。
		・実例演習（小テスト）

第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第9回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第10回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第11回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第12回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第13回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。 ・実例演習（小テスト）
第14回	まとめ	・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみよう。
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しよう。
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。
・4回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答案を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと。
- ・授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。
- ・その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
- ・質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

Final examination will be conducted without any references notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

テクニカルライティングⅣ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル、特に「書く英語」の重要性が増している。本科目では、技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう、技術英語の決まりごとや文法事項の分析、英作文演習を通じて、正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける。

【到達目標】

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。
- ④複数文を適切に組み立てできる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 10%
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・指定教科書に基づく解説については、パワーポイントスライドを使用する。
- ・指定教科書を使い、Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で、正確、簡潔、明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する。
- ・英作練習のため、授業中には学生に簡単な口頭発表を求める。
- ・毎回の授業では、技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す。
- ・小テストについては、学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・シラバスに基づき、授業計画、授業運営方法、評価方法を把握する。 また、技術英文作成に必要な3C（Correct：正確に書く、Clear：明確に書く、Concise：簡潔に書く）を理解する。
第2回	SVO	・事例演習（小テスト） ・主語が動作や無生物の場合のSVO文の組み立てを学ぶ。
第3回	SVとSVC	・事例演習（小テスト） ・主語と動詞だけで構成されるSV文ならびにbe動詞を使うSVC文の組み立てを学ぶ。
第4回	remain等のSVCと万能動詞	・事例演習（小テスト） ・簡潔で明確な動詞を使うSVC文ならびに簡潔で便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第5回	効果的・具体的な他動詞、便利な他動詞	・事例演習（小テスト） ・SVO文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うSVO文の組み立てを学ぶ。
第6回	時制と受け身	・事例演習（小テスト） ・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受動態）の効果的な使い方を学ぶ。

第7回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ。 ・事例演習（小テスト）
第8回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ。
第9回	分詞と関係代名詞	・事例演習（小テスト） ・形容詞の役割、文全体に説明を加える分詞・分詞構文、ならびに2つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ。
第10回	to不定詞と副詞	・事例演習（小テスト） ・未来志向のto不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ。
第11回	比較と略語・句読点	・事例演習（小テスト） ・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ。
第12回	複文構造と文の接続	・事例演習（小テスト） ・接続詞（等位接続詞、従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ。
第13回	技術英文作成のポイント	・事例演習（小テスト） ・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る。
第14回	まとめ	・事例演習（小テスト） ・期末試験により、技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回～第13回授業に共通して、以下の（準備学習）、（復習）が必要となります。

（準備学習）

- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう。
- ・各回授業に対応する教科書のStageごとの「例文」を自分で英作してみましょう。
- ・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう。

（復習）

- ・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう。
- ・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう。
- ・授業で取り上げなかった「例文」について、自分で英作しましょう。
- ・例文について音声ダウンロードできる。これにより音声を再生して視聴したり、あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう。ダウンロードのサイトは、研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます。
- （学習時間）
- ・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文300」、2020年10月30日初版、研究社、定価1,800円＋税

【参考書】

- ・参考書は特に指定しません。
- ・研究社ホームページ（<http://www.kenkyusha.co.jp/>）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の300例文の音声をダウンロードして、音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です。

【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100点満点として総合的に成績評価する（60点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ40点、60点とする。（到達目標と評価の対応）

- ①技術英語に必須な単語を理解（和→英、英→和）できる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ②主語、動詞、必要な要素で構成する英文を組み立てできる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる。 → 平常点15点＋期末試験20点＝小計35点
- ④複数文を適切に組み立てできる。 → 平常点5点＋期末試験10点＝小計15点
- ・平常点には、小テストと発表等が含まれる。
- ・期末試験とは、テキストやノートを参照しない筆記試験を指す。

・ 4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・ 英作については、基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を心がける。英作の練習について、学生から解答を発表してもらおう等、学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る。

【学生が準備すべき機器他】

・ 教材配布や小テスト等については、学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと。
・ 授業中に学習支援システムを使うこともあるので、PC、タブレット、スマートフォン等の機器を携行することが望ましい。
・ その他、授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・ 英文法の基礎事項（少なくとも、動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい。
・ 質問等については、授業終了後に教室で、あるいは電子メールで受付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.

- 1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
- 2) You will develop an English sentence including a subject, a verb, and other terms.
- 3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
- 4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.

【Learning activities outside of classroom】

You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.

< Preparation >

- 1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
- 2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
- 3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.

< Review >

- 1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
- 2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
- 3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
- 4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from <http://www.kenkyusha.co.jp/>. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.

< Learning Hours >

- 1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.

【Grading Criteria /Policy】

The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.

< Learning objectives and corresponding evaluations >

- 1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
- 2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
- 4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%

A mark in class participation includes small tests, responses, and others.

Final examination will be conducted without any references notes.

You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。

※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。

※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。

※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。

※授業中およびメールやVシートの提出によって質問等を行う。

配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともになる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。

13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★事前に公開した講義教材を読んで予習する。

★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。

★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはVシートにて連絡する。

★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。

★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）

★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）

★統計学基礎（統計検定3級・2級対応）日本統計学会

★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント

テスト2：40パーセント。

課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。

講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材提示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールやVシートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともになる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。

11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
 - ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
 - ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはVシートにて連絡する。
 - ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。授業終了後に教室で質問を受け付ける。また、各回のチェックシートおよび電子メールで質問を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成

3. HPなどで事例検索

4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動をし、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメント についての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85%

演習課題 15%

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Leaning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA（デザイン学 / Design science 300）

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー(NPO等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメント についての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウン マネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの 新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの 演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの 管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウン マネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタ ウンマネジメントの概 要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマ ネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの 先進的な取り組み	日本版BIDの概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの 先進的な取り組みと課 題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型の タウンマネジメント事 例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表

14	タウンマネジメント講 義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
 2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
 3. HPなどで事例検索
 4. 演習課題をまとめる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくり成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85%
演習課題 15%
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動し続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）
なお、質問等については、随時、メールで受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each content.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

デザインスタジオ3

森 元気、赤松 佳珠子、坂野 由典、津野 恵美子、相坂 研介、野藤 優、宮本 裕也、神田 篤宏

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図面・模型の製作を通じて、具体的な課題に取り組み、設計のプロセスを体験的に学んでいく。

【到達目標】

- ・建築の基本的な構成要素を理解し、その操作で空間を形成する技術を身につける
- ・プログラムと必要諸室の対応を理解する
- ・個人と集団から規定されるスケール感を身につける
- ・各種構造の特性を理解し適正に適用する。
- ・必要な建築設備を理解する
- ・周辺地域の多様性を理解し、調和する技術を身につける
- ・ダイアグラムでプログラムや関係諸室を表現する技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半の課題では住空間を題材に床、壁、天井の基本構成について学ぶ。
後半はスタジオ形式とする。前半で学んだ手法を活かしながら、幼稚園を題材にそれらの「場の集合」に関わるスタディを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第1課題「床、壁、天井による構成」 (1)パビリオン	全体ガイダンス、テーマの主旨と作品制作
2	第1課題「床、壁、天井による構成」 (2)高低差を組み込んだパビリオン	グループでのエスキスに加え、選抜者がスタディ模型を用いて構想の発表を行う。
3	第1課題「床、壁、天井による構成」 (3)住宅	選抜者が自案の発表を行い、これを題材に講評を行う。 ここまでの課題を発展させる形で住宅を構想する課題が出される。
4	第1課題「床、壁、天井による構成」 (3)住宅	エスキス 全体構想、スタディ模型 平面、断面計画
5	第1課題の作品提出と講評 第2課題「幼稚園」の出题	全体講評会 選抜者が自案の発表を行い、これを題材に講評を行う。 第2課題の出题と説明。 テーマのとらえ方について 敷地の検証
6	第2課題「幼稚園」	エスキス1 基本構想、空間イメージ、ヴォリュームスタディなど
7	第2課題「幼稚園」	エスキス2 配置計画、ゾーニング、動線計画など
8	第2課題「幼稚園」	エスキス3 平面計画、断面計画、構造計画など
9	第2課題「幼稚園」	中間発表 スケッチ、模型によるプレゼンテーション 提出物は指導教員の指示による。
10	第2課題「幼稚園」	エスキス4 立面計画、家具配置、外構計画などの詳細検討
11	第2課題「幼稚園」	エスキス5 内観・外観のスタディ 最終チェックプレゼンテーションの作成

12	第2課題「幼稚園」	スタジオレビュー 各スタジオで講評会を行う
13	第2課題「幼稚園」	作品提出、ファイナルレビュー 各スタジオの代表作品を持寄り合同 講評会を公開で行う
14	第2課題「幼稚園」	ポストレビュー 各スタジオの指導教員の指示による

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雑誌などから事例や参考例を探すだけでなく、実際に建築を訪れてその空間を体験することが重要である。また、頭の中だけで構想しても良い作品は生まれない。スケッチやスタディ模型など手を動かして、アイデアを具体化するプロセスを繰り返して行うことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は定めないが、必要な資料は適宜配布する。

【参考書】

「コンパクト建築設計資料集成」丸善
「コンパクト建築設計資料集成「住居」」丸善
「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」学芸出版
「こどもとおとなの空間デザイン」産学社
「保育園・幼稚園1～3（建築設計資料）」建築思潮研究所
「住宅特集」、「新建築」、「GA HOUSE」などの各建築雑誌
ほか、授業時に適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

エスキス・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。エスキスによる案の深化、発展度合いは重要な評価対象となる。
配分：第1課題40%、第2課題60%
4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

後半はスタジオに分かれるが、進捗等でスタジオ毎で差が生じないように担当教員間で密に連携をとっている。

【学生が準備すべき機器他】

提出時には提出物をIAEサーバー等に各自がアップするため、貸与パソコンなどが必要である。

【その他の重要事項】

- ・課題に関連した領域を扱う「建築計画1」（AB期木曜2限）を併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAEにレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of designing by making drawings and models, and tackling specific problems.

【Learning Objectives】

To understand the basic components of architecture and acquire the skills to form a space by manipulating them.

To understand the correspondence between the program and necessary rooms.

To acquire a sense of scale defined by the individual and the group.

Understand the characteristics of various structures and apply them appropriately.

Understand the necessary building equipment.

Understand the diversity of the surrounding area and acquire skills to harmonize with it.

To acquire skills to express programs and related rooms by using diagrams.

【Learning activities outside of classroom】

It is important not only to look for examples and references from magazines and other sources, but also to actually visit architectural structures and experience their spaces. Also, good works cannot be created if they are conceived only in the mind. It is advisable to repeat the process of materializing ideas through sketches and study models.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation will be made on the final presentation based on the esquisse and interim presentation. The degree of depth and development of the proposal based on the essay will be an important evaluation target.

Distribution: 40% for the first assignment, 60% for the second assignment

More than 4 unexcused absences will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

デザインスタジオ 4

下吹越 武人、福留 愛、池田 賢、青木 弘司、野藤 優、宮本 裕也、神田 篤宏、玉田 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図面・模型の製作を通じて、具体的な課題に取り組み、設計のプロセスを体験的に学んでいく。また、グループ課題を通して、チームワークにおけるコミュニケーション能力を培う。

【到達目標】

- ・抽象的な概念を空間化する能力を養う
- ・想定される行動場面にに対して適正な空間を作り出す技術を身につける
- ・空間的アイデアを構法計画に還元して検討する
- ・環境負荷低減の観点から建築を検討する
- ・空間の特徴を定性的・定量的に評価する技術を身につける
- ・敷地周辺地域の特徴を抽出しレイヤー的に理解する
- ・グループワークを効果的・効率的に行う方法を身につける
- ・空間を表現・伝達する技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインスタジオ3に引続き、2つの設計課題を通じて、図面と模型による建築設計を学ぶ。第1課題はグループリサーチと設計を行い、第2課題は個人課題とする。毎週のエスキスから得られるフィードバックを積み重ねながら案を発展させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス ・第1課題出題 「現代建築ビジュアライゼーション」 ・第2課題出題 「都市の文化拠点」	・全体ガイダンス ・各課題説明、第1課題グループディスカッション
2	リサーチ中間報告	・各グループの進捗状況を発表 ・グループ間でリサーチ内容の共有化を図る
3	リサーチ発表	・リサーチ結果の報告および空間デザインの構想を発表
4	エスキス1	・模型、図面によるスタディチェック ・空間構想、イメージをスケッチや模型にまとめる コンセプトスタディ 配置・平面、断面検討
5	エスキス2	・デザインデベロップメント ・エスキスを図面にまとめる ・プレゼンテーション検討
6	合同講評会	・選拔者が自案の発表を行い、これを題材に共通の問題点などの講評を行う
7	企画のプレゼンテーション	・現地視察報告と提案及び企画シート作成
8	エスキス1	・構想案をつくる ・模型、スケッチによるスタディチェック
9	エスキス2	・エスキスを図面にまとめる ・平面、断面、スタディ模型
10	第2課題中間提出	・クラス発表および講評
11	エスキス3	・中間発表の講評をフィードバックし、案の更なる発展を試みる ・プレゼンテーションの検討
12	クラス内レビュー	・クラス内で発表を行い、設計内容やプレゼンテーションに対する最終チェックを行う

13 ファイナルレビュー

- ・第2課題の選抜作品の発表、講評
- ・各スタジオの代表作品を持寄り、講評会を公開で行う

14 アフターレビュー

- ・クラス毎に作品のレビューを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・敷地に立ち、調査し考えを深める。
- ・スケールを与えてエスキスを重ね、思考の連続性にこだわる。一建築をまとめ上げる試行錯誤の繰り返し
- ・適切な視覚的表現方法を探る。
- ・チーム内や友人とのディスカッションを重ね、提案の強度を高める。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築製図（朝倉書店）、各種建築専門雑誌。

【成績評価の方法と基準】

エスキス・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。エスキスによる案の深化、発展度合いは重要な評価対象となる。配分：第1課題40%、第2課題60%。合計100点満点中60点以上を合格とする。

4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course students will experience the process of design while developing their field of study, through the creation of diagrams and models. In addition, during group classes students will gain communication skills through teamwork.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・Cultivate the ability to spatialize abstract concepts
- ・Acquire techniques to create appropriate spaces for expected behavioral situations
- ・Think about space ideas by going back to architectural plans
- ・Consider architecture from the perspective of reducing environmental impact
- ・Learn how to qualitatively and quantitatively evaluate the characteristics of space
- ・Extract the characteristics of the area around the site and understand it hierarchically
- ・Learn how to do group work effectively and efficiently
- ・Acquiring the ability to express and convey space

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. The degree of development of the design by Esquisse are important evaluation targets.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

First assignment: 30%、Second assignment : 70%

Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインスタジオ 5

下吹越 武人、山道 拓人、御手洗 龍、アリソン 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年AB期のデザインスタジオではA期とB期に分けて2つの課題に取り組む。A期は集住について、B期は次世代型図書館に関連したテーマを元に4ユニットからそれぞれ課題が出題され、スタジオワークにより少人数教育を行う（原則として各ユニット15人以下）。計画系分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】

- ・コンセプトualに考える方法を身につける
- ・都市の成り立ちからコンテキストを読み取る技術を身につける
- ・都市の一部として建築を構想する
- ・社会的問題群を認識し、建築的回答を構想する
- ・デジタルツールの基本操作を身につける
- ・空間の特性をエンジニアリング的着想から創造する

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の概要<1> デザインスタジオ5+6の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」 デザインスタジオ5+6はデザインスタジオ1から4で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいろいことができるのは学部卒の場合3年生の作品までなので、今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4年生には卒業設計という大きな関門が控えているが、大学3年でこの科目を履修せずに1年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないのはいうまでもないことである。

2) これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった2年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。毎週のエスキスの積み重ねが案を飛躍させる最良の策であることは言うまでもない。努力を惜しまない者しか残れないというのまたまた確かである。

3) それぞれのユニット・インストラクターによって敷地や課題の詳細は異なるから、自分が興味あるインストラクターについて自分の興味のある課題にチャレンジする機会が与えられる（ユニット選択は抽選になる）。各インストラクターがそれぞれの課題の趣旨を説明するガイダンスにも必ず出席すること。4人の建築家が掲げるテーマは建築界の今日的課題でもあるのだ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、第1課題出題、ユニット分け	・第1課題は「居住」をテーマとした複数課題から選択して取り組む。 ・事前調査のポイントやコンセプトの作り方などについて指導する。
2	第1課題：エスキース 1	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。設計イメージはビジュアルな表現で製作する。
3	第1課題：エスキース 2	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの合理性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画の検討。

4	中間講評会	・平面図、断面図、立面図という基本図面を描いてみることで、コンセプトやイメージを具体化する。
5	第1課題：エスキース 3	・中間講評会の指摘を踏まえたデザインの展開とその確認。 ・設計図面の正確な描き方を学ぶ
6	クラス内講評会	・クラス内で発表を行い、設計内容やプレゼンテーションに対する最終チェックを行う。
7	・全体講評会 ・第2課題出題、ユニット分け	・優秀作品の発表を通じてこれを題材に共通の問題点などの講評を受ける。
8	・関連特別講義 ・第2課題エスキース 1	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。
9	第2課題エスキース 2	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの合理性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画、構造計画の検討。
10	・Pinboard Review ・中間講評会	・Pinboardを用いて、学生主体の第1課題講評会を行う。 ・図面と模型を用いて設計中の建物を説明することで、自分の設計アイディアに客観性をあたえる。
11	第2課題エスキース 3	・中間講評時の講評を踏まえたデザインの展開とその確認。
12	クラス内講評会	・詳細図と基本図の違いなどを学ぶ。 ・クラス内で発表を行い、設計内容やプレゼンテーションに対する最終チェックを行う。
13	最終講評会	・優秀作品の発表を通じて、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。
14	アフターレビュー	ユニット内で個別の作品に対する講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているため、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）。

【成績評価の方法と基準】

エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかが評価の対象となる。

配分：第1課題50%、第2課題50%。合計100点満点中60点以上を合格とする。

4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

3年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

【その他の重要事項】

現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline (in English)】

The 3rd year A/B semester Design Studio course is separated into A and B semesters. The theme of the A semester is “Collective housing + α”, while B is a centered around the theme “libraries of the future”, following the subjects introduced in Unit 4. Studio work classes will have a limited number of participants (as a rule no more than 15 per unit). Students who wish to attend seminars for project-based subjects must enroll in this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Learning how to think conceptually
- ・ Acquire the skill to read the context from the origin of the city
- ・ Conceive architecture as part of the city
- ・ Recognize social problems and conceive architectural solutions
- ・ Acquire basic operation of digital tools
- ・ Creating spatial characteristics from engineering ideas

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. Each week, students will be evaluated on how they worked on their work under the discussion with each studio instructor.

Final grade will be calculated according to the following process First assignment (50%), Second assignment (50%).

Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

デザインスタジオ 6

赤松 佳珠子、渡邊 健介、藤井 由理、平井 政俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年CD期のデザインスタジオはデザインスタジオの最終段階と位置づけられる。そのため建築だけでなく建築と既存の都市、建築とランドスケープなどのように建築と他分野との接点をもつような課題設定も含まれている。大きく前半と後半に分けているが、1学期間を通じてひとつの設計テーマを継続的に追求する。今年度は学校が周囲の地域の核となることを意図して、地域の拠点としての学校をテーマとする。ただしこの課題では自己の母校をテーマにするので個人ごとの問題解決が求められる。この学期ではスタディ模型やスケッチ作成によりザイン・コンセプトを短時間で作り出す能力を育成するだけでなく、正確な図面を描く方法や詳細図についても学ぶ。学生は自分の興味や関心に合ったクラスを希望選択することができる。クラス分けのあとではスタジオワークにより少人数教育を行う（各クラス15人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】

- ・社会的問題群を認識し、建築的回答を構想する
- ・地域の物理的・社会的資源を理解する。
- ・既存建築の機能を変更しプログラムを再編する技術を身につける
- ・環境の質を定量化し形態にフィードバックする
- ・配置やファサードデザインで環境負荷を低減する技術を身につける
- ・設計意図を的確に表現する技術を身につける
- ・短期間でアイデアを形にまとめる技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎	◎		◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

●デザインスタジオ5+6の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ5+6はデザインスタジオ1から4で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合3年生の作品までなので、今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4年生では卒業設計という大きな関門が控えているが、大学3年でこの科目を履修せずに1年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないのはいうまでもないことである。

●これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった2年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。努力を惜しまない者しか残れないというのをもた確かである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、課題説明、ミニレクチャー	・ガイダンス ・ミニレクチャー ・前半クラス分け ・学校事例研究1
2	エスキス1	・敷地リサーチ及び分析 ・学校事例研究2
3	エスキス2	・敷地リサーチ及び分析 ・地域施設機能と学校の規模について
4	エスキス3	・全体の配置計画
5	エスキス4	・新しい学校空間の可能性について
6	中間講評	・中間講評 ・後半スタジオクラス分け

7	エスキス5	・中間講評からの気づき、フィードバック ・設計スタディ1 ＝設計内容を俯瞰する
8	エスキス6	・設計スタディ2 ＝設計内容をより詳細に検証
9	エスキス7	・設計スタディ3 ＝設計内容をより詳細に検証
10	エスキス8	・設計スタディ4 ・設計内容の確定
11	・プレゼンテーションについてのレクチャー ・エスキス9	プレゼンテーションにあたってのコンセプトの表現法の研究。
12	スタジオ講評会	スタジオ内課題提出、発表、討論を行なう。全員発表し講評を受ける。クラスの代表者が自案の発表を行ない、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。なお、1月後半には4年生の卒業設計に関与する卒業設計演習を行なう。
13	最終講評会	
14	ポストレビュー	再提出者及びビハインド提出者の検収・指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているため、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）など。

【成績評価の方法と基準】

エスキス・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかは重要な評価対象となる。4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の前半と後半でスタジオ・インストラクターがチェンジすることで2名の教員の異なる視点と異なる教員から共通の評価があることを体験的に学んでほしい。主観的評価と客観的評価が同居するのが建築デザインの特徴なのである。

【学生が準備すべき機器他】

3年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

【その他の重要事項】

DS6の作品は自分のポートフォリオにぜひ入れておきたい。卒業設計の前哨戦として重要なステップである。実務経験との関係：担当教員は現役の建築家であり、一級建築士でもあるので、デザイン力の鍛錬だけでなく、建築士としての視点からも指導を受けることができる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The design studio in the 3-year CD term is positioned as the final stage of the design studio. Therefore, it includes not only architecture, but also tasks that bring architecture into contact with other fields, such as architecture and existing cities, architecture and landscape, and so on. The course is divided into two parts, the first half and the second half, and students continuously pursue a single design theme throughout the semester.

This year's theme is the school as a hub of the community, with the intention of the school becoming the nucleus of the surrounding community. However, since the theme of this project is our own alma mater, we are required to solve problems on an individual basis. In this semester, students will not only develop the ability to quickly create a design concept by making study models and sketches, but will also learn how to draw accurate plans and details. Students can choose the class that best suits their interests. After class placement, students are taught in small groups through studio work (no more than 15 students per class). Students who wish to take a seminar in the planning field must take this course.

【Learning Objectives】

- ・Recognize social problems and envision architectural answers.

- ・ Understand the physical and social resources of the community.
- ・ To understand the physical and social resources of the community.
- ・ Quantify the quality of the environment and provide feedback on form.
- ・ To acquire skills to reduce environmental impact through layout and façade design.
- ・ To acquire skills to accurately express the design intent.
- ・ Acquire skills to put ideas into shape in a short period of time

【Learning activities outside of classroom】

The University uses a "studio" system where students work in the drafting room during class, rather than in a "studio" style with individual desks, except for the graduate studio, so students are required to make drawings and models at home.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final presentation of the work will be evaluated comprehensively, based on the esquisse and midterm presentations. How students work with their studio instructor each week is an important part of the evaluation.

More than 4 unexcused absences will not be graded.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

西洋建築史

稲益 祐太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の建築や都市の歴史に関するものです。建築はそれぞれの時代や地域における文化や社会のあり方を示しており、その発展・変容・多様化の歴史的背景と変遷を理解することは、建築に対する多面的な見方を養うことに繋がります。そして、先人たちの歩んできた道（過去）を学ぶことは、未来をつくることと言えます。そこでこの授業では、時代を追って西洋建築の様式とその成立と変容の背景を学びます。

【到達目標】

西洋建築の様式を理解し、建てられた時代や地域が見分けられるようになります。また、その成立の背景についても理解できるようになります。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。参考資料を配り、スライドで画像を投影しながら説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらい
2	古代ギリシア建築	西洋建築の原点、美の規範、オーダー、神殿、アクロポリスとアゴラ
3	古代ローマ建築	建設技術と材料の発達、建築空間の洗練、豊かな市民生活、人間のための空間、凱旋門、バシリカ、劇場、競技場、市場、浴場
4	古代地中海世界の都市	都市計画、広場、聖域、住宅、集合住宅、インフラ、ポンペイとオステリア
5	初期キリスト教建築とビザンチン建築	バシリカ形式、モザイク、集中式プラン、ドーム
6	イスラーム建築	モスク、ドーム、中庭建築、庭園、幾何学的構成、迷宮都市の構造、パザール、隊商宿
7	ロマネスク建築	修道院と巡礼路教会、ヴォールト天井、空間構成
8	ゴシック建築	大聖堂の象徴性、構造の美学、垂直性、ステンドグラス、光の演出
9	初期ルネサンス建築	フィレンツェ、ルネサンスの勃興とその背景、ブルネレスキの活躍、アルベルティ、パラッツォ、ヴィッラ、祝祭・演劇、パトロンと建築家
10	盛期ルネサンス建築と理想都市	万能の人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ブラマンテ、古典主義の確立、集中式プラン
11	マニエリスム建築	マニエリスム 形式の組み替え・手法、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノ、パラディオ、ミケランジェロ
12	バロック建築1	ローマ・バロック、バロックの背景、永遠の都ローマの都市改造、舞台としての都市空間、ベルニーニとポッロミーニ
13	バロック建築2	他都市のバロック、多様なバロック、サヴォイア家トリノ、祝祭都市ヴェネツィア、レッツェ・バロック、シチリア南東部、ナポリ
14	新古典主義・歴史主義	理論、プロジェクト、実践、リヴァイヴァル、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本建築学会編『西洋建築史図集 三訂版』彰国社、1983年、2750円【推薦図書】

陣内秀信他『図説 西洋建築史』彰国社、2005年、3080円

吉田銅市『西洋建築史』森北出版、2007年、2640円

ベグスナー『ヨーロッパ建築序説』彰国社、1989年、5170円

コストフ『建築全史』住まいの図書館、1990年、24563円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）の合計で評価し、60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course students will learn about historical European architecture and cities. Architecture is an expression of the culture and society of each period and region, and an understanding the historical background and transitional flow of developments/changes/diversification allows one to obtain a multifaceted point of view. Studying the (past) path travelled by our forerunners is how we build our future.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B.

-A. Students be able to understand Western architectural styles and identify the period and region in which they were built.

-B. Students will also be able to understand the background of the formation of the style.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%).

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

日本建築史

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則対面で行います。

以下に概要と目的を示します。

日本の建築の歴史を神社、寺院、廟、住宅、都市から理解し、それらが成立した背景を重点に考える。テーマは、上記の内容を各回において詳細に解説する。

【到達目標】

日本建築全般の基礎学力を身に着けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本の建築の歴史を見ながら、建築の歴史の大筋を把握するとともに、時代が超えても変わらない本質的なものが存在することを理解し、その様々な歴史的要素がいかに現代に受け継がれているかを論じてみたい。毎回、スライドを見ながら、視覚的に内容を把握し、次にその背景を捉えなおし本質的な意味を探る方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本建築史序説 講義全体の流れを理解する。	建築史の意義と目的、日本とアジアの建築の関係、なぜ今建築史か？
2	日本建築の特質 日本建築の特徴を概観し理解する。	「建物につくられた空間」と「空間につくられた建物」、羅列的、面的、洗練とは？
3	古代の形式化 神社の特徴とその成立背景を知る。	建築の誕生、神の社、神明、大社、遷宮、形式の確立、意味の継承、聖と俗、橋－柱－端－簷－梯。
4	外来文化の受容 仏教建築が求めた意味を探る。	仏教建築、法隆寺、薬師寺、東大寺、隋・唐の仏寺、雲中供養菩薩が語る意味、重力からの解放。
5	和様・大仏様・禅宗様 寺院建築の様式に隠された意味を考える。	架構と空間、重源と陳和卿、組物、伽藍配置の世界観、宋の建築技術、構造美とは？
6	近世の霊廟と宗教建築 江戸時代の意味を宗教建築から探る。	日光東照宮、善光寺、権現造り、生産力の進展、ブルーノ・タウト、歌舞伎座、仏壇、霊柩車、天海。
7	中間試験 どこまで理解できたかを自分で知る。	ここまでの内容による中間試験。
8	日本の都市 都城と城下町	日本の都市の歴史を知る。藤原京から平城京、平安京、そして城下町へ
9	風水都市・江戸と聖地・日光 江戸時代の都市計画に隠された風水を読み解く。	人がつくる風水、藤堂高虎、天海、見立ての富士山、宮内庁の陰謀。
10	都市の聖地 一水系と地質から読む都市の環境空間－「地質聖地論」の試み	見えない都市、新たな都市解説の方法を探る、聖地の意味論、環境空間を浮かび上げさせる
11	日本住宅の源流 日本の住宅のオリジナルを見る。	寝殿造り、空間の建築、宮殿との関係、中国建築との関係、対象から非対称へ、日本の変容へ。
12	住空間の変容と茶室 現代に結びつく住宅建築の歴史を知る。	書院造り、装置の建築、より自由で日本的なものへ、装飾と区画、現代日本住宅への影響。

13	文化財建造物の保存と修復 文化財保存の制度や実情を理解する。	保存の意義、移築保存、選定－解体－組立－再生へ。
14	総合質疑 日本建築の歴史とは何だったのかを探る。	これまでの講義を総合的に考え、日本の建築の歴史を再読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日本建築の歴史について興味を持つ。
 2. 参考文献などから、日本建築を調べてみる。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. これまでの配布プリントを再読する。
 8. 配布プリントの意味を再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 配布プリントの意味を再読する。
 13. 配布プリントの意味を再読する。
 14. 講義の内容を総合的に考え直してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布。

【参考書】

太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験および期末試験からなる総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教員はPCを使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will consider Japan's architectural history from the beginnings of its shrines, temples, houses and cities. Topics will involve the detailed understanding of each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn basic scholastic ability of the overall Japanese building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : ill be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the midterm examination and term-end examination.

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- ・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- ・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- ・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- ・「建築計画 2」と併せて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	身近な場所に学ぶ空間の決定原理 DS3 課題の補足解説
第2回	住む 1／住戸・住宅	環境の中の距離・寸法 用途や動作で規定される空間
第3回	住む 2／住宅＋α	図式化による空間の理解
第4回	働く 1／オフィス・コワーキングスペース	用途や動作で規定される空間 室と場面
第5回	働く 2／オフィス・コワーキングスペース	知的生産性と環境 ワーケーション
第6回	育てる 1／幼稚園・保育園・こども園	目的・制度・ユーザー・行為から考 える幼稚園 DS3 課題の補足解説
第7回	育てる 2／幼稚園・保育園・こども園	子供環境を考える DS3 課題の事例解説
第8回	知る 1／図書館	プログラムと建築 情報媒体の進化と建築の変化
第9回	知る 2／図書館	蔵書の拡大と建築の変化
第10回	知る 3／図書館	機能分化と平面計画
第11回	知る 4／図書館	知の広場としての図書館 「本」の役割の変化
第12回	教える・学ぶ 1／学校・ラーニングセンター	学びと環境
第13回	教える・学ぶ 2／学校・ラーニングセンター	教育システムと建築
第14回	災害と建築／避難所	セーフティネットと建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く 12 章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSE などの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）
- ・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに基
だしく類似した内容のものは評価外とする。
- ・合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PC の使用は必須である。
資料配布は pdf で行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12 色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用すること
で準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS3に関連した項目を取り扱うため、DS3と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不
能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学
生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various decision-making principles such as human dimensions, motion characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is intended for beginning architectural designers to understand the relationship between architectural space and its decision-making principles using familiar examples, and to learn the basics of applying decision-making principles appropriately in architectural design.

[Learning Objectives]

To understand the intention of the space from design examples and to acquire the skills to envision the activities that will take place in the space.

To understand the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the basis for applying the principles of decision making appropriately in architectural design.

To acquire the viewpoint to think about the connection between society and culture and architectural design through the derivation of design rationale.

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp your knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築計画 2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学1」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画1」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会と建築は合せ鏡である DS4 課題解説
2	集う1／集合住宅・住宅地	住宅供給と社会
3	集う2／集合住宅・住宅地	住戸配置の計画 住戸のアクセス形式
4	集う3／集合住宅・住宅地	住戸の平面計画 都市と集合住宅
5	鑑る1／美術館・博物館	美術館の歴史 DS4 課題解説
6	鑑る2／美術館・博物館	美術館の計画（展示室）
7	鑑る3／美術館・博物館	第4世代の美術館
8	住の多様性1	コーポラティブ住宅 シェアハウス
9	住の多様性2	暮らし方と住宅計画
10	住の多様性3	ポストコロナの建築計画
11	セーフティネット1／応急仮設	応急仮設住宅 危機的環境移行を支える建築
12	セーフティネット2／災害復興	復興公営住宅
13	セーフティネット3／高齢社会	グループホーム コレクティブハウス
14	演じる／劇場	演劇空間の計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）

コンパクト建築設計資料集成（丸善）

住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）

アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）
- ・レポートに関しては、インターネットの記事や他に提出されたレポートに基だしく類似した内容のものは評価外とする。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。

資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。

講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS4に関連した項目を取り扱うため、DS4と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・レポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various determinants such as human dimensions, behavioral characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is designed to further develop the knowledge acquired in "Architectural Planning 1" to understand the relationship between architectural space and broader social systems and institutions, and to learn methods to contribute to society through architectural design.

【Learning Objectives】

To understand the connection between architecture and society and culture through an understanding of the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the skills to feed back the intention of space and the activities that take place in it to architectural design.

To understand the role of architectural design as a method of solving social problems.

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp the knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

建築材料

網野 禎昭、永野 尚吾

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な建築材料の工学的特質はもとより、様々な建築材料が開発されるに至った歴史・社会的な背景、とくに各時代の資源事情などもあわせて解説する。また、この授業では、構法スタジオ1の演習課題を進める上で理解すべきコンクリート基礎や木造軸組構造、仕上工法についても講義する。

【到達目標】

建築材料に技術者として接するだけでなく、これまで諸文明が限りある資源をもとに建設され、数多の問題を乗り越えた結果として現代があるという事実を、現代文明の住人として捉える。実際の建物において建築材料がどのように使われているのか具体的に理解する。

Understanding the application of materials to buildings. Discussing the historical natural resource depletions to understand the importance of symbiosis between our civilization and natural resource application.

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎		○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主要建築材料の開発背景、加工製造方法、特性、そして、各材が応用された代表的な建築物を紹介する。また、現代で多用される材料については、建築物への応用上の留意点について重点的に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンクリート 1	水硬性セメント・鉄筋コンクリートの発明、コンクリートの種類と基本特性
2	コンクリート 2	鉄筋コンクリートの施工と管理、基礎工法
3	木材 1	森林と林産業、木材の基本特性
4	木材 2	木造軸組、木質材料、接合具
5	鋼・非鉄金属	製鉄のしくみ、鋼の基本特性、鋼の加工、鋼の腐食、鋼の生産、非鉄金属
6	断熱	断熱の原理、気体・固体・液体の熱伝導、各種断熱材、ガラスの断熱性
7	防水	防水材料、防水・防湿工法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で説明のあった建築材料の使われ方を、実際の建築物の観察により確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Observe real buildings to review the application of building materials presented in the lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

「ぜんぶ絵でわかる1木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350万円で自分の家をつくる[改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（100%）

Evaluate the final exam result.

期末試験の得点60%以上を合格とします。

A passing score of the final exam is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

実際の材料サンプルの活用。

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない。

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

Starting with studies of fundamental engineering characteristics of architectural materials, students will understand the history/social background of various developed materials, particularly looking at information on resources in each period.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

施工管理

三上 孝明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

施工管理とは、「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」などの行為（四大任務）の総称である。将来どのポジションでキャリアを積むかに関わらず、建築業界に身を置く者にとって知っておくべき各種工事とその流れに沿って、材料、構造等にも触れながら「施工管理」と「建築施工」のポイントを解説する。

施工管理業務従事者（主に現場監督）が建築生産の中でどのように位置付けられ、その役割はどのようなものであるか概観することが出来る。また協業による「ものづくり」の視点を持つための知識の習得を目的とする。また、一級建築士試験に対応できる知識習得の目的も有する。

【到達目標】

大きく二つの目標を持つ。

- ① 施工管理の四大任務を理解し、管理におけるPDCAサイクルが概観出来る。
 - ② 施工の流れを知り、各種工事の管理に必要な材料および構造知識を持った施工管理知識を得ることが出来る。
- なお、建築物をつくるという目的は一つだが、「建築生産」における上流工程である「設計」と、下流工程となる「施工」では役割が異なる。この異なる役割から手戻り等、非効率的な現場運営となることが問題視されることがしばしばある。こうしたことの回避の為に、施工図の重要性に触れて建築生産システムにおいて何が必要であるかを考察するきっかけを得ることが出来るようにする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業にて行う。なお、全14回の講義とは別に建設現場調査レポート課題を設けている。講義中盤に設定しているが、学外調査となるため諸注意、調査方法等については調査事例を示したうえで別途指示する。

進め方の詳細は初回授業開始までにHoppiiの施工管理「お知らせ」「授業内掲示板」でも説明する。

授業資料は事前、事後に配布する。テキストと授業シートに必ず目を通して受講すること。

①事前配布資料

- ・テキスト：その日の講義テーマごとに公開（配布）する
- ・サブテキスト：基本的には講義毎に必要な場合の配布とするが固定的なものではない。テーマを超えてコマに関係なく配布する場合もある

*授業シート：その日の講義のアジェンダ/レジュメ

②授業時間内、もしくは授業日配布資料

*カルテ（確認テスト）講義終了後に提出

③授業終了後配布資料

*回答解説 講義終了後公開する・復習に利用する

1回の講義の流れは以下となる。

授業前【テキスト、授業シートの受理、予習】⇒ 授業[pptによる授業] ⇒ 授業後【カルテへの解答と提出】【解答解説の受理、復習】

■注意：Hoppiiへの公開資料、課題は公開期限を定めているため、締め切り後は開けなくなるので注意すること。なお、カルテ（確認テスト）（「教材」にも置くが、「課題」にて示し、そこで解答して提出となる）はその講義の終了10分前に公開してその日の23時50分に非公開とするため注意をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	施工計画・管理概説	日本の建設産業の概要と現状と今後について解説する。また、施工管理の四大任務である「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」のアウトラインを知り、「請負」、「現場代理人」など施工管理に関わる基本用語の意味を理解する。なお「建築生産」における生産設計（施工図）についても触れる。 確認テスト1
2	品質管理（Q）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである品質管理とは何かを解説する。また、QC活動、ISO9000に触れながら、施工の品質管理の考え方とそのプロセス管理を理解する。 確認テスト2
3	原価管理（C）	施工管理に必要な経営の知識、原価管理の考え方と手順並びに施工とVE（Value Engineering）の基礎知識を解説する。また、施工管理にける見積り、発注、請求、稟議、決裁などの用語を知り、原価管理のPDCAサイクルの大枠の流れと実行予算を中心とした管理の概要を理解する。 確認テスト3
4	安全管理（S）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである安全管理と、労務管理の概要を解説する。また、管理における新しい課題である環境問題についても解説する。 確認テスト4
5	工程管理（D）	工程管理とは何か、ネットワーク工程表等の工程表種類と基本的な用語を解説し、実務における工程管理の考え方を理解し、特に工事遅延が他の管理項目に及ぼす影響について実例を挙げて解説する。 確認テスト5
6	ネットワーク工程表と施工管理の四大任務のまとめ 中間試験	第5講で行ったネットワーク工程表作成演習の解説を行う。また、全5回の講義内容の理解度を確認するため、オンラインで中間試験を行う。

7	施工管理と施工計画 建築現場調査課題提示	着工前に必要な確認事項、準備工事の内容について解説し、工事期間、予算、安全等施工管理全般に大きく影響する「施工計画」の実例をもとに解説する。 確認テスト6 建築現場調査課題提示（今回～次回にて）
8	仮設工事	施工効率、建物品質、安全などに影響する仮設工事について、たわみや座屈などの構造力学知識の必要性に触れ、仮設工事の概要を解説する。 確認テスト7
9	基礎・地下工事	杭、地盤改良などの地業工事、地下躯体工事のための土工、山留工事など基礎工事および地下工事について解説する。 確認テスト8
10	鉄筋工事・型枠工事	鉄筋コンクリート構造の躯体工事における鉄筋工事について、鉄筋種類、発注方法、製品検査等、および組み方を実際の工事の模様を動画で示し、解説する。 鉄筋コンクリート構造の躯体工事における型枠工事について、一般的な型枠材料である型枠合板の組み方とその手順、および組み立てに必要な補助材料の種類と取り扱いと施工上の注意点を動画を交えて解説する。 確認テスト9
11	コンクリート工事の概要、材料と品質および品質管理	鉄筋コンクリート工事におけるコンクリート工事について概要とコンクリート材料の特徴と品質について、またその品質管理の方法を解説する。 確認テスト10
12	コンクリート工事打設	鉄筋が組まれ、型枠が組み上げられたのち、品質管理されたコンクリートを打ち込むが、打設の仕方の不備による不具合が生じる場合がある。不具合を起こさない打設方法について解説する。 確認テスト11
13	鉄骨工事 鉄骨造の生産システムの特徴と鋼材種類とその特徴及び部材の接合	鉄骨造の施工の特徴は部材を組み上げる前の段階において建設現場以外で各部材を制作して現場に搬入される点にある。ファブリケーターと呼ぶ生産業者への発注方法と制作における原寸チェック等その特徴を解説する。また、ファブリケーターによって制作された各部材の代表的接合方法を解説する。 確認テスト12
14	その他の工事の紹介 施工管理について考える	施工管理における他の工事についてその種別を示す。 後半授業の重要ポイントについて見直しを行う。 確認テスト13-1・13-2（受講確認シート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習は、授業開始前に配布する資料、特に授業シートにて講義を概観すること。
- ・授業は事前配布資料を投影して解説していくので予習を活かすこと。

・カルテの問題は授業の重要ポイントを示してあり、各自が授業時間外の復習に活用してもらうことを目的としている。各自の理解不足を発見して、配布された資料を再度見直すことで復習になる。授業毎に配布するので、その日のうちに再読して学習すること。
なお、カルテ（確認テスト）の提出は成績における平常点として扱う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。以下の4点を配布する。

- ① その日の授業シート
- ② オリジナルテキスト（A4版Wordテキストもしくはpptテキスト）
- ③ 確認テスト（指定時間内提出）
- ④ 確認テストの解答解説

【参考書】

以下資料を各自が適宜参考にすること。

- ① 国土交通省「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」WEB公開資料
https://www.mlit.go.jp/gobuild/kenchiku_hyoushi.html
- ② 構造用教材（日本建築学会）

【成績評価の方法と基準】

大きく二つの到達目標があるが、それぞれ独立したものではない。煩雑さを避けるため目標を区分している。それぞれの理解度を試験にて判断する。なお、履修判定にはカルテ（確認テスト）の点数は直接はカウントしない。しかし、平常点として配点する。

- ① 中間試験 施工管理の四大任務の理解
- ② 期末試験 各種工事と施工プロセスの理解
- ③ 平常点 授業参加度と理解度

試験成績 70%（中間試験＋期末試験）／2

平常点 30%（出席率、カルテ提出率、建設現場調査課題提出、受講姿勢等）

＜成績評価＞

□不合格

未受験・採点不可＝E 0～59点＝D

□合格

60点～62点＝C- 63点～66点＝C 67点～69点＝C+

70点～72点＝B- 73点～76点＝B 77点～79点＝B+

80点～82点＝A- 83点～86点＝A 87点～89点＝A+

90点～100点＝S

【学生の意見等からの気づき】

- ・履修判定基準に対する平常点の重要性の解説並びに中間・期末試験との関連を授業毎に注意喚起して目標達成の一助とする。
- ・講義中の学生への質問（指名想定として）は（事前整理）精査して行い、100分を有効に使うように過度の時間配分とならない様に注意する。（効果的な質問の精査と整理を行う）
- ・受講姿勢（態度）についての注意は過分にならないように適宜行い、スムーズな授業運営を心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

- ・PC等端末機器

講義資料は授業支援システム（Hoppii）にて公開する。各自情報端末にて確認すること。

【その他の重要事項】

設計事務所経営経験を有する一級建築士が、設計監理の経験から建設業者との施工管理実務を通じて得た施工管理に必要な基本姿勢と、現在所属する「生産設計企業」での社員教育、また施工会社における安全大会等での講義経験を活かして「管理」のポイントを講義する。また、建築士受験関連参考図書の執筆経験から建築士試験受験要件を満たす最低限必要な知識を概説する。

- ・オフィス・アワーは、授業の前後に教室で質問を受け付けることを基本とするが、e-mailでも随時質問を受け付ける。

本科目は建築士試験受験認定に必要な「指定科目（建築生産カテゴリ）」の一つである。カテゴリ内での選択が可能な科目ではあるが受講可能な全学生が科目登録して全員が履修し単位を取得することが望ましい。十分な復習を行って中間テスト、期末テストに臨んでいただきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Construction management is a general term for actions (four major tasks) such as "process control," "safety control," "quality control," and "cost control." Regardless of the position in which you will pursue your career in the future, those working in the construction industry will need to know about "construction management" and "architectural construction" by covering the various types of construction work and its flow, touching on materials, structures, etc. Explain the main points.

It is possible to get an overview of how construction management workers (mainly site supervisors) are positioned in construction production and what their roles are. The aim is also to acquire knowledge to gain a perspective on "manufacturing" through collaboration. It also has the purpose of acquiring knowledge to prepare for the Class 1 Architect Examination.

【Learning activities outside of classroom】

Have two major goals.

- ① To understand the four major duties of implementation management and to have an overview of the PDCA cycle in management.
- ② Be able to know the construction flow and acquire construction management knowledge with materials and structural knowledge necessary for the management of various construction works.

【Learning outside class hours】

The standard time for preparation and review is one hour each.

・For preparatory study, review the materials distributed before the start of class, especially class sheets.

・For review, find your lack of understanding in the confirmation test and review the distributed materials again.

【Grading Criteria /Policy】

There are two major goals, but they are not independent of each other. The goals are segmented to avoid clutter. Each level of understanding will be judged by examination. Please note that confirmation test scores are not directly counted in course registration. However, points will be allocated as normal points.

① Intermediate exam Understand the four major duties of construction management

② Final exam Understanding of various construction and construction processes

③ Normal score Class participation and understanding

Examination score : 70% (mid-term exam + final exam) / 2

Normal score : 30%

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎	○		◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面 構造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築などの 最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁－1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Observing “Kabe-1 grand prix” is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100％）による

Evaluate the final exam result.

期末試験の得点60%以上を合格とします。

A passing score of the final exam is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実

教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらに応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マガサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、ブラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EPシェル、HPシェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B.フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1方向、2方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第2版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5回以上欠席したものは成績評価しない

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

鉄筋コンクリートのデザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート構造に関して、その特性および基本理論、構造設計手法、最新の技術動向について学ぶ。

【到達目標】

基本的な専門用語、コンクリートおよび鉄筋の性質を整理した上で、鉄筋コンクリート構造を含む各種コンクリート系構造の原理を理解すること、鉄筋コンクリート部材の曲げおよびせん断挙動を把握すること、鉄筋コンクリート部材の構造設計の基本的な考え方を修得すること、この3点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○			○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

鉄筋コンクリートは、現在極めて広範囲に使用されている建築主要材料であり、圧縮には強いが引張に弱いコンクリートを、引張に強い鉄筋で補強した複合材料である。

この授業では、まず、鉄筋コンクリートの主要材料たりうる長所と注意すべき短所について整理する。その後、複合材料としての基本的な力学理論および設計手法について解説していく。

理解の定着を図るために、演習課題や演習・復習授業を適宜実施する。また、鉄筋コンクリート構造以外の各種コンクリート系構造についても解説し、最新の技術動向について触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリート概論	授業ガイダンス 鉄筋コンクリートの原理と特徴 コンクリート系構造の基礎知識
2	コンクリートの性質	コンクリートの種類、 応力－ひずみ曲線、 強度、その他の性質
3	鉄筋の性質 鉄筋とコンクリートの 付着	鉄筋の種類、強度、 応力－ひずみ曲線 鉄筋とコンクリートの付着のしくみ
4	鉄筋コンクリートの力 学的基本概念	曲率と平面保持仮定 中心軸圧縮柱の応力計算 付着・定着と配筋の原則
5	梁部材の曲げ設計1 （ひび割れモーメント、 許容曲げモーメント）	無筋梁の曲げ挙動 単筋梁の曲げ挙動 複筋梁の曲げ挙動 釣合鉄筋比
6	梁部材の曲げ設計2 （終局曲げモーメント、 曲げ変形能力）	単筋梁、複筋梁の終局曲げモーメント モーメント－曲率曲線
7	柱部材の曲げ設計1 （ひび割れモーメント、 許容曲げモーメント）	無筋柱の曲げ挙動 鉄筋コンクリート柱の設計基本式 N-M 関連曲線
8	柱部材の曲げ設計2 （終局曲げモーメント、 曲げ変形能力）	終局曲げモーメント Nu-Mu 関連曲線 柱の変形能力に関わる要因
9	演習および復習	梁・柱部材の曲げ設計演習 専門用語の整理 ひび割れと配筋方法
10	鉄筋コンクリート部材 のせん断挙動	せん断破壊形式 せん断力の伝達メカニズム せん断補強筋の役割
11	梁・柱部材のせん断設計	せん断補強設計の要点 梁・柱の許容せん断耐力 設計用せん断力
12	柱梁接合部のせん断設計	柱梁接合部の種類 接合部まわりの応力状態 柱梁仕口部の設計

13	スラブの設計 壁部材の設計	スラブの種類と力学 スラブの応力計算 たわみと振動障害 耐震壁の役割と力学 許容応力度設計 終局強度
14	各種コンクリート系構 造と最新の技術動向	コンクリート系構造の種類 プレストレストコンクリートの特徴 と原理 最新の技術動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等による予習と授業後の復習、宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、下記参考書のうち、自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】

谷川恭雄 他：鉄筋コンクリート構造 理論と設計、森北出版
市之瀬敏勝：鉄筋コンクリート構造、共立出版
福島正人 他：鉄筋コンクリート構造、森北出版
西谷章：鉄筋コンクリート構造入門、鹿島出版会
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010、丸善

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）
定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお、5回以上欠席したものは成績評価しない。
評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書を消すまでの時間をもう少し長くするとともに、学生が説明を十分聞けるように時間配分を調節する。

【その他の重要事項】

この授業とともに「材料のデザイン」「構造計算プログラミング」「エンジニアリングスタジオ」を履修することでさらに理解が深まるので、その履修を強く勧める。

また、建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will learn about reinforced concrete structure, including their characteristics and fundamental theory, structural planning process and recent technological developments.

Learning Objectives:

The objectives of this course are threefold: to understand the principles of various concrete structures including reinforced concrete structures, to grasp the flexural and shear behavior of reinforced concrete members, and to master the basic concepts of structural design of reinforced concrete members, after organizing basic terminology and the properties of concrete and steel bars.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

鋼のデザイン

永井 佑季

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鋼構造は高層建築や大スパン構造には欠かせない構造法である。はじめに、鋼構造の歴史、鋼材の力学的性質、種類および鋼材を組み立てて構成する鋼構造物の特質と設計法、なかでも座屈の問題を詳細に述べる。つぎに、各論として引張材、圧縮材、曲げ材、曲げ・圧縮材、接合法等の現行設計上の考え方および具体的な取り扱いについて述べる。

【到達目標】

日本建築学会鋼構造設計規準の理論的背景と設計法を理解し、簡単な鋼構造の構造計算・設計に応用できる程度の基礎的技術力の養成

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○		○			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントによる鋼構造の紹介、日本建築学会鋼構造設計規準の理論的背景と設計法の理解のための講義を行う。また、授業内容に則した演習問題を解く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造の歴史、鋼材の力学的性質	鋳鉄、鍛鉄、鋼の長所と短所、代表的鉄骨建築、弾性限、弾性係数、降伏点、ひずみ硬化、破断強度、降伏比
2	鋼材の種類	圧延鋼材、関連規格、鋼材の基準値、降伏応力度、安全率
3	鋼構造の設計法	許容応力度設計法、終局強度設計法、限界状態設計法
4	引張材の設計	有効断面、安全率、許容引張応力度、応力度検定
5	圧縮材の設計（1）オイラー座屈荷重の算出など	オイラーの座屈理論、弾性座屈、細長比、材端支持条件と座屈長さ、有効座屈長さ、座屈応力度
6	圧縮材の設計（2）許容圧縮応力度の算出など	弾塑性座屈、限界細長比、許容圧縮応力度、応力度検定
7	曲げ材（梁）の設計	梁の横座屈、許容曲げ応力度、応力度検定
8	曲げ・圧縮材（柱）の設計	軸力と曲げモーメントの組合せ、応力度検定
9	部材接合法（1）ボルトを用いた接合など	継ぎ手、仕口、ボルト接合、高力ボルト接合、摩擦接合
10	部材接合法（2）溶接を用いた接合など	溶接接合、アーク溶接、のど厚、溶接継目の許容耐力
11	演習（ラーメンの設計）	柱・梁ラーメン部材の許容応力度設計
12	演習（ラーメンの設計）に対する解説	演習問題の続き及び回答・解説
13	局部座屈と幅厚比制限	許容板座屈応力度、圧縮と曲げ、せん断
14	鋼構造の耐震設計	靱性設計、塑性変形能力、終局耐力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題の提出、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鋼構造設計規準抜粋資料等授業内で適宜配布。

【参考書】

「建築学テキスト 鉄骨構造」井戸田秀樹、他著（学芸出版社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)、演習課題（20％）、平常点(20%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓が望ましい）。授業中はスマートフォンの電卓機能を使用していただいて構いませんが、期末テストの時は、スマートフォンの使用は不可とします。

【その他の重要事項】

【事前に必要な能力】 構造力学の基本事項を習得していることが望ましい。

【オフィスアワー】 授業終了後、あるいは授業中の演習時間中にオンライン上で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Steel structures are indispensable to skyscrapers and large-span buildings. The start of the course will introduce details of steel structure history, mechanical properties of steel materials, characteristics and design methods of different types and structures used for assembly, and issues with internal buckling. From there, the course will explore special topics including tension, compression and bending members and their joining methods, explaining modern considerations and handling procedures.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建物の振動と耐震化

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、震度6以上の地震が頻発し、その度に、建物の地震被害が確認されている。一方で、地震被害を低減するための耐震技術や、損傷を制御する制振構造、応答加速度を低減する免震構造の技術開発が加速しており、その有効性が実証されている。

この授業では、地震動に対する建物の振動理論、および建築基準法に規定されている限界耐力計算の概要を学び、耐震、制振、免震構造の有効性を理解する。

【到達目標】

- ・調和外力や地震動に対する建物の動的なつり合い式を解き、基本的な振動特性を理解する。
- ・地震動に対する建物の応答を推定する方法を学ぶ。
- ・耐震、制振、免震構造の理論とその有効性を学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教材資料を配布し、内容を解説する。
- ・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
- ・講義毎に演習課題を出題する。各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次回の講義前に提出すること。
- ・中間テストを2回実施して、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自由振動，減衰自由振動，定数係数同次常微分方程式
2	1 質点の振動（1） 1 質点の振動（2）	調和外力に対する応答，定数係数非同次常微分方程式
3	1 質点の振動（3）	ステップ外力に対する応答，任意外力に対する応答
4	1 質点の地震動に対する応答	応答スペクトル
5	減衰について	減衰によるエネルギー吸収，等価粘性減衰定数
6	中間テスト①	1 質点の応答に関するテスト，及びその解説
7	多質点の振動（1）	多質点の自由振動，連立微分方程式の解法
8	多質点の振動（2）	固有値の算定，固有周期，固有ベクトル，固有ベクトルの直交性
9	多質点の振動（3）	地震に対する応答，刺激係数，刺激関数
10	多質点の振動（4）	地震地動に対する建物の最大応答値の推定
11	中間テスト②	多質点の振動特性に関するテスト，及びその解説
12	限界耐力計算（1）	等価線形化法
13	限界耐力計算（2）	有効質量，Sa-Sd 曲線
14	限界耐力計算（3）	性能曲線，要求曲線

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内板書を復習し，参考書を用いて自習に取り組む。
本授業の復習・自習時間は、各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムからのダウンロード資料

【参考書】

柴田明徳：最新 耐震構造解析，森北出版

【成績評価の方法と基準】

演習課題 20% 中間試験 40% 期末試験 40% 配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, earthquakes with a seismic intensity of 6 or higher have occurred frequently, and each time they occur, earthquake damage to buildings has been confirmed. On the other hand, the development of earthquake-resistant technologies to reduce earthquake damage, vibration control structures to control damage, and seismic isolation structures to reduce response acceleration has been accelerated, and their effectiveness has been demonstrated.

In this course, students learn the vibration theory of buildings against earthquake motion and the outline of the limit capacity calculation method stipulated in the Building Standard Law, and understand the effectiveness of seismic, vibration control, and seismic isolation structures.

【Learning Objectives】

To solve the dynamic equation of equilibrium of buildings against harmonic external forces and earthquake motion, and to understand the basic vibration characteristics.

To understand the basic vibration characteristics of buildings by solving the dynamic equation of equilibrium of buildings against harmonic external forces and seismic motion.

Theory and effectiveness of seismic, vibration control, and vibration isolation structures.

【Learning activities outside of classroom】

Exercise assignments will be presented on topics requiring focused practice.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

A mid-term test will be given three times in the lecture, with 30% of the first test, 30% of the second test, and 40% of the third test allocated for grading.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建物の耐力

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、震度6以上の地震が頻発しており、1995年兵庫県南部地震、2004年新潟県中越地震、2011年東北地方太平洋沖地震、2016年熊本地震では、建築基準法で定められた耐震規定の想定を超える震度7の揺れが観測されている。このような巨大地震は、いずれ、どこでも起きる可能性があり、その過酷な地震動に対して、設計者は、居住者の命を守り、さらに地震後も持続可能な生活が送れるように、耐震性の高い建築物を設計する責任がある。この授業では、建築基準法で規定している保有水平耐力計算の概要と、建物の耐力と変形性能の計算方法を学び、耐震設計法的重要性とその基本的な考え方を理解する。

【到達目標】

建築基準法で規定している保有水平耐力計算法の概要、および建物の耐力と変形性能の計算方法を理解する。
過去の地震被害を学び、耐震設計法的重要性を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○	○	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回の講義で演習例題を配布し、内容を解説する。
- ・各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次回の講義前に提出すること。
- ・中間テストを2回実施して、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	過去の地震被害	過去の地震被害の解説
2	耐震設計法	保有水平耐力計算、限界耐力計算、時刻歴応答計算、地震層せん断力
3	鉄筋コンクリート造の耐震設計	計算ルート、壁量計算、せん断設計
4	鉄骨造の耐震設計	計算ルート、保有耐力接合
5	木造の耐震設計	壁量計算、壁倍率、変形性能、偏心率
6	中間テスト①	耐震設計法、耐震算ルートについてのテスト、及びその解説
7	鉄骨部材の耐力計算	降伏モーメント、塑性断面係数、全塑性モーメント
8	鉄筋コンクリート部材の耐力計算①	スケルトンカーブ、終局曲げ耐力
9	鉄筋コンクリート部材の耐力計算②	終局せん断耐力
10	保有水平耐力計算	耐力と変形能力、保有水平耐力、必要保有水平耐力
11	中間テスト②	保有水平耐力計算に関するテスト、及びその解説
12	建物の耐力計算①	仮想仕事法による梁の崩壊荷重の計算
13	建物の耐力計算②	仮想仕事法によるラーメンフレームの崩壊荷重の計算
14	建物の耐力計算③	層崩壊と全体崩壊

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重点的に演習の必要なテーマについて、演習課題を提示する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

演習課題 20% 中間試験 40% 期末試験 40% 配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, earthquakes of seismic intensity 6 or higher have occurred frequently. In the 1995 Hyogo-ken Nanbu Earthquake, the 2004 Niigata-ken Chuetsu Earthquake, the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, and the 2016 Kumamoto Earthquake, tremors of seismic intensity 7 were observed, which exceed the assumption of the seismic resistance regulations stipulated in the Building Standards Law.

Such huge earthquakes may occur anywhere in the future, and designers have a responsibility to protect the lives of occupants against such severe seismic motion and to make their lives sustainable even after the earthquake. In this course, students learn how to calculate the bearing capacity of buildings, the deformation performance of earthquake-resistant members, and the calculation of the horizontal bearing capacity stipulated in the Building Standard Law, and understand the importance of earthquake-resistant design methods and their basic concepts.

【Learning Objectives】

To understand the outline of the calculation method for the horizontal bearing capacity stipulated in the Building Standard Law and the calculation method for the bearing capacity and deformation performance of buildings.

To understand the importance of seismic design methods by studying damage caused by past earthquakes.

【Learning activities outside of classroom】

Exercise assignments will be presented on topics requiring focused practice.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

A mid-term test will be given three times in the lecture, with 30% of the first test, 30% of the second test, and 40% of the third test allocated for grading.

建築生理心理 2

加用 現空

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、建築環境と身体との関係を理解する基礎的な知識を踏まえ、それらを建築デザインとして具体化するための方法を学ぶ。体感的な環境経験と建築環境学の知識を統合し、数理的な視点から建築環境のふるまいを捉えることで、身体と環境のつながりをデザインとして構築するための思考と技術を、履修者が身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・身体と環境の關係に着目し、建築環境の状態を構造的に捉えて説明できる。
- ・建築環境のふるまいを表現するための基礎的な数理モデルを構築できる。
- ・モデル化した建築環境を用いて、建築デザインの検討を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は配布しないが、講義後復習用に講義録画リンク（Zoom）を公開する。講義は座学を中心に進めるが、授業内演習などを含む。受動的に聴講する授業形式ではなく、履修者同士で話し合いながら理解を深める授業形式を目指す。他履修者の妨げとなる私語は避け、相互に学びを深める学修環境構築への協力を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の目的、概要、プログラムインストール
2	数理モデリング基礎（1）	建築環境学の数理モデリング、環境とシステム、入力と出力
3	数理モデリング基礎（2）	収支式、差分方程式
4	モデリング演習（1）	Grasshopper プログラミング基礎
5	モデリング演習（2）	Grasshopper プログラミング実践
6	パラメトリックスタディ	目的関数、設計変数、制約条件
7	演習（1）	建築形態のデザイン検討（太陽軌道、日射熱取得量）
8	熱収支のモデル化	伝導、対流、放射
9	演習（2）	屋根面構成のデザイン検討
10	光の振る舞いのモデル化	反射、吸収、透過
11	演習（3）	昼光導入のデザイン検討
12	空間換気特性のモデル化	圧力エネルギー、運動エネルギー、熱エネルギー
13	演習（4）	開口位置と開口面積のデザイン検討
14	まとめ	建築デザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントを用いて講義を展開する。講義資料は共有しないが、講義後復習用に講義録画（Zoom）リンクを公開する。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【テキスト（教科書）】特に指定しない。

【参考書】

『人・建築・地球とエクセルギーー環境物理学入門』 宿谷昌則著 (2024) 建築資料研究社
『エクセルギーと環境の理論: 流れ・循環のデザインとは何か』 宿谷昌則著 (2010) 井上書院
『建築環境デザインのディテール 光・熱・風・水・音』 荻原廣高 (他) 著 (2024) 彰国社
『Parametric Design with Grasshopper 建築／プロダクトのための、Grasshopper クックブック [改訂第3版]』 石津優子、堀川淳一郎著 (2024) ビー・エヌ・エヌ

【成績評価の方法と基準】

講義中に課す演習課題（30%）、授業後のフィードバックフォームの記入内容（30%）、講義終了後の期末試験（40%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: In the course "Physiology and Psychology in Building 1", The knowledge about the basics on building physics which focuses on the connection between the human body and the environment. To apply this knowledge in architectural design, the mathematical modelling method is needed. However, the recent computational simulation tools are highly developed and its algorithms are in the black boxes. The aim of the course is to integrate sensitive recognition by the human body and the knowledge of building physics, and to learn applying mathematical modelling methods into architectural design with deductive approach. Learning Objectives: 1) To acquire the scope to understand the status of the built environment, 2) To understand the basics of mathematical modeling, 3) To develop basic skills of mathematical modeling through exercises.

Learning Activities Outside of The Classroom: The preparation and review time for each lecture is about 2 hours. In particular, students, who don't have a sufficient understanding of the issue at the end of the lecture, are recommended to deepen their understanding before the next lecture.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by the results of assignments during the course (30%), quality and quantity of the feedback form at the end of each lecture (30%), and the result of the final examination at the end of the course (40%). Grades will not be given to students who have not taken the examination or submitted the assignments.

建築気候

中野 淳太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は建築計画・設計において、直感やひらめきなどの感性で生み出されるデザインとは異なり、理論的に説明でき、定量的に取り扱われる工学的な知識を習得することを目的とします。すなわち、冬の日射、夏の通風の利用、また各のすきま風、夏の日射をいかに防いでより快適な室内環境を創るかなど、積極的に自然エネルギーを利用、制御して省エネルギーも考慮に入れた優れた建築計画をするための基礎知識を修得するための学問です。従って、本科目で学ぶ分野は主として人間と建築を取り巻く自然環境との関係であり、具体的な項目としては快適条件、日射、室内換気、建築伝熱、湿気・結露です。これらの項目について、現実には具体的な数値を使って演習問題を解きながら授業を進めます。

【到達目標】

- 1) 環境工学で用いる用語とその単位を理解、習得する。
- 2) 熱環境の基礎理論を理解し、実在建築や実際の現象への応用手法を習得する。
- 3) 必要換気量、自然換気（風力換気・温度差換気）の理論を理解し、実在建築への応用手法を習得する。
- 4) 湿り空気の状態を把握し、壁体の透湿理論・結露の原理を理解し、実在建築への結露防止手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1回の授業はテーマを明確にし、2回目以降は基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め、キストの該当部分を予習し、主体的に講義を受けて理解し、演習を行い、そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス、気候と建築	環境のスケール、気候、クリモグラフ、建築物省エネ法
2回	伝熱理論の基礎	熱とエネルギー、単位、3つの伝熱形態、顕熱と潜熱
3回	人の熱的快適条件	自立性体温調節のメカニズム、人体の熱収支、温熱環境指標（PMV、SET*）
4回	太陽エネルギーと太陽位置	太陽エネルギーの特性、地球の自転と公転、真太陽時と平均太陽時、太陽位置
5回	日射と長波長放射	直達日射、天空日射、全天日射、大気放射、地表面放射、実効放射
6回	建築伝熱と熱貫流	熱伝導率、熱コンダクタンス、総合熱伝達、熱抵抗、熱貫流率
7回	相当外気温	日射吸収率、放射率、反射率、透過率、相当外気温
8回	住宅の熱性能	外断熱と内断熱、熱損失係数、外皮平均熱貫流率、自然室温
9回	湿り空気と結露	湿り空気、状態値、湿り空気線図、表面結露、内部結露
10回	換気の原理と必要換気量	機械換気、汚染物質、振戦外気、第1種～第3種換気、必要換気量
11回	自然換気の圧力差	静圧と動圧、外部風、風圧係数、煙突効果
12回	圧力差と換気量	ベルヌーイの定理、総合実効面積、換気量
13回	総合環境性能評価	地球環境問題、環境負荷、LEED、CASBEE
14回	建築の省エネと省CO2の動向	建築物省エネ法、改正省エネ基準、一次エネルギー使用量、二酸化炭素排出量

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予めキストの該当部分を予習すること。ならびに時間内のテキストを復習し、テキスト内の類似演習を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善
倉淵隆『初学者の建築講座 建築環境工学』、市ヶ谷出版社

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習を20%、最終試験を80%とし総合して評価する

【学生の意見等からの気づき】

- ・遅刻をしないこと。
- ・1回の授業で扱う内容は豊富であるので、情報を「写す」のではなく、自分で主体的にノートをとる態度にすること。主体的な態度で臨むこと。
- ・授業内に行う演習は限られた時間内に集中して行い、指定された時間に提出すること、遅れて提出は認められない。
- ・演習やテキストの練習問題を自宅で解くなど、自宅学習（復習）を行うこと。
- ・毎回の演習、期末試験で正解が得られなかった箇所を十分復習し、不明な点は積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

関数機能の付いた計算機を持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge in architectural planning and design that can be explained theoretically and quantitatively. The main topics are the relationship between climate and buildings, including comfort conditions, solar radiation, ventilation, building heat transfer, and humidity. Students will work on these topics by solving exercises.

Learning Objectives:(1) Understand and master the terms and units used in environmental engineering. (2) Understand the basic theory of required ventilation rate and natural ventilation. (3) To understand the basic theory of thermal environment and its application to actual phenomena. (4) To understand the properties of moist air and condensation mechanisms and to master the methods of preventing condensation.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 20% of the exercises and 80% of the examinations.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

光・視環境

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築における光環境として日照、日射、自然採光、人工照明を対象とし、光や熱に対する理論を学習し、人間の視覚特性を理解しながら、建築デザインに生かす手法を習得する。

【到達目標】

到達目標は下記の通り。

- 1）太陽位置を把握して、日影や日照時間、日射熱量、建築の日射受熱量などの算定方法を習得する。
- 2）測光量と単位、採光・照明の基礎理論を理解し、照明計画などの応用手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1 回の授業はテーマを明確にし、2 回目以降は基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め、テキストの該当部分を予習し、主体的に講義を受けて理解し、限られた時間内で演習を行い、そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス、太陽位置算定に必要な時刻表現	地方真太陽時、地方平均太陽時、中央標準時均時差
2 回	太陽位置の算定方法	太陽方位角、太陽高度、太陽赤緯
3 回	日影図	日影図、日影曲線、日影時間曲線
4 回	日差し曲線	日差し曲線、日照図表
5 回	各平面への日影	水平面・鉛直面への影
6 回	日射量	直達日射、天空日射、全天日射、日射受熱量
7 回	日除けの設計	庇、袖壁、ルーバー、ブリーズソレイユ
8 回	光の物理表記と単位	光束、照度、光束発散度、光度、輝度
9 回	点光源による照度・均等拡散面の性質	入射の余弦定理、完全拡散面、反射、吸収、透過、拡散
10 回	光束法	光束法を用いた照明計画
11 回	昼光照明	昼光率、立体角投射率
12 回	X Y Z 表色系	R G B 表色系、X Y Z 表色系、xy 色度図
13 回	色彩調和理論	視覚心理、視認性・誘目性、色調、色彩調和理論、色彩計画
14 回	総復習	光環境・視環境の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での演習問題の復習を十分行っておくこと。さらに、身近な例を学習関連する新聞記事を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六他著『最新 建築環境工学』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習点：20%、期末試験点：80%の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・太陽光は地球環境と密接に関係しているので、そのつもりで履修すること。
- ・光環境は、熱環境とも関連しているので、建築気候の熱環境の分野も復習すること。
- ・授業は遅刻をしないこと。
- ・日影図は、単純な幾何なのに従来から理解していない学生が多いので、注意すること。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を必ず持参すること。また、教員の指示に応じて製図用具等を準備すること。

【Outline (in English)】

This course focuses on sunlight, solar radiation, daylighting, and artificial lighting as light environments in architecture. Students will learn theories of light and heat, understand human visual characteristics, and acquire methods to apply them to architectural design.

Through this class, students will be able to:

(1) Understand the position of the sun and learn how to calculate shading, hours of sunlight, solar heat capacity, and the amount of heat received by buildings by solar radiation.

(2) To understand the basic theory of photometric quantities and units, lighting, and illumination, and to master applied methods such as color planning based on color psychology by understanding the color system.

The course comprises a lecture on fundamental theory and exercises with a clear theme. Students are expected to prepare the relevant part of the textbook in advance, attend and understand the lecture independently, and master the theme by doing exercises within a limited time. Students are expected to review the exercises in the class sufficiently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the following ratios: 20% for the exercises in each class and 80% for the final examination.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）						
音・振動環境						
星 和磨						
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択						
備考（履修条件等）：建築：建築士						
その他属性：〈優〉〈S〉						
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】						
外部からの騒音に悩まされない住宅、響きが良いコンサートホール、声がよく通る教室等、建築物の設計に際して内部で実現される音環境への配慮は大変重要である。音は、人々に快感から不快感まで幅広い感覚刺激を呼び起こす。従って、機能、用途毎に音質が的確に対応していなければならない。そのためには音とは何かという基本的理解が必要である。また、音の取り扱いと振動の取り扱いに関しては類似する点も多いことから、講義の後半では遮音の原理を通じて振動現象に関する基礎についても学ぶ。本講義では、音・振動環境に関する基礎的な知識を習得し、その後空間形態、建築用途に対応する理想的設計要件を学ぶことを目的とする。						
【到達目標】						
・音が物体の中を伝わる振動現象であるという物理現象を理解する。 ・音、振動に関わる特徴的な単位、演算方法を習得する。 ・吸音、遮音のための物性、構法などを基礎知識として理解する。 ・建築設計の際に音・振動を考慮することが重要であることを認識する。						
【修得できる能力】						
総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎						
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】						
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連						
【主な授業方法】						
L 講義 /Lecture						
【授業の進め方と方法】						
予め穴埋め形式講義ノートをデジタルで配布するので、適宜メモを取り、穴を埋めながら講義を受けること。 また授業の最後に演習問題を解きながら、授業内容の理解を深める。 講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。						
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】						
あり / Yes						
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】						
なし / No						
【授業計画】 授業形態：対面/face to face						
回	テーマ	内容				
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介				
2	音波の物理	振動の物理、音の物理、音波、波の表し方				
3	音の大きさとレベル	ウェーバ・フェフィナーの法則、物理量から感覚量への変換、音圧と音圧レベル、音響インピーダンス				
4	ラウドネスとA特性補正	耳の構造、ラウドネスとラウドネスレベル、当ラウドネス曲線、オクターブバンドとオクターブバンドレベル				
5	様々な騒音とその評価	騒音の定義と種類、等価騒音レベル、単発騒音暴露レベル、騒音にかかる環境基準、静ひつ性の評価				
6	様々な音源と距離減衰	点音源、線音源、面音源から放射される音の減衰				
7	定常波と質の固有振動	管の共鳴、部屋の共鳴、軸・接線・斜めモードとその周波数、室寸法と縮退の関係				
8	吸音率と響きの長さ	吸音率の定義、残響時間の定義、W.C.Sabineの功績、残響時間の予測				
9	音響エネルギー密度と室内平均音圧レベル	拡散音場とは、音響エネルギー密度と平均音圧レベルの関係、直接音レベルと反射音レベル、臨界距離				
10	吸音機構と吸音材料	吸音の仕組みと建築材料（内装材）、吸音不足による室性能の低下、吸音に配慮した設計事例の紹介				
11	遮音の基礎と質量則	吸音と遮音の違い、等価エネルギーと等価損失、等価損失の周波数特性を決める法則				
12	二重壁の遮音と空気音遮断性能の評価	中空二重壁の共鳴透過現象とその対策、複層ガラスのメリットとデメリット、空気音遮断性能の評価				
13	床衝撃音とその評価	集合住宅における騒音問題、軽量床衝撃音と重量床衝撃音の違いとそれらの対策				

14	試験・まとめと解説	これまで13回の内容に関する理解度を確認する
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本講義は暗記内容、計算問題ともに多いので講義終了後に知識定着のために各自帰宅後に内容を復習すること。建築士試験の問題として出題される内容も多く取り扱うことから、ここで知識を体系的に定着させておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
独自に作成した講義資料を講義前に配布する。 また、「最新建築環境工学（改訂第4版）」田中俊六 他著（井上書院）を適宜参照しながら進める		
【参考書】		
「建築音響」阪上公博 編著（コロナ社） 「建築・環境音響学」前川純一 他著（共立出版） 「建築音響と騒音防止計画」木村翔 著（彰国社） 「コンサートホールの科学」日本音響学会 編著（コロナ社）		
【成績評価の方法と基準】		
講義中に課す演習課題（50%）と講義終了時課す最終課題または試験（50%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。		
【学生の意見等からの気づき】		
毎回の授業演習用紙の下部に、授業の理解度評価とコメントを記述する欄を設けている。 このアンケートにもとづき、次回授業に改善を図るとともに、質問に回答する。		
【学生が準備すべき機器他】		
特になし。		
【その他の重要事項】		
音環境は光環境とは違い直接目に見えない。そのため音響設計は後回しにされることが多く、結果として、音響的な検討が足りないことがある。そのような場合、竣工後にクライアントや周辺住民から音に関する苦情があることも少なくなく、場合によっては大幅な改修を余儀なくされる。 このように音環境は室内外の快適性に大きく影響する。この科目はエンジニアリング（工学）系の科目だが、意匠設計を志す学生も含めた全ての学生に受講していただきたい。そして音環境に関する基礎知識をもって様々な立場で活躍する人材になってほしい。 オフィスアワー：授業の前後あるいはLMSで随時質問を受け付けます。		
【Outline (in English)】		
Course Overview: It is very important to consider the sound environment that will be realized when designing buildings, such as houses that do not suffer from inside and outside noise, concert halls with rich sound, and classrooms with a good speech intelligibility. Sound evokes a wide range of sensations, from pleasure to discomfort. Therefore, the sound quality must be precisely tailored to each function and application. This requires a basic understanding of what sound is. In addition, since there are many similarities between sound and vibration, students will learn the basics of vibration phenomena in the second half of the lecture. The goal of this course is to acquire a basic knowledge of sound and vibration environments and then to learn ideal design requirements according to spatial form and architectural use. Learning Objectives: 1) Understand the physical phenomenon that sound is a vibrational phenomenon transmitted through an object, 2) Understand the physics of sound and vibration, 3) Understand the basic knowledge of physical properties and construction methods for sound absorption and sound insulation, 4) Understand the importance of considering sound and vibration in building design. Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, students are encouraged to deepen their understanding before the next class if they do not have a sufficient understanding of the subject matter at the end of the class. Grading Criteria/Policy: Grades will be determined by a final exam at the end of the lecture (50%) and exercises assigned during the lecture (50%). Grades will not be given to students who have not taken the examinations or submitted the assignments.		

ADE400NB (建築学 / Architecture and building engineering 400)

デザインスタジオ 7

栢澤 麻利、海法 圭、南後 由和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DS 7は学部設計教育の最終段階のものである。卒業設計に向けて社会的問題群を認識しそれに対応する建築的解答としてのプログラムを提案できる能力を身に付けることを目指している。さらに、本学の建築教育において特色であり、また本学の強みである「物理的、文化的コンテキストを尊重した設計方法」を理解することを目指している。

【到達目標】

- ・社会的問題群を認識し、それに対応する建築的解答としてプログラムを提案する
- ・都市の物理的コンテキスト、文化的コンテキストを理解し、建築的に応答する技術を身につける
- ・建築計画と都市計画をシームレスに思考できるトレーニングを行う
- ・設計意図を的確に表現する技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・ガイダンス日程はHoppiiに掲示する。
- ・履修希望者はガイダンスを必ず受けること。
- ・各自のリサーチ・エスキスの発表を基本とし、その内容に基づき、議論・指導を行う。
- ・4年間の学生生活を通じて知見した現在の社会に対する疑問や問題意識を、建築的テーマによって立ち向かうという精神をもつことを期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・グループ分け	課題説明、レクチャー
2	エスキス1	テーマについての考察1
3	エスキス2	テーマについての考察2
4	エスキス3	敷地リサーチ1
5	エスキス4	敷地リサーチ2
6	中間講評	中間講評
7	エスキス5	基本計画1
8	エスキス6	基本計画2
9	エスキス7	設計1
10	エスキス8	設計2
11	エスキス9	設計3
12	エスキス10	設計4
13	クラス別講評	クラス別講評
14	最終講評	最終講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に適宜指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に適宜指示

【参考書】

授業内に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

エスキスプロセスを踏まえた成果作品を総合的に評価する。毎週のエスキスの時の提出物。中間講評での発表の内容。そして最終講評に提出する成果物および発表の内容によって総合的に評価する。4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

評価配分は毎回のエスキスの提出物 20 %、中間講評評点 30 %、最終講評評点 50 %

総合点 60 点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

エスキスは進行により pin-up critique/desk critique/open jury とする

DS 1～6 をすべて履修していることが好ましい

【Outline (in English)】

【Course outline】

DS7 is the final stage of undergraduate design education. The aim of DS7 is to acquire the ability to recognize social problems and propose architectural programs to address them in preparation for graduation design. In addition, the course aims to help students understand "design methods that respect physical and cultural contexts," which is a distinctive feature of our architectural education and one of our strengths.

【Learning Objectives】

- Recognize social problems and propose programs as architectural responses to them.
- To understand the physical and cultural context of the city and to acquire the skills to respond architecturally.
- To train students to think seamlessly between architectural planning and urban planning.
- To acquire the skills to accurately express the design intent.

【Learning activities outside of classroom】

Instructions will be given in class as appropriate.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation of the resulting work based on the Esquisse process. Submissions during the weekly Esquisse. The content of the presentation at the mid-term review. Students who are absent more than 4 times will not be graded. Evaluation will be based on the following: 20% of the student's essay, 30% of the mid-term review grade, and 50% of the final review grade.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

構造計算プログラミング

浜田 英明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算アプリケーションソフトを用いてプログラミングを行い、構造計算方法およびプログラミング技術の修得を授業テーマとする。

【到達目標】

表計算アプリケーションソフトでのプログラミング演習を通して、1)鉄筋コンクリート（RC）造の柱・梁部材の断面検定方法を理解すること、2)基本的なプログラミング技術を修得すること、3)表計算アプリケーションソフトの扱いに慣れ、論文作成等での応用力をつけること、これら3点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○		○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算について一通り学習してきたことを、今度はコンピュータにプログラミングという形で学習させて、構造計算させる方法について学ぶ。
コンピュータは大量のデータを瞬時に正確に処理してくれるが、正確にプログラムを記述しなければ、正解を導いてはくれない。
「コンピュータに学習させる」ことを通して、鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算に対する自分自身の理解の深化と復習を図る。
また、表計算アプリケーションソフトの扱いについて慣れ、論文作成等に活用できるようになることも目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Excel マクロ (VBA) の基本的な使い方	コンピュータ言語 アルゴリズム、プログラミング Sub プロシージャ、Function プロシージャ For Next 文、If 文
2	演習課題1	Sub プロシージャ、Function プロシージャを用いた例題の演習
3	ユーザーフォームの利用	ユーザーフォーム
4	と鋼材断面性能の算出 演習課題2	鋼材断面性能 ユーザーフォームを用いた鋼材断面性能算出アプリケーションの作成演習
5	RC 梁の断面検定方法の復習 (曲げに対する断面検定)	鉄筋、コンクリートの許容応力度 曲げに対する断面検定の復習
6	Excel によるグラフの作図 演習課題3	グラフ作図演習 RC 長方形梁の許容曲げモーメント算出プログラムの作成
7	RC 梁の断面検定方法の復習 (せん断に対する断面検定)	せん断に対する断面検定の復習
8	演習課題4	RC 長方形梁の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形梁の断面検定シートの作成
9	RC 柱の断面検定方法の復習 (軸力と曲げ、せん断に対する断面検定)	軸力と曲げに対する断面検定の復習 せん断に対する断面検定の復習
10	演習課題5	RC 長方形柱の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 RC 長方形柱の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形柱の断面検定シートの作成
11	人工知能による構造設計	最適化アルゴリズムによる構造設計

12	演習課題6	トラス断面の最適化 人間による構造設計 最適化アルゴリズムによる構造設計
13	コンピュータの発展と人類	建築構造設計におけるコンピュータの利活用とその弊害 今後に向けて まとめ、総括
14	小レポート	総括レポートを各自作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やノート等による予・復習や宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、Excel VBA に関する書物のうち自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】

日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2010、日本建築学会（丸善）

日本建築学会：鋼構造設計規準－許容応力度設計法－、日本建築学会（丸善）その他、「鋼のデザイン」および「鉄筋コンクリートのデザイン」の授業で利用したテキストやノート

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：100%（授業内で指示された演習課題に対する作成状況）

なお、5回以上欠席したものは評価しない。

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室の機器

【その他の重要事項】

この授業は「鉄筋コンクリートのデザイン」と密接な関係があるため、先にその履修をしておくことを勧める。
また、「鋼のデザイン」とも関係が深いため、同時に履修することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course provides students with skills in structural calculations and programming via an introduction to programming using spreadsheet software.

Learning Objectives:

Through programming exercises using spreadsheet application software, the objectives of this course are: 1) to understand the cross-sectional verification method of reinforced concrete (RC) column and beam members, 2) to master basic programming techniques, and 3) to become familiar with the use of spreadsheet application software and to develop application skills for writing papers, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students are expected to prepare for and review the course using reference books and notebooks, and to actively engage in the homework exercises and assignments.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises.

建築の空間と形態

安藤 直見

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士
都市：建築士
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広大な場所性と長大な歴史性の中に存在する建築や都市は、多様な形態をもっています。そして、その多様な形態が、建築や都市の空間（イメージ）を現象させています。この授業では、その形態と空間の特質について論じます。授業においては、図や写真の他、映画等によって表現された建築や都市を提示し、形態の特徴について解説します。

【到達目標】

建築の形態と空間の特質、表現、その関係についての考え方を習得すること到達目標とします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎				○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

建築の空間と形態に関する文献と資料に加えて、映画に表現された建築空間・都市空間の分析を通じて、建築空間・都市空間の特質を探ります。映画と建築・都市には「空間を描く」という共通点があります。一般的には、建築・都市がつくる空間は生活のための実体のある空間で、映画がつくる空間は仮想空間です。映画はフィクションですから、空間の意味を誇張し、歪曲し、再構築します。でも、だからこそ映画が建築・都市の空間の本質を表すことがあると思います。時代劇は空間を〈再現〉し、現代劇は空間を〈引用・誇張〉し、未来劇などは空間を〈変形・歪曲・再構築〉します。何がどのように〈再現〉され、またなにがどのように〈誇張〉され〈歪曲〉されるかは解釈に基づくことが多いのですが、本論では、客観的な分析手法を交え、可能な限り、建築・都市の空間と映画表現としての空間との関係を一般化する考察を試みます。映画に関する考察は、古代エジプトから近代までの空間表現を歴史の順に眺めていきます。各回の授業においては、たとえば、以下のような仮説を提示し、それを検証していきます。

- 1) 古代エジプトの建築は、〈量塊としての外形〉の表現が特徴的であり、大きさや重量感が建築のイメージを決定づけている。
- 2) 古代ギリシャの建築では、要素の〈配列による構成〉が特徴的であり、列柱や立面構成などが建築のイメージを決定づけている。
- 3) 古代のアジア（中国や日本）においても、〈量塊としての外形〉や〈配列による構成〉とする建築の特質が見られる。
- 4) 古代ローマからビザンチンの建築では、内部空間のあり方が意味をもつようになり、〈円や球（ドーム）の造形〉が展開する。
- 5) 厚い壁に囲まれた中世ロマネスクの空間には、その内部には劇的な光が存在する例が多く、〈劇的な変化を内在する閉鎖空間〉が特徴的である。
- 6) 中世の都市における広場も、塔の存在を含む立面の高低や開口の構成の多様性をもつ〈変化にあふれた空間〉である。
- 7) フライングバットレス、ポインテッドアーチ、リブヴォールトなどが用いられた中世ゴシックの建築は、〈天空へ飛翔〉するような空間（イメージ）を形成している。
- 8) ルネサンス以降の建築は、過去の参照を内包しながら、〈芸術〉として、多様な展開をしていく。

各回の授業では、各回のテーマ（仮説）についての考察を促し、hoppii（学習支援システム）の掲示板を利用して討論を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	●量塊としての建築	【古代エジプトの空間】ピラミッド、カルナック神殿、アブシンベル神殿、アレクサンドリアなど
2	量塊としての建築(つづき)：	量塊（ヴォリューム）によって構成された現代建築（大きいことはただそれだけで意味をもつのだろうか？）
3	●配列の美学／身体 の美学	【古代ギリシャの空間】パルテノン神殿、エレクトيون、ヘファイストス神殿、アゴラ、デルフィ、オリンピア、エピダウロスの劇場、リンドスのアクロポリス、クノッソス宮殿、ペトラ、エフィソス
4	配列の美学・身体 の美学(つづき)	映画における編集と建築の構成（配列の形態）とのアナロジー
5	●天球の建築	【古代ローマからビザンチンへ】パンテオン、フォロロマーノ、コロッセオ、水道橋、ポンペイ、サンマルコ大聖堂、ハギアソフィア、イスタンブールの街並み
6	天球の建築(つづき)	外形から内部空間へ
7	●古代アジアの建築	【日本と中国の古代建築】伊勢神宮（神明造り）、出雲大社（大社造り）、古墳、吉野ヶ里遺跡、咸陽宮、始皇帝陵、兵馬俑
8	古代アジアの建築(つづき)	日本と中国の量塊的建築
9	●躍動する閉鎖空間	【ロマネスクの空間】サン・ミニアート・イル・モンテ聖堂、ル・トロネ修道院などの南フランスのロマネスク建築、ヴェネツィア、フィレンツェなどの中世にその骨格が形成された都市
10	躍動する閉鎖空間(つづき)	厚い壁と小さな窓はどのように空間を決定づけたかのだろうか？
11	●天空への飛翔	【ゴシックの空間】ノートルダム大聖堂などのフランスのゴシック聖堂、ミラノ大聖堂などのイタリアおよびその他の地方のゴシック聖堂
12	天空への飛翔(つづき)	ゴシックの様式と浮遊する森

- 13 ●複製としての芸術 【ルネサンスの芸術】サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、サンピエトロ大聖堂、システリーナ礼拝堂、サンタ・マリア・ノヴェラ聖堂、サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂、テンピエット、サン・ジョルジョ・マジョーレ聖堂、テアトロ・オリンピコ、ヴィラ・ロトンダなど

- 14 複製としての芸術(つづき) 芸術の発見、ルネサンスから近世へ(2)：

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

歴史や文化に関する予習を進めることが望ましい

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じて、必要なテキストを配布する

【参考書】

(1) 安藤直見, 映画に描かれた古代エジプトの建築 ―建築の量塊的イメージ―, 図学研究第50巻3号, pp.11-19, 日本図学会, 2016年9月

(2) 安藤直見, 映画への旅―古代エジプトへ (Kindle版) : <https://www.amazon.co.jp/dp/B07QCKPVDY/>

(3) 安藤直見, 映画に描かれた古代ギリシャ ―配列の美学―, 日本図学会2014年度秋季大会学術講演論文集, pp.143-148

(4) 安藤直見, 映画に描かれた古代ローマとビザンチン ―形象から空間へ―, 日本図学会2015年度春季大会学術講演論文集, pp.19-24

(5) 安藤直見, 映画に描かれた中世ロマネスク ―躍動する閉鎖空間―, 日本図学会2015年度秋季大会学術講演論文集, pp.55-60

(6) 安藤直見, 映画に描かれた中世ゴシック ―天空への飛翔―, 日本図学会2016年度春季大会学術講演論文集, pp.45-50

(7) 安藤直見, 映画に描かれたルネサンス建築 ―芸術としての複製―, 日本図学会2016年度秋季大会学術講演論文集, pp.19-24

(8) 安藤直見, 映画に描かれた古代建築 ―アジアにおける古代建築の量塊的イメージ―, 日本図学会2017年度秋季大会学術講演論文集, pp.17-20

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（授業内ディスカッション、授業内小課題等）（50%）

期末課題（50%）

総合点60点以上を合格とします

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

この講義には、パソコン（情報教室のパソコン、または、大学が貸与するノートパソコン）を使用する演習を含みます

【その他の重要事項】

学習支援システムおよび授業終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Within the vast locations and long history, architecture and cities are spanned in a variety of architectural forms. And those forms express spatial images of architecture and cities. This course will explore the characteristics of architectural forms and spaces. In addition to drawings and photos, expressions of architectural forms and spaces in movies are observed to survey the spatial characteristics of architecture and cities.

[Learning objectives]

This course aims to study the spatial characteristics of architecture and cities.

[Learning activities outside of classroom]

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of assignments (100%)

建築の空間と形態

安藤 直見

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士
都市：建築士
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広大な場所性と長大な歴史性の中に存在する建築や都市は、多様な形態をもっています。そして、その多様な形態が、建築や都市の空間（イメージ）を現象させています。この授業では、その形態と空間の特質について論じます。授業においては、図や写真の他、映画等によって表現された建築や都市を提示し、形態の特徴について解説します。

【到達目標】

建築の形態と空間の特質、表現、その関係についての考え方を習得すること到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

建築の空間と形態に関する文献と資料に加えて、映画に表現された建築空間・都市空間の分析を通じて、建築空間・都市空間の特質を探ります。映画と建築・都市には「空間を描く」という共通点があります。一般的には、建築・都市がつくる空間は生活のための実体のある空間で、映画がつくる空間は仮想空間です。映画はフィクションですから、空間の意味を誇張し、歪曲し、再構築します。でも、だからこそ映画が建築・都市の空間の本質を表すことがあると思います。時代劇は空間を〈再現〉し、現代劇は空間を〈引用・誇張〉し、未来劇などは空間を〈変形・歪曲・再構築〉します。何がどのように〈再現〉され、またなにがどのように〈誇張〉され〈歪曲〉されるかは解釈に基づくことが多いのですが、本論では、客観的な分析手法を交え、可能な限り、建築・都市の空間と映画表現としての空間との関係を一般化する考察を試みます。

映画に関する考察は、古代エジプトから近代までの空間表現を歴史の順に眺めていきます。各回の授業においては、たとえば、以下のような仮説を提示し、それを検証していきます。

- 1) 古代エジプトの建築は、〈量塊としての外形〉の表現が特徴的であり、大きさや重量感が建築のイメージを決定づけている。
- 2) 古代ギリシャの建築では、要素の〈配列による構成〉が特徴的であり、列柱や立面構成などが建築のイメージを決定づけている。
- 3) 古代のアジア（中国や日本）においても、〈量塊としての外形〉や〈配列による構成〉とする建築の特質が見られる。
- 4) 古代ローマからビザンチンの建築では、内部空間のあり方が意味をもつようになり、〈円や球（ドーム）の造形〉が展開する。
- 5) 厚い壁に囲まれた中世ロマネスクの空間には、その内部には劇的な光が存在する例が多く、〈劇的な変化を内在する閉鎖空間〉が特徴的である。
- 6) 中世の都市における広場も、塔の存在を含む立面の高低や開口の構成の多様性をもつ〈変化にあふれた空間〉である。
- 7) フライングバットレス、ポインテッドアーチ、リブヴォールトなどが用いられた中世ゴシックの建築は、〈天空へ飛翔〉するような空間（イメージ）を形成している。
- 8) ルネサンス以降の建築は、過去の参照を内包しながら、〈芸術〉として、多様な展開をしていく。

各回の授業では、各回のテーマ（仮説）についての考察を促し、hoppii（学習支援システム）の掲示板を利用して討論を行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	●量塊としての建築	【古代エジプトの空間】ピラミッド、カルナック神殿、アブシンベル神殿、アレクサンドリアなど
2	量塊としての建築(つづき)：	量塊（ヴォリューム）によって構成された現代建築（大きいことはただそれだけで意味をもつのだろうか？）
3	●配列の美学／身体 の美学	【古代ギリシャの空間】パルテノン神殿、エレクトيون、ヘファイストス神殿、アゴラ、デルフィ、オリンピア、エピダウロスの劇場、リンドスのアクロポリス、クノッソス宮殿、ペトラ、エフィソス
4	配列の美学・身体 の美学(つづき)	映画における編集と建築の構成（配列の形態）とのアナロジー
5	●天球の建築	【古代ローマからビザンチンへ】パンテオン、フォロロマーノ、コロッセオ、水道橋、ポンペイ、サンマルコ大聖堂、ハギアソフィア、イスタンブールの街並み
6	天球の建築(つづき)	外形から内部空間へ
7	●古代アジアの建築	【日本と中国の古代建築】伊勢神宮（神明造り）、出雲大社（大社造り）、古墳、吉野ヶ里遺跡、咸陽宮、始皇帝陵、兵馬俑
8	古代アジアの建築(つづき)	日本と中国の量塊的建築
9	●躍動する閉鎖空間	【ロマネスクの空間】サン・ミニアート・イル・モンテ聖堂、ル・トロネ修道院などの南フランスのロマネスク建築、ヴェネツィア、フィレンツェなどの中世にその骨格が形成された都市
10	躍動する閉鎖空間(つづき)	厚い壁と小さな窓はどのように空間を決定づけたかのだろうか？
11	●天空への飛翔	【ゴシックの空間】ノートルダム大聖堂などのフランスのゴシック聖堂、ミラノ大聖堂などのイタリアおよびその他の地方のゴシック聖堂
12	天空への飛翔(つづき)	ゴシックの様式と浮遊する森
13	●複製としての芸術	【ルネサンスの芸術】サンタ・マリア・デル・グラツィエ教会、サンピエトロ大聖堂、システィーナ礼拝堂、サンタ・マリア・ノヴェラ聖堂、サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂、テンピエット、サン・ジョルジョ・マジョーレ聖堂、テアトロ・オリンピコ、ヴィラ・ロトンダなど

- 14 複製としての芸術(つ 芸術の発見, ルネサンスから近
づき) 世へ(2) :

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

歴史や文化に関する予習を進めることが望ましい

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト(教科書)】

学習支援システムを通じて、必要なテキストを配布する

【参考書】

(1) 安藤直見, 映画に描かれた古代エジプトの建築 ―建築の量塊的イメージ―, 図学研究第50巻3号, pp.11-19, 日本図学会, 2016年9月

(2) 安藤直見, 映画への旅―古代エジプトへ (Kindle版) : <https://www.amazon.co.jp/dp/B07QCKPVDY/>

(3) 安藤直見, 映画に描かれた古代ギリシャ ―配列の美学―, 日本図学会2014年度秋季大会学術講演論文集, pp.143-148

(4) 安藤直見, 映画に描かれた古代ローマとビザンチン ―形象から空間へ―, 日本図学会2015年度春季大会学術講演論文集, pp.19-24

(5) 安藤直見, 映画に描かれた中世ロマネスク ―躍動する閉鎖空間―, 日本図学会2015年度秋季大会学術講演論文集, pp.55-60

(6) 安藤直見, 映画に描かれた中世ゴシック ―天空への飛翔―, 日本図学会2016年度春季大会学術講演論文集, pp.45-50

(7) 安藤直見, 映画に描かれたルネサンス建築 ―芸術としての複製―, 日本図学会2016年度秋季大会学術講演論文集, pp.19-24

(8) 安藤直見, 映画に描かれた古代建築 ―アジアにおける古代建築の量塊的イメージ―, 日本図学会2017年度秋季大会学術講演論文集, pp.17-20

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(授業内ディスカッション, 授業内小課題等) (50%)

期末課題 (50%)

総合点60点以上を合格とします

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

この講義には、パソコン(情報教室のパソコン, または、大学が貸与するノートパソコン)を使用する演習を含みます

【その他の重要事項】

学習支援システムおよび授業終了後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Within the vast locations and long history, architecture and cities are spanned in a variety of architectural forms. And those forms express spatial images of architecture and cities. This course will explore the characteristics of architectural forms and spaces. In addition to drawings and photos, expressions of architectural forms and spaces in movies are observed to survey the spatial characteristics of architecture and cities.

[Learning objectives]

This course aims to study the spatial characteristics of architecture and cities.

[Learning activities outside of classroom]

Work on assignments

[Grading criteria/policy]

Grading is based on the evaluation of assignments (100%)

材料のデザイン

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市構造物の構造デザインにおいて、構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コスト，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】

- ・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
- ・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
- ・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
- ・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
- ・構造材料それぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
- ・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
- ・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
- ・授業内で教材資料を解説します。
- ・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
- ・中間テストを3回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス 構造材料の種類
2	鋼材 1	金属材料の種類，鋼の製造法・加工法
3	鋼材 2	鋼材の性質
4	鋼材 3	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート材料1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート材料2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力－ひずみ曲線
8	コンクリート材料3	コンクリートと構造物のデザイン
9	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
10	木質材料1	木質材料の種類と性質
11	木質材料2	木質材料と製造法・加工法
12	木質材料3	木質材料と建物のデザイン

13	材料の選択と構造物のデザイン	構造材料の特性比較と構造デザインの事例
14	中間テスト③	木質材料に関するテストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】

授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内で中間テストを3回実施し，1回目 30%，2回目 30%，3回目 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.

【Learning Objectives】

To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.

To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.

To understand the durability and fire resistance of structural materials.

To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.

To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.

To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.

To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築の地盤力学

吉丸 哲司

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地盤力学と建物基礎の設計法

【到達目標】

地盤の支持力を算定し、適切な基礎構造を選択し、これを設計する技術を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

建物を支える地盤は建設材料の一つではあるが、他の材料のように性能を規定して作られるものではない。従って、その所与の性質をよく理解した上、その性質に則った計画や設計をしなければならない。ところが、その材料的性質が元来未解明な部分が多く、設計法も経験的知識や経験則によってカバーしている面が多々ある。それゆえ、必須の理論的基礎を十分理解した上で、設計法を理解することが大事である。本講では、まず、地盤に関する力学的性質の基礎を学んだ後、基礎設計の必須事項を計算例題から経験的に学ぶことに主眼を置く。

授業に関する質問等に関しては、授業終了後に教室にて個別に対応する。また、時間の都合上対応が難しい場合にはメール等にて対応する。

授業開始日について：学習支援システムから閲覧・ダウンロードできる資料の展開に応じて順次自習を開始して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地盤調査	基礎と地盤，地盤調査とその方法
2	地盤の性質 1	地盤の物理的性質
3	地盤の性質 2	地盤の力学的性質
4	圧密	地盤の圧密変形
5	土圧 1	土圧の種類，主働土圧，受働土圧，静止土圧，モールの応力円
6	土圧 2	Coulombの土圧理論，Rankineの土圧理論
7	学習度合確認	中間過学習度合い確認試験
8	地中応力 1	Boussinesq解他
9	地中応力 2	接地圧
10	地中応力 3	地中応力取りまとめ
11	基礎の構造計画 1	基礎の種類，基礎構造の選定，地盤の許容支持力
12	基礎の構造計画 2	沈下量の算定法
13	地耐力そのほか	地盤の許容支持力 他
14	学習度合確認	期末過学習度合い確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義板書内容を復習，実施された演習プリントの反復。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 貞夫：建築 基礎構造，共立出版。

【参考書】

配布資料：授業支援システムよりダウンロード

【成績評価の方法と基準】

中間試験，期末試験の合計平均点を評価基準（「履修の手引き」参照）に基づいて成績評価する。期末試験に対する再試はない。追試は4年次生に限り実施する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】In this course students will study geomechanics and fundament design methodologies of buildings.

【learning Objectives】To acquire the skills to calculate the bearing capacity of the ground, to select an appropriate foundation structure, and to design it.

【learning activities outside of classroom】Review of the previous lectures and repetition of the exercise handouts.

【Grading Criteris/Policies】The total average score of the midterm and final examinations will be used as the basis for grading. There will be no retest for the final exam.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

特別講義（A：建築のデジタルライゼーション）

Peji  Petar

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特別講義は、海外で活躍する専門家が、客員教員として担当する授業である。本年度は、A期に、メトロポリタン大学（セルビア）の Petar Peji  先生により本授業を開講する。この授業では、建築物をデジタル3Dモデルへと変換するための現代的な方法について、英語で学ぶ。

【到達目標】

By taking this course, students will be able to digitally reconstruct real-world architectural objects using multiple methods, including manual modeling, mobile scanning, desktop photogrammetry, and AI-based image-to-3D generation. Students will be able to compare these methods in terms of accuracy, efficiency, and reliability, and to select an appropriate workflow according to architectural purpose and practical constraints. Through hands-on practice and reflection, students will also be able to critically evaluate the limitations of emerging digital and AI tools and apply them responsibly in architectural analysis, design, and presentation.

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This class combines short lectures with hands-on practical training to introduce and apply methods for the digital reconstruction of real-world architectural objects. Theoretical concepts and methodological principles are presented through visual lectures supported by concrete examples. Practical sessions are conducted using dedicated software tools, where students perform step-by-step modeling, scanning, and reconstruction tasks. Students present intermediate and final results through in-class demonstrations and visual presentations, and receive feedback through discussion and review of submitted assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 (1st Half)	Photography and Data Acquisition (1)	Principles of photographic capture for 3D reconstruction. Image overlap, lighting, scale, and common errors.
1 (2nd Half)	Photography and Data Acquisition (2)	Principles of photographic capture for 3D reconstruction. Image overlap, lighting, scale, and common errors.
2 (1st Half)	Method A — Semi-Automatic (1)	Classification of surfaces and their basic characteristics. In total 56 slides.

2 (2nd Half)	Method A — Semi-Automatic (2)	Classification of surfaces and their basic characteristics. In total 56 slides.
3 (1st Half)	Method B — Mobile Scanning (1)	Platonic solids (tetrahedron, hexahedron, octahedron, pentagonal dodecahedron and their secondary solids with examples of derived objects). In total, 48 slides.
3 (2nd Half)	Method B — Mobile Scanning (2)	Platonic solids (tetrahedron, hexahedron, octahedron, pentagonal dodecahedron and their secondary solids with examples of derived objects). In total, 48 slides.
4 (1st Half)	Method C — Desktop Photogrammetry (1)	Polyhedral surfaces - Platonic solids (icosahedron and its secondary solids with examples of derived objects). In total, 28 slides and Test 1.
4 (2nd Half)	Method C — Desktop Photogrammetry (2)	Polyhedral surfaces - Platonic solids (icosahedron and its secondary solids with examples of derived objects). In total, 28 slides and Test 1.
5 (1st Half)	Method D — AI Generation (1)	Polyhedral surfaces (pyramids and prisms with examples of derived objects). In total, 66 slides and Test 2.
5 (2nd Half)	Method D — AI Generation (2)	Polyhedral surfaces (pyramids and prisms with examples of derived objects). In total, 66 slides and Test 2.
6 (1st Half)	Model Optimization (1)	Developable single curved surfaces (cones and cylinders with examples of derived objects). In total, 64 slides and Test 3.
6 (2nd Half)	Model Optimization (2)	Developable single curved surfaces (cones and cylinders with examples of derived objects). In total, 64 slides and Test 3.
7 (1st Half)	Final Presentation and Review (1)	Helicoids and helical surfaces with examples of derived objects. In total 30 slides.
7 (2nd Half)	Final Presentation and Review (2)	Helicoids and helical surfaces with examples of derived objects. In total 30 slides.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に関係する演習を並行して開講する特別講義「建築の幾何学的形態B（GSA-B）」で行うため、GSA-Bの履修が望ましい。Taking the GSA-B (Geometric Surfaces of Architecture B) is strongly recommended.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

To be announced

【参考書】

- [1] P. Peji ☒, M. Nikoli ☒, and I. Mitrovi ☒, "Photogrammetry in 3D game development education: A case study of student learning," in Proceedings of the 16th International Conference on e-Learning (E-Learning 2025), Belgrade, Serbia, Sep. 25 – 26, 2025, pp. 68 – 76, doi: 10.46793/elearning2025.068p.
- [2] P. Peji ☒, Sistem prezentacije trodimenzionalnih modela arhitektonskih objekata metodom proširene stvarnosti (The System of Presentation of Three-Dimensional Models of Architectural Structures by the Method of Augmented Reality), Ph.D. dissertation, Faculty of Technical Sciences, University of Novi Sad, Novi Sad, Serbia, 2019.
- [3] P. Peji ☒, S. Krasi ☒, H. Krsti ☒, M. Dragovi ☒, and Y. Akbiyik, "3D virtual modelling of existing objects by terrestrial photogrammetric methods – case study of Barutana," Technical Gazette, vol. 24, Suppl. 1, pp. 233 – 239, 2017, doi: 10.17559/TV-20141018155354.
- [4] P. Peji ☒ and S. Krasi ☒, "Creation of virtual 3D models of the existing architectonic structures using the web resources," Spatium, no. 35, pp. 30 – 36, 2016, doi: 10.2298/SPAT1635030P.
- [5] J. Marinkovi ☒, P. Peji ☒, and S. Krasi ☒, "Old facade presentation on real buildings using augmented reality," Journal of Industrial Design and Engineering Graphics, vol. 1, no. 4, Special Issue ICEGD, pp. 29 – 33, 2015.

【成績評価の方法と基準】

- Regular Points (in-class exercises and discussion): 20%
Evaluation of engagement in practical work and responses during lectures.
- Practical Assignments: 40%
Assessment of 3D models produced using different reconstruction methods.
- Final Project (comparative study and presentation): 40%
Evaluation of the final 3D model and comparative analysis of methods.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Personal computer and video screen are used in the class.
Students should access to "hoppii" (Hosei portal) to pickup information.

【その他の重要事項】

*** Students are required to take "Special Lecture B: Gamified Architectural Visualization" concurrently.***
Students are encouraged to photograph and investigate real-world architectural objects in their local environment and study area, and to use online resources to support the digital reconstruction and analysis of these objects using different modeling methods.

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This Special Lecture is delivered by an overseas specialist as a visiting professor Petar Pejic from the Belgrade Metropolitan University in Serbia, and is offered in the Autumn Semester. The course "Digitalization of Real-World Architectural Objects" introduces students to contemporary methods for converting existing architectural objects into digital 3D models. The course is taught in English and focuses on four complementary approaches: manual reconstruction, mobile-based scanning, desktop photogrammetry, and AI-driven image-to-3D generation. Through practical exercises and comparative analysis, students explore the strengths, limitations, and appropriate application contexts of each method within architectural and digital design practice.

【Learning Objectives】

This course aims to develop students' ability to understand, apply, and critically evaluate multiple digital reconstruction techniques for real-world architectural objects. Students will acquire methodological awareness, technical literacy, and analytical skills necessary to select suitable digitalization workflows according to design intent, accuracy requirements, and production constraints.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to independently collect photographic data, process 3D models using designated software tools, and document their workflows and observations. Reviewing reference materials on photogrammetry and AI-based modeling, as well as preparing comparative reports and visual presentations, is required.

【Grading Criteria / Policy】

- Class Participation and Discussions: 20%
- Practical Exercises and Weekly Submissions: 40%
- Final Project and Presentation: 40%

The final project consists of a comparative digital reconstruction study in which students analyze and present results obtained using multiple modeling methods applied to the same architectural object.

ADE200NB (建築学 / Architecture and building engineering 200)

特別講義 (B：建築のビジュアライゼーション)

Peji ☒ Petar

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

特別講義は、海外で活躍する専門家が、客員教員として担当する授業である。本年度は、A期に、メトロポリタン大学（セルビア）の Petar Peji ☒ 先生により本授業を開講する。この授業では、ゲーミフィケーションによる建築ビジュアライゼーションについて、英語で学ぶ。

【到達目標】

By taking this course, students will be able to create interactive architectural walkthroughs using a game engine, apply gamification principles to guide user exploration, and design spatial experiences that combine architecture, interaction, and atmosphere. Students will be able to evaluate architectural space based on user experience rather than static representation.

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

This class combines short theoretical lectures with extensive hands-on practical training. Key concepts of gamification, interaction, and real-time visualization are introduced through presentations and examples. Practical sessions focus on implementing navigation, interaction, lighting, sound, and optimization within a game engine. Students present intermediate results and receive feedback through discussion and review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 (1st Half)	Gamification Theory and Setup (1)	Gamification in architecture, active exploration, Unity setup, first-person walkthrough
1 (2nd Half)	Gamification Theory and Setup (2)	Gamification in architecture, active exploration, Unity setup, first-person walkthrough
2 (1st Half)	Context and Site (1)	Terrain tools, digital placemaking, vegetation and wind
2 (2nd Half)	Context and Site (2)	Terrain tools, digital placemaking, vegetation and wind
3 (1st Half)	Atmosphere (1)	Lighting, materials, baking, post-processing
3 (2nd Half)	Atmosphere (2)	Lighting, materials, baking, post-processing

4 (1st Half)	Interaction I (1)	Doors, switches, proximity-based interaction
4 (2nd Half)	Interaction I (2)	Doors, switches, proximity-based interaction
5 (1st Half)	Objectives and Progression (1)	UI, collectibles, narrative guidance
5 (2nd Half)	Objectives and Progression (2)	UI, collectibles, narrative guidance
6 (1st Half)	Audio and Polish (1)	Soundscapes, reverb zones, particle effects
6 (2nd Half)	Audio and Polish (2)	Soundscapes, reverb zones, particle effects
7 (1st Half)	Final Build and Exhibition (1)	Optimization, final build, exhibition and critique
7 (2nd Half)	Final Build and Exhibition (2)	Optimization, final build, exhibition and critique

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will prepare and refine architectural models, complete weekly implementation tasks, and improve interactive elements outside class. Preparation and review time of approximately 2 hours per class is expected.

【テキスト（教科書）】

To be announced

【参考書】

To be announced

【成績評価の方法と基準】

Regular Points (in-class exercises and discussion): 20%

Practical Assignments: 40%

Final Project (interactive architectural visualization): 40%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Personal computer and video screen is used in the class.

Computer programs – Unity - used in the exercise.

Students should access to "hoppii" (Hosei portal to pickup information) .

【その他の重要事項】

*** Students are required to take "Special Lecture A: Digitalization of Real-World Architectural Objects" concurrently.***

Students are encouraged to explore architectural spaces through interactive design and to experiment with gamification techniques that enhance spatial understanding and user experience. No prior game development experience is required.

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This Special Lecture is delivered by an overseas specialist as a visiting professor, Petar Peji ☒, from Belgrade Metropolitan University in Serbia, and is offered in the Autumn Semester. The course "Gamified Architectural Visualization" introduces students to the use of game technologies for interactive and experiential architectural representation.

The course is taught in English and focuses on transforming architectural visualization from passive viewing into active exploration using a game engine. Through practical exercises, students learn how navigation, interaction, lighting, sound, and objectives can be used to communicate architectural space and design intent in an immersive way.

[Learning Objectives]

This course aims to develop students' ability to design and implement interactive architectural visualizations using gamification principles. Students will acquire practical skills in real-time 3D environments and gain an understanding of how user interaction and feedback enhance architectural experience and spatial comprehension.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to prepare architectural models, review reference materials on gamification and real-time visualization, and refine interactive scenes using designated software tools. Independent experimentation and iterative improvement of interactive elements are required.

[Grading Criteria / Policy]

- Class Participation and Discussions: 20%
- Practical Exercises and Weekly Submissions: 40%
- Final Project and Presentation: 40%

The final project consists of an interactive architectural visualization in which students apply gamification techniques to guide user exploration and evaluate the spatial experience.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 卒業論文のテーマを考える
 - 実際に参考文献を探し、読んでおく
 - 実際に参考文献を探し、読んでおく
 - ディスカッションのための準備
 - 論文の構成を検討する
 - 学術論文を講読する。構成を検討する
 - フィールド調査、実験を行う
 - 発表及びディスカッションのための準備
 - 先行研究を見つける
 - 先行研究の整理
 - 実験やフィールド調査を行う
 - 実験やフィールド調査を行う
 - ディスカッションのための準備
 - 論文執筆のための作業
 - ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- 定められた期限内に提出されたものであること。
 - 定められた図書様式に従っていること。
 - 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - 分析力、総合力
 - 成果の把握
 - 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

山道 拓人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

安藤 直見

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

下吹越 武人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 卒業論文のテーマを考える
 - 実際に参考文献を探し、読んでおく
 - 実際に参考文献を探し、読んでおく
 - ディスカッションのための準備
 - 論文の構成を検討する
 - 学術論文を講読する。構成を検討する
 - フィールド調査、実験を行う
 - 発表及びディスカッションのための準備
 - 先行研究を見つける
 - 先行研究の整理
 - 実験やフィールド調査を行う
 - 実験やフィールド調査を行う
 - ディスカッションのための準備
 - 論文執筆のための作業
 - ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- 定められた期限内に提出されたものであること。
 - 定められた図書様式に従っていること。
 - 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - 分析力、総合力
 - 成果の把握
 - 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいいじて、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

網野 禎昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 卒業論文のテーマを考える
 - 実際に参考文献を探し、読んでおく
 - 実際に参考文献を探し、読んでおく
 - ディスカッションのための準備
 - 論文の構成を検討する
 - 学術論文を講読する。構成を検討する
 - フィールド調査、実験を行う
 - 発表及びディスカッションのための準備
 - 先行研究を見つける
 - 先行研究の整理
 - 実験やフィールド調査を行う
 - 実験やフィールド調査を行う
 - ディスカッションのための準備
 - 論文執筆のための作業
 - ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- 定められた期限内に提出されたものであること。
 - 定められた図書様式に従っていること。
 - 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - 分析力、総合力
 - 成果の把握
 - 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

赤松 佳珠子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

南後 由和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

――
●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものをかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

加用 現空

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものをかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

須沢 栞

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

小堀 哲夫

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 1（建築）

藤本 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	卒業論文のテーマを発表しディスカッションを行う
2	資料検索(1)	図書館及びオンラインデータベースの利用方法について指導する
3	資料検索(2)	自身のテーマと関係のある書籍や論文の検索の方法について指導する
4	研究企画の立案	テーマや仮説に対して、研究の手法や理論枠組、先行研究について発表しディスカッションを行う
5	論文の構成(1)	論文の構成の仕方の基礎を指導する
6	論文の構成(2)	学術論文を通じて論文の構成の仕方を学ぶ
7	フィールド調査の基礎	論文作成時、人の話を聞いたり資料提供を依頼する際のフィールド調査の基礎について指導する
8	研究の企画推進	立案した仮説の研究の状況を発表しディスカッションを行う
9	先行研究のフォロー	先行研究の見つけ方、整理の仕方について指導する
10	先行研究の整理	出来る範囲で先行研究を整理したものを示してもらい、指導を行う
11	研究テーマ設定上の悩みの解決	それぞれの学生が持っている研究テーマ設定・推進上の悩みを聞き、解決の方策を考える

12	論文の理論枠組の設定	どのような枠組みで論文を書こうとしているか発表しディスカッションを行う
13	論文の基本ルール	註の付け方や参考文献表の作り方などについて一通り指導を行う
14	研究企画の展望	研究作業について発表してもらい、今後の展望について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 卒業論文のテーマを考える
 2. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 3. 実際に参考文献を探し、読んでおく
 4. ディスカッションのための準備
 5. 論文の構成を検討する
 6. 学術論文を講読する。構成を検討する
 7. フィールド調査、実験を行う
 8. 発表及びディスカッションのための準備
 9. 先行研究を見つける
 10. 先行研究の整理
 11. 実験やフィールド調査を行う
 12. 実験やフィールド調査を行う
 13. ディスカッションのための準備
 14. 論文執筆のための作業
 15. ディスカッションのための準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。

●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。

●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。

以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのかを読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and research efforts.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

下吹越 武人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究1で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
- 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
- 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

網野 禎昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究1で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
- 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
- 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

赤松 佳珠子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究1で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
- 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
- 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

中野 淳太

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

加用 現空

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、ていをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

須沢 栞

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

小堀 哲夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

-
- 一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
 - 1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
 - 2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

ADE400NB（建築学 / Architecture and building engineering 400）

卒業研究 2（建築）

藤本 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業論文をまとめあげる。

【到達目標】

各自のテーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき論を構成し、論文にまとめる。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	◎	◎	◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

概要と方法は各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究進捗の報告	卒業研究 1 で進めていた研究の進捗を報告する
2	執筆・提出スケジュールの組み方	論文の執筆進捗の計画をする
3	研究を進めていく上の悩みの解決	論文執筆にあたり、実験内容や調査内容で疑問点に思っている点を聞き、解決の方策を考える
4	卒業設計に向けて	卒業研究のテーマをベースとして設計提案へと展開することで、研究内容の客観性を深める
5	論文の基本ルール	文献リストの作り方や学会への投稿の際の様々なルールなどについて、一通り指導を行う
6	文献リストの作成	論文執筆に必要な参考文献、先行研究のリスト化を行う
7	論文の目次	暫定的な論文の目次を作成して、みることで、研究テーマに関する認識を整理し深める
8	論文の一部を書いてみる（1）	研究テーマを固めるために、梗概の素案を書いてみる
9	論文の一部を書いてみる（2）	自分の研究関心を理論的に明確に整理して、論文のテーマと成り得るように記述してみる
10	文章の推敲（1）	論理構成、論理的整合性、てにをは、表現、言葉遣いなどについて指導する
11	文章の推敲（2）	学術的な文章として読みやすく、また論理構成が明晰な文章になるよう指導する
12	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーション作成の基礎を学ぶ

13	プレゼンテーションの実践	プレゼンテーションの練習を行う
14	発表	学年全体の講評会において、これまでの研究成果の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 研究の成果を出来る限りまとめておく
 2. 提出までのスケジュールを自分で組んでみる
 3. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 4. 論文の執筆、実験、フィールド調査を進める
 5. 卒業設計のテーマを考えておく
 6. 論文の執筆、実験、フィールド調査、必要な参考文献の精読
 7. 実際に文献リストを作成してみる
 8. 研究テーマのトピックを整理しておく
 9. 既存業績の載っている書籍や論文をまとめておく
 10. 論文の執筆を進める
 11. 教員から指摘のあった点について注意して執筆を進める
 12. 教員からの指導を受け、論文の執筆を進める
 13. プレゼンテーション用の資料を作る
 14. プレゼンテーションの練習、またゼミで指摘された点の改善
 15. 全体講評会を終えて、研究の内容の良い点と工夫できた点を把握しておく
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各ゼミの教員から指示がある。

【参考書】

各ゼミの教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

以下の条件を満たしていること。

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
 - (B) 定められた図書様式に従っていること。
 - (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
 - (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。
 - (E) 指導教員の指導を受けたものであること。
- 以上の条件を満たしているものについて、以下の観点から、総合的に評価する。
- (1) 独創性、問題意識、テーマの理解度
 - (2) 分析力、総合力
 - (3) 成果の把握
 - (4) 努力の集積度

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

研究論文とは

●一般に、論文は複数の章・節・項から構成される。論文は「はじめに／目的／序」などの章から書き始め、最後に「まとめ／結論／結び」などの章で終わる。
●1章（はじめに／目的／序など）では、明確な問題／仮説の設定を行い、なぜその問題／仮説を設定するのかについて、その理由や動機や背景などについてを書く。また、関連する既往研究／先行研究について述べる。
●2章以降では、その問題／仮説に基づく答えを導く論述を展開する。問題／仮説に対する答えを求めていく過程は、何らかの調査・実験・試作に基づくものでなければならない。調査・実験・試作の概要と方法と結果を明記すること。個人として行ったものか、何らかの組織に参加して行ったものなのか、調査・実験・試作の対象、年月、場所、方法も明示しなければならない。

●終章（まとめ／結論／結び）では、冒頭の問題／仮説に対応する結論を明確に書く。

●本文の後ろに、注および参考文献のリストを付す。

以下、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）：

●科学論文は通常、仮説、実験・観察結果、理論、実験手法などから構成されています。

●研究とは、過去から積み重ねられてきた知識・見解のうちで間違えているものをより分けながら、さらに知識を蓄積していくプロセスです。

●研究の目標は、既存の知識の中に感じた疑問点を拾い上げ、それに対して科学的な実験を行い、その結果を踏まえて新たな知見を得る、というものです。卒業論文は、その内容が学術的であると共に、その書式および構成が論文の形式に適合するものでなければならない。以下、「盗用」という行為について、「Collaborative Institutional Training Initiative, e トレーニング・プログラム」より引用（抜粋）する：

●最もよくある形態は学生が1つないし複数の出典先から文章を写して作成しているながら、それが自分のオリジナルである、と装うものです。

●盗用は細かな違いからすれば、多様な形で起こり得るのです。例えば、誰かの特徴的な表現を引用符でくくらずにそのまま自分のレポートや論文に埋め込むやり方です。それが盗用とされるのは、出典を参考文献として挙げたとしても、引用符でくくらずにその表現が文章化されてしまうと、その文章については誰のオリジナルであるか不明になるからです。

●典型的な「盗用」のもう1つは、原本の文章中の単語をここかしこ表面的にいじって、出典は記載するものの、出来上がった文章自体は十分にオリジナルなものである、と読者に思い込ませる（また著者本人もそう思い込む）類のものです。

●米国においては、学生が盗用を行った場合、科せられるペナルティは大変重く、その悪質さの程度によって「その科目の単位を与えない」から「退学」という処分がとられます。

●出典は最大限の明瞭さをもって示すべきもので、どの部分が著者自身から出たもので、どの部分が他の資料からの引用なのか読者にとって完全に明確でなければなりません。

●著作に当たっては、アイデア、理論、およびデータに関して、著者自身のものか、それともそれ以外の人物のものかを、明確に、一点の不明瞭さも残さずに、区別するようにしなければなりません。

●もし、別の著者がこの中の段落を一言一句違わずそのまま使おうとする場合は、それを引用符でくくるか、本文よりも一段下げること（インデント）をした上で、出典を記載しておくことが標準的なやり方です。

●例えば、単位修了に当たって、まとめとなるレポートの宿題を与えられた際に、いろいろな記事を抜き書きして組み立てたものを自分のレポートとして提出した場合です。このレポートはあくまで他人の作品であり、盗用に当たります。一般的に、これは不適切な執筆方法で、他の著者の文章の引用の仕方に関する基本的な知識に欠けるか、自分の言葉として言い換える能力に欠けると見なしてよいものです。

【Outline (in English)】

Course outline: Students compile a graduation thesis and graduation project as the culmination of their four years of study, with instructions from their supervisors.

Learning Objectives: Compose an argument based on their own investigation, experiment, analysis and research on their own theme and summarise it in a thesis.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive evaluation of the content of the submitted graduation thesis and the presentation of the examination board.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

加用 現空

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー (1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、履修システムのガイダンス
4	スプリングセミナー (2) 学科全体	RFC, Pin Boardのガイダンス
5	スプリングセミナー (3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学

6	スプリングセミナー (4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー (5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー (6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー (7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー (8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー (9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー (10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

藤本 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

山道 拓人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のもを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、 I A EサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、 I A EサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

安藤 直見

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のもを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則対面でおこないます。
体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間の側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のもを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、 IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, Pin Boardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

下吹越 武人

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

網野 禎昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

赤松 佳珠子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のものを学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

南後 由和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のもの学が主となる内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

BSP100NB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

スプリングセミナー

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体験型セミナーを通して幅広く建築全体の領域に触れながら、大学における学びの姿勢を理解する。

【到達目標】

デザイン工学部は、より人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」の習得を学習目標に掲げている。そのなかで、建築学科は人、モノ、社会、自然を観察し、そこに潜む問題を発見・認識することを考えることができる人材の養成を目指す。すなわち、従来の技能に加えて、歴史を認識し、環境を考え、技術者倫理をふまえながら、新しい「美」を実現することを目指すのである。このような能力開発は、従来の座学的な教育課程では実現し難い部分であった。そこで、この科目では実践的な実習により、その基礎を把握するために全教員の指導の下に様々な体験型セミナーを実施し、建築全体の枠組みの基礎を理解する。テーマは、各教員からそれぞれ提示される。こうした理解を進めながら、一部の学生は数学や物理などの基礎学力のリメディアル教育に重点を置くことが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎				○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学における学習方法が高校までのそれと大きく異なることを把握し、学ぶことの重要性や楽しさを認識して、大学での学習生活をスムーズに始められるように支援する。そのため、専任教員が少人数のセミナー形式で担当する。全体ガイダンスを経て、自分が所属するセミナーの各担当教員からの指示に従うこととなる。

授業の概要は、ガイダンス、作品発表、建築調査、街歩きなど、実際のもの学ぶことが主な内容となる建築に触れる初めての経験を通して、大学での学ぶ姿勢や都市と建築が持つ奥の深さを感じてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス(1) 学科全体ガイダンス	各教員により、専門領域の紹介をパワーポイントを用いて説明する。
2	ガイダンス(2) 個別ガイダンス・履修指導	各教員により、専門領域の作品、論文、卒業論文、卒業設計の紹介
3	スプリングセミナー(1) 学科全体	「アーキテクトマインド」について、IAEサーバーとCARESS（履修支援システム）のガイダンス
4	スプリングセミナー(2) 学科全体	RFC, PinBoardのガイダンス

5	スプリングセミナー(3) 個別セミナー	セミナーの指導教員が課題を示し、進め方について説明する。 *リメディアル教育：数学
6	スプリングセミナー(4) 個別セミナー	課題に関連する資料を収集しセミナー内で共有する。 *リメディアル教育：数学
7	スプリングセミナー(5) 個別セミナー	課題に関して収集した資料を用いてセミナー内でディスカッションする。
8	ウォークラリー 上野～市谷、東京～市谷、代官山～市谷、銀座～市谷、巣鴨～市谷、谷中～市谷、表参道～市谷の各コースにわかれ、建物、町並みの調査をおこなう。	5月最終土曜日に実施。その後、レポートの作成。
9	スプリングセミナー(6) 個別セミナー	ウォークラリーの振り返り及び新しい気付きについてディスカッションする。
10	スプリングセミナー(7) 個別セミナー	課題に関するディスカッションを元に、さらに資料を収集し知見を深める。 *リメディアル教育：物理
11	スプリングセミナー(8) 個別セミナー	グループに分かれて課題に取り組む。 *リメディアル教育：物理
12	スプリングセミナー(9) 個別セミナー	課題の中間成果を発表し、指導教員よりアドバイスを受ける。
13	スプリングセミナー(10) 個別セミナー	アドバイスを受けてより進化させ、課題の成果をグループ毎で発表する。
14	スプリングセミナー 総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍を読む（建築にとらわれなくてよい）
- ・建築雑誌・建築書籍を読む
- ・情報機器の操作に慣れる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み：連続三回欠席・半期で四回欠席の者は成績評価の対象外とします。

課題の提出：各指導教員が指示したレポート等の提出により評価します。

その他：適宜、セミナーの教員から指示された課題に対して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

各セミナーにおいて、適宜、PCや授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

【重要】必修科目です。履修登録を忘れないように！

【Outline (in English)】

Course outline: Understand the approach to study at university while being exposed to a broad range of whole architectural disciplines through hands-on seminars.

Learning Objectives: While the ultimate goal is to master 'integrated design', which is the creation of new things while focusing on the human aspect, learning the basic approach to such design is the objective to be achieved in this course.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Comprehensive judgment based on self-learning outcomes and study efforts.

DES100NB（デザイン学 / Design science 100）

基礎表現 1

阿部 雅世

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3次元空間（立体）の構成および表現方法

【到達目標】

建築を学ぶ上で必要な3次元空間（立体）を構成する感覚を養う。そのためには、対象とする環境や事物のスケッチやデッサン、写真撮影を行う。さまざまな対象である「モノ」に触れ、観察し、モノの本質と内在する美を見だし、それらを描きとる。小さな目的空間とその環境の関係性を考える。さらに、模型など立体によりさまざまな構成を行い、意味を見つけ出す。それを第三者にどう伝えてゆくのか。表現して行く方法も学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

私たちの日常生活にかかわる環境、見慣れた生活環境においては、特別な思い入れも持たずに通り過ぎてしまうことが多い。しかし「モノ」や「空間」を創造するものにとって、小さくとも何か光るものを造形言語として見出さねばならない。その「ことば」を見出すために、スケッチやデッサンなどさまざまな方法をもちいる。対象である風景、モノを描く。撮影する。エスキス模型をつくってみる。小さなものから、モノによっては原寸まで。そのスケールは、教員相談、指示によって変化する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1、2回	ガイダンス、造形デザイン基礎講義1	課題説明、方法と手順、課題に関する造形デザイン基礎講義1、個人或いはグループ分け
第3、4回	スタディ1	各々の課題に合わせて個人、またはグループにて初期のスタディを行う。あるものを観察したり、スケッチを繰り返すことで対象を意識化する。造形言語としてのイメージの抽出。
第5、6回	スタディ2	対象を理解し、デザインを発展させるために、思考のプロセスを描いたり、スタディ模型やドローイングを行う。スケッチやドローイング、模型によるスタディを繰り返したり、グループによるディスカッションを行うことで思考を深める。
第7、8回	スタディ3	一つの造形に終始するのではなく、考え付くかぎり多数の模型を作製してみる。
第9、10回	スタディ4	中間発表へ向けて、スタディ内容を模型やドローイングにまとめる。
第11、12回	スタディ5	中間発表を行う。他者の考えを聞くことで自分たちの思考をより深める。
第13、14回	まとめ1	対象とする環境には、つよく関わるであろう歴史、都市、建築、ランドスケープ、モノなどがある。その関係性を考える。
第15、16回	中間発表	多くのコンセプト模型からもっとも表現したい空間模型を制作する。
第17、18回	スタディ6	モノの大きさ、かたち、比例、材質などを考え、プレゼン模型を制作する。環境を考慮し、プレゼン模型の最終段階を制作する。
第19、20回	プレゼンテーション	プレゼンのシナリオを作成する。
第21、22回	プレゼンテーション	講評会に向けた最終準備を行う
第23、24回	プレゼンテーション	パワーポイント、模型、プレゼンボードなどにより作品発表、講評を行う。
第25、26回	講評会準備	
第27、28回	講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

モノをつくりだすための素材を授業外で自ら探索する（素材体験）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、プログラムにしたがって必要とおもわれる資料は、その都度配布する。

【参考書】

『鉛筆デッサン入門』遊友出版。『鉛筆で描く』マール社。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題提出作品（50%）、授業への取り組み（50%）。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

PCによるプレゼンテーションボードの作成、液晶プロジェクターによる映像表現。

【その他の重要事項】

※履修希望者が多数の場合は、抽選で選考する。詳細は4月初旬に実施するガイダンスで説明するので、履修希望者は必ず出席すること。

授業のみでなく、自らフィールドサーヴェイを行いモノをつくりだすための素材にふれ使ってみる。それによって素材の物性や効果が変わることを知る。より多くの素材や空間にふれることが大事である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Composition and representation of three-dimensional space (three-dimensional objects)

[Learning Objectives]

The students will develop a sense of constructing three-dimensional space (three-dimensional), which is necessary for studying architecture. For this purpose, students will make sketches, drawings, and take photographs of the target environment and objects. Students will touch and observe various "objects," discover their essence and inherent beauty, and draw them. Students will think about the relationship between a small objective space and its environment. Furthermore, we will find out the meaning of the objects by constructing models and other three-dimensional objects. How will they communicate this to a third party? How do we communicate it to a third party?

[Learning activities outside of classroom]

Students will search for materials outside of class to create things (material experience).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Submission of work for assignment (50%), class participation (50%).

基礎表現 2

栗原 良彰

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3次元空間（立体）の構成および表現方法

【到達目標】

建築を学ぶ上で必要な3次元空間（立体）を構成する感覚を養う。そのためには、対象とする環境や事物のスケッチやデッサン、写真撮影を行う。さまざまな対象である「モノ」に触れ、観察し、モノの本質と内在する美を見だし、それらを描きとる。小さな目的空間とその環境の関係性を考える。さらに、模型など立体によりさまざまな構成を行い、思いや考えを第三者にどう伝えてゆくのかを学ぶ。また、作品を作り出して行く基礎的な過程を得る。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

私たちの日常生活にかかわる環境、見慣れた生活環境においては、特別な思い入れも持たずに通り過ぎてしまうことが多い。しかし「モノ」や「空間」を創造するものにとって、小さくとも何か光るものを造形言語として見出さねばならない。その「ことば」を見出すために、スケッチやデッサンなどさまざまな方法をもちいる。対象である風景、ものを描く、撮影する、エスキス模型をつくってみる。小さなものから、モノによっては原寸まで。そのスケールは、教員相談、指示によって変化する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1、2回	ガイダンス、造形デザイン基礎講義1	方法と手順，課題説明，ワークショップ，グループ分け。
第3、4回	スタディ1	各々の課題に合わせて個人，グループにて初期のスタディを行う。あるものを観察したり，スケッチを繰り返すことで対象を意識化する。
第5、6回	スタディ2	造形言語としてのイメージの抽出，グループによるディスカッションを行う。
第7、8回	スタディ3	対象を理解し，デザインを発展させるために，思考のプロセスを描いたり，スタディ模型やドローイングを行う。
第9、10回	スタディ4	スケッチやドローイング，模型によるスタディを繰り返したり，グループによるディスカッションを行うことで思考を深める。
第11、12回	スタディ5	一つの造形に終始するのではなく，考え付くかぎり多数の模型を作製してみる。
第13、14回	まとめ	中間発表へ向けて，スタディ内容を模型やドローイングにまとめる。
第15、16回	中間発表	中間発表を行う。他者の考えを聞くことで自分たちの思考をより深める。
第17、18回	リサーチ1	対象とする環境には，つよく関わるであろう歴史，都市，建築，ランドスケープ，モノなどがある。その関係性を考える。
第19、20回	リサーチ2	多くのコンセプト模型からもっとも表現したい空間模型をグループでディスカッションする。
第21、22回	リサーチ3	モノの大きさ，かたち，比例，材質などを考え，プレゼン模型を制作する。
第23、24回	講評会準備1	環境を考慮し，プレゼンテーション資料を制作する。
第25、26回	講評会準備2	プレゼンのシナリオを作成する。講評会に向けた作品制作の準備を行う。

第27、28回 講評会

パワーポイント，模型，プレゼンボードなどにより作品発表，講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

モノをつくりだすための素材を授業外で自ら探索する（素材体験）。本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが，プログラムにしたがって必要とおもわれる資料は，その都度配布する。

【参考書】

特に定めないが，プログラムにしたがって必要とおもわれる資料は，その都度授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題提出作品，授業への取り組み，演習内容による。
- ・合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン及びデジタルカメラ（カメラ機能付き携帯電話等可）があることが望ましい。

【その他の重要事項】

※履修希望者が多数の場合は，抽選で選考する。詳細は4月初旬に実施するガイダンスで説明するので，履修希望者は必ず出席すること。授業のみでなく，自らフィールドサーヴェイを行いモノをつくりだすための素材にふれ使ってみる。それによって素材の物性や効果が変わることを知る。より多くの素材や空間にふれることが大事である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Composition and representation of three-dimensional space (three-dimensional objects)

[Learning Objectives]

The students will develop a sense of constructing three-dimensional space (three-dimensional), which is necessary for studying architecture. For this purpose, students will make sketches, drawings, and take photographs of the target environment and objects. Students will touch and observe various "objects," discover their essence and inherent beauty, and draw them. Students will think about the relationship between a small objective space and its environment. Furthermore, we will find out the meaning of the objects by constructing models and other three-dimensional objects. How will they communicate this to a third party? How do we communicate it to a third party?

[Learning activities outside of classroom]

Students will search for materials outside of class to create things (material experience).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Submission of work for assignment (50%), class participation (50%).

PRI100NB（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

コンピュータリテラシーX

福嶋 勝浩

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、法政大学デザイン工学部建築学科の学生として必要となるコンピュータリテラシーを、単なる操作習得にとどめず、「建築を学ぶ者としての思考力・姿勢・将来像」を育むことを目的とした授業である。

現代の建築分野では、図面や資料を作成する技術だけでなく、情報を正しく読み取り、整理し、論理的に伝える力、さらには人と人とのコミュニケーション能力が強く求められている。建築とは机上で完結する仕事ではなく、施主、利用者、施工者、行政など、多様な立場の人々との対話の上に成り立つ営みである。本授業では、その前提を理解したうえで、ITを「考えるための道具」「伝えるための手段」として活用する力を養う。

授業では、実際にコンピュータを操作しながら、情報の収集・整理・分析・可視化といった基礎的スキルを段階的に身につける。Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）やAdobeソフト（Illustrator、Photoshop）を用い、建築学生にとって実践的なレポート作成、図解、プレゼンテーション資料作成を行うことで、「なぜその表現が必要なのか」「どのように伝えれば相手に伝わるのか」を考える力を重視する。

また近年の社会的変化を踏まえ、AIツール（ChatGPT等）を活用した情報整理や発想支援についても扱う。ただし、安易に答えを得るための利用ではなく、思考を深めるための補助ツールとして、どのように付き合うべきかを考察する。

授業は個人作業に加え、グループワークやディスカッションを取り入れ、他者の考えを理解し、自分の意見を論理的に伝える経験を積み構成とする。100分×14回という長時間授業であるからこそ、集中力を持続させ、主体的に参加できるよう、課題設定や進行にも工夫を凝らす。

さらに、本授業では、大学生活の過ごし方にも言及する。SNSやスマートフォンの過剰な使用が思考力や時間感覚を奪っている現状を踏まえ、必要最低限の使用を心がけ、貴重な学生生活を「考える時間」「学ぶ時間」「人と向き合う時間」に使う重要性を伝える。加えて、SNSの普及に伴う情報トラブルや詐欺、誹謗中傷、個人情報流出などのリスクを理解し、犯罪やトラブルに巻き込まれないための情報リテラシーや自己防衛スキルを身につけることも、本授業で育成すべき重要な能力の一つとして位置づける。建築学生として、今何を学び、将来どのような建築・社会・自分自身を描きたいのかを考えるための“きっかけ”を提供する授業としたい。

本授業を通して、学生が自ら学び、考え、発信できる力を身につけ、建築を学ぶ意味を自分の言葉で語れるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・建築学生として必要な基礎的コンピュータリテラシーを身につけ、情報処理や資料作成を自立して行えるようになる。
- ・コンピュータやソフトウェアを単なる作業ツールではなく、思考・整理・表現・伝達のための道具として活用できるようになる。
- ・Word、Excel、PowerPoint、Illustrator、Photoshop等を用い、建築分野に必要な資料作成および情報整理を適切に行えるようになる。
- ・画像・数値・文章など多様な情報を収集・整理・分析し、論理的に構成して分かりやすく可視化できるようになる。
- ・自らの考えを他者に正確かつ効果的に伝えるための、資料作成力およびプレゼンテーション能力を身につける。
- ・グループワークやディスカッションを通じて、対話・傾聴・協働といった、建築実務に不可欠なコミュニケーション能力を段階的に向上させる。
- ・ITツールを活用しながら、個人作業から協働作業へと発展するプロセスの中で、チームとして成果を生み出す力を身につける。
- ・AIツールを含む最新のIT技術について、その利便性と限界を理解し、主体的かつ適切に活用できる判断力を養う。
- ・SNSやスマートフォンの利用に伴うリスクを理解し、情報社会において安全に行動するための情報リテラシーと自己管理能力を身につける。
- ・将来の建築との関わり方や自身の進路を主体的に考え、自らの考えや目標を言語化し発信できるようになる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は授業時間を複数のパートに分けて、効率的に学習を進める形式です。

■授業の基本構成（第1回～10回）

- ・タイピングトレーニングで基礎スキルを向上
- ・トークセッションで考える力を養う
- ・ソフトウェアの基本操作を学ぶ
- ・ワークショップ形式の個人練習で操作を定着

- ・グループワークで実践的に活用
 - ・課題の提出で理解を深める
- 第11回目以降はグループ課題に取り組む
- ・プレゼンテーション課題
 - ・グループで発表準備・実践を行い、プレゼンスキルを向上
 - ・実践を重視し、ITスキルとコミュニケーション力を総合的に育成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業のガイダンスとコンピュータの基本操作や授業の進め方を行います。
2	情報のやり取り	電子メール、to/cc/bcc 他者との情報のやり取りやグループワーク。
3	情報の検索収集	インターネット、WWW、検索エンジン、SNS活用、論文検索、Aiの基本的な操作方法。
4	ドキュメンテーション	文書作成、ドキュメンテーションソフトの基本操作。
5	情報の単純処理	表計算ソフト、データ集計。
6	情報の高度処理	マクロ、プログラミング、実践的な活用方法。
7	情報の分析	グラフ作成、結果の考察、統計分析の基礎。
8	ビジュアル表現（1）	ビジュアル表現の構成要素（文字表現、写真表現 etc）
9	ビジュアル表現（2）	画像加工、画像処理、カラーリング、レイアウト技法
10	ビジュアル表現（3）	タイポグラフィ、DTP（デスクトップパブリッシング）。
11	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの基本的考え方、プレゼンテーションソフトウェアの基本操作。
12	プレゼンテーション（2）	効果的なプレゼンテーション手法、ビジュアルプレゼンテーション。
13	情報の発信	プレゼンテーション課題の制作及びグループ発表。
14	総復習と発展話題	グループ発表、ICT、IoT、ビッグデータ、近年のIT活用事例。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、学生が安心して受講できるよう配慮します。

1. タイピングスキルの向上
ブラインドタッチができることが望ましいですが、授業開始時に毎回トレーニングを行うため、初心者でも安心して参加できます。
自主的な練習を推奨し、効率的に習得できるようサポートします。

2. 学習時間の目安

準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

授業で学んだ内容を実践することで、理解を深めることができます。

3. 負担の調整
他の授業とのバランスを考慮し、無理のない範囲で課題や学習内容を調整します。
学習計画を立てやすいように、必要な準備や復習内容を明確に提示します。
安心して受講できる環境を整え、確実にITスキルを習得できるようサポートします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業では適宜プリントを配布します。

【参考書】

「改訂新版 標準教科書 よくわかる情報リテラシー」
岡本敏雄 監修 技術評論社
授業では特に使用しません。参考書として入手することは有効です。

【成績評価の方法と基準】

演習（100%）の結果より判断します。毎回演習を行うので体調不良等のやむを得ない場合以外の欠席や遅刻には十分に注意してください。欠席と遅刻の合計回数が5回に達した場合は成績の評価はできません。留意が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえ、次年度の授業内容へ反映します。

特に提出課題については基本から応用的な課題までの幅を持たせます。また、前回の授業同様にコンピュータに触れ、基本的なIT知識を身につけ、同時に建築学科の学生に相応しいITスキルを身につくよう授業を構成します。最終授業のプレゼンテーションでは発表スキルの基本を磨けるようグループ・ディスカッションをはじめ授業毎にブラッシュアップしていきます。デジタルとアナログで各やるべきことの境界線を見極める力も養う。また個人作業やグループワークでそれぞれの重要性についても経験する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器である貸与ノート型パソコンを常時準備のこと。マウス、USBメモリがあると望ましい。

【その他の重要事項】

授業の魅力と学べるスキル

この授業では、単なるコンピュータリテラシーの習得を超えて、建築分野で活かせるITスキルやAIツールの活用方法を実践的に学びます。

授業の中盤には、都内の有名建築物を実際に見学し、その空間を体験する予定です。（前年度は丹下健三氏が手がけた東京カテドラル聖マリア大聖堂を見学しました。）この体験をもとに、これまでに学んだITスキルを活用し、建築ドキュメントを作成する技術を身につけます。

また、近年の建築・デザイン業界で注目されているAIツール（ChatGPTなど）の基礎的な使い方も学びます。アイデアの発想や情報収集、レポート作成などにAIを活用する方法を知ること、効率的な学習・制作が可能になります。

さらに、最終授業では、ITツールを活用したグループプレゼンテーションを実施。Microsoft PowerPoint、Word、Excel、Adobe Illustrator、Photoshopなどのソフトウェアに加え、AIを活用した資料作成のアプローチも学びながら、分かりやすく魅力的な発表資料を作成します。これらのスキルは、他の建築系科目での発表にも役立つ重要な基礎スキルとなります。

また、授業ではグループディスカッションやブレインストーミング（KJ法）を取り入れ、チームで考え、協力しながら進める力も養います。

この授業を通じて、建築学生に必要なITスキルやAIツールの活用方法を実践的に習得し、将来の設計やプレゼンテーションに自信を持てるようになります。

※オフィスアワー：

授業の前後の時間、またはEmailにて随時質問を承ります。

また、内容によってはオンラインでの個別相談も可能です。

必要があれば遠慮なくご連絡ください。

緊急時は授業時に提示した携帯電話に連絡をください。

（その際は法政大学建築学科の〇〇です。と氏名を名乗ってください）

※連絡方法：

・授業時間外の質問や相談：大学のEmailをご利用ください。

・対面での質問：授業前後に気軽に声をください。

・オンライン相談（必要な場合）：事前にメールで予約をお願いします。

【Outline (in English)】

Course Outline

■ Course Title

Computer Literacy for Architectural Studies

■ Course Objectives

To develop fundamental computer literacy skills required for students of architecture

To cultivate logical thinking, problem-solving ability, and professional attitudes as future architects

To use IT not merely as tools for operation, but as tools for thinking and communication

■ Learning Goals

Students will be able to:

Collect, organize, analyze, and visualize information effectively

Create clear reports, diagrams, and presentations suitable for architectural contexts

Communicate ideas logically and persuasively to diverse stakeholders

Collaborate and exchange ideas through discussion and teamwork

Use digital technologies responsibly, safely, and ethically

■ Course Contents

Practical computer operation and digital workflow

Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint) for documentation and data processing

Adobe software (Illustrator, Photoshop) for visual communication and design expression

Report writing, diagram creation, and presentation design for architectural projects

Information structuring and visualization techniques

Group work and discussions to enhance communication skills

Use of AI tools (e.g., ChatGPT) as support for thinking and idea generation

■ Digital & Information Literacy

Critical evaluation of online information

Responsible and ethical use of digital technologies

Awareness of risks associated with social media and smartphones

Development of self-protection skills to avoid online fraud, cybercrime, and information troubles

■ Teaching Methods

Hands-on computer practice

Individual assignments and projects

Group work and collaborative exercises

Discussions and presentations

■ Course Philosophy

This course encourages students to use technology as a means to think, create, and communicate.

By balancing digital skills with reflective thinking and real-world interaction, students will build the foundation necessary to become socially responsible and competent architectural professionals.

■ Expected Outcomes

By the end of the course, students will:

Think independently and critically

Express their ideas clearly through digital media

Manage their time and digital tools effectively

Articulate the meaning and purpose of studying architecture in their own words

PRI100NB（情報学基礎 / Principles of informatics 100）

コンピュータリテラシーY

福嶋 勝浩

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、法政大学デザイン工学部建築学科の学生として必要となるコンピュータリテラシーを、単なる操作習得にとどめず、「建築を学ぶ者としての思考力・姿勢・将来像」を育むことを目的とした授業である。

現代の建築分野では、図面や資料を作成する技術だけでなく、情報を正しく読み取り、整理し、論理的に伝える力、さらには人と人とのコミュニケーション能力が強く求められている。建築とは机上で完結する仕事ではなく、施主、利用者、施工者、行政など、多様な立場の人々との対話の上に成り立つ営みである。本授業では、その前提を理解したうえで、ITを「考えるための道具」「伝えるための手段」として活用する力を養う。

授業では、実際にコンピュータを操作しながら、情報の収集・整理・分析・可視化といった基礎的スキルを段階的に身につける。Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）やAdobeソフト（Illustrator、Photoshop）を用い、建築学生にとって実践的なレポート作成、図解、プレゼンテーション資料作成を行うことで、「なぜその表現が必要なのか」「どのように伝えれば相手に伝わるのか」を考える力を重視する。

また近年の社会的変化を踏まえ、AIツール（ChatGPT等）を活用した情報整理や発想支援についても扱う。ただし、安易に答えを得るための利用ではなく、思考を深めるための補助ツールとして、どのように付き合うべきかを考察する。

授業は個人作業に加え、グループワークやディスカッションを取り入れ、他者の考えを理解し、自分の意見を論理的に伝える経験を積み構成とする。100分×14回という長時間授業であるからこそ、集中力を持続させ、主体的に参加できるよう、課題設定や進行にも工夫を凝らす。

さらに、本授業では、大学生活の過ごし方にも言及する。SNSやスマートフォンの過剰な使用が思考力や時間感覚を奪っている現状を踏まえ、必要最低限の使用を心がけ、貴重な学生生活を「考える時間」「学ぶ時間」「人と向き合う時間」に使う重要性を伝える。加えて、SNSの普及に伴う情報トラブルや詐欺、誹謗中傷、個人情報流出などのリスクを理解し、犯罪やトラブルに巻き込まれないための情報リテラシーや自己防衛スキルを身につけることも、本授業で育成すべき重要な能力の一つとして位置づける。建築学生として、今何を学び、将来どのような建築・社会・自分自身を描きたいのかを考えるための“きっかけ”を提供する授業としたい。

本授業を通して、学生が自ら学び、考え、発信できる力を身につけ、建築を学ぶ意味を自分の言葉で語れるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・建築学生として必要な基礎的コンピュータリテラシーを身につけ、情報処理や資料作成を自立して行えるようになる。
- ・コンピュータやソフトウェアを単なる作業ツールではなく、思考・整理・表現・伝達のための道具として活用できるようになる。
- ・Word、Excel、PowerPoint、Illustrator、Photoshop等を用い、建築分野に必要な資料作成および情報整理を適切に行えるようになる。
- ・画像・数値・文章など多様な情報を収集・整理・分析し、論理的に構成して分かりやすく可視化できるようになる。
- ・自らの考えを他者に正確かつ効果的に伝えるための、資料作成力およびプレゼンテーション能力を身につける。
- ・グループワークやディスカッションを通じて、対話・傾聴・協働といった、建築実務に不可欠なコミュニケーション能力を段階的に向上させる。
- ・ITツールを活用しながら、個人作業から協働作業へと発展するプロセスの中で、チームとして成果を生み出す力を身につける。
- ・AIツールを含む最新のIT技術について、その利便性と限界を理解し、主体的かつ適切に活用できる判断力を養う。
- ・SNSやスマートフォンの利用に伴うリスクを理解し、情報社会において安全に行動するための情報リテラシーと自己管理能力を身につける。
- ・将来の建築との関わり方や自身の進路を主体的に考え、自らの考えや目標を言語化し発信できるようになる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は授業時間を複数のパートに分けて、効率的に学習を進める形式です。

■授業の基本構成（第1回～10回）

- ・タイピングトレーニングで基礎スキルを向上
- ・トークセッションで考える力を養う
- ・ソフトウェアの基本操作を学ぶ
- ・ワークショップ形式の個人練習で操作を定着

- ・グループワークで実践的に活用
 - ・課題の提出で理解を深める
- 第11回目以降はグループ課題に取り組む
- ・プレゼンテーション課題
 - ・グループで発表準備・実践を行い、プレゼンスキルを向上
 - ・実践を重視し、ITスキルとコミュニケーション力を総合的に育成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業のガイダンスとコンピュータの基本操作や授業の進め方を行います。
2	情報のやり取り	電子メール、to/cc/bcc 他者との情報のやり取りやグループワーク。
3	情報の検索収集	インターネット、WWW、検索エンジン、SNS活用、論文検索、Aiの基本的な操作方法。
4	ドキュメンテーション	文書作成、ドキュメンテーションソフトの基本操作。
5	情報の単純処理	表計算ソフト、データ集計。
6	情報の高度処理	マクロ、プログラミング、実践的な活用方法。
7	情報の分析	グラフ作成、結果の考察、統計分析の基礎。
8	ビジュアル表現（1）	ビジュアル表現の構成要素（文字表現、写真表現 etc）。
9	ビジュアル表現（2）	画像加工、画像処理、カラーリング、レイアウト技法。
10	ビジュアル表現（3）	タイポグラフィ、DTP（デスクトップパブリッシング）。
11	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの基本的考え方、プレゼンテーションソフトウェアの基本操作。
12	プレゼンテーション（2）	効果的なプレゼンテーション手法、ビジュアルプレゼンテーション。
13	情報の発信	プレゼンテーション課題の制作及びグループ発表。
14	総復習と発展話題	グループ発表、ICT、IoT、ビッグデータ、近年のIT活用事例。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、学生が安心して受講できるよう配慮します。

1. タイピングスキルの向上
ブラインドタッチができることが望ましいですが、授業開始時に毎回トレーニングを行うため、初心者でも安心して参加できます。
自主的な練習を推奨し、効率的に習得できるようサポートします。

2. 学習時間の目安

準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

授業で学んだ内容を実践することで、理解を深めることができます。

3. 学習の調整

他の授業とのバランスを考慮し、無理のない範囲で課題や学習内容を調整します。

学習計画を立てやすいように、必要な準備や復習内容を明確に提示します。
安心して受講できる環境を整え、確実にITスキルを習得できるようサポートします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業では適宜プリントを配布します。

【参考書】

「改訂新版 標準教科書 よくわかる情報リテラシー」
岡本敏雄 監修 技術評論社
授業では特に使用しません。参考書として入手することは有効です。

【成績評価の方法と基準】

演習（100%）の結果より判断します。毎回演習を行うので体調不良等のやむを得ない場合以外の欠席や遅刻には十分に注意してください。欠席と遅刻の合計回数が5回に達した場合は成績の評価はできません。留意が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえ、次年度の授業内容へ反映します。

特に提出課題については基本から応用的な課題までの幅を持たせます。また、前回の授業同様にコンピュータに触れ、基本的なIT知識を身につけ、同時に建築学科の学生に相応しいITスキルを身につくよう授業を構成します。最終授業のプレゼンテーションでは発表スキルの基本を磨けるようグループ・ディスカッションをはじめ授業毎にブラッシュアップしていきます。デジタルとアナログで各やるべきことの境界線を見極める力も養う。また個人作業やグループワークでそれぞれの重要性についても経験する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器である貸与ノート型パソコンを常時準備のこと。マウス、USBメモリがあると望ましい。

【その他の重要事項】

授業の魅力と学べるスキル

この授業では、単なるコンピュータリテラシーの習得を超えて、建築分野で活かせるITスキルやAIツールの活用方法を実践的に学びます。

授業の中盤には、都内の有名建築物を実際に見学し、その空間を体験する予定です。（前年度は丹下健三氏が手がけた東京カテドラル聖マリア大聖堂を見学しました。）この体験をもとに、これまでに学んだITスキルを活用し、建築ドキュメントを作成する技術を身につけます。

また、近年の建築・デザイン業界で注目されているAIツール（ChatGPTなど）の基礎的な使い方も学びます。アイデアの発想や情報収集、レポート作成などにAIを活用する方法を知ること、効率的な学習・制作が可能になります。

さらに、最終授業では、ITツールを活用したグループプレゼンテーションを実施。Microsoft PowerPoint、Word、Excel、Adobe Illustrator、Photoshopなどのソフトウェアに加え、AIを活用した資料作成のアプローチも学びながら、分かりやすく魅力的な発表資料を作成します。これらのスキルは、他の建築系科目での発表にも役立つ重要な基礎スキルとなります。

また、授業ではグループディスカッションやブレインストーミング（KJ法）を取り入れ、チームで考え、協力しながら進める力も養います。

この授業を通じて、建築学生に必要なITスキルやAIツールの活用方法を実践的に習得し、将来の設計やプレゼンテーションに自信を持てるようになります。

※オフィスアワー：

授業の前後の時間、またはEmailにて随時質問を承ります。

また、内容によってはオンラインでの個別相談も可能です。

必要があれば遠慮なくご連絡ください。

緊急時は授業時に提示した携帯電話に連絡をください。

（その際は法政大学建築学科の〇〇です。と氏名を名乗ってください）

※連絡方法：

・授業時間外の質問や相談：大学のEmailをご利用ください。

・対面での質問：授業前後に気軽に声をください。

・オンライン相談（必要な場合）：事前にメールで予約をお願いします。

【Outline (in English)】

Course Outline

■ Course Title

Computer Literacy for Architectural Studies

■ Course Objectives

To develop fundamental computer literacy skills required for students of architecture

To cultivate logical thinking, problem-solving ability, and professional attitudes as future architects

To use IT not merely as tools for operation, but as tools for thinking and communication

■ Learning Goals

Students will be able to:

Collect, organize, analyze, and visualize information effectively

Create clear reports, diagrams, and presentations suitable for architectural contexts

Communicate ideas logically and persuasively to diverse stakeholders

Collaborate and exchange ideas through discussion and teamwork

Use digital technologies responsibly, safely, and ethically

■ Course Contents

Practical computer operation and digital workflow

Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint) for documentation and data processing

Adobe software (Illustrator, Photoshop) for visual communication and design expression

Report writing, diagram creation, and presentation design for architectural projects

Information structuring and visualization techniques

Group work and discussions to enhance communication skills

Use of AI tools (e.g., ChatGPT) as support for thinking and idea generation

■ Digital & Information Literacy

Critical evaluation of online information

Responsible and ethical use of digital technologies

Awareness of risks associated with social media and smartphones

Development of self-protection skills to avoid online fraud, cybercrime, and information troubles

■ Teaching Methods

Hands-on computer practice

Individual assignments and projects

Group work and collaborative exercises

Discussions and presentations

■ Course Philosophy

This course encourages students to use technology as a means to think, create, and communicate.

By balancing digital skills with reflective thinking and real-world interaction, students will build the foundation necessary to become socially responsible and competent architectural professionals.

■ Expected Outcomes

By the end of the course, students will:

Think independently and critically

Express their ideas clearly through digital media

Manage their time and digital tools effectively

Articulate the meaning and purpose of studying architecture in their own words

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

設備入門

石川 裕司

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境を加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素でもあり、建築デザインにも大きく影響する。太古の昔から人は水辺に居を構え集落を造り、時の経過、更に時代の変遷と共に、利便性・快適性を追求し、人為的に室内環境の創造と調整を行ってきた。将来も技術の進歩につれてこれが継承されて行かなくてはならない。これらのことを、建築設備の学習テーマとし授業を進める。

【到達目標】

＜授業の到達目標＞

建築設備の学習項目である、「①空気調和・換気設備、②給排水・衛生設備、③電力・通信情報設備」のうち、適切な室内環境を創る「①空調・換気」と生命の根源である「②の水（給排水）」と利便性の代表である「③の電気（あかりと動力及び通信情報）」について学習する。将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「本授業は、対面授業を基本として、実施を予定しています。」
変更等があった場合には、履修本登録期間までにデザイン工学部事務より、Web 掲示板でお知らせいたします。Web 掲示板を随時ご確認ください」

＜授業の概要＞

授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩により変更する場合もある。

＜授業の方法＞

授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用するが、進め方として画像や映像（PPT 又は DVD 等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の要所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習テストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築設備ガイダンス 建築設備	（建物に絶対必要） ・身近な物から考える建築設備 ・水・排水 ・電気 ・空調・換気 （設備で何） ・設備の歴史（必要から生まれた人工的環境の創造。現在に受け継がれる古人知恵） （安全な水） ・水の基礎知識 ・生活と水 ・給水・給湯計画法 ・給水方式と系統 ・水系汚染防止等 （水の使い方） ・給水量の計算 （安全で便利な湯・ガス） ・湯・ガスの基礎知識 ・生活と湯・ガス ・給湯方式と系統 ・安全対策等
2	給水設備	
3	給湯設備 ガス設備	

4	排水設備 衛生器具設備	（どこに流れる） ・排水、通気方式と系統 ・排水トラップ ・雨水 （きれいな排水） ・汚水処理 （安全・きれいな） ・衛生器具の発展 （ビルの電気） ・電気の基礎知識 （いろんな灯り） ・照明の基礎 ・照明計画法 ・LED、Hf 蛍光灯 ・明視照明と雰囲気照明 ・システム天井照明 ・照度計算 （火事だ） ・自動火災報知と避難（火の消し方） ・消火の原理 ・消火方式・基礎 （室温一定） ・制御機器の種類 ・中央監視設備の概要 ・BEMS について （快適・不快） ・室内環境維持 ・空気の性質 ・空気の状態変化 （室温と外気温） ・室内外条件 ・負荷の種類 ・熱負荷計算 （室を冷やす、暖める） ・空調機器 （冷水・温水を作る） ・ビル用一般冷温熱源 ・ヒートポンプエアコン （空気で快適） ・ダクト設備 （冷水・温水・冷媒で快適） ・配管設備 （空気は汚れる） ・換気の必要性 ・空気清浄度保持のための換気計算 ・省エネと換気 （火災と避難） ・排煙方式と目的 （省エネ） ・省エネルギーと設備 ・ビル消費エネルギーと地球温暖化 ・省エネルギー計算法
5	電気設備	
6	照明設備	
7	防災設備・消火設備	
8	監視・制御	
9	空気調和設備	
10	熱負荷の種類	
11	空調方式・熱源方式	
12	空気搬送設備・水搬送設備	
13	換気・機械排煙と防煙	
14	エネルギー消費	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

1. 既存の身近な建物の環境・設備をよく観察することから始まる。
2. 家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。
例えば、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・冷暖房の使用状態の把握…。
3. 学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗・病院…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。
4. 上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモしておく。

【テキスト（教科書）】

最新 建築設備工学 改訂 2 版（井上書院） 監修：田中俊六・著者：宇田川光弘他 4 名。3520 円
必要に応じプリントを配布。

【参考書】

『図説 やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賛弼、2800 円
『最新 建築環境工学』（井上書院） 監修：田中俊六・著者：田尻他 5 名。3000 円

【成績評価の方法と基準】

成績評価に関して、

定期試験成績を最重点基準事項とする。

評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、以下の各項についてポイントの加減を行う。

- ①期末試験（60％）小テスト・レポート（30％）平常点（10％）により評価する。
- ②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。
- ③時間内テストなどで不正行為があると認めた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。
- ④学生諸氏が、TAを含む教員との間に万一不信行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。その他は、前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、システムでは省エネの重要性、機器類では、CGS(Co-Generation System)、Hf蛍光灯、LED燈等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

【学生が準備すべき機器他】

テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓（関数電卓）・定規・色鉛筆（ボールペン）等を持参すること。

【その他の重要事項】

建築技術者としての基礎知識を身につけるため履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。

現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。

また、授業の前後あるいはe-mailで随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, students will be introduced to "water, air, and electricity," which are essential to life.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge as a building facility engineer.

It begins with a careful observation of the environment and facilities of the existing building.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

都市建築史スタジオ

藤本 貴子、小堀 哲夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○デザインや調査研究は、既存のものをよく観察することから始まる。本授業では、部材や建築物そのものも含めた資料を観察・分析し、新たな創作活動に還元する能力を養う。また、東京、エジプト、ギリシア、イタリア、北欧、インド、スリランカ、バリ、メキシコ、ブラジルなどを都市や建築や建築家の作品を通して、建築を都市の構成要素として捉え、建築と都市を解説する手法を学ぶ。

◇歴史を通して、建築と都市の成り立ちを学ぶ。東京、エジプト、ギリシア、イタリア、北欧、インド、スリランカ、バリ、メキシコ、ブラジルなどを都市や建築や建築家の作品を通して、建築を都市の構成要素として捉え、建築と都市を解説する手法を学ぶ。

【到達目標】

議論や発表に積極的に取り組み、メンバーとコミュニケーションをうまくとることが重要である。また、研究した内容が的確に表現されることが到達目標となる。また具体的な街や建築を、観察と定着を通して、幅広い発見を得ることを目標にする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎						○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP3」「DP5」に関連。

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本講では、前半（1～7回）にアーカイブズを併用した建築・都市空間の解説手法を学び、後半（8～14回）で建築レベルでの都市組織の解説手法を学習する。授業は、担当教員による講義と、その内容を踏まえた演習を行う。また、演習にはグループを形成で行うものがある。演習は、資料と実際の建築物を対象として行う。後半（8～14回）で建築レベルでの都市組織の解説手法を学習する。授業は、担当教員による講義と、その内容を踏まえた演習を行う。また、演習にはグループを形成で行うものがある。演習は、アーカイブス資料を用いて、実際のフィールドを対象として行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・部材実測	建築部材の実測を行う。
2	創作	部材に関係する建築と関連資料の紹介。実測した部材を活用したデザインの提案を行う。
3	課題発表と講評	発表と講評。
4	建築の調査	政大学市ヶ谷田町校舎を対象に、そのデザインの特徴を調査する。
5	建築の背景を知る	法政大学市ヶ谷田町校舎が設計された背景を知り、資料の分析を行う。
6	創作	法政大学市ヶ谷田町校舎のオリジナルの意匠の特徴を生かした改修設計を提案する。
7	発表と講評	調査内容と設計案を発表し、講評を行う。

8	エジプト ギリシア	講義 アレクサンドロスアレクサンドリ、アテネ、デルファイ、デロスを通して、都市と建築を学ぶ
9	イタリア	講義 ウィトルウィウス、ハドリアヌス、ダヴィンチ、バラディオを通して、建築と都市を学ぶ
10	演習4	東京の中の建築を実測し、表現、考察する
11	インド スリランカ、バリ	チャンディガール、コルビジュエ、カーン、ドーシ、パワを通して、建築と都市を学ぶ
12	デンマーク、スウェーデン、オランダ、スイス	アアルト、アスプルンド、ヤコブセン、ズントー他 演習 各グループで研究、議論と発表
13	演習5	都市の建築を実測し、建築と都市を学ぶ
14	まとめ	各自、建築と都市をどう捉えたかを表現しプレゼンする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布プリントの意味を再読する。調査対象の下調べ。
 2. 配布プリントの意味を再読する。調査結果の整理と創作。
 3. 調査結果と創作の振り返り。
 4. 調査対象の下調べ。
 5. 調査結果の整理とまとめ、創作。
 6. 調査結果の整理とまとめ、創作。
 7. 配布プリントの意味を再読する。文献を調べる。
 8. 配布プリントの意味を再読する。文献を調べる。
 9. 配布プリントの意味を再読する。文献を調べる。
 10. 図面等の展示準備をする。
 11. 図面等の展示準備をする。
 12. 図面等の展示準備をする。
 13. 図面等の展示準備をする。
 14. 図面等の展示準備をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
大江宏アーカイブ ファインディング・エイド
『特殊語学教室を中心とした校舎 法政大学62年館』『建築文化』1962年7月号
『design of cities』エドモンド・N・ベイコン/渡辺定夫訳、
ウィトルウィウス建築書 森田慶一訳、
建築論 レオン・バティスタ・アルベルティ（著）相川浩（翻訳）
権力の空間、空間の権力 山本理顕著
グリッド都市-スペイン植民都市の機嫌、
形成、変容、転生 布野修司（著）
ムガル都市—イスラム都市の空間変容 布野修司（著）
また、各グループに応じて、随時、ふさわしい参考書を指示する。

【成績評価の方法と基準】
議論等の平常点：50％
発表の内容：50％

【学生の意見等からの気づき】
板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【Outline (in English)】

○ In this course, students learn to observe and analyze architectural materials including structural components and buildings themselves, and to incorporate their findings into their creation.

◇The course will be offered until the 2019 academic year under the old curriculum and will not be offered from the 2020 academic year under the new curriculum. However, the first half of the Urban Architectural History Studio class will be used as a replacement course for students who have taken the course in previous years. Students will learn about the origins of architecture and cities through history. Students will learn how to decipher architecture and cities by viewing architecture as a component of cities through the works of cities, architecture, and architects in Tokyo, Egypt, Greece, Italy, Scandinavia, India, Sri Lanka, Bali, Mexico, Brazil, and other countries.

[Learning Objectives]

It is important to actively engage in discussions and presentations and to communicate well with members of the group. In addition, the achievement goal is to be able to accurately express what you have researched. The goal is also to make a wide range of discoveries about specific towns and architecture through observation and establishment.

[Learning activities outside of classroom]

1. Re-read the meaning of the handout.
 2. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature.
 3. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature.
 4. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature. 6.
 6. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature. 7.
 7. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature.
 8. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature.
 9. Re-read the meaning of the handout. Examine the literature.
 10. Prepare models, drawings, etc. for display.
 11. Prepare models, drawings, etc. for display.
 12. Prepare models, drawings, etc. for display.
 13. Prepare models, drawings, etc. for display.
- Prepare for exhibition of models and drawings.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Ordinary points for discussion, field survey, etc.: 50%.

Content of deliverables: 50%.

ENV300NB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

文明と資源

網野 禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一般的な資源論の授業で扱う森林や水など有形の自然資源の他、人材や入手可能な技術といった無形資源についてもフォーカスし、私たちの建築や暮らしの背景にある社会と資源の相互関係について考察します。

【到達目標】

単に物質消費の節約という観点からだけではなく、建築や社会の様々な側面を持続可能性に関連付けて考える上での問題意識を養います。
The discussion focuses not only on the effective use of resources. We develop problem awareness that associates various aspects of our society with the sustainable development.

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が研究・設計活動を通して得た知見をもとに、授業の各回ごとにトピックを設定し、研究発表形式で授業を進めます。トピックによっては、テーマに関連した研究に携わっている学生や卒業生も発表に参加します。学生と教員間でのディスカッションを重視するため、授業後半において問いかけの時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	森林資源と建築デザイン	ヨーロッパにおける木造都市の展開
2	伝統社会の資源管理	パンから考えるスイス山岳地域の資源管理
3	地域と時代と産業立地	ドイツにおける木材産業立地 日本における木材産業立地
4	ウィーン・グルンダーツァイトの集合住宅について	スケルトン・インフィルの起源について
5	戦艦大和について	戦時下における国家規模での技術開発がもたらしたもの
6	繊維という資源	生地と仕立てについて 化学繊維の再利用について
7	地域の技術資源と建築	ペーター・ツムトーアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に調べて概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Pre-research using the internet or the newspapers on the topic of each lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特にありません

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

筆記試験80%の他、平常点20%とします。履修人数によっては、筆記試験を口頭試験に変えることがあります。平常点は、授業内での自主的な発言の有無を評価しますので、積極的に授業参加してください。

Evaluate a written exam result (80%) and active remarks (20%). For small class the written exam can be replaced by an oral exam.

総合得点60%以上を合格とします。

A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

授業内での議論は活発になってきました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業なので、各自 ZOOM をセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

研究発表形式の授業であるため、テーマや内容を一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This lecture focuses not only on the tangible natural resources like woods and water but also on the intangible ones such as human resources and available technologies to discuss the reciprocity between our society and the resources behind the architecture and daily life. The topic of each lecture reflects the up-to-date study results derived from the research and design experiences of the lecture.

ENV300NB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

文明と資源

網野 禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一般的な資源論の授業で扱う森林や水など有形の自然資源の他、人材や入手可能な技術といった無形資源についてもフォーカスし、私たちの建築や暮らしの背景にある社会と資源の相互関係について考察します。

【到達目標】

単に物質消費の節約という観点からだけでなく、建築や社会の様々な側面を持続可能性に関連付けて考える上での問題意識を養います。
The discussion focuses not only on the effective use of resources. We develop problem awareness that associates various aspects of our society with the sustainable development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が研究・設計活動を通して得た知見をもとに、授業の各回ごとにトピックを設定し、研究発表形式で授業を進めます。トピックによっては、テーマに関連した研究に携わっている学生や卒業生も発表に参加します。学生と教員間でのディスカッションを重視するため、授業後半において問いかけの時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	森林資源と建築デザイン	ヨーロッパにおける木造都市の展開
2	伝統社会の資源管理	パンから考えるスイス山岳地域の資源管理
3	地域と時代と産業立地	ドイツにおける木材産業立地 日本における木材産業立地
4	ウィーン・グルンダーツァイトの集合住宅について	スケルトン・インフィルの起源について
5	戦艦大和について	戦時下における国家規模での技術開発がもたらしたもの
6	繊維という資源	生地と仕立てについて 化学繊維の再利用について
7	地域の技術資源と建築	ペーター・ツムトーアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に調べて概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Pre-research using the internet or the newspapers on the topic of each lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特にありません

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

筆記試験80%の他、平常点20%とします。履修人数によっては、筆記試験を口頭試問に変えることがあります。平常点は、授業内での自主的な発言の有無を評価しますので、積極的に授業参加してください。

Evaluate a written exam result (80%) and active remarks (20%). For small class the written exam can be replaced by an oral exam.

総合得点60%以上を合格とします。

A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

授業内での議論は活発になってきました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業なので、各自ZOOMをセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

研究発表形式の授業であるため、テーマや内容を一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This lecture focuses not only on the tangible natural resources like woods and water but also on the intangible ones such as human resources and available technologies to discuss the reciprocity between our society and the resources behind the architecture and daily life. The topic of each lecture reflects the up-to-date study results derived from the research and design experiences of the lecture.

ENV300NB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

文明と資源

網野 禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一般的な資源論の授業で扱う森林や水など有形の自然資源の他、人材や入手可能な技術といった無形資源についてもフォーカスし、私たちの建築や暮らしの背景にある社会と資源の相互関係について考察します。

【到達目標】

単に物質消費の節約という観点からだけではなく、建築や社会の様々な側面を持続可能性に関連付けて考える上での問題意識を養います。

The discussion focuses not only on the effective use of resources. We develop problem awareness that associates various aspects of our society with the sustainable development.

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	50%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

担当教員が研究・設計活動を通して得た知見をもとに、授業の各回ごとにトピックを設定し、研究発表形式で授業を進めます。トピックによっては、テーマに関連した研究に携わっている学生や卒業生も発表に参加します。学生と教員間でのディスカッションを重視するため、授業後半において問いかけの時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	森林資源と建築デザイン	ヨーロッパにおける木造都市の展開
2	伝統社会の資源管理	パンから考えるスイス山岳地域の資源管理
3	地域と時代と産業立地	ドイツにおける木材産業立地 日本における木材産業立地
4	ウィーン・グルンダーツァイトの集合住宅について	スケルトン・インフィルの起源について
5	戦艦大和について	戦時下における国家規模での技術開発がもたらしたもの
6	繊維という資源	生地と仕立てについて 化学繊維の再利用について
7	地域の技術資源と建築	ペーター・ツムトーアについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に調べて概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Pre-research using the internet or the newspapers on the topic of each lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特にありません

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

筆記試験80%の他、平常点20%とします。履修人数によっては、筆記試験を口頭試験に変えることがあります。平常点は、授業内での自主的な発言の有無を評価しますので、積極的に授業参加してください。

Evaluate a written exam result (80%) and active remarks (20%). For small class the written exam can be replaced by an oral exam.

総合得点60%以上を合格とします。

A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

授業内での議論は活発になってきました。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業なので、各自ZOOMをセットアップして授業に臨むこと。

【その他の重要事項】

研究発表形式の授業であるため、テーマや内容を一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

This lecture focuses not only on the tangible natural resources like woods and water but also on the intangible ones such as human resources and available technologies to discuss the reciprocity between our society and the resources behind the architecture and daily life. The topic of each lecture reflects the up-to-date study results derived from the research and design experiences of the lecture.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築デザイン論 1

下吹越 武人、今村 創平

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代建築のデザイン潮流を建築家の思想や作品、近代都市計画や現代都市理論を通して学びます。代表的な建築家や作品、論考を学ぶことに加えて、その社会的背景、それらを支える都市理論について考察します。

【到達目標】

近代および現代はどのような時代であり、そこにいる私たちはどのような存在であるのか。建築家は何を生み出し、私たちはどのようにして都市に住むのか。
近現代の建築の多様な表現と思想を学び、現代都市の状況と課題を理解し、それを自らの創作や思考の糧とすることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎				◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は建築デザインとその理論について、後半は都市理論が主題となります。レポート課題について授業内で適宜指示があり、授業内でフィードバックも行います。また、授業のなかで参考図書を紹介しますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 法政建築について	授業内容の説明 大江宏の作品と「アーキテクト・マインドとは何か？」の読解を試みる
第2回	抽象と日常	篠原一男と坂本一成の作品と著作を中心に住宅から建築を思考することの意義と可能性を探る
第3回	建築の公共性	山本理顕、伊東豊雄、横文彦の作品と著作から建築と社会の関係性について思考する
第4回	建築の自律性 [研究発表1]	磯崎新による実践を通して建築による自律的、批評的な試みを横断する
第5回	風土の継承、場所性の回復 [研究発表2]	批判的地域主義を学び、アルヴァ・アアルトとアルヴァロ・シザの作品を読み解く
第6回	[研究発表3]	レポート発表をベースに現代建築の展望をディスカッションする。
第7回	[研究発表4]	レポート発表をベースに現代建築の今日的課題をディスカッションする。
第8回	近代都市への変貌、近代都市計画	近代初頭の都市改造： ロンドン、交通の拡張、都市の膨張、田園都市 パリ（オスマン）、バルセロナ（セルダ） など
第9回	近代都市計画とその限界	ジードルング（ドイツ） ル・コルビュジエ：輝く都市 CIAM 近代都市計画 TEAM Xの批判、ポストモダニズムによる批判
第10回	丹下健三とメタボリズム	東京の変遷 廃墟と瓦礫 明治の東京計画、関東大震災復興計画、同潤会 丹下健三 広島、東京計画1960 メタボリズム
第11回	前衛的都市ヴィジョン、都市の理論	アーキグラム、アーキズーム、シチュアシオノニスト アレグザンダー「都市はツリーではない」 コーリン・ロウ「コラージュシティ」

第12回	都市と文脈	アルド・ロッシ「都市の建築」 陣内秀信「東京の空間人類学」、イタリア都市研究 ヴェンチャURI&スコットブラウン「ラスベガス」
第13回	レム・コールハースと現代都市	「デリリアス・ニューヨーク」/ニューヨークの歴史 レム・コールハウスの現代都市批判 グローバルシティ
第14回	今日の都市空間の課題	都市空間におけるパブリック/コモン 商業空間と現代都市 情報都市

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで参考図書の紹介を行うので、あなたが関心を持った本を熟読することを勧めます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『現代都市理論講義』今村創平 オーム社

【参考書】

『住宅の空間原論』遠藤政樹＋小泉雅生＋佐藤光彦＋下吹越武人 彰国社
『住宅論』篠原一男 SD選書
『住宅に内在する言葉』坂本一成
『権力の空間／空間の権力』山本理顕 講談社
『風の変様体』伊藤豊雄 青土社
『漂うモダニズム』横文彦 左右社
『建築の解体』磯崎新 鹿島出版会
『現代建築史』ケネス・フランプトン TOTO出版
『錯乱のニューヨーク』レム・コールハース 筑摩書房
『都市のエージェントはだれなのか』北山恒 TOTO出版
『東京の空間人類学』陣内秀信 ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

前半部（1－7回）は2回のレポート(37.5%)と研究発表(12.5%)により評価、後半部（8－14回）は毎回のミニレポートにより評価(50%)を行う。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】

研究発表の際はPCを持参すること。

【その他の重要事項】

一級建築士として豊富な実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【Outline (in English)】

This course will deal with subjects on representative modern and contemporary architectures and architects, and modern urban planning and contemporary urban theories.

[Learning Objectives]

What kind of era is the modern and the present age, and what kind of existence are we in it? What do architects create and how do we live in cities?

The goal is to learn the diverse expressions and ideas of modern architecture, understand the situation and issues of modern cities, and use them for your own creation and thinking.

[Learning activities outside of classroom]

Reference books will be introduced in class, so we recommend that you carefully read the books that interest you.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following, the first half (1-7 times); two reports(20%) and reserch puresentation (30%)
the second half (8-14 times); short reports by each times (50%)

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築デザイン論2

赤松 佳珠子、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築デザイン論1で修得した近現代建築や近代都市計画、現代都市理論をベースに、より具体的な事例を通して知識を深めます。授業を担当する教員が実務を通して得た知見から、より実践的なアプローチ・思考能力を養う方法論を学びます。

【到達目標】

少子高齢化、情報化社会に加えて新たな感染症が一瞬にして世界的流行となるなど、現代社会はめまぐるしい速度で変化しています。都市や地方に於けるコミュニティの在り方や日常生活、働き方、学校に於ける学びなど多くの価値観の変容が迫られている中、実践的な取り組みを学ぶことで、自らの設計手法の幅を広げると共に、デザインに対する思考を深めることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は都市、地域と公共建築の実践について、後半は市民活動や民間の実践が主題となります。レポート課題や簡単な復習小試験など授業内で適宜指示があります。また、授業の中で参考図書の紹介を行いますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／設計とは	授業の紹介／ 社会に於いて設計者が果たすべき役割と建築の構想・企画から竣工するまでの流れに於ける設計者の位置づけ
2	地域と学校1	地域における学校の役割、地域に開かれた学校について
3	地域と学校2	地域施設と複合化された、地域の拠点となる学校建築について
4	コミュニティと公共空間	地域のコミュニティと公共空間を考える
5	建築設計のプロセス	建築設計のプロセス
6	行政と公共建築	自治体に於ける公共建築の議論について
7	都市と建築	都市のコンテクストと建築の関係性を考える
8	セルフビルド	「セルフビルド」を介した社会構築や公共性について
9	パブリック	「公共的空間」を支える建築と福祉に繋がる実践について
10	ケア	「福祉」の系譜と、地域に開く福祉的実践について
11	シェア	建築を地域に開く「シェアスペース」と活動について
12	マネジメント	活動が持続するための「マネジメント」について
13	ハウスメーカー	「商品化住宅」の歴史と建築家とのコラボレーションについて
14	コラボレーション	設計者との「コラボレーション」や、ソーシャル・テクニクス・デザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで参考図書の紹介を行う。興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定は特になし

【参考書】

『PUBLIC PRODUCE 「公共的空間」をつくる7つの事例』

西田司、山道拓人他 ユウブックス

『シェア空間の設計手法』猪熊 純、成瀬 友梨、山道拓人他 学芸出版

『クロノデザイン-空間価値から時間価値へ-』内藤廣編／彰国社

『学校建築ルネサンス』上野淳 鹿島出版会

『SHIBUYA』ハーバード大学院生が10年後の渋谷を考える

ハーバード大学デザイン大学院／太田佳代子 CCCメディアハウス

『楽しい公共空間を作るレシピ』プロジェクトを成功に導く66の手法

平賀達也・山崎亮・泉山墨威・樋口トモユキ・西田司 編著 ユウブックス

『都市理解のワークショップー商店街から都市を読むー』

九州大学大学院アーバンデザイン学コース編 九州大学出版会

【成績評価の方法と基準】

レポート60%、授業の取り組み40%として採点する。

なお、はなはだしく類似した内容のレポート、授業に欠席したのに提出されたレポート（授業欠席に関しては、病気などやむを得ない事情によるものと教員が認めた場合のみ、別テーマのレポート提出で代替する場合もある。その場合は診断書の提出などを求める場合がある）は単位取得不可となる。

【学生の意見等からの気づき】

デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

【その他の重要事項】

一級建築士として実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【IAEサーバー／Hoppiiの活用】

課題の提出はIAEサーバーもしくはHoppiiのいずれか（教員からの指示）により行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will deepen the perspective thorough the examples and case studies based on the knowledge of modern architecture, city planning and modern city theory in Architecture Design Theory-I. From the professor's view which got various experiences, students can learn how to develop the more practical approach and thinking ability.

【Learning Objectives】

Modern society is changing at a dizzying pace, with a declining birthrate, an aging population, an information-oriented society, and new infectious diseases becoming global pandemics in an instant. As we are forced to change many values, such as the nature of communities in urban and rural areas, daily life, work styles, and learning in schools, our goal is to broaden our own design methods and deepen our thinking about design by learning about practical approaches.

【Learning activities outside of classroom】

Reference books will be introduced in class. Interested students are encouraged to purchase and study the books.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be 60% for the report and 40% for class work.

都市建築史

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、原則対面で行います。

以下に概要と目的を記述します。

日本を含むアジアも近現代の都市と建築を対象に、それらがつくられた背景を理解する。また、現代建築のデザインに見られる歴史の稀薄性について、ディズニーランドなどを例に解説していく。テーマは、各回において、上記の内容ごとに見ていく。

【到達目標】

こうした講義を通じて、見た目だけではなく、都市や建築の本質を見ようとする姿勢を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本を含めたアジアに注目しながら、劇場、庭園、商業施設、遊園地の成り立ちについて、比較の視点を持ちながら見ていきたい。また、失われた都市と建築の歴史を知るために、絵巻物に描かれた世界の解説も行う。さらに、現代の日本の都市と建築が、いかに歴史的なつながりの中で成立しているのか、近代都市や娯楽施設の歴史を通して考えていく。各回、スライドを見ながら視覚的に把握し、その背景にある本質を解説する方法をとる。

授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶのかを理解する。	近現代のアジアにおける都市と建築の歴史をいかに考えるか？
2	アジアの劇場建築 近世以前の建築について、劇場を考える。	能舞台、歌舞伎の演劇空間、世界の演劇空間比較、演出効果、宇宙観
3	日本の能舞台 能舞台と劇場空間の歴史を解説する。	中世から近世への都市変容、洛中洛外図屏風、江戸図屏風、都市と自然
4	庭園文化の空間史 近世以前の建築について、庭園を考える。	ゆがめられた空間、日中欧庭園比較論、エロスと誕生、庭園の持つ意味、宇宙観。
5	絵巻物から読む都市 世界Ⅰ 近世以前の都市について、絵巻物から比較する。	幕末の「弘化勸進能図」を解説しながら、劇場に秘められた世界観を見ていく。
6	絵巻物から読む都市 世界Ⅱ 近世以前の都市について、絵巻物を読む。	『清明上河図』を読む、閉鎖型社会からの開放、中世都市の空間と人々の暮らし
7	東京の古代地形と文化的景観	神田明神から見たもの、どこから江戸城は見たのか、地形を読み込んで成立する江戸東京の聖地
8	疾走する城塞都市－香港 近代の都市とは建築の本質とは何かを学ぶ。	植民都市としての香港、ネオバロックとアールデコの対決、摩天楼対決、田園と都市、近代の理想
9	享楽のアジア近代－新世界 近代における民間側の都市と建築の理念を学ぶ。	理想としての近代、欲望の象徴としての塔、大阪新世界から浅草・上海を経て北京へ！

10	山下啓次郎と明治の刑務所 近代日本のアジアの関係を刑務所を通して知る。	明治の建築世界、薩長と出身地、明治に課せられた課題、文明国としての日本の誇示、近代デザイン
11	東京－都市美の戦後 現代に結びつく戦後の東京の都市美に課せられた役割を建築的に解説する。	戦後復興に夢見た「都市美」、失われゆく水辺空間、露店収容建築、水上居住者、時計塔、街路照明
12	広がる虚像の世界 現代のデザイン論についてディズニーを通して考える。	ディズニーランド、ラブホテル、マクドナルド、パチンコ、サティアン、ピーナスフォート
13	講義再読 古代から近世	世界観、宇宙観、自然観。
14	講義再読 近代から現代	建築と都市の象徴性とは。排除の構造。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 古代から近現代の都市と建築の歴史について興味を持つ。
 2. 配布プリントの意味を再読する。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. 配布プリントの意味を再読する。
 8. これまでの配布プリントを再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 13. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。
 14. 講義以外のテーマについて自分で解説してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

高村雅彦編『アジアの都市住宅』（勉誠出版）、『『清明上河図』を読む』（勉誠出版）

【成績評価の方法と基準】

期末記述試験60％。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

教員は毎回PCを使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will understand the background behind Japan and Asia's modern cities and architecture. In addition, in regards to the sparse design history of modern architecture, examples such as Disneyland will be examined. Topics will be assigned according to each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the posture that is going to watch a city and the essence of the building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : Your overall grade in the class will be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the term end.

ADE200NB（建築学 / Architecture and building engineering 200）

構法スタジオ 1

永野 尚吾、溝部 公寛、鈴木 理考、河野 泰治、網野 禎昭、五十嵐 理人、北村 武留、藤田 雄介

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構法スタジオ 1、構法スタジオ 2 では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

木造軸組構造による小型の建築物を設計課題として、構法スタジオ 1 では、空間計画と架構計画について習得する。エスキスでは描画力を養うために図面は手描きとし、図面の内容を立体的に理解するために軸組模型の作成も行う。

By designing a small sized wooden building, the students learn the living space planning and the structural planning in parallel. To acquire the drawing skills, all plans and sketches must be drawn by hand. Model construction is also required for the three-dimensional understanding of construction.

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎				◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化あるいは模型化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、基本図・骨組模型・構造図・詳細図などの提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題説明 基本構想 1	設計課題の解説 基本的な空間構想に着手する
2	基本構想 2	基本的な空間構想を固める
3	架構設計 1	柱位置・主梁方向の検討
4	架構設計 2	屋根・床など平面架構の検討
5	架構設計 3	耐震壁・ブレースの検討
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や自主的な実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

必要に応じ資料を配布。

【参考書】

「ぜんぶ絵でわかる 1 木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）

「350 万円で自分の家をつくる [改訂カラー版]」 畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】

最終提出物の評価（100%）による。正当な理由なく授業を4回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。

Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".

総合得点60%以上を合格とします。

A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

木材や接合部の実物サンプルを提示する。

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

構法スタジオ 2

永野 尚吾、溝部 公寛、鈴木 理考、河野 泰治、五十嵐 理人、北村 武留、藤田 雄介

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構法スタジオ 1、構法スタジオ 2 では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

構法スタジオ 1 で設計した軸組構造に対して、構法スタジオ 2 では、断熱や防水、通気、仕上げを設計し、建築物として完成させる。構法スタジオ 1 と同様に、描画力を養うために手描き図面によりエスキスを進めるが、提出図面に関しては C A D ソフトを利用し、実務に即した作図方法を得る。

Following Building Construction Studio 1, Building Construction Studio 2 requires the students to design the heat isolation, water proof, ventilation and finishing to complete the building design. As with BCS1, hand drawings are recommended.

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎				◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、各種詳細図の提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	屋根・壁・床の断面設計 1	屋根・壁の一般断面の検討／内・外装の検討
2	屋根・壁・床の断面設計 2	床の一般断面の検討／床・天井仕上の検討
3	開口部の断面設計	開口部と外壁の取り扱い
4	屋根・壁・床の取り合い設計 1	基礎・床・外壁の取り扱い
5	屋根・壁・床の取り合い設計 2	屋根・外壁・庇の取り扱い
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

必要に応じ資料を配布。

【参考書】

「ぜんぶ絵でわかる 1 木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）
「350 万円で自分の家をつくる [改訂カラー版]」畠山サトル（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】

最終提出物の評価（100%）による。正当な理由なく授業を 4 回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。

Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".

総合得点 60% 以上を合格とします。

A passing total score is 60% or more.

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、実際の施工現場の見学や、縮尺の大きな部分模型製作を取り入れる。

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

環境デザインスタジオ

中野 淳太、加用 現空

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境デザインに必要な基本的な知識を習得すると共に、具体的な課題に取り組みながら環境デザインのプロセスを体験的に学ぶ。

【到達目標】

建築環境デザインにあたって、屋内環境（音、光、温熱、空気環境等）の他に屋外環境（地域、地球環境保全等）の両側面への配慮が重要であることを学ぶ。環境シミュレーションなどを通じて建築環境を定量的に評価することを学ぶ。また、現地調査や環境測定を通じて、実体験（体感）と数値をリンクさせる。身につけた基礎知識、シミュレーション技術、環境評価技能を活かした建築環境デザイン手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

前半の課題では、演習を通じて環境分析手法および調査手法を習得する。また、実環境の測定や調査を通じて、実体験と数値をリンクさせる。後半の課題では、具体的な建築設計プロジェクトに取り組みながら環境デザインを試行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・敷地の環境分析手法	講義の趣旨説明。敷地の環境分析手法の理解。
2	建築環境測定	環境測定の意義の理解。環境測定機器の原理解。測定手法の習得、測定結果の考察。
3	敷地の選定と環境調査	課題となる建築のための敷地選定。環境測定および調査による敷地の特性抽出。
4	プレゼンテーション（1）	敷地調査および建築概要に関するプレゼンテーション。
5	環境シミュレーションの基礎（1）	Rhinoceros + Grasshopperを用いた形態のパラメトリックスタディ。
6	環境シミュレーションの基礎（2）	Rhinoceros + Grasshopperを用いた日射環境解析手法の習得と演習。
7	環境シミュレーションの基礎（3）	Rhinoceros + Grasshopperを用いた光環境解析法の習得と演習。
8	エスキース（1）	環境解析に基づく建築形態のスタディ。
9	プレゼンテーション（2）	プロジェクト基本構想。敷地と建築の関係。空間イメージ。ヴォリュームスタディなど。
10	環境評価の基礎（1）	建築物省エネ法および断熱性能等級の理解。建築外皮熱性能の評価。
11	環境評価の基礎（2）	総合環境性能評価（CASBEE）の理解。環境品質（Quality）、環境負荷（Load）の視点の習得。
12	エスキース（2）	環境シミュレーションによるスタディ
13	エスキース（3）	多目的環境制御の視点を取り入れた環境デザイン。プレゼンテーションの準備。
14	ファイナルレビュー	プレゼンテーション。講評会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境配慮デザインが施された建築を実際に訪れてその空間を体験すること。各種環境要素：光、音、空気（風の流れ）、熱（あたたかさ、涼しさ）などがどのように制御されて心地の良い空間となっているか考察すること。同時に、地域環境との調和や地球環境保全への取り組みなどにも着目すること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は定めないが、必要な資料は適宜配布する。

【参考書】

講義実施時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題・エスキース・プレゼン・成果作品を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境シミュレーションから得られる結果を正しく解釈し、建築デザインのスタディに活用する。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参のこと

【Outline (in English)】

Course outline: Students will acquire the basic knowledge necessary for environmental design and learn the process of environmental design by working on specific issues in this lecture.

Learning Objectives: In designing the built environment, students learn the importance of considering both the indoor environment (sound, light, heat, air quality, etc.) and the outdoor environment (local and global environmental conservation, etc.). In addition, students learn to evaluate the built environment quantitatively through environmental simulations. Furthermore, students will learn building environmental design methods that utilize the basic knowledge, simulation techniques, and environmental evaluation skills they have acquired.

Learning activities outside of classroom: Students should actually visit a building with an environmentally conscious design and experience the space. Consider how various environmental elements: light, sound, air (wind flow), heat (warmth, coolness), etc. are controlled to create a comfortable space. At the same time, focus on harmony with the local environment and efforts to preserve the global environment. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria / Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation of esquisse, presentation, and portfolio of work. 5 or more absences will not be considered for grading.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

ビルディングワークショップ

浜田 英明

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者 (Professional Engineer) としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら3点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎		○			○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5～6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 (課題説明, 設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 (プレゼンテーション, 载荷実験, 議論)	設計理念説明 载荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第2実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第2実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第2実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第2実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第2実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 (プレゼンテーション, 载荷実験)	設計理念説明 载荷実験の実施
14	第2実験課題 (講評, レポート作成)	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習, レポート整理

5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習, レポート整理

9.10.11.12.13. トラスの力学の復習, レポート整理

14. レポート整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとかたち, 日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5回以上欠席した者は成績評価しない

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

【その他の重要事項】

この授業はサマーセッションおよびオータムセッション期間中に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

Learning Objectives:

Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

ビルディングワークショップ

宮田 雄二郎

開講時期：年間授業/Yearly ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者 (Professional Engineer) としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら3点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎		○		○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5～6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 (課題説明, 設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 (プレゼンテーション, 载荷実験, 議論)	設計理念説明 载荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第2実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第2実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第2実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第2実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第2実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 (プレゼンテーション, 载荷実験)	設計理念説明 载荷実験の実施
14	第2実験課題 (講評, レポート作成)	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習

2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習, レポート整理

5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習, レポート整理

9.10.11.12.13. トラスの力学の復習, レポート整理

14. レポート整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとかたち, 日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5回以上欠席した者は成績評価しない

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

【その他の重要事項】

この授業はサマーセッションおよびオータムセッション期間中に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

Learning Objectives:

Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

ビルディングワークショップ

中山 翔太

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者 (Professional Engineer) としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら3点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎		○			○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5～6人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第1・第2ラウンドの2つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第1実験課題 (課題説明, 設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第1実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第1実験課題 (プレゼンテーション, 载荷実験, 議論)	設計理念説明 载荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第2実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第2実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第2実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第2実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第2実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第2実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第2実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第2実験課題 (製作作業, レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第2実験課題 (プレゼンテーション, 载荷実験)	設計理念説明 载荷実験の実施
14	第2実験課題 (講評, レポート作成)	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習, レポート整理

5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習, レポート整理

9.10.11.12.13. トラスの力学の復習, レポート整理

14. レポート整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとかたち, 日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5回以上欠席した者は成績評価しない

評価素点100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

【その他の重要事項】

この授業はサマーセッションおよびオースタムセッション期間中に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

Learning Objectives:

Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.

Learning activities outside of classroom:

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB（建築学 / Architecture and building engineering 300）

日本建築史実習

高村 雅彦

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本建築史実習」は現地視察が主な目的です。前後のミーティングや振り返りも対面で行います。2年次秋学期の授業「日本建築史」の中間試験成績上位者のみが3年次A期に履修登録することができます（約30名）。現地視察自体は2年次の1月末ごろに実施し、3年次A期末にガイドブック資料の提出を行って評価します。

以下に概要と目的を示します。

本講義では、現地で古建築を視察し、授業「日本建築史」で学んだ知識を実際の建物を見て、理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

古建築の部材、構法、意匠について、実見により理解を深め、知識を習得することが到達目標とします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎			○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

「日本建築史実習」では、まず履修者が担当する建物をミーティングによって選定し、各自が資料を作成する。現地では、その資料を見ながら、担当者が解説を行います。

なお、履修候補者の決定は2年次の12月、授業「日本建築史」中間試験終了後に決定します。その後、現地視察は翌年の3月の春休み期間中とし、次年度の3年次A期に振り返りとガイドブック資料の提出をもって授業を終了します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 現地視察の進め方 資料作成に関して	日程、ルートの開示。 資料作成の担当を決める。
2	現地視察 1	金地院・南禅寺
3	現地視察 2	高山寺
4	現地視察 3	醍醐寺
5	現地視察 4	室生寺
6	現地視察 5	今西家
7	現地視察 6	音村家
8	現地視察 7	旧米谷家
9	現地視察 8	當麻寺
10	現地視察 9	法隆寺
11	現地視察 1 0	唐招提寺
12	現地視察 1 1	新薬師寺
13	現地視察 1 2	十輪院
14	現地視察の振り返りとガイドブック資料の提出	各自、現地視察の成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 担当の資料を作成する。
2. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
3. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
4. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
5. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
6. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
7. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
8. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
9. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
10. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
11. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
12. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
13. 担当の建築を解説する。他の学生はその内容を理解する。
14. 振り返りで発表する内容をまとめる。

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各担当者が作成した資料をまとめて1冊とし、それをテキストとする。

【参考書】

『日本建築史図集』彰国社

【成績評価の方法と基準】

現地視察およびガイドブックの成果からなる総合点60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、スケッチブックなど

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students acquire actually on seeing Japanese Old architecture of Kyoto and Nara. We actually look at the building of the class "Japanese Historical Architecture of 2 annual and understand them.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn basic scholastic ability of the overall Japanese building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : Your overall grade in the class will be decided based on the following, Contents of the document which you made : 50%, Local commentaries: 50%.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院

猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

1) 自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
3) 気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
4) 図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクリモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション 1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション 2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE200NA（建築学 / Architecture and building engineering 200）

サステナブルデザイン

中野 淳太

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用した建築原理や環境計画手法を習得しながら、建築のサステナブルデザインに関する知識を身につける。パッシブ手法を活用し、なるべく少ないエネルギーで快適に過ごせる住宅を計画する。

【到達目標】

- 1）自然エネルギーを利用し、環境に低負荷な手法の原理を理解する。
 - 2）自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
 - 3）気象データを理解し、その特徴を実社会に応用する方法を習得する。
 - 4）図表や計算を通じて、パッシブ手法を用いた環境計画を習得する。
- これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得することを到達目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、パッシブ手法の基礎に関する講義と計算や図表を用いた環境計画を行う。Excelを用いた計算を行うため、パソコンを持参のこと。最終的に、自分の計画したサステナブル住宅のプレゼンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	気候特性とクロモグラフ	気候を形成する要素を理解し、その組み合わせによる特性を理解する。
2回	気候特性の分析	気象データから気候特性を分析し、特徴をまとめる。
3回	太陽エネルギーと太陽位置	地球の自転と公転の原理を理解し、太陽エネルギーの特性を理解する。
4回	太陽位置の計算	太陽位置を計算し、季節や地域による太陽位置の違いを理解する。
5回	日射と実効放射	短波長放射（日射）と長波長放射の到達経路と特性を理解する。
6回	日射量と実効放射量の計算	方位に応じた日射量と長波長放射量の求め方を理解する。
7回	建築外皮の熱性能	建築外皮を通じた熱貫流および日射熱取得の原理を理解する。
8回	断熱性能の設計	指定された性能の外皮仕様を設計する。
9回	日除けの原理	開口部に対する日射遮蔽の原理を理解する。
10回	日除けの設計	窓の方位と寸法に適した日除けを設計する。
11回	冷房負荷と暖房負荷	冷房能力および暖房能力を求めるのに必要となる熱負荷の原理を理解する。
12回	外皮性能と自然室温	外皮性能に応じた自然室温を計算し、外皮熱性能の改善を図る。
13回	プレゼンテーション1	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。
14回	プレゼンテーション2	自分の計画したサステナブル住宅について発表・講評をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関する資料を配布する

【参考書】

田中俊六 他、『最新 建築環境工学』、井上書院
猪岡達夫、『デザイナーのための建築環境計画 熱・日射・風』、丸善出版など

【成績評価の方法と基準】

時限中に計算、設計等を行い、毎回提出する。毎回の演習（30～50%）とプレゼンテーション（50～70%）により、総合的に判断する。未提出課題が3回を超えた者の評価は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【学生が準備すべき機器他】

事前の教員の指示に従い、Excelの使えるPC等、製図用具等を持参する。

【その他の重要事項】

講義を聴くだけでなく、各回の演習を通じた環境計画手法の習得が重要である。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to acquire engineering knowledge of sustainable design while learning architectural principles and environmental planning methods that utilize natural energy. Students will plan a house that uses as little energy as possible while maintaining comfort.

Learning Objectives:1) Understand the principles of methods that utilize natural energy and have a low impact on the environment. (2) Learn how to apply the methods of natural energy utilization. (3) Understand weather data and learn how to apply its characteristics to the building design. (4) Master environmental planning using passive methods through charts and calculations.

Through these, the goal is to acquire the ability to apply sustainable technology that can be applied to various fields.

Learning activities outside of classroom: Students are required to study the relevant parts of the textbook in advance. In addition, students are expected to review the textbook and perform similar exercises in the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on a total of 30-50% of the exercises and 50-70% of the final presentation.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。6回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90％）となる。質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価（10％）として加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマを組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にすることだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で7回となっているのは、各講演の時間が2時間分に当たることと、講演の翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。

フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。

授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、 in class contribution: 10%

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

デザインフォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、山道 拓人、南後 由和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部3学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？ ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？ 建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？ 建築でも土木でもない新しい分野とは？ アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？ 今日コミュニティはどのような意味をもっているか？ こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
- 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
- 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返し特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6-7回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6-7回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成(1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成(2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成(3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成(4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成(5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成(6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
授業への取り組み（20%）と7回のレポート（講演メモ+講演レポート、80%）によって評価を行なうが、質問タイムへの参加はTAが記録し、授業参加評価に加点される。合計100点満点中60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って6-7名の講師を選定し招聘している。2021年度よりデザイン工学部3学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

[Learning Objectives]

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

エンジニアリングデザインの基礎（2023年度以降入学生）都市

藤本 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資料や記録は、設計活動や研究の基盤となる情報源であるのみならず、都市や建築の記憶を担保し、将来へ継承するためのツールでもある。本授業では、都市、建築、デザインに関わる情報・資料・記録のあり方とその活用方法を学び、自らの活動における活かし方を考える。また、情報を扱う文化機関の機能と建築や都市との関係を知る。

【到達目標】

建築生産や社会における情報・資料・記録の役割を理解し、日常生活から研究活動に至るまで、これらの情報を活用することのできるリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについてレジュメを配布し、スライドを用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と進め方、アーカイブズについての導入
第2回	記録とは何か	建築に関わる資料を事例に、「記録」の要件や種類、一次資料と二次資料の違いを学ぶ
第3回	記録が担保する「証拠」と「記憶」	記録が持つ重要な役割である証拠性と記憶について考える
第4回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(1)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第5回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(2)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第6回	博物館・美術館／図書館／アーカイブズ	情報を扱う文化機関である博物館・美術館、図書館、アーカイブズの機能と役割について学ぶ
第7回	現代のアーカイブズ機関の使命と役割	現代のアーカイブズ機関の使命と役割について、海外の実践事例を含めて紹介する
第8回	中間レポート講評	中間レポートの講評
第9回	情報機関としての文化施設—国立西洋美術館	近代の情報に対する建築家の試みを、ル・コルビュジエの活動から読み解く
第10回	ムンダネウム—ポール・オトレと情報分類	ル・コルビュジエと協働して都市としての情報文化機関を構想したポール・オトレの思想を読み解く
第11回	情報と建築—建築家・山越邦彦	建築業界に国際十進分類法を導入した建築家・山越邦彦の思想を読み解く
第12回	情報を扱う文化機関を支える職能	情報を扱う文化機関を支える職能について、建築やデザインに関わる事例から学ぶ
第13回	建築アーカイブズと教育—アメリカ議会図書館の事例	建築アーカイブズの教育的役割について、アメリカ議会図書館の事例から学ぶ
第14回	最終課題発表・講評とまとめ	最終課題の発表と講評、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するレジュメ及び紹介する参考文献を読み、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、授業ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

国文学研究資料館 編『アーカイブズ学入門』 勉誠社, 2024

下重直樹、湯上良 編『アーキビストとしてはたらく 記録と人が社会をつなぐ』山川出版社, 2022

高野文子「奥村さんのお茄子」『棒がっぽん』マガジンハウス, 1995

エヤル・ヴァイツマン著、中井悠訳『フォレンジック・アーキテクチャー 検知可能性の敷居における暴力』水声社, 2025

ロバート・マクシミリアン・ヴォイチュツケ著、江本弘監訳『未完の美術館 調和にむかって—ル・コルビュジエの思想と国立西洋美術館』Echelle-1, 2023

アレックス・ライト著、鈴木和博訳『世界目録をつくろうとした男 奇才ポール・オトレと情報化時代の誕生』みすず書房, 2024

【成績評価の方法と基準】

中間レポート25%、最終課題50%、授業における貢献25%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

具体事例を多く紹介し、図版を多用する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Documents and records are fundamental resource not only for design practice and historical research but also for support memory of city and architecture and inheriting it. This class teaches about theory and practice of information, documents, records and archives concerning cities, architecture, and design to understand how to utilize them. Additionally, understand the functions of cultural institutions that handle information, and the relationship between these facilities and architecture and cities.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the role of information, documents and records in architectural practice and society, and to acquire literacy to utilize them in contexts ranging from daily life to research.

【Learning activities outside of classroom】

Before or after each class, students will be expected to spend two hours for reading resume and reference books to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on mid-term report(25%), term-end presentation(50%) and in class contribution(25%).

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

エンジニアリングデザインの基礎（2023年度以降入学生）建築

藤本 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資料や記録は、設計活動や研究の基盤となる情報源であるのみならず、都市や建築の記憶を担保し、将来へ継承するためのツールでもある。本授業では、都市、建築、デザインに関わる情報・資料・記録のあり方とその活用方法を学び、自らの活動における活かし方を考える。また、情報を扱う文化機関の機能と建築や都市との関係を知る。

【到達目標】

建築生産や社会における情報・資料・記録の役割を理解し、日常生活から研究活動に至るまで、これらの情報を活用することのできるリテラシーを身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについてレジュメを配布し、スライドを用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と進め方、アーカイブズについての導入
第2回	記録とは何か	建築に関わる資料を事例に、「記録」の要件や種類、一次資料と二次資料の違いを学ぶ
第3回	記録が担保する「証拠」と「記憶」	記録が持つ重要な役割である証拠性と記憶について考える
第4回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(1)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第5回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(2)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第6回	博物館・美術館／図書館／アーカイブズ	情報を扱う文化機関である博物館・美術館、図書館、アーカイブズの機能と役割について学ぶ
第7回	現代のアーカイブズ機関の使命と役割	現代のアーカイブズ機関の使命と役割について、海外の実践事例を含めて紹介する
第8回	中間レポート講評	中間レポートの講評
第9回	情報機関としての文化施設—国立西洋美術館	近代の情報に対する建築家の試みを、ル・コルビュジエの活動から読み解く
第10回	ムンダネウム・ポール・オートレと情報分類	ル・コルビュジエと協働して都市としての情報文化機関を構想したポール・オートレの思想を読み解く
第11回	情報と建築—建築家・山越邦彦	建築業界に国際十進分類法を導入した建築家・山越邦彦の思想を読み解く
第12回	情報を扱う文化機関を支える職能	情報を扱う文化機関を支える職能について、建築やデザインに関わる事例から学ぶ
第13回	建築アーカイブズと教育—アメリカ議会図書館の事例	建築アーカイブズの教育的役割について、アメリカ議会図書館の事例から学ぶ
第14回	最終課題発表・講評とまとめ	最終課題の発表と講評、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するレジュメ及び紹介する参考文献を読み、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、授業ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

国文学研究資料館 編『アーカイブズ学入門』 勉誠社, 2024

下重直樹、湯上良 編『アーキビストとしてはたらく 記録と人が社会をつなぐ』 山川出版社, 2022

高野文子「奥村さんのお茄子」『棒がっぽん』 マガジンハウス, 1995

エヤル・ヴァイツマン著、中井悠訳『フォレンジック・アーキテクチャー 検知可能性の敷居における暴力』 水声社, 2025

ロバート・マクシミリアン・ヴォイチュツケ著、江本弘監訳『未完の美術館 調和にむかって—ル・コルビュジエの思想と国立西洋美術館』 Echelle-1, 2023

アレックス・ライト著、鈴木和博訳『世界目録をつくろうとした男 奇才ポール・オートレと情報化時代の誕生』 みすず書房, 2024

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、最終課題 50%、授業における貢献 25%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

具体事例を多く紹介し、図版を多用する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Documents and records are fundamental resource not only for design practice and historical research but also for support memory of city and architecture and inheriting it. This class teaches about theory and practice of information, documents, records and archives concerning cities, architecture, and design to understand how to utilize them. Additionally, understand the functions of cultural institutions that handle information, and the relationship between these facilities and architecture and cities.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the role of information, documents and records in architectural practice and society, and to acquire literacy to utilize them in contexts ranging from daily life to research.

【Learning activities outside of classroom】

Before or after each class, students will be expected to spend two hours for reading resume and reference books to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on mid-term report(25%), term-end presentation(50%) and in class contribution(25%).

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

エンジニアリングデザインの基礎（2023年度以降入学生）SD

藤本 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資料や記録は、設計活動や研究の基盤となる情報源であるのみならず、都市や建築の記憶を担保し、将来へ継承するためのツールでもある。本授業では、都市、建築、デザインに関わる情報・資料・記録のあり方とその活用方法を学び、自らの活動における活かし方を考える。また、情報を扱う文化機関の機能と建築や都市との関係を知る。

【到達目標】

建築生産や社会における情報・資料・記録の役割を理解し、日常生活から研究活動に至るまで、これらの情報を活用することのできるリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについてレジュメを配布し、スライドを用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と進め方、アーカイブズについての導入
第2回	記録とは何か	建築に関わる資料を事例に、「記録」の要件や種類、一次資料と二次資料の違いを学ぶ
第3回	記録が担保する「証拠」と「記憶」	記録が持つ重要な役割である証拠性と記憶について考える
第4回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(1)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第5回	都市や建築に関わる「証拠」と「記憶」(2)	建築や都市に関わる「証拠」や「記憶」が果たす役割について考える
第6回	博物館・美術館／図書館／アーカイブズ	情報を扱う文化機関である博物館・美術館、図書館、アーカイブズの機能と役割について学ぶ
第7回	現代のアーカイブズ機関の使命と役割	現代のアーカイブズ機関の使命と役割について、海外の実践事例を含めて紹介する
第8回	中間レポート講評	中間レポートの講評
第9回	情報機関としての文化施設—国立西洋美術館	近代の情報に対する建築家の試みを、ル・コルビュジエの活動から読み解く
第10回	ムンダネウム—ポール・オトレと情報分類	ル・コルビュジエと協働して都市としての情報文化機関を構想したポール・オトレの思想を読み解く
第11回	情報と建築—建築家・山越邦彦	建築業界に国際十進分類法を導入した建築家・山越邦彦の思想を読み解く
第12回	情報を扱う文化機関を支える職能	情報を扱う文化機関を支える職能について、建築やデザインに関わる事例から学ぶ
第13回	建築アーカイブズと教育—アメリカ議会図書館の事例	建築アーカイブズの教育的役割について、アメリカ議会図書館の事例から学ぶ
第14回	最終課題発表・講評とまとめ	最終課題の発表と講評、授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するレジュメ及び紹介する参考文献を読み、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、授業ごとにレジュメを配布する。

【参考書】

国文学研究資料館 編『アーカイブズ学入門』 勉誠社, 2024

下重直樹、湯上良 編『アーキビストとしてはたらく 記録と人が社会をつなぐ』山川出版社, 2022

高野文子「奥村さんのお茄子」『棒がっぽん』マガジンハウス, 1995

エヤル・ヴァイツマン著、中井悠訳『フォレンジック・アーキテクチャー 検知可能性の敷居における暴力』水声社, 2025

ロバート・マクシミリアン・ヴォイチュツケ著、江本弘監訳『未完の美術館 調和にむかって—ル・コルビュジエの思想と国立西洋美術館』Echelle-1, 2023

アレックス・ライト著、鈴木和博訳『世界目録をつくろうとした男 奇才ポール・オトレと情報化時代の誕生』みすず書房, 2024

【成績評価の方法と基準】

中間レポート25%、最終課題50%、授業における貢献25%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

具体事例を多く紹介し、図版を多用する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Documents and records are fundamental resource not only for design practice and historical research but also for support memory of city and architecture and inheriting it. This class teaches about theory and practice of information, documents, records and archives concerning cities, architecture, and design to understand how to utilize them. Additionally, understand the functions of cultural institutions that handle information, and the relationship between these facilities and architecture and cities.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the role of information, documents and records in architectural practice and society, and to acquire literacy to utilize them in contexts ranging from daily life to research.

【Learning activities outside of classroom】

Before or after each class, students will be expected to spend two hours for reading resume and reference books to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on mid-term report(25%), term-end presentation(50%) and in class contribution(25%).

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

エンジニアリングデザインの応用（2023年度以降入学生）SD

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は数学、物理が工学の問題を解く際に、どのように役立つか概要を理解することを目的にする。たとえば、構造物を設計する際、外力に対して構造物にどのような力が生じて、どのように破壊するかを知る必要がある。そのためには実験を行って現象を観察し、それを物理法則を用いて数式化する。その数式を解いた結果と実験結果を比較することで性能を実証する。そこで講義は以下の内容を扱って数学、物理を用いた工学的な手法の基礎を学ぶ。

①微分方程式演習 ②微分方程式の実例とその解 ③力の可視化 ④トラスと梁の模型実験 ⑤モデル化、線材置換 ⑥応力計算

【到達目標】

- ・常微分方程式の解法を習得する
- ・物理現象を数式化した実例を学びその有効性を理解する
- ・力を可視化して理解を深める。
- ・トラスと梁の力学原理を模型実験を通して理解する。
- ・トラスと梁の応力を計算するためのモデル化を理解する。
- ・応力計算に必要な基礎知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回の講義で演習例題を配布し、内容を解説する。
- ・各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次回の講義前に提出すること。
- ・中間テストと期末テストを実施して、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 常微分方程式の解法	講義の目的、到達目標、定数係数同 次方程式の演習
2	演算法 1	特殊解の計算演習
3	演算法 2	特殊解の計算演習
4	微分方程式の実例 1	梁のたわみ曲線
5	微分方程式の実例 2	柱の座屈
6	微分方程式の実例 3	構造物の振動
7	中間テスト	微分方程式に関するテスト
8	力の釣り合い 1	図式解法 示力図
9	力の釣り合い 2	図式解法 連力図
10	トラスの力学	トラスの模型実験
11	トラスに生じる応力 1	図式解法解説
12	トラスに生じる応力 2	図式解法演習
13	梁の力学	梁の模型実験
14	梁に生じる応力	曲げモーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重点的に演習の必要なテーマについて、演習課題を提示する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

演習課題 20% 中間試験 40% 期末試験 40% 配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to provide an overview of how mathematics and physics can be useful in solving engineering problems. For example, when designing a structure, it is necessary to know what kind of force is generated in the structure in response to external forces and how the structure will fail. To do this, we conduct experiments to observe the phenomena, which are then converted into mathematical formulas using the laws of physics. Performance is demonstrated by comparing the results of solving the equations with the experimental results. Therefore, the lecture covers the following topics to learn the basics of engineering methods using mathematics and physics.

(1) Exercise of differential equations (2) Examples of differential equations and their solutions (3) Visualization of forces (4) Model experiments of trusses and beams (5) Modeling and wire replacement (6) Stress calculations

【Learning Objectives】

Learn how to solve ordinary differential equations

Understand the effectiveness of mathematical expressions for physical phenomena.

Visualize forces to deepen understanding.

To understand the mechanical principles of trusses and beams through model experiments.

To understand the modeling for calculating stresses of trusses and beams.

To acquire basic knowledge necessary for stress calculation.

【Learning activities outside of classroom】

Exercise assignments will be presented on topics requiring intensive practice.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Exercises 20% Mid-term exam 40% Final exam 40% Grading

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

エンジニアリングデザインの応用（2023年度以降入学生）建築

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は数学、物理が工学の問題を解く際に、どのように役立つか概要を理解することを目的にする。たとえば、構造物を設計する際、外力に対して構造物にどのような力が生じて、どのように破壊するかを知る必要がある。そのためには実験を行って現象を観察し、それを物理法則を用いて数式化する。その数式を解いた結果と実験結果を比較することで性能を実証する。そこで講義は以下の内容を扱って数学、物理を用いた工学的な手法の基礎を学ぶ。

①微分方程式演習 ②微分方程式の実例とその解 ③力の可視化 ④トラスと梁の模型実験 ⑤モデル化、線材置換 ⑥応力計算

【到達目標】

- ・常微分方程式の解法を習得する
- ・物理現象を数式化した実例を学びその有効性を理解する
- ・力を可視化して理解を深める。
- ・トラスと梁の力学原理を模型実験を通して理解する。
- ・トラスと梁の応力を計算するためのモデル化を理解する。
- ・応力計算に必要な基礎知識を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回の講義で演習例題を配布し、内容を解説する。
- ・各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次回の講義前に提出すること。
- ・中間テストと期末テストを実施して、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の目的、到達目標、定数係数同
	常微分方程式の解法	次方程式の演習
2	演算法 1	特殊解の計算演習
3	演算法 2	特殊解の計算演習
4	微分方程式の実例 1	梁のたわみ曲線
5	微分方程式の実例 2	柱の座屈
6	微分方程式の実例 3	構造物の振動
7	中間テスト 1	微分方程式に関するテスト
8	力の釣り合い 1	図式解法 示力図
9	力の釣り合い 2	図式解法 連力図
10	トラスの力学	トラスの模型実験
11	トラスに生じる応力 1	図式解法解説
12	トラスに生じる応力 2	図式解法演習
13	梁の力学	梁の模型実験
14	梁に生じる応力	曲げモーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重点的に演習の必要なテーマについて、演習課題を提示する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

演習課題 20% 中間試験 40% 期末試験 40% 配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to provide an overview of how mathematics and physics can be useful in solving engineering problems. For example, when designing a structure, it is necessary to know what kind of force is generated in the structure in response to external forces and how the structure will fail. To do this, we conduct experiments to observe the phenomena, which are then converted into mathematical formulas using the laws of physics. Performance is demonstrated by comparing the results of solving the equations with the experimental results.

Therefore, the lecture covers the following topics to learn the basics of engineering methods using mathematics and physics.

(1) Exercise of differential equations (2) Examples of differential equations and their solutions (3) Visualization of forces (4) Model experiments of trusses and beams (5) Modeling and wire replacement (6) Stress calculations

【Learning Objectives】

Learn how to solve ordinary differential equations

Understand the effectiveness of mathematical expressions for physical phenomena.

Visualize forces to deepen understanding.

To understand the mechanical principles of trusses and beams through model experiments.

To understand the modeling for calculating stresses of trusses and beams.

To acquire basic knowledge necessary for stress calculation.

【Learning activities outside of classroom】

Exercise assignments will be presented on topics requiring intensive practice.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Exercises 20% Mid-term exam 40% Final exam 40% Grading

MAT100NA（数学 / Mathematics 100）

エンジニアリングデザインの応用（2023年度以降入学生）都市

宮田 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は数学、物理が工学の問題を解く際に、どのように役立つかを概要を理解することを目的にする。たとえば、構造物を設計する際、外力に対して構造物にどのような力が生じて、どのように破壊するかを知る必要がある。そのためには実験を行って現象を観察し、それを物理法則を用いて数式化する。その数式を解いた結果と実験結果を比較することで性能を実証する。そこで講義は以下の内容を扱って数学、物理を用いた工学的な手法の基礎を学ぶ。

①微分方程式演習 ②微分方程式の実例とその解 ③力の可視化 ④トラスと梁の模型実験 ⑤モデル化、線材置換 ⑥応力計算

【到達目標】

- ・常微分方程式の解法を習得する
- ・物理現象を数式化した実例を学びその有効性を理解する
- ・力を可視化して理解を深める。
- ・トラスと梁の力学原理を模型実験を通して理解する。
- ・トラスと梁の応力を計算するためのモデル化を理解する。
- ・応力計算に必要な基礎知識を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 100%
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・各回の講義で演習例題を配布し、内容を解説する。
- ・各自で演習問題に取り組み、解答を作成して次回の講義前に提出すること。
- ・中間テストと期末テストを実施して、理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の目的、到達目標、定数係数同
	常微分方程式の解法	次方程式の演習
2	演算法 1	特殊解の計算演習
3	演算法 2	特殊解の計算演習
4	微分方程式の実例 1	梁のたわみ曲線
5	微分方程式の実例 2	柱の座屈
6	微分方程式の実例 3	構造物の振動
7	中間テスト	微分方程式に関するテスト
8	力の釣り合い 1	図式解法 示力図
9	力の釣り合い 2	図式解法 連力図
10	トラスの力学	トラスの模型実験
11	トラスに生じる応力 1	図式解法解説
12	トラスに生じる応力 2	図式解法演習
13	梁の力学	梁の模型実験
14	梁に生じる応力	曲げモーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重点的に演習の必要なテーマについて、演習課題を提示する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

演習課題 20% 中間試験 40% 期末試験 40% 配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to provide an overview of how mathematics and physics can be useful in solving engineering problems. For example, when designing a structure, it is necessary to know what kind of force is generated in the structure in response to external forces and how the structure will fail. To do this, we conduct experiments to observe the phenomena, which are then converted into mathematical formulas using the laws of physics. Performance is demonstrated by comparing the results of solving the equations with the experimental results. Therefore, the lecture covers the following topics to learn the basics of engineering methods using mathematics and physics.

(1) Exercise of differential equations (2) Examples of differential equations and their solutions (3) Visualization of forces (4) Model experiments of trusses and beams (5) Modeling and wire replacement (6) Stress calculations

【Learning Objectives】

Learn how to solve ordinary differential equations

Understand the effectiveness of mathematical expressions for physical phenomena.

Visualize forces to deepen understanding.

To understand the mechanical principles of trusses and beams through model experiments.

To understand the modeling for calculating stresses of trusses and beams.

To acquire basic knowledge necessary for stress calculation.

【Learning activities outside of classroom】

Exercise assignments will be presented on topics requiring intensive practice.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Exercises 20% Mid-term exam 40% Final exam 40% Grading

ADE100NA（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザイン工学概論

南後 由和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生のみ受講可

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、建築・都市環境デザイン工学・システムデザインに関する具体的なトピックを領域横断的に扱い、社会の変化によるデザイン工学の変遷について多面的に学ぶ。デザインおよび工学の表層にとらわれず、それらの背後にある諸問題を認識し、多角的に考察する実践感覚を養う。

【到達目標】

- ・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインをめぐる学際性への知見を深める。
- ・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインの経験の読み解きを通じて、「作る」と「使う」ことの二項対立を超えた視座を培う。
- ・メディア環境や地球環境の変化によって、デザイン工学が視野に入れるべき領域がどのように拡張しつつあるのかについての洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、工学とは何か、デザインとは何か、デザイン工学をめざして
2	学際性	学際性、社会学する実践感覚、社会-空間論、アクターネットワーク理（ANT）
3	観察と記述	考現学、デザイン・サーヴェイ、路上観察学会、アトリエ・ワン、エスノグラフィ
4	メディアと空間	メディアとしての空間、空間のメディア表現、空間のなかのメディア、メディアのなかの空間
5	アーカイヴ	都市の記憶—集合的記憶、映画の都市表象分析
6	情報デザイン	インフォグラフィックス、ピクトグラム・ダイアグラム・ノーテーション
7	スケール	建築のスケール、地図とは何か、地図のスケールと地理学的想像力
8	ひとり空間	「おひとりさま」現象、〈ひとり空間〉とは何か、都市・日本・情報社会と〈ひとり空間〉、コロナ禍における〈ひとり空間〉の変容

9	群衆空間	群衆とは何か、〈群衆空間〉とは何か、渋谷スクランブル交差点、音楽フェス
10	インフラ	建築と土木、テクノスケープ、東京湾岸
11	商業空間	SC小史、SCの空間的特徴、陳列・什器
12	システム	遊びとルール、ゲームと建築・都市、P2Pプラットフォームと都市
13	デザインの拡張	建築的思考、デザイン思考、デザインリサーチ
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・アンリ・ルフェーヴル 『空間の生産』 斎藤日出治訳、青木書店、2000。
- ・明治大学神代研究室・法政大学宮脇ゼミナール 『復刻 デザイン・サーヴェイ』 彰国社、2012。
- ・アンソニー・ダン、フィオー・レイビー 『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。』 久保田晃弘監修・千葉敏生訳、BNN新社、2015。
- ・三浦展・藤村龍至・南後由和 『商業空間は何の夢を見たか 1960 2010 年代の都市と建築』 平凡社、2016。
- ・永原康史 『インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史』 誠文堂新光社、2016。
- ・南後由和 『ひとり空間の都市論』 筑摩書房、2018。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 35 %、期末試験 65 %
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course addresses particular themes pertaining to Architecture, Civil and Environmental Engineering, and systemic design in a transdisciplinary fashion, enabling students to comprehend the evolution of design engineering in response to societal shifts from manifold viewpoints. Students are tasked with cultivating a pragmatic discernment to discern the myriad issues underlying design and engineering, and to evaluate them from diverse perspectives, transcending superficial constraints of design and engineering.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Deepen their understanding of the interdisciplinary nature of architecture, civil and environmental engineering, and systems design.

- Cultivate a perspective that transcends the binary opposition between “making” and “using” through the critical interpretation of experiences in architecture, civil and environmental engineering, and systems design.

- Develop insight into how changes in media environments and the global environment are expanding the domains that design engineering must take into consideration.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reaction papers: 35%、Term-end examination : 65%

ADE100NA（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザイン工学概論

南後 由和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生のみ受講可

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、建築・都市環境デザイン工学・システムデザインに関する具体的なトピックを領域横断的に扱い、社会の変化によるデザイン工学の変遷について多面的に学ぶ。デザインおよび工学の表層にとらわれず、それらの背後にある諸問題を認識し、多角的に考察する実践感覚を養う。

【到達目標】

- ・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインをめぐる学際性への知見を深める。
- ・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインの経験の読み解きを通じて、「作る」と「使う」ことの二項対立を超えた視座を培う。
- ・メディア環境や地球環境の変化によって、デザイン工学が視野に入れるべき領域がどのように拡張しつつあるのかについての洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、工学とは何か、デザインとは何か、デザイン工学をめざして
2	学際性	学際性、社会学する実践感覚、社会-空間論、アクターネットワーク理（ANT）
3	観察と記述	考現学、デザイン・サーヴェイ、路上観察学会、アトリエ・ワン、エスノグラフィ
4	メディアと空間	メディアとしての空間、空間のメディア表現、空間のなかのメディア、メディアのなかの空間
5	アーカイヴ	都市の記憶—集合的記憶、映画の都市表象分析
6	情報デザイン	インフォグラフィックス、ピクトグラム・ダイアグラム・ノーテーション
7	スケール	建築のスケール、地図とは何か、地図のスケールと地理学的想像力
8	ひとり空間	「おひとりさま」現象、〈ひとり空間〉とは何か、都市・日本・情報社会と〈ひとり空間〉、コロナ禍における〈ひとり空間〉の変容

9	群衆空間	群衆とは何か、〈群衆空間〉とは何か、渋谷スクランブル交差点、音楽フェス
10	インフラ	建築と土木、テクノスケープ、東京湾岸
11	商業空間	SC小史、SCの空間的特徴、陳列・什器
12	システム	遊びとルール、ゲームと建築・都市、P2Pプラットフォームと都市
13	デザインの拡張	建築的思考、デザイン思考、デザインリサーチ
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・アンリ・ルフェーヴル 『空間の生産』 斎藤日出治訳、青木書店、2000。
- ・明治大学神代研究室・法政大学宮脇ゼミナール 『復刻 デザイン・サーヴェイ』 彰国社、2012。
- ・アンソニー・ダン、フィオー・レイビー 『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。』 久保田晃弘監修・千葉敏生訳、BNN新社、2015。
- ・三浦展・藤村龍至・南後由和 『商業空間は何の夢を見たか 1960 2010 年代の都市と建築』 平凡社、2016。
- ・永原康史 『インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史』 誠文堂新光社、2016。
- ・南後由和 『ひとり空間の都市論』 筑摩書房、2018。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 35 %、期末試験 65 %
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course addresses particular themes pertaining to Architecture, Civil and Environmental Engineering, and systemic design in a transdisciplinary fashion, enabling students to comprehend the evolution of design engineering in response to societal shifts from manifold viewpoints. Students are tasked with cultivating a pragmatic discernment to discern the myriad issues underlying design and engineering, and to evaluate them from diverse perspectives, transcending superficial constraints of design and engineering.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Deepen their understanding of the interdisciplinary nature of architecture, civil and environmental engineering, and systems design.

- Cultivate a perspective that transcends the binary opposition between “making” and “using” through the critical interpretation of experiences in architecture, civil and environmental engineering, and systems design.

- Develop insight into how changes in media environments and the global environment are expanding the domains that design engineering must take into consideration.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reaction papers: 35%、 Term-end examination : 65%

ADE100NA（建築学 / Architecture and building engineering 100）

デザイン工学概論

南後 由和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生のみ受講可

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、建築・都市環境デザイン工学・システムデザインに関する具体的なトピックを領域横断的に扱い、社会の変化によるデザイン工学の変遷について多面的に学ぶ。デザインおよび工学の表層にとらわれず、それらの背後にある諸問題を認識し、多角的に考察する実践感覚を養う。

【到達目標】

- ・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインをめぐる学際性への知見を深める。
- ・建築・都市環境デザイン工学・システムデザインの経験の読み解きを通じて、「作る」と「使う」ことの二項対立を超えた視座を培う。
- ・メディア環境や地球環境の変化によって、デザイン工学が視野に入れるべき領域がどのように拡張しつつあるのかについての洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿って、スライド教材を用いた講義をオンデマンド動画配信する。
毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とし、授業内容の理解の定着をはかる。リアクションペーパーのフィードバックは、授業中のコメントもしくは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要・成績評価の方法、工学とは何か、デザインとは何か、デザイン工学をめざして
2	学際性	学際性、社会学する実践感覚、社会-空間論、アクターネットワーク理（ANT）
3	観察と記述	考現学、デザイン・サーヴェイ、路上観察学会、アトリエ・ワン、エスノグラフィ
4	メディアと空間	メディアとしての空間、空間のメディア表現、空間のなかのメディア、メディアのなかの空間
5	アーカイヴ	都市の記憶—集合的記憶、映画の都市表象分析
6	情報デザイン	インフォグラフィックス、ピクトグラム・ダイアグラム・ノーテーション
7	スケール	建築のスケール、地図とは何か、地図のスケールと地理学的想像力
8	ひとり空間	「おひとりさま」現象、〈ひとり空間〉とは何か、都市・日本・情報社会と〈ひとり空間〉、コロナ禍における〈ひとり空間〉の変容

9	群衆空間	群衆とは何か、〈群衆空間〉とは何か、渋谷スクランブル交差点、音楽フェス
10	インフラ	建築と土木、テクノスケープ、東京湾岸
11	商業空間	SC小史、SCの空間的特徴、陳列・什器
12	システム	遊びとルール、ゲームと建築・都市、P2Pプラットフォームと都市
13	デザインの拡張	建築的思考、デザイン思考、デザインリサーチ
14	総括	授業の振り返りとまとめ：リアクションペーパーのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、リアクションペーパーを学習支援システムで提出することを課題とする。
授業中に紹介する参考文献を読んで、理解を深めることが求められる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・アンリ・ルフェーヴル 『空間の生産』 斎藤日出治訳、青木書店、2000。
- ・明治大学神代研究室・法政大学宮脇ゼミナール 『復刻 デザイン・サーヴェイ』 彰国社、2012。
- ・アンソニー・ダン、フィオー・レイビー 『スペキュラティヴ・デザイン 問題解決から、問題提起へ。』 久保田晃弘監修・千葉敏生訳、BNN新社、2015。
- ・三浦展・藤村龍至・南後由和 『商業空間は何の夢を見たか 1960 2010 年代の都市と建築』 平凡社、2016。
- ・永原康史 『インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史』 誠文堂新光社、2016。
- ・南後由和 『ひとり空間の都市論』 筑摩書房、2018。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 35 %、期末試験 65 %
成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例や図版の数をより増やした講義をする。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド動画配信・教材配布・リアクションペーパー提出などのために、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業内容および順番は必要に応じて変更することがある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course addresses particular themes pertaining to Architecture, Civil and Environmental Engineering, and systemic design in a transdisciplinary fashion, enabling students to comprehend the evolution of design engineering in response to societal shifts from manifold viewpoints. Students are tasked with cultivating a pragmatic discernment to discern the myriad issues underlying design and engineering, and to evaluate them from diverse perspectives, transcending superficial constraints of design and engineering.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Deepen their understanding of the interdisciplinary nature of architecture, civil and environmental engineering, and systems design.

- Cultivate a perspective that transcends the binary opposition between “making” and “using” through the critical interpretation of experiences in architecture, civil and environmental engineering, and systems design.

- Develop insight into how changes in media environments and the global environment are expanding the domains that design engineering must take into consideration.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reaction papers: 35%、Term-end examination : 65%

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

マテリアルデザイン

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市構造物の構造デザインにおいて、構造耐力、耐久性、耐火性能、環境性能、コスト、多様な要求性能を検証したうえで、最適な材料を選択することが重要です。そのためには、それぞれの材料毎に特性を理解し、それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では、「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法、力学特性、その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」、「鉄筋コンクリート構造」、「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】

- ・構造材料の製造方法、加工方法を理解する。
- ・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
- ・構造材料の耐久性、耐火性能を理解する。
- ・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
- ・構造材料それぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
- ・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
- ・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
- ・授業内で教材資料を解説します。
- ・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
- ・中間テストを3回実施して、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 鋼材 1	授業ガイダンス 構造材料の種類 鋼の製造法・加工法
2	鋼材 2	鋼材の性質
3	鋼材 3	鋼材を用いた工法
4	鋼材 4	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート 1	セメントの種類、セメントの製造法
7	コンクリート 2	骨材の種類、コンクリートの種類と性質 応力－ひずみ曲線
8	コンクリート 3	コンクリートを用いた工法

9	コンクリート 4	コンクリートと構造物のデザイン
10	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
11	木質材料 1	木質材料の種類と性質
12	木質材料 2	木質材料と製造法・加工法
13	木質材料 3	木質材料を用いた工法
14	木質材料 4	木質材料と建物のデザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テキストの復習、および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】

授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テスト実施する。中間1回目 30%、中間2回目 30%、期末 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」、「鋼のデザイン」、「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので、その履修を強く勧める。
また、建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.

【Learning Objectives】

To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.
To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.
To understand the durability and fire resistance of structural materials.
To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.
To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.
To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.

To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

ADE300NA（建築学 / Architecture and building engineering 300）

マテリアルデザイン

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市構造物の構造デザインにおいて、構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コスト，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】

- ・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
- ・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
- ・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
- ・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
- ・構造材料それぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
- ・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
- ・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
- ・授業内で教材資料を解説します。
- ・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
- ・中間テストを3回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス 構造材料の種類
2	鋼材 1	金属材料の種類，鋼の製造法・加工法
3	鋼材 2	鋼材の性質
4	鋼材 3	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート材料1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート材料2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力－ひずみ曲線
8	コンクリート材料3	コンクリートと構造物のデザイン
9	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
10	木質材料1	木質材料の種類と性質
11	木質材料2	木質材料と製造法・加工法
12	木質材料3	木質材料と建物のデザイン

13	材料の選択と構造物のデザイン	構造材料の特性比較と構造デザインの事例
14	中間テスト③	木質材料に関するテスト テストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】

授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内で中間テストを3回実施し，1回目 30%，2回目 30%，3回目 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.

【Learning Objectives】

To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.

To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.

To understand the durability and fire resistance of structural materials.

To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.

To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.

To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.

To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

ADE300NA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

マテリアルデザイン

宮田 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市構造物の構造デザインにおいて、構造耐力，耐久性，耐火性能，環境性能，コスト，多様な要求性能を検証したうえで，最適な材料を選択することが重要です。そのためには，それぞれの材料毎に特性を理解し，それを活かして構造物を構築する工学的手法を学ぶ必要があります。この授業では，「構造材料」に焦点を当てその製造方法から加工方法，力学特性，その他各種性能について実例を交えて解説します。現代の構造工学において特に重要な「鋼構造」，「鉄筋コンクリート構造」，「木構造」のデザインを理解するための基礎知識を修得することを目的とします。

【到達目標】

- ・構造材料の製造方法，加工方法を理解する。
- ・構造材料の応力度－ひずみ度関係など力学特性を理解する。
- ・構造材料の耐久性，耐火性能を理解する。
- ・構造材料それぞれの特徴を活かした工法の概要を理解する。
- ・構造材料それぞれの塑性特性および破壊までのエネルギー吸収性能を理解する。
- ・構造材料の特性を活かした構造デザインの実践例を知る。
- ・異なる構造材料のそれぞれの長所を組み合わせる設計法の概要を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・教材資料を授業支援システムにアップロードします。
- ・授業内で教材資料を解説します。
- ・授業内で紹介する参考書など自習して理解を深めること。
- ・中間テストを3回実施して，理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業ガイダンス 構造材料の種類
2	鋼材 1	金属材料の種類，鋼の製造法・加工法
3	鋼材 2	鋼材の性質
4	鋼材 3	鋼材と構造物のデザイン
5	中間テスト①	鋼材に関するテスト テストの解説
6	コンクリート材料1	セメントの種類，セメントの製造法
7	コンクリート材料2	骨材の種類，コンクリートの種類と性質 応力－ひずみ曲線
8	コンクリート材料3	コンクリートと構造物のデザイン
9	中間テスト②	コンクリートに関するテスト テストの解説
10	木質材料1	木質材料の種類と性質
11	木質材料2	木質材料と製造法・加工法
12	木質材料3	木質材料と建物のデザイン

13	材料の選択と構造物のデザイン	構造材料の特性比較と構造デザインの事例
14	中間テスト③	木質材料に関するテストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テキストの復習，および参考書等による自習に取り組むこと。
本授業の自習・復習時間は，各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにテキストをアップロードします。

【参考書】

授業システムで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内で中間テストを3回実施し，1回目 30%，2回目 30%，3回目 40%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

この授業の後に「鉄筋コンクリートのデザイン」，「鋼のデザイン」，「木造建築の構法」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the structural design of architectural and urban structures, it is important to select the most appropriate materials after examining various performance requirements such as structural strength, durability, fire resistance, environmental performance, and cost. To achieve this, it is necessary to understand the characteristics of each material and to learn engineering methods to construct structures that take advantage of these characteristics. In this course, we will focus on "structural materials" and explain their manufacturing methods, processing methods, mechanical properties, and various other performances with actual examples. The objective of this course is to acquire basic knowledge to understand the design of steel, reinforced concrete, and wood structures, which are particularly important in modern structural engineering.

【Learning Objectives】

- To understand the manufacturing and processing methods of structural materials.
 - To understand the mechanical properties of structural materials, such as stress-strain relationships.
 - To understand the durability and fire resistance of structural materials.
 - To understand the outline of construction methods utilizing the characteristics of each structural material.
 - To understand the plastic properties of structural materials and their energy absorption performance up to fracture.
 - To understand the practical examples of structural design utilizing the characteristics of structural materials.
 - To understand the design methods that combine the advantages of different structural materials.
- 【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review the class textbook and to engage in self-study using reference books, etc.

The standard self-study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

There will be three tests in the lecture and the grading will be 30% for the first test, 30% for the second test, and 40% for the third test.

PHY100ND（物理学 / Physics 100）

エレクトロニクス基礎

岩月 正見

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いろいろなプロダクトをデザインする上でそのエレクトロニクス系の物理現象とその理論背景を理解することは極めて重要である。本授業では、基本的なエレクトロニクスを学ぶための数学的基礎とその応用について、さらにはその歴史的背景と現在の技術動向について解説する。

【到達目標】

到達目標は下記の5点である。

1. 電気回路を学ぶ上で重要となる数学的基礎について、その歴史的背景とともに理解する。
2. 電気回路を解析する上で重要なフェーザ表示の意義とその応用について理解する。
3. デジタル回路の仕組みを学ぶ上で重要となる数学的基礎と、その歴史的背景とについて理解する。
4. デジタル回路を構成する上で重要な論理回路や順序回路などの原理を理解し、PCやスマホの動作原理の大枠を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行い、エレクトロニクスの基本的な「物の見方・考え方」について理解を深め、様々な事例や実際のデバイスに触れることで、身近にあるシステムがいかなる原理で動作しているかを体感できるように授業を進める。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習することでより理解を深めていく態度が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	発電と送電	発電の歴史と交流電力の意義について解説する。
2	数の歴史	ネイピア数誕生の歴史とその数学的意味と意義について解説する。
3	指数関数	指数関数誕生の歴史とその数学的意味と意義について解説する。
4	テイラー級数展開	テイラー級数展開の導出とその意義について解説する。
5	オイラーの公式とオイラーの等式	オイラーの公式の導出とその意義について解説する。さらに、アイラーの等式が「人類の至宝」と呼ばれる所以を開示する。
6	直流回路	直流回路の解析において重要なオームの法則とキルヒホッフの法則について解説し、解析例を示す。
7	電力と電力量	デバイスを設計する上で重要となる電力と電力量について解説する。
8	交流回路	オイラーの公式に基づいた正弦波のフェーザ表示について解説し、これを用いた交流回路の解析例を示す。
9	2進数と論理回路	デジタル回路の仕組みを理解する上で重要な2進数と論理回路について解説する。
10	加算器と乗算器	2進数表記と論理回路を組み合わせることで加算器と乗算器を構成できることを示す。
11	半導体とトランジスタ	半導体の原理とその意義について歴史的背景とともに解説する。さらにトランジスタの動作原理についても解説する。
12	トランジスタによるスイッチング回路の実装	単体のトランジスタと抵抗などを配布して、デジタル回路の最小構成要素となるスイッチング回路を実装する。
13	コンピュータの動作原理	スイッチング回路の組み合わせによりコンピュータが構成できることを開示する。

14 まとめ

授業のまとめを行い、授業内で取り上げることができなかった話題について述べる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行うこと

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

数多くの電気系教科書や、機械系の教科書で各学生の好むもの学ぶことが望ましい。この授業の内容は普遍的なものであるため、どのような教科書にも掲載されている。

【参考書】

戸田盛和著「力学」岩波書店

原島鮮著「力学」裳華房

今井功著「流体力学」岩波書店

【成績評価の方法と基準】

学期末の定期試験は行わない。各授業中に小テストを行いその結果で理解度を判定する。

成績は小テストの得点、演習等によって総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味や嗜好は毎年変化し、その能力・資質も毎年変化する。一年遅れのアンケートはあまり参考にならない。説明の詳細度や講義速度については、学生の意見や小試験の結果を見て調整する。授業中に遠慮無く意見を述べて頂きたい。

【学生が準備すべき機器他】

必ず、配布されたノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

In designing various products, it is extremely important to understand the physical phenomena of electronics and their theoretical background. This class will explain the mathematical basis for studying basic electronics and its applications, as well as its historical background and current technological trends.

Students are required to prepare and review for the course.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

No periodic examinations will be given at the end of the semester.

Quizzes will be given during each class, and the results will be used to determine the level of understanding.

Grades will be determined comprehensively based on quiz scores, exercises, etc.

図学設計基礎演習Ⅹ

石橋 忠人、新井 宏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握し、伝達する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。

その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。

また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。

また、図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】

立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。

CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習3
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	寸法記入法、断面図
7	寸法記入、断面図	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解1。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解2。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図。図形描画ツールの理解3。
10	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の基礎演習-5	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
13	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。
14	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。

13	CADによる三角法作図の応用演習-3	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ) 整合性の検証)
14	CADによる三角法作図の応用演習-4	テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習は必須。

CADの基本操作を自主的に学習する事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。教科書は使用しません。

【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時、電子メールでも質問を受け付ける。

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand the relationship between solids and two-dimensional figures, which form the basis of manufacturing, and learn drafting techniques for product design and product simulation. Students will also learn the fundamentals of digitization in drafting.

Learning activities outside the classroom

- ・ Be sure to review the course content regularly.
- ・ Engage in self-directed learning of basic CAD operations.
- ・ The standard time required for preparation and review for this class is two hours per session.

Grading Criteria / Policy

- ・ Attendance (deduction-based evaluation)
- ・ Active participation in class and learning attitude
- ・ Assignment submission (100%)

DES100ND（デザイン学 / Design science 100）

図学設計基礎演習Ⅳ

石橋 忠人、新井 宏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくりの過程において重要な製図の基礎を学ぶことが出来ます。3次元形状を的確に把握し、伝達する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。

その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。

また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに製図を学びます。

また、図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。ものづくりの基本となる立体と2次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な製図を学びます。

【到達目標】

立体と図面を往来する能力を高め、社会で通用する「三角法」の基本を習得すること。

CADシステムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習を並行して進め、徐々に難易度が上がります。また、その都度課題が与えられ、提出→採点の流れが続きます。最後は各自が主体性のある設計製図を行い授業内で発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎	平面から立体、立体から平面の往来図形を通して立体を第三者に伝達する
3	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
4	三角法の基礎-2：三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習2： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
5	線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習3
6	三角法の基礎-3：三角法の作図法	寸法記入法、断面図
7	寸法記入、断面図	CADによる三角法作図の基礎演習-1
8	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる三角法作図の基礎演習-2
9	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる三角法作図の基礎演習-3
10	CADによる三角法作図の基礎演習-3	CADによる三角法作図の基礎演習-4
11	CADによる三角法作図の基礎演習-4	CADによる三角法作図の基礎演習-5
12	CADによる三角法作図の基礎演習-5	CADによる三角法作図の応用演習-1
13	CADによる三角法作図の応用演習-1	CADによる三角法作図の応用演習-2

13 CADによる三角法作図の応用演習-3

14 CADによる三角法作図の応用演習-4

テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(断面図、寸法記入、(定義づけ) 整合性の検証)
テーマに則ったオリジナルデザインから三角法で作図。(完成、及び講師による講評)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習は必須。

CADの基本操作を自主的に学習する事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自が演習し、必要に応じて筆記する。教科書は使用しません。

【参考書】

「図面ってどない描くねん」

発行：日刊工業新聞、著者 山田 学

「JISにもとづく標準製図法」

発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】

2次元と3次元を往来することの演習機会を増やします。

基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

第1回授業で指示します。

【その他の重要事項】

活授業終了後に教室で質問を受け付ける。または随時、電子メールでも質問を受け付ける。

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will understand the relationship between solids and two-dimensional figures, which form the basis of manufacturing, and learn drafting techniques for product design and product simulation. Students will also learn the fundamentals of digitization in drafting.

Learning activities outside the classroom

・ Be sure to review the course content regularly.

・ Engage in self-directed learning of basic CAD operations.

・ The standard time required for preparation and review for this class is two hours per session.

Grading Criteria / Policy

・ Attendance (deduction-based evaluation)

・ Active participation in class and learning attitude

・ Assignment submission (100%)

DES200ND (デザイン学 / Design science 200)

プロダクトデザイン演習

安積 伸、秋山 かおり、林 登志也

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業では、個人制作と、3～4人からなるグループワークの両方を行い、課題に取り組みます。それぞれ、課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表というステージで進めます。
また本授業では特に、独自性の高いアイデアを考案し、試作を行い、検証・発展させるプロセスを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1週	ガイダンス アフォーダンスとシグニファイヤ ①	授業ガイダンス 課題説明
2週	アフォーダンスとシグニファイヤ ②	最終発表 課題説明
3週	木工 ① 木工 ②	最終発表
4週	色彩演習 ① 色彩演習 ②	課題説明 最終発表
5週	熱可塑性素材の活用 ① 熱可塑性素材の活用 ② 食とデザインとブランディング ①	課題説明 最終発表 課題説明
6週	食とデザインとブランディング ②	ワークショップ チュートリアル
7週	食とデザインとブランディング ③	最終発表
8週	透過性シート素材の活用 ①	課題説明 工場見学・技術紹介
9週	透過性シート素材の活用 ②	最終発表
10週	家具デザインと人間工学 ①	課題説明 家具を用いて新たな生活環境の提案を行う。
11週	家具デザインと人間工学 ②	見学会 家具の最新事例の見学を行う
12週	家具デザインと人間工学 ③	最終発表会 最終制作物の発表と講評を行う。
13週	アップサイクリング ①	課題説明
14週	アップサイクリング ②	最終発表会 最終制作物の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備(制作)時間は、約3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン (著) 新曜社
「考えなしの行動？」ジェーン・フルトン・スーリ (著) 太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著) 実務教育出版
「プロダクトデザイン 101のアイデア」 スン・ジャン 他(著) フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】

授業回数の 1/3 (5コマ) 欠席および連続3日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15分以上の遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果 (70%) 提出書類 (15%) 出席 (15%)
総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をDとする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア（プレゼンテーション・CAD・グラフィック等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】

欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the basic concepts of product design through exercises and develop the ability to propose fresh ideas and create original designs.

Students learn the importance of prototyping and verification in the creative process and acquire practical methods and techniques.

【Learning Objectives】

The aim is to acquire basic practical and creative skills in manufacturing and design.

Students learn how to pursue highly original design by looking at and understanding all aspects of society and culture and considering what truly comfortable design is.

Students gain an understanding of the elements necessary for product design, such as form, color, function, ergonomics, and cognitive psychology, through practical training.

Learn how to propose designs from a social perspective through methods such as observation, experimentation, data collection, and analysis.

Cultivate the ability to propose and develop designs from a fundamental level through experiments and verification of prototypes using various materials and processing methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to develop their work as homework outside of class time.

The standard preparation time for this class is approximately 3 hours, however it is depended on the commitment.

【Grading Criteria /Policy】

Presented Work (70%), Documents submitted (15%), attendance (15%)

GEO300NB（地理学 / Geography 300）

地理空間分析基礎

藤本 貴子、安藤 直見

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの住む「まち」にはさまざまな特徴があります。そして、建築はそれがある「まち」（すなわち場所、あるいは、地理）との関係をもって存在しています。本授業では、そんな建築の場所性に注目し、その特徴を可視化して考察する方法について学びます。また、建築や都市に関わる記録としての地図や、地理空間に関わる情報について調査し、研究やデザインに役立てる手法を学びます。

【到達目標】

1. 建築と場所（地理）との関係に関するさまざまな事例についての学習
2. 既存の知識（データ）に対する新たな知識の発見の方法とその体系的な蓄積方法の理解
3. 市町村などの行政区画の構成、交通機関・公共施設・商業施設等の分布、人口構成などの既存の地理空間データの活用理解

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半では、地理（場所）に関わるデータ（地理情報システムなど）を用いて都市空間を可視化し、建築の場所性を分析する方法について解説します。後半では、建築に関わる情報・資料・記録の性質とそれらの蓄積事例を学ぶと共に、建築と場所と情報の関係について考察し、自らテーマを設定しデータベース構築を実践します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1（前半）	ガイダンス	地理（場所）に関わるデータの概要とその活用の概要について学ぶ
1（後半）	地理情報システム（GIS）の概要（地球地図）	地理座標系と投影座標系、地図データの読み込み、シンボルの設定、レイヤーの表示/非表示
2（前半）	地図と建築図面	地図のCADデータへの変換
2（後半）	街区の構成	都市の3Dデータ、都市空間のシミュレーション
3（前半）	地図データの活用（1）	世界遺産、重要伝統的建築物群保存地区、鉄道、ペDESTリアンデッキなどのケーススタディ
3（後半）	地図データの活用（2）	スタジアム、公園などのケーススタディ
4（前半）	地図の歴史と建築	近代以降の地図技術の発展の歴史について知り、地図情報と建築の関係を考える

4（後半）	GISの歴史と建築	地理情報技術の発展の源泉のひとつである、イアン・マクハーグ（ランドスケープ・アーキテクト）やアル・ゴア（政治家、環境活動家）らの実践を通じて、地理情報の活用と建築の関係を考える
5（前半）	場所について考える（1）	法政大学市ヶ谷キャンパスの変遷を通じて、建築と場所の関係を考察する
5（後半）	地図や地理情報を活用した調査・分析の実践	講義を踏まえ、地図や地理情報を活用した調査・分析を行う
6（前半）	場所について考える（2）	都市計画に関するアーカイブズ資料とその分析を通じて、建築と場所の関係を考察する
6（後半）	地図や地理情報を活用した調査・分析の実践	講義を踏まえ、地図や地理情報を活用した調査・分析を行う
7（前半）	講評会	期末課題の発表と討論
7（後半）	講評会（続き）	期末課題の発表と討論（続き）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは授業毎に配布します。

【参考書】

「まちの課題・資源を可視化するQGIS活用ガイドブック／基本操作から実践例まで」（半井真明著、学芸出版社、2022年）
その他は授業時に紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・小課題（演習） 50%
- ・期末課題 50%

総合点60点以上を合格とします

【学生の意見等からの気づき】

GISソフトの操作が含まれます。最初は難しく感じるかもしれませんが、授業時間だけではなく復習をすることで理解度が増します。

【学生が準備すべき機器他】

授業時には情報教室のパソコン（Windows11）にインストールされた以下のソフトウェアを使用します。

QGIS（地理空間情報システム）

Microsoft Excel, Word, PowerPoint

AutoCAD（Autodesk社）などのCADソフト

自宅等で演習を進めるためには、貸与ノートパソコン等で上記のソフトウェアを使用してください。QGISはオープンウェアなので、ネットからダウンロードしてインストールできます。AutoCADも各自の所有するパソコンにインストールできます。

【その他の重要事項】

授業終了後およびオフィスアワーの他、学習支援システムでも質問に対応します。

【Outline (in English)】

The “cities” in which we live possess a wide range of characteristics, and architecture exists in relationship to the particular city — namely, the place or geography — in which it is situated. This course focuses on the placeness of architecture and explores methods for visualizing and analyzing its distinctive features. Students will also learn about maps as sources of information and records related to architecture and urban environments, as well as the history and concepts of place, and acquire methodologies that can be applied to research and design.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量実習Ⅹ

今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】

距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際の測量機器を用いて計測方法を習得する。また、得られたデータによる精度検証を行い、実務に利用できる能力を身につける。なお、測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し、選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器機等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い、多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器機の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数機器による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】

講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。
取組姿勢・平常点（60％）、個人実習（20％）、班別成果（20％）
授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて機器に触れるため、丁寧な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

計算には関数付電卓かPCを持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】

測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.
The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying. Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.
Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量実習Ⅳ

大山 容一、渡辺 一博

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】

距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際の測量機器を用いて計測方法を習得する。また、得られたデータによる精度検証を行い、実務に利用できる能力を身につける。なお、測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し、選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器機等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い、多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器機の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数器機による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】

講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。
取組姿勢・平常点（60％）、個人実習（20％）、班別成果（20％）
授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて機器に触れるため、丁寧な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

計算には関数付電卓かPCを持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】

測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：水曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.

The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying. Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.

Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量学演習X

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や自治体、企業によって整備・活用が進められている空間情報は、環境調査、都市計画、防災・減災、インフラ管理など、実社会の多様な分野で利用されています。本授業では、実務の現場で活用されているGIS（地理情報システム）やリモートセンシングの基礎を学び、演習を通じて、以下の内容を習得することを目的とします。

- ① 実務の現場で用いられているGIS（地理情報システム）やリモートセンシングのソフトウェアの基本的な操作技術
- ② 空間情報処理の基本的な考え方や仕組みを理解し、実際のデータを用いた分析方法
- ③ 分析結果に基づいて内容を説明・考察し、それを文章としてまとめる実践的な基礎力の習得

【到達目標】

1. 実務の現場で活用されているGISおよびリモートセンシングのソフトウェアを用いて、空間情報の基礎的な操作および分析ができる
2. 環境・都市・防災分野における空間情報の活用、仕組みを理解して説明できる
3. 空間データの分析結果に基づき、内容を整理して説明・考察し、その成果を文章としてまとめることができる

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用能力
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

70%

30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 毎回の演習

毎回の演習において、以下の内容で授業を進める。

- ① 環境・都市・防災分野等に関連するテーマを設定する
- ② テーマの概要、演習の内容を示す資料を配布する
- ③ 配布資料についての概要を説明する
- ④ 配布資料の演習内容に基づき、データを用いた演習を実施する
- ⑤ 提示する演習課題についてレポートを作成して、期限までに提出する

2. 最終課題

- ① 演習を通じて学んだ内容に基づき、自ら課題を設定する
- ② 課題解決のためのデータ収集、データ分析を行い、分析結果から課題解決方法を考察する
- ③ データ収集、データ分析、分析結果、考察内容を示すレポート及びプレゼン資料を作成する
- ④ 作成したレポート及びプレゼン資料を期限までに提出する
- ⑤ プレゼン資料に用いて口頭発表する（最終日）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、GISソフトウェアの導入 空間分析についての概要を把握する
2	空間情報の基礎	測地系と座標系、数値地図・統計GISプラザのデータ活用 デジタル化された地図データや統計データの把握
3	社会・経済の空間分析(1)	主題図作成（人口、自然環境など） 統計データと地図データによる主題図の作成手法を理解する
4	社会・経済の空間分析(2)	コンビニ分布図の作成と人口密度の関連性の考察 コンビニと人口密度の関係から立地特性を把握する

5	社会・経済の空間分析(3)	地価分布図の作成 地価データを基により分かり易い表現手法を把握する
6	環境データの空間分析(1)	水質調査マップ 現状の河川湖沼の水質を把握しマップとして表現することを把握する
7	環境データの空間分析(2)	災害（浸水）予防・事前対策 簡易的なハザードマップを作成して、空間情報を活用して事前対策を表現することを把握する
8	環境データの空間分析(3)	土地利用変化 土地利用の経年変化を把握し、どのような要因による変化かを考察できるようにする
9	3次元データの空間分析(1)	標高データ（DEM）と地形解析 標高データの地形解析、表現方法を理解して、地域の特徴を把握する
10	3次元データの空間分析(2)	点群データを用いた表示及び解析 点群データの概要を理解して、点群データ解析を行い、地域の特徴を把握する
11	衛星リモートセンシングの基礎(1)	人工衛星データの表示 衛星リモートセンシングの概要を理解して、人工画像データの内容を理解する
12	衛星リモートセンシングの基礎(2)	人工衛星データのスペクトル特性 地域の特徴を把握するために、人工衛星データのスペクトル特性を理解する
13	空間情報を用いたデータ分析の作成(1)	各自課題を設定し、必要なデータを収集し、分析する 具体的な計画対象地域を選定し、課題を抽出して新たな代替案を構築する手法を把握する
14	空間情報を用いたデータ分析の作成(2)	各自課題を設定し、必要なデータを収集し、分析する 具体的な計画対象地域を選定し、課題を抽出して新たな代替案を構築する手法を把握する 課題演習発表とまとめ プレゼンテーション能力を向上させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習

大学から貸与されPCにソフトをダウンロードして毎回のテーマに即した演習を行うこと
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、演習の教材を配布する

また、必要に応じて参考にするべき教材を配布する

【参考書】

*今木洋大・伊勢 紀 編著「QGIS入門第3版」古今書院

*愛知大学三遠南信地域連携研究センター 編 蔣 湧 監「地域研究のための空間データ分析入門」古今書院

*朝日孝輔，大友翔一，水谷貴行，山手規裕 「[オープンデータ+QGIS] 統計・防災・環境情報がひと目でわかる地図の作り方」技術評論社

*田中康平他「Pythonで学ぶ衛星データ解析基礎」技術評論社

【成績評価の方法と基準】

- ・各課題提出物（レポート）と最終課題により評価する。
- ・レポート課題（60％）最終課題（40％）
- ・課題は期日を厳守とし、期日後の提出は受理しない。
- ・欠席4回以上は、単位の取得を認めない(評価D)

【学生の意見等からの気づき】

使用するソフトウェアQGISの基礎的な操作を習得しておく、演習が円滑・効率的に進められる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコン あるいは、各自所有するノートパソコン

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：金曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

Spatial information developed and utilized by national and local governments as well as private companies is widely used in various fields of society, including environmental surveys, urban planning, disaster prevention and mitigation, and infrastructure management. In this course, students will learn the fundamentals of Geographic Information Systems (GIS) and remote sensing as used in professional practice, and through hands-on exercises, they will aim to acquire the following knowledge and skills.

- ① Basic operational skills for GIS and remote sensing software used in professional and practical settings
- ② An understanding of the fundamental concepts and mechanisms of spatial information processing, and methods for analyzing real-world data
- ③ Practical foundational skills to explain and discuss analysis results, and to summarize them clearly in written form

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

測量学演習Y

望月 貴一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や自治体、企業によって整備・活用が進められている空間情報は、環境調査、都市計画、防災・減災、インフラ管理など、実社会の多様な分野で利用されています。本授業では、実務の現場で活用されているGIS（地理情報システム）やリモートセンシングの基礎を学び、演習を通じて、以下の内容を習得することを目的とします。

- ① 実務の現場で用いられているGIS（地理情報システム）やリモートセンシングのソフトウェアの基本的な操作技術
- ② 空間情報処理の基本的な考え方や仕組みを理解し、実際のデータを用いた分析方法
- ③ 分析結果に基づいて内容を説明・考察し、それを文章としてまとめる実践的な基礎力の習得

【到達目標】

1. 実務の現場で活用されているGISおよびリモートセンシングのソフトウェアを用いて、空間情報の基礎的な操作および分析ができる
2. 環境・都市・防災分野における空間情報の活用、仕組みを理解して説明できる
3. 空間データの分析結果に基づき、内容を整理して説明・考察し、その成果を文章としてまとめることができる

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用能力
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

70%

30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 毎回の演習

毎回の演習において、以下の内容で授業を進める。

- ① 環境・都市・防災分野等に関連するテーマを設定する
- ② テーマの概要、演習の内容を示す資料を配布する
- ③ 配布資料についての概要を説明する
- ④ 配布資料の演習内容に基づき、データを用いた演習を実施する
- ⑤ 提示する演習課題についてレポートを作成して、期限までに提出する

2. 最終課題

- ① 演習を通じて学んだ内容に基づき、自ら課題を設定する
- ② 課題解決のためのデータ収集、データ分析を行い、分析結果から課題解決方法を考察する
- ③ データ収集、データ分析、分析結果、考察内容を示すレポート及びプレゼン資料を作成する
- ④ 作成したレポート及びプレゼン資料を期限までに提出する
- ⑤ プレゼン資料に用いて口頭発表する（最終日）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、GISソフトウェアの導入 空間分析についての概要を把握する
2	空間情報の基礎	測地系と座標系、数値地図・統計GISプラザのデータ活用 デジタル化された地図データや統計データの把握
3	社会・経済の空間分析(1)	主題図作成（人口、自然環境など） 統計データと地図データによる主題図の作成手法を理解する
4	社会・経済の空間分析(2)	コンビニ分布図の作成と人口密度の関連性の考察 コンビニと人口密度の関係から立地特性を把握する

5	社会・経済の空間分析(3)	地価分布図の作成 地価データを基により分かり易い表現手法を把握する
6	環境データの空間分析(1)	水質調査マップ 現状の河川湖沼の水質を把握しマップとして表現することを把握する
7	環境データの空間分析(2)	災害（浸水）予防・事前対策 簡易的なハザードマップを作成して、空間情報を活用して事前対策を表現することを把握する
8	環境データの空間分析(3)	土地利用変化 土地利用の経年変化を把握し、どのような要因による変化かを考察できるようにする
9	3次元データの空間分析(1)	標高データ（DEM）と地形解析 標高データの地形解析、表現方法を理解して、地域の特徴を把握する
10	3次元データの空間分析(2)	点群データを用いた表示及び解析 点群データの概要を理解して、点群データ解析を行い、地域の特徴を把握する
11	衛星リモートセンシングの基礎(1)	人工衛星データの表示 衛星リモートセンシングの概要を理解して、人工画像データの内容を理解する
12	衛星リモートセンシングの基礎(2)	人工衛星データのスペクトル特性 地域の特徴を把握するために、人工衛星データのスペクトル特性を理解する
13	空間情報を用いたデータ分析の作成(1)	各自課題を設定し、必要なデータを収集し、分析する 具体的な計画対象地域を選定し、課題を抽出して新たな代替案を構築する手法を把握する
14	空間情報を用いたデータ分析の作成(2)	各自課題を設定し、必要なデータを収集し、分析する 具体的な計画対象地域を選定し、課題を抽出して新たな代替案を構築する手法を把握する 課題演習発表とまとめ プレゼンテーション能力を向上させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習

大学から貸与されPCにソフトをダウンロードして毎回のテーマに即した演習を行うこと
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、演習の教材を配布する

また、必要に応じて参考にするべき教材を配布する

【参考書】

*今木洋大・伊勢 紀 編著「QGIS入門第3版」古今書院

*愛知大学三遠南信地域連携研究センター 編 蔣 湧 監「地域研究のための空間データ分析入門」古今書院

*朝日孝輔，大友翔一，水谷貴行，山手規裕 「[オープンデータ+QGIS] 統計・防災・環境情報がひと目でわかる地図の作り方」技術評論社

*田中康平他「Pythonで学ぶ衛星データ解析基礎」技術評論社

【成績評価の方法と基準】

- ・各課題提出物（レポート）と最終課題により評価する。
- ・レポート課題（60％）最終課題（40％）
- ・課題は期日を厳守とし、期日後の提出は受理しない。
- ・欠席4回以上は、単位の取得を認めない(評価D)

【学生の意見等からの気づき】

使用するソフトウェアQGISの基礎的な操作を習得しておく、演習が円滑・効率的に進められる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコン あるいは、各自所有するノートパソコン

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：金曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

Spatial information developed and utilized by national and local governments as well as private companies is widely used in various fields of society, including environmental surveys, urban planning, disaster prevention and mitigation, and infrastructure management. In this course, students will learn the fundamentals of Geographic Information Systems (GIS) and remote sensing as used in professional practice, and through hands-on exercises, they will aim to acquire the following knowledge and skills.

- ① Basic operational skills for GIS and remote sensing software used in professional and practical settings
- ② An understanding of the fundamental concepts and mechanisms of spatial information processing, and methods for analyzing real-world data
- ③ Practical foundational skills to explain and discuss analysis results, and to summarize them clearly in written form

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

水理学 1 及演習 X

鈴木 善晴

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川・海洋・上下水道などに関連した水工学分野の学習に欠かすことの出来ない「水の流れの原理」を学ぶ基礎科目で、講義と平行して問題演習を数多くこなす基礎知識の定着を目指すとともに、それらの知識が水工学上の問題に対してどのように応用されるかを学習する。いくつかの重要な公式や専門用語を単に覚えるだけでなく、それらの意味するところを理解するとともに様々な水理現象に関するイメージを掴むことで、水理学の面白さや巧妙さを実感して欲しい。

【到達目標】

都市環境デザイン工学科の「学習・教育目標（JABEE）」における割合は、C（工学基礎学力）：20%、D（専門基礎学力）：50%、E（専門知識の活用・応用能力）：30%である。具体的には、①問題演習を繰り返すことで、水工学分野の専門学習に耐えうる十分な基礎知識と応用力を習得する（D、E）、②技術者に必要な新たな専門知識を独力で習得できるだけの基礎的素養を身に付ける（C）、などが本授業における到達目標となる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 20%
- (D) 専門基礎学力 50%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

配付資料を用いた講義および問題演習を行う（授業開始前に配布資料を学習支援システムからダウンロード、貸与ノートPC等で資料を参照しながら受講）。授業の前半は、次元と単位系、水の密度と比重など高校における学習内容の復習を含む物理の基礎について学習するとともに、完全流体の力学やベルヌーイの定理などの水理学の基礎的内容を理解・習得する。また、授業の後半は、管水路の流れや開水路の流れなど実在流体の力学について学習し、水工学上の応用例の理解や計算力の習得を目指す。

2コマの授業時間のうち、基礎知識と例題の学習に1コマ（前週の復習およびフィードバックを含む）、問題演習とその自己採点に1コマ程度の時間配分で授業を実施する。初めに各回の学習内容に関する解説を聴きながら配布資料の要点を理解したうえで、各自で「学習ノート」の作成を開始する。次に「演習問題」についてヒントや例題を参照しながら各自で解答、その後、解答例を参照しながら自己採点および解答訂正を行う。

授業時間外の学習課題として各回の学習内容に関する「宿題レポート」を課すとともに、授業全体の総括・復習として第14回に期末試験を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	水理学の基礎	次元と単位系、絶対単位系と工学単位系、水の密度と比重、流体の粘性と圧縮性
②	静水力学(1)	静水圧の基礎、絶対圧とゲージ圧、パスカルの原理、マノメータ
③	静水力学(2)	鉛直平面および傾斜平面に働く静水圧、図心と断面二次モーメント
④	静水力学(3)	曲面に働く静水圧、浮体の安定、重心と浮心、アルキメデスの原理
⑤	完全流体の力学(1)	流体運動の基礎、流線・流跡線の方程式、ベルヌーイの定理、連続の式、1次元解析法
⑥	完全流体の力学(2)	ベルヌーイの定理の応用（ベンチュリ管、ピトー管、オリフィス、トリチェリの定理）
⑦	完全流体の力学(3)	ベルヌーイの定理の適用条件・成立条件、運動量フラックス、
⑧	運動量の法則(1)	運動量の法則の応用（噴流が壁面に及ぼす力、流れが曲がり管に及ぼす力、跳水・段波）
⑨	管水路の流れ(1)	層流と乱流、エネルギー損失を考慮したベルヌーイの定理、摩擦損失・形状損失水頭
⑩	管水路の流れ(2)	ダルシー・ワイズバッハの式と摩擦損失係数、エネルギー線・動水勾配線、サイフォン
⑪	管水路の流れ(3)	管水路の流れの応用（水車、ポンプ）、開水路におけるベルヌーイの定理、常流と射流
⑫	開水路の流れ(2)	比エネルギーと限界水深、等流水深と限界勾配、マンニングの流速公式、漸変流の水面形
⑬	開水路の流れ(3)	開水路の流れの応用（跳水、経済断面）、第1回から第13回までの補足説明
⑭	総括・復習	第1回から第13回までの総括および復習として期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習ノート」の作成と並行して「宿題レポート」に取り組み、各回の学習内容に対する理解向上に努める。また、次回授業時に配布される宿題レポートの解答例を参照し、自己採点・解答訂正を行いながら各自で復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

下記テキストを購入したうえで毎回の授業時に必ず持参すること（期末試験時も持ち込み可）。

○「水理学（土木・環境系コアテキストシリーズD-1）」、竹原幸生、コロナ社。

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習ノートの内容20％，演習問題への取り組み20％，宿題レポートへの取り組み30％，期末試験30％の配点とし，その合計点により評価を行う．合計点が60点以上70点未満はC（C-，C+を含む），70点以上80点未満はB（B-，B+を含む），80点以上90点未満はA（A-，A+を含む），90点以上はSとして評価する．

ただし，全28コマ（各回2コマ）の講義のうち欠席回数が6コマを超えた場合，あるいは期末試験を欠席した場合は単位取得を認めない（評価DまたはEとする）．また，遅刻2回ごとに欠席1コマの扱いとする．

【学生の意見等からの気づき】

各テーマへの関心と理解を深めるため，具体的な事例の説明や映像素材による解説を取り入れるなど，本授業の内容が学生自らの日常生活にも密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す．

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（PDFファイル）をPC等で参照しながら受講する必要があるため，「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）を必ず持参すること．授業時間内に演習問題や期末試験の答案を撮影するための「カメラ機能付き機材（スマートフォン等）」も併せて持参する．また，演習問題や期末試験の際に「関数電卓」が必要となる場合があるので各自で準備しておくこと．

【その他の重要事項】

交通機関の遅延による遅刻，学生証の持参忘れやタッチ忘れについては，それぞれ原則1回のみ配慮する（2回目以降の申し出は特別な事情がない限り無効とし，遅刻または欠席扱い）．

【Outline (in English)】

This course is designed to teach scientific fundamentals of water flow mechanisms necessary for solving engineering problems in rivers, oceans, aquifers, waterworks, sewers and more. The course is taught through a combination of lectures and exercises so that students enrich their understanding of basic hydraulics as well as learn how to apply the techniques to engineering practices. Students are expected to deeply understand the scientific meaning of hydraulic theory and formulae and stretch their imagination on how hydrodynamics is involved in various phenomena in nature. Through this style of learning, students will gain valuable insight into the world of hydraulics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on personal study notebooks (20%), in-class exercises (20%), homework reports (30%), and term-end examination (30%).

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

水理学 1 及演習 Y

原田 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川・海洋・上下水道などに関連した水工学分野の学習に欠かすことの出来ない「水の流れの原理」を学ぶ基礎科目で、講義と平行して問題演習を数多くこなし基礎知識の定着を目指すとともに、それらの知識が水工学上の問題に対してどのように応用されるかを学習する。いくつかの重要な公式や専門用語を単に覚えるだけでなく、それらの意味するところを理解するとともに様々な水理現象に関するイメージを掴むことで、水理学の面白さや巧妙さを実感して欲しい。

【到達目標】

都市環境デザイン工学科の「学習・教育目標（JABEE）」における割合は、C（工学基礎学力）：20%、D（専門基礎学力）：50%、E（専門知識の活用・応用能力）：30%である。具体的には、①問題演習を繰り返すことで、水工学分野の専門学習に耐えうる十分な基礎知識と応用力を習得する（D、E）、②技術者に必要な新たな専門知識を独力で習得できるだけの基礎的素養を身に付ける（C）、などが本授業における到達目標となる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 20%
- (D) 専門基礎学力 50%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では「学習支援システム」による資料配信・課題提出、および「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）で資料を参照しながらの受講を基本とする。授業の前半は、次元や単位系、水の密度と比重など高校における学習内容の復習を含む物理の基礎について学習するとともに、完全流体の力学やベルヌーイの定理などの水理学の基礎的内容を理解・習得する。また、授業の後半は、管水路の流れや開水路の流れなど実在流体の力学について学習し、水工学上の応用例の理解や計算力の習得を目指す。

2コマの授業時間のうち、基礎知識と例題の学習に1コマ（前週の復習およびフィードバックを含む）、問題演習とその自己採点に1コマ程度の時間配分で授業を実施する。初めに各回の学習内容に関する解説を聴きながら配布資料の要点を理解したうえで、各自で「学習ノート」の作成を開始する。次に「演習問題」についてヒントや例題を参照しながら各自で解答、その後、解答例を参照しながら自己採点および解答訂正を行う。

授業時間外の学習課題として各回の学習内容に関する「宿題レポート」を課すとともに、授業全体の総括・復習として第14回に期末試験を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	水理学の基礎	次元と単位系、絶対単位系と工学単位系、水の密度と比重、流体の粘性と圧縮性
②	静水力学(1)	静水圧の基礎、絶対圧とゲージ圧、パスカルの原理、マノメータ
③	静水力学(2)	鉛直平面および傾斜平面に働く静水圧、図心と断面二次モーメント
④	静水力学(3)	曲面に働く静水圧、浮体の安定、重心と浮心、アルキメデスの原理
⑤	完全流体の力学(1)	流体運動の基礎、流線・流跡線の方程式、ベルヌーイの定理、連続の式、1次元解析法
⑥	完全流体の力学(2)	ベルヌーイの定理の応用（ベンチュリ管、ピトー管、オリフィス、トリチェリの定理）
⑦	完全流体の力学(3)	ベルヌーイの定理の適用条件・運動量の法則(1)
⑧	運動量の法則(2)	運動量の法則の応用（噴流が壁面に及ぼす力、流れが曲がり管に及ぼす力、跳水・段波）
⑨	管水路の流れ(1)	層流と乱流、エネルギー損失を考慮したベルヌーイの定理、摩擦損失・形状損失水頭
⑩	管水路の流れ(2)	ダルシー・ワイズバッハの式と摩擦損失係数、エネルギー線・動水勾配線、サイフォン
⑪	管水路の流れ(3)	管水路の流れの応用（水車、ポンプ）、開水路におけるベルヌーイの定理、常流と射流
⑫	開水路の流れ(2)	比エネルギーと限界水深、等流水深と限界勾配、マンニングの流速公式、漸変流の水面形
⑬	開水路の流れ(3)	開水路の流れの応用（跳水、経済断面）、第1回から第13回までの補足説明
⑭	総括・復習	第1回から第13回までの総括および復習として期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習ノート」の作成と並行して「宿題レポート」に取り組み、各回の学習内容に対する理解向上に努める。また、次回授業時に配布される宿題レポートの解答例を参照し、自己採点・解答訂正を行いながら各自で復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

下記テキストを購入したうえで毎回の授業時に必ず持参すること（期末試験時も持ち込み可）。
○「水理学（土木・環境系コアテキストシリーズD-1）」、竹原幸生、コロナ社。

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習ノートの内容20％，演習問題への取り組み20％，宿題レポートへの取り組み30％，期末試験30％の配点とし，その合計点により評価を行う．合計点が60点以上70点未満はC（C-，C+を含む），70点以上80点未満はB（B-，B+を含む），80点以上90点未満はA（A-，A+を含む），90点以上はSとして評価する．

ただし，全28コマ（各回2コマ）の講義のうち欠席回数が6コマを超えた場合，あるいは期末試験を欠席した場合は単位取得を認めない（評価DまたはEとする）．また，遅刻2回ごとに欠席1コマの扱いとする．

【学生の意見等からの気づき】

各テーマへの関心と理解を深めるため，具体的な事例の説明や映像素材による解説を取り入れるなど，本授業の内容が学生自らの日常生活にも密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す．

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（PDFファイル）をPC等で参照しながら受講する必要があるため，「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）を必ず持参すること．授業時間内に演習問題や期末試験の答案を撮影するための「カメラ機能付き機材（スマートフォン等）」も併せて持参する．また，演習問題や期末試験の際に「関数電卓」が必要となる場合があるので各自で準備しておくこと．

【その他の重要事項】

交通機関の遅延による遅刻，学生証の持参忘れやタッチ忘れについては，それぞれ原則1回のみ配慮する（2回目以降の申し出は特別な事情がない限り無効とし，遅刻または欠席扱い）．

【Outline (in English)】

This course is designed to teach scientific fundamentals of water flow mechanisms necessary for solving engineering problems in rivers, oceans, aquifers, waterworks, sewers and more. The course is taught through a combination of lectures and exercises so that students enrich their understanding of basic hydraulics as well as learn how to apply the techniques to engineering practices. Students are expected to deeply understand the scientific meaning of hydraulic theory and formulae and stretch their imagination on how hydrodynamics is involved in various phenomena in nature. Through this style of learning, students will gain valuable insight into the world of hydraulics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on personal study notebooks (20%), in-class exercises (20%), homework reports (30%), and term-end examination (30%).

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

河川環境工学X

原田 大輔

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川における洪水や物質輸送・生態系などの自然の営み、ならびに治水・利水などの人為作用を全て包含するシステムが河川環境そのものであることを正しく理解し、自然とヒトが背反・対立関係ではなく相互に共生し平衡関係にあるべきことを学修する。国内外の河川流域における治水・利水・環境の問題とその工学的解決策を事例とともに学び、多自然川づくりと河川の維持管理、さらに持続可能な流域圏を構築するための知識体系を修得する。

【到達目標】

社会の営為と自然生態系が河川環境に及ぼす影響を正しく理解し、水害の防止・軽減、水資源の適切かつ効率的な循環利用を実現するための河川システムを考究する。これによって河川水系を基軸とする流域圏のあるべき姿を理解し、地域の気候・風土と文化を活かした川づくり・まちづくりを進める上で必要な基礎的素養を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

河川流域の地理・地形・気候など自然特性、人類が河川流域で営んできた社会経済活動と治水・利水の歴史、流域環境の変貌と水象変化を学ぶ。国内外の河川における諸課題を動画などにより説明し、河川管理上の技術的課題を認識する。河川管理に必要な河川調査方法、河川技術、水害や土砂災害をもたらす仕組みとそれを予測し対策を講ずるための治水計画手法・河川整備方法・水防技術などを学ぶ。河川の自然営力が河川地形や土砂収支、そして植生・動物生態に及ぼす影響、河川流域における生態系サービスを講述する。流域の水資源管理と利水の仕組み、河川空間の利用、水循環・再生に関する技術を教授する。テーマ毎の演習を通して講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習教育到達目標の確認。授業の進め方、テキスト・参考書の紹介、自然系と人工系の水循環
第2回	河川管理の概要、日本と世界の河川	歴史治水、地質・気候区・地形と河川流域、河川に関する用語、国内外の河川比較（地形、流況、水文特性）
第3回	日本の河川の地形・地理・水文特性	地理・地形・水文特性、河川の特徴量、河川管理の歩み
第4回	都市と河川	都市と水害、総合治水、利水と水循環、河川環境の概要
第5回	河川調査	河川各部の名称、水理・水文諸量、河川の観察、水文量（雨量・流量・水位）、水質、地形、河床材料
第6回	治水計画(1)	水害の経年変化、治水手法の歴史的変遷、基本方針と整備計画、超過洪水、計画降雨、基本高水と計画高水
第7回	治水計画(2)	治水基準点、河道計画の流れ、治水施策各種、水防、減災管理
第8回	流出と土砂生産	流出解析の概要、土砂生産、土石流、斜面崩壊、土砂資源
第9回	河道計画	河道計画の流れと留意事項、計画高水位と対象区間の設定、法線形・縦横断面形の設定、粗度係数と摩擦速度、疎通能力
第10回	多自然川づくり	基本思想、保全・回復、自然再生事業、多自然川づくりの事例

第11回	流砂過程と河川地形(1)	流れ－土砂輸送－地形の相互関係、掃流砂、浮遊砂とウォッシュロード、移動限界と掃流砂量
第12回	流砂過程と河川地形(2)	小規模・中規模河床形態、河床波、交互砂州・複列砂州の規定要因、大規模河床形態、貯水池の堆砂
第13回	河川構造物	堤防、護岸、水制工、床止め・落差工、排水機場、樋管・樋門・水門、閘門、砂防ダム、地下河川、ダム、遊水池・調整池
第14回	総括と学力確認	授業の総括、学力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を復習し、演習問題の結果を自己分析する。身近な河川を思い描きながら授業内容との対応関係を考察し河川環境工学の応用性・有用性を認識する。本授業の準備学習・復習時間は1回あたり各2時間（合計2時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考書】

竹林洋史：河川工学，土木・環境系コアテキストシリーズ，コロナ社。
高橋裕：新版 河川工学，東京大学出版会
芦田・江頭・中川：21世紀の河川学，京都大学学術出版会
吉川勝秀編著：河川堤防学，技報堂出版
福岡捷二著：洪水の水理と河道の設計法，森北出版
藤岡換太郎：川はどうしてできるのか，講談社
日本ダム工学会：ダムの科学，サイエンスアイ

【成績評価の方法と基準】

持続可能な社会と流域圏を築くために必要な河川環境の再生・維持管理技術を修得するばかりではなく、河川整備・管理を通して技術者として社会に貢献するための心構えを自律的に醸成する。成績評価割合：レポート・小テスト（30%）と期末試験（70%）により総合評価する。100点満点換算した上60点以上を合格とする。平常点：欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。遅刻回数に応じて減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習によって授業内容の理解を促進すること、河川環境工学に関わる諸技術を視覚的に理解できるようにプレゼンテーション素材を多用する。演習においては教員と学生とのコミュニケーションを通して理解を深めるとともに、学生間での自由な意見交換を奨励して相互学習効果を高める。

【学生が準備すべき機器他】

ほぼ毎回、演習を実施するので、必要に応じて関数電卓やPCを持参すること（携帯電話の電卓機能を使用することは不可）。

【その他の重要事項】

専任教員担当クラスのオフィスアワーについては履修の手引きを参照すること。兼任教員担当クラスオフィスアワーについては授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

River systems consist of various events such as discharge fluctuations during floods and droughts, sediment and mass transport through catchments and channels, changes in river morphology, ecological dynamics and services of fauna and flora etc. This course is designed to study these complex mechanisms involved in river systems and correctly understand how they should be regulated to allow harmony between ecosystems and human activities. In addition to lectures on fundamentals of ecodynamics, world-wide examples of river restoration projects are presented in order to help students learn desirable ways of creating sustainable river systems that are friendly to the ecosystem.

(Learning Objectives)

To correctly understand the impact of social activities and natural ecosystems on the river environment, and to study river systems to prevent and mitigate flood damage and realize appropriate and efficient cyclical use of water resources. Through this, students will understand the ideal river basin system based on the river system, and will acquire the basic knowledge necessary to promote river restoration that make use of the nature, climate and local culture.

(Learning activities outside of classroom)

Review the handouts and the results of the exercises. While considering the relationship between the content learned and river prototypes, students understand the applicability and usefulness of river environmental engineering.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each (total 2 hours).

(Grading Criteria /Policy)

Percentage of grade evaluation: Comprehensive evaluation based on report/mini test (30%) and final exam (70%). A score of 60 or higher on a scale of 100 is considered a pass.

Ordinary score: Students who are absent 4 or more times are not allowed to acquire credits (Score D). Points may be deducted depending on the number of times you are late.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

河川環境工学Y

秋田 麗子

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川における洪水や物質輸送・生態系などの自然の営み、ならびに治水・利水などの人為作用を全て包含するシステムが河川環境そのものであることを正しく理解し、自然とヒトが背反・対立関係ではなく相互に共生し平衡関係にあるべきことを学修する。国内外の河川流域における治水・利水・環境の問題とその工学的解決策を事例とともに学び、多自然川づくりと河川の維持管理、さらに持続可能な流域圏を構築するための知識体系を修得する。

【到達目標】

社会の営為と自然生態系が河川環境に及ぼす影響を正しく理解し、水害の防止・軽減、水資源の適切かつ効率的な循環利用を実現するための河川システムを考究する。これによって河川水系を基軸とする流域圏のあるべき姿を理解し、地域の気候・風土と文化を活かした川づくり・まちづくりを進める上で必要な基礎的素養を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

河川流域の地理・地形・気候など自然特性、人類が河川流域で営んできた社会経済活動と治水・利水の歴史、流域環境の変貌と水象変化を学ぶ。国内外の河川における諸課題を動画などにより説明し、河川管理上の技術的課題を認識する。河川管理に必要な河川調査方法、河川技術、水害や土砂災害をもたらす仕組みとそれを予測し対策を講ずるための治水計画手法・河川整備方法・水防技術などを学ぶ。河川の自然営力が河川地形や土砂収支、そして植生・動物生態に及ぼす影響、河川流域における生態系サービスを講述する。流域の水資源管理と利水の仕組み、河川空間の利用、水循環・再生に関する技術を教授する。テーマ毎の演習を通して講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	学習教育到達目標の確認。授業の進め方、テキスト・参考書の紹介、自然系と人工系の水循環
第2回	河川管理の概要、日本と世界の河川	歴史治水、地質・気候区・地形と河川流域、河川に関する用語、国内外の河川比較（地形、流況、水文特性）
第3回	日本の河川の地形・地理・水文特性	地理・地形・水文特性、河川の特徴量、河川管理の歩み
第4回	都市と河川	都市と水害、総合治水、利水と水循環、河川環境の概要
第5回	河川調査	河川各部の名称、水理・水文諸量、河川の観察、水文量（雨量・流量・水位）、水質、地形、河床材料
第6回	治水計画(1)	水害の経年変化、治水手法の歴史的変遷、基本方針と整備計画、超過洪水、計画降雨、基本高水と計画高水
第7回	治水計画(2)	治水基準点、河道計画の流れ、治水施策各種、水防、減災管理
第8回	流出と土砂生産	流出解析の概要、土砂生産、土石流、斜面崩壊、土砂資源
第9回	河道計画	河道計画の流れと留意事項、計画高水位と対象区間の設定、法線形・縦横断面形の設定、粗度係数と摩擦速度、疎通能力
第10回	多自然川づくり	基本思想、保全・回復、自然再生事業、多自然川づくりの事例

第11回	流砂過程と河川地形(1)	流れ－土砂輸送－地形の相互関係、掃流砂、浮遊砂とウォッシュロード、移動限界と掃流砂量
第12回	流砂過程と河川地形(2)	小規模・中規模河床形態、河床波、交互砂州・複列砂州の規定要因、大規模河床形態、貯水池の堆砂
第13回	河川構造物	堤防、護岸、水制工、床止め・落差工、排水機場、樋管・樋門・水門、閘門、砂防ダム、地下河川、ダム、遊水池・調整池
第14回	総括と学力確認	授業の総括、学力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を復習し、演習問題の結果を自己分析する。身近な河川を思い描きながら授業内容との対応関係を考察し河川環境工学の応用性・有用性を認識する。本授業の準備学習・復習時間は1回あたり各2時間（合計2時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考書】

竹林洋史：河川工学，土木・環境系コアテキストシリーズ，コロナ社。
高橋裕：新版 河川工学，東京大学出版会
芦田・江頭・中川：21世紀の河川学，京都大学学術出版会
吉川勝秀編著：河川堤防学，技報堂出版
福岡捷二著：洪水の水理と河道の設計法，森北出版
藤岡換太郎：川はどうしてできるのか，講談社
日本ダム工学会：ダムの科学，サイエンスアイ

【成績評価の方法と基準】

持続可能な社会と流域圏を築くために必要な河川環境の再生・維持管理技術を修得するばかりではなく、河川整備・管理を通して技術者として社会に貢献するための心構えを自律的に醸成する。成績評価割合：レポート・小テスト（30%）と期末試験（70%）により総合評価する。100点満点換算した上60点以上を合格とする。平常点：欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。遅刻回数に応じて減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習によって授業内容の理解を促進すること、河川環境工学に関わる諸技術を視覚的に理解できるようにプレゼンテーション素材を多用する。演習においては教員と学生とのコミュニケーションを通して理解を深めるとともに、学生間での自由な意見交換を奨励して相互学習効果を高める。

【学生が準備すべき機器他】

ほぼ毎回、演習を実施するので、必要に応じて関数電卓やPCを持参すること（携帯電話の電卓機能を使用することは不可）。

【その他の重要事項】

専任教員担当クラスのオフィスアワーについては履修の手引きを参照すること。兼任教員担当クラスオフィスアワーについては授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

River systems consist of various events such as discharge fluctuations during floods and droughts, sediment and mass transport through catchments and channels, changes in river morphology, ecological dynamics and services of fauna and flora etc. This course is designed to study these complex mechanisms involved in river systems and correctly understand how they should be regulated to allow harmony between ecosystems and human activities. In addition to lectures on fundamentals of ecodynamics, world-wide examples of river restoration projects are presented in order to help students learn desirable ways of creating sustainable river systems that are friendly to the ecosystem.

(Learning Objectives)

To correctly understand the impact of social activities and natural ecosystems on the river environment, and to study river systems to prevent and mitigate flood damage and realize appropriate and efficient cyclical use of water resources. Through this, students will understand the ideal river basin system based on the river system, and will acquire the basic knowledge necessary to promote river restoration that make use of the nature, climate and local culture.

(Learning activities outside of classroom)

Review the handouts and the results of the exercises. While considering the relationship between the content learned and river prototypes, students understand the applicability and usefulness of river environmental engineering.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each (total 2 hours).

(Grading Criteria /Policy)

Percentage of grade evaluation: Comprehensive evaluation based on report/mini test (30%) and final exam (70%). A score of 60 or higher on a scale of 100 is considered a pass.

Ordinary score: Students who are absent 4 or more times are not allowed to acquire credits (Score D). Points may be deducted depending on the number of times you are late.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

都市調査解析

今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化の先進諸国における都市空間の計画・設計・開発・経営に対するニーズはますます多様化、複雑化している。一方、都市空間そのものに加えて、ヒト・モノ・コトの活動の実態を網羅的に常時観測できる技術も日進月歩である。本講義では、都市空間の計画・設計・開発・経営に必要な地図や統計データの特性および分析手法を習得する。

【到達目標】

土木計画学に必要な各種統計データを分析する能力を習得する

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	30%
(E) 専門知識の活用・応用能力	50%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

都市空間や都市活動（ヒトモノコトの交通・流通）の統計データや分析に利用する地図の特徴を理解し、それらを使った分析手法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市調査解析の概論	講義計画、概論
2	解析に利用する地図（基本）	ICTを活用した国土管理、地図の基礎
3	解析に利用する地図（種類）	地図の種類
4	解析に利用する地図（ジオメトリ）	ジオメトリ
5	解析に利用する地図（ネットワーク）	ネットワーク
6	解析に利用する地図（トポロジ）	トポロジ
7	統計（基本）	統計データの種類と所在
8	統計（応用）	統計データの活用
9	ビッグデータ（基本）	ビッグデータの種類と所在
10	ビッグデータ（応用）	ビッグデータの活用
11	解析手法（モデリング基礎）	モデリングの基礎
12	解析手法（モデリング応用）	モデリングの応用
13	解析手法（応用）	統計処理、人工知能等
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】

新田保次監修「図説わかる土木計画学」学芸出版、吉川和広編著「土木計画学演習」森北出版、日本建築学会編「建築・都市計画のための調査・分析方法」

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）、最終課題・発表（50%）により評価する。ただし、授業を4回以上欠席した場合は、単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

- ・基礎的な統計解析は習得しておくこと。
- ・GISやMicrosoft Excelの基礎は学んでおくこと。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

This course allows students to learn theories for research, analysis, planning, and evaluation related to urban and transportation planning, as well as methods for implementing plans. Students will also learn about existing maps and statistics, as well as analysis methods using diverse urban data.

The goal is to acquire the ability to analyze various statistical data necessary for civil engineering planning studies.

Assessments will be based on each report and the final report.

Students who are absent four or more times will not be allowed to receive credit (grade D).

Report : 50%, final assignment/presentation : 50%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、原田 大輔、尾関 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール(1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール(2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール(3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール(4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール(5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール(6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール(7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール(8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール(9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール(10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール(11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール(12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

なお、1年生春学期から3年生春学期までの達成度自己評価システム（全5回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。研究指導は少人数、対面で行われ学生は随時質問などが可能である。また面談時以外については、Eメールにより対応する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

コンクリート技術

溝渕 利明

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンクリートの施工に際して遵守すべき技術の基本問題を扱い、さらに工法上、施工環境上考慮しなければならない事項について身につける。また、土木構造物の施工法及び施工技術に関して、実際にどのように適用されているのか理解するために、主要な土木構造物におけるコンクリート技術、施工計画等について概説し、施工法の基礎的事項を習得する。

【到達目標】

コンクリートの製造・運搬・打込み・締固め・養生の一連の施工手順の理解、特殊コンクリートの施工法についての理解を本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 50%
- (E) 専門知識の活用・応用力 50%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンクリート技術では、コンクリートの施工に関する基礎を学習する。また、寒中・暑中などの環境条件の違いや水中コンクリート等の特殊コンクリートについての概要について説明し、コンクリート工事における一般的な施工知識を習得する。さらに、ダム、橋梁、トンネル、道路などを対象とした施工計画の基本についても学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	土木事業について	土木事業全般、事業形態、組織、事業の流れ、工事管理、工事の流れなど土木事業について概説する
2	土木工事に大きく関わる土木計画について	土木計画の概要、設計・施工を行うために必要な土木計画学の基本事項を概説する。
3	土木設計について	土木構造物の設計の基本事項、流れ、設計は誰が行っているのかなどの土木設計に関わる基本事項を概説する。
4	土木工事について	工事の受注から施工計画、工事事務所の設置、工事管理、使用建機、現場での役割など施工に関わる基本事項を概説する。
5	土木施工について	1回目～4回目までの講義内容の総括と、土木施工における留意点について概説する。
6	建設材料について	土木工事に用いられる建設材料と施工との関連、地盤などの土質材料、岩盤と施工との関連、AI等を用いた岩盤掘削に関する最新技術の紹介を行う。さらに、鋼材と施工の変遷についても概説する。
7	橋梁建設における構造・設計・施工について	橋梁の建設における構造形式などの構造・設計に関わる概要を説明するとともに、施工の流れについて概説する。
8	トンネル建設における構造・設計・施工について	トンネルの種類、トンネルの施工方法、山岳トンネル及びシールドトンネルの施工の流れについて概説する。
9	道路建設における構造・設計・施工について	道路建設の歴史、道路（土工）施工の流れについて概説する。また、舗装コンクリート及び舗装用アスファルトの施工について概説する。

10	河川構造物・ダム建設における構造・設計・施工について	河川構造物の概要、ダムの形式、ダムの施工の概要について説明する。
11	施工の流れについて	製造、運搬、打込み、締固め、養生までの施工の流れについて概説する。
12	いろいろな場所や環境での施工について	水中コンクリート、泥水コンクリート、地中構造物の施工など特殊環境下での施工について概説する。
13	道具（機械）が施工を変える	機械化施工の歴史と機械化施工の現状について概説する
14	土木施工の将来について	土木施工の将来について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義した内容の整理

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本コンクリート工学会：コンクリート技術の要点

彰国社：施工がわかるイラスト土木入門

トコトンやさしい土木技術の本

トコトンやさしい土木施工の本

【参考書】

土木学会・コンクリート標準示方書〔施工編〕

杉山昇：最新土木施工法（鹿島出版会）

日本コンクリート工学会：コンクリート診断技術

モリナガ・ヨウ：モリナガ・ヨウの土木現場に行ってみた（アスペクト）

見学しよう工事現場シリーズ（ほるぷ出版）

コンクリート崩壊（PHP新書）

トコトンやさしいダムの本（日刊工業新聞社）

【成績評価の方法と基準】

レポートによる。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。

レポート100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

担当教員は、建設会社に20年近く勤務しており、ダム工事や橋梁工事、トンネル工事、港湾工事など多くの構造物の施工に関わっており、施工技術や施工方法の講義を行うのに適しているといえます。

オフィスアワー：履修の手引きに記載している時間を実施します

【Outline (in English)】

The main theme of this course is to understand basic technical subjects observed when constructing concrete structures and issues to be considered in terms of construction method and environment. Students will acquire fundamental knowledge concerning concrete technology, construction plans etc. for the main civil engineering structures in order to understand how construction methods and technologies are applied in the real world.

Learning Objectives

The goal of this class is to understand a series of construction procedures of concrete production, transportation, placing, compaction, and curing, and to understand construction methods for special concrete.

Learning activities outside of classroom

Organizing lecture content

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Final exam 100%

上下水道システム

鈴木 善晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水の循環は、自然系の水循環と社会活動に必要不可欠な上下水道システムによる人工系の水循環が混在している。本授業では、都市の上下水道による水循環に焦点を当て、社会基盤を支えるインフラの一つとして、上下水道システムにおける発展の歴史や求められる役割、システムの構成と機能、設計や施工方法及びシステムの運営・管理など、日本の実社会での取り組み事例をベースに学習する。

また、持続可能な社会構築にむけてインフラの共通課題である、施設の老朽化や耐震化問題を始めた上下水道分野における課題と対応策についても学ぶ。上下水道システムの全体像や構成技術、現在の課題及び対応策について理解を深めることにより、卒業後に上下水道分野の職場を希望する学生のみならず、街づくりに携わる分野を希望する学生にとっても必要な基礎的能力の向上を目的とする。

【到達目標】

上下水道システムの、①役割（社会生活の維持、水環境の保全、持続的社会にむけて）、②仕組み（上水道システム、下水道システム、運営・維持管理）、③課題（地球温暖化による影響、施設の老朽化、大規模災害リスクの増大、人口減少の影響等）、④対応策（雨水流出制御（貯留、浸透）、官民連携、新技術の開発、街づくりとの一体整備等）について学ぶ。特に上下水道技術分野における課題や今後の方向性、市民としての「自助」活動のあり方を理解するとともに、工学エンジニアとしての社会における技術的貢献を目指して、上下水道技術分野の基本的な知識習得を本授業の目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では「学習支援システム」による資料配信・課題提出、および「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）で資料を参照しながらの受講を基本とする。また、各回の授業内容に関する理解度を確認するためのミニテスト（確認テスト）を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業全体概要の紹介と世界・日本の水事情	この授業で何を学ぶのか、水が持つ機能とは、人体と水・世界と日本での水を取り巻く環境・都市の水循環とは
②	上水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例、水道普及の要因と現状、水道の役割と法律
③	水道水ができるまで	水道の水源から蛇口まで、日本の浄水処理、美味しい水とは

④	日本で水道水を直接飲むことができるのは	水道の水質基準とは、水質検査と安全管理の実態
⑤	将来も今のように水道を利用することはできるのか？	水道事業とは、全国の水道料金は同じなのか、水道事業の現状と課題、水道事業民営化とは
⑥	地球温暖化による水道への影響と離島での水道事情	温暖化による今後の予測、節水対策、雨水利用の現状と動向、離島における水道の現状
⑦	下水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例、下水道の役割とその変遷
⑧	下水道の水質基準と普及状況を示す指標	BODとCODとは、基準の使われ方、下水道の普及状況は、下水道類似施設とは
⑨	下水道施設の計画から施工まで	下水道の収集方法（分流・合流）、様々な下水管きょの種類、マンホールの役割、下水道の施工方法
⑩	下水道の課題とは	河川や海の水質保全、下水道の老朽化問題、下水道の地震対策
⑪	都市型水害とは	急増する集中豪雨の現状と対策、都市化と都市の地理的特性、下水道でのハード対策とソフト対策
⑫	雨水の流出をコントロールする「貯留と浸透」とは	貯留・浸透工法の仕組みと効果、街づくりと一体となった取り組み
⑬	下水はどのように浄化されるのか	浄化技術の変遷、重要な微生物の働き、標準活性汚泥法、高度処理とは
⑭	試験・まとめ	第1回から第13回授業での重要なポイントの理解度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

市民生活を支える「上水道」「下水道」について自分の身近な水を学習することから始める。例えば「水道料金はいくら払っているのか？」「自宅の水道水はどの浄水場から給水されているのか？」そもそもその水源はどこなのか？」「使用した水はどのように処理されているのか？」下水処理場の場所や処理水の放流先は？」「自宅の屋根や敷地に降った雨水はどのように処理されているのか？」など各自の生活の周りにある「水」を理解しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト40%、期末試験60%として、その合計点により評価を行う。合計点が60点以上70点未満はC（C-、C+を含む）、70点以上80点未満はB（B-、B+を含む）、80点以上90点未満はA（A-、A+を含む）、90点以上はSとして評価する。

ただし、全14コマの講義のうち欠席回数が4コマを超えた場合、あるいは期末試験を欠席した場合は単位取得を認めない（評価DまたはEとする）。また、遅刻2回ごとに欠席1コマの扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマへの関心と理解を深めるため、具体的な事例の説明や映像素材による解説を取り入れるなど、本授業の内容が学生自らの日常生活にも密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（PDF ファイル）をPC等で参照しながら受講する必要があるため「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）を必ず持参すること。また、確認テストや期末試験の際に「関数電卓」が必要となる場合があるので各自で持参すること（持参し忘れた場合も貸与はしない）。

【その他の重要事項】

交通機関の遅延による遅刻、学生証の持参忘れやタッチ忘れについては、それぞれ原則1回のみ配慮する（2回目以降の申し出は特別な事情がない限り無効とし、遅刻または欠席扱い）。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, you will learn the history and role of the development of water supplies and sewer systems, in addition to their composition, function, design, construction, operation and management.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to get an overview of the water and sewer system, current issues and countermeasures.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to understand the things related to the water and sewer system that is close to you. your required study time is at least four hour each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the short report in each meeting (40%) and term-end examination (60%).

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

水理学 2

原田 大輔

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川の開水路流れを中心とした、水圏に発生する流れを科学的に記述するための基礎学理を習得し、その応用例を学ぶ。水理学Ⅰ及演習で学んだ内容をさらに深く理解するとともに、実際の開水路（河川）流れの計測と演習を通して数値解析及び工学的諸問題への適用方法を学ぶ。

【到達目標】

陸水域の様々な流れに関する水理解析が、実際の河川管理にどのように適用され、工学的意義を有しているかを理解する。各種水工学的諸問題の解決に必要な数理解析能力を育むことを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力 20%

(E) 専門知識の活用・応用力 60%

(F) 総合デザイン能力 20%

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

河川・地下水など陸水の流れを解析するために必要な基礎知識体系を講義する。水理学Ⅰ及演習で説明を割愛した水理学諸問題に用いる基礎方程式を誘導して科学原理と工学的応用とのつながりを理解し、応用力を高める。さらに、実際の技術的課題と基礎学理との関係理解できるように、実務上の事例を紹介するとともに演習を織り交ぜながら水理学の応用性・適用性を体感する。また、実際の河川で計測を行うことで水理学の理解をさらに深め、それに関する演習を実施する。演習は授業時間内に終了してレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	開水路流れの基礎	学習教育目標の確認。授業の進め方。静水力学の復習。鉛直流速分布の基礎、常流と射流の復習。
2	開水路流れの応用	鉛直流速分布の導出、粗度と流速分布の関係、平均流速公式の導出、常流と射流。
3	開水路流れの計測(1)	流速計を用いた実際の河川流れの計測。常流と射流、開水路水面形の観察。河床材料の基礎と河原の粒度分布の計測。
4	開水路流れの計測(2)	実際の河川流の2割、4割、6割、8割水深での流速の計測。開水路水面形の計測。
5	開水路流れの分析	「開水路流れの計測」で実施した計測項目の分析。鉛直流速分布の描画、平均流速、フルード数の導出。
6	開水路水面形の導出と応用	開水路等流における H-Q 関係、逐次近似法による等流解析、断面諸元・せん断力の解析とその演習
7	非定常流の基礎	運動方程式と連続式の基礎とその単純化、非定常流の式の導出。 Kinematic wave 法と Diffusion wave 法。
8	非定常流の応用と演習	Kinematic wave 法と Diffusion wave 法に適した場に関する考え方とその演習。
9	土砂水理学の基礎	底面せん断力の評価法、底面せん断力と流水抵抗との関係、限界掃流力の概念の導入。掃流砂と浮遊砂の基礎。
10	土砂水理学の応用	「土砂水理学の基礎」に関する演習問題、特に底面せん断力、無次元掃流力、それを用いた浮遊砂の評価法。

11	掃流砂と浮遊砂・河床変動の解析法	掃流砂・浮遊砂の基礎方程式の導出。河床変動の解析法。混合粒径の考え方。
12	掃流砂と浮遊砂・河床変動の解析法の応用	掃流砂・浮遊砂の基礎方程式の導出。河床変動の解析法。混合粒径の応用とそれらの演習
13	乱流理論の水理学への応用	乱流研究の歴史、乱流の定義と概念、自然界における乱流、レイノルズ応力、プラントルの運動量輸送理論とカルマン定数、対数流速分布、滑面乱流、粗面乱流、粗滑遷移領域と壁面摩擦係数、対数流速分布則、ブラジウスの 1/7 乗則、円管乱流、開水路乱流、乱流理論に関する演習
14	授業の総括と学力確認	水理学 2 の総括と学力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として水理学Ⅰ及演習の講義資料・演習・宿題などを復習する。テキスト（水理学Ⅰ及演習と同一）と授業中の配布資料を復習し、演習問題の結果を自己分析する。身近な水工施設と授業で学んだ水理学的課題との対応関係を意識して、水理学の応用性・有用性を認識する。本授業 1 回あたりの準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水理学（土木・環境系コアテキストシリーズ）、竹原幸生、コロナ社、2012 年、

【参考書】

授業中に配付する資料、適宜紹介する参考書など

【成績評価の方法と基準】

開水路水理学、土砂水理学を中心とした理論とその応用に関する理解度、水理学が様々な河川流れや河川管理にどのように応用されどのような工学的意義を有しているかに関する理解度を評価する。

演習レポート（30%）と期末試験（70%）により総合評価する。100 点満点に換算した上、60 点以上を合格とする。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

演習では学生と教員とのコミュニケーションを重視して理解促進を図る。

【学生が準備すべき機器他】

ほぼ毎回、演習を実施するので、関数電卓（場合によって PC）を持参すること（携帯電話の電卓機能を使用することは不可）。

【その他の重要事項】

水理学Ⅰ及演習（必修）と本授業をともに履修することによってはじめて他大学で開講されている水理学系科目の履修水準に達することから、本授業の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is designed to teach the basis of hydrodynamics and apply them to solve engineering problems found in rivers. Extending the body of knowledge from "Hydraulics I and Exercise", this course aims to deepen understanding through on-site observation and practical exercises on real open-channel (river) flows, and to develop the ability to apply numerical analysis techniques and hydraulic theory to practical engineering problems.

(Learning Objectives)

Understand how hydraulic analysis of various flows in inland waters is applied to actual river and groundwater management, and how it has engineering significance. The goal is to develop the mathematical analysis skills necessary to solve various hydraulic engineering problems.

(Learning activities outside of classroom)

As preparation, review lecture materials, exercises, and homework for Hydraulics I and exercises. Review the textbook (same as Hydraulics I and Exercise), the materials handed out in class and the results of the exercises. In addition, students will conduct on-site measurements in an actual river, including flow velocity, to enhance their understanding, and will carry out related practical exercises. The exercises will be completed within class hours, and a report will be submitted afterward. (Grading Criteria /Policy)

Evaluate how much students understand hydrostatics, perfect fluid dynamics, open channel hydraulics, pipe flow hydraulics, groundwater hydraulics, dimensional analysis/similarity and turbulent flow theory. Also evaluate if students correctly understand how the fundamental hydraulics are applied to river and groundwater management and what kind of engineering significance they have. Comprehensive evaluation based on practice report (30%) and final exam (70%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

ADE300NC（建築学 / Architecture and building engineering 300）

建築法規（都市）

田中 美都

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では建築基準法や建築関連法規の理解を目的に、建築物の単体規定及び集団規定、これらに関連するバリアフリー、省エネ等について学ぶ。

【到達目標】

1. 建築関連法令の読み方と解釈力を習得できる
2. 建築関連法令の内容と趣旨を説明できる力を習得できる
3. 建築士試験受験の基礎を習得できる

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

建築基準法に定める単体規定及び集団規定等について、要点、背景そして目的を、テキスト（教科書）を中心に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／建築基準法の基礎知識（1）	授業全体の構成とねらい／法令の構成と読み方／建築基準法の基本定義
2	建築基準法の基礎知識（2）	建築基準法に関わる手続き／規制に関わる規模の算定
3	単体規定の基本ー室内の環境と安全	採光と換気／構造と設備
4	集団規定の基本ー都市の環境と安全	都市計画区域と道路／防火地域
5	都市計画による建築物等の形態制限（1）	面積の制限／高さの制限
6	都市計画による建築物等の形態制限（2）	その他地域地区／レポート出題
7	防火に関わる規定（1）	基本用語／防火のための構造基準
8	防火に関わる規定（2）	防火区画と内装制限／避難施設
9	構造に関わる規定（1）	構造計算の基本／災害による基準法の変遷
10	構造に関わる規定（2）	強度のための構造基準／木造建築の構造設計
11	基準法のその他の規定／その他の法律（1）	認定制度／建築物の品質確保のための法律
12	その他の法律（2）	建築物の性能向上のための法律／建築物と関わりの深い法律
13	フィードバック	レポート発表
14	まとめ【対面実施】	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習ではテキスト（教科書）の該当する文章や図表を一読する。復習では該当する条文をインターネットや法令集で再確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

今村仁美・田中美都：第3版図説やさしい建築法規、学芸出版社（3200円＋税）

【参考書】

建築基準法、建築基準法施行令などは、法令集のほか、法令データ提供システム eGov から確認する。
都道府県や市区町村の定める建築基準条例、建築基準条例施行規則などはその都道府県や市区町村のウェブサイトの例規集を参照する。都市計画については都市計画情報システム等から参照する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）と期末試験（50%）

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

1日に2回の授業を実施することを踏まえた内容構成としています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、学内外から参加するためのPCやタブレットが必要である。なお発言を求める場合があるため、発話できる環境から参加すること。

【その他の重要事項】

建築設計事務所にて設計実務に携わる教員が、建築法規の意義や設計における遵守の考え方について、実例を踏まえて授業を実施する。
オフィスアワーについて、オンライン授業のため質問等は授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

1. Course outline

In this course, students will learn about the Building Standards Act in Japan and building-related regulations, including individual and collective regulations for buildings, as well as barrier-free and energy-saving regulations related to these regulations.

2. Learning objectives

The goals of this course are to A, B and C for students' career development;

-A: to acquire the ability to interpret the related development/building codes;

-B: to acquire the ability to explain the content and purpose of the related development/building codes;

-C: to acquire the basics of taking the Kenchikushi-Exams.

3. Learning activities outside of the classroom

In preparation, students will read the relevant sentences and figures in the textbook. Students will recheck the relevant articles online or in law books for review.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

4. Grading Criteria

Grading will be done with the report (50%) and the final examination (50%)

No credit will be given for more than four absences (grade D).

CST200NC (土木工学 / Civil engineering 200)

水文気象学

鈴木 善晴

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水災害から人々の暮らしを守るための防災・減災対策を構築するため、あるいは、大気・海洋汚染をはじめとする環境問題の解決策を探るためには、大気、降水、河川、海洋等に関連した物理現象をよく理解し、それらを解析・予測・評価するための工学的・数学的手法を習得することが不可欠である。本授業では、水や熱の移動・循環に伴う大気現象を主な対象とする水文気象学の分野について、基礎的な知識の習得を目指すとともに、その工学上の役割や具体的な応用例について学習する。

【到達目標】

都市環境デザイン工学科の「学習・教育到達目標（JABEE）」における割合は、D（専門基礎学力）：70%，E（専門知識の活用・応用能力）：30%である。具体的には、①様々な気象現象に対する具体的なイメージを身に付けるとともに、より高度な専門学習に耐える十分な基礎知識を習得する（D）、②水工学分野の技術者として問題解決に必要な知識や技術を適切に選び取ることができる応用力・思考力を身に付ける（E）、などが本授業における到達目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

(D) 専門基礎学力 70%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では「学習支援システム」による資料配信・課題提出、および「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）で資料を参照しながらの受講を基本とする。大気の鉛直構造と大規模な流れ、大気の熱力学と鉛直安定度、降水過程（雨・雲の生成）、大気における放射・熱収支、メソスケールの現象と台風、気候変動と地球環境問題、気象災害と観測・数値予報を主要なテーマとし、それらに関する基礎的な学習と問題演習を行う。

2コマの授業時間のうち、基礎知識と例題の学習に1.5コマ（前週の復習およびフィードバックを含む）、確認テストとその採点・訂正に0.5コマ程度の時間配分で授業を実施する。初めに各回の学習内容に関する解説を聴きながら配布資料の要点を理解したうえで、各自で「学習ノート」の作成を開始する。次に、学習内容への理解を深めるため、授業の終盤に「確認テスト」に取り組む。第1～2回と第9～10回の授業時にDVD鑑賞を行う予定（感想レポートを作成・提出）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	大気の鉛直構造と大気循環(1)	大気の化学組成，エーロゾル，大気の鉛直構造，オゾン層，熱輸送

②	大気の鉛直構造と大気循環(2)	ハドレー循環，フェレル循環，コリオリ力，豪雨災害に関するDVD鑑賞
③	大気の熱力学と鉛直安定度(1)	気体の状態方程式，静力学（静力学）平衡，高気圧・低気圧
④	大気の熱力学と鉛直安定度(2)	水の相変化，水蒸気圧，熱力学の第一法則，大気の安定度
⑤	降水過程（雨・雲の生成）(1)	雲粒と氷晶の成長過程，暖かい雨と冷たい雨，雲と霧，前線と気団
⑥	降水過程（雨・雲の生成）(2)	大気運動のスケール，積乱雲の成長過程，メソ対流系，台風の構造
⑦	大気における放射・熱収支(1)	太陽放射と太陽定数，黒体放射とその物理法則，放射平衡
⑧	大気における放射・熱収支(2)	放射収支，大気による放射の散乱，放射の吸収と温室効果
⑨	気候変動と地球環境問題(1)	過去の気候変化と地球温暖化，地球温暖化に関するDVD鑑賞
⑩	気候変動と地球環境問題(2)	エルニーニョ現象，ヒートアイランド現象，大気浮遊物質と越境汚染
⑪	気象災害と観測・数値予報(1)	気象災害の分類と特徴，防災気象情報，地上気象観測，アメダス
⑫	気象災害と観測・数値予報(2)	気象レーダー・気象衛星観測，数値予報の概要，全球・メソモデル
⑬	総括・復習(1)	第1回から第12回までの総括・復習として期末試験を実施
⑭	総括・復習(2)	第13回の期末試験に関する解説・補足説明・質問対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてインターネット検索等も活用しながら各自の「学習ノート」を作成し，次回授業前日までに学習支援システムへ提出する。また，各回の学習内容に関する「確認テスト」に取り組み，採点・訂正前後の答案を学習支援システムへ提出するとともに，授業中の解説・補足説明やフィードバックも参考にして，各自で学習内容全般の復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習ノート30%，確認テスト20%，レポート課題20%，期末試験30%として，その合計点により評価を行う。合計点が60点以上70点未満はC（C-，C+を含む），70点以上80点未満はB（B-，B+を含む），80点以上90点未満はA（A-，A+を含む），90点以上はSとして評価する。

ただし，全14コマの講義のうち欠席回数が4コマを超えた場合，あるいは期末試験を欠席した場合は単位取得を認めない（評価DまたはEとする）。また，遅刻2回ごとに欠席1コマの扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマへの関心と理解を深めるため、具体的な事例の説明や映像素材による解説を取り入れるなど、本授業の内容が学生自らの日常生活にも密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（PDF ファイル）をPC等で参照しながら受講する必要があるため「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）を必ず持参すること。また、確認テストや期末試験の際に「関数電卓」が必要となる場合があるので各自で持参すること（持参し忘れた場合も貸与はしない）。

【その他の重要事項】

交通機関の遅延による遅刻、学生証の持参忘れやタッチ忘れについては、それぞれ原則1回のみ配慮する（2回目以降の申し出は特別な事情がない限り無効とし、遅刻または欠席扱い）。

【Outline (in English)】

In order to create measures for disaster prevention and mitigation that are necessary to protect civic lives from water-related disasters, it is essential to deeply understand phenomena relating with atmosphere, precipitation, river, ocean and so on and also to learn engineering techniques and mathematical methods for analysis, prediction and evaluation of such phenomena. This course is designed to acquire fundamental knowledge of hydrometeorology, that is mainly relating with atmospheric phenomena caused by the transfer and circulation of water and heat, and also to learn some application examples. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on personal study notebooks (30%), in-class exercises (20%), homework reports (20%), and term-end examination (30%).

CST300NC (土木工学 / Civil engineering 300)

海洋環境工学

東 博紀、越川 海

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海洋に関する基礎的な知識から最新の科学的知見まで幅広く学習するとともに、工学・環境学の技術者に必要な基礎理論と数理モデルを習得する。

【到達目標】

- ①沿岸・内湾～全球スケールにおける海の流動や循環、海洋の生態系など、海岸工学・海洋学に関する基礎知識を幅広く習得する。
- ②津波・高潮、富栄養化、気候変動など、海にまつわる災害・環境問題を理解する。
- ③海洋環境の保全・改善に向けた日本と世界の取組みを理解する。
- ④波の基礎理論および赤潮・貧酸素水塊の数理モデルを習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	20%
(E) 専門知識の活用・応用力	60%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

配付資料を用いた講義・問題演習を行う。第1～10回および第13・14回では、奇数回目において海洋学の基礎や海の災害・環境問題について総合的理解を深め、偶数回目では前講義内容に関わる基礎理論の解説・問題演習を行う。第11・12回では、海の環境保全・改善に関する日本と世界の取組みについて学習する。リアクションペーパーの配布・提出を毎回行い、次の授業のはじめに寄せられたコメント・質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、海の構造と観測	海の深さ・海底地形、海の色、水温・塩分・海水密度の鉛直構造、海の流れと種類、潮汐の発生メカニズム、海洋観測
2	波の基礎理論1(演習)	長波と深水波、微小振幅波理論の解説と問題演習
3	海にまつわる災害～津波と高潮～	津波・高潮の発生メカニズム、災害事例、災害に伴って発生する環境問題
4	波の基礎理論2(演習)	微小振幅波理論(第2回の続き)、分散関係式、津波の伝播速度・到達時間の解説と問題演習
5	沿岸・内湾の富栄養化問題1	海洋生態系の基礎、生命の起源、水生生物の種類と食物網、海洋の一次生産、赤潮の発生メカニズム
6	生態系の数理解析1(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その1)
7	沿岸・内湾の富栄養化問題2	干潟の種類、底生生物の種類、二枚貝(アサリ)の生活史、貧酸素水塊の発生メカニズム、底生生物の水質浄化作用
8	生態系の数理解析2(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その2)
9	わが国の沿岸環境の現状と保全	環境基本法、水質汚濁防止法、排水基準、環境基準、総量規制制度、生活排水対策
10	生態系の数理解析3(演習)	Excelを用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築(その3)
11	海洋環境保全のための国際的取組み	海洋汚染防止に関する国際条約とわが国の取り組み
12	海洋資源開発と環境保全	海底鉱物資源の基礎知識、海底鉱物資源開発の現状、海底鉱物資源開発による環境影響

13	地球規模の大気・海洋循環と温暖化の影響	水の状態変化、地球の水・熱循環、地球規模の大気循環、海洋の風成循環と熱塩循環、気候変動・地球温暖化の影響
14	海洋循環の基礎理論(演習)	コリオリ力、地衡流の解説・問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使用了スライド資料、配布資料、問題演習(全てエチュードにアップする)を復習する。第2・4・14回の問題演習では水理学が、第6・8・10回ではExcelの表計算が基礎になるため、関連科目を復習してから授業に臨む。第6・8・10回で構築した赤潮・貧酸素水塊予測モデルを用いたレポート課題に取り組む。本授業の準備と復習の時間はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の際に資料や演習ファイルを配付する。

【参考書】

海洋学(Paul R. Pinet 著、東京大学大気海洋研究所監訳、東海大学出版会)、海岸工学(木村、森北出版)、沿岸の海洋物理学(宇野木、東海大学出版会)

【成績評価の方法と基準】

波(第1～4回)と海洋循環(第13・14回)の基礎理論に関する単元課題30%、授業(第5～10回)で作成する赤潮・貧酸素水塊のExcelモデルを用いたレポート70%を標準的な配点として、その合計点で評価する。なお、4回を超える欠席は単位取得を認めない(評価DまたはE)。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業では、毎回出席票(リアクションペーパー)を配付・回収し、授業で分からなかったところや授業の改善要望などを自由形式で記述してもらい、学生の理解度の把握や意見の収集に努めた。寄せられた質問については次回の講義で補足説明を行うなど、授業にフィードバックさせた。引き続き、今年度も可能な限り学生からの質問や要望を集め、分かりやすい授業に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

- 毎回ノートパソコンを持参すること（特に、第6・8・10回は演習でExcelを使用するため必須）。忘れても貸し出しはしない。
- レポート課題の提出には学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

現役の研究者が、海洋学と環境保全に関する基礎理論から最新の科学的知見まで幅広く紹介・解説するとともに、人間活動が海域環境に及ぼす影響を予測する数値シミュレーションモデルについて指導する。オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

This course deals with the oceanography for civil and environmental engineering. The goals of this course are to understand basic knowledge of oceanography, especially mathematical physical theories, numerical modelling for coastal biogeochemical cycles, and national/international environmental management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and short reports (30%).

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

流域水文学

鈴木 善晴

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水災害から人々の暮らしを守るための防災・減災対策を構築するため、あるいは、大気・海洋汚染をはじめとする環境問題の解決策を探るためには、大気、降水、河川、海洋等に関連した物理現象をよく理解し、それらを解析・予測・評価するための工学的・数学的手法を習得することが不可欠である。本授業では、河川、水資源、上下水道等に関わる水工学の基盤分野として、流域水文学に関する基礎的な知識・技術の習得を目指すとともに、具体的な応用事例について学習する。

【到達目標】

都市環境デザイン工学科の「学習・教育到達目標（JABEE）」における割合は、D（専門基礎学力）：20％、E（専門知識の活用・応用能力）：60％、F（総合デザイン能力）：20％である。具体的には、①様々な水文現象に対する具体的なイメージを身に付けるとともに、より高度な専門学習に耐えうる十分な基礎知識を習得する（D）、②水工学分野の技術者として問題解決に必要な知識や技術を適切に選び取ることができる応用力・思考力を身に付ける（E、F）、などが本授業における到達目標となる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業では「学習支援システム」による資料配信・課題提出、および「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）で資料を参照しながらの受講を基本とする。水循環と水文過程（水文学の定義と体系）、流域平均雨量の把握（点から面への展開）、水文統計・水工計画（確率水文学の推定）、流域水収支と流出成分（有効雨量と流出成分の分離）、流出モデルと流出解析（流出モデルの分類と特徴）を主要なテーマとし、それらに関する演習課題への取り組みを通じて理解を深める。

2コマの授業時間のうち、基礎知識の学習に1コマ（前週の復習およびフィードバックを含む）、演習問題への取り組みに1コマ程度の時間配分で授業を実施する。初めに各回の学習内容に関する解説を聴きながら配布資料の要点を理解したうえで、各自で「学習ノート」の作成を開始する。次に、学習内容への理解を深めるため、授業の後半は各回の主要テーマに関する「演習問題」に取り組み、ヒントや補足説明を聴きながら各自で答案を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	水循環と水文過程(1)	水文学の定義と体系、地球上の水循環、様々な水文過程
②	水循環と水文過程(2)	第1回の講義内容に関する問題演習
③	流域平均雨量の把握(1)	水循環系の状況変化、流域平均雨量（点から面への展開）
④	流域平均雨量の把握(2)	第3回の講義内容に関する問題演習
⑤	水文統計・水工計画(1)	確率水文学の推定、確率分布、超過・非超過確率、再現期間
⑥	水文統計・水工計画(2)	第5回の講義内容に関する問題演習
⑦	流域水収支と流出成分(1)	流出と蒸発散、有効雨量・損失雨量、有効雨量と流出成分の分離
⑧	流域水収支と流出成分(2)	第7回の講義内容に関する問題演習
⑨	流出モデルと流出解析(1)	流出モデルの分類と特徴、単位図法（ユニットハイドログラフ）
⑩	流出モデルと流出解析(2)	第9回の講義内容に関する問題演習
⑪	流出モデルと流出解析(3)	合理式によるピーク流量の推算、タンクモデルと貯留関数法
⑫	流出モデルと流出解析(4)	第11回の講義内容に関する問題演習
⑬	総括・復習(1)	第1回から第12回までの総括および復習として期末試験を実施
⑭	総括・復習(2)	第13回の期末試験に関する補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じてインターネット検索等も活用しながら各自の「学習ノート」を作成し、次回授業前日までに学習支援システムへ提出する。また、次回授業時の補足説明やフィードバックも参考にして、各自で演習問題および学習内容全般の復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学習ノートの内容30％、演習問題への取り組み40％、期末試験30％の配点とし、その合計点により評価を行う。合計点が60点以上70点未満はC（C-、C+を含む）、70点以上80点未満はB（B-、B+を含む）、80点以上90点未満はA（A-、A+を含む）、90点以上はSとして評価する。

ただし、全14コマの講義のうち欠席回数が4コマを超えた場合、あるいは期末試験を欠席した場合は単位取得を認めない（評価DまたはEとする）。また、遅刻2回ごとに欠席1コマの扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

各テーマへの関心と理解を深めるため、具体的な事例の説明や映像素材による解説を取り入れるなど、本授業の内容が学生自らの日常生活にも密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（PDFファイル）をPC等で参照しながら受講する必要があるため「貸与ノートPC」（あるいはそれに代わる機材）を必ず持参すること。また、演習問題への取り組みや期末試験の際に「関数電卓」が必要となる場合があるので持参すること（持参し忘れた場合も貸与はしない）。

【その他の重要事項】

交通機関の遅延による遅刻、学生証の持参忘れやタッチ忘れについては、それぞれ原則1回のみ配慮する（2回目以降の申し出は特別な事情がない限り無効とし、遅刻または欠席扱い）。

【Outline (in English)】

In order to create measures for disaster prevention and mitigation that are necessary to protect civic lives from water-related disasters, it is essential to deeply understand phenomena relating with atmosphere, precipitation, river, ocean and so on and also to learn engineering techniques and mathematical methods for analysis, prediction and evaluation of such phenomena. This course is designed to acquire fundamental knowledge of watershed hydrology, that is a foundation of water engineering relating with river, water resources, water supply and sewerage, and also to learn some application examples. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on personal study notebooks (30%), in-class exercises (40%), and term-end examination (30%).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

溝渕 利明、橋本 親典

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80%，卒業研究1報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

研究内容に応じて提示する。

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Learning Objectives

The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand.

Learning activities outside of classroom

It is to proceed with graduation research in the laboratory.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report.

Graduation research 1 implementation record: 80% Graduation research 1 report: 20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

今井 龍一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80％、卒業研究1報告書：20％

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。

オフィスアワー：A期 水曜 12:20～13:00、B期 木曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

内田 大介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1 報告書により総合的に評価する。

卒業研究1 実施記録：80%，卒業研究1 報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%,

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

尾関 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80%，卒業研究1報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Learning Objectives

The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand.

Learning activities outside of classroom

It is to proceed with graduation research in the laboratory.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report.

Graduation research 1 implementation record: 80% Graduation research 1 report: 20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

鈴木 善晴

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水工学の分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

水工学の分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、研究室全体の進捗報告や担当教員との個別ミーティングを交えながら独自に調査・解析を進め、最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解

④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、担当教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、担当教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、担当教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、担当教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況・実施記録 (80%), 卒業研究 1 報告書 (20%)
により総合的に評価を行う。ただし、研究従事時間が90時間未満の
場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises. Before/after each activity in the lab, students will be expected to spend hour hours to study about research technique and knowledge. Grading will be decided based on the quality of the students' performance in the lab (80%), and research report (20%).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

福井 恒明、荻原 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解（1） 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解（2） 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解（3） 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解（4） 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施（1）	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施（2）	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施（3）	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施（4）	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施（5）	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施（6）	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施（7）	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施（8）	研究成果をまとめる。
14	研究の実施（9）	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室での作業やフィールドにおける調査等によって、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80%，卒業研究1報告書：20%

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

兼任教員のオフィスアワーについては授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

Outline: The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer/researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Objectives: To acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the execution of graduation research.

To understand the issues, clarify the background, corroborate with indicators, and predict the future of the issues through logical explanations using objective materials.

Learning activities outside of classroom: Research will be conducted through work in the laboratory and surveys in the field.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

Grading Criteria /Policy: The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and graduation research report.

Graduation Research Record: 80%, Graduation Research Report: 20%.

However, students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

山本 佳士

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80％、卒業研究1報告書：20％

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

オフィスアワー

火 12:30～13:30

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Learning Objectives

The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand. Learning activities outside of classroom It is to proceed with graduation research in the laboratory.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy

Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report. Graduation research 1 implementation record: 80% Graduation research 1 report: 20%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80％、卒業研究1報告書：20％

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their senior thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and the Graduation Research 1 Report as follows; Graduate Research 1 Implementation Record: 80%, Graduate Research 1 Report: 20%, provided that students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 1（都市）

原田 大輔、知花 武佳

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

対面形式を基本として、状況に応じてオンラインを含めながら授業を実施する。授業計画の変更がある場合にはその都度、関係学生に周知する。

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の評価基準を基本としながら成績評価の方法と基準を随時調整する。具体的には研究室ゼミなどを通して別途示す。

研究への取り組み状況、卒業研究1報告書により総合的に評価する。

卒業研究1実施記録：80％、卒業研究1報告書：20％

ただし、研究従事時間が90時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な教育研究指導経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

(Learning Objectives)

Acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the performance of graduation research. Understand engineering issues and background, predict the problems and issues in future, etc..

(Learning activities outside of classroom)

Carry out graduation research in the laboratory and at home. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Based on the following evaluation criteria, the method and criteria for grade evaluation will be adjusted as needed. Specifics will be shown separately through laboratory seminars. Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and graduation research 1 report. Graduation Research 1 implementation record: 80%, Graduation Research 1 report: 20%. However, applicants who have engaged in research for less than 90 hours will be disqualified.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

溝渕 利明、橋本 親典

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.

Learning activities outside of classroom

A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」、NEDO「3次元空間情報基盤に関する研究開発」およびNEDO「空間ID・3次元空間情報基盤の活用人材育成に係る特別講座」で作成した教材を活用する。
オフィスアワー：金曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).
The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50% for the graduation research paper, 25% for the research outline, and 25% for the research presentation.
Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

・ Learning Objectives

Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.

・ Learning activities outside of classroom

Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.

・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Graduation thesis and Attitude to study on a daily basis:50%, Summary of research:25%, research presentation:25%

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

090175

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、4年前期までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	研究テーマの理解と多面的検証	AB期までに確定した研究テーマについて、中間まとめを踏まえ一層多角的観点からの確認を行う
②	論文の構成展望	様々に収集した研究テーマに即した情報を整理し、論文構成にどのように活用していくかの展望を整理する
③	研究の実施、深度化(1)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
④	研究の実施、深度化(2)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑤	研究の実施、深度化(3)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑥	研究の実施、深度化(4)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑦	研究の実施、深度化(5)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める
⑧	研究の実施、深度化(6)	とりまとめに向け、深度化を図る項目を抽出し、一層の情報収集または分析を進める

⑨	論文構成の再点検(1)	これまでの情報収集、分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し、必要な修正を行う
⑩	論文構成の再点検(2)	これまでの情報収集、分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し、必要な修正を行う
⑪	取りまとめへの取り組み(1)	取りまとめへの取り組み着手、指導教員とのディスカッション
⑫	取りまとめへの取り組み(2)	取りまとめの深度化、指導教員とのディスカッション
⑬	取りまとめへの取り組み(3)	取りまとめの深度化、指導教員とのディスカッション
⑭	取りまとめへの取り組み(4)	取りまとめの深度化、指導教員とのディスカッション。プレゼンテーションの観点からの点検と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限の学習時間は規定されているものの、効率的により深く意義ある成果を得ることを目標に、授業時間という概念よりも、研究に向かう時間管理が重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the previous term. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50% for the graduation research paper, 25% for the research outline, and 25% for the research presentation.

Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

鈴木 善晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水工学の分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

水工学の分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、研究室全体の進捗報告や担当教員との個別ミーティングを交えながら独自に調査・解析を進め、最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解

④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表・卒業研究2中間報告書に基づいた中間審査を経て、研究への取り組み状況および最終審査（卒業研究論文、論文概要、研究発表）により総合的に評価を行う。各評価項目の比率は、研究への取り組み状況と卒業研究論文50％、論文概要25％、研究発表25％とする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis. Before/after each activity in the lab, students will be expected to spend hour hours to study about research technique and knowledge. Grading will be decided based on the quality of the students' performance in the lab including the thesis (50%), research abstract (25%), and research presentation (25%).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

福井 恒明、荻原 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。専任教員のオフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。兼任教員のオフィスアワーについては授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】

Outline:

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

Objectives:

To acquire basic knowledge of related fields by reading books, academic papers, and other reference materials related to their own research themes. In addition, students will acquire basic skills related to computers and programming by working on exercises. Furthermore, the learning goal of this class is to deepen students' understanding of specific problems and issues in their research themes and to improve their problem-solving skills so that they can formulate and implement their own research plans for writing their graduation theses.

Learning activities outside of classroom:

A wide range of continuous learning outside of class time is required, including acquisition of basic knowledge of each student's research theme, acquisition of basic skills related to computers and programming, etc., and work on specific research problems.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

Grading Criteria /Policy:

Students who have passed the interim review of their interim presentation and interim graduation research report will be evaluated based on their research efforts and the final review (graduation research paper, research outline, and research presentation). The evaluation will be based on the weighting of the student's research efforts, graduation research thesis (50%), research outline (25%), and research presentation (25%). However, students who have spent less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

山本 佳士

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

オフィスアワー
火 12:30～13:30

【Outline (in English)】

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.

Learning activities outside of classroom

A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis. The students will be evaluated comprehensively as follows; Presentation: 25%, Abstract: 25%, Thesis: 50%, provided that students who have spent less than 180 hours on research will fail.

CST400NC（土木工学 / Civil engineering 400）

卒業研究 2（都市）

原田 大輔、知花 武佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

T 卒業論文/卒業研究/卒業制作 /Thesis

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得(1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得(2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得(3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得(4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得(5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得(1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得(2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑧	基本スキルの習得(3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得(4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得(5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み(1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み(2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み(3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み(4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文50%、研究概要25%、研究発表25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する豊富な教育研究指導経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline (in English)】
(Course outline)

By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

(Learning Objectives)

Acquire basic knowledge in the assigned theme by reading literatures related to individual research themes. Students develop basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students deepen their understanding of specific issues in their research themes, and improve their problem-solving ability so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.

(Learning activities outside of classroom)

A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Interim Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the interim review of the interim report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation). The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%). However, applicants who have engaged in research for less than 180 hours will be disqualified.

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC（キャリア教育 / Career education 200）

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CAR200NC (キャリア教育 / Career education 200)

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

基礎ゼミナール

溝渕 利明、鈴木 善晴、酒井 久和、今井 龍一、山本 佳士、内田 大介、福井 恒明、尾関 智子、原田 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする。学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える。卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える。

【到達目標】

専門科目と土木技術の関係を学ぶとともに、種々のキャリアパスの想定を通じて、自らの進路を考えるきっかけを掴む。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、3回の講義で都市プランニング系、施設デザイン系、環境システム系を体験する。キャリアデザインについては全体で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プランニング系）	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プランニング系の研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン系）	施設デザイン系の研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム系）	環境システム系の研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー（国家公務員）	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー（地方公務員）	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー（技術士）	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー（建設コンサルタント）	建設コンサルタント協会の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。

(8)	キャリアデザインセミナー（ゼネコン、橋梁メーカー）	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカーの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー（測量調査）	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー（土木デザイン）	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー（大学院）	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	教員別ゼミナール	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席4回以上は単位の取得を認めない（D評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCを持参する。

【その他の重要事項】

土木分野における計画、設計、製作、施工等に係る実務経験を有する専任教員が、専門知識について解説する。各教員のオフィスアワーは履修の手引きを確認すること。

また、現役技術者を招いた講演会を複数回開催し、最新の技術動向を解説いただく。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society.

・ Learning Objectives

Learn about the relationship between specialized subjects and civil engineering technology. In addition, by considering various career paths, students will have the opportunity to think about their own future.

- Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Grading Criteria

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

社会基盤概論

今井 龍一、福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、都市環境デザイン工学の技術によって現代の文明社会を支えているインフラストラクチャーについて、その機能や仕組み、施設の概要を理解することである。

【到達目標】

代表的なインフラストラクチャーの種類や仕組みについて理解する。
それぞれのインフラストラクチャーを構成する施設について理解する。
それぞれのインフラストラクチャーの代表的な事例を知る。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力 20%
(D) 専門基礎学力 50%
(E) 専門知識の活用・応用能力 30%
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

インフラストラクチャーの種類ごとにその内容を講義にて説明する。
見学会を実施して具体的な施設を見学する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・道路1	授業の概要と進め方、道路ネットワークと幾何構造、道路整備の仕組みと事業
2	道路2	構造物各論、土工・構造物・トンネル
3	橋梁	下部構造、上部構造、施工
4	河川1	治水・利水・親水
5	河川2	流域管理と水害防止
6	上下水道・水の供給	水道や用水供給の仕組み、排水浄化
7	通信・エネルギー	通信網の仕組み、エネルギー供給の仕組みと施設
8	港湾・空港	物流の概要、物流網を支える仕組みと施設
9	鉄道と自動車交通	鉄道網を支える施設、バス・自動車交通の仕組み
10	都市計画事業	土地区画整理事業や市街地再開発事業の仕組みと成果
11	防災インフラ	海岸防災や土砂災害の考え方と施設
12	見学会（1）	道路または河川事業
13	見学会（2）	道路または河川事業
14	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に講義内容を復習し、指示されたレポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

数回実施するレポートによって評価する（100%）。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

見学会については授業時間外（土日を含む）に実施する可能性がある。
詳しくは初回授業時に説明する。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

オフィスアワー：水曜 12:20～13:00

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the functions, mechanisms and outline of facilities related to infrastructure, which supports modern society through the technologies of civil and environmental engineering.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Understand the types and mechanisms of typical infrastructures.
2. To understand the facilities that make up an infrastructure.
3. To know the typical examples of infrastructure.

Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

コンクリート工学及演習 X

溝渕 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンクリートに使用される材料の基本的な特性を把握するとともに、その歴史的な背景についても学ぶこと及びそれらの材料を組み合わせたコンクリートのフレッシュ性状、硬化後の性状、耐久性などの諸物性の基本的な事項を学ぶとともに、施工上あるいは構造物の設計に必要な諸物性を付与させるための配合設計についてその基本概念を身につけることを本授業のテーマとする。

【到達目標】

コンクリート構造物の建設に使用される主要材料の歴史的背景を学ぶとともに、それらの材料の物理的・化学的・力学的諸特性について、使用上熟知しておくべき基礎的事項を身につける。さらに、これら諸材料の材料設計に関する基本的な考え方を修得するとともに、コンクリートのフレッシュ・硬化特性の把握、耐久性、劣化現象の把握、コンクリートの配合設計手法の取得を本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 20%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンクリート構造物を建設する際の主な構成材料は、コンクリートと鋼材である。本科目では、コンクリートや鋼材がどのようなものか、どのような素材で作られているか、用途はどうかなどについて講義するとともに演習課題を出してその理解度を確認する。また、現場においてコンクリート材料がどのように用いられているかについて講義するとともにその理解度の確認を行う。さらに、現代の土木構造物の大半を占める鉄筋コンクリート構造物の主要構成要素であるコンクリートの基本的な性質（フレッシュコンクリート、硬化コンクリート）及びコンクリートの耐久性、その照査法に関する基礎的な知識を習得していくとともに、コンクリートの材料設計である配合設計の最も基本的な示方配合の算定について講義するとともに、演習問題を通してその理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンクリート分野から見た土木史およびセメント・コンクリートの歴史	古代から近世までの建設・コンクリート分野の視点から見た土木史について概説する。また、古代コンクリートから現在使われているセメント・コンクリートの歴史について概説する。
2	コンクリート材料（セメントの基本特性）	コンクリート材料であるセメントの種類、化学成分、水和反応などの基本的な特性について概説する。
3	コンクリート材料（骨材の基本特性）	骨材の種類、基本的な物理特性等を概説する。また、軽量骨材やスラグ骨材など各種骨材の特性などを説明する。
4	コンクリート材料（混和材料）	混和材料である化学混和剤の種類、特徴、用途などを概説する。また、混和材の種類、特徴、用途などを概説する。
5	鋼材（基本特性）	鋼材の基本的な特性、鉄筋の種類、性質などを概説する。
6	建設に用いるその他の材料	建設に用いる木材、石材、新材料について概説する。
7	コンクリートの性質（フレッシュコンクリート）	フレッシュコンクリートの基本的な特性について概説する。

8	コンクリートの性質（硬化コンクリート）	硬化コンクリートのうち、力学的特性について概説する。
9	コンクリートの性質（硬化コンクリート、その他の特性）	硬化コンクリートのうち、その他の特性について概説する。
10	コンクリートの性質（フレッシュ、硬化コンクリートの特性）	フレッシュコンクリート及び硬化コンクリートの特性についての演習問題を行う。
11	建設に用いる材料およびコンクリートの性質に関する復習	これまで学んできた建設に用いる材料およびコンクリートの性質について、重要なポイントについて説明するとともに、復習を行う。
12	建設材料およびコンクリートの性質に関する総合演習	建設材料及びフレッシュコンクリート、硬化コンクリートに関する総合演習を行う。
13	コンクリートの耐久性（耐久性の概要、塩害、中性化）	コンクリートの耐久性について概説するとともに、コンクリートの劣化原因である塩害及び中性化について概説する。
14	コンクリートの耐久性（耐久性の概要、塩害、中性化）	コンクリートの劣化原因である塩害及び中性化について概説するとともに、それらについての演習問題を行う。
15	コンクリートの耐久性（アルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化）	コンクリートの劣化原因であるアルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化について概説する。
16	コンクリートの耐久性（アルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化）	コンクリートの劣化原因であるアルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化について概説するとともに、それらについて演習問題を行う。
17	コンクリートの耐久性（ひび割れの診断と補修）	コンクリートのひび割れ発生原因について概説するとともに、それらの補修方法、抑制方法について概説及び演習問題を行う。
18	コンクリート構造物の耐久性照査	コンクリート構造物の耐久設計、耐久性照査について概説するとともに、その照査方法に関する演習問題を実際の事例を交えながら行う。
19	コンクリートの配合設計（基本事項）	コンクリートの配合設計の基本事項について概説する。
20	コンクリートの配合設計（配合設計の手順）	コンクリートの配合設計の手順を概説するとともに、演習問題を行う。
21	コンクリートの配合設計の演習	コンクリートの配合設計の演習問題を行う。
22	コンクリートの配合設計演習（事例を基にした材料設計）	実構造物での事例に基づいて、材料設計（材料選定、耐久設計、配合設計）についての演習問題を行う。
23	コンクリートの製造技術及びコンクリートの品質管理・検査技術	コンクリートの製造方法、練混ぜ技術、レディーミクストコンクリートの業務、役割、製造品目、製造方法について、品質管理とは何か、品質管理と検査との違い
24	コンクリートの運搬技術	運搬の種類、ポンプ圧送の方法、技術的な課題、ポンプ車について
25	コンクリートの施工方法	コンクリートの打込み、締固め、養生、仕上げについて
26	コンクリート構造物の仮設	仮設の考え方、仮設資材、仮設の種類、材料の選定、設計（荷重）、取外し時期および特殊型枠
27	鉄筋の加工・組立	鉄筋の加工、組立て、継手の種類・施工
28	コンクリートの施工に関する総合演習	施工の考え方などについて、これまでの内容についての復習、演習問題を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当する箇所を熟読しておく

講義内容の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コンクリート技術の要点；日本コンクリート工学会

【参考書】

コンクリート診断技術；日本コンクリート工学会

コンクリート崩壊;PHP新書(電子書籍)

トコトンやさしい土木技術の本

トコトンやさしい土木施工の本

施工がわかるイラスト土木入門

【成績評価の方法と基準】

演習問題、中間・期末試験による。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。

演習問題(20%),中間試験(40%),期末試験(40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

実務経験豊富な専任教員及び兼任教員が講義・演習を担当します。

オフィスアワー：兼任講師は、講義終了後に実施します。

【Outline (in English)】

The main theme of this lecture is to learn about the historical background on basic properties of materials used for concrete and to acquire the basic concept of design of mix proportion considering various properties required for construction or design of the concrete structures. Additionally, students learn the basic knowledge of various properties such as properties of fresh concrete, properties of hardened concrete and durability of concrete after mixing these materials.

Learning Objectives

The learning goal is to learn the historical background of the main materials used in the construction of concrete structures, as well as the basic knowledge of the physical, chemical, and mechanical properties of these materials for use. Furthermore, in addition to learning the basic concepts of material design for these materials, the goal of this course is to understand the freshness and hardening characteristics of concrete, to understand durability and deterioration phenomena, and to acquire the techniques on concrete mix design.

Learning activities outside of classroom

Peruse the relevant parts of the text beforehand

Review of lecture content

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Exercises (20%), midterm exam (40%), final exam (40%)

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

コンクリート工学及演習 Y

伊藤 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンクリートに使用される材料の基本的な特性を把握するとともに、その歴史的な背景についても学ぶこと及びそれらの材料を組み合わせたコンクリートのフレッシュ性状、硬化後の性状、耐久性などの諸物性の基本的な事項を学ぶとともに、施工上あるいは構造物の設計上必要な諸物性を付与させるための配合設計についてその基本概念を身につけることを本授業のテーマとする。

【到達目標】

コンクリート構造物の建設に使用される主要材料の歴史的背景を学ぶとともに、それらの材料の物理的・化学的・力学的諸特性について、使用上熟知しておくべき基礎的事項を身につける。さらに、これら諸材料の材料設計に関する基本的な考え方を修得するとともに、コンクリートのフレッシュ・硬化特性の把握、耐久性、劣化現象の把握、コンクリートの配合設計手法の取得を本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 20%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

コンクリート構造物を建設する際の主な構成材料は、コンクリートと鋼材である。本科目では、コンクリートや鋼材がどのようなものか、どのような素材で作られているか、用途はどうかなどについて講義するとともに演習課題を出してその理解度を確認する。また、現場においてコンクリート材料がどのように用いられているかについて講義するとともにその理解度の確認を行う。さらに、現代の土木構造物の大半を占める鉄筋コンクリート構造物の主要構成要素であるコンクリートの基本的な性質（フレッシュコンクリート、硬化コンクリート）及びコンクリートの耐久性、その照査法に関する基礎的な知識を習得していくとともに、コンクリートの材料設計である配合設計の最も基本的な示方配合の算定について講義するとともに、演習問題を通してその理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンクリート分野から観た土木史およびセメント・コンクリートの歴史	古代から近世までの建設・コンクリート分野の視点から観た土木史について概説する。また、古代コンクリートから現在使われているセメント・コンクリートの歴史について概説する。

2	コンクリート材料（セメントの基本特性）	コンクリート材料であるセメントの種類、化学成分、水和反応などの基本的な特性について概説する。
3	コンクリート材料（骨材の基本特性）	骨材の種類、基本的な物理特性等を概説する。また、軽量骨材やスラグ骨材など各種骨材の特性などを説明する。
4	コンクリート材料（混和材料）	混和材料である化学混和剤の種類、特徴、用途などを概説する。また、混和材の種類、特徴、用途などを概説する。
5	鋼材（基本特性）	鋼材の基本的な特性、鉄筋の種類、性質などを概説する。
6	建設に用いるその他の材料	建設に用いる木材、石材、新材料について概説する。
7	コンクリートの性質（フレッシュコンクリート）	フレッシュコンクリートの基本的な特性について概説する。
8	コンクリートの性質（硬化コンクリート）	硬化コンクリートのうち、力学的特性について概説する。
9	コンクリートの性質（硬化コンクリート、その他の特性）	硬化コンクリートのうち、その他の特性について概説する。
10	コンクリートの性質（フレッシュ、硬化コンクリートの特性）	フレッシュコンクリート及び硬化コンクリートの特性についての演習問題を行う。
11	建設に用いる材料およびコンクリートの性質に関する復習	これまで学んできた建設に用いる材料およびコンクリートの性質について、重要なポイントについて説明するとともに、復習を行う。
12	建設材料およびコンクリートの性質に関する総合演習	建設材料及びフレッシュコンクリート、硬化コンクリートに関する総合演習を行う。
13	コンクリートの耐久性（耐久性の概要、塩害、中性化）	コンクリートの耐久性について概説するとともに、コンクリートの劣化原因である塩害及び中性化について概説する。
14	コンクリートの耐久性（耐久性の概要、塩害、中性化）	コンクリートの劣化原因である塩害及び中性化について概説するとともに、それらについての演習問題を行う。
15	コンクリートの耐久性（アルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化）	コンクリートの劣化原因であるアルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化について概説する。
16	コンクリートの耐久性（アルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化）	コンクリートの劣化原因であるアルカリ骨材反応、化学的浸食、凍害、その他の劣化について概説するとともに、それらについて演習問題を行う。
17	コンクリートの耐久性（ひび割れの診断と補修）	コンクリートのひび割れ発生原因について概説するとともに、それらの補修方法、抑制方法について概説及び演習問題を行う。

18	コンクリート構造物の耐久性照査	コンクリート構造物の耐久設計、耐久性照査について概説するとともに、その照査方法に関する演習問題を実際の事例を交えながら行う。
19	コンクリートの配合設計 (基本事項)	コンクリートの配合設計の基本事項について概説する。
20	コンクリートの配合設計 (配合設計の手順)	コンクリートの配合設計の手順を概説するとともに、演習問題を行う。
21	コンクリートの配合設計の演習	コンクリートの配合設計の演習問題を行う。
22	コンクリートの配合設計演習（事例を基にした材料設計）	実構造物での事例に基づいて、材料設計（材料選定，耐久設計，配合設計）についての演習問題を行う。
23	コンクリートの製造技術及びコンクリートの品質管理・検査技術	コンクリートの製造方法，練混ぜ技術，レディーミクストコンクリートの業務，役割，製造品目，製造方法について，品質管理とは何か，品質管理と検査との違い
24	コンクリートの運搬技術	運搬の種類，ポンプ圧送の方法，技術的な課題，ポンプ車について
25	コンクリートの施工方法	コンクリートの打込み，締固め，養生，仕上げについて
26	コンクリート構造物の仮設	仮設の考え方，仮設資材，仮設の種類，材料の選定，設計（荷重），取外し時期および特殊型枠
27	鉄筋の加工・組立	鉄筋の加工，組立て，継手の種類・施工
28	コンクリートの施工に関する総合演習	施工の考え方などについて，これまでの内容についての復習，演習問題を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当する箇所を熟読しておく

講義内容の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コンクリート技術の要点；日本コンクリート工学会

【参考書】

コンクリート診断技術；日本コンクリート工学会

コンクリート崩壊;PHP新書(電子書籍)

トコトンやさしい土木技術の本

トコトンやさしい土木施工の本

施工がわかるイラスト土木入門

【成績評価の方法と基準】

演習問題，中間・期末試験による。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。

演習問題(20%),中間試験(40%),期末試験(40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

実務経験豊富な専任教員及び兼任教員が講義・演習を担当します。

オフィスアワー：兼任講師は、講義終了後に実施します。

【Outline (in English)】

The main theme of this lecture is to learn about the historical background on basic properties of materials used for concrete and to acquire the basic concept of design of mix proportion considering various properties required for construction or design of the concrete structures. Additionally, students learn the basic knowledge of various properties such as properties of fresh concrete, properties of hardened concrete and durability of concrete after mixing these materials.

Learning Objectives

The learning goal is to learn the historical background of the main materials used in the construction of concrete structures, as well as the basic knowledge of the physical, chemical, and mechanical properties of these materials for use. Furthermore, in addition to learning the basic concepts of material design for these materials, the goal of this course is to understand the freshness and hardening characteristics of concrete, to understand durability and deterioration phenomena, and to acquire the techniques on concrete mix design.

Learning activities outside of classroom

Peruse the relevant parts of the text beforehand

Review of lecture content

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Exercises (20%), midterm exam (40%), final exam (40%)

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

鋼構造学及演習 X

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】

鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用能力
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

70%

30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。

授業は教科書、配布資料、PPTを用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法、冶金の性質、機械的性質 鋼材の破壊形式(延性破壊、脆性破壊、疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁、合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学 (1)	引張部材の設計、応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈(偏心荷重、元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学 (2)	非弾性座屈、溶接組立柱の座屈、平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学 (1)	全塑性モーメント、横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学 (2)	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力(せん断流理論) せん断耐力、ウェブの座屈、ウェブの設計、せん断遅れ
7	中間実力確認	中間実力確認
8	鋼橋の点検と維持管理 鋼橋の製作	実橋の点検、腐食部材の耐力 橋ができるまで（鋼橋製作工場の見学）
9	溶接継手とその設計 (1)	溶接の種類、溶接継手の種類、溶接入熱、溶接変形、溶接残留応力、溶接きず、非破壊検査
10	溶接継手とその設計 (2)	溶接継手の強度、溶接記号
11	溶接継手とその設計 (3)	疲労とは、疲労強度に影響を与える因子、鋼橋の疲労設計
12	高力ボルト接合とその設計 (1)	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法

13	高力ボルト接合とその設計 (2)	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手、引張接合継手
14	総合実力確認	総合実力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～14回：講義の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

舘石和雄 著：鋼構造学（改訂版），コロナ社

【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配点は各回の演習問題を30点、中間実力確認と総合実力確認の合計を70点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度に復活させた中間実力確認を継続し、効果を検証する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPPTを使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

【その他の重要事項】

教材、例題と演習問題の解答は学習支援システムに掲載します。

Xクラスは重工メーカーで鋼構造物の設計、研究開発の経験のある教員が担当します。

Yクラスは高速道路会社をサポートする会社で鋼道路橋の点検、維持管理に關する技術開発に携わっている教員が担当します。

・オフィスアワーについて

Xクラス担当の内田先生のオフィスアワーの日程・時間については、履修の手引きをご確認ください。

Yクラス担当の平山先生は講義時間外の質問・問い合わせにはメールで対応します。

【Outline (in English)】

Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.

・ Learning Objectives

Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.

・ Learning activities outside of classroom

Review lessons. Standard study time is two hours for each class meeting.

・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Total of Midterm and Term-end examination: 70%, Each class exercises :30%

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

鋼構造学及演習 Y

平山 繁幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】

鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用能力
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

70%

30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。

授業は教科書、配布資料、PPTを用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法、冶金の性質、機械的性質 鋼材の破壊形式(延性破壊、脆性破壊、疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁、合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学 (1)	引張部材の設計、応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈(偏心荷重、元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学 (2)	非弾性座屈、溶接組立柱の座屈、平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学 (1)	全塑性モーメント、横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学 (2)	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力(せん断流理論) せん断耐力、ウェブの座屈、ウェブの設計、せん断遅れ
7	中間実力確認	中間実力確認
8	鋼橋の点検と維持管理 鋼橋の製作	実橋の点検、腐食部材の耐力 橋ができるまで（鋼橋製作工場の見学）
9	溶接継手とその設計 (1)	溶接の種類、溶接継手の種類、溶接入熱、溶接変形、溶接残留応力、溶接きず、非破壊検査
10	溶接継手とその設計 (2)	溶接継手の強度、溶接記号
11	溶接継手とその設計 (3)	疲労とは、疲労強度に影響を与える因子、鋼橋の疲労設計
12	高力ボルト接合とその設計 (1)	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法

13	高力ボルト接合とその設計 (2)	高力ボルト摩擦接合継手の設計
14	総合実力確認	支圧接合継手、引張接合継手 総合実力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～14回：講義の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

館石和雄 著：鋼構造学（改訂版）、コロナ社

【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配点は各回の演習問題を30点、中間実力確認と総合実力確認の合計を70点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度に復活させた中間実力確認を継続し、効果を検証する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPPTを使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

【その他の重要事項】

教材、例題と演習問題の解答は学習支援システムに掲載します。

Xクラスは重工メーカーで鋼構造物の設計、研究開発の経験のある教員が担当します。

Yクラスは高速道路会社をサポートする会社で鋼道路橋の点検、維持管理に關する技術開発に携わっている教員が担当します。

・オフィスアワーについて

Xクラス担当の内田先生のオフィスアワーの日程・時間については、履修の手引きをご確認ください。

Yクラス担当の平山先生は講義時間外の質問・問い合わせにはメールで対応します。

【Outline (in English)】

Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.

・ Learning Objectives

Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.

・ Learning activities outside of classroom

Review lessons. Standard study time is two hours for each class meeting.

・ Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Total of Midterm and Term-end examination: 70%, Each class exercises :30%

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

地盤環境工学

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地盤に関わる環境問題、自然現象や建設事業に伴う地盤災害を理解する。特に、斜面の安定性や地盤中の地下水の流れ、擁壁の安定性について演習を交えて知識を定着させる。

【到達目標】

「地盤力学及演習」の発展として、斜面の安定性、地盤中の地下水の流れ、擁壁の安定性に関して知識を深めるとともに、国内外での地盤・地下水環境に関する問題点ならびに建設事業において発生する地盤災害・環境問題等に関する基礎知識を修得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	40%
(E) 専門知識の活用・応用力	20%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の概要

①斜面の安定性、地盤中の浸潤面をもつ地下水の流れ、擁壁の安定性について講義及び演習を行う。

②自然の地形、建設工事による災害を含む周辺環境への影響についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、地形と地盤特性	建設の観点からの地形と想定される問題点の解説
2	地盤災害（斜面）・斜面の安定	斜面災害の事例紹介、斜面の安定性の考え方の解説
3	斜面の安定計算（半無限地盤）	斜面の安定計算（半無限地盤）の解説、演習
4	斜面の安定計算（円弧すべり）	斜面の安定計算（円弧すべり）の解説
5	斜面の安定計算（円弧すべり）	斜面の安定計算（円弧すべり）の解説、演習
6	地盤中の地下水の流れ	地盤中の地下水の流れについて、基本事項の復習、解説
7	中間まとめ 第1回～第6回の理解度の確認	1～6回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認および質疑応答
8	浸潤面をもつ地下水の流れ（準一様流）	浸潤面をもつ地下水の流れ（準一様流）の解説、演習
9	浸潤面をもつ地下水の流れ（揚水）	浸潤面をもつ地下水の流れ（揚水）の解説、演習
10	地下の活用－トンネルの掘削工法と地下構造物の災害事例－	地下構造物の活用事例、建設方法の理解、災害事例の解説
11	地盤災害－掘削工事－	掘削工事に伴う地盤災害について解説
12	土圧の復習・擁壁の安定	土圧計算の復習、擁壁の安定性検討方法について解説、演習
13	擁壁の安定・国土交通白書	擁壁の安定性の演習問題の解説、国土交通白書記載の地盤環境問題について解説・演習課題の作成
14	期末まとめ	第8回～第13回の理解度の確認と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業回で学んだ内容をそのつどしっかり復習して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

【参考書】

国土交通白書

【成績評価の方法と基準】

試験 70 % + レポート 30 % = 100 %
欠席 4 回以上は単位取得を認めない(評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の重点化によって評価は向上した。また、後半の講義において学生が興味を持てるよう演習を伴う計算を組み込んだ。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Geological & Environmental Engineering Program are to acquire fundamental knowledge about environmental and geological issues and geotechnical problems caused by natural disasters and construction activities.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

デザインスタジオ

佐多 祐一、福井 恒明、袴田 喜夫

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインスタジオは都市環境デザイン工学科における実技系の基礎的授業として重要な位置を占める。当授業は複数の課題から構成され、基礎造形に係る演習、図面制作技術の習得、そして模型製作の技法、これらを統合した造形表現など。これらにより、都市環境デザイン工学に係る計画づくりの初歩を学ぶ。

【到達目標】

基礎造形に関しては、紙、布などの加工を通じて、重力が働く世界における材料の特性を学ぶ。図面を用いた作業により作図検討の基礎を学ぶ。後半では都市、建築模型製作の基礎的な技術、観点を学ぶ。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力 70%
(E) 専門知識の活用・応用能力 30%
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

第一課題は紙の造形であり、個人課題として重力に耐えうる紙の構築物を制作する。第二課題は土木構築物が備えるべき美しさを念頭に素材特性と重力それぞれに向かい合い、造形物を制作する。第三・第四課題は個人課題として、手書き図面による図面作成技術、小空間設計を学ぶ。第五課題、第六課題は模型製作の基礎を学ぶ。
新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業を実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎造形課題	全体の進め方や狙いを説明する。造形物の美しさ、合理性、工夫などを狙いとして、紙を使った構築物を制作する。
2	立体造形(基礎検討)	課題説明、グループ分け。 グループごとに設定したテーマの立体造形物への展開について検討し、エスキスを受ける。
3	立体造形(試作)	立体造形物の制作。試行錯誤をへて、意図した造形物の姿を捉えていく。
4	立体造形発表、講評	立体造形物を完成させ、発表し、講評を受ける。
5	住宅のトレース	高名な住宅の平面、立面、断面図を手書きによりトレースする。
6	人の入る空間	人の入る小空間を設計する。 その基本的な構想をたたきスタディする。
7	人の入る空間、講評	スタディした内容に則した成果図面を制作し、講評を受ける。
8	模型製作の基礎	模型製作の材料や用具の使い方について学ぶ
9	広場空間の模型製作(1)	実在の広場空間模型を作成する。図面や写真で空間の把握を行う。
10	広場空間の模型製作(2)	実在の広場空間模型を作成する。空間を表現し添景の作成を行う。
11	広場空間の模型製作(3)	作成した模型について講評をうける。 模型の写真を撮影し、提出シートを作成する。
12	街路空間の観察と模型製作(1)	現地調査に基づき、ベースとなる地形部分を作成する。
13	街路空間の観察と模型製作(2)	現地調査に基づき、街路沿いの建物を作成する。

14 街路空間の観察と模型製作(3) 模型の写真を撮影し、提出シート作成する。模型の講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認

配布資料の復習

レポートの作成

演習課題の制作

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

講義において適宜指示するとともに補充資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

各演習課題により評価する。4回以上の欠席または演習課題の未提出はD評価となる。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

前半は直定規、三角定規、三角スケール、製図用筆記具、色鉛筆など製図器具、カッターなどが必要となる。学科で紹介する製図用品セットを購入すれば、秋学期の図学及演習を含め対応可能である。後半は模型制作のための工作用器具が必要であるが、これも製図用品セットで概ね対応可能である。その他、模型制作のための材料が必要になる場合がある。

【その他の重要事項】

計画・設計演習の基礎演習は順を追って構成されているため、授業を休むとそれを取り返すのが難しい。極力出席すること。
公共事業の現場管理や設計、政策立案の経験ならびに学識者としてアドバイザー経験のある教員、また現在実務家として最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。
学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

This is the first practical subject in the Department of Civil and Environmental Engineering program to study skills.
Each exercise will be evaluated. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC（土木工学 / Civil engineering 200）

プロジェクトスタジオ（都市）

袴田 喜夫、椿 真吾、福井 恒明、上山 肇

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市プランニング系の演習科目で唯一の必修科目である。都市整備に係わる法令や基礎知識を活かし、エンジニアリング・デザインの観点から具体的な地区を捉え、条件に応じた課題に応じていくことで都市プランニングの考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を現地調査や各種計画や地図等、また歴史の経緯から読みとくことができるようになる。その場において解決すべき課題を自ら設定することができ、これについて合理的な解決案の提案とその表現ができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 50%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は図面上での作業、図面・模型の制作、それらのプレゼンテーションからなる。エスキスは手書きを主に教員と議論を行い、個人課題の成果品フィニッシュは模型並びにデジタルツールを用いた図と説明からなるプレゼンテーション・シートとする。図面と模型の制作に関しては、その作業量から授業時間外での対応が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要説明、第1課題出題、模型と設計の基礎知識	第1課題の趣旨と条件を説明する。この課題を考える上で留意すべき点を説明する。
2	第1課題エスキス（1）	現地調査に基づく設計の基本方針を検討する。
3	第1課題エスキス（2）	設計方針を具体化する。
4	第1課題エスキス（3）	発表に向けて図面や模型の製作方針を検討する。
5	第1課題講評、第2課題出題	第1課題について図面と模型で発表する。第2課題の趣旨と条件を説明する。
6	第2課題現地分析発表	第2課題の対象地について文献調査や現地調査の結果を発表する。
7	第2課題参考事例発表	第2課題の検討にあたり参考となる国内外の事例を調査し、発表する。
8	都市開発事業と建築設計に関する知識、第2課題エスキス（1）	都市開発事業や建築設計の実例を理解し、自らの設計に活かす。設計対象とする敷地と設計テーマを選定する。
9	第2課題エスキス（2）	選定した敷地の設計方針を検討する。
10	第2課題エスキス（3）	設計方針に基づいて具体的な計画を検討する。
11	第2課題エスキス（4）	設計方針に基づき、計画内容の改善について指導を受ける。
12	第2課題エスキス（5）	発表に向けて図面や模型の製作方針について指導を受ける。
13	個人課題提出、講評会	個人課題である図面、模型を完成させ提出する。講評を始める。
14	講評会・その2	他学年の演習課題を含めて講評をつけ、総評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たちが暮らす都市空間がどのようにできているか興味を持ち、町を見る。道路の幅員、橋の高さ、建物の大きさなどを寸法として考えてみる。好きな場所、嫌いな場所の要因を考える。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

コンパクト建築設計資料集成[都市再生]（日本建築学会編、丸善）
都市景観大賞（国土交通省「景観まちづくり」ウェブサイト）https://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/toshi_townscape_tk_000022.html
土木学会デザイン賞ウェブサイト<https://design-prize.sakura.ne.jp>
世界のSSD100-都市持続再生のツボ（東京大学cSUR-SSD研究会、彰国社）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）

【学生の意見等からの気づき】

最終提出物のイメージを意識して作業するよう指導する。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。
三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる（1年次のデザインスタジオ用に購入したものがあれば可。）模型制作にあたっては、カッターなどの道具の他、模型材料を自ら調達する必要がある。

【その他の重要事項】

公共事業の現場管理や設計、政策立案の経験ならびに学識者としてアドバイザー経験のある専任教員、またわが国の第一線で建築、都市整備の実務に就いている兼任教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。学生からの質問等については授業前後教室で受けるとともに、専任教員については、履修の手引きに示されるオフィスアワーで対応する。兼任の教員については、Eメールで対応する。

【Outline (in English)】

As the only compulsory course in this program, students will locate problems in their target field and make suggestions for improvements using plan views, sectional views and models.
Each exercise will be evaluated. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

景観とデザイン

福井 恒明

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のシビルエンジニアには、どのような専門分野であっても、技術によって創出される構造物や空間、風景の質に対する知識と責任が求められる。本授業では、これに対応できる素養を修得するために景観工学の基礎知識、景観デザインに関する事例や考え方を学ぶ。

【到達目標】

1) 景観に関する基礎知識を修得し、計画・設計の前提となる基本的考察ができるようになる。

2) 1)をもとに景観に関する調査を行い、その結果について他者と共有できる論理構成と表現ができるようになる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に授業を進める。一部にグループワークによる実習の作業を含む。

グループワークに基づく授業内発表を行う（13,14回目）。その結果についてレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・景観の捉え方	（グループワーク）景観に関する言葉を使った例文作成と用法の確認
2	景観の捉え方	景観工学の誕生／ルートと展開／景観とは
3	大学周辺のまちあるき	まちなみの成り立ちや景観としての見方を理解する
4	大学周辺のまちあるき	まちなみの成り立ちや景観としての見方を理解する
5	視覚的アプローチ（1）／景観把握モデル	景観把握モデル／（グループワーク）風景写真の景観把握モデルによる説明・
6	視覚的アプローチ（2）／人間の視知覚特性	人間の視知覚特性と「よい眺め」／（グループワーク）よい眺望景観の景観ディスプレイ論的分析
7	視覚的アプローチ（3）／色彩	色彩の基礎
8	身体感覚的アプローチ（1）／ヒューマンスケール	ヒューマンスケール（グループワーク）ヒューマンスケールの実測、歩幅の確認と歩測
9	身体感覚的アプローチ（2）／仮想行動、アフォーダンス	仮想行動／「閉じる・開く」と「見る・見られる」／シークエンス
10	意味的アプローチ（1）／イメージマップ	イメージと景観、イメージマップ／（グループワーク）イメージマップによる地域分析
11	意味的アプローチ（2）／名付け、原風景、生活景	名付けと描写／伝統的景観／原風景と生活景
12	意味的アプローチ（3）／伝統的景観と現代	（グループワーク）歴史的景観とテーマパークの違い
13	まとめ（1）／社会基盤施設デザインのプロセス	景観デザインを踏まえた社会基盤施設のプロセスについてディスカッションする
14	まとめ（2）／グループディスカッションの発表と講評	グループディスカッションの結果についての発表とそれに対する講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的にテキスト（教科書）に沿って授業を進めるため、該当箇所について予習・復習を行う。授業後半にグループディスカッションを行うため、これに関する事前準備や事後のレポート作成（個人）がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

景観とデザイン（改訂2版）、内山久雄監修・佐々木葉著、オーム社、2015、2700円＋税

【参考書】

「景観用語事典 増補改訂第二版」篠原修編、彰国社、2021、3600円＋税
その他必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回の提出物50%、最終グループワークのレポート50%とする。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

プロジェクトの実態や詳細の紹介に対する評価が高かったため、今後も事例の紹介を適宜行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等によりインターネットに接続して作業できる環境が必要である。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。
オフィスアワーについては『履修の手引き』を参照すること。

【Outline (in English)】

Course outline

This lecture introduces a framework of knowledge about the quality of landscapes created by civil engineering technologies and presents specific examples.

Learning objectives:

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of landscape engineering and examples and ideas on landscape.

Learning activities outside classroom:

Students will be expected to read the relevant chapter from the text to prepare for a group discussion. Your study time will be more than two hours for a class.

Grading criteria/policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Results of each group work 50%, Term-end report: 50%

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

ジオテクニカルデザイン

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地盤調査、地盤災害、基礎、地盤改良、地盤掘削について学習するとともに、様々な構造物の設計演習を通じて総合的デザイン能力を高め、設計の考え方を習得する。

【到達目標】

- ①インフラ建設時の調査法、設計法、地盤災害について理解する。
- ②建設工事に必要な地盤調査法や建設時の地盤災害を理解し、ボーリング柱状図から事前に問題点を抽出する力を養成する。
- ③浅い基礎、深い基礎の設計方法と構造物の支持力機構を理解する。
- ④地盤改良や掘削の方法について理解する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	20%
(E) 専門知識の活用・応用力	60%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

「地盤環境工学」の発展として、インフラ建設時の調査法、設計法、地盤災害について講義を行う。前半では、建設時の地盤災害、浅い基礎の設計方法、液状化のメカニズムについて学び、後半は、深い基礎の設計方法、地盤改良や掘削の方法について学習する。構造物設計上の要点を把握した状態でボーリング柱状図を読むことで事前に問題点を抽出する力を養成する。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、地盤調査法	サウンディング、サンプリングによる地盤構造の把握
2	建設時の地盤災害	ボーリングの現象、検討方法、対策法
3	建設時の地盤災害	ヒーピング、盤膨れの現象、検討方法、対策法
4	浅い基礎の概説	浅い基礎の種類と施工法
5	浅い基礎の設計法	浅い基礎の支持力の考え方
6	浅い基礎の設計演習	浅い基礎の設計演習と解説
7	液状化現象	メカニズム、液状化対策と液状化判定
8	深い基礎の概説	支持力機構、基礎に要求される性能、杭の工法、材質、形状による分類
9	深い基礎の概説	工法の特徴と施工法の概要
10	深い基礎の検討	検討方法、鉛直支持力の計算法の概説
11	深い基礎の設計法	鉛直支持力、負の摩擦力の計算演習
12	地盤改良・掘削方法	地盤改良工法の概説、適用例。各種掘削工法の概説、特徴。
13	地盤特性値の解釈調査と留意点	設計地盤定数の求め方と留意点、ボーリング柱状図の読み方
14	期末まとめ	第1回～13回の理解の確認と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 今回授業内容の復習

2. 同 上
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 同 上
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上

12. 同 上

13. 同 上

14. 同 上

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

プリントを適宜配布する

【参考書】

地盤工学会：地盤調査法

日本道路協会：杭基礎設計便覧（平成18年度）

吉見吉昭、福武毅芳：地盤液状化の物理と評価・対策技術、技報堂出版

日本道路協会：道路土工構造物技術基準・同解説

【成績評価の方法と基準】

定期試験70％、レポート30％

欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

初回講義の際にこれまでの成績評価状況を説明し、受講意欲のない学生に対しては、早めに履修を諦めさせることができたところ、学生の授業評価が低いものがなくなり、興味のある学生の受講環境を高めることができた。引き続き学生に考えさせ、総合デザイン力の向上を目指したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓,PC

【その他の重要事項】

建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Geological Environmental Engineering 2 Program are the following:

1) Graduates will acquire fundamental knowledge on geotechnology: ground survey, ground disaster, foundation, ground improvement and excavation methods.

2) Graduates will enhance their ability of general design by design practices of several types of infrastructure.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% =100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

環境マネジメント

弘末 文紀

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀以降の科学技術の飛躍的な発展は、地球環境の破壊と人口爆発を生じさせ、もはや人類はもちろん様々な生物の生存にとって危機的状態をもたらしている。地球環境の改善と保全は、今世紀に人類が解決しなければならない緊急で最優先の課題である。我が国においても特定の産業活動が環境汚染を引き起こした過去の公害問題とは異なり、通常の事業および生活活動に起因する環境への負荷が増大しているため、自主的な環境への負荷の低減が求められている。

本授業では、上記課題を解決するための一手段として「環境マネジメント」に着目し、企業および市民が遵守すべき環境法規、さらに社会的な責任を意識して自主的、能動的に環境保全のための行動を計画・実行・評価する手順（環境マネジメントシステム）およびその行動に必要な技術を学ぶ。本授業の内容は、社会人（民間企業、公務員ほか）の基礎知識としては是非とも覚えておくべきこと、そしてシビルエンジニアの基盤技術として知っておくべきことであり、将来の業務の様々な局面で役立つものである。

【到達目標】

環境マネジメントの活動は、環境基本法の基本理念のもとに成り立つものであることから、我が国における環境にかかわる近代から現代の出来事と関連する法規制の歴史を概観することで環境基本法の成立に至る過程とその理念を理解する。そして、環境マネジメントの活動手順である「環境マネジメントシステム」の構成を理解するとともに、個別の環境（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、廃棄物処理等）関連法の概要および規制基準等について学ぶとともに、建設産業において規制基準を満足するための対処技術を事例に基づき習得する。さらに、企業活動を行うために必須の倫理観と企業責任（コンプライアンス、インテグリティ、CSR、SDGs、ESG）など、今、世の中で求められている環境経営の考え方についても概説するのでこれらを理解する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力 20%
(E) 専門知識の活用・応用能力 60%
(F) 総合デザイン能力 20%
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はオリジナルのパワーポイントを用いて講義形式で実施する。資料は講義当日までに授業支援システムにアップロードされるので、ここから各自ダウンロード出来る。講義（1回～12回）の終了前に小課題を出すので、基本的に講義終了または当日中に提出する（受け付けは翌日いっぱいまで。解答は次回講義開始時に確認する）。13回目目は小課題なし。14回目は把握度確認となるため解答合わせは行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境マネジメントと環境基本法	環境マネジメントの対象である環境問題の歴史と環境政策の推移及び基本理念の誕生 小課題①
2	環境マネジメントシステム	システムの概要とその効果 小課題②
3	水質環境の保全（その1）	水質汚濁と公害、有害化学物質による生物への影響、発生源と環境基準 小課題③
4	水質環境の保全（その2）	水質汚濁の事例と対策および効果 小課題④
5	大気環境の保全（その1）	大気汚染物質の法的規制と技術的対応 小課題⑤

6	大気環境の保全（その2）	今日の大気汚染問題（ヒートアイランド、温室効果ガスなど） 小課題⑥
7	土壌環境の保全（その1）	土壌汚染物質と土壌汚染対策法 小課題⑦
8	土壌環境の保全（その2）	汚染土壌の浄化技術とその実例 小課題⑧
9	廃棄物とリサイクル（その1）	廃棄物処理法とリサイクル法 小課題⑨
10	廃棄物とリサイクル（その2）	一般廃棄物と産業廃棄物の現況と処理・処分および不法投棄問題 小課題⑩
11	騒音および振動の規制と対策 悪臭とその対応 地盤沈下の影響と対策	騒音、振動、悪臭および地盤沈下の規制と防止対策 小課題⑪
12	環境経営 SDGsおよびESG投資と建設業界	CSRと持続的成長および環境活動 小課題⑫
13	最新の環境関連政策の動向 低炭素・脱炭素コンクリート技術 豊洲新市場土壌汚染問題	CN,CE,NPの取り組みと最新の脱炭素コンクリート技術の現状および豊洲市場土壌汚染問題とその対策
14	2026年度講義の把握度確認	1～13回の講義内容における重要事項の把握度を記述式にて確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配信するテキスト（パワーポイント）等と参考書による予習および講義の復習をし、特に重要な事項については講義時に指摘するので、これらについて把握する。

小課題は当日の講義内容から出題するので講義資料および関連情報を検索することで基本的に時間内に回答することが可能と考える。さらに、最終講義の把握度確認の課題は、各講義にて特に重要と指摘した項目から出題するので復習していれば十分対応可能。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

独自のパワーポイント資料を使用（同pdfファイルを授業支援システムにて配信する）。

【参考書】

事前予習のための参考書は特に必要としないが、より深い理解を得たい場合、環境マネジメントシステムに関する資料は、「図解即戦力 ISO 14001の規格と審査がこれ1冊でしっかりわかる教科書」福西義晴，技術評論社，2019.11.20
「一番やさしい・一番くわしい 最新版 図解でわかる ISO14001のすべて」大浜庄司，日本実業出版社，2017.8.31
などがある。
環境法および建設関連法規に関する資料は、「図解 環境 ISO 対応 まるごとわかる環境法」見目善弘，産業環境管理協会，2017.12.1
「建設工事の環境法令ガイド」（社）日本建設業団体連合会，2025.6
などがある。

【成績評価の方法と基準】

評価点は100点満点で評価し、90点以上S、87点以上A+、83点以上A、80点以上A-、77点以上B+、73点以上B、70点以上B-、67点以上C+、63点以上C、60点以上C-、59点以下または欠席4回以上Dとする。
評価点＝把握度確認の成績64%＋小課題12回分の成績36%
各小課題は、期限内提出して正解であれば3点、不正解は2点。期限遅れで提出した場合は正解で1点、不正解は0点。よって、全小課題を期限内提出して全問正解であれば36点の持ち点となる。
把握度確認は100点満点で採点し、その成績の0.64掛けが持ち点となり、上記の小課題持ち点と合わせて評価点とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度も全講義を対面にて実施した。小課題および課題確認の結果で判断すると学生諸君の理解は十分なされていたと思う。
ちなみに、4年前の講義からレポート課題を無くしているが、小課題において様々な考え方を提示した回答を得ているので今年度もユニークな回答を期待する。

【学生が準備すべき機器他】

講義は教室のプロジェクターを使用するため情報機器を持参する必要はありません。ただし、講義内容をより具体的に把握するため、特にシステム・法規・基準などをPCでリアルタイムに検索することは有効であるのでPCの持込を推奨します。

【その他の重要事項】

ゼネコンの技術研究開発部門で、技術者として地下水解析からはじまり土壌汚染、水質汚濁、廃棄物処理、災害瓦礫、除染などを対象とした環境関連技術の開発と実施に40年以上携わるとともに、管理者として品質管理および環境管理を推進した者が、その経験を活かして環境関連の法規と技術、さらには環境を考慮した企業経営の在り方を総括した環境マネジメントについて講義する。講義内容に関する質問は、授業終了後に教室で受け付けるとともに随時、電子メールでも受け付ける。

【Outline (in English)】

The rapid development of science and technology since the 20th century has resulted in the destruction of the global environment and a population explosion, and has brought about a state of crisis for the survival of various living organisms, not to mention the human race. The improvement and conservation of the global environment is an urgent and top-priority issue that mankind must resolve in this century. In Japan, unlike past pollution problems in which specific industrial activities caused environmental pollution, the burden on the environment caused by ordinary business and daily life activities is increasing, and voluntary reduction of the burden on the environment is required.

In this course, we focus on "environmental management" as a means to solve the above issues, and learn about environmental laws and regulations that companies and citizens should comply with, as well as procedures (environmental management systems) and technologies necessary for voluntary and active planning, execution, and evaluation of actions for environmental conservation with an awareness of social responsibility. The contents of this course are things that working people (private companies, civil servants, etc.) should learn as basic knowledge, and things that civil engineers should know as fundamental technologies, which will be useful in various aspects of their work in the future.

Since environmental management activities are based on the basic principles of the Basic Environmental Law, this course provides an overview of the history of modern and contemporary environmental events and related laws and regulations in Japan in order to understand the process leading to the enactment of the Basic Environmental Law and its principles. The course will also provide an overview of the individual environmental laws (air pollution, water pollution, soil contamination, noise, vibration, waste disposal, etc.), their regulatory standards, and techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will learn techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will also learn about the concept of environmental management, such as ethics and corporate responsibility (compliance, integrity, CSR, SDGs, and ESG), which are essential for conducting corporate activities and are now in demand in the world.

Students are expected to prepare for and review the lecture using the textbook (PowerPoint presentation) and reference books provided in advance, and to grasp particularly important issues as they will be pointed out during the lecture.

The quiz will be based on the content of the day's lecture, so students should be able to answer the quiz in time or the same day by searching for lecture materials and related information. In addition, the final assignment to check the level of understanding is based on the items pointed out as particularly important in each lecture, so it can be answered if the student has reviewed the material.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading is based on a 100-point scale: 90 or higher S, 87 or higher A+, 83 or higher A, 80 or higher A-, 77 or higher B+, 73 or higher B, 70 or higher B-, 67 or higher C+, 63 or higher C, 60 or higher C-, 59 or lower or 4-times or more absences D.

Evaluation points =64% of the grade for checking the grasp level + 36% of the grade for the 12 quizzes

Each quiz is worth 3 points if it is submitted on time and correct, and 2 points for incorrect. If submitted late, 1 point will be given for a correct answer and 0 point for an incorrect answer. Therefore, if all the quizzes are submitted on time and all the questions are answered correctly, 36 points will be carried.

CST300NC（土木工学 / Civil engineering 300）

水圏環境システム

原田 大輔

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球の水で構成される領域を水圏という。水圏の大部分は海洋であるが、人間との関わりが密な陸水域（河川、湖沼、貯水池）と沿岸域を対象として、流れ・水質・底質・生態系の変化の仕組みを学び、水環境を形成する水圏の科学を学ぶ。

【到達目標】

水質構成のメカニズムを学んだ後に、湖沼・ダム貯水池、河川といった圏域ごとに、流れ・水質・生態系・人間活動との関連性を多面的な視点から考究し、必須の基礎知識・技術、技術者としての環境倫理感などを修得することを目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理 10%
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 50%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

水辺空間の再生など身近な生活環境における技術の役割を学習するとともに、地球温暖化とその影響・対策などグローバルな問題も含め、大気の水・物質循環、気候変動、異常気象などについて近年の研究成果も踏まえて講義する。内容の理解を深めて水理学に基づく解析方法を修得するためにテーマ毎に演習問題を実施し、学生間、学生－教員間での意見交換を通して演習問題を解く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	水圏環境の変遷と講義概要	学習教育目標の確認。授業の進め方。テキスト紹介。産業革命によって二酸化炭素排出量が急増し温暖化が加速していること、窒素の固定技術によって窒素循環が劇的に変化したことが、水圏への環境負荷の増加要因になっていることを解説する。水圏環境に関わる主な出来事の国内外史、足尾銅山鉛毒事件、公害、環境法体系の整備、化学汚染と有機汚濁、富栄養化と有機汚濁における水質障害の事例

2	水質指標	水質指標の分類（水の物性、濁り、有機物、栄養塩）、水の物性に関する水質指標：水温、電気伝導度、塩分、pH、濁りに関する指標：透明度、透視度、濁度、色相・色度、有機物に関する指標：溶存酸素濃度、酸化還元電位、BOD、COD
3	水質環境基準と水質素過程	水質環境基準（河川、湖沼・貯水池、海域）、光・熱環境、制御関数と制限因子、吸脱着・溶出、水－大気境界面における気体交換、易・難溶性気体、凝集・沈殿（沈降）、好気性・嫌気性分解と溶存酸素に関する制御関数、食物連鎖と生物濃縮
4	光合成、有機物と河川の自浄作用	光合成を律する諸要因、クロロフィルa濃度の周日変化、物理的・化学的・生物学的自浄作用、好気的微生物と再曝気と真の自浄作用、河川の自浄作用に関する演習
5	湖沼・貯水池の水質水理	湖沼・貯水池の水理学的特性（河川との比較）、水温成層の構造と形成要因、水温成層の季節変化、成層特性による水域の分類、貯水池の流れ・乱れの駆動力
6	河川の物理環境	河川の環境機能、河川環境の空間・時間スケール、河川の物理環境：流況、セグメント、瀬と淵
7	流域の土砂収支・河川地形、植生水理	土砂収支と河川地形・生物環境、総合的土砂管理、河川の樹林化等流、不等流、非定常流の解析、実河川の例を用いたこれらの演習
8	河川流の解析（一次元）	平面二次元、三次元の解析法の基礎とその応用例
9	河川の解析（二次元・三次元）	非定常流の解析法、Kinematic wave、拡散波近似、これらの演習
10	河川の解析（洪水波）	河床変動の解析法、限界掃流力、掃流砂と浮遊砂、河床位方程式、流域土砂流出の解析法
11	河川の解析（河床変動と流域の流砂）	自然の攪乱・更新、縦断・横断方向の連続性、河川地形の多様性、植生の縦横断方向分布、付着藻類、魚類、底生動物と水質、河川文化
12	河川の生態系、流域文化	地球環境変化が水圏の流れや水質に及ぼす影響、持続可能社会を形成するために必要な水圏管理と環境倫理、水圏環境学の総括
13	気候変動と水圏環境、授業の総括	授業の総括と総合的な学力確認
14	授業の総括など	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習が演習課題を解き明かすために必要となり、授業内容が如何にして水圏環境の管理技術と連動しているかを演習によって理解する。演習には水理学や数値解析の概念が含まれており、水理学1及演習や水理学2など関連科目を復習すること。授業で紹介する時節ごとの水圏環境問題についても独自に関連資料などを調査し水圏環境学への興味を向上させること。授業の進行状況に応じて宿題を課す。

本授業1回あたりの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

水圏の環境，有田正光他：東京電機大学出版局，1998年

【参考書】

授業中に資料を配付する他，課題に応じて参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

水質の形成機構を理解していること，社会の営為活動が湖沼・ダム貯水池・河川など陸水域における水質・生態系に及ぼす影響を理解していること，水圏管理に必要な技術を修得していること，技術者として備えるべき環境技術倫理・多面的視点を備えていること，などの項目に関して成績を総合的に評価する。

①欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

②平常点30点（演習レポートなど）と期末試験70点により評価する。100点満点換算した上60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に提示するスライドの内容を簡潔にまとめた資料のみを配付し，学生のノート筆記を促進する。スライドについては授業終了後に学習支援システムへアップし，復習や定期試験に向けた学習を支援する。遠隔授業の場合には通信不良に備えてスライド動画を学習支援システムにアップロードし，オンデマンドとライブ講義を併用することが望ましい。

【学生が準備すべき機器他】

講義にはPPTやDVDを適宜使用する。2回に1回程度，理解を促進するために演習を使った授業をするため，関数電卓や貸与PCを持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The hydrosphere means the mass of water on the earth. The ocean is the major water mass on our planet, but most social activities take place in the river catchment rather than in the ocean. Engineering issues found in and around inland waters such as rivers, reservoirs and lakes are highlighted in order to learn how to measure and analyze quantity and quality of water, sediment and fauna and flora in inland waters.

(Learning Objectives)

Learning the fundamental mechanism of water quality balance, students will study the relationship among flow fields, water quality, ecosystems, and human activities in water systems such as lakes, dam reservoirs, and rivers channels. The goal is additionally to acquire environmental ethics as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Through the exercises, students will understand how the class is involved in the technology for managing the aquatic environment. Since the lecture is given relating to the concept of hydraulics and numerical analysis, so review related subjects such as hydraulics 1 and seminars and hydraulics 2 is required. The objective of the class is to increase interest in aquatic environmental studies by independently researching related materials for the aquatic environmental problems introduced in class. Assign homework according to the progress of the class. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Comprehensive evaluation of performance is made on items such as the ability to be an engineer, the environmental technology ethics that an engineer should have, and the ability to have a multifaceted perspective. (1) Students who are absent 4 or more times will not receive credits (evaluation D). (2) Evaluation will be based on a regular score of 30 points (exercise reports, etc.) and a final exam score of 70 points. A score of 60 or higher on a scale of 100 is considered a pass.

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 10%
- (B) 技術者倫理 10%
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力 30%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧

6	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
7	地震・防災・減災計画	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険 ＜総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年の推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険
2	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
3	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
6	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
7	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について

12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

CST300NA（土木工学 / Civil engineering 300）

減災工学

丸山 喜久、矢部 正明、藤村 和也、吉見 雅行、室野 剛隆、山崎 敦広、田中 孝幸、外園 明成、菅原 寛明、麓 博史、井原 和彦、山口 広喜

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り組まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険
2	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
3	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
6	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
7	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧

8	防災・減災	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
9	避難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
10	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
11	治水事業	荒川における河川整備について
12	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
13	土砂災害	土砂災害対策について
14	内水害	下水道による都市浸水対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配付

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を各回の演習レポート（100%）により総合評価する。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。
オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)
Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer. (Learning activities outside of classroom)
Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (100%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

橋のデザイン実習

末松 慎介、福井 恒明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁構造の基礎知識を習得した上で、題材として取り上げる既存橋梁の模型製作を通じてその橋梁の成り立ちを構造的・造形的に理解する。さらに自ら形を考えて製作した橋梁模型を用いた載荷試験を通じて、橋のデザインの実践を体験する。

【到達目標】

橋梁構造を成立させている主要な部材とその部材に流れる断面力を理解し、橋の形と力の流れの関係性をイメージできるようになること。また、個人もしくはグループでの作業を通じ、工程遵守と品質確保に留意しながらひとつの物をつくりあげ、それを他者へ説明するまでのプロセスを通じて、ものづくりの魅力と責任感を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、①橋梁景観等に関する「基礎知識の習得」と「美しい事例の紹介」を目的とした講義、②「デザイン作業とプレゼンテーションの実践」を目的とした演習を通して将来、自分の考えを公共土木施設的设计に反映できる技術者に成長するための基礎体験を履修するものである。

なお、演習手法はスタディ模型（発泡樹脂材料や紙による模型）の製作を中心とする。短時間でのデザイン検討作業（構想・模型製作）であるため、授業時間以外に作業を行うことがある。

本授業における「基礎知識」は、「鋼構造学及演習」で学んだことの復習であり、「模型製作」の題材は、「鋼構造デザイン実習」において設計した歩道橋を取り上げる。したがって、本授業ではこれまで学んだ知識を活用することで、橋梁技術者に求められるデザイン・設計の一連の経験を積むことができる。（鋼構造デザイン実習未履修者は、別途既存歩道橋の模型製作を行う。）授業実施期間に見学できる橋梁建設現場がある場合には、授業計画および課題を一部変更して見学会を実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義：授業ガイダンス 橋の基本知識、歴史、橋のデザイン	授業ガイダンス 橋の歴史、橋の構造形式と特徴、シックデザイン概念、橋のデザインの考え方
2	講義：橋梁の設計手法 1 演習：デザイン課題 1 出題と課題意図の説明	実務における橋梁の設計手法の紹介 図面の読解、模型の作り方
3	講義：橋梁の詳細設計 図面 演習：図面読解 1	橋梁図面の構成と内容 課題の橋梁図面の読解
4	講義：橋梁の設計手法 2 演習：図面読解 2	特殊橋梁の設計手法、フィールドワーク 必要部材の把握、確認
5	講義：橋梁の施工 1 演習：模型製作 1	橋梁の施工方法の紹介 部材の作成
6	講義：橋梁の施工 2 演習：模型製作 2	橋梁の施工・架設 部材の組み立て
7	デザイン課題 1 講評	製作した模型のプレゼンテーションと講評
8	デザイン課題 2 出題と課題意図の説明	課題説明と模型の製作条件
9	講義：橋梁のデザイン事例 1 演習：模型方針検討	国内外の橋梁デザインの紹介 グループディスカッションによる設計方針検討
10	講義：橋梁のデザイン事例 2 演習：試作模型の製作	国内外の橋梁デザインの紹介 第 1 回載荷試験用模型製作
11	デザイン課題 2 第 1 回載荷試験・エスキス	製作模型のプレゼンテーションと載荷試験 設計コンセプトの確認と試験結果の分析
12	改善方針検討	載荷試験結果に基づく改善方針の検討
13	改善模型製作	第 2 回載荷試験用の模型製作

14 デザイン課題 2 改善点のプレゼンテーションと載荷試験
 第 2 回載荷試験、講評 改善結果の確認と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1・2 履修登録
3・4 図面読解、必要な模型製作道具および材料購入
5・6 模型の完成
7・8 設計方針の検討
9・10 第 1 回載荷試験模型の完成
11・12 第 2 回載荷試験模型の完成
13・14 報告書作成準備
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

・景観デザイン規範事例集（道路・橋梁・街路・公園編）（国土交通省国土技術政策総合研究所、pdf版<http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/seika/ks/tnn0433.html>）
・景観用語事典 増補改訂第二版（彰国社）
・美しい橋のデザインマニュアル（土木学会構造工学委員会橋の景観とその形態および色彩に関する研究小委員会）

【成績評価の方法と基準】

第 1 課題（グループもしくは個人課題／配点 50 点）と第 2 課題（グループもしくは個人課題／配点 50 点）による。発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。なお、各課題の中間・最終発表時欠席者は単位取得を認めない（評価 D）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

課題にかける時間が足りないとの声がある。過重にならないよう課題内におけるサポートなど対策を行う。

【学生が準備すべき機器他】

成果品として A3 判のパネルを作成する。その際、貸与パソコンを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際に橋梁設計に携わっている実務者が、橋梁デザインの考え方や捉え方を含めて授業を行う。オフィスアワーについては授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will acquire basic knowledge of bridge structures and build models of existing bridges to understand their structure and design. Furthermore, students will gain practical experience in bridge design by conducting load tests on bridge models they have designed and built themselves.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to design bridge structures with sound structural concepts.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to have completed the required model and design reports.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on the reports and the presentations for the 1st theme(50%) and the 2nd theme(50%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。

11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禎子：ベシク品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。

13 品質管理の考え方（2） 管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。

14 本講義のまとめ まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山隼子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点：40%、演習レポート：60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management. 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

MEC300NA（機械工学 / Mechanical engineering 300）

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的にはTaguchi Methodsとして知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとしてSN比で評価することができる。SN比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標であるSN比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算方法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN比の前段として分散分析について述べる。
4	SN比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術におけるSN比と評価	実験で重要な測定の信頼性をSN比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。

13 品質管理の考え方（2） 管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。

14 本講義のまとめ まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山隼子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：40%、演習レポート：60%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

- ・データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。
- ・随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be approximately two hours per class. Please refer to the course materials for information on assignment contents and how to solve them.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be determined by the degree of commitment to the class (40%) and the assignment report (60%).

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本概念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

BME200NA（人間医工学 / Biomedical engineering 200）

医療福祉工学

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの科学的理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
8	生活支援工学4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。

13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章と図を用いてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『読みとく脳生理学 失うと生活に困る脳のはたらき』（羊土社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト(50%)、および期末のレポート課題(50%)で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。
出席回数（オンライン参加含む）および欠席時の講義録画視聴記録から、講義参加が少ないと判断した場合は、単位取得を認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、よりわかりやすい説明とするなど、授業内容の改善に努める。
基本的にオンラインだが、アンケートを踏まえ2023年度からは一部対面とし、対面講義のときに生体信号による機器制御や錯覚のデモンストレーションを行っている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【その他の重要事項】

質問は随時電子メール等により受け付ける。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health and welfare, students will learn about the roles of mechanical, electrical, and software engineering. They will understand how engineering technology and a scientific understanding of human functions and behavior are essential factors in the development of this field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to:

- Understand the basic principles of welfare engineering.
- Understand the fundamental concepts and the latest advancements in various technologies in this field.
- Consider the design and application of welfare and medical instruments based on a general scientific understanding of human functions and behavior.

Learning activities outside of classroom:

For the final report, students will research a specific area of welfare engineering and summarize their insights on the topic.

Before and after each class, students are expected to spend approximately four hours reviewing and deepening their understanding of the course content.

Grading criteria/policy:

Grades will be determined based on quizzes given in each lecture (50%) and the final report (50%).

HUI200ND（人間情報学 / Human informatics 200）

Webアプリプログラミング演習

馬場 祐人

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SNSやニュースアプリ、スマホゲームなどWeb上で提供されるサービスやソフトウェアをWebアプリと呼ぶ。常時インターネットにつながった環境が当たり前となった今、PCやスマホといったクライアントと、サーバとでデータを通信して、様々な情報を随時やり取りすることが可能である。本授業では、Webアプリの開発に必要なフロントエンドとバックエンドの技術を習得してWebアプリを開発する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、Webアプリ開発環境「Next.js」を用いて、Webアプリケーションの応用的な開発手法を習得できる。Webアプリ開発に必要なフロントエンド、バックエンドの技術、具体的にはJavaScript、HTML、CSS、データベースエンジンに関する構成と概要を理解し、設計技術を習得し、実際にプログラミングしながら実装手法を理解する。そして各自のアイデアに基づいてオリジナルのWebアプリを制作できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

Webプログラミングに関する幅広い領域の専門用語や技術構成を適宜解説する。講義時間内で、持参したノートPCを用いて、実際に様々な機能をプログラムとして実装しながら、Webアプリの開発手法を理解する。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Webアプリとは	Webアプリとは何か。どのように構成されているかを学ぶ
第2回	開発環境(Next.js, Docker)の準備	Webアプリ開発環境(Next.js, Docker)をインストールする
第3回	フロントエンドとバックエンド	フロントエンドとバックエンドの違い、それぞれの役割について学ぶ
第4回	簡単なWebアプリの開発	単純なWebアプリを制作する
第5回	バックエンド開発	バックエンドのシステム開発について学ぶ
第6回	データベースの構成	バックエンドで用いるデータベースを構築する
第7回	フロントエンド開発	フロントエンドに必要なUIデザインについて学ぶ
第8回	クライアント側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのフロントエンドを設計する
第9回	WebアプリのUI制作	フロントエンドとなるUIをHTML、CSS、JavaScriptで制作する
第10回	サーバ側の設計	Webアプリの基本となる登録アプリのバックエンドを設計する
第11回	Webアプリのデータベース設計	Webアプリのバックエンドで情報を記録するデータベースを設計する
第12回	Webアプリのセキュリティ	Webアプリを作るにあたって考慮すべきセキュリティの基礎対策について学ぶ
第13回	Webアプリのテスト	制作したWebアプリをテストする
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講に当たりJavaScript、HTML、CSSそれぞれのプログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

自ら課題設定したWebアプリに必要な設計を組み立て、Webアプリとしてプログラムできることを達成目標とする。

成績評価は、平常点(講義内演習等での貢献・取り組み態度)(30%)、各授業ごとの演習課題提出(30%)、最終作品と発表(40%)を基準として、総合的に判断し評価する。
最終作品についてはプレゼンテーション形式の発表を実施する。発表は試験に相当する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートを踏まえて、円滑な授業進行と授業の内容の改善に取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC（貸与PCもしくはWindowsパソコン使用を推奨）。各自のPCに、ソフトウェアをインストールして演習を行なう。PCにソフトウェアをインストールするためにSSD/HDDの空き容量を3GBほど確保しておくこと。資料配布、課題の提出などに、授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・本講義は秋学期開講の「コンテンツプログラミング演習」の応用的な内容となる。受講に当たっては「コンテンツプログラミング演習」の受講を推奨する。
・プログラミング言語処理系やWeb技術に関する実務経験を有する教員の観点から、Webアプリ開発の基礎的な概念や技術要素を解説する。
・授業終了後時間が許す範囲で、教室で質問を受け付ける。またHoppiiに記載したメールアドレスにて質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Services and software provided on the Web, such as SNS, news apps, and smartphone games, are called web applications. Web applications communicate various information and constantly exchange data between clients such as PCs and smartphones and servers. In this class, you will learn how to develop web applications by acquiring the front-end and back-end technologies necessary for developing web applications.

Assessment will be made as follows: In-class contributions 30%, in-class-hours practices 30%, final presentation 40%.

Before/after each class-hours, students will be expected to spend an hour to understand the course content.

インクルーシブデザイン

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。
これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。
インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】

本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、3～4人のグループワークで行う。
各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的な問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査 - 問題定義 - 解決方の考察 - 試作 - フィードバック - 改良 - 完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表1	生活観察・インタビュー等
3	パートナー調査報告発表2	生活観察・インタビュー等
4	問題抽出	アイデア検討 チュートリアル
5	問題定義1	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
6	問題定義2	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
7	第一試作テスト結果発表	第一試作 テスト・ビデオレポート 発表
8	問題定義の強化 改良案検討	改良案検討 チュートリアル
9	第二試作テスト結果発表	第二試作 テスト・ビデオレポート 発表
10	改良案検討	最終試作検討・制作 チュートリアル
11	最終試作テスト結果発表	最終試作 テスト・フィードバック ビデオレポート 発表
12	改良案検討	最終発表のための映像検討 チュートリアル

13	最終作品発表1	前半チームのビデオ上映とデモンストレーション
14	最終作品発表2	後半チームのビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「インクルーシブデザイン」という発想 ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品70点、制作プロセスの評価を20点、出席を10点とします。
ただし、全体で4コマ以上の欠席および連続3コマ欠席の受講生は成績評価対象外とし、遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。欠席一回につきー4点、遅刻-2点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）加えて、最終作品が未提出な者も評価対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量のデータストレージを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】

この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】

This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design. Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough. In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

MTL200ND（材料工学 / Material engineering 200）

材料と構造のデザイン

武居 秀樹

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外力の作用が構造物や機械（および部品）などの実際の「もの」に対して、どのように影響するかを理解するための基礎的知識や解析方法を学ぶ。さらに、力やモーメントの作用によって構造物や機械（および部品）がどのように変形し、内部にどのような力が発生するかを学ぶ。

【到達目標】

講義と演習をとおして、力やモーメントの釣り合いに関する原理を応用することができる能力を開発し、現実の構造物や機械部品などをデザインするための力学的解析が行えるようになるとともに安全性を評価できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義2コマ続きで1つのテーマの学習を行う。はじめに、講義資料を用いて学ぶべき内容の解説を行い、その後、講義で学んだ知識をもとに演習を行う。演習時にはヒントを出すものの、自ら演習課題を解くことで、問題を解決するためのスキルを身につける。演習課題の解答は、授業中に解説したり授業支援システムに掲載する。また、レポートについては、添削の上返却する。なお、学生の理解度に応じて、次回講義の最初に追加説明を行うことがある。

授業中の演習は、授業中に解説する。また、宿題となった課題については、次回の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	空間の力（1）（2）	①空間における力 ②空間における合力 ③力の水平、垂直成分 講義内容についての演習
2	空間の力の釣り合い（1）	①モーメントと外積 ②偶モーメントの合力 ③力の縮約
3	空間の力の釣り合い（2）	前回の講義内容についての演習
4	断面の性質（1）	①図心 ②断面諸量 ③断面の主軸
5	断面の性質（2）	前回の講義内容についての演習
6	材料の力学的性質（1）	①応力とひずみ ②フックの法則 ③弾性係数とポアソン比
7	材料の力学的性質（2）	前回の講義内容についての演習
8	組み合わせ応力（1）	①応力の座標変換 ②主応力 ③モールの応力円
9	組み合わせ応力（2）	前回の講義内容についての演習
10	はりのデザイン（1）	①断面力 ②断面力図 ③はりの応力度 ④はりの変形
11	はりのデザイン（2）	前回の講義内容についての演習
12	柱のデザイン（1）	①柱の種類 ②短柱 ③長柱 ④トラス構造
13	柱のデザイン（2）	講義内容についての演習
14	理解度確認試験	講義1～13に関する授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いて講義資料を事前に配布するので、各自で事前にダウンロードし、予め目を通し、下記の参考書等を用いて予習を行っておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストをpdfファイルにしたものが学習支援システムに登録されているので必要に応じてダウンロード可能である。

【参考書】

R.C.Hibbeler：Statics and Mechanics of Materials, 5/e, Prentice Hall Intl. Edition

工業力学，材料力学，構造力学，応用力学などの参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%） 授業中における学習状況や参加度を評価する。
演習状況（25%） 決められた時間内に演習課題を処理する能力を評価する。

理解度確認試験（50%） 全体を通して得た知識を活用して、応用問題を解決できる能力を評価する。

ただし、出席日数が全体の2/3に満たない学生は評価の対象外(E)とする。
なお、1時間目に30分以上遅れて入室した学生に関しては、特別な理由が無い限り、その日は欠席扱いとする。（原則、欠席理由の連絡は翌週の講義終了までとする。）

【評価基準】

履修の手引きに記載されているS～Eまでの12段階評価基準に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は添削して返却するので、復習しておくこと。

授業内試験は資料持ち込み不可のため、講義資料の例題と演習問題の内容を復習しておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

演習時に、関数電卓を使用するので、毎回持参すること。なお、携帯電話や、事務用の電卓では、計算できない課題もあるため、必ず、関数電卓を用意すること。試験の際にも関数電卓を使用する（試験の際にスマートフォンを持ち込むのは禁止）。

授業内で使用する資料は、全て学習支援システムより配布を行う。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this program, students acquire basic knowledge and analytical methods on structural and materials mechanics in order to understand the effects of external forces on structures and machine elements. In addition, students acquire knowledge about deformation and internal forces when a load acts on structures or machine elements.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1)Application of principles regarding equilibrium of forces and moments
- 2)Mechanical analysis for designing structures and machine elements
- 3)Assessment of the safety of structures and machine elements

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on short reports (30%), term end examination (50%), and in class contribution (20%).

オペレーションズリサーチ

高須賀 将秀

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：2023年度以降入学生対象

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的な方法論や技法」を対象とする研究分野である。ORの幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

1. 連続最適化、組合せ最適化を理解している。
2. ネットワーク最適化を理解している。
3. 2024年物流問題を理解している。
4. シミュレーション・整数計画問題を理解している。
5. 待ち行列を理解している。
6. 不確実性下での意思決定を理解している。
7. ゲーム理論を理解している。
8. 実社会における最適化問題をいくつか答えることができる。
9. Microsoft Excelのソルバー機能（Excelソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力 70%
(E) 専門知識の活用・応用能力 30%
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オペレーションズリサーチとは	・ 授業の進め方、評価について ・ オペレーションズ・リサーチとは ・ 実社会の活用シーン
第2回	最適化問題	・ 最適化問題 ・ 連続最適化と組合せ最適化 ・ 代表的な最適化問題とアルゴリズム
第3回	連続最適化	・ 連続最適化問題 ・ 線形計画問題 ・ 線形計画ソルバーと利用法 ・ 感度分析
第4回	組合せ最適化	・ 組合せ最適化 ・ 連続最適化と組合せ最適化の違い ・ 組合せ最適化におけるソルバーの利用法 ・ 割当問題 ・ 研究室配属問題 ・ 安定マッチング問題
第5回	ネットワーク最適化1	・ グラフとネットワーク ・ 最短路問題
第6回	ネットワーク最適化2	・ 最小費用流問題 ・ ネットワークを用いた割当問題
第7回	シミュレーション1	・ 決定論的シミュレーション ・ 破産の確率 ・ 在庫管理
第8回	シミュレーション2	・ モンテカルロ法 ・ 信頼区間

第9回	待ち行列理論1	・ 待ち行列モデル ・ 到着率とサービス率 ・ 単一窓口待ち行列 ・ ランダム到着 ・ 複数窓口待ち行列 ・ M/M/1型待ち行列システム ・ リトルの公式
第10回	待ち行列理論2	・ 不確実性下での意思決定 ・ マクシミン原理/マクシマックス原理/ミニマックス後悔原理 ・ ラプラスの原理 ・ 期待値原理/期待値・分散原理 ・ 最尤未来原理/要求水準原理
第11回	不確実性下での意思決定（意思決定原理）	・ 不確実性下での意思決定 ・ マクシミン原理/マクシマックス原理/ミニマックス後悔原理 ・ ラプラスの原理 ・ 期待値原理/期待値・分散原理 ・ 最尤未来原理/要求水準原理
第12回	不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用）	・ ディシジョンツリー ・ 多段階の意思決定問題 ・ 効用関数 ・ 期待効用最大化の原理 ・ ゲーム理論 ・ 支配戦略 ・ 囚人のジレンマ ・ ナッシュ均衡
第13回	ゲーム理論	・ ゲーム理論 ・ 支配戦略 ・ 囚人のジレンマ ・ ナッシュ均衡
第14回	物流2024年問題、授業内容のまとめ	・ 物流2024年問題 ・ 応用例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 事前学習（基礎知識の習得）
・ 授業内容の復習
・ 演習課題の実施と提出
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

科目認定条件
※出席率について80%以上であること。
※定められた提出物が80%以上提出されていること。
科目評価方法
演習課題（全7回） 100 %
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・ edu2020貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
・ 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：授業終了後に対面で、あるいはメールなどで随時質問を受けつける。
本講義は、オフライン（教室）とオンライン（Zoom）でのハイブリッド開催となる。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course provides basic knowledge and skills on some of the major themes of operations research (OR). Learn the basic knowledge and skills of several representative topics of OR.

[Learning Objectives]

1. Understand simultaneous and combinatorial optimization.
 2. Understand network optimization.
 3. Understand the logistics problem in 2024.
 4. Understand simulation and integer programming problems.
 5. Understand queueing.
 6. Understand decision making under uncertainty.
 7. Understand game theory.
 8. Can answer some real-world optimization problems.
 9. Be able to solve optimization problems using Microsoft Excel's solver function (Excel Solver).
- [Learning activities outside of classroom]
・ Preliminary study (acquisition of basic knowledge)
・ Review of class contents
・ Exercises and submission of exercises
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Course Approval Conditions

- ・ Attendance rate must be 80% or more.
- ・ Submission of the required materials must be more than 80%.

Course Evaluation Method

- ・ Exercise assignment 100%

橋のデザイン

末松 慎介、平野 貴之

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁構造の基礎知識を習得した上で、題材として取り上げる既存橋梁の模型製作を通じてその橋梁の成り立ちを構造的・造形的に理解する。さらに自ら形を考えて製作した橋梁模型を用いた載荷試験を通じて、橋のデザインの実践を体験する。

【到達目標】

橋梁構造を成立させている主要な部材とその部材に流れる断面力を理解し、橋の形と力の流れの関係性をイメージできるようになること。また、個人もしくはグループでの作業を通じ、工程遵守と品質確保に留意しながらひとつの物をつくりあげ、それを他者へ説明するまでのプロセスを通じて、ものづくりの魅力と責任感を理解すること。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	50%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、①橋梁景観等に関する「基礎知識の習得」と「美しい事例の紹介」を目的とした講義、②「デザイン作業とプレゼンテーションの実践」を目的とした演習を通して将来、自分の考えを公共土木施設の設計に反映できる技術者に成長するための基礎体験を履修するものである。なお、演習手法はスタディ模型（発泡樹脂材料や紙による模型）の製作を中心とする。短時間でのデザイン検討作業（構想・模型製作）であるため、授業時間以外に作業を行うことがある。

本授業における「基礎知識」は、「鋼構造学及演習」で学んだことの復習であり、「模型製作」の題材は、「鋼構造デザイン実習」において設計した歩道橋を取り上げる。したがって、本授業ではこれまで学んだ知識を活用することで、橋梁技術者に求められるデザイン・設計の一連の経験を積むことができる。（鋼構造デザイン実習未履修者は、別途既存歩道橋の模型製作を行う。）授業実施期間に見学できる橋梁建設現場がある場合には、授業計画および課題を一部変更して見学会を実施する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義：授業ガイダンス 橋の基本知識、歴史、橋のデザイン	授業ガイダンス 橋の歴史、橋の構造形式と特徴、シックデザインの概念、橋のデザインの考え方
2	講義：橋梁の設計手法 1 演習：デザイン課題 1 出題と課題意図の説明	実務における橋梁の設計手法の紹介 図面の読解、模型の作り方
3	講義：橋梁の詳細設計 図面 演習：図面読解 1	橋梁図面の構成と内容 課題の橋梁図面の読解
4	講義：橋梁の設計手法 2 演習：図面読解 2	特殊橋梁の設計手法、フィールドワーク 必要部材の把握、確認
5	講義：橋梁の施工 1 演習：模型製作 1	橋梁の施工方法の紹介 部材の作成
6	講義：橋梁の施工 2 演習：模型製作 2	橋梁の施工・架設 部材の組み立て
7	デザイン課題 1 講評	製作した模型のプレゼンテーションと講評
8	デザイン課題 2 出題と課題意図の説明	課題説明と模型の製作条件
9	講義：橋梁のデザイン事例 1 演習：模型方針検討	国内外の橋梁デザインの紹介 グループディスカッションによる設計方針検討

10	講義：橋梁のデザイン事例 2 演習：試作模型の製作 デザイン課題 2 第 1 回載荷試験・エスキス	国内外の橋梁デザインの紹介 第 1 回載荷試験用模型製作 製作模型のプレゼンテーションと載荷試験 設計コンセプトの確認と試験結果の分析
12	改善方針検討	載荷試験結果に基づく改善方針の検討
13	改善模型製作 デザイン課題 2 第 2 回載荷試験、講評	第 2 回載荷試験用の模型製作 改善点のプレゼンテーションと載荷試験 改善結果の確認と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1・2 履修登録
3・4 図面読解、必要な模型製作道具および材料購入
5・6 模型の完成
7・8 設計方針の検討
9・10 第 1 回載荷試験模型の完成
11・12 第 2 回載荷試験模型の完成
13・14 報告書作成準備
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料は授業中に適宜配布する。

【参考書】

- ・景観デザイン規範事例集（道路・橋梁・街路・公園編）（国土交通省国土技術政策総合研究所、pdf 版 <http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/seika/ks/tnn0433.html>）
- ・景観用語事典 増補改訂第二版（彰国社）
- ・美しい橋のデザインマニュアル（土木学会構造工学委員会橋の景観とその形態および色彩に関する研究小委員会）

【成績評価の方法と基準】

第 1 課題（グループもしくは個人課題／配点 50 点）と第 2 課題（グループもしくは個人課題／配点 50 点）による。発表時やエスキス時の積極性や良好なデザインには個人に対して加点を行う。なお、各課題の中間・最終発表時欠席者は単位取得を認めない（評価 D）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

課題にかける時間が足りないとの声がある。過重にならないよう課題内におけるサポートなど対策を行う。

【学生が準備すべき機器他】

成果品として A3 判のパネルを作成する。その際、貸与パソコンを用いた作業が必要となる。

【その他の重要事項】

実際に橋梁設計に携わっている実務者が、橋梁デザインの考え方や捉え方を含めて授業を行う。オフィスアワーについては授業終了直後に対応する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will acquire basic knowledge of bridge structures and build models of existing bridges to understand their structure and design. Furthermore, students will gain practical experience in bridge design by conducting load tests on bridge models they have designed and built themselves.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to design bridge structures with sound structural concepts.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to have completed the required model and design reports.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on the reports and the presentations for the 1st theme(50%) and the 2nd theme(50%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）
システム論
甲 洋介
サブタイトル：人の営み、文化を『システム』という考え方から捉え直す
配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● あなたの身近な『システム』たち
コンピュータやSNSばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

● 『家族』もシステム？

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国間関係にしても、うまく機能している間は人々は気づかない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかなくなった時に問題は顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。システムとは何か。文化の中の様々な物事をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上げらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅するとか変わるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する *questions* を整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

- ・まずシステムの基本的な考え方を学び、要点を理解できるようになる。
- ・次に、簡単な事例であれば、「システムの考え方」を用いて、問題を解きほぐしながら複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導く方法を組み立てられるようになる。
- ・本講義を終える頃には、社会の、またはあなたが着目する一見複雑に見える問題に対し、その問題を捉えやすく整理し直し、システムの考え方を用いて、自分なりの答えを系統立てて考えられるようになる、ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約15分）
 - (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65分）
 - (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20分）
- 講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭(1)で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義(2)につなぐ。各自の内容理解を小演習(3)で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方

第2回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第3回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第4回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第5回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第6回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第7回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第8回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第9回	社会というシステム ～個人から社会へ（パースンズの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第10回	社会のシステム論(1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第11回	社会のシステム論(2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第12回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第13回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第14回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60％）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40％）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要である。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会、表象文化の専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.

By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

社会と美術

平野 真弓

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。

第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代 I フォービズム、表現主義、 キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代 II 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロ シア構成主義、バウ ハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワー クショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代I、アバンギャルドの時代IIの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブリッシング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に対話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。			
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
 デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

実務経験のある教員による授業

平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)

2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

メディアと社会

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは現在様々なメディアに接する環境にあり、それらを通じて個人や社会とつながることを可能にしています。一方でメディアの利用によって引き起こされる様々な問題もあり、多様化した現代のメディアについてよりいっそう理解を深める必要があります。「メディアと社会」では、メディアが社会のなかでどのような役割を担っているのか、将来メディアはどのようなようになるべきなのか、映像資料などの具体例を交えて読み解いていきます。

「現代メディア史」「メディア論」「メディアと表象」の3つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

メディアの歴史

古代から現代までのメディアの変遷と歴史について学びます。

メディア論

社会の中で機能するメディアやその問題点について明らかにしていきます。

メディアと表象

メディアという観点から様々な表現を読み解いていきます。

【到達目標】

過去から現在に至るメディアと社会に関する身近な事例を紹介していきます。身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

・受講希望者が1000人を超える場合、抽選を行います。

・オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google Sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Forms で課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画
第2回	メディアの歴史1 絵と文字	今からおよそ6万6000年前に人類は言語能力を獲得したと言われています。（諸説あり）その後、絵や文字を使って記録するようになりました。ここでは文字の誕生とその発達の歴史について学びます。
第3回	メディアの歴史2 文字の進化	活字誕生以前の印刷技術、紙の誕生、活字の誕生と書体とフォントについて学びます。文字の発明により、私たちは様々な情報を記録として残すことが可能になりました。その後、記録を残すための技術が発達していきます。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習：絵と文字、文字の進化	タイポグラフィについて 書体とフォント フォントデザイン
第5回	メディアの歴史3 計算・通信・検索	メディアと歴史をテーマに、コンピュータの発明につながる技術と計算・通信・検索のもたらす社会の変化について学びます。
第6回	メディアの歴史4 マスメディア（新聞、雑誌、ラジオ、テレビ）	新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどのマスメディアの起源について学びます。
第7回	ワークショップ（2） 単元の復習：計算・通信・検索、マスメディア	ワークショップ・未来のコミュニケーション
第8回	メディア論1 マクルーハンのメディア論	「メディアはメッセージ」、「グローバルヴィレッジ」など、メディアに関する新しい概念を発信したマクルーハンの理論やチョムスキーのメディアについてのメッセージについて学びます。
第9回	メディア論2 インターネット	1995年以降のインターネットの進化について、地域社会を取り巻くメディアの役割と課題について学びます。
第10回	ワークショップ（3） 単元の復習：マクルーハンのメディア論、インターネット	ワークショップ・インターネット
第11回	メディアと表象1 デジタルコンテンツの誕生	1877年のトーマス・エジソンによる録音技術の開発以降、アナログレコードやテープレコーダー、さらにデジタル技術の発展。2000年代から拡大したMP3プレーヤーやインターネットでの音楽配信サービスに至るまでの歴史について学びます。
第12回	メディアと表象2 プロパガンダ・コマーシャル	インスタレーション、パフォーマンス、リレーショナル・アートなどについて
第13回	メディアと表象3 メディアとアミューズメント	日本におけるクリスマスの受容の歴史について、また料理番組やレストラン批評、ネットでの料理の検索など料理をめぐるメディア論について学びます。

第14回 ワークショップ（4） メディアと社会をめぐるディス
単元の復習：デジタル カッション
ルコンテンツの誕生、ワークショップ・デジタルのイ
プロパガンダ・コ メージ
マーシャル、メディ
アとアミューズメン
ト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。美術展や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

マーシャル マクルーハン『メディア論—人間の拡張の諸相』みすず書房、1987年
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣、2004年
ジョン・A. ウォーカー、サラ チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門—美術史を超えるための方法論』見洋書房、2001年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性や積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。メディアに関する複雑な問題点について、わかりやすく教えていきたいと思います。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

We can connect with individuals and society through media. On the other hand, there are various problems caused in the course of these connections, so we need to deepen our understanding of diversified media.

This course will explore what role media has in society, how future media should be, and concrete examples such as video materials.

Focusing on the three themes of "History of Contemporary Media," "Media Theory," and "Media and Representation," we will consider and discuss issues and issues from keywords in each area.

1. Media history

Learn about the history of the media from ancient times to the present.

2. Media theory

We will clarify the media that work in society and their problems.

3. Media and representation

Read and understand various expressions from the perspective of the media.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of media and society from the past to the present. This lecture aims to find universal and social issues from everyday issues.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimental and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

GDR200GA (ジェンダー / Gender 200)

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。

●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。

●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャルティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。

4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2025年）。
 千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。
 江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
 高橋幸、永田夏来『恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する』（ナカニシヤ出版、2024年）。
 木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。
 伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月9日（木）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（木）に学習支援システムでアップロードされる登録希望票を記入してください。締切は4月11日（土）の午前10時です。4月12日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

The final grade will be decided by the reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学とは国際・文化学？、国際文化・学？、それとも…？ また、「国際」とは何でしょうか。これらの問いを念頭におきながら、「国際関係」に文化からアプローチするための前提となる学びとして、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、またその時代ごとの特徴、そして現代世界とその諸課題の所在、分析方法について学びます。対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及びHoppiiで通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要がある場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State Systemの特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。

3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state）及びnationというactorの登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係① 「つながる/つなげられる」	世界の一体化が進んだゆえの「分断」を学び、現代世界のグローバル化との関係を理解する。
6	帝国主義と国際関係② 「へだてる/へだてられる」	当時行われた「植民地」、「帝国主義」を対象とする研究やから、国際関係認識や分析の特徴を学び、現代世界でのそれらとの関係を考える。
7	帝国主義と国際関係③ 国際関係研究への視座	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
8	帝国主義と「民族」- 実態と概念①	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	人類初の「総力戦」がもたらした国際関係の変化を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に学ぶ。
11	第一次世界大戦と国際関係① 近代国際関係の再編	委任統治制度を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係② 国際組織と安全保障	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認。
13	第一次世界大戦と国際関係③ 植民地支配体制の再編	
14	春学期の授業の総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る。ただし証明資料を提出しない場合は認めない。）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 授業の2回目以後は対面授業を行うが、予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたりして用いることは認めない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学とは国際・文化学？、国際文化・学？、それとも…？ また、「国際」とは何でしょうか。これらの問いを念頭におきながら、「国際関係」に文化からアプローチするための前提となる学びとして、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた／いるか、またその時代ごとの特徴、そして現代世界とその諸課題の所在、分析方法について学びます。対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

1. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらい。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。

4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②—核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題の“解決”をめぐる	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—米ソ関係及び東西両陣営内の変化	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	新冷戦から冷戦体制の崩壊過程を崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバル化	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかにみえる「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを取り上げ現代国際関係への理解を深める。
14	秋学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
5. 「国際関係学概論Ⅰ」未受講者も受講可能であるが、「国際関係学概論Ⅰ」既習を前提に進める。未受講者はⅠのシラバスを参照し、テキストや参考書の関係箇所を読んで受講することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

国家と民族

宮本 佳和

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは誰を指すのだろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれません。しかし、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもあります。本授業では、日本とアフリカの事例をもとに、近代国家の成立過程、ナショナリズム、エスニシティ、植民地主義、移民問題などを取り上げ、国家と民族がいかに形成され、再編され、対立や共存を生み出してきたのかを考察します。

【到達目標】

- ・人種、民族、国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・自明視されがちな「違い」を批判的に捉え直し、多文化共生社会を考えるための基礎的視座を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	国家とは何か	国家の定義、近代国家の特徴
第3回	民族とは何か	民族、エスニック集団、国民の基本概念
第4回	人種とは何か	創られた人種概念
第5回	エスニシティの社会的構築	境界線はいかに引かれるか
第6回	ナショナリズムの理論	創造の共同体、国民の形成、民族の統合・排除
第7回	中間テスト	第2回～第7回の内容の理解度テストと解説
第8回	近代日本の国家形成	明治維新と「日本人」の誕生
第9回	「単一民族」という神話	日本の中のアイヌと沖縄
第10回	アフリカ分割と創られた「部族」	分割統治と民族
第11回	ジェノサイドの過程とその後	ルワンダとナミビアの事例

第12回	アパルトヘイト後の南アフリカ	人種、民族を超えた国家統合の試み
第13回	日本の中の「外国人」	在日コリアン、ニューカマー
第14回	期末テストと総括	第9回～第13回の内容の理解度テストと解説、授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業内容の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト:25%、期末テスト:25%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:50%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）の提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・初回授業において教室定員の都合で着席できなかった学生がいた場合は、当該学生に対してオンデマンドで授業資料を後日提供します。なお、第2回以降は教室を変更する予定です。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and Nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine theoretical perspectives, drawing on abundant empirical studies from Japan and Africa.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to understand how a nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

[Learning Activities Outside of the Classroom]

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours studying the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid- and final examinations (25% each) and in-class contributions (50%).

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
(1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
(2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
(3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
(4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture
【授業の進め方と方法】
■基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
6	文化の受容と抵抗	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
7	文化財を守るとは	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
9	人類の遺産	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
11	国際協力と想像力ー期末レポートに向けて	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
12	国際人権	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
13	市民としての国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。
14	私と国際文化協力	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。
【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%。
・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）。
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない。
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。単に学生が意見を言うだけでなく、それをもとに教員とやり取りを行うことで考えが深まると、学生から好評。

【学生が準備すべき機器他】
・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと
【その他の重要事項】
NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- （1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- （2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- （3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実際に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高

めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。

・授業後課題はコロナ禍では毎日出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。

・学生からは「学びが大きい」「思考が深まる」というフィードバックが多いので、毎回のグループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA（社会学 / Sociology 200）

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）
その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

- 1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
- 2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日（金）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（金）に学習支援システムからアップロードされ登録希望票を記入してください。締切は4月12日（日）の午前10時です。4月13日（月）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

- 歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。
- 毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。
- 提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。

4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』（明石書店、2021年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- ロバート・D.・パットナム、デイヴィッド・E.・キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』（柏書房、2019年）。
- 石井研士『メディアと宗教』（弘文堂、2024年）。

- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
- 諸岡了介『世俗化論の生成：宗教という問いのゆくえ』（ミネルヴァ書房、2023年）。
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- ポール・シーブライト（黒輪篤嗣訳）『ビジネスとしての宗教』（東洋経済新報社、2025年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月10日（金）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（金）に学習支援システムからアップロードされ登録希望票を記入してください。締切は4月12日（日）の午前10時です。4月13日（月）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

Religion and Society

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には、入学
 時以降のTOEFLやTOEICなど標準的なテストの結果と初回授業
 へのコメントを総合的に評価して選考します。

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力
 基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL
 ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程
 度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、
 担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English
 proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP
 Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819,
 IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score
 mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide students with a comprehensive exploration of the complex intersections between society and religion in the context of a globalizing world. As globalization continues to shape and redefine human interactions, this course seeks to critically analyze the multifaceted roles that religion plays in influencing and responding to global dynamics. Students will explore issues such as immigration, nationalism, conflict, gender, sexuality, tourism, consumerism, and citizenship, all within the broader context of contemporary global society.

【到達目標】

By the end of this course,

- ① Students will have gained a nuanced understanding of the intricate connections between society and religion in the age of globalization, enabling them to critically engage with the complex issues that arise in our increasingly interconnected world.
- ② Through a multidisciplinary approach, students will be equipped with the knowledge and analytical tools to address the challenges and opportunities presented by the dynamic interplay of society, religion, and globalization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」
 に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The first part of class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Tourism	Modern Pilgrimage in Japan
3	Religion and Sport	Affinities in Religion and Sport
4	Religion and Gender	Anti-Hijab Protests in Iran
5	Religion and Diplomacy	Russian Orthodox Church and Soft Power
6	Religion and Sexuality	LGBTQ and Post-Colonialism in Africa
7	Religion and Nationalism	Yoga and Indian National Identity
8	Religion and Globalization	Mid-term examination
9	Religion and Global Capitalism	Consumer Jihad in Turkey
10	Religion and Immigration	Anti-Muslim Sentiments in Europe
11	Presentation ①	Oral presentation of final papers (Group 1 students)
12	Presentation ②	Oral presentation of final papers (Group 2 students)
13	Presentation ③	Oral presentation of final papers (Group 3 students)
14	Presentation ④	Oral presentation of final papers (Group 4 students)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the assignments and be ready for class discussions. Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course web site.

【参考書】

Jayeel Cornelio, François Gauthier, Tuomas Martikainen and Linda Woodhead, eds., Routledge International Handbook of Religion in Global Society (Routledge, 2022).

【成績評価の方法と基準】

- ① Class participation 20%
- ② Mid-term examination (approximately one page in length) 20%
- ③ Final paper presentation 20%
- ④ Final paper (2-3 pages in length) 40%

Based on the grading criteria set by the instructor, students who successfully achieve 60% or more of the course goals will earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

COT200GA（計算基盤 / Computing technologies 200）

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語をJavaScriptとする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云えるC言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScriptやC言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】

プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業では、(1)プログラミング言語仕様や構造の理解、(2)具体的な文法の学習、(3)プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。

情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。抽選の可能性があるので、履修予定者は必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScriptのプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for文、while文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム（1）	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム（2）	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数（1）	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数（2）	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す

13	正規表現	正規表現の概念を学習し、パスワード強度チェックなど実際のサンプルコードを使ってを試行する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、課題を提出する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題 30%、期末テスト 50%、で行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
対面での期末テストの実施が困難であればオンライン試験を代替として行う。この場合は、期末テストの配分を下げ、小テスト・課題・レポート、授業内掲示板のコメントや情報共有を平常点を相対的に上げる予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。
オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜Zoomを用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席し、資料等を閲覧・確認すること。
情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。
受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録してから、初回授業に参加すること。

【前提科目】

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.

(Learning Objectives)

To understand how to write and execute basic programming constructs and basic grammar, and to acquire the ability to create simple programs.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end report (50%).

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではIoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

講義はPCを使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、課題・小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。
情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまう各回の授業計画の修正については、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。抽選の可能性があるので、履修予定者は必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加すること。
課題等の提出・フィードバックは、授業内および学習支援システムを通じて行う。
授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoTとビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	標本調査における無作為抽出と標本誤差について学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ

12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する
14	議論と考察、授業のまとめ	授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。 また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指定する。

【参考書】
授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点20%、小テスト20%、プレゼンテーション30%、レポート30%で総合的に行う。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、Excelでデータ分析ができる環境を前提としている。
最終課題となるプレゼンテーションは対面授業であってもZoomを用いることを想定している。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。
授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者数が定員を超過する場合は抽選を行う。
初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録した上で初回授業に出席すること。
詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。
授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.
(Learning Objectives)

- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.

- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.

- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.
(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end preseentaion (30%) and report (30%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ奥が深い

体験という言葉からあなたが思い浮かべるのは、忘れられない出来事、驚いたこと、可笑しい体験、つらかったことなど、ほとんどが『非日常的な』体験ではないだろうか。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の豊かな体験にこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のさまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようにする。

● 『体験』から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようにする。たとえばキャンパス、マーケット、カフェ、広場、駅ナカなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験」(*experience*) が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」は急速に変化し、どこまでが想像で、どこからが本当の体験なのか、その境界は曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、“あたかも体験したかのように”受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
- 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
- 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するか。そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。これを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験するということ
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち(b)空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス

第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ1	からだが『空間を体験する』
第9回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験 <i>experience</i> から、空間をデザインする
第10回	空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ2	カフェ、オフィス、学校、『場所』のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実VR、拡張現実AR、ミックスリアリティMR、代替現実SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験-revisit -	生きられた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50%)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50%)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけではなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、闇の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P Cおよび、D V D、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.

By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of “experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

文化情報のデザインワークショップ

松田 美奈子

サブタイトル：ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションI

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講状況により選抜することがあります
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザーの体験をデザインする『面白さ』と『奥深さ』を、実践的に学ぶ科目 私たちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすくデザインする
講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすい魅力あるのするにはどうすればよいのか？ その鍵は、ユーザの特性と、ユーザに起こっている出来事の的確な理解にある。道具のデザインを改良する具体的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする
講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいのか？ その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするための方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすいくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデザインすること」、この2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、実践できるようにする。

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすくデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」、この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使いやすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工学的な方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ（理論編）

3	道具の使いやすさ評価（実験計画編）	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価（準備編）	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価（実験編）	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良（分析・考察編）	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良（提言編）	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすくする改良事例を互いに学ぶ
9	「未来のモノのデザイン」の考え方	未来に向けたデザインとHCD（人間中心設計）プロセス
10	新しい近未来の道具（ブレインストーミング）	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン（分析編）	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン（アイデア編）	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン（提言編）	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「人間計測ハンドブック」第3章（認知心理過程の計測）（朝倉書店、産業技術総合研究所編）2013.

・ユーザインタフェースと認知モデル（甲洋介、人工知能学会論文誌）

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「デザイン思考が世界を変える [アップデート版]」（ティム・ブラウン著、早川書房）2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」（JIDA編、ワークスコーポレーション）2014.

他については適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い（50％）
・課題レポート、プロトタイプなど制作物（50％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

「文化情報学の実践」科目群〔共通のテーマ〕

「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。実務経験のある教員による授業

教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【前提科目と関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P C、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】

This class provides you with an unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

HUI200GA（人間情報学 / Human informatics 200）

道具のデザイン学

松田 美奈子

サブタイトル：魅力的な体験をデザインする、という考え方

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

旧：ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！

日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、面倒な操作で不快になった体験もあるだろう。

● デザインすると、暮らしはもっと快適になる

暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

● ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】

UXデザインの基礎が身につく

- ・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
- ・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
- ・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス(experience=体験)の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。

●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイデアがさらに得られるように工夫する。

●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	暮らしはデザインの可能性であふれている
2	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
3	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい

4	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
5	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
6	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
7	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① <i>User Experience (UX) Design</i>	ユーザの特性を理解し、体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	<i>UX Design</i> の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
10	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
11	道具のデザイン実習①商品の企画、ユーザー分析	魅力ある企画書を作るためにユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習②デザインプロセス	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習③評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を兼ねて、課題練習を少しずつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

【参考書】

- ・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社) 2017
- ・「ユーザビリティエンジニアリング」(樽本徹也、オーム社)2014
- ・「UXデザインの教科書」(安藤昌也著、丸善出版) 2016
- ・NPO 人間中心設計推進機構： <http://www.hcdnet.org/>
- ・ユーザインタフェースと認知モデル (甲洋介、人工知能学会論文誌)
- ・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシート、授業・討議における積極的な貢献度合い(50%)
- ・発表とレポート(50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【実務経験のある教員による授業】

教員は一般企業で製品/サービスのデザインに関わる業務に20年以上従事。ビジネスの現場でも幅広く活用できる実践的なデザインアプローチを学ぶ。

【履修条件】

- ・国際文化学部生は「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。
- ・他学部生（国際文化学部生以外）は初回の授業に出席し必ず先生に履修の許可について相談すること。

【関連科目】

- ・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）

文化と生物

島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11回までは、講義が中心ですが、特に、5-8回は、討議なども入れたアクティブラーニングの手法もちいます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②食同源は健康的な食生活の基本、③人々の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤とIPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実態と対策、③害虫被害の実態と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用

7	(II) 生物の進化と塩基配列情報 (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：島野	生物の進化を推定する。生物の遺伝子DNAの塩基配列情報から作成された系統樹から何がわかるのか。
8	(III) 動物とは？ (1) 死と復活 担当教員：鈴木	自然発生論争と蘇生論争
9	(III) 動物とは？ (2) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：鈴木	生物と名前。なぜ生物に名前があるのか。どのように名前を付けるか。
10	(II) 生物と生態系 (1) 生物と環境の共進化 担当教員：松崎	生命の起源、共生による生物進化、地球環境の改変と適応
11	(II) 生物と生態系 (2) 生態系と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置と役割（生態系改変や宿主操作）
12	(II) 生物と生態系 (3) 食文化と寄生生物 担当教員：松崎	寄生生物と食文化との関わり
13	(IV) 生物の分類と命名 (1) 人間生活と生物の分類 担当教員：富川	生物を分類し、名前を付けることの意味について、人間生活と関連付けて考える。
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想、小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture. The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information. Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class. The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively. Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA（その他の総合生物・生物学 / Biology 200）		
文化と環境情報		
島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂、吉川 翠、長谷川 真紀子		
サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。		
【到達目標】		
人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。		
講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらう。講義が中心だが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法ももちいる。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介する。メールの添付などの方法をもちいて課題等に対するフィードバックをおこなう。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 生物多様性と持続可能性 (1) 生物多様性はなぜ必要なのか。 担当教員：島野	講義内容のあらすじ ①生物多様性条約 ②食文化（乳製品）と生物多様性 ③分類学と生物多様性
2	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (1) SDG s de 地方創生ワークショップ 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近な“プロジェクト”に引き寄せながら“自分事として体感”する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ①「SDGs de 地方創生」②まちづくり③地方創生④人口減少
3	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (2)Change for the blue（海洋プラスチック課題）ワークショップ 担当教員：中西	「Change for the blue」を通して、海洋プラスチック削減のために、企業・組織の一員としてできること、一市民としてできることについて考え、市民意識、技術、経済状況等も踏まえて、ごみ削減を体感する。 ①Change for the blue②海洋プラスチック③ごみ削減
4	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (3)レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のMethodと教材を活用したワークショップ（ありたい未来の世界を考える） 担当教員：中西	レゴ(R)・シリアスプレイ(R)のメソッドと教材を活用し、ありたい未来の世界の姿についてコンストラクショニズムに基づき、作品を作成し、内省し、対話を行う。①レゴブロック②コンストラクショニズム③対話
5	(III) 感染症と日本社会 (1) 野生動物とヒトの間の感染症 担当教員：島田	日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
6	(III) 感染症と日本社会 (2) 新興感染症 担当教員：忽那	①新型コロナウイルス感染症とは？ ②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響
7	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (1) 土壌汚染 担当教員：長谷川	人間活動の影響によりおこる、化学物質や薬品、畜産などによる土壌汚染問題について学ぶ。また、汚染土壌中に棲む土壌動物の特徴について理解する。
8	(IV) 生態系と持続可能な人間活動 (2) 近代以前の日本と現代の日本 担当教員：長谷川	①人間活動の問題点 ②土壌汚染の具体例 ③汚染物質の土壌動物への影響 江戸時代の暮らしや環境について学び、現代日本の社会生活の特徴について理解する。
9	(II) 持続可能な社会づくりと未来 (4) 1日の生活様式と食生活を振り返る（生活活動調査&食事バランスガイド） 担当教員：中西	①江戸時代の暮らし ②循環型社会 ③江戸時代の農業 生活活動調査と食事バランスガイドの調査用紙に回答し、一日の身体活動量を算定、エネルギー必要量や必要な食事バランスを知るとともに、各自の一日の食事を振り返り、どのような栄養バランスの食事をしているのか知り、改善点を考える。①身体活動量 ②推奨エネルギー摂取量 ③食事バランスガイド
10	(III) 感染症と日本社会 (3) エイズと社会 担当教員：塚田 ※この回は、オンラインに変更する可能性があります。事前にお知らせしますので注意してください	①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの
11	(I) 生物多様性と持続可能性 (2) 霊長類の生物多様性 担当教員：吉川	霊長類の社会：ヒトは霊長類の1種であるという視点から、ヒトを含めた霊長類の社会や行動の違い、共通点を学ぶ。また、環境への適応について、ヒトの進化の隣人といわれるアフリカのチンパンジー等の行動生態の研究事例を学び、理解を深める。
12	(V) 自然環境と文化 (1) 保全・再生 担当教員：佐々木	①ヒトと、ヒト以外の霊長類について ②霊長類の行動と生態 水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ。 さらに、新潟市佐潟の「潟普請」、習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して、湿地の保全や再生にかかわる文化について考える。
13	(V) 自然環境と文化 (2) wise use（ワイズユース） 担当教員：佐々木	ラムサール条約が推進するワイズユース（賢明な利用）について学ぶ。さらに、大崎市の「ふゆみずたんぼ米」、檜枝岐村の尾瀬と温泉による観光、豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる文化を考える。
14	(V) 自然環境と文化 (3) CEPA 担当教員：佐々木	ラムサール条約が進めるCEPA（コミュニケーション、力量形成、学習・教育、普及活動）について学ぶ。さらに、高島市の「ふるさと絵屏風」、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」、日本湿地学会の活動などの事例に即して、CEPAにかかわる文化を考える。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。		
【テキスト（教科書）】		
講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。		
【参考書】		
講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。		
【成績評価の方法と基準】		
基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想,小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。		

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部 of 学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善に努めている。
受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい。

【その他の重要事項】

※講義10回目、塚田先生ご担当回 オンラインに変更する可能性があります。事前にお知らせしますので注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.

The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

SES300GA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 300）

ソーシャル・プラクティス

稲垣 立男

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報デザイン

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャル・プラクティス」では、ソーシャル・プラクティス、あるいはソーシャル・エンゲージド・アートと呼ばれる、環境や政治、コミュニティ、ジェンダーなど、さまざまな社会的問題に直接働きかけるアートの分野について学びます。社会と直接関わる現代アートのアプローチに関する理論と実践を扱い、ワークショップ形式の実習授業を行います。

【到達目標】

この授業では、下記の3つのテーマで実習を行います。

1. 環境と社会
2. 共生社会
3. 政治課題

自分たちを取り巻くさまざまな社会的課題を捉え直し、調査を基に各自が課題を設定し、それを作品として表現する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

いくつかの社会的問題をテーマとして仮想のアート・プロジェクトを実施し、グループワークによる調査やディスカッションを経て、さまざまな発表形式による作品制作を行います。ワークショップの冒頭では、課題と関連した社会的課題に関する解説を行うとともに、美術史や美術理論に関する基本的な知識を確認します。

次に、資料調査や大学内外でのフィールドワークを通じて問題を探ります。

最後に、各自が資料調査やフィールドワーク、ディスカッションを経て、作品制作（プレゼンテーション）に取り組みます。

○ 授業を円滑に進めるために、以下のオンラインツールを使用します。

Google Sites（授業の基礎となるコンテンツの配信）

Google Classroom、Google Form（課題提出、そのフィードバック、質問など）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 ソーシャル・プラクティスについて
第2回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 講義と対話	地球温暖化、原発問題、海洋汚染など環境問題に関する対話
第3回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 グループワーク	言語による表現を通じて環境に関するテーマについて考える

第4回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション1	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（1）
第5回	ワークショップ（1） 環境と社会 / 言語による表現 プレゼンテーション2	言語による表現によるプレゼンテーションと対話（2）
第6回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 講義と対話	コミュニティの崩壊、移民、難民問題など共生と社会に関する対話
第7回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 グループワーク	視覚表現を通じて共生社会について考える
第8回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作1	映像による作品制作と対話（1）
第9回	ワークショップ（2） 共生社会 / 映像・写真・絵画 制作2	映像による作品制作と対話（2）
第10回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス 講義と対話	ジェンダー、貧困問題、表現の自由などに関するテーマについて考える
第11回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス グループワーク	インスタレーション・パフォーマンスによるプレゼンテーションと対話
第12回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション1	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（1）
第13回	ワークショップ（3） 政治問題 / インスタレーション・パフォーマンス アクション2	インスタレーション・パフォーマンスによる行為と対話（2）
第14回	フィードバック	授業全体を俯瞰し、各課題の意義について、参考例を見ながら振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google Sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会を多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google Sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

Between Art and Anthropology: Contemporary Ethnographic Practice (Berg Pub Ltd)

パブロ・エルゲラ『ソーシャル・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年
アート&ソサイエティ研究センター SEA研究会『ソーシャル・エンゲイジド・アートの系譜・理論・実践 芸術の社会的転回をめぐる』フィルムアート社、2018年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

作品のアイデアから制作までのプロセスを丁寧に学んでいきましょう。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】**Course outline**

We learn a field of art that works directly on various social issues, such as social practice or environment and politics, called socially engaged art in this course. We will engage in the theory and practice of contemporary art on such an approach. In practical training, we will carry out virtual art projects with the theme of some social problems, work through group work surveys and discussions, and produce works in various presentation formats.

Learning Objectives

In this course, we will practice the following three themes.

1. Environmental problems and society
2. A symbiotic society
3. Political issues

We will re-examine the various social issues surrounding us and develop the ability to set problems and express them as works based on research.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

現代美術論

平野 真弓

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイディアについての理解を深めます。みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料などの授業コンテンツを Google sites 全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について	講義内容について 授業の進め方と方法について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング・写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャリー・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術の講義内容の確認をします。

第6回	現代アートとパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスタレーション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カブローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第7回	現代アートとパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーマンス・アーツ、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んで行きます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	ワークショップ・パフォーマンス
第12回	アートのある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アート（アーティスト）・コレクティブ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。 ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sites で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sites を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をお願いいたします。
実務経験のある教員による授業
平野真弓はフィリピン・マニラ在住のキュレーター・リサーチャーです。フィリピンを中心に東南アジアの展覧会史やキュレーションにまつわる思想や実践方法を研究しています。実践と研究活動で得た知識と経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice. Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields. The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

GDR300GA (ジェンダー / Gender 300)

Gender and Japanese Culture

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

- 【到達目標】
- 1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
 - 2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
 - 3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
I will lecture to situate our readings and discussions or to clarify concepts, but in general, students should come prepared to contribute seriously to the learning community by actively joining the discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Introduction to the course, syllabus, and course expectations
第2回	Introduction to gender studies	Lecture on the basic concepts in gender studies
第3回	Japanese femininities	Lecture on femininities in contemporary Japan
第4回	Gender, media, and misogyny in Japan	Lecture on the #MeToo Movement in Japan
第5回	Masculinity studies	Lecture on masculinities in contemporary Japan
第6回	Gender and the family	Lecture on marriage and work-life balance in contemporary Japan
第7回	Idol culture	Lecture on the reproduction and subversion of gender models within the idol culture
第8回	Midterm exam	Summary of the first half of the course and in-class midterm exam to assess students' understanding of the topics discussed.
第9回	LGBTQ+ issues in contemporary Japan	Lecture on the progress of LGBTQ+ rights in Japan

第10回	Heteronormativity in contemporary Japan	Lecture on the reproduction of heteronormative/cisnormative models in Japanese society and the media
第11回	Food, gender, and family	Lecture on the representation of food, gender, and family in contemporary culture
第12回	Asexuality in Japan	Lecture on asexuality/aromanticism and its representation in contemporary culture
第13回	Final exam	Summary of the second half of the course and in-class final exam to assess students' understanding of the topics discussed.
第14回	Queer Japan	Screening: "Queer Japan" (directed by Graham Kolbeins, 2019)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read the reference material (in English) by the next session, submit comment sheets, and work on their midterm exam, final exam, and final essay (one to three hours for every session).

【テキスト（教科書）】
Photocopies of readings will be distributed by the instructor.

【参考書】
Coates, Jennifer, Fraser Lucy, and Pendleton Mark (eds.), The Routledge Companion to Gender and Japanese Culture, Routledge, 2020
Kazuyoshi Kawasaki, Stefan Würrer (eds.), Beyond Diversity Queer Politics, Activism, and Representation in Contemporary Japan, Dusseldorf University Press, 2024.
Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), Manga Girl Seeks Herbivore Boy. Studying Japanese Gender at Cambridge, LIT Verlag, 2013
Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), Cool Japanese Men. Studying New Masculinities at Cambridge, LIT Verlag, 2017
Steger, Brigitte, Koch, Angelika, Tso, Christopher (eds.), Beyond Kawaii: Studying Japanese Femininities at Cambridge, LIT Verlag, 2021

【成績評価の方法と基準】
Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.
Mid-term exam: 30%
Final exam: 30%
Final essay: 20%

【学生の意見等からの気づき】
Group discussions help students to deepen their understanding of the course topics.
This course readings and classroom discussions will often focus on difficult and potentially challenging topics. Since readings and discussions might trigger strong feelings, content warnings will be given so that students will be prepared in advance.

【学生が準備すべき機器他】
Laptop to take the in-class exams and write the final essay.

【Outline (in English)】
In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as anthropology, history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.
Learning goals
1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.
Grading policy
Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via the Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

SDGs 発行日：2026/5/1

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

ARSx200GA（地域研究（その他） / Area studies(Others) 200）

世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J国内研修」（S J＝Study Japan）に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである（留学生必修）。
「S J国内研修」とは、一般学生のS Aに相当するもので、地方の中山間地域で見聞・交流・発表等の諸活動を経験することで、留学生にとってのS Aとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考えうる目を養うことを趣旨としている。
したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8泊9日程度の「S J国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化活動に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域である飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「S J国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を導くことが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。
特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、重要な固有名詞（地名、人名など）は覚えることが前提となる。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業と「S J国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第2回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある1市3町10村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第3回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937年に成立した当初の市域に、1950年代以降、周辺の15の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。

第4回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。中心的に扱う戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第5回	飯田線建設史①	現在のJ R飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第6回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇『カネト』の映像を鑑賞しながら、再度考える。
第7回	満州移民の歴史①	1930年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第8回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』を鑑賞しながら、再度考える。
第9回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満蒙開拓団の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・残留婦人、中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本慈昭についても知る。
第10回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人強制労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第11回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それを背景とする現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形をはじめとする伊那谷4座について、映像で確認する。
第12回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特徴ある文化活動として、通巻1000号超の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第13回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の3人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。
第14回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから2週間後）。
従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナ期に中断して今に至っている。今年度は、状況を見ながら実施するかどうか考えたい。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A 3で表裏1枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場でも持参して活用すること。
かつては留学生の自習用として、しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州大好き』（2010年）を当方で人数分用意して各人に差し上げていたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数冊あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍2,000冊以上、映像DVD約350点所蔵）に収められている。飯田市以外ではこれだけ揃った場所はないともいわれるこれら関連資料を、ぜひ大いに活用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、途中での中間課題20%、学期末のレポート40%を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

S J国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、特定の一地域へのアプローチの仕方や、「個別を極めることを通して普遍に至る」という学び方は、他の分野にも幅広く応用が利くであろうと思われる。

それに関連して、昨年度の授業改善アンケートに、以下のような自由記述があったことを紹介しておきたい。

「留学生向けの授業ではあるが、日本人学生こそ本授業を履修すべきだと、一日本人学生として感じた。自分の住んでいる国に、どんな地域があるのか、どんな歴史があるのか、改めて学ぶべきだと考えさせられたことが何度もあった。また、南信州の地域の歴史や文化を深く知る中で、歴史の教科書やテレビにおける「真実」「事実」とは何か、改めて考えさせられた。

教授自身の実体験も授業の中で多数紹介されるため、全体的に非常に興味深い授業であった。」

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況等により、対面授業が難しい場合はzoomを使用する。

【その他の重要事項】

「S J国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

S Jの実施時期は9月上～中旬で、出発前最終ミーティングを例年、春学期試験期間終了翌日に実施している。ボランティア補助員や一般参加者も含めた募集は、7月初旬から開始する。

【選抜の有無】

留学生、およびS J参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.

Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

AR5b300GA（地域研究（ロシア・スラブ地域） / Area studies(Russia/Slab) 300)

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方がEU加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで経済的に「優等生」と位置付けられてきたハンガリーが政治的にはEUにおいて足並みを揃えない傾向にあったり、ポーランドでは宗教的倫理観に根差した法令が制定され、女性の権利が縮小される傾向も見られます。この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）と今では北欧に分類されるエストニアのそれぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を概観すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の民族が共生するとはどういうことかをみなさんに考えてほしいと思います。本講義はSAロシアの事前学習科目であるため、SAエストニア（SAロシア代替）の2年生は必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞したりするのではなく、多数の情報から自身の見解を導き、適切な文章でこれらをまとめめる力をコメントシートを通して養うことを目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識をもちながら授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及）。さらに、北欧に属するエストニアについても講義を行います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、美術）、社会情勢を視聴覚資料を通して概観しながら東欧諸国とロシア（ソ連）との関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちににとってもアクチュアルな問題として考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業でフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。

第3回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第4回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所について。伝統音楽からショパンの作品を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら史実を後世に伝える映画の力について考える。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	ポランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第6回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件について。ブラハ、チェスキー・クルムロフの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第7回	ポーランド：社会を反映する映画	ブラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のブラハ』を紹介。チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのバペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第8回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧の歴史からe-Estoniaの社会に至るまでの軌跡。
第9回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、「歌と踊りの祭典」、世界遺産について。
第10回	チェコ：文学と映画をめぐって	キヴィラフク、クロス、ヘインサーの文学、映画『ノベンバー』（サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰や死生観について考える。
第11回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	
第12回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	
第13回	エストニア：街並みと風土	
第14回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品のDVDソフトは大学のAVライブラリコーナー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回4時間以上、期末レポートの作成には、1週間以上かけてください。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、コメントシート 30 %、期末レポート 20 %に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

静かな環境で講義を進められるよう、配慮しますが、何よりも、皆さんの協力を期待します。

【Outline (in English)】

● Course outline

The course covers the history, culture and art of Russia and Eastern Europe (Hungary, Poland and the Czech Republic), as well as Estonia. In the process, students will understand and appreciate the domination and nationalism of the satellite countries.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia, Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Please take about a week to create the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (50 %), Short reports (30 %) and term-end reports (20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について 説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	・ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。

第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第14回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
- ・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

- ・各分野の参考書は、各授業において提示する。
- ・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための56章【第2版】』エリアスタディーズ・72巻，明石書店，2023年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
 - ①平常点（コメントシートなど）：40%
 - ②期末レポート：60%
- ・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
- ・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】

- ・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
- ・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

The goals of this course are to understand and explain the socio-cultural situation of Quebec. Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading the relevant documents. Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LIT300GA（文学 / Literature 300）		
英語圏の文化Ⅳ（文学と社会A）		
須藤 祐二		
配当年次／単位：2～4年／2単位		
旧科目名：		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。		
【到達目標】 受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 講義形式で行う。 第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。 最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてもフィードバックとしてもう一度解説をする。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなにか	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのようにに反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのようにに変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのようにに反映されているのかを考察する。
第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのようにに変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのようにに表象されているのかを考察する。
第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのようにに変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのようにに位置づけようと苦闘してきたかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのようにに表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのようにに描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する、併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業で資料を配布するため、授業後に復習としても読み込むこと。 また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。		
【テキスト（教科書）】 授業で使用する資料は配布する。		
【参考書】 有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年 亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年 板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年 鈴木透『実験国家アメリカの履歴書——社会・文化・歴史にみる統合と多元性の軌跡（第2版）』慶應義塾大学出版会、2016年		
【成績評価の方法と基準】 学期末レポート（授業の理解度を測る）を70％、課題図書/映画レポートを30％とする。 両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。		
【学生の意見等からの気づき】 例年、視覚資料が理解に役立ったという感想があるため、今年度も積極的に使用するつもりである。		
【Outline (in English)】 【Course Outline】 This course is designed to introduce students to the history of American literature and, through it, provide insight into various aspects of American culture and society. Students will not only explore the critical perspectives of authors as expressed in their works but also examine how American society during different historical periods is reflected in the underlying themes of these writings. Additionally, the course aims to deepen students' appreciation of American literature by examining its influence on visual arts, film, and music across different eras.		
【Learning Objectives】 By the end of this course, students should be able to explain key characteristics of American literature and its cultural significance.		
【Learning Activities Outside the Classroom】 Students are expected to spend approximately two hours before or after each class reviewing and engaging with the course materials to fully grasp the content.		
【Grading Criteria】 First Report: 30%, Second Report: 70%		

ARSa200GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）

フランス語圏の文化Ⅳ（複言語・複文化社会）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈D〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界5大陸に広がるフランス語圏（フランコフォニー）社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マグレブ、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知ること。
(2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知ること。
(3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性（歴史・政治・社会・言語状況など）を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏（フランコフォニー）」とは、いかなる概念なのか？ ・具体的なフランス語圏地域の解説 ・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニック島】 ・フランス語とクレオール語の関係
2	I. カリブ海域諸島①	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
3	I. カリブ海域諸島②	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり ・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明
4	I. カリブ海域諸島③	【ケベック】 フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
5	II. カナダ・ケベック州①	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係 【移動するエキリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
6	II. カナダ・ケベック州②	・マグレブの歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	
8	III. マグレブ（北アフリカ諸国）①	

9	III. マグレブ（北アフリカ諸国）②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
10	III. マグレブ（北アフリカ諸国）③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳（可能であれば原典）などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。

- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。
- ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002年。
- ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院、2013年。
- ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房、2003年。
- ・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
- ・鶴戸聡著、「アラブ・フランコフォニーと越境の文学」『反響する文学』（土屋勝彦編、名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号）、風媒社、2011年。
- ・梶茂樹・砂野幸稔編著、『アフリカのこぼれと社会：多言語状況を生きるということ』三元社、2009年。
- ・岩本和子著、『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷』松籟社、2007年。
- ・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマン文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

- ・評価配分は、以下の通り
①平常点（コメントシートなど）：30％
②期末レポート：70％

・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域（または国）における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

HIS300GA（史学 / History 300）		
宗教社会論Ⅱ		
佐々木 一恵		
配当年次／単位：3～4年／2単位		
旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）		
旧科目との重複履修：		
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall		
人数制限・選抜・抽選：		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。		
【到達目標】 1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。 2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。 3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 ●各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。 ●各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。 ●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興（リバイバル）運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。
5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪惡とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義（ファンダメンタリズム）の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの係を歴史的に概したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議論する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 教科書は使用しません。		
【参考書】 ○岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。		

- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小檜山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ビーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。
- アリスター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。
- パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブクィア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30％）

2. 期末試験（70％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

POL200GA (政治学 / Politics 200)

国際関係研究 I

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究 I（アクターに着目した理論の捉え方）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：×

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務の関係で、オンデマンドを使用することもある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業内討論：毎回グループ討議・発表を行い、教員がフィードバックする。また、数回は演習型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans)のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。

14 まとめ（プライベートレゲーム） 「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子（2011）『NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度）20%、授業後課題30%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・特になし。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

国際関係研究Ⅱ

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- (1) 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- (2) メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- (3) 演習型（ゼミ形式）の反転学習を通して、国際関係研究としての「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
- 発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。履修者は最低1回は発表を担当する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。大学2年生でも理解できる文献の講読、発表、グループ討議といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。
- 発表担当者：2人1組となって担当する。事前にレジュメを準備し共同で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジーム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文科学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。

12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず課題文献は読んできて下さい。比較的短い日本語で書かれた文章です。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、発表20%、グループ討議への貢献度20%、期末レポート40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求めます。レポートの狙いや書き方は、授業の中で丁寧に説明します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の感想は、後日学習支援システムに掲載します。受講前は、課題文献や発表を恐れていた学生もいましたが、実際にやってみると、読みやすい文献で、発表もいい経験になったという声がほとんどです。一方的に話をする講義ではないので、演習（ゼミ）に近い、大学生らしい学びができたという意見も多いです。どんな文献を読むのかは、履修を検討する際に、学習支援システムを通じて共有しますので、あまり心配はいりません。

【学生が準備すべき機器他】

課題文献を入手するために、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録して下さい。

【その他の重要事項】

- 第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席して下さい。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡して下さい（smatsumoto[at]atmarkhosei.ac.jp）。
- 学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の講義形式の授業や、演習（ゼミ）とも異なる学びがあります。
- メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた実務家教員が、その活動経験を事例や余談に組み込みながら授業を進めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- 2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- 3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)	
人の移動と国際関係Ⅱ	
高柳 俊男	
配当年次／単位：2～4年／2単位	
旧科目名：人の移動と国際関係Ⅱ（朝鮮民族のディアスポラ）	
旧科目との重複履修：×	
毎年・隔年：隔年開講 開講セメスター：秋学期授業/Fall	
人数制限・選抜・抽選：×	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮民族のディアスポラ（離散）について考察する。
私たちの暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大量に住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究成果や教員自身の見聞をもとに、ともに考える。
朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探究することを通して、移民過程や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるようにする。

【到達目標】

- ・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
- ・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ（離散）全体について考察する。
- ・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考えを深める契機をつかむ。
- ・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴いつつ考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、条件が許せばゲストをお招きした授業を実施したこともある。
毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけたい。
また、ネット上の学習支援システムを、もう1つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第2回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第3回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における歴史的な人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第4回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第5回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第6回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人（朝鮮系の人々）について、その概要を知る。とくに1937年、スターリンによる極東から中央アジアへの強制移住について学ぶ。
第7回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第8回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第9回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。

第10回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている1959年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第11回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人についてここまで学んできた内容を、映像視聴を通してまとめる。
第12回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代の複合的なアイデンティティについて考察する。
第13回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに1992年のロス暴動に関して学ぶ。
第14回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察してまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを学習支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、A3で表裏1枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】

参考文献はそのつど指示するが、事典として『韓国朝鮮を知る事典（新版）』（平凡社）、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』（岩波書店）、『世界民族問題事典』（平凡社）、『世界民族事典』（弘文堂）、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』（丸善出版）などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、学習支援システムを利用した中間での小課題20%、学期末のレポート40%を基準とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- 過去のアンケートでは、以下のような好評をいただいた。
 - ・今回も、そうした授業になるよう努力したい。
 - ・リアクションペーパーに毎回フィードバックしてくれたので、他の学生がどのように考えたのかを知れてよかった。
 - ・映像資料が普段では見れないものが見れて良かった。
 - ・ゲストを招いた講義が面白かった。
 - ・学部の中でもすばらしい授業の一つ。

【その他の重要事項】

朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。
また、中華系や日系の移民を扱う「人の移動と国際関係Ⅰ」「人の移動と国際関係Ⅲ」（ともに隔年開講）も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

【Outline (in English)】

This class examines the history and present condition of Korean residents living in various countries around the world. Through the case of Koreans, students are expected to think universally about the migration, settlement, ethnic conflicts, and integration. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。
授業を紹介する動画を2つ用意しました。ぜひご覧ください：
《なぜ国は買えないのか》 <https://x.gd/aZ8no> ※学内者限定
《西ヨーロッパと自由》 <https://x.gd/6bP6e> ※学外からも閲覧できます。
学内には他にもヨーロッパ関連の科目があります。これらの授業と比較しながら、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、2025年度にひきつづき、2026年度も、リアルタイム・オンラインで実施します。
- ・授業時間（100分）の前半65分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（45-50分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半35分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppi利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界

5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特徴とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲慘を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲慘」。クリュー、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
- 2. グループ・ディスカッションの課題の提出（授業時間内に提出まで至らなかった場合のみ）
- 2. 本学学則基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。Google Classroom上で資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
- 2. 期末レポートは出題しません 0%
- 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】60%
（※1）小テストは授業の復習であり、授業で配る資料をみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- 4. オンライン授業への参加【リアルタイム・オンライン授業＝月4限のZoomミーティングへの各学生による接続（※2）】20%
（※2）ただし、第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）の活動についてのみ、この項目●4. ではなく、●6. における評価対象といたします。
- 5. グループ・ディスカッション&学生間の共働【グループ・ディスカッションにおける意見交換への積極的参加や、グループ・ディスカッションにおける学生間のやりとりのとりまとめ、所定のGoogleフォームを用い、とりまとめた成果物を教員に提出（送信）する、等（※3）】20%
（※3）グループ・ディスカッションは、3～6人程度の学生グループをZoomのブレイクアウト・ルーム機能を用いて毎回新たに作り、複数人の共同作業として行っています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループとして提出した成果物に記載されていれば、加点されます。
- 6. その他【1.～5. の合計100%には含めず、その外枠で10%程度まで加算します。】
（ア）運営への協力（協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、WebClassやGoogle Classroom等のLMSの設定の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象）
（イ）第1回、第2回、第14回のリアルタイム・オンライン授業（Zoomミーティング）と関連する活動への参加
（ウ）小テスト以外の提出物（アンケート等）で加点対象とするものが提出された場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることで参加のハードルを下げ、そうした方（かた）が必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやWebClassを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合ください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください（Word ファイル）<https://x.gd/1W2Mf>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えます。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためです。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- 基本方針：対面で実施する。学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
- フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
- 授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
- 授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに短く書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。

12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。あらかじめ何に留意して読むかは教員が指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W.エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度40%、授業内試験40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なお、授業内試験は紙媒体のものは全て持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

- ・100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、初めのうちは、1つのケースに授業2回分を充てる。
- ・教員から指定される分析をグループ討議で行い、その結果を発表した上で、全体でも討論をするのには100分間は非常に短いという声が多い。その一方で、短時間で深い議論を行い、一定の結論をグループで出す訓練の場になるという意見も聞かれる。そうした力を大学時代に養いたい学生にはお勧めの授業と言えそうである。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】

- 国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例も議論のためのケースとして取り上げる。
- グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、なるべく出席すること。
- グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは2-3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第2回授業日前日までに履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
- 2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
- 3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

【Learning activities outside of classroom】

- Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
- Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
- Totally, your study time will be at least four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

HIS300GA (史学 / History 300)

The Global South: History and Politics

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：国際文化学部主催科目に必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61-75、TOEFL ITP Level 1 500-539、TOEFL ITP Level 2500、TOEIC675-819、IELTS 6.0、英検準1級程度。基準スコアに満たない、あるいはスコアを持っていない学生は、担当教員に相談すること。

Courses in Intercultural Communication need the higher English proficiency mentioned below: TOEFL® iBT 61-75, TOEFL® ITP Level 1 500-539, TOEFL® ITP Level 2500, TOEIC® 675-819, IELTS 6.0, and EIKEN Grade Pre-1st. If you don't have any score mentioned above, contact the instructors directly.

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course takes up current social, economic, and political issues related to "the Global South," such as climate change, immigration, tourism, pandemics, repatriation of art and cultural artifacts, and Black Lives Matter, from a transnational and cross-cultural perspective, incorporating the historical past.

By discussing various topics associated with the Global South, students will gain knowledge of important contemporary phenomena, acquire concepts and theories for analyzing these phenomena, and be able to research issues related to the Global South.

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- ・ Understand the issues surrounding the Global South and their historical background.
- ・ Analyze issues related to the Global South using concepts and theories from the framework of global and transnational history.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The first part of the class focuses on providing students with a broad understanding of the background of the topic covered in the assigned readings and important concepts and theories related to the topic. The class then engages in a discussion that allows students to share their insights and interpretations of the reading assignment. In the second half of the class, the focus shifts to a broader examination of the issues raised in the reading assignment. The class expands its scope to explore the implications, connections, and applications of the issues in a broader context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of the course.

Week2	Climate Change	Explores the impact of climate change on the Global South and discusses the conflict between the Global South and developed countries over environmental issues.
Week3	Tourism	Traces the images of Africa as a tourist destination created by the West in the past and discusses how such images are currently being renovated and/or reframed.
Week4	Pandemics	Explores the pandemics that have historically plagued Latin America and discusses the problems caused by Covid-19.
Week5	Representation	Analyzes exotic advertising using Edward Said's notion of Orientalism and discusses how such images are now being appropriated by the Global South.
Week6	The midterm	The Practice of Analyzing Primary Sources and a Quiz
Week7	Immigration and Citizenship	Takes up the case of past migrants from India to East Africa and discusses their current situation as citizens in African countries.
Week8	Repatriation of Cultural Heritage	Using the case of museums in Germany that own artifacts confiscated from colonies, discusses the repatriation of cultural heritage.
Week9	Black Lives Matter Movement	Explores the current controversy over public history and monuments in the wake of the Black Lives Matter movement.
Week10	Final Paper Presentation 1	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week11	Final Paper Presentation 2	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week12	Final Paper Presentation 3	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Week13	Final Paper Presentation 4	10-minute presentation on an issue related to the Global South, including a historical perspective.
Class14	Wrap up	Summary of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions, and also write a paper analyzing assigned primary sources.

Students are expected to spend about 4 hours a week on coursework outside the class.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. All course materials are available online through the course site.

【参考書】

○Carina Schmitt, eds. From Colonialism to International Aid

External Actors and Social Protection in the Global South (Palgrave Macmillan, 2020).

○Danielle Watson, et al. Policing the Global South: Colonial Legacies, Pluralities, Partnerships, and Reform (Routledge, 2023).

【成績評価の方法と基準】

- ① Class participation 30%
- ② Primary document analysis quiz 20%
- ③ Presentation 20%
- ④ Final Paper 30%

Based on the grading criteria, students who successfully achieve 60% or more of course goals will earn a passing grade.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

ICT devices such as laptops and tablets.

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）		2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
言語文化演習				
佐々木 直美				
サブタイトル：世界遺産に学ぶ 配当年次／単位：3～4年／2単位 旧科目名： 旧科目との重複履修： 毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期・秋学期 / Spring・Fall 人数制限・選抜・抽選：選抜 備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位 / 秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf その他属性：〈S〉〈カ〉		3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれに関わる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。		4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
【到達目標】 ①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。 ②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。 ③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。 ④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようにする。 ⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。		5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ3）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
【主な授業方法】 S 演習/ゼミ /Seminar		7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
【授業の進め方と方法】 この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。 また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。 サブゼミの時間を使って世界遺産検定2級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。 教室で行う対面授業を基本とします。		8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
回 テーマ 内容		12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（基礎） ・フィールドワークの準備
1 イントロダクション1 昨年度の振り返り。今年度の研究テーマについて議論する。		13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（基礎） ・フィールドワークの準備
		14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（発展） ・フィールドワークの準備
		1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
		2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
		3	グループ・ワーク（1）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
		4	グループ・ワーク（2）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
		5	グループ・ワーク（3）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
		6	グループ・ワーク（4）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク (5)	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク (6)	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク (7)	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スーザン・サザード(著), 宇治川 康江(翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。

秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言(平和文庫)』2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】

高瀬毅『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。

木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。

佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。

その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50％）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】

希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の2級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。

授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】

Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc. In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.

< Course outline >

The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.

< Learning objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.

2. Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.

3. Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.

< Learning activities >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）		2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
言語文化演習				
佐々木 直美				
サブタイトル：世界遺産に学ぶ 配当年次／単位：3～4年／2単位 旧科目名： 旧科目との重複履修： 毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期・秋学期 / Spring・Fall 人数制限・選抜・抽選：選抜 備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位 / 秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf その他属性：〈S〉〈カ〉		3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれに関わる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。		4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
【到達目標】 ①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。 ②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。 ③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。 ④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようにする。 ⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。		5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ3）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
【主な授業方法】 S 演習/ゼミ /Seminar		7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
【授業の進め方と方法】 この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。 また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。 サブゼミの時間を使って世界遺産検定2級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。 教室で行う対面授業を基本とします。		8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
回 テーマ 内容		12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（基礎） ・フィールドワークの準備
1 イントロダクション1 昨年度の振り返り。今年度の研究テーマについて議論する。		13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（基礎） ・フィールドワークの準備
		14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（発展） ・フィールドワークの準備
		1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
		2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
		3	グループ・ワーク（1）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
		4	グループ・ワーク（2）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
		5	グループ・ワーク（3）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
		6	グループ・ワーク（4）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク (5)	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク (6)	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク (7)	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スーザン・サザード(著), 宇治川 康江(翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。

秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言(平和文庫)』2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】

高瀬毅『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。

木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。

佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。

その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50％）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】

希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の2級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。

授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】

Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc. In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.

< Course outline >

The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.

< Learning objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.

2. Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.

3. Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.

< Learning activities >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）		2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
言語文化演習				
佐々木 直美				
サブタイトル：世界遺産に学ぶ 配当年次／単位：3～4年／2単位 旧科目名： 旧科目との重複履修： 毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期・秋学期 / Spring・Fall 人数制限・選抜・抽選：選抜 備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位 / 秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf その他属性：〈S〉〈カ〉		3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産について議論する。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれに関わる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。		4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループワークの成果をプレゼンテーションする。
【到達目標】 ①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。 ②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。 ③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。 ④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようにする。 ⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。		5	世界遺産の基礎（ヨーロッパ3）	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。		6	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』1-3章の輪講と討論
【主な授業方法】 S 演習/ゼミ /Seminar		7	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』4-6章の輪講と討論
【授業の進め方と方法】 この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。 また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。 サブゼミの時間を使って世界遺産検定2級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。 教室で行う対面授業を基本とします。		8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸1） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『ナガサキ 核戦争後の人生』7-9章 輪講と討論
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸2） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』1-3章の輪講と討論
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes		10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 ・課題図書『長崎原爆記』4-6章の輪講と討論
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産	・世界遺産基礎知識の学習 ・課題図書輪講『長崎原爆記』7章-最後の輪講と討論 ・フィールドワークの準備
回 テーマ 内容		12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（基礎） ・フィールドワークの準備
1 イントロダクション1 昨年度の振り返り。今年度の研究テーマについて議論する。		13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ	・世界遺産基礎知識の学習 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（基礎） ・フィールドワークの準備
		14	まとめ	・課題図書輪講と討論 ・今年度の研究テーマに沿った参考文献の輪講（発展） ・フィールドワークの準備
		1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定。
		2	フィールドワーク報告会	フィールドワークの成果を全員で共有しながら討論する。 学会準備
		3	グループ・ワーク（1）	学会発表にむけた資料収集。 課題資料の輪講と討論
		4	グループ・ワーク（2）	学会発表にむけた資料分析。 課題資料の輪講と討論
		5	グループ・ワーク（3）	学会発表にむけたグループ討論。 課題資料の輪講と討論
		6	グループ・ワーク（4）	学会発表資料全体での討論。 課題資料の輪講と討論

7	グループ・ワーク (5)	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク (6)	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク (7)	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スーザン・サザード(著), 宇治川 康江(翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。

秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言(平和文庫)』2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】

高瀬毅『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。

木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。

佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。

その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50％）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】

希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の2級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。

授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】

Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc. In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.

< Course outline >

The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.

< Learning objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.

2. Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.

3. Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.

< Learning activities >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

CUA400GA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 400）		2	・世界遺産の基礎（日本） ・	世界遺産検定2級テキストに沿って、基礎知識を学ぶ。 グループに分かれて、取りあげる世界遺産・フィールドワークのテーマや場所について議論する。
言語文化演習				
佐々木 直美				
サブタイトル：世界遺産に学ぶ				
配当年次／単位：3～4年／2単位				
旧科目名：				
旧科目との重複履修：				
毎年・隔年：毎年開講 開講セメスター：春学期・秋学期 /Spring・Fall				
人数制限・選抜・抽選：選抜				
備考（履修条件等）：単位数は、春学期 2 単位／秋学期 2 単位である。https://gakububbs.hosei.ac.jp/wp-content/uploads/FIC2026SeminarList.pdf				
その他属性：〈S〉〈カ〉				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				
みなさんは旅行先やTVなどで目にする世界遺産の絶景や不思議に感動したり、憧れたりした経験があることでしょう。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げて研究します。単に世界遺産に関する知識を増やすことは、このゼミの目的ではありません。真の目的は、世界遺産の意義である「平和」について考え・行動することを学ぶことです。				
【到達目標】				
①世界遺産の意義を理解し、世界遺産検定2級以上の知識を修得する。。				
②世界が抱える諸問題を認識し、それらについて自分の意見を述べたり、グループで議論を展開させる力を養う。				
③資料収集と文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。				
④世界遺産を通して、持続可能な地球の未来に向けた行動を習慣化するようになる。				
⑤グループワークを通じて、他者とともに課題に取り組む協同性を養う。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。				
【主な授業方法】				
S 演習/ゼミ /Seminar				
【授業の進め方と方法】				
この授業は演習です。課題文献の輪講と討論に加えて状況が許せばフィールドワークへ出ることもあります。				
また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会にむけて、合宿形式のフィールドワークや資料作りなど積極的なゼミへの参加と協力が必須です。				
サブゼミの時間を使って世界遺産検定2級の自習学習や学会発表準備を行うため、サブゼミにも参加することが前提です。				
教室で行う対面授業を基本とします。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり /Yes				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	イントロダクション	1 昨年度の振り返り。 今年度の研究テーマについて議論する。		
			2	世界遺産の基礎（ヨーロッパ1）
			3	世界遺産の基礎（ヨーロッパ2） 今年度の研究テーマ選定会
			4	世界遺産の基礎（ヨーロッパ3）
			5	世界遺産の基礎（アフリカ1） 記憶と遺産
			6	世界遺産の基礎（アフリカ2） 記憶と遺産
			7	世界遺産の基礎（アフリカ3） 記憶と遺産
			8	世界遺産の基礎（アメリカ大陸1） 記憶と遺産
			9	世界遺産の基礎（アメリカ大陸2） 記憶と遺産
			10	世界遺産の基礎（アメリカ大陸3） 記憶と遺産
			11	世界遺産の基礎（アジア1） 記憶と遺産
			12	世界遺産の基礎（アジア2） 今年度の研究テーマ
			13	世界遺産の基礎（アジア3） 今年度の研究テーマ
			14	まとめ
			1	オリエンテーション
			2	フィールドワーク報告会
			3	グループ・ワーク（1）
			4	グループ・ワーク（2）
			5	グループ・ワーク（3）
			6	グループ・ワーク（4）

7	グループ・ワーク (5)	学会発表資料の作成。
8	グループ・ワーク (6)	学会発表資料の全体確認。
9	グループ・ワーク (7)	学会発表リハーサル1 学会発表の最終調整
10	学会発表リハーサル	学会発表リハーサル2
11	文献講読1 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アジアの遺産
12	文献講読2 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 ヨーロッパの遺産
13	文献講読3 世界遺産検定対策	・今年度の研究テーマに沿った 参考文献の輪講 アメリカ大陸の遺産
14	世界遺産検定対策 総括	アフリカ大陸の遺産とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スーザン・サザード(著), 宇治川 康江(翻訳)『ナガサキ』みすず書房、2019年。

秋月辰一郎『長崎原爆記―被爆医師の証言(平和文庫)』2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド300＜第5版＞』毎日コミュニケーションズ、2023年。

授業内で受講生たちとともに今年度の研究テーマを決定したのちに、適宜授業内で指示します。

【参考書】

高瀬毅『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』文藝春秋、2013年。

木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。

佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。

NPO法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産大事典＜上＞＜中＞＜下＞世界遺産検定1級公式テキスト』世界遺産検定事務局、2024年3月刊行。

その他、適宜授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度（積極的な議論への参加・問題提起）と課題などの平常点（50％）と期末レポート（50％）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と相談しながら内容を柔軟に対応させます。授業についての希望や提案は、授業期間に遠慮無く教員に伝えてください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用した、資料配付を行いますので、パソコンは必ず必要です。

【その他の重要事項】

希望者は『世界遺産検定』（NPO法人世界遺産アカデミー主催）の2級取得に向けて先輩ゼミ生たちと共に受検対策をサポートします。春学期・秋学期合わせての履修を強く推奨します。

授業の内容は、受講生と相談しながら柔軟に対応します。変更がある場合はあらかじめ学習支援システムやメールを通じて告知しますので、こまめに連絡をチェックしてください。

【Outline (in English)】

Many World Heritage Sites are influenced directly by reflecting various contemporary problems such as environmental problems, poverty problems, and religious problems etc. In this seminar, we will study about World heritage Sites and various problems related to them according to each student's interest.

< Course outline >

The aim of this course is to help students to acquire understanding real significance and value of the World Heritage Sites of UNESCO.

< Learning objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Recognize the problems that the world faces, and develop the ability to express one's own opinions and develop discussions about them.

2. Acquire knowledge of World Heritage Site Level 2 or higher.

3. Through World Heritage Sites, we will become a habit of acting toward sustainable futures.

< Learning activities >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria/Policy >

Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環17：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに 国際法の構造	本講義の対象範囲 国際法の内容、近代国際法の特徴
第2回	法源	条約、国際慣習法、法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第3回	条約法	締結手続、留保、効力、無効、改正と終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家承認、政府承認
第6回	国家・国家機関（2）	国家承継、国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第10回	国家領域（1）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第11回	国家領域（2）	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第12回	国家責任法（1）	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第13回	国家責任法（2）	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法 [第2版]』東京大学出版会、2023年。4,840円。
植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。
繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 瑠・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。
その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society.

By the end of this course, students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper(100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際法Ⅱ

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底
第4回	南極、空域、宇宙	国際化地域、国際航空法、宇宙空間
第5回	個人	国籍、外国人の地位、難民
第6回	国際人権法（1）	人権保障の歴史、条約による人権保障
第7回	国際人権法（2）	国際組織による人権保障、履行確保、人道的介入
第8回	国際刑事法	国際犯罪、国際刑事裁判所
第9回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決（2）	非裁判的手続、裁判的手続
第11回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第12回	国際人道法（1）	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第13回	国際人道法（2）	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司『国際法〔第2版〕東京大学出版会、2022年。

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

【参考書】

森川幸一他編『国際法判例百選〔第3版〕』有斐閣、2021年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、岡松暁子・小林友彦共同編集、鳥谷部 壤・平野実晴編集協力『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。その他、適宜講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

LAW200HA（法学 / law 200）

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環37：グ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と 接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ、 共通に有しているが差異ある責任、 人類共通の関心事
第8回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第9回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第10回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、 情報交換、事前の情報に基づく同意、 環境影響評価、モニタリング
第11回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第12回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第13回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉・中谷和弘編集代表『国際条約集』有斐閣、2026年。

繁田泰宏・佐古田彰編集代表、平野実晴共同編集『テキストブック国際環境法』（東信堂、2026年）。

その他、授業内に指示する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。2,800円。

その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

Students are required to study at least 2 hours before or after the class.

The course grade will be based on final paper (100%).

POL300HA（政治学 / Politics 300）

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2
備考（履修条件等）：環37：G,サ
その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？ 地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障、コロナ禍やウクライナ情勢の影響といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界、地球環境ガバナンスへの逆風

第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス(1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス(2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント、温暖化懐疑論
第5回	地球環境ガバナンスの課題(1)：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題(2)：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH、ドラギレポート
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、第2次トランプ政権、エネルギー政策、環境正義、温暖化懐疑論
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(1)	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(2)	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約、グリーントランスフォーメーション
第13回	地球環境政治の見方(1)	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方(2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直編『国際関係論（第4版）』弘文堂、2025年

【参考書】

高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
宮永健太郎『持続可能な発展の話』岩波書店、2023年
東京大学 気候と社会連携研究機構編『気候変動と社会』東京大学出版会、2024年
服部崇『気候変動規範と国際エネルギーレジーム』文真堂、2021年
渡邊智明『有害廃棄物に関するグローバル・ガバナンスの研究』ミネルヴァ書房、2022年
舩方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 3版』有斐閣、2023年
前田幸男『「人新世」の惑星政治学』青土社、2023年
多湖淳『国際関係論』勁草書房、2024年
大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年

西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
草野大希ほか編『国際関係論入門』ミネルヴァ書房、2023年
関山健『気候安全保障の論理』日経BP、2023年
小田桐確編『安全保障化の国際政治』有信堂、2023年
藤原帰一編『気候変動は社会を不安定化させるか』日本評論社、2022年
西村智朗『気候変動問題と国際法』信山社、2024年
藤田大智『国家平等の形成と課題』信山社、2023年
畠山武道『アメリカ環境政策の展開と規制改革』信山社、2022年
蓮見雄・高屋定美編『カーボンニュートラルの夢と現実』文真堂、2025年
庄司真理子ほか編『新グローバル公共政策(改訂第3版)』見洋書房、2025年
田所昌幸『世界秩序』中央公論社、2025年
赤星聖ほか『国際機構論』法律文化社、2025年
吉沢晃『はじめての国際政治経済学』法律文化社、2025年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。

学習したことを評価するので、学習していないということのないように注意してください。

課題・レポート作成時における生成AIの使用は認めていません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。

進度により講義内容を変更することがあります。

課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

感染症対策には十分な配慮をします。

半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。授業回の半数以上での対面受講を求めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations
Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.

・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States

・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.

・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.

・ Students will be able to understand the impact of the Trump administrations on global environmental policy.

・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅰ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環Ⅰ7：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどのような対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の2つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
一方井誠治（2018）『コア・テキスト 環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト以外の練習問題を増やし、考え方を確認できるようにします。

【その他の重要事項】

対面形式の授業を予定しているため、オンライン授業での対応は原則行いません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅱ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環37：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どのような政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしながら、授業を進める。

この授業では、以下の2つを最終目的とする。

- ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
- ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】

経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。
また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論Ⅱの内容と環境経済論Ⅰの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖化の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、どの程度の料金に設定すべきか
第7回	廃棄物の経済学②	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第8回	廃棄物の経済学③	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第9回	廃棄物の経済学④	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第10回	都市の環境問題①	コースの定理と日本の公害病
第11回	都市の環境問題②	固定排出源における環境対策
第12回	都市の環境問題③	交通部門に対する環境規制
第13回	都市の環境問題④	道路混雑とロードプライシング
第14回	自主的な取り組み	日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前にリサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

【参考書】

有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社。
細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。
一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者同士のディスカッションを増やす要望があり、毎回実施できるように努めます。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環17：経、グ、サ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の全体像と進め方
	企業の本質とは何か	企業と社会の関係の変遷
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	カーボンニュートラル（パリ協定）の意義	パリ協定を基軸とする 脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と企業評価	投資家による非財務情報の評価が投資行動と企業経営に及ぼす影響

第9回	サステナブルマネーの動向	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について
第10回	人権・人的資本経営	企業価値を高める人権政策と人材育成のあり方
第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	企業経営を取り巻く国内外のサステナビリティ政策の動向
第13回	企業不祥事はなぜ起こるのか	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	社会から選ばれるサステナブルストーリー	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：90%

特別講義レポート：10%（2社分）

期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディと企業の実務担当者の講義を織り交ぜて、理論と実務の関係を分かりやすく説明します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

＜研究テーマ＞

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (10%) and the final report (90%).

CSR論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
備考（履修条件等）：環17：経、グ、サ
その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理 [1]「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [2]「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会の企業倫理と責任経営 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会の企業倫理と責任経営 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成

第9回	ESG経営の最新動向「環境編」	カーボンニュートラル政策の動向と日本企業の対応
第10回	ESG経営の最新動向「社会編」	企業価値を高める人権・人的資本経営とは何か
第11回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	経営者による企業統治および情報開示の現状
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	企業不祥事の実態	企業不祥事の発生メカニズムと対策
第14回	ネイチャポジティブ経営	自然資本と生物多様性を尊重した経営のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂，2023年
長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会，2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂，2021年
長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂，2019年
長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂，2018年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂，2017年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂，2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：90％
特別講義レポート：10％（2社分）
期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞
サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー
＜研究テーマ＞
取締役会の実効性分析
企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年
「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (10%) and the final report (90%).

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環コ7：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。

第4回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）
正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：環コ7：経、ゲ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システムを通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックは学習支援システムを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	途上国経済論Ⅰの概要の復習と 途上国経済を見る目
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義内容にメリハリをつけるとともに、学生からの質問コメントへのフィードバックを充実する予定です。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam.

Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅰ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環17：口
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

2026年度春学期は、Zoomでのリアルタイム配信によるオンライン授業を予定している。大学で受講する場合は、薩埵ホールなどのオンライン受講スペースを利用すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。

第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the history of environmental problems and policies in Japan.

- Point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.

- Propose actions for solving environmental problems.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2
備考（履修条件等）：環17：口
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。

第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。
第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。
坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。
平常点は授業への参加度、リアクションペーパー、課題の提出によって評価する。なお、試験は学期末の定期試験期間中に対面での実施を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is neither the government nor the business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the following:

- Explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- Propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the handouts and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be class participation and submitting reaction papers and assignments.

SSS300HA（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300）

災害政策論

川副 早央里

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環17：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害はどの地域においても、誰にでも起こりえることです。大規模な災害が起こると、地域社会が大きな打撃を受け、急激な地域変容が生じます。そこで暮らしていた人びとは、生命、仕事、財産、家族や友人関係、自然環境などさまざまなものを失う経験をします。災害は平常時の社会のあり方や構造を露わにします。災害時に発生するこうした諸問題を理解するときには、災害前から社会に潜んでいた問題に着目する視点が求められます。

本講義では、地域社会やそこで暮らす人々の視点から災害と地域復興を捉え、いくつかのテーマと実際の事例から、災害政策が形成されてきた背景やプロセス、残された課題について検討し、私たちが生きる社会について改めて考えたいと思います。東日本大震災のほか、一部海外の事例も取り上げます。

【到達目標】

- (1) 災害復興のリアリティに触れ、災害時の社会状況についての想像力を養う。
- (2) 「災害」「復興」の概念を理解し、災害時に生じる諸課題の背後にある社会構造を学ぶ。
- (3) 災害時の政策が形成された背景、経緯、残された課題を理解する。
- (4) 災害を日常の延長にあるものとして捉え、災害という切り口から日常生活や地域社会の在り方を見直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を基本としますが、できるだけ多くのグループディスカッションを行いたいと考えています。また、さまざまなドキュメント資料や映像資料を活用して、できるだけ被災地域および被災者の置かれた実状に触れ、災害と復興について考えたいと思います。毎回の授業後にリアクションペーパーを提出してもらいます。次の授業の冒頭にその内容を振り返り、問題意識を共有し補足説明も行いながら、災害に関する理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方を確認する。
第2回	災害とは何か	災害とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第3回	避難（1）：緊急避難	災害発生から避難に至る過程と課題を学ぶ。
第4回	避難（2）：広域的長期的避難	長く広域に避難した被災者の生活実態と課題を学ぶ。
第5回	地域コミュニティの変容（1）：分断と喪失	災害後のコミュニティの分断や喪失の実態を学ぶ。
第6回	地域コミュニティの変容（2）：再編と創造	災害後のコミュニティの再編や創造の実際を学ぶ。

第7回	被災地・被災者支援（1）：支援の実際	被災地および被災者の復興における支援の実際と課題を学ぶ。
第8回	被災地・被災者支援（2）：多様な支援	多様な支援の事例を紹介し、被災地・被災者復興に求められる支援について検討する。
第9回	災害とジェンダー・多様性（1）：災害時のジェンダー課題	災害時のジェンダー課題への対応の実際と課題を学ぶ。
第10回	災害とジェンダー・多様性（2）：災害時の多様性配慮	災害時に求められる多様性への配慮について学び、議論する。
第11回	復興とは何か（1）	復興とは何かについて、理論的枠組みや概念を解説する。
第12回	復興とは何か（2）	復興の事例を紹介し、実際の復興状況と課題を検討する。
第13回	授業内試験	授業内試験を行う
第14回	試験の講評と補論	試験に関する講評と授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・適宜授業のなかで関連する参考文献や資料を紹介するので、事前に学習してから受講すること（60分程度）。
- ・授業中に配布するレジュメと自身のメモ・ノートをもとに復習し、リアクションペーパーの提出により学習内容や自分の考えを整理するとともに、理解できていない部分を確認すること（40分程度）。
- ・各回の授業に関する課題として、授業内で扱った知識や概念を応用させた課題に取り組み、授業内容の理解を深めること（90分程度）

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は、授業前にWebClassに掲載する。

予習・復習については、配布資料を使って学習するほか、授業内で紹介する参考書や各種情報を参照すること。

【参考書】

大矢根淳ほか（2007）『災害社会学入門（シリーズ災害と社会）』弘文堂。

その他は授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパーおよび授業への参加度）：60%
 - ・授業内期末試験：40%
- ＊期末試験未受験の場合には成績評価の対象とはなりません。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、履修生の理解度を確認しながら授業を進めていく。具体的には、学生同士のディスカッションやリアクションペーパーの提出を通じて、意見を共有するほか、質問への回答や補足説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用するPDF資料は、事前にWebclass上に掲載します。紙資料は配布しないので、必要に応じてPCやタブレットを持参して受講してください。

【Outline (in English)】

Disasters can strike anywhere and affect anyone. When a large-scale disaster occurs, local communities suffer significant damage and undergo rapid transformation. People living there experience the loss of life, livelihoods, property, family and friends, and the natural environment. Disasters lay bare the nature and structure of society during normal times. Understanding the problems that emerge during disasters requires a perspective that focuses on issues latent within society before the disaster struck.

This lecture will examine disasters and regional recovery from the perspective of local communities and their residents. Through several themes and real-world case studies, we will explore the background and processes behind the formation of disaster policies, the challenges that remain, and rethink the society in which we live. In addition to the Great East Japan Earthquake, we will also cover some international examples.

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

備考（履修条件等）：環17：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二と桑子敏雄の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウルの清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップについて	過去のアメニティマップを紹介しながら、作り方を説明する
10	環境と観光:白川郷と妻籠	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
11	環境と観光:湯布院の地域づくり	湯布院のドキュメンタリーを見て議論する
12	アメニティマップの発表(1)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
13	アメニティマップの発表(2)	各自が作成したアメニティマップを発表し議論する
14	アメニティマップの発表(3)全体の講評	アメニティマップについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理 増補改訂版』勁草書房、2025年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（40％）とマップ作成（60％）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 I

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。本授業・環境科学Ⅱを通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地球規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）気候変動、（２）生物多様性、（３）化学物質汚染について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	気候変動（１）	気候変動の歴史、IPCCの将来予測
第3回	気候変動（２）	エネルギー資源
第4回	気候変動（３）	再生可能エネルギー
第5回	気候変動（４）	緩和策
第6回	気候変動（５）	適応策
第7回	気候変動（６）	国際環境政策の変遷、国連気候変動枠組条約の仕組み
第8回	気候変動（７）	日本国内における取り組み（気候変動適応法など）
第9回	気候変動（８）	気候変動と防災・減災
第10回	生物多様性（１）	生物多様性の意義、現状と課題
第11回	生物多様性（２）	国内外の取り組み（生物多様性条約・生物多様性基本法など）
第12回	化学物質汚染（１）	化学物質汚染の現状と課題
第13回	化学物質汚染（２）	国内外の取り組み（水俣条約・POPs条約など）
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a global scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution.

[Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ

佐々木 大輔

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境科学は人と自然の相互作用を把握し、その関係を持続的に維持・発展させるための方法論を体系化した文理融合型の学問分野である。環境科学Ⅰ・本授業を通して、環境問題の実態について正しく理解するとともに、その解決に向けた対処法について考える力を養うことを目指す。なお、Ⅰ・Ⅱのいずれかの授業のみを履修しても構わない。

環境科学Ⅰでは主に地球規模での問題について、環境科学Ⅱでは主に地域規模での問題について学ぶ。

【到達目標】

本授業では、主に地域規模での環境問題の実態について正しく理解することを目標としている。

具体的には、（１）大気環境汚染、（２）水環境汚染、（３）土壌・地下水汚染、（４）廃棄物処理について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を行う。

資料は前日までにアップロードするので、各自事前にダウンロードする。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体像と進め方について
第2回	大気環境汚染（１）	大気環境汚染の歴史と現状
第3回	大気環境汚染（２）	大気環境汚染のメカニズム、硫酸化物（SO _x ）、窒素酸化物（NO _x ）、微小粒子状物質（PM _{2.5} ）
第4回	大気環境汚染（３）	大気環境汚染への対策
第5回	水環境汚染（１）	水環境汚染の歴史と現状
第6回	水環境汚染（２）	水環境汚染のメカニズム、富栄養化、BOD、COD
第7回	水環境汚染（３）	水環境汚染への対策
第8回	土壌・地下水汚染（１）	土壌・地下水汚染の歴史と現状
第9回	土壌・地下水汚染（２）	土壌・地下水汚染のメカニズム、土壌環境基準
第10回	土壌・地下水汚染（３）	土壌・地下水汚染への対策
第11回	廃棄物処理（１）	廃棄物処理の歴史と現状
第12回	廃棄物処理（２）	日本における廃棄物の定義・区分
第13回	廃棄物処理（３）	廃棄物対策
第14回	まとめ	授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門 [第3版]』 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（30%）及び授業内に実施する期末試験（70%）の結果を基に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校卒業程度の理科の知識を前提として授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This lecture focuses on environmental issues on a regional scale.

[Learning objectives] The goal is to foster an accurate understanding of the realities of environmental issues and cultivate the ability to consider approaches for their resolution. [Learning activities outside of classroom] Students are required to spend two hours preparing for and reviewing each class.

[Grading criteria/policy] Students will be assessed based on the results of quizzes administered after each class session (30%) and a final exam conducted during class time (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論 I

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5
備考（履修条件等）：環コア：経,サ
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、PFAS（ペルフルオロアルキル化合物）に代表される残留性有機化合物やマイクロプラスチックによる水質汚染が国際的に注目されている。気候変動による豪雨や淡水の枯渇により利用できる水が減少しており、水危機の時代ともいわれている。人間は水が無いと生きていけないが、我々が日々安全で安心な水を利用するためには水源である河川や地下水を汚染しないことが重要である。日本は1960年代に水俣病に代表されるような甚大な産業公害を経験し、現在は水質保全のための法律が整備され、工場による法順守が徹底されることで公害防止が行われている。本講座では水質保全のために企業が行うべき水環境管理について学ぶ。具体的には、水質汚濁防止に関する法律、水質汚染の現状と発生源、水質汚染機構と健康影響、水の浄化技術と水質測定について学ぶ。

【到達目標】

水質汚濁防止に関連する法律や工場内における公害防止管理者の役割について理解する。工場から排出される汚染物質の種類とその処理方法について理解する。具体的には水質を管理するための指標となるBOD、COD、SS等の専門用語、凝集沈殿処理、活性汚泥法等の水処理の基本的技術の概要を理解する。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルを養う。講義内で公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練を行い、授業終段階では、水質概論及び汚水処理特論の問題を7割程度正解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

公害防止管理者試験水質1種及び2種に出題される問題が解けるレベルの水質概論、汚水処理技術及び水質測定の知識を効率的に取得するため、毎回、講師の作成したパワーポイントを用いて要点を絞った講義を行う。講義内で公害防止管理者国家試験の過去問題に挑戦することで、出題傾向を知り、解答テクニックを取得する。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公害の歴史と公害防止管理者の役割	日本の環境問題の変遷と公害防止管理者法について学ぶ。
2	水質汚濁の発生源、汚濁機構、環境影響	水質汚濁の発生源と富栄養化、赤潮発生、生物濃縮、地下水汚染等の環境影響について学ぶ。
3	水質汚濁に関連する法律	環境基本法及び水質汚濁防止法について学ぶ。
4	演習1 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（水質概論の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
5	汚水処理を学ぶための基礎知識	BOD、COD等の用語定義を学び、溶解度、酸とアルカリ、酸化還元、化学反応、錯体とキレート等の化学の基礎を復習する。

6	汚水処理1 排水処理計画、沈降分離	工場における水利用の考え方について学ぶ、排水の基本処理である沈殿分離について理解する。
7	汚水処理2 凝集分離と浮上分離	凝集分離及び浮上分離の原理と装置構成を学ぶ。
8	汚水処理3 ろ過分離、化学処理	砂ろ過の機構、中和、酸化還元、活性炭吸着等の各種物理・化学処理について学ぶ。
9	汚水処理4 生物処理法（活性汚泥法）	生物処理法の概要、活性汚泥法の原理や装置について学ぶ。
10	汚水処理5 生物処理法（嫌気処理法）	嫌気処理法の原理や装置について学ぶ。
11	汚水処理6 窒素及びリンの処理、汚泥の脱水	生物処理による脱硝脱窒方法およびリン除去技術、汚泥の脱水技術について学ぶ。
12	演習2 公害防止管理者試験の演習	公害防止管理者試験の過去問題（汚水処理技術の範囲）の演習を行う。出題傾向と対策について講義する。
13	水質測定	公害防止管理者試験に出題される、BOD及びCOD等の水質測定項目に的を絞って学ぶ。
14	期末テスト	本講座で学んだ、法律および排水処理、水質測定に関連する問題に関する理解度を確認するテストを行う。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義で配布するパワーポイントを講義前に学習支援システムにアップするので、ダウンロードして予習する。「新・公害防止技術と法規（水質編）」のテキストで講義に関連する箇所を予習、復習する。授業の予習は1時間、復習も2時間程度行うこと。

【テキスト（教科書）】

基本的に講義毎にパワーポイントの資料を配布する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（水質編） （一社）産業環境管理協会 出版

【成績評価の方法と基準】

演習の講義で小テストを行う。その点数を20点満点とする。期末テストは80点満点とする。課題と期末テストの合計（100点満点）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

排水処理技術は化学式や計算が多く出てくるため、化学知識がゼロベースの学生にも分かりやすく、基礎から教えるよう心掛ける。講義内で大学教養レベルの化学の基礎知識について適宜、復習する。文系の学生にも興味を持ってもらえるよう、近年の水質汚染が社会に与える影響なども交えて講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

講師は中国及びタイ、カンボジア、ミャンマー、カンボジア等の東南アジアにおいて、公害防止管理者制度及び公害防止技術の移転事業に18年携わっており、さらに、水質測定の日本産業標準規格（JIS）及びISO（国際標準化機構）において水質測定関連の規格開発を長年行っている。これらの経験を活かし、学生には、国内だけでなく、国際的視点で水質汚濁問題をとらえるような講義を行う。関連資格は公害防止管理者資格（水質）、関連する科目は環境法規、環境ビジネスなどである。

【Outline (in English)】

In recent years, water pollution by persistent organic compounds represented such as PFAS (perfluoroalkyl compounds) and microplastics has attracted international attention. Heavy rainfall and the depletion of fresh water due to climate change have reduced the amount of available water, and we are said to be in an era of water crisis. Humans cannot live without water, but in order for us to use safe and secure water on a daily basis, it is important not to pollute rivers and groundwater, which are the sources of water. Japan experienced enormous industrial pollution in the 1960s, as exemplified by Minamata disease, and now laws have been established to protect water quality, and pollution is being prevented through thorough compliance with the law by factories. In this course, students learn about water environment management that companies should implement to protect water quality. Specifically, students learn about laws related to water pollution control, the current status and sources of water pollution, water pollution mechanisms and health effects, water purification techniques, and water quality measurement.

The evaluation for this course is as follows: Students should perform a report assignment. Submission of the assignment can be worth a maximum of 20 points. The final exam is worth a maximum of 80 points. The grade will be based on the sum of the assignments and the final exam. You should spend about one hour preparing for class and two hours reviewing.

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位
開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：環コア：経,サ
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を抑制、管理するための関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業のESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題（その1）	気候変動とエネルギー問題、環境関連の国際的な取組について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題（その2）	国内の大気の状態について、環境基準の達成率やPM2.5及び光化学オキシダント生成、水銀排出等の問題について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。

第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第6回	アクティブラーニング 課題1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第7回	燃焼管理技術	カーボンニュートラル達成のための新技術について触れながら、日本のエネルギー事情について学ぶ。また、燃料の種類や効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第10回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第11回	アクティブラーニング 課題2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第12回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第13回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第14回	期末テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味をもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各2時間とする。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
レポート2回の評価 各20(%)×2 期末テスト60(%)

【学生の意見等からの気づき】
化学式や数式が出てくると、難しく感じるなどの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で配布した資料

【その他の重要事項】
担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を10年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】
サステナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】
Course outline：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

- To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.
- To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.
- To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.
- To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SEE300HA（科学教育・（教育工学） / Science education/ Educational technology 300)

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。
今年度は特に「自然とかかわる環境教育（自然体験）」がテーマです。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境問題および環境教育・ESDを「自分とは無関係な知識」ではなく、自らの立場・経験・価値観と結びつけて捉え、批判的かつ建設的に評価できる力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業形態は、講義のほか参加型（グループワークなど）を行う。詳細は、授業支援システムで連絡する。
リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と導入
第2回	環境教育の基礎（講義）	環境教育についての基礎（定義・歴史・特徴および実践事例）
第3回	環境教育の変遷～知識教授から参加体験型へ	環境教育は、なぜ知識教授だけでなく参加体験型の方法をとるのか？
第4回	環境教育の実践例ー自然体験学習	自然とかかわりや自然を守る環境教育の事例を学ぶ
第5回	持続可能な開発のための教育（ESD）	持続可能な開発のための教育について解説 最近の環境教育の特徴を紹介
第6回	環境教育を「評価する視点」	良い環境教育とは何か、環境教育を評価するとはどういうことか考える
第7回	中間課題準備：環境教育施設を調べよう	環境教育施設を調べ、訪問し、発表の準備を行います
第8回	中間課題発表	第7回までに調べた環境教育施設について発表（プレゼン）を行う
第9回	環境教育を深める・1～持続可能な開発と環境正義	環境教育への理解を発展させる キー概念を学ぶ

第10回	ゲストスピーク「地域で取り組む環境教育の事例」	地域に根差した環境教育の意義や可能性を学ぶ
第11回	ソーシャルアクションワークショップ	環境問題を解決するアクション（行動）について考える
第12回	環境教育を深める～子どもの権利の視点から	子どもの権利の視点から、環境教育をとらえなおす
第13回	環境教育を深める～自然学校の事例から	教育と地域の持続可能性について実践事例を通じて考える
第14回	まとめ・論述試験	これまでの学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。
環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず授業内で資料を適宜配布・紹介する

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
『知る・わかる・伝えるSDGsⅠ』、阿部治・野田恵編著、学文社
『知る・わかる・伝えるSDGsⅡ』阿部治、二ノ宮リムさち編著、学文社
『子ども白書2024』子どもを守る会編、かもがわ出版

【成績評価の方法と基準】

詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

・平常点：授業参加度、学習状況、授業内小テスト（5％×10回＝50％）

※授業内で、毎回（第6、7、8、14回は除く）コメントペーパー又は小課題を出します

・中間課題：環境教育施設を訪問しレポート、授業内（第8回）で発表する（35％）

※課題の内容と発表方法は、授業内で詳しくお知らせします

・最終論述テスト：第14回に、授業内で論述試験を行います。（15％）

※持ち込み可、スマホPC使用不可

授業のねらいが「自分なりの考えを持つこと」なので、生成AIの使用防止のため

対面授業内で論述試験に取り組む

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評だったので、引き続き取り入れる。課題が多かった、文字制限が厳しかったという意見があったので改善する。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。
資料やお知らせは、WebClass経由で配布します。授業時間中にアクセスできるようにパソコンやスマホ・タブレットなども機器を準備してください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (35%), term-end examination (15%), and in-class contribution with comment sheet.

PHL200HA（哲学 / Philosophy 200）

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想（個人の自由と反差別）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑十次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義（1）	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（i）
第3回	個人の自由と反植民地主義（2）	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトルの思想（1）：『存在と無』と『嘔吐』を中心に（ii）
第4回	個人の自由と反植民地主義（3）	ライシテとフランス現代社会（i）
第5回	個人の自由と反植民地主義（4）	ライシテとフランス現代社会（ii）

第6回	個人の自由と反植民地主義（5）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（a）
第7回	個人の自由と反植民地主義（6）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（b）
第8回	個人の自由と反植民地主義（7）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（b）
第9回	個人の自由と反植民地主義（8）	実存と人種差別・植民地主義の問題（I）——ジャン＝ポール・サルトルの思想（2）：『ユダヤ人問題』、『黒いオルフェ』、『植民地主義は一つの体制である』を中心に（c）
第10回	個人の自由と反植民地主義（9）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（a）
第11回	個人の自由と反植民地主義（10）	実存と人種差別・植民地主義の問題（II）——フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に（b）
第12回	実存とフェミニズム（1）	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（a）
第13回	実存とフェミニズム（2）	実存・フェミニズム・老い——シモーヌ・ド・ボーヴォワールの思想（1）：『第二の性』、『おだやかな死』、『老い』を中心に（b）
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史I）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（「規律と権力」、「記憶のエチカ、歴史のエチカ」）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期については、前半はミシェル・フーコーの思想を中心に、規律と権力の関係について考察します。後半は、私たちが、「記憶」と「歴史」をめぐる、過去の出来事を語るときにどのようなかたちで語るのか？、また、無数ある出来事と記憶とのどのような関係をもつのか？ などについて討究します。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第3回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（1）
第4回	権力と規律社会（3）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に（2）
第6回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバールの市民権論
第7回	記憶と語り	長崎原爆の言説の変遷

第7回	全体主義批判と人間性の問題（1）	フランク・パプロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』などを中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題（2）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅰ）
第9回	全体主義批判と人間性の問題（3）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅱ）
第10回	全体主義批判と人間性の問題（4）	語りえぬものを語る——『ショアー』と表象の限界（Ⅲ）
第11回	全体主義批判と人間性の問題（5）	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』、『エルサレムのアイヒマン』
第12回	全体主義批判と人間性の問題（6）	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』
第13回	歴史的建造物の修復	ヴィオレ＝ル＝デュクの仕事
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

進捗と学生の理解度、双方を勘案して、シラバスの授業計画通りに進められるようにする。

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100 %

EDU100MA（教育学 / Education 100）		
発達・教育キャリア入門A		
遠藤 野ゆり		
単位数：2単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4 配当年次：1～4年 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞ 授業コード：C5018 科目名：発達・教育キャリア入門A ＜2024年度以前入学者＞ 授業コード：C5018 科目名：発達・教育キャリア入門A ※入学年度によらず同科目名称 その他属性：＜S＞		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。		
【到達目標】 発達・教育に関する10のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。 自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。 自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 授業は原則を対面としつつ、対面での授業に参加できない学生には、6回まで、オンラインでの参加を認めます。対面での参加回数が不足している場合、課題等の成績のいかにを問わず、単位取得要件を満たしません。 本授業では10の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第1節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える観点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。 講義形式をとりつつ授業内でのグループワークが毎回あります。課題等については、授業内で一部の意見を上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、課題の設定、テキスト、オンライン受講の方法等について説明する。授業実施の詳細（オンラインへのアクセスの仕方など）はHoppiiに記載する。
第2回	枠組みとしてのあたりまえ テキスト序章	「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
第3回	家族の形 テキスト第1章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
第4回	家庭教育 テキスト第2章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
第5回	児童虐待 テキスト第3章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識的見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
第6回	つながり孤独 テキスト第4章	若者のSNSの問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
第7回	いじめ テキスト第5章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。
第8回	恋愛 テキスト第6章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
第9回	カウンセリング テキスト第7章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
第10回	不登校 テキスト第8章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
第11回	発達障害 テキスト第9章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
第12回	キャリア教育 テキスト第10章	おとなになることは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
第13回	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ
第14回	授業全体のふりかえり・評価	本講義を通して何を考えてきたのかを再検討し、学んだ内容の確認、今後の課題の設定を行う。また習得状況の確認を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 テキストはすべて1章が3節構成になっています。各章の第1節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 遠藤野ゆり・大塚類（2020）『さらにあたりまえを疑え！ 臨床教育学2』新曜社		
【参考書】 適宜指示します。		
【成績評価の方法と基準】 毎回の課題39%、期末課題（試験）61%（受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。）		
【学生の意見等からの気づき】 オンラインで参加した場合に音声聞き取りにくいとのことでしたので、マイクの使用など、音声システムを工夫するようにします。ただし、対面授業を原則としており、オンラインで受講した場合の音質等には一定の限界があることを了解してください。		
【学生が準備すべき機器他】 授業内でログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンやPCなどの機器を持参してください（事前に連絡します）		

原則対面の授業ですが、体調不良等に対応するため、6回まで、オンラインでも受講可能とします。その場合にオンライン環境は学生さん自身で整えてください。また、講義室のオンライン環境には限界があり、対面のような音質は確保できないことをあらかじめご了承ください。

教員の事情により対面授業の予定がオンラインに変更することもあります。その場合に対面出席回数が不足しないように注意してください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて内容の調整をすることがあります。

【Outline (in English)】

Course outline: We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

Learning Objectives: The goal is to acquire basic knowledge about 10 topics related to development and education and, also, to understand how they usually think within the "natural framework" and explore their roots. For this goal, this class will cover 10 educational issues (topics). Students are required to prepare for the basic knowledge in Section 1 of each textbook before attending the class. Every class a quiz to measure the acquisition rate of basic knowledge is held. In the class, a viewpoint that overcomes the natural framework and reconsider the knowledge that we have prepared is showed.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) :

Learning activities outside of classroom: all textbook chapters are composed of three chapters. Section 1 of each chapter contains all the basic knowledge for learning that unit. Due to class time, basic knowledge is a preparatory task and a weekly test is conducted. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: 39%=quiz in each class, 61 %=term-end exam. (The grading criteria way may be changed according to the student's requests)

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ライフコース論

百瀬 由璃絵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5034

科目名：ライフコース論

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5034

科目名：ライフコース論

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：＜優＞＜S＞

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個々人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、個々人の人生の様々な段階における経験や選択が、その後のキャリアや生活にどのように影響するのかを理解するための基礎的な知識を獲得します。特に、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに注目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めます。それとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチ方法についても理解し、活用できるようにします。これにより、経営戦略論やキャリア開発論などのほかの理論の基盤となる知識を学んでいきます。個々人がどのようにして職業上のスキルや知識を習得し、キャリアを構築していくのかといったキャリア開発を考えるうえで、個々のライフステージやキャリアを考慮することが可能となります。また、従業員が人生の各段階で異なるニーズや価値観を持つことを理解することは、企業にとって、従業員のライフステージに応じた働き方や人材の最適な配置などの経営戦略を考えるうえでも重要です。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義を中心に進めますが、グループディスカッションや発表、適宜ミニレポート等を書くことにより、出席を確認することもあります。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
第2回	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
第3回	ライフコース論の基礎	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法

第4回	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
第5回	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
第6回	社会変動とライフコース	社会変動がライフコースに及ぼす影響
第7回	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
第8回	成人期・家族形成	家族の形成(結婚)、結婚をめぐる変化、国際比較
第9回	成人期：出産、子育て	出産行動の変化とその背景、課題、少子化について
第10回	働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
第11回	女性のライフコース	女性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第12回	男性のライフコース	男性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
第13回	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は適宜配布する予定ですが、授業前に文献講読（英語を含む）などを求めることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】

グレン・H・エルダー, Jr., ジャネット・Z・ジール編著・登張真穂ほか訳(2013)『ライフコース研究の技法－多様でダイナミックな人生を捉えるために』明石書店。

武石恵美子(2023)『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う(第2版)』中央経済社。

Buchmann, M. (1989). The script of life in modern society. Entry into adulthood in a changing world. Chicago, Ill.: University of Chicago Press.

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、試験結果と授業出席内容で行います。出席内容(ミニレポート形式、内容も重視する)は平常点として50%、期末試験50%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

EDU200MA（教育学 / Education 200）

臨床教育学

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。
実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義科目であり、オンラインと対面との組み合わせで進める。
オンラインでは、知識習得を目的とし、映像学習に加えて自身の調べ学習が含まれる。
対面時は、毎回グループワークがある。グループワークに参加することを単位履修の必須要件とする。またグループワークのために事前に課題を課すことがある。
オンラインと対面にかかわらず、毎回授業後に提出課題がある。課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
第2回	学校内の人間関係 （事例検討）	共通の場所にいるように見えて学校という空間およびその人間関係の見え方は立場によって大きな違いがある。映像資料をもとに立場ごとに学校経験にどのような違いがあるのかを考える。
第3回	若者の人間関係形成の力学とその変化 （講義）	「スクールカースト」「キャラ化」などの「若者論」の展開について学び、世代ごとの「若者」がその後どのようなキャリアに向かっていくのかを歴史的に追っていく。

第4回	教室空間と感覚過敏 （事例検討）	不登校の原因の一つとして、視線恐怖などの社交不安障害や、感覚過敏などの発達障害がある。当事者の空間感覚を映像や文章から読み取る。
第5回	認知特性と空間環境 が不登校等の学校適 応に及ぼす影響（講 義）	認知特性の構造や影響を理解し、学校適応の条件を捉える。また、不登校に関する近年の傾向をデータから読み取る。
第6回	ヤング・ケアラー （事例検討）	経済的な貧困に加え家族のケアを子どもながら担う人はどのような人生観を抱くのかをインタビューデータから読み取る。
第7回	貧困と社会関係資本 （講義科目）	家計が学力に与える影響と、その後のキャリアに与える影響とを、様々なデータから読み取る。
第8回	過保護がキャリアに 与える影響（事例検 討）	過保護な環境で育つことの功罪についてインタビュー調査から読み取る。
第9回	文化資本と教育虐待 （講義）	教育に正の影響を与えるときみなされやすい文化資本の高さがキャリアに与える影響と教育虐待との関係についてデータから読み取る。
第10回	受験がキャリアに及 ぼす影響（事例検討）	思春期に大きな影響を及ぼす「受験」に関する事例を検討する。
第11回	地方・複線系学校シ ステム・カリキュラ ム（講義）	都市部と地方における受験の違いや、進学校と進路多様校のカリキュラムの違いから、受験がキャリアに与える影響を捉える。
第12回	学歴がキャリアに及 ぼす影響（事例検討）	学歴に翻弄された人生の事例を検討する
第13回	日本と海外における 学歴の意味の違い （講義）	学歴がキャリアに与える影響を国際比較して捉える。
第14回	総括・ふりかえり	本講義全体を通して学校がキャリアに与える影響を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
特にありません。必要に応じて講義内で配布します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の事後課題39%、対面授業におけるグループワークの成果18%、期末テスト43%

【学生の意見等からの気づき】
グループワーク時には学生間の意見交換が深まるようにプログラムを組みます。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業時は、パソコン（タブレット可）を持参してください。大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
受講生の興味関心に応じて授業のテーマは変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

Learning Objectives: Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.

Learning activities outside of classroom :

You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Group work results in class: 18%, post-work assignments: 39%, final exam: 43%.

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画等の変更等に関する連絡は授業中もしくは学習支援システムの「タイムライン」を主に使用します。
- ・提出されたレポートについては、必要に応じて類似性や剽窃、AIの誤用なども意識しながらチェックします。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

(Goal)

- 1, Understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.
2. Students develop their learning ability (academic skills) by investigating, discussing and presenting based on the information provided.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write.

(Grading Criteria /Policy)

Active participation and contribution, submission of reports:
70%

Final Report: 30%

EDU200MA（教育学 / Education 200）

格差社会の家族と教育

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態について扱う。

2000年代以降、格差や貧困の問題が重要な社会問題としてクローズアップされるようになっていく。この授業では、データで格差や貧困の現状を捉えることから始め、格差や貧困が家族関係や子どもの発達、進路選択、キャリア形成に及ぼす影響を学び、格差・貧困の是正にむけて、（学校）教育は何ができるかについて考える。社会的な不平等について、家族と教育に焦点をあてて考える基礎的な科目である。

【到達目標】

- ①今日の格差社会における家族の生活、子育て、教育の実態に関する知識を獲得し、格差は正に向けた自身の意見を持つ。
- ②他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
- ③適切な官公庁統計データを探し、利用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面による講義とグループワークを用いる。資料配布は学修支援システムを通じて行うので、各自でダウンロードしたりプリントしたりすること。専門用語を用いるので、リアクションペーパーを通じて理解度の把握に努める。またフィードバックを授業内で丁寧に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	導入として、格差と不平等をテーマに据える意義について述べる。授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第2回	データで見る格差社会	貧困、格差、家族、地域、文化、機会
第3回	家族になることと格差	結婚、経済力、夫婦関係
第4回	子育てと格差	子どもの貧困、時間的貧困、家庭教育、食育、保育園という選択
第5回	グループワーク①	1000人の中学生の進路選択
第6回	進路選択と格差	トラッキング、学歴、ペアレントクラシー
第7回	貧困と学校	学校生活、体験、アイデンティティ、進路選択
第8回	学校の役割	反貧困教育、学校の荒れと国語学力、福祉と教育、部活動の意義
第9回	差異化と教育	家庭教育の格差、教育を用いた差異化戦略、「お受験」、留学
第10回	グループワーク②	四年制大学進学と格差
第11回	地域移動と格差	地域移動できる人、できない人、親子関係、ジェンダー

第12回	大人になることと格差	学校から職業への移行、子ども期から大人への移行、ヤングケアラー
第13回	格差の是正に向けて	教育費負担、所得の再配分、学校教育の見直し、「能力」再考
第14回	試験と全体の振り返り	授業内試験を実施するとともに、全体の授業の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎的な知識を扱う科目なので、知識の定着を求める。グループワーク課題によっては、授業時間外の予習を求めることがある。その場合、事前に指定された準備をしないグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。フィードバックについて、次の授業の初めにリアクションペーパーやミニ課題のいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
配布資料中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワーク課題40%、最終試験60%。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course covers the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality. Learning Objectives:
(1) Acquire knowledge about the realities of family life, child-rearing, and education in today's society with inequality, and develop personal opinions on how to reduce this disparity.
(2) To be able to utilize group work in collaboration with others as an opportunity for learning.
(3) To be able to search for appropriate government statistics, understand their contents, and use them.
Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.
Grading Criteria: Group Work Assignments: 40%, Final Exam: 60%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

成人学習のデザイン（生涯学習支援論Ⅱ）

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水1/Wed.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育における実践的な学習プログラムの作成手法や作成の際に必要な視点について解説し、それらの知識を活用して、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案作成のグループワークを行う。

(授業の目的・意義)

グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは社会教育における学習支援者に求められる実践知（理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力）を体得する。

【到達目標】

社会教育における様々な学習支援技法を活用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして、地域社会の背景を踏まえた学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、学習プログラム作成の基本的な手法を学んだうえで、既存の学習プログラム（公民館などの社会教育施設が実際に実施した講座）を学生が検討し、学習プログラムに対する批評眼を養う。

これらを踏まえて、具体的な自治体／地域を想定して、グループワークで学習プログラム案（対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案）を作成する。

作成した学習プログラム案については、教員、ゲストコメンテーター（社会教育施設職員）からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人でより改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの成果に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会教育における学習プログラムとは	社会教育における学習プログラムの特色について概観する
第2回	学習プログラム作成の現場から（ゲストスピーカー講義）	ゲストスピーカー（社会教育施設職員）から学習プログラム作成、実施、評価の実際について、情報提供していただく。
第3回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第4回	学習プログラム作成の基本的な手法②	地域社会の特性・課題把握、自治体社会教育計画との関連性、学習成果活用との関連性、広報の手法、調査データ活用、評価手法、など学習プログラムの企画・実施・評価に必要な構成要素について詳細に解説する。

第5回	学習プログラムの実例検討①	社会教育施設等における既存の学習プログラムを各受講者が選定しその詳細を調査する。
第6回	学習プログラムの実例検討②	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの意義について発表し、質疑応答を行う。
第7回	学習プログラムの実例検討③	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの改善すべき点について発表し、質疑応答を行う。
第8回	地域課題の把握	任意の地域（市町村など）を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について個人レポートの発表を通じて把握する。
第9回	学習プログラム案の作成①	任意の地域を対象とした個人レポートの成果を基に、グループに分かれて一つの地域を選定し、地域社会の課題について、またその課題を背景とした学習プログラムの目的・概要を作成する。
第10回	学習プログラム案の作成②	グループ毎に、学習プログラム各回実施内容の詳細、学習成果活用の方向性、広報手法等に関する案を作成する。
第11回	学習プログラム案の作成③	グループ毎に、学習プログラムの受講者アンケート案、評価方法に関する案を作成する。
第12回	学習プログラム案の発表①	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表する。
第13回	学習プログラム案の発表②	グループ毎の学習プログラム案について、学生間の質疑応答や社会教育施設職員（ゲストコメンテーター）を通じてその意義と課題を論じる。
第14回	学習プログラム案の振り返り	グループ毎に学習プログラム案の作成プロセスを振り返り、改善すべきポイントを明確化する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（清國祐二編集代表）『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

【成績評価の方法と基準】

各回のコメントシート 30 %
グループワークへの貢献度 20 %
個人発表・グループ発表 25 %
全体でのディスカッションへの貢献度 15 %
学習プログラムの改善案（最終の個人レポート） 10 %

【学生の意見等からの気づき】

受講者数によってグループワーク、発表、質疑応答にかかる時間が大きく変化する授業である。例年受講者数がかかなり変動するので、スケジュール、タイムテーブルについては、学生数に応じてある程度柔軟に対応できるよう心がけたい。また、後半のグループワークについて学生からの要望をうけて、グループワーク開始の際の工夫、またグループワーク実施回数増を予定している。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（グループワーク等で使用）

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第 11 条に規定された「生涯学習支援論」に該当します。社会教育主事任用資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目です。

【Outline (in English)】**(Course Outline)**

The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for planning learning programs in social education, and to supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

Submission of comment sheets: 30%

Contribution to group work: 20%

Individual presentation and group presentation: 25%

Contribution to discussion in class: 15%

Term-end report: 10 %

PSY200MA（心理学 / Psychology 200）

産業・組織心理学Ⅰ

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5066

科目名：組織行動論Ⅰ

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5066

科目名：組織行動論Ⅰ

※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別の関係性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由

第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人の間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編

『よくわかる産業・組織心理学』 2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 80%

授業内で実施するリアクションペーパー 20%

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業についての学生からの感想・質問を参照して、テーマについての補足ならびに解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short reports :20%

ECN200MA（経済学 / Economics 200）

仕事の経済学

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

ビジネスキャリアに関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、（１）テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。（２）その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。（１）はオンライン、（２）はオンラインでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第2回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第3回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第4回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第5回	現場主義の改善活動の理論と実証	第4回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第6回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説。
第7回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第6回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第8回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。

第9回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第10回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わっちゃんいけどやめられねえ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第11回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第12回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第13回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第14回	様々なキャリア	最終回のみ、振り返りと復習確認のために、オンライン・オンデマンドで行います。今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特に要りませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梅崎修・松繁寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内作業(40%)と学期末のレポート(60%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学の理論を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

PSY300MA (心理学 / Psychology 300)

産業・組織心理学Ⅱ

今城 志保

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3～4
 2024年度以前入学者：2～4年
 備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ＜2024年度以前入学者＞
 授業コード：C5110
 科目名：産業・組織心理学Ⅱ
 ※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を考えられるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で、学んだ概念を用いることができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。授業の中で、オンラインのアンケートフォームを用いて、概念の確認や自分の考えを深めるために、数項目の質問に回答していただきます。回答内容については、適宜次の授業の中で、フィードバックを行います。また、アンケートフォームでは任意の質問を記入できますので、そこに質問が記入された場合は、翌授業回の冒頭に、全体に対して回答を行います。7回目か8回目の授業で、グループ課題をお知らせします。グループ課題は、原則授業外の時間を使って進めていただきます。最終日に、グループ課題をまとめたレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリアに関する主な理論を学びます
第3回	キャリアを理解する②	日本企業のホワイトカラーのこれまでの典型的なキャリアと今後の可能性について考えます
第4回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第5回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第6回	ダイバーシティ①	ダイバーシティに関する理論や研究知見を紹介します

第7回	ダイバーシティ②	比較文化心理学の知見を用いて、文化の異なる人とともに働くことについて考えます
第8回	ダイバーシティ③	女性のキャリアについて考えます
第9回	ダイバーシティ④	高齢者就労について考えます
第10回	職場の学習・職場以外の学習①	大人の学びについて考えます
第11回	職場の学習・職場以外の学習②	企業における研修や能力開発について、紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習③	経験学習について考えます
第13回	予備	上記の授業での積み残しや遅れを回収するための時間にあてます
第14回	グループ課題の発表	各グループから口頭で、グループ課題について、報告していただきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫
 外島 裕・田中 堅一郎 産業・組織心理学エッセンシャルズ 2019
 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中のアンケートで60％、グループ課題で作成したレポートとその発表の評価を40％とします。なお、グループ課題については、自身と他のメンバーの課題への貢献度合いを申告してもらい、それを加味したうえで、グループ課題の評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

Students will study major topics in industrial/organizational psychology. Psychology II will focus specifically on career-related areas and human resource management.

The three objectives of this class are as follows.

- (1) To understand the main concepts of industrial/organizational psychology and to be able to think about various organizational problems using these concepts.
- (2) To be able to understand the impact of various HR practices on employees.
- (3) To be able to use the concepts learned in considering one's own career.

Take an interest in the environment surrounding our careers. Read widely newspaper and magazine articles on careers, "working," and "human resource management." Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The evaluation will be based on a questionnaire given in each class (60%) and a report and presentation on a group assignment (40%). For group assignments, I will ask each student to report the degree of their own and other members' contribution to the assignment, which will be taken into account in the evaluation of the group assignment.

MAN300MA（経営学 / Management 300）

キャリア開発論

高崎 美佐

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2025年度以降入学者：3
～4 2024年度以前入学者：2～4年
備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞
授業コード：C5111
科目名：キャリア開発論
＜2024年度以前入学者＞
授業コード：C5111
科目名：キャリア開発論
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、キャリアに関する理論の基礎を学びつつ、企業側の人材開発（HRD）や人事管理のメカニズムの中で、個人のキャリアがどのように開発・形成されるのかを考えます。「会社に入れば一生安泰」という時代は終わり、「人生100年」となり、働く期間は長期化しています。
そういった環境の変化の中で、従来のように組織にキャリアをゆだねるだけでなく、自律的にキャリアを形成していくことが求められるようになってきています。
本講義では、個人のキャリアという視点だけでなく、社会や雇用の仕組みとともに学ぶことで、より実態に即したキャリア開発の視点を身に付けることを目指します。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。
①キャリアに関する基礎的な理論や知識の習得し、働くことと関連させて考えられる
②個人のキャリア開発においての日本型雇用システムのメリットとデメリットを説明できる
③個人のキャリア開発に関する課題を発見し、それをマネジメントし解決する方法がわかる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発関連した理論等の概説や講義を中心に進めますが、ディスカッションや発表も取り入れることがあります。授業中にミニレポートを書いていただく等によって出席確認をします。ミニレポートの内容は、授業中などに全体に対してフィードバックすることがあります。
使用する資料等は、「学習支援システム」において事前に提供します。授業に出席する際には、事前に目を通し、必要に応じてご自身で準備をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション。 キャリア開発と人材開発	講義の進め方と評価方法を理解する。キャリア開発と人材開発の違いを学ぶ。（テキスト第1章）
第2回	キャリア開発に関する理論	主要なキャリア理論を学ぶ。（テキスト第1章）

第3回	日本型雇用と個人のキャリア	日本型雇用の特徴を把握し、個人のキャリア開発への影響を考える。キャリア開発の主体についての考え方を整理する。（テキスト第2・3章）
第4回	キャリア自律	キャリア自律の考え方について学び、支える仕組みについて知る。（テキスト第4章）
第5回	大学から社会への移行	大学までの学びと就職後のキャリア形成について学ぶ
第6回	ライフイベントとキャリア	結婚・出産等の転機と、キャリア継続の課題を整理する（テキスト第8章）
第7回	仕事と生活の両立とキャリア	仕事と生活の両立によってキャリア継続を支える法制度や、企業の具体的な支援策を理解する。（テキスト第9・10章）
第8回	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題について考える。（テキスト第7章）
第9回	多様な人材を活かす	多様な人材を活かす、ダイバーシティ経営について学ぶ。（テキスト第5章）
第10回	正社員の多元化とそのキャリア	正社員の働き方の現状、限定正社員等多元化の動向、勤務地政策の現状について学ぶ。（テキスト第9章）
第11回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題を知る。（テキスト第11章）
第12回	管理職と専門職	組織内での昇進や、専門性を追求するキャリアの存在とその違いを理解する。
第13回	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処について知る（テキスト第12章）
第14回	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前にテキスト（教科書）や資料に目を通して授業に臨んでください。また、キャリア開発に関する企業事例やトピックスの収集も行ってください。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（第2版）』（中央経済社）です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果60％と、平常点（授業への主体的な参加、ミニレポート等の提出やその内容）40％で行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】

各回の内容は、進捗状況などに応じて、変更・調整する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The learning objectives for this course are as follows:

- ① Acquire fundamental theories and knowledge about careers and be able to relate them to working life
- ② Explain the advantages and disadvantages of the Japanese employment system in the context of individual career development
- ③ Identify challenges in individual career development and understand methods to manage and resolve them

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

SOS300MA（その他の社会科学 / Social science 300）

職業キャリア政策論

岩月 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する国際比較を含む情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討や国際比較の観点を通じて、今後の職業キャリアに向けての気づきや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ①初回はオンライン型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
- ②毎回学習支援システムに授業の資料（PDFファイル）を、授業前にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していただくか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
- ③オンライン型の回については、ZoomのURLを学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の5分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは2回程度の提出を予定しています。
- ⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
- ⑥受講の状況などによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（同時双方向型）	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第2回	日本的雇用システムと職業	①日本的雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第3回	賃金制度と職業	①賃金制度の仕組み ②国際比較
第4回	仕事の仕組みと職業	①仕事の仕組み ②国際比較 ③課題レポート1の説明
第5回	労働時間制度と職業	①労働時間制度の類型 ②実態と課題

第6回	AI活用と職業	①影響を受ける職業 ②AI導入後の変化 ③国際比較
第7回	若年者と職業	①採用 ②離職 ③世代間の相違
第8回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える
第9回	高齢者と職業	①定年、継続雇用 ②人的資源管理
第10回	ダイバーシティと職業	①雇用類型 ②技能実習制度 ③特定技能制度
第11回	職業人の講話～公共的職業を事例として	①職業人の講話 ②意見交換
第12回	職業の国際比較①～米国教員を事例として	①米国教員の報酬制度 ②米国教員の労使関係
第13回	職業の国際比較②～日本教員を事例として	①日本教員の報酬制度 ②日本教員の労使関係 ③課題レポート2の説明
第14回	授業の振り返り	①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーの提出を求めます。

また、課題レポート（1500字程度で2回提出を想定）については、授業時間外で作成いただくことになります。

本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業前に学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じてご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート2本（各30%、計60%）、確認テスト・リアクションペーパーおよび質問・意見交換（40%）で評価します。

課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティといった内容面および見出し・段落設定といった様式面を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかは評価対象とします）。

課題レポートは必ず期限までにご提出いただきますようお願いいたします（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。

また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換に積極的にご参加ください。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.
< Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

MAN200MA（経営学 / Management 200）

就業機会とキャリア特講E-働く
ことと労働組合-

上西 充子、梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5298

科目名：就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-
※入学年度によらず同一授業コード・科目名称

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオン(労働組合) リーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。
企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認し、資料を準備して授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	【オリエンテーション】 労働組合とは何か	担当教員から授業の導入を行い、「労働組合とは何か」を理解する
第2回	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 (2025年度ゲストは教育文化協会)
第3回	【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。(2025年度ゲストは生保労連)
第4回	【ケーススタディ②】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらう。(2025度ゲストは伊藤ハム米久労働組合)
第5回	【ケーススタディ③】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差は正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 (2025度ゲストは自治労)
第6回	【ケーススタディ④】 デジタル化の進展に伴う課題と労働組合の役割	AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 (2025年度ゲストはKDDI労働組合)
第7回	【ケーススタディ⑤】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 (2025年度ゲストは全労金)

第8回	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取 り組み	技術革新やグローバル化が進む 中、労働組合はどのように働く 者の雇用と生活を守るのか。サ ブライヤーを多く抱える中小企 業労組が働く者の労働条件改善 に向けてどのような取り組みを 実施しているのか、事例を聞き、 理解してもらう。 またJAMで働く若手職員との グループディスカッションを通 じて、現場の実態について理解 を深める。(2025年度ゲストは JAM。若手職員を含めたグルー プディスカッションあり)。
第9回	【課題への対応①】 いま働く現場で何が 起きているのか ～労働相談からみた 若者雇用の現状～	若者に関わる労働相談事例等か らいま職場で起きている問題を 身近なものとして捉えてもら うとともに、それらの解決に向 けた労働組合の役割とワークル ールの重要性について理解して もらう。(2025年度ゲストは連 合総合組織局)
第10回	【課題への対応②】 働諸条件の維持・向 上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件 の維持・向上に向けて、どのよ うに取り組んでいるのか。なか でも代表的な取り組みとして挙 げられる「春闘」は、なぜ同時 期に全国一斉に行うのか。連合 の取り組みを聴き、学生に理解 してもらう。(2025年度ゲスト は連合 労働条件・中小地域対 策局)
第11回	【課題への対応③】 あらゆるハラスメン トの根絶に向けた労 働組合の取り組み	セクハラ・パワハラをはじめと するあらゆるハラスメントは人 権をも脅かす重大な問題であり、 誰もがいきいきと働き続けられ る社会の実現に向けてはあらゆる ハラスメントの根絶が必要不 可欠である。あらゆるハラスメ ントの根絶に向けて労働組合が どのような取り組みを実施して いるのか、連合もしくは産別の 取り組みを聞き、その重要性を 理解してもらう。(2025年度ゲ ストは連合 ジェンダー平等・ 多様性推進局)
第12回	【課題への対応④】 国際労働運動の役割 ～グローバルゼー ションへの対応～	進行するグローバル化に 労働組合はどのように対応し ているのか。国際労働機関の役 割や、多国籍企業問題に対する 取り組み、国内だけでは解決で きない課題に対する労働組合の 国際的な役割・取り組みについ て考えてもらう。(2025年度ゲ ストはITUC)
第13回	【修了講義】 連合運動の現在と 未来 ～これから社会へ出 る皆さんへ～	すべての働く者が安心してくら すことができる社会の実現に向 けて、連合・労働組合は何をす べきか。連合の課題認識を聴い て、これからの社会や働き方、 連合運動の役割について具体的 に考えてもらう。(2025年度ゲ ストは連合事務局)
第14回	【論点整理】 「働くということ」と 労働組合	担当教員が、ケーススタディー を振り返り、それぞれの課題と 労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会
社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業
の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメント内容含む）が50％、レポートが50％。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【その他の重要事項】

授業の予定はゲスト講師との調整により、テーマ内容の変更や順番
の入れ替え等が発生する可能性があります。大きな変更は予定して
いませんが、最初の授業で詳細な予定を提示しますのでご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan
Trade Union Confederation) and the Education and Culture
Association.

Each time, we invite labor union officials who are active on the
front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures
on the activities of the labor union with examples.

Lectures will be given with company information and industry
information, such as finding the meaning of work, improving
the working environment and working conditions, and making
colleagues in the workplace.

In the changing work environment, the career design of
workers is also shaking. What difficulties do the people
working in it have, and what role does the union play? We
will think together while listening to the stories of labor union
officials from various positions.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand deeply the changes in the
workplace and the issues involved in working in a safe and
secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of
companies and industries, labor laws, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time
of the first class. Use it to do some preliminary research on
companies, industries, and trade unions.

The standard preparatory study and review time for this class
is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

EDU200MA（教育学 / Education 200）

生涯学習支援論 I

松橋 義樹

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

生涯学習支援に関する事項として、学習支援に関する教育理論、効果的な学習支援方法、参加型学習の実際とファシリテーション技法に関する講義および演習を行う。

・授業の意義・目的

社会教育主事に求められる資質・能力のうち、学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。

【到達目標】

学習支援に関する教育理論については、発達課題と学習課題、学習者及び学習内容の捉え方、多様な学習の形態・方法について理解する。効果的な学習支援方法については、コーディネートおよびカウンセリングの技法、情報提供と学習相談の方法、多様なメディアの活用方法を習得する。参加型学習の実際とファシリテーション技法については、主に学習者・学習内容別の参加型学習の進め方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

毎回、予習課題と復習課題を出題し、授業の冒頭で予習・復習課題への解答に対する教員からのコメントを行う。その後、各回のテーマに即した講義および演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習支援の多様性	生涯学習支援は学習者・学習目的・学習内容・学習方法などのいずれの側面においても多様であることを、実践例をもとに解説する。
第2回	生涯発達論の意義と展開	生涯学習支援における生涯発達論の意義とともに、社会の変化に伴う生涯発達論の展開について解説する。
第3回	学習者としての青少年理解	学習としての青少年の特徴について、青少年を対象とした各種調査結果をもとに解説する。
第4回	学習者としての成人理解	学習としての成人の特徴について、アンドロゴジーをはじめとする成人学習論をもとに解説する。
第5回	学習者としての高齢者理解	学習としての高齢者の特徴について、ジェロゴジーをはじめとする各種理論をもとに解説する。
第6回	学習情報提供・学習相談の実際	社会教育施設等で行われている学習情報提供・学習相談の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。

第7回	社会教育におけるメディア活用 の実際	社会教育活動の中でのメディア活用の現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第8回	社会教育におけるコーディネート・カウンセリングの実際	社会教育活動の中で行われているコーディネート・カウンセリングの現状と課題および具体的手法について、実践例をもとに解説する。
第9回	特別な配慮を必要とする学習者支援の基本的な考え方	特別な配慮を必要とする学習者を支援する上での基本的な考え方について、社会的包摂や合理的配慮の概念をもとに解説する。
第10回	参加型学習の意義と展開	社会教育活動における参加型学習の意義とともに、社会の変化に伴う参加型学習の展開について解説する。
第11回	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの実際	青少年教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第12回	成人教育・高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの実際	成人教育および高齢者教育における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第13回	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの実際	特別な配慮を必要とする学習者支援における参加型学習とファシリテーションの進め方について、実践例をもとにグループワークを行う。
第14回	これからの生涯学習支援のあり方	本科目の授業の総括として、これからの生涯学習支援のあり方について講義およびグループワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題および次回の授業資料の講読に毎週1時間、復習課題に毎週1時間取り組むこと。加えて、中間レポートの執筆に10時間、期末レポートの執筆に20時間取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。使用する資料は毎回、電子データで配布する。

【参考書】

・清國祐二・国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習支援論ハンドブック』ぎょうせい、2020年
・小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社、2022年

【成績評価の方法と基準】

・予習課題および復習課題への取組状況 20%
・中間レポート 30%
・期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

個人単位での演習物に対するフィードバックを必ずしも十分に行えていなかったと考えられることから、対面とオンラインを併用したよりきめ細やかなフィードバックを行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（各自がパソコンを持参する前提）

【その他の重要事項】

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。

【Outline (in English)】
(Outline)

This course provides students with basic knowledge and skills on educational theories related to learning support, effective methods of learning support, practical participatory learning, and facilitation techniques.
(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire knowledge and skills related to learning support tailored to the diverse characteristics of learners.

(Learning activities outside of classroom)

Spend 2 hours each week on pre-class assignments and reading materials for the next lesson, and 1 hour each week on review assignments. Additionally, dedicate 15 hours to writing the final report.

(Grading Criteria/Policy)

- Engagement in pre-class and review assignments:30%
- Participation in group work:30%
- Final report:40%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

石山 恒貴

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、キャリア体験（インターンシップ）の事前に、現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関する理解を深め、それを行動につなげることにあります。グループワークを重視し、他の学生との交流を通して、多様な視点、傾聴、質問、自己表現を培い、インターンシップを有効なものとすることを目指します。

【到達目標】

（事前準備）

- ①インターンシップの意義を理解し、その開拓の方法、開拓のための情報の活用を理解し、開拓をうまく実践できる
- ②現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）を理解する
- ③グループワークを通じて、多様な視点、傾聴、質問、自己表現を培う（インターンシップ中）
- ④インターンシップ先で円滑に受け入れられること
- ⑤ワークキャリア、ライフキャリアの実態を理解すること
- ⑥働く人々との対人関係能力（傾聴、質問、自己表現を使ったコミュニケーションができる）を醸成すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は、夏休みのインターンシップ（5日以上）の準備を行うものであり、秋学期の「キャリア体験学習」を履修することで完結となる。インターンシップ先については自身で開拓いただくが、教員教員が紹介できる企業もあるため、その希望などは個別に相談しつつ進める。。
インターンシップの開拓自体が貴重な経験となるが、そのために教員のアドバイス、情報提供、インターン先で円滑に受け入れられるためのロールプレイなど積極的に行い、インターンシップ開拓を支援する。
またインターンシップ開拓にあたり、実践的に参考になるゲスト講義を行う。
また、インターンシップサイトの活用のためのゲスト講義も実施する。さらにグループワークを重視した参加型授業であり、学生同士、教員からの実践的なフィードバックを行う。ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性はある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ガイダンス: 授業の進め方、活用方法等について説明、自己紹介
第2回	現実の社会におけるワークキャリア、ライフキャリアの実態（講義）	現実の社会におけるワークキャリア、ライフキャリアの実態を理解する

第3回	ゲスト講師との対話（インターンシップの専門家）	ゲスト講師（インターンシップの専門家）から、インターンシップの目的、開拓について解説してもらい、それを理解する
第4回	グループワーク1（ディスカッション）	インターンシップの目的、開拓の手段、方針、ESの作成などについて
第5回	グループワーク1（プレゼンテーション）	インターンシップの自身の開拓方針について発表する
第6回	ゲスト講義によるインターンシップサイトの活用など、開拓の進め方	ゲスト講義によってインターンシップサイトの活用などの理解を深め、実践できるようにしていく
第7回	グループワーク2（ディスカッション）	インターンシップ開拓にあたり、企業研究・業界研究の進め方について話し合い、自身の方針を決める
第8回	グループワーク2（プレゼンテーション）	インターンシップ開拓にあたり、企業研究・業界研究の進め方について話し合い、自身の方針を発表するとともに、中間レポートの準備をする
第9回	グループワーク3（ディスカッション）	働く価値観について、自己分析を進めるために話し合う
第10回	グループワーク3（プレゼンテーション）	自己の働く価値観について、発表を行う
第11回	グループワーク4（ゲスト講義+ディスカッション）	ゲストからの情報提供を受けて、インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいか話し合う。
第12回	グループワーク4（ディスカッション）	インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいかについて、発表する
第13回	グループワーク4（プレゼンテーション）	インターン先で円滑に受け入れられるためにはどうしたらいいかについて、発表する
第14回	まとめ	これまでの授業における気づきを振り返り、これからインターンシップに臨むにあたり、各自が何を目的（持ち帰りたいものはにか）について、共有しあう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各自、インターンシップ開拓の情報収集を進めるとともに、開拓に向けた行動を進める。
- ・プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
- ・本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用せず、毎回の授業でレジュメを使用する。基本的には紙での配布せず、学習システムにアップする。

【参考書】

田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著(2024)『キャリア・スタディーズ これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター。
その他は、授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業におけるグループワークでの取組みと発表（50%）
- ②インターンシップ開拓に関する取り組み（10%）
- ③中間レポートと最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】

ゲストからの話が参考になったとの意見が多く、なるべく多様なゲストに参加してもらおう。
インターンシップ開拓の不安が払しょくされたことの評価が多いため、よりその点を重視していく。

【その他の重要事項】

- ・参加型であるため楽しみながら、積極的、主体的に取り組んでいたきたい。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to deepen your understanding of the realities of the working world, how to work and how to live (work career, life career) before your career experience (internship), and to turn that understanding into action.

*Learning Objectives

The goals of this class are

- (1) To understand the significance of internships and be able to prepare for and act towards developing them
- (2) To understand the situation of the real world, how to work, and how to live (work career, life career)
- (3) To cultivate diverse perspectives, listening, questioning, and self-expression through group work

*Learning activities outside the classroom

Preparing for presentations requires time outside of class hours. At least 4 hours of study time outside of class hours is required for each lesson.

*Grading Criteria

- ① Group work and presentations in class (50%)
- ② Efforts to find an internship placement (10%)
- ③ Evaluation of interim and final reports (40%)

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

田中 研之輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、働き方をインタラクティブなグループワークと、学外でのインターンシップ経験（短期、中期、長期）を通じて実践的に学んでいくことを目的としています。就職活動の内定を狙いとしたものではなく、卒業後社会人として生きていく為の基礎力を身につけていきます。

【到達目標】

- ① 毎回のグループワークとプレゼンテーションにより、考える力、伝える力、まとめる力を養います。
- ② 企業分析、市場分析、自己分析、などの多角的な分析手法を身につけ、社会洞察力と適応力を磨いていきます。
- ③ インターンシップを通じて、働き方の基礎を学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義はインターン実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了する。○A、Bコースの二種類がある。Aコースは大学が実習先を準備するもの、Bコースは教員の指導のもと自ら期間内に希望する実習先を開拓するものである。＊本講義はBコースで実施する。実習先が面接試験を必須としているところも多い。体験することに価値がある。○実習先は多様である。実習期間も、開始・終了時期も異なる。通常6、7月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行う。授業の密度を高効率化を図り授業成果を高めるために共同授業の形式も多用する。クラス分けは実習先により決定する。実習先の決定及び実習後の報告は個別に時間をとり面談を実施する。

（授業の概要）

○実習先は教員との面談により決定するが、実習先へのコンタクトや事務手続きは学生が主体となって行う。書類作成・授受事務などは単位取得の要件である。

○実習先を事前に調べ社会人マナーについても基礎的な知識を身につける。

○体験学習を履修した先輩からの話を聞く機会を設ける。

○また君たちが働くことになる日本社会について考える場も提供したいと考えている。

（手続き）

○在学生向け履修ガイダンス後速やかに事前申込書・志望理由書・自己PRなど（予定）の書類の提出が必要である。煩瑣となるが、就活の予行だと考えてほしい。

○なお、キャリア体験学習（プロジェクト）及びキャリア体験学習（国際）との並行履修はできない。

フィードバックは、リアクションペーパーや課題の全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学から社会への移行の基礎理解	大学から社会への移行の基礎理解を深める

第2回	自己分析とインターンシップ先選定	自己理解ワークを実施するとともに、インターンシップ先を選定する。
第3回	前半メンバーの面談と実習先の仮決定、インターンシップ先と関連業界の調査、グループワーク	①前半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
第4回	後半メンバーの面談と実習先の仮決定、実習先と関連業界の調査、グループワーク	①後半メンバーの希望先聴取と実習先仮決定 ②逐次、実習予定先と関連業界調査の開始 ③既述のグループワーク
第5回	グループワーク発表会①	自己理解での気づきを発表し、議論する。
第6回	グループワーク発表会②	業界研究での気づきを発表し、議論する。
第7回	異業種の業界分析①	異業種の業界研究を行う。
第8回	インターンシップ先外部講師招聘	体験学習を履修した先輩からの話を聞いて質疑応答
第9回	事前調査のグループ内発表・教員との前半メンバーの個別打合わせ I	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との前半メンバーの打合せ
第10回	事前調査のグループ内発表・教員との後半メンバーの個別打合わせ II	①各自の事前調査のグループ内発表と情報の共有 ②実習先に関しての教員との後半メンバーの打合せ
第11回	社会人基礎力を培う①	「社会で働くということ」（外部講師の予定）
第12回	社会人基礎力を培う②	心構え、マナー、電話のかけ方など
第13回	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワーク	金融・銀行・証券関連の業界分析のグループワークを行う
第14回	IT・通信関連の業界分析のグループワーク	IT・通信関連の業界分析のグループワークを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の情報収集や実習先へのコンタクト。実習先に関連して民間企業、NPO、公共団体などについて情報の収集と整理。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔 『先生は教えてくれない就活のトリセツ』（2017 ちくまプリマー新書）

【参考書】

必要資料は適宜、講義内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、報告書（講義内発表＋実習に係わる書類作成能力など）20% により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は働き方に特化したきわめて実践的な学びの場です。インターンに採用されない経験、インターン先での失敗、上手く行かずに悩む学生もいます。失敗は成長のエンジンです。他の受講者と失敗経験も共有しながら、そこでの打開策も練り上げていきますので、働き方を学びたい学生はぜひ、受講してください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct internship of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（インターン）

野中 利明

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AIの急速な進化により、これまでの多くの仕事をAIに任せる時代をむかえます。では人間がやるべき仕事とは何なのか？変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んでいくべきかを通年で考える授業の春学期の講義です。本講義では、授業でのインタラクティブな議論及びインターンシップの準備とインターンシップ経験を通じてその理解を深めます。

【到達目標】

- ①自らのキャリア・人生設計について考えることの意義を理解すること
- ②自ら実習先の調査・開拓を行い、実習での働く経験を通じて自分自身のキャリアに対する考えを深めること
- ③議論を進めながら思考を深めるプロセスを身に着けること
- ① Understand the importance of self-career and life design.
- ② Proactively find/create internship opportunities and deepen career perspectives through practical experience.
- ③ Acquire the process of critical thinking through discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。
秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を修了とします。
2. インターン先の検討に際しては、教員がアドバイスを行いつつ、学生が自ら実習先にコンタクトして実習先との調整・事務手続きを行います。
・実習先の選定についてはA,B2つのコースがあり、Aは大学が実習先を用意、Bは学生が実習先を開拓するものですが、本講義ではBコースのみの実施となります。
・実習先を自ら開拓すること自体が貴重な学びの機会になります。
3. 希望者多数の場合には選抜を行います。
4. 原則実習は夏休みに行いますが、受入れ先の都合によっては、夏休み以外に実施することもあります。
5. 毎回、ディスカッションの場を設けて、インタラクティブな議論を通じて思考を深めていくことを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と概要説明、受講の心構え、自己紹介
第2回	グループワーク（ディスカッション）	自己分析とやりたい仕事のイメージ出し（自分は何を大切にしているのか、自分はどのような価値観を持っているのかを言語化し、自分自身を客観視する。そのうえでどのような仕事をしたいかを考える）

第3回	グループワーク（課題）	自分はどのような価値観を持ち、どのような仕事につきたいかをまとめ各グループでプレゼンを行う
第4回	インターン希望先のヒアリング（教員との個別面談）と業界研究Ⅰ（前半）	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談 関連の業界の調査実施
第5回	インターン希望先のヒアリング（教員との個別面談）と業界研究Ⅱ（後半）	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談
第6回	グループワーク（ディスカッション）	何のために仕事をするのか？就職か？起業か？大手企業か？ベンチャー企業か？など仕事のあり方について議論をする
第7回	グループワーク（課題）	自分は何の為に働くのか？どのような働き方を望むのか？についてまとめ、グループ内でプレゼンし、議論する
第8回	社会人とのディスカッションⅠ	大手企業で働く社会人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第9回	社会人とのディスカッションⅡ	ベンチャー企業で働く社員人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第10回	インターン先の業界研究と企業研究（資料取りまとめ）①	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第11回	インターン先の業界研究と企業研究（資料取りまとめ）②	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第12回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施①	グループ単位でのプレゼン実施（前半）
第13回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施②	グループ単位でのプレゼン実施（後半）
第14回	インターンに向けた所信表明	春学期の総括として、インターンに向けた所信表明を行う（全員実施）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業界・企業情報の収集並びに実習先へのコンタクトを実施します。
実習先を自ら開拓すること自体が大きな学びの場になります。
教科書からだけでは学ぶことのできない、実体験に基づく深い学びを経験しながら、自分自身のキャリアプラン・ライフプランへの考察を深めてもらいます。

Students will gather information on industries and companies for their internships and initiate contact with potential hosts. The process of securing an internship independently serves as a significant learning opportunity. By gaining profound, experience-based insights that cannot be acquired from textbooks alone, students are expected to deepen their reflections on their own career and life plans.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

「プロティアン」 田中研之輔 日経BP社
「ライフシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社
「ワークシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社
「冒険の書」 孫泰蔵 日経BP社
「人生の経営戦略」 山口周 ダイアモンド社

【成績評価の方法と基準】

- ①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢（60%）
- ②各種レポートの提出状況及び内容（40%）
- ① Class participation in group work and other activities (60%)
- ② Submission status and quality of various reports (40%)

【学生の意見等からの気づき】

全員参加型の授業を前提として、自ら考える、発言する、思考を深める場をできる限り多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】

PCを毎回持参のこと

【Outline (in English)】

With the rapid evolution of AI, we are entering an era where many traditional jobs will be delegated to machines. What, then, is the work that humans should do?

This is the Spring Semester module of a year-long course designed to explore how to navigate your life and career in this unpredictable age of drastic change, and what personal foundations you should rely on. In this course, students will deepen their understanding through interactive classroom discussions, internship preparation, and hands-on internship experiences.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験事前指導（プロジェクト）

山岡 義卓

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、本科目および秋学期に開講される「PBL実践」の両方を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

【到達目標】

本授業の目標は次のとおり。

①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。

②グループワークの進め方を身につける。

③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。

④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。

なお、「PBL実践」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。

①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る

②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める

③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ

④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本科目および「PBL実践」を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第2回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法等を説明する。
第3回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第4回	演習①（課題抽出、整理）	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第5回	演習②（課題解決提案、発表）	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第6回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。

第7回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第8回	協力企業および業界に関する事前調査	企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。
第9回	活動計画の作成①	企業担当者や情報交換のうえ実施テーマに合わせて全体の活動計画を作成する。
第10回	活動計画の作成②	全体の活動計画を踏まえて必要な作業を確認し、それぞれの実施計画を作成する。
第11回	テーマに関する調査①	テーマに関して、企業における現状（商品ラインナップや技術、販路等）を調査する。
第12回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第13回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第14回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

14回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢（50点）、中間発表（50点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「目的を再確認し、相手の立場に立って考えながら取り組みを続けることが、長期的には信頼の形成や新たな機会の創出に繋がる」とのコメントより、情報共有ツールの活用等により、目標設定や進捗管理の重要性を意識づけられるよう働きかける。

「さまざまな特性を持つ人々が一つの目標に向かい、それぞれの得意分野を生かしながら噛み合わせていくことの重要性を学ぶことができた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりに留意する。「発表して終わるのではなくフィードバックをもらうことで後の自分のためになると感じた」とのコメントより、相互フィードバックの時間を設ける等、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

【学生が準備すべき機器他】

課題等は学習支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせ等は遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】

「PBL実践」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。欠席3回以上は他の評価項目によらず単位を認めない。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Collect information on business activities of cooperating companies and project themes.
- Learn how to proceed with group work.
- Set project goals and create an implementation plan.
- Start the project and get it on track.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Implementation status of assignments in class and attitude toward projects : 50%

Presentation in the 14th class : 50%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）

石山 恒貴

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、夏休みのインターンシップ経験を振り返り、事前に考えていた現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関して得られた新たな知見を深め、今後のキャリアに活かすことにある。特に、インターンシップで積んだ原体験／現体験を振り返り、ストーリー化して、それをエッセイとして言語化し、今後のキャリアに活かすことを学んでいく。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおりである。

- ①インターンシップ経験を振り返り、学習したポイントをまとめる
- ②事前に考えていた現実社会の状況、働き方、生き方（ワークキャリア、ライフキャリア）に関する新たな気づきをまとめる
- ③インターンシップで積んだ原体験／現体験を振り返り、ストーリー化して、それをエッセイとして言語化する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・この授業の受講にあたっては、春学期の「キャリア体験事前指導」を修了のうえ、夏休みにインターンシップ体験を実施していることが求められる。
- ・インターンシップの振り返りを深めるため、グループ内で相互にインターンシップの経験をインタビューしあう。そのインタビューでふまえて、インターンシップの原体験／現体験をストーリー化し、エッセイに転換していく。
- ・後半では、気づきを業界研究、職種研究、企業研究に結びつけるためのグループ討議と発表を行う。
- ・前半でまとめたエッセイを改善するアドバイスをグループ内で相互に行い、その後、エッセイを個人発表する。
- ・さらにグループワークを重視した参加型授業であり、学生同士、教員からの実践的なフィードバックを行う。ゲスト講義など、スケジュールについては、一部変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業の概要について説明するとともに、新たなグループ分けとグループ討議の方針について検討する
第2回	インターンシップ結果インタビュー1（グループ）	エッセイでストーリーを書くための準備として、それぞれがインターンシップでどんな原体験／現体験をしたのか、それを振り返るための相互インタビューを行う
第3回	インターンシップ結果インタビュー2（グループ）	エッセイでストーリーを書くための準備として、それぞれがインターンシップでどんな原体験／現体験をしたのか、それを振り返るための相互インタビューを行う

第4回	インターンシップ結果インタビュー3（発表）	インターンシップ結果インタビューを行ったうえでの、グループとしての気づきを発表する
第5回	インタビューのエッセイへの転換を考える1（グループ）	インターンシップを振り返るための相互インタビューを、具体的にエッセイのためにストーリー化して、ほかの人にわかりやすく伝えるためにはどうすればいいか検討する
第6回	インタビューのエッセイへの転換を考える2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第7回	ゲスト講師との対話（インターンシップの専門家）	ゲスト講師（インターンシップの専門家）から、インターンシップの気づきのまとめ方を解説してもらい、それを理解する
第8回	インターンの気づきを業界・職種・企業研究に活かす1（グループ）	今までの授業を踏まえ、業界地図、就職四季報を活用して、どのような業界・職種・企業研究ができるか、アイデアを話し合う
第9回	インターンの気づきを業界・職種・企業研究に活かす2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第10回	エッセイの発表とアドバイスセッション1（グループ）	各自が作成してきたエッセイを発表し、そのエッセイについて、相互にアドバイスしあう
第11回	エッセイの発表とアドバイスセッション2（発表）	前回の討議内容を、各グループが発表する
第12回	エッセイの全体発表1（個人発表）	各自が作成してきたエッセイを発表する
第13回	エッセイの全体発表2（個人発表）	各自が作成してきたエッセイを発表する
第14回	まとめ	春学期、インターンシップ、秋学期の授業を振り返り、その気づきを今後に活かす

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各自、インターンシップ先とは、インターンシップ終了後も可能な範囲で連携し、情報収集する。
- ・プレゼンテーションの準備を授業外時間にも行う。
- ・本授業の事前学習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用せず、毎回の授業でレジュメを使用する。基本的には紙での配布せず、学習システムにアップする。

【参考書】

田中研之輔・遠藤野ゆり・梅崎修編著(2024)『キャリア・スタディーズ これからの働き方と生き方の教科書』日本能率協会マネジメントセンター。
その他は、授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①インターンシップ体験の個人報告の評価（30%）
- ②授業におけるグループワークでの取組みと発表（30%）
- ③中間レポートと最終レポートの評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップは振り返ってこそ学びになる、他の人の経験が学びになる、ゲストなど社会人のプレゼンが学びになる、こうした意見があり、これらをいかした授業を進める

【その他の重要事項】

- ・参加型であるため楽しみながら、積極的、主体的に取り組んでいたきたい。
- ・インターンシップ関連の書類（先方の確認印が必要なものを含む）などの提出をもってインターンシップの実施を確認するので、提出が必要になる。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S～C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

*Course outline

The aim of this course is to reflect on the internship experience over the summer holidays, deepen the new knowledge gained about the real world, work styles and ways of life (work career, life career) that you had thought about in advance, and apply this to your future career.

*Learning Objectives

The goals of this class are

- ① Reflect on your internship experience and summarize the key points you learned
- ② Summarize any new insights you gained about the real world, work styles, and ways of life (work career, life career) that you had considered in advance
- ③ Think about your future career, making use of your internship experience

*Learning activities outside the classroom

Preparing for presentations requires time outside of class hours. At least 4 hours of study time outside of class hours is required for each lesson.

*Grading Criteria

- ① Evaluation of individual presentations on internship experience (30%)
- ② Group work and presentations in class (30%)
- ③ Evaluation of interim and final reports (40%)

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）

田中 研之輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では働き方を実践的に学びながら、そこでの失敗経験を共有し、打開策を見つけ出していきます。本講義は大学内/外の相互補完的な学びに特徴があり、卒業後の生き方をデザインしていく力と方向性を学んでいきます。

【到達目標】

- ①働く場・働き方・働く人の多様性を認識する。
- ②実習を言語化する。
- ③働くとは何かを改めて考え、キャリアデザインする意識を明確化する。
- ④伝えるためのインタビューの仕方を学ぶ。
- ⑤キャリアデザインのドライバー（駆動力）を探索する。
- ⑥インターンシップの総括を行い、社会人としての基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

① 実習体験をグループワークにより共有し働く現場の多様性を認識し②体験を教員に対する報告（面接形式）・グループワークでの発言・スピーチ（個人発表）・エッセイ執筆（編集により文集の作成）により言語化し③働くことを講義やグループワークで改めて考察する。グループワークのテーマとしては「エッセイで何を伝えたいか」、「キャリアドライバーを探す」などを予定。④インタビューの仕方をプロから学んだ上で⑤実際にインタビューを行いチームで映像作品などを制作し⑥発表する。
グループワークが中心のプログラムである。外部講師の講義も予定するが、あくまでも君たちでつくりあげる授業にしたい。リーダーシップやフォロワーシップを学び、また聴き方、アサーションやフィードバックなどのスキルを試す良い機会を提供する。フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の進捗と振り返り	秋学期授業概要の説明と実習の振り返り。実習日誌などの書類作成・提出、グループワークの準備
第2回	○教員との個別面談（面接形式）Ⅰ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅰ	○3分間スピーチ（教員に実習先の話をまとめる） ○グループワーク「エッセイで何を伝えたいか」を予定
第3回	○教員との個別面談（面接形式）Ⅱ ○グループワーク（実習先での体験共有）Ⅱ	同上 但し、エッセイのテーマを決める。

第4回	○教員との個別面談Ⅲ ○グループ作品制作に向けてⅠ	同上 ○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
第5回	実習発表会	エッセイを踏まえて実習報告（スピーチ）を行う。
第6回	グループ作品制作に向けてⅡ	○グループワーク「キャリアドライバーを探す」を予定
第7回	講義「働くとは？」	現場で指導されている外部講師をお迎えする（予定）
第8回	キャリアモデルに学ぶ	現場でインタビューを行い映像を制作されているプロをお迎えする（予定）。
第9回	新規事業開発の体験①	新規事業の開発手順・注意点を学ぶ。
第10回	新規事業開発の体験②	新規事業開発のモデルをつくる
第11回	新規事業開発の体験③	新規事業開発案を相互に検討し、練り上げる
第12回	新規事業発表会①	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施する
第13回	新規事業発表会②	企業関係者を招聘し、新規事業の発表会を実施し、フィードバックから再検討していく
第14回	インターンシップ報告会	インターンシップでの学びを報告し、総括していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業時間外にインタビューやインターンシップに時間をとられる可能性が高い。②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってもらいたい。③働く場として関心ある業態・業界、企業・NPO・公共団体についての情報を種々のメディアによりフォローすることを薦める。④実習先とのコンタクトが継続される場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔 「先生は教えてくれない就活のトリセツ」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

授業内で適宜、伝える

【成績評価の方法と基準】

平常点80%、報告書（講義内発表＋実習に係わる書類作成能力など）20% により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

春学期での実践的な学び、夏期休業期間中のインターンシップ経験を通じて、毎年、秋学期の本講座では飛躍的な成長をみせてくれます。少人数でインタラクティブに学ぶことの強みを最大限にいかしていきましょう。

【その他の重要事項】

○大変な時代になっている。まずは自分のことを考える。それから他人のことを考えよ。自分のことは自分で決める。生きる覚悟と社会で役に立つという高い志を持たないといけない。
○先が見えにくい時代だといわれている。
経済のグローバル化に加え、格差の拡大、地球環境の悪化など問題は数多い。
けれど、いつの時代も変わらないことがある。
それは、社会は人で成り立っているという事実だ。
キャリアデザイン学部では、人のエクスパートを育てている。
自分自身を磨き、人の活かし方を学び、人とともにある未来を考える。
人の専門家の視点から、さまざまなフィールドを見渡している。
ダイヤはダイヤでしか磨けないように、人は人でしか磨けない。
だから授業は座学にとどまらない。
フィールドワークや体験学習、インターンシップなど、学ぶ分野も幅広い。
物事を多角的に観る眼を鍛えるためだ。
人について深く学ぶことで、自分自身を客観視する力を身につける。
自分と向き合いながら「やれること」と「やれないこと」を見極める。
キャリアデザイン学部での学びは、生涯学習の第一歩であり、その積み重ねが、社会で通用する力となる（キャリアデザイン学部のパンフレットを引用）。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

This course of internship is a culminating learning experience for students studying in the fields of worksites. This experience allows students the opportunity to practice the application of theory and apply the knowledge acquired through academic preparation, while learning the skills of an entry level practitioner. Experience at an internship site offering career development not only draws on major and minor course offerings, but allows the integration of course work from all fields of study during the development of professional skills.

【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey internship outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（インターン）

野中 利明

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AIの急速な進化により、これまでの多くの仕事をAIに任せる時代をむかえます。では人間がやるべき仕事とは何なのか？変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んでいくべきかを通年で考える授業の秋学期の講義です。本講義はインターンシップの体験を振り返りながら、そこでの学びを整理すると共に、自分自身の価値観を言語化し、今後の人生、キャリアについて考える授業です。本講義では議論の機会を多く設け、様々な価値観、考え方に触れながら、これからの自分のありたい姿を描出してもらいます。

【到達目標】

自ら主体的に考え、行動する思考様式、行動様式を身に着けていること
自分が大切にしたい価値観や仕事観が言語化できていること
自分自身が歩みたい人生・キャリアプランの輪郭が見えるようになること

Having acquired a proactive mindset and behavioral patterns to think and act independently.

Having a clear way to express the values and work ethics you hold dear.

Gaining a clearer outline of your desired life path and career plan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ①実習経験を振り返り、グループワークを通じて、学びや気づきを言語化し、整理する。
- ②グループワークにて業界研究を行い、情報収集、プレゼン資料を作成し、各チームでプレゼンを行う。
- ③10年後の世の中の状況をイメージして、自分がどうなっていたいかをとりまとめる。グループワークにて相互に発表し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	・夏休みの実習の振り返り ・秋学期授業の概要説明
第2回	個別面談、グループワーク（前半）	・教員に実習の状況を説明する（ショートスピーチ） ・グループで実習の状況を相互に共有する
第3回	個別面談、グループワーク（後半）	・教員に実習の状況を説明する（ショートスピーチ） ・グループで実習の状況を相互に共有する
第4回	社会人とのディスカッション（大手企業勤務の若手社員を想定）	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える

第5回	社会人とのディスカッション（大手企業勤務の中堅・幹部社員を想定）	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第6回	社会人とのディスカッション（起業家を想定）	・起業家の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第7回	グループワークⅡ①（業界分析：業界の概要調査と仮説出し）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の概要調査と仮説出し）
第8回	グループワークⅡ②（業界分析：業界の将来予測とディスカッション）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の将来予測仮説の検証とディスカッション
第9回	グループワークⅡ③（業界分析：これまでの調査結果を踏まえて働き方についてプレゼン）	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・各チームのプレゼンとディスカッション
第10回	グループワークⅢ（10年後予測：10年後の世の中を考える資料収集と仮説出し）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・情報収集・資料作成
第11回	グループワークⅢ（10年後予測：10年後の世の中の仮説検証と議論）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・10年後の世の中の仮説検証と議論
第12回	グループワークⅢ発表①（10年後予測：10年後の予測とその時代に自分たちがどうありたいかについてプレゼン）	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第13回	グループワークⅢ発表②	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第14回	総括 1年間の振り返り	・1年間を振り返り、インターンと授業を通じて、何を感じ、何を学んだのかを整理し、これからの自分の人生をどうしていきたいかを発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業時間外にインタビューや課題に時間を取られる可能性があります。
- ②自分自身のキャリア・生き方についてどうありたいかじっくり考えてもらいたいと思います。
- ③関心ある業界・企業の動向については、日頃からアンテナを立てて情報収集を心がけてください。
- ④実習先とのコンタクトが継続されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
- ① Please be aware that you may be required to spend time on interviews and assignments outside of class hours.
- ② I would like you to take the time to deeply consider your career path and how you want to live your life.

③ Please make an effort to stay informed and keep a close watch on the trends of the industries and companies you are interested in.

④ Communication with your internship site may continue even after the training period.

Preparation and review for this course are expected to take approximately two hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「プロティアン」 田中研之輔 日経BP社

「ライフシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社

「ワークシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社

「冒険の書」 孫泰蔵 日経BP社

【成績評価の方法と基準】

①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢（60%）

②各種レポートの提出状況及び内容（40%）

① Attitude toward class participation and group work (60%)

② Submission status and content of reports (40%)

【学生の意見等からの気づき】

全員参加型の授業を前提に学生一人一人が自ら考え、発言し、議論を通じて思考を深める機会を多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回 PCを持参のこと

【その他の重要事項】

この授業では自ら主体性をもって考え、行動することが求められます。授業では毎回、ディスカッションの機会を設けます。

また実習に関しては、インターン先を自ら探して、自らコンタクトして経験をすることで、主体的に学び・考える姿勢が身につきます。

【Outline (in English)】

With the rapid evolution of AI, we are entering an era where many traditional jobs will be delegated to machines. What, then, is the work that humans should do?

This is the Fall Semester component of a year-long course designed to explore how to navigate your life and career in this unpredictable age of drastic change, and what personal foundations you should rely on.

In this course, students will reflect on their internship experiences to organize what they have learned. They will also work on articulating their personal values to better consider their future lives and careers. Through frequent discussions and exposure to diverse perspectives, students will define their ideal future selves.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

キャリア体験学習（プロジェクト）

山岡 義卓

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、春学期開講の「PBLチュートリアル」と本科目の両方を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

【到達目標】

本科目の目標は次のとおり。

- ①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
- ②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
- ③これまでの活動を取りまとめ発表する。
- ④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。

なお、「PBLチュートリアル」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。

- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
- ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
- ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
- ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

「PBLチュートリアル」および本科目を通じて、約7か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第2回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第3回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第4回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第5回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第6回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。

第7回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。
第8回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第9回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションの作り方について説明する。
第10回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第11回	成果報告会リハーサル	成果報告会のリハーサルを行う。
第12回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第13回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第14回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢（50点）、成果報告書および成果発表（50点）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「目的を再確認し、相手の立場に立って考えながら取り組みを続けることが、長期的には信頼の形成や新たな機会の創出に繋がる」とのコメントより、情報共有ツールの活用等により、目標設定や進捗管理の重要性を意識づけられるよう働きかける。

「さまざまな特性を持つ人々が一つの目標に向かい、それぞれの得意分野を生かしながら噛み合わせていくことの重要性を学ぶことができた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりに留意する。「発表して終わるのではなくフィードバックをもらうことで後の自分のためになると感じた」とのコメントより、相互フィードバックの時間を設ける等、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

【学生が準備すべき機器他】

課題等は学習支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコン

を使用する。企業との打ち合わせにおいては遠隔会議ツールを使用することもある。

【その他の重要事項】

この科目を履修するには、「PBLチュートリアル」を履修していることが条件になります。

企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。

協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。

欠席3回以上は他の評価項目によらず単位を認めない。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「PBLチュートリアル」を修得(S～C-)した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will conduct the project and present the results.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Continue toward the goal of the project that started in the spring semester.
- End the project so that results can be obtained within the period.
- Summarize the activities and give a presentation.
- Look back on the project and confirm what you have learned.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude toward projects : 50%

Achievement report and final presentation : 50%

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディアリテラシー実習Ⅰ

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアリテラシーの基本概念と映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディアリテラシーの基本原則を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディアリテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】

- ・受講生はメディアリテラシーの概念を理解し、メディアリテラシーの概念を説明できる。
- ・メディアリテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
- ・基本的な映像制作能力を身につけ、メディアリテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

メディアリテラシーの歴史を学び、基礎概念を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディアリテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。この授業は、基本は対面とし、必要に応じて、オンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要および必要機器の説明（Zoomによるオンライン授業）
第2回	メディアリテラシーの基本	メディアリテラシーの基礎概念を学ぶ
第3回	メディアリテラシーの原理	メディアリテラシーの基本原則を学ぶ
第4回	メディアリテラシーの歴史	メディアリテラシーの歴史を学ぶ
第5回	メディアの読み解きを学ぶ	メディアのジャンルと分析の方法を学ぶ
第6回	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
第7回	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ

第8回	デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
第9回	現代社会のメディア	広告やPV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ
第10回	広告メディアとメディアメッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
第11回	広告メディアと表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
第12回	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
第13回	映像編集の方法	映像編集の基本的な方法を学ぶ
第14回	公共広告の構想	公共広告の絵コンテの発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、提出物50%、平常点20%

授業評価基準（ループブック）

・基本

積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディアリテラシーの5つのキークエスチョンを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる

・応用

映像の企画・取材・制作が一人で行える
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

メディアリテラシーの基本を理解することが良い作品制作につながることが理解できた。

【学生が準備すべき機器他】

映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)を推奨する。

<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法是以下のリンクを参照すること。

<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html>

【他の授業との関連】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、3年次以上では「キャリアデザイン学総合演習」を履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

To study the core concepts of media literacy

To explore how the media construct their messages

To learn how to make a Public Service Announcement

The goal of the course is for students to understand the concept of media literacy and the language of video, to acquire video production skills, and to be able to produce short videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.

Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

メディアリテラシー実習Ⅱ

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

受講生は、メディアリテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、ショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】

- ・メディアリテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
- ・メディアリテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
- ・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディアリテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本は対面とし、必要に応じてオンラインとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・公共広告作品上映会	メディアリテラシー実習Ⅰの受講生が作った公共広告映像作品の上映を行う
第2回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
第3回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
第4回	メディアリテラシーとドキュメンタリーの構造	ドキュメンタリーのシーンやカットの構造を学ぶ
第5回	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
第6回	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
第7回	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
第8回	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。

第9回	編集の仕方(1)キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
第10回	編集の仕方(2)編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。
第11回	編集の仕方(3)音響とテロップ	動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。
第12回	編集の仕方(4)仕上げ	編集の仕上げの方法を学ぶ。
第13回	編集作業の点検	それぞれの編集作業の点検を行う。
第14回	発表会	制作映像の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年
坂本・山脇編著『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社、2021年
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、提出物50%、平常点20%
授業評価基準（ルーブリック）

・基本

積極的に授業に参加し、発言する
静止画・動画による映像作品を制作する
締め切りに間に合うように作品を提出する
振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディア・リテラシーの5つのキークエスションを理解している
映像の表現技法を説明することができる
絵コンテを作ることができる
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
・応用
映像の企画・取材・制作が一人で行える
他者に適切なアドバイスや支援ができる
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

セルフドキュメンタリーが多くなっているが、ドキュメンタリーの最初の一步として肯定的に捉えている。

【学生が準備すべき機器他】

映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ（DavinciResolve）を推奨する。
<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。
本授業では動画の提出に法政大学のBOXを使用する。使用方法は以下のリンクを参照すること。
<https://netsys.hosei.ac.jp/protected/manual/distance/manual-box.html>

【その他の重要事項】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】

本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary

To study how to make and evaluate the documentary

The goal of the course is for students to understand the history and concepts of documentary video and to be able to produce short documentary videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.

Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

地域学習支援 I

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、秋学期に実施される「フィールドワーク（ESD）」とセットで履修する必要があります。
本授業では、ESD（持続可能な教育）に関するフィールドワーク（授業時間外）を実施し、その効果検証を行います。春学期期間中の授業では、コミュニケーションスキルの習得やフィールドワークの基礎的手法を学習し、また映像制作の基礎を学びます。これらを通して、実習先において子どもたちの学びを支援するのに必要な姿勢と技術とを習得します。

【到達目標】

ESDを教育現場にて実施するための準備過程において、エスノメソドロジーの基本的な考え方を学びます（知識）。他者と協働する際に必要な基礎的コミュニケーション能力を習得します（技能）。企画を作成するにあたって、ねらいを定めそれを実現化していく思考方法やアイデアを形にし実施する企画力を習得します（思考力・判断力・表現力）。他者の学びを支援する際に求められる姿勢を体得し、主体的にプログラムを担う姿勢を培います（主体的に学ぶ態度）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、実習の準備に向けた演習方式でおこないます。授業は、事前課題、授業内のグループワークとディスカッション、事後課題のスタイルで実施されます。事後課題は授業支援システムで実施し、次回授業にてフィードバックをおこないます。
また、フィールドワーク基礎実習パート、映像編集パートにおいて、授業時間外に制作をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・授業のルールづくり	参加者で授業の概要を確認し、授業に参加する目的を共有したうえで、本授業におけるルール作りを受講生自行行います。
第2回	コミュニケーションスキル①傾聴	コミュニケーションスキルの基礎として、傾聴の技術を学びます。
第3回	コミュニケーションスキル②ブレインストーミングとKJ法	コミュニケーションスキルの基礎として、ブレインストーミングとKJ法を実践的に学びます。
第4回	コミュニケーションスキル③アサーティブな伝達	コミュニケーションスキルの基礎として、アサーションの考え方を学び、自身の主張方法の癖を修正する実践を行います。
第5回	コミュニケーションスキル④ディスカッションスキル	コミュニケーションスキルの基礎として、ディスカッションをする際の時間配分や目的からずれない話し合い方などの技術を学びます。

第6回	フィールドワーク基礎実習①エスノメソドロジーとは何か	フィールドワークのベースとなるエスノメソドロジーの考え方を学ぶために文献講読をおこないます。
第7回	フィールドワーク基礎実習②フィールドノーツのつけ方	フィールドノーツを実際につけ、そのスキルを習得します。
第8回	フィールドワーク基礎実習③ノーツの考察と分析	フィールドノーツを分析する方法を学びます。
第9回	フィールドワーク基礎実習④アクションリサーチの仕方とノーツの改善	フィールドノーツの分析結果をもとにフィールドに還元する方法や姿勢を学び、ノーツの改善方法を学びます。
第10回	映像編集①ねらいの設定	映像編集を行うプロセスを学び作成する映像のねらいを設定します。
第11回	映像編集②素材集めと絵コンテ作成	映像制作のために必要な素材を撮影します。また絵コンテの作成方法を習得します。
第12回	映像編集③編集	実際に映像編集を行い、実習にて映像編集の方法を参加者に伝える方法を学びます。
第13回	映像編集④作品発表とフィードバック	作成した映像作品を共有し映像の専門的観点からフィードバックを受けます。
第14回	春学期のまとめと夏休みの課題	春学期に学んだことと残った課題を確認するための面談を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、学習支援システムにて事後課題が課されます。フィールドワーク先の開拓、関係づくり、フィールドノーツを、授業時間外に実施します。
事前の文献講読、映像作品の編集作業を行います。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題28%、フィールドノーツとその考察レポート21%、映像編集作品21%、毎回の授業へのコミットメント30%。

【学生の意見等からの気づき】

2026年度に初めて開講する科目です。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（スマホやタブレットなどでも可ですが、学習支援システム等に随時アクセスし入力できる状態にしてください）

【その他の重要事項】

本授業は原則として欠席を認めません。欠席回数については、学部の実践系科目群のルールにのっとり（欠席3回以上で単位習得不可。15分以上の遅刻は欠席に換算）。
やむを得ない事情で授業を休む場合は事前に連絡をしてください。
教員連絡先: noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Course outline: Students must take this class in conjunction with the "Fieldwork (ESD)" class held in the fall semester. Students will conduct fieldwork related to ESD (Education for Sustainable Development) and evaluate its effectiveness. In this class, students acquire communication skills, learn basic fieldwork techniques, and learn the basics of video production. Through these, they acquire the attitudes and techniques necessary to support children's learning during their internship.

Learning Objectives: In the process of preparing to implement ESD in the classroom, students learn the basic concepts of ethnomethodology (knowledge). They acquire the basic communication skills necessary for collaborating with others (skills). When creating a plan, they acquire the thinking skills to set goals and realize them, as well as the planning ability to shape and implement ideas (thinking ability, judgment, and expression). They master the attitude required when supporting the learning of others and cultivate the ability to take ownership of the program (attitude of independent learning).

Grading Criteria /Policy: The evaluation of this class is based on 28% post-class assignments, 21% field notes and discussion reports, 21% video edited works, and 30% commitment to each class.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

地域学習支援 II

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、春学期に実施される「フィールドワーク事前指導（ESD）」とセットで履修する必要があります。

本授業では、ESD（持続可能な教育）に関するフィールドワーク（授業時間外）を実施し、その効果検証を行います。秋学期期間中の授業では、春学期に修得したコミュニケーションスキル、映像編集のスキルを活かし、小学生の学習を支援します。またそのフィールドワークを通して得たデータを分析し、研究としてまとめ、発表します。

【到達目標】

ESDを教育現場にて実施した経験を生かして、エスノメソドロジーの基本的な考え方を再検証します（知識）。他者と協働する際に必要な基礎的コミュニケーション能力を実践的に改善していきます（技能）。企画を作成するにあたって、ねらいを定めそれを実現化していく思考方法やアイデアを形にし実施する企画力を習得します（思考力・判断力・表現力）。他者の学びを支援する際に求められる姿勢を体得し、主体的にプログラムを担う姿勢を培います（主体的に学ぶ態度）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、実習の準備と実施、そして研究成果発表をおこないます。授業は、事前課題、授業内のグループワークとディスカッション、事後課題のスタイルで実施されます。事後課題は授業支援システムで実施し、次回授業にてフィードバックをおこないます。また、授業時間外に小学校にて実習をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期のふりかえりと秋学期の課題設定	参加者で秋学期授業の概要を確認し、授業に参加する目的を共有したうえで、本授業の課題設定を受講生自ら行います。
第2回	実習Ⅰのプログラムづくり①	実習Ⅰのプログラムづくりとして実習先について学びます。実習Ⅰの目的とゴールを設定します。
第3回	実習Ⅰのプログラムづくり②	実習Ⅰの具体的なプログラムを作成します。
第4回	実習Ⅰのプログラムづくり③	実習Ⅰのプログラムのリハーサルを実施します。
第5回	実習Ⅰのふりかえりとフィールドノーツの検証	実習Ⅰをふりかえりフィールドノーツを読み合います。実習Ⅱに向けて課題を確認します。
第6回	実習Ⅱのプログラムづくり①	実習Ⅱのプログラムづくりとして目的とゴールを設定します。
第7回	実習Ⅱのプログラムづくり②	実習Ⅱのプログラムを具体的に作成します。
第8回	実習Ⅱのプログラムづくり③	実習Ⅱのプログラムを実践してみても課題を検証します。

第9回	実習Ⅱのプログラムづくり④	改善された実習Ⅱのプログラムのリハーサルを実施します。
第10回	研究成果発表の準備①	実習を終えてフィールドノーツを整理し研究テーマを設定します。
第11回	研究成果発表の準備②	研究成果の発表に向けて発表資料（パワーポイント）を作成します。
第12回	研究成果発表の準備③	研究成果の発表に向けて発表資料（動画）を作成します。
第13回	研究成果発表	研究成果を相互に発表し合いフィードバックをおこないます。
第14回	一年間のまとめと今後の課題	一年間で学んだことを確認し、残った今後の課題に学生生活で取り組むための面談を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、学習支援システムにて事後課題が課されます。実習を授業時間外に実施します。実習後にフィールドノーツをつけ、研究成果発表の準備をおこないます。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題28%、実習でのコミットメント21%、研究成果のパワーポイント資料と動画21%、毎回の授業へのコミットメント30%。なお、実習に参加しなかった場合は、単位の取得は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

2026年度に初めて開講する科目です。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（スマホやタブレットなどでも可ですが、学習支援システム等に随時アクセスし入力できる状態にしてください）

【その他の重要事項】

本授業は原則として欠席を認めません。欠席回数については、学部の実践系科目群のルールにのっとり（欠席3回以上で単位習得不可。15分以上の遅刻は欠席に換算）。やむを得ない事情で授業を休む場合は事前に連絡をしてください。教員連絡先: noyuriendo@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Course outline: Students must be take this class in conjunction with the "Fieldwork Preparatory Training (ESD)" course held in the spring semester.

In this class, students will conduct fieldwork (outside of class hours) related to ESD (Education for Sustainability) and evaluate its effectiveness. During the fall semester, students will use the communication and video editing skills they acquired in the spring semester to support elementary school students' learning. They will also analyze the data obtained through this fieldwork, compile it into a research project, and present it.

Learning Objectives: Utilizing experience in implementing ESD in the classroom, students will reexamine the basic concepts of ethnomethodology (knowledge). Students will practically improve the basic communication skills necessary for collaborating with others (skills). When creating a plan, students will acquire the thinking skills to set goals and realize them, as well as the planning skills to shape and implement ideas (thinking ability, judgment, and expression). Students will acquire the attitude required to support the learning of others and cultivate the ability to take an active role in the program (an active learning attitude).

Grading Criteria /Policy: The evaluation of this class will be determined by 28% of the assignments after each class, 21% of the commitment during the practical training, 21% of the PowerPoint presentation and video of the research results, and 30% of the commitment to each class. Please note that if you do not participate in the practical training, you will not be granted credits.

BIO200LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 200)

Natural Science A

宇野 真介

Subtitle :

Term : 秋学期授業/Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 月3/Mon.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : GBP/SCOPE/IGESS
1~4年

Notes : ※ Only a certain number of students(30)

その他属性 : <S>

【Outline and objectives】

Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【Goal】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental issues; 2) to understand social problems related to the environmental issues addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Main Teaching Method】

L 講義 /Lecture

【Method(s)】

The course is divided roughly into three parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem, biodiversity, and soil, in other words, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources and services. The second part will focus on environmental issues related to agriculture (food production). Finally, the third part will mainly address socioeconomic aspects of relevant issues. The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format; however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group work and discussion. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions in the subsequent class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 Class form : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Era of multiple crises and sustainability	As an introduction to the course, the concept of sustainability will be discussed, and an overview will be given on the connection between food and environmental issues.

Week 2	Understanding ecosystem	Basic characteristics of ecosystem will be discussed from the viewpoints of structure, function and behavior as a system.
Week 3	What is biodiversity?	Basic characteristic of biodiversity will be discussed, and the reasons why its conservation is necessary will be considered.
Week 4	Soil environment	General features of soil environment will be described, and its importance as the foundation of natural environment will be discussed.
Week 5	Agricultural field as a habitat	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Historical background and modernization of agriculture	An overview of historical development of agriculture will be given, and changes and achievements brought about by modernization will be discussed.
Week 7	Environmental impact of modern agriculture	Environmental impact of modern production method or "conventional agriculture" will be discussed.
Week 8	Environmental conservation in the case of conventional agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of conventional agriculture.
Week 9	Environmental conservation in the case of alternative agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of alternative agriculture.
Week 10	Agroecology	Agroecology will be discussed as a framework for achieving a sustainable food system.
Week 11	Livestock production and infectious diseases	The risk of zoonotic diseases will be discussed in relation to activities related to livestock production.
Week 12	Abundance and scarcity	Group work will be used to explore the complexity of the issue of hunger in the age of abundance.
Week 13	Localization and food system	The significance and importance of localized food production/supply system will be discussed.

Week 14 Thinking about solutions from the consumer side Solutions for agriculture and food-related issues will be explored from the consumer side of food system.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to prepare for classes by thoroughly reading distributed materials and utilizing the online learning support system (WebClass) and also to review contents of individual lectures. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【Textbooks】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【References】

To be announced as needed.

【Grading criteria】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course materials by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【Changes following student comments】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【Equipment student needs to prepare】

Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【Others】

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through WebClass, as needed.

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

アジア文化論

呉 曉林

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は東洋と西洋の文化交流を凝縮している世界文化遺産、名所旧跡などの映像資料を題材とし、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域的生活習慣、衣食住、宗教と文字の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とします。

特に漢字文化圏に属する中国、日本、朝鮮半島の交流について考察を行います。

【到達目標】

学生が様々な文化的現象について学習と議論を通して期末個人学習発表会で自ら見解を述べられることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムにアップした授業資料（PPT）の学習、対面講義、映像資料の視聴と期末学習発表で構成されます。

NHKスペシャル番組など映像資料を見もらい、種々の文化現象を簡潔に解説します。異文化との交流と文化摩擦の問題について考えます。

映像資料を単に視聴するだけではなくメモを取り、期限内に内容の要約や感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。今回の授業でレポート課題について簡潔に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	映像「縄文遺跡の巨大集落」、『弥生人DNAで迫る日本人の起源』
第2回	世界遺産と中華の源流	映像と講義 NHKスペシャル『中国文明の謎』：二里頭遺跡と殷墟（宮廷儀式と漢字の誕生）
第3回	世界遺産と中国の世界観	映像と講義 NHKスペシャル『中国文明の謎』：兵馬俑・始皇帝と中国の統一
第4回	文化の保護・継承と伝播	映像と講義 二つの故宮（北京と台北）とコレクション
第5回	日本と中国の文化交流	映像と講義 NHKスペシャル「壁画の旅を行く」「クチャ音楽の旅」
第6回	文化交流の壮大なルート：シルクロード、アイアンロードと茶馬古道	講義と映像 陸のシルクロード、中央アジアの製鉄技術と周辺への伝播、お茶と馬の交易ルート

第7回	人物と日中文化交流：鑑真和尚と唐招提寺	講義と映像 正倉院コレクション、唐招提寺大改修と新発見
第8回	仏教ロード	映像と講義 仏教の誕生と仏教伝来の道（インド・中国・大韓民国）
第9回	文化交流と創造：遣唐使・空海と東寺	映像と講義 NHKスペシャル 空海の留学・人生・宗教観
第10回	海のシルクロード：陶磁器の道	講義と映像 NHKスペシャル 磁器と韓国・日本・イラン・ドイツ
第11回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論
第12回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論
第13回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論
第14回	学習発表と討論	学生が自らテーマを選び5分～8分ほどの映像動画を作成して発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回、授業資料（PPT）の閲読、映像資料を視聴して重要なポイント（事項、年代、人物）などのメモを取り、期限内に内容の要約と感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

岡本隆司（2019）『世界史とつなげて学ぶ中国全史』、鹿本隆司（2021）『中国史とつなげて学ぶ日本史』、いずれも東洋経済新報社。
NHK取材班（2012）『中国文明の謎－中国4千年の始まりを旅する』NHK出版
鈴木薫著（2018）『文字と組織の世界史：新しい「比較文明史」のスケッチ』山川出版社
特に購入することを要求しません。

【参考書】

NHK取材班（2012）『中夏文明の誕生－持続する中国の源を探る』講談社

【成績評価の方法と基準】

レポートなどの平常点（40%）、個人学習発表（40%）、期末レポート（20%）を合計総合して評価します。

①授業のレポート

②学習発表PPT

③最終レポート（学習発表PPTを添削して自分の感想や発見を加え、アジア文化交流の特徴や成果について記述したもの）
注意：期末レポートの提出は最終評価する上で不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムの「教材」は学習テーマの予備知識として用意されたもので、映像資料の内容の理解に役立ちます。ぜひ目を通しておいってください。
レポートの作成は大変だったのか？ 受講者にアンケートを取ったところ、慣れれば特に負担にはなりません。視聴した内容について、メモを取る力、要約する力、自分の意見を述べる力のトレーニングになったとの声が多かった。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、また視聴学習の際にメモを取り、授業終了後にレポートを提出してもらいます。

【その他の重要事項】

プロジェクター、DVDを使用する。

【Outline (in English)】

This course focuses on the world cultural heritage and people of Asian countries and discusses cross-cultural exchanges. By the end of the course, students are expected to express their own views in an individual learning presentation through learning and discussions on various cultural phenomena. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Scores will be based on short reports (20%), presentations (40%) and final report (40%).

ヨーロッパ・アメリカ文化論

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民や奴隷貿易などの人の移動の結果、米国（アメリカ合衆国）には、世界中の様々な土地にルーツをもつ人々が暮らしています。そのことにともなう文化の多様性や多文化性は米国社会の根幹をなし、そのような社会で人々が互いに、また国家とどのような関係を取り結んできたかは、米国の歴史に一貫するテーマのひとつです。この授業では、米国社会のそのような側面に光をあてて学びます。その際、人種・民族による不平等や差別と、それに対して自由と権利を求める抵抗とのせめぎ合いに着目します。これらは米国の歴史を知るために重要であるだけでなく、私たちが生きている社会について、また世界のあり方について、考える手がかりともなることでしょう。

【到達目標】

- ・多様な人々が暮らす米国の歴史と現状を理解する。
- ・権利や自由、また人種や民族／エスニシティについての理解を深める。
- ・歴史的背景を踏まえて、史料を正確に読む方法を学ぶ。
- ・現在の社会について批判的に考える習慣をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	一学期を通じての流れや評価についての説明
2	人種（race）と民族（ethnicity）、アメリカにおける移民と国籍	人種や民族、国籍といった基本的概念について学ぶ
3	ヨーロッパ世界とアメリカ世界の出会い	独立革命までの米国の歴史と人の移動について考える
4	市場革命とアメリカ合衆国の拡大	19世紀前半の米国の人の移動について考える
5	南北戦争と再建期	19世紀後半までの米国の人の移動について考える
6	「金ぴか時代」と大量移民	19世紀末～20世紀はじめの、「大量移民」と呼ばれる人の移動について考える
7	対先住民戦争と海外膨張	米国内外での植民地主義と人の移動について考える
8	ふたつの世界大戦とアメリカ社会	第一次・第二次世界大戦の影響を、人の移動から考える
9	第二次世界大戦後のアメリカ社会	20世紀後半の米国における移民の動向の変化について考える
10	ポスト公民権期における人種	20世紀後半の米国における人種概念の変化について考える

11	ブラック・ライヴズ・マター運動と制度的人種主義（システム・レイシズム）	現在の米国社会における人種主義について考える
12	非正規移民をめぐる状況	現在の米国社会での非正規移民をめぐる状況について考える
13	まとめ	今学期の授業のまとめをおこなう
14	まとめと期末試験	期末試験を実施し、授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んできてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編著『よくわかるアメリカの歴史』（ミネルヴァ書房、2021年）
 和田光弘『植民地から建国へ』（岩波新書アメリカ合衆国史（1）、2019年）
 貴堂嘉之『南北戦争の時代』（岩波新書アメリカ合衆国史（2）、2019年）
 中野光太郎『20世紀アメリカの夢』（岩波新書アメリカ合衆国史（3）、2019年）
 古矢旬『グローバル時代のアメリカ』（岩波新書アメリカ合衆国史（4）、2020年）
 ほか、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %
 毎回のリアクション・ペーパー 20 %

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】

授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Since the United States is home to people whose ancestors came from around the world. This lesson will shed light on the racial, ethnic, and cultural diversity in American history. It focuses on racial and ethnic inequality and discrimination, and the numerous acts to change society for the cause of freedom and human rights.

【Learning Objectives】

As the students learn the history and current features of the United States, they deepen their understanding of race and ethnicity and of freedom and human rights. They also learn to read historical materials, both texts and statistical data.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the assigned material before the lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated based on the final exam (80%) and minute papers assigned every week (20%).

アフリカ文化論

大形 いずみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフリカの多様な文化・社会・歴史等について、基礎的理解、現代課題、未来との関わりの視点から紹介します。学生は、学ぶことを通じ、アフリカの多様性・複雑さを理解して固定観念を取り払い、社会の多様性や繋がりを認識できるようになることを目的とします。

【到達目標】

「アフリカ」とひとくくりで語れないことを、自分の言葉で述べるができるようになること、また、日本や自分の専攻分野が「アフリカ」を含む諸外国、特に開発途上国とどのように関連しているのか、関連しうることがあるかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面の講義形式を基本とします。場合によりオンラインとすることもあります。テーマによって実務経験豊富なゲストスピーカーを招いたり、グループワークを取り混ぜたりして、双方向型の授業を実施し、受講生同士で議論することで一層理解を深められるよう工夫します。

授業の初めには、前週の学生からのコメントを紹介して、履修者で共有・復習をしてから、その日の授業を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ：授業紹介	講義の目的・進め方の説明。また、個人orグループワークを通じて（受講生数に応じて決定）、受講生が有するアフリカのイメージを確認します。
第2回	基礎理解編(1) 「一つのアフリカ」は存在しない	歴史的背景、植民地支配の影響、多言語国家、民族・宗教の分布等多様性を可視化して概観します。
第3回	基礎理解編(2) ひとつの国の中の多様性を知る	モザンビークの事例をもとに、多民族国家の特徴、強み、課題などを学びます。
第4回	基礎理解編(3) 食文化から見るアフリカ	アフリカの主食や料理の特徴、ローカルマーケット、宗教と食、グローバル化による食文化の変化や、食文化に通ずる家族観や人々の生活について学びます。
第5回	個人orグループワーク①	自分が面白いと思ったアフリカの側面を選び、個人orグループにて議論・発表を行ってもらいます（発表方法は受講生の人数を踏まえて指示します）。
第6回	現代課題編(1) 都市化、ICTの発展がもたらす変化	都市化と社会・生活の変容、都市と農村の格差、またICTの発展がもたらす社会的、経済的変化等について学びます。

第7回	現代課題編(2) アフリカにおけるジェンダー、若者	ジェンダー規範や格差・特徴、女性のエンパワメント・社会進出、若者が置かれた状況等について学びます。
第8回	現代課題編(3) 人と物の流れから見るアフリカ	歴史的な動き、また現在も起きている紛争に伴う難民・移民問題等、国内外に移動する人々や、物の流れ等を学びます。
第9回	未来と関わり編(1) グローバル化や気候変動の影響	グローバル化においてアフリカが注目される理由や課題、またグローバル課題である気候変動が社会に与える影響等を学びます。
第10回	未来との関わり編(2) アフリカと日本の関係	日本とアフリカ諸国の外交・経済交流の現状や、日本ODA、民間企業に期待される役割等についての知識を得ます。
第11回	未来と関わり編(3) 社会経済課題の解決に繋がる技術協力	社会課題の解決に向けた技術協力の事例を紹介します。
第12回	未来との関わり編(4) 専門分野とアフリカを結ぶ：個人orグループワーク②	学生の専攻分野と「アフリカ」とのつながりについて意見交換をします。グループワークの方法は受講生の人数を踏まえて指示しますが、スライド、新聞／ネット記事、動画等を作成、提出・共有することを想定しています。
第13回	個人orグループワーク②（継続）	個人orグループワーク行います（継続）。発表資料の作成に加え、教員によるフィードバックを行うことに加え、必要に応じた追加情報・事例等を紹介します。
第14回	個人orグループワーク発表&まとめ	個人orグループによる発表、及び講義全体の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。学生の皆さんには、授業で興味をもったことや疑問に思ったことについて、自分で調べることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

毎回、ハンドアウトを配布して授業を行います。

【参考書】

『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社（2023/4/17）

『アフリカレポート No.60-63』アジア経済研究所

アフリカレポート - アジア経済研究所

その他、個々の地域や映像作品等に関する参考資料は授業内で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30%（授業終了後のリアクションペーパー10回以上の提出で満点）

・個人orグループワーク①の成果（発表及び成果物の提出）：30%

・個人orグループワーク②の成果（発表及び成果物の提出）：40%
成果物は、スライド、新聞／ネット記事、動画等を想定しています。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

・対面を基本としますが、オンライン授業とする場合もありうるため、オンライン授業を受けるのに必要なカメラ・マイク付きのPCを各自で用意してください。

・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

・長年、アフリカを含む世界各国の国際協力の現場で実務を行ってきた教員が、現地の経験をもとに、講義を行います。

・シラバスの順番の入れ替え、講義内容についての微変更が生じることがあります。

・個人orグループワークは受講生数によって決定します。同ワークは成績評価の必須条件です。やむをえない事情によってグループワークの授業を欠席する場合は、グループのメンバーと各自で連絡を取ってください。

・5回以上欠席すると単位修得が不可となります。遅刻2回で欠席1回とします。

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。

受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

The aim of the class is to recognize and understand the diversity and complexity of Africa and to break down stereotypes exist. At the end of the course, students are expected to be able to describe "Africa" with their own words, and to find out how Japan and his/her field of study can be related/contribute to "Africa".

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content. Students are encouraged to do their own research on what interests them or questions they have in class.

The final grade will be evaluated based on 1) submission of reaction papers in the class (30%), 2) submission of individual or group work 1 (30%), and 3) submission of individual or group work 2 (40%)

HIS100LC (史学 / History 100)

比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について 1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について 2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について 3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化 1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化 2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性 1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性 2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文等を書く（週4時間程度）

【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

映画やドラマなど、色々なジャンルの作品をできるだけ使いたいと思います。授業内容と関連しそうな作品のリクエストを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器 筆記用具

【その他の重要事項】

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jpに御願います。

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。

受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC (史学 / History 100)

比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について 1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について 2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について 3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化 1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化 2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性 1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性 2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文等を書く（週4時間程度）

【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

映画やドラマなど、色々なジャンルの作品をできるだけ使いたいと思います。授業内容と関連しそうな作品のリクエストを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器 筆記用具

【その他の重要事項】

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp

に御願います。

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。

受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

国際関係論

福島 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際関係論について、とくに「人間の安全保障」という観点から講義を行います。その際、単なる現状分析を一方的に伝えるのではなく、様々なジャンルの資料（報道、評論、研究論文、文学作品、視聴覚メディア）等をできるだけ多く使うことで、受講生の理解が多角的なものとなるよう工夫します。「人間の安全保障」という考え方について、自らの専攻分野と関連付けながら説明できるようにすることがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ・国際関係論の大枠を理解し、「人間の安全保障」という考え方について自分の言葉で説明することができる。
- ・指定された文献をグループで読み込み、分析することができる。
- ・指定された文献をもとにした、短いプレゼンテーションや動画、スライド、ポスター等を作成することができる。
- ・文献情報を批判的に他者に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン環境での授業です。学習支援システム、チャット機能、グループ機能等を用いて、双方向授業を行います。受講生はただ講義を聞くだけでなく、自らの言葉で発表や討論をする必要があります。また、授業時間外にもグループで連絡を取り合い、事前・事後学習を共同で行う必要があります。リアクションペーパー提出や課題等については、授業中に紹介し、フィードバックを行います。また、課題に対しては、ディスカッションの中で参加者による意見交換を行うほか、教員による講評もお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入：「人間の安全保障」とは何か？	国際関係論について、受講者の認識を相互に確認し、授業への導入とする。グループを決め、グループワークの準備を行う。
第2回	国際法とは何か	「脆弱な人々」を保護する枠組みとしてどのような法的枠組みがありうるのか考える。
第3回	平和とは何か	アフリカにおける平和活動の事例をもとに「平和」をめぐるどのような問題系があるのか学ぶ。
第4回	グループワーク（1）	「農業開発」にかんする文献を読み、グループで発表する。
第5回	国際協力とは何か	国際協力について、文献をもとに学ぶ。
第6回	教育とは何か	移民の子どもに対する教育の事例をもとに、教育と多様性について学ぶ。
第7回	「敵」とは何か	「敵」という考え方がいかに言葉によって構築されているか学ぶ。
第8回	グループワーク（2）	人間の安全保障に関する文献をもとにグループ発表を行う。

第9回	犠牲者ナショナリズムとは何か	犠牲者ナショナリズムについて、「歴史」という観点から学ぶ。
第10回	物語とは何か	人々の連帯意識を醸成する要素としての「物語」について学ぶ。
第11回	尊厳とは何か	自然災害における被災者の尊厳について学ぶ。
第12回	グループワーク（3）	人間の安全保障に関する文献をもとにグループ発表を行う。
第13回	記録とは何か	公害問題における「記録」と「記憶」にかんして文献をもとに学ぶ。
第14回	授業のまとめ	グローバル化時代における「人間の安全保障」について調べ、議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

授業時間外に、グループのメンバーと連絡を取り合い、事前調査や発表資料の作成を行なってください。なお、授業時間外のグループ学習はこの授業の重要な要素です。必ず受講生同士で連絡を取り合い、学習をするようにしてください。

【テキスト（教科書）】

阪本拓人／キハラハント愛『人間の安全保障』東京大学出版会、2024年、3200円＋税。

【参考書】

長有紀枝『入門 人間の安全保障』中央公論新社、2021年、990円＋税。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％（毎回、200文字程度のコメントシートを授業後に提出してください。このコメントシートの提出が10回以上あることが成績評価の必須条件です。）

グループワークの成果60％（3回のグループワークをそれぞれ20点満点で評価します。グループワークの成果とは、共同作成したスライドや動画、ポスターなどを指します）

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ですが、ディスプレイ越しの講義だけで完結しないよう心がけます。具体的には、事前学習や事後学習をできるだけグループで行なってもらうことで、受講生が自ら考え、自らの言葉で思考を表現する機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業に参加するためのカメラ・マイク付きPCを各自で準備してください。
- ・資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

【注意】この授業は、グループワークが非常に重要です。受講生は相互に連絡を取れるよう工夫してください。

【Outline (in English)】

This course examines international relations, with particular emphasis on the concept of “human security.” Rather than presenting a one-sided analysis of current conditions, it employs a wide range of materials — such as news reports, critical essays, academic articles, literary works, and audiovisual media — to foster a multidimensional understanding among students.

The aim of the course is to enable students to explain the concept of “human security” in relation to their own fields of specialization.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Students are also required to work in groups.

The final grade will be based on the submission of the comment sheet (40%) and the results of the group work (60%).

ECN100LC（経済学 / Economics 100）

基礎経済学

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として日常生活・家計の管理、また近い将来の就職、仕事などにおいて、経済学的教養と知識は不可欠であります。経済学を勉強したい、または経済や経営のことを知りたいと思っている学生を対象とする入門の授業です。

受講者が講義と読書を通して、限られた資源の効率的配置を考えるミクロ経済学の基本的な命題、一国の経済全体の機能を考えるマクロ経済学の基本的な枠組みを学び、経済学的な物事の考え方を理解できるように進めます。

【到達目標】

受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は講義と読書を二本柱とします。

講義では経済学の基本原理、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な概念と考え方を解説し、それを応用して日常生活のなかの経済現象を共に考えていきます。

読書は基礎知識の理解を深めるのに不可欠です。受講者が負担にならないように世界的に読まれている標準的な教科書－『アセモグル・レイブゾン・リスト入門経済学』を使用します。毎回、一つのテーマについて前半は講義で基本的な概念と考え方を解説し、後半は選択肢問題、応用問題を解いてもらい、理解を深めるように取り組んでいきます。イーラーニングサービスを利用して問題を解いて学習の理解度の向上を図ります。受講者はPCだけでなく、スマホやタブレットでも利用が可能で、いつでもどこでも学生はテストを受けることができます。イーラーニングシステムで課題の完成度についてチェックして次の授業で問題点を取り上げて解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ経済学が必要なのか? D V D 経済学のセンス－「サンクス」「機会費用」「インセンティブ」
第2回	1. 経済学の原理・実践・方法	三つの重要な概念：「最適化」、「均衡」、「経験主義＝データを使った分析」
第3回	最適化：最善を尽くす	実現可能な最善の選択肢、費用便益分析
第4回	需要、供給と均衡	市場と競争、需要曲線、供給曲線、均衡価格人と企業を動かす価格の影響力について
第5回	II ミクロ経済学の基礎：消費者とインセンティブ	II ミクロ経済学の基礎 消費者とインセンティブ
第6回	生産者とインセンティブ	売り手の選択、供給曲線、生産者余剰、企業から市場へ長期的均衡

第7回	完全競争と見えざる手	完全競争と効率性、見えざる手の及ぶ範囲：個人から企業へ、産業間の資源配分、公平性と効率性
第8回	貿易	生産可能性曲線、貿易の基本：比較優位、国際貿易、反貿易の根拠
第9回	III. 国の富：マクロ経済全体を定義して測定する	マクロ経済の問題、国民経済計算：生産＝支出＝所得 GDP（国内総生産）の構成要素と測定、実質GDPと名目GDP 世界の経済格差、生産性と集計的生産関数、技術の役割と決定要因
第10回	総所得	平均的アメリカ人が平均的インド人よりずっと豊かな理由は何か？
第11回	雇用と失業	雇用と失業の測定 労働市場の均衡 失業はなぜ起きるのか？ ジョブ・サーチと摩擦的失業 賃金の硬直性と構造的失業 銀行と金融仲介機関：需要と供給を合わせて考える 貨幣・物価・G D P・インフレーション
第12回	クレジット市場と金融システム	景気変動と景気循環 マクロ経済均衡と景気変動 経済モデルの拡張 景気後退はなぜ起きるのか
第13回	景気変動	経済学の基本的な考え方や心得について振り返って記述する。
第14回	振替レポート	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書を通読することを薦めます。授業開始後、イーラーニングの登録を行い、練習問題を解いて学習の理解度を図ってください。

【テキスト（教科書）】

岩本康志監訳・岩本千晴訳『アセモグル・レイブゾン・リスト入門経済学』（東洋経済新報社）
書籍代が少し高いですが、非常に良質な本です。キーワードは日本語と英語が併記しており、十分に購入する価値があります。

【参考書】

井堀利宏著『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA（2016）
伊藤元重著『入門経済学第3版』日本評論社（2009年）
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014年）
飯田泰之著『経済学思考の技術－理論・経済理論・データを使って考える』ダイヤモンド社（2008年第10刷）

【成績評価の方法と基準】

通常の場合は演習課題など(80%)、期末レポート(20%)を合点して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

イーラーニングの登録を怠らないでください。授業支援システムで案内する課題の提出期限をきちんと守って、課題を完了しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを持参してください。

【その他の重要事項】

授業中の私語、またスマートフォンによるゲーム遊びなどを禁止

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。

受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand the fundamental principles of microeconomics, which focuses on the efficient allocation of limited resources, and the basic framework of macroeconomics, which examines the functioning of an entire economy, through lectures and readings. Students will enhance their understanding by solving problems and aim to achieve the ability to explain economic issues in society, as well as daily economic articles and news. Grades are based on the quality of the lab report (80%) and the final report at the end of the term (20%). Students are required to read through the textbook before class and complete the practice exercises on e-learning after class.

応用経済学

王 娜

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、データサイエンスの基礎として、統計学や計量経済学の手法を活用した経済データの分析方法を学びます。また、Excelを用いた基本的なデータ処理技術を習得することで、実践的なデータ分析スキルを向上させることを目指します。
※本年度は、対面授業とZoomを利用したリアルタイム形式を併用して実施します。詳細については、学習支援システムのお知らせをご確認ください。

【到達目標】

本授業では、以下の目標を達成することを目指します：

1. 統計学や計量経済学の基本的な考え方を理解し、データ分析の基礎的な知識を習得できる。
2. パソコン上でExcelを用いて経済データを効果的に分析できる。
3. 分析結果を適切にグラフや表として可視化し、調査レポートとしてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・講義の前半では、当日扱う分析手法やデータについて解説を行い、基礎的な理論や操作方法を学びます。
- ・講義の後半では、Excelを用いた演習を実施し、実際に与えられた課題を各自で解いてもらいます。
- ・毎回の授業終了直前に、授業内容や演習課題に関する小テストを提出してもらいます。提出された小テストに対しては、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelの基本操作
2	表とグラフの作成	・データベースの作成と利用 ・データの表・グラフ作成
3	データ分析の基礎(1)	・時系列データの分析 ・比率、指数、変化率
4	データ分析の基礎(2)	・横断面データの分析 ・寄与度と寄与率
5	一つの変数による記述統計(1)	・度数分布表 ・ヒストグラム
6	一つの変数による記述統計(2)	・代表値（平均値、中央値、最頻値） ・分散と標準偏差
7	二つの変数による記述統計(1)	・散布図 ・共分散 ・相関分析
8	二つの変数による記述統計(2)	・回帰分析 ・最小2乗法と決定係数
9	データからの統計的推定・仮説検定(1)	・母平均の区間推定 ・母分散の区間推定
10	データからの統計的推定・仮説検定(2)	・母平均の検定 ・母分散の検定

11	データ分析の実践(1)	・相関分析 ・回帰分析
12	データ分析の実践(2)	・t検定 ・独立性の検定
13	計量経済分析	・重回帰分析 ・ダミー変数を用いた回帰分析
14	公的統計の活用	・国民経済計算とGDP統計 ・移動平均による季節変動の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの該当箇所を十分に読み込んでください（標準2時間）
復習：講義で扱った演習問題を繰り返し練習し、理解を深めてください（標準2時間）

【テキスト（教科書）】

山下隆之ほか（2022）『はじめよう経済学のための情報処理—Excelによるデータ処理とシミュレーション（第5版）』日本評論社。
※テキストの購入は不要です。授業前に、授業支援システムを通じてアップロードされるPDFファイルを各自ダウンロードしておいてください。

【参考書】

経済データ分析の参考書として以下をオススメします。
・情報処理演習教材作成委員会（2021）『はじめて学ぶ経済系のデータ分析（第3版）』学術図書出版社。
・隅田和人ほか（2020）『ExcelとRではじめるやさしい経済データ分析入門』オーム社。
・橋本紀子（2013）『Excelで読み取る経済データ分析』新世社。
計量経済学の参考書として以下をオススメします。
・小巻泰之・山澤成康（2018）『計量経済学15講』新世社。
・山本拓・竹内明香（2013）『入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド』新世社。

【成績評価の方法と基準】

①平常点および小テスト・課題（40%）
②期末レポート（60%）
※欠席回数が5回に達した場合、またはレポートを未提出の場合、成績評価の対象外となります（単位不認定）。
※レポート等を提出する際には、教科書、参考書、インターネット上の情報などを出典を明記せずに丸写しやコピー＆ペーストした場合、該当受講生の点数は0点とします。

【学生の意見等からの気づき】

課題の評価方法については、より工夫を凝らし、学生の学習成果を適切に反映できるよう改善を進めてまいります。また、質疑応答や小テストを効果的に活用し、学生の理解度を的確に把握しながら、柔軟な授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でExcelを使ったデータ分析の演習を行うため、各自でPC環境（Windows推奨）およびインターネット接続環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

経済学の基礎知識の有無は問いませんが、最低限、Excelの基本操作（データの入力、コピー＆ペースト、保存など）ができることが望ましいです。また、受講生の理解度や要望に応じて、講義内容を変更する場合があります。

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。
受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。
病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides a guideline for studying basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered through practical exercises using a PC and statistical software (MS Excel).

Goal: Students will acquire the basic knowledge of statistics and econometrics and develop practical data-analysis skills using MS Excel.

Work to be done outside of class : Students are expected to spend approximately four hours per week on preparation and review.

Grading: Class performance including quizzes and assignments (40%), and final report (60%).

MAN100LC (経営学 / Management 100)

企業マネジメント

坂 裕和

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は多くの企業の様々な活動によって支えられている。この授業の目的は、現代社会における企業の役割を認識するとともに、企業活動におけるマネジメントの重要性について理解を深めることにある。

なお、企業におけるマネジメントの研究は経営学の分野であるが、経営学だけでなく経済学や法学（主に会社法や労働法）などの分野からもアプローチすることにより、社会人になっても役立つような幅広い知識の習得を目指したい。

【到達目標】

企業とは何か、企業活動とは何か、企業を動かすということはどういうことかなど、企業について様々な方面から考察し、そこで行われるマネジメント活動を理解することを到達目標とする。具体的には、企業におけるマネジメントの重要性、経営の意思決定、経営管理、組織・人材・資金、人々の働き方やモチベーションなどについて理解することができる。

なお、教員は、上場企業の組織内弁護士であり、ガバナンスや内部統制を担当する執行役員である。そのため、企業経営における意思決定プロセスはもちろんのこと、特に最近議論が高まっているコーポレートガバナンス、コンプライアンス、リスク管理、サステナビリティなど今日企業が取り組むべき経営課題について、企業経営の最前線の視点からの理解を深めることができるほか、法令諸規則との関係や実務的な観点も学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面の講義形式の授業とし、授業計画に従って進めていく。授業時には各回のテーマに従って教員作成の資料を配布する。具体的なテーマは、企業マネジメントと経営学・企業の定義、企業経営と経済、株式会社の仕組み（会社法、労働法）、マネジメント・リーダーシップ、経営組織論、人的資源管理論、ワークモチベーション・キャリアデザイン、経営戦略論、企業会計・財務戦略、企業が取り組むべき課題などである。

また、理解度を確認するため、前回授業内容の復習テストを実施するほか、小テスト等を実施する。復習テスト及び小テストについては解答及び解説を配布するとともに、回答の分析を行い、誤りが多かった設問については授業内でポイントを解説する。

なお、授業に関する情報は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに／企業マネジメントと経営学・企業の定義	本授業を概観するとともに、本授業のテーマである企業におけるマネジメントについて解説する。
第2回	企業経営と経済	企業とはどのような存在なのかを理解するとともに、企業経営と経済の関係について解説する。

第3回	株式会社の仕組み～株式会社の概要～	企業の代表的形態である株式会社について、主に法律面から解説するとともに、上場・非上場、大企業・中小企業の違いについて理解する。
第4回	株式会社の仕組み～株式会社の構成するモノ～	株式会社における機関、取締役等の役員が果たすべき義務とその責任、役員と従業員の違いについて理解する。
第5回	企業経営とマネジメント・リーダーシップ	企業活動におけるマネジメントの重要性・リーダーシップの重要性を解説する。
第6回	経営組織のマネジメント	経営学の重要なテーマである経営組織論及び企業の具体的な経営組織を紹介する。
第7回	人材戦略のマネジメント	人的資源管理論について解説し、日本企業における人的資源管理について、実際の人事制度や企業と人との関係について紹介する。
第8回	ワークモチベーションとキャリアデザイン	マネジメントの重要な課題であるワークモチベーションと自らキャリアをデザインすることの重要性を認識する。
第9回	企業戦略のマネジメント～成長戦略～	企業戦略について概観するとともに、成長戦略の理論を紹介する。
第10回	企業戦略のマネジメント～M&A戦略～	企業戦略の中でも、特に近年、活発に行われているM&A戦略について解説する。
第11回	企業会計と財務戦略	企業会計や財務諸表の基本的事項及び企業の資金調達について解説する。
第12回	企業業績と株式市場	企業活動の成果（経営者の定量的成績評価）である企業業績について解説するとともに、株式市場について概観する。
第13回	企業が取り組むべき課題	現代企業の課題（コーポレートガバナンス、内部統制、企業の社会的責任（CSR）、サステナビリティ等）について概観する。
第14回	これからの企業経営	これからの企業経営について解説し、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は4時間を標準とする】

◆原則として授業日の2日前に授業で使用する資料を配布する。資料を熟読の上、授業に参加してほしい。特に、専門用語等については事前に調べておくことが望まれる。

◆また、理解度を確認するために、小テストを実施することとする。

◆なお、授業では企業に関する今日のテーマも取り上げるので、企業活動に関する新聞、テレビの報道やインターネットの情報などを通じて、企業についての理解を深めることにも取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業の進捗に合わせて教員作成の資料を適宜配布する。

【参考書】

◆授業全体の基本書として、中山健・丹野勲・宮下清「新時代の経営マネジメント」（創成社、2018）を薦める。他に、吉沢正広編著「実学 企業とマネジメント」（学文社、2018）あるいは十川廣國「経営学入門（第2版）」（中央経済社、2013）なども良い。

◆なお、入門書としては、遠藤功「企業経営の教科書」（日経文庫，2021）が役に立つ。

◆また、授業のテーマに応じた参考書を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験の結果をベースに、平常点、小テスト等の状況も踏まえて最終評価とする。

配分は、期末試験＝60％，平常点＝20％，小テスト等＝20％とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が多いため教員からの一方的な講義になりがちであるが，そうならないよう，授業中に簡単なアンケートや小テストを行ったり，授業テーマに関連したレポートを課すこと等によって，学生が考える時間をとることで授業への積極的な参加を促していきたい。

また，学生にとって身近な企業や最新のニュースを取り上げることで，興味、関心を高めていきたい。

【その他の重要事項】

授業は，大学側から特段の指示がない限り，対面の授業とする。

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。

受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

Modern society is supported by various activities of many companies. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the role of companies in modern society and the importance of management in corporate activities.

Research on management in companies is in the field of business administration, but by approaching not only business administration but also economics and company law, you can acquire a wide range of knowledge that will be useful even if you become a member of society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

The grading criteria is as follows.

Final exams (60%) , class participation (20%) , reports and quizzes (20%) .

POL100LC (政治学 / Politics 100)

現代政治学

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

米国の核兵器を開発し、広島・長崎に原爆を投下してから80年以上が経ちました。この間、実戦でふたたび使用されることこそなかったものの、核兵器は人類に対する脅威であり続け、国際情勢が緊迫すると核による威嚇が繰り返される状況は現在でも変わりません。この間、日本社会では広島・長崎の原爆被害や核兵器についてどのような認識があったのでしょうか。何が知られ、何が知られてこなかったのでしょうか。「悲惨なできごと」「日本人として記憶すべき歴史」と考えられるようになったのはなぜでしょうか。「原爆被害を継承する」とはどのような意味を持つのでしょうか。この授業では、こうした問いを歴史的背景に基づいて考えます。

【到達目標】

- ・広島・長崎の原爆被害や核兵器について、日本社会ではどのような考えが見られたきたのか、その歴史を知る。
- ・歴史的背景を踏まえて、史料を正確に読む方法を学ぶ。
- ・現在の社会について批判的に考える習慣をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	一学期を通じての流れや評価について説明する
第2回	空爆の歴史	原爆投下を、空からの爆撃の歴史に位置づけて考える
第3回	第二次世界大戦と原爆	第二次世界大戦下での、原爆の開発・投下の歴史的背景を考える
第4回	冷戦と核軍拡	第二次世界大戦後の冷戦下で核軍拡が進んだ経緯について考える
第5回	被爆者運動の歴史	被爆者運動が日本や世界の核意識に与えた影響について考える
第6回	証言を受け取ること	被爆体験を証言すること、証言を聞く・読むことはどのような行いか、考える
第7回	広島＝「平和都市」？	「平和都市ヒロシマ」というイメージが形成された過程を探る
第8回	グローバル・ヒパクシャ	核兵器の製造・実験による被害のグローバルな広がりについて考える
第9回	移民の歴史と原爆	原爆被害をめぐる歴史と、移民の歴史との関わりについて考える
第10回	原爆と原発	核エネルギーの軍事的・非軍事的利用の関わりについて考える

第11回	ポピュラーカルチャーのなかの原爆	原爆被害や核エネルギーをめぐるさまざまなイメージについて考える
第12回	記憶と継承	原爆被害を記憶し、継承するとはどのようなことか、考える
第13回	まとめ	今学期の授業のまとめをおこなう
第14回	まとめと期末試験	期末試験を実施し、授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】予習課題として新聞記事や書籍の一部などの資料を配布します。授業は受講生が資料を読んでいることを前提に進めます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

荒井信一『空爆の歴史：終わらない大量虐殺』（岩波新書、2008年）
宇吹暁『ヒロシマ戦後史 被爆体験はどう受けとめられてきたか』（岩波書店、2014年）

太田昌克『日米<核>同盟——原爆、核の傘、フクシマ』（岩波新書、2014年）

ロバート・A・ジェイコブス『グローバル・ヒパクシャ』（名古屋大学出版会、2025年）

直野章子『原爆体験と戦後日本——記憶の形成と継承』（岩波書店、2015年）

濱谷正晴『原爆体験 六七四四人・死と生の証言』（岩波書店、2005年）

山本昭宏『核と日本人——ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ』（中公新書、2015年）

アンドリュー・J・ロッター『原爆の世界史：開発前夜から核兵器の拡散まで』（ミネルヴァ書房、2022年）

ほか、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%

毎回のリアクション・ペーパー 20%

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】

テーマの性質上、死や心身の痛みに関する議論や表現を扱うことがあります。必要な最小限にとどめるつもりですが、あらかじめ了解してください。また、履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

More than eighty years have passed since the United States developed the first nuclear weapons and dropped them on Hiroshima and Nagasaki. Since then, even though nuclear weapons have not been used again in a war, they have continued to pose a threat to humanity, and nuclear intimidation has repeatedly been employed when international tensions rise.

How has Japanese society understood the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki and nuclear weapons? What has been known, and what has been missed in our understanding? Why have Hiroshima and Nagasaki come to be regarded as “tragic occurrences” and as “history that should be remembered by the Japanese people”? What does it mean to “pass on the memory of atomic bombing”? In this course, we will examine these questions based on their historical background.

【Learning Objectives】

- Students will acquire an understanding of the diverse perspectives on the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki and on nuclear weapons in Japanese society.
- Students will develop the ability to read and analyze historical sources accurately by situating them within their historical background.
- Students will develop the ability to think critically about contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the assigned material before the lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The final grade will be calculated based on the final exam (80%) and minute papers assigned every week (20%).

CAR100LC（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアデザイン

斎藤 真一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインとは、「まず自分自身を理解し、自分の生き方・働き方について、職業のみならず、人生の様々な場面、機会にとらえ直し、今後の方向性を検討したり、自らをデザインしていくこと」である。キャリアデザインを実感、体感をするため、ディスカッションを多く取り入れている。これまでの授業アンケートでは、次のようなコメントが寄せられている。①違う学科の方と話すことができるよい機会があり、社会に対して、同世代がどのような考えを持っているかを知ることができる。他の授業ではあまり意見の交換ができないがこの授業では意見交換ができる点が嬉しい。将来について、今後の生き方について考えさせられるとともに、人生について大きなヒントをもらえる。今後の人生に大事な点かつ今まで教わったことがないことを学べる。自分自身を客観的に見つめ直す良いきっかけになる。将来のことについて、今何をすべきかを考えるようになる。今後の人生への行動意欲が上がる。②自分に求められている意見や率直に感じたことを相手に伝えるように発言するしたり、自分の考えを整理して口に出す練習ができる。③現在、何をしたいかわからない人、将来のことを考えたことがない人、今の自分に自信がない人に勧められる。④他人の価値観や考え方を聞き、取り入れることで自分の考えが深まり、物事の捉え方や視野が広がる。以上のようなことを期待する学生の履修を望む。特に1，2年生の履修を期待する。

【到達目標】

キャリアデザインを考える上で、次の3つの視点、1)「自分を知る」、2)「発達課題を考える」、3)「キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る」を通じて、学生自身の考えを構築し、自ら実践できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【対面授業8回&オンライン授業6回（Zoom使用）で実施】：第1回、第4回、第6回、第8回、第10回、第11回、第13回、第14回は対面授業、資料は当日配布。オンライン授業の場合は、講師が次の資料を事前にアップロードし、その資料を受講者が毎回の授業前にダウンロードして準備することが必要である。オンライン授業でのグループ・ディスカッションはZoomのブレイクアウトルーム機能を使用する。講義はあるが、グループ・ディスカッションが主体の授業になる。グループ・ディスカッション後の「気づき」を大切にする。受講者は働く人への「キャリアインタビュー」（第4回に実施要領を説明）を行い、第10回、第11回がその発表となる。受講者数により発表時間は相違し、第12回もキャリアインタビューの発表になる場合がある。※毎回の授業後の振り返りとして、「今日の気づきシート」の作成（100字以上250字以内）がある。「学習支援システム（WebClass）」のレポート課題に「今日の気づきシート」のワード形式のファイルを講師がアップロードする。このファイルを受講者がダウンロード後に記入し、アップロードする。提出された「今日の気づきシート」には各個人へフィードバック・コメントを返信として送付する。授業参加に加え、「今日の気づきシート」の提出をもって出席とする。気づきの多様性や質問等で授業で紹介したほうがよいものは適宜、授業内で紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・キャリアデザインとは ・自分を知る その1	・キャリアデザインとは何かを解説する ・「3つの問い」を考える
第2回	・自分を知る その2	・仕事の価値観とライフスタイルの明確化
第3回	・自分を知る その3	・ストレングス・ファインダーのデータから自分を知る
第4回	・自分を知る その4 ・キャリアインタビュー（課題）準備	・キャリアシュミレーション・プログラム（ゲーム）から自分を知る ・第10回、第11回の「キャリアインタビュー」に関する説明 ・社会的自立のための課題を考える
第5回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える その1	
第6回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える その2	・情緒的自立のための課題を考える
第7回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える その3	・経済的自立のための課題を考える
第8回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える その1	・男女の考えの違いを考える
第9回	・キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える その2	・仕事を持つ男女の生き方、働き方を考える
第10回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その1	・キャリアインタビューの発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転機に対する処方方
第11回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その2	・キャリアインタビューの発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転機に対する処方方
第12回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その3	・シュロスバーグの転機に対するアプローチ／ブリッジズのトランジション論／ハンセンの統合的生涯設計
第13回	・キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その4	・クルンボルトの「計画された偶発性理論」
第14回	・評価を行う。	・これまでの授業のまとめ ・授業を通して自らが考えたものを表現したり、学んだものを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間以上を標準とする。毎回の講義で気づく自分自身の考え方を自分なりに整理することが必要である。キャリアインタビューが課題となる。キャリアインタビューは自分の身近な働く人（社会人経験10年以上の方を目安にすること。これまで家族をインタビューする人が多い。オンラインでのインタビューも可）をインタビューする。第4回の授業でその詳細を説明する。このインタビューを通じて得られるものが多かったというコメントが多く受講者から寄せられている。

【テキスト（教科書）】

「さあ、才能（自分）に目覚めよう 最新版 ストレngth・ファインダー2.0」（ジム・クリフトン、ギャラップ著、古屋博子訳／日本経済新聞社／2017年4月刊行の最新版の書籍を購入のこと。生協で購入可）

・上記書籍を購入すると、インターネットでアクセスできるホームページから、「自分の強みを探索」することができる。尚、古本ではこのアクセスコードが既に使用されているため、新しい書籍の購入が必要。第3回講義でそのデータを使用した授業を行うため、第3回講義前に購入し、データを把握しておくことが必要（第1回、第2回講義で詳細を説明）。

【参考書】

「新版キャリアの心理学 第2版」（渡辺三枝子著／ナカニシヤ出版）

・キャリアを考えるための様々なアプローチが紹介されており、これらを知ることで、人生を歩んでいく上での参考となる。

【成績評価の方法と基準】

平常点（「今日の気づきシート」の提出により平常点をカウントする）：30%

課題評価（キャリアインタビュー）：35%

期末試験成績：35%

【学生の意見等からの気づき】

・グループ・ディスカッションをスムーズにさせるため、初めに自分の意見をまとめる時間を取り、その後にグループ・ディスカッションをしてもらうことにする。

・「この授業を他の人に勧めるとしたら、どんな点か？」という質問に対して多かったコメントは以下の通りである。①自分について知ることができる。②視野が広がる。③グループ・ディスカッションを通じて、他人の色々な意見を知ることができる。

【その他の重要事項】

※貸与パソコン等、大学の情報システムにアクセスでき、Zoomに参加できる情報機器が必要です。個人で登録したZoomではなく、法政大学が提供しているZoomから参加することが必要です。

※毎回のグループ・ディスカッションに参加し、様々な意見があることを実感し、自分の意見を考えることが重要である。これらのことがしっかりできた受講者にとっては期末試験は簡単なものになる。逆に言えば、参加回数が少ない受講者にとって、期末試験は難しいものになる。

【Outline (in English)】

-Outline and objectives-

Career design means, First of all, understand yourself, reconsider your way of life and work not only in your profession but also in various situations and opportunities in your life, consider future directions, and design yourself. Lessons incorporate a lot of discussions in order to experience and feel the career design. In the class questionnaire so far, the following comments have been received. 1. There is a good opportunity to talk with people from different departments, and to know what the same generation thinks about society. I can't exchange opinions very much in other lessons, but I'm happy that I can exchange opinions in this lessons. It makes you think about the future and how to live in the future, and gives you great hints about your life. It's a good opportunity to look at yourself objectively. You can start thinking about what to do now about the future. 2. You can practice to convey your opinions and frank feelings to the other person, and to organize your thoughts and put them out. 3. Recommended for those who do not know what to do now, who have never thought about the future, or who are not confident in themselves. 4. By listening to and incorporating the values and ideas of others, you can deepen your thoughts and broaden your perspective. The instructor hopes that students who expect the above will take this course. In particular, The instructor expects students to take this course in the 1st and 2nd grades.

-Goal-

In thinking about career design, the goal is to be able to build and practice the students' own ideas from the following three perspectives. 1) Know yourself, 2) Think about developmental tasks, 3) Know the approach to deal with career design milestones.

-Method(s)-

[Face to face:8 times, Online(Zoom):6 times]:Materials for face to face lessons, such as 1st, 4th, 6th, 8th, 10th, 11th, 13th, 14th will be delivered in each lesson. Materials for on line lessons, such as 2nd, 3rd, 5th, 7th, 9th, 12th, will be uploaded to "Lesson Support System" by the instructor in advance. It is necessary for the students to download to own PC and prepare the materials before each lesson. Group discussions in online lessons will be organized by Zoom's "Breakout room feature". The students should conduct a "Career Interview" with workers (explaining the implementation procedure in the 4th session), and The students should make a presentation in the 10th and 11th lessons. The presentation time varies depending on the number of the students. If the presentation time will not enough time both the 10th and 11th lessons, the 12th lesson will be added. As a review after each lesson, the students are required to submit "Today's Awareness Sheet" (with 100 to 250 characters). The instructor uploads a Word-format file of "Today's Awareness Sheet" to the assignment folder of the "Learning Support System", and the students should fill in this file and uploads it to the assignment folder. Feedback and comments on the submitted "Today's Awareness Sheet" will be sent to each student. If there are diversity of awareness and questions that should be introduced in class, the instructor will introduce them in class as appropriate. Normal score will be awarded for attendance by not only attending class but also submitting the "Today's Awareness Sheet."

-Work to be done outside of class (preparation, etc.) -

Over four hours are the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class. It is necessary to organize your own way of thinking in each lesson. Career interviews are an issue. Career interviews are conducted with people who are close to you (with at least 10 years of working experience. Online interviews are also possible). The details will be explained in the 4th lesson. Almost students commented that much was gained through this interview.

-Textbooks-

"Sa, Sainouni Mezameyou Saishinban (English title: Strengths Finder2.0)" (written by Jim Clifton, Gallup, Inc., translated by Hiroko Furuya / Nihon Keizai Shimbun Inc./Purchase a new edition of the book published in April 2017).Please contact "SEIKYOU" in Koganei Campus.

If you purchase the above books, you can access them on the Internet and "search for your strengths". This access code is already used for used books, so you need to purchase a new book. In order to use the data in the 3rd lesson, it is necessary to purchase this book before the 3rd lesson and grasp the data (details will be explained in the 1st and 2nd lesson).

-Grading criteria-

Normal score (based on class participation and the submission of "Today's Awareness Sheet"): 30%

Assignment evaluation (Career Interview): 35%

Final exam results: 35%

LAW100LC（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

押久保 倫夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学、中でも法の中心的位置を占める憲法（日本国憲法）を主に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。さらに受講者各人が、憲法・法の理念やその具体的問題に対する、自分自身の考えを形成していくことを目的とする。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義の特徴は、二つある。

一つは法、とりわけ日本国憲法について、具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、憲法に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと関連させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的憲法理論も実感を持って理解することができる。

もう一つの特徴は、とりわけ日本国憲法に対して、自分自身の考えを形成してってもらうことである。憲法に関する問題については、様々な議論があり、対立する評価がある。教科書、そして担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどうか考えるか」常に問うてほしい。そして人権・統治の理論を学ぶ際も、そこでは諸々の学説が対立しており、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。

その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質疑応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②悲惨な事件が最高裁をも動かす —憲法・刑法に跨る具体的事件、法学の一般的基礎—	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「尊属殺重罰規定違憲判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・刑法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実に作用する場面を具体的に教示し、それらの存在意義を認識させる。 そして具体的事件を解説する中で、法に関する一般的基礎（制定法の種類、法の段階構造、法の適用・解釈など）を理解してもらう。
2	「自然権」なんて本当にあるの？「契約」した覚えもないんだけど —天賦人権、社会契約、抵抗権—	憲法の基底にある近代立憲主義の、自然権（天賦人権）、社会契約、抵抗権の理念について解説する。 そしてそれらの理念の関係を基にして、日本国憲法のいわゆる三大原則（①基本的人権の尊重②国民主権③平和主義）相互の関係を理解させる。
3	自由はつらいよ —個人の自律と「自由からの逃走」、博愛への想像力—	憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、人権の中核となる思想であることを明らかにし、これを「全体主義」との対比で図式的に理解させる。 そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、世界中の人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
4	人権だって制限される？ —人権の分類、公共の福祉—	人権のカタログを、理論的及び歴史的観点から分類し、それぞれのグループの特質を明らかにする。 そして人権も「公共の福祉」によって制限されることを示し、その合憲性を判断する際の審査基準の理論（比較衡量、二重の基準）について説明する。

5	会社も人権主体？ —「法人の人権」—	法人の人権享有主体性について、対立する学説を提示した上で、これについての最高裁判例の基本的立場及び変遷を説明する。 そして「法人の人権」がなぜ問題になるのかを考察し、人権と「憲法上の権利」の区別なども示した上で、この問題を如何に考えて行くべきかを探求していく。	10	平等が不平等を生む？ —形式的平等と実質的平等—	平等について原理解説を行い、実質的平等を図る手段としての積極的差別是正措置にも触れる。 その上で、「婚外子相続差別」についての最高裁判決の転換、「国籍法違憲判決」「女性再婚期間判決」「夫婦別姓訴訟」などの最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
6	彼らだって人間 —外国人の人権—	外国人の人権享有主体性について、通説・判例共にこれを認めることで一致していることを示し、その根底的理由は、人権の普遍性であることを理解させる。 そして外国人への保障が問題となる、参政権、社会権等について検討し、また保障される人権でもその程度が論じられるものについて、判例を批判的に考察しながら検討する。	11	政治は国民の声で動いている？ —国民主権、議会議院主義—	国民主権の建前と実態の乖離を、選挙制度と関連させながら明らかにし、これにどう向き合っていくべきかを考察する。 そして国会について、「最高機関」「唯一の立法機関」とされる意義、二院制、議員の地位、具体的活動、各議院の権能（特に国政調査権）などについて解説し、その問題点を明らかにし、解決策を探求していく。
7	政（まつりごと）は祭りごと？ —信教の自由、政教分離—	日本国憲法の信教の自由の規定について、明治憲法との比較で理解させ、その内容を説明し、「剣道受講拒否事件」等の判例について検討する。 そして政教分離の意義と形態を説明し、いくつかの最高裁判決について、各々の事件の妥当な解決のみならず、あるべき審査基準も含めて、受講生に考察させる。	12	国会の「信任」は何？ —議院内閣制—	行政権の概念、独立行政委員会の意義、内閣の組織と閣議、内閣・内閣総理大臣の権能等について、明確に説明する。 その上で、「議院内閣制」の本質について、「信任」の概念を中心に、大統領制や議会統治制との対比で明らかにし、解散等の内閣と議会の関係についての諸問題について、これをどうするべきかを考察する。
8	人権のチャンピオン？ —表現の自由—	表現の自由について、優越的地位にあるとされる論拠を詳しく解説する。 その古典的問題として、事前抑制・検閲について、これが当該自由に対する最も強い規制となる理由を示していく。 そしてマスコミと表現の自由、インターネットと表現の自由という現代的問題について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。	13	国民の代表が決めたことを、15人の裁判官が無効にしているの？ —司法制度、違憲審査制—	裁判所について、司法権の概念、範囲を説明し、その限界、とりわけ「統治行為」について、問題点を探求する。さらに裁判所の組織と権能等を解説する。 その上で、違憲審査制について、その根拠・性格、憲法判断の主体と対象、違憲判断の方法と効力等について説明し、理解を深める。
9	①生活できなければ始まらない —経済的自由、社会権— ②条文にないのに補償される権利がある？ —新しい人権、プライバシー権—	①経済的自由について、その時代的変遷を示し、現代では経済的自由の制限と社会権の保障が表裏一体のものであることを理解してもらう。その上で、職業選択の自由・財産権の制限についての判決を取り上げ、考察する。 そして生存権について、その法的性質をめぐる学説を示し、「朝日訴訟」等について、訴訟に伴う生活保護費の推移等も含めて解説する。 ②いわゆる新しい人権について、その保障の根拠と構造について、図を使いながら、わかり易く説明する。 そしてその代表であるプライバシー権について、私生活への介入の排除から、情報プライバシー権への変遷を中心に、各種の判例を追っていく。	14	9条は現実的でない？ —安全保障と平和的生存権—	憲法第9条の意義と解釈、これと自衛隊・日米安全保障条約との関係を、関連する判例を含めて解説する。 その上で、日本の安全保障の現実的なあり方をさぐり、そこにおける憲法第9条の存在意義を、憲法改正論も含めて検討する。 さらに、自由権、社会権に続く人権とも言われる、平和的生存権について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、教科書・授業レジュメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

憲法[第8版]/芦部信喜（高橋和之補訂）／岩波書店／3,740円

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験で評価する（100％）。

それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、一切認めない。他の受講生に対する迷惑となるからである。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn law, especially the Constitution.

So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.

Moreover, the students develop their own consideration about idea of the Constitution and other laws, and their concrete problems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following Term-end examination (100%).

LAW100LC（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

押久保 倫夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学、その中でも法の中心的位置を占める憲法（日本国憲法）を主に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。さらに受講者各人が、憲法・法の理念やその具体的問題に対する、自分自身の考えを形成していくことを目的とする。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義の特徴は、二つある。

一つは法、とりわけ日本国憲法について、具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、憲法に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと関連させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的憲法理論も実感を持って理解することができる。

もう一つの特徴は、とりわけ日本国憲法に対して、自分自身の考えを形成してってもらうことである。憲法に関する問題については、様々な議論があり、対立する評価がある。教科書、そして担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどうか考えるか」常に問うてほしい。そして人権・統治の理論を学ぶ際も、そこでは諸々の学説が対立しており、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。

その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質疑応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②悲惨な事件が最高裁をも動かす —憲法・刑法に跨る具体的事件、法学の一般的基礎—	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「尊属殺重罰規定違憲判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・刑法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実作用する場面を具体的に教示し、それらの存在意義を認識させる。 そして具体的事件を解説する中で、法に関する一般的基礎（制定法の種類、法の段階構造、法の適用・解釈など）を理解してもらう。
2	「自然権」なんて本当にあるの？「契約」した覚えもないんだけど —天賦人権、社会契約、抵抗権—	憲法の基底にある近代立憲主義の、自然権（天賦人権）、社会契約、抵抗権の理念について解説する。 そしてそれらの理念の関係を基にして、日本国憲法のいわゆる三大原則（①基本的人権の尊重②国民主権③平和主義）相互の関係を理解させる。
3	自由はつらいよ —個人の自律と「自由からの逃走」、博愛への想像力—	憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、人権の中核となる思想であることを明らかにし、これを「全体主義」との対比で図式的に理解させる。 そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、世界中の人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
4	人権だって制限される？ —人権の分類、公共の福祉—	人権のカタログを、理論的及び歴史的観点から分類し、それぞれのグループの特質を明らかにする。 そして人権も「公共の福祉」によって制限されることを示し、その合憲性を判断する際の審査基準の理論（比較衡量、二重の基準）について説明する。

5	会社も人権主体？ —「法人の人権」—	法人の人権享有主体性について、対立する学説を提示した上で、これについての最高裁判例の基本的立場及び変遷を説明する。 そして「法人の人権」がなぜ問題になるのかを考察し、人権と「憲法上の権利」の区別なども示した上で、この問題を如何に考えて行くべきかを探求していく。	10	平等が不平等を生む？ —形式的平等と実質的平等—	平等について原理解説を行い、実質的平等を図る手段としての積極的差別是正措置にも触れる。 その上で、「婚外子相続差別」についての最高裁判決の転換、「国籍法違憲判決」「女性再婚期間判決」「夫婦別姓訴訟」などの最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
6	彼らだって人間 —外国人の人権—	外国人の人権享有主体性について、通説・判例共にこれを認めることで一致していることを示し、その根底的理由は、人権の普遍性であることを理解させる。 そして外国人への保障が問題となる、参政権、社会権等について検討し、また保障される人権でもその程度が論じられるものについて、判例を批判的に考察しながら検討する。	11	政治は国民の声で動いている？ —国民主権、議会議院主義—	国民主権の建前と実態の乖離を、選挙制度と関連させながら明らかにし、これにどう向き合っていくべきかを考察する。 そして国会について、「最高機関」「唯一の立法機関」とされる意義、二院制、議員の地位、具体的活動、各議院の権能（特に国政調査権）などについて解説し、その問題点を明らかにし、解決策を探求していく。
7	政（まつりごと）は祭りごと？ —信教の自由、政教分離—	日本国憲法の信教の自由の規定について、明治憲法との比較で理解させ、その内容を説明し、「剣道受講拒否事件」等の判例について検討する。 そして政教分離の意義と形態を説明し、いくつかの最高裁判決について、各々の事件の妥当な解決のみならず、あるべき審査基準も含めて、受講生に考察させる。	12	国会の「信任」は何？ —議院内閣制—	行政権の概念、独立行政委員会の意義、内閣の組織と閣議、内閣・内閣総理大臣の権能等について、明確に説明する。 その上で、「議院内閣制」の本質について、「信任」の概念を中心に、大統領制や議会統治制との対比で明らかにし、解散等の内閣と議会の関係についての諸問題について、これをどうするべきかを考察する。
8	人権のチャンピオン？ —表現の自由—	表現の自由について、優越的地位にあるとされる論拠を詳しく解説する。 その古典的問題として、事前抑制・検閲について、これが当該自由に対する最も強い規制となる理由を示していく。 そしてマスコミと表現の自由、インターネットと表現の自由という現代的問題について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。	13	国民の代表が決めたことを、15人の裁判官が無効にしているの？ —司法制度、違憲審査制—	裁判所について、司法権の概念、範囲を説明し、その限界、とりわけ「統治行為」について、問題点を探求する。さらに裁判所の組織と権能等を解説する。 その上で、違憲審査制について、その根拠・性格、憲法判断の主体と対象、違憲判断の方法と効力等について説明し、理解を深める。
9	①生活できなければ始まらない —経済的自由、社会権— ②条文にないのに補償される権利がある？ —新しい人権、プライバシー権—	①経済的自由について、その時代的変遷を示し、現代では経済的自由の制限と社会権の保障が表裏一体のものであることを理解してもらう。その上で、職業選択の自由・財産権の制限についての判決を取り上げ、考察する。 そして生存権について、その法的性質をめぐる学説を示し、「朝日訴訟」等について、訴訟に伴う生活保護費の推移等も含めて解説する。 ②いわゆる新しい人権について、その保障の根拠と構造について、図を使いながら、わかり易く説明する。 そしてその代表であるプライバシー権について、私生活への介入の排除から、情報プライバシー権への変遷を中心に、各種の判例を追っていく。	14	9条は現実的でない？ —安全保障と平和的生存権—	憲法第9条の意義と解釈、これと自衛隊・日米安全保障条約との関係を、関連する判例を含めて解説する。 その上で、日本の安全保障の現実的なあり方をさぐり、そこにおける憲法第9条の存在意義を、憲法改正論も含めて検討する。 さらに、自由権、社会権に続く人権とも言われる、平和的生存権について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、教科書・授業レジュメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

憲法[第8版]/芦部信喜（高橋和之補訂）／岩波書店／3,740円

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験で評価する（100％）。
それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、一切認めない。他の受講生に対する迷惑となるからである。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn law, especially the Constitution.
So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.
Moreover, the students develop their own consideration about idea of the Constitution and other laws, and their concrete problems.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following Term-end examination (100%).

法と社会

押久保 倫夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、法と社会との関係、法の一般理論を確認した上で、社会に生起している今日的な諸問題・判例を素材として、法的な視点からの分析を行い、それらをどう評価・解決していくべきかを探っていく。その中で、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】

学生が、法の基本的な仕組みを理解すると共に、具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできる法的思考力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義の特徴は、二つある。

一つは、法律に関する具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、法学に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと関連させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的法理論も実感を持って理解することができる。

もう一つの特徴は、法学の諸問題について、自分自身の考えを形成してってもらうことである。判例一つでも、色々な議論があり、対立する評価がある。担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどうか考えるか」常に問うてほしい。そして法律の理論を学ぶ際も、諸々の学説が対立していることがあり、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。

その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質疑応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②法律は皆さんの身近なところにある —憲法・民法に跨る具体的事件—	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「婚外子相続差別判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・民法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実作用する場面を、具体的にイメージさせる。

2	道徳・倫理とはどこが違うの？ —法の定義と強制形態—	法をその本質的特徴に基づき定義し、これが他の諸規範とどう違うかを説明する。 そして法の強制の諸形態について、それが同一の事件においても、刑事・民事に跨って複数存在することがあり、それを具体的事例を示しながら、理解してもらおう。 法源は成文法のみならず、不文法や慣習、判例など多様なものがあることを説明する。 その上で、これらのうち最も重要な制定法について、多くの存在形式があり、それらはどの様なものか、正確に理解してもらおう。 制定法の段階構造について、これに関する学説の対立も交えながら、説明していく。 そして、法が適用される最も重要な場の一つである司法制度について、民事・刑事の区別や、裁判所の組織形態を解説する。 制定法の解釈について、その複数性から、その本質は認識ではなく実践とされていることを理解してもらおう。 その上で、多様な解釈の方法論を示し、また解釈の際に知っておくべき、特別な法律用語についても講義する。 人権の中核となる憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、「全体主義」との対比で図式的に理解させる。そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、すべての人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
3	どこまでが法の範囲？ —法源、制定法の種類—	
4	法にも上下関係？ —法の段階構造、司法制度—	
5	条文の解釈は一つではない？ —法の適用と解釈—	
6	自由はつらいよ、しけれども「個人の自律」 —個人の尊重と「自由からの逃走」、博愛への想像力—	
7	なぜ酒を造ってはいけないんだ！ —酒類製造規制と一般的自由—	酒類製造免許制を合憲とした「どぶろく裁判」について、これが憲法上何が問題なのかを解説し、その上で審査基準はどうあるべきか、公権力のこの様な規制をどう考えるべきかを、受講者に考察してもらおう。
8	人間には譲れないものがある —思想・良心の自由、謝罪広告事件—	思想・良心の自由の保障内容を示し、「謝罪広告事件」について、具体的事実を含めて詳しくお話し、判決を考察しながら妥当な解決について、受講者自身の見解を探究してもらおう。

- 9 誰も被害者がいないのに、なぜ処罰される？
—「猥褻物」— 被害者なき犯罪と言われる「猥褻物」について、これと表現の自由が問題になった事件をいくつか取り上げ考察し、その上で受講生に、猥褻物は規制すべきか、規制する場合どのような態度であるべきかを考えてもらう。
- 10 最先端の問題！
—マスメディア・インターネットと表現の自由— マスメディアと表現の自由、そして最先端の問題として、インターネットと表現の自由について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。
- 11 死刑廃止論、あなたは賛成？ 反対？
—死刑制度の問題点と廃止論— 死刑廃止論について、その論拠や世界の趨勢等をお話する。そして廃止に反対する意見の根拠も示した上で、受講生各自に死刑廃止に賛成か反対かを考えてもらう。
- 12 姓を変えないと結婚できないの？
—夫婦別姓訴訟— 「夫婦別姓訴訟」について、なぜこのような訴訟が起こるのか、結婚後の姓について他の国がどうなっているかをお話した上で、最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
- 13 どうして女性は天皇になれないの？
—天皇・皇族の人権— 天皇・皇室は、その地位と職務や、皇位の世襲制から、一般国民とは異なる特別な人権の制限がなされることを説明する。さらに所謂「女性天皇」の問題を、憲法14条の男女平等と関わらせて、その論点を提示し、受講生に考えてもらう。
- 14 「優生思想」が生きていた時代がある
—旧優生保護法違憲判決と「人間の尊厳」— 「個人の尊厳と人格の尊重」「人格権そのもの」に反する人権侵害とされた、ハンセン病患者の強制隔離事件、旧優生保護法違憲判決を取り上げる。
そしてこれがなぜ「人間の尊厳」に反するとまで言えるのかを説明し、このような重大な人権侵害を起こさないようにするにはどうすれば良いかを、受講者に考察してもらう。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the relations between the law and the state or society. Then we will get the basic understanding of the theory of laws.

And we will pursue how to solve the social problems by law.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following Term-end examination (50%) and the report (50%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、教科書・授業レジュメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

授業レジュメおよび適宜取り上げる資料を使用する。。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50％）及び定期試験（50％）で評価する。

それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、一切認めない。他の聴講生に対する迷惑となるからである。

法と社会

押久保 倫夫

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、法と社会との関係、法の一般理論を確認した上で、社会に生起している今日的な諸問題・判例を素材として、法的な視点からの分析を行い、それらをどう評価・解決していくべきかを探っていく。その中で、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】

学生が、法の基本的な仕組みを理解すると共に、具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできる法的思考力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義の特徴は、二つある。

一つは、法律に関する具体的事例・判例を先に話し、抽象的理論は可能な限り、後で説明することである。まず具体的事例によって、法学に対する興味を喚起し、抽象的理論はそれと関連させる形で説明するようにする。そうすることによって、抽象的法理論も実感を持って理解することができる。

もう一つの特徴は、法学の諸問題について、自分自身の考えを形成してってもらうことである。判例一つでも、色々な議論があり、対立する評価がある。担当教員からは一定の見解が示されるが、それを鵜呑みにしてはいけない。それらを参考にした上で、「自分はどうか考えるか」常に問うてほしい。そして法律の理論を学ぶ際も、諸々の学説が対立していることがあり、どれが妥当か、自分自身の意見を持つようにして頂きたい。

その為に授業においては、憲法の諸問題や判例等について、受講生と質疑応答を展開することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①ガイダンス ②法律は皆さんの身近なところにある —憲法・民法に跨る具体的事件—	①授業の内容・方法を、シラバスを使いながら、受講生に説明する。 ②「婚外子相続差別判決」という具体的判例について、法学の知識のない受講生でもわかる様に、裁判制度や憲法・民法の初歩的説明、事件の具体的事実も含めて、時間をかけて丁寧に説明していく。 これによって受講生に、憲法の人権条項や刑法の規定が社会に対して現実作用する場面を、具体的にイメージさせる。

2	道徳・倫理とはどこが違うの？ —法の定義と強制形態—	法をその本質的特徴に基づき定義し、これが他の諸規範とどう違うかを説明する。 そして法の強制の諸形態について、それが同一の事件においても、刑事・民事に跨って複数存在することがあり、それを具体的事例を示しながら、理解してもらおう。 法源は成文法のみならず、不文法や慣習、判例など多様なものがあることを説明する。 その上で、これらのうち最も重要な制定法について、多くの存在形式があり、それらはどのようなものか、正確に理解してもらおう。 制定法の段階構造について、これに関する学説の対立も交えながら、説明していく。 そして、法が適用される最も重要な場の一つである司法制度について、民事・刑事の区別や、裁判所の組織形態を解説する。 制定法の解釈について、その複数性から、その本質は認識ではなく実践とされていることを理解してもらおう。 その上で、多様な解釈の方法論を示し、また解釈の際に知っておくべき、特別な法律用語についても講義する。 人権の中核となる憲法13条前段の「個人の尊重」・「個人主義」について、「全体主義」との対比で図式的に理解させる。そしてこれは、各人が自分の人生を自律的に決定していくことであり、その困難性をも明らかにし、それにも拘わらずそこから逃げるべきでないことを説く。 さらに、「個人主義」は、すべての人々について、各人の違い・個性を認め合い、平等に尊重することであり、利己主義とは対極にある「博愛」の思想につながるものであることを理解させる。
3	どこまでが法の範囲？ —法源、制定法の種類—	
4	法にも上下関係？ —法の段階構造、司法制度—	
5	条文の解釈は一つではない？ —法の適用と解釈—	
6	自由はつらいよ、しけれども「個人の自律」 —個人の尊重と「自由からの逃走」、博愛への想像力—	
7	なぜ酒を造ってはいけないんだ！ —酒類製造規制と一般的自由—	酒類製造免許制を合憲とした「どぶろく裁判」について、これが憲法上何が問題なのかを解説し、その上で審査基準はどうあるべきか、公権力のこのような規制をどう考えるべきかを、受講者に考察してもらおう。
8	人間には譲れないものがある —思想・良心の自由、謝罪広告事件—	思想・良心の自由の保障内容を示し、「謝罪広告事件」について、具体的事実を含めて詳しくお話し、判決を考察しながら妥当な解決について、受講者自身の見解を探究してもらおう。

- 9 誰も被害者がいないのに、なぜ処罰される？
—「猥褻物」—
- 10 最先端の問題！
—マスメディア・インターネットと表現の自由—
- 11 死刑廃止論、あなたは賛成？ 反対？
—死刑制度の問題点と廃止論—
- 12 姓を変えないと結婚できないの？
—夫婦別姓訴訟—
- 13 どうして女性は天皇になれないの？
—天皇・皇族の人権—
- 14 「優生思想」が生きていた時代がある
—旧優生保護法違憲判決と「人間の尊厳」—
- 被害者なき犯罪と言われる「猥褻物」について、これと表現の自由が問題になった事件をいくつか取り上げ考察し、その上で受講生に、猥褻物は規制すべきか、規制する場合どのような態度であるべきかを考えてもらう。
- マスメディアと表現の自由、そして最先端の問題として、インターネットと表現の自由について、その特徴から生じる新たな問題を提示する。そしてそれに如何に対処するか、受講生に考えさせる。
- 死刑廃止論について、その論拠や世界の趨勢等をお話する。そして廃止に反対する意見の根拠も示した上で、受講生各自に死刑廃止に賛成か反対かを考えてもらう。
- 「夫婦別姓訴訟」について、なぜこのような訴訟が起こるのか、結婚後の姓について他の国がどうなっているかをお話した上で、最高裁の複数の判決を、少数意見も含めて解説し、この問題を受講生に考えてもらう。
- 天皇・皇室は、その地位と職務や、皇位の世襲制から、一般国民とは異なる特別な人権の制限がなされることを説明する。さらに所謂「女性天皇」の問題を、憲法14条の男女平等と関わらせて、その論点を提示し、受講生に考えてもらう。
- 「個人の尊厳と人格の尊重」「人格権そのもの」に反する人権侵害とされた、ハンセン病患者の強制隔離事件、旧優生保護法違憲判決を取り上げる。
- そしてこれがなぜ「人間の尊厳」に反するとまで言えるのかを説明し、このような重大な人権侵害を起こさないようにするにはどうすれば良いかを、受講者に考察してもらう。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the relations between the law and the state or society. Then we will get the basic understanding of the theory of laws.

And we will pursue how to solve the social problems by law.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following Term-end examination (100%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、教科書・授業レジュメやノートなどによる復習を行う。

予習においては、次回の講義内容を教科書等で確かめながら、それらに対する自分の考えを確かめておいて頂きたい。

予習中心の学習を勧める。

②「覚えるべき基本知識」は求められるが、予習・復習においても、憲法・法というものを批判的にながめ、自分自身で考察するという態度を身に着けてほしい。

【テキスト（教科書）】

授業レジュメおよび適宜取り上げる資料を使用する。。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験で評価する（100％）。

それらにおいては、授業で理解した知識のみならず、自分の考えが問われることになる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできない。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、一切認めない。他の聴講生に対する迷惑となるからである。

先端技術・社会論

原 昌己

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。

「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はどのようなものなのか。

イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生み出すための方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1)イノベーションのプロセスを知る。
- (2)イノベーションを起こす人材に必要な力を知る。
- (3)各人の専門の力を使って、将来何を実現したいのかを考え、まとめる。
- (4)新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
- (5)グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・前半：映像資料による事例紹介。
過年度は以下などを取り上げた。
 - ・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
（米国ベル研究所、黎明期のApple社など）
 - ・量子コンピュータの可能性
 - ・DNAシーケンサ
 - ・カーボンナノチューブ
- ・中盤：「イノベーションに必要な力」の要点を解説。
PDCA、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
- ・後半：チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
 - ・ATP（アデノシン3リン酸）を活用した新エネルギー自動車
 - ・地域を活性化する食物工場
 - ・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第2回	イノベーション事例1	イノベーションの事例の映像資料を視聴。 電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第3回	イノベーション事例2	パソコンの発明と普及（予定） Apple社 vs Microsoft社
第4回	イノベーション事例3	量子コンピュータ（予定）

第5回	イノベーション事例4	日本発イノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNAシーケンサ等（予定）
第6回	イノベーションに必要な力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力を学ぶ。
第7回	PDCA（plan,do,check,act）思考法	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第8回		代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第9回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーション,ディスカッションの方法を学ぶ。
第10回	グループワーク1	「新たな商品・サービス」をグループで企画を立案する。
第11回	グループワーク2	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第12回	グループワーク3	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第13回	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第14回	試験・まとめと解説	新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
- ・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で4時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】

なし。各回で資料を配布。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1）期末、小論文（50%） 2）グループでのプレゼンテーション（25%） 3）平常点（25%）

【学生の意見等からの気づき】

演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.

【Learning Objectives】

Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students increase interest in new products, services and society and gather information about them

【Grading Criteria /Policy】

Essay/end of term(50%), Team planning and presentation (25%) , Participation in classes (25%)

BSP100LC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

先端技術・社会論

原 昌己

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。

「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はどのようなものなのか。

イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生み出すための方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1)イノベーションのプロセスを知る。
- (2)イノベーションを起こす人材に必要な力を知る。
- (3)各人の専門の力を使って、将来何を実現したいのかを考え、まとめる。
- (4)新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
- (5)グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・前半：映像資料による事例紹介。
過年度は以下などを取り上げた。
 - ・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
（米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など）
 - ・量子コンピュータの可能性
 - ・DNA シーケンサ
 - ・カーボンナノチューブ
- ・中盤：「イノベーションに必要な力」の要点を解説。
PDCA、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
- ・後半：チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
 - ・ATP（アデノシン 3 リン酸）を活用した新エネルギー自動車
 - ・地域を活性化する食物工場
 - ・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第2回	イノベーション事例 1	イノベーションの事例の映像資料を視聴。 電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第3回	イノベーション事例 2	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社 vs Microsoft 社
第4回	イノベーション事例 3	量子コンピュータ（予定）

第5回	イノベーション事例 4	日本発イノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第6回	イノベーションに必要な力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力を学ぶ。
第7回	PDCA (plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第8回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第9回	コミュニケーション /グループでの思考法	コミュニケーション,ディスカッションの方法を学ぶ。
第10回	グループワーク 1	「新たな商品・サービス」をグループで企画を立案する。
第11回	グループワーク 2	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第12回	グループワーク 3	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第13回	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第14回	試験・まとめと解説	新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
- ・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で 4 時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】

なし。各回で資料を配布。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1）期末、小論文（50%） 2）グループでのプレゼンテーション（25%） 3）平常点（25%）

【学生の意見等からの気づき】

演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.

【Learning Objectives】

Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students increase interest in new products, services and society and gather information about them

【Grading Criteria /Policy】

Essay/end of term(50%), Team planning and presentation (25%) , Participation in classes (25%)

環境と資源

中嶋 吉弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】

地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や持続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？ 環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。課題などに対しては学習支援システムなどを用いてフィードバックする。春学期の授業は、原則として対面での講義を行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第2回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第2回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第3回	生態系と物質循環	第2回に引き続き、第3回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第4回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第4回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。

第5回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第5回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第6回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第6回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第7回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第7回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第3－4回と一部重複）を講義します。
第8回	マイクロプラスチック汚染とPOP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第8回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第9回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第9回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第10回	化石燃料の今昔と新規燃料	21世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第10回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第11回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第11回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

第12回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第12回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
第13回	バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回	『環境と資源』まとめ	第2～13回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第14回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】

3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、1回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等ありますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】

[Outline]

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

[Course outline]

In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.

[Learning Objectives]

It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R & D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).

[Learning activities outside of classroom]

4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.

Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

環境と資源

中嶋 吉弘

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】

地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や持続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？ 環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第2回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第2回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第3回	生態系と物質循環	第2回に引き続き、第3回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第4回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第4回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。

第5回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第5回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第6回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第6回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第7回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第7回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第3－4回と一部重複）を講義します。最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第8回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第8回	マイクロプラスチック汚染とPOP	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第9回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第9回	資源の有効利用	21世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第10回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第10回	化石燃料の今昔と新規燃料	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第11回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。
第11回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	

第12回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第12回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
第13回	バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回	『環境と資源』まとめ	第2～13回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第14回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】

3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、1回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等ありますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】

[Outline]

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

[Course outline]

In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.

[Learning Objectives]

It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R & D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).

[Learning activities outside of classroom]

4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.

Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

HIS100LC (史学 / History 100)

比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本の現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について 1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について 2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について 3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化 1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化 2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性 1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性 2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文等を書く（週4時間程度）

【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

映画やドラマなど、色々なジャンルの作品をできるだけ使いたいと思います。授業内容と関連しそうな作品のリクエストを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器 筆記用具

【その他の重要事項】

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp

に御願います。

【注意】

こちらの授業は初回授業後に授業担当教員による抽選を行い、2回目の授業までに履修者が決定します。

受講希望の方は、初回授業に必ず出席してください。

病欠等を含めいかなる理由であっても初回授業を欠席した場合は抽選対象とはなりません。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HUM100LC (その他の人文学 / humanities 100)

宗教と社会

立田 由紀恵

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教はそれを信仰しない人にとっては得体の知れないものに見えてしまいがちです。特に紛争や戦争に宗教が絡むと、宗教がそれらの対立や暴力の源になっていると考えられることがしばしばあります。しかし宗教は人々や共同体を支える重要な役割を果たしており、そのネガティブな面は宗教に限られた問題ではないことが多いです。この授業では特に宗教紛争、宗教対立と呼ばれる事例を研究して、宗教に対する理解を深めることを目的とします。

Religion might seem foreign to those who do not believe in it. When religion is involved in conflicts and wars, it is often seen as the source of those conflicts and violence. However, this view is usually misleading, based on a very narrow and biased definition of religion. Moreover, religion plays a vital role in supporting people and communities. The purpose of this class is to deepen students' understanding of religion through cases of so-called religious conflicts or confrontations.

【到達目標】

- ・「宗教とは何か」という問いに対して自分自身の考えを答えられるようになる
- ・宗教と紛争に対し、表面的ではない理解を持てるようになる
- ・世界中の信仰を持つ人々に対する理解を深める
- ・宗教を他人事ではなく自分たちの社会に存在するものとしてとらえられるようになる
- ・To be able to answer the question "What is religion?" in the students' own words
- ・To be able to have a deeper understanding of the relation between religion and conflict
- ・To deepen your understanding of people of faith around the world
- ・To be able to see religion as something that exists in the society we live in

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、以下に関連している。理工学部：「DP2」と「DP4」、生命科学部「DP1」。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・予習（指定された内容をインターネットや書籍で調べ、自分の考えをまとめる）
- ・講義（予習への応答を含む）
- ・リアクションペーパー（教員によるフィードバックをつけて返却）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：宗教と社会、宗教と紛争について	「宗教が紛争を引き起こす」という理解が持つ問題点を考える出発点として、まず「宗教＝信仰」という単純な見方を見直し、宗教とは何かという問いに対するより深い答えを探す。

2	北アイルランド：ふたつのキリスト教徒の間の対立	北アイルランドでは、カトリックとプロテスタントのふたつのキリスト教の間で数十年にわたる深刻な対立が続いている。先進国の中で起きている紛争と宗教の様子を見る。
3	南アフリカ、アメリカ黒人：虐げられた黒人の解放と宗教	アメリカや南アフリカの黒人は、何世紀にもわたる人種差別と戦ってきた。その戦いの中で宗教が果たしてきた役割を見る。
4	インド、パキスタン、スリランカ：ヒンドゥー教と対立	インドの中心的な宗教であるヒンドゥー教は多神教であり、日本の宗教伝統と似た部分が多い。そのインドと周辺の国における、ヒンドゥー教に関わる紛争を見る。
5	シリア、レバノン：アラブ世界のキリスト教とイスラーム	中東の主な宗教はイスラームだが、ヨーロッパよりも古くから続くキリスト教の伝統もある。ここでは中東で特にキリスト教との多いシリアとレバノンにおけるキリスト教徒とムスリムの関係を見る。
6	タイ、ミャンマー：仏教と暴力	仏教はよく平和的な宗教と見られるが、その仏教も紛争と無縁ではない。ここではタイやミャンマーという仏教が中心の国における紛争を見る。
7	中間まとめ：リアクションペーパーへの返答	第6回までのリアクションペーパーへの返答を中心として宗教と紛争について学んだことを振り返り、これから学ぶ中で着目する点を確認する。
8	ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ：多民族国家ユーゴスラビアの崩壊	20世紀末に崩壊した旧ユーゴスラビアは、多数の民族が平和的に共存する国家として知られていた。さまざまな宗教が平和に共存する社会が深刻な対立を抱えることになった背景を見る。
9	イスラエル・パレスチナ：3つの宗教の聖地で起きる対立	70年以上続くイスラエル・パレスチナ問題は、現代の宗教紛争の代表的な例である。ユダヤ教、キリスト教、イスラームの3宗教の聖地が集まるこの地域で、宗教が紛争の中でどのような役割を果たしてきたかを見る。
10	アメリカ保守派キリスト教、イスラーム過激派：信仰に基づく暴力	宗教紛争と呼ばれるものの大多数は宗教の教えに基づいてはいないが、宗教の教えや信仰に基づいて暴力的な行動を取る人々もいる。ここではキリスト教とイスラームにおけるそのような例を見る。
11	日本：日本の「宗教」と戦争	日本人は宗教を持たないから紛争が起きにくいと考える人もいるが、日本社会には現在も宗教が深く根付いている。日本における宗教の姿を見ながら、宗教が第二次世界大戦前や戦中の日本で果たした役割を見る。

12	ウクライナ戦争と宗教	現在、私たちにとって身近な戦争であるウクライナ戦争は一般的には宗教紛争と考えられていないが、そこでも宗教が果たしている役割はある。今まで学んだことをベースに、ウクライナ戦争の背景にある宗教を見る。
13	宗教と平和：平和構築のために宗教ができること	世界のほとんどの宗教は、その教えの中に平和を求める姿勢を持っている。学期を通して宗教が紛争の中で果たす役割を見てきた今、宗教が平和構築のために果たせる役割を考える。
14	試験・まとめと解説	予習、講義ノート、リアクションペーパーへのフィードバックを見直し、学んできたことを振り返り準備し、期末試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とします。

準備：設定されたテーマについて調べ自分の考えを加えた予習課題を書く（3時間）

復習：授業の内容をまとめ、期末試験に備える（1時間）

Approximately 4 hours of total work is required before and after each class.

Before class: Answer the assignment topics and submit the pre-class assignment. (3 hours)

After class: Review the notes and prepare for the final exam. (1 hour)

【テキスト（教科書）】

なし（必要な資料は授業で配布）

【参考書】

なし（授業時に紹介）

【成績評価の方法と基準】

予習課題：30%

リアクションペーパー：20%

期末試験：50%

*講義で提起された問題を理解したか、それについて自分の考えを持っているかを評価の基準とする。

Pre-class assignments: 30%

In-class reaction papers: 20%

Final exam: 50%

* Grades will be based on the level of understanding of the issues raised in the lectures and the students' own thoughts on them.

【学生の意見等からの気づき】

学生へのフィードバックを明確にし、目標とする成績を達成するために必要なことをわかりやすくする。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives]

Religion might seem foreign to those who do not believe in it. When religion is involved in conflicts and wars, it is often seen as the source of those conflicts and violence. However, this view is usually misleading, based on a very narrow and biased definition of religion. Moreover, religion plays a vital role in supporting people and communities. The purpose of this class is to deepen students' understanding of religion through cases of so-called religious conflicts or confrontations.

[Goal]

- ・ To be able to answer the question "What is religion?" in the students' own words
- ・ To be able to have a deeper understanding of the relation between religion and conflict
- ・ To deepen your understanding of people of faith around the world
- ・ To be able to see religion as something that exists in the society we live in

[Works to be done outside of class]

Approximately 4 hours of total work is required before and after each class.

Before class: Read the distributed materials and submit the pre-class assignment. (3 hours)

After class: Review the notes and prepare for the final exam. (1 hour)

[Grading Criteria]

Pre-class assignments: 30%

In-class reaction papers: 20%

Final exam: 50%

* Grades will be based on the level of understanding of the issues raised in the lectures and the students' own thoughts on them.

SES100XB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境・エネルギー入門

山脇 栄道

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境問題への関心が高まる中、今後の大学生活や卒業後の社会生活の中で環境・エネルギーの問題を避けて通ることはできない。様々な課題や考え方の違いがある中で、それらの問題の本質を正しく理解し、より良い判断が自らできるような視点を身につけていく。

【到達目標】

1. 環境・エネルギーが私たちの生活や社会活動と密接に関わるものだという認識を得る。
2. 環境・エネルギーの問題に関して世の中で使われるキーワードを正しく理解する。
3. 大学で習得する理工学の知識は、これらの問題の正しい理解と解決に繋がり、今後社会に出て、どんな仕事についても役立つのだという認識を得る。
4. 広い視野で環境・エネルギーの課題解決の得失を理解し、バランスの取れた考え方を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、事前に学習支援システムを通じて配布する資料を使った講義形式で実施する。環境・エネルギーに関する状況は、時代とともに少しずつ変わってくるので、WEBからも入手可能で信頼できる最新の情報を整理して提示する。

環境・エネルギーの問題には、いろいろな考え方や両立の難しい課題もあるので、一方的な講義だけでなく、質疑や議論をする場を設けて、各自の考え方や視点などの違いに気づき、理解を深める。

各授業後には簡単な小レポートを提出し、講義の理解度や進め方の良否を確認して、改善してゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論オリエンテーション	授業の進め方、内容等を紹介。環境・エネルギーに対する現在の理解度の一端を自覚する。
2	カーボンニュートラル	カーボンニュートラルというキーワードを理解しながら、環境とエネルギー入門の全体像を概観する。
3	地球環境問題	地球環境問題の全体像を概観する。今後の授業で個別に取り上げない問題については、ここで少し詳しく紹介する。
4	地球温暖化とは	地球温暖化はどのように起こり、どう進んでいこうとしているのかをIPCCの報告書に基づき正しく理解する。
5	気候変動の緩和と適応	気候変動の原因となる温室効果ガスの排出削減対策や、気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応）について理解する。

6	温室効果ガスの排出削減対策	CO2等温室効果ガスの削減に向けて、どのような取り組みが行われているか理解する。
7	エネルギーの需要と供給	エネルギー白書などをベースに、エネルギーの需要と供給の状況と今後の見通しを理解する。
8	再生可能エネルギー	CO2削減のカギとなる再生可能エネルギーについて理解する。
9	グリーンイノベーション	水素エネルギーや電動化などCO2削減に向けたイノベーションの取り組みについて理解する。
10	原子力発電	様々な考え方のある原子力発電について正しい理解を深める。
11	公害問題	日本の公害の歴史と世界の状況を理解する。
12	化学物質	新たに生み出される化学物質のリスクを理解する。
13	廃棄物とリサイクル	廃棄物の処理の状況やリサイクルの取り組みを理解する。
14	資源問題とまとめ	世界の資源の動向として、特に希少金属資源の状況とその対応について理解する。本授業全体を振り返り、補足説明など行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で興味をもったことや、不明確な点について、引用文献などを通じて理解を深める。環境関係のニュースに耳を傾け、自らも身近な環境に役立つ行為を実践する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業前に学習支援システムに講義資料をアップロードする。紙での配布はしない。

【参考書】

環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書（環境省）
<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>
 エネルギー白書（経済産業省）
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/>

【成績評価の方法と基準】

評価方法： 毎回小レポート提出（20%）と全体のまとめレポート（70%）および授業参画度（10%）により評価する。
 評価基準： 本科目において設定した達成目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

資料の量が多すぎる、進行が速すぎるとの意見があった一方で、授業の途中での理解度確認や討論の時間をとることが好評であった。資料構成を見直し、より丁寧に理解を深める時間を確保していく。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布やレポート提出は全て学習支援システムを通じて行う。また、授業中に学習支援システムを使ってアンケートを実施するので、パソコン等を持参のこと。

【その他の重要事項】

講師の都合により、オンラインで授業を行う可能性がある。その際は事前に連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this lecture is to obtain the standpoint to consider and discuss the issues of the environment, energy, and resources to create the sustainable society.

【Learning Objectives】 The goals of this course are recognition of the environment and energy issues in our lives and social activities, correct understanding related keywords, motivation of acquiring knowledge of science and engineering at the university and obtain a well-balanced way of thinking.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end-report: 70%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%

BME200XB (人間医工学 / Biomedical engineering 200)

医療福祉工学

井上 淳

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

超高齢化社会に向けて、工学の考え方を医療・福祉に応用することは重要である。本講義では、医療工学・福祉工学の理解および今後の発展に対して助けとなるような、医療の基礎や医療福祉機器の原理と応用について学ぶ。また、この科目ではグループディスカッションを行うことで、学んだ内容をより深く理解することを目指す。

【到達目標】

医療および福祉分野における工学の応用について、基本的な医療福祉機器の原理など、基礎的な知識を説明できる。
脳や身体の構造と機能を理解し、加齢に伴う変化や疾病との関わりについて知識を持つ。
ディスカッションを通し、自らの考え方を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は集中講義となる。
各回の授業では講義を行った後、グループディスカッションを行い、その内容と自らが考えたことをまとめる。このまとめた内容を一日程ごとに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	本講義の概要について述べ、講義の進め方について説明を行う。
2	医療福祉工学の位置づけ	日本の医療福祉制度、医療機器の歴史、超高齢化社会
3	人間の物理的インターフェイス①	人間の視覚、見える仕組み、目の構造、目の病気
4	人間の物理的インターフェイス②	人間の聴覚、聞こえる仕組み、耳の構造、触覚
5	ニーズ分析の手法と事例	ノーマティブニーズ、フェルトニーズ、Brunnstrom stage、Barthel Index
6	ニーズ分析実践演習	ニーズの聞き取り、ウォンツ分析、仕様策定
7	高齢者と障害の特性	高齢者の特性、障害者の特性（視覚・聴覚）
8	人間の認知的インターフェイス	ヒューマンモデル、ヒューマンプロセッサの特徴
9	福祉機器開発の考え方	ユニバーサルデザイン、オーファンプロダクツ、機器開発に関する考え方の歴史、ヒト生命倫理審査
10	歩行動作・作業動作	歩行の仕組み、加齢に伴う運動機能の低下、運動機能障害、歩行リハビリ、義足、高次脳機能障害、手指動作の仕組み、加齢に伴う巧緻動作の低下、作業リハビリ、義手
11	福祉工学における計測	脳波計、筋電計、モーションキャプチャ、加速度計

12	ニーズ分析実践演習（設計及び資料作成）	グループディスカッション、設計、資料作成
13	ニーズ分析結果の発表	ニーズ分析、仕様策定、プレゼンテーション
14	試験・まとめと解説	学習した範囲について授業時間内に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

先端医療を支える工学－生体医工学への誘い(コロナ社)
福祉工学の基礎(コロナ社)

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題・レポート・小テスト（40%）、平常点（10%）（平常点は課題の提出率や取組みの様子を総合的に評価する。）
本科目において設定した到達目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解度について、適宜学生に確認しながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

・受講用端末

Wordでの課題やレポート作成、PDFの閲覧等ができるようにしておくこと

・ルーズリーフ、レポート用紙など

手元で講義内容をまとめたい人は準備するとよい

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】

In response to the rapidly aging society, it is essential to apply engineering perspectives to the fields of medicine and welfare. This course provides fundamental knowledge of medical and welfare engineering, focusing on basic medical concepts as well as the principles and applications of medical and assistive devices, with the aim of supporting further development in these areas. In addition, group discussions will be incorporated to deepen students' understanding of the course content.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to:

- Understand the fundamentals of medical care and the principles of medical and welfare devices.
- Develop deeper insight into the advancement of medical and welfare technologies.

【Learning Activities Outside the Classroom】

Students are required to complete all assigned work after each class.

They are expected to spend at least four hours of independent study per class session.

【Grading Criteria / Policy】

A total score of 60 points or higher out of 100 will be considered a passing grade.

MEC200XB (機械工学 / Mechanical engineering 200)

人間工学 (機械)

鈴木 郁

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一口に人間工学といっても、そこで扱われる範囲は多岐にわたっている。ここでは履修した学生が、ヒトやその特性に配慮することのできるエンジニアへと成長してくれることを、期待している。なお、履修者は主に機械工学科の学生と思われるが、他学科学生の履修実績もある。

【到達目標】

具体的にはこの講義を通じて、道具や機械とヒトとの関わりや人間-機械系において、ヒトの特性がどのように作用しているのかを理解することにより、学生はエンジニアとして、より成長できるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の到達目標及びテーマに沿って、授業計画に示したようにすすめる。講義形式ではあるが、頻繁に質問を投げかけ、また質問を受け付ける形で学生の持つ疑問へのフィードバックを行っている。質問には積極的に答えてほしい。(ある種のアクティブラーニングである。)

各回の授業計画に変更があれば、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	機械工学と人間工学の関わりについて。
第2回	ヒトを含むシステム (人間-機械系)	人間-機械系とは何か、について。
第3回	ヒトを含むシステム (閉ループ制御)	人間-機械系の多くと、閉ループ制御系との類似性について。
第4回	ヒトを含むシステム (操作の難しさ)	閉ループ制御系として見た、人間-機械系における、操作を難しくする要因について。
第5回	正しい操作を導くもの (誤操作について)	配慮に欠けた製品と、結果として生じた誤操作について。
第6回	正しい操作を導くもの (正しい操作を導くための制約)	どのように、正しい操作は導かれるのか、について。
第7回	使いやすくなるには	誤操作防止の観点から見た、使いやすさについて。
第8回	ヒトとバラつき	ヒトについて扱う上で避けることのできない、バラつきについて。
第9回	バラつきの扱い方	バラつきを扱うための、最低限の統計的手法について。
第10回	ヒトに備わったアクチュエータ	操作をする際に主として用いられる、筋骨格系とその特性について。
第11回	ヒトと疲労	個々の骨格筋から、全身に至るまでの疲労について。
第12回	ヒトに備わったセンサー (視覚系)	操作に必要な情報を得る際に最も多く用いられる、視覚系の特性について。

第13回 ヒトに備わったセンサー (聴覚系) 同じく、聴覚系の特性について。

第14回 ヒトに備わったセンサー (触覚など) その他、触覚など補助的に用いられる系の特性について。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

講義中に適宜、次回講義までに自ら調べるように指示することがある。講義の理解を深めるべく、予習あるいは復習のつもりで行ってほしい。また、身近な道具や機械とヒトとの関わりについて、興味をもって自らの周囲を日頃から眺めてほしい。

【テキスト (教科書)】

プリント (資料) を随時配布する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

主に定期試験の得点によるが、平常点も加える。全体を100%とした時のおよその内訳は、試験得点が95%、平常点が5%である。但し上記の平常点の他に、授業中の質疑応答により加点することがある。

設定した到達目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートにおいては、あまりネガティブな回答は見られない反面、予復習等に費やした時間は短い傾向が見られた。そこで、この点についての工夫を引き続き行いたい。また、今後も有効な材料については、適宜反映したい。

【その他の重要事項】

重要な内容を扱う可能性があるので、履修予定者は初回から出席すること。

全て対面での実施を予定している。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The title of this class is "Ergonomics and Human Factors." And its objective is to obtain knowledge to design objects, which include machines, workplaces, etc., with awareness of human capabilities and limitations.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do their own investigation according to instructions given in the class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.

Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

【Grading Criteria /Policy】

Students who have achieved at least 60% of the achievement goals earn the credit.

MEC300XB (機械工学 / Mechanical engineering 300)

製品開発工学

吉田 一朗

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

製品開発は、多様な組織が密接に協調しながら、製品を企画し指定された期間内に要求される品質の製品を生産するまでの複雑で組織的な活動です。本講義は、機械工学科の各科目の知識を基礎に、企業や研究機関における製品開発や研究活動のプロセスを学びます。加えて、「データサイエンス」や「品質管理」に必須となる「統計学」について、その基礎を学びます。

また、社会での実践経験（実戦経験）の豊富な方々を招き、開発事例や経験を講義して頂きます。これらを通し、開発企画や仕様決定、製品アーキテクチャ、製品プロトタイピング、製品開発管理などの基礎手法を学んでください。また、産業界の事例により製品開発や研究活動の流れを具体的に把握していきます。

以上の内容を通し、自発的に学ぶ意識や問題を発見できる意識を自ら養い、製品開発、研究活動や問題設定を具体的に進められる基本的な能力をつけて下さい。（この能力や意識は、3年後期のPBLや4年の卒業研究、博士前期課程（修士課程）、博士後期課程（博士課程）での研究活動に役立ちます）

上記のような素養が身につけられれば、機械工学の王道系企業に限らず、IT企業やAI企業、電機メーカ、医療機器メーカ、食品業界、建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けることに繋がります。

授業担当者は、本講義を通して企業人の視点を学び・感じ取ってもらい、履修学生のみなが今後のキャリア・進路や就職活動に役立ててもらいたいと思っています。

【到達目標】

履修学生は、複雑な実務活動である製品開発の基本的考え方を学び、事例を通じて現代の製品開発の様相を理解する。機械工学の他の関連科目の役割や重要性を理解し、製品開発や研究の流れを理解することが到達目標です。

以上の理解によって、自ら進んで自発的に学ぶ意識や自ら問題を発見できる意識を養い、製品開発や研究活動、課題設定を具体的に進められる基本的な能力を養うことも履修学生の到達目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

製品開発工学に関連する機械工学の科目は多い。また、必要な基礎知識を復習しながら、製品開発工学に必要な手法を学んでもらいたい。授業計画では大きく分けて、製品開発工学の概要、企業の製品開発で必ず必要となる特許、最新の製品開発事例、研究や製品開発での実験・検証において重要な計測学の基礎、研究・製品開発において多用される手法などについて学ぶ。理解度を上げるため、理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。また、ほぼ毎回レポート課題を課す。適時、課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

本授業では、新井 武氏、上久保 尚氏（武蔵エンジニアリング㈱マーケティング戦略部 係長、統括課長）、海老裕介氏（伊藤・海老国際特許事務所 代表弁理士）、梶原優介氏（東京大学 教授）、栗谷龍彦（DMG森精機㈱ 執行役員）、後藤智徳氏（㈱ミットヨ 執行役員、Ph.D.）、田中秀岳氏（上智大学 教授）、圓谷寛夫氏（現 精密工学会 事務局長/元 ㈱ニコン ゼネラルマネージャ）、中原みき氏（㈱トライエス 取締役）、中谷尊一氏（シチズンマシナリー㈱ 現 シニアアドバイザー/元 開発企画部 部長）、西村公男氏（日産自動車㈱ パワートレイン生産技術本部パワートレイン技術企画部 エキスパートリーダー）、橋本信幸氏（現 日本女子大学/元 シチズン時計㈱ 研究開発センター上席研究員、Ph.D.）、藤井章弘氏（現 ㈱エビデント（旧 オリンパス㈱イノベーション推進部フェロー）、Ph.D.）、藤嶋 誠氏（DMG森精機㈱ 取締役副社長、博士（工学））、宗像令夫氏（㈱PQM総合研究所 代表取締役社長/元 リコー）、山本和久氏（マツダ株式会社 元 人事室/現 商品戦略本部）、湯島 彰（㈱東芝/元 東芝デザインセンター長）（五十音順）ら、研究・開発経験の豊かな方々をお招きし、企業・大学での開発現場における実践的な事例を学ぶ。

以上の方々と授業担当者の講義を通し、研究開発に加え人々の役に立つことや社会貢献の精神・考えを学び、将来の就職活動や自己実現にも役立ててもらいたいと考えている。

新型コロナウイルス等の感染症の状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は、春学期中、必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更、成績評価の方法などの変更等については、学習支援システムでその都度提示する。また、本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム：Hoppii等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため、オンライン式、対面式を含め具体的な授業の進め方などは、学習支援システム：Hoppii等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	製品開発プロセス、研究、開発について	製品開発とそのプロセスの全貌、研究・開発について講義する。
2	特許入門（1）	弁理士の方を招いて特許の基礎から出願の仕方、特許につながるアイデアの出し方まで講義いただく。
3	特許入門（2）	担当教員の2016年3月迄の企業経験や企業での特許実績を踏まえた特許の基礎や事例、コツについて講義する。

4	企業における製品開発事例（１）	大手自動車メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例や製品開発における大事なポイントや求められる人材について講義いただく。 大学における学び方や姿勢は、高校までとは全く異なること、また、就職活動を有利にするためにも、学生時代に意識改革をしておくことが良いことなどを講義いただく。 また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。	11	統計学の基礎（１）	製品開発には計測が必要不可欠であるが、測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば、間違った分析をしてしまい、製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて、統計学は「データサイエンス」や「A I」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎中の基礎から、表、グラフによるデータ処理、度数分布表やヒストグラムの作成方法、企業の現場で使用する統計学などについて講義する。 3回の講義で統計学の概要がつかめるように、毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
5	企業における製品開発事例（２）	大手光学機器メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。	12	統計学の基礎（２）	製品開発には計測が必要不可欠であるが、測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば、間違った分析をしてしまい、製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて、統計学は「データサイエンス」や「A I」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎として、ヒストグラムの分析の仕方、累積度数分布の作成方法、数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 3回の講義で統計学の概要がつかめるように、毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
6	企業における製品開発事例（３）	大手光学機器メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例について講義いただく。また、企業における製品開発や設計業務において、大学の講義内容がいかに重要であるかを講義いただく。 また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。	13	統計学の基礎（３）	製品開発には計測が必要不可欠であるが、測定データは必ず統計学の演算を行う。統計の計算を誤れば、間違った分析をしてしまい、製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計学とその計算は重要である。加えて、統計学は「データサイエンス」や「A I」を学ぶ際に必須の知識であるため非常に重要である。 統計学の基礎として、数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 3回の講義で統計学の概要がつかめるように、毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
7	企業における製品開発事例（４）	大手計測機器メーカーの方を招いて、企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また、所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。	14	計測学の基礎	製品開発には計測が必要不可欠である。その絶対不可欠な計測について講義する。 計測における考え方や必要性、事例、測定機の種類などを講義する。 計測分野は、機械工学系出身の者にとって、もっともノーベル賞に近い分野の一つであるほど重要である。
8	企業における製品開発事例（５）	担当教員の2016年3月迄の約8年間の企業における研究・製品開発経験を交えた製品開発の考え方や製品開発事例、大学との共同研究などについて講義する。			
9	大学における研究・開発の事例（１）	東京大学 生産技術研究所の教員の方を招いて、大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。			
10	大学における研究・開発の事例（２）	他大学の教員の方を招いて、大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3時間を標準とする】

1. 身近にある機械を観察し、その本質的機能は何か、なぜそのような構造になっているのか、もっと良い構造は考えられないか、などを考え、問題意識を持って授業に臨むことが期待されます。

2. 大学は、社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）です。社会に飛び立つと、学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減します。そのため、ぜひ社会に出るまでに、自力で学習できる技術と能力、精神、考えを身に付けられると良いと考えます。この能力は一生ものであり、社会に出た後、どの分野に進んだとしても必ず役に立ちます。

3. 機械工学に関する基礎的な科目および設計工学について、よく復習し身につけておくことが重要です。製品開発のための実用的な設計手法は多いが、授業で学んだだけでは真の理解には至りません。自ら課題を設定し、自発的に学ぶ学習態度が望まれます。

【テキスト（教科書）】

教科書については、初回のガイダンスで説明します。

1. 必要に応じて授業資料を配布する。

2. トリーズ (TRIZ) の発明原理 40 あらゆる問題解決に使える [科学的] 思考支援ツール, 高木芳徳, ディスカヴァー・トゥエンティワン社 (2014年), 2,640円 (税込)。

【参考書】

1. 『101 デザインメソッドー革新的な製品・サービスを生む「アイデアの道具箱」』, ヴィジェイ・クマー, Vijay Kumar, 渡部典子 (翻訳), 英治出版 (2015年), 2,750円 (税込)。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業中の課題：80%, 期末試験：20% の配分とします (ただし、期末試験を実施しない場合は、課題・レポート：100% となる。期末試験を実施しない場合は、実施の2週間前までにアナウンスする)。

講義中に設定される課題についてのレポート提出状況、レポートの内容および期末試験の結果を総合して成績評価します。

評価基準は、60%以上が合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

① 授業を聞くだけでなく、自ら具体的な製品開発の課題を想定し、授業で学ぶ考え方や手法を積極的に実践し深く理解していくことが望まれます。

② 大学の授業は高校までの授業と異なり、授業の内容を勉強するだけでなく、教師がいなくても自分で学ぶことのできる能力：勉強の仕方を身に付ける場です。この能力を身に付けて、養えている学生は、卒業研究を含む3・4年生科目で能力を発揮し、更に、企業に勤めてからも活躍しています。

③ 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで学びの自由度を向上させ、授業内容の理解を深めることを可能としています。

【学生が準備すべき機器他】

1. 必要に応じて貸与ノートPCや関数電卓が必要。

2. レポート・課題の提出用紙は、A4もしくはA3のみを受け付ける。提出用紙サイズは、授業中に指示するので厳守。

【その他の重要事項】

本授業は、「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は、精密機器メーカーで約8年間、実際に販売する製品の開発および最先端の超精密機器の研究開発の実務経験がある。また、特許・知財管理業務の実務経験、および、研究開発者として特許出願経験や登録特許も保有する。

加えて、企業人として大学・研究機関への共同研究の依頼・契約締結の経験、および、逆に大学人として企業・研究機関への共同研究の依頼・受託・契約締結の業務経験を有する。

フィールドワークについては、課題を課す。具体的には、学生本人が興味のある製品や商品、サービスについて市場で流通しているものと比較して考察・発案する課題を課す。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The product development is a complex and organizational activity, and various organizations should cooperate closely to plan products and produce products of required quality within a specified period. In order to understand such product development, in this lecture, students understand the whole product development process based on the knowledges of each lecture of Mechanical Engineering Department.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the processes and concepts of product development.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC400XB (機械工学 / Mechanical engineering 400)

エネルギー変換工学

飯島 晃良

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

種々のエネルギー形態とエネルギー形態間のエネルギー変換の基礎技術を講義する。

更に変換の高効率化、多様性、有効利用、環境調和に関して、現在および将来のエネルギー変換技術を概説する。

【到達目標】

種々のエネルギー形態とエネルギー形態間のエネルギー変換の基礎を学習し、エネルギー変換技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義中心の授業を実施する。必要に応じて例題、演習問題を解き、理解を深める。適宜トピックスを取り上げて紹介する。

課題についてのフィードバックは、主に学習支援システムを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概要	講義の概要、目標、講義日程など
2	エネルギー問題とエネルギー変換	エネルギー事情、エネルギー問題、エネルギーの種類と変換
3	熱力学の基本則	熱力学第一法則、第二法則など
4	熱機関 1	熱機関の概要、種類・型式など
5	熱機関 2	ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなど
6	熱機関 3	ガスタービンなど
7	熱機関 4	ジェットエンジンなど
8	熱機関 5	蒸気タービン、複合機関など
9	冷凍空調	ヒートポンプと冷凍サイクル
10	再生可能エネルギー	太陽光・風・地熱エネルギー・水力など
11	直接変換 1	熱電変換など
12	直接変換 2	水素エネルギー・燃料電池など
13	エネルギー有効利用	高密度エネルギー輸送・貯蔵技術、省エネルギー・排熱回収技術など
14	全体まとめ	授業全体の総括・レポート課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
熱力学と伝熱工学を必要に応じて復習する

【テキスト（教科書）】

無し

【参考書】

新版 エネルギー変換 斉藤他 東京大学出版会 2006年3月
必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席率70%以上の受講者に対して、期末レポート評価(70%)を主に、課題(30%)を勘案の上、評価する。

評価基準： 本科目において設定した到達目標を60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course provides an introduction to basic concepts of various energies and the energy conversion technologies from one of energy to other energy. additionally, this course provides energy conversion technologies relate to the realization of high conversion efficiency, effective utilization, and environmental harmony.

(Learning objectives)

The aim of this course is to achieve a comprehensive understanding of the fundamental concepts of energy and energy conversion technology.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading criteria/Policies)

Your final grade will be decided according to the following process:

・ The ratio of class attendance over 70 % (over 10/14) will be decided the final grade.

・ Exercises in lecture 30%, and term-end report 70%.

To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

基礎アナログ電子回路

安田 彰

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電子回路に用いられる能動素子の機能、動作、特性およびその解析方法を理解する。また、基本的な電子回路の構成方法およびその解析方法、設計法、実験法、シミュレーション法を習得する。

【到達目標】

トランジスタを1つ用いたアナログ電子（増幅器）の設計が行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トランジスタの動作原理から1つのトランジスタを用いた基本回路を講義する。次に、2つのトランジスタを用いた各種回路を解説する。授業では、spiceなどの回路シミュレータを用いた回路設計や実際のトランジスタを用いた実験を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	受動素子	抵抗, キャパシタ, インダクタ, 電源, 制御電源
第2回	電子管および半導体	電子管, 共有結合と半導体, 不純物半導体, p n接合とダイオード, ダイオード特性と等価回路
第3回	トランジスタの基本特性 1	n p n接合とp n p接合, トランジスタの動作と静特性, 電流増幅率 (α , β)
第4回	トランジスタの基本特性 2	FET, MOS FETno動作と静特性
第5回	トランジスタの小信号等価回路	トランジスタの小信号等価回路の導出
第6回	トランジスタを用いた基本回路 1	回路の諸特性, バイアス回路, エミッタ接地回路
第7回	トランジスタを用いた基本回路 2	ベース接地回路, コレクタ接地回路
第8回	トランジスタを用いた基本回路の実験	エミッタ接地回路の動作実験
第9回	トランジスタを用いた基本回路 3	2つのトランジスタを使った基本回路と特性
第10回	Spiceによるシミュレーション	基本回路のSpiceによるシミュレーション
第11回	差動増幅回路 1	トランジスタ差動増幅回路の構成, 大信号特性, 小信号等価回路
第12回	差動増幅回路 2	差動利得, 同相利得および同相成分抑圧比とその改善法
第13回	カレントミラー回路	カレントミラー回路の構成と特性
第14回	能動負荷を用いた増幅器	能動負荷を用いた増幅器の構成と特性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義で行う予定の内容について教科書をあらかじめ読んで講義に臨むこと。授業では、ブレッドボードを用いた実験や、spiceを用いたシミュレーションを行う。講義後は、これらブレッドボードやspiceを用いて電子回路の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

藤井信生「アナログ電子回路」オーム社

【参考書】

原田耕介, 二宮 保, 中野忠夫 共著「基礎電子回路」コロナ社

【成績評価の方法と基準】

小テスト(20%), レポート (40%) 試験(40%)

【学生の意見等からの気づき】

電子回路の動作のイメージが持てるような説明を行います。

【その他の重要事項】

「電気回路」の知識を前提に行う

【Outline (in English)】

Understand the function, operation, characteristics and analysis methods of active devices used in electronic circuits. In addition, This course introduces a basic electronic circuit and its analysis method, experiment method, simulation method.

ELC200XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 200）

応用アナログ電子回路

安田 彰

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電子回路の周波数特性の解析方法を理解する。またフィードバック回路の機能、動作、特性およびその解析法を習得する。また、演算増幅器、発振回路等の応用回路を理解する。

【到達目標】

周波数特性を含めた、トランジスタ回路の解析方法を身につける。また、カレントミラー、差動増幅器といった基本回路の設計が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トランジスタなどの能動素子を用いた電子回路の周波数特性の解析法について学ぶ。次にフィードバック回路の原理を学ぶ。また、応用回路として、発振回路、変復調回路、フィルタ等について学ぶ。また、spiceなどの回路シミュレータを用いた回路設計や実際のトランジスタを用いた実験を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	増幅器の周波数特性 1	周波数特性の表現法，低域および高域遮断周波数，トランジスタ増幅器の周波数特性
第2回	増幅器の周波数特性 2	ミラー効果，利得帯域幅
第3回	増幅器の周波数特性 3	トランジスタ増幅器の周波数特性改善法
第4回	フィードバック回路 1	フィードバック回路の構成法と特徴
第5回	フィードバック回路 2	フィードバック回路の周波数特性および位相補償回路
第6回	出力回路	出力回路の構成（A級，B級，A B級）と特性
第7回	演算増幅回路 1	演算増幅回路の基本構成，帰還増幅器の入出力抵抗，無帰還利得，帰還利得
第8回	演算増幅回路 2	演算増幅器を用いた反転増幅器，非反転増幅器，加算器，差動増幅器，積分器，微分器
第9回	雑音 1	雑音とその性質，熱雑音，トランジスタの雑音
第10回	雑音 2	雑音指数，増幅器の雑音特性
第11回	発振回路	発振回路の分類と発振条件（振幅条件，周波数条件），LC発振器の構成，RC発振器の構成
第12回	変復調回路 1	振幅変調回路（ベース，コレクタ変調回路，平衡変調回路）
第13回	変復調回路 2	振幅復調回路（2乗検波，包絡線検波）
第14回	フィルタ回路	フィルタ基本回路

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義で行う予定の内容について教科書をあらかじめ読んで講義に臨むこと。授業では、ブレッドボードを用いた実験や，spiceを用いたシミュレーションを行う。講義後は，ブレッドボードやspiceを用いて電子回路の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

藤井信生「アナログ電子回路」オーム社

【参考書】

原田耕介，二宮 保，中野忠夫 共著「基礎電子回路」コロナ社

【成績評価の方法と基準】

小テスト(20%)・レポート (40%)・試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

授業には，PCにスライドをダウンロードするか，スライドを印刷することを薦めます。必要なメモは，スライドの上書き込んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC

LTspice

【Outline (in English)】

This course deals with how to analyze the frequency characteristics of electronic circuits. This course introduces the function, operation, characteristics and analysis method of the feedback circuit. This course also introduces application circuits such as operational amplifiers and oscillation circuits.

アナログ回路デザイン

安田 彰

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CMOSを用いたアナログ集積回路の設計の基礎を身につけ、機能回路ブロックの設計を行う。

【到達目標】

CMOSアナログ回路の基本的な設計を行えるようになる。また、解析的およびシミュレータを用いたその特性の評価能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

CMOSアナログ基本回路から機能回路ブロックまで、動作原理等について講義を行う。また、各回路ごとに、LTspiceなどの回路シミュレータを用いて授業中に回路設計を実際に各自行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アナログ集積回路の予備知識	アナログ回路設計者の心構え，シリコン基板，MOS素子の構造，MOS型集積回路の製造工程
第2回	MOSFETの動作	MOSFETの動作原理，MOS素子の小信号等価回路
第3回	MOS増幅回路の基礎	基本増幅回路（ソース接地回路，ゲート接地回路，ドレイン接地回路），カスコード増幅回路
第4回	増幅回路の周波数特性	フィルタ特性，周波数特性を決める要素，増幅器の周波数特性
第5回	アナログ回路のノイズ	ノイズを伝える3要素，ノイズに強いアナログ回路設計
第6回	差動増幅回路	差動増幅回路，差動電圧利得，同相電圧利得，バイアス回路
第7回	コンパレータ回路	サンプル&ホールド回路，増幅器とラッチ回路の過渡応答特性，高速コンパレータ回路，オフセットキャンセル法，出力バッファ
第8回	素子マッチングとレイアウト	MOSFET特性のばらつき，ばらつきの影響を低減する方法
第9回	フィードバック回路	帰還回路の概念，機関回路の効用，帰還増幅器
第10回	OPアンプ1	OPアンプとは，OPアンプの要素回路，差動入力段，2段構成のOPアンプ設計法
第11回	OPアンプ2	入力段の許容入力電圧範囲の拡大法，出力バッファ回路
第12回	フィルタ	フィルタの歴史，フィルタの伝達関数，フィルタの周波数特性，フィルタの実現法，連続時間フィルタ，スイッチトキャパシタフィルタ
第13回	アナログーデジタル変換器	A-D変換器の原理，並列型ADC，パイプラインADC， $\Delta\Sigma$ ADC

第14回 アナログ回路デザイン OPアンプ回路の設計実演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回で解説した基本回路の動作をspiceシミュレータにより確認し、実際に設計を行うこと。

【テキスト（教科書）】

谷口研二「CMOSアナログ回路入門」CQ出版社

【参考書】

Dehzad Razavi, “Design of Analog CMOS Integrated Circuits,” McGRAW-Hill

【成績評価の方法と基準】

授業内演習（60％）および設計レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講義と演習を行います。演習では、実際に設計を行いますので、その際に疑問点などにお答えします。質問を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

演習ではPCを使用します。

【その他の重要事項】

「電気回路、電子回路」の知識を前提に行う。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of a CMOS analog integrated circuit design. The students who take this course design and verify functional circuit blocks with a simulator.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

パワーエレクトロニクス

早乙女 英夫

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

直流電力の電圧変換、直流電力から交流電力への変換および交流電力から直流電力への変換を行うパワーエレクトロニクス技術の概要を理解する。

【到達目標】

DC-DCコンバータ、インバータおよび整流器の基本動作が理解できることを本授業の到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーエレクトロニクス技術の実用例を紹介し、その基礎となる電力用半導体デバイス、電力回路、電子回路、電力変換および制御などの要素技術について、例題や演習を交えて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義概要	パワエレ製品の紹介、本講義で解説する内容の概要説明
2	電力の復習(1)	単相回路における瞬時電力や複素電力についての復習
3	電力の復習(2)	三相回路における電力、3相2相変換
4	DC/DCコンバータ(1)	チョッパ回路の基本動作
5	DC/DCコンバータ(2)	バイポーラトランジスタやFETのスイッチング特性
6	DC/DCコンバータ(3)	接合型ダイオードの逆回復特性、バックコンバータ
7	DC/DCコンバータ(4)	フォワードコンバータ、ブーストコンバータ
8	DC/DCコンバータ(5)	バックブーストコンバータ、フライバックコンバータ
9	インバータ(1)	3相インバータの動作原理
10	インバータ(2)	出力電圧のフーリエ解析
11	インバータ(3)	PWMインバータ
12	整流器(1)	ダイオード整流器
13	整流器(2)	サイリスタ整流器
14	整流器(3)	直流送電、PWMコンバータ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
復習を行い、疑問があれば、次の授業で必ず質問すること。

【テキスト（教科書）】

講義に出席し、講義ノートを取ることでテキストとしている。講義中の質問は常時受け付けている。

【参考書】

電気回路、電磁気などの教科書。電機メーカーの技術報告資料など。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(100点満点)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教員の熱意があり、工夫された授業であるとのコメントが毎年あり、現状を続けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義は全てプロジェクターを用いたパワーポイントで行う。

【その他の重要事項】

教員が解説中の私語は厳格に禁止している。ただし、自由な雰囲気でのディスカッションの時間を設けている。

【Outline (in English)】

Basic technologies of power electronics, such as DC-DC, DC-AC and AC-DC power conversions are delivered in this lecture. The students will understand these technologies and their related circuit theories through the lecture. The grade is decided by only the term-end examination.

ELC300XD（電気電子工学 / Electrical and electronic engineering 300）

デジタル回路デザイン

安田 彰

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハードウェア記述言語(verilog)を用いた論理回路設計を身につける。

【到達目標】

授業終了時には、デジタル機能ブロックの設計が出来るようになる。また基本的なCPUの設計が出来ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

デジタル基本回路について復習し、これらのハードウェア記述言語による記述方法を講義する。また、これらについて授業時間内にPCを用いてシミュレータにより、その記述方法、特性について検証する。また、より高度な回路の設計方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル集積回路設計とは	デジタル回路集積回路設計の概要
第2回	論理検証とシミュレーション	デジタル回路の検証、デジタルシミュレータ、Spiceシミュレータ
第3回	論理合成	論理合成とツール
第4回	HDL記述の基礎 (1)	代入文、代入文、演算子、条件式
第5回	HDL記述の基礎 (2)	always文、case文、ループ文、フリップフロップ
第6回	HDL記述の基礎 (3)	ブロッキング代入文、ノンブロッキング代入文、関数、タスク
第7回	HDL記述の基礎 (4)	ゲートレベル・モデリング、パラメータ化された設計
第8回	モデリング例 (1)	順序回路（同期・非同期フリップフロップ）
第9回	モデリング例 (2)	カウンタ、シフトレジスタ
第10回	モデリング例 (3)	メモリ、レジスタ
第11回	モデリング例 (4)	有限状態マシン
第12回	モデリング例 (5)	ALU、カウンタ、デコーダ、マルチプレクサ
第13回	設計演習 (1)	信号処理回路の設計演習
第14回	設計演習 (2)	FPGAによる実装

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】Verilogシミュレータを用いて、解説された論理回路の設計を行うこと。

【テキスト（教科書）】

ディビッド・マナー・ハリス、サラ・L・ハリス著、天野英晴他訳「デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ」翔泳社

【参考書】

小林優 著「入門VerilogHDL記述」CQ出版

【成績評価の方法と基準】

授業内演習レポート（60％）およびレポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、Verilog言語を用いた設計実習を行う。その際、CADソフトの使用法の練習も行う。皆さんのオリジナリティを出せるような演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC

【その他の重要事項】

本講義では、PCを用いた演習を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces a logic circuit design using a hardware description language (Verilog).

SSS100XF（社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 100）

ゲーム理論

白川 慧一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現実の様々な社会問題の解決においては、多主体の多様な利害関係がある中で、いかにして個人の意思に基づく行為を制限する公共的意思決定を実現できるかが鍵となります。このとき実現し得る制度には、個々人の個別行為の権利を前提とした自発的な契約と、国家権力に基づく強制を両極として、権利の共有と慣習による共同管理など、様々な権利設定の形態が存在します。そうした制度になぜ正当性が認められるべきか、あるいはそうした制度がなぜ有効に機能するかに関しては、現実の問題に即した形で様々な議論がなされています。

本講義では、社会制度設計の基礎理論として、ゲーム理論の基礎的な概念を学ぶとともに、社会制度設計の問題をめぐる既存理論への理解を深めることを通じて、現実の社会問題の解決に向けて自ら問題を理解し分析、提案できる学習方法を身に着けることを目指します。

【到達目標】

1. 社会システムをゲーム理論により分析するための基礎的素養の習得
2. 集合行為ジレンマとその解決に関する既存理論の理解
3. 自ら設定した現実の社会問題への理解と実践的な解決策の提案のために、既存理論を読み解き、自力で理解を深める学習方法の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半の講義では、非協力ゲーム理論の基礎となる概念（ナッシュ均衡、支配戦略、パレート最適、完全部分均衡、シグナリング、プリンシパル・エージェント問題）を学びます。

後半の講義では、主に政治科学分野における、ゲーム理論の応用を通じた制度への理解、とりわけ社会的ジレンマ状況下において利己的な個人が協力行動に転じるような制度の成立条件をめぐる議論を通じて、個人の意思に基づく行為を制限する制度の有効性、正当性をめぐる既存理論を学びます。

授業では、毎回課題を出します。毎回の講義で、前回の講義内容のまとめと、前回課題に対する講評を行います。課題は、各回の授業内容の範囲内から出題します。また、最後に期末レポート課題を出します。課題等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：社会工学の目的	なぜ社会制度設計にゲーム理論が有益なのか、社会問題をどのように扱うか、本講義の目的の方向づけを行う。
第2回	ゲーム理論とは何か	ゲーム理論の基礎となる、ゲームの構成要素、選好関係、効用といった概念から、ゲームとして表現する方法を学ぶ。 (岡田章著『ゲーム理論・入門(新版)』2014年 1～3章)

第3回	ナッシュ均衡と個人合理性	表現されたゲームから得られる帰結を導く方法を、最適反応戦略、ナッシュ均衡、支配戦略といった概念から学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』4章)
第4回	囚人のジレンマとパレート最適性	囚人のジレンマゲームを取り上げ、個人合理性と集団合理性が一致しないジレンマがどのように描けるかを学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』5章)
第5回	純粋戦略と混合戦略	ゲームにおける戦略の幅を、純粋戦略から混合戦略にまで広げたときの均衡の求め方、帰結の変化を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』4章)
第6回	完全部分均衡	ゲームに順番の概念を導入することによる均衡の求め方、帰結の変化、コミットメントの効果を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』6章)
第7回	逆選択とシグナリング	相手の好みが分からないときの均衡の求め方、帰結の変化、シグナリングの効果を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』8章)
第8回	モラルハザード	相手の行動が分からないときの帰結の変化、オークションを例としたインセンティブ設計とその効果を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』8章)
第9回	社会的ジレンマ	公共財供給問題、コモンズの悲劇といった社会的ジレンマとその解決策に関する社会心理学の知見を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』5章)
第10回	繰り返しゲームと協力の可能性	ゲームが繰り返されるときの均衡の求め方、割引率の概念、条件つき協力の成立条件の求め方を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』7章、M. テイラー著『協力の可能性』1987年 3章)
第11回	N人囚人のジレンマゲームと協力の可能性	多主体、繰り返しゲーム状況を考察することの政治学的な意義と、条件つき協力の成立条件の求め方を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』7章、M. テイラー著『協力の可能性』4章)
第12回	自己組織的な制度による社会的ジレンマの克服	自己組織的な監視と規制による相互協力の実現の、ゲームによる説明と、実例からの知見を学ぶ。 (E. オストロム著『コモンズのガバナンス』1990年 1～2章)
第13回	協力行動の進化	ゲームのシミュレーション実験の帰結と知見、進化ゲームによる理解と定常状態の求め方を学ぶ。 (岡田『ゲーム理論・入門』11章、R. アクセルロッド著『つきあい方の科学』1984年 2章)

第14回 社会関係資本と制度 政治社会制度のパフォーマンスへのゲームによる理解と、社会関係資本の効果、制度をゲームで理解する実践について学ぶ。
(R.パットナム著『哲学する民主主義』1993年 6章)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回の課題に備え、授業計画にて指定されたテキストの範囲を事前に予習する。

期末レポートに備え、毎回の授業ごとに課題、テキストを復習するとともに、理解をさらに深めるために、授業中に紹介される参考書に取り組む。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に紹介するほか、毎回レジュメを配布します。
岡田章著『ゲーム理論・入門（新版）』は基本書なので、他にゲーム理論の参考書を持っていなければ購入するとよいでしょう。

【参考書】

1. 岡田章著『ゲーム理論・入門（新版）』2014年
 - 2 M. テイラー著『協力の可能性』1987年
 - 3 R. アクセルロッド著『つきあい方の科学』1984年
 - 4 E. オストロム著『コモンズのガバナンス』1990年
 - 5 R. パットナム著『哲学する民主主義』1993年
- その他必要に応じて、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義での課題（40%）と、期末レポート（60%）により評価します。

ゲーム理論の基礎的素養の習得と集合行為ジレンマに関する既存理論の理解の程度は、毎回の講義での課題により評価します。
現実問題の分析と当該問題における既存理論の学習方法の習得の程度は、期末レポート課題により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解が深まるよう、講義内で基礎理論を繰り返し復習するとともに、実例を交えながら講義を進めていきます。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course aims to learn fundamental concepts of game theory and existing theories on making institution effective to solve collective action dilemmas, and acquire the way to analyze and create a solution to social problems.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to acquire fundamental concepts of game theory, collective action dilemmas and solutions, and their application to social system.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end reports: 60%
- Short reports on each class meeting: 40%

SSS300XF (社会・安全システム科学 / Social/Safety system science 300)

保全性工学

田村 信幸

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保全に関連した話題は非常に多岐に渡る。本講義では特に保全活動を行う場面で必要な保全性設計と評価のための考え方と方法論、及び保全計画構築のための数理的手法を学ぶ。

【到達目標】

保全方式を分類し、与えられた状況の下で適切な方式を選択できる。保全性の設計や評価を行うための基本的な考え方と方法論を理解している。さらに、保全計画構築のための数理的手法の基礎理論を理解し、簡単な問題へ適用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。また、学生を指名してこちらで提示した質問に回答して貰う等、可能な限り講義時間内に発言する機会を設ける。また、講義内容の理解を深めるため、適宜演習を行う。演習や課題の提出とそれに対するフィードバックは学習支援システムを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	準備	品質管理、信頼性、保全性、及び安全性の概念と関係性を学ぶ。
第2回	保全性設計の基礎	保全の重要性、LCCの定義、保全方式の分類について学ぶ。
第3回	保全性設計支援手法	RCMの考え方とLCCの計算について学ぶ。
第4回	保全性評価手法1	FTAと計算法を学ぶ。
第5回	保全性評価手法2	FMEAとFTA、デザインレビューの基礎を学ぶ。
第6回	保全性評価のための統計モデル1	重回帰モデルの概要を学ぶ。
第7回	保全性評価のための統計モデル2	ロジスティック回帰モデルの基礎を学ぶ。
第8回	信頼性試験1	計数規準型抜き取り検査の構造を学ぶ。
第9回	信頼性試験2	計数規準型抜き取り検査の設計を学ぶ。
第10回	故障物理（構造信頼性）	故障モデルと加速試験を学ぶ。機械・構造物の破損の確率論的評価について学ぶ。
第11回	確率過程の基礎1	ポアソン過程と非斉次ポアソン過程を学ぶ。
第12回	確率過程の基礎2	再生過程と再生報酬過程の基礎を学ぶ。
第13回	時間計画保全1	年齢取り替え方策とブロック取り替え方策を学ぶ。
第14回	時間計画保全2	小修理を考慮したブロック取り替えについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】毎週講義内容を復習する。また、必要に応じて1年次の確率統計と2年次の数理統計学の内容を勉強した方がよい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。学習支援システムを利用して資料を配布する。

【参考書】

藤本良一、堀籠教夫：保全性技術，日科技連，2010年。
内容が多岐に渡るので、その他は必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート(60%)と講義内に行う演習(40%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコン

【その他の重要事項】

取り上げる内容や順番は多少変更することがある。
併せて信頼性工学と応用確率論を受講するとより一層理解が深まる。
また、3年次に進級後はデータ分析、多変量解析、及びTQMを受講することを勧める。

【Outline (in English)】

In this course, students learn several ideas and methodologies for assessment and design of maintainability, and mathematical methods for maintenance planning based on statistics and probability theory.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) to assess maintenance problems based on necessary information
 - 2) to select an appropriate method for analysis of maintenance problems
 - 3) to derive maintenance plan by using mathematical models
- Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. And if necessary, reviews on basic probability theory and mathematical statistics learned at 1st and 2nd grade are also needed. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on short reports (60%) and in-class contribution (40%).

法学総論

小川 清一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、法を学ぶ上での基礎知識、憲法を頂点とする法体系及び法解釈論、法学に関わる代表的な裁判例等を学び、他の科目を効果的に学ぶ上で必須となる基礎知識を修得することを目的とする。

【到達目標】

憲法を頂点とする法体系の構造を説明できること、グローバル化した生活を法的な見方で捉えることができること、法律を幅広く学ぶための基礎知識を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それに基づいて講義する。その中で、課題を2回課してレポートを作成してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	法とは何か	法は社会規範の一つであり、当為の法則である。社会規範には法以外に、道徳、習俗、習慣など様々なものがある。ここでは特に法と道徳の相違点を理解する。
2	法源・制定法	法源を成文法と不文法に分ち、それぞれを学修する。成文法には憲法、法律、命令、議院規則、最高裁判所規則、条例、条約がある。ここでは制定法の成立、内容、効力などを学修する。
3	慣習法と判例法	慣習に基づく慣習法の成り立ちと法源性を学修する。裁判所の個々の判決が連なった判例がその後の裁判に影響を与える判例法を学修する。
4	法の目的	法の目的は社会秩序の維持と正義の実現である。この両者には矛盾する側面もある。社会秩序の維持を重視すると正義の実現が歪められることもある（悪法の問題）。
5	法の適用	法を具体的事実に適用し、判決を出すプロセスを法の適用という。法や法律が大前提となり、具体的事実が小前提となる。最後に判決として結論を得るが、これを三段論法という。法の適用のプロセスを学修する。

6 法の解釈

法の解釈とは、法律の文言、その意味内容を明らかにして、具体的事実にあてはめる作業である。法の解釈の方法として、有権解釈と学理解釈がある。有権解釈は立法解釈、司法解釈、行政解釈に分けられる。学理解釈は文理解釈と論理解釈に分けられる。それぞれの解釈を学修する。

7 日本国憲法（人権）

人権は人間の尊厳に由来する権利であるが、その特質、享有主体、他の人権との関係が問題となる。人権には、包括的基本権、平等権、自由権、社会権、参政権などがある。それぞれについて主要な人権を学修する。

8 日本国憲法（統治）

立法権を担う国会は、国権の最高機関であり、唯一の立法機関である。衆議院と参議院という2つの議院によって国会の権能は行使される。行政権を担うのは内閣である。わが国は議院内閣制をとっている。司法権を担う裁判所は司法権の行使と共に違憲立法審査権も有している。

9 刑法

刑法とは犯罪行為とそれに対する刑罰を規定する法である。刑法の基本原則として罪刑法定主義がある。刑罰として、生命刑、自由刑、財産刑がある。それぞれについて学修する。

10 民法・財産法

民法は市民相互間の関係を規律する法律である。財産関係については総則、物権、債権が重要となる。それぞれの概要と機能について学修する。

11 民法・家族法

民法の中でも家族関する法を家族法という。家族法には夫婦関係に関する規律と親子関係に関する規律がある。婚姻や親権など日常生活でも重要な規定が多いので丹念に学修する必要がある。

12 雇用と法

雇用に関する法は民法の特別法である労働法である。労働法は、①労働者と使用者の関係を規律する「個別的労働関係法」、②労働組合と使用者の関係を規律する「集团的労働関係法」、③労働者の需給関係を規律する「労働市場法」に分類される。ここはそれぞれを扱う。

13 裁判制度

裁判には民事裁判、刑事裁判、行政裁判がある。適正な裁判を行うために三審制が採用されている。裁判所には最高裁判所と下級裁判所がある。下級裁判所は高等裁判所、地方裁判所、家庭裁判所、簡易裁判所がある。裁判にかかわる専門家として裁判官、検察官、弁護士がいるがそれも扱う。

14	訴訟法	刑法や民法を実際の紛争や事件にあてはめて訴訟を行うが、その手続を規定した法が訴訟法である。刑事事件を規律する刑事訴訟法と民事事件を規律する民事訴訟法がある。その全体像を学修する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備、復習などの授業時間以外の学習は4時間を標準とする。各回ごとに内容の復習、次回の予習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

講義レジメを配布する。

【参考書】

各回の講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2回の課題レポートの得点（40点満点）、期末試験又は試験に相当する提出課題の得点（60点満点）の合計点で評価する。出席は評価の前提として重視する（8割以上）。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間が10分間延長されたので、この時間を活用して演習課題を題材に発表、討論を行う予定。

【学生が準備すべき機器他】

講義で使用するテキスト（レジュメ）、演習課題、講義日程の連絡等は学習支援システムにアップするので、必ず参照すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is essential for learning the basic knowledge of law, the legal system and legal interpretation theory with the constitution at the top, representative judicial precedents related to jurisprudence, etc., and learning other subjects effectively. The purpose is to acquire basic knowledge.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to be able to explain the structure of the legal system with the Constitution at the top, to be able to grasp globalized life from a legal perspective, and to acquire the basic knowledge to learn a wide range of laws.

【Learning activities outside of classroom】

In lectures, tasks or assignments are set to address.

Study time for each task or assignment will be more than four hours.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
task or assignment of lecture:40%

the end of the course assignment:60%

BSP200XF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

ミクロ経済学

劉 慶豊

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と個人の経済活動の仕組み、生産者の行動、消費者の行動および両者の結果としての市場均衡を説明する経済学の入門としてミクロ経済学の基礎を習得する。

【到達目標】

経営判断の基礎として、市場経済の機能と役割に関する基本的な理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実例を用いながら基礎的なミクロ経済学の理論知識を教授する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	経済学と経済学的な考え方
2	需要と供給	需要と供給の法則
3	需要と供給	需要・供給の価格弾力性
4	公共部門	公共財、政府の役割
5	消費の決定	効用関数と無差別曲線
6	消費の決定	予算制約と効用最大化
7	消費の決定	所得効果と代替効果
8	企業と費用	生産要素、費用曲線
9	企業と費用	費用の最小化、代替法則
10	生産要素市場	労働、貯蓄、資本、人的資本
11	競争的企業	競争的供給、参入と退出
12	競争市場の効率性	余剰、課税
13	競争市場の効率性	パレート効率性
14	競争市場の効率性	一般均衡分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回の課題を解く。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ(著)、藪下史郎、秋山太郎、蟻川靖浩(訳)、スティグリッツ ミクロ経済学(第4版)、東洋経済新報社、2020。税込価格¥ 4,180円。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業中練習問題の解答（20％）と期末試験（80％）による。

【学生の意見等からの気づき】

学生の習得状況に応じて講義内容を調整する。

【その他の重要事項】

関連科目として、この講義の理解を深め、応用するには、「計量経済学」、「マクロ経済学」などの関連講義を数多く履修することが重要です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces basic knowledge of microeconomics to students taking this course.

(Learning Objectives)

Learn basics of micro economics: behaviors of producers and consumers, and resulting market equilibrium.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students are expected to read the relevant books, understood the content, and completed the required assignments.

(Grading Criteria /Policy)

The evaluation will be based on class performance (20%) and final examination (80%)

PRI300XF (情報学基礎 / Principles of informatics 300)

離散システム工学

高橋 宏治

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界で進行中の「超スマート社会」などの構築において、その実現に不可欠な「システムの連携・統合・協調・臨機応変な制御・全体最適化」について学び、身の回りで進展中の変革についてシステム・制御工学的に理解を深める。

デジタルトランスフォーメーションが進んでいる現代社会において、システム統合による変革が本質であり、システムが複雑化・高度化すると共に要求される運用もフレキシブル化・スマート化が求められている。この基本概念を理解し、実システムへの応用・発展につなげられるようになることを目的とする。

まず、超スマート社会・デジタルトランスフォーメーションやシステム工学・制御の全体像と特徴を理解し、「個々の要素を組み合わせることで全体システムとして優れた働きをさせる」工学領域である「離散システム工学」の重要性を認識する。つぎに、システム運用の臨機応変なフレキシブル化の基本である事象駆動について、離散事象システムとして理解する。その後、システムの制御実現の手法の基礎であるフィードバックシステムについて理解する。最後に、これらを連携させてシステム全体の自律的全体最適化に結び付ける応用方法を理解し、効果を認識する。

【到達目標】

1. デジタルトランスフォーメーションにおけるシステム工学の全体像と特徴、その高度化の要点を説明できる。
2. システム運用の臨機応変なフレキシブル化のための事象駆動について、離散事象システムとし捉えてモデル化などの取り扱いができる。
3. システムの制御実現の基礎であるフィードバック制御論を使うことができる。
4. システムの自律的全体最適化など今後の発展について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講義を行った後、内容の理解を深めるために演習を実施する。次の回の授業の初めに、前回の演習の解説を行いフィードバックする。また、授業進捗の節目に、レポート課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	超スマート社会と離散システム工学	デジタルトランスフォーメーション／第4～5次産業革命／サイバーフィジカルシステム／創発／システム思考／【演習】
2	システム制御とは	システムとシステムオブシステムズ／工程制御（離散事象系）と動作制御（連続系）の連携／フィードバックの概念／【演習】
3	離散事象システムの基礎概念	離散事象システム／event driven／非同期・並列進行／Petri net／【演習】
4	離散事象システムのモデル化	事象と状況／出来事の発生による状況の遷移／Petri netグラフによるモデル化の手順／【演習】

5	離散事象システムの構造と挙動	動作仕様の構造と挙動／競合／パイプライン処理／排他制御／連携制御／デッドロック／【演習】
6	Petri netの数理的扱い	Petri netの定義／接続行列による記述／Petri netの実行／【演習】
7	離散事象システムの実応用	ボトルネック／バッファ／ラインバランス／クリティカルパス／Petri net応用／国際標準プログラミング／【演習】
8	離散事象システムのシミュレーション	離散事象システムシミュレータ／シミュレーションの事例／【演習】
9	フィードバックシステムの基礎概念とブロック線図	目標値と制御量／外乱／フィードフォワードとフィードバック／ブロック線図／【演習】
10	システムの伝達関数と応答の特徴	ブロック線図の等価変換／ラプラス変換／伝達関数と応答／MATLAB・Simulinkの利用／【演習】
11	フィードバックシステムの安定性	フィードバックシステムの構造と現象／安定性／周波数特性／フィードバックシステムの安定判別と安定化／【演習】
12	フィードバックシステムの性能向上	フィードバックシステムの特性補償／定常特性向上／過渡特性向上／安定性向上／性能向上／【演習】
13	離散事象システム制御と連続システム制御の融合	離散事象系制御と連続系制御の融合効果／サイバーフィジカルシステム／ソフトウェアデファインドオートメーション／フィジカルAI／【演習】
14	まとめと解説・試験	1～13の全体のまとめと解説／【試験】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・学習支援システムを介して配布する授業資料を予習する
- ・関連する数学等の基礎を事前に思い出ししておく
- ・授業で行った演習問題等を復習する
- ・授業進捗の節目のレポート課題

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを介して授業資料を配布する。

【参考書】

各回の授業において、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間試験(40%)、期末試験(40%)、各回の授業における演習(20%)
※授業進捗節目のレポート課題は試験や演習の一部に配分する。

【学生の意見等からの気づき】

従来、演習問題は授業時における紙版の配布のみであったが、PDF版を学習支援システムの教材欄にアップロードする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

兼任講師のため、授業時間外の質問・連絡等は電子メールを用いる。

【Outline (in English)】

Course outline:

In digital transformation, systems are becoming more complex and sophisticated, and flexible and smart operations are required. The purpose of this class is to understand the basic concepts and to be able to apply and develop them to actual systems.

Learning objectives:

1. To be able to explain the overall picture and characteristics of system engineering in digital transformation, and the points of its sophistication.
2. To be able to treat the event-driven system as a discrete event system for flexible system operation.
3. To be able to use feedback control theory, which is the basis of the system's control method.
4. To be able to think about future development such as autonomous overall optimization of the system.

Learning activities outside of the class room:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Midterm examination : 40%, Term-end examination : 40%, In-class exercise : 20%.

グリーンケミストリ

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学”である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの12箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】

この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。

以下に達成目標を記す。

1. グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
2. これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
3. 環境の現状と対策について説明できる。
4. 環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
5. 廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
6. 個々の環境物質の測定法を説明できる。
7. エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノート提出してもらい。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について4大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（1）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（2）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（1）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（2）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。

10	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（1）－1～6条	グリーンケミストリの12箇条の中の1～6条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
11	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（2）－7～12条	グリーンケミストリの12箇条の中の7～12条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー－省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学1年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

J. E. Andrews et al.“An Introduction to Environmental Chemistry”Blackwell Pub., “環境化学概論”田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門”荻野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学”藤永薫ら、共立出版, “環境白書”環境省編。

【成績評価の方法と基準】

演習問題を含む聴講ノートの提出（10%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、期末テスト（50%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.

The goals of this course are to

- (1) be able to explain the 12 design principles of green chemistry,
- (2) be able to explain relevant examples of their practical use in commercial applications.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

環境と人間

植田 央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロの視点から学習する。

【到達目標】

様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響 1	休養・睡眠
3	環境が人間に及ぼす影響 2	食生活と運動習慣による肥満と痩せへの影響
4	環境が人間に及ぼす影響 3	現代の生活環境と身体活動の変化
5	運動・身体活動と環境 1	筋の構造と機能
6	運動・身体活動と環境 2	運動と骨格筋の適応
7	運動・身体活動と環境 3	運動時におけるエネルギー供給機構
8	運動・身体活動と環境 4	運動と呼吸調節
9	運動・身体活動と環境 5	運動と循環調節
10	環境が人間に及ぼす影響 4	生活環境と骨粗鬆症・サルコペニア
11	環境が人間に及ぼす影響 5	運動がもたらす疾患への効果 1
12	環境が人間に及ぼす影響 6	運動がもたらす疾患への効果 2
13	環境が人間に及ぼす影響 7	低酸素環境と運動
14	環境が人間に及ぼす影響 8	暑熱環境と運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて学習支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1) 平常点および授業後に実施されるクイズなど: 60%

2) 学期末レポート: 40%

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce the relationship between human body and environmental condition to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should be able to explain physical response to different environmental situations.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

AGC300YA（農芸化学 / Agricultural chemistry 300）

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持てるようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学 1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学 2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学 3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学 4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学 5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学 1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学 2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、講義資料は学習支援システムを介して配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

For this lecture, a work outside of class is not needed particularly, but the content of the lecture may be familiar for you and your daily life. So, the knowledge you will get in the lecture may be anticipated to be applicable for your healthy life.

For grading, your attitude in the class (10%), midterm test (30%), and final test (60%) will be evaluated. Both the midterm test and the final test will assess the level of understanding of the lecture content.

応用環境化学

渡邊 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法と処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】

環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6回	水質分析①	BOD、COD、DO等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習：エクセルを用いた吸着等温式の作成））
10回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成））
12回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10％）、レポート（20％）、小テスト（20％）、定期試験（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物病学概論

濱本 宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈美〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり、TEDやYouTubeなどのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中に教員から質問することで理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「課題」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第2回	ウイルス・ウイロイド病	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第3回	ウイルス・ウイロイド病	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第4回	細菌・ファイトプラズマ病（1）	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類とその性状
第5回	細菌・ファイトプラズマ病（2）	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第6回	菌類病（1）	植物病原菌類の分類・命名とその性状
第7回	菌類病（2）	植物菌類病の病徴と伝染様式
第8回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第9回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第10回	植物感染生理（1）：病原性	病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第11回	植物感染生理（2）：抵抗性	病原微生物に対する宿主の抵抗性の種類とそれらの機構
第12回	植物感染生理（3）：バイオテクノロジー	従来の育種技術とAI育種、遺伝子組み換え技術
第13回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除の技術、総合的病害虫管理（IPM）
第14回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

植物医科学（難波成任 監修），養賢堂，2022

【参考書】

植物病理学 第2版（眞山滋志、土佐幸雄 編），文永堂出版，2020.

植物病理学 第2版（大木理 著），東京科学同人，2019.

Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.

Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすることと、学習支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農業の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物分子細胞生物学

鍵和田 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的变化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】

植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い講義を行う。適宜ノートを取り、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。また内容について理解が進んでいるか、数回行う確認テストで検討すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物の構造（1）	植物組織の特徴
第2回	植物の構造（2）	植物の細胞
第3回	植物の代謝経路（1）	光合成と物質移行
第4回	植物の代謝経路（2）	糖、脂質
第5回	植物の代謝経路（3）	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第6回	二次代謝産物（1）	テルペノイド、フェノール性物質の代謝経路と機能
第7回	二次代謝産物（2）	アルカロイド、およびその他の物質の代謝経路と機能
第8回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第9回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第10回	植物の発生と成長	植物の一生と初期発生、細胞分裂と成長
第11回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第12回	植物ホルモン	植物ホルモンの化学構造と生理作用
第13回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第14回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1題）を行う。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「植物生理学ー分子から個体へー」 幸田ら、三共出版

「植物生理学概論」 桜井ら、培風館

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約15%）、レポート課題と補習問題（約15%）、期末試験（約70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%), reports (15%) and in-class contribution (15%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

栽培植物学

佐野 俊夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、私たちの食料となる作物（穀物、野菜、果実）にはどのような種類があるのかを学び、それぞれの作物がもつ成育特性を理解する。さらに、これらの作物が世界および日本国内でどのように栽培されているのかを知り、栽培における課題とその解決方法について学習する。

【到達目標】

食料・資源として利用されている栽培植物の栽培特性および食料・資源としての価値を理解する。そしてそれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、毎授業で課題を出します。その授業のポイントの復習に充てているので、課題解答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第2回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第3回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第4回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第5回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第6回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第7回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第8回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類について説明する
第9回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第10回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第11回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第12回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第13回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第14回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる課題内容はその回の重要事項であり、課題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

・「作物学概論」第2版 朝倉書店
・「図説園芸学」第2版 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に解説することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this course, we explore the major types of crops that serve as our food sources, including cereals, vegetables, and fruits, and examine the growth characteristics of each. We also study how these crops are cultivated around the world and within Japan, identifying key challenges in crop production.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72%、Assignments given during each lecture: 28%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

診断技術論

大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕吏、酒井 啓充

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせることで診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】

植物医科学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端の診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物医科学における診断の重要性と診断の流れ
第2回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第3回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コッホの原則
第4回	害虫の診断(1)	診断と同定、害虫診断法
第5回	害虫の診断(2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第6回	主要害虫、植物ダニの診断	形態、分類、生態
第7回	植物被害等からの診断	害虫による植物被害等の特徴
第8回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第9回	主要な植物寄生性線虫(1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第10回	主要な植物寄生性線虫(2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第11回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第12回	血清学的診断法	ELISA法など
第13回	遺伝子診断法	PCR法など
第14回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントをもとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

植物医科学(第2版)（養賢堂）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(約20%)、課題や試験(約80%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

植物医科学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面を用いて講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the diagnostic methods of the plant diseases. The goals are to receive the knowledge of the various diagnoses. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination and short reports: 80%, in class contribution: 20%

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

雑草学

佐野 俊夫、村岡 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑草とは、作物の生育を妨げたり、景観を損ねたりする植物の総称である。本講義では、まずどのような植物が雑草と呼ばれ、どのような生育特性によって作物より優位に立ち、生育を阻害するのかを学ぶ。さらに、これらの雑草を防除するための方法として、機械的手法、化学的手法、生態学的手法について理解を深める。

【到達目標】

雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

雑草生育と除草剤作用機構の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を村岡が説明します。

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、毎授業で課題を設定し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第2回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第3回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第4回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第5回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機構を説明する
第6回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第7回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第8回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第9回	雑草になる植物（1）畑地	農地により雑草の種類は異なり、畑地での例を紹介する
第10回	雑草になる植物（2）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第11回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第12回	雑草の化学的防除法（1）	農業として最初に使われた2,4-Dと、除草剤の変遷を説明する
第13回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第14回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回講義資料を配布する。

【参考書】

松中昭一、きらわれものの草の話、岩波ジュニア新書

山口裕文、雑草学入門、講談社

浅井元朗、植調 雑草図鑑、全国農村教育協会

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に課す課題 28%、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

Weeds are a general term for plants that hinder crop growth or spoil the landscape. In this course, we first examine what kinds of plants are referred to as weeds and which growth characteristics allow them to interfere with crop development. We then study methods for controlling these weeds, focusing on mechanical, chemical, and ecological approaches.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Assignments given during each lecture: 28%

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科ビジネス論

宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】

植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても議論する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第2回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第3回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第4回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第5回	農業ビジネス	農業ビジネスの実際を解説し、農業に関連する法規についても理解する。
第6回	アグリベンチャービジネス	アグリ系のベンチャーの取り組みについて学ぶ。
第7回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて10年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第8回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第9回	農業機器ビジネス	農業におけるIoT、ICTを活用について解説する。
第10回	機能性食品ビジネス	植物由来の機能性食品ビジネスについて解説する。
第11回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第12回	バイテクビジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第13回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

全ての回でPCが必要である。また、カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】

本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business. Grading will be comprehensively decided based on the reports and in-class contribution (100%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科学応用実験 I

津田 新哉、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、鶴岡 康夫、廣岡 裕吏、鈴木 聡、武井 円、小林 慶範

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医師としての臨床的な病気の予防・治療に関する知識と技術を修得することを目的とする。

【到達目標】

植物の医師としての臨床的な病気の予防・治療に関する知識と技術を修得し、技術士補、樹木医補、自然再生士補等の資格取得に対応する技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

病原体を自然界での伝染様式を念頭において植物に接種する。接種した植物は、環境制御による発病抑制、農薬の使用の利用などの予防・治療技術を実施。病徴の発生を詳細に観察することで、これら予防・治療技術の効果と特徴を学ぶ。また、残留農薬の簡易検定技術を修得する。課題のフィードバックは、Hoppii または次の講義にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 土壌伝染性病害の発症と防除 (1)	土壌伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第2回	空気伝染性病害の発症と防除 (1)	空気伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第3回	土壌伝染性病害の発症と防除 (2)	土壌伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第4回	空気伝染性病害の発症と防除 (2)	空気伝染する病原菌の接種方法を修得し、発症状況を経過観察する
第5回	微生物資材による病害防除	病原菌に対する微生物農薬の効果を検証する
第6回	病原菌類の薬剤耐性検定	薬剤耐性の検定法を修得する
第7回	害虫の薬剤感受性検定	薬剤感受性の検定法を修得する
第8回	天敵・微生物資材による害虫防除	害虫に対する生物農薬の効果を検証する
第9回	細菌性病害の発症と防除 (1)	植物病原細菌について接種方法を修得し、防除法について学ぶ
第10回	細菌性病害の発症と防除 (2)	土壌伝染する植物病原細菌の、熱処理等による防除の効果を観察する
第11回	ウイルス病の再現と観察 (1)	媒介昆虫を用いたウイルスの接種方法を修得し、発現する症状の違いを観察する
第12回	ウイルス病の再現と観察 (2)	ウイルス感染阻害剤を使用し、その効果とメカニズムを調べる
第13回	イムノアッセイ法による残留分析 (1)	イムノアッセイによる残留分析法を修得し、農薬の適正使用を学ぶ
第14回	イムノアッセイ法による残留分析 (2)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】継続的な実験や経過観察、実験用植物の育成や管理、器具の洗いや片付けなどは実験時間以外にも自主的に実施する。課題に関してレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】

植物医科学実験マニュアル（大誠社）、実験マニュアル等の資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回に課題を示し、レポートを提出する。成績評価はレポートに基づいて行い、実験課題の目的や内容の理解度を 80 %、実験態度（対面実験時）等の平常点を 20 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は学生の満足度が極めて高い。今後とも、技術士補、樹木医補、自然再生士補等の資格取得も考慮して、植物医科学の基礎技術の修得をめざす。

【Outline (in English)】

In this experiment, we will acquire knowledge and practical techniques on plant diseases (fungal disease, bacterial disease and residual pesticide). The standard study time for this class is 2 hours, including preparation and review. Students are required to consult the relevant sections of the textbook Manual of Experiments in Clinical Plant Science. Proper sterilization, cleaning, and storage of all equipment after use are mandatory. Students are expected to conduct observations outside of scheduled class hours as necessary to complete their assignments and to maintain accurate and well-organized experimental notes and reports. Each student must submit a written report on their work. Assessment will be based primarily on the student's understanding of the objectives and content of the experiments (80%), with additional consideration given to experimental methodology and attitude toward laboratory work (20%) to provide a comprehensive evaluation.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物医科学応用実験 I I

津田 新哉、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、齋藤 範彦、廣岡 裕吏、武井 円、小林 慶範

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病原体の同定に必要な遺伝子診断技術、電子顕微鏡観察技術、血清学的診断技術およびその関連技術を習得する。

【到達目標】

遺伝子診断、電子顕微鏡観察、血清学的診断の各同定・診断技術について、その原理を理解しつづー連の作業内容を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

分離菌類からのゲノム抽出、PCRによる遺伝子増幅、塩基配列の決定等を通じた病原の遺伝子診断法を実際に行って学ぶ。電子顕微鏡の試料作成法、TEMによるウイルス観察法、SEMによる菌類、昆虫の観察法を習得する。また、罹病植物について、病原体の特異的抗体を用いたELISA等の血清学的検出・診断法を習得する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	遺伝子診断技術（1）	培養菌類からのDNA抽出
第2回	遺伝子診断技術（2）	PCRによる遺伝子増幅
第3回	遺伝子診断技術（3）	電気泳動
第4回	遺伝子診断技術（4）	シーケンス反応
第5回	遺伝子診断技術（5）	核酸の精製、塩基配列の決定
第6回	遺伝子診断技術（6）	データベースを用いた同源性検索
第7回	電子顕微鏡（1）	TEM, SEMの原理と基本操作
第8回	電子顕微鏡（2）	DN法によるウイルス粒子の観察
第9回	電子顕微鏡（3）	SEMによる菌類の観察
第10回	電子顕微鏡（4）	SEMによる昆虫の観察
第11回	血清診断技術（1）	スライド凝集反応、RIPA法（イムノクロマト法）
第12回	血清診断技術（2）	ゲル内拡散法
第13回	血清診断技術（3）	ELISA法、DIBA法
第14回	まとめ	課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】教科書「植物医科学実験マニュアル」の当該部分を学習しておく。器具の滅菌、洗浄や片付けを行う。課題に関して必要に応じて授業時間以外にも観察等を行い、実験ノート、レポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】

増補改訂版 植物医科学実験マニュアル(大誠社)

また、研究に必要な文献、実験マニュアル等の資料は教員の指導を得ながらも自主的に収集・整理して活用する。

【参考書】

適宜、参考図書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回に課題を示し、レポート提出する。レポートにより実験課題の目的や内容を理解しているかを判断（80%）し、実験態度などの平常点（20%）を含めて総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題を通じて原理などを理解させるようにする。

TAが丁寧に指導できる体制とする。

【学生が準備すべき機器他】

遺伝子診断実習では、実験ノートを使用し、これを提出、評価対象とする。第1回の実習時に必ずB5の綴じたノート（ルーズリーフ不可）を持参すること。遺伝子診断技術（6）ではデータベースを用いた同源性検索を行うので、ノートPCを持参すること。一部の実験では、実験結果を授業支援システムを通じて配布するので利用できるにしておくこと。

【その他の重要事項】

樹木医補資格関係専門科目

【Outline (in English)】

Participants will acquire knowledge of genetic diagnostic methods, electron microscopic observation techniques, serological diagnostic approaches, and other related technologies essential for the identification and diagnosis of plant pathogens. In addition, students will gain hands-on experience through practical training in experimental procedures. The expected total study time for this course is approximately two hours, including preparation and review. Students are required to consult the relevant sections of the textbook Manual of Experiments in Clinical Plant Science. Proper sterilization, cleaning, and storage of all equipment after use are mandatory. Students are expected to conduct observations outside of scheduled class hours as necessary to complete their assignments and to maintain accurate and well-organized experimental notes and reports. Each student must submit a written report on their work. Assessment will be based primarily on the student's understanding of the objectives and content of the experiments (80%), with additional consideration given to experimental methodology and attitude toward laboratory work (20%) to provide a comprehensive evaluation.

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

植物細菌学

大島 研郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物を病気から守るためには、病原体が植物に感染するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】

植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた免疫システムを学習することで、細菌と植物が繰りひろげる攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業とZoomを併用したハイフレックス形式で講義を行う（URLなど詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
- ・各回の終わりに穴埋め問題などの課題を提示し、学習支援システムを通して回答してもらう。
- ・授業の初めに前回の課題の答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第2回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法と、おもな代謝経路
第3回	細菌の分子生物学	細菌のDNA複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第4回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第5回	植物細菌 1	野菜を溶かす微生物：ペクトバクテリウム属細菌
第6回	植物細菌 2	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュードモナス属細菌
第7回	植物細菌 3	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第8回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第9回	難培養性の植物細菌 1	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第10回	難培養性の植物細菌 2	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第11回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第12回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術

第13回 植物の防御システム 植物免疫：植物はどうやって病
気から自らの身を守るのか？

第14回 細菌と植物の分子攻 植物と病原細菌のはてしなき軍
防 拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
- ・課題を解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第2版（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物病理学 第2版（文永堂出版）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社 ブルー
ボックス）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

環境昆虫学

望月 文昭

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は、原生自然から農地、都市環境などさまざまな環境に生息している。このように多様な環境で進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。多様な環境で進化した昆虫の形態や生態を知ること、私たち人間の生活にとっても健全な環境や生態系が不可欠であること、そして、昆虫もそのような環境を構成する重要な要素であることを理解する。

【到達目標】

さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることによって生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。また数回の授業ごとに小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第2回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について（安田耕司先生）
第3回	身近な環境に生息する昆虫	庭や街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第4回	農作物の害虫	作物や野菜、果樹等の主要害虫の種類と生態について
第5回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第6回	昆虫の発育・生理	発育速度や休眠など、昆虫の基本的な発育生理について
第7回	環境が昆虫の生態に及ぼす影響	特に昆虫の多型現象や相変異について
第8回	昆虫にみられる擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第9回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第10回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第11回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（花粉媒介）について
第12回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について（安田耕司先生）
第13回	農業生態系に生息する昆虫	農業生態系の特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第14回	講義内容の補足と期末試験	講義内容についての補足説明、および講義内容の理解度を確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野富士夫、農山漁村文化協会、2019
2. 外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3. 地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010

4. 「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）、小テスト（20％）、平常点（20％）
ただし今後、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を基本的なところで誤解している例も見受けられたことから、簡単な内容でも丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Insects inhabit a variety of environments, from natural habitats to agricultural land and urban areas. Students will learn about the morphological and ecological traits that insects have evolved in diverse environments and how they survive and thrive in these environments. By learning about the characteristics of insects, students will understand that healthy environments and ecosystems are essential both for insects and for human life, and that insects are an important component of such ecosystems. Final grade will be calculated as follows: Mid-term examination(20%), term-end examination(60%), in-class contribution(20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物感染生理学

鍵和田 聡

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物と病原体は様々な相互作用を行っており、病原体の感染戦略と植物の抵抗性の攻防の結果として植物病害が引き起こされる。その発生メカニズムを分子レベルで理解するとともに、植物の防御機構を利用した防除法についても学ぶ。

【到達目標】

植物の抵抗性と植物を加害する病原体の感染生理を分子レベルから理解する。これを通じて植物と病原体の攻防についての理解を深め、防除のための基礎的な知識とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業計画に従って講義を行う。まず植物と微生物の関係について概説し、植物の抵抗性について述べる。次いで種々の病原体の感染戦略とそれに対する植物の防御応答について解説する。また、これを踏まえた上で防除戦略についてもいくつかの事例を紹介して考察する。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは授業内にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物感染生理学とは
第2回	植物と病原体	抵抗性と罹病性
第3回	植物の静的抵抗性	物理的、化学的抵抗性
第4回	植物の動的抵抗性（1）	抵抗性遺伝子、過敏感細胞死
第5回	植物の動的抵抗性（2）	抗菌性物質
第6回	菌類病の感染生理（1）	細胞壁分解酵素
第7回	菌類病の感染生理（2）	宿主特異的毒素
第8回	細菌病の感染生理（1）	侵入、認識、増殖
第9回	細菌病の感染生理（2）	発病因子、病原性遺伝子
第10回	ウイルス病の感染生理（1）	侵入、複製
第11回	ウイルス病の感染生理（2）	移行、ジーンサイレンシング
第12回	線虫病と害虫	適応、三者系、抵抗性
第13回	防除戦略（1）	プラントアクチベーター、生物防除
第14回	防除戦略（2）	分子育種

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

毎回資料・ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストを活用して振り返ること。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「分子レベルからみた植物の耐病性」島本ら、秀潤社

「植物病理学」眞山ら、文永堂

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約20%）、期末試験（約80%）により総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布、確認テストは授業支援システムにて行うため、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants and their pathogens are interacting in various ways, causing plant diseases as a result of battle between infection strategies of pathogens and plant resistance. Students understand their mechanisms at the molecular level and learn about the disease control method using the defense mechanism of plants. By understanding the resistance of plants and the infection physiology of pathogens at the molecular level, students deepen the basic knowledge to prevent the plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物生理病理学

佐野 俊夫、亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病には、菌類などの伝染性病原体による病気だけでなく、土壌・大気・水分などの不適切な生育環境によって生じる生理障害（生理病）も含まれる。本講義では、これらの具体例と、それを引き起こす環境要因について学ぶ。また、植物生理病の診断方法とその対処法に関する知識を身につける。

【到達目標】

各肥料要素の過不足による植物生理障害症状およびそれらの生理障害症状を引き起こす環境要因を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、各要素の過不足がそれぞれの生理障害を引き起こすしくみを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

植物栄養学および肥料学の内容を基盤として、土壌中の無機栄養素の過不足が生理障害を引き起こすしくみと、それらの栄養素が植物体内でどのように利用されるかについては主に佐野が解説する。一方、土壌汚染・水質汚染・大気汚染といった環境要因が生理障害をもたらすしくみについては、主に亀和田が解説する。

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、授業終わりに課題を課し、その授業のポイントの復習に充てているので、課題回答を学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に課題の解説をします。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第2回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第3回	土壌無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第4回	土壌無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第5回	土壌無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第6回	土壌無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第7回	土壌無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第8回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第9回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第10回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第11回	土壌無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第12回	土壌無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第13回	土壌無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第14回	土壌無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

原色 野菜の要素欠乏・過剰症 渡邊和彦 農文協
植物生理学 第2版 三村徹郎 化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験72%、毎回の講義時に課す課題28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の課題解答を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In addition to infectious diseases caused by pathogenic organisms such as fungi, plants also suffer from physiological disorders that result from unsuitable growing conditions, including soil quality, atmospheric factors, water availability. This course examines specific examples of such disorders and the environmental factors that trigger them. Students will also learn methods for diagnosing physiological disorders in plants and strategies for managing and preventing them.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Assignments given during each class: 28%.

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物医科学専門実験 I

津田 新哉、中山 喜一、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、齋藤 範彦、廣岡 裕吏、武井 円、小林 慶範

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次までの実験・講義によって習得した技術や知識を総合利用して植物病虫害の実践的診断、治療技術を鍛錬し養成する。また、植物ウイルスを含む植物病原微生物や植物に害を与える微小昆虫を材料に、遺伝子組換え実験を含めたDNA操作技術の基礎を修得する。

【到達目標】

分子生物学的手法を含む植物病診断技術を理解するとともに、実際の診断に応用する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

「植物病虫害の診断」では、実際に発生している農作物・樹木類の病虫害についてその被害症状を自ら観察し、病原微生物の分離・同定、微小昆虫の同定・分類を行う。さらに、分離した微生物について接種実験による病徴再現を行い、微小昆虫の同定には分子生物学的な手法も用いる。「DNA基礎実験」では、植物病原微生物・微小昆虫を実験材料に分子生物学の基礎的な実験技術について学習する。これらの実験は平行して進行する。また、授業内に前回の課題演習について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物病虫害の診断（1）	ガイダンス
第2回	植物病虫害の診断（2）	農作物・樹木類の病虫害を観察・診断する
第3回	植物病虫害の診断（3）	農作物の病虫害を診断し、病原微生物、微小昆虫を分離し同定する
第4回	植物病虫害の診断（4）	樹木類の病虫害を診断し、病原微生物、微小昆虫を分離し同定する
第5回	植物病虫害の診断（5）	分離・同定した病原微生物の接種試験を行う
第6回	植物病虫害の診断（6）	接種試験の結果を評価する
第7回	植物病虫害の診断（7）	実験結果のまとめと考察を行う
第8回	DNA基礎実験法（1）	罹病植物・植物病害微生物・微小昆虫からの核酸抽出
第9回	DNA基礎実験法（2）	PCR法・PCR産物の精製
第10回	DNA基礎実験法（3）	制限酵素処理・ベクターへのクローニング
第11回	DNA基礎実験法（4）	形質転換
第12回	DNA基礎実験法（5）	プラスミド抽出
第13回	DNA基礎実験法（6）	塩基配列の決定・系統樹の作成
第14回	DNA基礎実験法（7）	実験まとめと考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】事前に植物医科学実験マニュアルの該当章を読み、実習作業イメージを把握しておく。また、配布したテキストを学習しておく。継続的な実験や経過観察、実験用植物の育成や管理、器具の洗いや片付けなどは実験時間以外にも自主的に実施する。課題に関してレポートにまとめる。また、前年までにを行った実験・実習の内容（特に植物病の診断に関係する内容）を復習すること。

【テキスト（教科書）】

- ・植物医科学実験マニュアル（大誠社）
- ・実習の内容に応じて、適宜、参考資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

診断実験・DNA基礎実験ともに実験ノートに目的・手法・結果・考察を記録し、提出してもらう。ただし、微小昆虫に関する実験についてはレポート提出とする。また、DNA基礎実験では課題演習を適宜行い、実験課題の目的や内容を理解しているかをチェックする。実験ノート・課題演習・レポートの提出物（88%）に加えて、平常点や実験態度（12%）を含めて総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

手順の説明にビデオを活用する。実験手順への理解を深めるため、操作の待ち時間の有効活用を図る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding and skills of the DNA cloning techniques associated to plant pathogens. This course also deals with the diagnosis of mite by both morphological analysis and sequencing analysis. In addition, it also enhances the development of diagnosis skill in plant diseases. Before/after each experiment, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are required to submit a notebook and a report on their work, which will be used to judge whether the student understands the purpose and content of the experiment (88%). Normal points such as experimental attitude (12%) will be also considered for final grade.

PPE300YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 300）

植物医科学専門実験 I I

津田 新哉、中山 喜一、濱本 宏、鍵和田 聡、佐野 俊夫、大島 研郎、大井田 寛、池田 健太郎、齋藤 範彦、廣岡 裕吏、武井 円、小林 慶範

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は「タンパク質基礎実験法」として、分子生物学の基礎的な実験技術のうち、タンパク質を取り扱う基礎技術について習得する。後半は「植物医科学演習」として、研究テーマに関係して調査、考察し、文章および口頭での発表技術を訓練することを目的とする。

【到達目標】

植物病の研究に用いられるタンパク質解析法を理解し、さらに、植物医科学にかかわる広範な技術を理解し知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

前半の「タンパク質基礎実験法」ではタンパク質の抽出、電気泳動、ウエスタンブロット法による目的タンパク質の検出などを行う。また、後半の「植物医科学演習」では、研究室に分かれ研究テーマに関連する論文、資料について調べ、まとめて発表し、総合的に討議する「ゼミ演習」を行う。フィードバックについては、前半では毎回提出させる課題について翌週解説を行うことで、後半ではゼミ担当教員が授業内での質疑応答によって、行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	タンパク質基礎実験法 (1)	ガイダンス
第2回	タンパク質基礎実験法 (2)	サンプル調製・試薬作成
第3回	タンパク質基礎実験法 (3)	電気泳動・CBB染色
第4回	タンパク質基礎実験法 (4)	電気泳動・ウエスタンブロッティング（転写）
第5回	タンパク質基礎実験法 (5)	ウエスタンブロッティング（検出）
第6回	タンパク質基礎実験法 (6)	タンパク質基礎実験法のまとめ
第7回	植物医科学演習（1）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（1）
第8回	植物医科学演習（2）	調べた論文、資料について報告・発表する（1）
第9回	植物医科学演習（3）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（2）
第10回	植物医科学演習（4）	調べた論文、資料について報告・発表する（2）
第11回	植物医科学演習（5）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（3）
第12回	植物医科学演習（6）	調べた論文、資料について報告・発表する（3）
第13回	植物医科学演習（7）	植物医科学に関連する論文、資料について調べる（4）
第14回	植物医科学演習（8）・総合まとめ	調べた論文、資料について報告・発表する（4）・総合まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】配布したテキストを学習しておく。継続的な実験や経過観察、実験用植物の育成や管理、器具の洗いや片付けなどは実験時間以外にも自主的に実施する。課題に関してレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】

実験テーマごとに資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実験レポート評価および演習評価：70%、平常点：30%、を基本とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

手順の説明にビデオを活用する。操作の待ち時間に実験の理解を深めるための課題を与えるなど、実験の本質への理解を深めるために時間の有効活用を図る。

【学生が準備すべき機器他】

担当教員より適宜指示する。

【その他の重要事項】

国や地方の試験場等で植物保護の実務に取り組んだ教員、あるいは民間企業で研究開発の実務を経験する教員が、実験の具体的な操作のサポートや実験事故防止に努める。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】

Students will obtain the basic skills of the protein handling, such as protein quantification, SDS-PAGE and Western blotting/Immunodetection. In the latter half, students are trained to study reference literature relating to clinical plant science.

【Learning activities outside of classroom】

Read the text of the course / experiment before and after each experiment.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided basically according to the reports (70%) and in-class contribution (30%).

PPE100YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 100）

植物管理技術論

安達 俊輔、桂 圭佑、若林 侑

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の長い歴史の中で選り抜かれてきた作物は、我々が生きていくために必要な食料や工業原料を提供しています。本授業では、そのような各種作物の基本的な特徴や栽培手法を平易に解説します。学生のみなさんには、普段何気なく利用している作物を正しく理解し、農業という基幹産業に対する想像力に関心を持っていただくことを期待します。

【到達目標】

食用、飼料、工業目的で栽培される各種作物の起源、特徴、栽培技術、利用や関連する課題について学び、自ら説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式により授業を進める。質問があれば毎回の授業後に所定のリアクションペーパーに書き込む。成績評価は、すべて学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび総論	授業構成の説明および作物の種類、作物の栽培化
2	イネ (1)	イネの起源、世界の生産状況、栽培方法
3	イネ (2)	イネの発達段階と形態
4	イネ (3)	イネ栽培をめぐる日本における課題
5	イネ (4)	イネの収量を増大させるための最新研究
6	豆類	ダイズをはじめとする豆類の種類、生理、形態と栽培
7	麦類	コムギ、オオムギやその他麦類の種類、生理、形態と栽培
8	飼料作物	青刈飼料作物と牧草の種類、調製の方法
9	雑穀類	トウモロコシをはじめとする雑穀類の生理、形態と栽培
10	工芸作物 (1)	油料作物、糖料作物の種類、生理、形態と栽培
11	芋類	ジャガイモ、サツマイモなど芋類の種類、生理、形態と栽培
12	工芸作物 (2)	嗜好料作物、繊維料作物の種類、生理、形態と栽培
13	世界の作物	世界の過酷な環境で栽培される作物を紹介
14	授業のまとめならびに試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

農学基礎シリーズ 作物学の基礎Ⅰ 食用作物, 農文協

農学基礎シリーズ 作物学の基礎Ⅱ 資源作物、飼料作物, 農文協

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業ごとにコメント・質問をオンラインで受け付ける。

【Outline (in English)】

Crops, which have been selected over the long history of mankind, provide food and industrial raw materials to us. In this lecture, the basic characteristics and cultivation methods of various such crops will be explained. We hope that students will gain a deeper understanding of the crops, and develop an imaginative interest in agriculture.

植物栄養学

亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類を含めて動物は、エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています。植物が必要とする栄養素「植物栄養」は、植物の健全な生育を確保するため、最も基本的な環境要因です。植物の必須元素として17元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の14元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます。その上で、植物栄養面から植物生育を評価し、またはコントロールするため、植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます。

【到達目標】

植物が生育するために必要な17種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び、理解します。また、植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び、植物生育のコントロールのための、養水分管理の考え方や方法を理解します。栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です。それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し、植物医科学分野に必要な知識を習得します。さらに、植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び、植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。対面授業とオンデマンド授業を組み合わせる。学習支援システムにより、資料を提供する。対面授業ではリアクションペーパー、オンデマンドでは授業レポートの提出を求める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観 植物根の構造
第2回	植物による水の吸収	根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支
第3回	植物による養分吸収と物質輸送	土壌-植物-大気連続体 根と土壌 根圏 受動のおよび能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式
第4回	窒素とイオウ	光合成産物の分配 土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオンの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第5回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第6回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能

第7回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第8回	微量元素1	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン
第9回	微量元素2	ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第10回	有用元素	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性 土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断
第11回	土壌溶液と養液栽培	化学肥料の種類と性質 有機質肥料 肥料取締法 植物による養分吸収速度 施肥法 地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環(炭素、窒素、リン、カリウム) 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応
第12回	肥料	
第13回	施肥	
第14回	物質循環と環境	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

植物栄養学 第2版 間藤・馬・藤原編、文永堂出版、2011
新植物栄養・肥科学 米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著、朝倉書店、2012
植物生理学・発生学 リンカーン・テイツ、エドゥアルド・ザイガー、イアン・M・モラー、ガス・マーフィー編集、講談社、2017

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点40%による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出の小レポートで質問や提案を受け、できる限り次回の授業までに回答し、次の授業に反映する。

【その他の重要事項】

秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより、理解が深まる

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Animals and humans depend on plants for energy and other essential nutrients. The "plant food" they require is the most basic environmental factor for healthy growth.

There are 17 essential elements for plant nutrition. Fourteen of these elements, other than carbon, hydrogen, and oxygen, are absorbed by the roots from the soil.

In this course, you will learn about the functions of the 17 essential elements necessary for plant growth and their relation to physiological processes such as photosynthesis and metabolism. You will also learn the mechanisms of nutrient uptake by plant roots, the dynamics of nutrients in the soil, and the concepts and methods of nutrient water management to control plant growth.

[Learning Objectives]

Plant growth disorders due to nutrient deficiencies or excesses are as important as plant diseases. You will understand the occurrence of these disorders in relation to the behavior of each nutrient in the soil and acquire the necessary knowledge for the field of botanical science.

You will also study the nutrient cycle in regional ecosystems with a focus on plants, and consider ideal ways to manage soil to maintain plant growth and environmental health.

[Out-of-class learning activities]

Review the lecture content using the lecture notes and reference books. Four hours is the standard for out-of-class learning, including preparation and review for this course.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on a comprehensive method, with 60% based on the final exam and 40% based on the normal score, including the reaction paper submitted each time.

生物学実験統計分析演習

松下 秀介

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実証研究を遂行する上で最低限必要となる統計学的な考え方、データの集め方、処理方法等について、理論と実証の両面から講述する。

【到達目標】

統計学の基礎知識（研究を遂行する上での統計学的な考え方、データの集め方、処理方法等）を習得し、その知識をデータ解析環境Rを用いた実証分析に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義と貸与ノートPCを用いた演習を組み合わせた授業形式とする。毎回の授業の最後に当日の授業についての小テストを実施し、毎回の理解度を確認する。つまり、理解度を勘案しながら授業を進める予定のため、必ずしもシラバス通りに進まないことがあることに留意してほしい。

講義は、基本的にリアルタイムでのオンライン開講とする。一部、対面でも講義も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容を紹介し、成績評価の方法等を説明する
2	度数分布	データの分類と標本の抽出について
3	分布の特性を表す代表値	異常値の存在とその取り扱いについて
4	確率の考え方	理論的確率と統計的確率
5	確率分布と期待値	確率密度関数の定義
6	主要な確率分布(1)	重要概念の紹介：二項分布とポアソン分布 他
7	主要な確率分布(2)	重要概念の紹介：正規分布の考え方と標準化の概念
8	確率分布に関する諸概念の復習	前半の講義を振り返り、重要ポイントを再論する
9	標本分布(1)	標本平均と大数の法則
10	標本分布(2)	正規分布とt分布
11	統計的推定	標本標準偏差の理解とその応用
12	統計的検定(1)	仮説検定の基本的な考え方
13	統計的検定(2)	2種類の過誤
14	回帰分析の基礎	最小二乗法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業の内容については、学習支援システム上で公開します。毎回の講義の前に、その内容を確認しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

随時、資料を配布する

教科書が必要な学生には、栗原 伸一『入門統計学（第2版）－検定から多変量解析・実験計画法・ベイズ統計学まで－』オーム社：2021年刊を勧める

【参考書】

山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Rによるやさしい統計学』オーム社：2008年刊（統計学の入門書としても最適）

Andrew P. 他著・富永大介訳『Rをはじめよう生命科学のためのRStudio入門』羊土社：2019年刊（少し高度なRの入門書）

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート（20%）と期末試験の成績（80%）により評価する。ただし、出席率6割以上の学生を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望により、毎時間の最後に課している小レポートについて、翌週の講義冒頭にそれらの解説を行っている。具体的には、一部の学生の提出内容を紹介し、正答・誤答の判定とその理由を紹介するなどの時間を設けている。学生からは、毎回（前回）の講義内容の理解の深化に役立っているという感想を得ている。

【学生が準備すべき機器他】

主に後半の講義において、教員の指示により、貸与ノートPCの持参を求める

【その他の重要事項】

進捗の程度によって、EBPM (Evidence Based Policy Making) の考え方、因果推論の分析手法についても、紹介する。

【Outline (in English)】

★Course outline

This course introduces the fundamental theory of statistics for bioscience and related fields. Lectures, hands-on practice, and exercises using "The R Statistical Computing Environment" on laptop computers are integrated as core educational approaches in this class.

★Learning Objectives

By the end of this course, students are expected to be able to:

1. Understand the theoretical basis of statistical tests used to determine whether a real difference exists between the means of two different groups.
2. Apply these statistical tests using the R Statistical Computing Environment.

★Learning activities outside of classroom

Between classes, students are expected to work on assignments and challenges given by the instructor at the end of each class session.

★Grading Criteria /Policy

Students are required to attend more than "60%" of all classes. Final grades will be evaluated based on the following components:

Term-end examination: 80%, Short reports : 20%,

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

ホーティカルチャー論

津田 新哉、鈴木 栄、彦坂 晶子、堀内 尚美

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーの定義と野菜の分類	ホーティカルチャーおよび農業に関する基本的な定義と、利用部位による野菜の分類、成長ステージ別の特徴などを解説する。
2	品種開発から流通までのプロセスと要素技術	野菜の品種開発から流通に関する現状と、各要素技術などを解説する。
3	野菜生産1（施設栽培および養液栽培）	野菜の生産方法に関して、露地と施設栽培の比較から、それらの目的と環境制御の特徴を解説する。
4	野菜生産2（植物工場）	究極の施設園芸である植物工場の特徴を解説し、野菜生産の現状と最新の研究開発のトピックを紹介する。
5	果樹栽培と生理特性1	果樹の種類や主産地などについて触れた後、果樹の年間の生育サイクルおよび休眠、開花、結実の生理特性について解説する。
6	果樹栽培と生理特性2	果実の肥大や成熟の生理特性や、果樹の光合成および同化産物の分配について解説する。
7	果樹生産と環境	気象条件や土壌条件が果樹生産に及ぼす影響について解説する。また、高品質な果実を生産するための栽培管理法について触れる。
8	果樹の育種	果樹における各樹種の出産地や育種の歴史について触れると共に、育種方法や繁殖方法について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく、実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性1	花きの品質を構成する3大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。
13	花きの品質と観賞性3	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎に加え、花き生産の将来についても解説する。

14 まとめ

これまでの授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】

作物の生育と環境（西尾道徳 著）農山漁村文化協会
施設園芸学 植物環境工学入門（後藤英司／編）朝倉書店
農学基礎シリーズ 果樹園芸学の基礎（伴野 潔，山田 寿，平 智編著），農文協，2013
農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎（篠原温編著），農文協，2014
農学基礎シリーズ 花卉園芸学の基礎（腰岡政二編著），農文協，2014
このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト（各分野30点、計90点）と平常点10点の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】

「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline (in English)】

Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality. The standard preparation and study time for this class is 4 hours each. In addition to reviewing the contents of the class as necessary, students are expected to actively research related literature to deepen their understanding of the content of interest. If the situation permits, try to grow one of the fruit trees, vegetables, or flowering plants by yourself. Evaluation will be based on a total of 25 points for attendance and a regular test (25 points for each field, 75 points in total).

植物医科インフォマティクス演習

大島 研郎

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・植物医科学の分野でも、ゲノムや遺伝子組換えなどの知識・技術が必要である。また実験データを分析する機会も多いため、インフォマティクス（データサイエンス）を身に付けておくことが重要である。
・本授業では植物や微生物を題材にして、DNAの切り貼り、遺伝子組換えの方法などを学び、2年生の応用実験や3年生の専門実験で役立つスキルを身に付けることを目的とする。

【到達目標】

DNAシーケンスや遺伝子組換えの手法を理解するとともに、表計算ソフトや画像解析の基礎を学ぶ。また、ゲノムデータベースを閲覧する方法や遺伝子の塩基配列を取得する方法など、ゲノム情報を活用するためのスキルを身につける。さらに、DNAの切り貼りや系統樹の作成法などを演習形式で学習することで、実験・実習や卒業研究で役立つ技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

・対面授業とZoomを併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う。
・講義資料の解説と、パソコンを使った演習によって授業を進める。
・各回の終わりに課題を提示し、学習支援システムを通して解答してもらおう。
・授業内に前回の課題について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業全体のガイダンス
第2回	植物病のデータを解析しよう	Excelを使って、実験データを解析する手法を学ぶ
第3回	実験データを比較解析しよう	Excelを使って有意差を検定する
第4回	植物病の画像データを解析しよう	画像解析ソフトを使って植物の病徴を解析する
第5回	ゲノムデータを見てみよう	植物やヒトのゲノムデータベースを閲覧する
第6回	DNAの配列を読んでみよう	塩基配列を決定する「DNAシーケンス」の手法を学ぶ
第7回	遺伝子の機能を予測しよう	相同性検索を使って遺伝子の機能を調べる
第8回	ゲノムを解読するには？	ゲノムDNAの中から遺伝子を探す方法を学ぶ
第9回	生物の進化を解析しよう	系統樹の描いて、生物の進化を解析する
第10回	遺伝子組換え技術を学ぼう	PCRや制限酵素の使い方など、遺伝子組換えの手法を学ぶ
第11回	DNAを切り貼りする方法を学ぼう	DNAを切り貼りする方法など、遺伝子組換え技術の基礎を学ぶ
第12回	遺伝子組換え植物について学ぼう	どうやって遺伝子組換え植物を作るのか？
第13回	ゲノムを解析して生命を理解しよう	生物の生存戦略を最先端の手法によって解析する
第14回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。
・授業内で提示された課題を解き、学習支援システムを使って解答を提出する。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第2版（養賢堂）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物たちの戦争 病原体との5億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

期末試験(50%)、各回の課題(36%)、平常点(14%)により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンを活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】

必要なソフトウェアについては、初回の授業内で説明する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bioinformatics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of statistics, DNA sequencing, and DNA cloning. This course also enhances the development of students' skill in dealing with genomic data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short reports after each class meeting (36%), a term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD（生産環境農学 / Plant production and environmental agriculture 200）

実践植物遺伝学

坂井 真、黒羽 剛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要(オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イネやコムギなどの作物は人類の農耕の始まりの過程で栽培化され、長い年月をかけて改良されてきました。農業生産の生産性を高め、安定化させるための基盤、あるいは食生活に豊かさをもたらす存在として各種作物の優良な品種は欠かせません。近代以降、遺伝学の発達とともに品種改良の手法は体系化され、また最近ではバイオテクノロジーの発達で品種改良の手法も大きな進歩を遂げています。一方で、気候変動や環境の変化により世界的に農業を取り巻く状況も大きく変化し、そうした事態に対応した新たな品種改良とその手法が求められています。

本講義では、農業技術を支える品種を改良する手法や事例、品種改良の社会への貢献について基礎的な知識と方法を学びます。前半（1～7回）は、作物の栽培化の過程や品種改良の発達史を含めた植物育種学の基礎を学びます。後半（8～14回）ではバイオテクノロジーの基本的な技術である、遺伝子解析手法や遺伝子組換え、ゲノム編集の基本的な手法とそれらを活用した品種改良の新しい手法について学びます。

【到達目標】

イネ、コムギ等の農作物の品種改良の基礎となる遺伝学の基礎的な理論、品種改良の実際の手法とその発達史について知る。
品種改良の目的、品種改良の素材となる遺伝資源の重要性、育成された品種の活用や農業への貢献の実例について理解する。
育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造、およびその解析法についてその発達史、基本原理、最近開発された手法について理解する。
DNAマーカー、遺伝子組換え、ゲノム編集など新しい育種技術の基礎的な理論や手法、事例について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業またはオンライン授業を予定しており、授業では主に資料を配布または画面共有してそれに基づいて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	育種(品種改良)とは	品種改良＝育種の歴史、農作物の品種改良の意義、遺伝学の基礎、生物の遺伝子型と表現型について学習する。
第2回	育種における遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良が始まる前の作物の歴史について学習する。
第3回	育種組織と育種目標	公的機関(国・地方自治体)の組織的な品種改良の歴史と、そこで実施されてきた品種改良について学習する。農作物に求められる特性(収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分)の改良について学習する。

第4回 育種の基本的な操作・手法

第5回 圃場での選抜手法

第6回 室内での選抜手法

第7回 品種登録と品種の普及

第8回 DNA、遺伝子、染色体、ゲノムの構造

第9回 作物の遺伝子解析手法

第10回 DNAマーカー

第11回 遺伝子の機能解析

第12回 遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術

第13回 ゲノム解析の新技術

第14回 ゲノム研究における新発見

品種改良の基本的な手法としての、人工交配、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。

品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、圃場（水田や畑）で行う生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、試験の意味や必要性、試験を行う環境の重要性について学習する。

品種改良の基本的な手法としての選抜手法のうち、実験室や解析施設で行う種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験やDNAマーカーによる選抜の意味や必要性について学習する。品種を普及させ夜に広めてゆくための、品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度等について学習するとともに、前半のまとめを行い、品種改良の社会的意義について考える。

育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。

DNAシーケンシング、ハイブリダイゼーション、PCRなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。

連鎖解析に用いるDNAマーカーの歴史と原理、応用例について学習する。

「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバースジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。

遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。

マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。

サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、RNAやタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新発見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。
また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】

小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

Excellent varieties of crops are essential for increasing and stabilizing agricultural production and for providing food diversity. In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7) and molecular genetics (#8 - #14) for crop improvement. Students will be expected to study the relevant knowledge of this class. Grading will be decided based on term-end examination (50%) and short reports (50%).

PHY200XG (物理学 / Physics 200)

解析力学

岩沢 美佐子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

解析力学とは、ニュートンの運動の法則を最小作用の原理とよばれる方式で定式化した学問体系である。最小作用の原理は、力学のみならず広汎な物理法則を記述できる普遍的な定式化である。本講義では、解析力学を使って難しい問題がたくさん解けるようになることを主目的にはしない。解析力学とはどのような学問であるかを概念的に理解し、これまでに学んだニュートン力学の新しい定式化によって、自然の見方に新しい観点がでてくることを実感し、自然に対する興味がより深まるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・自然現象の体系的な理解の中で、解析力学とはどのような学問であるかその概念を自分なりに理解する。
- ・日常目にする基本的な運動をニュートン力学と解析力学のアプローチで記述でき、両者の違いはどこにあるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を主とし、具体的問題に対する演習を適宜はさんで授業を進める。課題及びレポートの提示、提出等を「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数学的準備と古典力学の復習	講義で必要とする数学及び古典的運動方程式の復習
2	座標と座標変換(1)	デカルト座標、極座標における速度、加速度
3	座標と座標変換(2)	一般化座標、一般化運動量、正準共役変数、一般化された力
4	ラグランジュ方程式と変分原理(1)	ラグランジュ方程式
5	ラグランジュ方程式と変分原理(2)	変分原理とオイラーの方程式
6	ラグランジュ方程式と変分原理(3)	仮想仕事の原理
7	ラグランジュ方程式と変分原理(4)	ラグランジュ方程式のまとめと応用
8	ハミルトンの正準方程式(1)	ハミルトニアン
9	ハミルトンの正準方程式(2)	ハミルトンの正準方程式
10	ハミルトンの正準方程式(3)	ポアソン括弧と保存量
11	ハミルトンの正準方程式(4)	ハミルトンの正準方程式のまとめと応用
12	正準変換(1)	正準変換と母関数
13	正準変換(2)	ハミルトン- ヤコビの偏微分方程式
14	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。
復習として、授業に出た定式化は次回の授業までに導出する。

【テキスト（教科書）】

・久保謙一(著)、「解析力学」、裳華房、2001年

【参考書】

・ランダウ・リフシッツ(著)、「力学」、東京図書、1974年

【成績評価の方法と基準】

課題・レポート(20%)、期末テスト(80%)

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline (in English)】

This course introduces the basis of analytical dynamics based on group works through the semester. The goal of this course is to understand difference between Newtonian mechanics and analytical mechanics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following: short reports 20%, term-end examination 80%.

MAT200XG (数学 / Mathematics 200)

計測単位と標準

小宮山 裕

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の基本というだけでなく、社会・生活にも必要かつ根源的な「量」について、扱いとその基本を習得する。そして、それを支えるための単位と標準の定義とその変遷を学ぶ。さらに、単位と標準にまつわる最先端の科学・技術についても概観し、応用として身近な世界と宇宙をどのようにして正しく計測・理解するかについて学ぶ。

【到達目標】

計測・測定の意義、意味そして原則を習得し認識すること、そして常にこの原則を科学的行為の規範とできるようにする。複雑な数式を用いることはないが、基本的な「算数」が自由に扱え、評価ができるようになることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として授業を進める。簡単な問題・計算(本来は暗算程度)を織り交ぜ、数値の意味とその評価を自ら考える機会を設ける。また、授業内で計測や数値の取り扱いについての基本的なテストを行い、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	測るとは	計測の意味と意義
2	計測と単位 (1)	数値、数量
3	計測と単位 (2)	測定値、誤差と有効数字
4	計測と単位 (3)	測定の概念と不確かさ
5	単位系と標準 (1)	質量、長さ
6	単位系と標準 (2)	長さ
7	単位系と標準 (3)	時間
8	単位系と標準 (4)	温度
9	単位系と標準 (5)	光度・電流
10	量子標準 (1)	時間標準
11	量子標準 (2)	標準研究の最前線
12	身近な世界の計測	地図、測量、位置測定
13	宇宙の計測	距離測定、標準光源
14	まとめ	復習と要点の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の復習をしてから授業に臨むことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の配分は以下のとおりである。

期末レポート	20%
平常点と授業内小テスト	80%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

"Quantity" is the basics of science and technology and also daily lives. This course introduces units and standards which support "quantities", and deals with the state-of-the-art science and technology of standards, as well as measurements on our surroundings and universe. The goals of this course are to understand the meaning and basic principle of counting and measurement, and recognize this principle to be the backbone of scientific behavior. Students will be expected to review the previous lecture before each class meeting. Grading will be decided based on term-end report (20%) and in-class contribution (including in-class tests: 80%).

COT200XG (計算基盤 / Computing technologies 200)

創生科学基礎演習III

金沢 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング言語Haskellを通して、関数プログラミングの考え
方と、プログラミング全般に関する次のような基礎的事項を学ぶ。

- ・再帰的な関数の定義
- ・帰納的なデータ型の定義
- ・抽象的データ型
- ・アルゴリズムの効率

【到達目標】

- ・Haskellを使っていろいろな問題を解くプログラムを書くことができる。
- ・QuickCheckを用いてプログラムの自動テストを行うことができる。
- ・高階関数などのプログラムの抽象化の手法を使うことができる。
- ・プログラムの効率の良さを比較することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。演習では、学生に対して個別に指
導する。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通
じて行う。頻繁に授業内で小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	型、簡単な計算	Haskellにおける型、数式、関数の定義
2	リストと内包表記	リスト、リストに対する関数、文字列、タプル、リスト内包表記、列挙式
3	プログラムのテスト	テストによるバグの検出、性質に基づくテスト、QuickCheckを用いた自動テスト
4	リストと再帰	関数の再帰的定義、リストと再帰、リスト内包表記による定義と再帰的定義、再帰的定義の効率化
5	さらに再帰について	リストの整列、いろいろな再帰関数
6	高階関数	無限リストと遅延評価、再帰的定義に共通なパターン、map, zipWith, filter, 部分適用
7	さらに高階関数について	foldr, ラムダ式、関数合成、カリー化とアンカリー化
8	代数的データ型	列挙型、代数的データ型、タプル、リスト、Maybe型、Either型
9	式木	多項式のデータ型、再帰的に定義された関数
10	式木（つづき）	命題論理式、命題論理式の評価、充足可能性の判定
11	充足可能性の判定	論理積標準形、節形式、DPLLアルゴリズム、DPLLアルゴリズムの実装、数独への応用

12	構文解析	型クラスRead, 多項式の構文解析
13	べき級数	べき級数の表現, 母関数
14	総合演習	式木, 構文解析, べき級数に関する応用問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく。
授業内で示された課題を完成させる。

【テキスト（教科書）】

オンラインの講義資料を用意する。

【参考書】

Donald Sannella, Michael Fourman, Haoran Peng, and Philip Wadler. 2022. Introduction to Computation: Haskell, Logic and Automata. Springer.

<https://doi.org/10.1007/978-3-030-76908-6> (法政大学のネットワークからダウンロード可能)

<https://www.intro-to-computation.com> (著者によるこの本のサイト)

Graham Hutton 著, 山本和彦 訳. 2019. プログラミングHaskell 第2版. ラムダノート.

<https://www.lambdanote.com/products/haskell>

【成績評価の方法と基準】

授業内の小テスト (30%), 期末試験 (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

小テストを頻繁に行い、学生の理解を確かめながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン。

【その他の重要事項】

プログラミングの経験は必要としない。HaskellはJavaやPythonのような手続き型言語とは大きく異なるが、プログラミング初心者にも修得可能である。

プログラミング能力を習得することがこの授業の目標である。課題を解く際にChatGPTなどのツールを使ったり、他人の課題を丸写しする（あるいは丸写しさせる）ことは剽窃行為である。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course introduces the students to functional programming as well as to various fundamental notions in programming and software development in general.

(Learning objectives)

The goal is to be able to do the following:

- to write programs in Haskell to solve various combinatorial problems
- to test your program automatically using QuickCheck
- to use techniques of abstraction like higher-order functions
- to compare efficiencies of different programs for solving the same task

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the relevant part of the textbook prior to each class meeting, and to work on the assigned homework.

(Grading Criteria)

The grade will be based on the in-class tests (30%) and the final exam (70%).

コーパス言語分析

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーパスとは「電子化された言語資料」であり、1960年代に世界初の英語コーパス (Brown Corpus) が登場して以来、様々なコーパスが世界中で編纂されている。その結果、コーパスを用いて、言語の様々な特徴を極めて短時間で科学的・客観的に調査することが可能になった。

本授業では、コーパスに関する基本的知識（定義、歴史、種類）やコーパス分析の手法を学習しながら、各研究領域における専門コーパスを編纂し、特定のパターンや傾向、キーワード、語法を発見していくことを目的とする。コーパスは大きく捉えるとテキストであることから、テキストマイニングの手法にも触れる。この授業は、自らの研究に貢献することを目指す授業である。

【到達目標】

- 1) コーパスに関する基礎知識（定義、歴史、種類、問題点）がわかる。
- 2) 解析ソフトを使用したコーパス及びテキストの基本的な分析・処理方法がわかる。
- 3) 分析結果をオリジナルな視点から考察できる。
- 4) レポートの書き方を理解し、それに沿った最終レポートが完成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式ではなく、実際に各自で調査・実践する演習形式をとる。1回の授業は次の手順で行う。

- 1) 復習クイズ
- 2) 先週の復習
- 2) 今日のポイント解説
- 3) 実践

復習クイズをした後、先週のポイントや受講者が行った課題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。レポートは、Hoppiiを通してまたは授業内で、フィードバック、総評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	言語を科学するとは？ コーパス言語学とは？ コーパスの種類とは？ コーパスの問題点とは？
2	日本語テキストマイニング	KJ法を使った分析とは？
3	日本語テキストマイニング2：基礎編	KH Coderを使った分析方法
4	日本語テキストマイニング3：基礎編	KH Coderを使った分析結果と考察
5	日本語テキストマイニング4：応用編	KH Coderを使った分析：オリジナルトピックによるデータ構築
6	日本語テキストマイニング5：応用編	KH Coderを使った分析：オリジナルデータの分析と考察

7 日本語テキストマイニング6：応用編 KH Coderを使った分析：レポート作成

8 英語コーパスの分析1：基礎編 解析ソフトの使い方：Wordlist

9 英語コーパスの分析2：基礎編 解析ソフトの使い方：Keywordlist

10 英語コーパスの分析3：基礎編 解析ソフトの使い方：データの分析・考察の仕方

11 英語コーパスの分析4：語彙表作成 オリジナルコーパスの作成

12 英語コーパスの分析5：語彙表作成 オリジナルコーパスに基づく語彙表の作成：Wordlist & Keywordlist

13 英語コーパスの分析6：語彙表作成 オリジナルコーパスに基づく語彙表の作成：JACET8000

14 まとめと評価 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
- ・理解した内容は本や資料により学習を深め、不明な点については自主学習によって解決を目指す。
- ・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

小テスト・提出物 20%
中間レポート 40%
最終レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

次の3点に留意する。

- (1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- (2) 学生の学習理解度に応じた授業を行う。
- (3) レポートの書き方を例示しながら指導する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用

【その他の重要事項】

- ・授業内課題の提出をもって出席とする。
- ・最終レポートの提出は1週間～2週間ほどの期間を設定するので、その期間内に必ず提出すること。期間を過ぎてからの提出は認めない。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to language corpora as a resource for linguistic analysis. Students will learn the central concepts of corpus linguistics and some basic skills necessary in conducting a corpus investigation, find out how corpora are influencing recent trends in linguistic research, and have opportunity to apply corpus-based methods in their own work. Learning objectives:

The goals of this course are to understand basic knowledge about corpora, learn ways of basic processing of corpora using an analysis tool and conduct an original pilot study.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class. Their study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria:

In-class activities and assignments (20%), mid-term project and paper (40%) and final project and paper (40%)

OTR300XG（その他 / Others 300）

PBL

金沢 誠、呉 暁林、小林 一行、小屋 多恵子、佐藤 修一、鮎川 矩義、鈴木 郁、田中 幹人、松尾 由賀利、柳川 浩三、横山 泰子、柴田 千尋、小宮山 裕、山本 晃輔、堤 瑛美子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各研究室単位に分かれ、大きなテーマについて、小グループにて問題解決法を提案する。基本的に受講者の自主的行動によって進める。

【到達目標】

問題設定、そしてグループによる遂行ができるようになること。発表により、自分の考えを他者に説明するコミュニケーション能力を高めると同時に、自らの理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究室単位で、細かい運用方式は異なるが、最終的な全体発表は統一される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回目	オリエンテーション	全体の説明等のオリエンテーション
2回目	プロジェクト計画	テーマに関する説明およびテーマ設定の検討
3回目	プロジェクト準備	情報収集方法に関する指導 グループ作りとマイルストーン設定
4回目	マイルストーン課題演習 1	マイルストーンに基づき、タスクに取り組む。
5回目	マイルストーン達成状況の確認と見直し 1	マイルストーンの達成状況の確認と、状況に応じてタスクおよびマイルストーンの見直し。
6回目	マイルストーン課題演習 2	見直したプロジェクト計画に基づき、タスクに引き続き、取り組む。
7回目	中間内部発表	マイルストーン達成状況について発表し、質疑応答を行って、得られた結果や発表法について議論する。
8回目	マイルストーン達成状況の確認と見直し 3	マイルストーンの達成状況の確認と、状況に応じてタスクおよびマイルストーンの見直し。
9回目	マイルストーン課題演習 3	見直したプロジェクト計画に基づき、タスクに引き続き、取り組む。
10回目	マイルストーン達成状況の確認と見直し 4	マイルストーンの達成状況の確認と、状況に応じてタスクおよびマイルストーンの見直し。
11回目	マイルストーン課題演習 4	見直したプロジェクト計画に基づき、タスクに引き続き、取り組む。
12回目	プロジェクト評価	課題の達成目標を確認し、プロジェクト計画の問題点および課題により得られた結果について評価する。
13回目	全体プロジェクト発表の準備	発表資料としてまとめる。

14回目 全体発表、討論 課題について得られた結果を互いに発表し、質疑応答を行って、得られた結果を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な資料検索、資料作りをグループ間で協調をしながら進める必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員より指示がある場合がある。

【参考書】

特になし。担当教員より指示がある場合がある。

【成績評価の方法と基準】

PBLにおける中間内部発表、全体発表会の内容、制作物、プレゼンテーションなどを勘案し各担当教員が総合的に判断する。本科目において設定した達成目標を60%以上達成している場合に合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

担当者による指示がある。

【その他の重要事項】

グループ内の受講者と協調して問題解決法を提案すること。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

Each student will be assigned a project, and the content of the theme may vary from student to student depending on the supervisor.

[Learning Objectives]

To improve problem-solving skills, presentation skills, etc.

[Learning activities outside the classroom]

Students will need to cooperate with group members to search for and create materials.

[Grading Criteria/Policies]

Your grade will be determined by your daily efforts, the content of your final presentation, and your answers to questions.

BSP100XG（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

科学実験リテラシー

小上 樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学実験の基礎となっている考え方（統計学）とデータ処理の技法（Excelの使い方）およびレポートの書き方を学ぶ。

【到達目標】

1年生秋学期から始まる創生科学基礎実験I、および2年生の創生科学基礎実験II、IIIで必要となる誤差、有効数字、正規分布などの基礎概念、Excelを使ったグラフの書き方・読み方、データ整約の技法、およびそれらの基礎となっている統計概念を理解する。またレポートの書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義内容は事前にYouTubeでオンデマンド配信される。授業時間中では、主に演習、質疑応答としてフィードバックの時間を設け、確認テストで学習成果をチェックする。なお、貸与PCの使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。貸与パソコンとExcelの初期設定、Hoppiiに登録
2	初等統計学	Excelを使った基本統計量の計算。母集団と標本、平均と分散と標準偏差、中央値、最頻値、など
3	散布図の描き方	Excelを使った1変量の散布図の描き方。グラフの体裁、線形目盛と対数目盛
4	相関係数	Excelを使った2変量の散布図の描き方、様々な相関係数の算出
5	回帰分析	最小二乗法の原理と計算法、Excelの回帰分析表の見方
6	ヒストグラムと正規分布～前編～	ヒストグラムと分布、極限分布、正規分布（ガウス分布）、Excelを使って、ヒストグラムを描く、Excelを使って、ヒストグラムに正規分布を重ねる
7	実験レポートにおける誤差評価の使い方	測定値の表現（最良推定値と誤差範囲）、有効数字、相対誤差、誤差伝播入門
8	誤差の伝播	和と差、商と積、べき乗、任意の1変数関数、誤差の逐次伝播、誤差伝播の一般式
9	ランダム誤差の統計的取扱い	ランダム誤差、系統誤差、標準誤差
10	ヒストグラムと正規分布～後編～	68%信頼限界としての標準偏差、最良推定値として平均値を選ぶので良い理由、二乗和を使うことの根拠、平均値の標準偏差、測定値の受容可能性

11	大数の法則と中心極限定理	Excelの乱数を使ったシミュレーションを通じて、大数の法則と中心極限定理を理解する
12	レポートの書き方	Wordの使い方（基本操作と数式の書き方）とレポートの書き方
13	模擬試験1	Excelを使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方
14	模擬試験2	Excelを使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。講義内容は事前にYouTubeで配信されるので、各自自主的に予習を行ってから授業に参加することが必須である。また、理解できない箇所については授業内外で積極的に教員やTAに質問すること。

【テキスト（教科書）】

・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000年

【参考書】

・東京大学教養学部統計学教室(編)、「統計学入門（基礎統計学）」、東京大学出版会、1991年
・岡村・三浦・玉井・伊藤(編)、「理系ジェネラリストへの手引き」、日本評論社、2015年
・Excelの使い方については、インターネットで調べればたくさん出てくるので特に参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、授業内課題と小テスト（20%）

【学生の意見等からの気づき】

創生科学基礎実験I・II・IIIにつながるような授業構成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

国立天文台で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students practically learn the concepts underlying scientific experiments (statistics) and data processing techniques (how to use Excel) and how to write reports. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Final Exam (80%), in-class Assignments and Quizzes (20%).

APH300XG（応用物理学 / Applied physics 300）

量子エレクトロニクス

本宮 佳典

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子エレクトロニクス、光科学の分野における「科学のみちすじ」を学ぶ。レーザーの発明(1960年)により、新しいコヒーレントな光が利用できることになったことで光学は大きく進展し、量子エレクトロニクスと呼ばれる分野が出現した。本講ではレーザーの基礎を中心に、応用としての光科学、特に非線形光学、超精密測定についても学ぶ。

【到達目標】

レーザーの基礎となる、光学、光の吸収放出、共振器について学び、レーザー発振の機構を理解する。さらに、各種レーザー発振装置の概要にも触れる。また、強力なレーザー光は非線形効果を引き起こすが、これを利用した非線形光学現象についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心とする。各講義の最後に小課題を出題し（全十回前後）、解答をレポートとして提出して貰う。提出締切り後に解説を行う。

授業形態は対面授業を基本とし、状況に応じて一部オンラインを併用する場合がある。方法については授業内および学習支援システム内の教材にて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レーザーと量子エレクトロニクス	レーザーの歴史と代表的な応用分野について概説する
2	レーザーの基礎	レーザー物理の重要基礎として、原子のエネルギー準位と光の波長の関係について学ぶ
3	レーザーの物理(1)	光の自然放出、吸収、誘導放出について、アインシュタインのA,B係数も含めて学ぶ
4	レーザーの物理(2)	熱平衡分布と反転分布を学ぶ
5	レーザーの物理(3)	レーザー共振器や高強度光の実験の基礎としてガウスビームについて学ぶ
6	レーザーの物理(4)	レーザー共振器とレーザー発振について学ぶ
7	レーザー発振の原理(1)	反転分布が実現される状況のモデルとしてレート方程式を学ぶ
8	レーザーの発振の原理(2)	レーザーの発振条件、出力特性について学ぶ
9	レーザー発振装置(1)	レーザーの分類と、代表的な固体レーザーの発振機構を学ぶ
10	レーザー発振装置(2)	気体レーザー、半導体レーザーなど種々のレーザーの発振機構を学ぶ
11	非線形光学(1)	多数の二準位原子からなる系の挙動を、密度行列を用いて学ぶ
12	非線形光学(2)	緩和項の導入により、非線形効果も考慮して光に対する応答現象を学ぶ

13 非線形光学(3) レーザー光で生ずる種々の非線形光学現象と、分光や計測への応用について学ぶ

14 量子エレクトロニクスのまとめ 量子エレクトロニクスで学んだ重要な概念についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】レーザーの基礎および応用分野について自身でも調べてみる

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、以下の参考書を参照する

【参考書】

量子光学 松岡正浩著（裳華房テキストシリーズ物理学）

レーザー物理入門 霜田光一著（岩波書店）

工学系のためのレーザー物理入門 三沢和彦・芦原聡著（講談社）

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績80%、講義期間中に実施の複数回のレポートを含む平常点20%とし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

Quantum electronics is the field developed after the invention of laser in 1960. Coherence can be regarded as the most important property of laser light. The lectures will cover basics of laser, applications to nonlinear optics and precision spectroscopy.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to learn the basics of laser and nonlinear effects caused by laser.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, in class contribution: 20%

MEC200XG (機械工学 / Mechanical engineering 200)

物理学基礎Ⅴ (熱統計力学Ⅰ)

梶田 雅稔

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マクロな熱力学とミクロな統計力学の入門部分について学ぶ。熱現象から出発し、仕事、熱機関、熱力学法則、エントロピーに達する熱力学の考え方を学習した上で、気体運動論から集団分布を扱う統計力学の基本を学習する。また、歴史的な発展、変遷についても理解する。

【到達目標】

熱力学と統計力学の基本的入門部分を理解する。またそこに至る歴史的考察を知識として持つ。特に観測される熱平衡状態がエントロピー最大、つまり確率最大であることを理解してほしい

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を主として授業を進める。基本的な概念・法則の理解を重視して適宜レポート課題を課す。レポート評価は基本概念を理解を重視する。最終回に最終試験を行うが、その時は筆記用具以外の持ち込みは禁止することを念頭においてほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	熱・統計力学と確率論	熱力学第一、第二法則とそれに関わる確率論を開設する
2	分子の2領域の分布比	容器内の2領域内の分子数分布を確率論から紹介する
3	エネルギー分布と統計力学的温度の定義	接触する2領域の確率最大のエネルギー分布とそこから導かれる温度の定義
4	温度を決めたときのエネルギー分布	統計力学的温度の定義に基づくエネルギー分布を示す
5	平均エネルギー	統計力学から導かれる平均運動エネルギー、位置エネルギー
6	熱力学入門	気体の状態方程式を紹介したうえで与える熱エネルギーと期待が外部に対して行う仕事。気体の比熱についても議論する
7	断熱変化	断熱膨張、圧縮を行った時の温度変化
8	カルノーサイクル (理想)	典型的な動力機関として絵のカルノーサイクルを紹介、熱陸学的エントロピーの紹介
9	カルノーサイクル (現実)	理想的なカルノーサイクルではエントロピーは不変であるが現実には増大することを示す
10	熱平衡状態	総エントロピー最大で示される熱平衡状態と自由エネルギーの関係を示す
11	独立事象が成り立たない場合のエネルギー分布	原子分子の波束が広がって重なりが生じたときの現象を紹介する。その場合は、それまでの統計力学が成り立たない
12	黒体輻射	量子論のさきがけとなったプランクの黒体輻射を紹介する

13 エントロピーについての考察 レーザー光を用いた原子制御を紹介、その場合エントロピー増大の法則が破れていないか考察

14 まとめと評価 まとめと最終試験を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
前回の復習をしてから授業に臨むことが重要である。

【テキスト (教科書)】

power point 資料を配布する

【参考書】

Fundamentals of Analysis in Physics 法政図書館にあり

第6章が本授業に関連する部分である

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に数回のレポート 90%、最終試験 10 %で評価する。

レポート成績が良い人は試験免除する

ただし、基本概念の理解が不完全と思われるレポート、他人のレポートと酷似したレポートは口頭試問を行ったうえで評価することがある
最終試験では筆記用具以外持ち込み禁止する

基礎事項が理解できていない人は不可の評価にすることを認識してほしい

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にレポート問題を解く時間を与えることもあるのでPCの持ち込みを推奨する

【その他の重要事項】

最低限の理解ができていない人は不可にするのでその旨認識してほしい

【Outline (in English)】

This course deals with the very beginning of thermodynamics and statistical mechanics. The topics covered by this course include the thermal phenomena, the formalism of thermodynamics, the statistical mechanics from behaviors of micro gas particles, etc. The goals of this course are to understand the basics of thermodynamics and statistical mechanics, and to learn how these scientific fields have been developed. Students will be expected to review the previous lecture before each class meeting. Grading will be decided based on in-class contribution (including in-class practice: 90 %).and term end examination 10 %. For students with high score of in-class contribution, credit will be given without term end examination.

フィールドワーク

田中 幹人

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生が地域や社会の現場を対象とした実践的なフィールドワークに取り組み、課題の発見から調査設計、データ収集、分析、発信に至る一連のプロセスを体験的に学ぶ。

学生は、参与観察やインタビューを中心とした質的調査を通じて、現場を丁寧に観察し、他者との対話をもとに情報を記録・解釈する方法を身につける。

本授業で扱うデータ収集は主として質的データを対象とし、アンケート調査等による量的データの収集や統計的分析は扱わない。

こうした学習を通じて、学生が自らの立場や前提を振り返りながら現場と向き合い、得られた知見を論理的に整理し、他者に伝える経験を重ねることで、社会や地域の課題に対して主体的に関わる姿勢を養うことを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、学生は以下のことができるようになる。

1. フィールドにおける観察・記録・インタビューの基本的手法を理解し、実際の調査場面で適切に用いることができる。
2. 調査倫理や調査者の立場性（バイアス）を意識し、それを調査計画やフィールドノーツに反映させながら調査を進めることができる。
3. 現場で得られた情報を整理・分析し、根拠を示しながら論理的に解釈することができる。
4. 調査結果を文章、図、口頭発表などを用いて、他者に分かりやすく伝えることができる。
5. グループで役割分担を行い、他者と協働しながら調査活動に主体的に取り組むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・授業は対面形式で実施し、講義、演習、グループワーク、発表を組み合わせて進行する。
- ・前半では、フィールドワークの基礎的な考え方や調査手法について講義・演習を行い、後半ではグループごとに設定した調査課題に基づく課題解決型学習（PBL）を中心に進める。
- ・授業時間外には、各グループで計画した内容に基づき、複数回の現地調査（観察・聞き取り等）を行う。
- ・授業内では、調査計画や調査結果についてグループ発表を行い、教員および他の受講生からの質疑・コメントを通じて内容を深める。
- ・調査計画、フィールドノーツ、現地報告などの成果物は段階的に提出し、教員からのコメントや授業内でのフィードバックを受けながら改善を重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	フィールドワークの目的と方法	・授業全体の構成、評価方法、提出物の説明 ・フィールドワークとは何か（調査・実験との違い） ・フィールドノーツの役割 ・短時間観察と簡易記録

2	関心テーマの言語化	・個人の関心テーマの提出 ・「気になること」と「調査テーマ」の違い ・テーマは後に変更される前提であることの共有
3	グループ編成と調査対象の共有	・グループ分けの発表（5～6人／1グループ） ・グループ内での顔合わせ ・各グループの調査対象の共有 ・調査対象をどう捉えるかの説明 ・調査対象に関する既存情報の整理 ・人・行動・認識・関係性などの観点からの整理 ・調査対象の全体像を把握するグループ作業
4	調査対象の把握	・観察・聞き取りの基本姿勢 ・質問の良し悪しの比較 ・記録の取り方（メモ・音声・逐語の違い） ・ミニ演習（短時間観察・簡易インタビュー）
5	調査スキルのトレーニング	・調査目的・調査対象・調査方法の整理 ・観察・インタビューの設計 ・調査計画ドラフトの作成 ・各グループによる調査計画の発表 ・教員および他グループからの質疑・フィードバック ・計画は仮であり、後に修正される前提であることの確認（授業外）
6	調査計画の作成	- 現地調査① ・第7回で発表した計画に基づき調査を実施 ・観察・聞き取り・記録 ・個人フィールドノーツ①の作成
7	調査計画プレゼンテーション	・質的データとは何か ・オープンコーディングの基礎 ・フィールドノーツを用いた分析演習
8	質的分析入門①	・コードの整理と関係づけ ・フィールドノーツ①の提出 ・現地報告①に向けた分析視点の整理
9	質的分析入門②	・現地報告①の提出 ・第1回調査の振り返り ・第2回調査に向けた調査計画の修正（授業外）
10	現地報告①と再調査計画	- 現地調査② ・不足データの補足・検証を目的とした再調査 ・比較・対照を意識したデータ収集
11	進捗共有と分析の方向づけ	・第2回調査結果の共有 ・分析の方向性に関するフィードバック ・最終成果物の構成検討

12	分析の整理と表現	・分析内容の深掘り ・図・論点・ストーリーの整理 ・フィールドノーツ②の提出
13	成果物の完成	・現地報告②の提出 ・ポスター完成 ・発表準備
14	最終発表会	・ポスタープレゼンテーション ・質疑応答 ・ピア評価および全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内で示される文献や配付資料を事前に読み、調査テーマや次回の授業で行う活動内容について準備を行う。

授業後は、フィールドノーツの整理・追記、授業内容の振り返り、調査計画や分析メモの作成などを通じて、授業で扱った内容の理解を深める。

また、グループでの打ち合わせや資料作成を行い、調査計画、現地報告、最終成果物の完成に向けた準備を進める。

授業期間中には、授業時間外に現地調査を実施し、観察や聞き取り、記録を行ったうえで、その内容をフィールドノーツや提出物としてまとめる。

本授業の準備学習・復習・課題対応に要する時間は、各回あたり4～6時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

- ・佐藤 郁也、「フィールドワーク増訂版：書を持って街へ出よう」、新曜社、2006年
- ・箕浦 康子、「フィールドワークの技法と実際:マイクロ・エスノグラフィ」、ミネルヴァ書房、1999年
- ・箕浦 康子、「フィールドワークの技法と実際II:分析・解釈編」、ミネルヴァ書房、2009年
- ・山崎 亮、「コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる」、学芸出版社、2011年
- ・堀 公俊、「ファシリテーション入門」、日経BPマーケティング、2004年

【成績評価の方法と基準】

本授業では、期末試験は行わず、調査の計画・実施・分析・発信に至るまでの学習プロセスと成果物を総合的に評価する。

成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

個人評価（50%）

- ・フィールドノーツ①（15%）

現地調査①に基づく観察・記録の具体性、記述の丁寧さ、調査者としての視点や気づきの記載を評価する

- ・フィールドノーツ②（15%）

現地調査②に基づく観察・記録の具体性、記述の丁寧さ、分析を踏まえた記録の整理・深まり、調査内容の解釈の妥当性を評価する

- ・授業参加・演習への貢献（15%）

講義・演習・グループワーク・発表時の発言や議論への参加状況を平常点として評価する

- ・個人レポート（5%）

授業全体を振り返り、自身の学びを論理的に整理できているかを評価する

グループ評価（40%）

- ・調査計画（10%）

調査目的・対象・方法の整合性、計画の具体性を評価する

- ・現地報告①（10%）

第1回調査結果の整理と初期分析の妥当性を評価する

- ・現地報告②（10%）

再調査を踏まえた分析の深まりや比較・検討の視点を評価する

- ・分析内容と最終発表（10%）

分析結果の論理性、表現の分かりやすさ、発表内容の構成を評価する

ピア評価（±10%）

・グループ内での役割分担や貢献度について相互評価を行い、その結果をもとに個人評価を補正する

※提出物の未提出や大幅な遅延がある場合は、当該項目を評価対象外とすることがある。

【学生の意見等からの気づき】

初年度の授業実施状況を踏まえ、授業の進行を調整した。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

フィールドワークのテーマは、都内近郊を主な調査フィールドとし、地域社会や都市環境における身近な現象や課題を対象として、各グループで設定する。

（参考）2025年度には以下のようなテーマでフィールドワークが実施された。

- ・若者の間で共有されている性格類型に関する言説が、対人関係の理解や行動にどのように用いられているかに関する調査
- ・都市部と郊外における環境条件の違いが、人々の服装や行動にどのように表れているかに関する調査
- ・観光地における混雑や回避行動をめぐる人々の判断や行動に関する調査
- ・都市空間における騒音や路上環境と、人々の滞留・移動行動との関係に関する調査
- ・夜間の光環境や明るさが、星の見え方や人々の認識に与える影響に関する調査
- ・立地特性の異なる駅における利用目的や駅の役割の違いに関する調査
- ・公園の構造や設備と、利用者の行動や満足度との関係に関する調査

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course offers hands-on training in qualitative fieldwork focusing on local communities and everyday social settings.

Students experience the full research process, including identifying research interests, designing a field study, collecting qualitative data through participant observation and interviews, analyzing field materials, and presenting findings.

The course emphasizes close observation of real-world contexts and reflective engagement with the field. Quantitative surveys and statistical analysis are not covered.

Through group-based field projects, students learn how social knowledge is produced through interaction, interpretation, and collaboration.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to:

1. Apply basic methods of observation, note-taking, and interviewing in actual fieldwork settings.
2. Conduct field research while being mindful of research ethics and their own positionality as researchers.
3. Organize and analyze qualitative data and interpret findings with clear supporting evidence.
4. Communicate research results effectively through writing, visual materials, and oral presentations.
5. Work collaboratively in small groups and actively contribute to joint research activities.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read assigned materials and review handouts in advance to prepare for upcoming class activities.

After each class, students will organize and revise their field notes, reflect on class discussions, and work on research plans and analysis memos.

In addition, students will conduct multiple field investigations outside of class hours, including observation and interviews, and document their findings in field notes and written assignments.

The standard amount of preparation, review, and assignment work is 4–6 hours per class session.

【Grading Criteria / Policy】

There is no final examination. Student performance is evaluated based on research processes and submitted work throughout the course.

Grades are given on a 100-point scale, with a score of 60 or above required to pass.

Individual Assessment (50%)

- ・Field Notes I & II

- ・ Participation and contribution to class activities
- ・ Individual reflection report

Group Assessment (40%)

- ・ Research plan
- ・ Field reports
- ・ Final analysis and presentation

Peer Assessment ($\pm 10\%$)

- ・ Adjustment based on contributions to group work as evaluated by peers

Late or missing submissions may result in the relevant component not being graded.

機械学習

柴田 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、機械学習は、コンピュータサイエンスに限らず、様々な分野において重要な基礎知識となってきた。本授業では、機械学習の基礎と応用の方法を学ぶ。とくに、Pythonプログラミングによる実践的な機械学習の方法を通じて、理解を深めることを狙う。

【到達目標】

本講義により、機械学習の基礎知識、および、機械学習プログラムの基礎知識を習得する。機械学習プログラムにはpython言語を用いるが、そのソースコードが理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

機械学習を中心に講義を行う。講義とともに、講義内容について、場合に依りて小課題を出し、授業中に講評を行い、講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	機械学習とはなにか	講義全体の概要について説明する。機械学習や近年のAI技術について概要を説明する。
2	Python入門(1)	Pythonは、機械学習のための代表的な言語になっている。機械学習の実装の観点から、Pythonの基礎を学ぶ。
3	Python入門(2)	引き続き、機械学習の観点から、Python言語の基礎と利用方法を学ぶ。
4	線形代数の復習	線形代数のごく初歩について復習する。また、それをPythonでどのように扱うかを学ぶ。
5	確率の復習	確率の初歩について復習する。また、Pythonでどのように扱うかを学ぶ。
6	線形回帰	機械学習における最も初歩的な確率モデルとして、線形回帰の定式化と手法を学ぶ。
7	ロジスティック回帰と一般化線形モデル	一般化線形モデルの代表的な手法であるロジスティック回帰について説明する。
8	多値ロジスティック回帰	多値ロジスティック回帰を多値分類に拡張する手法について学ぶ。
9	サポートベクトルマシン	二値分類を解く機械学習の手法として代表的なサポートベクトルマシンの基礎について講義を行う。
10	ナイーブベイズ法	テキスト分類に使われる最もシンプルな確率モデルとしてナイーブベイズ法がある。そのモデルと応用方法について学ぶ。

11	ナイーブベイズ法(2)	ナイーブベイズ法を実際にデータに適用する方法を学ぶ。
12	決定木	決定木とは、それをたどることにより分類を行うことができるような木であり、機械学習の観点から有用な決定木の構築手法について学ぶ。
13	ニューラルネットワーク	非線形な分類のための機械学習のモデルとして、初歩的なニューラルネットワークについて学ぶ。
14	今後の課題と理解度確認	この講義では機械学習の初歩を学ぶが、その後どのようなことを学ばばよいのかなどの今後の方向性にて講義を行う。また理解度確認の課題を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
受講学生は、講義内容について、事前に教科書を読み基礎知識を見付けるとともに、講義内容について復習を行う。

【テキスト（教科書）】

八谷大岳著:「ゼロから作るPython機械学習プログラミング」、機械学習スタートアップシリーズ、講談社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業中の課題（50%）とレポート課題（50%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

ノートPC

【その他の重要事項】

講義についてメモをきちんととり、復習を十分に行うこと。

【Outline (in English)】

[Outline]

Machine learning is currently mandatory for various fields of computer science. In this lecture, you learn the basics and the practical knowledge of machine learning.

[Goal]

The goal is to acquire the basic knowledge of machine learning and machine learning coding using Python language.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to review and learn basic Python syntax outside of the class.

[Grading Criteria]

Grades are evaluated comprehensively based on exercises and reports in class.

深層学習の基礎

柴田 千尋

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年発展のめざましい人工知能の根幹をなす機械学習・深層学習の基礎知識と実践的知識の習得を行う。特にニューラルネットや深層学習にスポットを当て、原理の理解と応用の方法を学ぶ。最終的には、それらの先端的な人工知能の技術の基礎的な理解および応用技術の理解を目的として講義を行う。

【到達目標】

機械学習・深層学習に関して、基礎と応用手法の十分な理解を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、実際のソースコード(py)を見ながら解説を行う。実際にノートPCを使ってプログラムを実行してみる時間とることにより、講義内容の理解を深める。小課題のフィードバックについては、授業で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ・環境導入	本講義の概要について説明する。 また、環境を導入する。
2	画像処理入門	画像を計算機でどのように取り扱うかについて、講義する。実践手法として python のライブラリである numpy を概説する。
3	自然言語処理入門	自然言語を処理するための基礎知識について、講義する。
4	機械学習 1 (分類)	SVM やロジスティック回帰を中心に、分類問題を解く方法について講義する。
5	機械学習 2 (回帰と勾配法)	線形回帰を対象に、勾配法を用いた学習手法について講義する。
6	機械学習 3 (自動微分と確率的勾配降下法)	自動微分と確率的勾配降下法を用いて線形回帰のパラメータを学習する手法を講義する。実践手法として pytorch を導入する。
7	マルチレイヤパーセプトロン	分類問題に対して、マルチレイヤパーセプトロンを用いた手法と、それを学習する手法について講義する。
8	深層学習 1 (畳み込みニューラルネットワーク 1)	画像認識技術において中心的役割を担う畳み込みニューラルネットワークについて講義する。
9	深層学習 2 (畳み込みニューラルネットワーク 2)	畳み込みニューラルネットワークを画像認識に適用する際の、層構造など、詳細について講義する。また、転移学習についても触れる。
10	深層学習 3 (畳み込みニューラルネットワーク 3)	深層学習を用いた画像のセグメンテーション・領域検出の技術について講義する。

11	深層学習 4 (単語の埋め込み表現)	Word2Vec などの、単語をベクトル空間内に埋め込む手法について講義する。また、それらを用いた文書分類の方法について説明する。
12	深層学習 5 (リカレントニューラルネットワーク)	リカレントニューラルネットワークを用いた自然言語処理の手法を、テキスト生成や機械翻訳を例にとり講義する。
13	深層学習 6 (アテンションモデル)	文を細かいピースに分割する手法、および、 BERT に代表される、アテンション機構を用いた文の埋め込み表現の獲得手法について講義する。
14	今後の課題	将来大きく発展することが期待できる技術として、敵対的生成ネットワークについて概説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
受講学生は、講義内容について、事前に教科書を読み基礎知識を見つけたとともに、講義内容について復習を行う。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

Ian Goodfellow et al. 「深層学習」 ASCII DWANGO
斎藤 康毅 著「ゼロから作る Deep Learning - Python で学ぶディープラーニングの理論と実装」 O'REILLY

【成績評価の方法と基準】

授業中の小課題(40%)およびレポート(60%)により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

講義中に使うので、インターネットに接続可能な ノート PC を必ず持参すること。

【Outline (in English)】

[Outline]

This lecture provides basic and practical knowledge of machine learning and deep learning, which form the basis of artificial intelligence, a field that has made remarkable progress in recent years. Especially, we will focus on neural networks and deep learning, aiming to understand the basic mechanisms and notions and practical methods of them.

[Goal]

The goal is to acquire basic and practical knowledge of machine learning that supports the foundation of artificial intelligence, which has been remarkably developed in recent years.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Review the basics of python well in advance.

[Grading Criteria]

Assessments are based on exercises (40%) and reports (60%) in class.

MAT300XG（数学 / Mathematics 300）

確率統計・演習Ⅳ（統計モデリング入門）

田中 幹人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

天文学をはじめ、心理学やマーケティングなど多様な分野では、量的データを用いて現象を理解・解釈するために統計モデルが用いられている。学生はこれまで、正規分布を暗黙に仮定した統計解析手法を学んできたが、現実のデータは必ずしもそのような単純な仮定では記述できないことが多い。

本授業では、学生が現実世界の多様なデータ構造を柔軟に表現・解釈するための統計モデリングの考え方を理解し、適切なモデルを自ら構築・評価できる力を身につけることを目的とする。また、Pythonを用いた実践的な演習を通じて、データ分析を単なる手法の適用にとどめず、現象理解や意思決定に結びつけるための基礎的な素養を養う。

【到達目標】

本授業を履修することで、学生は以下のことができるようになる。

- ・一般化線形モデルの考え方を理解し、データの特性に応じて適切な確率分布やリンク関数を選択したモデルを説明できる。
- ・ベイズモデルの基本的な考え方を理解し、事前分布・尤度・事後分布の関係をを用いてモデルの意味を説明できる。
- ・Pythonを用いて実データに対する統計モデリングを実装し、推定結果を解釈した上で、その妥当性や限界について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義内容および演習課題は、事前にYouTubeを用いてオンデマンド配信する。学生は授業時間外に講義動画を視聴し、課題に取り組んだ上で授業に参加する。

授業時間中は、課題の解説や提出内容に対するフィードバックを中心に進め、質疑応答や議論を通じて理解の深化を図る。また、必要に応じて課題の再検討や追加演習を行い、学生が自らモデルの選択や結果の解釈を行う力を養う。

授業の進行状況や内容に応じて、オンライン授業を併用する場合がある。なお、本授業は大学から貸与されたPCの使用を前提とし、Pythonによる演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構え。 データを理解するために統計モデルを作る。
2	確率分布と統計モデルの最尤推定1	正規分布、ポアソン分布、二項分布などの確率分布。乱数
3	確率分布と統計モデルの最尤推定2	最尤推定の原理と実践
4	一般化線形モデル1	一般化線形モデル（GLM）-ポアソン回帰-
5	一般化線形モデル2	GLMのモデル選択-AICとモデルの予測の良さ-
6	一般化線形モデル3	GLMの尤度比検定と検定の非対称性
7	一般化線形モデル4	GLMの応用範囲をひろげる-ロジスティック回帰など-

8	一般化線形モデル5	GLMの応用範囲をひろげる-ロジスティック回帰など-
9	一般化線形モデル6	一般化線形混合モデル（GLMM）-個体差のモデリング-
10	ベイズモデル1	マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法とベイズ統計モデル
11	ベイズモデル2	GLMのベイズモデル化と事後分布の推定
12	ベイズモデル3	階層ベイズモデル-GLMMのベイズモデル化-
13	ベイズモデル4	空間構造のある階層ベイズモデル
14	まとめ	これまでの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、各回の授業に先立ち、事前に配信される講義動画を視聴し、教科書や配布資料を読み、演習問題に取り組むことで授業の準備を行う。また、授業後には、授業内で扱った内容の復習や、提示された課題（レポート作成、演習問題の解答、Pythonコードの修正・実装など）に取り組み、理解を深める。

本授業における準備学習および復習に必要な学習時間は、各回あたり4時間程度を標準とする。学生は授業計画に沿って、自身の理解状況に応じた自主的な学習を行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

・久保拓弥(著)、「データ解析のための統計モデリング入門（確率と情報の科学）」、岩波書店、2012年

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の要素に基づき、100点満点中60点以上を合格とする。

・毎週の課題（40％）

統計モデリングに関する演習課題やレポートを通じて、一般化線形モデルおよびベイズモデルの理解、Pythonを用いたモデルの実装能力、ならびに推定結果の解釈力を評価する。課題では、モデル設定の妥当性、実装の正確性、結果に対する考察の論理性などを総合的に評価する。

・期末試験（60％）

講義全体を通して学修した統計モデリングの理論的背景や考え方について、用語の理解、モデルの構造理解、結果の解釈力を評価する。一般化線形モデルおよびベイズモデルに関する基礎的な概念理解と応用的思考力を測定する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業ではPythonの使用を前提とするため、講義で必要となる基礎的な技術（Markdownによる記述、グラフの描画、NumPy・Pandasの利用、制御文など）については、副教材を別途用意する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces statistical modeling as a framework for analyzing and interpreting real-world quantitative data that cannot be adequately described by simple assumptions such as normality. Students will learn how probabilistic models are constructed, evaluated, and interpreted in practice. Through lectures and hands-on exercises using Python, the course focuses on generalized linear models and Bayesian approaches, emphasizing model-based thinking rather than routine application of statistical techniques.

Learning Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- Explain the basic structure and assumptions of generalized linear models and select appropriate models for different types of data.
- Describe the fundamental concepts of Bayesian statistical modeling, including prior distributions, likelihoods, and posterior inference.
- Implement statistical models for real datasets using Python and interpret the results critically, including their limitations.

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to watch on-demand lecture videos, read assigned materials, and work on programming exercises and written assignments outside class. After each class, students will review the content and complete homework tasks such as data analysis, report writing, and modification of Python code. The standard workload for preparation and review is approximately four hours per class session.

Grading Criteria / Policy

Grades are evaluated on a 100-point scale, and a score of 60 points or higher is required to pass.

- Weekly Assignments (40%)

Programming exercises and reports assessing students' ability to construct statistical models, implement them in Python, and interpret the results logically.

- Final Examination (60%)

An examination evaluating understanding of core concepts in statistical modeling, including generalized linear models and Bayesian methods, as well as the ability to interpret model-based results.

ASR300XG (天文学 / Astronomy 300)

天文学 II

田中 幹人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生が天文観測の多様な手段とその成果を理解し、銀河宇宙におけるさまざまな現象の規模や物理的メカニズムを体系的に捉えられるようになることを目的とする。
特に、天体までの距離測定が観測天文学の基盤であることを学び、その理解を通して、学生が銀河の性質や宇宙の構造を観測事実に基づいて考察する力を身につけることを目指す。

【到達目標】

本授業を履修することで、学生は以下のことができるようになる。
・宇宙から観測されるガンマ線から電波までの多波長電磁波が、それぞれどのような天体物理情報をもたらすかを説明できる。
・銀河や宇宙構造の研究において用いられる代表的な観測手法と測定量を理解し、その役割を説明できる。
・観測データに基づいて、銀河の性質（構成要素・活動性など）や宇宙の構造を解釈・考察できる。
・観測事実と理論的枠組みを対応づけながら、銀河宇宙の理解を自らの言葉でまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は反転授業形式で実施する。
授業前に、講義動画（約100分）および配布資料を用いて、該当回の内容を予習していただくことを前提とする。
授業時間内では、事前学習内容に基づく確認テストを実施し、理解度を把握する。あわせて、グループワークや演習を通じて、観測事実の整理や解釈に取り組む。
確認テストや演習課題については、授業内での解説やコメント等によりフィードバックを行い、理解の定着と応用力の向上を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど
2	銀河系1	銀河系構造の概観、円盤部の構造、楕円体部の構造
3	銀河系2	銀河系のダークマター、X線による銀河系、電波で見た銀河系中心
4	銀河系3	矮小銀河と銀河形成の描像
5	銀河系4	化学進化の基礎、銀河の化学進化
6	銀河1	銀河とは何か、銀河の力学
7	銀河2	星生成活動と銀河進化モデル、AGN、X線による観測、電波でみた銀河
8	銀河団	多波長で見る銀河団、銀河間ガス、銀河団の質量、重元素汚染、遠方銀河団
9	銀河の観測と宇宙論1	距離はしご、銀河の空間分布
10	銀河の観測と宇宙論2	宇宙論パラメータと銀河の進化、電波で探る銀河形成

11	宇宙論1	ビッグバン宇宙モデルの基本パラメータ
12	宇宙論2	ビッグバン宇宙の進化
13	新しい観測の窓	重力波天文学、ガンマ線天文学
14	まとめ	最新の銀河研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、学生は以下の授業時間外学習に取り組むことを求められる。

各授業前：

学生は、事前に配布・提示される講義動画（約100分）および教科書・資料を用いて、該当回の内容について予習する（目安3時間）。

各授業後：

学生は、授業内で実施した確認テストやグループワークの内容を振り返り、必要に応じて教科書・資料を用いて理解を整理・補強する（目安1時間）。

なお、本授業の準備学習および復習に要する時間は、各回あたり計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・岡村定矩(編)、「天文学への招待」、朝倉書店、2001年

【参考書】

・岡村定矩(著)、「銀河系と銀河宇宙」、東京大学出版会、1999年
・千葉征司(著)、「銀河考古学（新天文学ライブラリー第2巻）」、日本評論社、2015年
・家正則他(編)、「宇宙の観測I－光・赤外線天文学（シリーズ現代の天文学15巻）」、日本評論社、2007年
・羽馬哲也(著)、「宇宙の化学 プリズムで読み解く物質進化」、岩波書店、2023年
・Peterson(著)、「ピーターソン活動銀河核：巨大ブラックホールが引き起こすAGN現象のすべて」、丸善出版、2010年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

・期末試験（80％）

授業で扱った内容について、多波長観測の基礎的理解、観測事実の解釈、銀河の性質や宇宙の構造に関する理解を評価する。到達目標に示した知識・理解が身についているかを、記述および選択式問題により総合的に評価する。

・平常点（20％）

各回の授業内で実施する確認テストおよびグループワークへの取り組み状況を評価する。事前学習内容に基づいて課題に主体的に取り組む、観測事実の整理や考察を行えているかを評価基準とする。
※授業への出席は単位修得の前提条件であり、成績評価項目には含まれない。

【学生の意見等からの気づき】

授業内での小テストや課題を増やし、知識の理解や定着を図ることで、期末試験の正答率アップへと繋げる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

本授業の講義内容は「天文学I」を履修し、すでに恒星について学習済みであることが前提となる。
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
Course Outline

This course introduces observational astronomy with a focus on galaxies and the large-scale structure of the universe. Students will learn how astronomical observations across a wide range of wavelengths — from gamma rays to radio waves — provide information about physical processes in galaxies and the universe. Particular emphasis is placed on distance measurements as a foundation of observational astronomy and on interpreting observational data to understand galaxy properties and cosmic structure.

Learning Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- Explain what kinds of astrophysical information are obtained from multi-wavelength astronomical observations.
- Describe major observational methods and measurements used in studies of galaxies and cosmology.
- Interpret observational data to discuss the physical properties of galaxies and the structure of the universe.
- Summarize and explain galaxy-scale and cosmological phenomena based on observational evidence.

Learning Activities Outside of the Classroom

This course is conducted in a flipped-classroom format.

Students are expected to engage in the following activities outside class:

- Before each class:

Students watch assigned lecture videos (approximately 100 minutes) and study textbooks or distributed materials to prepare for the topic of the week (approximately 3 hours).

- After each class:

Students review the content of in-class quizzes and group activities and consolidate their understanding using textbooks and reference materials as needed (approximately 1 hour).

The standard amount of preparation and review time is 4 hours per class session.

Grading Criteria / Policy

Grades are evaluated on a 100-point scale, with 60 points required to pass.

- Final Examination (80%)

The final exam evaluates students' understanding of multi-wavelength observations, interpretation of observational results, and knowledge of galaxy properties and cosmic structure through a combination of written and multiple-choice questions.

- In-class Performance (20%)

In-class quizzes and participation in group work are assessed based on students' engagement with pre-class materials, their contributions to discussions, and their ability to analyze and interpret observational data.

Attendance is a prerequisite for course completion and is not included as a grading component.

ASR300XG (天文学 / Astronomy 300)

天文学III

田中 幹人

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

天文学では、最先端の望遠鏡によって取得された観測データが天文アーカイブとして公開されており、誰もが実データに基づいて宇宙を調べることができる。本授業では、学生が公開されている天文アーカイブデータを自ら扱い、Pythonを用いたデータ解析を通じて、恒星や銀河の性質、さらには宇宙の構造について理解を深めることを目的とする。

本授業を通じて、学生は天文学Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎的な概念を実際の観測データに適用し、天文学的な問いをデータに基づいて検証・解釈する力を身につける。これにより、天文学研究の基本的な考え方と手法を理解し、将来的に天文学や関連分野の研究へと発展させるための基礎的素養を養う。

【到達目標】

- ・学生は、天文アーカイブデータを用いて、恒星・銀河の性質や宇宙構造に関する基本的な量（等級、色、距離など）をデータに基づいて説明できる。
- ・学生は、Pythonを用いて天文データの読み込み、簡単な統計処理、および図（散布図・ヒストグラム等）の作成を行うことができる。
- ・学生は、観測データに含まれる誤差やばらつきを考慮し、解析結果の妥当性について簡潔に評価・考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド配信による講義と、事前課題を前提とした対面授業を組み合わせて実施する。講義内容および各回の課題は、事前にYouTubeにて配信し、学生は講義動画の視聴および指定された解析課題に取り組んだ上で授業に参加する。

授業時間中は、事前に作成したPythonコードや図を前提として、解析結果の確認、図の読み取り、天文学的な解釈に関する解説、質疑応答、およびフィードバックを行う。必要に応じて、簡単なディスカッションや追加演習を取り入れ、結果の妥当性や解釈の違いについて理解を深める。

課題は原則として授業前に取り組むものとし、授業後は授業内での指摘を踏まえた修正や復習を行う。ただし、必要に応じてオンライン授業を併用する。

なお、本授業は貸与パソコンの使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど
2	Python1	Markdown、数学関数、初等統計量、グラフの描画
3	Python2	相関係数、最小二乗法、for文とif文、乱数と二次元ヒストグラム
4	アーカイブ天文学について	アーカイブ天文学の歴史、Pythonの練習
5	スカイサーベイ	SDSS、2MASS、HSCなどの各種スカイサーベイ
6	三色合成	天体写真の色の付け方
7	恒星の色	等級、色、温度、熱的放射曲線、2色図

8	恒星のスペクトル	スペクトル型、吸収線と輝線
9	恒星のHR図1	散開星団のHR図、位置天文衛星、視差角と距離
10	恒星のHR図2	球状星団のHR図
11	ハッブル図	簡単なハッブル図、銀河までの距離を見積もる、赤方偏移、銀河の観測による宇宙膨張
12	銀河1	銀河の形態分類、ハッブルの音叉図
13	銀河2	楕円銀河と渦巻銀河の区別、銀河の進化
14	まとめ	これまでの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、各回の授業に先立ち、YouTubeで配信される講義動画を視聴し、授業で扱う天文学的概念や解析手法について予習を行う。あわせて、指定された天文アーカイブデータを用いた解析課題に事前に取り組み、Pythonコードの作成、図の作成、結果の整理を行った上で授業に臨む。

授業時間中は、事前に取り組んだ課題内容を前提として、解析結果の確認、図の読み取り、考察の深化、および教員からのフィードバックを受ける。授業後は、授業内での指摘やコメントを踏まえ、課題内容の修正や復習を行う。

本授業の準備・復習・課題対応に必要な学習時間は、各回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・SDSS Voyages（教育用コンテンツ）：<https://voyages.sdss.org/>

【参考書】

- ・市川隆・田中幹人(著)、「天体画像の誤差と統計解析（クロスセクショナル統計シリーズ）」、共立出版、2018年
- ・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000年

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。

・毎週の課題（60％）：

天文アーカイブデータを用いた解析課題について、Pythonコードの適切さ、作成した図の正確さ、ならびに結果の解釈・考察内容を総合的に評価する。

・期末試験（40％）：

授業で扱った天文学的概念およびデータ解析結果について、図や数値の読解力、結果の妥当性の判断、ならびに基本的理解度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

天文学の知識習得とPythonを用いたデータ解析の実習が、効果的に連動するような授業構成を心がける。

近年、生成AIの活用が一般化している状況を踏まえ、理解度をより適切に評価するため、期末試験の比重を見直した。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

本授業は、「天文学Ⅰ」および「天文学Ⅱ」を履修し、恒星および銀河に関する基礎的内容をすでに学習していることを前提とする。また、天文学研究の実践的な手法を扱うため、今後天文学を専門的に研究していく意欲のある学生の履修を推奨する。

毎週の課題では、生成AIの活用を前提とし、最先端の天文データを対象に、より高度な解析や解釈に挑戦することを求める。

本授業は、国立大学において天文学の基礎研究に携わってきた教員が担当し、当該分野の基礎概念について講義を行う。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course introduces students to practical data analysis in astronomy using publicly available astronomical archive data. By working with real observational datasets, students explore the physical properties of stars and galaxies, as well as the large-scale structure of the Universe. Python is used as a tool to analyze, visualize, and interpret astronomical data, with an emphasis on understanding how astronomers extract scientific knowledge from observations.

Learning Objectives

By the end of this course, students will be able to:

- analyze astronomical archive data to describe basic properties of stars and galaxies;
 - use Python to process data, create plots, and perform simple statistical analyses;
 - interpret observational results while considering uncertainties and data scatter;
 - connect astronomical concepts learned in previous courses with real observational data.
-

Learning Activities Outside of the Classroom

Students are expected to watch lecture videos and complete assigned data analysis tasks before each class. These activities include preparing Python code, generating figures, and organizing results based on the provided datasets. After each class, students review feedback given during the session and revise their analyses as needed. The standard workload for preparation, review, and assignments is approximately four hours per class.

Grading Criteria / Policy

Grades are evaluated on a 100-point scale, and a score of 60 or higher is required to pass.

- Weekly assignments (60%): Assessed based on data analysis accuracy, quality of plots, and clarity of interpretation.
- Final examination (40%): Assessed based on understanding of astronomical concepts, ability to read and interpret figures and data, and overall comprehension of the course content.

PLN300XG (地球惑星科学 / Earth and planetary science 300)

地球科学基礎Ⅱ (リモートセンシング)

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球科学を構成する領域のなかから、リモートセンシングを用いた地球・宇宙観測の基礎を学ぶ。観測装置からデータ解析までの一連のシステム構成の概要と併せて、特に観測装置としてのセンサと観測対象についての理解を深める。

【到達目標】

衛星を用いた宇宙からのリモートセンシングをテーマとする。大きな柱はセンシングとデータ解析であるが、ここではセンシングに力点を置き、その礎の一つとして宇宙・地球科学の基礎を学ぶ。宇宙における科学の方法を概観するとともに、いくつかのミッションについて紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態の基本は講義とする。授業内で課題を出し、授業内でワークショップ的に作業も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	リモートセンシングの基礎 (1)	リモートセンシングとは
第3回	リモートセンシングの基礎 (2)	大気への応用
第4回	リモートセンシングの基礎 (3)	陸域への応用
第5回	リモートセンシングの基礎 (4)	水域への応用
第6回	リモートセンシング・ミッション (1)	放射と反射
第7回	リモートセンシング・ミッション (2)	プラットフォーム
第8回	リモートセンシング・ミッション (3)	センサ：電波
第9回	リモートセンシング・ミッション (4)	センサ：光学
第10回	リモートセンシング・ミッション (5)	軌道設計の基礎
第11回	衛星のための軌道設計 (1)	オイラー法
第12回	衛星のための軌道設計 (2)	ルンゲクッタ法
第13回	衛星のための軌道設計 (3)	軌道設計の最適化
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。授業内で示される課題 (レポート、演習問題) に対応する。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等 (50%) および期末試験 (50%) から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進捗・内容に適宜フィードバックする。

【Outline (in English)】

This class introduces the fundamentals of space science. This course focuses on remote sensing from space using satellites and the fundamentals of space science that form the cornerstone of such remote sensing. The methods of science in space will be reviewed and several missions will be introduced in detail. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Evaluation will be based on the overall evaluation of the student's performance, including regular marks, reports, etc. (50%), and a final examination (50%).

イノベーションと企業経営

呉 暁林

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、国際化、デジタル化、DX（デジタルトランスフォーメーション）とAIなど経済活動のありかたと経済環境が大きく変化しています。企業の成長・経済の成長の起爆剤としてイノベーションが期待されています。本授業は生産と消費の媒介としての流通販売に焦点を当て、企業経営、マーケティング、企業業績の評価など経営学、マーケティングの基礎知識を学び、イノベーション（創造の促進と破壊の打撃を軽減する方策）の視点から具体的な企業事例（主に製造小売企業、製造業などに大きな影響を持つ流通企業）を取り上げて分析していきます。

【到達目標】

履修者が個人の課題発表の際に企業の経営活動を生産・流通・販売・消費の過程において把握でき、企業の経営戦略、マーケティング、企業の経営活動を初歩的に分析でき、関心のある業界や企業について新しい発見ができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、基礎知識と基本概念、事例、理論などの視点から、企業経営活動とマーケティングの関係、流通システムの構成と変化、イノベーションと企業業績評価（決算書の読み方など）について学習していきます。

教員による講義と事例分析で構成されます。事例について受講者が映像資料を視聴し、整理分析を行う演習、全員討論、個別学習発表などの形で展開します。

提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 企業経営とマーケティング	授業の紹介、企業の経営改革事例から学習ポイントを考える。
2	ユニクロとしまむらの経営業績を比較する（1）	企業の決算書 財務・会計の役割を理解する。
3	ユニクロとしまむらの経営業績を比較する（2）	財務諸表の読み方を学ぶ。
4	『楽天の野望』から IT時代のサービス・流通企業と経営戦略を考える	経営者の役割、企業経営、経営理念と経営戦略の基本概念と実践活動について考え、学ぶ。
5	企業の経営行動をどう把握するか、分析するにはどんな知識が必要かについて考える	DX銘柄2020ー”デジタル時代を先導する企業”トラスコ中山株式会社などの事例を取りあげる。
6	小松製作所、日立製作などの事例から市場戦略を考える	マーケティングの定義、マーケティングの考え方の時代的変遷、マーケティングコンセプト、マーケティングと製品市場戦略

7	商社の事例から流通の流れ・担い手の役割・販売管理を考える	大塚商会・三井物産などを取り上げて・消費財と生産財、小売りと卸売、販売経路、販売管理を理解する。
8	ヤマト運輸・SBSの事例から物流の役割と進化を考える	物流企業の事例から宅配便と物流革命、ロジスティックスのバージョンアップなど物流システムの進化を学ぶ。
9	小売製造業（SPA）と事例（ユニクロ）からマーケティング環境の分析を学ぶ	経営戦略・事業領域・競争戦略・マーケティング戦略の分析概念と枠組み競争分析、マーケティングリサーチ、消費者市場と消費者行動、標的市場の選定製品戦略とブランド戦略、価格戦略、チャネル戦略
10	ユニクロの”妹分”のジーユーの事例からマーケティングプログラムを学ぶ	
11	イノベーションとアパレルEC（ゾゾタウン・メルカリ）	店舗ビジネスに依存したビジネスモデルとアパレル業界のECへの取り組みを比較し、インターネット販売と効率性を学ぶ。
12	セブンイレブンの事例から小売業の業態ライフサイクルを考える	小売業の分類、業種、業態、流通のグローバル化などの視点から流通システムの変化を考察する。
13	期末学習発表	企業経営の基本的概念と網羅的な概念としてイノベーションの視点に基づく調査と事例分析
14	期末学習発表	企業経営の基本的概念と網羅的な概念としてイノベーションの視点に基づく調査と事例分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】参考書リスト①②③④から一冊選んで読んでください。Zoomクラウドにアップしてある映像を視聴してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定していませんが、配布するプリントの通読、映像資料の視聴などを強く薦め、適時宿題を課します。

また、企業経営と業績を把握するために、会計の基本、決算書の見方などを解説する本を一冊ぐらい読むことを勧めます。岩谷誠治(2017)『会計の基本』（日本実業出版社）、川口宏之（2021）『決算書を読む技術』（かんき出版）、田中道昭監修（2021）『比べる決算書図鑑』（宝島社）などが挙げられます。また、清水洋（2024）『イノベーションの科学』（中公新書）をぜひ読んでほしい。

【参考書】

小倉行雄・斉藤毅憲（2012）『新訂経営学入門』放送大学教材
清水洋（2024）『イノベーションの科学』中公新書
経営学検定試験協議会（監修）経営能力開発センター（編）『経営学検定試験公式テキスト③マーケティング』中央経済社
照井伸彦・佐藤忠彦（2013）『現代マーケティング・リサーチ』有斐閣
石井淳蔵・廣田章光編著（2009）『1からのマーケティング』（第三版）、共に中央経済社
渡辺達朗・原頼利・遠藤明子・田村晃二著(2008)『流通論をつかむ』有斐閣
矢作 敏行 著『現代流通―理論とケースで学ぶ』有斐閣
石井淳蔵著(2010)『マーケティングを学ぶ』ちくま新書
佐藤郁哉(1992)『フィールドワーク』新曜社
佐藤善信監修(2015)『ケースで学ぶケーススタディ』同文館出版
田村正紀(2014)『セブンイレブンの足跡 持続成長メカニズムを探る』千倉書房

田村正紀(2006)『リサーチ・デザイン 経営知識創造の基本技術』白桃書房

Yin, R. K.(2011)『新装版ケーススタディの方法（第2版）』千倉書房（近藤公彦訳）

コトラー, フィリップ/ケラー, ケビン・レーン【著恩蔵 直人【監修】/月谷 真紀【訳】(2008)『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』

柳原書店

【成績評価の方法と基準】

授業の宿題レポート40%、学習発表40%、期末分析レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら自分の関心を持つ業種と企業を見つけて取り組んでいくことは重要です。指示した学習資料（PDF、映像資料など）を必ず読み、視聴しましょう。また理解を深めるためには内容の要約をしておいてください。

受講者の理解度に合わせて改善していきますので、随時、質問と意見を受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

事例映像のメモを取ってレポートを授業終了後に提出してもらうので、ノートパソコンを必ず持参すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語、スマートフォンのゲーム遊びは禁止

【Outline (in English)】

This course provides fundamental knowledge of corporate systems and corporate management, exploring how innovation, as a catalyst for corporate and economic growth, has influenced manufacturing and retail companies, as well as the manufacturing industry. Understanding will be deepened through case study analysis.

The goal is for students to make new discoveries about industries and companies of their interest by applying the knowledge and perspectives gained in class.

Students are required to read the designated textbooks and reference materials outside of lecture hours.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

We will evaluate based on reports and individual presentations (80%) and the final report (20%).

統計学1

川畑 史郎

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：ABクラス（※前提科目）

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、音声や画像のように共通する特徴はあるものの、個別には変動（バラつきやゆらぎ）があるようなデータを扱うときに非常に有用である。また、ビッグデータやデータサイエンスと呼ばれるような、膨大なデータを処理し活用するときにも不可欠な技術である。こうした統計学の基礎を実験精度と誤差の観点から講義していく。後半では、ベイズ統計学についても触れる。この科目では、統計学の基礎を習得する。多くの専門科目、特に、統計学2、音声情報処理、デジタル信号処理、情報理論、画像情報処理、パターン認識の基盤となる重要な学問である。

【到達目標】

合格者は、以下の項目を達成することを想定している。(1)「確率変数」「確率分布」の概念を理解する。(2)「期待値」の演算ができる。(3)「正規分布」の基礎概念を理解し、データから統計量を推定できる。(4)「推定」と「検定」の概念を理解する。(5)データからノートPCを使って回帰係数が計算できる。
数学的な知識をベースとして、実際のデータの処理・解析を通して本質を見抜く論理的思考ができることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の内容を授業計画に沿って、「理解する」ことを目標とする。「理解する」とは、教科書に取り上げられている内容に関する問題に解答でき、「説明」できることである。「説明」とは、式変形がどの式や定理・公理に基づいているのかを明確にすることである。授業の方法としては、まず、予習として、教科書の数式、例題などを導出できるようにしておくこと。授業内容に関連する応用問題を小テストとして実施する。本授業だけで問題演習が足りない学生には、別途開講される「統計学演習」の受講を勧める。課題（小テストやレポート等）に対するフィードバック方法として、授業の初めに、前回の授業内で行った小テストやレポート等、課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの把握と記述	イントロダクションと収集されたデータの把握手段
2	離散型確率変数	離散型の確率変数と確率分布、同時確率、周辺確率、条件付き確率、ベイズの定理
3	離散型確率変数の期待値・分散	離散型確率変数の期待値や分散の計算
4	代表的な離散型確率分布	独立同一分布、大数の法則、二項分布
5	連続型確率変数	確率密度関数、累積分布関数、変数変換、多次元確率関数
6	連続型確率変数の期待値と分散	連続型の確率変数と確期待値や分散の計算、モーメントとモーメント母関数

7	正規分布と中心極限定理	正規分布、中心極限定理、標準正規分布表
8	代表的な連続型確率分布	連続型確率分布、カイ二乗分布、適合度検定
9	多次元確率変数	データの相関、共分散、回帰分析
10	中間テスト	前半のまとめ
11	点推定	点推定の考え方と点推定の例、最尤推定法
12	区間推定	区間推定の考え方と区間推定の例
13	統計的検定	検定の考え方と分布表の使い方
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを実施し、復習課題を課す。予習として、事前に教科書をよく読み、授業に必要な知識を確認しておくこと。わからないことがあったら、参考書などを調べて、課題を解くこと。復習課題は授業で学んだ項目の理解を再確認したり深めることで定着を図ることを目的としている。コンピュータを用いた課題は教科書の授業範囲に出現したグラフのプロットや実際のデータから授業で学んだ統計量を推定できるようにすることを目的としている。復習課題に取り組むことにより、学んだことを実際に応用できるスキルが身につく。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

皆本晃弥：スッキリわかる確率統計、近代科学社(2015)
内容が不足する場合は、資料を配布する。

【参考書】

豊田秀樹：基礎からのベイズ統計学、朝倉書店(2015)
豊田秀樹：はじめての統計データ分析、朝倉書店(2016)
西内啓：統計学が最強の学問である、ダイヤモンド社 (2013)
西内啓：統計学が最強の学問である[実践編]、ダイヤモンド社 (2014)
野口、西郷：基本 | 統計学、培風館(2014)
藤澤：確率と統計、朝倉書店、(2006)
薩摩：確率・統計、岩波(1989)
N.C.Barford 著、酒井英行訳：実験精度と誤差、丸善出版(1997)

【成績評価の方法と基準】

レポート、小テスト、中間テストの総合成績 (40%) と定期試験 (60%) とで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題が少ないと感じるときには、参考書等の問題を数多く解いてみると力がつく。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、小テストを実施する。小テストには学習支援システム Moodle を利用する。ノートPCに加えて、計算ノート、鉛筆、消しゴム等の筆記用具（タブレットとタッチペンでもよい）を必ず持参すること。

【Outline (in English)】

Statistics is very useful for us to process data having some fluctuations such as speeches and/or images. Students receive lectures on fundamentals in Statistics from the viewpoint of accuracy and error in some experiments. Bayesian Statistics will be introduced a little. Statistics is an important academic field for some specialized courses such as Statistics 2, Speech processing, Digital signal processing, Information theory, image processing, and pattern recognition. Therefore, those who wish to study these courses are required to take Statistics.

The goals of this course are as follows. Based on mathematical knowledge, students are expected to be able to think logically to identify the essence through processing and analysis of actual data.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Reports and midterm examination: 40%

統計学1

京地 清介

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：CDクラス（※前提科目）

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、音声や画像のように共通する特徴はあるものの、個別には変動（バラつきやゆらぎ）があるようなデータを扱うときに非常に有用である。また、ビッグデータやデータサイエンスと呼ばれるような、膨大なデータを処理し活用するときにも不可欠な技術である。こうした統計学の基礎を実験精度と誤差の観点から講義していく。後半では、ベイズ統計学についても触れる。この科目では、統計学の基礎を習得する。多くの専門科目、特に、統計学2、音声情報処理、デジタル信号処理、情報理論、画像情報処理、パターン認識の基盤となる重要な学問である。

【到達目標】

合格者は、以下の項目を達成することを想定している。(1)「確率変数」「確率分布」の概念を理解する。(2)「期待値」の演算ができる。(3)「正規分布」の基礎概念を理解し、データから統計量を推定できる。(4)「検定」の概念を理解する。(5)データからノートPCを使って回帰係数が計算できる。
数学的な知識をベースとして、実際のデータの処理・解析を通して本質を見抜く論理的思考ができることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教科書の内容を授業計画に沿って、「理解する」ことを目標とする。「理解する」とは、教科書に取り上げられている内容に関する問題に解答でき、「説明」できることである。「説明」とは、式変形がどの式や定理・公理に基づいているのかを明確にすることである。授業の方法としては、まず、予習として、教科書の数式、例題などを導出できるようにしておくこと。授業内容に関連する応用演習課題を復習課題とする。本授業だけで問題演習が足りない学生には、別途開講される「統計学演習」の受講を勧める。課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックする。オフィス・アワーでも課題に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの把握と記述	イントロダクションと収集されたデータの把握手段について説明する
2	確率変数（離散型）	離散型の確率変数について、同時確率、周辺確率、条件付確率、ベイズの定理などを説明する
3	確率分布（離散型）	二項分布を例にして説明する
4	期待値と分散（離散型）	期待値と分散の求め方を説明する。大数の法則についても紹介する。
5	確率分布（連続型）	連続型の確率分布について説明する。
6	期待値と分散（連続型）	連続型の確率分布に対する期待値と分散の計算法を説明する。併せて、積率母関数も紹介する。
7	中間テスト	前半のまとめ

8	正規分布と中心極限定理	正規分布がどのようなものか、なぜ重要なのかを説明する。併せて、中心極限定理も説明する。
9	共分散行列と相関係数	複数の属性を持つデータの分布のようすの記述法や類似度の指標について説明する。
10	多次元正規分布	多次元正規分布の表現や性質などについて説明する。
11	統計的推定 1	点推定と区間推定について説明する。
12	統計的推定 2	最尤推定について説明する。ベイズ推定についても触れる。
13	統計的検定 1	統計的検定の考え方と実施の方法について説明する。
14	統計的検定 2 とまとめ	t 検定や F 検定などの紹介および全体のまとめと統計学の応用例について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習課題と復習課題を課す。予習として、事前に教科書をよく読み、授業に必要な知識を確認しておくこと。わからないことがあったら、参考書などを調べて、課題を解くこと。復習課題は授業で学んだ項目の理解を再確認したり深めることで定着を図ることを目的としている。コンピュータを用いた課題は教科書の授業範囲に出現したグラフのプロットや実際のデータから授業で学んだ統計量を推定できるようにすることを目的としている。復習課題に取り組むことにより、学んだことを実際に応用できるスキルが身につく。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

皆本晃弥：スッキリわかる確率統計、近代科学社(2015)
内容が不足する場合は、資料を配布する。

【参考書】

豊田秀樹：基礎からのベイズ統計学、朝倉書店(2015)
豊田秀樹：はじめての統計データ分析、朝倉書店(2016)
西内啓：統計学が最強の学問である、ダイヤモンド社（2013）
西内啓：統計学が最強の学問である[実践編]、ダイヤモンド社（2014）
野口、西郷：基本 | 統計学、培風館(2014)
藤澤：確率と統計、朝倉書店、(2006)
薩摩：確率・統計、岩波(1989)
N.C.Barford 著、酒井英行訳：実験精度と誤差、丸善出版(1997)

【成績評価の方法と基準】

レポート(20%)と中間テスト(30%)、定期試験(50%)で評価する。教科書の内容が難しいと感じる学生は同時に開講される統計学演習を受講すること。毎回の自習課題の成績を加味することがある（努力を評価する）。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題が少ないと感じるときには、参考書等の問題を数多く解いてみると力がつく。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

Statistics is very useful for us to process data having some fluctuations such as speeches and/or images. Students receive lectures on fundamentals in Statistics from the viewpoint of accuracy and error in some experiments. Bayesian Statistics will be introduced a little. Statistics is an important academic field for some specialized courses such as Statistics 2, Speech processing, Digital signal processing, Information theory, image processing, and pattern recognition. Therefore, those who wish to study these courses are required to take Statistics. Successful students are expected to achieve the following items. (1) Understand the concepts of "random variables" and "probability distributions". (2) "Expected value" can be calculated. (3) Understand the basic concept of "normal distribution" and can estimate statistics from data. (4) Understand the concept of "test". (5) The regression coefficient can be calculated from the data using a notebook PC. Based on mathematical knowledge, I hope that you will be able to think logically through the processing and analysis of actual data.

Preparation and review tasks are given each time. As a preparation, read the textbook carefully in advance and confirm the knowledge necessary for the class. If you have any questions, check the reference books and solve the problem. The purpose of the review task is to reconfirm and deepen the understanding of the items learned in the class. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Student scores are measured based on the evaluation with reports (20%), mid-term tests (30%), and regular tests (50%). The grades of each self-study task may be taken into score.

統計学1

小西 克巳

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring
備考（履修条件等）：再履クラス（※新入生受講不可、前提科目）

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学およびデジタルメディア分野の専門科目を学ぶ上で必要不可欠な知識である確率・統計の基礎を習得することを目標とする。本授業は前年の統計学1の再履修者のための授業である。

【到達目標】

合格者は、以下の項目を達成することを想定している。(1)「確率変数」「確率分布」の概念を理解する。(2)「期待値」の演算ができる。(3)「正規分布」の基礎概念を理解し、データから統計量を推定できる。(4)「検定」の概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、毎回演習を行う。講義は板書を中心に進める。演習は授業時間中に解いたものを提出する。提出されたレポート課題はレポート返却、および、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	標本と確率	標本と確率、確率変数
2	条件付き確率	条件付き確率とベイズの定理
3	連続事象と確率	連続事象の確率、確率密度関数、モーメント母関数
4	二項分布	二項分布、二項分布の正規分布による近似、二項分布のポアソン分布による近似
5	正規分布	正規分布の確率の計算
6	同時確率分布	同時確率、同時確率分布、分散と独立性
7	最尤推定	尤度、尤度関数、対数尤度関数、最尤推定法
8	区間推定	点推定と区間推定、その計算法
9	標本分布	標本平均と標本分散、t分布
10	これまでの復習	第1回から第9回までの復習
11	統計的検定	母集団の平均の検定、母集団の分散の検定、F検定
12	t検定	対応のないt検定、対応のあるt検定
13	カイ2乗検定	カイ2乗検定と独立性の検定
14	まとめ	第1回～13回までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、事前に教科書をよく読み、授業に必要な知識を確認しておくこと。演習問題は授業中に提出することとするが、時間内に解けなかった問題は復習し、必ず解いておくこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

皆本晃弥：スッキリわかる確率統計、近代科学社(2015)

【参考書】

薩摩 順吉：確率・統計(理工系の数学入門コース 7)、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題を40%、期末試験60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やし、理解度を深める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of statics. The goals of this course are to help students acquire an understanding of statics, probability and statistical test. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

COT111KA-CS-100 (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報科学入門

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	アルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをプログラミングする。
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。

10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る。発表会を行う可能性もある。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター(著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英(訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧(編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀(編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
山口泰(編), 情報 第3版, 東京大学出版会, 2025. ISBN 978-4-13-062468-8
和達三樹, 物理のための数学(物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー(著), 垣田 高夫(翻訳), 大町比佐栄(翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
阿部 彩芽(著), 笠井 琢美(著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
猪股 俊光(著), 山田 敬三(著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
John MacCormick(著), 松崎 公紀(監修), 長尾高弘(翻訳), 計算できるもの、計算できないもの、オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。
学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのプログラミング言語設計に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.
- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-100 (計算基盤 / Computing technologies 100)

情報科学入門

坂本 寛

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるよう、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎(1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎(2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	アルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムをプログラミングする。
5	計算とは(1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは(2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。

10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。
12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の振り返り	第12回の講義で行った演習課題を振り返る。発表会を行う可能性もある。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する現在の課題およびまとめ	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター(著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英(訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧(編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀(編), 情報 第2版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
山口泰(編), 情報 第3版, 東京大学出版会, 2025. ISBN 978-4-13-062468-8
和達三樹, 物理のための数学(物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
デヴィッド・バージェス モラグ・ポリリー(著), 垣田 高夫(翻訳), 大町比佐栄(翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
阿部 彩芽(著), 笠井 琢美(著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
猪股 俊光(著), 山田 敬三(著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
John MacCormick(著), 松崎 公紀(監修), 長尾高弘(翻訳), 計算できるもの、計算できないもの、オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。
学習支援システム上の課題受付締切設定についての説明を詳しく行う。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

コンピュータシステム入門1

高村 誠之

必修区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報科学を学ぶうえで不可欠となるコンピュータリテラシーの基礎を修得するとともに、データ駆動型社会（Society 5.0）を支える情報技術の基本的な考え方を理解することを目的とする。コンピュータを単なる操作対象としてではなく、「多様なデータを表現・処理・活用するための基盤」として捉え、その仕組みと役割を学ぶ。

これらを通じて、後続の専門科目を学ぶための基礎的知識と実践的スキルを養い、情報科学的な視点からデータを理解・活用できる基礎力の育成を目指す。

【到達目標】

- ・データ駆動型社会におけるコンピュータの役割を理解し、情報技術の基本的な考え方を説明できる。
- ・ファイル管理や基本操作など、大学での学修に必要なコンピュータリテラシーを身につける。
- ・LaTeX等を用いた文書作成およびオフィスツールの基本的な利用方法を理解し、適切に活用できる。
- ・HTMLおよびCSSの基礎を理解し、基本的なウェブページ構造を作成できる。
- ・Unixコマンドおよびシェル操作の基礎を理解し、簡単なデータ操作を行うことができる。
- ・数値・文章・画像・音声・動画など、多様なデータがコンピュータ上でどのように表現・処理されるかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは学習支援ツールおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データ駆動型社会と Society 5.0	データ駆動型社会とは何か、Society 5.0 の背景（IoT・AI・クラウド）、なぜ情報科学を学ぶのか、コンピュータ＝「データ処理装置」という視点を身につける。
2	PC 操作 1	効率的な入力作業のために、ファイル操作とタッチタイピングの基本スキルを習得する。
3	PC 操作 2	ファイル・フォルダ・データ管理の習得、データとは何か、拡張子やデータ形式等を習得する。
4	文書データと LaTeX (1)	学術文書作成に必要な LaTeX の実践的機能を扱う。文書もデータであること、構造化文書とは何か、LaTeX 基本構造等を習得する。

5	文書データと LaTeX (2)	数式・図表・参考文献、レポート作成、PDF 生成の仕組みを習得する。
6	Office ツール	PowerPoint、Word、Excel を通して、図表やプレゼン、文書作成、数値データ操作など、Office ツールの使い方の基礎について学ぶ。
7	Web とテキストデータ (HTML & CSS)	HTML の基本タグと文書構造を理解し、簡単なウェブページを作成する。CSS によるレイアウト・装飾の基礎を学び、見やすいウェブページへと発展させる。
8	Unix コマンド 1	ls や ln などの基本コマンドを通じて、Unix 環境でのファイル操作の基礎を学ぶ。CLI とは何か、GUI との違い、ファイル操作とパス概念を理解する。
9	Unix コマンド 2	パイプやリダイレクトを用いたコマンド連携により、効率的な処理手法を身につける。grep や sort を用いたテキスト処理、プロセス制御、シェルスクリプトによる処理自動化の基本を学ぶ。
10	コンピュータで扱うデータ 1 数値データ	計算機がどのように数値を扱うかを、ビットと数値表現、整数・浮動小数点表現、誤差の発生理由を理解する。
11	コンピュータで扱うデータ 2 文章データ	計算機がどのように文字を扱うかを、ASCII / Unicode、文字コード問題、検索・自然言語処理の基礎を通して学ぶ。
12	コンピュータで扱うデータ 3 画像・音声	計算機がどのように画像・音声を扱うかを、画像の行列データとしての理解、RGB 色表現、画素と解像度、音声のサンプリング、ビット深度、圧縮の概念 (JPEG/MP3) を通して学ぶ。
13	コンピュータで扱うデータ 4 動画	計算機がどのように動画・マルチメディアを扱うかを、動画＝時間方向データとしての理解、フレーム・符号化の概念、ストリーミング、AI 生成メディアなどを例に学ぶ。
14	ビッグデータ活用事例	実世界でビッグデータがどのように使われているか、医療・交通・SNS やデータ倫理・プライバシーの課題、AI 社会の課題、情報科学の将来像について考察する。また本講義全体を振り返り、学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題 40 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与Note PCを使用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での映像情報処理に関する研究開発に関する知見を元に、実務に必要な情報科学技術に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

This course aims to develop fundamental computer literacy essential for studying information science, while fostering an understanding of the basic principles of information technologies that support a data-driven society (Society 5.0). Students will learn to view computers not merely as tools for operation, but as platforms for representing, processing, and utilizing diverse types of data, and will study their underlying mechanisms and roles.

Through this course, students will acquire foundational knowledge and practical skills necessary for subsequent specialized subjects, and develop the ability to understand and utilize data from an information-science perspective.

コンピュータシステム入門1

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、情報科学を学ぶうえで不可欠となるコンピュータリテラシーの基礎を修得するとともに、データ駆動型社会（Society 5.0）を支える情報技術の基本的な考え方を理解することを目的とする。コンピュータを単なる操作対象としてではなく、「多様なデータを表現・処理・活用するための基盤」として捉え、その仕組みと役割を学ぶ。

これらを通じて、後続の専門科目を学ぶための基礎的知識と実践的スキルを養い、情報科学的な視点からデータを理解・活用できる基礎力の育成を目指す。

【到達目標】

- ・データ駆動型社会におけるコンピュータの役割を理解し、情報技術の基本的な考え方を説明できる。
- ・ファイル管理や基本操作など、大学での学修に必要なコンピュータリテラシーを身につける。
- ・LaTeX等を用いた文書作成およびオフィスツールの基本的な利用方法を理解し、適切に活用できる。
- ・HTMLおよびCSSの基礎を理解し、基本的なウェブページ構造を作成できる。
- ・Unixコマンドおよびシェル操作の基礎を理解し、簡単なデータ操作を行うことができる。
- ・数値・文章・画像・音声・動画など、多様なデータがコンピュータ上でどのように表現・処理されるかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは学習支援ツールおよびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データ駆動型社会と Society 5.0	データ駆動型社会とは何か、Society 5.0 の背景（IoT・AI・クラウド）、なぜ情報科学を学ぶのか、コンピュータ＝「データ処理装置」という視点を身につける。
2	PC 操作 1	効率的な入力作業のために、ファイル操作とタッチタイピングの基本スキルを習得する。
3	PC 操作 2	ファイル・フォルダ・データ管理の習得、データとは何か、拡張子やデータ形式等を習得する。
4	文書データと LaTeX (1)	学術文書作成に必要な LaTeX の実践的機能を扱う。文書もデータであること、構造化文書とは何か、LaTeX 基本構造等を習得する。

5	文書データと LaTeX (2)	数式・図表・参考文献、レポート作成、PDF 生成の仕組みを習得する。
6	Office ツール	PowerPoint、Word、Excel を通して、図表やプレゼン、文書作成、数値データ操作など、Office ツールの使い方の基礎について学ぶ。
7	Web とテキストデータ (HTML & CSS)	HTML の基本タグと文書構造を理解し、簡単なウェブページを作成する。CSS によるレイアウト・装飾の基礎を学び、見やすいウェブページへと発展させる。
8	Unix コマンド 1	ls や ln などの基本コマンドを通じて、Unix 環境でのファイル操作の基礎を学ぶ。CLI とは何か、GUI との違い、ファイル操作とパス概念を理解する。
9	Unix コマンド 2	パイプやリダイレクトを用いたコマンド連携により、効率的な処理手法を身につける。grep や sort を用いたテキスト処理、プロセス制御、シェルスクリプトによる処理自動化の基本を学ぶ。
10	コンピュータで扱うデータ 1 数値データ	計算機がどのように数値を扱うかを、ビットと数値表現、整数・浮動小数点表現、誤差の発生理由を理解する。
11	コンピュータで扱うデータ 2 文章データ	計算機がどのように文字を扱うかを、ASCII / Unicode、文字コード問題、検索・自然言語処理の基礎を通して学ぶ。
12	コンピュータで扱うデータ 3 画像・音声	計算機がどのように画像・音声を扱うかを、画像の行列データとしての理解、RGB 色表現、画素と解像度、音声のサンプリング、ビット深度、圧縮の概念 (JPEG/MP3) を通して学ぶ。
13	コンピュータで扱うデータ 4 動画	計算機がどのように動画・マルチメディアを扱うかを、動画＝時間方向データとしての理解、フレーム・符号化の概念、ストリーミング、AI 生成メディアなどを例に学ぶ。
14	ビッグデータ活用事例	実世界でビッグデータがどのように使われているか、医療・交通・SNS やデータ倫理・プライバシーの課題、AI 社会の課題、情報科学の将来像について考察する。また本講義全体を振り返り、学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題 40 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与Note PCを使用する。

【Outline (in English)】

This course aims to develop fundamental computer literacy essential for studying information science, while fostering an understanding of the basic principles of information technologies that support a data-driven society (Society 5.0). Students will learn to view computers not merely as tools for operation, but as platforms for representing, processing, and utilizing diverse types of data, and will study their underlying mechanisms and roles.

Through this course, students will acquire foundational knowledge and practical skills necessary for subsequent specialized subjects, and develop the ability to understand and utilize data from an information-science perspective.

COT111KA-CS-200 (計算基盤 / Computing technologies 100)

コンピュータシステム入門2

小池 崇文

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OSやインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

まず、実際のOSの例を見ながら、OSの役割の概要を理解する。また、多くのOSが備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OSとは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OSの仮想化・抽象化	OSの主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OSによる機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS演習	OSの使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング・ユビキタスコンピューティング・IoT	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	人工知能	人工知能(AI)の概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS 協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

プログラミング入門1

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101 (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門1

黒木 帝聡

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいます。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

プログラミング入門1

西田 圭吾

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいます。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

プログラミング入門1

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期前半/Spring(1st half)

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(前半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいます。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理、値と変数、条件分岐	プログラミングの基本を学ぶ。コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方と状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
2	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
3	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

4	オブジェクトとクラス	オブジェクトとクラスの概念を理解し、使いこなす方法を学ぶ。
5	グラフィックス 1	turtleモジュールを用いた幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
6	グラフィックス 2	tkinterモジュールを用いて初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	講義の総括と試験	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験(90%)、および、授業へ貢献度(10%)により、総合的に判断する。

また、本科目はP/F評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

プログラミング入門2

赤石 美奈

必修区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Aクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

黒木 帝聡

必選区分： | 配当年度／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Bクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

プログラミング入門2

西田 圭吾

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Cクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a (計算基盤 / Computing technologies 100)

プログラミング入門2

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期後半/Spring(2nd half)

備考（履修条件等）：Dクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、
(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。

4	応用(1)ピンポンゲーム	これまで学んできた内容に基づき、実際のプログラムの作成にチャレンジする。 まず、ピンポンゲームに必要な部品を用意する。
5	応用(2)ピンポンゲーム	ピンポンゲームの動作を定義する。
6	応用(3)ピンポンゲーム	ピンポンゲームに応用機能を付加する。
7	講義の総括と試験	これまで学んできた内容の復習を行う。 授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう!(第2版)

Jason R. Briggs (著), トップスタジオ (翻訳)

オーム社、2025

【参考書】

みんなのPython 第5版

柴田 淳 (著)

SBクリエイティブ、2025

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

プログラミング入門2 (再履)

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次／単位：1～4年次／2単位 | 開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：再履クラス（※受講方法は履修ガイド参照）

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎(後半)を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A)で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもあります。このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのような動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C)「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員やTAからのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。

4	応用(1)一タートルグラフィックスで幾何学模様	幾何学模様を描くプログラムを作成してみる。
5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)一Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括一内容の復習と実際のプログラム作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Pythonではじめよう！

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなのPython 第3版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノートPCを利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師やTAに相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

PRI210KA-CS-161（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

データ構造とアルゴリズム1

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は情報科学の基礎・中核をなすデータ構造およびアルゴリズムの入門科目である。整列問題や最短経路問題などの基本的かつ重要な問題を通して、効率的なアルゴリズムとはどのようなものであるか、また、その評価尺度である計算量について学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で必要な「データ構造とアルゴリズムの基礎」を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4種類のソートの実装	これまでに学んだ4種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタック、キューを学ぶ。
9	優先度付きキュー・連結リスト	基本的なデータ構造である優先度付きキューと連結リストを学ぶ。
10	辞書1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書2	辞書を実現する手法としてチェイン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。

13	単一始点最短経路問題	グラフに関する代表的なアルゴリズムである単一最短経路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第1巻 基礎・ソートと順序統計量・データ構造・数学的基礎 第4版

著者: Thomas H. Cormen 他

翻訳: 浅野他

出版社: 近代科学者

出版年: 令和5年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造

著者: 大槻兼資・秋葉拓哉

出版社: 講談社

出版年: 令和2年

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)。ただし、授業における平常点を一部加味する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

This course is an introductory subject in data structures and algorithms, which form the foundation and core of computer science. Through fundamental problems such as sorting and shortest path problems, we will learn what constitutes an efficient algorithm and study computational complexity, the metric used to evaluate their performance.

Students will be expected to study the topic given in the class for around four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

データ構造とアルゴリズム1

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は情報科学の基礎・中核をなすデータ構造およびアルゴリズムの入門科目である。整列問題や最短経路問題などの基本的かつ重要な問題を通して、効率的なアルゴリズムとはどのようなものであるか、また、その評価尺度である計算量について学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で必要な「データ構造とアルゴリズムの基礎」を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4種類のソートの実装	これまでに学んだ4種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタック、キューを学ぶ。
9	優先度付きキュー・連結リスト	基本的なデータ構造である優先度付きキューと連結リストを学ぶ。
10	辞書1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書2	辞書を実現する手法としてチェイン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。

13	単一始点最短経路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短経路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第1巻 基礎・ソートと順序統計量・データ構造・数学的基礎 第4版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 令和5年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造
著者: 大槻兼資・秋葉拓哉
出版社: 講談社
出版年: 令和2年

【成績評価の方法と基準】

定期試験(100%)。ただし、授業における平常点を一部加味する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノートPCを利用する。

【Outline (in English)】

This course is an introductory subject in data structures and algorithms, which form the foundation and core of computer science. Through fundamental problems such as sorting and shortest path problems, we will learn what constitutes an efficient algorithm and study computational complexity, the metric used to evaluate their performance.

Students will be expected to study the topic given in the class for around four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

MAT247KA-CS-252（数学 / Mathematics 200）

統計学2

高村 誠之

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：ABクラス（※上位科目。受講方法は履修ガイド参照。）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第3回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第4回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第5回	線形モデルと最小二乗法(1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第6回	線形モデルと最小二乗法(2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第7回	線形モデルと最小二乗法(3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第8回	最尤推定法(1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第9回	最尤推定法(2)	線形判別分析
第10回	線形判別分析の応用(1)	手書き数字の2カテゴリ分類
第11回	線形判別分析の応用(2)	手書き数字の多カテゴリ分類
第12回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法

第13回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第14回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得
- [4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内Webサイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」，東京大学出版会，1991年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」，オーム社，2009年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ－」，岩波書店，2009年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLABプログラミング入門」改訂版，牧野書店，2011年。

【成績評価の方法と基準】

平常点20％、レポート課題40％、期末試験40％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLABを使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 40%, term-end examination: 40%.

統計学2

川畑 史郎

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：CDクラス（※上位科目。受講方法は履修ガイド参照。）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的な技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語MATLABを用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方およびMATLABの使い方の説明
第2回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第3回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第4回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第5回	線形モデルと最小二乗法(1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第6回	線形モデルと最小二乗法(2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第7回	線形モデルと最小二乗法(3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第8回	最尤推定法(1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第9回	最尤推定法(2)	線形判別分析
第10回	線形判別分析の応用(1)	手書き数字の2カテゴリ分類
第11回	線形判別分析の応用(2)	手書き数字の多カテゴリ分類
第12回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法

第13回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第14回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いたMATLABプログラミングの習得
- [4] 計算問題やMATLABプログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内Webサイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」，東京大学出版会，1991年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」，オーム社，2009年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ－」，岩波書店，2009年。
- [4] 上坂吉則著：「MATLABプログラミング入門」改訂版，牧野書店，2011年。

【成績評価の方法と基準】

平常点20％、レポート課題40％、期末試験40％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] MATLABを使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内Webサイトへのアクセス等ネットワークを利用。MATLABプログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 20%, mid-term reporting 40%, term-end examination: 40%.

COT211KA-CS-241 (計算基盤 / Computing technologies 200)

データベース

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。

14 ビッグデータとNoSQLおよびまとめ

ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。
本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門[第2版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)

吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

データベース

坂本 寛

必修区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語SQLの問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと3層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。

14

ビッグデータとNoSQLおよびまとめ

ビッグデータとNoSQLについて学ぶ。
本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。
課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門[第2版]

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第3版, サイエンス社 (2017)

吉川 正俊, IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験(30%)、定期試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221（人間情報学 / Human informatics 200）

人工知能

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：ABクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。

人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでももらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。

第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。
第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ、人工知能研究の展望	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。特に、社会での活用が広がる生成AIについては、基礎知識と今後の展望について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版
谷口忠大
講談社、2020年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

HUI213KA-CS-221（人間情報学 / Human informatics 200）

人工知能

松下 智

必選区分： | 配当年次／単位：2～4年次／2単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall
備考（履修条件等）：CDクラス

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。
人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。
計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。
例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に着けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでももらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用AI・特化型AI等についての知識を学びます。
第2回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第3回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第4回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。

第5回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や $\alpha\beta$ 枝刈り法などについて学びます。
第6回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第7回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第8回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第9回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第10回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第11回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第12回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第13回	命題論理、述語論理	命題論理や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第14回	まとめ、人工知能研究の展望	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。特に、社会での活用が広がる生成AIについては、基礎知識と今後の展望について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。
教科書として指定したテキスト、Web上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第2版
谷口忠大
講談社、2020年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第2版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を40%、期末試験の成績を60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)

ネットワークを利用

演習にはノートPCを利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	古典派モデル(3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	ケインズ・モデル(3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 A
青野 幸平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、第2次世界大戦後以降の「日本経済」の変遷についてデータを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解した上で、日本経済の現状を理解することが目的である。そのために、国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識、ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが、基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】

「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の現状について理解できることが到達目標である。具体的には、「日本経済新聞」に掲載される日本経済に関連する記事について、背景の知識も含めて理解出来るようになる事が目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので、その場合は次回の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・日本経済の全体像（1）	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明したうえで、日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
2	日本経済の全体像（2）	日本経済の現在地を様々な統計で確認する。
3	戦後における経済成長（1）	高度経済成長とその要因を考察する。
4	戦後における経済成長（2）	バブルの発生と崩壊について理解する。
5	戦後における経済成長（3）	アベノミクスについて理解する。
6	日本における景気循環	日本における景気循環とその要因を理解する。
7	物価の変動と日本経済	インフレとデフレとその背景を理解する。
8	日本の産業構造と日本型企業（1）	日本における産業構造とその変遷を理解する。
9	日本の産業構造と日本型企業（2）	日本型企業・メインバンク制度について理解する。

10	雇用の変動と日本型労働（1）	雇用と景気変動の関係を理解する。
11	雇用の変動と日本型労働（2）	日本型雇用慣行について理解する。
12	為替レートと日本経済（1）	為替レートに関連した理論を理解する。
13	為替レートと日本経済（2）	為替レートの変動と日本経済の関係を理解する。
14	まとめ	第1回から13回までの講義に関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布するレジュメを確認することが求められる。復習として授業で扱ったデータについて、政府統計の総合窓口（e-Stat）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また、レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】

・『最新日本経済入門第7版』（小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社）
・『新入門・日本経済』（浅沼和美・飯塚信夫・篠原総一（編集）、有斐閣）
・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著、東洋経済新報社）
など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to understand the current state of the Japanese economy by first comprehending its post-World War II evolution through an objective, data-driven perspective and an economic viewpoint grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, students will need to utilize and apply knowledge of economic statistics, such as national accounts and financial circulation statistics, as well as microeconomics and macroeconomics. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. While knowledge related to microeconomics and macroeconomics will be reviewed within the scope of the lectures, it is desirable that students have already acquired foundational knowledge beforehand.

【Learning Objectives】

The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差

第14回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学 上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学 下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. Students are expected to spend approximately four hours each on preparation and review. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
日本経済論 B
青野 幸平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現在の日本経済が抱えている問題である財政（政策）に関連した課題、金融政策に関連した課題、格差に関連した課題、社会保障・労働に関連した課題などについて、データを用いた客観的な視点・マクロ経済学やミクロ経済学に基づく経済学的な視点を通じて理解することが目的である。そのために、国民経済計算や資金循環統計などの経済統計に関する知識、ミクロ経済学・マクロ経済学についての知識を利用・応用することが必要になる。日本経済を理解する上で重要な指標や統計については授業内でも説明する。ミクロ経済学やマクロ経済学に関連する知識についても講義に関連する範囲で確認していく予定であるが、基礎的な知識を事前に学習していることが望ましい。

【到達目標】

「データ」に基づく客観的な視点とマクロ経済学・ミクロ経済学に基づく経済学的な視点から日本経済の課題について理解できることが到達目標である。また、それぞれの課題について経済学的な視点から自身の考えを説明できるようになることも到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、原則として対面で実施する。授業は板書・電子板書とスライドを利用した対面講義を基本として授業を進める。事前に配布を予定しているレジュメにある空欄を授業中に穴埋めする形式で進めていく。質問等があれば授業の前後に対応する。電子板書に記載した内容については授業終了後に公開する。毎回の授業後に「確認テスト」を実施する予定なので、その場合は次の授業の開始時間までに回答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・授業の進め方・評価の方法などの説明する。
2	日本経済における課題の整理	様々な統計指標によって日本経済の課題を確認する。
3	財政政策と日本経済（1）	経済学における政府・財政政策の役割を確認する。
4	財政政策と日本経済（2）	日本における財政政策を確認する。
5	財政政策と日本経済（3）	財政赤字と財政健全化に関する議論を確認する。
6	金融政策と日本経済（1）	経済学における金融・金融政策の役割を確認する。
7	金融政策と日本経済（2）	日本における伝統的金融政策を確認する。
8	金融政策と日本経済（3）	日本における非伝統的金融政策を確認する。
9	金融システムと日本経済	日本における金融システムを確認する。
10	格差と日本経済（1）	格差の考え方と日本における格差を確認する。

11	格差と日本経済（2）	格差を解決する方向性を確認する。
12	グローバル化と日本経済	外国人労働者と近年のグローバル化について確認する。
13	デジタル化と日本経済	DX革命やAIと日本経済の関係を確認する。
14	まとめ	第1回から第13回までの授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う各種統計指標の公表や関連するニュースを新聞記事などで確認することが重要である。事前学習として事前に配布する予定のレジュメを確認することなどが求められる。復習として授業で扱ったデータについて、政府統計の総合窓口（e-Stata）などを利用して自身で確認することが求められる。本講義の事前学習と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、最初にあげている参考書をベースに授業は進めていく。また、レジュメは事前に配布する予定である。詳細は初回の授業で説明する。

【参考書】

・『最新日本経済入門第7版』（小峰隆夫・村田啓子著、日本評論社）
・『新入門・日本経済』（浅田和美・飯塚信夫・篠原総一（編集）、有斐閣）
・『日本経済論』（伊藤隆敏・星岳雄著、東洋経済新報社）など。
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と毎回の確認テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to understand the challenges facing the current Japanese economy — such as issues related to fiscal policy, monetary policy, inequality, and social security/labor — through an objective perspective using data and an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics. To achieve this, knowledge of economic statistics (such as national accounts and funds flow statistics) and microeconomics/macroconomics will be necessary to utilize and apply. Key indicators and statistics crucial for understanding the Japanese economy will be explained during class. Knowledge related to microeconomics and macroeconomics will also be reviewed within the scope of the lectures, though prior study of foundational concepts is recommended.

【Learning Objectives】

The learning objectives of this course are to understand the current state of the Japanese economy from an objective perspective based on “data” and from an economic perspective grounded in macroeconomics and microeconomics.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grades will be based on final exams (70%) and regular quizzes (30%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対して有効な経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面している問題を理解します。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の役割 (1)	価格メカニズムの働き
3	市場の役割 (2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
4	市場の役割 (3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
5	財政の3つの機能 (1)	資源配分機能（外部性、公共財）
6	財政の3つの機能 (2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
7	財政の3つの機能 (3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
8	政府の大きさ (1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
9	政府の大きさ (2)	国民負担率
10	財政と予算 (1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
11	財政と予算 (2)	一般会計歳入(租税と公債)
12	財政と予算 (3)	一般会計歳出(社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等)、プライマリーバランス
13	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
14	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方

14 予算のしくみと編成 予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1年次必修の経済学の授業を理解していることこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣、2025年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, the government of Japan must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth-rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the government of Japan is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本では、少子高齢化にともなう社会保障費による政府債務残高や低成長への経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定を迫られています。この講義ではこれらの現状について考えるために、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場への介入がどのようなときに必要なのかについて、そして、後半では日本の財政制度とデータを見ることで、政府が直面している問題を把握し、どのように考えるべきかの材料を提供します。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】
経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを自分自身で経済学の観点から考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第2回	市場の役割(1)	価格メカニズムの働き
第3回	市場の役割(2)	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡
第4回	市場の役割(3)	厚生経済学の第1基本定理、パレート効率
第5回	財政の3つの機能(1)	資源配分機能（外部性、公共財）
第6回	財政の3つの機能(2)	所得再分配機能（生活保護、累進所得税）、ジニ係数
第7回	財政の3つの機能(3)	経済安定化機能（裁量的政策とビルトイン・スタビライザー）
第8回	政府の大きさ(1)	経済規模に占める政府の大きさ、一般政府歳出
第9回	政府の大きさ(2)	国民負担率
第10回	財政と予算(1)	一般会計、特別会計、政府関係機関の各予算
第11回	財政と予算(2)	一般会計歳入（租税と公債）
第12回	財政と予算(3)	一般会計歳出（社会保障関係費、国債費、地方交付税交付金等）、プライマリーバランス
第13回	財政投融资	財政投融资の仕組み、財政投融资改革と規模の推移
第14回	予算のしくみと編成(1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第15回	予算のしくみと編成(2)	予算編成と審議、執行、決算のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

・財政学を通して学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成稔・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話ししますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】
Course outline:
Currently, the Japanese government must deal with a variety of issues, including huge social security costs due to a declining birthrate and aging population, and huge government debt caused by economic policies to address low growth. In this class, students will understand these issues facing the Japanese government and learn how to think about them from an economics perspective.
Learning objective:
The goal of this course is to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMX組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学 A の内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接してください。学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学 A のふりかえり。 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき。 税の転嫁と帰着、直接税と間接税。
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響。
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析。
5	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果。
6	所得税、一般消費税、個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較。
7	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税。
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史。消費税に関わる制度。
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数。
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果。
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果。

11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数。政府支出増大による IS のシフト。
12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、その均衡。貨幣供給増大による LM のシフト。
13	IS-LM 分析(3)	IS と LM の交点。財政政策・金融政策の効果。
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題。MMT の考え方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているこの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞なども使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。財政学を通して学ぶ：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙『Why not?! 財政学 超入門からホット 이슈まで』有斐閣、2025 年。畑農鋭矢、林正義、吉田浩(2024)『財政学をつかむ第3版』有斐閣。授業で扱うトピックを個別に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価をします。もう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、PCとインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムも利用します。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（廣川先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.

Learning objective:

The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be determined by term-end exam 100%.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学Aの内容（財政学の考え方や日本の財政の制度と現状）の理解を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、実際に政府が実施する様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策は私たちの生活にどのような影響をあたえるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、すべて対面で実施します。授業の質問や意見は、授業内やその前後に直接行ってください。また、学習支援システムも利用します。なお、対面で期末試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のふりかえり 国と地方との関係(1)	財政学Aのふりかえり 地方財政の役割と規模、地方自治体の財源、国から地方自治体への移転
2	国と地方との関係(2) 租税の転嫁と帰着(1)	国から地方自治体への移転のつづき 税の転嫁と帰着、直接税と間接税
3	租税の転嫁と帰着(2)	課税の効果、間接税による影響
4	租税の転嫁と帰着(3)	税の帰着、課税の余剰分析
5	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(1)	所得税と一般消費税の課税の効果
6	所得税・一般消費税・個別消費税の比較(2)	所得税、一般消費税、個別消費税：3つの税の比較
	消費税のしくみと制度(1)	日本の消費税の概略、付加価値税
7	消費税のしくみと制度(2)	日本の消費税の歴史、消費税に関わる制度
8	有効需要の原理と国民所得決定の理論(1)	有効需要の原理、消費関数
9	有効需要の原理と国民所得決定の理論(2)	政府支出増大と乗数効果
10	有効需要の原理と国民所得決定の理論(3)	比例所得税、均衡予算における政府支出増大の効果
11	IS-LM 分析(1)	財市場の均衡と投資関数 政府支出増大によるISのシフト

12	IS-LM 分析(2)	貨幣市場における貨幣需要と貨幣供給、およびその均衡 貨幣供給増大によるLMのシフト
13	IS-LM 分析(3)	ISとLMの交点 財政政策・金融政策の効果
14	公債の負担	リカードの等価定理とバローの中立性命題 MMTの考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安がある場合は、授業で扱う概念について自分で1年次の講義ノート等を復習して下さい。また、日経新聞なども参考に日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞に目を通すことを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
・財政学を通して学ぶ：畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ、第3版』有斐閣。
・素朴な疑問から現在の話題を考える：江成穰・倉知真太郎・佐藤一光・藤原遙(2025)『Why not?! 財政学 超入門からホットイシューまで』有斐閣。
・税を中心に学ぶ：林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之(2021)『入門財政学第3版』中央経済社。
・制度・データの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社。（最新年度版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%で評価します。もう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同一問題・同一時間に対面で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用しますので、接続・ブラウザ環境が必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムにより、情報共有・教材配布します。履修生は必ず登録すること。授業についての変更や追加の情報は授業内でお話しますが、学習支援システムも確認して下さい。この授業はもう1つの財政学のクラス（小林先生担当）と同じ内容を扱います（話し方など異なる部分はあります）。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:
Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase in government expenditure.
Learning objective:
The goal of this course is to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be determined by term-end exam 100%.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示、モノ言う株主（アクティビスト）などと株価との関連について学び、データから資本市場の役割を理解する。

【到達目標】

2025年の中居正広氏問題で、フジテレビの親会社フジHDの大株主の海外ファンドが全経営陣の交代を要求した事例からわかるように、株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することなどで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使と資本市場によるコーポレート・ガバナンスを理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コーポレート・ガバナンス vs コーポレート・ファイナンス	財務情報と非財務情報の違いから、コーポレート・ガバナンスの基礎概念・用語を解説する
第2回	株式投資のリターンとリスク	EXCELの数値例で株式投資のリターンとリスクについて学ぶ
第3回	すべての玉子を同じかごに入れるな：株式投資の要はリスク分散	2銘柄の株式投資の数値例でリスクといリターンとの関連を理解する
第4回	株式相場のことは相場に聞け	情報リリースなどが株価に対する効果の分析ツールを学ぶ
第5回	短期株価と長期株価	数日の日次株価変動と数年の株価変動の違いについて学ぶ
第6回	コンプライアンス違反と株価急落	事例で非財務リスクと株価について勉強する

第7回	経営と所有の分離：株主総会と株主の議決権行使	ビジュアル資料とデータを用いてわかりやすく説明する
第8回	株主総会の要：取締役選任	機関投資家の議決権行使方針との関連で取締役選任について説明する
第9回	アクティビストと株価	株式を一定数保有するアクティビストとも呼ばれる物言う株主の経営陣に対する経営戦略・株主利益還元・ガバナンス改善などの積極的な提言が企業価値向上につながるかどうかを考察する
第10回	敵対的買収対策と株価	事例とデータを交えながら説明する
第11回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第12回	MBOとは	株式を市場から取得することで非上場の意味を理解する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、練習課題の際にステップバイステップで積み重ねたものをまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手でやる。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

MAN200CA (経営学 / Management 200)
コーポレートガバナンス論B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGsをテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論Bのテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長やCEOは、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及びESGなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第2回	取締役会	規模、構成と独立性
第3回	会社の組織形態：監査役設置会社、監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	監査役は目付役
第4回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第5回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第6回	監査役の中立性と長期株価	月次株式投資収益で監査役の中立性と長期株価との関連を考察する
第7回	監査等委員会設置会社への移行と株価	月次株式投資収益で監査等委員会設置会社への移行と長期株価との関連を考察する

第8回	監査等委員の中立性と株価	月次株式投資収益で監査等委員の中立性と長期株価との関連を考察する
第9回	ESG投資とは	環境・社会・ガバナンスと会社のサステナビリティ
第10回	ESG投資の手法	ネガティブ・リストなどのESG投資の手法について解説する
第11回	コンプライアンス違反と株価	コンプライアンス違反会社の長期株価を考察する
第12回	1億円以上役員報酬の開示	1億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第13回	高額役員報酬と株価	高額役員報酬と長期株価との関連について考察を行う
第14回	学期課題	今までの勉強の理解を確かめるために、練習課題の成果をまとめて提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本のM&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

練習課題(30%)、中間課題(30%)と学期課題(40%)で総合的に評価する。練習課題の際に、中間課題と学期課題の作成方法についてステップバイステップで丁寧に解説する。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about four hours for each class meeting. Comprehensive assessment will be based on practice assignments (30%), midterm assignments (30%), and term assignments (40%). During the practice assignments, detailed step-by-step instructions will be provided on how to create midterm and term assignments.

POL200CA（政治学 / Politics 200）	
国際関係論 A	
富永 靖敬	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論の射程	本授業の狙い、授業の概要
第2回	国際システムの構造	主権国家とは、主権国家システム
第3回	伝統的国際関係論の視点 I	リアリズム:国家のパワーゲーム、古典的リアリズム、ネオリアリズム
第4回	伝統的国際関係論の視点 II	勢力均衡と同盟論
第5回	伝統的国際関係論の視点 III	リベラリズム:協力と平和の可能性、国際制度と国際協調
第6回	伝統的国際関係論の視点 IV	構成主義：社会的な意味とアイデンティティ
第7回	理論間の対立	「イズム」の限界
第8回	交渉理論に基づく戦争論	戦争はなぜ起こるのか？、事例：イラク戦争
第9回	交渉理論 I	情報の非対称性
第10回	交渉理論 II	コミットメント問題
第11回	国内政治と戦争	なぜ国内要因が重要なのか
第12回	リーダーと戦争	評判(reputation)と信頼(credibility)、リーダーの個人的性質、結集効果
第13回	今学期のまとめ	春学期の振り返り
第14回	期末試験（オンライン）	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳(2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574). 定価880円（本体 800円） ISBN978-4-12-102574-6.

【参考書】

【特に推薦するのは以下の三冊】

1. Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.
2. クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4
3. Spaniel, William (2023). Formal Models of Crisis Bargaining: Applications in the Politics of Conflict. Cambridge: Cambridge University Press.

【その他】

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価3,520円（本体 3,200円）ISBN978-4-623-09577-3
砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052円（本体 1,900円）ISBN 978-4-641-15025-6
鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価2,808円（本体 2,600円）ISBN 978-4-641-14904-5
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価2,860円（本体 2,600円）ISBN978-4-641-14928-1
村田晃嗣・塚塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376円（本体 2,200円）ISBN 978-4-641-17722-2
山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価3,024円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テスト、期末試験ともに「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限る）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接続語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
 - ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。
 - ・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。
- 【チェッカーによる検証と不正行為の判断】
- ・AIチェッカーの活用

- ・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。
- ・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。
- ・不正が疑われる場合
 - ・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。
 - ・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

- ・AIはあくまで“補助”です
 - ・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法があります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。
- ・情報の真偽は自分で確認する
 - ・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is an introductory course that intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course pays particular attention to security issues exploring causes and consequences of war.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

POL200CA（政治学 / Politics 200）	
国際関係論 B	
富永 靖敬	
開講時期：秋学期授業/Fall	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論Aでは、主権国家システム、国内・国際制度、リーダーの性質など、国際政治現象一般を分析する際に必要となる諸モデルを紹介したが、国際関係論Bでは、国家間戦争、内戦やテロリズムといった国家間・国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、コンテンツ（動画）配信を中心としたオンディマンド授業とする。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（またGoogle Driveでのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答はZoomを用いて行う。講義動画は1本60分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第2回	核兵器と軍備管理・抑止論	国際危機外交，安全保障のジレンマ，シグナリング，評判，抑止論とその効果
第3回	テロリズム・非国家主体の暴力	テロリズムの定義、原因、対策
第4回	内戦・国内紛争の国際化	内戦の原因論（民族，食欲と不満），交渉モデル
第5回	紛争解決：平和への道筋	交渉、仲介、調停など紛争解決の理論と実践
第6回	事例分析	スリランカ内戦・コロンビア内戦・ミャンマー内戦など
第7回	制度と規範：国際社会の秩序形成	国際制度と国際規範が国家の行動をどのように制約し、協力を促進するのか
第8回	国際規範と人権	国際人権規範の発展と課題
第9回	気候変動と国際協力（地球規模の課題への対応）	気候変動が国際社会に与える影響を分析し、気候変動問題への国際的な取り組みを検討する
第10回	サイバーセキュリティと国際関係	新たな脅威の出現，サイバー空間における国家間の競争と協力
第11回	貧困と開発	資源の呪い，国連の持続可能な開発

第12回 貧困と開発の制度的説 富の独占と政治体制，selectorate theory

第13回 学期のまとめ 秋学期の振り返り

第14回 期末試験（オンライン） まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多湖淳 (2020)『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach. Cambridge: Cambridge University Press.

草野大希・小川裕子・藤田泰昌（編）(2023)『国際関係論入門』ミネルヴァ書房。定価 3,520 円（本体 3,200 円）ISBN978-4-623-09577-3

クリストファー・ブラットマン（神月謙一訳）(2023)『戦争と交渉の経済学—人はなぜ戦うのか—』草思社。定価 3,740 円（本体 3,400 円）ISBN978-4-7942-2662-4

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

東大作（2020）『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行う。テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中のテストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよびテストの実施のために、デバイス（PCなど）とオンライン環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

以下に生成AI使用のルールを明示します。

【ルールの目的】

本授業では、学生の皆さんが自らの思考力・分析力・表現力を養うことを重要な学習目的としています。生成AI（ChatGPTなど）の技術をリサーチや情報探索の一助として活用すること自体は否定しませんが、論述やレポートの文章自体をAI任せにしまうと、本来の学習効果が損なわれるおそれがあります。そこで、生成AIの利用に関しては、以下のルールを設けます。

【生成AIはあくまでリサーチの補助】

- ・許容される行為例
 - ・キーワード・用語の検索
 - ・史実や統計データの有無を確認（※出典元が明確である場合に限り）
 - ・参考文献のヒント探し（※実際には一次情報・正式な文献を自分で確認すること）
- ・禁止される行為例
 - ・AIに要約や文章を生成させ、そのまま引用・転用すること
 - ・AIから得た引用元不明の「事実」を裏付け確認せずに用いること
 - ・「文章構成への直接的寄与」となるような内容（段落まとめ、序論や結論のドラフトなど）の作成をAIに委ねること

【AIが作成した文章の使用禁止】

- ・論述・レポート
 - ・AIが作成した文章を、一部でもそのままあるいは表面的な改変（接統語の入れ替えや文末の書き換え程度）をして使用することは禁止します。
 - ・これはコピーに準ずる行為とみなし、学問的誠実性に反する行為と判断します。
- ・引用・参考資料
 - ・AIを「著者」として引用することは認めません。AIは二次的・三次的情報を推測的に生成する仕組みであり、正確性や一次性を保証しません。

・AIが提示した文献・統計を活用したい場合は、必ず元の一次資料を学生自身で確認し、その一次資料を引用してください。

【チェッカーによる検証と不正行為の判断】

・AIチェッカーの活用

・提出された論述・レポートに対し、複数のAI生成検知ツールを用いてチェックを行います。

・AI生成の可能性が高いと検知された場合、さらに内容の精査や学生へのヒアリングを行う場合があります。

・不正が疑われる場合

・学生本人に口頭での追加説明や質疑応答を求めることがあります。そこでも十分な説明が得られない場合、剽窃・不正行為と見なされる可能性があります。

・不正行為と認定された場合は、大学の規定に基づき成績評価の取消や該当授業の単位不認定などの処分が下されることがあります。

【適切なAI利用のすすめ】

・AIはあくまで“補助”です

・上記のようなルールを設けても、「AIを一切使わない」という意味ではありません。実際には、キーワード検索や概要把握、論点の整理など、学習者が合理的にAIを使う方法はあります。ただし、最終的な文章構成・論理展開・結論は必ず自分自身で組み立てることを徹底してください。

・情報の真偽は自分で確認する

・国際関係論・国際政治の分野は情勢が流動的かつ複雑で、AIの提示する情報が誤りや不十分である場合も少なくありません。どのようなツールを使うにせよ、最終的な情報の検証責任は学習者自身にあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with essential knowledge to understand international relations. This course focuses on not just traditional security issues such as nuclear deterrence and balance of power but also non-traditional security issues such as civil war and terrorism.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the essential conceptions of international relations
2. To acquire the ability to explain the phenomenon of international relations logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read the assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Quizzes (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Term-end exam (70%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）	
経済人類学A	
友松 夕香	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わたしたちは日々働き、モノを消費し、他者に与え、分かち合いながら生きています。しかし、こうした日常の営みは、「市場」や「お金」だけで説明できるでしょうか。経済人類学は、数字やモデルだけではなく、社会関係や信仰、感情が織りなす生活世界として経済を分析する学問です。本授業では、文化人類学の理論と視点を用いながら、大学生が関心を寄せる身近なテーマを取り上げ、経済がどのように人びとを結びつけたり、軋轢を生み出しているのかを、ミクロなレベルから考察します。グローバル化やデジタル化の文脈で経済的なやりとりが生み出す関係性や不平等を読み解くことで、経済を「人間の営み」として捉え直し、実体経済を理解することを目指します。

【到達目標】

- ・経済人類学の基本的な理論・概念（市場、互酬性、贈与、再分配、交換、商品化など）を理解できるようになる
- ・経済的な社会現象を、人類学的視点から分析できるようになる
- ・経済を文化的・社会的関係のなかで捉え直し、既存の経済観を批判的に検討できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済とはなにか	文化と社会から経済を読み解く
第2回	お金で買えるもの	市場と社会の関係の現代的変容
第3回	文化の盗用	芸術の商品化と創造性をめぐる軋轢
第4回	差異の経済	文化の商品化とステレオタイプ化
第5回	グローバル性産業	セックスワーカーの主体性と法的介入をめぐる課題
第6回	ブルシットジョブ	仕事の価値を問い直す
第7回	専門分化社会	なぜ世界金融危機は起きたのか
第8回	信仰と経済	イスラーム銀行の倫理と論理
第9回	職場の多様性	人間の有用性、権利、包摂をめぐる課題
第10回	経済の3形態	市場・再分配・互酬性
第11回	贈与論	3つの義務と社会関係
第12回	情の経済	非物質的価値が生み出す人間の経済と関係性
第13回	物々交換	デジタル時代の経済の原型
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ15点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

We live our daily lives by working, buying, giving, and sharing. But can these activities be explained only in terms of “markets” and “money”? Economic anthropology approaches the economy not through numbers and models, but as a lived world shaped by social relationships, beliefs, and emotions. This course introduces anthropological perspectives on everyday economic practices, examining how they connect people while also producing divisions and inequalities in an era of globalization and digitalization. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

CUA200CA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）
経済人類学 B
友松 夕香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済の多様性は、数式や効率性・合理性といった近代経済学の枠組みだけでは十分に捉えきれません。経済人類学 B では、狩猟採集、農耕、漁労など世界の多様な生業だけではなく、ローカル・グローバルな市場取引、格差、知的交流、さらにジェンダーと再生産労働、AI をめぐるポスト産業社会をテーマに取り上げます。生産、消費、交換、分配がどのような社会関係を生み出しているのかを分析することで、「生きられた実践」として人間の経済を理解する視点を身につけることが、本授業の目的です。

【到達目標】

- ・統計では捉えられない人びとの間の経済的なやり取りの過程、構造、意味を分析できるようになる。
- ・ミクロレベルでの観察、解釈と意味づけから理論を導き出す方法を習得する。
- ・世界の経済の多様性を読み解くうえで、フィールドワークの有効性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッション形式。授業では基本的に資料配布をいたしません。自分でノートを取ってください。授業の最後では、みなさんが自分で授業内容を整理し考察する短いエッセイを作成します。授業中にエッセイへのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済人類学とはなにか	経済の多様性と接続・変容
第2回	食物分配	なぜ人は食べ物を分け合うのか
第3回	財と自由	豊かさとはなにか
第4回	脱国家	支配をめぐる空間論
第5回	道徳規範と反乱	モラルエコノミー論と弁証法
第6回	人間がつくる市場	駆け引きと騙し合いの取引交渉
第7回	グローバル格差①	貿易をめぐる経済の不均衡
第8回	グローバル格差②	消費と倫理的ジレンマ
第9回	グローバル格差③	格差の感情と日常の抵抗
第10回	グローバル格差④	「物は要らない」
第11回	グローバル格差⑤	異文化の知的交流はなにを生むか
第12回	再生産労働	ジェンダーをめぐる力学と制度
第13回	ポスト産業社会	知識・サービス・AI をめぐる価値と権力
第14回	まとめ	授業内容の整理と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で作成するエッセイが時間内に終わらない場合や作業時間が足りない場合、宿題になります。準備・復習時間は合わせて1回あたり4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業に集中し、ノートを取り、エッセイを記述して復習すれば、知識と思考法が身に付きます。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍をご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容を整理・考察するエッセイ14点（100%）。毎回の授業後、ならびに学期末に各500～600字で指定した項目を記述。授業の理解度と考察の質で評価します。500字に満たないエッセイについては未提出とみなします。4回の未提出で自動的にB-以下になります。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

手書きで素早くノートを取れない場合は、パソコンやスマホの使用を推奨します。授業の最後では、ワードファイルにエッセイを書き、提出していただきます。パソコン等の使用する機器を十分充電し、Wi-Fiに接続しておいてください。許可した場合を除き、スライドの写真撮影はご遠慮ください。

【Outline (in English)】

Economic practices cannot be fully captured by the frameworks of modern economics that emphasize mathematical models and efficiency alone. Economic Anthropology B examines a wide range of themes, from food distribution, market negotiation, and moral economy to global inequalities related to trade and consumption. The course also explores emotions and forms of resistance produced by inequality, gender and reproductive labor, economic transformations driven by intellectual exchange, and post-industrial societies in which knowledge, services, and AI play central roles. The aim of this course is to cultivate a perspective for understanding the economy as “lived practice” embedded in social and cultural contexts. Grades will be based on fourteen one-paragraph essays written in or after class (100%). Students are expected to engage in 4 hours of review per week.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPPとEPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担. EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法. PCリサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論Aを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論の発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III- 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策, 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III- システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担. EPR の物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法: 再論. 容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法. PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD（経済学 / Economics 200）
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
第9回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
第10回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第11回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
第12回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
第13回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策

第14回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
 詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

ECN200CD (経済学 / Economics 200)
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	集積論の系譜①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第3回	OD 集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第5回	OD 現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
第6回	OD 現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
第7回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第8回	OD 日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	OD 日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	産業集積のダイナミズム	産業のグローバル化
第11回	OD 自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT生産システム
第12回	OD 自動車産業の集積②	日本の生産システムの海外展開
第13回	OD ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
第14回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（40%）、各回の小テスト等の課題（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(40%), and each-class requirements(60%).

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は初回のガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進行いたします。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境2	上水道と下水道
4	水と環境3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス2	ESCO事業・ISOビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。スマホは不可。

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネスA：	ESCO事業1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネスB：	ESCO事業2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネスC：	エコファンド・土地関連ビジネス

第14回 海外の環境ビジネス 米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義期間内に小試験（10点）を複数回行い、さらに期末に試験（100点）を行う。両試験とも講義に出席し受験した場合にのみ得点を認める。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

hosei-wifiに接続できるノートパソコンまたはタブレット端末必須。スマホは不可。

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

Learning objectives:

The goals of this course are to obtain correct knowledges on modern environmental science.

Learning activities outside of classroom:

Should be keep knowledges on environmental science by regularly reading major newspapers (ca.4hrs./week).

Grading criteria:

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論Aまたは公共経済論A・Bを履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第2回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から20世紀末まで
第3回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第4回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第5回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第6回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第7回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第8回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第9回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第10回	環境税	ビグー税、汚染者負担原則
第11回	排出取引	税との比較、EUの制度
第12回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第13回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第14回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
一方井誠治(2018)『コア・テキスト環境経済学』新世社
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to graphically comprehend the economic mechanism of environmental conservation measures. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論Aにつづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。環境政策論Aを履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境政策の諸原則	6つの原則
第2回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第3回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第4回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第5回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第6回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第7回	生物多様性	生態系サービス
第8回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第9回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編(2020)『環境政策論講義』東京大学出版会
西尾哲茂(2025)『わか～る 環境法 第3版』信山社
神山智美(2024)『自然環境法を学ぶ 第2版』文真堂
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と各回の課題(30%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (70%) and the assignments (30%) from each class.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 A
小原 拓也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

完全競争市場という理想的な取引環境においては、資源配分の効率性と公平性が実現される。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのかを考察する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで理解を深める。

【到達目標】

本講義では、歳出（政府の支出）の観点における経済政策の内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDFファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（WebClass）にアップロードするので、各自で印刷しないしPCを持参して講義に出席すること。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策の目的
2	市場と政府(1)	政府の活動、余剰分析
3	市場と政府(2)	完全競争市場とパレート効率性
4	市場と政府(3)	公平性(機会の平等と結果の平等)
5	公共財理論(1)	公共財の定義と分類
6	公共財理論(2)	公共財の最適供給
7	外部性(1)	外部性の定義、金銭的外部性と技術的外部性、外部性における余剰分析
8	外部性(2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占における余剰分析
10	自然独占	費用逓減産業、自然独占における余剰分析、価格規制とインセンティブ規制
11	社会保障制度(1)	社会保障制度の概観、年金制度
12	社会保障制度(2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学AB(2年次配当)の復習を行うこと。
1回の授業につき、準備・復習それぞれ約2時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将寛著『財政学15講』新世社、2018年
- ② 佐藤主光『公共経済学15講』新世社、2017年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第2版』日本評論社、2018年

【成績評価の方法と基準】

評価は、教室内で実施する試験（100%）によって行う。試験では、経済政策論Aで扱うテーマに関する基本的な計算問題または記述問題を出題し、授業内容の理解度を測る。

【学生の意見等からの気づき】

授業内アンケートでは、「政府の経済活動に関する理論とその現実への応用を学ぶことで、経済ニュースをより理解できるようになった」といった感想が寄せられている。これらの意見を踏まえ、今後は講義内容の一層の深化と改善を進めていく予定である。

【Outline (in English)】

Course Outline

In the ideal trading environment of a perfectly competitive market, efficiency and fairness in resource allocation are achieved. In reality, however, there are problems that cannot be solved by the market (market failures) and require government intervention in the market. In this lecture, we will examine how the government should intervene in response to market failures. It will also deepen understanding by introducing related real-world economic problems.

In this course, the objective is to develop an understanding of economic policy from the perspective of government expenditure, enabling students to grasp, from an economic viewpoint, the purposes for which the government addresses real-world economic issues.

For lecture preparation, it is important to review Microeconomics AB (allocated for the second year).

For each class, approximately two hours of preparation and two hours of review are recommended.

Evaluation will be conducted through an in-class examination (100%). The exam will include fundamental calculation problems or written questions related to the topics covered in Economic Policy A to assess students' understanding of the course content.

ECN300CA（経済学 / Economics 300）
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの交差図、乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	財政・金融政策6：IS-LMモデルの応用2	金融政策の効果と流動性のわな

14 まとめと期末試験 まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

濱秋純哉，2025年、『経済政策』新世社

【参考書】

1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年、『マクロ経済学 I（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト，2019年、『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年、『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

本講義を履修するにあたり、経済政策論Aを履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy

The final grade will be determined as follows:

Term-end examination: 100%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）	
労働経済論 A	
酒井 正	
開講時期：春学期授業/Spring	単位：2単位
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。具体的には、「人手不足」、「外国人労働力」、「教育の経済学」といったトピックについて取り上げる。また、「少人数制は生徒の学力を上げるのか？」といったことに関しても、実証分析を基に議論する。

【到達目標】

この労働経済論Aでは、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。期末試験の内容を想定した演習問題を授業内で解説する。また、数回の小テスト（オンライン）でおこなうことで理解度を確認する。小テストで出来の悪かった問題については、授業内で解説する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	データで見る日本の労働市場
3	労働供給（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要（1）	短期・長期の労働需要モデル
6	労働需要（2）	調整費用モデル等
7	労働市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスとその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）
清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）＋期末テスト（90%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者が関心のある労働問題のトピックにも触れるように心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論Aで学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」、「介護離職」、「両立支援策」等）また、労働市場のセーフティネットについても議論を多く割く予定である。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本とする。期末試験の内容を想定した演習問題を授業内で解説する。また、数回の小テスト（オンライン）でおこなうことで理解度を確認する。小テストで出来の悪かった問題については、授業内で解説する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	失業（1）	日本の失業の概観
5	失業（2）	失業を説明する理論
6	失業保険	失業保険に関する実証分析
7	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
8	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
9	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
10	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題、高齢者の労災
11	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
12	両立支援策	女性の就業と保育サービス
13	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すことが望ましい。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末テストのみ（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・講義は「労働経済論A」の内容を前提として進めるので、「労働経済論A」を受講しておらず講義内容を理解できない場合は、各自でその内容を学習する必要がある。

・進捗状況等に応じて、講義で取り上げるトピックの内容や順番を変更することがある。

・諸般の事情から、一部の講義をオンラインで実施する場合がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safetynets for workers are also discussed. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based only on term-end exam (100%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは（1）	マクロ経済学の登場人物
3	マクロ経済学とは（2）	市場均衡
4	マクロ経済を観察する（1）	国内総生産
5	マクロ経済を観察する（2）	名目と実質
6	マクロ経済を観察する（3）	消費者物価指数
7	マクロ経済を観察する（4）	労働に関する統計
8	マクロ経済学を支える金融市場（1）	金融市場の実際
9	マクロ経済学を支える金融市場（2）	金利（利率）
10	貨幣の機能と中央銀行の役割（1）	貨幣の機能
11	貨幣の機能と中央銀行の役割（2）	中央銀行の役割
12	財政の仕組みと機能（1）	財政の仕組み
13	財政の仕組みと機能（2）	税制と国債
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）・リアクションペーパー（30%）・試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年ABPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。
- ・簡単な公務員試験問題が解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）リアクションペーパーのコメントや質問を授業の最初にフィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDPと金利の決まり方（1）	45度分析
3	GDPと金利の決まり方（2）	ISLMモデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価とGDPの同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第4版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2026年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第6版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2023年
「マクロ経済学への招待（ライブラリ経済学への招待 3）」郡司 大志、新世社、2024年

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）・リアクションペーパー（30%）・試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic models.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	マクロ経済学概説、国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	科学としてのマクロ経済学、マクロ経済学のデータ	トピック講義
第4回	国民所得	生産・所得・分配
第5回	国民所得	トピック講義
第6回	国民所得、開放経済	支出、財市場の均衡、金融市場の均衡、開放経済（小国）モデル
第7回	国民所得、開放経済	トピック講義
第8回	開放経済、貨幣システム	為替レート：名目対実質・為替レートの決定要因、銀行の役割・マネーサプライ
第9回	小テスト	小テスト

第10回	開放経済、貨幣システム	トピック講義
第11回	インフレ、労働市場	貨幣数量説、インフレと利子率、貨幣需要、失業率の長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第12回	景気変動	総需要、総供給、総需要・総供給モデルを使った短期と長期の分析
第13回	インフレ、労働市場、景気変動	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円+税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験45%、小テスト25%、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 45%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%, Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
クラス指定あり【2年CDEFGHIJKLMNO組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では経済学の入門講座で学んだ知見を足かりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・マクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システム内のWebClassを通じて行われます。講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	総需要1	財市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、均衡
第3回	総需要1	トピック講義
第4回	総需要2	財政・金融政策、総需要・総供給モデルの短長期分析
第5回	総需要2	トピック講義
第6回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線、フィリップス曲線と自然失業率
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	トピック講義
第8回	経済変動の動学モデル	モデルの要素および解、動学モデルを使った政策分析
第9回	小テスト	小テスト

第10回	経済変動の動学モデル	トピック講義
第11回	経済変動の動学モデル、経済成長	動学モデルを使った政策分析（続き）、資本の蓄積、定常均衡、貯蓄、資本の黄金律水準
第12回	経済成長	人口成長・経済ショック・技術進歩、実証分析・政策
第13回	経済変動の動学モデル、経済成長	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2024年、4000円＋税

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験45%、小テスト25%、宿題25%、練習問題5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Dec. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 45%, Quiz: 25%, Homeworks: 25%, Problem Sets: 5%

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
財政学 A（市ヶ谷開講）
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
	財政学の歴史	財政学の歴史
第2回	外部性（1）	外部性の本質
第3回	外部性（2）	ピグー税・補助金
第4回	外部性（3）	コースの定理
第5回	公共財（1）	公共財、準公共財
第6回	公共財（2）	公共財の最適供給
第7回	公共選択（1）	リンダールメカニズム、ただ乗り
第8回	公共選択（2）	アローの不可能性定理、直接民主制
第9回	公共選択（3）	間接民主制、ログローリング
第10回	税の帰着（1）	租税原則
第11回	税の帰着（2）	税の帰着
第12回	最適課税（1）	超過負担
第13回	最適課税（2）	最適物品税
第14回	最適課税（3）	最適所得税

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

- 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- 小黒一正等『財政学15講』新世社
- 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社
- Gruber Public Finance and Public Policy Worth Publishers Inc.

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

官庁エコノミスト（経済企画庁（現内閣府））として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
財政学 B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 財政学の歴史	ガイダンス 財政学の歴史
第2回	日本の財政の歴史	日本の財政史
第3回	予算制度	財政と法律、予算制度
第4回	政府の大きさ	経済活動と政府、財政の役割、 大きな政府と小さな政府
第5回	財政金融政策の効果 (1)	景気循環、GDPギャップ
第6回	財政金融政策の効果 (2)	国民所得の決定、乗数、ビルト インスタビライザー
第7回	財政金融政策の効果 (3)	IS-LM分析、財政・金融政策の 効果
第8回	所得再分配	ベンサム、ロールズ、ジニ係数
第9回	国債の負担 (1)	国債の種類、新正統派
第10回	国債の負担 (2)	新古典派
第11回	国債の負担 (3)	リカード＝バローの等価定理
第12回	財政の持続可能性 (1)	日本の財政再建の歴史
第13回	財政の持続可能性 (2)	ドーマーの条件、ドーマーの命 題
第14回	財政の持続可能性 (3)	ボンジスキーム、プライマリー バランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学15講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、期末試験（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

The plan is to evaluate the students on the basis of their in-class assignments (40%) and a final exam (60%).

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
森脇 大輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、メカニズムデザインや行動経済学、因果推論といった近年経済政策への応用が進んでいる経済学的手法について基礎理論と応用例を学びます。また、得られた知識を活用するための政策立案の実践的スキルについても触れます。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、メカニズムデザインや行動経済学、因果推論の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共サービスの供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済政策とは何か
2	ミクロ経済学の基本 1	効用関数 パレート効率性 エッジワースボックス
3	ミクロ経済学の基本 2	社会厚生関数
4	外部性	社会的限界便益/費用 コースの定理
5	メカニズムデザインの基礎	マッチングアルゴリズム
6	メカニズムデザインの理論	メカニズムの性質
7	メカニズムデザインの応用	研修医マッチングやその他の事例
8	メカニズムデザインの実践	制度改正の事例
9	行動経済学の基礎	ナッジ
10	行動経済学の理論	時間的不整合性 限定合理性
11	行動経済学の応用	学校選択制などにおける事例
12	因果推論の基礎	因果と相関 反実仮想
13	因果推論の手法	ランダム化比較実験
14	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドを復習すること、また講義中に示した参考書・関連資料を読むこと（所要：1時間ずつ）。また、講義において出題した復習問題を解くこと（所要：2時間）。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

AIと経済学でもっとよくなる保育政策(2025)森脇大輔（編著）
経済政策（2025）濱秋純哉
マッチング理論とマーケットデザイン(2024)小島 武仁(著),河田 陽向(著)
分析者のための行動経済学入門 プロスペクト理論からナッジまで、人間行動を深く網羅的に解明する(2024)黒川博文
Pythonで学ぶ効果検証入門(2024)伊藤寛武、安井翔太、金子雄祐

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）によって評価する。
期末試験は各講義において示した基礎的な公共政策や経済学の知識（50％）と計算問題（50％）による。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

講師は中央省庁やテック企業における実務経験を有しており、実践的観点からの講義を行う。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental theories and practical applications of economic methods that have seen increasing use in policy design, such as mechanism design, behavioral economics, and causal inference. Furthermore, it introduces practical skills for policy-making to effectively utilize the knowledge gained.

ECN200CA（経済学 / Economics 200）
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学のIS-LMモデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ経済統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ経済統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、スライドを用いた講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ経済統計1	GDPの概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ経済統計2	物価指数の概念と作成方法
4	経済政策のためのマクロ経済統計3	失業率の概念と作成方法
5	労働政策1	失業の原因
6	労働政策2	失業への政策的対処
7	労働政策3	賃金の硬直性と失業
8	財政・金融政策1：IS-LMモデルの構築1	ケインジアンの変差図、乗数効果
9	財政・金融政策2：IS-LMモデルの構築2	IS曲線の導出
10	財政・金融政策3：IS-LMモデルの構築3	貨幣量の測定とコントロール
11	財政・金融政策4：IS-LMモデルの構築4	LM曲線の導出
12	財政・金融政策5：IS-LMモデルの応用1	財政政策の効果とクラウドイング・アウト

13 財政・金融政策6：金融政策の効果と流動性のわな
IS-LMモデルの応用2

14 まとめと期末試験 まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

濱秋純哉，2025年、『経済政策』新世社

【参考書】

1. N・グレゴリー・マンキュー，2024年、『マクロ経済学Ⅰ（第5版）』東洋経済新報社
2. ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト，2019年、『ALLマクロ経済学』東洋経済新報社
3. 福田慎一・照山博司，2023年、『マクロ経済学・入門（第6版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらうことがある。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【その他の重要事項】

本講義を履修するにあたり、経済政策Ⅰ（あるいは経済政策論A）を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも履修済みの必要はない）。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading Policy

The final grade will be determined as follows:

Term-end examination: 100%

ECN100CA (経済学 / Economics 100)

Principles of Economics A

JESS DIAMOND

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：※Category【Enrollment 2025～】Ⅰ. Introduction to Economics
 その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries

10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities
13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Principles of Economics A
J E S S D I A M O N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter5、Chapter6、Chapter8、Chapter9を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 5, 6, 8 and 9 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to introduce students to the foundations of microeconomics. In particular, we cover consumer theory, producer theory, trade and externalities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Consumers and Incentives	The Buyer's Problem
3	Consumers and Incentives	The Demand Curve and Consumer Surplus
4	Consumers and Incentives	Demand Elasticities
5	Sellers and Incentives	The Seller's Problem
6	Sellers and Incentives	The Supply Curve and Producer Surplus
7	Sellers and Incentives	From The Short Run To The Long Run
8	Trade	The Production Possibilities Curve And The Basis for Trade
9	Trade	Trade Between Prefectures and Countries
10	Trade	Arguments Against Free Trade
11	Externalities and Public Goods	Externalities
12	Externalities and Public Goods	Private Solutions to Externalities

13	Externalities and Public Goods	Government Solutions to Externalities and Public Goods
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA (経済学 / Economics 200)
Principles of Economics B
J E S S D I A M O N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23, Chapter24, Chapter25, Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25, and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank
11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles

13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN100CA (経済学 / Economics 100)

Principles of Economics B

JESS DIAMOND

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩 / Tama

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：※Category【Enrollment 2025～】Ⅰ. Introduction to Economics

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の マクロ経済学の基本をカバーする Chapter23, Chapter24, Chapter25, Chapter26を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 23, 24, 25 and 26 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

マクロ経済学に関する基本的な知識を身につける。

The goal of this course is to study the foundations of macroeconomics. In particular, we cover the labor market, credit markets, the monetary system and business cycle theory.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
3	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
4	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
5	Employment and Unemployment	Cyclical Unemployment and the Natural Rate of Unemployment
6	Credit Markets	What Is the Credit Market?
7	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
8	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
9	The Monetary System	Money and Inflation
10	The Monetary System	The Central Bank

11	The Monetary System	The Central Bank
12	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
13	Short-Run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

HIS200EA（史学/History 200）

歴史学Ⅰ

愼 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学Ⅰは、歴史を学問として学ぶとはどういうことかについて、筋道立てて学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①歴史を学問として学ぶ基礎的な方法を身につけ、②歴史をより豊かに捉えることができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では最初に歴史と歴史学について概論的に分析したうえで、①歴史学の歴史、②歴史学の方法について具体的に考察していきます。なお、講義後は毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体的な流れなどについてお話しします
第2回	概論 歴史・歴史学とは何か①	歴史とは何か、について考察します
第3回	概論 歴史・歴史学とは何か②	学問としての歴史学について考えます
第4回	歴史学の歴史①	古代から近代歴史学への大まかな流れを概観します
第5回	歴史学の歴史②	近代歴史学、とくに発展的歴史学とは何かを考えます
第6回	歴史学の歴史③	現代歴史学、とくに社会史について学びます
第7回	歴史学の歴史④	近年の歴史学の潮流とその課題を考えます
第8回	歴史学の作業①	「歴史への問いかけ」と「事実」について考察します
第9回	歴史学の作業②	考証と史料について考えます
第10回	歴史学の作業③	史料分析をします
第11回	歴史学の作業④	歴史認識の構築について考察します
第12回	歴史学と現代社会①	歴史修正主義と歴史否定論について考えます
第13回	歴史学と現代社会②	歴史学の効用と社会的責任について考えます
第14回	歴史学Ⅰまとめ	講義のまとめをします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート1回・期末レポート（70％）+平常点（30％）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Learn to make sense of what it means to study history as a discipline.

The goals of this course are to acquire a basic method of studying history as a discipline, and gain a richer understanding of history.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points 30％

Reports: 70％、

BAB200EA（基礎生物学 / Basic biology 200）

環境生態学

鞠子 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水5/Wed.5

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学をベースとして環境と生物の関わり、生態系サービス、環境問題について講義し、人間社会と自然環境の調和について考究する。

【到達目標】

多種多様な環境問題の理解と解決に資する環境リテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する能力を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施し、毎回配布資料をWebClassで事前配布。毎回、授業への参加、理解度を確保するためのレポートを課し、次の授業でフィードバック。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとクマの出没問題から生態学を知る	授業の進め方を説明し、生態学とはどんな学問かを具体的に概説する
第2回	環境という言葉はなぜ生まれたのか	主体環境系の概念を解説し、環境要因の分類と性質について学ぶ
第3回	環境が生物の多様性をもたらすしくみ	環境の空間変動が生物と生態系の多様性を作り出すしくみを解説する
第4回	数十年後の多摩キャンパスは冬でも緑の森となる	生態系が時間とともに変化するパターンとメカニズムについて解説する
第5回	雑草は本当は弱い存在だが戦略をもって生きている	生物の環境適応戦略について具体例を挙げて説明する
第6回	生態系から受け取る恩恵の経済価値は？	生態系サービスの基本と経済価値について学ぶ
第7回	人間の欲と無知が生む生態系からのしっぺ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第8回	公害から学ぶべきこと	公害の原点である水俣病を例にして科学リテラシーの必要性について考える
第9回	外来生物は本当に悪者なのか	外来種問題の本質を追究し、その是非論について考究する
第10回	地球環境問題におけるウソとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第11回	地球温暖化が生物および生態系に与える影響	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第12回	ヒトの論理と人間の論理	ヒト社会と人間社会の違いから現代社会を考える
第13回	人類の存続のためにすべきこと・試験範囲	環境生態学の視点から人類存続のためになすべきことを論じたあとに、試験範囲を説明する
第14回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「生態学は環境問題を解決できるか？」 巖佐庸・伊勢武史著、（2020）

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕 期末試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい配布資料の作成

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the basics of environmental ecology, and should be able to acquire environmental-science literacy. Students will be expected to spend four hours for preparation and review. Grading policy: final exam (60%) and short-reports (40%).

SOC300EA (社会学 / Sociology 300)					
社会を変えるための実践論					
荒井 容子					
開講時期：秋学期授業/Fall 単位数：2単位					
曜日・時限：月2/Mon.2					
備考（履修条件等）：春学期にWeb抽選。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。					
その他属性：〈S〉					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
社会問題に当事者として立ち向かっていった複数の実践事例について学び、当事者としての教員やゲストを交えて、受講生同士で討議しながら、直面した社会問題の解決にむけて行動する力を養うことを目的とする。					
【到達目標】					
社会問題に直面したとき、その解決に向けて主体的に行動するとはどういうことか、その意味と方法を認識し、実践につなげる力を養う。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/					
【主な授業方法】					
L 講義 /Lecture					
【授業の進め方と方法】					
授業運営は複数の教員が集団で行う。社会問題の解決のために行動している多様な事例を取り上げ、当事者の立場を重視しながら受講生と教員が一緒になってそれらの事例について討議していく。当事者をゲストとして招く場合もある。					
毎回宿題を課す。テキストの関係章、オンラインで提供するビデオを観たうえで取り組む課題がだされるときもある。宿題の回答は講義時に自分でも手元に用意して、講義当日のグループ討議に活用してもらう。講義の感想・意見も講義後に毎回提出してもらう。これらへの応答は講義時に必要に応じて行うが、学習支援システムを通じてコメントを提示する場合もある。					
授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
あり / Yes					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス バズセッション	自分が社会問題に直面するとはどういうことだろう（担当 全員）	4	生活を支える雇用	公務非正規問題・女性問題（担当 恵羅） －「公務非正規女性全国ネットワーク」（通称「はむねっと」）の運動に学ぶ ゲスト講師 瀬山紀子（埼玉大学）
2	生活を支える「お金」1	学生にとってのお金－奨学金とブラックバイト－（担当 鈴木宗徳） ゲスト講師 大内裕和（武蔵大学）	5	声を上げる 1	女性たちはどのように声を上げたか（担当 荒井） －女性への攻撃・ミソジニーに抗して （『Colabo 攻撃――暴走するネット社会とミソジニー』地平社 2026年1月ほか） －ゲスト講師 田中優子（法政大学名誉教授）
3	生活を支える「お金」2	前回講義を踏まえた体験報告と討議（担当 鈴木宗徳） 「第1章 最低賃金を1500円に！ AEQUITASがはじめた新しい『声のあげ方』」も振り返りつつ	6	声を上げる 2	時代が悪い？ 江戸時代でも声を上げた（担当 荒井） 「第3章 一揆を通して社会運動を考える」をもとに ゲスト講師 田中優子（法政大学名誉教授）
			7	中間総括討議	何故一歩ふみだすのか－前半の討議を振り返ってのバズセッション（担当 全員）
			8	若者を起点に動く	人を不自由にする社会に挑む社会を変える実践としてのユースワーク（担当 平塚） ゲスト講師 中塚史行（NPO法人教育サポートセンターNIRE、一般社団法人子ども若者応援ネットワーク品川）
			9	大学＋地域で動く	国際的な貧困格差問題（担当 吉村） 「第8章 グローバル市民社会と私たち」 「第9章 人類史の流れを変えるグローバル・ジャスティスと歴史的不正義」をもとに
			10	国際問題－戦争・紛争－に向き合う	憎しみの連鎖は乗り越えられるか（担当 荒井） ～ウクライナのある学校の実践とガザのある大学教員の実践から考える～
			11	学生として学問の自由に向き合う	大学自治・学術研究の自主性・自律性の問題（担当 増田）
			12	メディアを動かす	ソーシャルメディアを活かす（担当 藤代） 「第4章 社会を変えるためにソーシャルメディアを使う」をもとに
			13	司法に訴える	不当解雇と闘う（担当 荒井）
			14	総括討議	「第7章 教員の不当解雇と裁判闘争」をもとに 現代を生きぬくために必要な力とは ～実践体験の分析も交流～ バズセッション（担当 全員）
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】					
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。					
【テキスト（教科書）】					
田中優子+法政大学社会学部「社会を変えるための実践論」講座編『そろそろ「社会運動」の話をしよう					

『自分ゴトとして考え、行動する。社会を変えるための実践論』改訂版

明石書店 2019年4月

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間総括討論会と総括討論会時に活用するため、それぞれの講義の前に事前に提出してもらう中間レポート、最終レポート（各30％程度）を中心に、時々の宿題、ほぼ毎回回収する感想・意見を40％以内で加味して評価する。中間総括討論会と総括討論会は授業内試験に相当する。なお、最終レポートの課題の一つには、受講生自身が「社会を変えるための実践」だと考える活動の実施体験・参加体験を講義期間中に取り組み、その報告・分析を行うことも含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

宿題、レポートの締切を早め、宿題については教員が事前に目を通す時間を確保しておくことと討議が充実する。全体討議では、各グループからの報告に加え、個人としての発言の時間も確保することで、一人ひとりの意見を踏まえた全体討議も可能となり、学生の討議に対する姿勢がより積極的になる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すことが多いので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【その他の重要事項】

社会問題について学んできた問題意識の高い学生が受講することを推奨する。すべての学生にグループ討議を通じて発言が求められる。また講義の目的・運営上の必要から150人までに受講を制限する。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。秋学期に受講登録を変更することはできない。

【Outline (in English)】

This course is to study how citizens/people can challenge social problems and difficulties by their own in the society. Lecturers offer various case studies of social movements. Students will discuss the way to survive in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

At the end of this course, students are expected to notice some social problems they face or will face and to take some positive action for themselves against them with some variety ways.

Students are required to prepare for written reports for discussion in each class as well as at the mid-term discussion with the mid-term report and at the final discussion with the final report.

Grading is according to the total evaluation of Mid-term report (30 %), Final report (30%), and class contribution (40%). Students are required to contribute to the mid-term discussion and the final discussion.

SOS100EB（その他の社会科学 / Social science 100）

社会政策科学入門A

中筋 直哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「死の公共政策：社会学の立場から」

公共政策を、社会学を使って考える手がかりを学ぶ。社会学の強みは市場の合理性や政治の権力に還元できない社会問題をひとりひとりの人間の目線で考える点にある。ただしそれは市場や政治を道具に用いる公共政策を考えるにはデメリットにもなる。このメリット、デメリットを具体的な社会問題を通して検討したい。取り扱う社会問題とは死、より限定して「自殺」と「安楽死」と「大量死の記憶」の3点である。これらを考えるのに社会学の古典、エミール・デュルケムの『自殺論』を手がかりにする。

【到達目標】

- ・社会学の特徴、メリットとデメリットを知る。
- ・社会学を使って社会問題と公共政策を考える手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	基礎知識1	現代社会における死の公共政策の広がり
第3回	基礎知識2	死の社会学の問題関心
第4回	デュルケムの自殺論1	「個人的な問題」を集会的なデータに基づいて考える
第5回	デュルケムの自殺論2	「問題を解決しない」公共政策を考える
第6回	自殺1	若者の自殺、自殺は流行する？
第7回	自殺2	高齢者の自殺、自殺は社会への抗議か？
第8回	グループディスカッション	「自分にとって」死とは何か考え、話し合う
第9回	安楽死1	現代社会固有の問題としての安楽死
第10回	安楽死2	フランスの「終末期法案」の事例研究
第11回	大量死の記憶の構築1	戦没者の顕彰と慰霊
第12回	大量死の記憶の構築2	被災者の追悼と伝承
第13回	結論1	社会学と公共政策、何ができて何ができないか？
第14回	結論2	死の公共政策、何ができて何ができないか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1枚程度のレポートを課す。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

エミール・デュルケム『自殺論』（中公文庫）、なお解説書は読まないでほしい。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が35%（提出しないとD）、論述式の期末試験が55%。「今日の課題」の総合評価が10%。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介を画像などを用いて具体的にを行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】

講師が社会学者なので社会学を中心に講義するが、社会学に関心をもたなければならないわけではない。むしろ社会学の「限界」を批判的に考えられるようになってほしい。

【Outline (in English)】

(Course outline)/Theme: "Public Policy of Death: A Sociological Perspective."In this course,we will explore hints for using sociology to consider public policy.We will examine advantages and disadvantages of sociology through a specific social problem,"death",and more specifically,three issues:"suicide","the end of life,"and"the memory of mass death."To consider these issues,we will reexamine the sociological classic,Émile Durkheim's"Suicide."

(Learning Objectives)Find hints to think about social problems and public policy using sociology.

(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.

(Grading Criteria/Policy)Homework:10%,Report:35%,Final exam:55%

SOS100EB（その他の社会科学 / Social science 100）

社会政策科学入門B

北浦 康嗣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、社会政策科学の学生にとって必要になる経済学の視点を身につけることです。経済学の基礎理論は、主にミクロ経済学とマクロ経済学によって構成されます。本講義では、ミクロ経済学やマクロ経済学を将来的に履修する上で必要となる経済学の基礎や、これらの科目ではカバーできない分野に関して解説します。

【到達目標】

- （１）身近な問題を取り扱う際に経済学的な考え方ができる。
- （２）部分均衡の枠組みで経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。
- （３）需要と供給、資源配分について理解を深める。
- （４）「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。確認テストを返却する場合には解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、効率性	経済学について議論します。
2	需要の理論（１）	支払意思額について図解します。
3	需要の理論（２）	消費者余剰について図解します。
4	供給の理論（１）	供給の理論を学んだ後、生産者余剰を図解します。
5	供給の理論（２）	生産者余剰の演習をします。
6	市場の理論（１）	社会的余剰を導出します。
7	市場の理論（２）	政府の介入について議論します。
8	市場の理論（３）	効率性・公平性について議論します。
9	中間試験	需要の理論、供給の理論および市場の理論について確認を行います。
10	市場の失敗（１）	市場の失敗について説明します。
11	市場の失敗（２）	市場の失敗について図解します。
12	外部性（１）	外部性について図解します。
13	外部性（２）	外部性について計算します。
14	外部性（３）	外部性の内部化について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50％，期末試験50％，両方受験すること。）で評価します。試験でのノート・参考書などの持ち込みは一切不可です。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an economics perspective. The basic theory of economics is mainly composed of “microeconomics” and “macroeconomics”. In this course, we will explain the basics of economics required for future studies of “microeconomics” and “macroeconomics”, and the areas that cannot be covered by these subjects.

SOS100EB（その他の社会科学 / Social science 100）

社会政策科学入門D

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は社会政策科学の学生にとって必要となる法学の基礎を学ぶとともに、法と政策との関係も学びます。前半には法学の基礎を学び、後半では法と政策の関係性を学びます。

【到達目標】

- ・法学の基礎的な知識を身につける。
- ・法学の特徴について説明できる。
- ・法学の知識を基礎にして、社会政策を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目的・法とは何か	この授業の意義と授業進行を解説する。法の社会規範としての特質や法の目的等を学びます。
第2回	法の発展	近代法の発展や日本法への継受等を学びます。
第3回	法と裁判	裁判制度の意義や裁判の流れ等を学びます。
第4回	法源	裁判の基準となる法とは何かを学びます。
第5回	法の適用と解釈	法的三段論法や訴訟手続等を学びます。法の解釈と方法を学びます。
第6回	国家と法	国民主権、三権分立等を学びます。
第7回	統治と法① 三権分立、立法権と国会	立法権とそれを担う国会等を学びます。
第8回	統治と法② 行政権と内閣	行政権とそれを担う内閣等を学びます。
第9回	統治と法③ 司法権と裁判所	司法権とそれを担う裁判所等を学びます。
第10回	人権と法① 人権と限界	人権とは何か、人権の享有主体、人権の限界等を学びます。
第11回	人権と法② 人権の種類	幸福追求権、法の下での平等、自由権、社会権等を学びます。
第12回	社会政策① 社会保障と法	社会法の意義、社会保障法の体系等を学びます。
第13回	社会政策② 労働と法	労働法の体系等を学びます。
第14回	社会政策③ 環境と法	環境法の体系等を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり末川博編『法学入門』（有斐閣、第6版補訂版、2014）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（86%）、平常点（14%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にするようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等はHoppiiで行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The aim of this lecturer is to learn the basics of law, as well as the relationship between law and policy.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of law.
- ・ Students can explain the characteristics of law.
- ・ Students can consider social policy based on their knowledge of law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports : 86%, Usual performance score : 14%

ECN200EB, ECN200ED (経済学 / Economics 200, 経済学 / Economics 200)

ミクロ経済学

北浦 康嗣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- (1) ミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。
- (2) 一般均衡分析の枠組みで需要と供給、資源配分について理解を深める。
- (3) 「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

- (1) 身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。
- (2) ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。
- (3) 数値計算によって効用最大化問題が解ける。
- (4) 一般均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想法を紹介します。（機会費用、比較優位など。）
2	経済学に必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。
3	家計の行動（1）	効用最大化問題について解説します。
4	家計の行動（2）	予算制約式について図解します。
5	家計の行動（3）	効用について図解します。
6	家計の行動（4）	無差別曲線について図解します。
7	家計の行動（5）	最適消費点について図解します。
8	所得効果	所得効果について図解します。
9	価格効果	価格効果について図解します。
10	効率性と公平性	一般均衡理論の基づいて効率性と公平性に関する議論をします。
11	厚生経済学の定理	効率性・公平性について議論します。
12	純粋交換経済（1）	純粋交換経済について説明します。
13	純粋交換経済（2）	純粋交換経済について図解します。
14	純粋交換経済（3）	純粋交換経済で、厚生経済学の定理を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50％ 期末試験50％、両方受験すること。）で評価します。試験でのノート、参考書などの持ち込みは一切不可です。試験に関しては、Hoppii上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
- (2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
- (3) the theory of consumer behavior.

This course is evaluated by only two exams: a midterm exam (50%) and a final exam (50%).

ECN200EB, ECN200ED (経済学 / Economics 200, 経済学 / Economics 200)

マクロ経済学

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、マクロ経済学的な問題について概観することです。とくに、国民所得の決定や雇用（失業）について学びます。また、財政政策や金融政策など政府の役割についても議論します。

【到達目標】

- (1) 日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
- (2) 簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
- (3) 45度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
- (4) IS-LM分析を用いて、財政政策と金融政策の効果を議論できる。
- (5) AD-AS分析を用いて、失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半では、とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半、財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線や総供給曲線を用いた分析を行います。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想法を紹介します。
2	GDP	GDPについて解説します。
3	三面等価の原則	三面等価の原則について解説します。
4	消費の決定	財市場における需要の構成項目として大事な消費について解説します。
5	投資の決定	財市場における需要の構成項目として大事な投資について解説します。
6	財市場の分析－IS曲線の導出	財市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示すIS曲線を導出します。
7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ、利子率の決定を解説します。
8	貨幣市場の分析－LM曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利子率の関係を示すLM曲線を導出します。
9	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線を用いて、均衡国民所得と均衡利子率を導出します。

10	IS-LM分析と財政・金融政策（1）	財政政策の効果についてIS-LM曲線を用いて図解します。
11	IS-LM分析と財政・金融政策（2）	金融政策の効果についてIS-LM曲線を用いて図解します。
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。
13	物価水準の決定－総需要と総供給（1）	総需要曲線と呼ばれるAD曲線を定義した後、導出します。
14	物価水準の決定－総需要と総供給（2）	総供給曲線と呼ばれるAS曲線を定義した後、導出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50％ 期末試験50％、両方受験すること。）で評価します。試験でのノート、参考書などの持ち込みは一切不可です。試験に関しては、Hoppii上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
- (2) the role of fiscal and monetary policy.

This course is evaluated by only two exams: a midterm exam (50%) and a final exam (50%).

ECN100EB（経済学 / Economics 100）

企業と社会論B

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、社会の主要な構成要素の1つである企業に焦点を当てます。企業経営に関する基本理論の修得を通じて、企業が社会に及ぼす影響や果たす役割を考察します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 企業経営に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義資料と解説を通じた講義形式で実施します。講義資料は学習支援システムを通じて配布するので、履修に際しては学習支援システムおよびメールの日常的に確認する必要があります。課題を提示した際は、次回の授業で課題のフィードバック（解答・解説）を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	企業経営の仕組み
第2回	企業形態論①	企業の各形態
第3回	企業形態論②	営利企業の特徴
第4回	企業統治論①	コーポレート・ガバナンスの基本
第5回	企業統治論②	今日のコーポレート・ガバナンス
第6回	経営戦略とは何か	経営戦略の基本
第7回	競争戦略①	事業構造の分析
第8回	競争戦略②	3つの基本戦略
第9回	競争戦略③	ビジネス・システム
第10回	多角化戦略①	多角化の論理
第11回	多角化戦略②	多角化のパターン
第12回	企業構造再編の戦略①	他企業も含めた企業構造の再編
第13回	企業構造再編の戦略②	M&Aと戦略的提携
第14回	総括・試験	授業のまとめ・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社。

井原久光（2008）『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房。

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略（第3版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：30%、期末試験：70%で評価します。

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
- ・授業内課題（小テスト）は、学習支援システム上で実施します。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of management theories. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Forms of business ownership,
- 2) Corporate governance,
- 3) Strategic management.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1) Understanding of basic theories of business administration,
- 2) Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):30% and final exam: 70%.

MAN200EB（経営学 / Management 200）

社会・イノベーション論Ⅰ

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「イノベーション」は経済成長だけでなく、環境問題、地域活性化、貧困対策などの社会課題を解決する手段としても注目されています。イノベーションとは、単なる技術革新（テクノロジーの発展）だけではなく、新しい製品やサービスの創出、ビジネスモデルの変革、社会制度の改革を通じて、「社会に新たな価値をもたらすプロセス」を指します。例えば、スマートフォンは通信技術の進化だけでなく、人々のコミュニケーションのあり方そのものを変えたイノベーションの一例です。中でも、「社会イノベーション（ソーシャル・イノベーション）」は、社会的課題の解決を目的とした新しい仕組みや制度の構築を意味します。例えば、シェアリングエコノミー（UberやAirbnb）や、再生可能エネルギーを活用した地域電力システムなどは、社会イノベーションの代表例といえます。これらのイノベーションは、単なる企業の利益追求ではなく、社会全体の持続可能性や公平性の向上を目的としています。

本講義では、イノベーションの基本概念から、社会における実践的な事例、さらには企業がどのようにイノベーションを生み出し活用しているのかを学びます。講義の前半では、「イノベーションが生まれる社会的・経済的背景」を探り、後半では、「企業や組織がどのようにイノベーションを促進し、活用しているのか」を具体的に考察します。

本講義を通じて、学生はイノベーションを単なる技術革新や経済成長の手段として捉えるのではなく、社会課題解決の手段としても理解し、応用できる力を養います。社会イノベーションの重要性を学び、自らの視点で新たな価値創出の可能性を考える契機となることを期待しています。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・イノベーションが生まれる社会的・経済的背景の理解
- ・企業におけるイノベーションのプロセスと戦略の把握
- ・競争環境におけるイノベーションの役割と影響の分析
- ・社会課題解決の手段としてのイノベーションの活用方法の考察
- ・論理的な思考力と実証的な分析能力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを活用した講義形式を基本としながら、受講生が主体的に学べるよう、ディスカッションも適宜実施します。理論的な枠組みだけでなく、実際のビジネス事例や政策動向を交えながら、より実践的な視点でイノベーションを考察する機会を提供します。

また、最新の研究成果や社会動向を適宜取り入れ、企業の実際のイノベーション活動がどのように展開されているのかをリアルタイムで学ぶことを重視します。受講生には、積極的に議論に参加し、批判的かつ創造的な視点を持って学習を進めることが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションとは何か？	イノベーションの定義と本講義の概要
第2回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権概念から企業の目的を考察
第3回	資本主義と競争	資本主義の基本原則と競争のメカニズム
第4回	社会における分業と協業	生産活動を効率的に行うための分業と協業の役割
第5回	ソーシャルイノベーション	社会課題の解決を目的としたイノベーションの実践
第6回	ビジネスモデルの見取り図	価値創出の重要性とビジネスモデルキャンパスの理解
第7回	競争戦略論	競争優位を獲得するための戦略の基礎
第8回	ブルーオーシャン戦略	価値革新を通じた競争の回避と市場創出
第9回	ビジネスエコシステム論	産業構造の変化と水平分業への転換
第10回	規制とイノベーション	競争環境を形成する強制的ルールとしての規制
第11回	標準とイノベーション	競争環境を形成する自発的ルールとしての標準
第12回	知的財産制度	知的財産の保護とイノベーション促進の関係
第13回	オープン＆クローズ戦略	エコシステムの発展と競争優位の確保の両立
第14回	まとめ	前期の学習内容の総括とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

本講義は、後期開講の「社会・イノベーション論Ⅱ」と連続する内容となっており、より高度な理解を深めるために、両方の履修を推奨します。受講生には、イノベーションに関する基礎的な知識を習得するとともに、実社会での応用を意識しながら学ぶ姿勢が求められます。

【Outline (in English)】

The course "Social Innovation Theory I" explores the role and mechanisms of innovation in society, emphasizing both theoretical foundations and real-world applications. Innovation is not only technological advancement but also the creation of new business models and social systems that generate value. This course examines how innovation emerges from social and economic contexts and how companies and organizations drive and implement innovation. Special attention is given to social innovation, which aims to address societal challenges such as sustainability, inequality, and community development. Through lectures and discussions, students will gain a comprehensive understanding of how innovation contributes to both economic growth and social progress.

By the end of this course, students will be able to understand the social and economic conditions that foster innovation, analyze the processes and strategies of innovation within organizations, evaluate the role of innovation in competitive environments, explore how innovation can be used as a tool for solving social issues, and develop logical thinking and analytical skills.

Students are expected to actively engage in class discussions and review relevant literature before each session. They should also spend approximately two hours per week preparing for lectures and reviewing course content in order to deepen their understanding and contribute meaningfully to class discussions.

Grading is based on a final examination, which accounts for one hundred percent of the overall evaluation. This assessment will measure students' understanding of key theories, their ability to apply concepts critically, and their capacity to articulate logical arguments using real-world examples.

MAN300EB (経営学 / Management 300)

社会・イノベーション論 II

糸久 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「新しい技術や制度がどのように社会に影響を与え、イノベーションを生み出しているのか」をテーマに、技術・政策・マネジメントの視点から社会イノベーションを深く学びます。前期の「社会・イノベーション論 I」で学んだイノベーションの基礎的な考え方や企業のイノベーション戦略を踏まえ、後期ではより具体的に「技術の社会実装」について考えていきます。

例えば、AIやロボット、IoT、シェアリングエコノミーといった新しい技術は、私たちの暮らしや働き方をどのように変えていくのか。また、環境問題の解決に向けたグリーンイノベーションや、モビリティの未来を形作る次世代エコシステムなど、社会を大きく変える技術と政策はどのように設計されているのか。こうした問いをもとに、各国のイノベーション政策の事例を分析し、企業がどのように技術革新と経営を両立させているのかを学びます。さらに、イノベーションを成功に導くには、単なる技術開発にとどまらず、企業のオペレーションマネジメント（業務プロセスの最適化）が不可欠です。どれほど優れた技術であっても、それを効率的かつ持続的に運用できなければ、社会に大きな影響を与えることはできません。製品やサービスの品質管理、コスト管理、納期管理といったオペレーションの視点を学びながら、技術革新と経営管理の両立についても考察します。

本講義では、理論だけでなく実際のビジネス事例を交えながら、技術・政策・マネジメントの視点を統合して社会イノベーションを考える力を養います。技術が社会にどのように組み込まれ、新しい価値を生み出すのかを深く理解し、持続可能なイノベーションを創出するための知識と視点を身につけることを目指します。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・新興技術とイノベーションの関係を理解し、技術が社会に与える影響を分析する力
- ・イノベーション政策の役割を理解し、各国の政策事例をもとに政策が企業や社会に及ぼす影響の考察
- ・オペレーションマネジメントの基本概念を把握し、企業がイノベーションと業務効率化を両立させる手法の理解
- ・技術・政策・マネジメントの視点を統合し、持続可能な社会イノベーションの実現に向けた戦略の検討
- ・実践的な視点から社会イノベーションを分析し、論理的な思考力と実証的な分析能力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部ディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを活用した講義を基本としつつ、各回のテーマに応じたディスカッションも取り入れます。受講生は、講義内での議論を通じて、自らの考えを深める機会を得るとともに、最新の事例を基に理論と実践の接続を図ります。

また、イノベーションの社会実装に関する理解を深めるため、各国の政策動向や企業の先進事例についても紹介し、単なる理論学習にとどまらない実践的な知識を身につけることを重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性を概観
第2回	デザイン思考	創造的な問題解決手法としてのデザイン思考の意義と活用
第3回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費行動の実態とその社会的影響を考察
第4回	人工知能とロボット共生社会	AI・ロボット技術が人間社会に与える影響を多角的に分析
第5回	次世代モビリティエコシステム	モビリティ分野のイノベーションを探索
第6回	IoT社会のに向けたイノベーション政策	欧州を中心としたIoT社会実現のための政策事例を分析
第7回	グリーンイノベーション政策	カーボンニュートラル実現に向けた政策と技術革新の関係を理解
第8回	両利き経営	企業がイノベーションとオペレーション活動を両立させるための戦略
第9回	制約理論	組織のボトルネックを特定し、効率的に解消する方法
第10回	品質管理	イノベーションの実装過程における品質管理の重要性
第11回	コスト管理	コスト削減とイノベーション投資のバランスを考察
第12回	納期管理	競争優位を確立するための納期管理とサプライチェーンの最適化
第13回	フレキシビリティ	企業が品種と生産量の変動に対応するための柔軟性戦略
第14回	総括	社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

本講義は、「社会・イノベーション論 I」で学んだ基礎知識を踏まえ、より実践的な視点から社会イノベーションを探索する内容となっています。そのため、「社会・イノベーション論 I」の履修は必須ではありませんが、本講義の理解を深める上で推奨されます。社会イノベーションは、技術・政策・経営の複合的な視点を必要とする分野であり、単なる知識の習得だけでなく、理論を実社会に応用する姿勢が求められます。本講義を通じて、受講生が自らの関心を社会と結びつけ、持続可能なイノベーションのあり方を主体的に考えることを期待します。

【Outline (in English)】

The course "Social Innovation Theory II" explores how new technologies, policies, and management strategies contribute to social innovation. Building on the foundational knowledge from "Social Innovation Theory I," this course focuses on the practical implementation of innovation in society. Students will examine emerging technologies such as AI, IoT, and mobility ecosystems, analyze innovation policies across different countries, and study how businesses integrate innovation with efficient operational management. Through case studies and discussions, the course aims to provide a comprehensive understanding of how innovation is effectively adopted and scaled within society.

By the end of this course, students will be able to analyze the relationship between emerging technologies and innovation, assess the role of innovation policies in shaping business and societal change, understand the fundamentals of operations management in the context of innovation, and integrate technological, policy, and management perspectives to develop sustainable innovation strategies.

Students are expected to actively engage in discussions, review case studies, and conduct independent research. A minimum of two hours per week should be allocated to class preparation and review to deepen understanding and contribute effectively to discussions.

Grading is based on a final examination (100%), which evaluates students' comprehension of key theories, analytical skills, and ability to apply learned concepts to real-world scenarios.

MAN200EB (経営学 / Management 200)

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「日本経済の根幹を支える中小企業の可能性と挑戦を学ぶ」ことをテーマに、理論と実践の両面から中小企業の経営戦略を探究します。中小企業は、大企業にはない柔軟性や地域との強い結びつきを活かし、新たな価値を生み出す力を持っています。一方で、限られた経営資源の中で生き残り、成長し続けるために独自の経営手法を採用してきました。

本講義では、従来の研究が提示してきた「資源制約により発展が妨げられる『問題型』の中小企業論」と「小さいからこそ持つ発展性や競争優位性に着目する『貢献型』の中小企業論」の両面を学びながら、中小企業の実態を深く理解していきます。特に、多摩地域で活躍する中小企業の経営者を毎回異なるゲストとして、計8回程度の講演を実施します。これにより、「リアルな経営の現場」に触れる機会を大幅に増やし、実践的な知識を得ることができます。ゲスト講演では、企業の成長戦略、新規事業の立ち上げ、地域との関わり方、経営者の決断など、教科書では学べない生の経営の知恵を直接聞くことができます。

本講義は、「経営戦略を学びながら、実際の経営者の話を聞ける、まさにビジネスの最前線を体感できる授業」です。中小企業の可能性や課題を深く理解し、将来のキャリアに活かしたい学生にとって、実りの多い学びの場となるでしょう。

【到達目標】

本講義を通じて、以下の能力を養うことを目標とします。

- ・中小企業が持つ「問題性」と「発展性・競争優位性」の両面を理解し、企業規模が経営に与える影響を考察する力の習得
- ・多摩地域の中小企業経営者の実体験を通じて、企業経営の現場に即した実践的な知識を獲得する力の向上
- ・ベンチャー企業や地域密着型企業の成長戦略を分析し、持続可能な経営モデルについて考える力の育成
- ・中小企業と地域社会の関係性を理解し、地域経済における中小企業の役割を考察する視点の強化
- ・講義で学んだ理論と実践を統合し、自らのキャリアやビジネスに応用するための思考力と判断力の向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、講義形式とゲストスピーカーによる講演を組み合わせた「アクティブ・ラーニング型授業」です。

前半（1～5回）では、中小企業の基本理論を学び、企業規模の特性や経営戦略の違いを理解します。

後半（6～13回）では、多摩地域で活躍する中小企業経営者をゲストに迎え、リアルな経営の現場について学びます。受講生は、事前にゲスト講演に関連する課題を調査し、講演後にディスカッションやリアクションペーパーを作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の目的・進め方の説明

第2回	中小企業とは？	中小企業の定義と、日本経済における役割を理解
第3回	複眼的視点からの中小企業論	資源制約の中で競争優位を確立する戦略
第4回	イノベーションと中小企業	独自の技術やビジネスモデルを生み出す中小企業を分析
第5回	産業集積と産業クラスター	産業クラスターを活用した中小企業の成長戦略
第6回	多摩地域の中小企業(1)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第7回	多摩地域の中小企業(2)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第8回	多摩地域の中小企業(3)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第9回	多摩地域の中小企業(4)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第10回	多摩地域の中小企業(5)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第11回	多摩地域の中小企業(6)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第12回	多摩地域の中小企業(7)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第13回	多摩地域の中小企業(8)	経営者によるゲスト講演&ディスカッション
第14回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、教室での学びに加えて、経営者のリアルな経験を直接聞くことができる貴重な機会を提供します。授業で得た知識を活かし、実際の経営者に質問することで、より深い学びにつなげることができます。

「将来、経営や起業に関心がある」「企業経営のリアルを知りたい」「中小企業の持つ魅力と可能性を学びたい」という学生にとって、大変有意義な講義です。

【Outline (in English)】

The course "Small and Medium-Sized Enterprise (SME) Management" explores the role, challenges, and growth strategies of SMEs, which are the backbone of the Japanese economy. While SMEs face resource constraints, they also possess unique competitive advantages such as flexibility, innovation, and strong regional ties. This course provides both theoretical insights and practical knowledge, incorporating guest lectures from successful SME entrepreneurs in the Tama region to offer firsthand perspectives on real-world management challenges and strategies. Through these interactions, students will gain a deeper understanding of how SMEs adapt, innovate, and contribute to regional economic development.

By the end of the course, students will be able to understand both the challenges and competitive strengths of SMEs, analyze business strategies for growth and sustainability, evaluate the role of SMEs in regional economies, and integrate theoretical and practical knowledge to formulate management insights applicable to real-world business situations.

Students are expected to actively engage in discussions and prepare for guest lectures by researching the industries and companies in advance. Additionally, they should allocate at least two hours per week for reviewing lecture content and completing assignments.

Grading will be based on reaction papers (40%), assessing students' reflections and questions on guest lectures, and a final exam (60%), evaluating their understanding of SME management theories and practical applications.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

地域産業論 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。

最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。

期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。

フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランチェスター戦略・グルディス・討議	能力・資源で勝るもの勝つ方法・グルディス・討議
第2回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第3回	ものづくりは設計情報の転写	プロセス分析
第4回	ランチェスター戦略2	様々な事例
第5回	映画スーパーの女	スーパー立て直しの実話
第6回	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスト5.ベンチマーキング	1.企業と市場との関係2.原価企画3.環境コストマネジメント4.ライフサイクル・コスト5.ベンチマーキング
第7回	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係	1.価格決定2.ABC/ABM 3.品質とコストの関係
第8回	日本の農業の問題点製造業化する農業・グルディス・討議	ベルグアース・グルディス・討議
第9回	第三セクターアウガの失敗	第三セクターアウガの失敗
第10回	稼ぐまち	稼ぐまちになるには
第11回	縮小ニッポンの衝撃夕張市	縮小ニッポンの衝撃鈴木直道元夕張市長

第12回	島根県の人口流出	関係人口
第13回	撤退戦の殿（しんがり） 1. 3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2. 財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3. 夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4. 福井県の事例5. 山口県の事例6. ソフトな予算制約7. 学んでおいの方が望ましいいくつかの概念8. ポンチ絵で因果関係を整理してみよう	撤退戦の殿（しんがり） 1. 3割自治と地方交付税と国庫支出金（補助金）2. 財政再生団体となった夕張市が借金を返済できる仕組み3. 夕張市のように自主財源3割にも満たぬ自治体は実は数多い4. 福井県の事例5. 山口県の事例6. ソフトな予算制約7. 学んでおいの方が望ましいいくつかの概念8. ポンチ絵で因果関係を整理してみよう
第14回	国境を越えるクラスター同士の連携・グルディス・討議	東アジアのハードディスクドライブ産業・グルディス・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹 (著), 高橋 望 (著), 加藤 一誠 (著), 榎原 胖夫 (著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭 (著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社

中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業時間内に行われる毎回のミニテストの点数の累計点55%。
2. 授業時間内に行われる毎回のディスカッションでの発言の点数の累計点15%。
3. 授業後に課される課題の点数の累計点10%。
4. 期末試験期間に行われる期末試験の点数20%。

事前に予習動画を視聴してくることを前提に、毎回の授業でミニテストを行います。ミニテスト後に解説を行い、解説を踏まえた上でディスカッションを行います。毎回簡単な課題が課され、期末試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回課題を課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PCによるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries and to enable each participant to acquire the eyes (concepts and theories) necessary to think about regional industries and to become involved in the revitalization of regional industries.

ECN300EB (経済学 / Economics 300)

地域産業論 II

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきかを考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。

数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期に登場すること
第2回	推し推される関係について	マーケティング戦略の分析概念を適用して『ももいろクローバーZ』現象を捉え直す。「メンバー」と「スタッフ」と「モノノウ」
第3回	まちおこしとあまちゃん、その前提	まちおこしとあまちゃん、そのぜんていとなるもの
第4回	顧客は何を買っているのか	便益の束 三層構造
第5回	まちおこしが描かれるあまちゃんの世界	まちおこしが描かれるあまちゃんの世界
第6回	マーケティングとまちづくり	マーケティングとまちづくり
第7回	マーケティングの事例とあまちゃん	マーケティングの事例とあまちゃん
第8回	絞れば広がる、広がるところに絞る	絞れば広がる、広がるところに絞る
第9回	東京1一極集中の背景	産業構造の変化と人口移動
第10回	日本の戦後の道のり	日本の戦後の道のり
第11回	田中角栄の功罪	田中角栄の功罪
第12回	産業構造の高度化と人口移動	産業構造の高度化と人口移動
第13回	集積の経済と混雑の不経済	集積の経済と混雑の不経済
第14回	集積の経済と混雑の不経済	集積の経済と混雑の不経済

第12回	「企業」を「群」として見る視点	ものづくりは設計情報の転写 分業と産業集積
第13回	あまちゃんに描かれるあいどる	あまちゃんに描かれるあいどる
第14回	草津温泉	草津温泉再生物語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

参考資料は紹介します

【成績評価の方法と基準】

1. 授業時間内に行われる毎回のミニテストの点数の累計点55%。
2. 授業時間内に行われる毎回のディスカッションでの発言の点数の累計点15%。
3. 授業後に課される課題の点数の累計点10%。
4. 期末試験期間に行われる期末試験の点数20%。

事前に予習動画を視聴してくることを前提に、毎回の授業でミニテストを行います。ミニテスト後に解説を行い、解説を踏まえた上でディスカッションを行います。毎回簡単な課題が課され、期末試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

情報量が多い、課題が多い、でも面白いという評価が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

PCないしタブレット、スマホでは厳しい

【その他の重要事項】

口頭での説明の消化、板書内容の消化等が課題を解く上で必要です。

【Outline (in English)】

By taking up regions with different characteristics and examining the specific realities and theories of regional industries, we aim to acquire the concepts and theories necessary when considering regional industries. The theme of this course is to consider how these concepts and theories should be utilized in the analysis and discussion of actual regional industries. The lesson plan is subject to change slightly depending on the development of the class.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。
課題等に対するフィードバックは、授業の中でリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	産業と社会変動 1	仕事とは何か？（工業社会、産業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第3回	産業と社会変動 2	技術と近代（テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなど）
第4回	産業と社会変動 3	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第5回	社会関係・制度 1	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第6回	社会関係・制度 2	労働市場と労使関係（労働市場論・労使関係論から見る今日の変容）
第7回	社会関係・制度 3	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第8回	意識・文化 1	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第9回	意識・文化 2	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）

第10回	再生産 1	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）
第11回	再生産 2	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）
第12回	持続可能性 1	身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）
第13回	持続可能性 2	グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（40％）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

資料講読や動画視聴などを取り入れつつ、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%, term-end examination: 60%

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。雇用形態の変化、環境問題やリスクの拡大、グローバル化や多様性の包摂など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

・適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	雇用はどう変化しているのか？
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』を読む、グループ・ディスカッション）
第5回	労働時間について2	産業社会と労働時間（『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働と環境について1	労災・公害問題を考える（ゲスト講師、アスベスト労災問題を考える）
第7回	労働と環境について2	エッセンシャルワークをめぐる労働環境と処遇について考える
第8回	労働と環境について3	地域における生業と公害問題を考える（『阿賀に生きる』を観る）
第9回	インフラと労働について1	開発主義と労働の戦後史について考える
第10回	インフラと労働について2	開発主義の現在について考える
第11回	越境的な移動について1	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第12回	越境的な移動について2	日本とアジア諸国における越境的労働市場について考える

第13回 越境的な移動について3 移動の拡大と社会統合について考える

第14回 まとめ 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（40％）
リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など
- ②期末テスト（60％）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション回はメンバーを固定せず引き続きランダムで座席表を指定することで、多様な意見に触れるようにする。全体討議では黒板を利用して、議論の流れや多様な論点を可視化する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

- ・秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。
- ・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and to develop communication skills in discussion.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports: 40%, term-end examination: 60%

SES100EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

サステナビリティ論 A

高橋 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、「サステナビリティ：持続可能性」に関係する社会問題を総覧することにある。社会政策科学科のサステナビリティコースの入門的な選択必修科目として、コースの基盤となる知識を習得する。サステナビリティの基礎概念について学んだ上で、環境問題を中心にサステナビリティに関わる具体的事例を検討する。

【到達目標】

- 1：サステナビリティの基礎概念や背景を理解する。
- 2：環境問題を中心にサステナビリティに関わる社会問題の具体的事例を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部ディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを書くことをお勧めする。

講師は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に考えてくること。受講生は積極的に発言することが求められ、こちらから指名することもある。授業で扱う様々な課題に関心を持ち、自主的に調べることも重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	サステナビリティとは何か？	サステナビリティの定義、考え方
第3回	サステナビリティの概念	サステナビリティの専門的・発展的概念
第4回	自然環境のサステナビリティ	環境問題の構図と分類、公共財と負の外部性
第5回	四大公害病と環境庁の設置	水俣病、自治体の公害防止条例、環境庁の設置
第6回	気候変動問題と気候変動枠組条約	気候変動問題の構図と要因、緩和と適応、気候変動枠組条約とパリ協定
第7回	脱炭素と再生可能エネルギー	カーボン・ニュートラル、再生可能エネルギー
第8回	グループ討論	気候変動問題に関するグループ討論
第9回	経済活動のサステナビリティ	環境経営、ESG投資
第10回	社会生活のサステナビリティ	社会保障、財政、教育
第11回	調査発表Ⅰ	（発表8分＋討論10分）×5名
第12回	調査発表Ⅱ	（発表8分＋討論10分）×5名

第13回 サステナビリティ 今後の課題と展望の展望

第14回 授業の総括 授業のまとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第2版』（法律文化社、2018年）
- ・白井信雄『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』（大学教育出版、2020年）
- ・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
- ・森晶寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝15点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点×1回以上（調査発表は18点満点）
- 4：期末試験＝67点

【学生の意見等からの気づき】

24年度までの授業において、学習支援システム上に受講生に意見を記入してもらう発言方法について、他の学生の多様な意見を聞ける、得点が付与されるため発言意欲がわくなど、評価が高かった一方で、一度の記入者が多い結果、得点の対象とならないことがあることへの不満が寄せられていた。25年度には、授業支援アシスタントの協力を得ることで得点対象を広げることができた。これを26年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、関連資料をダウンロードする。WebClassの機能を授業中に使うため、スマートフォン等でアクセスできるようにする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This is a lecture course about the notion of sustainability. You will be able to understand the basic notion and background of sustainability, and discuss concrete cases of environmental problems based on such a notion. You will be graded by such criteria as class-participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES100EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

サステナビリティ論B

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」にかかわる社会問題を取りあげて、サステナビリティの観点からの政策的な対応を検討します。
 コースへの入門講義として、なるべく皆さん（主として1年生）の関心に即したテーマを扱っていききたいと思います。

【到達目標】

いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）を取りあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について紹介・検討します。

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で全体に対して答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。コース専門科目のA群科目であり、中心的な履修生としては社会政策科学科の1年生を想定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会問題と政策、サステナビリティ
第2回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第3回	健康・医療の問題	生活習慣（病）、超高額医療、終末医療
第4回	介護・障害の問題	認知症・介護保険、障害への合理的配慮、出生前診断
第5回	家族の問題	婚姻・親子、同性婚、人工生殖
第6回	子育ての問題	保育所、児童虐待、母子世帯
第7回	補説	前半部分の補足、ライフサイクルとサステナビリティ
第8回	ジェンダーの問題	男女差別、性同一性障害、マイノリティ
第9回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援、相対的貧困
第10回	年金・老後保障の問題	公的年金、私的年金（iDeCo、NISA等）
第11回	労働市場の問題	賃金労働、就活・転職、失業保険
第12回	労働環境の問題	日本型雇用、賃金、労働法制
第13回	人口減少の問題	将来人口推計、出生率対策、児童手当
第14回	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『ソーシャルプロブレム入門』（信山社、2021年）（2500円+税）を教科書として指定します。
 （なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70%）、中間試験（30%）の予定です。
 希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
 科目名（サブ）は旧課程の「環境問題B」を引き継いでいますが、この科目では環境問題は扱わないので、注意してください。
 担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。
 なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。
 おもに社会政策科学科の1年生向けの話（大学生活にかかるガイダンス的な内容）が多く含まれることにつき、あらかじめご了承ください。

【Outline (in English)】

This course deals with social problems and social policies.
 At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
 Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

福祉社会学 I

堅田 香緒里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の歴史／学説史を理解する。
- 2) 現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
- 3) これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救貧法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジーム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジーム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	福祉国家論③	福祉レジーム論への批判と、新しいレジーム論
9	福祉国家の論点①シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
10	福祉国家の論点②自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	福祉国家の論点③：ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	福祉国家の論点④：自立と依存	フェミニズム／障害学が投げかける問い
13	福祉国家の論点⑤：再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	授業内試験、まとめ	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、テーマ毎に設定する課題の提出40%、最終テスト60%で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state. By the end of the course, students are expected to understand the meaning and function of welfare in society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1)short reports 40%, 2)term-end examination 60%.

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

福祉社会学Ⅱ

堅田 香緒里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金1/Fri.1

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】

- 1) 既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
- 2) 福祉政策が現在直面している課題について理解する。
- 3) これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代の文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。

※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①：障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②：高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③：子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ひとり親
5	福祉政策の実際④：低所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①：健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②：教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③：住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア
13	新しい福祉政策②	アクティベーション、参加所得
14	新しい福祉政策③	ベーシックインカム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、テーマごとに設定する課題の提出40%、最終レポート60%で行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出してもらうリアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state. By the end of the course, students are expected to understand the situation surrounding today's welfare policies and to acquire the ability to envision desirable future welfare policies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following; 1)short reports 40%, 2)term-end examination 60%.

LAW200EB（法学 / law 200）

社会保障法Ⅰ

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険、金融業界と保険会社
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	雇用保険①	失業したらどうするか
5	雇用保険②	育児休業や介護休業、再就職のための給付
6	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
7	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
8	労働保険・補説	前半部分の補説、まとめ
9	医療保険①	病気になったらどうするか
10	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
11	医療保険③	どういう医療を受けられるのか、高齢者医療
12	介護保険①	（親が）寝たきりや認知症になったら
13	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
14	補説、まとめ	後半部分の補説、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（一部を秋学期の社会保障法Ⅱに回すこともあり得ます。）

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB（法学 / law 300）

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄をなるべく扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 公的年金①	（春学期の復習、） 年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか――全国共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか――サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、 障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか（iDeCo等）
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	どういうときに支給されるのか、 保護の補足性、稼働能力の要件
10	生活保護②	いくら支給されるのか、基準及び 程度の原則
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、ひとり親家庭への 手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森戸英幸・長沼建一郎『ややわかりやすい社会保険（法）』（弘文堂）。（なお基本的にテキストに沿って進めることもあり、授業のオンライン配信等はいりません。）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100％）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。（春学期の社会保障法Ⅰの内容の一部を扱うこともあり得ます。）担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。なお担当教員は難聴のため、発言や会話の際は、大きめの声でお願いします。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅰ

高橋 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境問題の構図を理解し、それへの公的対処行動である環境政策を学ぶことにある。現代において環境問題は、景観など身近な問題から地球規模の気候変動問題まで多様であるが、政府による環境政策は一般に十分と言えない場合が多い。学際的な観点から、そのような政策課題にアプローチし、環境政策のあり方を考えていく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅰの後にⅡを履修することを強くお勧めする。

【到達目標】

- 1：環境問題の構図や背景を理解する
- 2：環境問題に対する公共政策の基礎概念を習得する
- 3：環境問題への具体的な対処策を考察し、提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを書くことをお勧めする。

講師は授業中に様々な質問をする。いくつかの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、環境問題をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明、自由討論
第2回	環境問題の定義と分類	環境と環境問題の定義、環境問題の分類
第3回	環境問題の具体例と歴史的変遷	産業公害型環境問題、都市生活型環境問題、地球環境問題
第4回	「市場の失敗」から考える環境問題	公共財・コモンプール財・自由財、負の外部性と外部費用
第5回	持続可能性と環境正義	エコロジーの概念、定常経済論、持続可能性の概念、環境正義の概念
第6回	公共政策の基礎概念	公共政策の定義、公共政策論の基礎概念、政策分析論と政策過程論
第7回	環境政策の原則	未然防止原則と予防原則、汚染者負担原則と拡大生産者責任原則
第8回	環境政策の手法	規制的手法と経済的手法、合意的手法、情報的手法

第9回	環境政策の主体	環境省、経済産業省、環境NGO、地方自治体
第10回	環境法の体系と環境訴訟	環境基本法、環境権、国際環境法、環境訴訟
第11回	国際経済における環境問題	多国籍企業と汚染逃避仮説、公害輸出、自由貿易と環境保護
第12回	グループ討論	特定のテーマについてグループ単位で討論
第13回	環境政策の展望	21世紀の環境問題と環境政策
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは、学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大塚直他『18歳からはじめる環境法 第2版』（法律文化社、2018年）
- ・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』（有斐閣、2006年）
- ・環境省編『環境・循環型社会・生物多様性白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・デイリー、H.『持続可能な発展の経済学』（みすず書房、2005年）
- ・松下和夫『環境政策学のすすめ』（丸善出版、2007年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝20点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点
- 4：期末試験＝62点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

WebClassに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。WebClassのチャットやアンケートの機能を授業中に使うため、パソコンやスマートフォン等でアクセスできるようにする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経済産業省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course teaches basic knowledges and ways of thinking of environmental problems and environmental policies to solve them. You will be able to understand mechanism and background of environmental problems, master concepts of environmental policies, and propose concrete solutions. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SES200EB（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 200）

環境政策論Ⅱ

高橋 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、環境政策論Ⅰを踏まえ、様々な環境問題の事例を取り上げ、それへの政策的対処策を考察することにある。高度経済成長時代の公害問題、廃棄物問題、気候変動問題などを取り上げ、それぞれの環境問題の構図を理解するとともに、その政策過程を踏まえ、対処策を実践的に議論していく。

環境政策論Ⅰで理論を中心に学び、それを前提に環境政策論Ⅱでは個別の環境問題を検討するため、Ⅱを履修する前にⅠを履修することを強く勧める。

【到達目標】

- 1：代表的な環境問題の事例について、理論を踏まえつつ実践的に理解する
- 2：気候変動問題などに対して、具体的な対処策を提案する能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義を中心に進める。パワーポイントのPDFスライドを、授業の2日前までにWebClass上に掲載するので、一読の上、印刷するなどして授業に持参すること。その上にノートを記すことをお勧めする。

教員は授業中に様々な質問をする。多くの質問は講義スライドに明記してあるので、事前に予習してくる。受講生は質問への回答をWebClassのチャット欄に記入することが求められ、それをその場で紹介することで議論や理解を深める。第12回授業では、エネルギー・気候変動をテーマにしたグループ討論を行う。また、リアクションペーパーにはコメントを付けて返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	シラバスの説明：授業の内容、進め方、評価方法
第2回	公害問題としての水俣病	公害の定義、水俣病の被害、水俣病訴訟
第3回	公害問題の構図と環境基準	環境基準、水質汚濁防止法、大気汚染防止法、経済調和条項
第4回	環境庁設置の政治過程	省際紛争と総合調整、革新自治体と公害防止条例、公害国会
第5回	自然環境保護と生物多様性	自然公園制度、自然の権利、生物多様性条約
第6回	廃棄物問題と循環型社会	産業廃棄物と一般廃棄物、循環型社会と3R、産廃処理事業と豊島事件
第7回	都市における環境問題	都市計画、都市緑化、交通環境政策、省エネルギー
第8回	気候変動問題と気候変動枠組み条約	気候変動の被害、温室効果ガスと化石燃料、パリ協定、気候変動訴訟

第9回	エネルギー転換と脱炭素	カーボンプライシング、グリーン成長、デカップリング、脱炭素宣言
第10回	原子力発電と東京電力福島第一原発事故	国策民営と立地交付金、放射能汚染と避難、事故責任と損害賠償
第11回	再生可能エネルギーと地域社会	再エネと地域経済、メガソーラーの景観破壊問題、営農型太陽光発電
第12回	グループ討論	エネルギー・気候変動問題に関するテーマを取り上げ、グループ別に討論
第13回	環境政策の展望	グループ討論のまとめ、21世紀の環境問題
第14回	授業の総括	授業のまとめ、授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回参照する教科書は特になし。講義用スライドは学習支援システム上に毎週授業2日前に掲載する。

【参考書】

- ・大沼あゆみ・岸本充生『汚染とリスクを制御する』（岩波書店、2015年）
- ・亀山康子『新・地球環境政策』（昭和堂、2010年）
- ・環境省編『環境白書』各年版
- ・倉阪秀史『環境政策論 第3版』（信山社、2015年）
- ・高橋洋『エネルギー政策論』（岩波書店、2017年）
- ・新澤秀則・高村ゆかり『気候変動政策のダイナミズム』（岩波書店、2015年）
- ・政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）
- ・森品寿他『環境政策論』（ミネルヴァ書房、2014年）
- ・鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』（岩波書店、2015年）

【成績評価の方法と基準】

以下の4つの要素から100点満点で評価する。

- 1：授業貢献点＝24点（授業での発言、質問等）
- 2：授業内アンケート＝10点
- 3：リアクションペーパー＝8点（A4・1枚程度）
- 4：期末試験＝58点（自筆ノートのみ持ち込み可）

【学生の意見等からの気づき】

授業内で発言機会が多く、それに授業貢献点という誘因が与えられていること、リアクションペーパーがコメント付きの返信がなされることなどの評価が高く、これらは継続したい。24年度は授業の最後に時間が足りなくなりがちな点を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに事前にアクセスし、各回の授業の告知を閲覧し、資料をダウンロードする。

【その他の重要事項】

担当教員は、内閣官房での2年半の実務経験がある他、内閣府、経産省、外務省、農林水産省、大阪府・市などの審議会の委員として、気候変動政策・再生可能エネルギー政策の形成に関与してきた。本講義の中では、それら政策実務の知見を適宜紹介していく。

【Outline (in English)】

This course discusses cases of environmental problems and related policies based on Environmental Policy 1. You will be able to understand mechanism and background of various cases of environmental problems, such as environmental pollutions and climate change, and propose concrete solutions to them practically. You will be graded by such criteria as class participation, a reaction paper, and the final exam. Your study time will be about two hours for each class.

SOC100EB（社会学 / Sociology 100）

グローバル市民社会論 A

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

グローバル市民社会についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してこること。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論

13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
14	ウクライナ、ガザ、…での戦争とグローバル市民社会	分科会と全体討論による、受講生と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円＋税。

岡野内正研究室のサイト（<https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/>）にある諸論文。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報が無かったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC100EB (社会学 / Sociology 100)

グローバル市民社会論 B

中筋 直哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「グローバルでも市民社会でもなく：20世紀の地域社会学再読」

今、21世紀に喧伝されたグローバル化も市民社会も揺らいでいる、輝きを失っている。それには理由があり、まじめに反省しないと、グローバル化も市民社会もただ私たちを苦しめるだけだろう。この講義では20世紀後半の国民国家の枠組みの中で形成された、日本の地域社会学の基本問題を批判的に読み直すことを通して、現代の私たちの社会の未来を考える手がかりを探る。

【到達目標】

- ・日本の地域社会とくに政策的側面を、社会学を使って考える基本を学ぶ。
- ・日本の地域社会の将来を、社会学を使って考える手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	基礎知識1	21世紀のグローバル市民社会の幻影の終焉
第3回	基礎知識2	20世紀の日本の都市社会学・地域社会学の概略
第4回	町内会1	この国の美しい伝統、ではない
第5回	町内会2	コミュニティ・ソリューション、ではない
第6回	住民運動1	社会運動の下位類型の1つ、ではない
第7回	住民運動2	意識高い系が住民運動、ではない
第8回	グループディスカッション	グローバル市民社会の何が問題か、何が虚偽なのか？
第9回	重化学工業都市の地域社会構造1	工業の歴史社会学的意味
第10回	重化学工業都市の地域社会構造2	地域社会の構造分析の没落
第11回	女性の地域社会活動1	生活という言葉の盛衰
第12回	女性の地域社会活動2	女性の少数者性と多数者性
第13回	結論1	反グローバル化？ 閉じた国民社会の復活？
第14回	結論2	地域社会を／から開くとは政策としてどうすることなのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1枚程度のレポートを課す。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

森岡清志編『新・地域の社会学』（有斐閣）。講義内容を深く理解する上で有用。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が35%（提出しないとD）、論述式の期末試験が55%。「今日の課題」の総合評価が10%。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介を画像などを用いて具体的にを行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】

社会学部「都市と地域の社会学」ⅠⅡと重なる部分がある。合わせて受講するとより専門性が深まるのでぜひ勧めたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Theme: "Neither Globalization nor Civil Society: Reexamining 20th-Century LocalCommunity Studies." In this course, we will critically reexamine the fundamental problems of Japanese local community studies in the 20th century, and find hints to consider the future of our contemporary society.

(Learning Objectives)

Find hints to consider the future of Japanese local communities using sociology.

(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.

(Grading Criteria /Policy)Homework:10%,Report:35%, Final exam:55%.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

グローバル社会のローカリティ

中筋 直哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「おフランスの地域社会と国家」：「お」をつけたのは、私を含め日本人が長く彼の国に抱いてきた羨望や嫉妬を相対化するためである。彼の国の地域社会と国家はどのような社会構造をもつのか。そこから私たちは何を学べるのか。2年間の在外研究の知見を論じるので、遠い国の他人事と思わずに、比較社会学的に学んでほしい。

【到達目標】

- ・フランスの地域社会と国家の関係を、歴史的かつ具体的な視野から理解する。
- ・彼の国への理解を踏まえて現代日本の地域社会と国家の関係を批判的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	ストラスブールという都市1	交通と戦争が育んだ文化と産業
第3回	ストラスブールという都市2	EU首都の構想と現実
第4回	アルザス地方の歴史的展開1	農村社会の終焉と再生
第5回	アルザス地方の歴史的展開2	産業化と交通網
第6回	アルザス地方の現在	EU統合以後の持続と変容
第7回	シェンゲン協定以前と以後	地続きの国境のリアリティ
第8回	グループディスカッション	日本人にとっての「おフランス」を考える
第9回	トピック講義	近くて遠い首都パリ
第10回	フランスの地域制度と国家1	領域性と均質性への固執
第11回	フランスの地域制度と国家2	制度による合理的支配の神話と現実
第12回	EUのなかのフランスと地域社会1	EUからの関係と距離
第13回	EUのなかのフランスと地域社会2	EUへの関係と距離
第14回	結論	彼の国を鏡としてわが国とわが国の地域社会を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1枚程度のレポートを課す。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が35%（提出しないとD）、論述式の期末試験が55%。「今日の課題」の総合評価が10%。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介を画像などを用いて具体的にを行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの展開科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

(Course outline)In this course, we will understand the state and local societies of France for comparing our state and local societies by sociological perspective.

(Learning Objectives)Present sociological understanding of the state and local societies compared France and Japan.

(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.

(Grading Criteria /Policy)Homework:10%,Report:35%,Final exam:55%.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

市民運動論

中筋 直哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「学問運動」としてのおフランスの社会学：「お」をつけたのは、私を含め日本人が長く彼の国に抱いてきた羨望や嫉妬を相対化するためである。社会学という名を発明したオーギュスト・コント以来の彼の国の社会学の歴史を、ある特殊な知識が社会の中で発生、発展、深化、抗争、交替、衰退する、知の社会運動のプロセスとして分析する。そこから私たち日本人は何を学べるのか。2年間の在外研究の具体的な知見から論じるので、遠い国の他人事と思わずに比較社会的に学んでほしい。

【到達目標】

- ・社会学という知識の可能性と限界をフランス社会という枠の中で構造的に理解する。
- ・彼の国への理解を踏まえて現代日本における社会学の可能性と限界を批判的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で実施。学習支援システムで講義資料を事前配布する。質疑応答は対面時間内と学習支援システムを使って行う。課題については授業中に、期末試験については試験後に、学習支援システムを使って受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
第2回	基礎知識1	フランス近代史と学校教育制度
第3回	基礎知識2	フランス社会学の誕生と成長
第4回	デュルケムの社会学1	哲学からの完全な離陸
第5回	デュルケムの社会学2	ベルクソンら哲学のライバルたちとの抗争
第6回	デュルケムの後継者たち1	ブーグレらによる第三共和政への関与
第7回	デュルケムの後継者たち2	アルヴァックスらによる社会形態学の展開とその壊滅
第8回	グループディスカッション	日本人にとっての「おフランス」を考える
第9回	トピック講義「フランス社会学の現在」	ボルドーとストラスブールの研究機関を事例に
第10回	第二次世界大戦後の再出発	焼け跡闇市的な人材のごった煮とアメリカの影
第11回	第五共和政とアロン	政治やメディアと共生するアロン
第12回	1968年五月革命とフランス社会学	社会運動に知識を与えるトゥレーヌとブルデュー
第13回	神々の黄昏	グローバリゼーションのなかのフランス社会学の行く末
第14回	結論	彼の国を鏡としてわが国とわが国の社会学を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の上「今日の課題」に取り組んで学習支援システムに提出することが必要。また授業の中盤にA4×1枚程度のレポートを課す。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が35%（提出しないとD）、論述式の期末試験が55%。「今日の課題」の総合評価が10%。期末試験では、フランスへの理解を踏まえたわが国の地域社会に関する自分の考えを論理的に表明できることがAの条件。

【学生の意見等からの気づき】

事例の紹介を画像などを用いて具体的にを行う。ただしスライドショー形式の資料は使わない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。受動的に聴講するだけでなく「自分のノート」を作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの展開科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)In this course,we will analyze the history of sociology in France since Auguste Comte, who invented the term "sociology", as a process of "social movement."

(Learning Objectives)Understanding structurally possibilities and limits of sociology within French society and understanding critically possibilities and limits of sociology within Japanese society.

(Learning activities outside of classroom)Working on homework for each session and writing a report midst the course.

(Grading Criteria /Policy)Homework:10%,Report:35%,Final exam:55%.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業ノート」を作成してくる。「授業ノート」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④自分なりに考えてみたこと、あるいはみんなで話し合ってみたいこと、を書いてください。さらに、授業後には、⑤授業中の分科会の議論の論点、講師の説明、それについて授業後に自分で考えたこと、を書いてください。授業前半では少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の報告係になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらに深い問いをもてるようにする。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連SDGsの論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年、3300円+税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円+税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円+税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、授業ノートの5項目について、20%ずつ100%で評価します。何らかの事情で参加できなかった場合は、⑤の項目でその理由とともに、さらに別の資料を用いて調査し、わかったこと、考えたことを書いてください。具体的な問題について、事実に基づいて批判的に考える力を身につけるのが授業のねらいなので、考察のもとになる資料の書誌情報がなかったり、項目だけが書かれていて具体的な内容のある文章になっていない場合は、評価の対象にならないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ECN200EB（経済学 / Economics 200）

国際経済論Ⅰ

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅰでは、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心にして説明するとともに、トランプ政権下のアメリカの行動が劇的に国際経済秩序を破壊している状況を解説する。また、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。秋学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

パックスアメリカナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。
その中でアメリカが果たしてきた役割とその変質、米中蜜月から米中対立への変化、トランプ政権誕生後のアメリカと世界について理解することができる。また、EUの成立と発展、グローバルサウスの現状と課題、それらを含んだグローバル経済の現状と不均衡について、相互関係の中で理解できる。
それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
対面授業で行います。
この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、講義後に小課題を出す場合があります。その場合、課題の提出はHoppiiで行います。課題については、提出後の授業時に解説等のフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との相違、国際経済秩序とグローバル経済激変する国際社会の今
2回	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴 ・移民国家 ・理念と連邦共和政 ・人種差別とキリスト教
3回	アメリカと国際経済秩序①	アメリカの戦後構想 パックス・アメリカナの基本的枠組み

4回	アメリカと国際経済秩序②	パックス・アメリカナの変容。変動相場体制 ケインズ主義から新自由主義へ
5回	アメリカと国際経済秩序③	WTO体制の特徴とグローバル経済
6回	アメリカと国際経済秩序④	米中蜜月の終焉と米中新冷戦への転換
7回	アメリカと国際経済秩序⑤	トランプ政権と劇変する国際経済秩序
8回	EU①	EEC成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
9回	EU②	1992年欧州統合とEU マーストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
10回	EU③	EUの発展と動揺 加盟国の拡大と統合の深化 イギリスの離脱 ウクライナ戦争と戦略変更 植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD
11回	発展途上国①	新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題 新興市場諸国とグローバルサウス 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
12回	発展途上国②	トランプ政権の対外政策 分極化する世界 国際経済秩序の変容
13回	発展途上国③	
まとめ	分断が加速するグローバル経済	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『21世紀のアメリカ資本主義：グローバル蓄積構造の変容』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編著、大月書店、2023年。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。
『グローバルサウス入門』西谷修、工藤律子、矢野修一、所康弘、文眞堂、2024年。

【参考書】
明日香壽川『グリーン・ニューディール：世界を動かすガバナング・アジェンダ』岩波書店、2021年。
教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。
レポート 30%
定期テスト 70%

【学生の意見等からの気づき】
リアルタイムでのオンライン授業を行ったとき、復習のために録画もしてほしいという要望があり、録画も行って公開してきた。ただし、経済学は積み上げ型の学問であり、毎週見て学び身につけていくということを目的にしているので、公開期間は限定することにした。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論Ⅱを履修してはじめて理解できることもあるので、国際経済論Ⅱを履修することが必要である。

もちろん、テキストを事前に読み、理論的な学習をして講義に臨むというのが望ましいことはいうまでもない。

授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

ECN300EB（経済学 / Economics 300）

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的とする。

国際経済論Ⅱでは、国際経済学の基本的な理論について学ぶとともに、非主流派の経済学についても勉強します。具体的には、貿易理論と外国為替論、国際通貨論、国際投資の理論、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることで、グローバル経済を理論的に理解できるようになる。
それと同時に、理論と現実との緊張関係を理解し、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

対面授業で行います。オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。また、ズームで授業を録画し、公開するので、復習に活用してください。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
小テストについては、テスト終了後に解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロダクション	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2回	世界経済と自由貿易体制 GATT、WTO トランプ政権の国際経済秩序の否定	自由貿易体制 GATT WTO トランプ政権の関税政策
3回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の解説
4回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOSモデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOSモデルの紹介と説明

5回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オファーカーブ
6回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論
7回	貿易理論の小テスト 外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	貿易理論の小テスト 外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
8回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
9回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
10回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
11回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
12回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
13回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機 ドル体制とユーロ、人民元
まとめ	国際労働力移動の理論 まとめ	国際労働力移動の理論と現状

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。
『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、小テスト、レポート課題、期末試験によって行います。
貿易理論の小テスト 20%
レポート課題 20%
定期テスト 60%
貿易理論の小テストは、第7回の授業の冒頭に行います。

【学生の意見等からの気づき】

復習等のために録画をして公開してほしいということでしたので、録画を公開することにした。昨年は、公開期間を限定しない方がいいという意見が多かったので、授業期間中は常にみられるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。
授業計画は現実の世界経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: midterm exam 20%, submitted report 30% and final exam 40%; total: 100%.

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

社会学への招待

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学とはいかなる学問領域かということを探求しながら、専門学習に向けて自らの問題関心を醸成することを目的とする。

【到達目標】

社会学という学問領域の特徴・特性を学び、専門学習および2年次からはじまる専門演習の選択（ゼミ選び）のための手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回オムニバス形式で、社会学を専門とする講師陣が、それぞれの専門分野をベースに、いま一番おもしろと感じている研究テーマや研究方法等について講義する。社会学という学問は、何を対象とするかというより、対象に対して向ける視線や姿勢、切り口にこそその特質がある。各講師の講義を聴くことで、社会学の多様性と同時に、そこに一貫して流れるこの学問のもつ特質・特徴について考えていく。

なお、毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーについては、各回の担当教員がそれぞれの方針・方法に基づきフィードバックを行う（その有無も含む）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の概要説明（徳安彰）
2	島という空間：移住者と地域住民のパースペクティブ	講師：樋口明彦
3	態度の社会学	講師：池田裕
4	社会問題へのアプローチ：知的障害から	講師：三井さよ
5	社会心理学のまなざし	講師：土倉英志
6	記憶と語りの社会学	講師：鈴木智之
7	「ただしさ」を社会学してみる	講師：斎藤友里子
8	社会学は「役に立つ」のか：問題解決過程に身を置いてみる	講師：茅野恒秀
9	国際社会学への招待	講師：鄭康烈
10	国籍について	講師：佐藤成基
11	〈歴史〉から問う社会学	講師：鈴木智道
12	社会システムをはみ出す人間	講師：徳安彰
13	「社会学する」ということ	まとめとふりかえり（徳安彰）
14	授業内試験	各教員からの出題による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業で紹介のあった文献等を読み、授業内容についての理解を深め、発展させる。
本授業の復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

船橋晴俊（2012）『社会学をいかに学ぶか』（現代社会学ライブラリー2）弘文堂。

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志（2019）『新版 社会学』有斐閣。

玉野和志編（2016）『ブリッジブック社会学〔第2版〕』信山社。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）とリアクションペーパーの提出を含む平常点（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

This course introduces the nature of sociology to students taking this course. At the end of this course, students will be expected to be able to think sociologically. Students will be expected to have the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (70%) and short essays for each lecture (30%).

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

社会学入門B

斎藤 友里子、鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：新入生はクラス指定あり。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学とはとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。この授業では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」とそれに関連する社会現象について学び、それを通して、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを習得していく。また基礎概念の理解と応用を通じて、学生個人が自分の社会学を始めるための手がかりを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、前半を鈴木智之が、後半を斎藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。講義時に受けつけた授業内容に関する質問に対する回答を教材として活用する形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鈴木担当	ガイダンス
2	鈴木担当第1回	アノミー
3	鈴木担当第2回	相対的剥奪
4	鈴木担当第3回	純粋関係
5	鈴木担当第4回	家父長制
6	鈴木担当第5回	ラベリング
7	鈴木担当第6回	スティグマ
8	試験	試験・まとめと解説
9	斎藤担当第1回	予言の自己成就
10	斎藤担当第2回	秩序問題
11	斎藤担当第3回	交換と互酬性
12	斎藤担当第4回	信頼
13	斎藤担当第5回	一般化された他者
14	斎藤担当第6回	相互行為儀礼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない（どちらか一方しか試験を受けていない場合は不合格となる）。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

Accordingly, the goal of the course for you is to acquire ability to see and understand contemporary social issues from sociological point of view. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and other related works in sociology. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the mid-term and final examinations (50% each).

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

社会学入門B

斎藤 友里子、鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：新入生はクラス指定あり。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。この授業では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」とそれに関連する社会現象について学び、それを通して、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを習得していく。また基礎概念の理解と応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、前半を鈴木智之が、後半を斎藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。講義時に受けつけた授業内容に関する質問に対する回答を教材として活用する形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鈴木担当第1回	アノミー
2	鈴木担当第2回	相対的剥奪
3	鈴木担当第3回	純粋関係
4	鈴木担当第4回	家父長制
5	鈴木担当第5回	ラベリング
6	鈴木担当第6回	スティグマ
7	試験	試験・まとめと解説
8	斎藤担当第1回	予言の自己成就
9	斎藤担当第2回	秩序問題
10	斎藤担当第3回	交換と互酬性
11	斎藤担当第4回	信頼
12	斎藤担当第5回	一般化された他者
13	斎藤担当第6回	相互行為儀礼
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない（どちらか一方しか試験を受けていない場合は不合格となる）。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

Accordingly, the goal of the course for you is to acquire ability to see and understand contemporary social issues from sociological point of view. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and other related works in sociology. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the mid-term and final examinations (50% each).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える。

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメを用いて講義を行う。

リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながらるものではない。

リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第2回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第3回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第4回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	G. ジンメル「社交圏の分離」と「個人の自立」論
第5回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第6回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第7回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第8回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第9回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第10回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第11回	物語としての自己（3）	病いの語り
第12回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第13回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第14回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002年

他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験によって評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

教室での受講が講義の理解度に大きく関わっているようです。積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze the social constitution of individual being.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end examination(100%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

歴史社会学 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

- ・社会学的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。

各トピック終了ごとに課題を提示し、レポートの形でその回答を求める（2本）。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	家族意識のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）＋学期末試験（60%）により評価する。なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on two report (20%×2) and term-end examination (60%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会調査実習

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、東京都下において生活困窮状態にある人や、そのような人を支援する人・団体のインタビュー調査や参与観察を通じ、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程について体験を通じて実践的に学習していく。

【到達目標】

- ・社会調査の一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようになること
- ・生活困窮状態にある人の生活実態と排除の諸相への理解を深めること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業は大きく分けると、調査の(1)準備段階、(2)実施段階、(3)分析段階から構成される。(1)では調査を円滑に実施するための予備的作業、(2)ではアポイントメントや調査票の作成、調査の実施、(3)では得られたデータをもとにした考察、報告書の作成などを行う。
※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。
※この授業は、担当教員が今年度開講する「調査研究法B」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	生活困窮者をめぐる諸問題について	生活困窮者をめぐる諸問題についての説明
3	先行研究から学ぶ（1）	調査方法論についての文献の講読を通して、調査の方法を理解する。
4	先行研究から学ぶ（2）	調査方法論についての文献の講読を通して、調査の方法を理解する。
5	先行研究から学ぶ（3）	生活困窮者を対象とした調査を基にした文献の講読を通して、問題の所在を理解する。
6	先行研究から学ぶ（4）	生活困窮者を対象とした調査を基にした文献の講読を通して、問題の所在を理解する。
7	先行研究の整理	先行研究のデータ・ベースを作成する
8	先行研究の批判的検討	先行研究の批判的検討を通し、問題の所在を明らかにする。

9	予備調査（1）	生活困窮者を対象とした既存の調査等で用いられた調査票を活用し、模擬的なインタビューを実施する。
10	予備調査（2）	フィールドにおける参与観察を行う、フィールドノーツの作成
11	予備調査（3）	フィールドにおける参与観察を行う、フィールドノーツの作成
12	調査票の作成（1）	生活困窮者を対象とした既存の調査等で用いられた調査票を反省的に活用しつつ、オリジナルの調査票の作成を試みる
13	調査票の作成（2）	生活困窮者を対象とした既存の調査等で用いられた調査票を反省的に活用しつつ、オリジナルの調査票の作成を試みる
14	調査計画の立案	調査項目・調査方法の確認／調査対象の選定／役割分担とスケジュールの確認
15	イントロダクション（秋学期）	授業の概要説明
16	調査計画の確認	生活困窮の実態／調査方法
17	調査の準備作業	対人調査に関する倫理審査、生活困窮者へのインタビューに伴う困難
18	本調査の実施（1）	半構造化インタビューの実施、参与観察
19	本調査の実施（2）	半構造化インタビューの実施、参与観察
20	本調査の実施（3）	半構造化インタビューの実施、参与観察
21	本調査の実施（4）	半構造化インタビューの実施、参与観察
22	調査データの整理（1）	テープ起こし、得られたデータの整理、データのコード化
23	調査データの整理（2）	テープ起こし、得られたデータの整理、データのコード化
24	データの分析作業（1）	データの分析作業を行う
25	データの分析作業（2）	データの分析作業を行う
26	分析結果の論文化（1）	データ分析の結果を基に、各自のテーマを確定する
27	分析結果の論文化（2）	調査結果・分析を踏まえ、報告書原稿を執筆
28	分析結果の論文化（3）	調査結果・分析を踏まえ、報告書原稿を執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてそのつど指示する。

【参考書】

必要に応じてそのつど指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（調査実習のすべての段階における主体的参加度や、共同作業への貢献など）30%、インタビュー記録などの調査データの作成30%、報告書論文40%によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。春に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席し、担当教員の指示を受けること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn how to plan and implement fieldwork. Students also learn how to design structured questionnaires and visit some sites in Tachikawa and Shinjuku for fieldwork to collect information from the target persons. After the fieldwork, students make a fieldwork report and present the research outcomes.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会調査実習

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化の進展は、地方のあり方を問い直すことになった。「消滅可能性都市」など危機感を示す言説が登場する一方、「移住生活」「二拠点生活」「関係人口」など地方と都市を結びつける新たなライフスタイルの可能性も注目されるようになってきた。本実習では、積極的な移住支援に取り組んでいる瀬戸内の離島でフィールドワークを行い、地方移住の実情を社会的に分析する。具体的には、移住支援機関や実際に移住した人へのインタビューを行い、その魅力を探る予定である。

【到達目標】

- ①移住支援の現状を調査し、その政策効果を評価するスキルを獲得する。
- ②研究論文を執筆して、見解を論理的に述べるスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本実習では、実際のフィールドワークを通じて、調査企画・実査・データ分析・報告書作成という一連の作業を行う。具体的な作業として、移住支援機関や実際に移住した人へのインタビューを行う。4～6月には、調査地に関する下調べ、先行研究の検討、論文で取り上げる各自の研究テーマの設定を行う。7月には、質問票の作成を行う。夏季休暇中の9月に、瀬戸内の離島でフィールドワークを実施する。10月には、調査結果に基づき、各自の分析を進める。11～12月には、研究論文の執筆を行う。1月に、研究報告書を完成させる。※この授業は、担当教員が今年度開講する「調査研究法B」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	調査の概要説明
2	対象地域の下調べ①	統計資料
3	対象地域の下調べ②	移住支援の取り組み
4	先行研究の検討①	論文探索および講読
5	先行研究の検討②	論文探索および講読
6	先行研究の検討③	論文探索および講読
7	先行研究の検討④	論文探索および講読
8	先行研究の検討⑤	論文探索および講読
9	研究テーマの設定	各自の担当の確認
10	質問票の作成①	テーマの明確化
11	質問票の作成②	質問項目の検討
12	質問票の作成③	プリテスト
13	質問票の作成④	質問項目の完成
14	質問票の作成⑤	最終確認

15	調査の反省会	ふりかえり
16	論文の書き方	レクチャー
17	調査結果の報告会①	各自の研究テーマを検討
18	調査結果の報告会②	各自の研究テーマを検討
19	調査結果の報告会③	各自の研究テーマを検討
20	調査結果の報告会④	各自の研究テーマを検討
21	分析結果の合評会①	ディスカッション
22	分析結果の合評会②	ディスカッション
23	分析結果の合評会③	ディスカッション
24	分析結果の合評会④	ディスカッション
25	個別面談①	論文の推敲
26	個別面談②	論文の推敲
27	個別面談③	論文の推敲
28	おわりに	報告書の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①報告書論文（60％）
- ②平常点（40％）

【学生の意見等からの気づき】

調査スケジュールを見直した。

【学生が準備すべき機器他】

円滑な資料収集および論文執筆のため、ノートパソコンの持参が望ましい。

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。3月下旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。さらに、本実習は1年間で集中的に報告書を作成するため、原則毎回出席を基本とします。

【Outline (in English)】

The objectives of this class are as follows:

- to acquire the skills to examine the current state of migration support and evaluate its policy effectiveness.
- to acquire the skills to write a research paper and logically state one's views.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

社会調査実習

三井 さよ

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、地域における市民活動団体への調査研究の仕方について、その基礎的な事柄を学べるものです。授業の目的は、実際の調査の流れに沿って、必要となる作業過程を体験することです。具体的なテーマは、多摩地域における市民活動の分析を通して、そこで問われていた問題とは何かを明らかにすることとします。

【到達目標】

調査の事前準備や調査対象の確定、依頼、参与観察法や聞き取り調査をはじめとした調査の実施、質的データの収集、それらデータの分析、報告書の作成まで経験し、社会調査の全プロセスを把握することで、現実から一定のテーマを引き出す力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は、担当教員が今年度開講する「調査研究法A」または「調査研究法B」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

夏休み期間を利用し、集中的に、調査対象となる団体への聞き取り調査および参与観察を行います。秋学期以降に、調査から得られた資料や聞き取りからデータベースをつくり、各自の論文の骨組みをつくりまわす。9月上旬の頃に時間的余裕を作っておいてください。提出物はコメントを付けて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	多摩地域について	対象地域の理解
2	調査を設計するとは	過去の調査事例から
3	調査の手法と課題	過去の調査事例から
4	調査テーマの決定	調査テーマに関する討論
5	仮説の構築	調査仮説の決定
6	調査対象の決定	各自の関心に基づく
7	先行研究の学習①	各自の関心に基づく
8	先行研究の学習②	各自の関心に基づく
9	先行研究の学習③	各自の関心に基づく
10	関連する制度の学習①	介護保険制度
11	関連する制度の学習②	障害者自立支援法
12	プレ調査の実施	関連する団体へのインタビュー調査を全員で実施
13	プレ調査の振り返り	実際のインタビューについて振り返る
14	質問票の作成・アポ取り	各自の関心に基づいて質問票を作成、実際にアポイントメントを取る

15	調査結果の整理①	資料の整理／最初の感想
16	調査結果の整理②	文字おこし
17	調査結果の整理③	文字おこし
18	調査結果の整理④	文字おこし
19	論文の素案①	各自の印象を出す
20	論文の素案②	なぜ重要か、解説をつける
21	データの整理ふたたび	不足の確認
22	論文の構成①	各自の構成案を出す
23	論文の構成②	各自の構成案を出す
24	論文の構成③	各自の構成案を出す
25	追加データの検討	追加可能か確認する
26	報告書の執筆①	各自の執筆
27	報告書の執筆②	討論を踏まえて書き直し
28	報告書の確認	全体を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

三井さよ・三谷はるよ・西川知亨・工藤保則編2023『はじめての社会調査』世界思想社

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美2016『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』有斐閣

金子淳2017『ニュータウンの社会史』青弓社

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)、報告書の執筆(50%)

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。4月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students experience the process of social research. The students will go out from the classroom and investigate how the civil activities in Tama District have grown and what they have confronted. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 50%、in class contribution: 50%.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

社会調査実習

池田 裕

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、実際に量的調査を行うことによって、調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程を知ることである。計量社会学の論文を書くには、量的調査のデータを用いた分析を行い、仮説を検証する方法を身につける必要がある。この授業は、法政大学の学生生活に関する調査を行い、量的データの統計的分析の実習を行うことによって、社会調査に基づく研究プロジェクトを独力でやり遂げられるようになることを目指す。

【到達目標】

この授業の目標は、学生が調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程を説明できるようになることである。調査票の作成・配布・回収とデータの入力・点検・分析の方法を知り、計量社会学の論文を書く能力を身につけることが、この授業のテーマである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業形態は実習である。授業内での発表の機会が多く、すべての発表に関して、授業でフィードバックを行う。学生は自分の仮説を検証するのに必要な質問を作成し、授業で発表したうえで、共通の調査票を用いて、実際に量的調査を行う。加えて、個人の研究プロジェクトに取り組み、授業で発表したうえで、期末論文を作成する。

この授業は、担当教員が今年度開講する「調査研究法A」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	調査の企画（1）	スケジュール
2	調査の企画（2）	研究課題の設定
3	仮説構成（1）	先行研究の検討
4	仮説構成（2）	因果関係の検討
5	調査項目の設定（1）	前回調査の引用
6	調査項目の設定（2）	既存調査の引用
7	質問文の作成（1）	前回調査の利点
8	質問文の作成（2）	既存調査の利点
9	調査票の作成（1）	前回調査の欠点
10	調査票の作成（2）	既存調査の欠点
11	対象者の選定（1）	無作為抽出の可能性
12	対象者の選定（2）	割当抽出の可能性
13	サンプリング（1）	母集団比率
14	サンプリング（2）	計画標本サイズ
15	調査の実施（1）	調査票の配布
16	調査の実施（2）	調査票の回収
17	エディティング（1）	データ入力
18	エディティング（2）	データ入力
19	データクリーニング（1）	データ点検
20	データクリーニング（2）	データ点検
21	集計（1）	度数分布
22	集計（2）	記述統計量
23	分析（1）	相関行列
24	分析（2）	集団別の平均値
25	仮説検証（1）	線形回帰
26	仮説検証（2）	ロジスティック回帰
27	報告書の作成（1）	方法と結果
28	報告書の作成（2）	目的と結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

永吉希久子、2016、『行動科学の統計学——社会調査のデータ分析』共立出版。

【成績評価の方法と基準】

この授業の成績は100%期末論文に基づいて決定される。

【学生の意見等からの気づき】

学生の提出物のすべてに関して、授業でフィードバックを行うようにしている。しかし、ほとんどの授業ですべての学生に課題を与えるので、フィードバックに必要な時間が長い。結果として、学生と教員の相互作用の頻度が高い一方で、学生の口頭発表の機会が少なかった。短時間でも、学生の口頭発表の機会を増やす必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。3月下旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to learn the entire process of social research, from planning the survey to writing the report, by actually conducting a quantitative survey. To write a paper in quantitative sociology, students must acquire methods for analyzing quantitative survey data and testing hypotheses. This course aims to enable students to independently complete a research project based on social surveys by conducting a survey on student life at Hosei University and practicing statistical analysis of quantitative data.

(Learning Objectives)

The goal of this course is for students to be able to explain the entire process of social research, from planning the survey to writing the report. The theme of this course is to learn how to create, distribute, and collect questionnaires, as well as how to enter, check, and analyze data, and to acquire the ability to write papers in quantitative sociology. (Learning activities outside of classroom)

Before and after each class, students are expected to spend two hours understanding the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Grades for this course are 100% based on the final paper.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

調査研究法B

樋口 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、質的データの収集と分析方法を概説することである。インタビューや参与観察といった手法を取り上げ、質的調査の方法論、その可能性と限界について体系的に講義する。

【到達目標】

①質的調査の意義と分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義および日本語文献講読

※この授業は、担当教員が今年度開講する「社会調査実習」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	「調査研究法B」と社会調査実習の関係
2	テキスト購読	第1章
3	テキスト購読	第2章
4	テキスト購読	第3章
5	テキスト購読	第4章
6	テキスト購読	第5章
7	テキスト購読	第6章
8	テキスト購読	第7章
9	テキスト購読	第8章
10	テキスト購読	第9章
11	テキスト購読	第10章
12	質的調査の実際①	フィールドへの接近方法
13	質的調査の実際②	調査結果の公開
14	質的調査の実際③	調査における倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤郁哉, 2008, 『質的データ分析法』新曜社。

※ただし、開講後の指示があるまで、テキストは購入しないこと。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（100%）

【学生の意見等からの気づき】

変更なし

【学生が準備すべき機器他】

円滑な資料収集および論文執筆のため、ノートパソコンの持参が望ましい。

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。指定された「社会調査実習」の初回授業への出席が必要です。3月下旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。さらに、実習は1年間で集中的に報告書を作成するため、原則毎回出席を基本とします。

【Outline (in English)】

The purpose of the lecture is to provide an overview of qualitative data collection and analysis methods. We will systematically lecture on qualitative research methodology, focusing on methods such as interviews and participant observation.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

調査研究法B

堅田 香緒里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査における質的データの収集手法とその分析方法

【到達目標】

社会調査の意義と目的を学ぶと共に、質的調査の実施に必要な知識や方法論を習得し、自ら調査を実施できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

質的調査の方法に関する入門的著作、質的調査の成果として評価されている国内外の古典的著作等をテキストとして講義を進める。定期的に小レポートの提出を求める。

※状況に応じて、変更になる可能性あり。

※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

※この授業は、担当教員が今年度開講する「社会調査実習」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	講義の目的と構成	講義の目的と授業の進め方の説明
2 回目	社会調査とは何か	社会調査の意義と目的
3 回目	質的調査の全体像	質的調査に必要とされる一連の作業課題
4 回目	質的調査の手法(1)	課題の設定と調査方法
5 回目	質的調査の手法(2)	フィールドの選定とフィールドへの入り方
6 回目	質的調査の手法(3)	参与観察とフィールドノート
7 回目	質的調査の手法(4)	構造化／半構造化インタビューの手法
8 回目	質的調査の手法(5)	視覚データの収集方法と分析
9 回目	質的調査の手法(6)	記録とコーディング
10 回目	質的調査の手法(7)	ドキュメントの活用と分析
11 回目	事例研究(1)：参与観察	ポール・ウィリス『ハマータウンの野郎ども』／丸山里美『女性ホームレスとして生きる』
12 回目	事例研究(2)：インタビュー調査	テス・リッジ『子どもの貧困と社会的排除』／岩田正美『戦後社会福祉の展開と大都市最底辺』
13 回目	質的調査の困難と倫理	質的調査の諸課題と調査者の倫理・責任

14 回目 論文の執筆

質的調査に基づく報告書・論文執筆の作法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社

【参考書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点（主体的参加度や共同作業への貢献など）30%、提出物（小レポート・論文課題等）70%によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。指定された社会調査実習初回授業への出席が必要です。春に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席し、担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn how to plan fieldwork and design structured questionnaires.

Students also learn how to analyze the collected data and present the research outcomes.

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

調査研究法B

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：社会調査実習ガイダンスと社会調査実習初回授業出席が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、質的データの収集と分析に基づいて調査報告論文を執筆完成させるために必要な、基礎的な方法の習得です。基本的な考え方をグラウンデッド・セオリーに学びつつ、具体的な調査手法としては参与観察と聞き取り調査を中心に解説し、分析方法とそこから理論のテーマを立ち上げる方法について解説します。

【到達目標】

質的データの収集と分析の基礎的な方法について理解し、実際に自分で実施するだけの基礎的な力を身につけること。同時に、調査倫理についても理解し、身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

量的調査と対比しつつ、質的調査と総称される手法にどのようなものがあるのかを解説し、具体的にデータ収集および分析の際に課題となることについて、学生と討論しつつ理解させます。

この授業は、担当教員が今年度開講する「社会調査実習」と同時に履修することが必要です。なお、受講者が一定人数を超える場合は選考をおこなうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	質的調査研究の意義と特色	仮説検証型と仮説提起型
第2回	フィールドワークの流れと手法について	既存の調査研究の紹介から
第3回	問題設定と調査計画の立て方	問いを立てるとはどのようなことか／調査倫理とは
第4回	質的調査の手法(1)	文献で知識のデータベースをつくる
第5回	質的調査の手法(2)	調査依頼の方法、フィールドへの入り方
第6回	質的調査の手法(3)	参与観察法
第7回	質的調査の手法(4)	インタビューの種類と特色
第8回	質的調査の手法(5)	場を観察するということ
第9回	質的データの分析(1)	調査に基づくデータベースをつくる
第10回	質的データの分析(2)	コーディング／KJ法／発見するということ
第11回	質的データの分析(3)	比較と関連付け
第12回	質的データの分析(4)	理論的テーマを立ち上げる
第13回	質的データの分析(5)	妥当性とは何か／調査倫理ふたたび
第14回	論文の作成に向けて	具体的な論文の書き方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣

小田博志（2023）『改訂版 エスノグラフィー入門：〈現場〉を質的研究する』春秋社

三井さよ・三谷はるか・西川知亨・工藤保則編（2023）『はじめての社会調査』世界思想社

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

課題（50%）、平常点（50%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

この科目は受講許可科目です。指定された社会調査実習初回授業への出席が必要です。4月初旬に実施する社会調査実習ガイダンスに必ず出席して担当教員の指示を受けて下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to study based on social research. Students will be expected to try to make a plan of social research based on their interests. Final grade will be calculated according to the following process: Term-and reports 50%, in class contribution 50%.

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

人間・社会論

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは「逸脱」と「社会」の関係、そしてそこにかかわる他者のあり方です。「逸脱」はそれ本来としては良いことでも悪いことでもありません。そして社会の現状ゆえに常に生み出されるものでもあります。このように「逸脱」について私たちの社会のあり方の反映として捉える視点を獲得すると同時に、私たちはそれについてどのように向き合うのかをともに考えます。

【到達目標】

現代日本社会において「逸脱」とみなされる事象について総合的に学ぶと同時に、従来当然視されてきたような向き合い方と異なる向き合い方にはどのようなものがありうるのかについて、当事者たちの観点をある程度踏まえながら考察できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

具体的に取り上げるのは、「加害者」と「被害者」についてです。「加害者」「被害者」とは誰のことか、「加害」「被害」とは誰が誰に加えていることなのか。これらのことは、犯罪や非行についてであっても実は必ずしも自明ではありません。そもそも犯罪や非行とは何か、規範から外れたとき、悪いのは外れた側なのか、規範を課す側なのか。いわゆる犯罪や非行だけにとどまらず、広く紛争や差別・排除の問題を取り上げて考えていきます。

毎回リアクションペーパーを回収し、次回授業時に必要に応じてフィードバックします。

また、可能な範囲で外部講師による講演を取り入れたいと思っています。そのため、授業計画は変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	逸脱とは何か	概要の説明
第2回	犯罪の現状	治安の良さと治安感との違い
第3回	逸脱論の系譜①	生来的犯罪者説から社会学的逸脱論まで
第4回	逸脱論の系譜②	ラベリング論の意義
第5回	犯罪被害者の「被害」①	制度的な側面から
第6回	犯罪被害者の「被害」②	相互行為場面から
第7回	性暴力と性被害	性被害の特性から
第8回	セクシュアル・マイノリティ	異性愛ジェンダー秩序との相違から
第9回	トランス・ジェンダーをめぐる言説と実態①	性自認とは何か
第10回	トランス・ジェンダーをめぐる言説と実態②	「差別」をどう考えるか

第11回	薬物使用①	犯罪なのか病いなのか
第12回	薬物使用②	厳罰主義とハーム・リダクション
第13回	修復的正義	なぜ修復的正義が問われたのか
第14回	加害と被害	コミュニケーションの観点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

三井さよ 2018 『はじめてのケア論』 有斐閣

三井さよ 2021 『ケアと支援と「社会」の発見』 生活書院

その他については授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20点）と学期末レポート（80点）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

This course deals with social deviance and social support. It also enhances the development of students' skill in sociological thinking. At the end of the course, students are expected to understand what social deviance is and to be able to think how our society will be more inclusive. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC300EC (社会学 / Sociology 300)

臨床社会学Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人々／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。具体的には、「病い」や「障害」を手がかりとする。

【到達目標】

「病い」「障害」を、「病者」「障害者」やその家族の側から捉え返し、その人々だけの問題としてきた社会のあり方を問い直すことを目標とする。「病い」「障害」というと、ある人に生じた医学的状态を指すと思われがちだが、「病い」も「障害」は実は社会との間で生まれるものである。車椅子ユーザーにとって移動が困難なのは、車椅子ユーザーを無視した設計になっているためでもある。このように社会との関係から問い直すことによって、人間観や社会規範を根底から見直すことがもたらす自由と創造性を知り、既存の社会構造について問い直す力を身につける。そこから、社会問題に取り組む臨床的な社会学の姿勢を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

社会問題の解決を目指す人々とともに考える臨床社会学の姿勢に基づき、「病い」や「障害」を、一方ではマクロな社会状況と結びつけつつ、他方で個々の人の苦しみに根差しながら再考していく。学校教育、ジェンダーとセクシュアリティ、労働と雇用、犯罪と刑罰、社会保障、差別と包摂など、多くの社会的なテーマと結びつけて解説し、学生それぞれが考えを深められるように促す。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者の講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	臨床社会学についての解説と、病い・障害の再定義
第2回	盲・ろうとうひとつの文化	盲の人たちの経験、ろう文化など
第3回	障害者解放運動の歴史(1)	「青い芝の会」の問いかけ
第4回	障害者解放運動の歴史(2)	家族と福祉的配慮を問い直す
第5回	知的障害とは何か①	コミュニケーションを問い直す
第6回	知的障害とは何か②	個人化の過程
第7回	就学運動から①	学校を問い直す
第8回	就学運動から②	ともにいることを問い直す
第9回	共に働く運動から	働くことを問い直す
第10回	生命倫理を考える	人間の定義を問い直す

第11回	アートと障害	アートを問い直す
第12回	障害と性愛	性愛を問い直す
第13回	触法障害者	罪と罰を問い直す
第14回	新たな地域社会へ	排除／包摂の向こうへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

横塚晃一2007『母よ！ 殺すな』生活書院

安積純子・尾中文哉・立岩真也・岡原正幸2013『生の技法：家と施設を出て暮らす障害者の社会学』生活書院

「支援」編集委員会編2011『支援vol.1』～2026『支援vol.16』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）とレポート（80％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から学ぶことが多いという学生の声が多かったので、可能な限り機会を作りたいと思っています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology and disability studies. The topics of this course include work in disability history, theory, ethics, and the arts. At the end of the course, students will be able to focus on the lived experiences of individuals with disabilities in practical terms as well. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

EDU200EC（教育学 / Education 200）

社会教育概論 I

荒井 容子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実践について知り、そのあり方について、表面的な経過にとどまらず、その学習・運動・実践に向き合う姿勢・意志にまで思いを馳せる感性と、現実を深く考え、分析する力が養われる。

ある程度人数も多い集団の中でも、話し合いを通じて考えを深めあっていく、社会教育の実践内容・現場で特に必要とされる実践方法を、学習者の立場から体験することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。

講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題2を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらう（参加の課題は若干修正する場合がある）。

毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ1	社会教育とは何かーバズセッションー
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ2	社会教育のイメージ 日本の社会教育活動事例をもとに討議 事前にビデオ鑑賞して回答しておいた内容をもとに
3	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか1	なぜ「学ぶ」のか
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか2	どんなふうに「学ぶ」のか
5	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論1	成人の識字・非識字について 貧困と識字 そしてフレイレの思想と方法
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論2	フレイレの実践方法、理論と思想 銀行型vs課題提起型 討論
7	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積1	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積2	環境破壊に向き合った漁村の住民運動と学びー「風成のおんなたち」ー

9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積3	公害と戦う学習運動ー「公害」と向き合う力の可能性ーそれを拓く社会教育実践
10	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例1	住宅地での若い職員の歩み
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例2	農村の変貌の中で人々の学びを支え続けて
12	第5ラウンド 社会教育職員に3よる社会教育実践事例	一人ひとりの生き方をみつめながら
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	生涯学習論の矛盾・学習権宣言と社会教育運動・成人教育運動の課題
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	参加した社会教育事業についての報告（課題2）をもとにした討論会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当該回のための宿題のために事前に読んでおく必要のあるレジュメ、資料を前の回の講義終了後に、授業支援システムを通じて提供する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち前二者で25%、後一者で50%、他に、講義前に毎回提出する宿題への回答と講義後に毎回提出する「感想・意見」、課題2のためのウォームアップ課題への回答を、総計25%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各回の宿題、「感想・意見」は熟考する機会として課していることは継続して注意喚起する必要がある。2025年度から使用がはじまった新授業支援システムについて、宿題、「感想・意見」の提出方法について、特に、最後に提出したものを有効とする点を、提出確認方法の周知とともに注意喚起する必要がある。なんらかの社会教育事業に参加するという課題を、2段階に分けて課すことは、学生たちの課題2に対する準備として有効であることが分かったが、履行者が少ないので、課題2そのものではないことを確認しつつ、活用する意義をさらに丁寧に説明しておく必要がある。近年の魅力的な社会教育事業についても、課題2と関わらせて伝えることで対応する可能性をさぐる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some good cases of people's learning and social education that support it. Students are expected to discuss about these cases and ideas through "buzz sessions" (small-group discussions) to present the result of group discussion to the whole class at each class meeting.

At the end of the course, students are expected to understand good idea and real image of people's learning and social education that support it.

Students must read the lecture note for each class and write down some comments on the topic at its test of the University learning-support system, Hoppii before each class. Students also must write down their comments on the discussion in the class at its test of Hoppii after it. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading is according to the total evaluation of Second essay with the discussion of final class (35%), First essay (60%), and class contribution (15%). Students are required to present their Second report at their group discussion of the final class meeting.

EDU300EC（教育学 / Education 300）

社会教育概論 II

荒井 容子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解が深まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の数か国の成人教育運動の歴史をとりあげて概観し、最後に、国際的な成人教育運動の歴史と現状について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。

毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育とは何か－バズセッションと概念説明－
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前1	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前2	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動2 ビデオ鑑賞（宿題）とともに ②「通俗教育」政策の展開
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前3	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以前4	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後1	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後2	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 －「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後3	自治体社会教育行政の蛇行－行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場

9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史－第二次世界大戦以後4	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史1	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史2	抑圧に対する抵抗としての文化運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史3	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史4	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 シリアでの青年たちによる「秘密」図書館づくり
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える（各自のレポートをもとにバズ・セッション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当該回のための宿題のために事前に読んでおく必要のあるレジュメ、資料を前の回の講義終了後に、学習支援システムを通じて提供する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984年12月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』（増補版）エイデル研究所 2015年9月。
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』2017年9月。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を70%、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見」は30%で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料についてマークを付けたもの資料を配布することも、学生の講義内容理解に役に立ったようなので、継続したい。ただし、予想したように、資料の中のマークを付けた箇所だけを読んで考えてくる学生も少なからずいるので、学生の時間的余裕に合わせて、資料全体を自分で読み込んでいくことが、講義の内容理解に役に立つことが分かるような宿題の設定や、講義での説明で工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline (in English)】

This course reviews the outline of the history of social education in Japan with some learning movements by people and some social education policies and movements. It also introduces some historical movements of adult education in the other countries including the international movement of adult education up to date. Students are expected to discuss about these movements and policies thorough “buzz sessions” (small-group discussions) and to present the result of group discussion to the whole class at each class meeting.

At the end of the course, students are expected to understand the complexed relation between the learning movements of people and the social education policy by political power in the development of social education and adult education.

Students must read the lecture note for each class and write down some comments on the topic at its test of the University learning-support system, Hoppii before each class. Students also must write down their comments on the discussion in the class at its test of Hoppii after it. The standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading is according to the total evaluation of Final essay with the discussion of final class (70%) and class contribution (30%). Students are required to present their Final report at their group discussion of the final class meeting.

SOC200EB, SOC200EC (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

環境社会学 I

茅野 恒秀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題という、一見すると自然科学的な問題に潜む社会的共同性の危機と回復をテーマとする環境社会学の問題構成と学問領域としての展開を概説する。授業に通底するテーマは【環境社会学の歴史（レガシー）と方法：事例と理論の往復から読み解く】である。

【到達目標】

社会学の理論と方法に基づき、環境問題を分析することが可能であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、環境社会学が培ってきた知見を具体の環境問題に即して紹介することで、環境問題をリアルな、歴史と地続きの問題として立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題の社会史	環境が問題化する社会過程についての基本的認識を得る
第2回	近代化と公害	近代化に伴う公害・労災・職業病の歴史的経過を理解する
第3回	水俣病問題(1)	水俣病の経過について映像資料や文書資料を通じて把握する
第4回	水俣病問題(2)	水俣病問題における加害・被害過程の実態を把握する
第5回	水俣病問題(3)	水俣病問題の加害・被害を構造論の視点から理解する
第6回	地域開発と環境問題(1)	戦後日本の地域開発に伴う環境問題について、映像資料や文書資料を通じて把握する
第7回	地域開発と環境問題(2)	地域開発に伴う環境問題の主体・要因連関を受益圏・受苦圏論の視点から理解する
第8回	地域開発と環境問題(3)	地域開発に伴う環境問題の問題構成を生活環境主義の視点から理解する
第9回	環境問題とライフスタイル(1)	環境問題と人々のライフスタイルの関連を水問題の検討を通じて把握する
第10回	環境問題とライフスタイル(2)	環境問題と人々のライフスタイルの関連を廃棄物問題の検討を通じて把握する
第11回	環境政策と環境運動(1)	環境問題解決過程における環境運動の成立と展開について把握する
第12回	環境政策と環境運動(2)	環境問題解決過程における環境政策の成立と展開について把握する
第13回	環境政策と環境運動(3)	環境問題解決過程を環境制御システム論の視点から理解する

第14回 環境ガバナンス

多主体協働によって環境問題の解決を図ろうとする環境ガバナンスの考え方と課題について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で参考書や文献、参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材の一部が学習支援システムを通じて閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

『シリーズ環境社会学講座』全6巻（2023～2025、新泉社）。①『なぜ公害は続くのか—潜在・散在・長期化する被害』（ISBN 978-4-7877-2301-7）、②『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』（ISBN 978-4-7877-2302-4）、③『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのか—不可視化される被害、再生産される加害構造』（ISBN 978-4-7877-2303-1）、④『答えない人と自然のあいだ—「自然保護」以後の環境社会学』（ISBN 978-4-7877-2404-5）、⑤『持続可能な社会への転換はなぜ難しいのか』（ISBN 978-4-7877-2405-2）、⑥『複雑な問題をどう解決すればよいのか—環境社会学の実践』（ISBN 978-4-7877-2406-9）

以上の他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では環境問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、環境社会学の基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The course outlines the problematic framework and academic development of environmental sociology, which addresses the crisis and restoration of social communality underlying environmental issues — problems that appear, at first glance, to be natural science-based. The underlying theme of the course is "The History (Legacy) and Methods of Environmental Sociology: Interpreting Through the Back-and-Forth Between Case Studies and Theory.

The goals of this course are to understand that it is possible to analyze environmental issues based on sociological theory and methodology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports: 60%.

SOC300EB, SOC300EC (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

環境社会学Ⅱ

茅野 恒秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：月2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題という、一見すると自然科学的な問題に潜む社会的共同性の危機と回復をテーマとする環境社会学の問題構成と学問領域としての展開を概説する。授業に通底するテーマは【複雑化する環境問題の社会学：理論と実践の往復から読み解く】である。

【到達目標】

社会学の理論と方法に基づき、環境問題を分析することが可能であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせて進める。講義では、環境社会学が培ってきた知見を具体的環境問題に即して紹介することで、環境問題をリアルな、歴史と地続きの問題として立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	なぜ環境保全はうまくいかないのか	Wicked Problem、SustainabilityTransitionなど本授業を貫く視点を確認する
第2回	社会的ジレンマとしての環境問題	社会的ジレンマとして環境問題を捉える視座を理解する
第3回	環境負荷の外部転嫁	社会的ジレンマ論や受益圏・受苦圏論の応用問題としての環境負荷の外部転嫁論の視点を確認する
第4回	福島原発事故問題(1)	2011年3月に発生した東京電力福島第一原発事故の経過について映像資料や文書資料を通じて把握する
第5回	福島原発事故問題(2)	被害構造論の視座から福島原発事故に関する研究成果を確認する
第6回	福島原発事故問題(3)	生活環境主義の視座から福島原発事故に関する研究成果を確認する
第7回	福島原発事故問題(4)	生活環境を複層的に捉え、被害の総体を把握する研究成果を確認する
第8回	気候危機の社会学(1)	地球環境問題としての気候変動とその危機に関する問題構成を理解する
第9回	気候危機の社会学(2)	地域環境問題としての気候変動とその危機に関する問題構成を理解する
第10回	エネルギー転換はどうすればうまくいくのか(1)	社会的受容性を鍵概念にエネルギー転換の過程を理解する
第11回	エネルギー転換はどうすればうまくいくのか(2)	コミュニティの受容性を鍵概念にエネルギー転換の過程を理解する

第12回	環境政策と環境運動(2)	地域デザインの視点による環境問題解決過程について、映像資料や文書資料を通じて把握する
第13回	環境政策と環境運動(3)	地域デザインの視点による環境問題解決過程について、社会的受容の鍵としての「物語」に着目して理解する
第14回	環境問題解決過程と社会デザイン	「結果としての環境保全」を鍵概念に環境問題解決過程を構想する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で参考書や文献、参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材の一部が学習支援システムを通じて閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

『シリーズ環境社会学講座』全6巻（2023～2025、新泉社）。①『なぜ公害は続くのかー潜在・散在・長期化する被害』(ISBN 978-4-7877-2301-7)、②『地域社会はエネルギーとどう向き合ってきたのか』(ISBN 978-4-7877-2302-4)、③『福島原発事故は人びとに何をもたらしたのかー不可視化される被害、再生産される加害構造』(ISBN 978-4-7877-2303-1)、④『答えのない人と自然のあいだー「自然保護」以後の環境社会学』(ISBN 978-4-7877-2404-5)、⑤『持続可能な社会への転換はなぜ難しいのか』(ISBN 978-4-7877-2405-2)、⑥『複雑な問題をどう解決すればよいのかー環境社会学の実践』(ISBN 978-4-7877-2406-9)以上の他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では環境問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、環境社会学の基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The course outlines the problematic framework and academic development of environmental sociology, which addresses the crisis and restoration of social communality underlying environmental issues — problems that appear, at first glance, to be natural science-based. The underlying theme of the course is “The Sociology of Increasingly Complex Environmental Issues: Interpreting Them Through the Back-and-Forth Between Theory and Practice.”

The goals of this course are to understand that it is possible to analyze environmental issues based on sociological theory and methodology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports: 60%.

SOC200EC (社会学 / Sociology 200)

都市と地域の社会学Ⅰ

茅野 恒秀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して社会学的に把握する。授業に通底するテーマは【変動する都市と地域：時間と空間のダイナミズムから読み解く】である。

【到達目標】

都市と地域をめぐる歴史的な変動過程を素材に、現在直面する社会課題が、都市と地域の社会変動と時間的・空間的にどのように関連しているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせる。講義では、都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を社会的現実の即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	都市と地域の現在	グローバルシティから限界集落まで、都市と地域のさまざまな現在地を俯瞰的、概説的に捉える。
第2回	地域社会の成り立ち	地域社会を人びとの空間的共存として捉える基本的視座を得る。
第3回	地域社会の編成と再編：構造的視点	都市と地域を主題とする社会変動を、構造論的視座から捉える。自然村や社会地区などによる基礎的認識から平成の市町村合併までを通史的に把握する。
第4回	地域社会の編成と再編：関係的視点	都市と地域を主題とする社会変動を、関係論的視座から捉える。現在の私たちの人間関係に残る古くからの社会慣習やメカニズムの影響を考察する。
第5回	移動と世代からみる都市と地域の変容	戦後日本社会の変動を、時代に生きる人びとのライフコースと都市と地域の関わりの中で捉える。
第6回	都市と地域における親密性、共同性、公共性の持続と変容	都市・地域の社会変動を親密性、共同性、公共性の持続と変容という観点から整理する。

第7回	資料映像視聴とディスカッション	授業前半で得た視点をを用いて、ある地域とそこに生きる人びとの現実を解釈する。
第8回	限界集落と消滅可能性都市	平成初期に提唱された「限界集落」概念の誕生と展開を確認し、人口減少社会の下での都市と地域が直面する課題を捉える。
第9回	広域システムとしての地域	他出子の生活サポートや遠隔地域間連携など、地域社会の自己完結性を相対化する視座を得る。
第10回	田園回帰論の検討	都市－農村連携やCCRCなどを含む近年の田園回帰論の動向について検討する。
第11回	事例研究：災害と都市・地域(1)	災害に関する社会学的研究の基本的視座を得るとともに、災害に直面した地域の実態を把握する。
第12回	事例研究：災害と都市・地域(2)	災害復興政策と地域コミュニティの復興に向けた諸課題を検討する。
第13回	事例研究：災害と都市・地域(3)	「災間」を鍵概念に、地域社会における防災・減災の諸課題を検討する。
第14回	変動する都市と地域	現代社会の社会構造と社会関係を都市と地域を舞台に俯瞰し、都市と地域のガバナンスのあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かすことができない。
安岡健一,2025,『戦後史1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書。
を参考書とする。その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では都市・地域に生起する社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度授業改善アンケートの結果に関しては、特になし。

【Outline (in English)】

The course will focus on cities and regions, and sociologically examine the mechanisms of various social phenomena and problems that appear there, focusing on social structures, groups and organizations, and people's awareness, actions, and relationships. The underlying theme of the course is "Cities and Regions in Flux: Reading from the Dynamism of Time and Space. The goals of this course are to understand how the social problems we face today are temporally and spatially related to social changes in the city and region. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Short reports: 60%.

SOC200EC（社会学 / Sociology 200）

都市と地域の社会学Ⅱ

茅野 恒秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市と地域を対象として、そこに現れるさまざまな社会現象や社会問題のしくみを、社会構造や集団・組織、人びとの意識や行為・関係の有り様に着目して社会的に把握する。授業に通底するテーマは【相剋する都市と地域：リスク社会をめぐるイシューから読み解く】である。

【到達目標】

都市と地域をめぐる現代社会の諸問題を素材に、リスクや資源の偏在という問題状況が、都市と地域、そして国家やグローバル社会の権力構造とどのように関連しあっているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義とディスカッションを組み合わせる。講義では、都市・地域・環境・災害などの領域社会学が培ってきた知見を社会的現実の即して紹介することで、眼前の社会問題を現在形としてのみ捉えるのではなく、その来歴や解決の構想を含め、立体的に把握できるよう努める。受講生には読書ノート、資料映像視聴ノートの蓄積を求め、それらを講義ノートに加えてディスカッションの素材として活用することで、学習の定着と対話の深まりを経験してもらう。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会問題の噴出点としての都市と地域	現代社会の諸問題を規定する構造的要因に都市と地域のありようがあることを把握する。
第2回	都市化と農村化	都市と農村が近代化を契機に分化した経過とそのメカニズムを歴史社会的に検討する。
第3回	地域資源管理の前近代と近代	生業や生活と密接に関わる地域資源管理の来歴と近代化への応答過程を検討することを通じて、共的なものが公私へと切り分けられるメカニズムを把握する。
第4回	事例研究：変転する「中央」と「辺境」(1)	特定の地域（長野県諏訪地方を予定）における近現代の経験を事例に、生活環境と社会組織の変動に注目して、現在私たちが経験している地域社会の地政学的な編成が自明のものではないことを考察する。
第5回	事例研究：変転する「中央」と「辺境」(2)	特定の地域（長野県諏訪地方を予定）における近現代の経験を事例に、生活環境と社会組織の変動に注目して、現在進行形の問題ととの要因連関を考察する。

第6回	地域間格差	大都市圏から地方に至る現代地域社会の編成の帰結を地域間格差の視点から読み解き、人びとの社会経済的地位を規定する諸要因への影響を考察する。
第7回	地域開発の構想と現実	日本における地域開発政策を検証した社会学の研究成果を涉猟することを通じて、地域開発のあり方について検証する。
第8回	リスクをめぐる都市と地域	リスク社会論に立脚して、現代の都市と地域に生じている様々なリスクとその偏在について考察する。
第9回	事例研究：エネルギーと都市・地域(1)	特定の地域（青森県下北半島を予定）における近現代の経験を事例に、地域間格差の是正を意図した地域開発の帰結を、エネルギー政策と関連づけて考察する。
第10回	事例研究：エネルギーと都市・地域(2)	特定の地域（青森県下北半島を予定）における近現代の経験を事例に、リスクの偏在と富の分配に関する問題状況と地域社会の応答について考察する。
第11回	事例研究：エネルギーと都市・地域(3)	エネルギー転換という問題状況に即して、現在と未来の都市と地域について考察する。
第12回	地域資源管理の現代的課題	かつて生業や生活と密接に関わってきた地域資源管理が直面するアンダーユースという新たな問題状況を検討することを通じて、人口減少社会における社会問題の解決過程について考察する。
第13回	都市・地域のアクションリサーチ	都市と地域の社会学を実践する上で欠かせないフィールドワーク型の社会調査法について、特に都市・地域に暮らす人びととの共同の実践の可能性について検討する。
第14回	相剋する都市と地域	現代社会において顕在化している社会問題を都市と地域を舞台に俯瞰し、あるべき都市と地域の相互関係について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

考察の対象は多岐にわたるため特に指定しない。

【参考書】

都市と地域の社会学を理解する上では近現代史のリテラシーは欠かせることができない。
安岡健一,2025,『戦後史 1945-2025：敗戦からコロナ後まで』中公新書。
を参考書とする。この他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

第2回～第13回授業で課す課題（60%）と期末試験（40%）が評価対象となる。前者では授業内容の理解を、後者では都市・地域に生起する社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2025年度授業改善アンケートの結果に関しては、特になし。

【Outline (in English)】

The course will focus on cities and regions, and sociologically examine the mechanisms of various social phenomena and problems that appear there, focusing on social structures, groups and organizations, and people's awareness, actions, and relationships. The underlying theme of the course is "Conflicting Cities and Regions: Reading from Issues Concerning Risk Society. The goals of this course are to understand how the problematic situation of risk and resource maldistribution relates to the power structures of cities and regions, as well as the state and global society. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Short reports: 60%.

SOC100EC (社会学 / Sociology 100)

国際社会と日本

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①国際社会の歴史と現在、②国際社会のなかの日本、③日本のなかの国際化、という3つの側面から、「国際社会と日本」というテーマについて学び、考えることを課題とします。

【到達目標】

現代の日本と国際社会について、国際社会における日本、もしくは国際社会との関わり方、日本の国際化について、現在の具体的な事例を考察する視角を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では、最初に「国際社会」「国際化」「グローバル化」などに関する視座を提示した上で、①国際社会の課題と日本、②日本のなかの国際化という側面から、「国際社会と日本」に関わるさまざまな課題を学んでいきます。なお、講義では毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス：授業のテーマと目的
第2回	国際社会の歴史と現在①	現在の国際社会を捉える
第3回	国際社会の歴史と現在②	グローバリゼーションの世界史的位相
第4回	国際社会の歴史と現在③	グローバリゼーションの特徴に接近する
第5回	国際社会のなかの日本①	難民の受け入れと日本
第6回	国際社会のなかの日本②	戦争と平和をめぐる課題Ⅰ
第7回	国際社会のなかの日本③	戦争と平和をめぐる課題Ⅱ
第8回	国際社会のなかの日本④	マイノリティの権利
第9回	日本のなかの国際化①	ヘイト・スピーチ／ヘイト・クライムをめぐる
第10回	日本のなかの国際化②	日本の民族的マイノリティとレイシズム
第11回	日本のなかの国際化③	外国人との共生 教育
第12回	日本のなかの国際化④	外国人との共生 教育
第13回	日本のなかの国際化⑤	外国人労働者の受け入れ
第14回	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考書は授業で適宜、紹介しますので、受講生はそれぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【参考書】

授業で適宜、紹介しますので、それぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①毎回講義後に提出してもらうリアクションペーパー（30%）、②期末試験（70%）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course introduces ① history of an international society and present, ② Japan in the international society and ③ internationalization in Japan, to students taking this course.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points 30%

examination: 70%

POL200EB, POL200EC (政治学 / Politics 200, 政治学 / Politics 200)

国際関係論 I

二村 まどか

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な3つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を、各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を3つの理論を通して考える。

【到達目標】

各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について ＊成績評価について説明します、
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第10版]』(原書房、2017)

【参考書】

授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30%

期末テスト：70%

＊第1回目の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constructivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

POL300EB, POL300EC (政治学 / Politics 300, 政治学 / Politics 300)

国際関係論 II

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦後から現在に至るまで国家や国際組織がどのように「国際の平和と安全への脅威」に対応してきたかについて学ぶ。国際関係論Iで学んだ理論や概念をふまえつつ、冷戦後の武力紛争や脅威がどのような問題を引きつけてきたのか、そしてその問題に対して国際社会ではどのような行動がとられ、議論がなされてきたのかについて考察する。

【到達目標】

現代の国際情勢と問題、特に安全保障と武力行使にかかわる問題について、論理的、実証的、規範的に考察し、理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

冷戦後の国際安全保障に関する重要な出来事（湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、ルワンダの大虐殺、コソヴォ紛争、9.11アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア空爆）に焦点を当て、国際社会が直面した国際安全保障の問題を考える。

リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について ＊成績評価について説明します。
2	冷戦の終結と国際安全保障の変化	冷戦後の国際の平和と安全をめぐる問題の特徴
3	湾岸戦争：「新世界秩序」	集団安全保障体制の復活と国連の役割
4	ユーゴスラビア紛争	国連平和維持活動(PKO)の発展と課題
5	ルワンダ大虐殺	民族紛争の構図と「アイデンティティ政治」
6	コソヴォ紛争	人道的介入
7	戦争犯罪と国際刑事裁判所	国際社会における国際刑事裁判の試み
8	映像鑑賞	9/11後の世界について
9	9/11とテロリズム	国際テロとグローバリゼーションの関係
10	アフガニスタン空爆	「テロとの戦い」と空爆の是非
11	アフガニスタンの国家再建	脆弱国家と平和構築
12	イラク戦争	「テロとの戦い」と大量破壊兵器問題
13	リビア空爆	「保護する責任」をめぐる議論
14	「人間の安全保障」からのアプローチ	伝統的安全保障の限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争－理論と歴史〔第10版〕』（原書房、2017）
酒井啓子 『9.11後の現代史』講談社現代新書（2018）

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30%

期末テスト（課題）：70%

＊第1回目の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

The topic of this course is international peace and security, especially focusing on the use of force in the post-Cold War international relations. The course will pick up wars and armed conflicts in the 1990s onwards and critically examine international debates and practices.

SOC100ED (社会学 / Sociology 100)

メディア社会入門 I

大森 翔子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生活と密接にかかわる「メディア」について、現実社会との結びつきを理解するための基礎概念、基礎理論を学ぶ。加えて、各回で取り上げるトピックに関する最新の知見を学ぶ。

【到達目標】

- ①メディアと社会の結びつきについて、基礎的な概念・理論を理解し、様々な角度から説明・考察できるようになる。
- ②メディアと社会に関連する最新の研究について、その位置づけや結果を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式によります。スライドには記載せず、調査・実験例などを紹介することがあります。また、毎回の授業時間内には、学習支援システムを利用して、講義内容に関する質問に回答してもらい、リアクションペーパーとして提出してもらいます。翌週授業の冒頭でリアクションペーパーの質問について解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義で扱う「メディア社会」の射程
第2回	メディアの登場と社会(1)	マスメディア登場以前の情報伝達
第3回	メディアの登場と社会(2)	新聞の登場、発達
第4回	メディアの多様化と社会(1)	ラジオ放送、テレビ放送の開始、発達
第5回	メディアの多様化と社会(2)	ケーブルテレビの発達・テレビニュースの「娯楽化」
第6回	インターネットメディアの登場と社会(1)	インターネット技術とメディアの融合
第7回	インターネットメディアの登場と社会(2)	伝統メディアのインターネット進出
第8回	SNSメディアの登場と社会	SNSメディアの登場が社会に与えた影響を考える
第9回	地域とメディア	地域でのメディア活用を中心に学ぶ
第10回	行政サービスとメディア	行政サービスにおけるメディア活用と問題について考える
第11回	副産物的学習とメディア	メディア利用による副産物的学習と現在のメディア環境について考える

第12回	社会的リアリティとメディア(1)	「社会的リアリティ」の共有について考える
第13回	社会的リアリティとメディア(2)	社会的分断とメディア
第14回	期末試験	学期末試験を行い、理解内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。授業では教員作成の資料を配布、またトピックごとの参考文献を授業中に紹介します。

【参考書】

井川充雄・木村忠正 編（2022）『入門メディア社会学』ミネルヴァ書房。

辻泉・南田勝也・土橋臣吾 編（2018）『メディア社会論』有斐閣。
津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのかーメディア社会論入門』世界思想社。

池田謙一（2013）『社会のイメージの心理学ーぼくらのリアリティはどう形成されるか』サイエンス社。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容にもとづく平常点(20%)、期末試験(80%)の合計をもって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭に実施するリアクションペーパーの内容紹介が好評のため、今年度も行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業では学習支援システムを通じてスライドを配布するので、ダウンロードをし、授業中に紙・電子媒体でアクセスできるようにしてください。また、毎回の授業でLMSシステムを通じてリアクションペーパーを提出することが求められるので、提出可能な電子機器を準備してください。

【Outline (in English)】

In this course, students learn the basic concepts and theories of "media," which are closely related to our daily lives, in order to understand their connection to the real world. In addition, students will learn the latest findings on the topics to be covered in each session.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. Understand the basic concepts and theories of the connection between media and society, and be able to explain and discuss them from various perspectives.

-B. Explain the position and results of current research related to media and society.

Except for the first class, students are required to review the contents of the previous class by reading the distributed slides and notes taken by the students themselves. When instructed, students should read the literature in advance. The standard preparation and review time for this class is 2.5 hours each. Your overall grade in the class will be decided based on the content of the reaction paper(20%) and final exam(80%).

SOC300EC, SOC300ED (社会学 / Sociology 300, 社会学 / Sociology 300)

社会問題とメディア

大森 翔子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会における諸問題とメディアとの関係について、具体的な事例・研究例を挙げながら学び、社会学・社会心理学・政治学で検討される、メディア効果に関する諸理論について理解を深める。加えて、各回で取り上げるトピックに関する最新の知見を学ぶ。

【到達目標】

- ①社会問題とメディアの関係について、社会学・社会心理学・政治学的な視点から説明・考察できるようになる。
- ②社会問題とメディアに関連する最新の研究について、その研究動機・位置づけや結果を説明できるようになる。
- ③授業で取り上げた研究が、最新の社会情勢とメディア環境に照らして妥当かどうかを考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式によります。スライドには記載せず、調査・実験例などを紹介することがあります。また、毎回の授業時間内には、学習支援システムを利用して、講義内容に関する質問に回答してもらい、リアクションペーパーとして提出してもらいます。翌週授業の冒頭でリアクションペーパーの質問について解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「社会問題とメディア」講義の行程
第2回	マスメディアの役割	マスメディアの役割・各国のマスメディアシステムについて学ぶ
第3回	報道内容とマスメディアの経営問題	マスメディアの経営状況と報道内容の関係について考える
第4回	メディア効果研究のアプローチ方法	メディア効果研究について代表的な方法を学ぶ
第5回	メディア効果論概史(1)	弾丸理論から限定効果論までの諸研究を概観する
第6回	メディア効果論概史(2)	新強力効果論の登場と学説を支える諸研究について学ぶ
第7回	メディア効果論概史(3)	近年有力である「最小効果論」を中心に学ぶ
第8回	社会問題とメディア各論(1)レイシズムとメディア	レイシズムとそれを伝えるメディアについて考える
第9回	社会問題とメディア各論(2)選挙とメディア	選挙とメディアの関係について考える

第10回	インターネット時代の社会問題とメディア(1)インターネットメディアを通じた意見表明	社会問題に対する意見表明が、メディアを通じてどのように行われているのか、またその利点と問題点は何かについて学ぶ
第11回	インターネット時代の社会問題とメディア(2)インターネットとフェイクニュース	インターネットを通じたフェイクニュースの伝播について、諸研究を概観しながら学ぶ
第12回	インターネット時代の社会問題とメディア(3)インターネットと選択的接触	インターネット空間における選択的接触が引き起こす問題を中心に学ぶ
第13回	インターネット時代の社会問題とメディア(4)複合的なメディア環境の分析	メディア環境の実相に合わせた研究がどう行われるべきかについて考える
第14回	期末試験	学期末試験を行い、理解内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。授業では教員作成の資料を配布、またトピックごとの参考文献を授業中に紹介します。

【参考書】

谷口将紀（2016）『政治とマスメディア』東京大学出版会。
田崎篤郎・児島和人（2003）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版。
蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一（2007）『メディアと政治』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容にもとづく平常点(20%)、期末試験(80%)の合計をもって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭に実施するリアクションペーパーの紹介が好評のため、今年度も行います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業ではWebClassを通じてスライドを配布するので、ダウンロードをし、授業中に紙・電子媒体でアクセスできるようにしてください。

【その他の重要事項】

計量的な手法を用いた実証研究を多く取り上げます。授業内容を理解するために、基礎的な統計データ読解のスキルを有することが望ましいです。「メディア研究法入門B」や「社会調査のリテラシー」、「統計学Ⅰ・Ⅱ」といった、基礎的な統計関連科目の先行・平行履修を強く推奨します。

【Outline (in English)】

In this course, students learn about the relationship between various problems in society and the media, using specific examples and research, and deepen their understanding of various theories on media effects examined in sociology, social psychology, and political science. The goal of the lecture is to enable students to explain and discuss the relationship between social issues and the media from sociological, social psychological, and political perspectives.

Except for the first class, students are required to review the contents of the previous class by reading the distributed slides and notes taken by the students themselves. When instructed, students should read the literature in advance. The standard preparation and review time for this class is 2.5 hours each. Your overall grade in the class will be decided based on the content of the reaction paper(20%) and final exam(80%).

MAN200EB, MAN200ED (経営学 / Management 200, 経営学 / Management 200)

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。

本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について

10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 ＜ゲスト講師登壇予定＞
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類(30%)と期末試験(70%)による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

COT200ED (計算基盤 / Computing technologies 200)

消費者行動モデリング

諸上 茂光

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：受講にはプログラミング入門の修得が必要。
 受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年のIoT技術の急速な進歩やビッグデータが積極的な活用は、今後マーケティング戦略の構築方法にも大きな変革をもたらすことが予想される。従来よりもオンタイムに様々な消費行動に関係するデータが技術的に得られることは、一方でそのデータをどのように扱って次のマーケティング戦略構築に利用すべきかを学ぶ必要が出てきたことも意味する。本演習では、実際のマーケティングデータを用い、統計的な手法によって様々な「消費者の行動」をどのようにモデル化し、シミュレーションを行えばよいのかを習得する。

【到達目標】

身近な消費者行動を観察し、そこから観測すべき変数を決定し、モデル化を行い、数値シミュレーションを行う一連の過程を行えるようになること、および、そのシミュレーション結果から新しい提案ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

第10回までの授業は、各回前半の講義部分と後半の演習部分に分かれており、消費者の分析に必要な量的調査の基本的な技法を習得する。

その上で第11回以降はグループに分かれ、グループワークによって実際のマーケティングを題材に消費者行動の分析モデルを作成する。各提出課題や、グループワークの途中成果については随時授業の中でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明
2.	統計的基礎の復習	相関分析を行いながら統計的な基礎を確認
3.	単回帰分析とモデル化（1）	単回帰分析による消費者行動の予測モデルの構築
4.	単回帰分析とモデル化（2）	単回帰分析による消費者行動の分析
5.	重回帰分析とモデル化（1）	重回帰分析による消費者行動の予測モデルの構築
6.	重回帰分析とモデル化（2）	重回帰分析による消費者行動の分析
7.	数量化Ⅰ類を用いた分析とモデル化（1）	数量化Ⅰ類を用いたカテゴリーデータの利用について
8.	数量化Ⅰ類を用いた分析とモデル化（2）	カテゴリーデータも利用した消費者行動の予測モデルの構築
9.	コンジョイント分析とモデル化（1）	コンジョイント分析の説明とコンジョイントカードの作成

10.	コンジョイント分析とモデル化（2）	コンジョイント分析の実施と消費者行動モデルの構築
11.	最終課題制作（1）	モデル化する消費者行動の探索（グループワーク）
12.	最終課題制作（2）	調査の作成（グループワーク）
13.	最終課題制作（3）	分析とモデル化（グループワーク）
14.	成果発表	発見した事実の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（60%）と最終課題（40%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【学生が準備すべき機器他】

授業は情報実習室で行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the consumer behavior models. It also enhances the development of students' skill in data analysis and simulating.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Simulate and analyze consumer behavior models.

- Propose marketing strategy based on result of analysis.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%.

MAN300ED（経営学 / Management 300）

マーケティング実践

諸上 茂光

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

備考（履修条件等）：受講にはプログラミング入門の修得が必要。
 受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競争力のある商品開発や、訴求力のある広告活動を行うためには、消費者心理に関する理論的な基礎と、妥当性の高いアンケート調査やその分析の遂行に基づいたマーケティング戦略の立案が重要である。そのため、本授業では、実際のマーケティング課題を題材に、同一モジュールですでに履修した「消費者行動論」における消費者の心理の理解と「消費者行動モデリング」で習得した消費者の分析技法を駆使し、実践的なマーケティング戦略の構築を行う。

【到達目標】

消費者心理の理論と分析技法に基づいた、マーケティング戦略の企画と発表を行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実際の商品開発やブランディング等の課題を題材に、消費者心理や行動に関する理論や各種データ、シミュレーション手法などを使用し、グループワークによりマーケティング戦略を構築し、発表を行う。中間報告や最終報告に対し、講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明、グルーピング等
2.	マーケティング戦略の立案1	市場分析・ポジショニング分析
3.	マーケティング戦略の立案2	ニーズの把握
4.	課題のキックオフ	取り組む課題と制約条件の確認、質疑応答（キックオフミーティング）
5.	課題の分解	課題の客観的な分析
6.	戦略の構築活動1	課題の分析（現状分析）
7.	戦略の構築活動2	ゴールの設定
8.	調査1	ヒアリング調査・アンケート調査の実施
9.	調査2	調査結果の分析
10.	中間報告会	各グループ活動の中間報告と質疑応答
11.	課題解決活動1	中間報告での質疑応答を受けた戦略の再検討
12.	課題解決活動2	データの分析と効果考察
13.	課題解決活動3	提案資料の作成
14.	最終発表	構築した課題解決の戦略について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実践活動における平常点（50％）と最終発表（50％）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop the students' skill in making marketing strategies.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Term-end presentation:40%,In class contribution: 60%

FRI200EC, FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200, 情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアの歴史

李 舜志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、インターネットが浸透し、AIが社会のインフラと化しつつある現代社会において、メディアも含めたテクノロジーが政治、経済、文化にどのような影響を与えるのかを歴史、理論、実践の観点から考察する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、テクノロジーの進歩とメディアの変化について、従来の論点とこれからの課題について理解することである。本授業であつかうテーマを、ただ丸暗記するのではなく、他の授業や生活のなかで経験したことと関連づけつつ考察することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

テキストの沿いつつ、具体的な作品や映像を取り上げつつ考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と進め方、評価方法について説明する。
第2回	インターネットの歴史	インターネットの歴史の概略を把握し、その社会的影響を理解する。
第3回	21世紀のイデオロギー	テクノロジーの進歩により台頭してきた三つのイデオロギーについて学ぶ。
第4回	Pluralityとは何か	Pluralityについて、複雑系やネットワーク理論などの知見から理解する。
第5回	近代のメディアにおけるコミュニケーション・パラダイムについて	近代におけるアイデンティティと民主主義が前提としているメディアについて、その概略と変化について検討する。
第6回	アイデンティティの改革	テクノロジーによる、アイデンティティの実存的・制度的改革案を検討する。
第7回	テクノ封建制について	バルファキスの「テクノ封建制」について、その現状と打開策について考察する。
第8回	中間試験	中間試験を行う
第9回	コミュニケーションの深化と拡張	ポストシンボリックコミュニケーションやISRといった、テクノロジーによるコミュニケーションの深化と拡張を把握する。

第10回	デジタル民主主義のテクノロジー	テクノロジーによる民主主義のアップデート案について検討する。
第11回	マスメディアとステレオタイプの現状	リップマンの「ステレオタイプ」とマスメディアの関係が、テクノロジーの進歩に沿ってどのように変化したのかを確認する。
第12回	SNSの現状と改革案	SNSについて指摘される問題点を確認し、改革案してどのようなアイデアが挙げられているのか、検証する。
第13回	交換様式論について	柄谷行人の交換様式論が、テクノロジーによってどのようにアップデートされるのかを検討する。
第14回	期末試験	期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

李舜志『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITYとは?』、集英社、2025年。

【参考書】

Plurality：対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来 / オードリー・タン, グレン・ワイル, [プルラリティ]コミュニティ [著]; 山形浩生訳; 鈴木健解説

【成績評価の方法と基準】

中間試験（第二回～第七回から出題）：50%

期末試験（第九回～第十三回からの出題）：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course examines how technology, including media, influences politics, economics, and culture in contemporary society — an era where the internet has permeated daily life and AI is becoming a societal infrastructure — from historical, theoretical, and practical perspectives.

The learning objectives of this course are to understand both traditional arguments and emerging challenges concerning technological progress and media transformation. Rather than merely memorizing the themes covered in class, students are encouraged to connect them to experiences gained in other courses and daily life while engaging in critical analysis.

Grading criteria:

Midterm Exam (covers Sessions 2– 7): 50%

Final Exam (covers Sessions 9– 13): 50%

FRI200ED (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース1	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース2	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン1	デザインと設計、デザインアプローチの基本
9	インタフェースデザイン2	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン3	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生4	VRとAR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

The final grade will be based on the final exam (50%) and the usual performance score (50%). The usual performance score includes contribution to the class, reaction papers, and small reports.

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。状況に応じて、オンラインで実施する回が入る場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の流れ	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法1	UXグラフを用いたUX評価
4	ユーザ調査で用いる手法2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施2	RQの作成
9	ユーザ調査の実施3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析1	KJ法による分析
12	結果の分析2	SCATによる分析
13	結果の分析3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著(2021)「HCDライブラリー第5巻：人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社 (ISBN：978-4-7649-0635-8)

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著(2022)「現場の声から考える人間中心設計」共立出版 (ISBN：978-4-320-07200-8)

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。

授業への参加の姿勢や貢献、提出物の提出状況と内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとOffice系ソフトウェア(Word、Excel、PowerPoint)、学習支援システム、電子メール、Google Classroomなどを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、前の回での課題をその後の回での課題で使用するため、全ての回への出席と課題の提出が求められます。

【Outline (in English)】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual performance score (100%), including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

SOC200EB, SOC200ED (社会学 / Sociology 200, 社会学 / Sociology 200)

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を踏まえ、ニュースや広告などに関する課題を学びながら、ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアが社会にもたらす可能性と課題を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習・復習を前提に進めます。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きているメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第3回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第4回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第5回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第6回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第7回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第8回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第9回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第10回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第11回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第12回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第13回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（共同規制）
第14回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40%、平常点60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understand social media.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

SOC200ED (社会学 / Sociology 200)

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰もが発信できるソーシャルメディアの登場は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルリスニングと呼ばれる生活者の口コミ投稿の分析は、メディアに関わる企業だけでなく、メーカーやサービス業のマーケティング活動においても必要不可欠となっています。本授業は、ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察する手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルリスニングにより生活者のインサイトを洞察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は予習・復習を前提に進めます。講義形式とグループワークを組み合わせで行います。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアと消費行動
第3回	概論	社会記号の力
第4回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第5回	概論	炎上の構造
第6回	概論	ステルスマーケティング
第7回	概論	ソーシャルリスニング
第8回	分析	量的観察手法
第9回	分析	質的観察手法
第10回	分析	データの収集
第11回	分析	データの分析
第12回	分析	関連情報の検討
第13回	分析	インサイトの洞察
第14回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

嶋浩一郎・松井剛（2017）『欲望する「ことば」社会記号とマーケティング』集英社新書

【参考書】

嶋浩一郎（2024）『「あたりまえ」のつくり方 ―ビジネスパーソンのための新しいPRの教科書』NewsPicksパブリッシング
博報堂生活総合研究所（2021年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議

【成績評価の方法と基準】

期末レポート40%、平常点60%。平常点は、提出課題の内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析やプレゼンテーションにパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

The goals of this course are to understanding social media data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports: 40%、in class contribution: 60%

LANe200EA（英語 / English language education 200）

Content-Based English B I（Global Issues）

二村 まどか

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考TOEICスコア300～。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事と学術論文を読みながら、難易度の高い英文に触れると同時に、国際関係の時事問題（平和、人権、開発など）についての理解を深める。

【到達目標】

論説記事や学術論文の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について ＊成績評価について説明します。
2	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
3	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
4	The Economistの記事①	テキストの和訳と内容把握
5	The Economistの記事②	テキストの和訳と内容把握
6	The Economistの記事②	テキストの和訳と内容把握
7	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
8	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
9	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
10	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
11	The Economistの記事③	テキストの和訳と内容把握
12	The Economistの記事③	テキストの和訳と内容把握
13	The Economistの記事④	テキストの和訳と内容把握
14	The Economistの記事④	テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と学術雑誌『Ethics & International Affairs』の論文を用いる。テキストは授業で配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の応答：テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）40 %

課題の提出（各記事の英文要約）60 %

＊初回の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の達成感が高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなで解きほぐしていけるかを模索しています。

【Outline (in English)】

This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed by submitted summaries and their class participation. The course is for those with intermediate and advanced English level.

LANe300EA (英語 / English language education 300)

Content-Based English B II (Global Issues)

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：Lower Intermediate～Advanced, 参考TOEICスコア300～。受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際問題を幅広く扱う英国の新聞雑誌『The Economist』の記事と学術論文を読みながら、難易度の高い英文に触れると同時に、国際関係の時事問題（平和、人権、開発など）についての理解を深める。

【到達目標】

論説記事や学術論文の英語に慣れ、要点を理解しながらメリハリをつけて読むことができるようになることを目指す。講読した文献の簡単な要約を【英文で】作れるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

3～4本の論説記事と1本の学術論文を読み終えることを目指す。重要・難解な箇所は逐語訳を行うが、通常は各文・パラグラフの要点をつかみながら、読み進める。また記事の内容の背景についても説明を行う。提出された課題のフィードバックも授業中に行う。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、予習の仕方、課題（英文要約）について ＊成績評価について説明します。
2	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
3	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
4	The Economist の記事①	テキストの和訳と内容把握
5	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
6	The Economist の記事②	テキストの和訳と内容把握
7	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
8	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
9	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
10	国際関係に関する学術論文	テキストの和訳と内容把握
11	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握
12	The Economist の記事③	テキストの和訳と内容把握

13 The Economist の記事④ テキストの和訳と内容把握

14 The Economist の記事④ テキストの和訳と内容把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各文献を読み終えた後、【英文要約】（300-400 words）を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英国の新聞雑誌『The Economist』の論説記事と学術雑誌『Ethics & International Affairs』の論文を用いる。テキストは授業で配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の応答：テキストの和訳、リアクション・ペーパーのコメント、ディスカッションへの参加など）40 %

課題の提出（各記事の英文要約）：60 %

＊初回の授業で詳しく説明しますので、必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

扱う文章も内容も簡単ではありませんが、毎回学生の達成感が高いようです。難しい英語・内容をどれだけみんなで解きほぐしていけるかを模索しています。

【Outline (in English)】

This course uses articles from The Economist and academic journals to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. Students are required to go through the materials before the class and grasp the content and check the vocabulary. After reading each material, students are asked to submit a short summary in English. Students are assessed by submitted summaries and their class participation. The course is for those with intermediate and advanced English level.

CAR100IA（キャリア教育 / Career education 100）		
スポーツとキャリア形成		
伊藤 真紀		
カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義		
開講時期：春学期授業/Spring 配当年次／単位：1年次／2単位		
曜日・時限：木4/Thu.4		
その他属性：〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わる職業について理解を深め、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランを立てる。キャリア形成において重要な、21世紀型スキルに代表される現代のグローバル社会を生き抜くために全ての人に必要とされる基本的能力（ジェネリックスキル）をアクティブラーニング形式の授業（ワークシート、グループワーク、ペアワーク、発表）を通して、実践的に学ぶ。		
【到達目標】		
日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。講義を通じて、キャリア形成に関する基礎知識を学習する。ワークシート、グループワーク、ペアワークを通じてを通じて自分のキャリアをイメージし、基本的なスキルを身につける。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」「DP7」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
14回の授業を通して、スポーツ界の現状を理解し、スポーツ関わるキャリアについて探求する。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランニングを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかをアクティブラーニング形式（ワークシート、グループワーク、発表）で学んでいく。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業ガイダンス	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。「なりたい職業」や自己紹介を通じて、「私」について考える。
2	キャリア形成に必要なスキルとは	「Work Shift」、「Life shift」を参考に人生100年時代の働き方について考える。 21世紀型スキルに代表される基本的能力（ジェネリックスキル）について学習する。
3	日本のスポーツ界の現状を理解する	日本のスポーツ界の歴史を振り返る。国際的メガイイベント、ワールドカップ、オリンピックを中心としてスポーツの発展をスポーツビジネス的観点からみていく。
4	スポーツ界の現状を理解する	スポーツプロダクト（グッズとサービス）について学習し、スポーツマネジメンツの観点で現状を捉えたとどのような事例があるかを考える。
5	キャリアプランニング 自分を知らう1【ライフライン】	キャリア形成プランをたてるために、これまでの自分の歩みをふりかえり、人生の岐路となった経験について考える。
6	キャリアプランニング 自分を知らう2【Identityについて】	キャリア形成プランをたてるために、Identityとは何か、まずは自分について考える。
7	キャリアプランニング 自分を知らう3【仕事観と人生観】	キャリア形成プランをたてるために、自分の仕事観と人生観について考え、言語化する。
8	キャリアプランニング; 自分を知らう4【キャリアアンカー】	キャリア形成プランをたてる、キャリアアンカーについて学び、自分のキャリアアンカーについて考えてみる。
9	キャリアスキル1	構成力、PDCAサイクルの説明、広い観点から解決策を考え、現実味のある解決策を考える。
10	キャリアスキル2	コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルについて学ぶ。
11	スポーツのキャリアについて	スポーツに関わる職業とは各自、興味のある職業について調べる。
12	スポーツのキャリア形成：グループプレゼンテーション準備	スポーツに関わる職業について調べプレゼンテーションの準備をする。
13	スポーツのキャリア形成 グループプレゼンテーション	スポーツに関わる職業について調べ、グループで発表する。
まとめ	スポーツのキャリア形成 グループプレゼンテーション総括	各グループプレゼンテーションへのコメント・フィードバックをもとにグループごとに各自の発表についてよかった点、改善点をまとめる。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
講義後には講義内容並びに課題を十分復習し、次の授業に生かすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。		
【参考書】		
ワーク・シフト ―孤独と貧困から自由になる働き方の未来図< 2025> リンダグラットン著 プレジデント社 LIFE SHIFT(ライフ・シフト) リンダグラットン著 東洋経済新報社 ライフキャリア 人生を再設計する魔法のフレームワーク 原尻淳一・千葉智之著 プレジデント社 資料はその都度授業内に配布する。		
【成績評価の方法と基準】		
評価項目は以下の3項目からなる。 ①ワークシート（リアクションペーパーを含む）50% ②レポート30% ③グループ・プレゼンテーション20% 合計：100%		
【学生の意見等からの気づき】		
ワークシートを作成し、これからの自己分析や今後のキャリアについて考える機会を多く取り入れます。		
【学生が準備すべき機器他】		
特になし		
【その他の重要事項】		
授業を通して、個人・グループでの作業に積極的に取り組むことで、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。		
【Outline (in English)】		
Course outline and Learning Objectives) Understanding the current state of sports environment and system in Japan, deepening your understanding of occupations involved in sports, and making a career plan that will serve as a clue to connect what students learn under the theme of their own career development. Practically learn the basic skills (generic skills) which is important in career formation and is required for everyone in order to survive through the modern global society through classes based on active learning form. The lectures will let you imagine your career through group work and pair work, and will help acquire basic skills. (Learning activities outside of classroom) After the lecture, thoroughly review the lecture contents and assignments, and make use of them in the next class. (Grading Criteria /Policy) Evaluation items consist of the following three items. ① Worksheet (including reaction paper) 50% ② Report 30% ③ Group presentation 20% Total: 100%		

GDR100IA（ジェンダー / Gender 100）

女性とスポーツ

伊藤 真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4年次／2単位
曜日・時限：木4/Thu.4
備考（履修条件等）：2023年度以前入学者対象
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的、社会的背景を紐解きながら、多様性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー」（社会・文化的側面）、「セクシャリティー」（生理学的・解剖学的側面）、メディア、プロモーション、様々な角度から多様性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の多様性とスポーツに関連した事例を通して、今後の多様性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】

様々な角度からスポーツと多様性について学び、今後のスポーツと多様性の可能性について自分の意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間を設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史Ⅰ：日本や諸外国における女性スポーツの事例	日本における女性とスポーツの歴史ならびに欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史Ⅱ：アメリカにおける女性とスポーツの事例「タイトルⅨ」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトルⅨ」について学ぶ。
4	女性の社会進出について	女性の社会進出について、歴史的背景、現状、さらにスポーツ界に置ける女性指導者の現状について学ぶ。
5	女性スポーツの現状：女性のスポーツ参画に関する日本ならびに諸外国の現状	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。また、諸外国並びに日本のスポーツ界における女性コーチの現状について学ぶ。
6	女性の身体とスポーツ、スポーツ参加について	女性アスリートの身体について・女性アスリートの3主徴“Female Athlete Triad”について学ぶ。BCS (Body Confident Sport) や、スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」の紹介を聞き、スポーツ実施率について考える。
7	スポーツ界における多様性Ⅰ：スポーツとジェンダー	ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
8	スポーツ界における多様性Ⅱ：諸外国におけるジェンダー関連事項	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関する諸外国のスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
9	スポーツ界における多様性Ⅲ：パラリンピック	パラアスリートについて学ぶ。

10	スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでのアスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
11	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅰ	多様性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける多様性戦略の意味を考える。視聴覚資料を通じて、多様性について考える。
12	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅱ	グループ発表に向けた準備と最終レポート課題についての説明。
13	グループ発表	授業内で提示するテーマの中から、グループ毎にテーマを選び、発表する。
14	総括	授業の振り返り、グループプレゼンテーションの総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

視聴覚資料：DREAM

【成績評価の方法と基準】

成績は、リアクションペーパーの内容（20%）、小テスト（20%）、グループプレゼンテーション（30%）、レポートの内容（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義で扱うテーマについて学生同士の意見交換を行う場（グループディスカッションなど）を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

We will learn about diversity in sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women's participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of diversity in sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality "(physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of diversity in sports in the future through the actual cases related to diversity in sports in both Japan and in foreign countries. (Learning activities outside of classroom) Compile a report related to the theme covered in class. (Grading Criteria /Policy) Grades will be evaluated based on reaction paper content (20%), class room tests (20%), group presentation (30%), and report (30%).

GDR100IA（ジェンダー / Gender 100）		
スポーツとダイバーシティ		
伊藤 真紀		
カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義		
開講時期：秋学期授業/Fall 配当年次／単位：1～4年次／2単位		
曜日・時限：木4/Thu.4		
備考（履修条件等）：2024年度以降入学者対象		
その他属性：〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 歴史的、社会的背景を紐解きながら、多様性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー」（社会・文化的側面）、「セクシャリティー」（生理学的・解剖学的側面）、メディア、プロモーション、様々な角度から多様性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の多様性とスポーツに関連した事例を通して、今後の多様性とスポーツの可能性について考える。		
【到達目標】 様々な角度からスポーツと多様性について学び、今後のスポーツと多様性の可能性について自分の意見を述べるができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間を設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史Ⅰ：日本や諸外国における女性スポーツの事例	日本における女性とスポーツの歴史ならびに欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史Ⅱ：アメリカにおける女性とスポーツの事例「タイトルⅨ」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトルⅨ」について学ぶ。
4	女性の社会進出について	女性の社会進出について、歴史的背景、現状、さらにスポーツ界に置ける女性指導者の現状について学ぶ。
5	女性スポーツの現状：女性のスポーツ参画に関する日本ならびに諸外国の現状	ブライトンプラスヘルシンギ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。また、諸外国並びに日本のスポーツ界における女性コーチの現状について学ぶ。
6	女性の身体とスポーツ、スポーツ参加について	女性アスリートの身体について・女性アスリートの3主徴“Female Athlete Triad”について学ぶ。BCS (Body Confident Sport) や、スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」の紹介を聞き、スポーツ実施率について考える。
7	スポーツ界における多様性Ⅰ：スポーツとジェンダー	ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。
8	スポーツ界における多様性Ⅱ：諸外国におけるジェンダー関連事項	ケーススタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関する諸外国のスポーツ界の事例を紹介し、ディスカッションを行う。
9	スポーツ界における多様性Ⅲ：パラリンピック	パラアスリートについて学ぶ。
10	スポーツとメディア	メディアにおけるこれまでのアスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
11	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅰ	多様性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける多様性戦略の意味を考える。
12	スポーツビジネスにおける多様性戦略Ⅱ	視聴覚資料を通じて、多様性について考える。
13	グループ発表	グループ発表に向けた準備と最終レポート課題についての説明。
14	総括	授業内で提示するテーマの中から、グループ毎にテーマを選び、発表する。授業の振り返り、グループプレゼンテーションの総括を行う。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。		
【参考書】 授業内にて、適宜紹介する。 視聴覚資料：DREAM		
【成績評価の方法と基準】 成績は、リアクションペーパーの内容（20%）、小テスト（20%）、グループプレゼンテーション（30%）、レポートの内容（30%）で評価します。		
【学生の意見等からの気づき】 講義で扱うテーマについて学生同士の意見交換を行う場（グループディスカッションなど）を設ける。		
【学生が準備すべき機器他】 特になし		
【Outline (in English)】 (Course outline and Learning Objectives) We will learn about diversity in sports while studying the historical and social background. Additionally, we will understand the history of women's participation in the Olympic Games and their active activities until today, and learn the basic knowledge of diversity in sports from various angles such as "gender (social and cultural aspects), "sexuality "(physiological and anatomical aspects), media, promotion, etc in order to grasp the outline. Furthermore, we will think about the potentiality of diversity in sports in the future through the actual cases related to diversity in sports in both Japan and in foreign countries. (Learning activities outside of classroom) Compile a report related to the theme covered in class. (Grading Criteria /Policy) Grades will be evaluated based on reaction paper content (20%), class room tests (20%), group presentation (30%), and report (30%).		

SOM100IA（社会医学 / Society medicine 100）

衛生学

笹澤 吉明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：水3/Wed.3

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすために必要な衛生に関する基礎的・基本的な知識の理解を深めることである。

衛生学の基本的な考え方、地球環境問題、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質、病原微生物、衣食住の衛生、公害と健康影響について学ぶ。

衛生学の目的は単に病気を防ぐだけでなく、全般に亘る生活の質を向上させ、地球環境の改善にも目を向けられる思考を育むことである。

【到達目標】

1. 生命の基盤である地球生態系について説明することができる。
2. 環境の評価と環境リスク対策について説明できる。
3. 物理的環境要因、化学的環境要因、生物学的環境要因の健康影響と対策について説明できる。
4. 空気の衛生と大気汚染について説明できる。
5. 廃棄物の現状と対策について説明できる。
6. 衣食住の衛生について説明できる。
7. 公害と環境問題について説明できる。
8. 環境管理の方法と取り組みについて説明できる。
9. 産業衛生の課題について説明できる。
10. 予防医学の手法である疫学の指標及び研究デザインについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業方法は、原則として対面による授業とする。授業では、単に知識を与えるのみならず、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意する。各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の概念	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえ概説する。
3	人間の環境、環境の把握とその評価・対策	生活環境、地球生態系、環境汚染、地球環境問題、環境の認知、環境状態の把握、環境の評価、環境リスク対策について概説する。
4	物理的環境要因、化学的環境要因	気温、湿度、気流、輻射熱、騒音、放射線・紫外線、気圧、化学物質に対する考え方、毒性および毒性試験、化学的環境要因について概説する。
5	生物的環境要因、微生物を中心に	人類と微生物、主な病原微生物、感染症の病態、感染症疫学、感染経路、環境要因と感染症の発生について概説する。
6	空気の衛生と大気汚染、水の衛生と水質汚濁	空気と人間、体温調節と空気、気候、空気の成分と汚染、水と健康、上水、下水、水質汚濁について概説する。
7	廃棄物及び衣食住の衛生	一般廃棄物、産業廃棄物、不法投棄、有害廃棄物の越境移動の管理、マイクロプラスチックの海洋汚染、衣の衛生、食の衛生、住居の衛生について概説する。
8	公害と環境問題、環境の管理	公害の概念と歴史、日本の公害問題、地球規模の環境問題、最近の環境問題、環境管理の必要性、環境管理の方法、国際的取り組み、国内での取り組みについて概説する。
9	産業保健（１）	働く人々の健康、労働災害・事故について概説する。
10	産業保健（２）	職業病、職場における健康診断と健康増進について概説する。

11	産業保健（３）	勤労者の労働時間と余暇、職場復帰について概説する。
12	疫学（１）	疫学とは、疫学の手順と留意事項、疾病分類について概説する。
13	疫学（２）	疾病量の把握、疫学の方法（記述疫学研究、生態学研究、横断研究、コホート研究、症例対照研究、ランダム化比較試験等）について概説する。
14	総合討論	衛生学上の課題について総合討論を行い、講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】

シンプル衛生公衆衛生学 2026、辻一郎ら、南江堂、2026、2860円。

【参考書】

適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

授業毎のレポート（50％）及び最終レポート（50％）により評価する。欠席が多い場合には評価の対象とはしないことに留意する。なお、やむを得ず欠席する場合は理由を書面にて提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を取り入れるようにする。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen understanding of the basic and fundamental knowledge about hygiene necessary to protect life and stay healthy throughout one's life.

Students will learn about the basic concepts of hygiene, global environmental issues, environmental sanitation of water and air, chemical substances in our daily lives, pathogenic microorganisms, sanitation of food, clothing and shelter, and pollution and its effects on health.

The purpose of hygiene is not simply to prevent disease, but to improve the overall quality of life and to develop a mindset that also focuses on improving the global environment.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅰ

木村 新

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニング科学を理解する上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を学び、適切なトレーニング計画をデザインするための基礎を習得する。

【到達目標】

・トレーニング科学を学ぶ上で必要な基礎的知識（バイオメカニクス、運動生理学、神経科学等）を理解する。
・各種トレーニング（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）の内容と方法および、トレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。
第2回	トレーニング指導者論	トレーニング指導者としての役割や実務、またトレーニングに関するデータの測定・分析・評価・活用の方法について概説する。
第3回	トレーニング方法の基礎	トレーニング方法の種類（レジスタンストレーニング、持久性トレーニング、プライオメトリクストレーニング等）を解説し、トレーニングを計画する際の留意点について確認する。加えて、トレーニング方法の種類に応じた負荷のかけ方や相互関係について説明する。
第4回	骨格筋の科学①	骨格筋の生理学的な側面について説明する。
第5回	骨格筋の科学②	骨格筋と腱の力学特性について説明する。
第6回	トレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作をバイオメカニクスの観点から評価できるようになることを目指す。
第7回	生体エネルギー論	運動様式に応じたエネルギー供給機構を説明する。
第8回	レジスタンストレーニング①	レジスタンストレーニングにおける頻度や強度の標準的な組み方を説明する。
第9回	レジスタンストレーニング②	レジスタンストレーニングの各種エクササイズを概説し、各種エクササイズをバイオメカニクスの観点から説明する。
第10回	持久性トレーニング①	持久性トレーニングに伴う身体内部の変化について説明する。
第11回	持久性トレーニング②	持久性トレーニングの標準的な組み方について説明する。
第12回	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクストレーニングとは何かを説明し、プライオメトリクストレーニングの各種エクササイズとそれらのバイオメカニクスについて概説する。
第13回	リカバリー方法	リカバリーの各種技法の紹介、効果のメカニズムを解説する。
第14回	期末試験	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

・「ストレングストレーニング&コンディショニング[第4版]」G. Gregory Haff, N. Travis Triplett (編集), Book House HD
・「NSCA スポーツ科学の基礎知識」Duncan N. French, Lorena Torres Ronda, NSCA ジャパン

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

スポーツトレーニング論Ⅱの内容と合わせて理解するとトレーニングに関する見解が深まると思われるので、スポーツトレーニング論Ⅱの受講を勧める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To learn the basic knowledge required to understand training science (biomechanics, physiology, neuroscience, etc.).

To learn the fundamentals for designing training plans.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to use them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading criteria/Policy】

Test: 100%

SOM2001A（社会医学 / Society medicine 200）

公衆衛生学

笹澤 吉明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィンスロウ（WHO）の定義にあるように、「公衆衛生は、共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学・技術である」とされ、これに必要な知識を幅広く習得し、実践力を身に付ける。具体的には、主要な健康の決定要因、ライフコースにおける健康課題や対策、関連法規や行政機関の役割、代表的な公衆衛生活動及び予防疫学の手法である疫学を理解し、説明できる力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

1. 人の健康に影響を与える、宿主要因、生物的環境要因、社会・経済的要因、物理・化学的要因を説明でき、予防医学の重要性を訴える資質を獲得する。
2. 基本的な疫学指標・研究デザインを説明できる。
3. ライフコース（母子・学校・産業・成人・高齢者保健）における主要課題と対策を整理して説明できる。
4. 精神保健、国際保健などの公衆衛生の課題と対策を説明できる。
5. 主要な関連法規と保健行政機関の役割を説明できる。
6. 代表的な公衆衛生活動を事例に即して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業方法は、原則として対面による授業とする。授業では、単に知識を与えるのみならず、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意する。各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	健康の概念と公衆衛生学	健康の定義、生活と健康、健康問題の変遷、公衆衛生活動について概説する。
2	保健統計	健康水準、健康指標、人口統計、その他の統計について概説する。
3	疫学とは	疫学の定義、国際疾病分類、曝露と疾病量について概説する。
4	疫学の方法	疫学研究の分類、症例対照研究、コホート研究、介入研究について概説する。
5	疫学の偏りと因果関係	偏りと交絡、因果関係について概説する。
6	主な疾病の予防	感染症、循環器疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患、不慮の事故、自殺について概説する。
7	地域保健と保健行政	保健所、保健センター、地域保健活動、消費者保健について概説する。
8	母子保健	母子保健の水準、少子化、児童虐待、子どもの貧困、健康格差、母子保健行政について概説する。
9	産業保健	労働災害、職業病、職場の健康診断、ワーク・ライフ・バランス、職場復帰について概説する。
10	高齢者保健・福祉	老化、フレイル、健康寿命、後期高齢者医療制度、介護保険、地域包括ケアシステムについて概説する。
11	精神保健	精神障害の分類、主な精神疾患、精神保健福祉活動について概説する。
12	国際保健	国際保健とは、人種と民族と国、発展途上国の健康問題、国際協力、WHOなどについて概説する。
13	保健医療福祉の制度と法規	保健医療行政組織、医療制度の仕組み、医療保険・年金、社会福祉と障害者福祉について概説する。
14	公衆衛生学のまとめ	これまで学んだ公衆衛生の各論を整理し、総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出を求める。

【テキスト（教科書）】

シンプル衛生学公衆衛生学 2026、辻一郎ら、南江堂、2026、2860円。

【参考書】

国民衛生の動向 2026/2027(厚生労働統計協会)

【成績評価の方法と基準】

授業毎のレポート 50%、最終レポート 50%で評価する。

欠席が多い場合には評価の対象からはずれるので留意すること。欠席の理由は必ず提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】

As defined by Winslow (WHO), "Public Health is the science and art of preventing disease, prolonging life, and promoting physical and mental health and efficiency through the organized community efforts," and students acquire a wide range of knowledge necessary for this purpose. Specifically, this includes acquiring a comprehensive understanding of the major determinants of health; health challenges and interventions across the life course; the roles of relevant laws, regulations, and administrative agencies; representative public health activities; and epidemiology as a methodological foundation of preventive medicine and public health practice.

SOM2001A（社会医学 / Society medicine 200）

学校保健

笹澤 吉明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2年次／2単位

曜日・時限：木4/Thu.4

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義の目的は学校における児童生徒の健康課題の理解を深め、学校保健の意義や法的根拠を学び、課題解決に向けての方法論を考究することである。

【到達目標】

1. 学校保健、学校安全の基本構成について理解する。
2. 児童生徒の心身の健康問題の現状を理解し、学校の役割について理解する。
3. 学校保健における保健体育教諭の役割を理解する。
4. 学校保健を支える学校環境を理解する。
5. 学校における医療的ケア、特別支援教育、インクルーシブ教育を理解する。
6. 危険行動（飲酒・喫煙・薬物乱用）への取り組みを理解する。
7. 基本的な応急処置が実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業方法は、原則として対面による授業とする。授業では、単に知識を与えるのみならず、課題解決型の質問による双方向の授業進行となることに留意する。各授業後に理解の程度を確かめるレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学校保健とは	意義、歴史、健康・保健の定義について概説する。
2	学校保健の法的根拠と関係職員	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、校長、保健主事、養護教諭、学校三師、栄養教諭、スクールカウンセラーについて概説する。
3	児童生徒の発育発達と疾病・異常	身体の発育発達、発育曲線、体力・運動能力、こころの発達について概説する。
4	健康診断	健康診断の目的、種類、時期、健康観察、結果の活用について概説する。
5	感染症とその予防対策	感染症対策、種類、出席停止・臨時休業、予防接種について概説する。
6	応急手当と救命処置	意義、けが・急病対処、手順、救命処置について概説する。
7	児童生徒のこころの健康問題	保健室利用状況、児童虐待、不登校、いじめ、自殺について概説する。
8	性教育の課題と指導法	性感染症、人工妊娠中絶、性被害、初経・精通、包括的性教育について概説する。
9	喫煙・飲酒・薬物乱用教育	目的と内容、指導方法、薬物乱用教室について概説する。
10	食育とがん教育	食生活の課題、食育の指導法、学校給食、がん教育の指導方法と配慮事項について概説する。
11	学校安全と危機管理	児童生徒が巻き込まれる事件事故、学校安全管理と教育について概説する。
12	学校の環境衛生基準と法的根拠	学校環境衛生、法的根拠、定期検査、学校環境衛生基準について概説する。
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	特別支援教育の現状と課題、インクルーシブ教育システム、留意事項について概説する。
14	総合討論とまとめ	学校保健の課題について総合討論を行い、講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間。授業内で示した課題に関するレポートの提出が求められる。

【テキスト（教科書）】

学校保健概論（第4版）、渡邊正樹、光生館、2024、2420円。

但し、出版社がなくなったため、入手しづらいので、資料を配ります。

【参考書】

適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

授業後に求める小レポート50%、最終レポート課題50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of the lecture is to deepen understanding of health issues faced by children and students in schools, learn the significance and legal basis of school health, and explore methodologies for solving these issues. 【Learning Objectives】1. To understand the basic structure of school health and safety. 2. To understand the current situation of mental and physical health problems of students and the role of schools. 3. To understand the role of health and physical education teachers in school health. 4. To understand the school environment that supports school health. 5. To understand medical care, special support education, and inclusive education in schools. 6. To understand how to deal with risky behaviors (drinking, smoking, drug abuse). 7. To be able to perform basic first aid. 【Learning activities outside of classroom】Preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be required to submit a report on the issues presented in the class. 【Grading Criteria /Policy】50% for a short report required after class, 50% for a final report assignment.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

アスレティックトレーナー概論

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4年次／2単位
曜日・時限：木2/Thu.2
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスレティックトレーナー（AT）の役割とその業務を理解することが第一の目的である。本邦におけるATおよび日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景を学ぶ。同時に諸外国におけるATやAT同様の資格の状況について学び、監督・コーチ、組織的な活動に連れ、その位置づけや運営管理について学び、監督・コーチ、ストレングスコーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携をとって選手をサポートしていくかなど、ATが現場で活動する上で必要な知識を養う。

【到達目標】

「アスレティックトレーナー」という役割と業務内容を、欧米・アジアと日本、各競技、他のスポーツ関連資格や各種スポーツ現場における役割などによる様々な違いとともに理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうちの、「DP1」「DP2」「DP6」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、リアクションペーパーなどで個々の意見や考えをできる限り反映し回答しながら授業を展開していく。講義の後半部分では、実際に現場で活躍している現場のATをお願いする特別講演を予定している。授業内容によってはオンデマンドによる実施もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ATの歴史と現状	日本におけるATの歴史および現状、諸外国におけるATに相当する制度の現状について講義する。
2	ATの任務と役割	ATの任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	ATの業務	ATの具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	ATの活動（合宿・遠征）	ATの実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	ATの活動（練習・試合）	ATの実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技におけるATの具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	ATの活動（競技別）	ATの実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技におけるATの具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	ATの活動（外部講師の招聘）	ATの実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技におけるATの具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
8	医科学スタッフの構成と役割（医学スタッフ）	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割（科学スタッフ）	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	ATと関連資格制度（スポーツを含む）	ATに関連する各種資格とその制度のついて、医療系の国家資格（理学療法士、柔道整復師、鍼灸マッサージ師など）を含めて概説する。
11	ATの組織と運営（外部講師の招聘）	ATの組織と運営について、トレーナーチームとその業務。活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。

12	ATの法的諸問題	ATに関連する医療関係法規やその判例などから、ATの役割や業務範囲、法律による規制について学ぶ。
13	ATと倫理	ATと倫理として、ATの社会的な立場、ATを取り巻く環境について考える。
14	ATの未来	これまでの講義を通して日本におけるアスレティックトレーナーの今後について議論を行い考えを深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
第2～14回：前回授業への取り組みと復習
本授業の準備学習・復習時間は合計4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・特になし。講義資料は配布可能なものに関しては学習支援システムから各自ダウンロードすることとするが、すべてを配布するわけではない。

【参考書】

1. 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学，文光堂
2. 平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウスHD
3. スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウスHD
4. 臨床スポーツ医学（月刊誌），文光堂
5. 日本スポーツ医学検定機構，スポーツ医学検定公式テキスト1級，東洋館出版社
6. 日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割，2022

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は、授業への参加（各回の小テスト／別に課すレポートの得点）を合算（各回7点×14回）し、最終的に100点満点で点数化する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通してアスレティックトレーナー（AT）という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。ATを目指す目指さないに関わらず、スポーツに必須の役割であるATの業務内容を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けている。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The primary objective is to understand the role of athletic trainers(AT) and their work. Students learn the historical background of the birth of Japan's AT and the background of the establishment. Students also touch on the activities of AT and learn about the positioning and administration at the sports scene.

【Learning Objectives】 The purpose of this course is to understand the role of the athletic trainer from the perspective of the differences between Europe, the United States, and Japan, and the various sports settings.

【Learning activities outside of the classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grades for this lecture will be evaluated by adding up the quizzes for each session.

MAN100IA（経営学 / Management 100）

スポーツ組織論

得田 進介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4年次／2単位
曜日・時限：水3/Wed.3
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のスポーツ産業をさらに発展させていくためにはスポーツチームやスポーツ関連組織の経営管理体制の強化が必要不可欠となっています。本講義では、組織の基礎知識を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論など）に学び、スポーツ組織が実際に行なっている組織運営の実務において最低限必要な専門能力の習得を目的とする授業を行います。

【到達目標】

- ・マネジメントについて明確に理解する。
- ・組織論の基礎知識を理解する。
- ・スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業冒頭で授業内容に関連する時事的テーマについて解説します。授業はPower Point資料を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについてリアクションペーパーの提出、講義中に発表をしてもらいます。
マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論	授業の概要説明、授業評価方法の説明。 日本のスポーツ組織の構造を理解する。
2	スポーツ組織とは	スポーツ組織にはどのような組織があるのかを理解する。
3	スポーツ組織におけるリーダーシップとマネジメント	監督・GM・フロントの役割の違いを理解する。 スポーツ組織を動かすリーダー像について考察する。
4	スポーツ組織における人材マネジメント	コーチ、選手、スタッフの採用・育成・評価の仕組みを理解する。
5	プロスポーツクラブの経営戦略と収益モデル	収益源、スポンサーシップなどビジネスモデルを理解する。
6	スポーツ組織の実務	実際のプロスポーツチームおよび中央競技団体の事例を基に、組織の実務を理解する。
7	スポーツ組織の財務分析	クラブの公開情報から経営状態を分析して、クラブの健全性を理解する。
8	スポーツ組織におけるイノベーションとテクノロジー活用	データ分析、AI、ウェアラブルなど、「スポーツ×IT技術」を理解する。
9	スポーツイベントの組織運営	五輪・W杯など大規模イベントの運営の仕組みとその後の影響を知る。 スポーツとメディアの関係性、放映権ビジネスを学ぶ。
10	スポーツ組織のガバナンスとコンプライアンス	不祥事が起きる構造や、透明性をどう確保するか、事例を基に理解する。
11	スポーツ組織の危機管理とリスクマネジメント	不祥事などへの対応、クラブとしての体制づくりを考察する。
12	地域スポーツクラブとまちづくり	Jリーグの「ホームタウン制」とシャレンを理解する。 スタジアム・アリーナ開発とまちづくりについて考える。
13	スポーツ組織の社会的責任（CSR）とサステナビリティ	環境配慮、地域貢献、社会課題解決に向けた取り組みを理解する。
14	講義まとめ	今までの講義の総括を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は特に必要なし。授業を受講した後に内容を理解できているか関連する記事や紹介した資料などを用いて復習してください。本授業の復習時間は4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「スポーツチーム経営の教科書」有限責任あずさ監査法人 学研プラス
「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」スポーツ庁

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法：授業の内容を理解し、スポーツ界や組織における課題と対応策について自らの意見を述べるができるか、インプットとアウトプットが適切にできているかで評価します。
成績評価の基準：講義後に提出するリアクションペーパー、授業態度（発表やグループディスカッションの内容含む）：50%、期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生からの要望を基に、講義中は積極的にグループディスカッションや意見発表を求めるようにします

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

公認会計士としてスポーツチームの組織運営や組織体制強化に実際に携わっている経験を踏まえて、組織で必要とされている人材や知識について事例を基に講義していきます。
社会に存在している組織がどのような運営を行なっているのか、スポーツ界で今何が起きていて何が課題になっているのか、自分に必要な知識は何かを常に考えながら授業を受講してください。授業内容や用語等の暗記は一切不要であり、それよりも自分の考えをまとめること、伝えることを意識してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn basic knowledge of organizations from various perspectives (management organization theory, human resource management theory, business management theory, management strategy theory, etc.), with the aim of acquiring the minimum necessary professional skills in the actual organizational management practices of sports organizations.

【Learning Objectives】

- ・ To clearly understand management.
- ・ To understand the basic knowledge of organizational theory.
- ・ To understand the theory of effective management of sports organizations.

【Learning activities outside of classroom】

After attending the class, please review the content to see if you understand it.

After attending the class, please review the content by using the related articles and other materials. The standard review time for this class is about 4 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Reaction paper to be submitted after the lecture: 50%, Final exam: 50%.

HSS100IA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）

スポーツトレーニング論Ⅱ

木村 新

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4年次／2単位

曜日・時限：水2/Wed.2

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ場面におけるパフォーマンスの構造を理解した上で、競技種目やレベルに応じて適切なトレーニング計画がデザインできるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・トレーニング論における基礎コンセプトであるパフォーマンスについてその内容と構造について理解すること。
- ・自身が行ってきた競技を例にトレーニング内容とトレーニングの効果を測定する方法を計画できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントやVTR等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら行う。

実際にトレーニング計画をデザインしてもらい、発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	トレーニング科学の対象、位置づけ、方法とは何かを説明した後に、今後の講義の流れについて確認する。トレーニング計画の発表者を決める。
第2回	スポーツパフォーマンスの構造とその発達 ①	トレーニング科学におけるパフォーマンスとは何か、およびその構造モデルを説明する。
第3回	スポーツパフォーマンスの構造とその発達 ②	トレーニングによってパフォーマンスが向上していく際のメカニズムについて概説する。
第4回	スキルトレーニングの理論と実践	スキルの定義を解説した後に、それをトレーニングによって向上させるための考え方について説明する。
第5回	コーディネーションおよびファンクショナルトレーニングの理論と実践	コーディネーションおよびファンクショナルトレーニングの目的および問題の捉え方、トレーニング手段について解説する。
第6回	力およびスピード系トレーニングの理論と実践	力およびスピード発揮能力を適切に向上させるためのトレーニング理論について解説する。
第7回	持久性トレーニングの理論と実践	競技者の課題に応じた持久性トレーニングの内容と計画のデザイン方法について、トレーニング論Ⅰよりも発展的な内容について説明する。
第8回	トレーニングと試合	トレーニングを考える上での試合の位置づけについて説明し、試合の本質と機能について説明する。
第9回	ピリオダイゼーション	トレーニング周期の階層システム(ピリオダイゼーション)について説明する。
第10回	トレーニング計画における留意点	トレーニング計画をデザインする際の様々な留意点について解説する。
第11回	トレーニング計画のデザイン①	実際のトレーニング計画のデザイン例を紹介し、その計画の根拠や意図を説明する。
第12回	トレーニング計画のデザイン②	これまでに学習してきたことを踏まえて、自身が行ってきた競技を例にトレーニング内容とトレーニングの効果を測定する方法を考える。
第13回	トレーニング計画のデザイン③	トレーニング計画をプレゼンテーション形式で発表し、さらに洗練させるためには何が必要かを考える。
第14回	期末テスト	1～13回目までの内容について、修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

なし（授業の各回で資料を作成して学習支援システムの「教材」にアップロードする）

【参考書】

- ・「ストレングストレーニング&コンディショニング[第4版]」G. Gregory Haff, N. Travis Triplett (編集), Book House HD
- ・「NSCA スポーツ科学の基礎知識」Duncan N. French, Lorena Torres Ronda, NSCA ジャパン

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積と講義内で作成したトレーニング計画書は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニング計画を作成するためのソフトウェア（エクセルなど）。

【その他の重要事項】

トレーニング論Ⅰを発展させた内容となっているため、トレーニング論Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To understand the structure of performance in sports situations.

To be able to design appropriate training plans.

【Learning objectives】

To be able to design appropriate training plans and methods of measuring the effectiveness of training, using their own athletic experience as an example.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply their understanding to sports fields. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading criteria/Policy】

Test: 100%

PHL100JA (哲学 / Philosophy 100)

生命倫理

渡部 麻衣子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理学は、生命の倫理的取り扱い方について検討する学問です。この授業では、社会の中に生まれて死んでいく人の生命の取り扱い方をトピックとしながら、概念、事例、異なる立場の議論を通して、生命倫理学の基礎を学びます。

【到達目標】

1. 生命倫理学の基礎概念を学ぶ。2. 事例を通して、生命倫理学的議論の方法を学ぶ。3. 授業内での発言を通して、生命倫理学的な議論を実践する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態（講義）、授業内でディスカッションを促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方、評価について説明する。
第2回	倫理的思考法（1）徳	生命倫理学の中の徳倫理に関する概念を学ぶ
第3回	事例の検討（1）徳	徳倫理に関係する問題を扱う動画を鑑賞し、論点を確認する。
第4回	議論（1）どうすれば「徳」は得られるか（仮）	前週に確認した論点を中心として、どうすれば「徳」は得られるかを議論する。
第5回	倫理的思考法（2）義務論	生命倫理学の中の義務論に関する概念を学ぶ。
第6回	事例の検討（2）義務論	義務論に関係する問題を扱う動画を鑑賞し、論点を確認する。
第7回	議論（2）「正義」をめぐって（仮）	前週に確認した論点を中心として、「正義」とは何かについて議論する。
第8回	倫理的思考法（3）功利主義	生命倫理学の中の功利主義倫理に関する概念を学ぶ。
第9回	事例の検討（3）功利主義	功利主義に関係する問題を扱う動画を鑑賞し、論点を確認する。
第10回	議論（3）「善」とは何か（仮）	前週に確認した論点を中心として、人間にとって「善」とは何かについて議論する。
第11回	倫理的思考法（4）ケア論	近しい他者との関係性の中に生じる倫理的課題を論じる「ケア論」の視座を学ぶ。
第12回	事例の検討（4）ケア論	「ケア論」に関係する問題を扱う動画を鑑賞し、論点を確認する。
第13回	議論（4）「正当なケア」とは何か（仮）	他者を正当にケアすることは可能か。可能だとしてそれはいかにしてか。これまでの学びを元に議論する。
第14回	総括	これまでに学んだことをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に参加するにあたり、配布資料を読んてくること。所要時間は約1時間である。

毎回、配布資料と前回の講義の内容に関する小テストを行うので、約1時間程度の復習をすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しない。

【参考書】

授業内で資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30％、小レポート：20％、最終レポート：50％

【学生の意見等からの気づき】

これまでの授業内容を振り返り、昨年度からは、生命倫理学で重視されている具体例を取り上げ、生命倫理学での議論を背景も含めて体系化して解説し、クラスでの有意義な議論につなげることにした。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題はワードで作成するため、パソコンが必要である。

【Outline (in English)】

Bioethics is the field of study to speculate on the ethical treatment of "life". In this class, students will learn the basics of bioethics by studying concepts, cases, and discussions based on diverse standpoints, relating to the issues on human life, which begins and ends in society.

Students will be required approx. 1 hour of studies before and after the class.

Grading policy is as follows : Attendance(30%) Reports (20%) Final Essay (50%)

EDU100JA（教育学 / Education 100）

教育学

藤本 典裕

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5058」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

（授業の目的）1．日常的な経験を通じて教育に関する基礎概念を検討する。人類はなぜ、どのように教育を基礎的な社会機能として維持してきたのかを学ぶ。

2．教育に関する思想の概要を学ぶ。3．学校制度の機能を学ぶ。4．教育に関する権利と義務、誰が権利主体なのか、なぜそうなのか、教育を保障するのは誰かを学ぶ。

（授業時間外の学習）提示する資料を読み、次回授業までに課題に定めること。授業後、その内容についてミニ・レポートを作成すること（詳細は授業時に指示する）。

（成績評価の基準）学期末レポート（60％）及びミニ・レポート（40％）を総合的に評価する。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

- 1．教育に関する諸概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
- 2．近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
- 3．学校制度の役割、問題点について自分の考えを整理して述べることができる。
- 4．教育を受ける権利とその保障について理解し、その問題点を指摘し、それについての見解を整理して述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。

下記に授業計画を示しているが、授業の進行状況に応じて変更を行うこともありえる。変更の場合はその都度連絡する。学習支援システムに講義資料などを提示するので確認して受講すること。その他、必要な連絡も基本的には学習支援システムを通じて行うので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	子育て・教育の自立化	子育て・教育が他の活動と区別される特性を検討する。

第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	教育可能性	人間という生物の特性を教育可能性という視点から検討する。
第6回	ルソーに学ぶ	ルソーの子ども観・教育観から近代教育思想について考える。
第7回	発達の段階	ピアジェの研究成果などから人間の発達段階について整理し検討する。
第8回	能力モデルと教育の規定	人間の能力のとらえ方を整理し、それを育成する教育のあり方について検討する。
第9回	学校の誕生と発展	学校という社会制度が誕生する経緯とその発展の過程を整理する。
第10回	日本の学校	日本の学校制度の誕生と発展の経緯を整理し、学校制度が歴史的に担ってきた役割を検討する。
第11回	教育を受ける権利と義務	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利と教育費	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第13回	子どもの貧困をめぐって	子どもの貧困が子どもたちから奪っているものについて考える。
第14回	さまざまな問い	第13回目に取り上げられなかった諸課題について検討するヒントを提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験またはレポート（60％）、小レポート（40％）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることが主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-being, the meaning of education for human-being, the basic thoughts of contemporary education and educational system and the problems concerning contemporary education.

【Learning Objectives】

At first, basic educational concepts will be discussed through daily- life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the thoughts on education.

Third, we will learn about the functions of schooling system.

Fourth, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, why so, and who guarantee the rights.

【Learning activities outside of classroom】

I will show you about the contents of next lesson and the activities you must do. So after each lesson, by reading the materials (I present on web-site) , review the contents of the lesson and make a short report (I will show you the detail at each lesson) by the next lesson.

【Grading Criteria】

Grading will be decided by term-ending report and short reports held in lessons. (Term-ending report:60%、Short reports:40%)

LAW100JA（法学 / law 100）

日本国憲法

村元 宏行

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で福祉を学んでいますが、どの学問分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められています。いうまでもなく憲法は国の最高法規ですから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しません。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがあります。

また、専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要です。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、総論と人権を、次いで統治機構を取り上げ、それらの歴史的、社会的背景と併せて学んでいきます。

【到達目標】

- ・なぜ、私たちの社会に「憲法」が存在するか、「立憲主義」の意義について説明できる。
- ・現実に生起している憲法問題を発見する。
- ・憲法「改正」問題について、自分なりの考えを発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

オフィスアワー（質問への対応）

授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 憲法とは何か	立憲主義について
第2回	日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について
第3回	国民主権と象徴天皇制	国民主権原理と天皇制・天皇の国事行為等について
第4回	平和主義（その1）	憲法9条をめぐる議論とその背景について
第5回	平和主義（その2）	憲法9条をめぐる近年の動向について
第6回	基本的人権（総論）	基本的人権の類型、人権保障の限界等について
第7回	基本的人権（自由権）	精神的自由権、経済的自由権、人身の自由について
第8回	基本的人権（社会権）	生存権、教育を受ける権利、労働基本権について
第9回	基本的人権（国務請求権と参政権）	請願権、裁判を受ける権利、参政権等について
第10回	統治の仕組み（総論）	権力分立制について
第11回	統治の仕組み（立法権、行政権）	議院内閣制における立法権と行政権の関係等について
第12回	統治の仕組み（司法権）	司法権の独立等について
第13回	統治の仕組み（財政・地方自治）	財政民主主義や地方自治の本旨について
第14回	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

憲法をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておく、授業の理解に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。

これらの予習・復習については、あわせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『デイリー六法』（三省堂）や『ポケット六法』（有斐閣）等の小型六法。最新版が望ましい。

詳しくは初回授業で指示しますが、既に持っている人は初回授業から持参してください。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（50％）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べるができるかを評価します。

リアクションペーパー（50％）：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当につき、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料配布や諸連絡等に学習支援システムを用います。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the fundamental principle of constitutionalism.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

SOC100JA（社会学 / Sociology 100）		
社会思想史		
楠 秀樹		
配当年次／単位数：1～4年次／2単位		
その他属性：〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
到達目標: この講義は、ナチズムの基礎にあるレイシズムと優生思想の社会思想史を講義する。人間を生物学や医学の見地から異なった存在として位置づけ、優劣や序列をつけ、区別し、分離し、排除し、殺戮する論理を、歴史的に考察し、現代日本と比較する。これによって、学生は「社会」を多角的視点から考察できるようになり、社会の中の自らの考えや行為を反省して答えが出せるようになる。		
【到達目標】		
・学生は、優生思想の歴史を知ること、「内なる優生思想」に気づく。 ・学生は、「社会」についての多様な視点、それぞれのモデルの強みと弱み、自分の社会観に気づく。 ・学生は、安楽死、動物保護自然保護、出生前診断など、死のケアにまつわる社会思想史的背景理解ができる。 ・学生は、統計資料や新聞報道等の素材から、自分で問題点を抽出し、議論を組み立てられるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
講義形式で、毎回のHoppiiを用いたフィードバックから、その都度授業のふりかえりを行う。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし /No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし /No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション—授業の概要・目的・意義の共有	講義内容全体を予告するが、学生にいくらか問いかけ、講義内容を調整するヒントを得られるようにしたい。
第2回	社会を考える—オーギュスト・コントの全体	歴史上の「社会」の捉え方、その変動についての考え方の一つを示す。社会学の創始者の一人コントの思想を紹介する。
第3回	社会進化を考える—ハーバート・スペンサーの個人	歴史上の「社会」の捉え方、その変動についての考え方の一つを示す。社会学の創始者の一人スペンサーの思想を紹介する。
第4回	コントとスペンサー	コントとスペンサーの考え方から自らの考える「社会」とその「進化」についてまとめる。社会の「進化」ということから、ダーウィン、ラマルクなどの進化論の社会に対する影響を考え、その思想がアメリカにおいて優生思想の実験につながっていくことを確認する。
第5回	優生思想の出現	
第6回	刑罰国家—社会保障か刑務所か	優れた人間を生み出し、劣った人間を排除する優生思想は、人間の優劣を決定する政策につながる。その際、「劣」とされたものは救済の対象となるのか、排除隔離の対象となるのか。「刑罰国家」をキーワードとして確認する。
第7回	ナチスドイツの出現・ナチスドイツ出現の歴史の共有・ナチスドイツの優生思想を確認する。	アメリカで実践された優生学はドイツに渡った。ナチスドイツのアメリカ優生思想との連続性と非連続性を確認する。
第8回	ナチスドイツの優生思想—ナチスドイツの優生政策の非人道性が極まった障害者虐殺	優生政策は生殖力の剥奪である「断種」であった。しかしナチスドイツではとうとう生命の剥奪が「安楽死」と称して行われるようになった。このことを考える。
第9回	T4作戦と動物権利—動物と人間の価値の組み換え	動物権利と動物福祉という概念がある。現代社会においては動物と人間の共生、自然との共生が問われているが、ナチスの優生政策は、進化論、遺伝などの生物学の思想を疑似科学的に取り入れ、生命の価値の序列を組み換えた。これについて考える。
第10回	T4作戦と安楽死—安楽死、尊厳死、自殺幫助	ナチスが「安楽死」といった内実を、現代社会に問われる「死のケア」「安楽死」「尊厳死」「自殺幫助」と照らし合わせて考える。
第11回	北欧の福祉と優生思想	社会福祉先進国である北欧の優生政策もナチスドイツの優生思想の源流であったことを確認する。その他ナチスドイツの社会保障政策が「誰かを犠牲にして誰かを幸福にする」という発想であったことを確認する。
第12回	日本の優生思想と政策	ナチスドイツと日本の優生思想・政策に連続性があるのか?日本の優生思想を考える上で、「家」家族の位置づけが重要となる。このことを考える。
第13回	出生前診断・出生前診断の現状・バイオ科学と生殖技術のもたらす未来・相模原事件	ナチスドイツと現代日本の連続性を、生殖において日常生じていることと同時に、特異な事件からも考える。
第14回	全体を振り返る・個人の意見の確認・意見の交換	いままでの講義に対する学生の結論を確認し、意見交換する。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
学生は、教員がその都度指示する参考図書や新聞、統計資料に目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
楠秀樹・春日清隆・牧野修也『社会のセキュリティを生きる—「安全」「安心」と「幸福」との関係』		
【参考書】		
その都度指示する。		
【成績評価の方法と基準】		
平常点70%、期末レポート30%で評価する。		
【学生の意見等からの気づき】		
抽象度の高いテーマを、できるだけ理解できるよう工夫する。		
【その他の重要事項】		
受講生の関心と要請に応じて、変更する可能性がある。		

【Outline (in English)】

Learning Objectives : This course deals with the history of social thought about racism and eugenics as the basic principles of Nazism. It compares Nazism and Japanese contemporary situation. It also enhances the development of students' skill in making self-regulated learning.

The aim of this course is to help students acquire their own social thought. The goals of this course are to think diversity of society.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Learning activities outside of classroom: Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 30%、Short reports : 70%

SOC100JA (社会学 / Sociology 100)

老年学

新名 正弥

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考(履修条件等)：現代福祉学部以外のSSI生は授業コード「N5117」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係

第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グロバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40%）、期末レポート（60%）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

MAN100JA（経営学 / Management 100）

企業と労働

澤木 朋子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業で「働く」ということはどのようなことであるのか、個人レベル、組織レベル、社会レベルの3つのレベルで検討を行います。

私たちは企業で「働く」ことを通じて、もちろん賃金を得ますが、「働く」ということは、それに留まりません。「働く」という現場は、生計費を得る場のみならず、能力を形成・発揮する場であり、仕事を通じて社会貢献をする場でもあります。さらに社会全体で見れば、労働力を確保するだけでなく、個人レベル、あるいは世代間レベルで労働力を再生産する必要があり、労働力が枯渇しないように労働力を保護し、陶冶することも求められます。

「働く」ということは、今日の企業において、あるいは社会全体において、どのような意味があるのか、社会政策、労働経済学、経営学などを交え、できるだけ多面的に、学際的に講義を行います。

【到達目標】

- ① 企業とは社会的に如何なる存在であるのか、そこで働くということとはどのようなことであるのか、基礎的な理解力を身につける。
- ② 企業における人事労務管理は、どのような位置にあり、その機能は、どのようなものであるのか、将来、大学を卒業し、「働く」ことを念頭におきながら、自分なりの意見や考えを導き出す。
- ③ 社会全体で見たときに、「働く」ということはどのような意味があり、労働政策としてどのような対応が求められるのか、今日の現状を踏まえ、ありうべき対策について検討を加えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ① 本講義は、理論的な内容も取り上げるが、理論と現実の往復を重視します。
- ② 時事問題を取り上げる他、視聴覚教材を用い、現実生じている問題としての視点を大切にします。
- ③ 課題に対し、疑問点や質問があった場合は次講義でフィードバックをします。課題は、出席に対し成績評価の対象になります。その他質問等ある方はメールで受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	・ 授業の概要、目的 ・ 評価方法 ・ 講義の進め方 ・ 本講義の対象領域
第二回	働く動機	・ 人間モデル ・ モチベーション論
第三回	日本的雇用慣行	・ 終身雇用と定年 ・ 年功序列賃金 ・ 企業別労働組合
第四回	企業の人的資源管理①	・ 人的資源管理論 ・ 採用と退職 ・ 配置と異動
第五回	企業の人的資源管理②	・ 人事評価 ・ 人材育成
第六回	企業の人的資源管理③	・ 最低賃金 ・ 春闘

第七回	労働時間について	・ 労働基準法 ・ 日本における労働時間 ・ 「働き方改革」
第八回	非正規雇用①	・ 多様化する雇用形態 ・ パートタイム労働
第九回	非正規雇用②	・ 派遣労働 ・ 請負労働
第十回	雇用されていない労働者	・ 個人事業主 ・ フリーランス
第十一回	社会保障制度	・ 医療保険 ・ 年金保険 ・ 雇用保険 ・ 扶養とは ・ 配偶者控除 ・ 配偶者特別控除 ・ 性差とジェンダー
第十二回	女性の働き方	・ 全講義の復習とまとめ
第十三回	ジェンダーとは	
第十四回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 講義内で指示された論文・文献・資料等について必ず読んだ上で出席すること。
 - ・ 講義のテーマに関する文献、資料や事例などについて、主体的に学習すること
 - ・ 日頃よりニュースや新聞等を熟読すること。
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。毎回レジュメを Hpppii にてアップします。

【参考書】

講義の中で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 毎回講義後の課題 30 %
- ・ 期末試験：（テスト） 70 %

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材についても、学生の理解を促進する上で効果的であり、講義のなかで、視聴覚教材を適宜、活用していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・ 受講生の人数、授業の進度によって、講義計画を若干、変更・調整することもあります。
- ・ 授業時間内に必ず講義を聴くこと
- ・ 教室内での私語をつつしむこと

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces social policy, labor economics, and business administration, as to what they mean in today's enterprises or in society as a whole.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire a basic understanding of what a company is socially and what it means to work there.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be gather information and read newspapers to be sensitive to social changes and current affairs.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:70%, in class attendance:30%

GDR100JA（ジェンダー / Gender 100）		
ジェンダー論		
藤田 和美		
配当年次／単位数：1～4年次／2単位		
備考（履修条件等）：2021年度以降入学生のみ履修可。		
その他属性：〈S〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
ジェンダー研究は、1960年代後半に登場した第二波フェミニズムと呼ばれる社会運動をきっかけに登場した他領域的で学際的な学問分野です。当初は、女性学（Women's Studies）として男女の差異と不平等の検証に焦点があてられ、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにされるとともに、女性の生の基盤を形づくってきた知識・技能・経験の再評価が行われました。その後1980年代には、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、これが後に男性学（Men's Studies）という専門領域になっていきます。		
ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された1980年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられます。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。		
こうした経緯を経て、現在のジェンダー研究は、男女間だけではなく女性相互、男性相互の関係性の研究を含む学問分野として理解されています。本授業ではジェンダー研究の主要概念・理論を学ぶとともに、1980年代後半から1990年代にかけて登場した性的マイノリティの運動とそこで展開された「新しいジェンダー・ポリティクス」を学び、現在、私たちが直面している問題の解決策を考えます。		
【到達目標】		
1) フェミニズム運動の歴史を知り、説明できるようになること 2) ジェンダー研究における基礎概念とその背景にある理論的思考方を理解し、説明できるようになること 3) 現在のジェンダー問題の状況を把握し、解決策を具体的に提案できるようにすること		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連		
【主な授業方法】		
L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】		
講義形式の授業を基本としますが、受講生が少ない場合、グループワークを行うこともあります。講義はパワーポイントを投影しながら行います。プリント（パワーポイントを印刷したもの）は配布しませんが、授業資料を前日夜までに学習支援システムにアップします。プリントが必要な学生は各自印刷し、授業に持参してください。毎回の授業時には、リアクションペーパーを提出していただきます。提出していただいたリアクションペーパーや課題については、次の授業時に紹介するなどしてフィードバックをおこないます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
あり / Yes		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス&イントロダクション	キーワード：第二波フェミニズム、ジェンダー、女性学・男性学、家父長制、ダブル・スタンダード
第2回	フェミニズム運動の歴史	キーワード：参政権運動、女性解放運動、コンシャスネス・レイジング、「個人的なことは政治的なこと」
第3回	政治分野におけるジェンダー平等	キーワード：第一波フェミニズム、参政権運動
第4回	ジェンダー「平等」：三つの視点	キーワード：平等、差異、多様性、ポジティブ・アクション
第5回	ジェンダーと労働	キーワード：賃金格差、ガラスの天井、家父長制、ダブル・スタンダード
第6回	アンペイド・ワーク	キーワード：アンペイドワーク、家庭内分業、「家事労働に賃金を」、ケアの倫理
第7回	男性の家事・育児・介護	キーワード：育休制度、くるみん
第8回	性暴力・DV	キーワード：ドメスティック・バイオレンス、パープル・リボン
第9回	デートDV	キーワード：セクシュアル・コンセンスト
第10回	多様な男性性	キーワード：男性運動、ホワイ・ト・リボン
第11回	異性愛の捉え直し	キーワード：アドリエンヌ・リッチ、強制異性愛、異性愛主義、ホモフォビア
第12回	職場における性の多様性	キーワード：クィア、トランスジェンダー、トランスフォビア
第13回	メディアとジェンダー	キーワード：好感度CM、炎上CM
第14回	期末テスト・まとめと解説	講義内容から出題
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【準備学習】学習支援システムに、その週の講義で使用する資料がアップロードされています。学生には授業開始前に資料をダウンロードし、目を通しておくことが求められます。レジュメ中にハイパーリンク等で参考となる文献や動画の情報を示していることもあります。これらについても事前にアクセスし、確認しておくことが求められます。		
【復習・宿題】学習支援システムを使い、講義の内容に関連した課題を出題します。学生には授業感想は講義時間内に、宿題は講義後2週間以内に課題を提出することが求められます。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
なし		
【参考書】		
ジェンダー事典編集委員会編『ジェンダー事典』丸善出版 2024		
【成績評価の方法と基準】		
1) 平常点・授業感想（14回）40％ 2) ミニレポート（2回）10％ 3) 期末テスト 50％		
【学生の意見等からの気づき】		
授業改善アンケートで指摘を受けたようにHoppiiのシステム変更で教員が十分対応できず、出欠、課題提出、学生への連絡などで混乱を生じたことは第一に反省すべき点である。授業内容に関しては、各回の授業の冒頭で現在、物議を醸しているニュースやトピックを積極的に取り上げ、それらが果たして「差別」にあたるのかどうかについて、全員で意見を出し合い、さまざまな角度から検討をおこなったことについて「多角的な視点で問題について見ることができた」という評価が得られた。また全体を通して「自分が当たり前と考えていたことについて、もう一度深く考え直す機会が多く、毎授業新しい学びや考えを発見することができた」「制度だけではなく心の中にあるジェンダー観をいかに捉えていくことが重要」「変えていくことは今すぐには難しいかもしれないが、一歩ずつ変えていける希望もこの講義を通して感じた」等の意見をリアクションペーパーで頂戴した。各自異なる意見から多くの発見と学びが得られるよう、さらなる工夫を重ねていきたい。受講生の要望を踏まえ、学生の関心に沿ったテーマや素材を授業で適宜取り上げる予定。また授業テーマに関連した学外の講演や情報も積極的に活用し、学生の学習意欲に応えていきたい。		
【学生が準備すべき機器他】		
本授業では、講義資料の配布や各授業時の感想及びミニレポートの提出にあたって学習支援システムを利用します。		
【その他の重要事項】		
特になし		

【Outline (in English)】

(Course outline) Gender Studies is an interdisciplinary academic field spanning the humanities, social sciences, and natural sciences. This field explores critical questions about the meaning of gender in society and examines how notions of gender structure our reality. Gender studies has been influenced by post-modernism, including arguments that gender is not a fixed category, but rather a social construction. Scholars have used these theories to examine how the construction of gender functions in a range of spheres, such as work, the family, social policy, law, education and media. This course will investigate contemporary feminist thought from a variety of disciplinary perspectives. We will focus on key issues in feminist theory such as gender equality/inequality, the public/private dichotomy, gender segregation, unpaid work and the construction of masculinity among others. This course aims also to think through the ways in which these concerns intersect with issues of race/ethnicity, class, sexuality, and the nation.

(Learning Objectives) The goals of this course are to think of a solution about modern gender issues.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, Short reports: 10%, in class contribution: 40%

BME100JA (人間医工学 / Biomedical engineering 100)

リハビリテーション概論

後藤 圭介、酒井 克也、細井 雄一郎

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な病気によって引き起こされるヒトの障害と、それに対するリハビリテーションの関係について、特に臨床的な観点をふまえながら学ぶ。また、身体機能のみでなく社会的観点も踏まえ包括的なリハビリテーションの重要性も考えていく。そうした過程を通して、医療・福祉視点の知識に留まらず、一般的な日常生活の観点からも、障害やリハビリテーションを考えることの重要性を身に着ける。最終的には、現代のリハビリテーションサービスの現状に対して、自分なりの意見を考えアウトプットできることを目指す。

【到達目標】

各種疾患について学び、世の中にはどのような障害あり、その障害を持った人たちがどのように困っているのかを理解する。また、それに対してどういった取り組みをしていくべきか、そうした障害を抱えている人達にどうすれば寄り添えるか考えられるようになる。また、疾患のみでなく、ヒトのそもそもの認知機能や身体機能の基本的な知識も学びながら、より障害を持った方々の大変さを実感手出来ることを目指す。また同時に、得られた知識に基づく考えを発信できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講師が作成した資料に沿いながら、障害の概念や人体の構造と機能、及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。各講義内において、質疑の時間設定し、疑問点の解消を目指す。また、適宜グループディスカッションを取り入れ、自分たちの意見交換をする中で、多様な考えを受け入れる能力を身に着ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの成り立ちから、その構成要素取り巻く社会システムについて。(後藤)
第2回	リハビリテーションに関わる職種	リハビリテーションに関わる各職種の専門性について。(後藤)
第3回	リハビリテーションと障害	リハビリテーションが関わる多様な障害像について、その概要。(後藤)
第4回	高齢者に対するリハビリテーション1	現代の高齢者が直面する身体、精神面での問題についての理解。(酒井)
第5回	高齢者に対するリハビリテーション2	医療・介護両方の観点から、高齢者に必要なリハビリテーションに関して。(酒井)
第6回	運動器疾患のリハビリテーション	骨折から変形性関節症を中心に、疾患の概要とその障害に関して。(酒井)
第7回	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺を中心にその障害からリハビリテーションについて。(後藤)

第8回	脳卒中のリハビリテーション1	脳卒中の病態から障害の理解。(細井)
第9回	脳卒中のリハビリテーション2	脳卒中後遺症に対するリハビリテーションの概要から各論まで。(細井)
第10回	難病のリハビリテーション	神経難病の病態とリハビリテーションの理解。(細井)
第11回	がん患者に対するリハビリテーション	悪性腫瘍の病態・リハビリテーションの現実。(細井)
第12回	高次脳機能障害に対するリハビリテーション地域社会におけるリハビリテーション	福祉からみたりハビリについて。(細井)
第13回	高次脳機能障害に対するリハビリテーション	様々な疾患の高次脳機能障害を中心にその障害からリハビリテーションについて。(酒井)
第14回	授業のまとめ(授業内試験)	これまで学んだリハビリテーションに関する知識についての試験。(酒井)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に即した資料が提供されるので、それを用いて適宜復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を中心に進め、参考資料は適時紹介する。

【参考書】

特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

試験：期末試験を実施する。

採点基準：期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

適宜、講義に際してリアクションペーパーを用い、必要な改善点はその際にフィードバックしてもらう。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the concept and details of rehabilitation by showing the specific cases of some disorders.

Learning activities outside of classroom: We recommend reviewing our materials and, if possible, looking for the related news by using the internet or any other media.

Learning Objectives: The aim of this class is to learn the characteristics of disabilities associated with some typical diseases, and the related examples of clinical rehabilitation to treat the disabilities.

Grading Criteria/ Policies: Final grade will be decided based on the following process; term-end examination 100%. We aim for having the students' own opinions and show them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

ARSk100JB,ARSk200JC (地域研究(地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 100, 地域研究(地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 200)

地域問題入門

野田 岳仁

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の“考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第3回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての“被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり

第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー（10%）と期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

ARSx100JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 100)

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、図司 直也、佐野 竜平、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくる とは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間との姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティと企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第7回	コミュニティとソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性と課題
第8回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第9回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第10回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	日本内外の視野からみるまちづくり
第11回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	共生社会に生きる視点と具体例
第12回	アート&クラフトとまちづくり（水野）	アート&クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	震災復旧と復興まちづくり（水野）	ボランティアキャンプと復興まちづくり実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する6名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

SOW100JB,SOW200JC (社会福祉学 / Social Welfare 100, 社会福祉学 / Social Welfare 200)

社会問題論

大澤 優真

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代日本における社会問題の現状とその背景、ならびに社会問題に関する制度・政策および活動について学び、理解を深める。そのうえで、これらが抱える課題と今後の展望について考察する。その際、とりわけ「貧困」に着目し、検討を行う。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた制度・政策や活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、パワーポイントや映像資料を中心に進める。
- ・各授業の冒頭に前回授業の復習を行う。
- ・各授業の終わりにリアクションペーパーを配布し、次回授業の冒頭にフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的・進め方・概要
第2回	現代日本における社会問題①	生活保護から考える
第3回	現代日本における社会問題②	格差・母子世帯
第4回	現代日本における社会問題③	単身高齢女性
第5回	現代日本における社会問題④	労働・賃金
第6回	現代日本における社会問題⑤	住居・ホームレス (1) —路上生活者の現状—
第7回	現代日本における社会問題⑥	住居・ホームレス (2) —「ホームレス」であるということ—
第8回	現代日本における社会問題⑦	住居・ホームレス (3) —支援と課題—
第9回	現代日本における社会問題⑧	貸付・奨学金
第10回	現代日本における社会問題⑨	障害者・性的マイノリティ
第11回	現代日本における社会問題⑩	移民・難民 (1) —困窮する移民・難民の現状—
第12回	現代日本における社会問題⑪	移民・難民 (2) —制度・統計の現状—
第13回	貧困とは	歴史・概念・定義
第14回	総括	社会問題の全体像 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（リアクションペーパー） 40%
- ・レポート課題 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to deepen students' understanding of the current state and background of social issues in contemporary Japan, as well as the institutions, policies, and activities addressing these issues. Building on this understanding, the course examines the challenges these responses face and considers future perspectives. In particular, the course focuses on poverty as a key theme for analysis and discussion.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students will be able to:

- ・ Explain the basic features and characteristics of individual social issues.
- ・ Explain how various social issues are interconnected.
- ・ Consider and propose institutions, policies, and activities aimed at addressing social problems.

【Learning Activities Outside of the Classroom】

Students are expected to review course materials distributed in class in order to deepen their understanding. They are also encouraged to maintain an ongoing interest in social issues and to investigate them independently. The standard amount of time for preparation and review for this course is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- ・ Class participation (reaction papers): 40%
- ・ Written assignment (report): 60%

SOW200JB (社会福祉学 / Social Welfare 200)

福祉国家論

渡辺 寛人

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、資本主義システムのなかで福祉国家が成立していく歴史のプロセスに焦点を当て、近代家族と福祉の諸制度、慈善組織協会（COS）やセツルメント運動など初期の社会福祉の実践、それらと優生学介入との関係を考察する。また、こうした歴史的な論点が現代においてどのような意味をもつのか、身近な社会問題と接続させて考える。

【到達目標】

- 1) 福祉国家が成立した歴史的背景を理解する
- 2) 福祉国家をめぐる基礎的な理論を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行なう。講義ごとにリアクションペーパーの提出を求め、毎回の講義のはじめにフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と、福祉国家についての概説
第2回	福祉国家の前身①救貧法体制	貧困問題の発生と救貧法の成立過程を学ぶ。
第3回	福祉国家の前身②魔女狩り	「魔女狩り」を通じて労働力の再生産領域がどのように変容したかを学ぶ。
第4回	福祉国家の前身③近代家族の形成	近代家族の形成プロセスについて学ぶ。
第5回	慈善組織協会とケースワークの誕生	慈善組織協会とケースワークの誕生について学ぶ。
第6回	ケースワークと優生学	ケースワークと優生学との関係について学ぶ。
第7回	セツルメント運動の展開と優生学	セツルメント運動の展開と優生学との関連について学ぶ。
第8回	福祉国家の形成とソーシャルワーカー	アメリカを中心に、福祉国家におけるソーシャルワーカーの役割を学ぶ。
第9回	福祉権運動	福祉権運動の展開と背景について学ぶ。
第10回	福祉国家と新自由主義	福祉国家に対する批判とバックラッシュについて学ぶ。
第11回	福祉国家スウェーデンと優生学	福祉の優等生と呼ばれたスウェーデンで進められていた優生学的介入について学ぶ。
第12回	現代の家族廃止論、共同ケア	欧米における家族廃止論や共同ケアに関する議論について検討する。
第13回	世界の福祉国家	世界の福祉国家を概観する
第14回	講義まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎講義のリアクションペーパーの提出（30%）と期末テスト（70%）によって評価します。期末テストの内容については授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびリアクションペーパー、レポートの提出については学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on the historical process of the welfare state's formation within the capitalist system. It examines the relationships between the modern family, welfare institutions, and early social work practices (such as the Charity Organization Societies [COS] and the Settlement House Movement) and eugenic interventions. Furthermore, we will consider the contemporary significance of these historical issues by connecting them to familiar social problems.

【Learning Objectives】

- 1) Understand the historical background to the establishment of the welfare state
- 2) Understand the basic theories surrounding the welfare state.

【Learning activities outside of classroom】

A total of four hours of preparatory study and review time for this class is standard.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on the submission of reaction papers for each class (30%) and a final examination (70%). Details regarding the content of the final exam will be announced in class.

ENG200JB（その他の工学 / Engineering 200）

社会的包摂論

水野 雅男

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策①	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	国内バリアフリー政策②	日米のバリアフリー政策の相違
第4回	移動とUD①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動とUD②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策とNPO活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	NPOによるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004年
「ストラスプールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Comprehensive evaluation of ① and ②.

ENG200JB (その他の工学 / Engineering 200)

地域計画論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きている地域とはどのようなものなのでしょうか。また私たちは普段、その足元の地域を想像し、創造する機会をどのくらい得ているでしょう。地域計画というと、国や自治体が策定する難しいものというイメージをもつ方も多いかもしれません。でも本当にそうでしょうか。そもそもなぜ地域に計画が必要なのでしょう。そこから講義をはじめていきます。地域を計画するとはどういうことか。誰が、どのように計画するのか。本授業では、これらの問いを地域に暮らす私たち自身を含む生活者を出発点に考え、学んでいきます。なお、本授業では、地域計画の中でも地域の教育・文化を中心に論じるものとします。

【到達目標】

地域・社会の抱える課題と地域計画の関わりについて、基本的な視点をもつことができる。また、私たち一人ひとりが生活者として、それぞれ暮らす地域をよくしていくことにどう関わっていくか、という当事者意識をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で進める。回によって、リアクションペーパーの提出を求めることもある。それらのフィードバックは授業時間中に行い、授業内容に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	生活の中の「計画」
第2回	私たちはどのような地域に生きているのか	地域をめぐる状況を俯瞰する
第3回	「計画」は何を生み出すのか	計画と地域との結びつきを考える
第4回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (1)地域の拠点を求めて	地域の拠点としての公民館
第5回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (2)家庭・地域の計画化	「村の古さ」をめぐる
第6回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (3)生活を起点とした平和	平和学習の広がり
第7回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (4)子ども	子どもと地域
第8回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (5)青年・成人	足りないものはみんなで作る

第9回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (6)環境	暮らしのウェルビーイングを求めて
第10回	人びとは地域にどう向き合ってきたのか (7)子育て	子育ての共同
第11回	住民の学びがつくる地域	住民による学びと地域づくりの関わりについて考える
第12回	地域計画をつくり支える仕事	自治体職員、民間、市民団体など
第13回	地域計画をつくり支える仕事の実際	地域における実践
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、自身や身近な地域に即して検討してみましょう。授業後には内容を振り返り、自ら応用的に情報を収集することを期待しています。また、課題が示された際にはそれに取り組んでください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業時に適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】What does it mean to plan a community? Who plans and how? In this course, we will consider these questions through an overview of the history of regional planning, especially as it relates to education and culture.

【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to have a basic perspective on how regional planners can be involved in regional issues. In addition, students will also gain a new perspective on how each of us, as a citizen, can be involved in improving the community in which we live.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short report (30%), term-end examination (70%)

MAN200JB（経営学 / Management 200）

コミュニティビジネス論

土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、革新的なアイデアを持つ社会的企業者が地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様で個別的なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を、国内外の事例やゲストスピーカーとの対話を通して明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第2回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か①	「コミュニティ・ビジネス」とは何かを理解する。
第3回	コミュニティ・ビジネス / ソーシャル・ビジネス とは何か②	「ソーシャル・ビジネス」とは何かを理解する。
第4回	事業型NPOによる取り組み①	NPOの3つのパターン（事前型・監視批判型・事業型）について理解する。
第5回	事業型NPOによる取り組み②	国内外の事業型NPOの広がりについて理解する。
第6回	事業型NPOによる取り組み③	病児保育事業の事例を通して理解する。
第7回	事業型NPOによる取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第8回	事業型NPOによる取り組み⑤	海外の事業型NPOの事例を通じて理解する。
第9回	株式会社による取り組み①	社会志向型企業の意義や特徴について理解する。
第10回	株式会社による取り組み②	社会志向型企業の具体的な事例を通して理解する。
第11回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第12回	株式会社による取り組み④	大企業の社会貢献活動やソーシャル・ビジネスの理論を理解する。
第13回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的な社会貢献活動やソーシャル・ビジネスを通して理解する。
第14回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

土肥将敦（2022）『社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義内でのミニレポートとプレゼンテーション 70%、期末レポート 30%。具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(70%), term-end report(30%).

ARSx200JB（地域研究（その他）/Area studies(Others) 200)

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、図司 直也、土肥 将敦

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員4名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1地域を2回の講義で構成し、1回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第2回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第5回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①（水野）	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー

第9回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括（水野・図司・土肥・野田）	6事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies.

【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB, SOW100JA (社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 100)

アジア地域開発論 (2021年度以降入学者)

佐野 竜平

配当年次／単位数：福コミ：1～4・臨心：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実際を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実際を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course focuses on best practices and significant trends in community development within Asia, with a particular emphasis on Southeast Asia. The lectures will incorporate insights from the instructor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities. Please note that the above plan is subject to minor changes.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational knowledge of Asian regional development within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to spend two hours on preparatory study and review for each session to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined as follows:

Reaction papers via WebClass (Participation): 50%

Assignments: 50% (Assignment files: 40%, Presentation: 10%)

SOW200JB,SOW100JA（社会福祉学 / Social Welfare 200, 社会福祉学 / Social Welfare 100）

アジア地域開発論（2020年度以前入学者）

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】

東南アジアを中心としたアジアの最新事情を政治、経済、社会・文化の視点から学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第3回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第4回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第5回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第6回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第7回	アジアの実態を学ぶ①	アジアと日本を結んで実況中継①
第8回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第9回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第10回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第11回	アジアの実態を学ぶ②	アジアと日本を結んで実況中継②
第12回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course focuses on best practices and significant trends in community development within Asia, with a particular emphasis on Southeast Asia. The lectures will incorporate insights from the instructor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities. Please note that the above plan is subject to minor changes.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational knowledge of Asian regional development within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to spend two hours on preparatory study and review for each session to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined as follows: Reaction papers via WebClass (Participation): 50%

Assignments: 50% (Assignment files: 40%, Presentation: 10%)

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

社会福祉原理

岩崎 晋也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉の原理を考える

【到達目標】

社会福祉の専門職としての基本的な視点や論理を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を題材にしながら、社会福祉専門職として、ど
のように問題をとらえるべきなのかを検討する。知識を身につける
ことよりも思考力や価値観を身につけることを重視する。秋学期は
オンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業
計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会福祉の正当化問題	社会福祉原理の基本問題である正当化問題とは何かを理解する
第2回	人間はなぜ他者を援助するのか1	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。狩猟採集社会・氏族社会
第3回	人間はなぜ他者を援助するのか2	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。都市国家
第4回	人間はなぜ他者を援助するのか3	社会の変化に応じて、援助の位置づけが変化することを理解する。ローマ帝国とキリスト教
第5回	人間はなぜ他者を援助するのか4	キリスト教や仏教などの普遍宗教がもたらした影響を理解する
第6回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか1	社会契約説において、他者を援助することがどのように位置付けられたかを理解する
第7回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか2	フランス革命において公的救済がどのように位置付けられたかを理解する
第8回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか3	フランス第三共和制における社会連帯説の意義を理解する
第9回	近代社会はなぜ福祉を必要とするのか4	福祉国家の意義と、リスクの共有の現代的課題を理解する
第10回	社会福祉の原理1	社会保険などの文脈とは異なる福祉としての社会福祉の誕生
第11回	社会福祉の原理2	パターナリスティックな社会福祉の問題点
第12回	社会福祉の原理3	ノーマライゼーションとパーソナライゼーションからの批判
第13回	社会福祉の原理4	基本的ケアバビリティの平等と個人の尊厳としての人権
第14回	社会福祉の原理5	新しい社会福祉のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習をし、全体の論理の流れを理解する。下記に示した参考書や、授業で示した参考文献で興味を持ったものを読む。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

岩崎晋也（2018）『福祉原理－社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

①試験方法 筆記試験（100%）

②採点基準 講義内容の理解度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

考えるための素材を提供する

【Outline (in English)】

This course introduces the principles of social welfare. The goals of this course are understanding the basic perspectives and logic of social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 100%.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

医療政策論

小磯 明

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業での意見交換を通じて、学生が医療政策の重要性を認識する。

【到達目標】

医療政策とは何か、を学生が理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面で実施する。学生の授業への積極的参加を促すために、毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険制度のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

【参考書】

小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013年.

小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016年.

小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017年.

小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019年.

小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019年.

小磯明『製薬企業のイノベーションと経営戦略』日本評論社,2025年.

【成績評価の方法と基準】

授業平常点60%、レポート提出40%。レポートは1回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】

諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class. The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.

At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least four hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, in class contribution: 60%.

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

都市住宅政策論

水野 雅男

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年

「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年

「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年

「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年

「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年

「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年

「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに30年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

① Normal score 70% ② Report 30% Evaluate ① and ② comprehensively.

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域文化政策論

杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化をつくり、支える制度と人とはどのようなものか。その歴史と現状について、日本を中心としたいくつかの地域に即して学んでいく。さらには地域の文化活動をどう支援するかについて、現代的課題と可能性についても考える。

【到達目標】

地域文化を支える教育・文化政策の歴史と現状についての基本的な理解を得る。また、地域文化の継承や創造に直接・間接的に関わるものの意味、具体的な職業などについても学ぶことで、日々の生活の中で文化を身近に感じ、自分自身もその作り手として意識し行動できるような関心を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式によるが、適宜ディスカッションを交えながら進める。可能であれば、ゲストスピーカーによる講義も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のガイダンス、私たちの身の回りにある文化に目を向ける
第2回	地域文化を支える政策(1)	学校教育
第3回	地域文化を支える政策(2)	社会教育・生涯学習
第4回	地域文化を支える政策(3)	文化行政(文化財保護を含む)
第5回	地域文化を支える施設(1)	学校
第6回	地域文化を支える施設(2)	公民館・図書館・博物館・公共ホール
第7回	地域文化を支える人	担い手を育む仕事
第8回	各地の地域文化実践(1)	地域文化はどのようにつくられるか
第9回	各地の地域文化実践(2)	地域文化の創造を支援する
第10回	各地の地域文化実践(3)	担い手としての成長
第11回	学ばれる地域文化(1)	文化伝承
第12回	学ばれる地域文化(2)	災害の記憶
第13回	地域文化の再創造	地域文化をめぐる課題と再創造への試み
第14回	まとめと期末試験	講義全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域文化に関連する報道や博物館展示等に関心を持ち、身近な事例や展示などに積極的に触れたり、足を運ぶことで授業の予習・復習に取り組んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

山崎功・新藤浩伸・田所祐史・飯塚哲子編『地域文化の再創造—暮らしのなかの表現空間』水曜社、2024
佐藤一子『地域文化が若者を育てる—民俗・芸能・食文化のまちづくり』農山漁村文化協会、2016
ほか適宜示す。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー、小レポートを含む平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を可能な範囲で授業に活かしていく。

【その他の重要事項】

上述の計画は若干変更する場合がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course discusses the history and current state of Japan's policies related to regional culture. It also addresses contemporary challenges and prospects in supporting local cultural activities.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to gain a basic understanding of the history and current status of educational and cultural policies that support local culture.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to be interested in news reports and museum exhibitions related to local culture, and to actively visit there. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: short report (30%), term-end examination (70%)

ENV300JB（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境政策論

藤澤 浩子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取り組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取り組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取り組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけ高めたいこうとする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDCAサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 1	ガイダンス及び環境学習経験の確認、キャンパス周辺を歩き、講義の進め方等の確認とミニフィールドワーク（FW）
第2回	オリエンテーション 2	フィールドノート及び「人間をとりまく環境のイメージ」を共有する
第3回	SDGsについて	SDGs関連情報（国際的取り組み経過・現状、日本の環境政策における位置づけ等）の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなものか、環境問題への取り組みの歴史的経緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る上で必要な、地球に関する基礎知識と問題となっている諸テーマについて概説する
第6回	環境問題を知る 1	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る 2	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る 3	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る 4	化学物質、震災関連の問題等

第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動 1	各主体の役割、参加・協働の手法、国際機関・政府セクターの取組み、企業の取組み
第12回	各主体の役割・活動 2	市民（個人、NPO等）の取組み、身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD視聴等）
第13回	身近な環境保全の取組み実践体験 全体ワーク 1	かるた制作（読み札づくり）
第14回	身近な環境保全の取組み実践体験 全体ワーク 2	かるた制作（絵札づくり）と試用（場合によっては、読書レポート発表会）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。

関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

東京商工会議所（2025）『環境社会検定試験eco検定公式テキスト改訂10版』。

その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史(2014)『環境政策論（第3版）』信山社、竹本和彦編（2020）『環境政策論講義：SDGs達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等で把握する平常点70%、提出課題（フィールドノート、読書レポート）30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去12年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークで、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。質問等については、リアクションペーパーで受け付ける他、必要に応じ、授業終了後に教室で、または電子メールで受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment/environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information. 【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the importance of each citizen's efforts.
- understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.

-get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.

-willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1.Find out about environmental issues of your interest.

2.Try participating in environmental activities, if possible.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

・ Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work

・ Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

POL300JB（政治学 / Politics 300）

政策評価論

倉根 明徳

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月14日・15日・16日。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】

日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は3日間の集中講義となります。政策評価と政策立案の理論を学んだ上で、ワークシート等を使った演習を行いながら理解を深めます。最終日には各自またはグループで政策の立案と評価指標の設定をしていただき、発表とディスカッションを行います。
また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018年度以降、主流になりつつあるEBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZの震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で政策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション

13	政策立案と評価の実践③	第11回で作成した施策の発表及びディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体のHPなどを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50%、演習及びディスカッション50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
例年「理論＋具体例＋ミニ演習で理解が深まった」「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいているため、令和8年度も引き続き同様のスタイルで講義を進めます。また、最終日の施策発表には若手市役所職員も参加し、一緒にディスカッションに加わってもら予定です。

【その他の重要事項】
約20年間、県や国で実務を経験し、令和7年に市役所に転職。主にまちづくり分野に関わる政策立案や評価を数多く担当してきました。学生が利用する公共施設（公園や図書館など）がどのような背景でつくられ、評価され、運営されているかなど、具体的な事例を参考にしながら、政策評価や政策のマネジメントを学びます。特に行政職員を目指している学生の受講を奨励します。

【Outline (in English)】
This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.
Your overall grade in the course will be based on the following
Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

ECN300JB（経済学 / Economics 300）

地域経済論

図司 直也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中での地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】

講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第1次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第2回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（戦後）を理解する。
第3回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（高度成長期）を理解する。
第4回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（低成長期）を理解する。
第5回	地域経済の形成過程（バブル期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がってきたのか、歴史的経緯（バブル期以降）を理解する。
第6回	農業・農村の現場から	第1次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第7回	林業・山村の現場から	第1次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第8回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980年代以降の地域経済が直面するグローバル化の背景を学ぶ。
第9回	産業構造の転換と地域経済構造	1980年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第10回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第11回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第12回	コミュニティ政策の潮流	コミュニティ政策の展開を学ぶ。
第13回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will focus on the local economy, deepen our understanding of the industrial base that utilizes local resources, and learn about changes in local industries and new attempts in the face of globalization.

【Learning Objectives】 Understand the current situation closely related to the global economy, based on the historical background of Japan's regional economy and local industry, and understand the ideal economic cycle centered on the region.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is desirable to take an interest in various regional issues on a daily basis and review the lesson contents after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

国際協力論

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせ実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム(Web Class)等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	SDGsと現代福祉③	SDGsと国際社会に関する学び③
第5回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉に関する学び
第6回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第7回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第10回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第11回	NGO/民間企業と国際協力③	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践③
第12回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第13回	課題発表	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム(Web Class)によるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%

課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野 / Expertise】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces fundamental theories, best practices, and significant findings in international cooperation and development within the developing world, with a specific focus on inclusive development.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to acquire a foundational understanding of international cooperation within the framework of social policy and administration.

【Learning Activities Outside of Classroom】 Students are expected to dedicate two hours to preparatory study and two hours to review for each session (four hours total) to ensure a thorough understanding of the course material.

【Grading Criteria/Policy】 The final grade will be determined based on the following:

Reaction papers: 50%

Reports and presentations: 50%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

【到達目標】

This course is specifically designed to equip students with a set of practical and actionable competencies. Beyond theoretical understanding, students will develop hands-on skills that are directly applicable to the complex challenges within the context of community based inclusive development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	Diversity and Well-being(1)	Concept of inclusive development and different culture (1)
No.3	Diversity and Well-being(2)	Concept of inclusive development and different culture (2)
No.4	Inclusive communication(1)	Initiatives on sign languages in a community(1)
No.5	Inclusive communication(2)	Initiatives on sign languages in a community(2)
No.6	Inclusive communication(3)	Initiatives on sign languages in a community(3)
No.7	Inclusive communication(4)	Initiatives on sign languages in a community(4)
No.8	Human rights issues and community(1)	Challenges in inclusive community settings (1)
No.9	Human rights issues and community(2)	Challenges in inclusive community settings (2)
No.10	Human rights issues and community(3)	Challenges in inclusive community settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world by learning uniqueness(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world by learning uniqueness(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world by learning uniqueness(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】

Provided as needed based on the content

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】

To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】

Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】

The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】

This course explores the intersection between inclusive development and well-being studies.

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論

遠藤 聖子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行っているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。

- ・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
- ・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
- ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・講義ガイダンス（再） ・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくりを担う組織
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察

第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション 等、まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用 等、各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き 等、各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO）等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	福祉・スポーツとまちづくり	・各地で取られる福祉やスポーツをキーワードにしたまちづくりの現在 ・レポート課題の解説
第14回	講義の総括	・受講生の感想 ・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。

- ・「平成都市計画史―転換期の30年間で残したもの・受け継ぐもの」 饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
- ・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等 著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】

①講義または、その後の全体またはグループ討議等の内容を踏まえたリアクションペーパーの提出40％
②レポートの提出60％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】

まちづくりの実務者がその経験を踏まえて、具体的な事例を授業で紹介している点が本講義の特徴です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

- ・ Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management
- ・ Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management
- ・ Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management
- ・ Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%
- (2) Report: 50% (report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが2000年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的なB Corp認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトがもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者やB Corp認証企業の実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSRの枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の3点を履修者の到達目標とする。

①グローバル／ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③B Corpなど社会志向型企業の意義や経営課題を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。今年度はB Corp認証を取得している国内外のゲストスピーカーも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第2回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3つの要件、活動する事業領域を理解する。
第3回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第4回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第5回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第6回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第7回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第8回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第9回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第10回	大企業におけるCSR①	企業と社会の関係を理解する。
第11回	大企業におけるCSR②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第12回	B Corporationについて理解する①	各種事例を通してB Corpについて理解する（A事例）。
第13回	B Corporationについて理解する②	各種事例を通してB Corpについて理解する（B事例）。
第14回	B Corporationについて理解する③	各種事例を通してB Corpについて理解する（C事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションや掲示板へのコメント記入に備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

土肥将敦（2022）「社会的企業者—CSIの推進プロセスにおける正統性」千倉書房

Marquis, C（2020）Better Business, Yale University Press（土肥将敦監訳・保科京子訳（2022）『ビジネスの新形態 B Corp入門』ニュートンプレス）
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT出版

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義へのコメント課題（60％）及び講義中におけるアプリケーションを活用したフィードバック（40％）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義はオンラインで展開し、履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。市ヶ谷キャンパスや小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールや時間割を必ず確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

MAN300JB（経営学 / Management 300）

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、前半は経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。後半はProject Based Learningを採用し、選定地域の産業振興や地域創生を議論を中心に、グループ単位でのプロジェクト型の演習を実施する。また、事前課題がある場合は、その取り組み内容に対する議論をグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。各回の講義資料や講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要を紹介
2	CSR経営におけるSDGsの主流化	企業CSR経営を起点としたソーシャルマネジメントとSDGsの位置づけについて議論
3	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術①	企業組織におけるコミュニケーションとその活性化について議論
4	ソーシャルマネジメントに必要なコミュニケーション技術②	企業組織において「相手」に届くコミュニケーションとプレゼンテーションを実践
5	企業におけるプロジェクト活動	プロジェクト型マネジメントを知る
6	行政とコミュニティ組織	行政組織の特色とコミュニティの役割を知る
7	今年度の地域活性化プロジェクト先の選定とグルーピング	学生に身近な地域の選定とプロジェクトの進め方に関する議論
8	事例研究①官民連携	特定地域の官民連携事例について議論

9	事例研究②企業組織の光と陰	企業の不正（不正開示不正会計）はなぜ起きてしまうのかについて議論
10	演習①	ローカルなフィールドでのプロジェクトの進め方を議論
11	演習②	同フィールドでのマネジメントを進める
12	演習③	特定地域での活性化企画の立案
13	演習④	特定地域での活性化計画の設計
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、全5回の事前課題レポート（A4 1枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

樋口邦史編著「Z世代のキャリアデザイン」水曜社；まち創り叢書（2026年3月20日頃発刊）

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート10点×5回、最終レポート50点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高10点）

【学生の意見等からの気づき】

これまでの講義参加者からの要望に基づき、学生にとって身近な地域を選んだ演習を実施します。今年度も、2年生から4年生まで「学部横断型」の多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に「実践型」の講義を実施します。経済学部、社会学部からの参加者も期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB (経営学 / Management 300)

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

非営利団体の活動資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には毎授業提出してもらうリアクションペーパーを活用し、各授業の初めにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	本講の概要、目的
第2回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第3回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第4回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第5回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第6回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第7回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第8回	遺贈寄付	その定義と実態
第9回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第10回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第11回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第12回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第13回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第14回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「改訂新版 非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社

<https://www.amazon.co.jp/dp/4788718820/>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）、期末テスト（80％）※期末テストはマークシート形式。資料持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、すべての学部生が社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、本講座の共感を軸とした資金調達の学びを、一般企業に就職した際にも役立てられるようにします。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds. In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6155」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
- ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ

NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション /NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。

第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。
また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。
授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点（出席・リアクション）50点、（２）中間課題（NPO活動計画書）10点、（３）期末課題（準備の過程、レポート）40点。
平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。
なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

協同組合論

西井 賢悟

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、協同組合が人々の暮らしの中で果たしてきた役割、そして現在果たしている役割を学ぶ。特に、その役割を社会・経済的な動きと関連付けながら見ていくことにより、さまざまな企業形態の経営組織が存在する中で、協同組合の存在意義を学ぶ。また、農協や生協などの実際の取り組みから、実社会をよりよいものにしていく方策を学ぶ。

【到達目標】

- ・協同組合の経営組織としての特徴を説明できる
- ・協同組合の展開過程を社会・経済的背景を踏まえて説明できる
- ・農協と生協が地域社会に果たしている役割を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とするが、適宜質疑の時間を設けることにより、受講生が主体的に講義に関われるようにする。また、講義後のリアクションペーパーの作成を通じて、講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	協同組合とは	協同組合の多様なタイプ、協同組合と株式会社の違いなど、協同組合の概要を把握する
第2回	世界の協同組合－誕生の歴史と協同組合原則－	イギリス産業革命と協同組合の誕生、協同組合原則の制定・改定など、世界的な協同組合の原理・原則と動向を学ぶ
第3回	日本の協同組合の歴史①	二宮尊徳の思想・実践、産業組合法の制定など、戦前の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第4回	日本の協同組合の歴史②	戦時中の協同組合の再編、戦後の多様な組合の設立・発展など、戦時・戦後の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第5回	日本の農協①	総合事業の構成と内容、連合会と中央会の機能など、農協・JAグループの概要を把握する
第6回	日本の農協②	正・准組合員の相違、組合運営の仕組みなど、農協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第7回	日本の農協③	自己改革の実践、農業振興の応援団づくりなど、近年のJAにおける改革の動向を学ぶ
第8回	日本の農協④	農協の実務者をゲストスピーカーとして招き、農協が地域農業や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ

第9回	日本の生協①	生協の多様なタイプ、購買生協の事業構成と内容、供給事業の仕組みなど、生協の概要を把握する
第10回	日本の生協②	組合員組織と組合員活動の概況、組合運営の仕組みなど、生協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第11回	日本の生協③	生協の実務者をゲストスピーカーとして招き、生協が個々の家庭や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第12回	新たな協同の動向	労働者協同組合法の制定、協同組合間連携の拡大など、日本における新たな協同の動向を把握する
第13回	期末試験	小論文中心の試験を通じて、これまで学んだことの到達状況を確認する
第14回	まとめ	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途や、協同の実社会での可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・毎回、復習として講義内容を考察してリアクションペーパーを作成する。
- ・毎回、事前に提供する資料や視聴資料を用いて準備学習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（70%）、期末試験（30%）。リアクションペーパーは、毎回の講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察できているかを評価する。期末試験は、小論文中心の構成とし、本講義の到達目標に対する到達状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義の開始時にその回のポイント、終了時にポイントを踏まえたまとめを行う。

【その他の重要事項】

本講義では農協・生協の実務者をゲストスピーカーとして招く予定としている。農業振興、食品流通、地域づくり、環境問題への対応や、そこで働く職員などをリアルに学ぶことができるようにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students will learn the roles that cooperatives have played in people's lives and the roles they are playing today. In particular, students will learn about the significance of the existence of cooperatives in the presence of various types of management organizations, and how to improve the real world.

【Learning Objectives】

- ・Be able to explain the characteristics of cooperatives as management organizations
- ・Be able to explain the development process of cooperatives based on the social and economic background
- ・Be able to explain the role that agricultural cooperatives and consumer cooperatives play in the local community.

【Learning activities outside of classroom】

- ・The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
- ・Every time, as a review, consider the contents of the lecture and create a reaction paper.
- ・Prepare for each lesson using materials and audio-visual materials provided in advance.

【Grading Criteria /Policy】

- ・Reaction paper (70%), final exam (30%).

- ・ Reaction papers are evaluated based on whether students are able to consider the content of each lecture while connecting it with their own knowledge and actual life.
- ・ The final exam will be composed mainly of short essays and will be evaluated on the achievement status of the goals of this course.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

居住福祉論

大原 一興

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：隔週開講。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。
国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週でおこなう。第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月7日 4時限

第2・3回：4月21日 4・5時限

第4・5回：5月12日 4・5時限

第6・7回：5月26日 4・5時限

第8・9回：6月9日 4・5時限

第10・11回：6月23日 4・5時限

第12・13回：7月7日 4・5時限

第14回：7月21日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それにとまう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。

課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境

第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスマダプターション・住宅改造福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	くらしの先進国に学ぶレポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習

平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に学習支援システムにて資料を配付するので、必要に応じて各自ダウンロードしてほしい。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなぎのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート（リフレクションシート）（70%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまうので、適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。毎回の資料は学習支援システムから各自ダウンロードしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

Learning Objectives

The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探究していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充填させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
4	ロープワーク ・結びの基本 ・水難救助と引上げ救助	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。

5	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
6	図上演習DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫とAED操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
9	避難計画、避難行動	・避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
10	避難所HUG	・避難所の開設、運営を模範的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	国の支援対策	・災害が発生した時に自衛隊、海上保安庁がどのように行動するのか、その仕組みと実体験について学ぶ。
12	国の支援構造	・災害時、有事の際、国がどのように行動し、どのように支援するかその構造を学ぶ。
13	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問にYESまたはNOで答え、自分ならどのように対応するかを考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期定期試験50%、平常点40%、レポート10%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 40%, report 10%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

人権活動論

寺中 誠

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的な人権システムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第2回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての人権と依存
第3回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第4回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第5回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA等
第6回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第7回	依存と人権 II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第8回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第9回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で

第10回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第11回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第12回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出したりした政策のプレについて。
第13回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第14回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートに、授業等で知りえた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】

申恵ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか
<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。
期末レポートないし試験の評価（60%）
リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】

[Outline]

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

[Learning Objectives]

Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.

[Learning activities outside of classroom]

Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.

[Grading Criteria]

60% are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40% are counted from term-end essays/reports.

ASS300JB（社会経済農学 / Agricultural science in society and economy 300）

農山村とコミュニティ

図司 直也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】

講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパー等のフィードバックは、授業内で行い全体で共有するとともに、質問にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進捗やゲスト講師によって変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第2回	むらの変化一過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第3回	むらの変化一都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第4回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第5回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第6回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第7回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第8回	農の担い手ー農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第9回	開発と環境ー景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第10回	消費される農村と地域づくり	グリーンツーリズムの展開と課題
第11回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第12回	新しいコミュニティづくりの試みー地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第13回	新しいコミュニティづくりの試みー「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40%，期末レポート60%

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】In this lecture, we will understand the prototype of the regional structure of agricultural and mountain villages, think about regional issues, and explore the development of regional development.

【Learning Objectives】You can be aware of what you have learned in class from the connection with daily life such as food, and you can apply it to practice in the field in agricultural and mountain village areas.

【Learning activities outside of classroom】Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is advisable to take an interest in various issues in the area on a daily basis and review the lesson content after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

コミュニティアート

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域のまちづくりの歴史）の紹介と解説。
第4回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第5回	NPO・市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	生活の現場としてのまちをめぐる考察	実体験に基づくまちをめぐる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど）の説明。

第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷、コミュニティアートの要件と機能	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明、コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（基本的な考え方を理解するための事例）の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（5）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）：30点 期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
- Reading literature related to the class meeting
- Participating in events related to community design and art

(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Term-end report : 70%

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

コミュニティスポーツ

深野 聡

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：抽選科目。2026年度の授業実施日は、9月15日・16日・17日。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類の長年のパートナーである「馬」について、その歴史やコミュニティスポーツとしての役割を含む多岐にわたる今日の活用事例について実馬を用いた体験活動を組み入れながら実践的に学ぶ。加えて本学多摩キャンパスにおける「馬」資源を用いて、この地域において目指すべき「人馬のウェルビーイング」の形は何かを共に考え、その実現を目指す。

【到達目標】

- ・人と馬の歴史、コミュニティスポーツとしての役割を含む国内外の馬の多様な利活用を理解できる。
- ・馬の性格と特徴を理解できる。
- ・馬とのふれあいにより、その感触、大きさ、体温などを実感する。
- ・馬を用いた活動における基礎知識と注意事項を理解し、安全に馬にさわれるようになる。
- ・高齢者、障がい者が対象とするホースセラピーや教育における馬活用の事例を学ぶ。
- ・馬のいる場所が人の暮らしと地域にどのように繋がるべきか、人馬のウェルビーイングを検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・フィールドワーク時の安全性確保のため、受講希望者数が制限を超えた場合は事前アンケートでの記載事項に基づく選抜を行います。
- ・講義にて小レポート（リアクションペーパー）の提出を各回求め、授業内やHoppii等を活用してフィードバックを行う予定です。
- ・教室では講義形式が中心、城山地区（馬場）では実馬を用いたフィールドワークを実施します。
- ・全講義終了後にレポートの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：「馬に会う、その前に」	本授業の概要と目的、到達目標を確認し、フィールドワーク実施時の注意事項を理解する。
2	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」I	見る、近づく、さわるの実施。活動を通じて馬の身体を観察し、大きさ、体温、性質を理解する。
3	人と馬の関係学①	人と馬の歴史や馬の進化について理解する。
4	人と馬の関係学②	馬の性格や生態、品種や特徴について理解する。
5	人と馬の関係学③	国内外における馬事産業およびスポーツとしての馬術を含む馬事文化の概要を理解する。
6	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」II	厩舎における日常の馬の世話を体験し、その内容と各種馬具の使い方等を理解する。

7	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」III	ブラッシングを体験し、その際に必要となる注意事項を理解する。
8	人と馬の関係学④	コミュニティスポーツとしての活用を含む馬の多様な利活用の事例を理解する。
9	人と馬の関係学⑤	高齢者や障がい者を対象としたホースセラピーの活動事例を紹介し、その内容について理解する。
10	人と馬の関係学⑥	馬を用いた活動実施時の課題を学び、その解決には何が必要かを考える。
11	フィールドワーク：「馬と仲良くなろう」IV	馬と一緒に歩く体験をする。馬の表情や動作からその心理の感じ取り方を学ぶ。
12	人馬のウェルビーイングを考える①	競走馬の一生と引退競走馬の活用策について、ホースセラピーでの可能性を含め国内事例を紹介し理解する。
13	人馬のウェルビーイングを考える②	法政大学が考える人馬のウェルビーイングを紹介し、今後の可能性を説明する。
14	総括	本授業を振り返り、受講者相互のディスカッションを通じて、自らが参加できる人馬のウェルビーイングの形は何か考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講前にHoppiiにて案内される教材を元に準備学習を行うこと。配布資料やノートを復習して小レポート（リアクションペーパー）を各回作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『人馬のウェルビーイング』 編者：高見京太・佐野竜平 発行：(株)クリエイツかもがわ 2,200円

『フレンドリーホース』 編集：(公社)全国乗馬倶楽部振興協会 880円

※フレンドリーホースの購入方法は、後日学習支援システムを通じて案内します。

※必要に応じて、その他の資料は配布します。

【参考書】

ウェブメディア『いきもののわ』ホースセラピー～馬とのふれあいが人にもたらすもの～ 緑書房

<https://midori-ikimono.com/2026/01/06/horsetherapy/>

『ホースセラピーサポートブック』 発行元：うまJAM

<https://www.umajam.com/pages/35/>

『絵でわかる馬の本』 WAVE出版

<https://www.wave-publishers.co.jp/books/9784872906677/>

【成績評価の方法と基準】

- ①講義の平常点およびリアクションペーパー：45%（5点×9回）
- ②フィールドワークの平常点と取り組み姿勢：40%（8点×5回）
- ③最終レポート：15%（15点×1回）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや講義内における学生の関心事項に応じ、授業計画にて予定以外の馬事関連テーマに対しても学習できるよう柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

フィールドワーク時は帽子と動きやすい服装を着用し、水分補給に必要な飲料を必ず持参してください。

【注意事項】半ズボン、スカート、サンダル着用での参加は不可。

【その他の重要事項】

・本科目は、オータムセッション期間内の次の3日間による集中講義です。

①9月15日（火）、②9月16日（水）、③9月17日（木）

・各日とも午前は城山地区（馬場）、午後は現代福祉学部棟にて学習を実施し、移動は青バスを利用予定です。

- ・初回ガイダンスは、城山地区（馬場）にて実施します。ガイダンス終了後はそのままフィールドワークとなりますので事前連絡に注意してください。
- ・馬アレルギーまたはその可能性がある学生は、必要な対策を講じた上で授業参加してください。

【Outline (in English)】

Lecture outline.

This lecture treats the horse as a partner of Humans, learning about its history, characteristics and diverse uses. Time will be set aside for interaction with horses to deepen understanding. Consider the wellbeing of people and horses in the region.

Learning objectives

By the end of the course, students will be able to:

- A. Understand the history of people and horses and examples of diverse uses of horses in different regions.
- B. Understand the character and characteristics of horses.
- C. Know the temperature of horses and handle them safely.
- D. Be able to consider the links between horses and local communities.

Learning activities outside the classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each learning to understand the course content.

Students should have completed the prescribed assignments at the end of each lesson.

Grading criteria

The overall class grade will be determined according to the following criteria.

Reports in lectures: 45% (5 points x 9 times)

Fieldwork: 40% (8 points x 5 times)

Final report: 15% (15 points x 1 time)

CUM300JB（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 300）

地域遺産マネジメント論

須田 英一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめNPOなどが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。近年の文化政策の展開も視野に入れながら、文化財の保存と活用についての知識と、実務に展開可能な適応力を身に着ける講義を展開します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第2回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第3回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第4回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第5回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第6回	地域遺産保護と専門家(1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第7回	地域遺産保護と専門家(2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割、さまざまな地域遺産
第8回	世界遺産条約	世界遺産の成り立ちとしくみ
第9回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第10回	地域遺産の再生と活用(1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第11回	地域遺産の再生と活用(2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第12回	地域遺産の再生と活用(3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化

第13回	地域遺産の再生と活用(4)	地域遺産としての伝統的建造物群
第14回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私たちの生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きつとすごい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に選定しません。資料を毎授業時に配布します。

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

- ・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：期末に課題レポート提出。
- ・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート60%により総合的に評価します。課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。
- ②評価基準
- ・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
- ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。地方自治体勤務を希望している学生においては、自治体の仕事の進め方などを理解するうえで、参考になると考えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area. The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks. Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%) ,and in-class contribution (30%) .

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム

野田 岳仁

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：SSI生は授業コード「N6165」を選択すること。
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

ENG300JB（その他の工学 / Engineering 300）

住民参加の手法

杉崎 和久

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】

住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。授業は、原則として対面で行う。対面の講義の中でオンラインツールを活用した手法を体験する。なお、レポートについては、その内容を用いたグループワークを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第2回	住民参加の事例紹介 1	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第3回	住民参加の事例紹介 2	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第4回	住民参加の事例紹介 3	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収集の手法等について紹介する。
第5回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第6回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第7回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第8回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法	オンラインツールを用いた対話の体験する。
第9回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第10回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第11回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第12回	現場の情報を共有する手法	即地的な地域情報を共有する手法（まちあるき）を定見する。
第13回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第14回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】

中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
世田谷トラストまちづくり「参加のデザイン道具箱」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献（70%）、中間レポート（30%）
・授業への貢献は、講義ごとにワークへの参加状況やリアクションペーパーの内容などを踏まえて行う。
・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】

地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、原則として対面で行う。しかし、オンラインツールを用いたグループワークを行うこともある。その際には、タブレットあるいはパソコンが用いる。

【その他の重要事項】

・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。
・講義では対話手法の体験を重視している。そのため、事例紹介等をのぞけば、グループワークを多用行う。
・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the citizen participation method.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the characteristics of the citizen participation method and to acquire the ability to operate.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on mid-term report (30%), and in-class contribution (70%)

In-class contribution is evaluated by attendance at the lesson and the contents of the reaction paper of each lesson.

地域交通マネジメント論

吉田 樹

配当年次／単位数：2～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2026年度の授業実施日は、9月11日・14日・15日。
その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高齢化と人口減少が同時に進む今日、生活や交流に欠かせない移動手段をどう確保すればよいのでしょうか。最近では、運転士不足を背景に、都市部でもバスの廃止や減便が生じており、ウェルビーイングの実現には、行政と市民、交通事業者が三位一体となる「地域交通マネジメント」が欠かせません。この授業では、地域の鉄道やバス、タクシーなどの公共交通を基本に、自家用車の新たな活用やMaaS（統合的移動サービス）の構築、自動運転をはじめとした次世代モビリティにも対象を広げます。そのうえで、多様なモビリティツールをどのように計画し、マネジメントしていけばよいかに焦点をあて「地域交通マネジメント」を推進するための見方・考え方を獲得することを目的とします。

【到達目標】

- ①日本における交通政策の変遷を理解していること
- ②交通産業のしくみや課題を理解していること
- ③公共交通やモビリティツールを地域づくりに活かすための方法論を提案できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッションの集中講義で行います。各日の前半は、担当教員による講義を通して、地域交通マネジメントに関わる専門知識を習得します。後半は、講義内容の理解を深めるとともに、都市や地域の交通が抱える諸課題に関心を持つことを目的として、学習支援システムHoppiiを介した演習課題に取り組み、教室内での発表や討議を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：「地域交通マネジメント」概論	地域交通に関わる今日の課題とマネジメントの意義を概観する
第2回	理論と技術①：現代の交通問題と交通政策の立案プロセス	現代の交通問題を概観したうえで、交通政策の立案プロセスを学ぶ
第3回	理論と技術②：交通に関わる調査手法	交通政策を立案する際の調査手法を学ぶ
第4回	政策①：地域公共交通の諸問題と事業制度	地域内の公共交通が抱える諸問題を事業制度とともに概観する
第5回	演習・討議①：身近な都市や地域の交通課題を知る	地方公共団体が作成する交通計画・政策をレビューする
第6回	政策②：日本の地域交通政策と海外との比較	地域交通分野の政策や法制度について、日本と諸外国を比較する
第7回	政策③：交通のユニバーサルデザイン	移動困難者のウェルビーイングを高める交通施策を学ぶ
第8回	政策④：コンパクトシティと公共交通ネットワーク	持続可能な都市と交通を目指すプロジェクトの事例を紹介する

第9回	政策⑤：「まちづくり」と「公共交通」の連携	持続可能な都市を実現するための公共交通政策について、事例と典型的課題を紹介する
第10回	演習・討議②：高齢者の移動手段確保を考える	日常生活に欠かせない「くらしの足」を確保するための方法論を考える
第11回	交通と情報①：モビリティを変革する「情報」	移動手段（モビリティ）と情報通信技術との融合の現状や課題を概観する
第12回	交通と情報②：新たなモビリティサービスとMaaSへの期待	国内におけるMaaSの取組事例から、その期待と課題を考える
第13回	演習・討議③：新たなモビリティサービスの都市への活用	新たなモビリティサービスが都市や交通にどのようなインパクトを与えるかを考える
第14回	まとめ：ウェルビーイングを実現する交通のあり方	ウェルビーイングを実現する地域交通マネジメントのあり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の演習課題を取り組むために、地方公共団体における交通計画のレビューなどの準備が必要です。また、最近では、バス・タクシーの運転士不足やローカル鉄道の存廃問題、自家用車を活用した「ライドシェア」の普及など、地域交通に関わる報道が多くあります。是非、関心を持っていただき、本授業の内外でいろいろ質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。各回の講義資料に基づき授業を進めます。講義資料は、学習支援システムHoppiiにPDFファイルで提供します。

【参考書】

宿利 正史・軸丸 真二 編『地域公共交通政策論 第2版』（東京大学出版会）
秋山 哲男・吉田 樹 編著『生活支援の地域公共交通』（学芸出版社）
野村 実 著『クルマ社会の地域公共交通－多様なアクターの参画によるモビリティ確保の方策－』（見洋書房）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）：授業への参加状況（10％）、各日の授業内で実施する演習課題の成果と取り組み状況（60％）
レポート（30％）：本授業全体の理解度を確認するレポートの作成（内容と実施方法は、授業時間中に提示します）

【学生の意見等からの気づき】

事例紹介に写真や動画を取り入れ、受講するみなさんに、都市や地域が抱える交通の諸課題に関心を持っていただけるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

本授業の受講にあたり、ノートパソコンやタブレット端末をお持ちください。講義資料の閲覧や演習課題の作成・提出のために必要です。なお、本授業は、朝から夕方までの集中講義です。バッテリー容量に不安がある場合は、講義資料を印刷してお持ちください。

【その他の重要事項】

交通政策審議会地域公共交通部会などの委員に参画し、地域交通の「現場」に数多く関わってきました。自身の経験談（成功も失敗も）を交えながら、愉しく学べるように心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline

The objective of this class is to understand the concept of local public transportation planning methods and management.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding of transportation policy in Japan
- B. Understanding of the characteristics of the transportation industry
- C. To be able to propose methodologies for utilizing transport services for community development

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting day. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 30%, in-class contribution: 70%

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

ボランティアアクション (2021年度以降入学者)

高井 大輔

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念-ボランティアアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義-SDGsとは何か-	SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ①-福祉サービスとボランティアアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える

第7回	事例から学ぶ②-営利事業とボランティアアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第8回	NPO法人制度の内容とその歴史	NPO法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③-個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④-NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤-多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要があります。授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（50%）
- ・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ボランティアアクション（2020年度以前入学者）

高井 大輔

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者と2021年度以降入学者で『福祉コミュニティ学科生の単位算入先の科目』および『配当年次』が異なるため、注意すること。

その他属性：〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボランティアアクションとは、奉仕的な活動にとどまらず、地域や社会課題に対し様々な手法でその解決や新しい価値創造を図る自発的で主体的な取り組みです。本授業は、ボランティアアクションについての全体的な講義を行うとともに、さまざまな現場での実践的な取り組みを必要に応じゲストを招きながら具体的に紹介することで、ボランティアアクションについての理解を深め、これについて学生それぞれが考える機会とします。

【到達目標】

1. ボランティア及びNPOの意味、役割、これまでの歴史について理解する
2. ボランティアアクションの意義について学問的見地および実践的立場の両面から学び、その可能性を考える
3. 現代社会や地域が抱える課題を認識し、自身の体験等も踏まえながら、その解決方法を検討することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はボランティアアクションに関連する各回ごとに設定したテーマに沿って行います。受講者にはリアクションペーパー及びミニレポートを提出してもらい、記載された内容や質問については、次の講義で紹介・回答し、前回の講義の振り返りとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や全体の流れについての説明
第2回	ボランティアの概念-ボランティアアクションとは何か-	ボランティアという言葉の概念、ボランティアアクションの意味と意義を理解する
第3回	NPO・ボランティアの歴史	NPO・ボランティアの歴史的な背景やその特徴的な事例を学ぶ
第4回	SDGsの意味と意義-SDGsとは何か-	SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の内容と意義を理解する
第5回	現代社会におけるボランティアアクションの概要	現代社会におけるボランティアアクションの種類と分類からその特徴を理解する
第6回	事例から学ぶ①-福祉サービスとボランティアアクション-	福祉事業の中で活躍するボランティアの事例を取り上げ、ボランティアアクションの意義を考える

第7回	事例から学ぶ②-営利事業とボランティアアクション-	営利事業と結びつけて実践されているボランティアアクションの事例を取り上げ、その意義を考える
第8回	NPO法人制度の内容とその歴史	NPO法人制度の内容や制定過程、その他の法人制度との比較から、その役割を理解する
第9回	事例から学ぶ③-個人的な活動から組織化へ-	社会課題の解決に取り組む個人レベルの活動から組織化するまでのプロセスを、事例から理解する
第10回	事例から学ぶ④-NPO法人の組織運営-	実際のNPO法人を事例として、NPO法人の特徴や意義、運営の仕組みを理解する
第11回	企業や行政とボランティアアクション	企業における社会貢献活動・CSRや行政に関わるボランティアの現状と特徴を学ぶ
第12回	中間支援組織の役割とその歴史	中間支援組織の概要やその役割を学び、ボランティアアクションの発展にとって、それらが持つ意味について理解する
第13回	事例から学ぶ⑤-多様な市民・組織の協働によるボランティアアクション-	多様な市民や組織が連携して実践されているボランティアアクションの事例から、“協働”の可能性を考える
第14回	授業の振り返りと補足	全体を通しての授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で配布する資料及び紹介する文献を使用したり、関心のある活動や講義で扱う分野の事例をインターネット等で調べたりすることで予習・復習をしてください。レポートは、文献を講読し、概要・感想をまとめる他、実体験をもとに意見を述べられるようにする必要があります。授業内で紹介する市民活動等への参加も推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、適宜資料を配布します。

【参考書】

必要なものを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート（50%）
- ・平常点（授業の出席、授業内課題の提出など）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Voluntary action" is not just a service activity, but a voluntary and proactive effort to solve local and social issues by various methods and create new value. This class will deepen the understanding of "Voluntary action" by giving an overall lecture and various practical efforts by inviting guests as needed and be an opportunity for each student to think about.

【Learning Objectives】

1. Understand the meaning and role of volunteers and NPOs, and their history.
2. Learn the significance of "Voluntary action" from both an academic and practical standpoint.
3. Recognize the problems faced by modern society and the region, and consider how to solve them while taking into account student's own experiences.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and review by using books to be introduced and handouts, and by researching the Internet etc. for examples of activities you are interested or fields taken in the lecture. In addition, recommend that you participate in the civic activities introduced in the lecture. The standard time to prepare and review is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Report (50%)
- ・ Attendance and submission of assignments (50%)

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【到達目標】

By the end of this course, students will have gained fundamental knowledge and skills concerning disability and development in Asia, drawing on perspectives from local contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely online via live Zoom sessions. All announcements, course materials, assignments, and feedback will be managed through the Learning Management System (Web Class). Furthermore, guest speakers will be featured occasionally to facilitate dynamic and practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review the materials distributed in each lecture. The standard time required for preparation and review in this course is approximately 2 hours each per session.

【テキスト（教科書）】

Provided as needed based on the content.

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities
<https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>
 States Parties Reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities
<https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:40%, Reaction paper through Web Class:60%

【学生の意見等からの気づき】

To the greatest extent possible, student suggestions regarding lecture content and planning will be incorporated.

【学生が準備すべき機器他】

Hardware and software for online class (PC, Zoom, etc)

【その他の重要事項】

The above plan is subject to minor changes. The lectures will incorporate insights from the professor's extensive professional experience with international organizations and projects, as well as ongoing domestic and international activities.

【担当教員の専門分野 / Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia and other Asia)

【Outline (in English)】

Aligned with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD) and the Sustainable Development Goals (SDGs), this course provides a comprehensive overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

SOW300JB（社会福祉学 / Social Welfare 300）

ケアワーク論

奈良 環

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2021年度以降入学者のみ受講可能。

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

その人らしい人生が送れるように自立支援について学習しノーマライゼーションの理念を踏まえながら、自己実現や生活の支援を高める援助方法の基本を学ぶ。利用者本位、多職種との連携、社会資源の活用、介護に関わる者の安全と健康管理を学ぶ。

【到達目標】

自分らしい生活や人生を送るための福祉サービスの現状と課題を説明できる。

介護される側と介護する側の課題、自立支援のあり方について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での開講となります。授業計画の変更は学習支援システムで掲示をします。講義とグループワーク等を含めた演習を行います。（毎回、課題や小テストが有ります）課題やリアクションペーパーについては、授業内で口頭でフィードバックする他、必要に応じてコメントを付け返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 生活支援とは	生活とは何か、ウェルビーイングの実現と介護の在り方
第2回	介護の対象、理念、定義	介護の定義、理念、対象についての理解、ヤングケアラー等介護者に対する支援
第3回	介護の倫理、専門性	介護の専門性と教育制度の変遷。ソーシャルワーカー、その他の専門職との連携の必要性
第4回	介護活動の場（在宅、短期入所施設、通所施設）	介護活動の場の理解（在宅を中心） 地域の社会資源の実態と開発方法
第5回	介護活動の場（高齢者福祉施設、障害者福祉施設）	介護活動の場の理解（施設中心）
第6回	利用者との援助関係	要支援・要介護の対象者やその家族とのコミュニケーション
第7回	日常生活からみた利用者の理解	日常生活における身体面、心理面、精神面、レクリエーション面を理解し、ウェルビーイング実現の方法を検討する
第8回	食事、排泄、睡眠、休息への援助	基本的な欲求と充足の要件を再認識する。
第9回	身体の清潔、運動と移動、衣生活への援助	専門職としての支援の在り方、意図的な関わり
第10回	居住環境の整備とユニバーサルデザイン	居住環境、ユニバーサルデザインについて理解

第11回	地域ケアシステムの形成と機能化、多職種の連携	地域包括支援センターとの連携、ICTの活用と連携
第12回	働く場としての安全確保、心身の健康管理	働く人々の健康・安全管理 在宅の場合と施設就業者の場合の違いを理解する、感染予防等。
第13回	緊急時の対応、終末期の介護と家族ケア	終末期の理解と当事者および家族支援方法
第14回	介護保険制度と成年後見制度	介護を担う家族への支援、認知症状を抱える当事者と家族への支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

学習準備として、各テーマについて新聞やネット検索をして自身が興味を持つ部分を明らかにしていただきます。

復習時間では課題の再確認と授業を受けた上で、関わりのある法制度等を確認し、興味をもったこと等についてまとめるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書の使用無し。授業内で関係のある書籍や関係資料を紹介をします。

【参考書】

『社会福祉学習双書 介護概論』 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
その他、授業内で関係のある書籍や資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

参加、出席、授業貢献度：20%

各回での課題や小レポート：40%

授業内試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

要介護者の置かれている状況、介護の実際について説明をしていきます。

また、授業に参加する際のルールの詳細を初回に丁寧に説明していきます。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course provides the knowledge of self-reliance support, client centered service, multidisciplinary collaborations, how to utilize social resources, and safety and health management for care providers based on normalization for well-being.

【Goal】

Students will be able to describe current welfare services and its issues.

Students will be able to understand how self-reliance support is provided and its issues for care givers and receivers.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students spend at least two hours each for preparation and review of the class.

As part of preparations, students need to clarify their interests on each theme with online research and newspapers.

For review, students complete assignments, analyze the related policies and services to social welfare, and summarize the interested findings.

【Grading criteria】

Participation, attendance and class contribution：20%

Short reports：40%、

examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ（SHG=自助グループ）です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の2点を目標とします。

- ①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
- ②SHGの役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進度などを考慮し、下記の授業計画を若干変更することがあり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の全体像を把握する。 またSHGの定義を学ぶ
第2回	知的障がいのある人の地域生活	障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいのSHG	摂食障がいのSHGについて学ぶ
第5回	パニック障がいの理解とSHG	パニック障がいのある当事者の手記から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解しSHGについて学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どものSHGから、実践を学ぶ
第8回	依存症とは ゲーム依存を中心に	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者のSHG	アルコール依存症者のSHGについて学ぶ
第12回	学びの振り返りと、発表テーマ設定、及び発表準備	発表テーマを設定し、プレゼンテーション資料を作成する

- 第13回 学びの成果の共有① 一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする
- 第14回 学びの成果の共有② 一人ひとりが履修者全体に、学びの成果をプレゼンテーションする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ内でのシェアや、全体への発表・レポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のあるSHGについて調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ 一当事者へのまなざし」（久保紘章 著）相川書房 2004他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参加度合いなどの平常点（20％）、リアクション（30％）、発表・レポート課題（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じた学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル（A4サイズ・20シート以上）を準備しておく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living. People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to about following two.

- ① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
- ② Can be put into words about The role and the significance of SHG.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、Report:50 %

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

スクールソーシャルワーク

宮地 さつき

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スクールソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

【到達目標】

- ・スクールソーシャルワーカー導入の背景として、学校現場と子どもと家族の現状を理解する。
- ・海外の動向も含めた、スクールソーシャルワーカーの歴史と発展過程を理解する。
- ・スクールソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、それが実際にどのように活用されているのかを考察する。
- ・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・上記の目標を達成するために、①社会的な背景とともに様々な状況にある子どもと家族、および教育と学校の現状を理解する。②スクールソーシャルワーカーとは何かを諸外国の歴史的発展過程も含めて理解し、実践での独自性について考察する。③学校現場でのスクールソーシャルワーク実践について、事例の検討も含めながら考察を深めていく。
- ・講義形式を中心とするが、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びも得る。授業では必要に応じて、ディスカッションや課題、リアクションペーパーの提出を求める。
- ・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
- ・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子どもと家族の理解1	教育と福祉について、貧困と不平等、社会問題と家族
第2回	子どもと家族の理解2	現代の子育てと子育て、多様化する家族
第3回	学校・教育の現状1	教育費、学校現場と教育の現状
第4回	学校・教育の現状2	学校現場に福祉援助が入るということ
第5回	スクールソーシャルワーカーの歴史と展開	日本および海外における動向
第6回	スクールソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第7回	スクールソーシャルワークの視点と実践モデル	スクールソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第8回	スクールソーシャルワーク実践1	不登校、いじめ、校内暴力と支援
第9回	スクールソーシャルワーク実践2	子どもの虐待、多国籍の子どもと親支援

第10回	スクールソーシャルワーク実践3	発達の問題と特別支援
第11回	スクールソーシャルワーク実践4	非行問題と多様な課題をもつ生徒への支援
第12回	ゲストスピーカー	現職のスクールソーシャルワーカーによる講義
第13回	多職種連携の現状と課題	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性和実際
第14回	スクールソーシャルワークのこれから	スクールソーシャルワークの限界と今後の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
- ・本授業の準備・復習時間は各回4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義内で資料を配布する。

【参考書】

- ・山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク（第2版）』ミネルヴァ書房
 - ・鈴木庸裕編（2018）『学校福祉とは何か』ミネルヴァ書房
 - ・大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店
- 他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（30%）、講義内課題（20%）、定期試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前半は講義形式での授業が多くなるが、後半になるにつれてグループワークを盛り込んでいくことで、アウトプットする機会が増え、学びを深めていくことができる。

また、福祉、教育、心理、まちづくりなど、多様な事柄に関心を持つ学生が受講しているため、他者の意見を聴くことで新たな視点や発見がある。

外部講師として現任のスクールソーシャルワーカーを招聘することで、よりリアルな現状として理解を深めることができる。

【Outline (in English)】

This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families, and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in school social work.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (20%), term-end examination (50%), and in-class contribution (30%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

多文化ソーシャルワーク

伊藤 正子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「多文化」社会とは何か、その実態と発生しうる社会問題について、労働、教育、居住問題等を題材とした仮想会議を通して受講者とともに考える。次に、日本において実際に発生している諸問題を取り上げ、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について、多文化ソーシャルワーク理論に基づきながら考える。

【到達目標】

グローバル化の視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する偏見・差別と生活問題について理解する。

多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。

多文化ソーシャルワークの実際について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、現実に存在する人種・民族差別についてその具体例、人々に及ぼす影響をアメリカ、日本の場合を中心に検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例の演習を行う。対面式・アクティブラーニング授業のため、毎回の出席および授業への積極的な参加・発言を重視する。各回の授業計画の変更については、学習支援システム等でその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第2回	多文化社会における諸問題①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解 エスニシティとインターセクショナルリティ
第3回	多文化社会における諸問題②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第4回	多文化社会における諸問題③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第5回	多文化社会における諸問題④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第6回	多文化社会における諸問題⑤	共有財産と共生の条件
第7回	制度的人種差別①	前半の振り返りとアメリカにおける人種差別
第8回	制度的人種差別②	日本における外国人差別・排斥
第9回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史の変遷、理論とその特徴
第10回	多文化ソーシャルワークの実際①	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるアプローチ

第11回	多文化ソーシャルワークの実際②	やさしい日本語①書きことば
第12回	多文化ソーシャルワークの実際③	やさしい日本語②話しことば
第13回	多文化ソーシャルワークの実際④	やさしい日本語③演習
第14回	試験・まとめと解説	学習した内容の発表と相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的参加・発言（60％）

最終試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】

集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【その他の重要事項】

外国人支援NGOでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces what a “multicultural” society is and what kinds of social issues exist within it. We will explore its realities and potential social issues through a simulated conference focusing on topics such as labor, education, and housing, engaging participants in discussion. Next, we will examine actual problems occurring in Japan, considering the living conditions of people with foreign roots and their social support, grounded in multicultural social work theory.

【Learning Objectives】 At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class attendance and attitude in class: 60%、Term-end examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC (社会福祉学 / Social Welfare 300, 社会福祉学 / Social Welfare 300)

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくい「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観・支援観の形成を目指すものである。授業内では、「死」に関する概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第2回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第3回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第4回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第5回	グリーフ・ケア、ビリーフメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第6回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第7回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第8回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第9回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第10回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第11回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第12回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第13回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第14回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
山本力（2025）『悲しみといのちの時熟』誠信書房
明智龍男ほか編（2025）『死別と悲嘆の精神医学』南山堂
本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容30%、ディスカッション・ディベートへの参加度20%、学期末レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】The goal is to understand the view of life and death as a profession.

【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution(20%).

PSY300JB,PSY200JC (心理学 / Psychology 300 , 心理学 / Psychology 200)

コミュニティ心理学

丹羽 郁夫

配当年次／単位数：福コミ：2～4・臨心：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点をもちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。また授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。課題などのフィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第3回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点としてM. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第4回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第5回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第6回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第7回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第8回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究、自然災害によるPTSDを講義。
第9回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。

第10回	危機理論と危機介入	危機理論と危機介入の実例を事例を用いて講義。
第11回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第12回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第13回	コミュニティー・アプローチの実践	ひきこもりへの支援について講義。
第14回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で次の講義内容が説明されるので、参考書などで事前に調べることが求められます。講義の後には、配布資料を読み、講義内容を振り返り、疑問点や興味をもったことなどを調べることを求められます。さらに学習を進めたい場合は、配布資料に記載された引用・参考文献を読むことが勧められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書には次のものがあります（必ずしも購入する必要はありません）。『よくわかるコミュニティ心理学（改訂第3版）』（植村勝彦・高島克子・箕川雅博・久田満編 ミネルヴァ書房 2017年 2,500円+税）。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

現状を維持します。

【その他の重要事項】

講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline (in English)】

Course outline

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-Students can explain a viewpoint and various intervention methods of the community psychology.

-Students become able to plan a proof study based on community psychology.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Final grade will be decided based on the Term-end examination (100%).

PSY300JB,PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

異文化心理学

奥山 今日子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験していますが、そのような経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。

私たちが持つ生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自分自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング (2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴 (1) とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴 (2) とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か

第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴 (3) とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴 (4) とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴 (5) とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴 (6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40％
期末レポート60％

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してみてほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria 】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

PSY300JB, PSY300JC (心理学 / Psychology 300, 心理学 / Psychology 300)

教育心理学特講

金山 裕介

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、教育心理学の基礎的な知見を習得するとともに、臨床心理学的視点から学校現場における様々な課題への理解を深めることを目的とする。子どもの発達や学習に関する心理学的知見に加え、現代の子どもが抱える困難の理解と対応についても学ぶ。

【到達目標】

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実践について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリフレクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学を知る	オリエンテーション。教育心理学とはどのような研究分野かについて概観する。
2	知識を広げる記憶のメカニズム	記憶のモデルと記憶方略を理解し、教科の学習内容を効率的に記憶する方法を学ぶ。
3	経験から学ぶということ	学習理論を理解し、人の行動がどのように身につくのか、および問題行動への対応を学ぶ。
4	子どもの意欲を育む	動機づけの理論を理解し、子どもの学習意欲を引き出す方法を学ぶ。
5	子どもの育ちの過程	幼児期、児童期、青年期における発達の特徴と、それぞれの段階で子どもたちが直面する課題を学ぶ。
6	パーソナリティの形成	パーソナリティの概念、その形成過程、そして心理学的に測定する方法を学ぶ。
7	頭がいいとはどういうことか	知能の概念、その発達メカニズム、そして知能検査とその結果を教育現場でどのように活用できるかを学ぶ。
8	子どもの「わからない」を理解する	認知科学の知見を基に、算数や読解における「わからない」のメカニズムを理解し、学習上のつまずきを捉える視点を学ぶ。

9	困難を抱える子どもたち①	知的障害や発達障害の理解と対応を学ぶ。
10	困難を抱える子どもたち②	いじめや非行の理解と対応を学ぶ。
11	困難を抱える子どもたち③	家族の問題や虐待の理解と対応を学ぶ。
12	困難を抱える子どもたち④	不登校や自死の理解と対応を学ぶ。
13	学級づくり	学級集団の特徴や対人関係、リーダーシップ、教師のメンタルヘルスを学ぶ。
14	社会における学校	学校内外での連携について学び、社会における学校の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。事前学習としては、子どもや学校に関心を持ち、関連する新聞記事などを読むこと。また、必要に応じて「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」などの関連書籍を参考に学習すること。本授業においては、各回のテーマに沿った参考資料を紹介する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（60％）

授業参加およびリフレクションペーパー（40％）

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生から、「授業を通じて知的好奇心が刺激され、新たな知識やスキルの習得につながった」との回答を得ることができました。今後も、教育現場に即した実践的な知識を積極的に共有していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces students to the fundamental principles of educational psychology.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with a foundational understanding of educational psychology and to explore various challenges in educational settings from a psychological perspective.

Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

The final grade will be determined as follows:

・End-of-semester report: 60%

・Reflection papers and in-class contributions: 40%

PSY200JC (心理学 / Psychology 200)

心理療法

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。またいくつかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実践について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるように、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていきます。

理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。

なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第2回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第3回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第4回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第5回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第6回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第7回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的 精神療法の理論と方法について概説する。
第8回	心理療法（2） 精神分析的 精神療法、ブリーフセラピー など	主な心理療法の中で、精神分析的 精神療法、ブリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。

第9回	心理療法（3） 認知行動療法、対人 関係療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第10回	心理療法（4） 日本で生まれた心理 療法：森田療法、内 観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第11回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法 など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第12回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第13回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第14回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各回計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。

平常点およびリアクションペーパー：30%

学期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行っていきます。

【Outline (in English)】

This course will provide an overview of the psychotherapy including the basic concept, history, objects, and specific methods. The objectives of this course is to enable students to understand the basics of psychotherapy and to explain the psychotherapeutic practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

精神分析学

森 一也

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。精神分析学そして力動の心理学における仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示している。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性の発達、対象関係論や親子関係ならびに治療関係論、現代的展開としてのメンタライゼーションをテーマにして、心のあり方を理解する。

【到達目標】

精神分析学の理論と実際を知る。それらが意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

PCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業での質疑応答やディスカッションを行うほか、リアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、精神分析学の誕生①	本授業の説明と諸注意について、メスメルの磁気術、催眠術
第2回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナO、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第3回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第4回	精神性の発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着、性器統裁、対象選択
第5回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第6回	フロイトの症例／鼠男	エディプス・コンプレックスと神経症
第7回	フロイト以後の展開	対象関係論、現代精神分析の展開
第8回	精神分析療法と精神分析の心理療法の実際	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析の心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第9回	契約	治療契約について
第10回	退行	治療的退行について
第11回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第12回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第13回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第14回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情や思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初回時に説明する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(60%)、平常点(リアクション・ペーパーを含む)(40%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神分析の心理療法を志向し、実践する臨床心理士・公認心理師が精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.

【Learning activities outside the classroom】

Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

児童精神医学

関谷 秀子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は1950年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、国際的診断分類学の臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。
 児童・思春期の心の発達について理解する。
 代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
 児童思春期に対する治療のアプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主にPCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19世紀の子ども観について。
第2回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第3回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第4回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マラーの発達理論。
第5回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第6回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第7回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第8回	不登校①	小学生の不登校
第9回	不登校②	思春期の不登校
第10回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第11回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第12回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第13回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第14回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%),平常点(40%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline (in English)】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

認知行動療法

金築 優

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline (in English)】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JC (心理学 / Psychology 300)

グループアプローチ

大竹 直子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】

主に心理臨床の現場で用いられるグループ・アプローチの理論を理解するとともに、グループ体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、毎回異なったメンバーとグループを組み、前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半はグループワークやディスカッションを中心に進めていきます。（授業の展開によって若干の変更があります。）

また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる（1）	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる（2）	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験（1）	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ：カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験（2）	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	グループワークのまとめ	講義と演習
14	試験・まとめと解説	筆記試験（持込不可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんで安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。（プリントを配布します。A 4 版のファイルをご準備ください。）

【参考書】

講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】

①最終試験 60%

②平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「最初は、自分について話すことに戸惑った」「知らない人と話すのは緊張した」との声や「回数を重ねるごとに楽しになってきた」「自己理解が深まった」「グループの意義を実感することができた」などのフィードバックをいただきました。

今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

EDU100JA（教育学 / Education 100）

教育学（SSI）

藤本 典裕

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：現代福祉学部以外のSSI生向け科目。現代福祉学部SSI生およびSSI生以外は授業コード「N0058」を選択すること。

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（授業の概要）本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考え方なのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

（授業の目的）1. 日常的な経験を通じて教育に関する基礎概念を検討する。人類はなぜ、どのように教育を基礎的な社会機能として維持してきたのかを学ぶ。

2. 教育に関する思想の概要を学ぶ。3. 学校制度の機能を学ぶ。4. 教育に関する権利と義務、誰が権利主体なのか、なぜそうなのか、教育を保障するのは誰かを学ぶ。

（授業時間外の学習）提示する資料を読み、次回授業までに課題に定めること。授業後、その内容についてミニ・レポートを作成すること（詳細は授業時に指示する）。

（成績評価の基準）学期末レポート（60%）及びミニ・レポート（40%）を総合的に評価する。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育に関する諸概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 近代の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
3. 学校制度の役割、問題点について自分の考えを整理して述べることができる。
4. 教育を受ける権利とその保障に付いて理解し、その問題点を指摘し、それについての見解を整理して述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末にレポートの提出を求めるが、学期中に小レポートの提出も求める。

下記に授業計画を示しているが、授業の進行状況に応じて変更を行うこともありえる。変更の場合はその都度連絡する。学習支援システムに講義資料などを提示するので確認して受講すること。その他、必要な連絡も基本的には学習支援システムを通じて行うので注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的な理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	子育て・教育の自立化	子育て・教育が他の活動と区別される特性を検討する。

第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	教育可能性	人間という生物の特性を教育可能性という視点から検討する。
第6回	ルソーに学ぶ	ルソーの子ども観・教育観から近代教育思想について考える。
第7回	発達の段階	ピアジェの研究成果などから人間の発達段階について整理し検討する。
第8回	能力モデルと教育の規定	人間の能力のとらえ方を整理し、それを育成する教育のあり方について検討する。
第9回	学校の誕生と発展	学校という社会制度が誕生する経緯とその発展の過程を整理する。
第10回	日本の学校	日本の学校制度の誕生と発展の経緯を整理し、学校制度が歴史的に担ってきた役割を検討する。
第11回	教育を受ける権利と義務	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利と教育費	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第13回	子どもの貧困をめぐって	子どもの貧困が子どもたちから奪っているものについて考える。
第14回	さまざまな問い	第13回目に取り上げられなかった諸課題について検討するヒントを提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年
橋本俊詔『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験またはレポート（60%）、小レポート（40%）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、教育に関する多くの事象を取り上げることが主目的としている。このため、さまざまな事項について深く検討することは困難であるが、参考文献の紹介などで補足したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-being, the meaning of education for human-being, the basic thoughts of contemporary education and educational system and the problems concerning contemporary education.

【Learning Objectives】

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-being have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the thoughts on education.

Third, we will learn about the functions of schooling system.

Fourth, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, why so, and who guarantee the rights.

【Learning activities outside of classroom】

I will show you about the contents of next lesson and the activities you must do. So after each lesson, by reading the materials (I present on web-site) , review the contents of the lesson and make a short report (I will show you the detail at each lesson) by the next lesson.

【Grading Criteria】

Grading will be decided by term-ending report and short reports held in lessons. (Term-ending report:60%、Short reports:40%)

SOC100JA (社会学 / Sociology 100)

老年学 (SSI)

新名 正弥

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：他学部SSI生向けの科目。代福祉学部SSI生およびSSI生以外は授業コード「N0117」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。また、課題のフィードバックはLMS等を通じて適宜コメントする他、課題提出翌週の講義開始時に解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係

第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢社会の構造（グローバリゼーション、老いを取り巻く社会構造の変化）	少子高齢社会の展開と政策課題について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業前に資料を配付する。

【参考書】

国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）
高齢社会白書（厚生労働省）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り、クイズ、レスポンスペーパー（40%）、期末レポート（60%）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度を理解するための基盤となる科目なので、高齢者や高齢社会に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline (in English)】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the aging of humans and society surrounding the elderly. The lecture aims to comprehensively describe the biological, psychological, social-psychological, and sociological perspectives of gerontology and explain the themes, especially in social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding aging and its policy response.

By the end of the course, students are expected to understand the basic terms and theories concerning aging.

Before the lecture, students must tackle assignments (about 2 hours). After the class, students are asked to answer quizzes (about 2 hours).

The course's grading will be based on quizzes/assignments (40%) and term-reports (60%).

GDR100JA（ジェンダー / Gender 100）

女性学

藤田 和美

配当年次／単位数：1～4年次／2単位
備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ履修可能。
その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー研究は、1960年代後半に登場した第二波フェミニズムと呼ばれる社会運動をきっかけに登場した他領域的で学際的な学問分野です。当初は、女性学（Women’s Studies）として男女の差異と不平等の検証に焦点があてられ、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかにされるとともに、女性の生の基盤を形づくってきた知識・技能・経験の再評価が行われました。その後1980年代には、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、これが後に男性学（Men’s Studies）という専門領域になっていきます。

ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された1980年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」を別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられます。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。

こうした経緯を経て、現在のジェンダー研究は、男女間だけではなく女性相互、男性相互の関係性の研究を含む学問分野として理解されています。本授業ではジェンダー研究の主要概念・理論を学ぶとともに、1980年代後半から1990年代にかけて登場した性的マイノリティの運動とそこで展開された「新しいジェンダー・ポリティクス」を学び、現在、私たちが直面している問題の解決策を考えます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム運動の歴史を知り、説明できるようになること
- 2) ジェンダー研究における基礎概念とその背景にある理論的思考方を理解し、説明できるようになること
- 3) 現在のジェンダー問題の状況を把握し、解決策を具体的に提案できるようにすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業を基本としますが、受講生が少ない場合、グループワークを行うこともあります。講義はパワーポイントを投影しながら行います。プリント（パワーポイントを印刷したもの）は配布しませんが、授業資料を前日夜までに学習支援システムにアップします。プリントが必要な学生は各自印刷し、授業に持参してください。毎回の授業時には、リアクションペーパーを提出していただきます。提出していただいたリアクションペーパーや課題については、次の授業時に紹介するなどしてフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス&イントロダクション	キーワード：第二波フェミニズム、ジェンダー、女性学・男性学、家父長制、ダブル・スタンダード
第2回	フェミニズム運動の歴史	キーワード：参政権運動、女性解放運動、コンシャスネス・レイジング、「個人的なことは政治的なこと」
第3回	政治分野におけるジェンダー平等	キーワード：第一波フェミニズム、参政権運動

第4回	ジェンダー「平等」：三つの視点	キーワード：平等、差異、多様性、ポジティブ・アクション
第5回	ジェンダーと労働	キーワード：賃金格差、ガラスの天井、家父長制、ダブル・スタンダード
第6回	アンペイド・ワーク	キーワード：アンペイドワーク、家庭内分業、「家事労働に賃金を」、ケアの倫理
第7回	男性の家事・育児・介護	キーワード：育休制度、くるみん
第8回	性暴力・DV	キーワード：ドメスティック・バイオレンス、パープル・リボン
第9回	デートDV	キーワード：セクシュアル・コンセント
第10回	多様な男性性	キーワード：男性運動、ホワイ・ト・リボン
第11回	異性愛の捉え直し	キーワード：アドリエンヌ・リッチ、強制異性愛、異性愛主義、ホモフォビア
第12回	職場における性の多様性	キーワード：クィア、トランスジェンダー、トランスフォビア
第13回	メディアとジェンダー	キーワード：好感度CM、炎上CM
第14回	期末テスト・まとめと解説	講義内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】学習支援システムに、その週の講義で使用する資料がアップロードされています。学生には授業開始前に資料をダウンロードし、目を通しておくことが求められます。レジュメ中にハイパーリンク等で参考となる文献や動画の情報を示していることもあります。これらについても事前にアクセスし、確認しておくことが求められます。

【復習・宿題】学習支援システムを使い、講義の内容に関連した課題を出題します。学生には授業感想は講義時間内に、宿題は講義後2週間以内に課題を提出することが求められます。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ジェンダー事典編集委員会編『ジェンダー事典』丸善出版 2024

【成績評価の方法と基準】
1) 平常点・授業感想（14回）40％
2) ミニレポート（2回）10％
3) 期末テスト 50％

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートで指摘を受けたようにHoppiiのシステム変更で教員が十分対応できず、出欠、課題提出、学生への連絡などで混乱を生じたことは第一に反省すべき点である。授業内容に関しては、各回の授業の冒頭で現在、物議を醸しているニュースやトピックを積極的に取り上げ、それらが果たして「差別」にあたるのかどうかについて、全員で意見を出し合い、さまざまな角度から検討をおこなったことについて「多角的な視点で問題について見ることができた」という評価が得られた。また全体を通して「自分が当たり前と考えていたことについて、もう一度深く考え直す機会が多く、毎授業新しい学びや考えを発見することができた」「制度だけではなく心の中にあるジェンダー観をいかに捉えていくことが重要」「変えていくことは今すぐには難しいかもしれないが、一歩ずつ変えていける希望もこの講義を通して感じた」等の意見をリアクションペーパーで頂戴した。各自異なる意見から多くの発見と学びが得られるよう、さらなる工夫を重ねていきたい。受講生の要望を踏まえ、学生の関心に沿ったテーマや素材を授業で適宜取り上げる予定。また授業テーマに関連した学外の講演や情報も積極的に活用し、学生の学習意欲に応えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、講義資料の配布や各授業時の感想及びミニレポートの提出にあたって学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) Gender Studies is an interdisciplinary academic field spanning the humanities, social sciences, and natural sciences. This field explores critical questions about the meaning of gender in society and examines how notions of gender structure our reality. Gender studies has been influenced by post-modernism, including arguments that gender is not a fixed category, but rather a social construction. Scholars have used these theories to examine how the construction of gender functions in a range of spheres, such as work, the family, social policy, law, education and media. This course will investigate contemporary feminist thought from a variety of disciplinary perspectives. We will focus on key issues in feminist theory such as gender equality/inequality, the public/private dichotomy, gender segregation, unpaid work and the construction of masculinity among others. This course aims also to think through the ways in which these concerns intersect with issues of race/ethnicity, class, sexuality, and the nation.

(Learning Objectives) The goals of this course are to think of a solution about modern gender issues.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 50%, Short reports: 10%, in class contribution: 40%

ARSx100JB（地域研究（その他） / Area studies(Others) 100）

まちづくりの思想

水野 雅男、図司 直也、佐野 竜平、土肥 将敦、野田 岳仁、杉浦 ちなみ

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者のみ受講可能。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員6名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（図司）	「自分ごと」から地域を感じる
第2回	「地域／まち」をつくる とは？（図司）	地域づくりを実践する現場に触れる
第3回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した仲間との姿に触れる
第4回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第5回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第6回	コミュニティと企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第7回	コミュニティとソーシャルビジネス（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性と課題
第8回	学びがつくる地域（杉浦）	学校外での学びの空間
第9回	地域で文化を学び伝える（杉浦）	暮らしの中にある豊かさ
第10回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	日本内外の視野からみるまちづくり
第11回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	共生社会に生きる視点と具体例
第12回	アート&クラフトとまちづくり（水野）	アート&クラフトによる地域資源の発掘
第13回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第14回	震災復旧と復興まちづくり（水野）	ボランティアキャンプと復興まちづくり実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する6名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

MAN300JB（経営学 / Management 300）

地域経営論（SSI）

遠藤 聖子

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI 生向け科目。SSI 生以外は授業コード「N1151」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、人口減少に直面した我が国では、地域でその社会的課題に対し様々な手法で解決に取り組んでいます。本講義では、この取り組みを「地域経営＝地域のまちづくり」と捉え、誰が、何を、どのようにマネジメントして、持続可能な地域づくり・まちづくりを行っているか事例を中心に学びます。そして、地域で起きている課題を自分ごととして考え、地域のあり方、まちづくりにおける市民・行政・企業・大学などの役割と協働のあり方について考察します。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とします。

- ・地域経営に関する基本的な枠組み、法制度及び諸制度、考え方
- ・地域経営に関する国と地方の関係、地方分権と自治
- ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域経営の手法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体、またはグループ討議等」により進めます。受講生が、地域経営、地域づくり、まちづくりについて具体的なイメージを持って思考できるよう事例紹介を中心に進めます。各回講義のに対するリアクションペーパーで示された問いやつぶやきを講義の中で紹介し、双方向のやりとりをしながら受講者全体の理解が深まるよう進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営とは	・講義ガイダンス ・「地域経営」の全体像とまちづくり ・視点の整理 ・各回講義の要点解説
第2回	地方分権と地方自治、その系譜	・講義ガイダンス（再） ・「地方分権」「地方自治」の系譜 ・今日的課題
第3回	地域経営における行政の役割とは	・行政が取り組む事例の紹介
第4回	住民参加とまちづくり①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の役割 ・まちづくり条例の系譜 ・まちづくりを担う組織
第5回	住民参加とまちづくり②	・まちづくりセンター ・まちづくりにおける紛争とその歴史 ・住民参加の意義 ・地域経営における合意形成の方法とあり方の考察

第6回	官民産学連携のまちづくり	各地の ・エリアマネジメント ・アーバンデザインセンター等、果たす役割と取り組み
第7回	地域のストックを活かすまちづくり①	・風景づくり ・歴史、文化を活かす ・リノベーション 等、まちづくりの取り組みと課題
第8回	地域のストックを活かすまちづくり②	・公共施設、公共空間の更新と魅力化 ・空き家、空き地の活用 等、各地の取り組みと課題
第9回	商業地・中心市街地のまちづくり①	・商業地、中心市街地の現状と課題 ・まちなか再生の動き 等、各地の取り組みと課題
第10回	商業地・中心市街地のまちづくり②	・まちづくり会社（TMO） ・まちなか観光（DMO）等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第11回	郊外住宅地のまちづくり	・戸建て住宅地の管理 ・ニュータウン、郊外住宅地の取り組み ・団地、マンション管理組合と自治会 等、まちづくりを担う組織の役割と取り組み、課題
第12回	災害とまちづくり	・大規模災害、大規模震災にみる地域、まちづくりの課題と取り組みの系譜 ・これからの課題
第13回	福祉・スポーツとまちづくり	・各地で取られる福祉やスポーツをキーワードにしたまちづくりの現在 ・レポート課題の解説 ・受講生の感想
第14回	講義の総括	・講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・少子高齢化、人口減少社会における地域経営、地域づくり、まちづくりに関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦めます。本講義の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介しますが、次の書籍を参考図書として薦めます。

- ・「平成都市計画史―転換期の30年間で残したもの・受け継ぐもの」 饗庭 伸 著（共栄書房/2021年）
- ・「アーバンデザイン講座」前田 英寿 等 著（彰国社/2018年）

【成績評価の方法と基準】

①講義または、その後の全体またはグループ討議等の内容を踏まえたリアクションペーパーの提出40％
②レポートの提出60％（レポート課題は6月前半に提示）

【学生の意見等からの気づき】

まちづくりの実務者がその経験を踏まえて、具体的な事例を授業で紹介している点が本講義の特徴です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Faced with a declining birthrate, an aging population, and a shrinking population, Japan's local communities are using a variety of methods to address social issues. In this lecture, this approach will be considered as "regional management = regional community development. You will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. The course will also consider local issues as if they were their own, and examine the roles of citizens, government, business, and universities in community development and how they should work together. In Japan, facing declining birthrates, an aging population, and a shrinking population, local communities are working to solve social issues using a variety of methods. In this lecture, we will consider these efforts as "regional management = regional community development. We will learn who, what, and how sustainable regional and community development is carried out, focusing on case studies. We will also consider issues that arise in the community as if they were our own, and discuss how the community should be, and the roles and collaboration of citizens, government, businesses, and universities in community development.

【Learning Objectives】

The objective of the course is to provide participants with a basic understanding of the following issues, and to raise their awareness of the issues and policies related to each theme.

- ・ Basic framework, legal system, and various systems and ideas related to regional management
- ・ Relationship between the national and local governments, decentralization, and self-governance related to regional management
- ・ Collaboration, cooperation, and sharing of responsibilities among citizens (residents), businesses, and governments related to regional management
- ・ Methods of regional management

【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

- (1) Reaction paper based on the lecture and subsequent plenary discussions, mini-workshops, etc.: 50%
- (2) Report: 50% (report assignment will be presented in the first half of June)

MAN300JB（経営学 / Management 300）

NPO論（SSI）

渡真利 紘一

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI生向け科目。SSI生以外は授業コード「N1155」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
 - ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方を学ぶ
- NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること／他者に対して寛容であること／仲間を持つこと／社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容（歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等）について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者から実践を聞き、体験的に実践を把握できる機会をつくります。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更が生じる場合があります。変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション /NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野と関心分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知るとともに各々の関心分野について話し合う。
第3回	NPOの歴史的背景	非営利な活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿る。
第4回	NPOの社会的意義	行政や企業等との比較を通じ、NPOの社会的意義について考察する。
第5回	NPOの組織運営	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解する。
第6回	NPOと他の主体との関係	他の主体（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係について把握する。

第7回	中間課題の共有	中間課題で調べたり考えたことを共有し、お互いの観点から学ぶ。
第8回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第9回	実践から考えるシリーズ「協力関係をつくる」	協力関係をつくる理論や具体例を取り上げ、協力関係をつくる方法について考察する。
第10回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第11回	NPOの活動事例紹介	NPO活動に携わる者（ゲスト）から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第12回	期末課題に向けた準備1	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第13回	期末課題に向けた準備2	グループ又は個人で期末課題の準備を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、ニュースや映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。

授業で紹介したNPOの主催するイベント等へ参加したり、NPO活動へボランティアや取材等を通じて主体的に関わることを推奨します。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（１）平常点（出席・リアクション）50点、（２）中間課題（NPO活動計画書）10点、（３）期末課題（準備の過程、レポート）40点。平常点については、授業ごとに授業中の発言又はリアクションペーパーによって評価・採点します。

なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。

- ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

（注）授業を欠席する場合は事前に連絡してください。

（注）実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士がお互いの観点を尊重して学びを深める環境をつくります。
- ・授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の閲覧や調べ物をする際に使用するため、パソコン又はスマートフォンを持参してください。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Short reports : 10%、in class contribution: 50%

CMF300JB (その他の複合領域 / Complex systems(Others) 300)

コミュニティアート (SSI)

吉野 裕之

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考(履修条件等)：SSI 生向け科目。SSI 生以外は授業コード「N1162」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことではなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業というアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	NPO・市民主体のまちづくりの意義	NPO・市民主体のまちづくりの意味や意義についての説明。(授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同)
第3回	NPO・市民主体のまちづくりの事例(1)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(先進地域のまちづくりの歴史)の紹介と解説。
第4回	NPO・市民主体のまちづくりの事例(2)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(学生が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第5回	NPO・市民主体のまちづくりの事例(3)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(中高齢者が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第6回	生活の現場としてのまちをめぐめる考察	実体験に基づくまちをめぐめる考察とNPO・市民主体のまちづくりの意味の考察。
第7回	アートの意味	アートの意味(意味の歴史的変遷や芸術家のことばなど)の説明。

第8回	都市空間・まちなかのアートの変遷、コミュニティアートの要件と機能	都市空間・まちなかのアート(パブリックアートやコミュニティアートなど)の変遷の説明、コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	コミュニティアートの事例(1)	コミュニティアートの事例(基本的な考え方を理解するための事例)の紹介と解説。
第10回	コミュニティアートの事例(2)	コミュニティアートの事例(大都市／拠点型)の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例(3)	コミュニティアートの事例(大都市／まちなか展開型)の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例(4)	コミュニティアートの事例(地方都市／地域密着型)の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例(5)	コミュニティアートの事例(地方都市／地域交流型)の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての考察。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、必ず授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。(必要に応じて適宜配布する。)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーなど)：30点 期末レポート：70点
平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度について確認する。
期末レポートでは、コミュニティアートの意味の理解度やその分析・評価などの習得度について確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
- Planning of community art

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
- Reading literature related to the class meeting
- Participating in events related to community design and art

(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%、Term-end report : 70%

TRS300JB（観光学 / Tourism Studies 300）

地域ツーリズム（SSI）

野田 岳仁

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：SSI 生向け科目。SSI 生以外は授業コード「N1165」を選択すること。

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー（10%）、期末試験（90%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(10%) and term-end examination (90%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他 /intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	憲法改正	憲法改正の手続とその限界について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントと動画を用いて、オンデマンド形式のオンライン授業で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で動画を視聴し、自己学習を行う。質問はWebClassの掲示板、およびメールを通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックはWebClassまたは個別のメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代国家と近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	近代国家から現代国家への変遷、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ

第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第14回	憲法改正	憲法改正の手続とその限界について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に学習支援システム（WebClass）からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。動画を視聴して自己学習を行った後に、プリントの内容が理解できたかどうか、また事前に抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認し、授業内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第3版〕』（新世社、2024年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）
安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第4版〕』（有斐閣、2024年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末にオンラインで実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least four hours for each class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解できるようになることを目標としている。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界

12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下での平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下での平等（各論） 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はHoppiiで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding.

Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

LAW100LA（法学 / law 100）

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

本講義では、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することを目標とする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得する。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

前半はオンデマンド型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半は対面型とする。ウェブに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界

12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下での平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下での平等（各論） 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ウェブ上に挙げた資料を閲覧できる電子機器を持参して下さい。

【その他の重要事項】

対面講義中の質問は講義の前後に、オンライン講義期間中はHoppiiで質問してください。

【Outline (in English)】

In order to achieve the following goals, the course will cover and explain basic concepts and understanding of law in general at the beginning of the course, and then lecture on the Constitution of Japan in the following period. The course will focus on three pillars: 1) principles related to the foundations of the Constitution itself, such as constitutionalism and separation of powers, 2) the basic principles of the Constitution of Japan ("sovereignty of the people," "respect for fundamental human rights," and "pacifism"), and 3) the governance system therein. With the understanding that students are beginners, the course will avoid leaning toward abstract discussions and explanations by covering many contemporary topics related to law in general and the Constitution, and will proceed in a way that makes it easy for students to gain a basic understanding. Assessment will be based on the assignment reports completed in the first half of the lectures (face-to-face) (50%) and in the second half of the lectures (on-demand) (50%) to measure the degree of achievement of the goals listed in the "Goals to be achieved" section: "Systematic understanding of the Constitution," "Basic legal knowledge," and "Development of a legal mindset."

After the lecture, please summarize your notes taken during the lecture in easy-to-understand text.

Before and after each class, students will need to spend about four hours studying to understand the content of this class.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式である。その発生・発展の経緯を概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニクについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディ・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踊、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ（出張中のため、録画した講義を提供する予定）
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオ二、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『コッペリア』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー

10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス
11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価

期末レポート70%：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
- ・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（1）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（2）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（1）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（2）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（3）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、市民劇	イギリスの風俗喜劇、フランスの市民劇とその周辺について。マリヴォー、ボーマルシェ、モーツァルトなど
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（1）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンダベリ、チェーホフについて

11	近代演劇（2）	ヨーロッパ近代演劇、特にバーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（1）	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇（2）	アメリカのリアリズム演劇について
14	講義のまとめ	秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恒存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%：リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価
期末レポート70%：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)		【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 あり / Yes	
美術論 A		【授業計画】授業形態：オンライン/online	
稲垣 立男		回	テーマ 内容
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses 単位数：2単位 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉		第1回	オリエンテーション 授業の概要 美術史の学び方 文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。広範な内容となります。歴史を学ぶことはその広がりや考えを果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 2026年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。 特に ・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論 ・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論） について段階的に幅広い視点で学んでいきます。 以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。） ・古代美術、中世美術、近世美術 ・近代美術 ・現代美術 また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。		第2回	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術 ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。形骸化しているという側面もありますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。
【到達目標】 西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。		第3回	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2～7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4～15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5～10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11～12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12～15世紀）
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		第4回	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術 ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment			
【授業の進め方と方法】 オンデマンド方式により授業を行います。 授業当日の流れ（重要） 1. 指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。 2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。） 3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。 4. 授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。			
授業の方法 授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。			
課題 受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。 質問・相談 一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。			
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes			

第5回	ワークショップ（1） 単元の復習・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。 近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探究するラファエル前派について学びます。	第8回	ワークショップ（2） 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい紙やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。 ポスト印象派以降の絵画の新しい試みについての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉を用いました。ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービズムやキュビズム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
第6回	近代美術1 新古典主義　ロマン主義　写実主義　バルビゾン派　ラファエル前派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。 19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーヴォーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そのまま写しとるのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。	第9回	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派、世紀末芸術、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
第7回	近代美術2 印象派、新印象派、ポスト印象派 ナビ派　世紀末芸術 象徴主義（ロシア象徴主義）　素朴派 アーツアンドクラフツ運動　アール・ヌーヴォー　分離派		第10回	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティール、パウハウス、ロシア構成主義	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。特に以下のキーワードについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
			第11回	ワークショップ（3） 単元の復習　近代美術3、近代美術4	

第12回	現代美術1 アンフォルメル 抽象表現主義 ヌー・ポーク・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌー・ポーク・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第13回	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート 新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
第14回	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ(4) 単元の復習・現代美術1・現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。そして、東西対立の時代からアメリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニウム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2014年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content

Planning of art exhibitions・Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google sites contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2026年度美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

- ・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 - ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

- ・原始・古代美術
- ・中世美術、近世美術
- ・近代美術
- ・現代美術

さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されているので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
第3回	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーション とディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
第5回	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
第6回	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が開花しました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。

第7回	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーション とディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。
第8回	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化政策により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
第9回	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内外の人と人との関係性に関するワークショップを行います。
第10回	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーション とディスカッション	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
第11回	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
第12回	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
第13回	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1960-1980年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショップを行います。
第14回	ワークショップ (4) 単元の復習・1960-1980年代、1990-2020年代 プレゼンテーション とディスカッション	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間A

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっても具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を広げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通してコメントを書いてもらったりすることになります。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。受講希望者が50名を超える場合、初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード
8	列車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ハワード・ホークス
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重

14 まとめ

講義のまとめや補足

課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点50%＋レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価とします）。

平常点は、出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を实践し、受講資格を得た学生が受講できます。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

芸術と人間B

2017年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間のスケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を広げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通してコメントを書いてもらいます。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。

受講希望者が50名を超える場合、初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャン＝リュック・ゴダール -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-ヴィム・ヴェンダース -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物1	-ハワード・ホークス -宮崎駿
11	動物2	-アピチャポン・ウィラセタクン -タル・ベアラ

12	外国人監督による東京1	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース
13	外国人監督による東京2	-ジャン＝ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%＋レポート50%（ただしレポートを提出しなければE評価）。

平常点は出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をする可能性がある。必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

仏教思想論 A

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』

第7回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴

『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察第8回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリンダ王経第9回 仏教教団と教団運営
律蔵文献
戒・波羅提木叉

第10回 初期仏典講読（1）

第11回 初期仏典講読（2） 『ダンマパダ』
「慈しみ」他第12回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すパーラドヴァージャ」
他第13回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い第14回 授業内試験・まとめ
筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

「配布資料の内容が興味深かった」という感想をくれた学生がいました。資料を読み、仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてほしいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

仏教思想論 B

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

(本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

- ・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
- ・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
- ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
- ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(3～4回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乘仏教へ
第3回	部派仏教(説一切有部)の思想(1)	ダルマの体系(1)： 五位七十五法
第4回	部派仏教(説一切有部)の思想(2)	ダルマの体系(2)： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第6回	大乘仏教(1)	大乘仏教の教理的特徴
第7回	大乘仏教(2)	大乘諸経典(1)： 『般若経』 『阿闍世王経』
第8回	大乘仏教(3)	大乘諸経典(2)： 『維摩経』 ナーガールジュナ(1)： 思想史上の位置づけ 二真理説

第9回	大乘仏教(4)	ナーガールジュナ(2)： 空性、中道 縁起の思想(1)： 外縁起・内縁起 『入楞伽経』
第10回	大乘仏教(5)	縁起の思想(2)： 『稻苳経』
第11回	大乘仏教(6)	縁起の思想(3)： 『稻苳経註』 縁起二種観察法・中道
第12回	大乘仏教(7)	大乘仏教の人生観(1)： 到達目標・理想的境地・中道
第13回	大乘仏教(8)	大乘仏教の人生観(2)： 『維摩経』
第14回	大乘仏教(9)	大乘仏教の人生観(3)： 仏教論理学派と後期中観思想； 仏陀・經典の権威について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、2013年

桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、1996年

計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、2023年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。

期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想等を初めて学ぶ学生に対しては、その人生観等の思想は、新鮮な驚きを感じさせるようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、大乘仏教思想に関心のある方はぜひ受講してほしいと思います。わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン(学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (Shrāvākayāna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayāna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. Sarvāstivādin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.

3. Dharmakīrti's and later Mādhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学/History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀

第14回 試験と解説

試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学/History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの米軍基地が配置された沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で苛烈な地上戦が行われ、県民の4人に1人が犠牲になる過酷な被害を受けました。その後も1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれ、本土との生活格差は広がり、米軍基地の縮小に取り組むと約束した日本政府の約束も果たされません。米国のアジア戦略や中国との関係が、時代と共に変化する中でも沖縄の状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ヶ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Zoom」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（1）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（2）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化

6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑
7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日米政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（1）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（2）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・準備学習として、教科書や参考書に指定した書籍を読むこと。
- ・復習として、各回の授業後に配信する授業映像を見直したり、リアクションペーパーを策定したりすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『いま沖縄をどう語るか〜ジャーナリズムの現場から』 高文研、2024年

【参考書】

- ・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
- ・『観光コースでない沖縄・第5版』 高文研、2023年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、授業への参加度（50%）

期末レポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which is home to many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of shaping public opinion in opposition to the construction of a new base in Henoko.

Okinawa was the site of fierce ground battles during the Pacific War, suffering severe damage with one in four residents killed. It remained under U.S. administration until its return to Japan in 1972, and the living standards gap between Okinawa and the mainland widened. The Japanese government's promise to reduce U.S. military bases remains unfulfilled. While U.S. strategy in Asia and relations with China have changed over the years, Okinawa's situation has remained unchanged, with the Self-Defense Forces continuing to be deployed there in the name of preparing for a Taiwan emergency.

Learning about Okinawa will also be beneficial in understanding Japan's modern history and its international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア・太平洋地域には、多くの島嶼および島嶼国家が存在する。本授業では、その中でも特に沖縄に注目する。沖縄は現在、日本の一県・一地域として位置づけられているが、前近代には琉球王府の統治下にある独自の政治体制を有していた。

近代以降、沖縄は「琉球処分」による日本への併合、同化政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）を経て、復帰後も米軍基地の集中と強化など、外部からの政策決定を繰り返し受けてきた。その過程において、沖縄の人びとはさまざまな形で異議申し立てを行いながら、独自の社会と文化を形成してきた。

本授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼地域をめぐる国際関係が生み出してきた現代社会の諸問題を検討する。それを通じて、この地域に生きる生活者としての視点と問題意識を養うことを目的とする。

【到達目標】

本授業では、「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認したうえで、アジア・太平洋国際関係の中で沖縄が現在直面している具体的な課題や問題についてリサーチし、議論する。あわせて、生活者の視点から国際関係と地域社会の問題を考察し、受講生それぞれが関心をもつ、沖縄に関するテーマについて、資料調査を行い、史資料に基づいて議論する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」の内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。

第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書くこと。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおすー記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40%）

レポート中間発表（30%）

リサーチレポート（30%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】

In this class, we will focus on the modern and contemporary history of Okinawa and examine the various problems of contemporary society that have been created by international relations surrounding the Asia-Pacific islands. Through the program, the students aim to develop a perspective and awareness of problems as residents living in this region.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1)「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2) 映像①	関連映像視聴、討論.
5	3)「密航1946年 関釜の間の海〜」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4) 映像②	関連映像視聴、討論.
7	5)「第1章植民地の 子ども1朝鮮 1911-24 鯨の町長 生浦〜」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6) 映像③	関連映像視聴、討論.
9	7)「第1章植民地の 子ども2日本 1924-44 関東大震 災の横浜で〜」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8) 映像④	関連映像視聴、討論.

11	9)「第1章植民地の 子ども3朝鮮 1944-46 朝鮮に逃 げる〜」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10)「送還1946 失 敗した密航〜」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会 への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50%.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1)「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2) 映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3)「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4) 映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5)「第2章2 大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6) 映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7)「第2章泰玄 money,money,money ～」	学生によるテキストの報告、討論。

9	8) 映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9)「第2章逸己 歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10) 映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12)「エビローグ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13) 資料館見学	資料館見学
14	14) まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房 1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書 990円。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50%.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはいけません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ+運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	欧米におけるLGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	エイズ危機の時代	アメリカと日本における「エイズ禍」について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」事件やトランスジェンダーの歴史について講義を行う。

第10回	ダイバーシティとインターセクショナルリティ	ダイバーシティとインターセクショナルリティについて考える。
第11回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニング・ジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

浅井春夫、遠藤まめた、染矢明日香、田代美江子、松岡宗嗣（編）『Q&A多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育：パッシングに立ちむかう74問』（大月書店、2023年）

岩渕功一（編）『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくなるもの』（青弓社、2021年）

菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく1』（見洋書房、2019年）

菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく2』（見洋書房、2022年）

菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく3』（見洋書房、2023年）

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022年）

周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶクィア・スタディーズのために』（花伝社、2022年）

トッド、マシュー『ヴィジュアル版 LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

森山至貴『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】

ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

期末レポート：20%

毎日出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使用することもあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Learning journal (Submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

Active participation in class is required.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	クィア・スタディーズとは？	クィア理論の誕生について講義する。
第5回	近代家族の誕生と再生	アート作品やメディアにおける家族の表象について考える。
第6回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』（2001年）を取り上げる。
第7回	恋愛伴侶規範（アマトノーマティビティ）	『そばかす』（2022年）を取り上げる。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第10回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第11回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの表象について考える。
第12回	日本におけるレズビアン	レズビアン
第13回	の歴史	の可視性やその表象について講義する。
第14回	カミングアウトとアウトティング	映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて考える。
第15回	中間試験	第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニングジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（見洋書房、2021年）
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（見洋書房、2016年）
新々江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
トッド・マシュー『ヴィジュアル版LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

平林美都子『女同士の絆 レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）
森山至貴『LGBTを読みとく クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%

中間試験：30%

期末試験：30%

期末レポート：20%

毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.

b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students must read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Learning journal (submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%

Midterm exam: 30%

Final exam: 30%

Final essay: 20%

Active participation in class is required.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史A

2017年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。

第7回	第5章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどについて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズムー』筑摩選書、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13：978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to: (1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3) Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts).

Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively.

Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

キリスト教思想史B

2017年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルター信仰特質およびキリスト教的靈性の定義などについて説明します。
第6回	第13章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第7回	第14章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き パスカールと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマーの宗教論について解説します。
第11回	第16章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章 近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り返った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇（著）『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズムー』筑摩選書、2021年、ISBN-13：978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13：978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).

Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論 A 2017年度以降入学者

鈴木 麻由

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化背景をもつ人との対話は、日常の中に多く存在する。同じ日本人でも、世代や性別などによって価値観は大きく異なる。学業やビジネスにおいて、語学力があっても文化背景の違いから意思疎通が難しい場面もある。この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションの基礎である文化背景の異なる人への開かれた心と態度について学習し、理解を深める。
- ③異文化コミュニケーションの理論を学び、積極的な発信型のコミュニケーションであるアサーティブ・コミュニケーション能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回～12回は、講義形式。
- ・第13回は受講者による発表を行う。
- ・第14回は期末試験を行う。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーションとは	・授業運営に関する説明・新しい常識発見・ステレオタイプ
第2回	異文化コミュニケーションとは－異文化理解への態度・文化とコミュニケーション－	・日本文化を紹介するなら・文化とは何か・コミュニケーションの定義
第3回	コミュニケーションスタイル－高コンテクストと低コンテクスト－	・コンテキスト・双方向コミュニケーション：ターンテイキング

第4回	コミュニケーションスタイル－パラ言語について考える－	・自己開示・異文化シミュレーション
第5回	言語コミュニケーション－「文化的な意味背景」を理解する－	・ほめ方・叱り方・謝り方
第6回	言語コミュニケーション－文化によるコミュニケーションスタイルの違い－	・自己紹介・誘い方と断り方
第7回	非言語コミュニケーション－いろいろな文化のしぐさ－	・表情・アイコンタクト・しぐさとジェスチャー・タッピング
第8回	非言語コミュニケーション－対人距離を意識化する－	・空間と対人距離・時間の感覚
第9回	価値観	・ことわざ・異文化ケーススタディ・基本価値志向
第10回	自分を知る	・対立管理スタイル・異文化適応力チェック・共感（エンパシー）
第11回	異文化コミュニケーションスキル－相手の理解の枠組みから物事を見る－	・アサーティブコミュニケーション・DIE メソッド
第12回	異文化コミュニケーションスキル－スタディ「対立を解決する」－	・相手の話を聞く（エポケー）・相手を責めない（アイ・ステートメント「わたし文」）・アサーション、総合エクササイズ
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1～13回のまとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

八代京子 荒木晶子 樋口容視子 山本志都 コミサロフ喜美 『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度(平常点)	25%
リアクションペーパー	15%
発表	20%
期末試験	40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・期末試験時にはPCまたはタブレット端末
- ★グーグルクラスルームへの登録を行うこと。

【その他の重要事項】

★受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)

We often have to converse with people from different cultural backgrounds in our daily lives. Even among Japanese people, values vary greatly depending on factors such as generation and gender. In academic and business settings, even with language proficiency, there are situations where communication is difficult due to differences in background. This course aims to encourage students to reexamine their own culture and acquire the flexible and open attitude necessary for cross-cultural understanding.

(Learning Objectives)

Students will be able to recognize and appreciate cultures (mainly Japanese culture). They will also learn intercultural communication theory and acquire assertive communication skills, which are positive and diplomatic communication.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 25%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

鈴木 麻由

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化コミュニケーションは「自分探しの旅」だと捉えることができる。それは、異文化理解が自他の文化の違いを通して自分と自文化を見つめ直す営みだからである。他者との出会いは文化同士の出会いでもあり、交流は潜在していた価値観を浮かびらせ、新たな視点に気づく契機となる。異文化接触は往々にして衝突を引き起こすが、同時に融和や創造を生む。この授業では、参加者の内省や意見交換を通して、異文化に対する柔軟な態度と思考を養うことを目的とします。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ③異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・第1回～第12回は講義形式で行う。
- ・第13回は履修者による発表を個人もしくはグループで行う。
- ・第14回は期末試験を行う。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
- ・課題へのフィードバックは適宜、授業内もしくはクラスのgoogle classroomで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己、アイデンティティ、文化「他を知り己を知る」	・授業運営に関する説明 ・自己の形成への文化のかかわりを整理する
第2回	コミュニケーションと文化	・既存のコミュニケーションモデルの限界 ・異文化接触による文化融合
第3回	コミュニケーションと意識構造	・意識/世界の衝突と異文化コミュニケーション
第4回	空間の認識	・空間の認識と様々な感覚 ・固定空間と半固定空間
第5回	時間の認識	・共同社会と利益社会におけるテンポの違いが人間関係に与える影響
第6回	言語の力	・サピア・ウォーフの仮説を日本語と英語とその言語世界を比べ、検証する

第7回	場の形成	・なわばりについて考える ・文化的コンセンサス
第8回	カルチャーショック	・U型曲線とW型曲線が示す適応のプロセス ・「適応」とはどのような状態か 「カルチャーショック」とはどのような現象か
第9回	価値・規則と異文化接触	・規範および慣習の違いから起こりうる軋轢について考える
第10回	コミュニケーション能力と相互理解	・相互理解のプロセス ・「コミュニケーション能力が高い」とはどのようなことか
第11回	グローバル化	・文化の画一化 ・世界の画一化および二分化を回避するための議論
第12回	グローバル化とアイデンティティ	・「グローバル市民」「文化を越えたアイデンティティ」という考え方に含まれる矛盾
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

池田理知子/E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ

古田暁/石井敏/岡部朗一/平井一弘/久米昭元『異文化コミュニケーションキーワード[新版]』有斐閣

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（平常点） 25%

リアクションペーパー 15%

発表 20%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

・本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。

・期末試験時にはPCまたはタブレット端末

★授業の運営はグーグルクラスルームで行う。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ・法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

Intercultural communication can be seen as a "journey of self-discovery." This is because intercultural understanding is an endeavor to reexamine oneself and one's own culture through the cultural differences between oneself and others. Encounters with others are also encounters between cultures, and exchanges can bring to light hidden values and provide an opportunity to become aware of new perspectives. Intercultural contact often leads to conflict, but at the same time, it can also produce harmony and creativity. The purpose of this class is to foster flexible attitudes and thinking toward different cultures through participants' introspection and exchange of opinions. (Learning Objectives)

1. Become aware of and put into perspective cultures that you may not have been aware of before.
2. Consider how to apply knowledge and skills in actual communication.

3. Acquire basic academic knowledge about intercultural communication (knowledge of terminology, concepts, theories, etc.).

(Learning activities outside of classroom)

Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 20%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 25%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 A

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論 A」〔哲学専攻科目「人間学 5（人間存在論 A）」では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラ、スラヴォイ・ジジック、カトリヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
- ・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	ドゥルーズの『フーコー』を読む①	古文書からダイアグラムへ① 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『知の考古学』分析

3	ドゥルーズの『フーコー』を読む②	古文書からダイアグラムへ② 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言語表現の秩序』分析
4	ドゥルーズの『フーコー』を読む③	古文書からダイアグラムへ③ 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言葉と物』分析
5	ドゥルーズの『フーコー』を読む④	古文書からダイアグラムへ④ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『監獄の誕生』分析
6	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑤	古文書からダイアグラムへ⑤ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『性の歴史』第1巻「知への意志」分析
7	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑥	トポロジー、「別の仕方で考えること」① ・地層あるいは歴史的形作物
8	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑦	トポロジー、「別の仕方で考えること」② ・可視的なものと言表可能なもの（知）
9	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑧	トポロジー、「別の仕方で考えること」③ ・戦略あるいは地層化されないもの①
10	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑨	トポロジー、「別の仕方で考えること」④ ・外の思考（権力）
11	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑩	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・褶曲あるいは思考の内（主体化）
12	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑪	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・『性の歴史』第2巻「快楽の活用」分析
13	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑫	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑥ ・『性の歴史』第3巻「自己への配慮」分析
14	ドゥルーズの『フーコー』とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

・ジル・ドゥルーズ『フーコー』河出文庫、2007年

参考文献

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】

参考文献

- ① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ② 岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ③ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年
- ④ 船木亨『現代思想入門』ちくま新書1183、2016年
- ⑤ 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ⑥ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

⑦ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
(2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。

・また「受講上の注意」として、秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」については、選抜試験で「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」の受講許可のある学生のみが登録・履修できることに注意してもらいたい

【受講上の注意】

- ・本授業は、定員（30名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。
・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Malabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

人間存在論 B

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目「人間存在論 B」〔哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）B〕は、春学期科目「人間存在論 A」（哲学科専門科目「人間学 5（人間存在論）A」との連続性がある科目である。「人間存在論 A」と同様に、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心に考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラ、スラヴォイ・ジジエク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理的に考察する。

【到達目標】

- ①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
- ②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
- ③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
- ・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明

2	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む①	序論①
3	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む②	1. 哲学 ① ひとつの概念とは何か
4	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む③	1. 哲学 ② 内在平面
5	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む④	1. 哲学 ③ 概念的人物
6	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑤	1. 哲学 ④ 哲学地理
7	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑥	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑤ ファンクティヴと概念
8	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑦	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑥ 見通しと概念
9	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑧	2. 哲学——科学、論理学、そして芸術 ⑦ 被知覚態、変様態、そして概念
10	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑨	3. 結論 ・カオスから脳へ
11	ドゥルーズ哲学解説①	千葉雅也『働きすぎではいけない』① ・切断論・生成変化の原理
12	ドゥルーズ哲学解説②	千葉雅也『働きすぎではいけない』② ・関係の外在性、存在論的ファシズム
13	ドゥルーズ哲学解説③	千葉雅也『働きすぎではいけない』③ ・『ニーチェと哲学』における〈結婚存在論〉の脱構築
14	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑩	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・ジル・ドゥルーズ『哲学とは何か』河出文庫、2012年
- ・近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する——〈内在〉の哲学試論』講談社選書メチエ、2020年
- ・千葉雅也『働きすぎではいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』河出文庫、2017年
- ※ドゥルーズのテキストについては、授業参加者は必ず各自で準備すること。
- ※他のテキストについては、随時、こちらで準備するが、各自がなるべく準備することが望ましい。

【参考書】

- ① 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
- ② 船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
- ③ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

- ④ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年
- ⑤ 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
- ⑥ 岡本裕一朗『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
- ⑦ 伊東直『戦後フランス思想——サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
- (2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内の質問は授業内で解決する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・本科目の内容は、春学期科目「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A）」と内容的に連続しており、またその内容を前提しているため、できる限り両科目を受講することが望ましい。
- ・現代哲学のなかでも、ドゥルーズの哲学は極めて難解であり、本科目のテキストは、難解を極めるので、出席する場合は、準備を怠らないでほしい。

【受講上の注意】

- ・本授業は、定員（30名）が決められている。「人間存在論A」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。
- ・春学期「人間存在論A」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Žižek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

SOC300LA (社会学 / Sociology 300)

福祉社会論 A

2017年度以降入学者

小峯 敦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金3/Fri.3

単位数: 2単位

その他属性: <他><優><S>

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

福祉社会論Aでは「経済思想から福祉社会を考える」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。この授業では、イギリスの救貧法を出発点として、福祉に関する考え方がどのように変化していったのか、そこに経済学者を含めた多くの思想家がどのような貢献を果たしたのかを辿ります。意外にも経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福(=福祉)について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の助けを借りながら、福祉社会に関する知見を学ぶしたいと思います。

【到達目標】

「どのような社会が望ましいのか、福祉社会とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「経済思想から福祉社会を考える」に関して、過去と現在の経済学者・経済思想家の発想を借りて、現在の福祉問題(生きづらさ、学習障害、ハラスメント、働き方、ケア、外国人排斥、少子高齢化など)に対し、触れる・知る・理解するという三段階で、外部の知を自分の血肉にするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【主な授業方法】

L 講義/Lecture

【授業の進め方と方法】

授業を次の三段階で構成します。(1)現代の福祉問題に触れる。(2)過去の経済思想を知る。(3)まとめとして、グループ討論またはreaction paperによって、自分なりに問題を理解する。授業の順序は、教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めます。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題(LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など)を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～福祉と／の経済思想	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介; 現代の不安・不利益とは何か(教科書・第1章)
2	経済の発見と福祉の問題～旧救貧法の成立まで	経済と福祉の関係; 死刑や元受刑者の問題(教科書・第2章)
3	スミスと労働貧民～商業文明の開化	分業、国富; 推し活(サービス業、消費文化)、外国人労働者(教科書・第3章)
4	ベンサムと改正救貧法～監獄の誕生	功利主義; マイナ保険証、監視社会(教科書・第4章)
5	マルサス・リカードの経済論争～救貧法批判へ	人口論; 少子化・避妊・人工中絶(教科書・第5章)

6	J.S. ミルの協同組合～自湯主義の二側面	定常状態; 不倫、選択的夫婦別姓問題(教科書・第6章)
7	マルクスの資本主義観～疎外、搾取	産業革命の負の遺産; 非正規雇用、働き方改革、ハラスメント(教科書・第7章)
8	マーシャルの経済騎士道～論語と算盤	科学的貧困調査; 社会的企業、企業の社会的責任(教科書・第11章)
9	ビグーの福祉経済学～welfareとは	自由党の改革; 世界幸福度調査、ウェルビーイング(教科書・第12章)
10	日本の福祉思想～福田徳三と河上肇	経世済民; 震災復興(教科書第16章)
11	福祉国家の合意～ケンズとベヴァリッジ	完全雇用と社会保障; 生活保護は恥辱か(教科書・第17章)
12	福祉国家の変貌～ミュルダール、ハイエク、フリードマン	福祉世界へ、負の所得税; 高等教育の無償化(教科書第21章・第22章・第23章)
13	サッチャー・ブレアの挑戦～リベラリズムの興隆	新しい福祉国家像; 働き方改革、移民問題、正義の戦争(教科書第25章)
14	この授業のまとめ 理解度小テスト	現代の福祉問題(触れる)→過去の経済思想(知る)→討論とRP(理解する)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に(または授業の課題として、学習支援システムを通じて)提出します。

【テキスト(教科書)】

・小峯敦編(2025)『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。

<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10134458.html>

【参考書】

・小峯敦(2021)『経済学史』ミネルヴァ書房。(経済学LAの教科書)
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

・小峯敦編(2020)『戦争と平和の経済思想』見洋書房。(経済学LBの教科書)

<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点: 40%

(2) 理解度小テスト: 60%

(1) 平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の内容および提出回数、その他授業への参加度合い(特にグループ討論)等によって定めます。

(2) 理解度小テスト(第14回を予定)は、マークセンス(択一式)8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ(A4オモテ・ウラ1枚)が持ち込み可能です。

(3) レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い(テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする)、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「福祉社会とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

'Welfare Society Theory A' focuses solely on “considering welfare society through economic thought”, approaching this issue from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy-based. From the past to the present, society has been rife with economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. This course traces how welfare concepts evolved, beginning with Britain's Poor Laws, and examines the contributions made by numerous thinkers, including economists. Surprisingly, economists have not merely been portrayed as money-grubbers or self-serving individuals; they have offered numerous perspectives on the welfare of society as a whole. This course aims to explore insights into the welfare society with the aid of economics.

SOC300LA（社会学 / Sociology 300）

福祉社会論 B

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉は、実践と呼応しながら理論が洗練され、制度が形成されてきた。若くて健康な人々にとって福祉は身近に感じにくい、実際には人々はみな福祉の受益者であり担い手でもある。日本の社会保障制度を軸として、形成と変動の歴史、諸外国との比較を通して、社会福祉に関連する概念を整理する。また、制度ではカバーしきれない対象への福祉実践の事例を知り、福祉がわれわれ一人一人の尊厳を守るものであることを理解する。

【到達目標】

社会保障制度について、自身ととくに深いかかわりのあるものの概略を説明できる。

諸外国の実践と比較して、日本の社会福祉の考え方の特徴を説明できる。

制度と個別のニーズは必ずしもマッチングしないという事例を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、福祉のイメージ	あなたと社会福祉について思い出を教える
2	社会福祉制度（1）	日本における社会保障制度の概要
3	社会福祉制度（2）	日本の社会福祉の歴史
4	社会福祉制度（3）	欧米の社会福祉の歴史
5	生活困窮者と福祉（1）	自分は困窮者にならないといえるか
6	生活困窮者と福祉（2）	オリンピックが排除したもの
7	子どもの福祉（1）	子どもが「守られるべき存在」ではなかった時代
8	子どもの福祉（2）	社会で育てるということ
9	女性、母子と福祉	「女ばかりが優遇される」言説の周辺にあるもの
10	障害と福祉（1）	バスはいつから低床になったのか
11	障害と福祉（2）	隔離しない国が考えていること、してきたこと

12	地域福祉	「この土地で暮らしたい」をいかにしてかなえるか
13	厚生と正義	主観的な満足は数字で測れるか
14	総括	「頑張る」ことに疲れても、安心して生きるための知

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

阿部彩、2011『弱者の居場所がない社会——貧困・格差と社会的包摂』講談社

安積純子ほか編著、1990『生の技法——家と施設を出て暮らす障害者の社会学』藤原書店

杉田真衣、2015『高卒女性の12年 不安定な労働、ゆるやかなつながり』大月書店

湯浅誠、2008『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Learn about Japan's social security system.

Learn about the history of social welfare in other countries.

The standard preparation and review time for this class is two hours each. Read your notes. Research the concepts you have learned in your book.

Grades are distributed 70% based on test scores and 30% based on regular class behavior.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)	
人文地理学セミナー A	2017年度以降入学者
増淵 敏之	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位	
定員制(30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的に言えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていく。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.

第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面 /Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata."	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出 /Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象 /The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介 /Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考 1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考 /Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興 /"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る /Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之, 彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー A

増淵 敏之

授業コード：Q6209 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する。
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来の例えば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】

到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々な存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。

We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス/Guidance. /Guidance.

第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面 /Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/Ryotaro Shiba and Shohei Fujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出 /Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象 /The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介 /Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考 1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考 /Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興 /"Girls & Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る /Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】

レジュメを中心に授業を進める。
 The class will focus on the resume.

【参考書】

「物語を旅するひとびと」増淵敏之、彩流社
 「物語を旅するひとびと2」増淵敏之、彩流社
 "People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha

"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%

30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】

映像を使用することもある。

Sometimes video is used.

【その他の重要事項】

基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16～18時。

Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと—コンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

増淵 敏之

授業コード：Q6210 | 曜日・時限：月4/Mon.4
 秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：地理学科2～4年年
 備考（履修条件等）：定員制(30)
 地理学科生は選択科目として履修する
 その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /guidance	授業の概要/Class outline

第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha
 Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

HUG300LA (人文地理学 / Human geography 300)

人文地理学セミナー B

2017年度以降入学者

増淵 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】

- ・セミナーAの発展的授業です。
- ・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
- ・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
- ・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
- ・This is an advanced seminar A class.
- ・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
- ・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
- ・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。

Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要/Class outline
	/guidance	

第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済、社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでに今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。

Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】

特にありません。PP（授業資料）を配布します。

Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】

増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha
 Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、レポート70%、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。

Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】

前年度アンケートを授業に反映させていく。

The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

Nothing in particular.

【その他の重要事項】

- ・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
- ・オフィスアワー月曜日16～18時
- ・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
- ・ We recommend taking Seminar A before taking this class.
- ・ Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
- ・ As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域><研究テーマ><主要研究業績>

【文化地理学】

- ・『路地裏が文化を生む!：細街路とその境界の変容』青弓社

【観光地理学】

- ・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびとーコンテンツツーリズムとは何か?』彩流社

【地域振興】

- ・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生 観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】

- ・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】

The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論 A

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
- ・自分自身や自然に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
- ・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション

第4回	アラスカ先住民の世界③	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想 ①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第10回	水俣病の思想 ③「魂のゆくえ」と救済、「命のふるさと」／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R. カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・緒方正人. 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社。
- ・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人: ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館。
- ・星野道夫.
- 1998『イニクニック』新潮社。
- 2000『ノーザンライツ』新潮社。
- ・ネルソン, R. 1999『内なる島：ワタリガラスの贈り物』星川淳訳 めくまー。
- ・Carson, R.

1962 Silent Spring, Houghton Mifflin. (『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社)

1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper & Row. (『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳)

(その他、必要に応じて関連資料を配布する。)

【参考書】

- ・落合一泰. 1997『東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー：近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞』青木保ほか編『岩波講座 文化人類学 第1巻 新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80.
- ・松村圭一郎. 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版。
- ・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社。
- (その他、必要に応じて紹介する。)

【成績評価の方法と基準】

- ・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点 (40%)
- ・学期末レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通して置いて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】

- ・ The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to “know” others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the “other,” and self-transformation.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

菊池 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1) 理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2) 儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3) 文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）することについて学ぶ。

【到達目標】

- ・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
- ・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
- ・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ということや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
- ・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
- ・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
- ・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
- ・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション

第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・シェークナー、R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会い』高橋雄一郎訳 人文書院
- ・ターナー、V. 1996『儀礼の過程』新思案社。
- ・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社。
- （その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】

- ・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
- ・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会。
- ・西井涼子・箭内匡編 2020『アフエクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会。
- ・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
- ・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
- . 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
- （以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

- ・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など 平常点（40％）
- ・映像鑑賞文（10％）
- ・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通して置いて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】

- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想 I」として履修することになります。

【到達目標】

- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人、
 - ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
 - ・ 人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
 - ・ 哲学や思想史に興味のある人、
 - ・ 機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
 - ・ 少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
- など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（２単位）では１回につき４時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。

2023年度・2024年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年、『ヒューム イングランド史I/II』名古屋大学出版会、2025年）。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA (政治学 / Politics 300)

教養ゼミ II

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度にあつたテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想II」として履修することになります。

【到達目標】

- ・ 英文翻訳のスキルアップをめざす人、
 - ・ 翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
 - ・ 人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
 - ・ 哲学や思想史に興味のある人、
 - ・ 機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
 - ・ 少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
- など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

春学期の続き。担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（１）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（２）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（２単位）では１回につき４時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
2023年度・2024年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年、『ヒューム イングランド史I/II』名古屋大学出版会、2025年）。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

人間行動学 A2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学には、人生上の様々な困難に対応する上で、仏教に代表される歴史のある精神文化と協働を深める動きがある。本授業では、マインドフルネスに関する文献の丁寧な精読を通して、現代心理学と精神文化の協働の在り方に理解を深める。

【到達目標】

- ・マインドフルネスがどのような実践なのか説明出来るようになること
 - ・自分自身の日常の体験を元に、マインドフルネスに関連した心理学的現象に理解を深めること
- 人間行動学Bとの連続履修を勧める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。受講生全員が、三回目以降、授業前までに指定された箇所について精読を行う。授業は、担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、マインドフルネスの実践演習を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス/マインドフルネスとは何か	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	現代心理学と仏教の接近の背景	近年の心理学と仏教の関連について説明する。学生発表の順番を決定する
第三回	『仏教と心の科学の出会い』序文～第1章 マインドフルネスを紐解く	・担当者の発表とディスカッション
第四回	『仏教と心の科学の出会い』第2章こころの地図1～4	・担当者の発表とディスカッション ・自動操縦、知覚プロセス
第五回	『仏教と心の科学の出会い』第2章こころの地図5～8	・担当者の発表とディスカッション ・体験の入り口としての注意、不一致モニター
第六回	マインドフルネス認知療法の体験実習①	・呼吸瞑想の実習
第七回	『仏教と心の科学の出会い』第3章こころの地図1～4	・担当者の発表とディスカッション ・さまよう心、文脈
第八回	『仏教と心の科学の出会い』第4章仏教心理学の地図	・担当者の発表とディスカッション ・2本の矢、悩みの3つの領域

第九回	マインドフルネス認知療法の体験実習②	・マインドフルムーブメントの実習
第十回	『仏教と心の科学の出会い』第5章悩みと苦しみの統合された地図	・担当者の発表とディスカッション ・悩みと苦しみの維持、悪の花
第十一回	『仏教と心の科学の出会い』第6章変容	・担当者の発表とディスカッション ・注意を安定させる、洞察
第十二回	『仏教と心の科学の出会い』第7章実践における心情	・担当者の発表とディスカッション ・四つの態度
第十三回	マインドフルネス認知療法の体験実習③	・困難と共に座る瞑想の実習
第十四回	全体のまとめ	・受講者全員で、本授業での学びを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講生は、第一回、第二回の講義の合間に教科書全体を通読し、その後、授業でのディスカッションと実習を繰り返しながら、教科書の精読を行う。

【テキスト（教科書）】

クリスティーナ・フェルドマン&ウィレム・カイケン「仏教と心の科学の出会い マインドフルネス」（北大路出版、2024年）

【参考書】

ケネス・タナカ「アメリカ仏教」（武蔵野大学出版、2010年）
シャロン・ペグリー「「脳」を変える「心」」（バジリコ、2010年）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（60%）
期末レポート（40%）
期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【その他の重要事項】

本科目では、マインドフルネスを体験的に理解する上で、講師の主導による、マインドフルネスの実践演習が含まれる。マインドフルネスの実践は運動に似ており、受講生は自分への負荷に応じて中断をしたり、参加せずに静かに過ごすことも選択が出来る。

【Outline (in English)】

Modern psychology has increasingly engaged with spiritual traditions — most notably Buddhism — in addressing various difficulties encountered in life.

In this course, students will deepen their understanding of how contemporary psychology can collaborate with long-standing spiritual traditions through the careful close reading of key texts on mindfulness.

PSY300LA (心理学 / Psychology 300)

人間行動学B

2017年度以降入学者

田中 慎太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の心理療法の知見を学び、可能な範囲で実践（実験）を試みることを通して、人間および人間の行動に関して体験的に視野を広げることが目的とする。本授業ではACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・人間行動学Aでのマインドフルネスの学びを踏まえて、ACT（アクセプタンス&コミットメント・セラピー）の概要を理解すること
・「人間の行動」を現代の行動主義心理学がどのように扱うのかの概要を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、ACT/マインドフルネスの実践演習を行うことがある。担当箇所や授業の進め方は受講生のニーズに応じて変更・調整を行う。人間行動学Aからの連続受講を推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	「ハピネス・トラップ」第一部	・担当者の発表とディスカッション ・幸福、前進行動、後退行動
第三回	「ハピネス・トラップ」第二部①	・担当者の発表とディスカッション ・脱フュージョン、エクスポージャー
第四回	「ハピネス・トラップ」第二部②	・担当者の発表とディスカッション ・セルフコンパッション、マインドフルネス
第五回	「ハピネス・トラップ」第三部	・担当者の発表とディスカッション ・価値、コミットされた行為
第六回	前半の振り返り	・前半部分の受講生全員での内省とディスカッション
第七回	人間関係①	・担当者の発表とディスカッション ・普遍的な人間関係に対するACTの応用を検討する
第八回	人間関係②	・担当者の発表とディスカッション ・身近な人間関係にACTの応用を検討する

第九回 自信と行動①

- ・担当者の発表とディスカッション
- ・自信について考える

第十回 自信と行動②

- ・担当者の発表とディスカッション
- ・自信についてACTの応用を検討する

第十一回 人生の困難①

- ・担当者の発表とディスカッション
- ・人生の困難について検討する

第十二回 人生の困難②

- ・担当者の発表とディスカッション
- ・人生の困難に対するACTの応用を検討する

第十三回 後半の振り返り

- ・後半部分の受講生全員での内省とディスカッション

第十四回 全体の総括

- ・授業全体の受講生全員での内省とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ラス・ハリス(2023)「定本ハビネストラップ マインドフルに生きる人のための心理療法ACT入門」筑摩書房

【参考書】

ラス・ハリス (2019)「相手は変えられないならば自分がかかわればよい マインドフルネスと心理療法ACTでひらく人間関係」筑摩書房
ラス・ハリス (2021)「自分自身にやさしくすれば悩みの出口がみえてくる マインドフルネスと心理療法ACTで人生のどん底からはい上がる」筑摩書房

ラス・ハリス (2019)「自信がなくても行動すれば自信はあとからついてくる マインドフルネスと心理療法ACTで人生が変わる」筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (60%)

期末レポート (40%)

期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出に学習支援システムを使う場合がある。

【その他の重要事項】

・本授業は、主に心理学・臨床心理学を専攻としていない学生を想定しているが、自分の体験や行動に関心を持ち、学んだことを試してみる気概のある学生であれば、学部学科と問わず歓迎したい。
・本授業では、教科書や参考書に書かれている作業を試してみるかどうかを各自が選択する場面がある。実際に作業を試したか否かは成績評価に関係しない。
・本授業はあくまで講義であるため、本授業は、直接に心身の健康向上に寄与するものでも、医療専門職の診察や支援を代替するものでもない。

【Outline (in English)】

This course aims to foster an experiential understanding of clinical psychology by introducing key concepts from contemporary psychotherapy and, where appropriate, engaging in limited practical exercises. The course focuses on the fundamentals of Acceptance and Commitment Therapy (ACT).

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/Area studies(East Asia) 300)

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ること、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていなかったため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。

3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。

学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA（地域研究（東アジア） / Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考える B

2017年度以降入学者

中野 勝郎、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形に残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。

初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。

授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。

学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の「沖縄を考えるA」の前半は基礎的な内容に重点を置いており、この秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）	
教養ゼミⅠ	2017年度以降入学者
島野 智之	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位	
定員制(20)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化、など。
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み

第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成、など。
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物、など。
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり、など。
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成、など。
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か、など。
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現、など。
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第12回	エポデボー体制の進化ー	ダーウィンフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第13回	エポデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ、など。
第14回	まとめ。重要用語の振り返り。博物学について、生物の名前の付け方。	まとめと振り返り。ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方。など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

更科 功 (著)2025

「世界—シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物—進化をめぐる6つの問い」（ブルーバックス B 2282）

講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要で（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。
※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）		
教養ゼミⅡ		
2017年度以降入学者		
島野 智之		
開講時期：オータムセッション/Autumn Session 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses		
単位数：2単位		
定員制(20)		
※履修登録は学部事務にて行います。		
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡでは、オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークⅠ (1).	博物館学と博物学。博物館 フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークⅠ (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークⅡ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)

第4回	フィールドワークⅡ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)
第5回	フィールドワークⅡ (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第6回	フィールドワークⅡ (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第7回	フィールドワークⅢ (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークⅢ (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークⅢ (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークⅣ (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークⅤ (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークⅤ (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークⅥ 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。 フィールドワークのまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy & pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

進化生物学 ―ゲノミクスが解き明かす進化―、赤坂甲治（著）、裳華房、2021年出版、定価3520円（本体3200円＋税10％）

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および、授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）（40%）も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもら。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための、交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）		
人間と地球環境		
宇野 真介		
授業コード：Q6335 曜日・時限：月3/Mon.3 春学期授業/Spring・2単位 配当年次：地理学科2〜4年年 備考（履修条件等）：定員制(30) 地理学科生は選択科目として履修する その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。		
【到達目標】 本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【主な授業方法】 L 講義 /Lecture		
【授業の進め方と方法】 授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習1：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。
第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習2：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の2つの視点から模索します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】 教科書はなし。配布される資料を使用。		
【参考書】 適宜提示します。		
【成績評価の方法と基準】 成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。		
【学生の意見等からの気づき】 映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。		
【学生が準備すべき機器他】 授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。		
【その他の重要事項】 30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。		

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）	
人間と地球環境	2017年度以降入学者
宇野 真介	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位	
定員制(30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習1：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。

第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習2：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の2つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】

30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA (その他の総合生物・生物学 / Biology 300)

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental issues; 2) to understand social problems related to the environmental issues addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

The course is divided roughly into three parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem, biodiversity, and soil, in other words, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources and services. The second part will focus on environmental issues related to agriculture (food production). Finally, the third part will mainly address socioeconomic aspects of relevant issues. The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format; however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group work and discussion. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions in the subsequent class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Era of multiple crises and sustainability	As an introduction to the course, the concept of sustainability will be discussed, and an overview will be given on the connection between food and environmental issues.
Week 2	Understanding ecosystem	Basic characteristics of ecosystem will be discussed from the viewpoints of structure, function and behavior as a system.
Week 3	What is biodiversity?	Basic characteristic of biodiversity will be discussed, and the reasons why its conservation is necessary will be considered.
Week 4	Soil environment	General features of soil environment will be described, and its importance as the foundation of natural environment will be discussed.
Week 5	Agricultural field as a habitat	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Historical background and modernization of agriculture	An overview of historical development of agriculture will be given, and changes and achievements brought about by modernization will be discussed.
Week 7	Environmental impact of modern agriculture	Environmental impact of modern production method or "conventional agriculture" will be discussed.
Week 8	Environmental conservation in the case of conventional agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of conventional agriculture.
Week 9	Environmental conservation in the case of alternative agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of alternative agriculture.
Week 10	Agroecology	Agroecology will be discussed as a framework for achieving a sustainable food system.
Week 11	Livestock production and infectious diseases	The risk of zoonotic diseases will be discussed in relation to activities related to livestock production.
Week 12	Abundance and scarcity	Group work will be used to explore the complexity of the issue of hunger in the age of abundance.
Week 13	Localization and food system	The significance and importance of localized food production/supply system will be discussed.
Week 14	Thinking about solutions from the consumer side	Solutions for agriculture and food-related issues will be explored from the consumer side of food system.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare for classes by thoroughly reading distributed materials and utilizing the online learning support system (WebClass) and also to review contents of individual lectures. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course materials by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】

There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through WebClass, as needed.

【Outline (in English)】

[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)	
ドイツの思想A	2017年度以降入学者
大久保 歩	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツは「詩人と思想家の国」と呼ばれるように、後世に大きな影響を与えた思想家たちを多く輩出してきました。この授業では主に18世紀終わりから19世紀前半に活躍した哲学者たちの思想を学びます。個々の哲学者たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。この時代は、ドイツという国が成立していく過程でもありました。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。これにより現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】

- ・19世紀前半のドイツ哲学の概要を説明できる。
- ・扱われた哲学者の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
- ・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
- ・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜドイツは「詩人と思想家の国」になったのかについて学ぶ。授業の進め方の確認。
第2回	「ドイツ思想」のはじまり	ルターやライプニッツなど、のちのドイツの思想を方向づけた思想家たちについて学ぶ。
第3回	カント前夜	デカルトやイギリス経験論など、カント哲学の前提となる思想について学ぶ。
第4回	カント（1）	『純粋理性批判』を中心に、カントの認識論について学ぶ。
第5回	カント（2）	『実践理性批判』を中心に、カントの実践哲学について学ぶ。
第6回	カント（3）	『判断力批判』を中心に、カントの美学について学ぶ。
第7回	ドイツ観念論	フィヒテやシェリングなど、カント以後のドイツ哲学の展開を学ぶ。
第8回	ヘーゲル（1）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの認識論を学ぶ。

第9回	ヘーゲル（2）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの実践哲学を学ぶ。
第10回	ヘーゲル（3）	『精神現象学』や『美学講義』を中心に、ヘーゲルの美学を学ぶ。
第11回	ショーペンハウアー（1）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアーの認識論と実践哲学について学ぶ。
第12回	ショーペンハウアー（2）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアー実践哲学と美学について学ぶ。
第13回	近代ドイツ思想とは何か	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】

御子柴義之『自分で考える勇気ーカント哲学入門ー』（岩波ジュニア新書）
川瀬和也『ヘーゲル（再）入門』（集英社新書）
梅田孝太『ショーペンハウアーー欲望にまみれた世界を生き抜くー』（講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%
授業最終回での試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】

Germany has produced many influential thinkers who have left a profound impact on posterity, earning the nation the title "the land of poets and thinkers" (Das Land der Dichter und Denker). This course focuses on the philosophical ideas of thinkers active primarily from the late 18th to the early 19th century. In addition to examining individual philosophical systems, we will explore the historical context of the era—a pivotal period in the formation of the German nation. By examining thought within its historical context, this course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy and develop a critical perspective on the contemporary world.

Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

PHL300LA (哲学 / Philosophy 300)

ドイツの思想 B

2017年度以降入学者

大久保 歩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀後半のドイツは激動の時代でした。そしてこの時代の思想家たちはそれ以前の思想を徹底的に批判することで、20世紀の思想を準備しました。

この授業では19世紀後半のドイツで活躍した思想家たちの思想を学びます。

個々の思想家たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。

これによって、現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】

- ・ 19世紀後半のドイツ思想の概要を説明できる。
- ・ 扱われた思想家の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
- ・ 自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
- ・ 現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。

毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。

すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	19世紀後半のドイツがどのような時代だったのか概観する。授業の進め方の説明。
第2回	カントからヘーゲルへ	19世紀前半のドイツ哲学を概観し、19世紀後半の思想家たちにとっての思想的前提を学ぶ。
第3回	マルクス（1）	『ドイツ・イデオロギー』を中心に、マルクスの唯物論史観について学ぶ。
第4回	マルクス（2）	『資本論』を中心に、マルクスの資本主義批判について学ぶ。
第5回	マルクス（3）	『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』を中心に、マルクスの政治理論について学ぶ。
第6回	ニーチェ（1）	『悦ばしき知識』などを中心に、ニーチェのニヒリズムの思想を学ぶ。
第7回	ニーチェ（2）	『ツァラトゥストラはこう語った』などを中心に、ニーチェのニヒリズム克服の思想を学ぶ。

第8回	ニーチェ（3）	『道徳の系譜学』を中心に、ニーチェの道徳批判について学ぶ。
第9回	フロイト（1）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの無意識についての理論を学ぶ。
第10回	フロイト（2）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの精神分析の理論を学ぶ。
第11回	フロイト（3）	『快感原則の彼岸』を中心に、フロイトの自我論を学ぶ。
第12回	ドイツからフランス・ポストモダニズムへ	マルクス、ニーチェ、フロイトから大きな影響を受けたフランスのポストモダニズム思想を概観する。
第13回	ドイツの「反哲学」	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】

佐々木隆治『カール・マルクスー「資本主義」と闘った社会思想家ー』（ちくま新書）
永井均『これがニーチェだ』（講談社現代新書）
フロイト『精神分析入門講義』上下巻（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 50%

授業最終回での試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】

The late 19th century was a period of great upheaval in Germany. The thinkers of this era paved the way for 20th-century thought by radically critiquing the philosophical traditions that preceded them. This course examines the ideas of key figures active during this turbulent time. Beyond analyzing individual philosophical systems, students will explore the historical backdrop of their era. By integrating the study of thought with its historical context, the course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy, thereby cultivating a critical perspective on the contemporary world. Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者
るドイツ語圏 A

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：移民・難民・アウトサイダー

2015年、ドイツがシリア内戦などを背景に100万人規模の難民を受け入れたことが話題となりました。また近年では、ウクライナからの難民も100万人を超えています。「移民国家」を自認し、移民の背景を持つ市長が誕生するなど、移民政策において成功しているように見える一方で、極右政党をはじめとする移民排斥の声も年々高まってきているのが現在のドイツです。

本講義では、文学や演劇、映画などにおいて、「移民」「難民」というテーマがどのように扱われてきた／いるのかを、複数の作品を通じて多角的に捉えていきます。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏との相互関係に対する関心や理解を深める。
- ・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテキストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
- ・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモチーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
- ・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。約2回の講義でひとつの作品を取り上げ、作品の概要を説明した後で、主要部分を実際に鑑賞／読解していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。

毎回授業の終盤に時間を設けて、こちらの提示する課題について小レポートを書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 カルチュラル・スタディーズとは？
2	導入	ドイツの移民政策
3	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
4	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
5	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
6	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
7	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
8	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
9	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』

10	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
11	当事者たちの取り組み	ベルリン・マクシム・ゴーリキー劇場
12	当事者たちの取り組み	『狂った血』
13	移民排斥に対する挑発	シュリンゲンジーフと『外国人よ出ていけ』
14	旧東ドイツの移民	『マッドジャーマンズ』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回で取り上げる映画作品については、日本語字幕付きで観られるので、自分でもぜひ鑑賞してみてください。最後に取り上げるマンガ作品も邦訳があるので、実際に手に取ってみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店、2002年。
- ・吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』岩波書店、2001年。
- ・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年。
- ・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研、2017年。
- ・墓田桂『難民問題』中央公論新社、2017年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加、質問、発言など）：40%
- ・毎回の小レポート：60%

なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要がある場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

In 2015, Germany accepted around one million refugees, against the backdrop of the Syrian civil war and other conflicts. Moreover, in recent years, the number of refugees from Ukraine has also exceeded one million. Although immigration policies appear to be succeeding, the reality today is that opposition to immigration is also growing, as evidenced by the rise of far-right parties. This lecture will explore how the themes of 'immigration' and 'refugees' are depicted in literature, theatre and film, examining them from various angles through a selection of works.

At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, short reports for each lecture: 60%

LIT300LA (文学 / Literature 300)

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学者のドイツ語圏B

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

2021年度までに「ドイツ語圏の文学B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本においてドイツ語圏の文化はどのように受容されてきたのか

私たちの日常には、さまざまな領域・場面においてドイツ語圏由来のものが存在しています。私たちは意識してか無意識にかかわらず、日頃からドイツ語圏の文化に触れているわけです。しかし、日本での受容には、ドイツ語圏でのそれと差異はないのでしょうか。この授業では、ドイツ語圏の文学作品が、日本でどのように受容されているかを検討し、またそれらを原作とする翻案作品と比較します。テキストの読解および映像の視聴を通じて、ドイツ語圏の社会や文化、歴史的な文脈について学んでみましょう。

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。
- ・作品をただ鑑賞するのではなく、多角的な視点に基づいて批判的に考察する力を養う。
- ・文学作品や映像作品の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式を予定しています。2～3回の講義でひとつの作品を取り上げます。原作と日本での受容のあり方を、実際にテキストを読んだり、映像を鑑賞しながら比較していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことなどをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 身近にあるドイツ語圏
2	グリム童話集について	成立と背景
3	グリム童話集『赤ずきん』	赤い「ずきん」？
4	グリム童話集『死神の名付け親』1	作品の内容について
5	グリム童話集『死神の名付け親』2	古典落語『死神』
6	シラーについて	人物と作品
7	シラー『歓喜に寄せて』1	成立と内容
8	シラー『歓喜に寄せて』2	ベートーヴェンの「第九」

9	シラー『歓喜に寄せて』3	「第九」合唱の文化
10	シラー『群盗』1	成立と内容
11	シラー『群盗』2	黒澤明『戦国群盗伝』
12	シラー『群盗』3	宝塚版『群盗』
13	日本からドイツへ	ブレヒト『イエスマン・ノーマン』と能『谷行』 オペラ『松風』と能『松風』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回で取り上げる作品で邦訳があるものについては、講義期間中に自分で手に取って読んでみることを推奨します。取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年。
- ・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研、2017年。
- ・手塚富雄／神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波書店、1993年。
- ・柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2018年。
- ・畠山寛／吉中俊貴／岡本和子編著『ドイツ文学の道しるべーベルンゲンから多和田葉子まで』ミネルヴァ書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（毎回のリアクションペーパー、授業への積極的な参加）：60%
- ・学期末試験（論述）：40%

なお、授業回数の3分の2以上の出席と学期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
- ・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

German-speaking regions have a presence in many areas of our daily lives. We are constantly exposed to German-speaking culture in our daily lives, whether we are aware of it or not. This course examines the reception of German-language literary works in Japan, comparing them with adaptations based on the original texts.

At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドックメンタリー（1）	テレビの料理ドックメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドックメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャンネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャンネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。

- ⑪ Webの料理検索・レシピサイト（2） 課題、ディスカッション
- ⑫ Foodfilm（1） フードフィルムの分析を学ぶ。
- ⑬ Foodfilm（2） 課題、ディスカッション
- ⑭ 試験・まとめ 春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%

Normal points such as participation attitude in class: 30%

If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グリム童話や日本昔話だけでなく、ウェス・アンダーソンの映画や近代絵画など、幅広いメディアに登場する「動物」を比較・分析します。キツネ、ウサギ、白鳥といった身近な動物が、日本とヨーロッパでいかに異なる「シンボル（象徴）」として扱われているかを探ります。動物は単なる「かわいい」存在ではなく、実は人間社会のルール、政治、あるいはジェンダー観を映し出す「鏡」であることを学びます。具体的な作品比較を通じて、「日本は優しい、西洋は残酷」といった文化的な固定観念（ステレオタイプ）を問い直すことも重要なテーマです。最終的には、動物たちの表象を通して、異文化と自文化の意外な共通点や深い違いを読み解く力を養います。

【到達目標】

- ・日欧の動物観の比較・分析：文学・美術・映画における動物の描かれ方を比較し、日本とヨーロッパの文化的価値観の共通点と相違点を論理的に説明できる。
- ・ステレオタイプの再考：「日本文化は優しく、西洋文化は残酷である」といった単純な二項対立やステレオタイプ（固定観念）を、具体的な作品分析を通して客観的に問い直す力を身につける。
- ・視覚メディア・リテラシーの向上：物語のあらすじだけでなく、映像表現（構図・色彩・演出）や絵画の様式が持つ意味を読み解き、映画やアート进行分析する視座を養う。
- ・社会的・政治的背景の理解：動物が単なるキャラクターではなく、ジェンダー・政治・社会風刺（風刺画やプロパガンダなど）の道具として機能していることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは何か：文化の鏡としての動物たち	本講義の目的である「日欧の動物表象の比較」について、その意義と分析手法（文学・映画・美術）を解説する。なぜ動物がステレオタイプや社会風刺の道具として使われるのか、具体的な例を挙げながら導入を行う。
②	昔話と童話における狐	日本の昔話「狐の恩返し」とグリム童話「キツネと馬」を比較し、両文化におけるキツネの役割の違いを分析する。

③	「ファンタスティック Mr. Fox」における狐	映画『ファンタスティック Mr. Fox』を題材に、主人公がヨーロッパの伝統的な「キツネ像」をどのように継承しているか、また現代においてどのような新たな象徴性を帯びているかを考察する。
④	芸術史における兎	独仏ドキュメンタリー映画『素晴らしき長耳たち』を鑑賞し、美術史におけるウサギの表象の変遷をたどる。
⑤	昔話と童話における兎	日本の昔話「かちかち山」とグリム童話「うさぎとはりねずみ」を比較し、物語における「暴力」と「知恵」の役割の違いを分析する。
⑥	「ハーメルンの子供たち」におけるネズミ（ラット）の象徴性	「ハーメルンの笛吹き男」の伝説と、それが現代の政治風刺（カリカチュア）でどのように引用されているかを比較・分析する。
⑦	聖書におけるシンボル動物たい日本（中国）におけるシンボル動物	聖書における動物の象徴的意味を分析する。特に「ネズミ」を事例として取り上げ、中国文化（干支）における「富と繁栄」のイメージと、聖書における「不浄と災い」の象徴性を比較・対照する。
⑧	異類婚姻譚とシンボル動物（1）	日本の「鶴女房」とヨーロッパ広域に伝わる「白鳥の乙女」伝説を比較し、異類婚姻譚（動物との結婚）という普遍的なモチーフの共通構造と文化的差異を分析する。
⑨	異類婚姻譚とシンボル動物（2）	アンデルセンの原作『人魚の姫』を、単なる恋愛譚ではなく「不滅の魂」をめぐる実存的な物語として再読する。
⑩	世紀末の白鳥	世紀末芸術における「白鳥」のイメージを比較する。
⑪	王様としてのカエル	シェイクスピアの『マクベス』を分析する。
⑫	ロバとロバの皮の象徴性	ジャック・ドゥミ監督の映画『ロバと王女』におけるロバの多層的な象徴性を分析する。
⑬	クリスマスと食材としての象徴動物	クリスマスの「牛とロバ」および「鯉とガチョウ」の象徴性を分析する。
⑭	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席及び授業内の課題達成度：60%

学期末試験：40%

欠席が全体の3分の1を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline

This course analyzes "animals" appearing in a wide range of media, including Grimm's fairy tales, Japanese folktales, Wes Anderson's films, and modern art. We will explore how familiar animals like foxes, rabbits, and swans function as different "symbols" in Japan and Europe. Students will learn that animals are not merely "cute" but serve as "mirrors" reflecting social rules, politics, and gender views. A key theme is questioning cultural stereotypes (e.g., "Japan is gentle, the West is cruel") through specific comparisons.

Learning Objectives

Students will be able to:

- Logically explain similarities and differences in Japanese and European values by comparing animal depictions in literature, art, and film.
- Objectively rethink cultural stereotypes through specific case studies.
- Improve visual media literacy by analyzing film composition, color, and artistic style.
- Understand how animals function as tools for gender expression, politics, and social satire

Learning Activities Outside of Classroom

Students are expected to read materials and gather information before and after class to engage in independent thinking and formulate their own questions. The standard study time is approximately 4 hours per week, including preparation and review.

Grading Criteria / Policy

Class participation and assignments: 60%

Final Exam: 40%

Note: Students who miss more than one-third of the classes will not be evaluated.

ART300LA (芸術学 / Art studies 300)

ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から19世紀にかけて、現在のドイツ、オーストリアとその周辺（中部ヨーロッパ）には「ドイツっばい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」といった概念を、芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では「ドイツ語圏の芸術B」（秋学期開講）とあわせ、近代ドイツ語圏の造形芸術や音楽、建築、デザイン等を概観しながら「ドイツ語圏」あるいは「芸術」のさまざまな内実に迫ります。

【到達目標】

- 1) 近代ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）とその周辺諸地域の文化・芸術に関し、知識と理解を深める。今日に一般的な「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という社会通念の形成には、ドイツ語圏をはじめとする近代ヨーロッパの歴史が大いに関係しています。
- 2) 造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れること。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけでなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質でもあります。
- 3) 芸術と社会をめぐる文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・諸芸術のうち、今学期は近代初期～19世紀の建築と造形芸術、音楽を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、時代背景、受容とその影響について確認する作業が中心です。
- ・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
- ・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
- ・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行います。提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第2回	近代の視覚（1）－キリスト教思想と修道院	「大聖堂」の建設／「スコラ」と「ユニヴェルシタス」／ロマネスク様式からゴシック様式へ
第3回	近代の視覚（2）－フランス絶対王政の影響	宮殿と庭園／「バロック」と「ロココ」と「新古典主義」／眼前の風景＋ルネサンスの英知

第4回	イタリアに憧れて－息子に「音楽家」にしたい	貴族とお城とオペラの関係／モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782年）・『魔笛』（1791年）など
第5回	「趣味は音楽鑑賞」－音楽ビジネスの始まり	市民階級の台頭／エスターハージー家と音楽出版／ハイドン『交響曲第94番ト長調（驚愕）』（1792年）
第6回	革命とナポレオン後の世界（1）－真理を「聴く」	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品67（「運命」）』（1808年）・『交響曲第九番ニ短調作品125（合唱付）』（1824年）
第7回	革命とナポレオン後の世界（2）－ロマン派の世界	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814年）／ゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808年）
第8回	プロイセンの台頭－「ドイツ人なら誰でも知ってる絵」？！	メンツェル『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）ほか
第9回	「音楽の国ドイツ」の成立（1）－「合唱」と「伝統」	F.ヘンゼルの音楽サロンとベルリンの「ジング・アカデミー」／メンデルスゾーン＝バルトロディによるバッハ『マタイ受難曲』再演（1827年）
第10回	「音楽の国ドイツ」の成立（2）－ライブツィヒとヴィーン	「フィルハーモニー」と「定期演奏会」／「有名な曲」を作る方法
第11回	「音楽の国ドイツ」の成立（3）－フランスには負けられない？！	「音楽学校」と「スター誕生」／音楽家の営業活動／ピアノの先生と「家庭の音楽」
第12回	装飾とデザイン（1）－ヴィーン世紀末の都市計画	城壁の撤去とリング通り／O.ヴァーグナーによる都市計画／ヴィーン工房とヴィーン分離派
第13回	装飾とデザイン（2）－産業革命とユークントシュティール	古のヴィーンを優雅なベンチと曲木の椅子で蘇らせる／カフェーハウスの芸術家たち
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品をインターネット上やカタログ等で見る／聴くなどできればなお良いです。
- ・コンサート／ライブや観劇、映画館・展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会）2014年
- ・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）1990年
- ・神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社）1995年
- ・饗庭孝男、伊藤哲夫、加藤雅彦、小宮正安、西原稔、檜山哲彦、平田達治『ウィーン 多民族文化のフーガ』（大修館書店）2010年
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体で利用できる筆記用具

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツとその首都であるベルリンは、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポールです。この授業では、ベルリンあるいはドイツを舞台とする絵画や文学作品、映画（劇映画）、映像作品を通して、ベルリンとドイツを描く映像表象の形式・様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿からその社会の内実に迫ります。春学期開講の「ドイツ語圏の文学A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容かと思います。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、都市と国家の分断の歴史が鋭く見出されるのかもしれません。

【到達目標】

- 1）ドイツ（語圏）とその周辺諸地域の歴史と文化に関する知識と理解を深める
- 2）文学作品や劇映画の読解を通じて、美的形式を分析する抽象的な議論に慣れる
- 3）文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

- ・20世紀～現代の造形芸術（絵画）、映画および文学作品の映像二次創作を時系列的に扱います。
- ・各回、担当者による解説を行います。文学・映像作品を扱う回では次いで該当テキストの抜粋を読み、映画の該当部分の内容を確認します。
- ・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
- ・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
- ・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行います。提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	大都市の誕生ー表現主義の絵画	E.L.キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）『ポツダム広場』（1914年）など
第3回	地下鉄の走る街・映画の時代	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その1／W.ルットマン『ベルリンー大都会交響楽』（1927年、ドイツ）

第4回	大都会で見つける人間の絆	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その2／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
第5回	「エル・ドラド」の世界・大都市の光と影	「両性具有」というイメージの流行／O.ディックス『大都会』（1927/28年）／C.シャート『ソーニャ』（1929年）など
第6回	文化／映画産業の現実ーサイレントからトーキーへ	H.マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーグ『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その1
第7回	魅惑的な映画スターー「ニーチェ小説」から「脚線美」へ	H・マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーグ『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その2
第8回	「ベルリン／都会で成功したい」	E・ケストナー『ファビアンーあるモラリストの物語』／映画『さよなら、ベルリン またはファビアンの選択について』（2021年、ドイツ）
第9回	一度きり（比類なき）の分断・一度きりの人生	L・クラウメ『僕たちは希望という名の列車に乗った』（2019年、ドイツ）
第10回	支配者にとってベルリンとは	L・デイトン『ベルリンの葬送』（1964年）／G・ハミルトン『バー論の危機脱出』（1966年、英国）
第11回	壁の向こう側	L・ハウスマン『ゾンネンアレー（太陽通り）』（1999年、ドイツ）／W・ベッカー『グッバイ・レーニン』（2002年、ドイツ）
第12回	映画の時間・再統一の空気	T・ティクヴァ『ラン・ローラ・ラン』（1997年、ドイツ）
第13回	ミレニアル世代のリアリティ	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その1
第14回	ロードムービーの誘惑	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ・授業資料に再度目を通すこと。
- ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品を読んだり観たりできるとな幸いです。
- ・映画をみる／映画館へ行く、コンサート／ライブや観劇、展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布します。

【参考書】

- ・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
- ・W.ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など [浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』（ちくま学芸文庫）1995年/1996年所収]
- その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
- ・授業後の提出課題（50%）

以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・紙媒体で利用できる筆記用具

- ・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】

- ・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
- ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
- ・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

(Century of image - Berlin Story) This course introduces cinema and visual culture from the era of German modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole and divided West- and East Germany as well as after reunification. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
- ・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed review tasks.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）

6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ビクセルボール	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツユニホック	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。
授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。
ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+ 派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）

5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ピククルボール	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.

The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

- (1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
- (2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第6回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピックルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第6回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピククルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。

本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業を基本として実施する。

- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (対面)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。

3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ (講義：課題の提示)	スポーツウォーキング及びヨガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。

本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業を基本として実施する。

- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。

3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、慣性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガと Meditation （瞑想） （講義および実習）	Meditation について概説し、ヨーガを実践することで Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，1986
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%
- 2) 期末レポート 20%
- 3) 授業への参画状況 20%

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の 16 時 50 分～18 時 30 分までの 100 分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

単位数：2単位

定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ（講義及び実習）

6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える（コンディショニング）ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60%、課題・レポート40%の配分として総合評価します。授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。
5. 授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on two points.

(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.

(2) Report on the lecture: 40%.

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ること、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合を展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。

第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃の使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40％）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]

- 1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）	
スポーツ科学B	2017年度以降入学者
吉田 康伸	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木3/Thu.3	
単位数：2単位	
定員制(20～30)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習&講義）	スポーツ科学Bからの受講者のために各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、授業内でのレポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

- ・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
- ・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

[Learning Objectives]

- 1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
- 2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
- 3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
- 4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、安全講習、トレーニングの理論の学習、トレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進する栄養、サプリメント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、トレーニング内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論を学ぶ	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	サプリメントとその摂取方法について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	栄養不足が招く悪影響について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	スポーツ現場での栄養指導について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	栄養摂取のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	アミノ酸の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	脂質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	糖質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

- 1.to learn the basic theory and methods of training.
- 2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
- 3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
- 4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

- 1.to practice systematic training.
- 2.to record your meals and sleeping hours.
- 3.to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
- 2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3. トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、トレーニングの理論に関する学習やトレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進するリカバリーの方法、睡眠、栄養、減量のポイント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、その内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）

7	トレーニングの理論と実習3	睡眠の質について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	睡眠時間と就寝法について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	リカバリーとトレーニングの関係について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	生体リズムと体内時計について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	最終目標から逆算した栄養戦略について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	減量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	増量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。

1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. ①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20%の配分として総合評価します。
2. 本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
5. 授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will acquire practical theories and methods of physical training that contribute to achieving individual goals such as performance enhancement, body sculpting, weight loss, and health maintenance and improvement, and will design their own training programs. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.

【Learning Objectives】

1. to acquire practical training theory and methods
2. to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3. to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4. to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. to practice systematic training.
2. to record your meals and sleeping hours.
3. to read material on training, nutrition and sleep.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2. Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	卓球①	道具操作、ルール
第6回	卓球②	基礎動作、サーブ
第7回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第8回	ピククルボール②	基礎動作
第9回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第10回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第11回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第12回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第13回	卓球③	ダブルスの動き方
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にいただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

魚住 智広

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】

1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	ピククルボール①	道具操作、ルール
第6回	ピククルボール②	基礎動作
第7回	ピククルボール③	戦術、ポジショニング
第8回	ピククルボール④	ダブルスゲーム
第9回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第10回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第11回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第12回	卓球①	道具操作、ルール
第13回	卓球②	基礎動作、サーブ
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】

授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】

1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
 - ・課題の内容を理解したものであるか
 - ・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
 - ・レポートの体裁をなしたものであるか
 - ・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることができるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

本授業は定員制授業です。

- ①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
 - ②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
 - ③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
- また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.

Goal:

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life

Work to be done outside of class:

The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.

Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks ($8\% \times 4 = 32\%$).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
 - Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
 - Whether the assignment appropriately reflects the course content.
 - Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
 - Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を、健康づくりの三本柱である「ストレッチング」「ジョギング」「ストレングス（筋力トレーニング）」を通して改善し、心身のコンディショニングを整えることを目的としたアクティブラーニング型の科目です。

受講者自身が体を動かしながら学ぶ実践的なプログラムを通して、コンディショニングに関する基礎的な知識と、日常生活に応用できる実践力を身につけます。2年生以上の学生を対象とし、自らの健康管理を主体的に行うためのスキル習得を目指します。

【到達目標】

1. トレーニングの原理・原則および運動の功罪を理解している。
2. スマートフォンアプリ等を用いて、身体コンディショニングに関わる測定と記録が正しく行える。
3. ストレッチングを目的に応じて正しく実践できる。
4. ジョギングまたはウォーキングを安全かつ適切なフォームで行える。
5. ストレングストレーニングを安全に実施し、その効果をレポートとしてまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
 - 2) ウォームアップ時にセルフコンディションチェックを行う
 - 3) 授業のテーマに取り組む
 - 4) ウォームダウンを行う
 - 5) リアクションペーパーを提出する
- 授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	＜トレセン＞ ①Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	シェイプアップ・トレーニング I	＜トレセン＞ ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する

4	筋力の測定	＜トレセン＞ ストレングスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニング II	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
6	有酸素能力の測定	＜トレセン＞ ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
7	シェイプアップ・トレーニング III	＜大学周辺＞ ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
8	シェイプアップ・トレーニング IV	＜大学周辺＞ ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニング V	＜トレセン＞ ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニング VI	＜トレセン＞ ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニング VII	＜大学周辺＞ ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニング VIII	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニング IX	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版

5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる
- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This active-learning course aims to improve reduced physical functions caused by hidden obesity and lack of exercise through the three pillars of health promotion: stretching, jogging/walking, and strength training. Students learn foundational conditioning knowledge and practical skills through hands-on activities.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Understand fundamental training principles and the benefits and risks of exercise.

Conduct and record physical measurements using smartphone applications.

Perform stretching appropriately for specific purposes.

Execute jogging or walking safely with proper form.

Perform strength training safely and summarize its effects in a written report.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice exercises introduced in class at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, body temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements, applying course learning continuously. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation is based on the five learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the semester's learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、各自の目的に応じたトレーニング方法に着目したプログラムを作成計画し、実践した効果を検証します。

履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。

授業では、履修者自身が設定した目的に基づいてトレーニング・プログラムを作成し、その実践と検証を行うアクティブラーニング型の方法で進めます。前半は身体組成や筋力などの測定結果を分析し、トレーニング方法の検討とプログラムの立案を行います。後半は作成したプログラムを段階的に実践し、種目・順序・強度・方法を適宜見直しながら完成度を高めます。最終回には、実践結果の測定と効果の評価を行い、学修過程と成果をまとめて発表します。毎回、トレーニングの記録と振り返りを行い、主体的に学びを深めることを重視します。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラウドルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・測定	<トレセン> ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録とGoogle フォームへの回答 ⑦Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う
2	課題検討期Ⅰ・筋力（下肢）測定	<トレセン> ①Inbodyを用いた測定の結果を分析し、評価を行う ②下肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・筋力（上肢）測定	<トレセン> ①上肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
4	課題検討期Ⅲ・柔軟性測定	<トレセン> ①柔軟性を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
5	計画立案期Ⅰ・トレーニングの目的とプログラム	<トレセン> ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討し、個々に取り組む課題を明確にする
6	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラムの決定	<トレセン> ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③トレーニングプログラムを作成する
7	トレーニング課題研究Ⅰ（施設利用・実践トラブル編）	<教室またはオンライン> ①トレーニング施設の利用やトレーニング中に生じる典型的な問題を取り上げ、グループまたは個人で解決策を検討する ②提示した解答をAIで評価し、不足する知識や経験に関する情報をAIから収集して学修を深める
8	トレーニング課題研究Ⅱ（食事・休養・コンディショニング編）	<教室またはオンライン> ①食事、休養、体調管理などコンディショニングに関する課題を提示し、グループまたは個人で解決策を検討する ②考えた解答をAIに評価させ、必要な知識や改善点をAIを活用して補いながら理解を深める
9	計画実行期Ⅰ・トレーニングプログラム種目の再検討	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する

10	計画実行期Ⅱ・トレーニング強度に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅲ・トレーニング方法に着目	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の実践	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①取り組んだ学修過程を発表する ②今後の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
2. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
3. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
4. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
5. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
6. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
7. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
8. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
9. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
10. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した6項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 本授業の学修過程をまとめたレポート：40%

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる

- 2) スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
- 3) タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
- 4) 飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
- 5) 必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
- 6) 筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
- 7) 室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
- 8) 替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
- 9) 小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずと全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】

The subject is over 2nd grade.

【Course outline】

This course is designed for second-year students and above. Students develop a personalized strength-training program based on their individual goals and evaluate its effectiveness through measurement, analysis, and practice. In the first half of the course, students assess body composition, muscular strength, and flexibility. In the second half, they implement and refine their training program, concluding with an evaluation and presentation of their learning outcomes.

【Learning Objectives】

Students will be able to:

Use training equipment safely.

Conduct appropriate physical measurements using training devices.

Evaluate training effects based on measurement results.

Perform training methods suited to individual goals.

Accurately record training results.

Present the learning process based on the verification of training effects.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review and practice training tasks at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements to support self-management. Standard preparation and review time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Assessment is based on the six learning objectives and consists of:

Participation in training during class: 30%

Reaction papers: 30%

Final report summarizing the learning process: 40%

This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標（Learning Objectives）】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300)

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：2単位

定員制(20～30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンをを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。

8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。

教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】

問い合わせ 教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【授業の概要(Course outline)】 In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.

【到達目標(Learning Objectives)】

- (1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
- (2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
- (3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- (4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
- (5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Assignments

(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この教養ゼミ I を紹介する動画です <https://x.gd/LgDjY> (約7分8秒；学内者のみ視聴できます)

【履修登録にかかわる特記事項】

●あなたが所属している学部履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミ I」(Q6605)の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。

●この科目「教養ゼミ I」(Q6605)は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。

●興味・関心のある方は、教養ゼミ II：ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～(9月中旬)【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。

【科目のかんたんな説明】

●この教養ゼミ I は、2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。

●短い日数で効率よく学べる利点があります。

●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。

●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。

●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】

コースの終わりに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 1) 人口1700万人強のオランダが、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのはなぜかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方(政教分離)や、就労を促進するための雇用の流動化(福祉国家の変容)といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミ I の授業形態は、基本的に「対面」です。

(イ) 2026年8月3日(月)・8月4日(火)・8月5日(水)・8月6日(木)の4日間に開催されます。

(ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。

(エ) 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。

(オ) そのため「まとめコメント」の早期提出を認めています。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけでちゃんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/FK17p>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「教養ゼミ I『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～(8月上旬)」URL <https://x.gd/SBUYw>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月3日(月)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月3日(月)3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月3日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月3日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月4日(火)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【8月4日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月4日(火)4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月4日(火)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月5日(水)2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月5日(水)3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月5日(水)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月6日(木)2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月6日(木)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える

- 14 考える・まとめる【8月6日分の「まとめコメント」月6日(木)4限、を作成・提出する。※遠隔・事Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する 出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

8月のサマー・セッションの時期を待つことなく、Google Classroomをつうじ、4月から資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 =15%
2. まとめコメント =52%
3. まとめコメントの早期提出（教員への相談が必要です）
4. 教室内活動への参加 =33%
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/FK17p>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。

※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部ご連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春semester（前期）科目であるため、8月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が回復したとして、代替の課題を8月7日ぐらいまでに提出する手になります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料を共有したり、課題を提出したりするさいに、Google ClassroomやBOX、Office365等を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。

・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL <https://x.gd/pbONn>

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この教養ゼミⅡを紹介する動画です <https://x.gd/tB16R> (約7分53秒；学内者のみ視聴できます)

【履修登録にかかわる特記事項】

●この科目「教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～」(Q6606)は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) が一括して履修登録を行います。

●履修を希望する方は**2026年4月10日(金)午前11時30分**までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。

●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。

【科目のかんたんな説明】

●教養ゼミⅡ「ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～」は**2026年9月11日(金)・9月12日(土)・9月14日(月)・9月15日(火)**の4日間で開催される集中講座です(2単位)。

●世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。

●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。

●短い日数で効率よく学べる利点があります。

●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】

(1)さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べるができる。

(2)ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐる異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景(例 メリトクラシー)を掘り下げながら、研究上の問い(リサーチ・クエスチョン)を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。

(イ) **2026年9月11日(金)・9月12日(土)・9月14日(月)・9月15日(火)**の4日間に開催されます。

(ウ) 希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。

(エ) 4日間でいきますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。

(オ) そのためセッション授業終了後の話題提供を認める予定です。

(カ) とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/ytbHb>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

(キ) 問い合わせは、Wordファイル「2026年度：教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～(9月中旬)」URL <https://x.gd/q4xhC>にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月11日(金)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月11日(金)3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月11日(金)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月11日(金)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月11日(金)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月12日(土)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか(政治的動員)
6	対立の構図を理解する【9月12日(土)3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月12日(土)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月12日(土)分の「まとめレポート」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月14日(月)2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月14日(月)3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月14日(月)4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月14日(月)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日(月)分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月15日(火)2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私(たち)はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月15日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【9月15日(火)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日(火)分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

9月のオータム・セッションの時期を待つことなく、Google ClassroomやBOX、WebClass等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。

カス・ミュデ&クリストバル・ロピラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 =15%
2. まとめコメント =52%
3. 教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 =33%
4. セッション授業終了後の話題提供
5. その他

※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL <https://x.gd/ytbHb>にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。

※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
- ・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や課題の提出に、Google ClassroomやBOX、Office 365を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せてください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～（9月中旬）」URL <https://x.gd/q4xhC> をご覧ください。

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語A

2017年度以降入学者

小澤 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】

皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	軍事①	ロシア語の文章講読
7	軍事②	ロシア語の文章講読
8	司法①	ロシア語の文章講読
9	司法②	ロシア語の文章講読
10	アニメーション①	ロシア語の文章講読
11	アニメーション②	ロシア語の文章講読
12	芸術①	ロシア語の文章講読
13	芸術②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

露和辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】

私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】

各回のテーマは、受講生のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade will be based on the following components:

Class participation and coursework: 50%

Final examination: 50%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語 B

2017年度以降入学者

小澤 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

単位数：2単位

定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講義が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】

皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	事故①	ロシア語の文章講読
3	事故②	ロシア語の文章講読
4	原発①	ロシア語の文章講読
5	原発②	ロシア語の文章講読
6	環境①	ロシア語の文章講読
7	環境②	ロシア語の文章講読
8	宗教①	ロシア語の文章講読
9	宗教②	ロシア語の文章講読
10	映画①	ロシア語の文章講読
11	映画②	ロシア語の文章講読
12	その他①	ロシア語の文章講読
13	その他②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

露和辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】

私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】

各回のテーマは、受講者のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.

【Grading Criteria /Policy】

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANd200LA（ドイツ語 / German language education 200）

SDGsで学ぶドイツ語Ⅰ 2017年度以降入学者

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：1単位
定員制(30)
2021年度までに「時事ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では
・近年の（まだ教科書にはならない）ドイツ語についての文章と例文を検討することを通じて
・言語に文法的に埋め込まれた性意識について考えることを目的とします。

【到達目標】

この授業では
・アクチュアルなドイツ語について、簡単なドイツ語の文章を読むことができる
・言語が社会に埋め込まれていることを考えることができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

内容としては、ドイツ語の名詞の性とジェンダーの問題の関係について議論した文章をドイツ語で精読します。
担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初學者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	今学期の授業のテーマの解説
第2回	文法性と生物性について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第3回	文法性と生物性について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第4回	文法性と生物性について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第5回	男性代表形について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第6回	男性代表形について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第7回	男性代表形について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第8回	ジェンダーの星について	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第9回	ジェンダーの星について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第10回	ジェンダーの星について（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第11回	どのようにフェアに言葉を使うか	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第12回	どのようにフェアに言葉を使うか（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第13回	どのようにフェアに言葉を使うか（続き）	教科書の文章と例文を精読しながら議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を中心に学習してください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christine Olderdissen, Genderleicht: Wie Sprache für alle elegant gelingt (Berlin: Duden, 2021).

読む箇所のテキストはコピーして配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。
独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。
文法書を所有していない人は、
中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）
などを持参してください。
その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワーク接続ができ、Zoomが使えるPCまたはタブレット、および、オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。
オンラインで開講します。カメラをオンにして参加すること、および、指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will consider how the German language is embedded in society by reading recent texts on the language.

【Learning Objectives】

The goal of this course will be to read actual and easy texts on the German language in German, as well as to think/discuss the societal issues surrounding the language.

【Learning activities outside of the classroom】

This course requires 1 hour of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語Ⅰ 2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語Ⅰ」を紹介するヴィジュアル資料です
<https://x.gd/JEXrY> (PDFスライド、学内者のみ閲覧できます)
 この科目「時事フランス語Ⅰ」の目的は、あなたのフランス語を、
 できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください
<https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyyvSQ?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べることができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べるができる

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう1つの視点	パリ18区に住む小学3年（CE2）生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ（同性婚）やスクワット（空き住居の不法占拠）など
Séance 3	フランスという国のかたち	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化（mondialisation）に対するフランス的見方＝ものづくりの大切さ	フランスの伝統的な産品をあなたはなにか知っていますか。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混淆で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑はcanicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。7月の3週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというもの、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙（ごい）・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。

Séance 14	環境問題の語彙（ごい）・表現②	コンゴ民主共和国（RDC）はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅰ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/RkJnE>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
 2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>
- ※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典。小学館ロベール仏和辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。「JapanKnowledge」からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末試験、期末レポートはありません（0%）
 - 2. 授業への毎週の参加（①）
 - 3. 授業時間内の活動の積極性（②）※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリーA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリーごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字（%）に示しています。
 - 4. 到達目標の達成に向けた取り組み（③）時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
 - 5. その他（100%の枠外で5~20%程度の加点をします）
- (ア) 授業運営への協力（教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています）
- (イ) 実用フランス語技能検定試験（仏検）やDEL FやTCFを受検したか、また合格したか（これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください）
- カテゴリーA ①50%, ②30%, ③20%
- カテゴリーB ①40%, ②30%, ③30%
- カテゴリーC ①33%, ②33%, ③34%
- カテゴリーD ①50%, ②30%, ③20%

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語Ⅰ」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <https://x.gd/4WEFD>

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有や課題の提出などに、Google ClassroomやWebClass、Boxを使いますので、タブレットやノートパソコンのような情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。「Commencer」と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>

もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/> [Grading criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目「時事フランス語Ⅱ」を紹介する動画です <https://x.gd/KrAUW> (約7分12秒)

この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト（TV5Monde や Radio France Internationale）で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙（ごい）力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Dのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA（大学で初めてフランス語を学び始めた1年生や、第3外国語としてフランス語を勉強し始めた学生、千代田コンソからの履修者を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、内容に関する前提知識をあまり持たない人として、簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーB（大学入学後フランス語を学び始め、1年以上が経過した2年生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1、「実用フランス語技能検定試験」4級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本で主に学校教育を受けた人なら日本語）であれば、ある程度関心をもって質問や意見を述べることができる。

・カテゴリーC（フランス語を2年以上、ある程度は続けて勉強してきた学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA2～B1.1、「実用フランス語技能検定試験」3級～準2級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、キーワードを使った簡単な質問や意見を述べるができる。

・カテゴリーD（日本語が第1言語＝いわゆる「母語」＝ではない人。外国人留学生を主に想定）：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1.1.1、「実用フランス語技能検定試験」5級にあたるリスニング力や語彙（ごい）力を、もっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語（日本語を除く）の情報源も使い、日本語または英語で、簡単な質問や意見を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り（リスニング）やシャドーイング、内容面の理解（時事問題に関する知識）を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう1つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットとフランスの駄菓子（食文化から近づいてみる）
Séance 2	気が早いですがクリスマス話	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを（教員の補助付きで）疑似体験してみる。	移民を念頭にいったフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるというフェミニズムのかたち
Séance 5	第4回の続き	仕事探しのフランス語→履歴書につながるライティング (Production écrite)
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか？
Séance 7	第6回の続き	昼食を権利として考えたことがありますか？
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	フランス語によるニュースのヘッドライン（実物）によいよ挑戦です。
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は？
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は？
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元根差した住宅の改善とは？
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、世界の握りの人しかもっていない。
Séance 13	ボーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチュードとは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙（ごい）を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://x.gd/RO06q>

【テキスト（教科書）】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
 2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>
- ※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典。小学館ロバール仏和辞典が法政大学図書館のオンラインデータベースに入っています。「JapanKnowledge」からご覧になってください。ただし、学外からの閲覧にはVPN接続が必要です。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末試験、期末レポートはありません (0%)
 - 2. 授業への毎週の参加 (①)
 - 3. 授業時間内の活動の積極性 (②) ※フランス語の学習歴に応じて、カテゴリA、B、C、Dの3つに学生を分けており、カテゴリごとに努力していただきたい方向性を下↓の数字 (%) に示しています。
 - 4. 到達目標の達成に向けた取り組み (③) 時事フランス語関連の話題を提供したり、授業の内容を復習するための、かんたんな理解度チェックに解答したりした場合、加点されます。こうした取り組みをつうじて、少しずつ実力がついていきます。
 - 5. その他 (100%の枠外で5~20%程度の加点をします)
- (ア) 授業運営への協力 (教員の説明の不備や設定ミスなどを指摘してくれた学生に加点しています)
- (イ) 実用フランス語技能検定試験 (仏検) や DELF や TCF を受検したか、また合格したか (これらの検定試験を受検したり合格したりスコアを取得したりした場合、ぜひ教員まで申し出てください)
- カテゴリ-A ① 50%, ② 30%, ③ 20%
- カテゴリ-B ① 40%, ② 30%, ③ 30%
- カテゴリ-C ① 33%, ② 33%, ③ 34%
- カテゴリ-D ① 50%, ② 30%, ③ 20%

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

- ・フランスに留学して、リスニング力や語彙 (ごい) の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙力を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で自習したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語II」を履修すれば、ニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、日本の環境で学ぶことができます。
- ・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <https://x.gd/kTKoR>

【学生が準備すべき機器他】

音声ファイルやストリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom を閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。「Commencer」と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。<https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>
もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- 1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" =50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class =50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

ARSa200LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 200）
フランス生活文化論 L A 2017年度以降入学者
サブタイトル：近代フランスの食文化史
梶谷 彩子
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(40)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】

この授業では、19世紀～20世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述や発表を通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようにできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。原著の資料を見ることもあります。解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。質問をきっかけに時に食文化の話を超えて、フランスの他の文化や歴史に触れることもあります。また、受講する皆さんのフランスの食や文化に関する興味関心を共有していただく発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していただければ広く様々なテーマを歓迎します。最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第2回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？／宮廷料理について
第3回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ／18世紀までの価値観と、19世紀からの価値観

第4回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場／給仕の変化
第5回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第6回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基準の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー(前編)
第7回	「美食」は誰のものか：情報が生み出す「美食」	「おいしい」の評価の変遷：ガストロノミー(後編)
第8回	資料で見るフランスの美食	フランスの美食についての映像資料を視聴します。コメントカードを通して、感想や考察をまとめてください。
第9回	高級料理の変遷	ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後
第10回	文化としての「郷土料理」	フランスにおける郷土料理の位置／郷土料理＝文化的遺産という視点の原点
第11回	報告会①	フランスの食や文化にまつわる興味関心を発表しあいましょう。授業とは異なる視点に触れることが目的です。
第12回	報告会②	報告会は、履修者の人数により2回から3回に渡る可能性があります。
第13回	報告会③(予備日) 郷土料理でめぐるフランス 映像資料視聴	フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理を網羅的に見ていきます。ほか、一部となりますが第8回とは異なる映像資料を視聴します。
第14回	まとめ・レポート作成の手引き	現代から見た、近代フランスの食文化の重要性／レポートの書き方案内 (映像資料視聴予備日)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。教科書として指定した書籍は学期中に読み切ること。

【テキスト（教科書）】

①オリジナルの授業資料

この資料はすべて学習支援システムを通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

②『「美食の国」フランスの誕生 歴史』梶谷彩子著、慶應義塾大学出版会、2025年、本体2,700円＋税

【参考書】

①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。

②ジャン・ピエール＝ブーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。

③北山晴一『世界の食文化①6 フランス』、農村漁村文化協会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカードの提出・発表を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価。

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していききたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41人を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。

開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

ARSa200LA (地域研究〈ヨーロッパ〉) / Area studies(Europe) 200)	
フランス生活文化論 L B	2017年度以降入学者
サブタイトル：フランスの食文化史(古代から現代まで)	
梶谷 彩子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火4/Tue.4	
単位数：2単位	
定員制(40)	
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【本授業は定員制です。履修希望者は必ず最後までシラバスを読んでください】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回授業の最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。最終回の前には、簡単な発表の機会も設けます。授業とは異なる視点に触れることも目的としていますので、大枠のテーマを逸脱していなければ広く様々なテーマを歓迎します。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第2回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第3回	中世とルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第4回	17世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第5回	18世紀	宮廷料理の最盛期／「豪華な料理」とは？
第6回	フランス革命～19世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現

第7回	19世紀後半～19世紀末	19世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第8回	20世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」
第9回	20世紀半ば	全国的美食を求めてーガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第10回	20世紀半ば～20世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第11回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第12回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第13回	発表会①	レポートの構想、授業を通しての自分なりのまとめなど、いくつかのトピックの中から1つ選び、発表しましょう。
第14回	発表会② まとめ・レポート作成の手引き	発表会の予備日です。主に「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか、授業全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に学習支援システムを通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013年。
- ②ジャン・ビエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008年。
- ④梶谷彩子『「美食の国」フランスの誕生 ガストロノミーが作ったおいしい歴史』慶應義塾大学出版会、2025年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(コメントカード提出・発表参加を含む受講態度全般)60%、期末レポート40%の総合評価

特に、平常点評価に含まれる授業期間内の「報告会での発表」、授業期間終了後の「期末レポートの提出」は必須です。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを十分にお伝えするため、授業中は講義形式を採用しています。しかしその分、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。フィードバックコーナーが長くなってしまうこともあるのですが、テーマを深める機会であると考えているので、今年度も継続していきたいと思います(質問多数の場合、調整することはあります)。コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードしたPC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が41名を超えてしまった場合、定員が40人の授業であるため、【初回選抜】を実施します。選抜方法は教室で案内しますので、履修希望者は【必ず初回授業に出席】してください。開講前にメッセージ機能やタイムライン機能を通じて連絡する場合がありますので、授業支援システムへは開講前に登録してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

